

**2019年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
200・300番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覽

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【P1303】Humanities A [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【P1305】Humanities B [リチャード・パロース] 春学期授業/Spring	2
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【P2304】Social Science A [スキハノ アドリアン] 秋学期授業/Fall	3
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【P2305】Social Science B [SCHIFANO ADRIEN] 春学期授業/Spring	4
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【P3605】Natural Science B [Naomi NISHIMURA] 春学期授業/Spring	5
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(英語分野)【E1807】Intercultural Communication A [川口 悠子] 秋学期授業/Fall	6
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(英語分野)【E1806】Intercultural Communication B [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	7
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(英語分野)【E1808】Intercultural Communication C [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	8
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(英語分野)【E1809】Intercultural Communication D [Noriko ISHIHARA] 春学期授業/Spring	9
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【E3602】Intercultural Communication E [コルベイユ ステイーブ] 秋学期授業/Fall	10
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群[選択] 外国語(英語・諸外国語)【E3603】Intercultural Communication F [ヴァリエンス コリンス] 春学期授業/Spring	11
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【E8062】Intercultural Communication G [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	11
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群[選択] 外国語(英語・諸外国語)【E8063】Intercultural Communication H [Sonoko YAMAMOTO] 春学期授業/Spring	12
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【P0633】Career Development Skills [藤村 博之、山崎 雅夫] 春学期授業/Spring	13
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群(保健体育分野)【P5801】Health and Physical Education [Rieko YAMAGUCHI] 春学期授業/Spring	14
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0102】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	15
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0104】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	16
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0106】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	17
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0108】情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	18
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0110】情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	19
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0112】情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	20
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0114】情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall	21
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0116】情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	22
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0118】情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	23
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0120】情報処理演習Ⅱ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	24
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0122】情報処理演習Ⅱ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	25

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0124】情報処理演習Ⅱ [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	26
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0126】情報処理演習Ⅱ [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	26
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0128】情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall	27
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0130】情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall	28
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0132】情報処理演習Ⅱ [久東 義典] 秋学期授業/Fall	29
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0134】情報処理演習Ⅱ [久東 義典] 秋学期授業/Fall	30
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0136】情報処理演習Ⅱ [名見耶 厚] 秋学期授業/Fall	32
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0138】情報処理演習Ⅱ [名見耶 厚] 秋学期授業/Fall	33
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0140】情報処理演習Ⅱ [名見耶 厚] 秋学期授業/Fall	34
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0142】情報処理演習Ⅱ [名見耶 厚] 秋学期授業/Fall	35
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0144】情報処理演習Ⅱ [星 善光] 秋学期授業/Fall	36
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0146】情報処理演習Ⅱ [星 善光] 秋学期授業/Fall	37
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0503】法政学の探究L B [古俣 達郎] 春学期授業/Spring	38
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0504】法政学の探究L A [高柳 俊男、古俣 達郎] 秋学期授業/Fall	39
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1301】日本文学と文化L A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	40
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1302】日本文学と文化L B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	41
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1303】日本文学と文化L C [今泉 隆裕] 春学期授業/Spring	41
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1304】日本文学と文化L D [今泉 隆裕] 秋学期授業/Fall	42
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1305】日本文学と文化L E [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	43
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1306】日本文学と文化L F [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	44
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1307】日本文学と文化L G [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	45
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1308】日本文学と文化L H [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	46
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1309】外国文学と文化L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	47
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1310】外国文学と文化L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	48
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1311】外国文学と文化L C [日原 傳] 春学期授業/Spring	49
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1312】外国文学と文化L D [日原 傳] 秋学期授業/Fall	50
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1313】外国文学と文化L E [大崎 さやの] 春学期授業/Spring	51
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1314】外国文学と文化L F [大崎 さやの] 秋学期授業/Fall	51

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1315】文学と社会L A [リベラル担当者未定] 春学期授業/Spring	52
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1316】文学と社会L B [リベラル担当者未定] 秋学期授業/Fall	52
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1319】文学と社会L C [白戸満喜子] 春学期授業/Spring	53
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1320】文学と社会L D [白戸満喜子] 秋学期授業/Fall	54
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1321】文学と社会L E [中澤忠之] 春学期授業/Spring	55
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1322】文学と社会L F [中澤忠之] 秋学期授業/Fall	56
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1323】日本文学と文化L G [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	57
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1324】日本文学と文化L H [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	58
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1362】音声学L [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	59
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1381】哲学L I [大西 正人] 春学期授業/Spring	60
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1382】哲学L II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	61
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1383】哲学L I [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	62
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1384】哲学L II [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	63
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1391】倫理学L I [森村 修] 春学期授業/Spring	64
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1392】倫理学L II [森村 修] 秋学期授業/Fall	65
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1393】倫理学L I [佐藤 英明] 春学期授業/Spring	66
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1394】倫理学L II [佐藤 英明] 秋学期授業/Fall	67
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1395】倫理学L I [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	68
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1396】倫理学L II [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	69
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1397】倫理学L I [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	70
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1398】倫理学L II [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	71
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1399】倫理学L I [田島 樹里奈] 春学期授業/Spring	72
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1400】倫理学L II [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	73
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1401】倫理学L I [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	74
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1402】倫理学L II [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	75
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1411】論理学L I [佐々木 護] 春学期授業/Spring	75
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1412】論理学L II [佐々木 護] 秋学期授業/Fall	76
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1421】東洋史L I [岡安 勇] 春学期授業/Spring	77

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1422】東洋史LⅡ [岡安 勇] 秋学期授業/Fall	78
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1423】東洋史LⅠ [多賀 良 寛] 春学期授業/Spring	79
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1424】東洋史LⅡ [多賀 良 寛] 秋学期授業/Fall	80
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1431】西洋史L A [宮崎 亮] 春学期授業/Spring	81
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1432】西洋史L B [宮崎 亮] 秋学期授業/Fall	82
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1433】西洋史L A [宮崎 亮] 春学期授業/Spring	83
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1434】西洋史L B [宮崎 亮] 秋学期授業/Fall	84
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1435】西洋史L A [渡辺 知] 春学期授業/Spring	85
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1436】西洋史L B [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	86
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1437】西洋史L A [渡辺 知] 春学期授業/Spring	87
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1438】西洋史L B [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	88
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1441】日本史LⅠ [横濱 文 孝] 春学期授業/Spring	89
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1442】日本史LⅡ [横濱 文 孝] 秋学期授業/Fall	90
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1443】日本史LⅠ [黒須 友 里江] 春学期授業/Spring	91
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1444】日本史LⅡ [黒須 友 里江] 秋学期授業/Fall	91
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1445】日本史LⅠ [貫井 裕 恵] 春学期授業/Spring	92
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1446】日本史LⅡ [貫井 裕 恵] 秋学期授業/Fall	93
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1447】日本史LⅠ [鈴木 多 聞] 春学期授業/Spring	94
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1448】日本史LⅡ [鈴木 多 聞] 秋学期授業/Fall	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1451】宗教論LⅠ [須藤 孝 也] 春学期授業/Spring	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1452】宗教論LⅡ [須藤 孝 也] 秋学期授業/Fall	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2321】経済学L A [中平 千 彦] 春学期授業/Spring	97
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2322】経済学L B [中平 千 彦] 秋学期授業/Fall	98
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2323】経済学L A [水野 和 夫] 春学期授業/Spring	99
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2324】経済学L B [水野 和 夫] 秋学期授業/Fall	100
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2325】経済学L A [陳 文挙] 春学期授業/Spring	101
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2326】経済学L B [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	102
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2327】経済学L A [水野 和 夫] 春学期授業/Spring	103

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2328】 経済学 L B [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2341】 心理学 L A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2342】 心理学 L B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2343】 心理学 L A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2344】 心理学 L B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2351】 地理学 L A [長沢 利明] 春学期授業/Spring	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2352】 地理学 L B [長沢 利明] 秋学期授業/Fall	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2353】 地理学 L C [片岡 義晴] 春学期授業/Spring	110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2354】 地理学 L D [片岡 義晴] 秋学期授業/Fall	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2355】 地理学 L C [高木 正] 春学期授業/Spring	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2356】 地理学 L D [高木 正] 秋学期授業/Fall	112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2357】 地理学 L A [長沢 利明] 春学期授業/Spring	112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2358】 地理学 L B [長沢 利明] 秋学期授業/Fall	113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2359】 地理学 L C [前川 明彦] 春学期授業/Spring	113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2360】 地理学 L D [前川 明彦] 秋学期授業/Fall	114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2361】 社会学 L A [塚田 修一] 春学期授業/Spring	115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2362】 社会学 L B [塚田 修一] 秋学期授業/Fall	116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2363】 社会学 L C [徐 玄九] 春学期授業/Spring	117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2364】 社会学 L D [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2371】 政治学 L A [木村 正俊] 春学期授業/Spring	119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2372】 政治学 L B [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2382】 文化人類学 L [ベル 裕紀] 秋学期授業/Fall	121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2384】 文化人類学 L [長沢 利明] 秋学期授業/Fall	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2386】 文化人類学 L [岩原 紘伊] 秋学期授業/Fall	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2388】 文化人類学 L [阿部 朋恒] 秋学期授業/Fall	123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2390】 文化人類学 L [ベル 裕紀] 秋学期授業/Fall	124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2392】 文化人類学 L [阿部 朋恒] 秋学期授業/Fall	125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2394】 文化人類学 L [阿部 朋恒] 秋学期授業/Fall	126

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2396】 文化人類学 L [岩原 紘伊] 秋学期授業/Fall	127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2398】 文化人類学 L [中島 成久] 秋学期授業/Fall	128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2400】 文化人類学 L [阿部 朋恒] 秋学期授業/Fall	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2401】 社会思想 L A [洪 貴 義] 春学期授業/Spring	130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2402】 社会思想 L B [洪 貴 義] 秋学期授業/Fall	131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2403】 社会思想 L A [洪 貴 義] 春学期授業/Spring	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2404】 社会思想 L B [洪 貴 義] 秋学期授業/Fall	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3211】 発展数学 L I [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3212】 発展数学 L II [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3213】 発展数学 L I [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3214】 発展数学 L II [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3221】 教養物理学 L A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3222】 教養物理学 L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3223】 教養物理学 L B [吉田 智] 春学期授業/Spring	138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3224】 教養物理学 L B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3231】 教養生物学 L A [沼田 治] 春学期授業/Spring	139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3232】 教養生物学 L B [沼田 治] 秋学期授業/Fall	140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3233】 教養生物学 L A [沼田 治] 春学期授業/Spring	141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3234】 教養生物学 L B [沼田 治] 秋学期授業/Fall	142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3241】 教養生物学 L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3242】 教養生物学 L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3243】 教養生物学 L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3244】 教養生物学 L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3261】 教養化学 L A [向井 知大] 春学期授業/Spring	147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3262】 教養化学 L A [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3263】 教養化学 L B [中島 弘一] 春学期授業/Spring	149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3264】 教養化学 L B [西村 直美] 秋学期授業/Fall	150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3265】 教養化学 L A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	151

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3266】 教養化学 L A [中田和秀] 春学期授業/Spring	152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5451】 健康の科学 L A [清野 諭] 春学期授業/Spring	153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5452】 健康の科学 L B [清野 諭] 秋学期授業/Fall	153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5453】 健康の科学 L A [谷本 都栄] 春学期授業/Spring	154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5454】 健康の科学 L B [谷本 都栄] 秋学期授業/Fall	155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0801】 入門英語 (SSI) I [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0802】 入門英語 (SSI) II [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0803】 入門英語 (SSI) I [前川 裕] 春学期授業/Spring	158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0804】 入門英語 (SSI) II [前川 裕] 秋学期授業/Fall	159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0805】 入門英語 (SSI) I [須藤 祐二] 春学期授業/Spring	159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0806】 入門英語 (SSI) II [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0831】 入門英語 (SSI) I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R0832】 入門英語 (SSI) II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2001】 English 3 I [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2002】 English 3 II [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2003】 English 3 I [ジェイソン・ポール・スミス] 春学期授業/Spring	163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2004】 English 3 II [ジェイソン・ポール・スミス] 秋学期授業/Fall	164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2005】 English 3 I [猪俣 佳瑞美] 春学期授業/Spring	165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2006】 English 3 II [猪俣 佳瑞美] 秋学期授業/Fall	166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2007】 English 3 I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2008】 English 3 II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2009】 English 3 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2010】 English 3 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2011】 English 3 I [前川 裕] 春学期授業/Spring	171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2012】 English 3 II [前川 裕] 秋学期授業/Fall	172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2013】 English 3 I [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2014】 English 3 II [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2015】 English 3 I [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	175

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2016】 English 3 II [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	176
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2017】 English 3 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	177
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2018】 English 3 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	178
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2019】 English 3 I [前川 裕] 春学期授業/Spring	179
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2020】 English 3 II [前川 裕] 秋学期授業/Fall	180
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2021】 English 3 I [ロジャー エドウィン パティモア] 春学期授業/Spring	181
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2022】 English 3 II [ロジャー エドウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	183
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2023】 English 3 I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	184
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2024】 English 3 II [コートランド D スミス] 秋学期授業/Fall	185
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2025】 English 3 I [ジョナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	186
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2026】 English 3 II [ジョナサン・エーブル] 秋学期授業/Fall	187
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2027】 English 3 I [吉川 直澄] 春学期授業/Spring	188
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2028】 English 3 II [吉川 直澄] 秋学期授業/Fall	189
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2029】 English 3 I [田中 裕希] 春学期授業/Spring	190
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2030】 English 3 II [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	191
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2031】 English 3 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	192
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2032】 English 3 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	193
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2033】 English 3 I [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	194
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2034】 English 3 II [遠藤 郁子] 秋学期授業/Fall	195
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2035】 English 3 I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	196
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2036】 English 3 II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	197
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2037】 English 3 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	198
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2038】 English 3 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	199
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2039】 English 3 I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	200
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2040】 English 3 II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	201
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2041】 English 3 I [ロジャー エドウィン パティモア] 春学期授業/Spring	202
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2042】 English 3 II [ロジャー エドウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	204
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2043】 English 3 I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	205

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2044】 English 3 II [コー トランド D スミス] 秋学期授業/Fall	206
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2045】 English 3 I [吉 川 直澄] 春学期授業/Spring	207
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2046】 English 3 II [吉 川 直澄] 秋学期授業/Fall	208
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2047】 English 3 I [利 根川 真紀] 春学期授業/Spring	209
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2048】 English 3 II [利 根川 真紀] 秋学期授業/Fall	210
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2049】 English 3 I [青 山 恵子] 春学期授業/Spring	211
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2050】 English 3 II [青 山 恵子] 秋学期授業/Fall	212
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2051】 English 3 I [遠 藤 郁子] 春学期授業/Spring	213
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2052】 English 3 II [遠 藤 郁子] 秋学期授業/Fall	214
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2053】 English 3 I [吉 江 秀和] 春学期授業/Spring	215
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2054】 English 3 II [吉 江 秀和] 秋学期授業/Fall	216
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2055】 English 3 I [中 田 達也] 春学期授業/Spring	217
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2056】 English 3 II [中 田 達也] 秋学期授業/Fall	218
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2057】 English 3 I [大 和久 梯一郎] 春学期授業/Spring	218
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2058】 English 3 II [大 和久 梯一郎] 秋学期授業/Fall	219
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2059】 English 3 I [大 曲 陽子] 春学期授業/Spring	220
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2060】 English 3 II [大 曲 陽子] 秋学期授業/Fall	221
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2061】 English 3 I [猪 俣 佳瑞美] 春学期授業/Spring	222
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2062】 English 3 II [猪 俣 佳瑞美] 秋学期授業/Fall	223
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2063】 English 3 I [吉 川 太恵子] 春学期授業/Spring	224
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2064】 English 3 II [吉 川 太恵子] 秋学期授業/Fall	225
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2065】 English 3 I [猪 俣 佳瑞美] 春学期授業/Spring	226
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2066】 English 3 II [猪 俣 佳瑞美] 秋学期授業/Fall	227
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2067】 English 3 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	228
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2068】 English 3 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	229
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2069】 English 3 I [中 田 達也] 春学期授業/Spring	230
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2070】 English 3 II [中 田 達也] 秋学期授業/Fall	231
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2071】 English 3 I [ロ バート・D・ヒントン] 春学期授業/Spring	231

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2072】 English 3 II [ロバート・D・ヒントン] 秋学期授業/Fall	232
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2073】 English 3 I [パワートーマス G] 春学期授業/Spring	233
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2074】 English 3 II [パワートーマス G] 秋学期授業/Fall	234
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2075】 English 3 I [Robert Durham] 春学期授業/Spring	235
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2076】 English 3 II [Robert Durham] 秋学期授業/Fall	236
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2077】 English 3 I [榎原 益子] 春学期授業/Spring	237
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2078】 English 3 II [榎原 益子] 秋学期授業/Fall	238
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2079】 English 3 I [アンドリュー・チェン] 春学期授業/Spring	239
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2080】 English 3 II [アンドリュー・チェン] 秋学期授業/Fall	240
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2081】 English 3 I [マイケル マーフィー] 春学期授業/Spring	241
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2082】 English 3 II [マイケル マーフィー] 秋学期授業/Fall	242
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2083】 English 3 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	243
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2084】 English 3 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	244
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2085】 English 3 I [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	245
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2086】 English 3 II [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	246
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2087】 English 3 I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	247
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2088】 English 3 II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	248
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2089】 English 3 I [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	249
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2090】 English 3 II [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	250
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2091】 English 3 I [トビー トラブ] 春学期授業/Spring	251
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2092】 English 3 II [トビー トラブ] 秋学期授業/Fall	253
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2093】 English 3 I [三輪 すみ江] 春学期授業/Spring	254
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2094】 English 3 II [三輪 すみ江] 秋学期授業/Fall	256
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2095】 English 3 I [森永 豊] 春学期授業/Spring	257
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2096】 English 3 II [森永 豊] 秋学期授業/Fall	258
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2097】 English 3 I [宮本 三恵子] 春学期授業/Spring	259
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2098】 English 3 II [宮本 三恵子] 秋学期授業/Fall	260
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2099】 English 3 I [菊池 かおり] 春学期授業/Spring	261

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2100】 English 3 II [菊池 かおり] 秋学期授業/Fall	262
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2101】 English 3 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	262
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2102】 English 3 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	263
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2103】 English 3 I [マイケル マーフィー] 春学期授業/Spring	263
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2104】 English 3 II [マイケル マーフィー] 秋学期授業/Fall	264
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2105】 English 3 I [アンドリュー・チェン] 春学期授業/Spring	265
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2106】 English 3 II [アンドリュー・チェン] 秋学期授業/Fall	266
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2107】 English 3 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	267
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2108】 English 3 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	268
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2109】 English 3 I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	269
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2110】 English 3 II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	270
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2111】 English 3 I [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	271
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2112】 English 3 II [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	272
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2113】 English 3 I [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	273
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2114】 English 3 II [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	274
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2115】 English 3 I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	275
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2116】 English 3 II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	276
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2117】 English 3 I [永井 大輔] 春学期授業/Spring	277
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2118】 English 3 II [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	278
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2119】 English 3 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	279
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2120】 English 3 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	280
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2121】 English 3 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	280
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2122】 English 3 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	281
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2123】 English 3 I [ロバート・D・ヒントン] 春学期授業/Spring	282
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2124】 English 3 II [ロバート・D・ヒントン] 秋学期授業/Fall	283
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2125】 English 3 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	284
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2126】 English 3 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	285
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2127】 English 3 I [Robert Durham] 春学期授業/Spring	286

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2128】 English 3 II [Robert Durham] 秋学期授業/Fall	287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2129】 English 3 I [宇 治谷 義英] 春学期授業/Spring	288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2130】 English 3 II [宇 治谷 義英] 秋学期授業/Fall	289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2131】 English 3 I [ロ バート・D・ヒントン] 春学期授業/Spring	290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2132】 English 3 II [ロ バート・D・ヒントン] 秋学期授業/Fall	291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2133】 English 3 I [Robert Durham] 春学期授業/Spring	292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2134】 English 3 II [Robert Durham] 秋学期授業/Fall	293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2135】 English 3 I [宇 治谷 義英] 春学期授業/Spring	294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2136】 English 3 II [宇 治谷 義英] 秋学期授業/Fall	295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2137】 English 3 I [川 澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2138】 English 3 II [川 澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	297
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2139】 English 3 I [永 井 大輔] 春学期授業/Spring	298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2140】 English 3 II [永 井 大輔] 秋学期授業/Fall	299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2141】 English 3 I [ウオ ルター カズマ] 春学期授業/Spring	300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2142】 English 3 II [ウオ ルター カズマ] 秋学期授業/Fall	301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2145】 English 3 I [本 間 章郎] 春学期授業/Spring	302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2146】 English 3 II [本 間 章郎] 秋学期授業/Fall	303
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2147】 English 3 I [パ ワー トーマス G] 春学期授業/Spring	304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2148】 English 3 II [パ ワー トーマス G] 秋学期授業/Fall	305
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2149】 English 3 I [ジヨ ナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2150】 English 3 II [ジヨ ナサン・エーブル] 秋学期授業/Fall	307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2151】 English 3 I [余 田 剛] 春学期授業/Spring	308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2152】 English 3 II [余 田 剛] 秋学期授業/Fall	309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2153】 English 3 I [金 谷 優子] 春学期授業/Spring	310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2154】 English 3 II [金 谷 優子] 秋学期授業/Fall	312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2155】 English 3 I [川 澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2156】 English 3 II [川 澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (英語) 【R2157】 English 3 I [三 輪 すみ江] 春学期授業/Spring	315

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2158】 English 3 II [三輪 すみ江] 秋学期授業/Fall	316
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2159】 English 3 I [森永 豊] 春学期授業/Spring	318
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2160】 English 3 II [森永 豊] 秋学期授業/Fall	319
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2161】 English 3 I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	320
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2162】 English 3 II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	321
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2165】 English 3 I [パワー トーマス G] 春学期授業/Spring	322
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2166】 English 3 II [パワー トーマス G] 秋学期授業/Fall	323
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2167】 English 3 I [ジョナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	324
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2168】 English 3 II [ジョナサン・エーブル] 秋学期授業/Fall	325
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2169】 English 3 I [余田 剛] 春学期授業/Spring	326
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2170】 English 3 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall	327
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2171】 English 3 I [金谷 優子] 春学期授業/Spring	328
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2172】 English 3 II [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	329
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2173】 English 3 I [田口 清一] 春学期授業/Spring	330
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2174】 English 3 II [田口 清一] 秋学期授業/Fall	331
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2175】 English 3 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	332
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2176】 English 3 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	332
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2177】 English 3 I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	333
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2178】 English 3 II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	334
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2179】 English 3 I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	335
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2180】 English 3 II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	336
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2181】 English 3 I [本間 章郎] 春学期授業/Spring	337
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2182】 English 3 II [本間 章郎] 秋学期授業/Fall	338
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2183】 English 3 I [猪俣 佳瑞美] 春学期授業/Spring	339
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2184】 English 3 II [猪俣 佳瑞美] 秋学期授業/Fall	340
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2185】 English 3 I [猪俣 佳瑞美] 春学期授業/Spring	341
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2186】 English 3 II [猪俣 佳瑞美] 秋学期授業/Fall	342
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語) 【R2187】 English 3 I [本間 章郎] 春学期授業/Spring	343

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2188】 English 3 II [本間 章郎] 秋学期授業/Fall	344
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2190】 English 3 I [中和 彩子] 春学期授業/Spring	345
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2191】 English 3 II [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	346
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2201】 英語7 [北 文美子] 春学期授業/Spring	347
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2202】 英語7 [須藤 祐二] 春学期授業/Spring	347
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2203】 英語7 [粟飯原文子] 春学期授業/Spring	348
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2204】 英語7 [鹿子嶋 由佳] 春学期授業/Spring	349
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2205】 英語7 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	350
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2206】 英語7 [中和 彩子] 春学期授業/Spring	351
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2207】 英語7 [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	352
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2208】 英語8 [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	353
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2209】 英語8 [永井 大輔] 春学期授業/Spring	354
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2210】 英語8 [マーク バーンズ] 春学期授業/Spring	355
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2211】 英語8 [前川 裕] 春学期授業/Spring	356
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2212】 英語8 [マーク バーンズ] 春学期授業/Spring	357
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2213】 英語8 [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	358
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(英語)【R2214】 英語8 [マーク・フィールド] 春学期授業/Spring	358
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2301】 英語オーラル・コミュニケーション I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	359
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2302】 英語オーラル・コミュニケーション II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	360
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2303】 英語オーラル・コミュニケーション I [クリス マシオ] 春学期授業/Spring	361
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2304】 英語オーラル・コミュニケーション II [クリス マシオ] 秋学期授業/Fall	362
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2305】 英語オーラル・コミュニケーション I [ロジャー エドウィン パティモア] 春学期授業/Spring	363
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2306】 英語オーラル・コミュニケーション II [ロジャー エドウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	365
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2351】 ビジネス・イングリッシュ I [ジョン ライリー] 春学期授業/Spring	366
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2352】 ビジネス・イングリッシュ II [ジョン ライリー] 秋学期授業/Fall	367
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2381】 English Reading and Vocabulary I [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	367
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2382】 English Reading and Vocabulary II [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall	368
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2383】 English Reading and Vocabulary I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	369

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2384】 English Reading and Vocabulary II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2391】 English Academic Writing I [ロジャー エドウィン パティモア] 春学期授業/Spring	371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2392】 English Academic Writing II [ロジャー エドウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2393】 English Academic Writing I [マーク バーンズ] 春学期授業/Spring	373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2394】 English Academic Writing II [マーク バーンズ] 秋学期授業/Fall	374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2395】 English Academic Writing I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2396】 English Academic Writing II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2401】 英語で学ぶ 社会と文化 I [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2402】 英語で学ぶ 社会と文化 II [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2403】 英語で学ぶ 社会と文化 I [菊池 かおり] 春学期授業/Spring	379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2404】 英語で学ぶ 社会と文化 II [菊池 かおり] 秋学期授業/Fall	380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2405】 英語で学ぶ 社会と文化 I [永井 大輔] 春学期授業/Spring	380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2406】 英語で学ぶ 社会と文化 II [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2407】 英語で学ぶ 社会と文化 I [余田 剛] 春学期授業/Spring	383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2408】 英語で学ぶ 社会と文化 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall	384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2409】 英語で学ぶ 社会と文化 I [金谷 優子] 春学期授業/Spring	385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2410】 英語で学ぶ 社会と文化 II [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2411】 英語で学ぶ 社会と文化 I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2412】 英語で学ぶ 社会と文化 II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2413】 英語検定試 験対策 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2414】 英語検定試 験対策 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2441】 English Presentation I [ナダー ジャミリア] 春学期授業/Spring	391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2442】 English Presentation II [ナダー ジャミリア] 秋学期授業/Fall	392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2443】 English Presentation I [ジョン ライリー] 春学期授業/Spring	393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2444】 English Presentation II [ジョン ライリー] 秋学期授業/Fall	393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2445】 English Presentation I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2446】 English Presentation II [コートランド D スミス] 秋学期授業/Fall	395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2447】 English Presentation I [マーク バーンズ] 春学期授業/Spring	396

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2448】 English Presentation II [マーク バーンズ] 秋学期授業/Fall	397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2451】 英語アカデミック・リーディング I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2452】 英語アカデミック・リーディング II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2481】 英語検定試験対策 I [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2482】 英語検定試験対策 II [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2483】 英語検定試験対策 I [鈴木 理枝] 春学期授業/Spring	402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2484】 英語検定試験対策 II [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2485】 英語検定試験対策 I [野崎 将俊] 春学期授業/Spring	404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2486】 英語検定試験対策 II [野崎 将俊] 秋学期授業/Fall	404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2487】 英語検定試験対策 I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2488】 英語検定試験対策 II [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2601】 Oral Communication I [山崎 亮介] 春学期授業/Spring	407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2602】 Oral Communication II [山崎 亮介] 秋学期授業/Fall	408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2603】 Oral Communication I [ロバート・G・ジェイムズ] 春学期授業/Spring	409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2604】 Oral Communication II [ロバート・G・ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2611】 English through Movies and Drama I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2612】 English through Movies and Drama II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2613】 English through Movies and Drama I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2614】 English through Movies and Drama II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2621】 TOEIC(R) I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2622】 TOEIC(R) II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2623】 TOEIC(R) I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2624】 TOEIC(R) II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2631】 英語検定試験対策 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2632】 英語検定試験対策 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2641】 Business Communication I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2642】 Business Communication II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2651】 ニュース英語 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	422

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2652】ニュース英語Ⅱ [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	423
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2701】Practical English (オーラル・コミュニケーション) A-I [リチャード シーハン] 春学期授業/Spring	424
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2702】Practical English (オーラル・コミュニケーション) A-II [リチャード シーハン] 秋学期授業/Fall	425
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2711】Practical English (オーラル・コミュニケーション) B-I [リチャード シーハン] 春学期授業/Spring	426
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2712】Practical English (オーラル・コミュニケーション) B-II [リチャード シーハン] 秋学期授業/Fall	427
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2721】English for Study Abroad I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	428
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2723】English for Study Abroad II [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	429
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2731】Practical English (ビジネス・コミュニケーション) A-I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	429
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2732】Practical English (ビジネス・コミュニケーション) A-II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	430
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2741】Practical English (ビジネス・コミュニケーション) B-I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	431
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2742】Practical English (ビジネス・コミュニケーション) B-II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	432
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2751】Practical English (英語検定試験対策) A-I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	433
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2752】Practical English (英語検定試験対策) A-II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	434
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2761】Practical English (英語検定試験対策) B-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	435
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2762】Practical English (英語検定試験対策) B-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	436
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3503】日本語1Ⅰ [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	436
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3504】日本語1Ⅱ [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	437
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3601】日本語3Ⅰ [中沢 佐企子] 春学期授業/Spring	438
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3602】日本語3Ⅱ [中沢 佐企子] 秋学期授業/Fall	439
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3603】日本語3Ⅰ [戸村 佳代] 春学期授業/Spring	440
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3604】日本語3Ⅱ [戸村 佳代] 秋学期授業/Fall	441
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3605】日本語3Ⅰ [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	442
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3606】日本語3Ⅱ [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	443
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3611】日本語4Ⅰ [江村 裕文] 春学期授業/Spring	443
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3612】日本語4Ⅱ [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	444
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3613】日本語4Ⅰ [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	445
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3614】日本語4Ⅱ [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	446
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3615】日本語4Ⅰ [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	446

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R3616】 日本語4Ⅱ [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	447
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3621】 日本語の世界L A [小宮 修太郎] 春学期授業/Spring	448
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3622】 日本語の世界L B [小宮 修太郎] 秋学期授業/Fall	449
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3623】 日本の文化と社会 L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	450
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3624】 日本の文化と社会 L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	451
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4201】 ドイツ語3Ⅰ [オストヴァ ルト・イエンス] 春学期授業/Spring	452
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4202】 ドイツ語3Ⅱ [オストヴァ ルト・イエンス] 秋学期授業/Fall	453
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4203】 ドイツ語3Ⅰ [外山 知子] 春学期授業/Spring	453
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4204】 ドイツ語3Ⅱ [外山 知子] 秋学期授業/Fall	454
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4205】 ドイツ語3Ⅰ [長倉 誠一] 春学期授業/Spring	455
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4206】 ドイツ語3Ⅱ [長倉 誠一] 秋学期授業/Fall	456
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4207】 ドイツ語3Ⅰ [小野間 亮 子] 春学期授業/Spring	457
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4208】 ドイツ語3Ⅱ [小野間 亮 子] 秋学期授業/Fall	457
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4211】 ドイツ語3Ⅰ [オストヴァ ルト・イエンス] 春学期授業/Spring	458
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4212】 ドイツ語3Ⅱ [オストヴァ ルト・イエンス] 秋学期授業/Fall	458
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4213】 ドイツ語3Ⅰ [佐藤 まり 子] 春学期授業/Spring	459
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4214】 ドイツ語3Ⅱ [佐藤 まり 子] 秋学期授業/Fall	459
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4215】 ドイツ語3Ⅰ [天沼 春樹] 春学期授業/Spring	460
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4216】 ドイツ語3Ⅱ [天沼 春樹] 秋学期授業/Fall	461
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4217】 ドイツ語3Ⅰ [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	462
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4218】 ドイツ語3Ⅱ [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	463
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4219】 ドイツ語3Ⅰ [長倉 誠一] 春学期授業/Spring	464
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4220】 ドイツ語3Ⅱ [長倉 誠一] 秋学期授業/Fall	464
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4221】 ドイツ語3Ⅰ [渡辺 広佐] 春学期授業/Spring	465
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4222】 ドイツ語3Ⅱ [渡辺 広佐] 秋学期授業/Fall	466
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4223】 ドイツ語3Ⅰ [小野間 亮 子] 春学期授業/Spring	466
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4224】 ドイツ語3Ⅱ [小野間 亮 子] 秋学期授業/Fall	467
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4225】 ドイツ語3Ⅰ [梶谷 雄二] 春学期授業/Spring	467

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4226】 ドイツ語3Ⅱ [梶谷 雄二] 秋学期授業/Fall	468
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4227】 ドイツ語3Ⅰ [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	469
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4228】 ドイツ語3Ⅱ [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	470
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4229】 ドイツ語3Ⅰ [長倉 誠一] 春学期授業/Spring	471
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4230】 ドイツ語3Ⅱ [長倉 誠一] 秋学期授業/Fall	472
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4241】 ドイツ語4Ⅰ [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	473
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4242】 ドイツ語4Ⅱ [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	474
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4243】 ドイツ語4Ⅰ [外山 知子] 春学期授業/Spring	475
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4244】 ドイツ語4Ⅱ [外山 知子] 秋学期授業/Fall	475
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4245】 ドイツ語4Ⅰ [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring	476
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4246】 ドイツ語4Ⅱ [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall	477
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4251】 ドイツ語(3)Ⅰ [内田 俊 一] 春学期授業/Spring	478
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4252】 ドイツ語(3)Ⅱ [内田 俊 一] 秋学期授業/Fall	478
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4261】 ドイツ語7 [林 志津江] 春学期授業/Spring	479
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4262】 ドイツ語8 [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring	480
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4271】 ドイツ語3-I [平松 英 人] 春学期授業/Spring	481
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4272】 ドイツ語3-II [平松 英 人] 秋学期授業/Fall	481
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4273】 ドイツ語3-I [辻 英史] 春学期授業/Spring	482
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4274】 ドイツ語3-II [辻 英史] 秋学期授業/Fall	482
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4281】 ドイツ語コ ミュニケーションⅠ [オストヴァルト・イェンス] 春学期授業/Spring	483
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コ ミュニケーションⅡ [オストヴァルト・イェンス] 秋学期授業/Fall	483
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現 法Ⅰ [ウテ・シュミット] 春学期授業/Spring	484
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現 法Ⅱ [ウテ・シュミット] 秋学期授業/Fall	485
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4285】 ドイツ語視 聴覚Ⅰ [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	486
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4286】 ドイツ語視 聴覚Ⅱ [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	486
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4287】 時事ドイツ 語Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	487
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4288】 時事ドイツ 語Ⅱ [辻 英史] 秋学期授業/Fall	488
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4289】 検定ドイツ 語Ⅰ [佐々木 宗夫] 春学期授業/Spring	489

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4290】 検定ドイツ語Ⅱ [佐々木 宗夫] 秋学期授業/Fall	490
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4291】 入門ドイツ語(SSⅠ)Ⅰ [浦田 智] 春学期授業/Spring	491
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4292】 入門ドイツ語(SSⅠ)Ⅱ [浦田 智] 秋学期授業/Fall	491
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4293】 入門ドイツ語(SSⅠ)Ⅰ [梶谷 雄二] 春学期授業/Spring	492
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4294】 入門ドイツ語(SSⅠ)Ⅱ [梶谷 雄二] 秋学期授業/Fall	492
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界ⅠA [ウテ・シュミット] 春学期授業/Spring	493
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界ⅠB [ウテ・シュミット] 秋学期授業/Fall	494
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社会ⅠA [内田 俊一] 春学期授業/Spring	495
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社会ⅠB [内田 俊一] 秋学期授業/Fall	495
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5201】 フランス語3Ⅰ [森本 謙子] 春学期授業/Spring	496
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5202】 フランス語3Ⅱ [森本 謙子] 秋学期授業/Fall	496
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5203】 フランス語3Ⅰ [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	497
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5204】 フランス語3Ⅱ [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	497
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5205】 フランス語3Ⅰ [佐藤 正和] 春学期授業/Spring	498
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5206】 フランス語3Ⅱ [佐藤 正和] 秋学期授業/Fall	498
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5207】 フランス語3Ⅰ [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	499
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5208】 フランス語3Ⅱ [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	499
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5209】 フランス語3Ⅰ [中村 美緒] 春学期授業/Spring	500
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5210】 フランス語3Ⅱ [中村 美緒] 秋学期授業/Fall	501
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5211】 フランス語3Ⅰ [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	502
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5212】 フランス語3Ⅱ [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	502
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5213】 フランス語3Ⅰ [森本 謙子] 春学期授業/Spring	503
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5214】 フランス語3Ⅱ [森本 謙子] 秋学期授業/Fall	503
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5215】 フランス語3Ⅰ [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	504
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5216】 フランス語3Ⅱ [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	504
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5217】 フランス語3Ⅰ [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	505
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5218】 フランス語3Ⅱ [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	506
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5219】 フランス語3Ⅰ [畑中 敏夫] 春学期授業/Spring	506

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5220】 フランス語3Ⅱ [畑中 敏夫] 秋学期授業/Fall	507
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5221】 フランス語3Ⅰ [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	507
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5222】 フランス語3Ⅱ [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	508
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【F3313】 フランス語(3)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	508
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5223】 フランス語3Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	509
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5224】 フランス語3Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	510
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5241】 フランス語4Ⅰ [コルベユ ステューブ] 春学期授業/Spring	511
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5242】 フランス語4Ⅱ [コルベユ ステューブ] 秋学期授業/Fall	512
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5243】 フランス語4Ⅰ [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	513
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5244】 フランス語4Ⅱ [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	514
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5245】 フランス語5Ⅰ [村松 マリ エマニュエル] 春学期授業/Spring	515
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5246】 フランス語5Ⅱ [村松 マリ エマニュエル] 秋学期授業/Fall	516
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5251】 フランス語(3)Ⅰ [瀬戸 和子] 春学期授業/Spring	517
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5252】 フランス語(3)Ⅱ [瀬戸 和子] 秋学期授業/Fall	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5257】 フランス語7 [中村 美緒] 春学期授業/Spring	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5258】 フランス語8 [ジョルディ・フィリップ] 春学期授業/Spring	519
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5261】 フランス語3-I [竹本 研史] 春学期授業/Spring	520
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5262】 フランス語3-II [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	521
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5263】 フランス語3-I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	521
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5264】 フランス語3-II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	522
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界LA [廣松 勲] 春学期授業/Spring	523
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界LB [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	524
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ [ニコラ・ガイヤール] 春学期授業/Spring	525
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ [ニコラ・ガイヤール] 秋学期授業/Fall	525
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5275】 フランス語視聴覚(入門)Ⅰ [中村 美緒] 春学期授業/Spring	526
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5276】 フランス語視聴覚(入門)Ⅱ [中村 美緒] 秋学期授業/Fall	527
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5277】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ [村松 マリ エマニュエル] 春学期授業/Spring	527
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5278】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ [村松 マリ エマニュエル] 秋学期授業/Fall	528

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5279】 時事フランス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	529
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5280】 時事フランス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	530
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5281】 検定フランス語(初級)Ⅰ [瀬戸 和子] 春学期授業/Spring	531
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5282】 検定フランス語(初級)Ⅱ [瀬戸 和子] 秋学期授業/Fall	532
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と社会L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	532
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と社会L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	533
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5293】 フランス生活文化論L A [内村 理奈] オータムセッション/Autumn Session	534
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5294】 フランス生活文化論L B [内村 理奈] 秋学期授業/Fall	535
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5295】 フランス生活文化論L A [ヴァリエンス コリヌ] 春学期授業/Spring	535
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5296】 フランス生活文化論L B [ヴァリエンス コリヌ] 秋学期授業/Fall	536
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6201】 ロシア語3Ⅰ [長屋 房夫] 春学期授業/Spring	536
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6202】 ロシア語3Ⅱ [長屋 房夫] 秋学期授業/Fall	537
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6203】 ロシア語3Ⅰ [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	538
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6204】 ロシア語3Ⅱ [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	539
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6205】 ロシア語3Ⅰ [土岐 康子] 春学期授業/Spring	540
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6206】 ロシア語3Ⅱ [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	540
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6211】 ロシア語4Ⅰ [木部 敬] 春学期授業/Spring	541
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6212】 ロシア語4Ⅱ [木部 敬] 秋学期授業/Fall	541
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6213】 ロシア語4Ⅰ [土岐 康子] 春学期授業/Spring	542
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6214】 ロシア語4Ⅱ [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	542
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R6215】 ロシア語5Ⅰ [三神 エレーナ] 春学期授業/Spring	543
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R6216】 ロシア語5Ⅱ [三神 エレーナ] 秋学期授業/Fall	544
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6221】 ロシア語7 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	544
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6222】 ロシア語8 [長屋 房夫] 春学期授業/Spring	545
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6231】 ロシア語3-I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	546
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6232】 ロシア語3-II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	547
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R6241】 ロシア語の世界L A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	548
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R6242】 ロシア語の世界L B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	549

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6243】 ロシアの文化と社会 L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6244】 ロシアの文化と社会 L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7301】 中国語 3 I [王 翠莉] 春学期授業/Spring	552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7302】 中国語 3 II [王 翠莉] 秋学期授業/Fall	553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7303】 中国語 3 I [余 瀾] 春学期授業/Spring	554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7304】 中国語 3 II [余 瀾] 秋学期授業/Fall	555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7305】 中国語 3 I [沈 小南] 春学期授業/Spring	556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7306】 中国語 3 II [沈 小南] 秋学期授業/Fall	557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7307】 中国語 3 I [靳 耀勳] 春学期授業/Spring	557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7308】 中国語 3 II [靳 耀勳] 秋学期授業/Fall	558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7309】 中国語 3 I [福木 滋久] 春学期授業/Spring	558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7310】 中国語 3 II [福木 滋久] 秋学期授業/Fall	559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7311】 中国語 3 I [廣野 行雄] 春学期授業/Spring	560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7312】 中国語 3 II [廣野 行雄] 秋学期授業/Fall	561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7313】 中国語 3 I [王 安] 春学期授業/Spring	562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7314】 中国語 3 II [王 安] 秋学期授業/Fall	563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7315】 中国語 3 I [靳 耀勳] 春学期授業/Spring	564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7316】 中国語 3 II [靳 耀勳] 秋学期授業/Fall	565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7317】 中国語 3 I [周 重雷] 春学期授業/Spring	565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7318】 中国語 3 II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7319】 中国語 3 I [沈 小南] 春学期授業/Spring	566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7320】 中国語 3 II [沈 小南] 秋学期授業/Fall	567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7321】 中国語 3 I [耿 函] 春学期授業/Spring	567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7322】 中国語 3 II [耿 函] 秋学期授業/Fall	568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7323】 中国語 3 I [洪井 君也] 春学期授業/Spring	568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7324】 中国語 3 II [洪井 君也] 秋学期授業/Fall	569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7325】 中国語 3 I [蔣 彥婷] 春学期授業/Spring	569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7326】 中国語 3 II [蔣 彥婷] 秋学期授業/Fall	570

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7327】 中国語 3 I [王 翠莉] 春 学期授業/Spring	570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7328】 中国語 3 II [王 翠莉] 秋 学期授業/Fall	571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7329】 中国語 3 I [王 安] 春学 期授業/Spring	572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7330】 中国語 3 II [王 安] 秋学 期授業/Fall	573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7331】 中国語 3 I [李 維涛] 春 学期授業/Spring	574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7332】 中国語 3 II [李 維涛] 秋 学期授業/Fall	575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7333】 中国語 3 I [三田村 圭子] 春学期授業/Spring	576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7334】 中国語 3 II [三田村 圭子] 秋学期授業/Fall	577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7335】 中国語 3 I [蔣 彥婷] 春 学期授業/Spring	578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7336】 中国語 3 II [蔣 彥婷] 秋 学期授業/Fall	579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7337】 中国語 3 I [王 翠莉] 春 学期授業/Spring	579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7338】 中国語 3 II [王 翠莉] 秋 学期授業/Fall	580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7339】 中国語 3 I [康 鴻音] 春 学期授業/Spring	581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7340】 中国語 3 II [康 鴻音] 秋 学期授業/Fall	582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7341】 中国語 3 I [祝 振媛] 春 学期授業/Spring	582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7342】 中国語 3 II [祝 振媛] 秋 学期授業/Fall	583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7343】 中国語 3 I [王 翠莉] 春 学期授業/Spring	584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7344】 中国語 3 II [王 翠莉] 秋 学期授業/Fall	585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7345】 中国語 3 I [王 安] 春学 期授業/Spring	586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7346】 中国語 3 II [王 安] 秋学 期授業/Fall	587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7347】 中国語 3 I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7348】 中国語 3 II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall	589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7371】 中国語 4 I [三田村 圭子] 春学期授業/Spring	590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7372】 中国語 4 II [三田村 圭子] 秋学期授業/Fall	591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7373】 中国語 4 I [葉 会] 春学期授業/Spring	592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7374】 中国語 4 II [葉 会] 秋学期授業/Fall	593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7375】 中国語 4 I [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7376】 中国語 4 II [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	595

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7377】 中国語 4 I [余 瀾] 春学期授業/Spring	596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7378】 中国語 4 II [余 瀾] 秋学期授業/Fall	597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7379】 中国語 4 I [蔣 彧婷] 春学期授業/Spring	598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7380】 中国語 4 II [蔣 彧婷] 秋学期授業/Fall	599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7381】 中国語 4 I [祝 振媛] 春学期授業/Spring	599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7382】 中国語 4 II [祝 振媛] 秋学期授業/Fall	600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7383】 中国語 4 I [耿 函] 春学期授業/Spring	601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7384】 中国語 4 II [耿 函] 秋学期授業/Fall	602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7385】 中国語 (3) I [薬 進] 春 学期授業/Spring	603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7386】 中国語 (3) II [薬 進] 秋 学期授業/Fall	604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7387】 中国語 (3) I [洪井 君 也] 春学期授業/Spring	605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7388】 中国語 (3) II [洪井 君 也] 秋学期授業/Fall	606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7391】 中国語 7 [曾 士才] 春学 期授業/Spring	606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7392】 中国語 8 [鈴木 靖] 春学 期授業/Spring	607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7401】 中国語 3-I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7402】 中国語 3-II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall	609
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7403】 中国語 3-I [王 翠莉] 春 学期授業/Spring	610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7404】 中国語 3-II [王 翠莉] 秋 学期授業/Fall	611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7405】 中国語 3-I [三田村 圭 子] 春学期授業/Spring	612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7406】 中国語 3-II [三田村 圭 子] 秋学期授業/Fall	613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7407】 中国語 3-I [薬 進] 春学 期授業/Spring	614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7408】 中国語 3-II [薬 進] 秋学 期授業/Fall	615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7411】 中国語コ ミュニケーション基礎 I [薄 宏] 春学期授業/Spring	616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7412】 中国語コ ミュニケーション基礎 II [薄 宏] 秋学期授業/Fall	617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7413】 中国語コ ミュニケーション初級 I [周 重雷] 春学期授業/Spring	618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7414】 中国語コ ミュニケーション初級 II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7431】 中国語作文初 級 I [康 鴻音] 春学期授業/Spring	619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7432】 中国語作文初 級 II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	620

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R7433】中国語視聴覚 初級Ⅰ [劉 渴水] 春学期授業/Spring	620
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R7434】中国語視聴覚 初級Ⅱ [劉 渴水] 秋学期授業/Fall	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7437】資格中国語 初級Ⅰ [青木 正子] 春学期授業/Spring	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7438】資格中国語 初級Ⅱ [青木 正子] 秋学期授業/Fall	622
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7445】中国語の世界L A [渡邊 大] 春学期授業/Spring	622
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7446】中国語の世界L B [渡邊 大] 秋学期授業/Fall	623
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7447】中国の文化と社会 L A [山本 律] 春学期授業/Spring	624
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7448】中国の文化と社会 L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7449】中国の文化と社会 L C [鈴木 直子] 春学期授業/Spring	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7450】中国の文化と社会 L D [鈴木 直子] 秋学期授業/Fall	626
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8201】スペイン語3Ⅰ [杉下 由 紀子] 春学期授業/Spring	627
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8202】スペイン語3Ⅱ [杉下 由 紀子] 秋学期授業/Fall	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8203】スペイン語3Ⅰ [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8204】スペイン語3Ⅱ [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	629
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8205】スペイン語3Ⅰ [ロベル ト・コルメナ・ロメロ] 春学期授業/Spring	630
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8206】スペイン語3Ⅱ [ロベル ト・コルメナ・ロメロ] 秋学期授業/Fall	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8207】スペイン語3Ⅰ [塩崎 公 靖] 春学期授業/Spring	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8208】スペイン語3Ⅱ [塩崎 公 靖] 秋学期授業/Fall	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8209】スペイン語3Ⅰ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8210】スペイン語3Ⅱ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8211】スペイン語3Ⅰ [ロベル ト・コルメナ・ロメロ] 春学期授業/Spring	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8212】スペイン語3Ⅱ [ロベル ト・コルメナ・ロメロ] 秋学期授業/Fall	634
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8213】スペイン語3Ⅰ [杉下 由 紀子] 春学期授業/Spring	634
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8214】スペイン語3Ⅱ [杉下 由 紀子] 秋学期授業/Fall	635
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8215】スペイン語3Ⅰ [塩崎 公 靖] 春学期授業/Spring	635
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8216】スペイン語3Ⅱ [塩崎 公 靖] 秋学期授業/Fall	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8217】スペイン語3Ⅰ [大貫 良 史] 春学期授業/Spring	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8218】スペイン語3Ⅱ [大貫 良 史] 秋学期授業/Fall	637

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8219】 スペイン語3Ⅰ [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	638
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8220】 スペイン語3Ⅱ [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	639
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8221】 スペイン語3Ⅰ [若林 大我] 春学期授業/Spring	640
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8222】 スペイン語3Ⅱ [若林 大我] 秋学期授業/Fall	641
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8223】 スペイン語3Ⅰ [日高 憲三] 春学期授業/Spring	642
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8224】 スペイン語3Ⅱ [日高 憲三] 秋学期授業/Fall	643
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8225】 スペイン語3Ⅰ [ロベルト・コルメナ・ロメロ] 春学期授業/Spring	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8226】 スペイン語3Ⅱ [ロベルト・コルメナ・ロメロ] 秋学期授業/Fall	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8227】 スペイン語3Ⅰ [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	645
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8228】 スペイン語3Ⅱ [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	645
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8229】 スペイン語3Ⅰ [ロベルト・コルメナ・ロメロ] 春学期授業/Spring	646
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8230】 スペイン語3Ⅱ [ロベルト・コルメナ・ロメロ] 秋学期授業/Fall	646
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8231】 スペイン語3Ⅰ [飯屋 浩子] 春学期授業/Spring	647
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8232】 スペイン語3Ⅱ [飯屋 浩子] 秋学期授業/Fall	648
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8261】 スペイン語4Ⅰ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8262】 スペイン語4Ⅱ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8263】 スペイン語4Ⅰ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	650
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8264】 スペイン語4Ⅱ [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	650
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8265】 スペイン語4Ⅰ [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8266】 スペイン語4Ⅱ [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【E6135】 スペイン語補講3-Ⅰ [若林 大我] 春学期授業/Spring	652
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【E6136】 スペイン語補講3-Ⅱ [若林 大我] 秋学期授業/Fall	653
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8271】 スペイン語(3)Ⅰ [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8272】 スペイン語(3)Ⅱ [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8273】 スペイン語(3)Ⅰ [大貫 良史] 春学期授業/Spring	655
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8274】 スペイン語(3)Ⅱ [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8281】 スペイン語7 [大西 亮] 春学期授業/Spring	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8282】 スペイン語8 [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	657

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8291】 スペイン語3-I [日高憲三] 春学期授業/Spring	658
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8292】 スペイン語3-II [日高憲三] 秋学期授業/Fall	658
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8293】 スペイン語3-I [長谷川悦夫] 春学期授業/Spring	659
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R8294】 スペイン語3-II [長谷川悦夫] 秋学期授業/Fall	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R8301】 スペイン語コミュニケーションI [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R8302】 スペイン語コミュニケーションII [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8303】 時事スペイン語I [久木 正雄] 春学期授業/Spring	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R8304】 時事スペイン語II [大西 亮] 秋学期授業/Fall	662
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R8305】 スペイン語の世界LA [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	663
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R8306】 スペイン語の世界LB [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	663
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9201】 朝鮮語3A I [内山 政春] 春学期授業/Spring	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9202】 朝鮮語3A II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9203】 朝鮮語3A I [内山 政春] 春学期授業/Spring	665
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9204】 朝鮮語3A II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	666
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9205】 朝鮮語3A I [内山 政春] 春学期授業/Spring	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9206】 朝鮮語3A II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9221】 朝鮮語3B I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	668
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9222】 朝鮮語3B II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	669
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9223】 朝鮮語3B I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9224】 朝鮮語3B II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9225】 朝鮮語3B I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9226】 朝鮮語3B II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9227】 朝鮮語3B I [梁 禮先] 春学期授業/Spring	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9228】 朝鮮語3B II [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9241】 朝鮮語4A I [梁 禮先] 春学期授業/Spring	674
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9242】 朝鮮語4A II [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	674
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9243】 朝鮮語4A I [梁 禮先] 春学期授業/Spring	675
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9244】 朝鮮語4A II [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	676

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9245】 朝鮮語 4 A I [梁 禮先] 春学期授業/Spring	676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9246】 朝鮮語 4 A II [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9251】 朝鮮語 (3) I [李 英美] 春学期授業/Spring	678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9252】 朝鮮語 (3) II [李 英美] 秋学期授業/Fall	679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9261】 朝鮮語 7 [内山 政春] 春 学期授業/Spring	679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9262】 朝鮮語 8 [高柳 俊男] 春 学期授業/Spring	680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G0009】 朝鮮語 3 B I [新谷 あ ゆり] 春学期授業/Spring	680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9271】 朝鮮語 3-I [新谷 あゆ り] 春学期授業/Spring	681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【G0010】 朝鮮語 3 B II [新谷 あ ゆり] 秋学期授業/Fall	682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9272】 朝鮮語 3-II [新谷 あゆ り] 秋学期授業/Fall	683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9281】 朝鮮語 3 C I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9282】 朝鮮語 3 C II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9283】 朝鮮語 4 B I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9284】 朝鮮語 4 B II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9285】 朝鮮語 5 A I [高橋 梓] 春学期授業/Spring	687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9286】 朝鮮語 5 A II [高橋 梓] 秋学期授業/Fall	688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9287】 朝鮮語 5 B I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9288】 朝鮮語 5 B II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9289】 朝鮮の文化と社会 L A [李 英美] 春学期授業/Spring	691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9290】 朝鮮の文化と社会 L B [李 英美] 秋学期授業/Fall	692

ART200LA

Humanities A

2016年度以前入学者

サブタイトル：Japanese Literature II

URBANOVA Jana

SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on the major literary figures and their representative works of early modern, modern and contemporary Japanese literature. The works will be discussed with regard to the circumstances and background that shaped the authors' way of thinking. The course will also include a lesson introducing two significant works of medieval literature to shed light on one of the crucial concepts in Japanese culture - transience. There will also be a lesson introducing two major women poets of Okinawa.

【到達目標】

Goals:

1. to learn about the major literary figures of pre-modern, modern and contemporary Japanese literature
2. to gain an appreciation of the depth and atmosphere of their literary works as well as the beauty of the English translations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is based on lectures by the instructor featuring the use of written and audio-visual materials. In addition, every student will be required to deliver a class presentation on a given topic and to submit a short written summary of the presentation. The topics and the study materials for the presentation will be distributed at the beginning of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction to course; brief self-introduction; scheduling of presentations
2.	Transience in Japanese literature	The concept of transience as portrayed in <i>Essays in Idleness (Tsurezuregusa)</i> , written by Buddhist priest <i>Kenkō</i> and in the <i>waka</i> anthology <i>A Hundred Poems by a Hundred Poets (Hyakunin Isshu)</i> , compiled by <i>Fujiwara no Teika</i>
3.	<i>Haikai</i> poetry	Transition from comic <i>haikai</i> poetry to the mastering of <i>haiku</i> ; <i>Matsuo Bashō</i>
4.	<i>Haiku</i> and modern poetry	Hints for appreciating and writing <i>haiku</i> ; modern poets <i>Masaoka Shiki</i> , <i>Yosano Akiko</i>
5.	Literature of the floating world	The rising merchant society during the <i>Edo</i> period; stories of the floating world (<i>ukiyo zōshi</i>); <i>Ihara Saikaku: The Life of an Amorous Man (Kōshoku Ichidai Otoko)</i> and <i>Five Women who Loved Love (Kōshoku Gonin Onna)</i>
6.	Tales of the supernatural in pre-modern literature	<i>Ueda Akinari</i> and his <i>Tales of Moonlight and Rain (Ugetsu Monogatari)</i>
7.	Tales of the supernatural in modern literature	<i>Akutagawa Ryūnosuke</i> and the influence of <i>Japanese Tales from Times Past (Konjaku Monogatari Shū)</i> ; short stories <i>In a Grove (Yabu no Naka)</i> and <i>Rashōmon</i>
8.	The world of fantasy and reality of <i>Miyazawa Kenji</i>	<i>Miyazawa Kenji</i> : fantasy novel <i>Milky Way Railroad (Ginga Tetsudō no Yoru)</i> , poem <i>Be not Defeated by the Rain (Ame ni mo makezu)</i>
9.	Modern novelists, Part 1	<i>Natsume Sōseki</i> : his life and literary works, particularly the novel <i>I Am a Cat (Wagahai wa Neko de aru)</i>

- | | | |
|-----|--------------------------|--|
| 10. | Modern novelists, Part 2 | <i>Mishima Yukio (Confessions of a Mask; Kamen no Kokuhaku)</i> and <i>Tanizaki Junichirō (The Key; Kagi)</i> |
| 11. | Modern novelists, Part 3 | The dark world of <i>Dazai Osamu</i> in the novels <i>The Setting Sun (Shayō)</i> and <i>No Longer Human (Ningen Shikkaku)</i> |
| 12. | Modern novelists, Part 4 | Nobel Prize winner <i>Kawabata Yasunari</i> and his masterpiece <i>Snow Country (Yukiguni)</i> |
| 13. | Contemporary literature | <i>Yoshimoto Banana</i> and <i>Haruki Murakami</i> and their representative works |
| 14. | Poetry of Okinawa | Two women poets of Okinawa: <i>Yoshiya Tsuru</i> and <i>Onna Nabe</i> and their <i>ryūka</i> poems |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please prepare a short self-introduction for the first class. In addition, each student will be asked to deliver an oral presentation on a designated topic and to submit a short written summary of the presentation at the end of the semester. Students are also expected to actively engage in class discussions and to revise all of the readings done in class, as they will form the basis for the questions on the final exam.

【テキスト（教科書）】

No textbooks will be used. Handouts and reading materials on each lesson's topic together with the specified sources will be distributed by the lecturer at the beginning of each lesson.

【参考書】

Selected references:

Katō, Shūichi. *A History of Japanese Literature (Vol.3) – The Modern Years*. Tokyo, New York & San Francisco: Kodansha International, Ltd., 1983.

Keene, Donald. *Appreciations of Japanese Culture*. Tokyo, New York & London: Kodansha International, Ltd., 1971. First paperback edition, 1981.

Keene, Donald. *World Within Walls – Japanese Literature of the Pre-Modern Era, 1600-1867*. New York: Holt, Rinehart and Winston, 1976.

Petersen, Gwen Boardman. *The Moon in the Water – Understanding Tanizaki, Kawabata and Mishima*. Honolulu: The University Press of Hawaii, 1979.

Further references related to the topic of each class will be provided by the lecturer.

【成績評価の方法と基準】

Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination (60%).

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current teacher for the first time, there are no student comments.

ARSe200LA

Humanities B

2016年度以前入学者

サブタイトル：

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Despite the rise of powers in Asia such as China & India, the US remains the pre-eminent global power and a key to understanding its prominence lies in an understanding of its rise as a superpower during the 20th century. Therefore, this course will focus on key political, economic & cultural developments during the latter half of that period, how they contributed to the rise of American power and continue to influence nations around the world, especially in Asia. Regular reading assignments will be set, analyzed & discussed during the lessons, allowing students to reflect on how the US continues to influence their nations as we enter a new century.

【到達目標】

Through a variety of media, this course seeks to firstly, give students a thorough understanding of key events in the US from the end of World War II to the close of the century. In addition, students will be able to comprehend how those events impacted not only on the course of modern US history, but their wider effect throughout the world, especially in the Asia-Pacific region.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Regular reading assignments will be set, analyzed & discussed during the lessons, allowing students to reflect on how the US continues to influence their nations as we enter a new century. Furthermore, an audio-visual element will allow students to sharpen their listening skills and engage in comprehension activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course Explanation
Week 2	Course Assignments	Presentation Skills
Week 3	Innovation	The Wright Brothers
Week 4	The Pacific Conflict	US in World War II
Week 5	Post-War Settlement	Bombing of Hiroshima
Week 6	Technology	Breaking the Sound Barrier
Week 7	The Fight Against Communism	The Vietnam War
Week 8	The Civil Rights Movement	Martin Luther King
Week 9	A Divided Nation	The Anti-War Movement
Week 10	Political Violence	The Assassination of JFK
Week 11	Watergate	End of Nixon
Week 12	The Space Race	The Apollo Landings
Week 13	A New Conservatism	Reagan & the Religious Right
Week 14	Course Review	The 20th Century Influence on the Present Day

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to make a presentation and submit a report on a relevant theme during the semester. In addition, regular reading assignments will be set with comprehension & vocabulary questions. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

None, but students are required to bring an A4/B4 binder to store the photocopies that will be distributed by the teacher at each lesson

【参考書】

An electronic or smart phone English dictionary is required at every class

【成績評価の方法と基準】

Participation 30%
Class work 20%
Homework 30%
Presentation/Report 20%

【学生の意見等からの気づき】

Increased vocabulary preparation prior to the audio-visual listening section

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have access to a pc (& printer) in order to prepare their presentation/report

【その他の重要事項】

Please join this class if you have an interest in this topic, a desire to improve your English skills, and are willing to attend classes on a regular basis and submit all homework & other assignments on time.

【Outline and objectives】

This course, rather than simply leading students through key dates & events during the 20th century, seeks to analyze important developments & trends in US which caused repercussions both domestically & internationally during the 20th century & beyond.

POL200LA

Social Science A

2016年度以前入学者

サブタイトル：Global and Regional Governance

スキハノ アドリアン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

By what process are policies coordinated and actions concerted with regard to global issues? How and by whom are these processes organized and structured? Treating global governance as a process, this course examines how global governance functions at both international and regional levels through cases of Europe and East Asia. Henceforth, the course considers how these different levels of governance interact with regard to three different global issues and the policies built in response thereto in the two areas studied.

【到達目標】

By the end of the course, students are expected to have acquired:

1. a good understanding of the structures and processes of global governance at both international and regional levels
2. a firm grasp of the diversity of actors involved in the global governance process
3. comprehension of the specific characters of global governance and corresponding issues and challenges

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Classes consist in discussion, documents study, and lecture.

Students will be required to apply analytical frameworks they learned during class by conducting a research on an organization of their choice that will result in a presentation during the second half of the semester (starting week 9) and a written report to be submitted at the end of the semester. This will be performed collectively or individually depending on the number of students attending the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Definitions, history, actors and institutions; methodology.
2.	Global governance I	Agenda and policy making.
3.	Global governance II	Decision-making processes.
4.	Global governance III	Follow-up mechanisms.
5.	Global governance IV	Prevention and settlement of conflicts.
6.	Regional governance I	Europe (1): historical background, institutional landscape, and challenges.
7.	Regional governance II	Europe (2): agenda and policies.
8.	Regional governance III	East Asia (1): historical background, institutional landscape, and challenges.
9.	Regional governance IV	East Asia (2): agenda and policies.
10.	Processes of global governance I	Promoting and protecting human rights and fundamental freedoms
11.	Processes of global governance II	Promoting development
12.	Processes of global governance III	Managing marine resources
13.	Issues affecting global governance I	Consistency, effectiveness, legitimacy Democratic deficit
14.	Conclusion	Towards a world government?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

Thomas G. WEISS and Rorden WILKINSON (editors), International Organization and Global Governance (2014) Routledge (ISBN 978-0-415-62760-3)

Thomas G. WEISS, Global Governance, Why? What? Whither? (2013) Polity (ISBN 978-0745660462)

Colin I. BRADFORD and Johannes F. LINN (editors), Global Governance Reform, Breaking the Stalemate (2007) Brookings Institution Press (ISBN 978-0-8157-1363-0)

Michael BARNETT and Raymond DUVALL, Power in Global Governance (2005) Cambridge University Press (ISBN 978-0521840248)

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including homework and discussions): 50%; research project: 50% (presentation in class: 30%; written report: 20%).

【学生の意見等からの気づき】

Class sequence has been adjusted.

【学生が準備すべき機器他】

A pen and some paper are a must.

POL200LA

Social Science B

2016年度以前入学者

サブタイトル：International Organizations

SCHIFANO ADRIEN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Please kindly note that the course will exceptionally start on April, 15 instead of April, 8.

This course aims at providing students with an overview of the phenomenon, great in both scale and scope, styled 'international organizations' in its diversity and unity.

The course starts by focusing on the concept of international organization proper, and examines how these are inherently political societies wherein power happens and is organized according to certain structures. The course then moves on modalities for international organizations interacting with both each other and States, with a particular attention given to functions organizations perform amid the international society.

【到達目標】

By the end of the course, it is expected that students:

1. acquire a good understanding of the nature of international organizations
2. have a grasp of the common principles according to which international organizations operate
3. have a concrete knowledge of several international organizations
4. acquire a critical understanding of the roles and functions that international organizations perform amid the global society, as well as issues and challenges pertaining thereto

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Classes consist in discussion, documents study, and lecture.

Students will be required to apply analytical frameworks they learned during class by conducting a research on an organization of their choice that will result in a presentation during the second half of the semester (starting week 9) and a written report to be submitted at the end of the semester. This will be performed collectively or individually depending on the number of students attending the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Historical and theoretical background.
2.	Proper operation I	Nature of international organizations: Definition(s), classifications, functions.
3.	Proper operation II	Creation of international organizations: Constitutive elements, creators, modalities, outcome.
4.	Proper operation III	Organizations as social groups (1) - Anatomy: Persons, elites, organs, agents, officials.
5.	Proper operation IV	Organizations as social groups (2) - Autonomy: Self-governance?, solidarity of the members, norms, degree of fiction in autonomy.
6.	Proper operation V	Organizations as social groups (3) - Leadership: Distribution of power, social functions, structural design.
7.	External relations I	Diplomatist function: participation, statuses, rights and obligations, privileges.
8.	External relations II	External Powers: functional aspects, dual role, other functions.
9.	Functions performed by organizations amid the international society I	Legislative function: direct or indirect, policy coordination, decision making

10.	Functions performed by organizations amid the international society II	Executive function: compliance, control/monitoring, inspection, reporting, service providing, enforcement, use of force
11.	Functions performed by organizations amid the international society III	Judicial function: prevention of disputes, settlement of disputes, sorts, modalities
12.	Coordination among organizations I	Cooperation: ad hoc coordination, permanent coordination, institutionalized coordination, modalities and technique
13.	Coordination among organizations II	Hierarchical model: universal and regional, systems of organizations
14.	Conclusion: current issues surrounding international organizations	Proliferation of international organizations, lack in framing their powers, fragmentation, redundancy, competition, forum-shopping, uncertainty, coordination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

Volker RITTBERGER, Bernhard ZANGL, and Andreas KRUCK, International Organization (2012, 2nd ed.) Palgrave Macmillan (ISBN 978-0230291881);
Jan KLABBERS, An Introduction to International Organizations Law (2015, 3rd ed.) Cambridge University Press (ISBN 978-1107439719);
Michael BARNETT and Martha FINNEMORE, Rules for the World, International Organizations in Global Politics (2004) Cornell University Press (ISBN 978-0-8014-8823-8);
Jacob KATZ COGAN, Ian HURD, and Ian JOHNSTONE (editors), The Oxford Handbook of International Organizations (2017) Oxford University Press (ISBN 9780199672202);

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including homework and discussions): 50%;
research project: 50% (presentation in class: 30%; written report: 20%).

【学生の意見等からの気づき】

Aiming at more clarity, contents of each class have been re-organized.

【学生が準備すべき機器他】

A pen and some paper.

BSC200LA

Natural Science B

2016年度以前入学者

サブタイトル：

Naomi NISHIMURA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
SGU コース

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

One of the most pressing issues the Earth is facing is environmental problems. Such environmental problems are universal issues, so all the people on the earth should cooperate to solve these problems. At the beginning of this course, each environmental problem will be focused from the chemical viewpoint. Then, the students with different backgrounds will delve into the matters. The ultimate goal of this course is that we think about these problems deeply by sharing possible solutions with each other.

【到達目標】

The goal of this course is for students to lean environmental problems through chemistry. The objective 1) entirely environmental problems in the world; 2) to learn them you understand basic chemistry; 3) they think about solving the imminent problems by themselves.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course is taught in English. Students will be tested on their knowledge of chemistry at the beginning of the course, and the contents for the first three weeks of the course will be decided, based on the test results. After that, many different environmental problems are explained each week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview of the course and explanation of some terminology. Test your chemistry level.
2	Basic chemistry 1	Learning the chemical skills to study this course.
3	Basic chemistry 2	Learning the chemical skills to study this course.
4	Basic chemistry 3	Learning the chemical skills to study this course.
5	Mini-test-1	Review learning
6	Air pollution	General air pollution
7	Health consequences of Polluted air	Acid rain, PMx, and effect of air pollution on our health.
8	Greenhouse effect-1	Climates change
9	Greenhouse effect-2	Climates change
10	Greenhouse effect-DVD	Climates change
11	Mini-test-2	Review learning
12	Water pollution and water shortage	The basic chemistry of natural water
13	Energy and fuels	Current energy system and alternative fuels and new energy
14	Final test	Overall review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Write short essays.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation (40%), mini-tests (20%), final examination (40%)

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.None.

【その他の重要事項】

None.

【None.】

None.

HIS200LA

Intercultural Communication A 2016年度以前入学者

サブタイトル：Themes in Global History: Trans-pacific Interactions

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the experiences of Americans of Asian descent as one aspect of social interaction across the Pacific. Students will read selected articles about their diverse history from the mid-nineteenth century to the present. We will explore core issues, which include migration, integration and exclusion, and social movements, while paying attention to the political interaction between the U.S. and Asia.

【到達目標】

- 1) Students will understand the experiences of Asian Americans from the late 19th century to the present, from the disciplinary perspectives of history.
- 2) Students will gain a basic understanding of political, economic, as well as social history of the United States, with particular focus on racial, ethnic, and gender inequalities as well as the social activism against them,
- 3) Students will be able to locate the U.S. history in the global context.
- 4) Students will develop skills to read, discuss, and write analytically and critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- This course is taught primarily through discussions.
- The majority of the course will be devoted to the diverse histories of Asian American communities from the 19th century to the present. Students engage in discussions based on assigned reading materials.
- Toward the end of the semester, students choose their own topic and write a short research paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview; Self-introduction
2	Overview	Statistical analysis on Asian American communities today
3	Reading (1)	Part 1 Beginnings: Asians in the Americas
4	Reading (2)	Part 2 The Making of Asian America During the Age of Mass Migration and Asian Exclusion (1)
5	Presentations on Essay Topic	Students make presentations about the topic they chose for the research paper
6	Reading (3)	Part 2 The Making of Asian America During the Age of Mass Migration and Asian Exclusion (2)
7	Reading (4)	Part 2 The Making of Asian America During the Age of Mass Migration and Asian Exclusion (3)
8	Film screening	Watch a film; Followed by class discussion
9	Reading (5)	Part 3 Asian America in a World at War
10	Reading (6)	Part 4 Remaking Asian America in a Globalized World (1)
11	Reading (7)	Part 4 Remaking Asian America in a Globalized World (2)
12	Essay tutorial	Tutorial on essay writing
13	Essay presentations / peer review (1)	Students give presentations on their research paper
14	Essay presentations / peer review (2)	Students give presentations on their research paper

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- Students are expected to read the assigned materials and contribute to class discussions. Simply showing up for class is not enough.

- There are no particular prerequisites for this course. Basic understanding of the U.S. history will ease the learning, however.

【テキスト（教科書）】

Erica Lee, 'The Making of Asian America: A History. Simon and Schuster, 2015.

You DO NOT need to purchase the textbook before the first day of the class. Readings will be made available online through the course management system.

【参考書】

References will be introduced in the class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 50%

Research paper: 50%

Students may miss class only if it qualifies as an excused absence (e.g., an illness or a grievance). Please clear your absences with the instructor beforehand. Three or more unexcused absences can result in Failure.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor will try to facilitate more active discussions.

【学生が準備すべき機器他】

The instructor may request that students use a computer, tablet or smartphone in order to fact-check during class. (Computers, tablets and smartphones may not be used other than as authorized.)

【Outline and objectives】

This course introduces the experiences of Americans of Asian descent as one aspect of social interaction across the Pacific. Students will read selected articles about their diverse history from the mid-nineteenth century to the present. We will explore core issues, which include migration, integration and exclusion, and social movements, while paying attention to the political interaction between the U.S. and Asia.

LIN200LA

Intercultural Communication B 2016年度以前入学者

サブタイトル：Intercultural Understanding & Multicultural Identities

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In today's globalization, we are increasingly required to interact internationally across linguistic and cultural borders. Misunderstandings and conflicts are bound to occur, which calls for constructive dialogues and creative solutions. In this course, we will focus primarily on "invisible culture" to deepen your understanding of diversity in cultural orientations, values, behavior, and language uses. You will also reflect on your intercultural experiences and explore your multi-cultural identities while studying dynamic cultural dimensions.

【到達目標】

In this course, you will 1) cultivate your understanding of the relationships between culture, language, and identity, 2) be able to analyze examples of and reasons for intercultural clashes and relate to others respectfully to come up with constructive solutions to intercultural misunderstanding, 3) be able to use concepts such as stereotypes, generalizations, othering, and marginalization in your analysis, 4) reflect on your intercultural experiences and multi-cultural identities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Before class you are required to work on reading and complete assignments. In class we study relevant material, complete tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the whole class. You are encouraged to actively participate in this group work and problem-based learning (PBL).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	What is culture?	Visible/invisible culture, 3Ps in understanding culture
3	3Ps of culture, Characteristics of culture	Perspectives of culture
4	Stereotypes and generalizations	Definitions and examples
5	Essentialization	The language of generalization
6	Othering and marginalization	Case study discussion
7	Cultural diversity in academia and in the workplace	Understanding diversity as an asset
8	Similarities and differences in cultural orientations-1	Analysis of cultural orientations (#1-3)
9	Cultural case studies - 1	Application of Hofstede's Cultural Dimensions
10	Cultural case studies - 2	Analysis of use of time and group dynamics
11	Student-led discussions-1	Cultural case studies (#1-3)
12	Student-led discussions-2	Cultural case studies (#4-6)
13	Student-led discussions-3	Cultural case studies (#7-9)
14	Dynamics and diversity of culture	Wrap-up discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You should complete assigned reading and/or writing before coming to class. Come ready to discuss the material in English with your classmates coming from different (sub)cultures.

【テキスト（教科書）】

Weekly readings will be made accessible through the course website (H'etude's). Become familiar with this online resource to download readings and post your assignments. You are also expected to check your university email account on a daily basis to keep up with course announcements.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Other (online) materials will also be introduced as the course progresses.

【成績評価の方法と基準】

You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:

- 1) Participation (20%)
- 2) Reading and assignments (40%)
- 3) Cultural case study discussion (10%)
- 4) Final paper (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Because this course is to be conducted in English, students must be competent speakers/writers of English (e.g., native or proficient with TOEFL® iBT 61 or above). International and Japanese students of any majors are welcome as long as they are interested in diverse world cultures. Students should view each other's cultural experiences as an asset to this course and create a friendly and respectful learning community.

【その他の重要事項】

Course Rules and Expectations

1) Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

2) If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. If you miss your deadline, you will not be allowed to submit your assignment late unless you individually negotiate with me in a timely manner.

3) Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, you are automatically marked absent; come to me after class to set the record straight.

4) You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity by speaking openly and listening attentively even if you do not agree with your classmates or instructor.

【Outline and objectives】

In today's globalization, we are increasingly required to interact internationally across linguistic and cultural borders. Misunderstandings and conflicts are bound to occur, which calls for constructive dialogues and creative solutions. In this course, we will focus primarily on "invisible culture" to deepen your understanding of diversity in cultural orientations, values, behavior, and language uses. You will also reflect on your intercultural experiences and explore your multi-cultural identities while studying dynamic cultural dimensions.

POL200LA

Intercultural Communication C 2016年度以前入学者

サブタイトル：Language & Culture in Sync: Communication Strategies, Jpn, Eng, and beyond

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Without cultural knowledge, language users may not fully understand the meaning of a message. Even with perfect grammar, we could completely offend our conversational partners without using language in a culturally suitable manner. In this course, we will take a close look at the face-saving strategies used in world languages. We will also consider and discuss diverse cultural values and orientations that are closely connected to verbal and non-verbal behavior. This enhanced linguistic and cultural awareness will help you become a more tactful and respectful user of your first and second languages and prepare you for effective intercultural communication.

【到達目標】

In this course, you will become able to 1) cultivate your understanding of the relationship between language form, meaning, and context, 2) become familiar with the notions of face and politeness, 3) collect and analyze authentic language samples, 3) understand cultural values and orientations behind language use in world languages. The course will also provide an opportunity for you to reflect on intercultural misunderstandings and respectful and peaceful conflict resolutions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Before class you are required to work on reading and complete assignments. In class we study relevant material, complete tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the whole class. You are encouraged to actively participate in this group work and problem-based learning (PBL).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	Greetings	Analysis of authentic language data
3	Terms of address - 1	Phatic language and linguistic politeness
4	Terms of address - 2	Form-context mapping
5	Giving and responding to compliments - 1	Linguistic and cultural aspects of politeness
6	Giving and responding to compliments - 2	Consequences of language choice
7	Giving and responding to compliments - 3	Analyzing and teaching compliments and responses
8	Linguistic impoliteness and rudeness - 1	What is impoliteness and rudeness?
9	Linguistic impoliteness and rudeness - 2	Responding to rudeness
10	Peace linguistics	Words create worlds
11	Refusals - 1	Strategies for refusals
12	Refusals - 2	Refusals in Japanese, English, and beyond
13	Refusals - 3	Ritual refusals in world languages
14	Student presentations, wrap-up	Presentations, discussions, and reflection

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You should complete assigned reading and/or writing before coming to class. Come ready to discuss the material in English with your classmates coming from different (sub)cultures.

【テキスト（教科書）】

Readings will be made accessible through the course website (H'etude's). Become familiar with this online resource to read and post your assignments before class. You are also expected to check your university email account on a daily basis to keep up with course announcements.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Other (online) materials will also be introduced as the course progresses.

【成績評価の方法と基準】

You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:

- 1) Participation (20%)
- 2) Language analysis assignments (20%) and presentation (10%)
- 3) Language analysis quiz (20%)
- 4) Final paper (20%) and class presentation (10%)

【学生の意見等からの気づき】

Because this course is to be conducted in English, students must be competent speakers/writers of English (e.g., native or proficient with TOEFL® iBT 61 or above). International and Japanese students of any majors are welcome as long as they are interested in world languages. Students should view each other's languages and cultural experiences as an asset to this course and create a friendly and respectful learning community.

【Outline and objectives】

Without cultural knowledge, language users may not fully understand the meaning of a message. Even with perfect grammar, we could completely offend our conversational partners without using language in a culturally appropriate manner. In this course, we will take a close look at the face-saving strategies used in world languages. We will also consider and discuss diverse cultural values and orientations that are closely connected to verbal and non-verbal behavior in world cultures. This enhanced linguistic and cultural awareness will help you become a more tactful and respectful user of your first and second languages and prepare you for effective intercultural communication.

LIN200LA

Intercultural Communication D 2016年度以前入学者

サブタイトル：Art-Based Language Education: Learning/Teaching English Creatively

Noriko ISHIHARA

SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Have you learned a second/foreign language through music, film, poetry, stories, novels, or any other forms of art? What was your experience like? In this course, we start by discussing why art facilitates learning, especially second language acquisition. We will then experience various forms of art incorporated into language learning and teaching through modeling by the instructor as well as through peer teaching. We are also going to discuss social activism expressed through many of these works and research activism in the world.

【到達目標】

In this course, you will become able to 1) understand and appreciate artistic forms of language education, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an art-based approach to language learning/teaching using your creativity. You will also reflect on your own reactions to an artistic approach to language education and social justice, and consider how this learning may influence your worldview.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in this group work and problem-based learning (PBL).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, getting to know each other
2	Poetry - 1	Learning language from poetry
3	Poetry - 2	Developing language identities through poetry
4	Film	Film for art and social justice
5	Stories/Story-telling	Learning language through narratives
6	Artistic creativity in peace linguistics	Language learning and peace
7	Music - 1	Learning language through music
8	Music - 2	Social activism through music
9	Children's literature	Art and social justice in picture books
10	Kamishibai	Peace education via kamishibai story-telling
11	Short stories	Learning language through literature - 1
12	Novels	Learning language through literature - 2
13	Public speeches	Learning language through art of speech
14	Wrap-up	Reflection and the future

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class.

For your peer teaching and research presentation, work together with your classmates to develop an art-based language lesson (peer teaching) and creative multi-media talk (presentation). Prepare an innovative presentation and rehearse to be effective!

【テキスト（教科書）】

Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【参考書】

Other readings will be distributed through H'etudes, the course website (学習支援システム). Handouts related to the course content to be provided in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- Participation (20%)
- Reading responses (20%)
- Mock teaching using an art-based approach (25%)
- Research presentation [on an activist] (20%)
- Participation on an artistic language expression and teaching effectiveness (15%)

【学生の意見等からの気づき】

This is a new course to open in the spring of 2019 and to be conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 61 or above). If you are interested in language teaching, you're an excellent fit for this class. If you are more of a learner who likes the fun of language and art, you are also welcome. I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open heart and learn from each other!

【学生が準備すべき機器他】

Become familiar with the course website to download readings and post your reflections. You are also expected to check your university email account on a daily basis to keep up with course announcements.

【その他の重要事項】

- Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.
- If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. Never plan to miss your presentations.
- Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, come to me after class to straighten out the record of your absence.
- You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity. Work hard, make mistakes, and have fun!

LANe100LA

Intercultural Communication E 2016年度以前入学者

サブタイトル：

コルベイク ステューブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this class is to learn about the history and culture of French speakers living in the Canadian province of Quebec. Students will look at the very diverse cultural production of Quebec writers, intellectuals, and filmmakers from the 1960s to the present day. The class will focus on one important keyword in order to understand Quebec society and culture: the concept of sovereignty.

【到達目標】

Students will learn the basic theories surrounding the political concept of sovereignty. Then, they will apply these theories in order to better understand Quebec literature and films. They will be able to develop a critical approach to literary and film analysis that takes into account the cultural specificity of Quebec as well as its place in wider debates concerning political independence, minority language and intercultural communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a lecture class, but students will have to ask questions during class and give their opinion on many aspects of the lecture. After every class they will have to write comment papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Quebec society from the 1960s	This class will be a survey of Quebec history from the Quiet Revolution to the present day.
2	Introduction to the concept of sovereignty	Students will learn about the concept of sovereignty through analysis of canonical texts.
3	Criticism regarding the concept of sovereignty and nationalism	We will look at the main criticism against sovereignty and nationalism as well as their impact on Quebec nationalist movement.
4	The importance of French language as the foundation of Quebec identity	We will try to understand why French is the cornerstone of Quebec identity.
5	Hockey, French language, and religion	We will watch and analyze a short film based on a novella by Roch Carrier: The Hockey Sweater
6	Personal sovereignty and political sovereignty	We will read and analyze excerpts from a novel by Hubert Aquin: Next Episode
7	Referendum and independence	We will look at the cultural production surrounding the first (1980) and second (1995) Quebec Referendum.
8	Post-referendum identity crisis	We will read and analyze songs and poems, as well as essays about the Referendum.
9	Immigration, identity, and interculturalism	We will look at the different steps taken by the Quebec government to create an inclusive society, and how it conflicts to a certain extent with the idea of sovereignty.
10	Current debates surrounding immigration and interculturalism	We will look at essays and opinion pieces written about immigration in Quebec.
11	Feminism in Quebec	Students will learn about the history of the feminist movement in Quebec.

12	Literature and migration	We will read a text by Kim Thuy and look at the situation of refugees in Quebec.
13	Literature and Quebec migration	We will read a text by Marco Micone.
14	Quebec and cinema	We will watch and analyze a film by Pierre Falardeau.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be asked to read a series of texts by French writers and intellectuals in English translation. They will have to write short commentaries about the texts. Also, they will have to watch short films produced in Quebec.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this class.

【参考書】

Jacques Derrida, *The Beast and the Sovereign, Volume I* (The Seminars of Jacques Derrida), University Of Chicago Press, 2011.

Jacques Derrida, *The Death Penalty, Volume I* (The Seminars of Jacques Derrida), University Of Chicago Press, 2013.

Hubert Aquin, *Next Episode*, New Canadian Library, 2010.

Roch Carrier, *The Hockey Sweater*, Tundra Books, 1985.

Gerard Bouchard, *Interculturalism: A View from Quebec*, University of Toronto Press, 2015.

Gerard Bouchard, *National Myths: Constructed Pasts, Contested Presents*, Routledge, 2013.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (40%)

Final paper (40%)

Class participation (20%)

【学生の意見等からの気づき】

There has not been negative feedback for this class. I intend to put more emphasis on active learning this year.

【学生が準備すべき機器他】

None

【Outline and objectives】

The goal of this class is to learn about the history and culture of French speakers living in the Canadian province of Quebec. Students will look at the very diverse cultural production of Quebec writers, intellectuals, and filmmakers from the 1960s to the present day. The class will focus on one important keyword in order to understand Quebec society and culture: the concept of sovereignty.

LANe100LA

Intercultural Communication F 2016年度以前入学者

サブタイトル：French culture : fashion and gastronomy

ヴァリエンス コリヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。
In this class you will discover French culture in fashion and gastronomy.

【到達目標】

ファッションと料理の語彙や表現を発見。学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります
you will be able to describe a fashion show and talk about stylists as well as to recognize regional dishes and chef

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランスのファッションとグルメの文化についてのテキストとビデオを制作します。

Nous travaillerons sur des textes et des vidéo concernant la culture française de la mode et de la gastronomie.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Presentation	program of the semester
第2回	fashion	what is "fashion" for you ? Vocabulary and expressions
第3回	gastronomy	what is "gastronomy" for you ? Vocabulary and expressions
第4回	Fashion	Famous stylists and fashion companies
第5回	Fashion	Chanel1 - Text and video
第6回	Fashion	Chanel 2 - Text and video
第7回	Gastronomy	At restaurant - Vocabulary and expressions
第8回	Gastronomy	Alsace 1 : food and wine
第9回	Gastronomy	Alsace 2 : food and wine
第10回	Gastronomy	Provence : food and wine
第11回	Fashion	Jean-Paul Gaultier - video
第12回	Gastronomy	The art of eating from Middle age to XIXe century
第13回	Revision	Fashion and gastronomy revisions
第14回	Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、テキスト・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応など、準備学習・復習・宿題等の内容を具体的に記述します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在と参加 La présence et la participation en classe : 60%。
最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline and objectives】

you will be able to describe a fashion show and talk about stylists as well as to recognize regional dishes and chef

ARSe200LA

Intercultural Communication G 2016年度以前入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the course is to provide students with opportunities to broaden their knowledge of Japan, especially in the areas of geography, history, industry, culture and so on.

【到達目標】

Through the course, students will deepen their knowledge of Japan, which may support communication with Japanese people inside and outside of the campus.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will consist of primarily lectures, discussions, presentations and field study trips. Students are expected to actively participate in group activities such as discussions or presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Class orientation
Week 2	Geography-1	Introduction to Japanese geography
Week 3	Geography-2	Students will make a small presentation on Japanese geography
Week 4	Religions and customs	Introduction to Shinto and customs originated in Shinto beliefs
Week 5	The first field work	Visiting shrines
Week 6	Traditional arts	Introduction to Japanese traditional arts and preparation for the 2nd field trip
Week 7	The 2nd field work	Experiencing Japanese traditional art(s)
Week 8	Presentation	Students will make a small presentation on the 2nd field work
Week 9	Japanese gardens	Introduction to Japanese gardens
Week 10	The 3rd field work	Visiting a Japanese garden
Week 11	Japanese society	Politics, Industries, Education etc.
Week 12	Comparing cultures 1	Preparation for the final presentation
Week 13	Comparing cultures 2	Preparation for the final presentation
Week 14	Comparing cultures 3	Students will make a group presentation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to prepare presentations and reports on the field works.

【テキスト（教科書）】

Original handouts

【参考書】

Nothing special

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%
Reports 40%
Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing special

【その他の重要事項】

Japanese students are expected to actively join cooperation with international students on the group work.

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to provide students with opportunities to broaden their knowledge of Japan, especially in the areas of geography, history, industry, culture and so on.

ARSe200LA

Intercultural Communication H 2016年度以前入学者

サブタイトル：Knowing about Japanese Culture

Sonoko YAMAMOTO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to provide students with a brief survey of Japanese culture, covering both traditional and modern aspects. It also aims to raise students' awareness of the Japanese culture as well as their own, which will promote a better intercultural communication with local people. Classes will consist of lectures and various activities, including field works, discussions, reaction paper writing, and student presentations.

【到達目標】

At the end of this course, the students are expected to have a clearer and deeper understanding of Japanese culture and people, which eventually facilitates intercultural communication with Japanese people.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This course will consist of primarily lectures, discussions and presentations. Students are expected to actively participate in class / group discussions and oral presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation and Self-Introduction	[A selection process may occur.] ・ class-orientation ・ self-introduction ・ greetings(as a part of culture)
W 2	Nature and Seasonal Events	Variety of seasons and seasonal events in Japan.
W 3	History	Brief History of Japan History and Characteristics of Edo/Tokyo.
W 4	Field Work	Visiting Edo-Tokyo Museum
W 5	Feedback of W 4	Presentations by Students
W 6	Architecture and Urban Planning	Natural disasters and their influence on people's life styles
W 6	Foods	1. Japanese traditional food and drinks, including home-cooking, bento, Kaiseki and Teas. 2. Foreign foods and innovations
W 7	Communication-1	Characteristics of Japanese Language:
W 8	Communication-2	Characteristics of Non-Verbal Communication
W 9	Entertainment	theaters and music
W 10	Field Work	Visiting a Kabuki Theater, Hanzomon, June 17 (MON) 18:30~
W 11	Feedback of W 10	Presentations by Students
W 12	Beliefs	rituals, customs and Taboos
W 13	Stereotypes	Collectivity, Vertically Structured Society, Homogeneity, etc.
W 14	Final Exam	Review Check of the whole course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ Reading of assigned materials
- ・ Preparation for allotted presentation

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

- ・ 日鉄住金総研『日本 その姿と心』NIPPON JAPAN THE LAND AND ITS PEOPLE 学生社（2014） < DVD >
- ・ 松本美江『英語で日本紹介ハンドブック』アルク（2014）（MATSUMOTO Mie, An Introductory Handbook to Japan and Its People, ALC）

*Additional relevant literature will be introduced in class as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation 30%
Presentation 30 %
Reaction paper writhing 10%
Final examination 30%

【学生の意見等からの気づき】

From this year the field works will be officially parts of the class activities.

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

・ Do not miss the first class as the detailed syllabus will be handed out and a selection process may occur.

・ The students are required to participate in the 2 field works as below:

1. Visit to Edo-Tokyo Museum (Fri.15:00-17:30)

2. Discover Kabuki (Mon.18:30-21:00)

(Total expenditure: approximately 3,000yen)

*Discover Kabuki in National Theater is planned on MONDAY, due to the theater's schedule.

・ The schedule may be subject to change based on class size and other factors.

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide students with a brief survey of Japanese culture, covering both traditional and modern aspects. It also aims to raise students' awareness of the Japanese culture as well as their own, which will promote a better intercultural communication with local people. Classes will consist of lectures and various activities, including field works, discussions, reaction paper writing, and student presentations.

CAR200LA

Career Development Skills 2016年度以前入学者

サブタイトル：

藤村 博之、山崎 雅夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses
SGU コース

Group discussion and presentation 40%

Final report 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not available.

【Outline and objectives】

For the students who have big interests about working in Japan, we clarify Japanese social problems and deepen our understanding for Japanese companies.

The aim of this class is to construct your own career plan through understanding present Japanese situation.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

For the students who have big interests about working in Japan, we clarify Japanese social problems and deepen our understanding for Japanese companies.

The aim of this class is to construct your own career plan through understanding present Japanese situation.

【到達目標】

- 1 To understand Japanese social problems
- 2 To understand characteristics of Japanese companies
- 3 To construct own career plan

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In each class, the main method to be conducted is group discussion after short lecture. Through such group work, you may be aware of different ways of thinking and even differences on values, which would be useful to consider your own career plan.

So you are required to take part in discussions actively to create good give and take relations with your colleague.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	To explain the outline and aims of the class. Introduction of students' present career plan
2	Changes of the Japanese society 1	Impact of the aging society
3	Changes of the Japanese society 2	Progress in diversification of employees
4	Characteristics of Japanese companies 1	Myths of a Japanese style of human resource management
5	Characteristics of Japanese companies 2	Membership-based employment
6	Characteristics of Japanese companies 3	Gap between regular employees and non-regular employees
7	Characteristics of Japanese companies 4	Recruitment of new graduates and mid-careers
8	Guest Speaker's lecture 1	Essential hints to work in Japanese organization
9	Characteristics of Japanese companies 5	Evaluation system
10	Characteristics of Japanese companies 6	Employment of older workers
11	Tasks facing Japanese companies 1	Long overtime work without pay
12	Tasks facing Japanese companies 2	Work style reform
13	Guest Speaker's lecture 2	A foreigner's experiences studying in a Japanese university and working for Japanese companies
14	Summary of classes and ending report	Summary of CDS lectures and Rethinking own career plan

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are expected to read short papers for each class.

【テキスト（教科書）】

Short papers will be provided.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation and attitude 40%

HSS200LA

Health and Physical Education 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Rieko YAMAGUCHI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class focuses on health promotion for young women. The number of female sport participants, particularly teenage girls, is currently decreasing in Japan, although female athletes performance level gets higher and higher. It is considered that physical and psychological transformation in a period of their puberty is one of the reasons. At the same time, we have hardly discussed about why young girls do not play sport, or how we could encourage them to be physically active. In this class, the students will understand the benefits of physical activities and consider how we could empower girls and women through physical activity and sport. The students are also required to do excise and create new ideas on health promotion for girls and women. The main focus in this class is about girls and women, but male students are also welcome.

【到達目標】

The goals of this class are;
to understand the reasons why girls and women negatively react to physical activities,
to understand menstrual function and women's physicality,
to understand the concepts of media literacy and criticize gender-biased representations in sport media,
to understand how sport relates to gender and sexuality issues today.
to consider how we can empower girls and women through sport, and to develop new ideas on health promotion for them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Lectures, film screening, and group discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Orientation and Introduction	Students get to know each other and know the rules and goals in this course.
Lecture	History of Women's Sport	Students understand that sport has been male-dominated spheres from gender perspectives.
Lecture	Women's Sport Policy in the World.	Students learn about Title IX which had huge impact on women's sport in the States.
Film Screening	History of Women's Sport	"A League of Their Own" (1992)
Lecture & Discussion	Sport & Physical Education	Students understand sport in Japan and prepare for their presentations based on the statistics and resources on sport in their own regions/countries.
Lecture	Media Literacy	Students understand the concept of media literacy and criticize gender-biased representations in sport.
Presentational & Discussion	Sport & Media	Students introduce sport and PE class and point out the gender-biased representations in media of their own regions/countries.
Lecture	Gender & Sexuality in Sport 1	Students understand the history how we had changed the perspectives toward sexuality.
Lecture	Gender & Sexuality in Sport 2	Students understand how gender and sexualities relate to sport issues.

Film Screening	Gender & Sexuality in Sport 3	"Bend it like Beckham"(2002)
Group Discussion	Gender & Sexuality in Sport 4	Students share their own ideas about the movie. They also do group work to learn how difficult coming out is through "coming out star."
Lecture	Violence in Sport	Students understand the concept of sexual harassment and abuse and learn the reasons why it happens in sport settings.
Lecture & Discussion	Sport & Empowerment	Students understand the initiatives of UN and IOC relating to gender in sport. They also know the initiative in Sport England, This Girl Can campaign.
Presentational	Final Presentation	Students criticize the existing sport definitions and consider how to use sport for future. They will share their own ideas of new sport and PE with no sexism and racism.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to finish reading assignment paper before the class begins. They also need to look up websites that the instructor asks to reach out.

【テキスト（教科書）】

None in particular.

【参考書】

1. Robin Kietlinski (2014). Japanese Women and Sport: Beyond Baseball and Sumo. Bloomsbury Academic.
2. Lindsay Parks Pieper (2016). Sex Testing: Gender Policing in Women's Sport. Univ. of Illinois Pr.
3. Kathryn E. Henne (2015). Testing for Athlete Citizenship: Regulating Doping and Sex in Sport. Rutgers UP.

【成績評価の方法と基準】

Final Presentation: 60%

Commitment to the class: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Students' opinions and new ideas are always welcome, and they will be shared in the class.

【Outline and objectives】

This class focuses on health promotion for young women. The number of female sport participants, particularly teenage girls, is currently decreasing in Japan, although female athletes performance level gets higher and higher. It is considered that physical and psychological transformation in a period of their puberty is one of the reasons. At the same time, we have hardly discussed about why young girls do not play sport, or how we could encourage them to be physically active. In this class, the students will understand the benefits of physical activities and consider how we could empower girls and women through physical activity and sport. The students are also required to do excise and create new ideas on health promotion for girls and women. The main focus in this class is about girls and women, but male students are also welcome.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的效果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 2 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的效果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第2版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的效果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第2版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営 1～2年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方法は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的效果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 2 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 法文館 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半に説明を行い、後半に実習を行う形式を基本とします。課題は教科書から指定されますので、購入し授業に持参してください。また、資料の配布と課題の提出を授業支援システムを用いて行います。授業支援システムへの登録と使い方については授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BP ソフトプレス
 「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物（80%）と平常点（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営 1～2年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半に説明を行い、後半に実習を行う形式を基本とします。課題は教科書から指定されますので、購入し授業に持参してください。また、資料の配布と課題の提出を授業支援システムを用いて行います。授業支援システムへの登録と使い方については授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物（80%）と平常点（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 法文堂 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。

10	表計算3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第2版]
 著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
 出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

1人1台パソコンを使用します。
 この授業を履修するためには、4月初旬に抽選手続きが必要です。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

【Outline and objectives】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of Word, Excel, PowerPoint, and PC internals are included in this course.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016 年度以前入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営 1～2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、PowerPoint のプレゼンテーションを作れる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）
Microsoft Excel 2013 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~okajima/
https://ir.c.chuo-u.ac.jp/researcher/profile/00015144.html?lang=ja
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心に話します。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016 年度以前入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、PowerPoint のプレゼンテーションを作れる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）
 Microsoft Excel 2013 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
 okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~okajima/>
<https://ir.c.chuo-u.ac.jp/researcher/profile/00015144.html?lang=ja>
 教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心に話します。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 法文堂 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ

第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第2版」重定、河内谷 著 サイエンス社
 初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入野戸、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

【配分】

平常点 10%、レポート 70%、タッチタイピングのテスト 20%

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 法文堂 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ

第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
 また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
 なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第2版」重定、河内谷 著 サイエンス社
 初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
 「実習 Word」 入野戸、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
 平常点 10%、レポート 70%、タッチタイピングのテスト 20%
 「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。
 レポートは内容および表現の適切さを評価します。
 タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文堂 1～2年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの3つのみである。これら3つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全体の3分の2を講義に充て、残り3分の1を演習に充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 — 代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し。
3	配列 — 表操作	配列。
4	双六ゲーム — 内部表現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム — GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム — 基本設計	問題の定義【仕様】
7	オセロゲーム — 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム — 置き換え — アルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム — 置き換え — アルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム — 勝敗決定 — アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム — コン ピュータと対戦 アプローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム — コン ピュータと対戦 アプローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム — コン ピュータと対戦 アプローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ 2016年度以前入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文堂 1～2年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの3つのみである。これら3つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全体の3分の2を講義に充て、残り3分の1を演習に充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 — 代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し。
3	配列 — 表操作	配列。
4	双六ゲーム — 内部表現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム — GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム — 基本設計	問題の定義【仕様】
7	オセロゲーム — 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム — 置き換え — アルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム — 置き換え — アルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム — 勝敗決定 — アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム — コン ピュータと対戦 アプローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム — コン ピュータと対戦 アプローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム — コン ピュータと対戦 アプローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法文堂 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。

10	表計算3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第2版]
 著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
 出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

1人1台パソコンを使用します。
 この授業を履修するためには、4月初旬に抽選手続きが必要です。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

【Outline and objectives】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of Word, Excel, PowerPoint, and PC internals are included in this course.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文堂 1～2年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。

10	表計算3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第2版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

1人1台パソコンを使用します。
この授業を履修するためには、4月初旬に抽選手続きが必要です。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

【Outline and objectives】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of Word, Excel, PowerPoint, and PC internals are included in this course.

PRI200LA					
情報処理演習Ⅱ		2017年度以降入学者			
PRI200LA					
情報処理演習Ⅱ		2016年度以前入学者			
久東 義典					
開講時期：秋学期授業/Fall		曜日・時限：木 2/Thu.2			
法文営 1～2年					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
この授業は、前期より進んだ情報処理技術をマスターすることを目的としています。					
ネット社会、パブリックとプライベートの対のテーマから始めて、問題解決に必須のアプリケーションを学習し、理解します。この授業が完了する頃には、情報科学の実践的な方法や概念を理解できるようにしていきます。					
【到達目標】					
ワードプロソフト、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンテーションソフトを使って、内容に魅力あるデジタル資料の作成ができることを目標とします。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1					
【授業の進め方と方法】					
講義は実習が中心で、毎回出席をとります。					
教科書の第9章から第11章を中心に学習します。					
講義の進め方は、情報処理実習Ⅰと同じようにタイピング練習をしてから前半で情報技術（特にデジタル資料作成技術）に関する講義と一緒にいろいろなソフトウェアの操作を紹介します。後半で復習もかねて自習できるように関連するホームページを紹介します。これをよく読んで各自のペースで小テストや課題に挑戦して下さい。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり/Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし/No					
【授業計画】					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス	授業を進めるにあたって、諸注意をします。 (1) ルールとマナーの理解 (2) ツールとメールの利用の理解 (3) デジタル資料作成 (Excel・Word・PowerPoint の基本操作とファイル保存) の理解			
2	集計表の入ったデジタル資料作成	いろいろなデータを使って、「集計する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作 (前回の復習) (2) 集計表の作法の理解 (3) データと式 (4) 合計関数と相対参照 (5) 相対参照と絶対参照 (6) Word の基本操作 (前回の復習) (7) Excel の表のコピー (8) Word で作表 (9) 行間・列間調整 (10) 表をオブジェクトとして扱う (11) PowerPoint の基本操作 (前回の復習) (12) PowerPoint で作表 (13) それぞれのソフトウェアの作表しやすさを比較			
3	データの集約	「目的をもって、分かり易く集約する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作 (前回の復習) (2) シートとブック (3) 平均、標準偏差、度数分布関数 (4) ピボット			
4	Excel・Word・PowerPoint を使ったグラフの展開	「目的をもって、分かり易く表現する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作 (前回の復習) (2) 棒グラフ (3) 折れ線グラフ (4) 円グラフ (5) 散布図と回帰直線 (6) Word の基本操作 (第2回目の復習) (7) Excel のグラフのコピー (8) グラフをオブジェクトとして扱う (9) PowerPoint の基本 (第2回目の復習) (10) PowerPoint でグラフを作成 (11) それぞれのソフトウェアで、グラフの作り易さを比較			
5	Excel のデータベース機能	「たくさんのデータを分類・整理する方法」を学習します。以下の項目について理解します。 (1) 実体とデータ (2) 並べ替えとフィルタ (3) データベース関数 (4) いろいろな形式のファイル保存			
6	サイコロの模擬	Excel を使って、1から6の目をもつサイコロをシミュレート (模擬) し、無作為なこと (サイコロで言えば1から6まで同じ確率で目が出る) について学習します。テレビゲームの原理を学ぶことにもなります。余裕のある学生は、じゃんけんゲームを作ってみましょう。 (1) 無作為な数の表示 (乱数の発生) (2) サイコロ関数の作成 (ユーザー定義関数) (3) サイコロ・シミュレーション 作ったサイコロを6回、60回、600回ふった時の出る目の回数を表にする。参考までに作ったサイコロを10回、100回、1000回ふった時の出る目の回数を表にする。 (4) サイコロ評価 確率 (1/6) とかけ離れていないか評価する (第2回から第5回まで学習内容の復習)。			
7	データの分布	Excel を使って、無作為なデータから分布のある (正規分布) データを作る過程を視覚的に理解します。 (1) 体重を表している無作為なデータを作り、表やグラフにする。 (2) そのデータを10個ずつ平均して、その平均値を表やグラフにする。 (3) 平均値からの範囲を指定するとその範囲に何個のデータが入るか調べる。 (4) このデータから範囲を指定すると起こる得る可能性を割合で計算できることを理解する。			
8	アンケート調査	授業内でアンケート調査を実施して統計処理 (仮説を検定) するまでの過程を学習します。 (1) 出る目にかたよりのない正しいサイコロか否かを判定する。(第6回と第7回の復習) (2) 上記の考え方を受けて、性別による飲み物の嗜好の違いをアンケート調査し、集計した結果をもとに嗜好の違いがあるかないかを判定する。			
9	インターネットを利用した情報収集と資料作成	インターネットを利用して、情報を収集しデジタル資料を作成することを学習します。 (1) 青空文庫と著作権についてデータ収集する。 (2) 数字でみる日本と題してデータを収集する。 (3) Word や Excel を使って収集した画像データや表データを整理する。			
10	発表資料 (レジメ) の作成	Word を使って、発表資料を作成します。 (1) 発表資料 (レジメ) の作法を理解する。 (2) 段組を理解する。 (3) ページ区切りを理解する。 (4) 図や表の挿入を理解する。 (5) レイアウトを理解する。 (6) 参考文献等の書き方を理解する。 (7) 特殊な式や記号の書き方 (挿入の仕方) を理解する。			

- 11 コンピュータを使った
発表1
題目「データベースとは」
PowerPoint を使ったスライド作成を学習します。
次の内容をよく理解して、各自で「データベース」を説明するスライドを作成します。
(1) データベースシステムの例を理解する。
(2) データベースシステムには、データの独立性、データの完全性、データの安全性の特性があることを理解する。
(3) データベースのデータを表す単位(レコード)を理解する。
(4) レコード間の関係を表す代表的な表現、階層的表現、網的表現、関係的表現を理解する。
(5) 関係的表現の操作、合併、共通部分、差、直積を理解する。
- 12 コンピュータを使った
発表2
題目「データベース記述」
PowerPoint を使ったスライドに動きを付けることを学習します。
次の内容をよく理解して、各自で「データベース記述」を説明するスライドを作成します。
(1) SQL を理解する。
(2) SQL の基本構文を理解する。
(3) 条件検索を理解する。
(4) 並べ替えを理解する。
(5) 結合を理解する。
- 13 コンピュータを使った
発表3
題目「データベースと正規化」
発表に関する PowerPoin の便利な機能を学習します。
次の内容をよく理解して、各自で「データベースと正規化」を説明するスライドを作成します。
(1) ふだんよく見る領収書やレシートは複雑な構造をした表であることを理解する。
(2) 複雑な構造の表を単純な構造の表にする過程を第一正規形、第二正規形、第三正規形を使って理解する。
- 14 データベースソフトの操作
データベースソフト Access の操作を学習します。
(1) 基本操作の画面を理解する。
(2) テーブルを作成する。
(3) Excel の表をインポートする。
(4) Excel のファイルとしてエクスポートする。
(5) クエリを使う。
(6) SQL を書く。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

以下に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎(知識定着のための教材)

lect-ip.cocolog-nifty.com

情報処理の実践(Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出のための教材)

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト(教科書)】

実習 情報リテラシ [第2版] 重定 如彦・河内谷 幸子(共著)

サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1352-0

初版ではなく第2版を購入のこと。

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト(教科書)を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなど使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(受講態度ならびに授業内提出課題の成果)50%レポート課題30%小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

1人1台パソコンを使用します。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the advance information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to practically use all of the mandatory applications while the problem solving. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the practical methods and concepts of information science.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

久東 義典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文堂 1～2年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業は、前期より進んだ情報処理技術をマスターすることを目的としています。

ネット社会、パブリックとプライベートの対のテーマから始めて、問題解決に必須のアプリケーションを学習し、理解します。この授業が完了する頃には、情報科学の実践的な方法や概念を理解できるようにしていきます。

【到達目標】

ワードプロソフト、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンテーションソフトを使って、内容に魅力あるデジタル資料の作成ができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は実習が中心で、毎回出席をとります。

教科書の第9章から第11章を中心に学習します。

講義の進め方は、情報処理実習Ⅰと同じようにタイピング練習をしてから前半で情報技術(特にデジタル資料作成技術)に関する講義と一緒にいろいろなソフトウェアの操作を紹介します。後半で復習もかねて自習できるように関連するホームページを紹介します。これをよく読んで各自のペースで小テストや課題に挑戦して下さい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業を進めるにあたって、諸注意をします。 (1) ルールとマナーの理解 (2) ツールとメールの利用の理解 (3) デジタル資料作成(Excel・Word・PowerPoint の基本操作とファイル保存)の理解
2	集計表の入ったデジタル資料作成	いろいろなデータを使って、「集計すること」を学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作(前回の復習) (2) 集計表の作法の理解 (3) データと式 (4) 合計関数と相対参照 (5) 相対参照と絶対参照 (6) Word の基本操作(前回の復習) (7) Excel の表のコピー (8) Word で表 (9) 行間・列間調整 (10) 表をオブジェクトとして扱う (11) PowerPoint の基本操作(前回の復習)
3	データの集約	(12) PowerPoint で表 (13) それぞれのソフトウェアの作表しやすさを比較 「目的をもって、分かり易く集約する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作(前回の復習) (2) シートとブック (3) 平均、標準偏差、度数分布関数 (4) ピボット

4	Excel・Word・PowerPointを使ったグラフの展開	「目的をもって、分かり易く表現する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excelの基本操作(前回の復習) (2) 棒グラフ (3) 折れ線グラフ (4) 円グラフ (5) 散布図と回帰直線 (6) Wordの基本操作(第2回目の復習) (7) Excelのグラフのコピー (8) グラフをオブジェクトとして扱う (9) PowerPointの基本(第2回目の復習) (10) PowerPointでグラフを作成 (11) それぞれのソフトウェアで、グラフの作り易さを比較	11	コンピュータを使った発表1 題目「データベースとは」	PowerPointを使ったスライド作成を学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベース」を説明するスライドを作成します。 (1) データベースシステムの例を理解する。 (2) データベースシステムには、データの独立性、データの完全性、データの安全性の特性があることを理解する。 (3) データベースのデータを表す単位(レコード)を理解する。 (4) レコード間の関係を表す代表的な表現、階層的表現、網的表現、関係的表現を理解する。 (5) 関係的表現の操作、合併、共通部分、差、直積を理解する。
5	Excelのデータベース機能	「たくさんデータを分類・整理する方法」を学習します。以下の項目について理解します。 (1) 実体とデータ (2) 並べ替えとフィルタ (3) データベース関数 (4) いろいろな形式のファイル保存	12	コンピュータを使った発表2 題目「データベース記述」	PowerPointを使ったスライドに動きを付けることを学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベース記述」を説明するスライドを作成します。 (1) SQLを理解する。 (2) SQLの基本構文を理解する。 (3) 条件検索を理解する。 (4) 並べ替えを理解する。 (5) 結合を理解する。
6	サイコロの模擬	Excelを使って、1から6の目をもつサイコロをシミュレート(模擬)し、無作為なこと(サイコロで言えば1から6まで同じ確率で目が出る)について学習します。テレビゲームの原理を学ぶことにもなります。余裕のある学生は、じゃんけんゲームを作ってみましょう。 (1) 無作為な数の表示(乱数の発生) (2) サイコロ関数の作成(ユーザー定義関数) (3) サイコロ・シミュレーション 作ったサイコロを6回、60回、600回ふった時の出る目の回数を表にする。参考までに作ったサイコロを10回、100回、1000回ふった時の出る目の回数を表にする。 (4) サイコロ評価 確率(1/6)とかけ離れていないか評価する(第2回から第5回まで学習内容の復習)。	13	コンピュータを使った発表3 題目「データベースと正規化」	発表に関するPowerPointの便利な機能を学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベースと正規化」を説明するスライドを作成します。 (1) ふだんよく見る領収書やレシートは複雑な構造をした表であることを理解する。 (2) 複雑な構造の表を単純な構造の表にする過程を第一正規形、第二正規形、第三正規形を使って理解する。 データベースソフトAccessの操作を学習します。 (1) 基本操作の画面を理解する。 (2) テーブルを作成する。 (3) Excelの表をインポートする。 (4) Excelのファイルとしてエクスポートする。 (5) クエリを使う。 (6) SQLを書く。
7	データの分布	Excelを使って、無作為なデータから分布のある(正規分布)データを作る過程を視覚的に理解します。 (1) 体重を表している無作為なデータを作り、表やグラフにする。 (2) そのデータを10個ずつ平均して、その平均値を表やグラフにする。 (3) 平均値からの範囲を指定するとその範囲に何個のデータが入るか調べる。 (4) このデータから範囲を指定すると起こる得る可能性を割合で計算できることを理解する。	14	データベースソフトの操作	【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】 以下に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。 <授業で紹介するホームページのURL> 情報技術の基礎(知識定着のための教材) lect-ip.cocolog-nifty.com 情報処理の実践(Excel・Word・PowerPointを使った課題提出のための教材) pract-ip.cocolog-nifty.com
8	アンケート調査	授業内でアンケート調査を実施して統計処理(仮説を検定)するまでの過程を学習します。 (1) 出る目にかたよりが無い正しいサイコロか否かを判定する。(第6回と第7回の復習) (2) 上記の考え方を受けて、性別による飲み物の嗜好の違いをアンケート調査し、集計した結果をもとに嗜好の違いがあるかないかを判定する。		【テキスト(教科書)】 実習 情報リテラシ【第2版】重定 如彦・河内谷 幸子(共著) サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1352-0 初版ではなく第2版を購入のこと。 情報処理演習Iと情報処理演習IIは、同じテキスト(教科書)を使用。	
9	インターネットを利用した情報収集と資料作成	インターネットを利用して、情報を収集しデジタル資料を作成することを学習します。 (1) 青空文庫と著作権についてデータ収集する。 (2) 数字のみで日本と題してデータを収集する。 (3) WordやExcelを使って収集した画像データや表データを整理する。		【参考書】 講義中に紹介するホームページなどを使って指示します。	
10	発表資料(レジメ)の作成	Wordを使って、発表資料を作成します。 (1) 発表資料(レジメ)の作法を理解する。 (2) 段組を理解する。 (3) ページ区切りを理解する。 (4) 図や表の挿入を理解する。 (5) レイアウトを理解する。 (6) 参考文献等の書き方を理解する。 (7) 特殊な式や記号の書き方(挿入の仕方)を理解する。		【成績評価の方法と基準】 平常点(受講態度ならびに授業内提出課題の成果)50%レポート課題30%小テスト20%	

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

1人1台パソコンを使用します。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the advance information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to practically use all of the mandatory applications while the problem solving. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the practical methods and concepts of information science.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

名兎耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーのより広い知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを習得することを目標とします。

【到達目標】

事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習と関連説明を織り交ぜて進め、それがそのまま課題へもつながる、という実習中心の流れを保ちつつ、より応用的な内容へも進みます。一般的な情報リテラシーとして必要と思われることは柔軟に取り入れ、実習を通して習得できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	データベース基礎	データベースの基礎と体験
第13回	総合的な演習・実習	これまでの知識に基づく総合演習
第14回	最後のまとめ	一年を通してのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておくことが必要になります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

春学期のものを継続使用する予定ですが、実習室環境に合わせる必要があるため初回授業で説明します。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ [第2版]」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to improve skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

名兎耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーのより広い知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを習得することを目標とします。

【到達目標】

事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習と関連説明を織り交ぜて進め、それがそのまま課題へもつながる、という実習中心の流れを保ちつつ、より応用的な内容へも進みます。一般的な情報リテラシーとして必要と思われることは柔軟に取り入れ、実習を通して習得できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	データベース基礎	データベースの基礎と体験
第13回	総合的な演習・実習	これまでの知識に基づく総合演習
第14回	最後のまとめ	一年を通してのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておくことが必要になります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

春学期のものを継続使用する予定ですが、実習室環境に合わせる必要があるため初回授業で説明します。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ [第2版]」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to improve skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

名兎耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーのより広い知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを習得することを目標とします。

【到達目標】

事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習と関連説明を織り交ぜて進め、それがそのまま課題へもつながる、という実習中心の流れを保ちつつ、より応用的な内容へも進みます。一般的な情報リテラシーとして必要と思われることは柔軟に取り入れ、実習を通して習得できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	データベース基礎	データベースの基礎と体験
第13回	総合的な演習・実習	これまでの知識に基づく総合演習
第14回	最後のまとめ	一年を通してのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておくが必要になります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

春学期のものを継続使用する予定ですが、実習室環境に合わせる必要があるため初回授業で説明します。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ [第2版]」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to improve skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

名兎耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎を固めながらさらに応用的な面へも踏み込み、情報リテラシーのより広い知識習得を目指します。現代社会にて必要となるであろう操作・知識などを習得することを目標とします。

【到達目標】

事務作業などで使われる、一般的な情報系知識・技術の習得を目指す。また応用的な文書作成・調査・集計など、今後必要となるであろう技術を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習と関連説明を織り交ぜて進め、それがそのまま課題へもつながる、という実習中心の流れを保ちつつ、より応用的な内容へも進みます。一般的な情報リテラシーとして必要と思われることは柔軟に取り入れ、実習を通して習得できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	データベース基礎	データベースの基礎と体験
第13回	総合的な演習・実習	これまでの知識に基づく総合演習
第14回	最後のまとめ	一年を通してのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておくことが必要になります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

春学期のものを継続使用する予定ですが、実習室環境に合わせる必要があるため初回授業で説明します。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ [第2版]」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to improve skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、PHP、HTML5 を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎	Microsoft Excel の基礎について学ぶ。
第2回	計算式・関数・書式	Microsoft Excel の計算式や関数、書式等について学ぶ。
第3回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールについて学ぶ。
第4回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する。
第5回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第6回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第7回	課題④	Microsoft Excel を活用する課題に取り組む。
第8回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第9回	コンピュータネットワークの基礎	コンピュータネットワークに関する基礎知識を学ぶ。
第10回	コンピュータセキュリティの基礎	コンピュータセキュリティに関する基礎知識を学ぶ。
第11回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第12回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第13回	HTML5	HTML5 を用いたホームページ作成方法の基礎を学ぶ。
第14回	まとめ	講義内容をまとめる。コンピュータの将来展望や問題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題（70%）、宿題（20%）、平常点（10%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, HTML5, PHP and learn about network structure too.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、PHP、HTML5 を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎	Microsoft Excel の基礎について学ぶ。
第2回	計算式・関数・書式	Microsoft Excel の計算式や関数、書式等について学ぶ。
第3回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールについて学ぶ。
第4回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する。
第5回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第6回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第7回	課題④	Microsoft Excel を活用する課題に取り組む。
第8回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第9回	コンピュータネットワークの基礎	コンピュータネットワークに関する基礎知識を学ぶ。
第10回	コンピュータセキュリティの基礎	コンピュータセキュリティに関する基礎知識を学ぶ。
第11回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第12回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第13回	HTML5	HTML5 を用いたホームページ作成方法の基礎を学ぶ。
第14回	まとめ	講義内容をまとめる。コンピュータの将来展望や問題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題（70%）、宿題（20%）、平常点（10%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, HTML5, PHP and learn about network structure too.

IDN200LA

法政学の探究 L B

2017 年度以降入学者

IDN200LA

法政学の探究 B

2016 年度以前入学者

古俣 達郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

法文営国環キ G 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では法政大学の歴史を「学生」の観点から「読み直し」ます。
明治時代の法政大学にはどのような学生が集っていたのか、大正末から昭和初期に体育会・文化系団体などの学生活動が一斉にはじまったのはなぜか、戦前の学生たちのアルバイト事情や就職活動はどのようなものだったのか、戦時下の学生たちは戦争をどのように考えていたのか、戦前の法政大学に女子学生はいたのか、バブル期の学生生活はどのようなものであったのか、そして、法大生の特質・独自性とは何か。
これらのテーマを、テキストとともに映画・アニメなども含む各種の資料を参考にしながら検証していきます。法政大学の歴史から日本の近現代史を捉え直す機会にもなるでしょう。

【到達目標】

法政大学の歴史はもちろんのこと、日本近現代史や大学史に関する基礎的な知識を得ることができます。また、時代背景を踏まえた資料の読解方法についても学ぶことができます。
ゼミナール形式で行われるため、各学部の専門ゼミ履修への準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

第 1 回目に科目担当者の自己紹介と授業の説明を行います。第 2・8・13 回は法政大学を舞台とした映画等上映し、そこに描かれている法大生像について議論します（ただし、第 8 回はテキスト読解もを行います）。第 3 - 12 回では、ゼミナール形式で、法政大学の卒業生の回想や法大生に関する記事を中心としたテキストを読解し、第 14 回では科目担当者による総括を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目標、スケジュール等。
第 2 回	映像上映①	近年の映像作品（映画『横道世之介』、アニメ『ゴールデンタイム』）
第 3 回	テキスト読解①	創立期
第 4 回	テキスト読解②	法律学校時代
第 5 回	テキスト読解③	大学昇格
第 6 回	テキスト読解④	大正末 - 昭和初期
第 7 回	テキスト読解⑤	総力戦体制下・戦時下
第 8 回	映像上映②・テキスト読解⑥	占領下・戦後復興期（映像『若いいのち 法政大学の学生たち』1963 年）
第 9 回	テキスト読解⑦	60・70 年代
第 10 回	テキスト読解⑧	バブル期
第 11 回	テキスト読解⑨	女子学生・留学生
第 12 回	テキスト読解⑩	地域（神楽坂）
第 13 回	映像上映③	法政大学創立 100 周年記念映画『オレンジのその情熱と…』
第 14 回	総括	科目担当者による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題範囲のテキストを事前に予習すること。大学公式 HP の更新を見逃さず、大学で行われている関連イベント・展示などに積極的に参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストとして科目担当者編によるアンソロジー『法大生の歴史』（2019 年度版）を配布します。

【参考書】

『法政大学八十年史』、『法政大学百年史』、『法政大学と戦後五〇年』、『法律学の夜明けと法政大学』、全国大学史資料協議会東日本部会編『学生たちの戦前・戦中・戦後』

【成績評価の方法と基準】

平常点とテキスト報告（各 50 %）にて判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学部を超えた交流の機会となるよう、受講者が自由に発言できる「場」を形成したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

報告用の PC などの機器は科目担当者が用意します。

【その他の重要事項】

関連科目「法政学への招待」で学んだ内容を前提としますので、同科目の既修者か、それと同等以上の前提知識を得てから受講してください。

【Outline and objectives】

In this course we explore the history of Hosei University from the perspective of Hosei students.

Students will learn the modern and contemporary history of Japan through the history of Hosei university.

IDN200LA

法政学の探究 L A

2017 年度以降入学者

IDN200LA

法政学の探究 A

2016 年度以前入学者

高柳 俊男、古俣 達郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

法文営国環キ G 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「大学を知ろう <法政学>への招待」（旧科目名「法政学への招待」）をすでに受講し、法政大学が経てきた 140 年の歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象にして、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました（昨年度から内容を大幅変更）。

「大学を知ろう <法政学>への招待」における学習を前提に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に取り上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探究することになるでしょう。

法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる本学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できるようになるはずです。

【到達目標】

本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を指し、何に悩んだかなど、時代の潮流や雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

科目責任者である 2 名の教員が原則として毎回同席し、授業をコーディネートします。講義は、毎回のテーマに最適な本学内外の講師陣（科目責任者 2 名を含む）が、分担して担当します。

授業の最後に毎回、リアクションペーパーを書いていただきます。受講生の声を反映した参加型・双方向型授業になるよう努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	この授業の狙いや、全体の構成について説明する。 あわせて、本学の経てきた歴史の概略を復習する。（科目責任者=高柳俊男、古俣達郎）
2	世界を知りつくした本学の祖 箕作麟祥	本学の前身である和仏法律学校の初代校長の箕作麟祥は、明治期の有数の啓蒙家であった。彼は、洋学を学んで、西洋の法律や歴史を日本に紹介し、日本の「民権」のために活躍した。彼の仕事を振り返って、そこから学ぶものを探りたい。（南塚信吾）
3	本学草創期を支えた日本近代法の父 ボアソナード	フランス人法学者のボアソナード（1825-1910 年）は、明治政府顧問として来日し、近代法典の整備と法学教育に尽力した。ボアソナードの事績と薫陶を受けた教え子たちの活動を紹介します。その歴史的意義を考える。（村松玄太）
4	「民法の父」・和仏法律学校初代総理 梅謙次郎	日本民法典起草者の一人であり、帝国大学法学部教授、法政大学の初代総理（総長）であった梅謙次郎について、韓国（大韓帝国、1897-1910 年）政府の法律顧問として活動していた頃の足跡を辿る。（李英美）
5	能楽研究の開拓者である 野上豊一郎	法政大学は古典芸能の「能楽」と深い結びつきがあるが、その縁は、戦後間もなく総長を務めた野上豊一郎が創出したものである。今回は、野上と能楽との出会いから、彼が残した功績を概観する。（伊海孝充）

6	法政の学生を愛した漱石 門下の名随筆家 内田百閒	予科生によるドイツ語劇「ファウス ト」の上演/法政大学航空研究会会長として「青年日本号」の訪欧旅行を送る/「蘭茶先生」（中野勝義）のこと/「法政騒動」の中で/野上豊一郎、弥生子と/「摩阿陀会」（「まあだだよ」など（飯田泰三）
7	「法政の黄金時代」、そして戦後法政大学の立役者 中野勝義	中野勝義（1904-1960 年）は本学の卒業生で、ANA の創業者である。内田百閒の愛弟子であった中野の生涯は法政と航空に捧げられたといっても過言ではない。戦前・戦中・戦後を通じて、法政の発展に尽くしたその生涯を振り返る。（古俣達郎）
8	漱石門下生たちに学んで 作家になった椋鳩十	伊那谷出身の椋鳩十（本名：久保田彦穂）は、とくに動物物語の作者として広く知られる。初の詩集を出し、学生結婚もした法政大学時代をはじめ、戦前戦後にわたる椋の歩みを時代の中で振り返る。（高柳俊男）
9	城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一、乾孝～生涯学習の時代を切り拓いた人々	戦前の法政大学高等師範部教授の城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一らは、本学を舞台に教育科学研究会や保育問題研究会を組織したが、そのねらいは現場の教員と研究者とが共同して教育実践を研究することであった。キャリアデザイン学部へと引き継がれるこの伝統を明らかにしたい。（笹川孝一）
10	法政で学んだ二人の女性、片岡美智と駒尺喜美のその後を追う	女子学生の稀だった 1930 年代と 50 年代に法政で学び、その後研究者として大きく羽ばたいた二人。片岡美智はフランス文学の分野で、駒尺喜美は日本近代文学及び「女性学」の実践者として、その活躍の足跡を辿る。（天野紀代子）
11	戦争の中を生きた学友たち～久納好学を例に	終戦直前のわずかに 10 ヶ月足らずの間に 5,845 名もの戦死者を出した「特攻」。その第一号となったのが、本学に学んだ学友の一人・久納好学であった。彼はなぜ「特攻」を志願したのか。その短い生涯を辿りながら、戦前戦中の本学の歴史と学友たちの生きざまを追体験してみたい。（鈴木靖）
12	南北朝鮮と日本の狭間に 生きた尹学準	尹学準は朝鮮戦争最中に韓国から日本に密航し、法政大学で近代文学を学んだ。最後は本学教授として亡くなった尹学準の波乱万丈の歩みを追いつながら、その一生が投げかけるものを考えたい。（高柳俊男）
13	野武士を東ねた人～法政 スポーツの気風をはぐくむ	スポーツ界に広がる法政のイメージは、昔も今も変わらない。奔放で、独立心強く、強烈な個性を輝かせながら、小さくまとまるのを厭う。角を矯めずに戦いに挑んだ法政人の、勝負の周りに息づく魅力を探る。（山本浩）
14	学生と目と教員と目から 見る法政大学	学生として本学で学び、のちに本学で教えるに至った方を授業にお招きし、2 つの立場から見た法政大学について体験的に語っていただき、授業全体のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講師が授業内で言及した文献は、積極的に参照してください。また、授業と関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、極力足を運んでみてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。講義担当者がプリントを適宜配付します。

【参考書】

各担当教員が、その都度お知らせします。
本学の歴史を通史的にまとめた書籍には、『法政大学 1880-2000：そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで適宜参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、学期末のレポート 60 %を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学術的でありながら、同時に自らの生き方の参考になるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。授業支援システムを適宜活用します。

【その他の重要事項】

上述のように、「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提に進めますので、原則として同科目の既修者か、それと同程度の前提知識がある方が受講対象者になります。

「大学を知ろう <法政学>への招待」とこの「法政学の探求 LA」を履修し、さらに学びを深めたい方には、より演習に近い少人数の科目として、「法政学の探求 LB」（春学期）も用意されています。

[Outline and objectives]

This intermediate class aims to explore the history and the spirit of Hosei University, by following the achievements and personality of several specific individuals.

LIT200LA

日本文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：絵画化された『源氏物語』

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』がどのように解釈され、絵画化されてきたか考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。
- ③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。
- ④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。現代語訳のプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	絵巻とは (1)	絵巻の歴史について
第 3 回	絵巻とは (2)	絵巻に見られる技法について
第 4 回	絵巻とは (3)	絵巻の鑑賞方法について
第 5 回	『源氏物語絵巻』 (1)	『源氏物語絵巻』概説
第 6 回	『源氏物語』第一部概説	『源氏物語』第一部の解説
第 7 回	『源氏物語』第一部概要	『源氏物語』第一部のあらすじ
第 8 回	『源氏物語絵巻』 (2)	『源氏物語絵巻』蓬生巻について
第 9 回	『源氏物語』第二部概説	『源氏物語』第二部の解説およびあらすじ
第 10 回	『源氏物語絵巻』 (3)	『源氏物語絵巻』柏木巻 (一) について
第 11 回	『源氏物語絵巻』 (4)	『源氏物語絵巻』柏木巻 (三) について
第 12 回	『源氏物語絵巻』 (5)	『源氏物語絵巻』横笛巻について
第 13 回	『源氏物語絵巻』 (6)	『源氏物語絵巻』鈴虫巻 (二) について
第 14 回	総括	授業のまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにすること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う試験 (70%)、平常点 (30%) によって評価します。試験は

【到達目標】 ①~④に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。出席調査票の「感想・コメント欄」に記入された質問やコメントは、次週の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【Outline and objectives】

This course deals with *The Tale of Genji illustrated Scrolls* (源氏物語絵巻, designated a National Treasure) and the other works (including Manga) painted *The Tale of Genji*. The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art.

LIT200LA

日本文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：説話のメディア展開

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話について講義します。絵巻や能・歌舞伎の題材として有名なこの説話が、これまで人々にどのように享受されてきたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ① 説話文学の特質について理解する。
- ② 絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ③ 能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

DVD 等の視聴覚資料を適宜鑑賞しながら、パワーポイントを使い、講義形式で行います。現代語訳のプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	説話について	説話文学に関する解説
第 3 回	道成寺にまつわる説話	説話集に収められた道成寺説話
第 4 回	絵巻について	絵巻の鑑賞方法に関する解説
第 5 回	道成寺縁起絵巻 (1)	『道成寺縁起絵巻』鑑賞
第 6 回	道成寺縁起絵巻 (2)	『道成寺縁起絵巻』解説
第 7 回	道成寺縁起絵巻 (3)	熊野信仰について
第 8 回	道成寺縁起絵巻 (4)	『道成寺縁起絵巻』の異本について
第 9 回	能について	能の歴史・鑑賞の仕方に関する解説
第 10 回	能『道成寺』(1)	能『道成寺』を読む
第 11 回	能『道成寺』(2)	能『道成寺』解説
第 12 回	能『道成寺』(3)	能『道成寺』鑑賞
第 13 回	道成寺物について	日本伝統芸能における「道成寺」の解説
第 14 回	総括	授業のまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにすること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う試験（70%）、平常点（30%）によって評価します。試験は【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収する出席調査票によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。出席調査票の「感想・コメント欄」に記入された質問やコメントは、次週の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the picture scrolls *Dojoji Engi* and the Noh program *Dojoji*. The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art and performing arts.

LIT200LA

日本文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本中世仏教と能楽

今泉 隆裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。

とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの教回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そののち動進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化 L C」（旧「文学 I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化 L D」（旧「文学 II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	能楽入門①	能楽の歴史、基本的な用語などについて解説する（5 回程度）。
2	能楽入門②	上記、能楽入門（つづき）
3	能楽入門③	上記、能楽入門（つづき）
4	能楽入門④	上記、能楽入門（つづき）
5	能楽入門⑤	上記、能楽入門（つづき）
6	夢幻能について① （幽霊能について）	夢幻能のなかでも幽霊を主人公（シテ）とするものを取り上げ、その特徴について論じる（9 回程度）。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説（典拠）と能との比較検討 ・夢幻能（幽霊能）の特徴とその機能について ・シテ（幽霊）とワキ（僧ワキ）との関係 ・宗教学からみた能の幽霊の特殊性 ・僧ワキの機能についてなど
7	夢幻能について② （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉①
8	夢幻能について③ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉②
9	夢幻能について④ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉③鑑賞

10	夢幻能について⑤ (幽霊能について)	上記、夢幻能について (つづき) 〈鶴飼〉①
11	夢幻能について⑥ (幽霊能について)	上記、夢幻能について (つづき) 〈鶴飼〉②
12	夢幻能について⑦ (幽霊能について)	上記、夢幻能について (つづき) 〈船橋〉①
13	夢幻能について⑧ (幽霊能について)	上記、夢幻能について (つづき) 〈船橋〉②
14	夢幻能について⑨ (幽霊能について)	上記、夢幻能について (つづき) 前期まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。

その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文

『謡曲集』上・下 (表章日本古典文学大系、岩波書店)

『謡曲百番』(新日本古典文学大系、岩波書店)

『謡曲集』一・二 (日本古典文学全集、小学館) など

入門書

西野春雄『能・狂言・風姿花伝』(新潮社、1992年) など

ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80%、平常 20%とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとします。

講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を理解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【その他の重要事項】

※それぞれのテーマを何回講義するかは未定である。

※取り上げるテーマは進度等、都合により変更されることがあります。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.

Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

LIT200LA

日本文学と文化LD

2017年度以降入学者

LIT200LA

文学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：日本中世仏教と能楽

今泉 隆裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では能 (謡曲) とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式 (話の枠) に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化 (おもに日本仏教) との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。

とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの教回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか (あるいは消滅するのか) を考える機会も持ちたい。

そののち動進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公 (シテ) とする曲を主に扱う。また、離れたなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」(旧「文学I」)、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」(旧「文学II」)となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	能楽入門 (補足①)	入門的事項の補足説明と「日本文学と文化 (前期)」(旧「文学I」)の内容をおさらいする (2回程度)。ただし、連続して講義を受けていない学生が多い場合は、内容を変更して対応したい。
2	能楽入門 (補足②)	上記、能楽入門つづき
3	夢幻能について① (神能について)	夢幻能のなかでも神を主人公 (シテ) とするものを取り上げ、その特徴について論じる (4回程度)。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説 (典拠) と能との比較検討 ・夢幻能 (神能) の特徴とその機能について ・シテ (神) とワキ (大臣ワキ) との関係 ・宗教学からみた能の神の特殊性 ・大臣ワキの機能について など
4	夢幻能について② (神能について)	上記、夢幻能、とくに神能について (つづき) 〈高砂〉①
5	夢幻能について③ (神能について)	上記、夢幻能、とくに神能について (つづき) 〈高砂〉②
6	夢幻能について④ (神能について)	上記、夢幻能、とくに神能について (つづき) 〈高砂〉③鑑賞

7	親子物狂能について①	春学期でみた勸進興行との関連で寺社の靈験譚として、離ればなれになった親子の再開を描く親子物狂能とその特色などについて論じる（6 回程度）。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説（典拠）と能との比較検討 ・〈弱法師〉と俊徳丸説話、さらにその淵源など
8	親子物狂能について②	上記、親子物狂能について（つづき）〈隅田川〉①
9	親子物狂能について③	上記、親子物狂能について（つづき）〈隅田川〉②
10	親子物狂能について④	上記、親子物狂能について（つづき）〈隅田川〉③鑑賞
11	親子物狂能について⑤	上記、親子物狂能について（つづき）そのほかの親子物狂能①
12	親子物狂能について⑥	上記、親子物狂能について（つづき）そのほかの親子物狂能②
13	能楽の近代について①	近代化の中で一時期廃れていた能楽が、いかに復活したかについて論じ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するか（あるいは消滅するか）を考える（2 回程度）。
14	能楽の近代について②	上記、能楽の近代について（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。
本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。
その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文
『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）
『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）
『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など
入門書
西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992 年）など
ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補助ものとし、講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を理解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【その他の重要事項】

※それぞれのテーマを何回講義するかは未定である。
※取り上げるテーマは進度等、都合により変更されることがあります。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism. Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

LIT200LA

日本文学と文化 L E

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

伊海 孝充

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の鬼に纏わる伝承・物語について学ぶ。日本の鬼は人間に危害を加える〈悪〉として捉えられるモノであるが、その姿や出現する場所は様々であり、時には人間に幸いをもたらす〈善〉なる存在としても描かれることがある。本講義では、その鬼の多様性を学ぶと同時に、人間は鬼に何を投影したのかを考えていく。

【到達目標】

授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の鬼がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。また、基本的な話柄を確認するために「まんがが日本昔ばなし」などのビデオを用いる。さらに文学作品の広がりを確認するため、視聴覚資料を多用する。鑑賞に際しては、話の疑問点を探しながら集中して観ることが望まれる。また、毎回コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の進め方について具体例をもとに説明する。
2 回	日本の鬼の特徴	日本の鬼の伝承・物語について概説する。
3 回	「桃太郎」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
4 回	「桃太郎」と江戸文学	江戸時代文学に描かれる桃太郎像について考える。
5 回	「桃太郎」の意味	「桃」の呪術性と従者・鬼の存在について考える。
6 回	「羅生門の鬼」の概説。	話の概要と様々な話柄を紹介する。
7 回	「羅生門の鬼」の登場人物	源頼光と四天王について解説する。
8 回	羅生門という場と鬼	他の文芸作品を用いながら羅生門と鬼の関係を考える。
9 回	「地獄めぐり」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
1 0 回	「地獄めぐり」の地獄描写	『往生要集』や地獄絵との関係を考える。
1 1 回	「安達ヶ原の鬼」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
1 2 回	「安達ヶ原の鬼」と見るなの禁	鬼の出現の仕方を考える。
1 3 回	心の鬼	鬼と人間の内面の関係を考える。
1 4 回	まとめ	現代社会で「鬼」を考える意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業にのぞむ前に、扱う話を一読していただくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 70 %
学期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

各回の連続性をわかりやすく示すようにする。

【Outline and objectives】

We learn about the tradition and story of Japanese demons. A Japanese demon is a thing that can be caught as a bad harm to human beings, but its appearance and place of appearance varies and sometimes it is also described as being a "good" that brings happiness to humans. In this lecture, we learn the diversity of the demon and at the same time think about what the human being projected to the demon.

LIT200LA

日本文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

伊海 孝充

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「来訪神」とよばれる神々について学ぶ。このカミを巡る伝承は各地に残っており、描かれ方は実に多様である。民俗学で「春来る鬼」とも呼ばれることがあるように、ときには鬼の姿のように造形される。この神々の文化的背景を探りつつ、日本人の神観念・他界観の一端を考えていきたい。

【到達目標】

授業内容は、専門的な文学研究・芸能研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義で、来訪神を通して日本人の神観念・他界観の在り方を知ることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。また、基本的な話柄を確認するために「まんが日本昔ばなし」などのビデオを用いる。さらに文学作品の広がりを確認するため、視聴覚資料を多用する。鑑賞に際しては、話の疑問点を探しながら集中して観ることが望まれる。また、毎回コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	ユネスコ文化遺産に登録された「来訪神」の紹介
2 回	来訪神と民俗学	柳田國男・折口信夫などの諸説を紹介する。
3 回	「節分の鬼」の話	話の概要と様々な話柄を紹介する。
4 回	節分の行事について	様々な節分の行事を紹介し、鬼の存在を考える。
5 回	ナマハゲについて	ナマハゲの歴史と類似した行事の紹介
6 回	来訪神がどこから来るか	来訪神に見る他界観
7 回	「笠地蔵」の話。	話の概要と様々な話柄を紹介する。
8 回	来訪する地蔵の姿	蓑と笠の呪術性について
9 回	「不思議な壺」の話	話の概要と様々な話柄を紹介する
10 回	琉球の他界観	ニライカナイと竜宮をめぐる諸説
11 回	南国の来訪神	ボゼとバートゥ
12 回	カセドリという来訪神	二つの来訪神の紹介
13 回	神と音	神の出現をいかに感知するか。
14 回	まとめ	来訪神の今を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業にのぞむ前に、扱う話を一読してくることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 70 %

学期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

専門外の学生にもわかりやすい授業を心がける。

【Outline and objectives】

We learn about the gods called "Raiho-shin (visiting gods)". The tradition about this gods remains in various places, and the way of being drawn is quite diverse. It is sometimes modeled like a figure of a demon, as it is sometimes called "demon that spring comes" in folk studies. While exploring the cultural background of these gods, we would like to think about a part of the Japanese idea of god and other world views.

LIT200LA

日本文学と文化 L G

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品（場合によってはその一部）を觀賞した上で、原作の小説を講読します。2018 年に劇場公開された以下の作品から厳選して、6 作品をとりあげる予定です（作品の配列は劇場公開日順）。同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深め、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。

中村文則『悪と仮面のルール』（中村哲平監督）
 東野圭吾『祈りの幕が下りる時』（福澤克雄監督）
 中村文則『去年の冬、きみと別れ』（瀧本智行監督）
 石田衣良『娼年』（三浦大輔監督）
 東野圭吾『ラプラスの魔女』（三池崇史監督）
 葉丸岳『友罪』（瀬々敬久監督）
 宮下奈都『羊と鋼の森』（橋本光二郎監督）
 池井戸潤『空飛ぶタイヤ』（本木克英監督）
 町田康『パンク侍、斬られて候』（石井岳龍監督）
 森見登美彦『ペンギン・ハイウェイ』（石田祐康監督）
 柴崎友香『寝ても覚めても』（濱口竜介監督）
 川口俊和『コーヒーが冷めないうちに』（塚原あゆ子監督）
 山内マリコ『ここは退屈屋にきて』（廣木隆一監督）
 有川浩『旅猫リポート』（三木康一郎監督）
 三上延『ピプリア古書堂の事件手帖』（三島有紀子監督）
 本谷有希子『生きてるだけで、愛。』（関根光才）
 東野圭吾『人魚の眠る家』（堤幸彦監督）
 中村文則『銃』（武正晴監督）
 *劇場公開順。本リストの中からセレクトします。

【到達目標】

現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、議論の礎となる要素を抽出し、整理し、分析することができるようになります。さらに、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。映画の一部を觀賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示や叙述の方法や人物設定や物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、自分の言葉で批評を行う場所に立つことが求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	映画観賞 (1)	原作の映画鑑賞
3	原作小説の講読 (1)	小説の講読&分析&考察
4	映画観賞 (2)	原作の映画鑑賞
5	原作小説の講読 (2)	小説の講読&分析&考察
6	映画観賞 (3)	原作の映画鑑賞
7	原作小説の講読 (3)	小説の講読&分析&考察
8	映画観賞 (4)	原作の映画鑑賞
9	原作小説の講読 (4)	小説の講読&分析&考察
10	映画観賞 (5)	原作の映画鑑賞
11	原作小説の講読 (5)	小説の講読&分析&考察
12	映画観賞 (6)	原作の映画鑑賞
13	原作小説の講読 (6)	小説の講読&分析&考察
14	レポート提出	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた映像作品は、自宅等でもう一度、觀賞し読み直し、作品を理解するように努めてください。

最終授業時に提出するレポート執筆の準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を行ってください。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う小説の単行本、または文庫本。

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。
必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。
試験や小テストはありません。

レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。

専門科目ではないので、分かりやすい言葉で、分析と解説を行うように心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

We will read through the original novels after watching animated films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following six titles after carefully selecting from the works released in 2018.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. We aim to acquire the ability to read novels from the perspective of "what literature-specific expressions are."

LIT200LA

日本文学と文化 L H

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：現代日本文学とアニメーション

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なジャンルの現代日本文学を原作とするアニメーション作品を、原作小説と対照させつつ、多様な視点から解説するとともに、言語表現と映像表現の違いを明らかにしていきます。以下の 6 作品を軸に展開し、場合によっては関連作品や派生作品にも言及します。小説もアニメーションも「作為」の産物です。すべての叙述には意味があり、各カットやシーンには制作者の演出意図がこめられています。作品をただ観賞するのではなく、細部に注目した読みとりを行っていきます。

同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深め、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。作品鑑賞を、作品分析、作品批評へと広げていくための思考の道筋を学びます。

・筒井康隆『時をかける少女』

* 短編ジュブナイル小説としての『時かけ』の物語フォーマットが、様々なクリエイターによって映像化されてきた歴史を振り返りながら、細田守監督によるアニメ『時をかける少女』について考えます。

・新海誠『言の葉の庭』

* 『言の葉の庭』は、厳密な意味では小説を原作としたアニメーション作品ではありませんが、新海誠の文学性を感じることができる純文学アニメとも言えます。新作『天気の子』にも言及しつつ、分析を加えていきます。

・伊藤計劃『ハーモニー』

* 日本 SF 大賞を受賞したユートピア小説『ハーモニー』は、近未来を舞台に人間存在と社会機構のあり方を批評した、SF という枠組みを大きく超えた大作です。本作に含まれるテーマを多重的に読み解いていきます。

・森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』

* 京都という空間を翻訳し、一つのフィクションとして提示した森見登美彦の代表作です。青春小説、恋愛小説としても優れています。原作の世界観を大胆にアニメに移し替えた湯浅政明監督の仕事に注目します。

・住野よる『君の膵臓をたべたい』

* 誰もが知るメガヒット作品ですが、有名作品であるがゆえに読み飛ばされてしまいがちな本作の根底にあるメッセージを、しっかりと把握しながら読み進めていきます。

・令丈ヒロ子『若おかみは小学生!』

* 唯一の児童文学作品です。2018 年に公開された劇場アニメーション作品の中で、三本の指に入るぐらいに優れた作品です。

【到達目標】

現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、議論の礎となる要素を抽出し、整理し、分析することができるようになります。さらに、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。アニメーション作品の一部を観賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示や叙述の方法や人物設定や物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、自分の言葉で批評を行う場所に立つことが求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	細田守監督『時をかける少女』を観る	映像化された「時かけ」の中でも、なぜ本作が秀逸な作品であるのかを考える

3	筒井康隆『時をかける少女』を読む	「時かけ」の原点となった短編小説を読み、本作品の物語フォーマットの可能性を析出する
4	新海誠監督『言の葉の庭』を観る	新海誠監督の映像美学と物語学を感得する
5	新海誠『言の葉の庭』を読む	セルフノベライズ作品としての『言の葉の庭』を読み、映像作品との違いを分析する
6	なかむらたかし&マイケル・アリアス監督『ハーモニー』を観る	映像作品ならではの演出に注意しながら作品を観賞する
7	伊藤計劃『ハーモニー』を読む	SF の枠組みを大きく超えた本作に含まれるテーマを、多重的な視点から読み解く
8	湯浅政明監督『夜は短し歩けよ乙女』を観る	作画や色彩表現、演出効果が本作の主題とどのようにかわりあっているのか考える
9	森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』を読む	連作短編という形式、語りの方と文体、登場人物や舞台などに注意しながら作者の文学の方法を理解する
10	牛嶋新一郎監督『君の膵臓をたべたい』を観る	キャラクターの描き方や、アニメーションならではの表現に留意しながら観賞する
11	住野よる『君の膵臓をたべたい』を読む	「ヒット作」であるがゆえに読み飛ばされてしまいがちな作品の本質を、しっかりと把握して読む
12	高坂希太郎監督『若おかみは小学生!』を観る	スタジオジブリ作品に関わってきた高坂監督による作品として評価し、考察する
13	令丈ヒロ子『若おかみは小学生!』を読む	児童文学作品としての本作の意義と意味について考える
14	レポート提出	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた映像作品は、自宅等でもう一度、観賞し読み直し、作品を理解するように努めてください。最終授業時に提出するレポート執筆の準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を行ってください。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う小説の単行本、または文庫本。

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストはありません。

レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。

専門科目ではないので、分かりやすい言葉で、分析と解説を行うように心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

We will contrast animated works based on contemporary Japanese literature of various genres with the original novels and interpret them from various perspectives and clarify the differences between written language and visual expressions. We will develop around the following six novel and animation works, and in some cases will refer to related or derivative works. Both novels and animations are products of some "intents". Every statement has its own meaning, and each cut and scene of the film has a performance intention of the director. Instead of just watching the film, we will be focusing on the details as we read.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. We will learn the pathways of broadening our thoughts from literature appreciation to literary analysis and to literary criticism.

LIT200LA

外国文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。音声や文字という記号の表現である文学と、直接感性に訴える音の連なりである音楽は、元来切っても切れない関係にあります。「詩」は「うたふ」ものであり、かつて物語は韻律をともしない楽器にのせて語られました。春学期では、オペラで最も人気の高い『カルメン』と『椿姫』を、原作を参照しつつ分析します。次にシェイクスピアの名高い『ロミオとジュリエット』を取り上げます。この作品は様々な作曲家により音楽化されています。さらにこの現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を觀賞しつつ、批評、分析する手法を身につけます。春学期に設定されたこの科目では、基礎として小論文の書き方を学びます。この授業を履修することで、報告、論述文を書く基礎的な力がつきます。また出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義の形をとりますが、教員が投げかける疑問に学生が考えて答えることが求められます。学生の側からの疑問の投げかけも歓迎されます。

また提出する小論文の題材は自分で選ぶので、常日ごろ自ら積極的に題材を探しておく必要があります。

『カルメン』や『椿姫』の原作を概観したうえで、オペラを鑑賞し、分析します。『ロミオとジュリエット』を概観し、鍵となる場面を詳しく検討します。そのうえで音楽家によるさまざまな作品を鑑賞し、分析します。さらに『ロミオとジュリエット』の現代への翻案として創られた『ウエストサイド物語』を、元ネタとのかかわりを含めて鑑賞し、分析します。時代も背景も異なる状況で書かれた物語にも、シェイクスピアの名高い作品の影が映っていることを見ます。

春学期では、いわゆる「芸術系」の「論文」「報告文」とはどのようなものか、どのようなものであるべきかも学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 運命の女その1： 『カルメン』1	プロスペル・メリメの小説『カルメン』
2	『カルメン』2	ジョルジュ・ピゼーのオペラ『カルメン』： 序曲と冒頭 「ハバナラ」 「ミカエラの歌」
3	『カルメン』3	「アルカラの竜騎兵」 歌手も踊る「鈴を打ち鳴らす」 「闘牛士の歌」
4	『カルメン』4	「行進曲」 最終場面
5	運命の女その2： 『椿姫』1	アレクサンドル・デュマ（息子）の小説と戯曲『椿姫』
6	『椿姫』2	ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ『椿姫』 序曲と冒頭 「乾杯の歌」
7	『椿姫』3	アルフレードの父とヴィオレッタ
8	『椿姫』4 芸術論の書き方	最終場面 小説と戯曲とオペラの比較 感想文と論文の違い／ 論文の書き方：構成、引用、参照

9	『ロミオとジュリエット』1	ウィリアム・シェイクスピアの戯曲： 映画版 冒頭とバルコニーの場面 決闘の場面 最終場面
10	『ロミオとジュリエット』2	セルゲイ・プロコフィエフのバレエ音楽 冒頭 「騎士たちの踊り」 (シンセサイザーなどによる ELP 版) バルコニーの場面
11	『ロミオとジュリエット』3	決闘の場面 最終場面
12	『ロミオとジュリエット』4	シャルル・グノーのオペラ： 冒頭とバルコニーの場面 決闘の場面 最終場面 現代への翻案 ジャズ的表現 『ロミオとジュリエット』との比較： 登場人物と設定の共通点と違い
13	『ウエストサイド物語』1	現代への翻案 ジャズ的表現 『ロミオとジュリエット』との比較： 登場人物と設定の共通点と違い 冒頭場面 Tonight America (The Nice による編曲)
14	『ウエストサイド物語』2	決闘場面 "Cool" 最終場面 永遠のテーマ 「作者」とは誰か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：メリメの小説を読む；第2回：メリメの小説を読む；第3回：ピゼーの『カルメン』を鑑賞する；第4回：デュマの『椿姫』を読む；第5回：ヴェルディの『椿姫』を鑑賞する；第6回：デュマの原作とヴェルディのオペラを比べる；第7回：シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を読む；第8回：プロコフィエフについて調べる；第9回：グノーについて調べる；第10回：著作権について調べる；第11回：課題の論文について考える；第12回：『ウエストサイド物語』を鑑賞する；第13回：『ロミオとジュリエット』と『ウエストサイド物語』の共通点と相違点を挙げる第14回：小論文を書く
常日頃から小論文の題材を探して吟味しておくことが大切です。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。
プリントを配ります

【参考書】

【参考書 / References】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603。
『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A
他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業で行った小論文の書き方に沿って、学期末に小論文を書いて提出していただきます。これを主な材料として（80%-95%）評価します。授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べるのが大切です。授業への参加状況（発言や質問など）をも考慮して成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では作品の一部をコマ切れに見せられたが、通して鑑賞したいという声をいただきました。確かにオペラなどはDVDやブルーレイディスクでも自分で買って見ることが難しいかもしれませんが、時間の限度もありますが、できるだけ多くの場面を見ることができるとしたいと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with occidental literature, especially works adapted for music. Literature, which expresses its objects by signs, and music, which appeals to sentiments by sequences of sounds, are closely related to each other. Stories were once sung accompanied by musical instruments.

The works dealt with during the spring term will be:

"Carmen", "Lady of the camellias" (opera); "Romeo and Juliette" (movie, ballet, opera), "West Side Story" (musical).

LIT200LA

外国文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。春学期では、男女の愛のさまざまな成り行きを扱った作品を取り上げましたが、秋学期では、社会状況における人間関係を取り上げます。モーツァルトとサリエリのライヴァル関係を描いた演劇および映画『アマデウス』を軸に、モーツァルトの『フィガロの結婚』、『ドン・ジョヴァンニ』、サリエリの『タラール』といったオペラ、モリエールの『ドン・ジュアン』、ボーマルシェの『フィガロの結婚』などの戯曲を分析します。その次に、ミュージカルとして人気を博しているユーゴー原作の『レ・ミゼラブル』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、さらには批評、分析する手法を身につけます。この授業を履修することで、報告、論述文を書く基礎的な力がつきます。また出版、メディア、教育などの分野で働くための基礎的な知識を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義の形をとりますが、教員が投げかける疑問に学生が考えて答えることが求められます。学生の側からの疑問の投げかけも歓迎されます。

また平日頃、提出する小論文の題材を積極的に探しておくことが必要です。秋学期には、イギリスの劇作家ピーター・シェファールの『アマデウス』を軸に、その中に登場するヨーロッパの 17 世紀から 18 世紀の文学作品、またそれにちなむ音楽作品を扱います。『アマデウス』は作者自身が脚色して映画化されて多くの人々に評価されたので、知っている方も多いでしょう。まず、この作品の概要を見渡し、それからこの作品の中に登場する音楽、その原作となった文学作品を概観し、分析します。分析の方法論も学びます。学生の皆さんには討論や分析を実践していただきます。

『レ・ミゼラブル』は 19 世紀のフランスの小説家、詩人、劇作家であったヴィクトル・ユーゴーの原作ですが、英語によるミュージカルで今では人気を博しています。愛と勇気、人間性という普遍的なテーマを扱いつつ、当時の時代背景を描くこの作品を、他の様々な映画版なども比べながら、その人気の理由を分析します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『アマデウス』とは	演劇と映画；「神に愛された者」の物語
2	『アマデウス』 衝撃の出会い	モーツァルトとサリエリのライヴァル関係 戯曲と映画
3	『フィガロの結婚』1	ボーマルシェの戯曲：政治的な意味合い ダ・ボンテの台本とモーツァルトのオペラ： 序曲と冒頭
4	『フィガロの結婚』2	ケルビーノというトリックスター： 「自分で自分がわからない」 「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 映画『アマデウス』におけるサリエリの行進曲の変奏
5	『フィガロの結婚』3	第 2 幕の最終場面の 7 重唱 結婚式の場面 第 4 幕のどんでん返し 最終場面
6	『タラール』	ボーマルシェが台本を書いたサリエリのオペラは当時のお手本オペラ

7	ドン・ファン伝説 モリエールの『ドン・ジュアン』1	女たらしの伝説 無神論の誘惑者？ モリエールの演劇：フランス古典主義の時代 冒頭 貧者との対話の場面 騎士隊長の像 亡霊 晩餐 最終場面
8	『ドン・ジュアン』2	ダ・ボンテの台本とモーツァルトのオペラ：序曲 女のリスト 村の娘の誘惑 騎士隊長の像
9	オペラ『ドン・ジョヴァンニ』1	晩餐 最終場面のさまざまな演出： 映画『アマデウス』版 フルトヴェングラー版 ジョセフ・ローゼン版 精神分析：科学か 20 世紀の骨相学か 『アマデウス』の最終場面
10	『ドン・ジョヴァンニ』2	ヴィクトル・ユーゴー：ロマン主義運動の総帥 小説『レ・ミゼラブル』
11	『ドン・ジョヴァンニ』3 再び『アマデウス』	ミュージカル： ジャン・ヴァルジャン とジャヴェール コゼットとマリウス エポニヌこそヒロイン？ 英語によるミュージカルということ 他の英語による映画、フランス語によるドラマなど
12	『レ・ミゼラブル』1	
13	『レ・ミゼラブル』2	
14	『レ・ミゼラブル』3	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：『アマデウス』を鑑賞する；第 2 回：モーツァルトに関して調べる；第 3 回：ボーマルシェに関して調べる；第 4 回、第 5 回：『フィガロの結婚』を読む；第 6 回：『フィガロの結婚』を鑑賞する；第 7 回、第 8 回：サリエリについて調べる；第 9 回：ドン・ファンの伝説について調べる；第 10 回：モリエールについて調べる；第 11 回：『ドン・ジュアン』を読む；第 12 回、第 13 回：『ドン・ジョヴァンニ』を鑑賞する；第 14 回：小論文を書く平日ごろから、提出すべき小論文の題材を探して調べておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。プリントを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603。
『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A
他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業で行った小論文の書き方に沿って、学期末に小論文を書いて提出していただきます。これを主な材料として（80%-95%）評価します。授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べるのが大切です。授業への参加状況（発言や質問など）をも考慮して成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

せっかくのオペラなのだから、コマ切れでなく通して鑑賞したいという声をいただきました。確かに映画と異なり、DVD やブルーレイディスクでも買ったり借りたりするのが難しいオペラは個人では鑑賞しにくいかもしれません。時間の限度もありますが、できるだけ多くの場面を見ることができるようになりたいと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with occidental literature, especially works adapted for music. Literature, which expresses its objects by signs, and music, which appeals to sentiments by sequences of sounds, are closely related to each other. Stories were once sung accompanied by musical instruments.

The works dealt with during the fall term will be: "The Marriage of Figaro", "Tarare", "Don Giovanni" (opera works presented in Peter Shaffer's "Amadeus", which will be also treated in this course); "Les Misérables" (musical).

LIT200LA

外国文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：漢詩を作る

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者にも漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。春学期の授業では主に春から夏にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それによって漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から3回ほどを使って、漢詩の歴史、詩形の種類、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	歳時詩について、近体詩の規則①/梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、詩形の種類の説明。「歳時詩」「二十四節気」「七十二候」の説明。正岡子規「閑子規」を例に作詩法を解説/林逋「山園小梅」など
第2回	近体詩の規則②/桜の詩鑑賞	平仄図式・押韻の説明。二四不同二六対、反法・粘法の説明/藤井竹外「芳野」など
第3回	近体詩の格律③/春遊の詩鑑賞	いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）について/杜牧「江南春」、永井荷風「墨上春遊」など/実作（七言一句を作る）
第4回	晩春の詩鑑賞/実作指導	白居易「三月三十日題慈恩寺」、呉錫麒「送春」など/実作
第5回	ほととぎすの詩鑑賞/実作指導	杜甫「子規」、嵯峨波響「聞鶉」など/実作
第6回	牡丹の詩鑑賞/実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」など/実作
第7回	薔薇・石榴の詩鑑賞/実作指導	高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」など/実作
第8回	山行の詩鑑賞/実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」など/実作
第9回	梅雨の詩鑑賞/実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」など/実作
第10回	蓮の花の詩鑑賞/実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」など/実作
第11回	螢・蟬・蚊・蚊の詩鑑賞/実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」など/実作
第12回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞/実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」など/実作
第13回	夕立の詩鑑賞/実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」など/実作
第14回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞/実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」など/実作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩のアンソロジーを読み、漢詩に親しむ。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）70%
最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems.

LIT200LA

外国文学と文化 L D

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：漢詩を作る

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者には漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。秋学期の授業では主に秋から冬にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から3回ほどを使って、漢詩の歴史、詩形の種類、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩をできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	歳時詩について、近体詩の規則①/初秋の詩鑑賞	漢詩の歴史、詩形の種類の説明。「歳時詩」「二十四節気」「七十二候」の説明。平仄図式・押韻の説明/劉禹錫「秋風引」など
第2回	近体詩の規則②/七夕の詩鑑賞	二四不同二六対、反法・粘法の説明/杜牧「秋夕」、直江兼統「織女惜別」など
第3回	近体詩の規則③/月の詩鑑賞	いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）の説明/白居易「八月十五日夜禁中獨直對月憶元九」など/実作（七言一句を作る）
第4回	重陽・菊の詩鑑賞/実作指導	王維「九月九日憶山東兄弟」、毛沢東「采桑子」など/実作
第5回	十三夜の詩鑑賞/実作指導	上杉謙信「九月十三夜」、荻生徂徠「還館作」など/実作
第6回	紅葉の詩鑑賞/実作指導	杜牧「山行」、頼山陽「通天橋」など/実作
第7回	雁の詩鑑賞/実作指導	庾信「秋夜望單飛雁」、韋応物「聞雁」など/実作
第8回	冬の生活の詩鑑賞/実作指導	蘇東坡「贈劉景文」、楊万里「寒雀」、六如「霜曉」など/実作
第9回	つばき・さざんかの詩鑑賞/実作指導	蘇東坡「山茶」、惲格「歲寒図」など/実作
第10回	雪の詩鑑賞/実作指導	柳宗元「江雪」、菅茶山「冬夜讀書」、溝口桂巖「長命晴雪」など/実作
第11回	氷・霜の詩鑑賞/実作指導	藤井竹外「冬夜下澗江」、温庭筠「商山早行」など/実作
第12回	冬至の詩鑑賞/実作指導	白居易「邯鄲冬至夜思家」、山田方谷「戊申至日宴集分韻」など/実作
第13回	歳末の詩鑑賞/実作指導	高適「除夜作」、柏木如亭「除夜」など/実作
第14回	新年の詩鑑賞/実作指導	張説「幽州新歲作」、菊池五山「新年雜述」など/実作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩のアンソロジーを読み、漢詩に親しむ。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
 石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
 鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
 前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
 村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
 目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
 山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
 猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
 石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）70%
 最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems.

LIT200LA

外国文学と文化 L E

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ（1）

大崎 さやの

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。日本では比較的馴染みが薄いオペラですが、特にイタリア・オペラはありふれた内容のものが多く、肩肘張って見るような難しいものではなく、楽しみながらヨーロッパ文化の神髄であるオペラに親しんでいきましょう。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オペラの誕生したルネサンスから 18 世紀までのオペラを講義形式で扱います。プリントの他、DVD やビデオ等の視聴覚教材を用います。また適宜、課題を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	イントロダクション	イタリア概説
②	ルネサンスの舞台芸術	宮廷演劇とルネサンスの劇場
③	ルネサンスの舞台芸術	コンメディア・デッラルテとマドリガル・コメディ
④	オペラの誕生（1）	カメラータ・フィレンティナーナとオペラの誕生
⑤	オペラの誕生（2）	モンテヴェルディ作曲のオペラ（1）
⑥	バロック・オペラ（1）	ヘンデル作曲のオペラ（1）
⑦	バロック・オペラ（2）	ヘンデル作曲のオペラ（2）
⑧	バロック・オペラ（3）	ヘンデル作曲のオペラ（3）
⑨	オペラ・セーリアとオペラ改革（1）	グルック作曲のオペラ（1）
⑩	オペラ・セーリアとオペラ改革（2）	グルック作曲のオペラ（2）
⑪	オペラ・ブッフアについて	ガルツィ、ハイドン作曲のオペラほか
⑫	古典派オペラ（1）	モーツァルト作曲のオペラ（1）
⑬	古典派オペラ（2）	モーツァルト作曲のオペラ（2）
⑭	古典派オペラ（3）	モーツァルト作曲のオペラ（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指示します。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出も含む）50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がけます。

【Outline and objectives】
Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

LIT200LA

外国文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ（2）

大崎 さやの

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。外国文学と文化 F では、春学期の外国文学と文化 E に引き続き、19 世紀から 20 世紀にかけての爛熟期のイタリア・オペラを扱います。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。プリントの他、DVD やビデオ等の視聴覚教材を用います。また適宜、課題を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ロマン派オペラ（1）	ロッシーニ作曲のオペラ（1）
②	ロマン派オペラ（2）	ロッシーニ作曲のオペラ（2）
③	ロマン派オペラ（3）	ドニゼッティ作曲のオペラ（1）
④	ロマン派オペラ（4）	ドニゼッティ作曲のオペラ（2）
⑤	ロマン派オペラ（5）	ベッリーニ作曲のオペラ
⑥	ロマン派オペラ（6）	ヴェルディ作曲のオペラ（1）
⑦	ロマン派オペラ（7）	ヴェルディ作曲のオペラ（2）
⑧	ロマン派オペラ（8）	ヴェルディ作曲のオペラ（3）
⑨	ロマン派オペラ（9）	ヴェルディ作曲のオペラ（4）
⑩	ロマン派オペラ（10）	ヴェルディ作曲のオペラ（5）
⑪	ヴェリズモ・オペラ	マスカーニ作曲のオペラ
⑫	世紀末から 20 世紀にかけてのオペラ（1）	ブッチェリ作曲のオペラ（1）
⑬	世紀末から 20 世紀にかけてのオペラ（2）	ブッチェリ作曲のオペラ（2）
⑭	世紀末から 20 世紀にかけてのオペラ（3）	ブッチェリ作曲のオペラ（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指示します。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出も含む）50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業を心がけます。

【Outline and objectives】
Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

LIT200LA

文学と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

リベラル担当者未定

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

LIT200LA

文学と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

リベラル担当者未定

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

LIT200LA

文学と社会 L C

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：江戸の印刷・出版物

白戸 満喜子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

【到達目標】

江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。

くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『御存商売物』という江戸時代の印刷・出版物を人物になぞらえた作品を通読しながら講義を行います。

あわせて作品の中に登場人物として描かれている印刷・出版物を読解する演習形式を取り入れます。

意匠絵本（デザイン集）・暦など、簡単な読み物の翻字（くずし字を現代仮名遣いにすること）の仕方を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・江戸時代の文学について ・テキスト『御存商売物』について ・外国人から見た江戸
2	テキスト『御存商売物』の解説	・日本の書物 ・江戸後期の文学作品 ・江戸の出版
3	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の紋様 ・大坂と江戸
4	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の人気小説 ・江戸の食べ物
5	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の絵画 ・江戸時代までの紙 ・江戸の流行歌
6	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・「見立（みたて）」という表現 ・小道具と物語の関係 ・絵と文の関係を読み取る
7	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の慣習 ・江戸の街並み
8	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の繁華街「吉原」 ・浮世絵と鑑賞の基礎知識
9	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・現在と異なる暦 ・江戸の教養を支えた書物
10	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の土産物 ・江戸時代の夫婦喧嘩
11	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の占い ・江戸のおまじない
12	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の学問書 ・江戸時代の情報伝達
13	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸時代の流行り廃り ・江戸の刑罰
14	授業のまとめ	・江戸時代の豊かな出版文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に随時、レポートに関する情報を話しますので、その情報を参考にしながら江戸に関する知識を広げて下さい。

くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布します

【参考書】

くずし字読解のための参考文献は以下の 2 冊ですが、読解に必要なプリントは別途授業中に配布します。

・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

レポート 40 % 筆記試験（最後の授業時に一回）40 % 平常点（授業への参加・発言）20 % として評価します。

詳細は開講時にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校までは学んでこなかった、非常に興味深い内容だった」という感想が寄せられています。古典文学でもなく、現在の小説とも異なる、江戸の大人の娯楽と教養を『御存商売物』という作品を通じて楽しんで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 OHC を使用。DVD を数回使用予定。

【Outline and objectives】

In this class, we read through the literary work "Gozonji-noshobaimono" in the Edo Period. Through the work we can touch on the diversity of Edo's publishing culture. You will experience Edo by actually reading and listening to various media that people were living in in the region & the era of Edo. Sometimes you can listen the audible media.

LIT200LA

文学と社会 L D

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：江戸の見立絵本を解き明かす

白戸 満喜子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

くずし字で書かれた【見立絵本】『滑稽絵姿合』のオリジナル（原典）を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。見立とは、江戸時代の演劇・俳諧・絵画などに共通する趣向で、一見関連性のない二つのものを組み合わせ、そのギャップを楽しむ手法です。江戸の文学作品における連想力を読み説き、歴史的背景を探ることが目的です。

【到達目標】

くずし字で書かれた文章（ひらかなの部分）を判読し、どのような見立が扱われているか解釈することが各受講生の目標です。各自の担当部分について、漢字以外を翻訳すること、①何が共通点か②何が対比になっているかについて考察し、総合的にテキスト全体を理解することが目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめは使用するテキストに関する講義を行い、テキストを受講生全員で分割担当します。

全10話を、それぞれの担当部分について発表担当者から翻訳および語釈を順番に発表してもらいます。

他の受講生は担当者の発表に基づいて考察を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション くずし字読解の方法と解釈	テキスト『滑稽絵姿合』についての説と発表順番決定 調べ方案内
2	テキスト『滑稽絵姿合』の構成と趣向について解説	テキストに関する講義
3	テキスト『滑稽絵姿合』序文と跋文	テキストの翻訳・解釈の具体的な方法について
4	受講者による発表1	担当者による発表
5	受講者による発表2	担当者による発表
6	受講者による発表3	担当者による発表
7	受講者による発表4	担当者による発表
8	受講者による発表5	担当者による発表
9	受講者による発表6	担当者による発表
10	受講者による発表7	担当者による発表
11	受講者による発表8	担当者による発表
12	受講者による発表9	担当者による発表
13	受講者による発表10	担当者による発表
14	テキスト『滑稽絵姿合』のまとめ	教員による全体の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生全員に担当が割り振られますから、担当部分に関する翻訳（平仮名のみ）ができるよう自習して下さい。

解釈に必要な資料の検索・利用方法については、授業中にデモンストレーションを実施する。

翻訳や発表について不明な点は毎回の授業前後に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】

初回授業でプリントを配布します。

【参考書】

くずし字を読むための参考文献は以下の2冊ですが、読解用のプリントは別途授業中に配布します。

・笠間影印義刊行会『字典かな』笠間書院

・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

語釈・解釈に必要な参考文献や図書館でのデータベースを利用した検索方法などを2回目の授業で案内します。

【成績評価の方法と基準】

発表時の内容 30 % レポート 40 % 平常点（授業への参加・発言） 30 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「江戸時代の文字を翻訳すること、内容を読み解くこと、どちらも謎解きのように楽しかった」という感想が寄せられています。

くずし字の読解は、昔の日本人たちと時空を越えたコミュニケーションをするようなもの。

語学習得に似ているものの、ひと味異なる独特の達成感を味わって下さい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 OHC を使用。数回 DVD を使用

【その他の重要事項】

関連する部分があるので文学と社会 LC（文学 I）を履修していることが望ましいが、前向きな性格・柔軟な思考・気合などのうちどれかがあれば秋学期のみの履修も可能。

【Outline and objectives】

In this class, we read the original book of "Kokkei esugata awase" written in the era of Edo, and interpret it. Mitigation is a common taste for the theater, Haiku, painting, etc. in the Edo period. This technique that combines two seemingly unrelated searches the gap. The purpose is to read the associative power of literary works of Edo and explore the historical background.

LIT200LA

文学と社会 L E

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはず。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第 3 回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第 4 回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。
第 5 回	近代文学の誕生②	言文一致形成の全体像を確認する。
第 6 回	近代文学の誕生③	言文一致形成の初期（明治 10 から 20 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第 7 回	近代文学の誕生④	言文一致形成の後期（明治 30 から 40 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第 8 回	文学史第 1 期（明治 20～40 年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第 9 回	文学史第 2 期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第 10 回	文学史第 3 期（1920 年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第 11 回	文学史第 3 期（1920 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 12 回	文学史第 4 期（1930 年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第 13 回	文学史第 4 期（1930 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 14 回	まとめ	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。
第 15 回	試験	論述。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人は TSUTAYA の棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかっているはず。AKB48 のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはず。文学も同じです。

小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の 3 冊を読み比べてみてください。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるのであればプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline and objectives】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.

How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

LIT200LA

文学と社会 L F

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということ考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

【到達目標】

これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第 3 回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第 4 回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 5 回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 6 回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 7 回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第 8 回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。
第 9 回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。
第 10 回	差別表現と規制③	戦後の日本における差別の歴史を振り返る。
第 11 回	差別表現と規制④	差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現を考える。
第 12 回	差別表現と規制⑤	最近話題になる嫌韓・嫌中の「ヘイトスピーチ」について考察する。
第 13 回	まとめ	これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性をにも言及したい。
第 14 回	試験	論述。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨今話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は期末試験が 70 %、平常点を 30 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなる箇所ではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

2016 年度は、映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline and objectives】

The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups. Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.

On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.

LIT200LA

日本文学と文化 L G

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品（場合によってはその一部）を觀賞した上で、原作の小説を講読します。2018 年に劇場公開された以下の作品から厳選して、6 作品をとりあげる予定です（作品の配列は劇場公開日順）。同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深め、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。

中村文則『悪と仮面のルール』（中村哲平監督）
東野圭吾『祈りの幕が下りる時』（福澤克雄監督）
中村文則『去年の冬、きみと別れ』（瀧本智行監督）
石田衣良『娼年』（三浦大輔監督）
東野圭吾『ラプラスの魔女』（三池崇史監督）
薬丸岳『友罪』（瀬々敬久監督）
宮下奈都『羊と鋼の森』（橋本光二郎監督）
池井戸潤『空飛ぶタイヤ』（本木克英監督）
町田康『パンク侍、斬られて候』（石井岳龍監督）
森見登美彦『ペンギン・ハイウェイ』（石田祐康監督）
柴崎友香『寝ても覚めても』（濱口竜介監督）
川口俊和『コーヒーが冷めないうちに』（塚原あゆ子監督）
山内マリコ『ここは退屈屋にきて』（廣木隆一監督）
有川浩『旅猫リポート』（三木康一郎監督）
三上延『ピブリア古書堂の事件手帖』（三島有紀子監督）
本谷有希子『生きてるだけで、愛。』（関根光才）
東野圭吾『人魚の眠る家』（堤幸彦監督）
中村文則『銃』（武正晴監督）
*劇場公開順。本リストの中からセレクトします。

【到達目標】

現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、議論の礎となる要素を抽出し、整理し、分析することができるようになります。さらに、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。映画の一部を觀賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示や叙述の方法や人物設定や物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、自分の言葉で批評を行う場所に立つことが求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	映画観賞 (1)	原作の映画鑑賞
3	原作小説の講読 (1)	小説の講読&分析&考察
4	映画観賞 (2)	原作の映画鑑賞
5	原作小説の講読 (2)	小説の講読&分析&考察
6	映画観賞 (3)	原作の映画鑑賞
7	原作小説の講読 (3)	小説の講読&分析&考察
8	映画観賞 (4)	原作の映画鑑賞
9	原作小説の講読 (4)	小説の講読&分析&考察
10	映画観賞 (5)	原作の映画鑑賞
11	原作小説の講読 (5)	小説の講読&分析&考察
12	映画観賞 (6)	原作の映画鑑賞
13	原作小説の講読 (6)	小説の講読&分析&考察
14	レポート提出	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた映像作品は、自宅等でもう一度、觀賞し読み直し、作品を理解するように努めてください。

最終授業時に提出するレポート執筆の準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を行ってください。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う小説の単行本、または文庫本。

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。
必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。
試験や小テストはありません。

レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。
専門科目ではないので、分かりやすい言葉で、分析と解説を行うように心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

We will read through the original novels after watching animated films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following six titles after carefully selecting from the works released in 2018.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. We aim to acquire the ability to read novels from the perspective of "what literature-specific expressions are."

LIT200LA

日本文学と文化 L H

2017 年度以降入学者

LIT200LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：現代日本文学とアニメーション

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なジャンルの現代日本文学を原作とするアニメーション作品を、原作小説と対照させつつ、多様な視点から解説するとともに、言語表現と映像表現の違いを明らかにしていきます。以下の 6 作品を軸に展開し、場合によっては関連作品や派生作品にも言及します。小説もアニメーションも「作為」の産物です。すべての叙述には意味があり、各カットやシーンには制作者の演出意図がこめられています。作品をただ観賞するのではなく、細部に注目した読みとりを行っていきます。

同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深め、「文学固有の表現とは何なのか？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。作品鑑賞を、作品分析、作品批評へと広げていくための思考の道筋を学びます。

・筒井康隆『時をかける少女』

* 短編ジュブナイル小説としての『時かけ』の物語フォーマットが、様々なクリエイターによって映像化されてきた歴史を振り返りながら、細田守監督によるアニメ『時をかける少女』について考えます。

・新海誠『言の葉の庭』

* 『言の葉の庭』は、厳密な意味では小説を原作としたアニメーション作品ではありませんが、新海誠の文学性を感じることができる純文学アニメとも言えます。新作『天気の子』にも言及しつつ、分析を加えていきます。

・伊藤計劃『ハーモニー』

* 日本 SF 大賞を受賞したユートピア小説『ハーモニー』は、近未来を舞台に人間存在と社会機構のあり方を批評した、SF という枠組みを大きく超えた大作です。本作に含まれるテーマを多重的に読み解いていきます。

・森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』

* 京都という空間を翻訳し、一つのフィクションとして提示した森見登美彦の代表作です。青春小説、恋愛小説としても優れています。原作の世界観を大胆にアニメに移し替えた湯浅政明監督の仕事に注目します。

・住野よる『君の膵臓をたべたい』

* 誰もが知るメガヒット作品ですが、有名作品であるがゆえに読み飛ばされてしまいがちな本作の根底にあるメッセージを、しっかりと把握しながら読み進めていきます。

・令丈ヒロ子『若おかみは小学生!』

* 唯一の児童文学作品です。2018 年に公開された劇場アニメーション作品の中で、三本の指に入るぐらいに優れた作品です。

【到達目標】

現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、議論の礎となる要素を抽出し、整理し、分析することができるようになります。さらに、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、歴史などの問題について考える力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。アニメーション作品の一部を観賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示や叙述の方法や人物設定や物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、自分の言葉で批評を行う場所に立つことが求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取りあげる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	細田守監督『時をかける少女』を観る	映像化された「時かけ」の中でも、なぜ本作が秀逸な作品であるのかを考える

3	筒井康隆『時をかける少女』を読む	「時かけ」の原点となった短編小説を読み、本作品の物語フォーマットの可能性を析出する
4	新海誠監督『言の葉の庭』を観る	新海誠監督の映像美学と物語学を感得する
5	新海誠『言の葉の庭』を読む	セルフノベライズ作品としての『言の葉の庭』を読み、映像作品との違いを分析する
6	なかむらたかし&マイケル・アリアス監督『ハーモニー』を観る	映像作品ならではの演出に注意しながら作品を観賞する
7	伊藤計劃『ハーモニー』を読む	SF の枠組みを大きく超えた本作に含まれるテーマを、多重的な視点から読み解く
8	湯浅政明監督『夜は短し歩けよ乙女』を観る	作画や色彩表現、演出効果が本作の主題とどのようにかわりあっているのか考える
9	森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』を読む	連作短編という形式、語りの方と文体、登場人物や舞台などに注意しながら作者の文学の方法を理解する
10	牛嶋新一郎監督『君の膵臓をたべたい』を観る	キャラクターの描き方や、アニメーションならではの表現に留意しながら観賞する
11	住野よる『君の膵臓をたべたい』を読む	「ヒット作」であるがゆえに読み飛ばされてしまいがちな作品の本質を、しっかりと把握して読む
12	高坂希太郎監督『若おかみは小学生!』を観る	スタジオジブリ作品に関わってきた高坂監督による作品として評価し、考察する
13	令丈ヒロ子『若おかみは小学生!』を読む	児童文学作品としての本作の意義と意味について考える
14	レポート提出	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた映像作品は、自宅等でもう一度、観賞し読み直し、作品を理解するように努めてください。最終授業時に提出するレポート執筆の準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を行ってください。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う小説の単行本、または文庫本。

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストはありません。

レポートは最終授業時に提出となります。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。

専門科目ではないので、分かりやすい言葉で、分析と解説を行うように心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

We will contrast animated works based on contemporary Japanese literature of various genres with the original novels and interpret them from various perspectives and clarify the differences between written language and visual expressions. We will develop around the following six novel and animation works, and in some cases will refer to related or derivative works. Both novels and animations are products of some "intents". Every statement has its own meaning, and each cut and scene of the film has a performance intention of the director. Instead of just watching the film, we will be focusing on the details as we read.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. We will learn the pathways of broadening our thoughts from literature appreciation to literary analysis and to literary criticism.

LIN200LA

音声学Ⅰ

2017年度以降入学者

LIN200LA

言語学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：一般音声学入門

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野のことを「言語学」と称します。

この「言語」の表現面の「音声」を扱う分野を「音韻論」と称します。「音韻論」は言語の音声の形式面を対象とします。これのに対して、言語の音声の実質面を扱うのが「音声学」です。つまり「音声学」は、この言語の表現面である音声の実質を対象とする経験科学です。

この授業では、言語音（「単音」）の記述方法および記述された記号の実現化（再現つまり実際に発音できるようになること）を授業内容とします。

【到達目標】

この授業では、「音声学」の記述方法であるIPAの方法論的な考え方を身につけ、IPAを音声化したり、実際の音声をIPAによって記述するための基礎的な技能を訓練することを目的とします。

補足として、音声の形式面である「音韻論」（「音素論」）にも触れます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず「言語学」は言語をどういふものとして見ているかを概説し、表現面の形式である「音韻」が実質である「音声」によって実現されているという発想に慣れ、実践的な訓練に入ります。具体的には、人間の発声器官の呼称を確認し、個々の単音について母音と子音に分けて調音の方法および聞き取り、記述について詳述しながら発音指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1	教材の配布 言語とは 音声とは
2	導入 2	どこでどのように発音するか
3	調音（発音器官）	
4	発音記号（音声記号）	音声記述の方法
5	母音	聞き取ってみる 調音してみる
	ダニエル・ジョーンズ の基本母音を中心に閉鎖音・鼻濁音	
6	子音	聞き取ってみる
	閉鎖音（破裂音）	調音してみる
	摩擦音 1	
7	子音	聞き取ってみる
	摩擦音 2	調音してみる
8	子音	聞き取ってみる
	その他	調音してみる
	子音のまとめ	
9	韻律的問題	アクセント イントネーション (プロソディー)
10	「音声学」試験	「音声学」の概念に関する理解
11	「音韻論（音素論）」	音素とは何か 対立について
12	日本語の形態音韻変化 1	「転音」について
13	日本語の形態音韻変化 2	「連濁」について
14	最終試験	実施試験（音声の再現）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声学はスポーツと同じです。いくら水泳の仕方や自転車の乗り方を詳しく教わって、浮力や水流、足の漕ぎ方やバランスのとり方等を頭で理解したとしても、泳げるわけもないし自転車に乗れるわけでもありません。

できない発音があっても、訓練すればだれでもできるようになります。できないのはやる気がないからだけです。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。発音器官の図とIPAの表は、最初の授業時間に配布します。

【参考書】

聞いて発音してみる授業ですが、読んで理解したい学生のためにふさわしい参考書を紹介・指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、(理論)試験の得点30点、(実施)試験の得点30点、合計100点で評価します。

ただし、必要に応じてレポートを課すことがあります。その場合はそのレポートも評価に反映します。

【学生の意見等からの気づき】

2018年度に受講した学生は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・中国語・沖縄方言等の履修をしていたが、異口同音に「発音」について理解が深まったと感想を述べています。

「(一般)音声学」をマスターすれば、世界のあらゆる言語の音声について自信が持てるようになります。

【Outline and objectives】

There are two aspects in language. The first is a aspect of "form", the essence of language. The second is a aspect of "substance". The aspect of "substance" is the sound use for language, human voice for language. The field treats human voice for language is "Phonetics".

The title of this class is "Phonetics". The purpose of this class is to master what is IPA, and how use the this symbol.

PHL200LA

哲学ⅠⅠ

2017年度以降入学者

PHL200LA

哲学Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

法文営国環キ 1～4年

[Outline and objectives]

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。

特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や20世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン (1)	「イデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン (2)	『饗宴』 アリストファネスの話
4	プラトン (3)	『饗宴』 ソクラテスの話
5	西田幾多郎 (1)	『善の研究』 - 『知即愛』の命題
6	西田幾多郎 (2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎 (1)	『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	和辻哲郎 (2)	「矛盾的统一」としての人間存在
9	和辻哲郎 (3)	『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎 (4)	主体としての風土
11	ブーバー (1)	『我と汝』
12	ブーバー (2)	「汝」としての世界
13	ブーバー (3)	「本質行為」としての人間
14	まとめ	ふりかえりと試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝』対話

復習として、講義の内容をノートで整理すること。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験 100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

PHL200LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

哲学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

法文営国環キ 1～4年

【Outline and objectives】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司	生命的自然観－自己形成的存在論の萌芽として
3	その2	今西錦司『生物の世界』を読む
4	アリストテレス	自己形成的存在論としての形而上学
5	その2	アリストテレス『形而上学』を読む
6	自己形成的存在論の展開としての近代哲学	近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルトの近代的自然観	近代的主体二元論とは？
8	デカルト(2)	『省察』を読む
9	デカルト(3)	デカルトの機械論的自然観-「近代的分裂」の予告としての近代的主体二元論
10	「近代的分裂」の予告としての近代的主体二元論	近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル(2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル(3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル(4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、講義の内容をノートで整理すること。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験 100% で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

PHL200LA

哲学ⅠⅠ

2017年度以降入学者

PHL200LA

哲学Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことはない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

【到達目標】

学生は、まずは哲学のオーソドックスな基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上で、基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大な信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

哲学（Ⅰ）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。毎回の学生のコメントや質問に丁寧に答えて、わかりやすい授業を目指す。出席を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	Ⅰ. 哲学とは何か 1	「哲学」の語の由来、成立、原義
3	哲学の語の用例と変遷	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の出発点 1	無知の自覚
5	哲学の出発点 2	ソクラテスの無知の自覚と愛知
6	哲学の出発点 3	その他、懐疑、驚き、絶望…
7	哲学の目指すところ	愛についての考察、イデア論とプラトニック・ラブ
8	愛の3つの対象と哲学	愛の3つの対象と知への愛
9	知についての考察	知についての考察。哲学と学問知
10	Ⅱ. 哲学と科学 1	対象の違い 部分と全体、本質と現象
11	哲学と科学 2	方法の違い 仮説と真理、分析と反省
12	哲学と科学 3	事実と価値、目的と手段、主体知と客観知
13	哲学と科学 4	主体知と客観知
14	前期まとめ	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、下記の参考書を何冊か読むこと。

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房
『哲学の歴史』1～5、中央公論新社
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と学期末試験（60%）によって評価する。試験は、手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しくするという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。授業中の私語と板書の写メ、スマホは禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL200LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

哲学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教という嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。

宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探究する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というものについて、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つけようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」と「知る」との緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いての講義形式で進めます。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントやDVDなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。

毎回の学生のコメントや質問に丁寧に答えて、分かりやすい授業を目指します。出席を重視します。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か。哲学と科学と宗教
2	Ⅲ. 哲学と宗教	信の立場と知の立場
3	ユダヤ教の歴史	ユダヤ教の歴史と旧約聖書
4	聖書はいつ書かれたか	旧約聖書とメソポタミア文明
5	キリスト教の成立	イエスとキリスト教の教義化
6	ギリシア哲学とキリスト教	知と信の関係 ギリシア哲学とキリスト教
7	現代における宗教の意義	理性の時代、デカルトと近代哲学
8	宗教の存在理由	バスキルにおける人間の条件
9	哲学と宗教の立場	アウグスティヌスの自由意志と悪の問題。哲学の可能性
10	Ⅵ. 哲学と幸福	幸福になるには～哲学の勧め
11	幸福と知	ソクラテスのパラドクス、アクラシアーの否定
12	幸福とは	ソクラテス・プラトンの幸福論
13	幸福論の歴史	ソクラテスの後継者たち、禁欲主義と快樂主義
14	後期まとめ	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、下記の参考書を何冊か読むこと。

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。授業中の私語と板書の写メ、スマホは禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL200LA

倫理学ⅠⅠ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：ケアと正義のグローバル倫理（Ⅰ）

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「ケアとは何か」という問いから、「誰が誰をケアするのか」、さらに「グローバル・エシックスにおけるケア倫理学とは何か」という問いへとシフトしながら、様々な角度から「ケアの倫理」を考察する。

「ケアの倫理」の重要概念として、倫理学における「ケア」概念を検討する。その際に、自己と他者、自己へのケア・他者へのケアという観点から、「ケアの倫理」の基礎を学んでいく。その流れのなかで、「グローバル正義とケアの倫理」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比、さらには「グローバル正義とケアの倫理」への進展を検討することにした。特に、「愛とケア」に重点を置いて「ケアの倫理」を考えていく。新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

《授業の目的》

「ケアと正義のグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性的の問題を哲学的・倫理的に分析する力を得ることができる。

【到達目標】

- (1) 「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2) 「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理」との異同について比較することができる。
- (3) 「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べるることができる。
- (4) 「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「ケアの倫理」についての概要説明
2	ケアと道徳哲学①: ケアの倫理とは何か? (1)	①道徳理論としての「ケアの倫理」(1) ・「ケアの倫理」の特徴
3	ケアと道徳哲学②: ケアの倫理とは何か? (2)	①道徳理論としての「ケアの倫理」(2) ・自由主義的個人主義の批判
4	ケアと道徳哲学③: 実践としてのケアと価値 (1)	①ケアすること (Taking Care) ②実践としてのケア
5	ケアと道徳哲学④: 実践としてのケアと価値 (2)	①価値としてのケア ②ケア関係
6	ケアと道徳哲学⑤: ケアするひと (Caring Person)	①ケアの倫理における「ひと (Person)」とは何か? ②ケアすることと自律 (autonomy)
7	ケアと道徳哲学⑥: 正義・有用性・ケア	①フェミニズム道徳研究 ②ケア vs 正義 ③フェミニズムと権利の言説
8	ケアと道徳哲学⑦: リベラリズムとケアの倫理	①ケアと市民 ②リベラリズム批判とケアの倫理
9	ケアと道徳哲学⑧: ケア関係と正義の原理	①ケアの倫理と正義の射程
10	ケアと社会①: ケアと市場の拡張	①女性労働と市場 ②市場の限界
11	ケアと社会②: 市民社会・権利・ケアの確信/厚かましさ (presumption)・「愛という労働」	①ケアの倫理と市民社会 ②ケアの社会 (Caring Society)

- | | | |
|----|-------------------------------|-------------------------------|
| 12 | ケアと社会③: 権力・ケア、法の射程 | ①法と権利の保証
②フェミニズムによる権利の再定義 |
| 13 | ケアと社会④: グローバルな世界におけるケアと正義 (1) | ①グローバルな転換の意味するもの
②ケアと政治経済学 |
| 14 | ケアと社会⑤: グローバルな世界におけるケアと正義 (2) | ①ケアの未来 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000年）

Virginia Held, *The Ethics of Care: Personal, Political, and Global*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

竹田純郎・伊坂青司・森秀樹編『生と死の現在——家庭・学校・地域のなかのデス・エデュケーション』（ナカニシヤ出版、2002年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（20%）と期末試験で評価する（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVD など AV 機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアの倫理」は、単に授業ですわってれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「癒しと救い」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役に立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならぬことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：ケアと正義のグローバル倫理（2）

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、「ケアと正義のグローバル倫理」の観点に基づき、「正義とは何か」という問いから、「誰の何のための正義なのか」、さらに「グローバル正義におけるケア倫理学とは何か」という問いへとシフトしながら、様々な「ケアと正義の倫理」を概観する。

そこで「愛と正義の倫理」の重要概念として、倫理学における「愛」と「正義」のそれぞれの概念を検討する。その際に、正義とは何か、正義とはどのような価値などの「正義の倫理」の基礎と、愛とは何か、愛とケアとの関係や、「愛と正義」のケア倫理学を学んでいく。その際に、「グローバル正義とケアの倫理」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比、さらには「グローバル正義とケアの倫理」への進展を検討することにしたい。新しい「ケアと正義のグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

《授業の目的》

「ケアと正義のグローバル倫理」を通して、現代社会の倫理性的の問題を哲学的・倫理的に分析する力を得ることができる。

【到達目標】

- (1) 「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2) 「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (3) 「ケア」概念を「愛」の概念とともに包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「正義のグローバル倫理」についての概要説明
2	ロールズ『正義論』の意義①	①ロールズ『正義論』とは何か？ ②「公正としての正義」
3	ロールズ『正義論』の意義②	①ロールズ正義論の影響力 ②ロールズ正義論の限界
4	ロールズ正義論のグローバル正義への応用①	①国境を超える正義 ②コスモポリタニズムの可能性
5	ロールズ正義論のグローバル正義への応用②	①コスモポリタニズムのロールズ批判
6	コスモポリタニズムの正義論——ボグの正義論	①コスモポリタニズムと正義論 ②ボグの資源主義
7	アマルティア・センの経済哲学①	①センとは誰か？ ②経済学と倫理学
8	アマルティア・センの経済哲学②	①経済行動と道徳感情 ②自己利益と合理的行動
9	アマルティア・センの経済哲学③	①経済的判断と道徳哲学 ②
10	アマルティア・センの「自由と正義のアイデア」①	①行為主体性と豊かな生 ②自由と厚生経済学
11	アマルティア・センの「自由と正義のアイデア」②	①潜在能力アプローチ ②ロールズとセンの正義論
12	アマルティア・センの「自由と正義のアイデア」③	①正義のアイデア

- | | | |
|----|---------------------|--------------------------------------|
| 13 | マーサ・ヌスバウムのグローバル正義論① | ①ヌスバウムの潜在能力アプローチ
②「愛の倫理学」に向けて |
| 14 | マーサ・ヌスバウムのグローバル正義論② | ①中心的潜在能力
②動物・外国人・障がい者への「愛とケアの倫理学」 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000年）

アマルティア・セン『経済学と倫理学』徳永澄憲・松本保美・青山治城訳、ちくま学芸文庫、2016年

マーサ・ヌスバウム『正義のフロンティア——障害者・外国人・動物という境界を超えて』法政大学出版局、2012年

【参考書】

神島裕子『ポスト・ロールズの正義論——ボグ・セン・ヌスバウム』ミネルヴァ書房、2015年

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）と小テストなど（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVDなどAV機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアと正義のグローバル倫理」は、単に授業ですわってれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「癒しと救い」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役にも立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならぬことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider various "care and justice ethics" based on "global ethics of care." Finally, we will aim to raise an ethics of care to an ethics of love as global ethics.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

PHL200LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

佐藤 英明開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもあります。人工授精、体外受精、遺伝子診断等の生命倫理問題に関する報道や世論にも目を向けながら、その倫理的背景を考えます。原則として毎回アクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	倫理学の基本概念	倫理学とはどのようなことを研究対象とする学問なのか、倫理学全般に関する説明する。
第2回	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学	倫理学の3つのレベルについて、その概要を説明する。
第3回	バイオエシックスの誕生	1970年代に米国においてバイオエシックスが誕生した背景を解説する。
第4回	バイオエシックスの諸問題	バイオエシックスにおいて取り扱われるテーマを解説する。
第5回	倫理的価値としての生命	生命や健康は価値あるものとされているが、それはいかなる理由からかを考える。
第6回	生命の誕生と人工妊娠中絶の問題	生殖に関する生命倫理問題を考察する。
第7回	人口抑制と環境問題	生殖に関する生命倫理問題と人口問題や環境問題との関係を考察する。
第8回	「自然」とは何か	倫理問題を考えるうえで「自然」という概念がいかなる意味を持つのかを解説する。
第9回	優生思想	優秀な子孫を残し劣った子孫の出生を防止するという「優生思想」に関する問題を解説する。
第10回	社会ダーウィニズムと人種主義	優生思想と社会ダーウィニズムとの関係を解説し、ナチズムにおける位置づけを考察する。
第11回	人工授精と体外受精	具体的な生殖医療における生命倫理問題を概観する。
第12回	ウォーノック報告と自由主義	英国のウォーノック報告の基本的考え方を解説し、生命倫理学における自由主義について考察する。
第13回	凍結保存の倫理的意味	配偶子や受精卵の凍結保存の持つ意味とそれによってもたらされる倫理的問題を考察する。
第14回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門〔第4版〕』（産業図書）を使用し、他に資料を配付します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます（試験 60%・小テスト 40%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書方法の改善。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning the birth of people and learn the basic concepts of ethics.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学びます。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもあります。脳死、臓器移植、安楽死、尊厳死等の生命倫理問題に関する報道や世論にも目を向けながら、その倫理的背景を考えます。原則として毎回アクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	倫理的観点から見た「人の死」	人の死とはどのようなことかをあらためて生命倫理学の観点から考察する。
第2回	脳死に関する倫理的諸問題	脳死とはどのような状態かを確認し、生命倫理学においてどのような問題を孕んでいるのかを概観する。
第3回	臓器移植と功利主義	臓器移植という医療が、功利主義的な考え方によってどのように正当化されるかを具体的に考察する。
第4回	功利主義の問題	功利主義とはどのような考え方を確認し、その問題点を明らかにする。
第5回	義務論と目的論	功利主義を義務論と対比し、義務論的な考え方について概観する。
第6回	幸福加算の可能性	「最大多数の最大幸福」を原則とする功利主義が前提とする幸福計算の可能性について考察する。
第7回	社会的コンセンサスの倫理的意味	合意形成の可能性について倫理的観点から考察する。
第8回	安楽死・尊厳死・自然死	安楽死とはどのようなことかを解説し、安楽死に関する生命倫理問題を概観する。
第9回	生命の質	安楽死容認の根拠とされる考え方を考察する。
第10回	パターナリズム	自律原理に基づく医療とは対置されるパターナリズムの内容とその問題点を明らかにする。
第11回	自己決定の問題	安楽死の根拠とされる自律原理に関わる問題を明らかにする。
第12回	「判断能力」の有無	自己決定権行使の前提となる「判断能力」について、その内容を考察するとともに、問題とされる具体的事例を考察する。
第13回	「人格」概念	人間とはいかなる存在かをパーソン論の観点から考察する。
第14回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門〔第4版〕』（産業図書）を使用し、他に資料を配付します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施します（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこないます（試験 60%・小テスト 40%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書方法の改善。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning human death and learn basic concepts of ethics.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

PHL200LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営国環キ 1~4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

倫理学 L I では、情報社会における倫理的問題の中でも、特に「ネットにおけるコミュニケーション」、「メディア・リテラシー」、「情報技術とセキュリティ」、「インターネットと犯罪」「個人情報と知的財産」、「SNS と情報モラル」などインターネット社会を生きるための情報倫理に関連する諸問題を取り上げる。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指す。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とする。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行う。ただし、積極的・意欲的な参加を希望するため、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。講義内容の理解度を確認するために、1 回は小論文を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報と情報社会と情報倫理	授業ガイダンスを行う。また、情報と情報社会と情報倫理についての概説も行う。
第 2 回	情報通信社会とインターネット	情報通信社会とインターネットの進化と変遷を概観し、その中で生じてきた倫理的問題について検討する。
第 3 回	ネット時代のコミュニケーション	ネットにおけるコミュニケーションとマナーについて倫理的に検討する。
第 4 回	メディアの変遷とメディア・リテラシー	メディアの変遷とメディア・リテラシーについて倫理的に検討する。
第 5 回	情報技術とセキュリティ	情報セキュリティとネット被害の問題を倫理的に検討する。
第 6 回	インターネットと犯罪	ネット社会におけるトラブルと犯罪について倫理的に検討する。
第 7 回	個人情報とプライバシー	個人情報の流出と保護の問題について倫理的に検討する。
第 8 回	知的所有権とコンテンツ	知的財産の問題と知的財産権について倫理的に検討する。
第 9 回	企業と情報倫理	企業の社会的責任や企業倫理について倫理的に検討する。
第 10 回	科学技術と倫理	科学技術と倫理の問題や技術者倫理について検討する。
第 11 回	デジタルデバイスとユニバーサルデザイン	デジタルデバイスの問題とユニバーサルデザインについて倫理的に検討する。
第 12 回	SNS と情報モラル	ソーシャルネットワークサービス (SNS) と情報モラルについて倫理的に検討する。
第 13 回	情報社会とリテラシー	情報社会を生き抜くリテラシーについて倫理的に検討する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨むこと。受講後は、不明点を理解できたかどうか復習すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しない。授業のテーマに関係するプリントを配付する。

【参考書】

・高橋悠子他著『情報倫理—ネット時代のソーシャル・リテラシー』（技術評論社）
・情報教育学会『インターネット社会を生きるための情報倫理（改訂版）』（実務出版）
・勢力尚雅編著『科学技術時代の倫理学』（梓出版社）
・大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー&ディスカッション 20%、小論文 20%、期末試験 60%。リアクションペーパー&ディスカッションでは授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうかまた授業内容を理解できているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では倫理的問題を解決する実践的・応用的な知や思考力・判断力を獲得できているかどうか評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションなどを授業に取り入れ、アクティブ・ラーニングにも力を入れて行きたい。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたい。

【Outline and objectives】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

倫理学Ⅱでは、＜身体＞というパースペクティブから、特に「人工知能(AI)」、「ロボット、アンドロイド、サイボーグ」という問題を中心に、他にも「技術的特異点（テクノロジカル・シンギュラリティ）」、「2045年問題」、「Google」、「ビッグデータ」、「SNS」、「ウェアラブル」など現代を生きるための情報社会に関連する様々な倫理的問題を取り上げる。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを指す。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とする。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行う。ただし、積極的・意欲的な参加を希望するため、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。講義内容の理解度を確認するために、1回は小論文を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	情報社会と 2045年問題	授業ガイダンスを行う。また、情報社会と技術的特異点の問題についての概説も行う。
第2回	技術的特異点という倫理学的問題(1) 一切迫る状況と指数関数的な爆発	技術的特異点という倫理学的問題について検討する。
第3回	技術的特異点という倫理学的問題(2) 一来るべき未来と終末論	技術的特異点という倫理学的問題について検討する。
第4回	マスメディアの終焉とメディア史観	マスメディアの終焉とメディア史観について倫理的に検討する。
第5回	グーグルによる「汎知」の企図と哲学の終焉	「汎知」の思想史を概観しながら、「グーグル」という問題について倫理的に検討する。
第6回	ビッグデータの社会哲学的位相	ビッグデータをめぐる倫理的問題について検討する。
第7回	SNSによるコミュニケーションの変容と社会システム論	SNSによるコミュニケーションの変容について、社会システム論的見地を踏まえ、倫理的に検討する。
第8回	ロボットから倫理を考える	ロボットをめぐる倫理的問題について検討する。
第9回	人間をつくり変える？	クローン、サイボーグ、アンドロイドをめぐる倫理的問題について検討する。
第10回	人工知能とロボットの新たな次元	人工知能とロボットの展開（未来）について、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討する。
第11回	情報社会において倫理は可能か？	情報社会において倫理は可能かどうかを、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討する。
第12回	メルロ＝ポンティと身体哲学	メルロ＝ポンティと身体哲学について倫理的に検討する。

第13回 ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学について検討する。

第14回 まとめ、そして『公審判と第二の受肉—再び受肉する意味について、或いは天国に生きる永続ゾンビについて』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分らなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨むこと。受講後は、不明点を理解できたかどうか復習すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しない。授業のテーマに関係するプリントを配付する。

【参考書】

- ・ニック・ポストロム著『スーパーインテリジェンス 超絶 AI と人類の命運』（日本経済新聞出版社）
- ・レイ・カーツワイル著『ポスト・ヒューマン誕生 コンピュータが人類の知性を超えるとき』（NHK 出版）
- ・大黒岳彦著『情報社会の（哲学）—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）
- ・ジャン＝ガブリエル・ガナシア著『そろそろ、人工知能の真実を話そう』（早川書房）
- ・三宅陽一郎著『人工知能のための哲学塾』（BNN 新社）
- ・久木田水生他著『ロボットからの倫理学入門』（名古屋大学出版会）
- ・岡本裕一郎著『12歳からの現代思想』（ちくま新書）
- ・松田卓也著『2045年問題 コンピュータが人類を超える日』（廣済堂新書）
- ・松尾豊著『人工知能は人間を超えるか—ディープラーニングの先にあるもの』（角川 EPUB 選書）
- ・弥永真生他編『ロボット・AI と法』（有斐閣）
- ・岡本裕一郎著『人工知能に哲学を教えたら』（SB 新書）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー&ディスカッション 20%、小論文 20%、期末試験 60%。リアクションペーパー&ディスカッションでは授業へ積極的・意欲的に参加しているかどうかまた授業内容を理解できているかどうか、小論文では講義で扱った問題に関する議論を十分に理解した上で自分の考えを明確に表現できているかどうか、試験では倫理的問題を解決する実践的・応用的な知や思考力・判断力を獲得できているかどうか評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションなどを授業に取り入れ、アクティブ・ラーニングにも力を入れて行きたい。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたい。

【Outline and objectives】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider an ethical reaction to those.

PHL200LA

倫理学Ⅰ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、デカルト、カント、フッサール、シェーラーなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、内容に応じて映像資料なども用いる。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定	他者という問題。なぜ「他者」が問題なのか。
第3回	デカルトの他者論（その1）	デカルト哲学の紹介
第4回	デカルトの他者論（その2）	デカルトの他者論（コギト、神の存在証明）
第5回	カントへの展開（その1）	問題提起、カント哲学の紹介
第6回	カントへの展開（その2）	超越論的観念論、超越論的統覚という問題
第7回	カントへの展開（その3）	カント哲学における他者の構成という問題、カント倫理学における他者の不在
第8回	フッサールの他者論（その1）	フッサール哲学の紹介
第9回	フッサールの他者論（その2）	フッサールの他者論へ 間主観性・共現前という問題
第10回	フッサールの他者論（その3）	フッサールの他者論の問題点と可能性（自己移入論、超越論的間主観性という立論）
第11回	シェーラーの他者論（その1）	シェーラー哲学の紹介、シェーラーの類推説・自己移入論批判
第12回	シェーラーの他者論（その2）	「体験流」からの出発、共同感情について
第13回	他者とはなにか	他者とはなにか
第14回	授業内テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にテストを行う。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点35%；テスト65%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

昨年度の受講生の感想には次のようなものがありました。

「かなり内容は難しかったが、熱心に解説していたので内容が伝わってきた。」

「面白い授業だった。」

「気づけたことが多かった。」

「最初の回から難しかった。先生が熱血な感じで、体を使って他者を説明していた。」

最後の回の哲学対話が良かった。リアベを見ても、みんな楽しいと言っているのも嬉しいことだ。」

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点は注意してください。

【Outline and objectives】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. The Other is the basic concept in ethics. If the Other doesn't exist, then ethics may not exist. Therefore we must define what the Other is. First, we will treat the Other as a Question. The Other is not an obvious fact to us. Then, we will go over various theories on Others, for example, Descartes', Kant's, Husserl's, Max Scheler's and Cassirer's. After thorough explications on each philosopher's concept, we will grasp the main point of theories on Others in it. Finally, we will be able to obtain the knowledge about the significance of the Other.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということの問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、デュルタイ、サルトル、和辻哲郎、M・ブーバー、E・レヴィナスなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、内容に応じて映像資料なども用いる。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定	他者という問題（デカルト、カント、フッサールの問題設定）
第3回	デュルタイの他者論	デュルタイの紹介、およびその他者論
第4回	サルトルの他者論（その1）	サルトル哲学の紹介
第5回	サルトルの他者論（その2）	サルトルの対他存在
第6回	和辻哲郎の倫理学（その1）	和辻哲郎という人物、「面とベルソナ」について
第7回	和辻哲郎の倫理学（その2）	和辻倫理学の主要論点（個と全体、二人共同体）
第8回	和辻哲郎の倫理学（その3）	和辻倫理学の問題点
第9回	M・ブーバーの思想（その1）	ブーバーという人物、「わたし-きみ」「わたし-それ」
第10回	M・ブーバーの思想（その2）	ブーバーの人間観
第11回	M・ブーバーの思想（その3）	ブーバーの思想の問題点、E・レヴィナスによる批判
第12回	E・レヴィナスの他者論（その2）	レヴィナス哲学の紹介
第13回	E・レヴィナスの他者論（その2）	レヴィナスの他者論（顔、他者）
第14回	他者論のまとめ	これまでの議論を総括し、問題点を析出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点35%；レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。コメントペーパーを見ていると、9月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点に注意してください。

【Outline and objectives】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. The Other is the basic concept in ethics. If the Other doesn't exist, then ethics may not exist. Therefore we must define what the Other is. First, we will treat the Other as a Question. The Other is not an obvious fact to us. Then, we will go over various theories on Others, for example, Dilthey's, Sartre's, Tetsuro Watsuji's, Buber's and Lévinas'. After thorough explications on each philosopher's concept, we will grasp the main point of theories on Others in it. Finally, we will be able to obtain the knowledge about the significance of the Other.

PHL200LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

PHL200LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：生命を倫理学から考える

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業では、「幸福とは何か」を出発点としながら、人間の生/死、人格、医療（技術）に焦点を当てながら、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。

かつて人間の生命は、「神のみが知る」ものであった。現代では、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前であるが、人工授精・体外受精、デザイナーベビー、新型出生前診断、人工妊娠中絶、臓器移植、延命治療など、現代社会でよく耳にするこれらの人工的な生命操作は、明らかに反自然的な行為である。もちろん、私たちの日常生活において医療技術は欠くことができず、医療技術の進歩によって多くの命が救われてもいる。そしてこれらの問題は、私たちが生きていく中で、いずれ関わるかもしれない身近な問題でもある。本授業では、具体的な事例や現代的な問題を取り上げながら、命（生と死）・医療・科学技術などについて、今一度考え直すきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

① 生命、死、存在、医療、看護、QOL などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 医療現場、患者および患者家族側、生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。
本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持つことを最終的な目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明 生命倫理学とは？ 自然界の生命に医学（医療）が介入すること
第 2 回	倫理学の基礎理論①ー幸福とは何か	「幸福」はどのように決まるか？ 善く生きるの「善い」とは？
第 3 回	バイオエシックスの成立	医療と倫理 バイオエシックス/生命倫理はどのような背景から出てきたか
第 4 回	倫理学の基礎理論②ー功利主義	「最大多数の最大幸福」 平等原理は存在するか？
第 5 回	人間の生命と人格①	生物学的生命と人格的生命 人格とは何か？
第 6 回	人間の生命と人格②	人格と責任能力 胎児に人格はあるか？ 自己意識と生存の権利
第 7 回	人間の生命と人格③	パーソン論とは 人工妊娠中絶は殺人か？
第 8 回	生存の義務と死ぬ権利	私たちは死ぬ権利をもつことができるか 自己決定権と生命 医療と人体実験
第 9 回	伝える義務と知る権利	医療とインフォームド・コンセント 情報開示と自己決定権

第 10 回	命は誰のものか？	医療とバスターナリズム 患者の権利と医師の義務——生命の維持と自己決定権
第 11 回	医療と倫理と法	看護業務と医療事故 様々な医療事故の裁判例
第 12 回	誰が生/死を決定するのか	患者の自己決定権 宗教・信条と生命
第 13 回	医療の倫理と法	医療技術の進歩と医療現場 医療事故と医療過誤
第 14 回	まとめ	生きることと死ぬことの倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみることに。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

塩野寛、清水恵子『生命倫理への招待』南山堂、2012 年。
曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999 年。
H・T・エンゲルハート『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988/2005。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。

【Outline and objectives】

This course is an introduction and survey course in Bioethics. The purpose of this course is introduce students to bioethics through critical thinking contemporary issues. Through this course, students will be given not only the knowledge and comprehension of relationship between biotechnology and ethics, but also the opportunity to focus on their life and death.

Students will first be introduced the history of ethics, foundational theories in bioethics, and the basic concepts and theoretical framework of bioethics.

Topics will include: what is happiness, health-care, responsibility, system of value, informed consent, death and dying, and the issue of beginning of life(on abortion, designer baby, prenatal testing etc.).

Through this course, students will be able to think carefully and to express their own views more clearly through their own positions on bioethical/ medical issues.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：生命を倫理学から考える②

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方では「あの世/この世」「現世/来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていきながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的な問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点を持って、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持つことを最終的な目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生命倫理学とは何か？
第2回	生命の誕生と倫理①	生殖医療の倫理—生殖技術の発展と拡大 人工授精の歴史と現状
第3回	生命の誕生と倫理②	生殖医療の倫理—体外受精と卵子の老化
第4回	生命の誕生と倫理③	生殖技術の倫理—精子バンク、代理母問題
第5回	生命と医学①	再生医療とクローン技術
第6回	生命と医学②	遺伝子技術と生命倫理 デザイナーベイビーとは
第7回	生命と医学③	遺伝子とゲノム ゲノム解析とは
第8回	生命と医学④	性転換手術と医療倫理 自然界の性転換と人工的性転換
第9回	宗教と生命倫理①	宗教とは何か？ 宗教的価値観と倫理的判断
第10回	宗教と生命倫理②	北米のキリスト教と生命倫理
第11回	宗教と生命倫理③	イスラームにおける生命観
第12回	宗教と生命倫理④	ヒンドゥー教の死生観
第13回	宗教と生命倫理⑤	神道における死後観と人間観
第14回	まとめ	宗教/非宗教から生命倫理を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみることに。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999年。
小松美彦、土井健司編『宗教と生命倫理』ナカニシヤ出版、2005年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学Ⅰから継続して受講すると理解しやすい

【Outline and objectives】

This course is intended to develop student's understanding of ethical issues of bioethics and medical care. Especially, this course will focus upon major bioethical issues which related to artificial insemination, genetic testing and human right. In addition, the second half of this course, we will explore various ethical problems within several religious traditions. Through comparison of bioethical perspectives on selected themes, students will be able to recognize the interconnections between bioethical issues and religious system. This course will help students to develop the ability to analyze diverse perspective and to recognize the importance of ethical considerations.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

PHL200LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：倫理学概論

吉永 明弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

法文営国環キ 1～4 年

【Outline and objectives】

You can understand ethical theory and applied ethics.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎知識を学び、応用倫理学の内容に親しむとともに、具体的な倫理問題について議論する。

【到達目標】

倫理学の基本的な考え方や主要な理論（功利主義、義務論、徳倫理学、社会契約論、正義論）および応用倫理学の内容を把握し、それをもとに具体的な倫理問題について議論することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義とコメントペーパーへの応答。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学を学ぶ意味	なぜ倫理学を学ぶ必要があるのかについて説明する
2	倫理学の三大理論（1）徳倫理学と義務論	アリストテレスとカントの倫理学の概要を紹介する
3	倫理学の三大理論（2）功利主義	ミルの自由論を基軸に功利主義について説明する
4	倫理学と政治哲学（1）社会契約論	ホブズ、ロック、ルソーらの社会契約論を概説する
5	倫理学と政治哲学（2）正義論	ロールズ、ノージック、サンデルらの正義論を紹介する
6	倫理学と公共哲学	公共性について倫理学の視点から論じる
7	応用倫理学（1）生命倫理学	脳死と臓器移植、医師・患者関係、フォームドコンセントを中心に説明する
8	応用倫理学（2）情報倫理学	情報化社会の倫理問題について紹介する
9	応用倫理学（3）環境倫理学	環境問題への倫理学からのアプローチについて紹介する
10	応用倫理学の多様な広がり	技術者倫理、研究倫理、脳神経倫理、宇宙倫理などを紹介する
11	対話型講義（1）市民の力	社会に対する市民の力について議論する
12	対話型講義（2）内部告発	内部告発について議論する
13	対話型講義（3）21 世紀の労働倫理	IT・AI の時代がもたらす新たな労働倫理について議論する
14	対話型講義（4）21 世紀の教育	IT・AI の時代の教育のあり方について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997 年
 新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社、2000 年
 宇都宮芳明『倫理学入門』ちくま学芸文庫、2019 年
 川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社、1994 年
 國分功一郎『近代政治哲学』ちくま新書、2015 年
 児玉聡『功利と直観』勁草書房、2010 年
 梅津光弘『ビジネスの倫理学』丸善、2002 年

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、レポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：環境倫理学入門

吉永 明弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を紹介する。このなかから各自の興味のある文献を読み、レポートを書いてもらう。

【到達目標】

環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの構えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。適宜、ディスカッションを取り入れる。レポートを添削し、必要があれば個別に面談を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
2	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
3	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
4	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
5	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
6	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
7	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
8	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
9	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
10	環境論を問いなおす	環境論に批判を加えている文献を紹介する
11	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
12	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
13	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
14	都市の環境倫理をめざして	都市の環境倫理の構想を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書のなかで紹介している文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）とレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

You can understand Environmental Ethics by Environmental Reading and Writing.

PHL200LA

論理学Ⅰ

2017年度以降入学者

PHL200LA

論理学Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：論理的読解のトレーニング

佐々木 護

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」だと言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- （1）新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、内容をよく理解した上で、的確な要約を行うことができる。
- （2）上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的な小論文を作成する回を設けます。提出答案は添削・評価の上、翌週返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／論理学とは	論理学には分析論と弁証論の2つの流れがあることを理解する。
第2回	論理的説明と論証	トゥールミン・モデルなどを参照しつつ、論理的な説明には、根拠の提示が不可欠であることを理解する。
第3回	論理的読解と論証	論理的読解には、文章全体を論証と捉え、結論とそれを支える根拠を見きわめることが有効であることを理解する。
第4回	論証の構造	論証図の作成を通じて、論証構造を的確に把握する仕方を身につける。
第5回	要約の技法	文章から論証構造を取り出し、それを軸に要約する技法を身につける。
第6回	隠れた前提	論証を論理的に理解するには、隠れた前提を自覚的に取り出すことが必要な場合があることを理解する。
第7回	論証の評価（1）	論証の適切さや妥当性を評価するにあたって着目すべきポイントを理解する。
第8回	論証の評価（2）	論証を検討する仕方を実践的に身につける。
第9回	誤った論証	論証の誤りの代表的なパターンを理解する。
第10回	論証への反論（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する反論を作成する。
第11回	論証への反論（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第12回	文章読解と見解論述（1）	現代の社会問題に関連した文章を読み、それに対する見解論述を作成する。
第13回	文章読解と見解論述（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第14回	試験日	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義内容に関連した宿題が課されます。授業中に配布したプリントにはよく目を通しておいください。

【テキスト（教科書）】

配布プリントを使用します。

教科書は使用しません。

【参考書】

苅谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002年）

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80％）および平常点（20％）で評価します。平常点は、授業内課題や宿題の提出状況および内容で判断します。期末試験の評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

今まで文章を書く機会の少なかった学生の場合、最初は小論文作成に時間がかかり、難しく感じることもあるようです。しかし、書き続けるうちに徐々に慣れていきますので、その点についてあまり心配する必要はありません。

【Outline and objectives】

We call a reasonable argument as "logical". In this course, we will practice to logically read various texts regardless of the field, examine them, and express your own view logically. If you acquire the ability of logical reading and argumentation, it will be useful for your future academic activities and social life.

PHL200LA

論理学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

PHL200LA

論理学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：**批判的思考のトレーニング**

佐々木 護

開講時期：**秋学期授業/Fall** | 曜日・時限：**月 5/Mon.5**
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

クリティカル・シンキング（批判的思考）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出すトレーニングを行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
- (2) 与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。また、文章作成力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出答案は添削・評価の上、翌週返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／推論の分類	演繹、帰納、仮説推量という推論の3つのタイプを概観する。
第2回	演繹と仮説推量	演繹と仮説推量の関連性と相違点を理解したうえで、新たな発想やアイデアを導く上で仮説推量が果たす意義を押しさえる。
第3回	統計資料の分析と仮説推量	統計資料の分析の基本を理解し、資料からどのような仮説を立てることができるかを考える。
第4回	相関関係と因果関係	2つの現象の間に何らかの関係が認められる場合に、どんな仮説が立てられるのかを理解する。
第5回	原因分析と対策提言	ある仮説に基づくならば、どのような対策が必要かを考える。仮説が異なれば、必要な対策も大きく異なることを理解する。
第6回	価値前提	それぞれの論証がどのような価値判断や価値基準を前提としているかに注目することで、議論の争点を整理する仕方を身につける。
第7回	対策提言の評価（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する検討を行う。
第8回	対策提言の評価（2）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
第9回	立論・批判・異論（1）	対立する意見を視野に入れつつ、それに対する批判や異論を展開する仕方を身につける。
第10回	立論・批判・異論（2）	批判と異論の違いを見きわめる。
第11回	立論・批判・異論（3）	あるテーマに対し、立論・批判・異論から構成される小論文を作成する。
第12回	立論・批判・異論（4）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
第13回	誤った二分法	二分法が陥りがちな罠を理解する。
第14回	試験日	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義内容に関連した宿題があります。授業中に配布したプリントにはよく目を通しておいってください。日頃から新聞や新書などを批判的に読む習慣を身につけましょう。

【テキスト（教科書）】

配布プリントを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

刈谷剛彦『知的複眼思考法』（講社プラスアルファ文庫、2002年）
野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80%）および平常点（20%）で評価します。
平常点は、授業内課題や宿題の提出状況および内容で判断します。
期末試験の評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

今後も受講者の自立した思考を促す授業となるよう工夫していく予定です。

【Outline and objectives】

As part of the critical thinking education, we will make hypotheses from multiple perspectives, and practice to find solutions while taking into account the opposite opinion. If you learn how to think critically, you will be of great help in your future academic activities and social life.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

HIS200LA

東洋史Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：中国古代の国家構造

岡安 勇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古代の国家構造については皇帝を頂点とする一元的支配（＝個人身身的支配）という概念で理解されている。しかし皇帝権力の絶対性の側面を強調すると、その絶対的権力を打倒して新王朝が出現する王朝交替のメカニズムを解明する糸口が見失われてしまう。また「例外において本質が顕現する」（C. シュミット）と言われるように、皇帝支配における例外的措置としてこれまであまり顧みられることのなかった王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して新たに中国古代の国家構造を明らかにしてみたい。つまり、本授業では中国古代の国家構造を「二王の後（旧王朝の子孫）」の視点から解明する。漢文講読の経験の有無にかかわらず、中国に興味関心のある学生が本授業を受講することによって、これまでにない中国古代の国家構造を理解することができる。

【到達目標】

中国古代（おもに堯・舜・禹の伝説時代から殷・周～秦・漢・三国時代）の社会・思想のうち興味深い事柄が理解できる。また、そのような社会や思想を理解した上で、一般に知られていない中国古代の「二王の後」の存在も明らかにする。「二王の後」の視点から中国古代の王朝交替のメカニズムが明快に理解できるようになる。

なお、授業では現代に受け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢語への理解や漢文の読み方が上達すると考えられる。試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義で講読する史料や参考資料はプロジェクターを使用してスクリーンに映しだして説明を加えるので、黒板に書くチョークの文字よりも見やすいと思われる。また、黒板に書く作業が省略される分時間の短縮に繋がり、教師と学生が常に対面できるという利点もある。

講義形式（漢文初心者にも理解できるように説明し、丁寧な解説を加える）。授業計画にも示してあるが、講義では、中国古代史上における興味ある話題について参考資料などを示して紹介するつもりである。

なお、授業の概要、重要事項などを確認する小テストを実施するが、その中で提出された質問のうち共有化すべきものについては、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	二王の後とはなにか	授業内容:春学期授業のガイダンスと中国古代の国家構造について
第2回	伝説上の王朝について	堯・舜・禹の伝説上の帝王間の政権交替についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第3回	実在する最古の王朝について	夏王朝から殷王朝への王朝交替と「二王の後」についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第4回	殷王朝から周王朝へ	殷王朝から周王朝への王朝交替と「二王の後」についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第5回	周王朝から秦王朝へ	周王朝から秦王朝への王朝交替と「二王の後」についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第6回	秦王朝から漢王朝へ	秦王朝から漢王朝への王朝交替についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介

発行日：2019/5/1

第7回	漢王朝初期	漢王朝初期の二王の後についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第8回	漢の武帝の初期	漢の武帝初期の二王の後礼遇の再建についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第9回	漢の武帝期②	漢の武帝期の二王の後についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第10回	漢の宣帝・元帝期	漢の宣帝・元帝期の二王の後についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第11回	漢の成帝期	漢の成帝期の二王の後についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第12回	王莽時代	王莽時代の二王の後についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第13回	後漢・三国時代 まとめ	後漢・三国時代の二王の後についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介 春学期講義のまとめおよび結論。
第14回	試験日	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書などについてはテキストに記載してあるが、それ以外のものについては、授業中に紹介するので、それらの参考図書を授業前後に読み、取り扱うテーマとその歴史的背景を理解すること。
なお、中国に関する展覧会などにも積極的に出掛けて、中国への関心と理解を高めることに心がけてもらおうとよい。

【テキスト（教科書）】

岡安勇『中国古代の国家構造』 生協扱い。
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

なし。ただし、参考図書などについてはテキストで紹介してある。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70 %
平常点：30 %（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）
合計：100 %

成績は毎時間に提出する小テストによる平常点と期末試験で評価する。小テストの一定枚数以上の提出者が成績の評価対象となる。期末試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も知的好奇心を刺激する授業を展開するよう心がける。また、専門的な分野を理解できるように、これからも工夫を加えていきたい。

【その他の重要事項】

春学期の「二王の後」という視点、秋学期の「中国古代の席次」という視点の両面から中国古代の国家構造というテーマを解明していくので、両者の視点によってより明確にテーマを理解できると思われる。そのため、履修者には通年での履修を勧める。

【Outline and objectives】

Solution on the National Structure from the Courteous Reception for “Er-wang-chih hou”(二王之後) in Ancient China.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：中国古代の国家構造

岡安 勇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期では、王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題に注目して中国古代の国家構造の解明を行ったが、秋学期ではこれとは反対に禅譲されて新王朝を樹立した者の、旧王朝末期における君臣関係というこれまであまり扱われることのなかった例外的措置について取り上げ、中国古代の新旧両王朝一体となった国家構造を明らかにしてみたい。

そこで本授業では中国古代の国家構造を席次という序列関係を手掛かりにして解明を試みる。

なお、この解明には君臣間、賓主間という性質の異なる席次の序列関係も重要な手掛かりとなるが、人口に膾炙した『史記』の有名な「鴻門の会」はその代表例として取り上げることになるので、親しみやすいと思われる。対象学生は春学期と同じ。

【到達目標】

中国古代に行われていた席次（席に座る順序）を用いるというこれまで考えられなかった視点から王朝交替のメカニズムを解明する糸口を見いだすことが出来る。

一般にもよく知られている鴻門の会での項羽と劉邦の席がどのようにして決まったのか興味のある問題であるが、この点についてはビデオを用いることによって、視覚的に理解ができる。

中国古代の席次が理解できれば、皇帝が西面することがいかに異例のことだったのかが分かり、するとこれまで考えても見なかった王朝交替のメカニズムが判明することにもつながる。

なお、秋学期でも春学期と同じように、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢語への理解や漢文の読み方が上達すると考えられる。

試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまででない視点から説明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義で講読する史料や参考資料はプロジェクターを使用してスクリーンに映しだして説明を加えるので、黒板に書くチョークの文字よりも見やすいと思われる。また、黒板に書く作業が省略される分時間の短縮に繋がり、教師と学生が常に対面できるという利点もある。

講義形式（漢文初心者にも理解できるように説明し、丁寧な解説を加える）。授業計画にも示してあるが、講義では、中国古代史上における興味ある話題について参考資料などを示して紹介するつもりである。

なお、授業の概要、重要事項などを確認する小テストを実施するが、その中で提出された質問のうち共有化すべきものについては、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業内容:秋学期授業のガイダンスと中国古代の国家構造について	授業内容ガイダンスと君臣間の席次についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第2回	君臣間の席次	君臣間の席次についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第3回	階層化する君臣間の席次	階層化する君臣間の席次についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第4回	賓主間の席次	賓主間の席次のうち基本的なものについての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第5回	君臣間の席次と賓主間の席次の相違点	君臣間の席次と賓主間の席次の相違点の確認と理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第6回	賓主間から君臣間の席次への移行	賓主間から君臣間への席次の移行の意味についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介

第7回	複雑な賓主間の席次	複雑な賓主間の席次についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第8回	複雑な賓主間の席次の上下関係	複雑な賓主間の席次の上下関係についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第9回	私的場面で賓主間の席次に着く皇帝	私的場面で賓主間の席次に着く皇帝の存在についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第10回	公的場面で賓主間の席次に着く皇帝	公的場面で賓主間の席次に着く皇帝の存在についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第11回	臣下に対して賓主間の席次に着く皇帝	臣下に対して賓主間の席次に着く皇帝の意味についての理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第12回	賓客の席を与えられた臣下の変化	臣下が賓客の席に着くことにより皇帝との関係が主客関係に変化していくことの理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第13回	席次から見た王朝交替まとめ	賓主間の席次に着く皇帝の意味から王朝交替のメカニズムを明らかにすることとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第14回	試験日	秋学期講義のまとめおよび結論試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書などについてはテキストに記載してあるが、それ以外のものについては、授業中に紹介するので、それらの参考図書を授業前後に読み、取り扱うテーマとその歴史的背景を理解すること。
なお、中国に関する展覧会などにも積極的に出掛けて、中国への関心と理解を高めることに心がけてもらおうとよい。

【テキスト（教科書）】

岡安勇『中国古代の国家構造』生協扱い
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

なし。ただし、参考図書などについてはテキストで紹介してある。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70%
平常点：30%（毎時間、授業の理解度確認のための小テスト実施）
合計：100%

成績は毎時間に提出する小テストによる平常点と期末試験で評価する。小テストの一定枚数以上の提出者が成績の評価対象となる。期末試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も知的好奇心を刺激する授業を展開するよう心がける。また、専門的な分野を理解できるように、これからも工夫を加えていきたい。

【その他の重要事項】

春学期の「二王の後」という視点、秋学期の「中国古代の席次」という視点の両面から中国古代の国家構造というテーマを解明していくので、両者の視点によってより明確にテーマを理解できると思われる。そのため、履修者には通年で履修を勧める。

【Outline and objectives】

Solution on the National Structure in Ancient China with Reference to the Precedence between Sovereign and Subject, Guest and Host.

HIS200LA

東洋史L I

2017年度以降入学者

HIS200LA

東洋史I

2016年度以前入学者

サブタイトル：前近代ベトナムの歴史と文化

多賀 良寛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、紀元前から19世紀前半にいたる前近代ベトナムの歴史について学ぶ。受講生がベトナムの地域的多様性を把握し、ベトナム史の展開をアジア史および世界史の大きな流れの中に位置付けて理解できるようになることを目指す。

【到達目標】

この授業の履修を通じて受講生は、古代文化の形成から19世紀にいたるベトナムの政治体制、社会経済構造、文化潮流の変化を総合的に理解することができる。そして、ベトナムの持つ地域的・民族的多様性が歴史的にいかにか形成され、現在につながっているのかを把握することが可能になる。さらには、ベトナムの歴史を東アジア・東南アジアおよび世界史全体の歴史展開と結びつけることで、比較と関係性の観点から歴史を捉える能力が獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対するリアクションペーパーの提出を中心とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ベトナムに関する基礎知識	地理・言語・民族・政治経済・宗教など、ベトナムに関わる基本事項を確認
第2回	ベトナム史へのアプローチ	ベトナムに関する史資料を紹介し、ベトナム史研究の様々なアプローチを学ぶ
第3回	古代ベトナムの歴史	ドンソン文化の形成から中国の支配をへて、10世紀に独立を果たすまでのベトナムの歴史を学ぶ
第4回	李朝時代のベトナムの歴史	李朝期（1009-1225）ベトナムの政治・経済・文化について学ぶ
第5回	陳朝時代のベトナムの歴史	陳朝期（1225-1440）ベトナムの歴史を、ユーラシアの変動と関連付けて学ぶ
第6回	明朝の成立と近世ベトナムの形成	明朝によるベトナム統治と黎朝の成立・発展について学ぶ
第7回	莫氏政権の成立とベトナムの南北分裂	16世紀における黎朝の断絶と莫氏政権の成立、ベトナムの南北分裂について学ぶ
第8回	「交易の時代」のベトナム	アジアの交易ブームがベトナムにもたらしたインパクトについて、16~17世紀を中心に学ぶ
第9回	ベトナムと「華人の世紀」	18世紀から活発化するアジア規模での華人の経済進出がベトナム史に与えた影響について学ぶ
第10回	タイソン反乱とベトナム史の大変動	ベトナム史におけるタイソン反乱の位置付けについて学ぶ
第11回	阮朝の成立	南北統一政権としての阮朝の誕生と、その国家統合政策について学ぶ
第12回	19世紀前半のアジア世界とベトナム	阮朝治下ベトナムとアジア世界とのかわりを、広域経済の動向や近隣諸国との関係に着目して学ぶ
第13回	阮朝ベトナムの危機	1830年代より各地で発生したフエ宮廷への対抗運動を通じて、阮朝の統治体制の限界について学ぶ
第14回	ベトナム史の歩みと日本	ベトナムと日本の歴史的な関係について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には、予習として授業で取り上げる時期の東アジア・東南アジア世界の大まかな状況について確認しておく。授業後には学習内容のポイントを復習し、その時代のベトナムの特徴について、他地域と比較しながら説明できるようにする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

古田元夫『ベトナムの基礎知識』（めこん、2017）
 古田元夫『ベトナムの世界史』（東大出版会、1995 / 2015）
 川本邦衛『ベトナムの詩と歴史』（文芸春秋、1967）
 K.W. Taylor. A History of the Vietnamese (Cambridge: Cambridge University Press, 2013)

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーの提出による授業理解度のチェック（50％）と
 期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class is intended to learn the pre-modern history of Vietnam until the first half of 19th century, focusing such topics as politics, economy, culture, and religion. Students who take this class are expected to comprehend regional diversity of Vietnam from a historical perspective and to understand the development of Vietnamese history locating it in a broader context of Asian or World history.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：近現代ベトナムの歴史

多賀 良寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19世紀後半から現代にいたるベトナムの近現代史を学ぶ。近現代ベトナムの歴史経験を知ることで、植民地支配・ナショナリズム・社会主義・総力戦といった世界史の重要テーマについて受講生がより深く理解できるようにすることを目指す。

【到達目標】

受講生はベトナムの近現代史について、フランスによる植民地支配、日本による仏印進駐、8月革命による独立、ベトナム戦争、ドイモイ政策の展開といった重要テーマを理解することができる。そしてこれらベトナムの経験から、近現代の世界がいかに形成されていったのかを学ぶことが可能となる。また近現代ベトナムと日本の関係を振り返ることで、今後より良い日越関係を築いてゆくための手掛かりを、歴史から考える機会が得られる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対するリアクションペーパーの提出を中心とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	伝統ベトナムの形成とその特徴（～19世紀前半）	植民地化以前のベトナムの状況について概観する
第2回	植民地化の進展と阮朝の対応	フランスの植民地侵略に直面して阮朝がいかに反応したかを学ぶ
第3回	フランスによるベトナムの植民地化と東アジアの国際秩序	フランスによるベトナムの植民地化を、19世紀東アジアにおける伝統的国際秩序の変容過程に着目して考える
第4回	植民地期ベトナムにおける言語編成	フランスによる植民地化がベトナム社会に与えた影響を、言語や教育の問題から学ぶ
第5回	植民地期ベトナムの空間認識	フランスによってもたらされた仏領インドシナという枠組みがベトナム人の空間認識に与えた影響について学ぶ
第6回	植民地の経済構造	インドシナにおける植民地経済の形成をアジア域内の分業構造との関連で学ぶ
第7回	近代ベトナムにおけるナショナリズムの萌芽	植民地支配下のベトナムにおけるナショナリズムの形成と東遊運動について学ぶ
第8回	共産主義の波とベトナム	ベトナムを含むアジアにおいて共産主義運動が与えたインパクトについて学ぶ
第9回	アジア・太平洋戦争期における日本の東南アジア支配とベトナム	アジア・太平洋戦争期における日本の南方進出がベトナムに与えた影響について学ぶ
第10回	植民地支配からの独立がもたらしたもの	8月革命による独立から第一インドシナ戦争終結にいたるベトナムの状況を学ぶ
第11回	ベトナム戦争と南北ベトナム	ベトナム戦争期における南北ベトナムの政治経済状況について学ぶ
第12回	世界史におけるベトナム戦争	ベトナム戦争の世界史的意義を、冷戦構造の変容やベトナム反戦運動に着目して学ぶ
第13回	ベトナム戦争後のインドシナ	ベトナムによるカンボジア進攻および中越戦争の過程を学ぶ
第14回	ドイモイ後のベトナム	1986年に始まるドイモイがベトナム社会にもたらした変化について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として授業で取り上げる時代の世界史の基礎知識を確認し、授業後には講義で取り上げたベトナムの動向を他地域と比較しその共通点・相違点を整理する

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない

【参考書】

古田元夫『ベトナムの基礎知識』（めこん、2017）

古田元夫『ベトナムの世界史』（東大出版会、1995 / 2015）

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーによる授業理解度のチェック（50％）と
期末テスト（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class is intended to learn a modern history of Vietnam, spanning from the late 19th century to the present. Through the learning of the historical experience of modern Vietnam, students are expected to achieve a deep understanding of ideas such as colonialism, nationalism, socialism, and total war.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ヘレニズム時代のギリシア

宮崎 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは西洋史全般ではなく、古代ギリシア史である。通常ヘレニズム時代と呼ばれる時期のギリシア世界を、政治史と社会経済史の観点から概観する。

学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」とは何かを考える場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

【到達目標】

学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムを用いてプリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と確認
2	後継者たち	アレクサンドロスの死後（前 323）、その後継者の地位をめぐる争い、それによる東地中海世界の変貌
3	連邦国家 (1)	「連邦」とは何か？；ボリスとエトノス；アイトーリア連邦
4	連邦国家 (2)	アカイア連邦とアラートス
5	連邦国家 (3)	アカイア連邦とスパルタ；スパルタの改革
6	連邦国家 (4)	ペロポネソスをめぐるアカイア連邦、スパルタ、マケドニアの角逐
7	ローマの東地中海進出：その 1	ギリシア世界とローマ人
8	ローマの東地中海進出：その 2	ローマ共和政の政治システムについて概略説明
9	ローマの東地中海進出：その 3	マケドニアとローマ（第 1 および第 2 マケドニア戦争）
10	ローマの東地中海進出：その 4	シリア戦争；親ローマ路線と反ローマ路線
11	ローマの東地中海進出：その 5	前 168 年の意義；アカイア戦争
12	ヘレニズム期のギリシア社会：その 1	世界の拡大と移動する人びと
13	ヘレニズム期のギリシア社会：その 2	ボリス間のさまざまな交渉；弛緩するボリスの封鎖性
14	ヘレニズム期のギリシア社会：その 3	貧富の差の拡大とエヴェルジュティスム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておく（もしくは教師に聞く）。

2) 授業前に前回の授業を反芻する程度のことは行なっておく。

【テキスト（教科書）】

使用しない。その理由は、1) 適当なものがない。2) 教科書を用いると、教科書に記述してあることが「正しい」ことで、試験の時にはこれを覚えればよいという愚かな姿勢を生み出しやすい（教科書とは、本来、いかがわしいものである）。

【参考書】

F. ウォールバンク『ヘレニズム世界』（教文館、1988 年）

吉村忠典『支配の天才ローマ人』（三省堂、1981 年）

以上はいづれも少々古い本だが、名著と評してさしつかえない本なので参考書としてあげておく。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

【その他の重要事項】

- 1) 私語を慎まない学生に対しては厳しい措置をとる。
- 2) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is the history of Greece after Alexander the Great. Students are to learn about the political as well as socio-economic history of Greece from the third to the second centuries B.C.

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：アテーナイ民主政

宮崎 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代アテネ（アテーナイ）の民主政治について、史料に即しながら、具体的にどのように実践されていたのかを講義する。学生諸氏においては、的確な歴史的知識を獲得するとともに、今の時代の「民主主義」について、歴史的に考える視点を獲得してもらいたい。

【到達目標】

アテーナイの民主政治について、よく見かける紋切り型の批判（例：「アテーナイの民主政は結局、衆愚政治になった」）に流されず、的確な知識を獲得し、自分の言葉で正確に表現・説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを用いた講義形式。授業支援システムを通してプリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備作業 1	授業の概要説明と確認：ギリシアの地勢と気候
2	準備作業 2	古代ギリシア史の年代区分：史料について
3	準備作業 3	ポリスとエトノス
4	アテーナイ国制史および政治史 1	前 508 年までのアテーナイ
5	アテーナイ国制史および政治史 2	前 508 年から前 322 年まで
6	民主政の諸制度 1	クレイステネース改革：内容とその意義
7	民主政の諸制度 2	評議会と民会：直接民主政は「衆愚政治」になる？
8	民主政の諸制度 3	法と法廷
9	民主政の諸制度 4	地方自治
10	民主政の社会 1	富裕市民と公共奉仕
11	民主政の社会 2	政治家と政治の実際
12	民主政の社会 3	神々との関係：宗教行為
13	民主政の社会 4	市民団と非市民たち
14	まとめ	今までの論点の整理：民主政批判と民主政の実際

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておく（もしくは教師に聞く）。
- 2) 授業前に前回の授業を反芻する程度のことは行なっておく。

【テキスト（教科書）】

使用しない。その理由は、1) 適当なものがない。2) 教科書を用いると、教科書に記述してあることが「正しい」ことで、試験の時にはこれを覚えればよいという愚かな姿勢を生み出しやすい（教科書とは、本来、いかがわしいものである）。

【参考書】

さしあたり：
M・I・フィンリー『民主主義 古代と現代』（講談社学術文庫、2007 年）
橋場弦『丘のうえの民主政——古代アテネの実験』（東京大学出版会、1997 年）、改題『民主主義の源流——古代アテネの実験』（講談社学術文庫、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

【その他の重要事項】

- 1) 私語を慎まない学生に対しては厳しい措置をとる。
- 2) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is Athenian democracy in the classical period (i.e. the fifth and fourth centuries B.C.). Students are to learn about 1) how the democracy developed in Athens; 2) the details of the democratic institutions; 3) how these institutions worked.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ヘレニズム時代のギリシア

宮崎 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義の名称は「西洋史」となっているが、扱うのは西洋史全般ではなく、古代ギリシア史である。通常ヘレニズム時代と呼ばれる時期のギリシア世界を、政治史と社会経済史の観点から概観する。

学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」とは何かを考える場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

【到達目標】

学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムを用いてプリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と確認
2	後継者たち	アレクサンドロスの死後（前 323）、その後継者の地位をめぐる争い、それによる東地中海世界の変貌
3	連邦国家 (1)	「連邦」とは何か？；ポリスとエトノス；アイトーリア連邦
4	連邦国家 (2)	アカイア連邦とアラートス
5	連邦国家 (3)	アカイア連邦とスパルタ；スパルタの改革
6	連邦国家 (4)	ペロポネソスをめぐるアカイア連邦、スパルタ、マケドニアの角逐
7	ローマの東地中海進出：その 1	ギリシア世界とローマ人
8	ローマの東地中海進出：その 2	ローマ共和政の政治システムについて概略説明
9	ローマの東地中海進出：その 3	マケドニアとローマ（第 1 および第 2 マケドニア戦争）
10	ローマの東地中海進出：その 4	シリア戦争；親ローマ路線と反ローマ路線
11	ローマの東地中海進出：その 5	前 168 年の意義；アカイア戦争
12	ヘレニズム期のギリシア社会：その 1	世界の拡大と移動する人びと
13	ヘレニズム期のギリシア社会：その 2	ポリス間のさまざまな交渉；弛緩するポリスの封鎖性
14	ヘレニズム期のギリシア社会：その 3	貧富の差の拡大とエヴェルジュティスム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておく（もしくは教師に聞く）。
- 2) 授業前に前回の授業を反芻する程度のことは行なっておく。

【テキスト（教科書）】

使用しない。その理由は、1) 適当なものがない。2) 教科書を用いると、教科書に記述してあることが「正しい」ことで、試験の時にはこれを覚えればよいという愚かな姿勢を生み出しやすい（教科書とは、本来、いかがわしいものである）。

【参考書】

F. ウォールバンク『ヘレニズム世界』（教文館、1988 年）
吉村忠典『支配の天才ローマ人』（三省堂、1981 年）

以上はいつでも少々古い本だが、名著と評してさしつかえない本なので参考書としてあげておく。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

【その他の重要事項】

- 1) 私語を慎まない学生に対しては厳しい措置をとる。
- 2) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is the history of Greece after Alexander the Great. Students are to learn about the political as well as socio-economic history of Greece from the third to the second centuries B.C.

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：アテーナイ民主政

宮崎 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代アテネ（アテーナイ）の民主政治について、史料に即しながら、具体的にどのように実践されていたのかを講義する。学生諸氏においては、的確な歴史的知識を獲得するとともに、今の時代の「民主主義」について、歴史的に考える視点を獲得してもらいたい。

【到達目標】

アテーナイの民主政治について、よく見かける紋切り型の批判（例：「アテーナイの民主政は結局、衆愚政治になった」）に流されず、的確な知識を獲得し、自分の言葉で正確に表現・説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを用いた講義形式。授業支援システムを通してプリントを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備作業 1	授業の概要説明と確認：ギリシアの地勢と気候
2	準備作業 2	古代ギリシア史の年代区分：史料について
3	準備作業 3	ポリスとエトノス
4	アテーナイ国制史および政治史 1	前 508 年までのアテーナイ
5	アテーナイ国制史および政治史 2	前 508 年から前 322 年まで
6	民主政の諸制度 1	クレイステネース改革：内容とその意義
7	民主政の諸制度 2	評議会と民会：直接民主政は「衆愚政治」になる？
8	民主政の諸制度 3	法と法廷
9	民主政の諸制度 4	地方自治
10	民主政の社会 1	富裕市民と公共奉仕
11	民主政の社会 2	政治家と政治の実際
12	民主政の社会 3	神々との関係：宗教行為
13	民主政の社会 4	市民団と非市民たち
14	まとめ	今までの論点の整理：民主政批判と民主政の実際

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておく（もしくは教師に聞く）。
- 2) 授業前に前回の授業を反芻する程度のことは行なっておく。

【テキスト（教科書）】

使用しない。その理由は、1) 適当なものがない。2) 教科書を用いると、教科書に記述してあることが「正しい」ことで、試験の時にはこれを覚えればよいという愚かな姿勢を生み出しやすい（教科書とは、本来、いかがわしいものである）。

【参考書】

さしあたり：
M・I・フィンリー『民主主義 古代と現代』（講談社学術文庫、2007 年）
橋場弦『丘のうえの民主政——古代アテネの実験』（東京大学出版会、1997 年）、改題『民主主義の源流——古代アテネの実験』（講談社学術文庫、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験（論述形式、持ち込み不可）を行なう（予定）。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

【その他の重要事項】

- 1) 私語を慎まない学生に対しては厳しい措置をとる。
- 2) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is Athenian democracy in the classical period (i.e. the fifth and fourth centuries B.C.). Students are to learn about 1) how the democracy developed in Athens; 2) the details of the democratic institutions; 3) how these institutions worked.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに関接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第 7 回	イギリス商業革命 1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。
第 8 回	イギリス商業革命 2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
第 9 回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第 10 回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第 11 回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第 12 回	13 植民地の独立	13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
第 13 回	産業革命と帝国	産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第 14 回	まとめ	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

British History from the 16th century to the 19th century

In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀～ 20 世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	19 世紀～ 20 世紀にかけてのイギリスのあゆみを概観します。
第 2 回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第 3 回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第 4 回	二重革命の時代 3	フランス革命がイギリスにどのような栄光を与えたか、引き続き検討します。
第 5 回	帝国の再編	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を説明します。
第 6 回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきます。このミドル・クラスの特徴を「リスベクタビリティ」という言葉をキーワードに検討します。
第 7 回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第 8 回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが 19 世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。
第 9 回	アイルランド移民	労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。
第 10 回	怠惰な女性と善良な女性 1	19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第 11 回	怠惰な女性と善良な女性 2	19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。
第 12 回	帝国主義の時代	1870 年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。
第 13 回	社会帝国主義	イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きく変わったことを検討します。

第 14 回 まとめ

19 世紀のイギリスがどのような特徴を持つ社会であったのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

Britain in the 19th Century

In this lecture we analyse British society in the 19th century through class, gender, ethnicity and the British Empire.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第 7 回	イギリス商業革命 1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。
第 8 回	イギリス商業革命 2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
第 9 回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第 10 回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第 11 回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第 12 回	13 植民地の独立	13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
第 13 回	産業革命と帝国	産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第 14 回	まとめ	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

British History from the 16th century to the 19th century

In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

HIS200LA

西洋史 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀～ 20 世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	19 世紀～ 20 世紀にかけてのイギリスのあゆみを概観します。
第 2 回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第 3 回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第 4 回	二重革命の時代 3	フランス革命がイギリスにどのような栄光を与えたか、引き続き検討します。
第 5 回	帝国の再編	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を説明します。
第 6 回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきます。このミドル・クラスの特徴を「リスベクタビリティ」という言葉をキーワードに検討します。
第 7 回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第 8 回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが 19 世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。
第 9 回	アイルランド移民	労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。
第 10 回	怠惰な女性と善良な女性 1	19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第 11 回	怠惰な女性と善良な女性 2	19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。
第 12 回	帝国主義の時代	1870 年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。
第 13 回	社会帝国主義	イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きく変わったことを検討します。

第 14 回 まとめ

19 世紀のイギリスがどのような特徴を持つ社会であったのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りに授業内容や感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

Britain in the 19th Century

In this lecture we analyse British society in the 19th century through class, gender, ethnicity and the British Empire.

HIS200LA

日本史 L I

2017 年度以降入学者

HIS200LA

日本史 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：近世社会の成立と確立

横濱 文孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近世社会の成立と確立

近世社会は、江戸幕府とその支配下にあった藩が統治した政治体制下の社会であり、封建支配体制が長期に持続した時代でもありました。本講座では、この近世という社会の特徴を様々な視点から掘り起こすことで、豊かな歴史像を提示したいと考えています。

【到達目標】

教科書を通して学んだ歴史は、年号や用語を丸ごと覚えるなど、苦手だ、面白くないといったイメージがあります。しかし、本来、歴史は様々な事象を、資料を通して読み解いていく創造する学問です。本講座は、特に豊富な資料を有する近世という時代を取り上げ、具体的な事例をあげながら、楽しく歴史を学び、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、適宜配布するプリントをもとに講義形式とする予定です。さらに歴史、とりわけ近世のイメージを広げるために、江戸時代の資料（古文書）を取り上げながら、時代を探る視点として積極的に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と進め方について説明します
第 2 回	日本の時代区分の始まり	先駆者の考えた時代の画期を探ります
第 3 回	封建制の語義と一・二の学説	封建制社会のあり方を学びます
第 4 回	近世の範囲	近世 300 年を探ります
第 5 回	豊臣政権の成立	豊臣の平和令を探ります
第 6 回	関ヶ原合戦と徳川・豊臣の関係	合戦を通じて豊臣の処遇を考察します
第 7 回	江戸幕府の成立	徳川の時代の到来を学びます
第 8 回	幕藩制確立期の要素 (1)	石高制・身分制などについて学びます
第 9 回	幕藩制確立期の要素 (2)	17 世紀半ばの幕藩制確立期の諸要素を探ります
第 10 回	近世の将軍と天皇	近世の天皇の処遇について考えます
第 11 回	鎖国と「四つの口」	幕府の対外政策を学びます
第 12 回	慶安期とは、どういう時代だったのか (1)	慶安の御触書と慶安の検地条令とは何だったのかを探ります
第 13 回	慶安期とは、どういう時代だったのか (2)	慶安の軍役令とは何だったのかを探ります
第 14 回	為政者の肖像画と近世の肖像画の特徴	肖像画から見えてくる近世像を探ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配布したプリントを改めて読み直すなど、次回に備えてください。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布しますので、テキストは必要ありません。

【参考書】

参考となる文献は、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）と平常点等（20 %）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】

江戸時代の理解を深めるために、より具体的な古文書や絵画資料などを積極的に活用するようにします。

【Outline and objectives】

Explores the features of the early modern society from the perspective of people's life and an abundant historical image.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：近世の庶民文化

横濱 文孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近世の庶民文化

近世は、土農工商とする封建的な身分制社会でした。しかし、その一方で文化は成熟し、時代とともに俳諧などの文芸を中心に大衆化するようになり、次第に身分の平準化をもたらしていきました。本講座は、その過程を探りつつ、庶民や下級武士層の文化にも触れながら、近世の文化の実像を考えてみたいと思います。

【到達目標】

従来、近世は封建的な身分制社会のもとに四民が厳格に編成されていました。しかし、庶民の文化や文芸に触れることで、これまで教科書で学んできた時代とは別に、そこには豊かな歴史イメージを膨らませることができます。本講座では、当時の人々の生活を様々な資料を読み解きながら、歴史を学ぶ視点や研究の方法論などを培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、適宜配布するプリントをもとに講義形式とする予定です。さらに文化の大衆化を探る手がかりとして、江戸時代の資料（古文書）を積極的に活用し、当該期のイメージを具体的に掘り下げていきたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と進め方について説明します
第2回	外国人から見た日本人のイメージ	外国人の書き残した文献をもとに日本人のイメージを探ります
第3回	近世社会と庶民教育	寺子屋教育のあり方と川柳に見る子どもたちの生き生きとした姿に触れます
第4回	近世社会に見る女子教育の実情	滑稽本『浮世風呂』に描かれた女の子の一日に触れながら、その内実を探ります
第5回	近世俳諧の流れ	俳諧の潮流を探りながら、庶民文化への影響を考えます
第6回	近世社会と文芸(1)	俳諧史の時代区分について考察します
第7回	近世社会と文芸(2)	芭蕉没後の彼の顕彰活動と俳諧のあり方を探ります
第8回	芭蕉の虚像と実像(1)	学説から見えてくる芭蕉の実像を探ります
第9回	芭蕉の虚像と実像(2)	芭蕉が江戸日本橋から何故深川に移居したのか歴史的事象から考察します
第10回	芭蕉の肖像画から見えてくるもの(1)	芭蕉の肖像画研究の現状と新たな研究視点について触れます
第11回	芭蕉の肖像画から見えてくるもの(2)	芭蕉の肖像画の類型化とデフォルメの過程を探ります
第12回	芭蕉句碑建立と俳諧の浸透	芭蕉句碑が何故全国に多く建立されてきたのかを探ります
第13回	下級武士層と俳諧集団の形成	下級武士層を通して庶民との文化の交流を探ります
第14回	近世社会と俳諧集団の権威化	文化の大衆化と俳諧集団のあり方について考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配布したプリントなどを改めて読みますなど、次回に備えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布しますので、テキストは必要ありません。

【参考書】

参考となる文献は、講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）と平常点等（20％）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】

江戸時代の理解を深めるために、より具体的な古文書や絵画資料などを積極的に活用するようにします。

【Outline and objectives】

Explores the culture of Japan in the early modern period including the culture of common people and the lower samurai.

HIS200LA

日本史ⅠⅠ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：平安時代の政治と社会

黒須 友里江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代は、国家のあり方が従来の律令体制から大きく変化した時代である。この授業では、その変化の一つの到達点といえる摂関期を中心に、政治・社会の仕組みを様々な視点から学び、政治・社会についての新たな捉え方を身につけることを目指す。

【到達目標】

・現代と異なる平安時代の政治・社会の構造について、具体的なイメージを持つことができる。
・授業で扱った事柄をふまえ、政治・社会そのものについて考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
2	摂政・関白とは何か	摂政・関白の機能と成立過程、従来の政治体制との比較
3	摂関政治の仕組み	摂関政治の具体的な様相
4	摂関期の政治空間	政治の場となった内裏や貴族の邸宅の構造
5	年中行事の成立と意義	国家にとっての年中行事の意味
6	政治と儀式	儀式や儀式的要素が政治において果たした役割
7	貴族の生活と政治	貴族の生活と政治の関わり
8	受領と中央・地方	地方支配を請け負った受領の実態
9	摂関期の女性	女性の政治的・文化的役割
10	外交と国風文化	摂関期の外交と文化の実態
11	摂関政治から院政へ	摂関政治から院政への政治体制の移行過程
12	院政期の政治	摂関期との比較からみた院政期の政治の特徴
13	日本史の中の平安時代	平安前・中・後期の政治・社会の日本史全体の中での位置づけ
14	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回復習を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

大津透『道長と宮廷社会』（講談社・講談社学術文庫）、坂上康俊『摂関政治と地方社会』（吉川弘文館）、古瀬奈津子『摂関政治』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

期末試験（論述を主とする）80 %

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版の活用、史料解説を積極的に行い、理解の一助とする。

【Outline and objectives】

This course introduces the society and the government of Japan in the Heian period to students taking this course. The following topics are dealt with in this course. The system of Regent politics, the meaning of the political space, the function of the ceremonies, the mechanism of the local administration, the lifestyle of the nobles, the reality of Kokufu-bunka and the system of Cloister government.

HIS200LA

日本史ⅠⅡ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：古代の天皇と政治

黒須 友里江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代史の研究において、天皇制は根本的なテーマの一つである。この授業では、古代の政治の中に天皇がどのようにあらわれるのか、またそれが院政期までの間にいかに変化したのかを学ぶ。

【到達目標】

・古代国家における天皇の位置づけについて基礎的な事柄を理解する。
・古代の国家・政治の仕組みについて考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
2	国家の成立と天皇	天皇を統治者とする国家の成立過程
3	奈良時代の天皇	律令制における天皇の位置づけ
4	平安初期の天皇	平安初期に起こった王権の変化
5	摂政・関白と天皇	摂関期の貴族と天皇の関係
6	上皇と天皇	太上天皇（上皇）に関する歴史的経緯
7	院政期の天皇	院政期の政治における天皇の位置づけ
8	内裏空間の変遷	内裏構造の変遷とその政治的意味
9	天皇をめぐる儀礼	天皇に関する主要な儀礼とその意味
10	天皇と年中行事	年中行事や儀式への天皇の関与とその意味
11	中央の政治と天皇	中央政治と天皇との関わり
12	天皇と地方支配	天皇が地方支配を体現する仕組み
13	天皇と神事・仏事	天皇が行う宗教的儀式の意味
14	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回復習を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

『天皇の歴史』シリーズ（講談社・講談社学術文庫）、吉田孝『歴史のなかの天皇』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

期末試験（論述を主とする）80 %

【学生の意見等からの気づき】

史料や専門用語の解説を積極的に行い、理解の一助とする。

【Outline and objectives】

This course introduces the emperor system of ancient Japan to students taking this course. The following topics are dealt with in this course. The authority and the role of the emperor, the relationship between the emperor and the government, the relationship between the emperor and the retired emperor, the structure of the Imperial Palace and the meaning of the ceremonies done by the emperor.

HIS200LA

日本史ⅠⅡ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：日本中世社会を理解するために

貫井 裕恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。*日本史ⅠⅡもあわせて受講することを推奨します。

【到達目標】

・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに対応するかたちで復習を行います。

通常の講義とは別に1回、美術館・博物館での見学に行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	日本における歴史学の発達史と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特徴とユネスコ記憶遺産について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	文書管理（アーカイブズ）	中世寺院における文書管理のありかたを学ぶ
7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ
8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	【弘法大師行状絵巻】など寺院における絵巻作成の背景や利用方法を学ぶ
11	荘園の構造	荘園制について学ぶ
12	荘園絵図の世界	現存する荘園絵図から中世社会の諸問題を学ぶ
13	レポート課題について	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評
14	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・使用テキストは事前に予習しておく。（予習の仕方については教場で説明します。）

・1回の美術館・博物館見学を行う。（場所と展覧会は教場でお伝えします。）
・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年

・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年

このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、平常点40%で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

日本史ⅠⅡもあわせて受講しているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【その他の重要事項】

日本史ⅠⅡもあわせて受講することを推奨します。

日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとおくにお待ちしております。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：日本中世社会と寺院

貫井 裕恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。*日本史ⅡIもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】

・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに対応するかたちで復習を行います。

通常授業とは別に1回、美術館・博物館での見学に行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世史料として伝存する寺院史料を概観し、東寺百合文書の特徴を探る
5	中世東寺の幕開け	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業から蒙古襲来までの歴史を学ぶ
7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりを焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ
8	文書の管理と利用	中世寺院における文書・聖教の管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	室町期修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	室町期に発達した寺院における芸能を学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱下における東寺の状況と、有事における対策のありかたを学ぶ
14	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・使用テキストは事前に予習しておく。（予習の仕方については教場で説明します。）

・1回の美術館・博物館見学を行う。（場所と展覧会は教場でお伝えします。）
・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年

・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年

このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、平常点40%で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【その他の重要事項】

日本史ⅡIもあわせて受講することを推奨します。

日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.

HIS200LA

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

法文営国環キ1～4年

【Outline and objectives】

各回の授業は、通常、3部構成からなっています。①歴史的な出来事②歴史上の人物③現代に関するトピックの3点をバランスよく学びます。戦前の歴史に主として焦点をあてることにします。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本近代史（政治史、社会史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本近代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、パワーポイントを使用し、かつ、レジュメと史料のコピーを配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	明治維新について考える	明治維新や明治時代について考える。
2	ペリー来航と外圧	外圧下における内政と外交について理解を深める。
3	西郷隆盛と西南戦争	西郷隆盛や武士の果たした役割についても言及する。
4	明治憲法と戦前の日本	いわゆる明治憲法体制の形成と崩壊について考える。
5	日清戦争と三国干渉	対外戦争が国内政治に与えたインパクトについて考える。
6	日露戦争と鈴木貫太郎	近年の研究動向をふまえ、日露戦争のインパクトについて考える。
7	第一次世界大戦と日本	ヨーロッパを舞台とした第一次世界大戦が日本に与えた影響について考える。
8	満州事変と幣原喜重郎	「満州事変」が日本の国内政治をどのように変容させたのかについて考える。
9	五・一五事件と犬養毅	五・一五事件とその後の影響について考える。
10	二・二六事件と斎藤実	二・二六事件とその思想的背景について考える。
11	天皇機関説事件と岡田啓介	いわゆる「天皇機関説」について、当時の史料を読みながら、この問題について考察を深める。
12	外務省と広田弘毅	日本外務省の「戦前」と「戦後」について考える。
13	近衛新体制と大政翼賛会	様々なネットワークが、この時期の政治に与えた影響について考える。
14	日本近代史を考える	日本近代史の見方や解釈について、先行研究の論点を整理し、考察を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

御厨貴編『増補新版 歴代首相物語』（新書館、二〇一三年）
阿川弘之ほか『二十世紀日本の戦争』（文春新書 112、文藝春秋、二〇〇〇年）
半藤一利ほか『大人のための昭和史入門』（文春新書 1038、文藝春秋、二〇一五年）

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

HIS200LA

日本史Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法文営国環キ 1～4年

【Outline and objectives】

各回の授業は、通常、3部構成からなっています。①歴史的な出来事②歴史上の人物③現代に関するトピックの3点をバランスよく学びます。戦後の歴史に主として焦点をあてることにします。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本現代史（政治史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的な概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本現代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、パワーポイントを使用し、かつ、レジュメと史料のコピーを配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本現代史について考える	「戦前」と「戦後」について考える。
2	日中戦争の拡大と米内光政	日中戦争がどのような論理と政治力学によって拡大したのかを考察する。
3	日独伊三国同盟と第二次世界大戦 国民精神の総動員と統制	「同盟」を理論的、比較的観点から考える。
4	開戦と東条英機	日米開戦にいたる政治過程を概観する。
5	戦場の諸相と戦時下の生活	当時の国民生活や戦場の実態について理解を深める。
6	戦局の悪化と日本の降伏	日本降伏の要因について検討する。
7	占領と改革 米ソの冷戦の開始	米ソの対立が日本にどのような影響を与えたのかを考える。
8	新憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程について概観する。
9	占領政策の転換と吉田茂	吉田茂とその政治グループの位置づけについて考える。
10	55年体制の成立と岸信介	岸信介とその政治グループの位置づけについて考える。
11	高度経済成長下の自民党政権と佐藤栄作	佐藤栄作とその政治グループの位置づけについて考える。
12	日中国交正常化と高度成長	戦後の日中関係について概観する。
13	冷戦の終結と日米関係	日米関係を長期的視点から考察する。
14	21世紀の日本外交 相互理解にむけて	日本の内政と外交がどのような関連性を持っているのかを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

御厨貴編『増補新版 歴代首相物語』（新書館、二〇一三年）
阿川弘之ほか『二十世紀日本の戦争』（文春新書 112、文藝春秋、二〇〇〇年）
半藤一利ほか『大人のための昭和史入門』（文春新書 1038、文藝春秋、二〇一五年）

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

PHL200LA

宗教論Ⅰ

2017年度以降入学者

PHL200LA

宗教論Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：宗教論の歴史（古代から近代まで）

須藤 孝也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本人にとって、宗教は縁遠いものに思われがちですが、少なくともこれまでの歴史のなかでは宗教は非常に大きな役割を果たしてきたと言うことができます。どのような経緯があって現在があるのか、それを知るために、宗教について知ることは不可欠です。本授業では、宗教がいかに信じられ、語られ、批判されてきたのか、その歴史を概観します。

【到達目標】

- ①各々の人間がどのようなものとして宗教を理解していたのかを知る。
- ②各々の人間がどのように宗教を弁護していたのか/批判していたのか、説明することができる。
- ③様々な議論を踏まえることで、宗教に関する自らの理解を発展させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と対話。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、進め方、成績の付け方、等について説明する。
第2回	古代（1）	ソクラテスとプラトン
第3回	古代（2）	アリストテレス
第4回	中世	トマス・アキナス
第5回	近代（1）	デカルト
第6回	近代（2）	スピノザ
第7回	近代（3）	ロック
第8回	近代（4）	ライプニッツ
第9回	近代（5）	ヒューム
第10回	近代（6）	ルソー
第11回	近代（7）	カント
第12回	近代（8）	ヘーゲル
第13回	近代（9）	フォイエルバッハ
第14回	近代（10）	キルケゴール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に参考文献を示しますので、そのうちから1冊は読んでください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

適宜、授業中に示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点：積極的に取り組んでいる者を評価します。
期末小論文60点：①授業から学んだこと、②文献から学んだこと、③自ら考えたことを総合して書いてください。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める声はありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

宗教論Ⅱと合わせて履修されることをおすすめします。

【Outline and objectives】

We review how religions had been believed, talked and criticized.

PHL200LA

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

PHL200LA

宗教論Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：宗教論の歴史（近代から現代まで）

須藤 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本人にとって、宗教は縁遠いものに思われがちですが、少なくともこれまでの歴史のなかでは宗教は非常に大きな役割を果たしてきたと言うことができます。どのような経緯があって現在があるのか、それを知るために、宗教について知ることは不可欠です。本授業では、宗教がいかに信じられ、語られ、批判されてきたのか、その歴史を概観します。

【到達目標】

- ①各々の人間が`と`のようなものとして宗教を理解していたのかを知る。
- ②各々の人間が`と`のように宗教を弁護していたのか/批判していたのか、説明することが`て`きる。
- ③様々な議論を踏まえることで`、宗教に関する自らの理解を発展させることが`て`きる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と対話。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、進め方、成績の付け方、等について説明する。
第2回	近代までの流れ	宗教論Ⅰのおさらい
第3回	キルケゴール（1）	キルケゴールの生涯
第4回	キルケゴール（2）	キルケゴールの宗教論
第5回	ニーチェ（1）	ニーチェの思想
第6回	ニーチェ（2）	ニーチェの宗教論
第7回	バタイユ	バタイユの宗教論
第8回	シモーヌ・ヴェイユ	ヴェイユの宗教論
第9回	ヴィトゲンシュタイン	ヴィトゲンシュタインの宗教論
第10回	M. フーコー	フーコーの宗教論
第11回	P. バーガー	バーガーの宗教論
第12回	N. ルーマン	ルーマンの宗教論
第13回	J. デリダ	デリダの宗教論
第14回	M. ガンディー	ガンディーの宗教論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に参考文献を示しますので`、そのうちから1冊は読んで`くた`さい。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

適宜、授業中に示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点：積極的に取り組んで`いる者を評価します。
期末小論文60点：①授業から学んだ`こと、②文献から学んだ`こと、③自ら考えたことを総合して書いて`くた`さい。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める声はありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

宗教論Ⅰと合わせて履修されることをおすすめします。

【Outline and objectives】

We review how religions had been believed, talked and criticized.

ECN200LA

経済学 I A

2017 年度以降入学者

ECN200LA

経済学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：マイクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎を速習する

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は、春学期開講『経済学 LA』(担当:中平)です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』(担当:中平)に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？

経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競争する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学 LA』では、「マイクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

【到達目標】

・マイクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようにする。

・マイクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

経済理論を2つに大別すると、「マイクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「マイクロ (マイクロ) 経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得配分の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「マイクロ (マイクロ) 経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済に及ぼす影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のマイクロ (マイクロ) 的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「マイクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「マイクロ (マイクロ) 経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のマイクロ (マイクロ) 的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくマイクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第02回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第03回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (I)
第04回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第05回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第06回	市場均衡 (II)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場

第07回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第08回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第09回	消費関数	消費と消費関数
第10回	投資関数	投資と投資関数
第11回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第12回	IS・LM 曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS 曲線・LM 曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第13回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第14回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

【テキスト (教科書)】

*テキストは諸般の事情により変更されることがあります。第1回講義での指示に注意してください。

・塩澤修平 (著)『基礎コース 経済学 (第2版)』新世社、2011年。

【参考書】

・浅田統一郎 (著)『マクロ経済学基礎講義 (第3版)』中央経済社、2016年。

・浅田統一郎 (著)『マイクロ経済学の基礎 (第2版)』中央経済社、2017年。

・井原哲夫/桜本光/辻村和佑/牧厚志 (著)『経済学入門-現実の経済を理解するために (第2版)』日本評論社、2008年。

・スティグリッツ、ジョセフ・E. /ウォルシュ、カール・E. (著)、藪下史郎/

秋山太郎/齋川靖浩/大久博/木立力/宮田亮/清野一治 (訳)『スティグリッツ

入門経済学 (第4版)』東洋経済新報社、2012年。

・林直嗣 (著)『経済学入門』新世社、2013年。

・福岡正夫 (著)『ゼミナール経済学入門 (第4版)』日本経済新聞出版社、2008年。

・マンキュー、N. グレゴリー (著)、足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬

宏之/柳川隆 (訳)『マンキュー入門経済学 (第2版)』東洋経済新報社、2014年。

・Bade, Robin and Michael Parkin, *Essential Foundation of Eco-**nomics*(8th ed.)(pap.), Pearson, 2017.・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer, *Price Theory**and Applications: Decisions, Markets, and Information*(7th ed.)(pap.),

Cambridge Univ. Press, 2005.

・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Essentials of**Economics*(6th ed.), Pearson, 2018.・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Economics*(7th ed.),

Pearson, 2018.

・Krugman, Paul and Robin Wells, *Economics*(5th ed.), Worth

Publishers, 2018.

【成績評価の方法と基準】

・【試験 (90%) + 平常点 (10%) = 総合点 (100%)】の評点配分で成績が決定

されます。

・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱い

とすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講

義担当者に相談してください。

・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。

・テキストは必ず購入してください。参考文献の購入は、各自の必要性に応じて判断してください。

・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【関連科目】

・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』(担当:中平)。また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

ECN200LA

経済学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：**観光経済学の基礎**

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。
観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ（マイクロ）・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一つと位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	観光の現状と課題、SNA と観光統計 (1)	観光のもたらす課題、SNA の概念と観光統計
第 02 回	SNA と観光統計 (2)	SNA の基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第 03 回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第 04 回	消費理論と観光 (1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第 05 回	消費理論と観光 (2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第 06 回	投資理論と観光 (1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第 07 回	投資理論と観光 (2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第 08 回	消費者行動と観光 (1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第 09 回	消費者行動と観光 (2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第 10 回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第 11 回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第 12 回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第 13 回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第 14 回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦／藪田雅弘（編著）『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017 年。

【参考書】

・M.T. シンクレア／M. スタブラー（著）、小沢健市（監訳）『観光の経済学』学文社、2001 年。
・ジェームズ・マック（著）、瀧口／藤井（監訳）『観光経済学入門』日本評論社、2005 年。
・中崎茂（著）『観光の経済学入門－観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院、2002 年。
・スティーブン・J. ページ（著）、木谷／松下／図師（訳）『交通と観光の経済学』日本経済評論社、2001 年。
・A. ブル（著）、諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井（訳）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社、1998 年。
・Bull, Adrian(1995), *The Economics of Travel and Tourism*(2nd revised ed.), Longman.
・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer(2010), *Tourism Economics and Policy*, Channel View Publications.
・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair(2009), *The Economics of Tourism*, 2nd. ed., Routledge.
・Sullivan, Charlotte(ed.)(2016), *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.

【成績評価の方法と基準】

・【試験 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)】の評点配分で成績が決定されます。
・各種公式行事の出席などによる止むを得ない欠席は、申告によって出席扱いとすることがありますので、これに該当する可能性がある場合は、早期に講義担当者に相談してください。
・出席数が規定数を下回る場合は、特別な場合を除き、単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・必要に応じて講義内で指示を行います。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは必ず購入してください。参考文献の購入は、各自の必要性に応じて判断してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of economics of tourism. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory. In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

ECN200LA

経済学 I A

2017 年度以降入学者

ECN200LA

経済学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：経済学の考え方の根底にあるもの

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国環キ 1~4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「本講義では、経済学がどのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に着けることができる」近代経済学は、21 世紀の経済が抱える課題、たとえば、デフレ、ゼロ金利、長期停滞、そして格差・貧困問題などの原因をどうとらえ、どう対処しようとしているのかを学ぶことができる。

現実には、近代経済学はこれらの問題に対して有効な処方箋を提示できない。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようになる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、日本の「失われた 20 年」の背景を理解することができる。

なぜ、20 年にわたるデフレが続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、トランプ大統領誕生によりグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身につけることができる。

秋学期の「経済学 LB」を合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心。授業支援システムや質問表を通じて、質問をうけ、回答をすることで双方向のコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期と秋学期を通じて、講義全体の流れを説明	経済学の考え方とはなにかについて、概略の説明
第 2 回	経済学はどのような性格をもった学問かについて（教科書 I 章）	社会科学としての経済学の方法について説明
第 3 回	経済学の基礎的概念について	利子率、資本とは何か、インフレ、デフレ
第 4 回	アダム・スミスの『国富論』（教科書 II 章）	『国富論』は『道徳感情論』を前提として成り立っていることを説明
第 5 回	リカードからマルクスへ（教科書 III 章）	マルクス経済学誕生の背景とマルクスの歴史観について説明 第 1 回～5 回までの講義に関する質問表の配布
第 6 回	近代経済学の誕生（教科書 IV 章）	産業革命と経済学における「限界革命」（近代経済学を誕生させた概念）の関連性について説明、質問に対して説明
第 7 回	新古典派経済理論の批判者（教科書 V 章）	新古典派経済学の前提は果たして正しいのか
第 8 回	ケインズ革命（教科書 VI 章）	1930 年代の世界大恐慌をケインズはどのように克服しようとしたのか
第 9 回	戦後の経済学、経済成長理論（教科書 VII 章）	戦後、資本主義の黄金時代を迎えたのはなぜか
第 10 回	1971 年「経済学の第二の危機」（教科書 VIII 章）	不均衡と不安定の時代を迎えて経済学はどう対処したのか、ガブレイズの「不確実性の時代」
第 11 回	反ケインズ経済学の流行（教科書 IX 章）	フリードマン、ハイエックの新自由主義、マネタリズムとは
第 12 回	日本の「失われた 20 年」の原因は	日本の土地・バブルはなぜ発生したのか、米ソ冷戦とレーガノミクス
第 13 回	グローバリゼーションとは	グローバリゼーション近代的现象か、ポスト近代か？
第 14 回	日本のゼロ金利は何を意味しているのか	「過剰・飽満・過多」（「火山に恋して」（スーザン・ソントグ）、「長い 16 世紀」（1450-1650 年）との比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で使用したレジュメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【参考書】

『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末試験 60 %
受講態度は 4 回程度提出した質問票で評価

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

経済学 I、経済学 II を履修している必要はない。

【Outline and objectives】

This course introduces the Principles of Micro and Macro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics? There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

ECN200LA

経済学Ⅰ B

2017年度以降入学者

ECN200LA

経済学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：経済学の根底にある倫理

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済学は、元来倫理学、道徳学、法学と一体化することで、人間とは何かを考えようとする学問であった。19世紀以降、そうした考え方が希薄化し、専門化の方向を選んだ。

21世紀にはいって、正統派経済学は様々な問題に有効な処方箋を提示できなくなりつつあり、再度、倫理学、道徳学、法学の関連性を問うことで、経済学の再構築を考察することができる。

【到達目標】

「近代経済学の再検討」を通じて、21世紀の世界経済が抱える問題の背景、原因を考察することができる。さらに、「近代とはいかなる時代か」を考察することができるようになる。そして、近代が「発見」した社会とはいかなる概念であるかを考えることで、21世紀の抱える課題を理解することができる。

春学期の「経済学ⅠA」で到達目標としたことをさらに高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心。授業支援システムを通じて、質問をうけ、回答をすることで双方向のコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	正統派経済学の崩壊、なぜ異次元金融緩和は目標（消費者物価2%増）を達成できないのか
第2回	近代とはいかなる時代か	中世、古代となにが決定的に異なるのか、19世紀＝経済の時代、20世紀＝技術の時代、近代（17-20世紀）とは、経済問題であらゆることが解決できると信じた時代、21世紀はいかなる時代か？
第3回	社会とはなにか	近代が発見した「社会」とは、アダム・スミスが考えた社会とは
第4回	近代経済学の前提とは	20世紀になって生じた経済学と倫理学的分離の背景
第5回	経済の根底にあるものとは	「資本主義・民主主義・社会保障」
第6回	経済の究極にあるものとは	自由を通ずる卓越、文化価値とは
第7回	経済と倫理との関係、経済学と政治学との関係	モラルサイエンスとしての経済学、20世紀の正統派経済学はなぜ倫理を扱うことを止めたのか、「人間は政治的動物である」
第8回	社会保障を通じた価値理念の整合化	「官から民へ」と「私から公へ」の両立をいかに図るか
第9回	「経済的」価値の性質	生産され消費される財の価値と、それが生み出す善との間にいかなるギャップが生まれるか
第10回	効率と正義	生産の効率と分配の平等、均衡・効用・効率
第11回	道徳的平等とはなにか	暴力としての正義、財と効用の間
第12回	自由と卓越（徳）	自由と卓越の関係について、自由の哲学的基礎
第13回	所在と所有	ロールズの正義論対ノジックの自由至上主義
第14回	資本主義の倫理学	情報・誘因・所有システム、2つの資本主義モデル（アメリカ型と日本型）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で使用したレジメを教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

なし、授業支援システムを通じて事前にレジメを配布

【参考書】

『経済と倫理』塩野谷祐一、東京大学出版会、2002年

<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-003451-7.html>

『社会とは何か』竹沢尚一、中公新書、2010年

<http://www.chuko.co.jp/shinsho/2010/01/102037.html>**【成績評価の方法と基準】**

受講態度 40%+期末試験 60%

受講態度は4回程度提出した質問票で評価

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前にPCなどで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

経済学Ⅰ、経済学Ⅱを履修している必要はない。

【Outline and objectives】

This course introduces the Principles of Economics and ethics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

ECN200LA

経済学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：東アジア経済論

陳 文 挙

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀はアジアの時代だと言われており、東アジア新興国や中国の台頭によってアジア地域のみならず、世界の政治経済、社会文化、安全保障の構図も変わりつつある。本講義では経済発展の基礎理論を学ぶ上、東アジア経済発展の歴史、過程、経験および教訓などについて考察する。また、日本と東アジア諸国の経済関係や環太平洋地域協定（TPP）、そして米中貿易戦争の進行状況などの時の話題をも取り上げ、一緒に検討し、東アジア地域経済の全体像を把握していく。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントによる講義。講義に並行してビデオ鑑賞、授業内練習を行うこともある。講義内容に応じてリアクションペーパーの提出を求めることもある。新聞、雑誌および Web サイト等の最新参考資料を配布し、講義内容を深め、予習・復習に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済論の基礎、研究概要、成績評価等
2	現代経済の仕組み	家計、企業、政府：資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展
3	東アジア近代経済史 1	商業の発達、シルクロードから国際貿易、アヘン戦争、アジアの植民地
4	東アジア近代経済史 2	明治維新の成功による日本の近代化と戊戌変法の失敗による中国の半植民地化
5	農業の発展 1：緑の革命	伝統農業から近代農業へ、消費の価格弾力性、豊作貧乏
6	農業の発展 2：労働移動	都市化、貧困とスラム現象
7	工業の発展 1：比較優位仮説	脱植民地、自力更生から輸出振興、貿易立国へ
8	工業の発展 2：産業移転	ベティ・クラークの法則、雁行形態と空洞化
9	東アジアの格差問題	経済発展、格差の問題と逆 U 字仮説
10	東アジアの人口問題 1	マルサス人口論、人口の構造変化と機会費用
11	東アジアの人口問題 2	人口爆発から少子高齢化へ、人口変動と政策変換
12	東アジア経済統合について	FTA、RCEP、TPP、ASEAN+3、ASEAN+6 とは何か
13	政府開発援助と中国の「一帯一路」戦略	国際援助の在り方、日本政府の ODA と中国の「一帯一路」戦略の実像
14	まとめ	復習と期末レポート作成要領

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『現代東アジア経済論』、三重野文晴・深川由起子（編集）、ミネルヴァ書房。
『開発経済学—諸国民の貧困と富』、速水佑次郎、創文社。
『現代アジア経済論』、原洋之介（著）、岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する理解、授業内演習および期末レポートの完成状況（50 %）

授業態度、リアクションペーパー完成状況などの平常点（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートを踏まえて履修者皆さんのご意見を随時に取り入れ、様々な学科からの履修者皆さんのご要望をなるべく応えるように授業を工夫していくと心掛けて授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

後期『経済学 LB：中国経済発展論』の継続履修をお勧め。

【Outline and objectives】

The 21st century is said to belong to Asian. Due to the rising of South-east Asian, not only Asian area itself, but also the whole world are changing rapidly in the field of economy, politics and social security. This lecture aims at improving student's ability of observation from the view of both theory and practice, by analyzing the background, development model, experience of Asian economic development, while studying the basic theory of economic development. It also observes the economic integration and the trend of regional agreement, discusses TPP progress and the possibility of FTA, surveying Asian economy future.

ECN200LA

経済学ⅠB

2017年度以降入学者

ECN200LA

経済学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：中国経済発展論

陳 文 挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国経済の規模は 2010 年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第 2 位に上り詰めた。2018 年に中国の GDP は日本の 2.5 倍、アメリカの 4 分の 3 まで拡大した。本講義では前期授業で学習した経済発展論の基礎に基づき、まず計画経済期および市場経済移行期の経済発展状況を考察し、中国経済停滞および成長の諸要因を明らかにする。そして、中国の「改革・開放」政策により中国の農業発展、労働移動、工業化、国際貿易、新しい産業の興隆などについてケース・スタディを通じて中国経済のダイナミックな発展に対して理解を深める。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバルな考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第 2 位の経済規模を持つ中国の諸動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントによる講義。講義に並行してビデオ鑑賞、授業内演習を行うこともある。講義内容に応じてリアクションペーパーの提出を求めることもある。新聞、雑誌および Web サイト等の最新参考資料を配布し、講義内容を深め、予習復習に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済発展の基礎、研究概要、成績評価等
2	中華人民共和国建国	土地革命から政権奪取、社会主義への道
3	社会主義経済建設	計画経済、人民公社、大躍進
4	計画経済の失敗	文化大革命、毛沢東の死と鄧小平時代の到来
5	改革開放の始まり	改革・開放はなぜ始まったのか？
6	農業の発展と農村工業化	郷鎮企業の発展、産業集積と世界の工場
7	農業労働の移動	世界工場、都市化の原動力
8	工業の発展	国有企業改革と外資企業の中国進出
9	日本企業の中国進出	事例研究：広州ホンダ、深センテクノセンター、蘇州フォク物産
10	中国の自動車産業と高速鉄道	市場をもって技術に換えるのか
11	中国企業の国際競争力	アリババ、ハイアール、ファーウェイ、吉利汽車など中国の巨大企業の成長と変身について
12	中国経済のサービス化	大量生産から大量消費へ。ネット通販、スマホ決済、シェア自転車、配車アプリなどの「新経済」について議論
13	中国の「一帯一路」戦略と経済の先行き	中国経済の構造転換、国際社会における中国の影響力などについて議論
14	まとめ	復習と期末レポート作成要領

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

『中国経済入門』（第 4 版）、南亮進・牧野文雄編、日本評論社。
『現代中国経済』、丸川知雄、有斐閣アルマ。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する理解、授業内演習および期末レポートの完成状況（50%）

授業態度、リアクションペーパーなどの平常点（50%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートを踏まえて履修者皆様のご意見を随時に取り入れ、様々な学科からの履修者皆様のご要望をなるべく応えるように授業を工夫していくと心掛けて授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

『経済学ⅠA：東アジア経済論』の履修は望ましい。

【Outline and objectives】

China economy caught up with and even surpassed Japan standing in the second place following America in 2010. The GDP of China has increased by 2.5 times of Japan and three-quarters of America in 2018. This study aims at clearing up the causes for both the development as well as the decline of Chinese economy, by observing its economic development situations during the period of the planned economy and the market economy, based on the foundation of the economic development theory studied in the first semester. This study will also deepen the understanding about the dynamic development of the Chinese economy after the market-opening and reform policy, through the way of case studies in the field of Chinese agricultural development, labor movement, industrialization, international trade and the rising of new industry.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

ECN200LA

経済学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：資本と利子から資本主義の課題を考える

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は資本主義経済においてもっとも重要な概念である資本および資本とはなにかについて考え、両者の関係を理解することができる。

最終的には資本主義の命運が利率のわずかに数パーセントの動きにかかっていることを学ぶことができる。

【到達目標】

春学期の授業では、資本とは、利子とはなにかを理解することを到達目標とする。そのことによって、資本主義が現在抱えている課題が何であるかがわかる。資本、利子の本来有している性質からして、「過剰・飽満・過多」に行き着く可能性が高いことを理解すると、その対処法がわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の授業を行ない、リアクションペーパーで質問することで疑問点を解消することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期で学ぶことの概要
第2回	資本について—経済学、会計学、商法からみた資本①	経済学の「資本」—迂回生産の手段、資本と設備投資の関係、貯蓄投資バランス
第3回	資本について—経済学、会計学、商法からみた資本②	会計学の「資本」とは、「商法」の資本とは、内部留保金、資本金
第4回	資本の重要性	生産関数と成長理論
第5回	古典派の資本	生存基本説
第6回	新古典派の資本	資本の限界生産力
第7回	マルクスの資本	G（貨幣）-W（商品）-G'（貨幣）、資本の神秘性
第8回	ケインズの資本	資本の限界効率
第9回	ビケティの「21世紀の資本」	r（資本利潤率）とg（経済成長率）の関係
第10回	利子はなぜ生ずるか	貯蓄と投資、利子と利潤の違い
第11回	キリスト教の利子理論	「救済」としてのコレクションとSave(蓄え)、13世紀に利子が容認された背景、
第12回	近代の利子理論	「13世紀の資本論」（オーリーヴィ）、「16世紀の資本論」（ヴェニス商人）、利子はお金の使用料か
第13回	資本と利子の関係について	利子は利潤の派生的所得
第14回	春学期のまとめ	重要な概念の復習と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料を復習で確認すること

【テキスト（教科書）】

なし（授業支援システムに授業で使用する資料を掲載）

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度（40%）と期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問をし、次回の授業の冒頭で回答。

【学生が準備すべき機器他】

事前にPCなどで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

経済学 I、経済学 II を履修している必要はない。

【Outline and objectives】

This course introduces a concept of interest rate and capital to students taking this course. Students can understand that a destiny of capitalism depends interest rate.

ECN200LA

経済学ⅠB

2017年度以降入学者

ECN200LA

経済学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：資本と利子から 21 世紀の日本を考える

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

利子と資本の概念から、21世紀の現在日本やドイツで起きているゼロ金利はどういうメッセージを発しているのかを学ぶことができる。成長を前提としてきた近代システムがなぜ至るところで機能不全に陥っているか、その理由を理解することができる。

【到達目標】

秋学期の授業における到達目標は、ゼロ金利とグローバル化の関係を理解することにある。資本主義にとって「例外状況」であるゼロ金利に直面したことで、新たな利潤機会の場として「電子・金融空間（バーチャル空間）」をつくり、グローバル化が世界を席卷してきたことを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の授業を行ない、リアクションペーパーで質問することで疑問点を解消することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期で学ぶことの概要説明
第2回	利子率と成長率、物価の関係①	自然利子率、自然成長率
第3回	利子率と成長率、物価の関係②	イールドカーブ、期待インフレ率
第4回	ゼロ金利をどう解釈するか	「利子生活者の安楽死」（ケインズ）、 「過剰・飽満・過多」（スーザン・ソング）
第5回	ゼロ金利と株高	貨幣数量説、ROE(自己資本利益率) 経営
第6回	ゼロ金利とグローバル化	グローバル化の本質はなにか、「実物投資空間」と「電子・金融空間（バーチャル空間）」
第7回	資本の過剰性	資本の神秘性、食品ロス、空き家率、衣類の廃棄
第8回	将来に備えて節約重視か現在を楽しむのか	貯蓄とは、消費とは
第9回	経常収支、貯得投資バランス、資金過不足の関係	経常収支はなにを意味しているのか、企業の貯蓄超過、家計の貯蓄超過の背景
第10回	財政赤字	政府部門の財政赤字の原因は？、1000兆円をこえる日本の国家債務の何が問題か？
第11回	経常黒字	経常黒字の原因は？、日本は世界最大の純債権国
第12回	経常黒字	貿易黒字は誰が稼いでいるのか？
第13回	対外交渉条件	対外交渉条件は何によって決定されるのか？、エネルギー問題は実質賃金にどのような影響を与えるのか？
第14回	秋学期のまとめ	重要な概念の整理と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料を復習で確認すること

【テキスト（教科書）】

なし（授業支援システムに授業で使用する資料を掲載）

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度（40%）と期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問をし、次の授業の冒頭で回答。

【学生が準備すべき機器他】

事前にPCなどで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

経済学Ⅰ、経済学Ⅱを履修している必要はない。

【Outline and objectives】

This course introduces a concept of interest rate and capital to students taking this course. Students can understand the relationship of zero interest rate and globalization,

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

PSY200LA

心理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）履修を前提とし、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つけたいけれど、存在は認められる?」、「時折そんなふうを感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか?」、どうしたらよいのだろうか?、といったことを考えます。

【到達目標】

行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤、自己注目と抑うつなどを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進めますが、リアクションペーパーへのリプライ・フィードバックにも時間を費やします。

少し難しくなるものの、それだけ自由が増します。〔難度=自由度：☆☆☆★〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「心」とは何か? 「心」はどこにある? / 基礎から応用へ
2	社会心理学とは? 臨床心理学とは?	臨床社会心理学〔テキスト序章①〕
3	臨床社会心理学とは?	臨床社会心理学〔テキスト序章②〕
4	「なぜ?」を読み解く	対応推論・因果スキーマ〔テキスト第 1 章①〕
5	帰属のバイアス	原因推測の誤りと偏り〔テキスト第 1 章②〕
6	なぜ憂うつになる?	誤帰属や帰属スタイルの傾向〔テキスト第 2 章①〕
7	帰属療法/原因想起	成長期・対人関係/多様性と選択合理性〔テキスト第 2 章②〕
8	勉強ができない…/原因の考え方	期待・価値モデルと統制の位置/感情の帰属モデル〔テキスト第 3 章①〕
9	学習性無力感/知能は変わる?	努力しても成功しない? 試験前は遊ぼう?〔テキスト第 3 章②〕
10	見る自己と見られる自己	自己意識と自己注目〔テキスト第 4 章①〕
11	自己を意識すると…/自己注目の研究	客体的自覚理論と制御理論/「適切さの基準」〔テキスト第 4 章②〕
12	落ち込みと自己注目	気分一致効果/自己確認/自己没入〔テキスト第 5 章①〕
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	抑うつ予防	注意の向け方/気晴らし〔テキスト第 5 章②〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

「はじめての臨床社会心理学：自己と対人関係から読み解く臨床心理学」坂本真士・佐藤健二（編）有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>

必ずテキストを用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

【参考書】

『よくわかる臨床心理学：改訂新版』下山晴彦編 ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

試験点（100%）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

テーマは適切か、論理に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度も「出席点」はカウントせず、「平常点」を加味したもののほとんどレポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数など全く問わなかったため、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなりました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーに自由に書くことで、自分を見つめ直す時間ができて助かった」

「ふだんの自分の行動と照らし合わせて考えられるので、おもしろかった」

「話すのをためらうような話題も率直に語ってくれたのがよかった」

「みんなそれぞれ狂っている。という言葉が響いた」

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA（春学期）と心理学 LB（秋学期）は連動します。続けるの履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム? なんでもお喋りタイム?）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

PSY200LA

心理学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）履修を前提とし、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つけたいけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうを感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

【到達目標】

他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進めますが、リアクションペーパーへのリプライ・フィードバックにも時間を費やします。

少し難しくなるものの、それだけ自由が増します。〔難度=自由度：☆☆☆★〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期の特徴
2	「自分」が脅かされる…	私への関心と恐怖感〔テキスト第 6 章①〕
3	妄想・自我障害の原因／どう克服するか	帰属のパラドクス／認知療法・自閉療法〔テキスト第 6 章②〕
4	本当の自分？	自分のことを打ち明ける：自己開示〔テキスト第 7 章①〕
5	仮面の自分？	自分をよく見せる：自己呈示〔テキスト第 7 章②〕
6	自己開示と健康	メンタル&フィジカル〔テキスト第 8 章①〕
7	トラウマの開示は…	認知的再評価あるいは否定的影響〔テキスト第 8 章②〕
8	不安と対人恐怖	社会不安障害？〔テキスト第 9 章①〕
9	よく見せたいが自信がない…／認知モデル	自己呈示の欲求と効力感／認知行動療法〔テキスト第 9 章②〕
10	援助行動とソーシャルサポート	助けること・助けられること〔テキスト第 10 章〕
11	攻撃行動	何が「攻撃」？ その目標・機能は？〔テキスト第 11 章①〕
12	怒り	怒りとは？ なぜ「攻撃」する？〔テキスト第 11 章②〕
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	なぜ援助を求めない？	症状認知／情報不足と偏見／コミュニティ〔テキスト終章〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。

「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

「はじめての臨床社会心理学：自己と対人関係から読み解く臨床心理学」坂本真土・佐藤健二（編）有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>

必ずテキストを用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

【参考書】

『よくわかる臨床心理学：改訂新版』下山晴彦編 ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

試験点（100%）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

テーマは適切か、論理に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度も「出席点」はカウントせず、「平常点」を加味したもののほとんどレポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数など全く問わなかったため、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなっていました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーに自由に書くことで、自分を見つめ直す時間ができて助かった」

「ふだんの自分の行動と照らし合わせて考えられるので、おもしろかった」

「話すのをためらうような話題も率直に話してくれたのがよかった」

「みんなそれぞれ狂っている。という言葉が響いた」

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA（春学期）と心理学 LB（秋学期）は連動します。続けての履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

PSY200LA

心理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）履修を前提とし、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つけたいけれど、存在は認められる?」、「時折そんなふうを感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか?」、どうしたらよいのだろうか?、といったことを考えます。

【到達目標】

行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤、自己注目と抑うつなどを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進めますが、リアクションペーパーへのリプライ・フィードバックにも時間を費やします。

少し難しくなるものの、それだけ自由が増します。〔難度=自由度：☆☆☆★〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「心」とは何か? 「心」はどこにある? / 基礎から応用へ
2	社会心理学とは? 臨床心理学とは?	臨床社会心理学〔テキスト序章①〕
3	臨床社会心理学とは?	臨床社会心理学〔テキスト序章②〕
4	「なぜ?」を読み解く	対応推論・因果スキーマ〔テキスト第 1 章①〕
5	帰属のバイアス	原因推測の誤りと偏り〔テキスト第 1 章②〕
6	なぜ憂うつになる?	誤帰属や帰属スタイルの傾向〔テキスト第 2 章①〕
7	帰属療法/原因想起	成長期・対人関係/多様性と選択合理性〔テキスト第 2 章②〕
8	勉強ができない…/原因の考え方	期待・価値モデルと統制の位置/感情の帰属モデル〔テキスト第 3 章①〕
9	学習性無力感/知能は変わる?	努力しても成功しない? 試験前は遊ぼう?〔テキスト第 3 章②〕
10	見る自己と見られる自己	自己意識と自己注目〔テキスト第 4 章①〕
11	自己を意識すると…/自己注目の研究	客体的自覚理論と制御理論/「適切さの基準」〔テキスト第 4 章②〕
12	落ち込みと自己注目	気分一致効果/自己確認/自己没入〔テキスト第 5 章①〕
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	抑うつ予防	注意の向け方/気晴らし〔テキスト第 5 章②〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

「はじめての臨床社会心理学：自己と対人関係から読み解く臨床心理学」坂本真士・佐藤健二（編）有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>

必ずテキストを用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

【参考書】

『よくわかる臨床心理学：改訂新版』下山晴彦編 ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

試験点（100%）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

テーマは適切か、論理に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度も「出席点」はカウントせず、「平常点」を加味したもののほとんどレポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数など全く問わなかったため、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなりました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーに自由に書くことで、自分を見つめ直す時間ができて助かった」

「ふだんの自分の行動と照らし合わせて考えられるので、おもしろかった」

「話すのをためらうような話題も率直に語ってくれたのがよかった」

「みんなそれぞれ狂っている。という言葉が響いた」

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA（春学期）と心理学 LB（秋学期）は連動します。続けるの履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム? なんでもお喋りタイム?）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

PSY200LA

心理学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤（ベーシック）履修を前提とし、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

「弱くて頑張れない?」、「見つけたいけれど、存在は認められない?」、時折そんなふうを感じてしまうことがあるとしたら、それはなぜなのか…、どうしたらよいのだろうか…、といったことを考えます。

【到達目標】

他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。

知識を身につけるとともに、潜在的な可能性を生かす技能を鍛え、一面的な決めつけや思い込みにとらわれず、いつも新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢・キャパシティを増やします。

自ら問題（テーマ）を設定し、批判的な検討・検証のうえで、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って講義を進めますが、リアクションペーパーへのリプライ・フィードバックにも時間を費やします。

少し難しくなるものの、それだけ自由が増します。〔難度=自由度：☆☆☆★〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期の特徴
2	「自分」が脅かされる…	私への関心と恐怖感〔テキスト第 6 章①〕
3	妄想・自我障害の原因／どう克服するか	帰属のパラドクス／認知療法・自閉療法〔テキスト第 6 章②〕
4	本当の自分？	自分のことを打ち明ける：自己開示〔テキスト第 7 章①〕
5	仮面の自分？	自分をよく見せる：自己呈示〔テキスト第 7 章②〕
6	自己開示と健康	メンタル&フィジカル〔テキスト第 8 章①〕
7	トラウマの開示は…	認知的再評価あるいは否定的影響〔テキスト第 8 章②〕
8	不安と対人恐怖	社会不安障害？〔テキスト第 9 章①〕
9	よく見せたいが自信がない…／認知モデル	自己呈示の欲求と効力感／認知行動療法〔テキスト第 9 章②〕
10	援助行動とソーシャルサポート	助けること・助けられること〔テキスト第 10 章〕
11	攻撃行動	何が「攻撃」？ その目標・機能は？〔テキスト第 11 章①〕
12	怒り	怒りとは？ なぜ「攻撃」する？〔テキスト第 11 章②〕
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	なぜ援助を求めない？	症状認知／情報不足と偏見／コミュニティ〔テキスト終章〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幾らかでもテキストに目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、「復習」的に整理します。

“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

「はじめての臨床社会心理学：自己と対人関係から読み解く臨床心理学」坂本真土・佐藤健二（編）有斐閣
<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>

必ずテキストを用意してください。初回からテキスト講義を進めます。

【参考書】

『よくわかる臨床心理学：改訂新版』下山晴彦編 ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

試験点（100%）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

テーマは適切か、論理に飛躍や矛盾がないか、批判的・主体的な意見を述べているか、といった観点で評価します。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度も「出席点」はカウントせず、「平常点」を加味したもののほとんどレポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数など全く問わなかったため、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、“自分が・自分で考えることのトレーニング”をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなっていました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーに自由に書くことで、自分を見つめ直す時間ができて助かった」

「ふだんの自分の行動と照らし合わせて考えられるので、おもしろかった」

「話すのをためらうような話題も率直に話してくれたのがよかった」

「みんなそれぞれ狂っている。という言葉が響いた」

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA（春学期）と心理学 LB（秋学期）は連動します。続けての履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

GEO200LA	
地理学 L A	2017 年度以降入学者
GEO200LA	
地理学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国環キ 1～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な研究方法、考え方、方法論などについて学ぶ。さまざまなテーマを取り上げてそれを考えていく。特に環境問題に重点を置いて、授業を進めていく。

【到達目標】

さまざまなテーマと話題を取り上げながら、地理学の方法論や考え方を学び、身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、毎回プリントを配布して講義をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業内容の説明、成績評価の方法などを解説する。
2	文化・生態・環境	地理学と生態・環境問題との関係について解説する。
3	都市の生態環境①	都市の生態環境の特色について解説する。
4	都市の生態環境②	都市の生態環境の特色について解説する。
5	都市の生態環境③	都市の生態環境の特色について解説する。
6	日本の野生動物相①	日本の野生動物相の特色について解説する。
7	日本の野生動物相②	日本の野生動物相の特色について解説する。
8	日本の植生①	日本の植生の特色について解説する。
9	日本の植生②	日本の植生の特色について解説する。
10	生業条件と生態環境	生業経済と生態環境との関係について解説する。
11	森林問題①	都市の森林問題、里山林の問題などについて解説する。
12	森林問題②	都市の森林問題について解説する。
13	調査とレポート	フィールドワークの方法について解説する。
14	全体的な補足	全体的な補足をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習および復習を自宅でおこなうことががほしい。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業内で必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査結果などを参照し、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

GEO200LA	
地理学 L B	2017 年度以降入学者
GEO200LA	
地理学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
長沢 利明	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国環キ 1～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な考え方、研究方法などを学ぶために、さまざまな話題を取り上げ、解説をおこなう。特に環境問題に重点を置いて講義をおこなう。

【到達目標】

地理学的な物の見方とは、どういうことを知っているのか、あるいはその視点・立脚点とはどのようなものか、などなどを身につけることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回異なったテーマを取り上げる。プリントを配布し、それをテキストとして用いながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などについて解説する。
2	文化・生態・環境	授業を構成する文化・生態・環境の三つのキーワードについて解説する。
3	焼畑農業	焼畑農業の持つ諸課題について解説する。
4	農業の起源と赤米①	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
5	農業の起源と赤米②	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
6	海辺の環境①	海辺の環境の特色について解説する。
7	海辺の環境②	海辺の環境の特色について解説する。
8	海辺の環境③	海辺の環境の特色について解説する。
9	海辺の環境④	海辺の環境の特色について解説する。
10	海辺の環境⑤	海辺の環境と漁業問題について解説する。
11	森林問題	森林問題、里山林の環境の特性などについて解説する。
12	調査とレポート	フィールドワークの方法などについて解説する。
13	まとめ	全体的なまとめをおこない、総括する。
14	補足	補足的なテーマを適宜選んで取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習・復習をおこなうことががほしい。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学の基本から学びますので、高校時代に地理を選択していなかった学生も慮なく履修してください。

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。

【到達目標】

食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。それら問題が相互に関連し、問題を如何に複雑化させているのか、その構造を学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

「発展」から取り残されている地域・国を事例にして、現代世界の地域・社会問題を考えていきます。主としてアジア諸地域を例に挙げて、「発展」の仕組みを、その「裏側」から考えていくつもりです。取り扱うテーマは世界の食料、人口、貧困にかかわる諸問題です。それらの出来事は個別に存在するわけではなく、相互に関連し、問題を複雑化させています。したがって結論や解決策を単純に見いだすことはできません。現実の「構造」を知ることができるようにしていきたいと思います。

【授業の方法】

講義形式で授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧問題 (1)	先進国と途上国の食料自給率
第 2 回	世界の食糧問題 (2)	食糧輸出国と輸入国
第 3 回	世界の食糧問題 (3)	農業生産性の向上 - 「緑の革命」 -
第 4 回	世界の人口 (1) - 人口の趨勢 -	人口爆発とその後 - 70 億人突破 -
第 5 回	世界の人口 (2) - 二つの人口論 -	マルサスとマルクス
第 6 回	世界の人口 (3) - 死亡率・出生率変化の検討 -	死亡率の急減と出生率低下の緩慢さ
第 7 回	世界の人口 (4)	人口問題と人権
第 8 回	貧困と援助・協力 (1)	世界の貧困 - 先進国、途上国それぞれに貧困 -
第 9 回	貧困と援助・協力 (2)	ODA と日本
第 10 回	貧困と援助協力 (3)	衛生問題 - 乳児死亡率の地域差と女性の権利 -
第 11 回	貧困と援助協力 (4)	教育の不平等 - 教育と識字率 -
第 12 回	貧困と援助協力 (5)	難民問題の拡大と日本
第 13 回	貧困と援助協力 (6)	児童労働の実態と背景
第 14 回	異常気象と「飢え」	「誰」が「飢える」のか - アマルティア・センの理解 -

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「食料」「人口」「貧困」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、さらにそれら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えようとして下さい。時間をとって机に向かうことも重要ですが、それら問題を普段から意識することがより重要です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料プリントを配布します。場合によっては PowerPoint を使用します。

【参考書】

西川 潤 (2008) 『データブック 食料』、同『データブック 人口』、同『データブック 貧困』いずれも岩波ブックレット。その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

【学生の意見等からの気づき】

プリントの多さに対する意見もありますが、必要ならば配布せざるを得ません。また使用データの古さも指摘されました。しかし途上国のデータは信頼性に欠ける場合もあり、新しいから正確というわけでもないのです。データは読みこなさなければなりません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Rigional Problems in underdeveloped countries under the World Systems.

GEO200LA

地理学 L D 2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 II 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

片岡 義晴開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の地域問題・社会問題について学んでいきます。

【到達目標】

日本の地域性、地域格差、地域開発、公害問題を手がかりにして、日本の地域問題・社会問題を学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(授業の進め方)

国籍の如何に関わらず、日本居住者は日本のことを「知っている」と思い込んでいます。しかし現代日本の地域・社会問題を「知っている」「理解している」人がどれくらい居るでしょうか。地域居住者の「権利」を侵害するような問題は、いつの時代も、どの地域でも発生しています。具体例を挙げ、日本の「裏側」から日本の地域・社会問題に迫っていきましょうと思います。

(授業の方法)

講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の地域性 (1)	地域性はなぜ生じるのか
第 2 回	日本の地域性 (2)	「裏日本」の形成
第 3 回	日本の地域性 (3)	「裏日本」の役割
第 4 回	明治期の産業の始動と地域	「途上国」日本の産業化と地域
第 5 回	地域格差とその指標 (1)	格差の指標
第 6 回	地域格差とその指標 (2)	経済格差と指標
第 7 回	日本の地域開発 (1)	全国総合開発計画（全総、新全総）
第 8 回	日本の地域開発 (2)	全国総合開発計画（三全総、四全総、グラントデザイン）
第 9 回	地域経済の実態	経済の地域間相互依存
第 10 回	公害と地域 (1)	イタイイタイ病と神岡鉱山
第 11 回	公害と地域 (2)	イタイイタイ病訴訟
第 12 回	公害と地域 (3)	水俣病の「発見」とチッソ
第 13 回	公害と地域 (4)	水俣病訴訟
第 14 回	公害と地域 (5)	「公害問題」と「環境問題」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の「地域問題」「社会問題」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、それら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えて下さい。それら問題は「身近」に存在しています。それら問題について普段から関心を持って下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。授業時に資料プリントを配布します。

【参考書】政野淳子 (2013)『四大公害病』中公新書
その他は授業時に適宜指示します。**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（論述形式の筆記試験）で成績評価（期末試験 100 %）します。

【学生の意見等からの気づき】

プリントが多すぎるとの意見もありますが、必要であれば配布せざるを得ません。

【Outline and objectives】

Regional Problems and Pollution Diseases in Japan.

GEO200LA

地理学 L C 2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

高木 正開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地理学そのものを学ぶというよりも、地理学を通じて現代世界の理解を深めるといったスタイルで勉強していきます。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構いません。ここでは世界情勢を大きく把握することを目的とします。

【到達目標】

現在、学生の皆さんが持っている歴史観・地域観・世界観をより確かなものにしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。配布したプリントで進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
I	はじめにー地理学の学問的性格	高校時代とは異なる地理学本来の特徴を押さえる。
II-1	単線の発展史観	ロストウの単線の発展史観を紹介する。
II-2	両極の発展史観	A・G・フランクの両極の発展史観を紹介する。
III-3	世界システム	現代世界を世界システムとして捉える視点を紹介します。
III-1	ヨーロッパ世界経済の成立	大航海時代に始まるヨーロッパ世界経済を捉えなおします。
III-2	産業資本主義段階と植民地支配	ヨーロッパの工業化、植民地支配、パックス・ブリタニカ
III-3	社会主義諸国の形成	ロシア革命から 20 世紀における社会主義諸国の形成をみます。
III-4	第 2 次世界大戦後の先進国	パックス・アメリカナの形成を解説します。
III-5	ヨーロッパの統合	EU の成立と拡大、通貨統合をみます。
III-6	植民地の独立と発展戦略	発展途上国の成立過程をみます。
III-7	発展途上国の多様化	いわゆる南南問題を理解します。
III-8	冷戦の終結	社会主義諸国の変容と冷戦の終結をみます。
III-9	地域紛争	現在の地域紛争を概観します。
IV	まとめ	復習と試験に向けての諸注意。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントは持参してください。配布するプリントは予備がないので後で渡すことはできません。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

室井義雄『南北・南南問題』世界史リブレット 56（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

試験で評価します。試験の方法は最初の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO200LA

地理学 L D 2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 II 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

高木 正開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地理学 LD では、できるだけ多くの地域を取り上げて、その社会経済的な実態を地理的な視点からみていきます。

【到達目標】

アフリカと西アジアの現状を理解することで世界の多様性を認識します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
I-1	アフリカの概観と辺境化	アフリカの概要理解と歴史的背景を理解します。
I-2	モノカルチャー経済の実態-①	コートジボアールのカカオ豆を扱います。
I-3	モノカルチャー経済の実態-②	マリの綿花を扱います。
I-4	南アフリカ共和国の現状-①	アパルトヘイト政策を振り返ります。
I-5	南アフリカ共和国の現状-②	アパルトヘイト以上の経緯をみます。
II-1	南アフリカ共和国の現状-③	南アの現状をみます。
II-2	パレスチナ問題-①	歴史的経緯をみます。
II-3	パレスチナ問題-②	中東戦争、レバノン戦争をみます。
II-4	パレスチナ問題-③	オスロ合意から現在までの流れをみます。
II-5	西アジアの石油資源	石油資源の開発をみます。
II-6	資源ナショナリズム	産油国とメジャーの対立、OPEC と石油ショックを理解します。
II-7	石油開発の主導権の移りかわり	OPEC の弱体化、湾岸戦争、価格決定権の変化などをみます。
II-8	近年の西アジア・北アフリカ情勢	「アラブの春」以降を概観します。
III	まとめ	授業内容の復習。試験に向けての諸注意。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントは持参してください。配布するプリントは予備がないので、後で渡すことはできません。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

松本仁一『アフリカ・レポート』岩波新書 1146、ダニエル・ヤーギン『石油の世紀』（日本放送出版会）

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO200LA

地理学 L A 2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

長沢 利明開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理学的な物の見方や考え方を学ぶ。

【到達目標】

授業を通し、地理学的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、プリントを配布して授業を進めていくことにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方、おおまかな計画について解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本的なテーマである三つのキーワードについて解説する。
3	都市の生態環境（1）	都市の生態環境の特色をとらえるため、タンボボの生態について注目してみる。
4	都市の生態環境（2）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
5	都市の生態環境（3）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
6	日本の野生動物相（1）	日本の野生動物の特色について解説する。
7	日本の野生動物（2）	日本の野生動物、とくにオオカミについて注目してみる。
8	日本の植生（1）	日本の植生のうち、特に落葉広葉樹林帯について解説する。
9	日本の植生（2）	日本の植生のうち、特に照葉樹林帯について解説する。
10	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
11	補足（2）	全体 t 歴な補足をおこなう。
12	調査とレポート	地理学的な調査方法と成果のまとめ方について解説する。
13	まとめ（1）	全体のまとめと総括をおこなう。
14	まとめ（2）	全体のまとめと総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことがのぞましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績によって評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望を極力取り入れて授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

【到達目標】

全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回、プリントを配布して解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などを解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本テーマであるこの三つのキーワードについて解説する。
3	日本の焼畑農業	日本の農業問題、特に焼畑農業について解説する。
4	稲作農業と赤米（1）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題を解説する。
5	稲作農業と赤米（2）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題を解説する。
6	生業条件と資源	生業条件と資源環境の問題について注目する。
7	海岸の環境（1）	海をめぐる環境問題について解説する。
8	海岸の環境（2）	海をめぐる環境問題について解説する。
9	海岸の環境（3）	海をめぐる環境問題について解説する。
10	海岸の環境（4）	海をめぐる環境問題について解説する。
11	里山の環境	里山環境と人間生活の歴史について解説する。
12	補足	全体の補足をおこなう。
13	調査とレポート	地理学的な調査方法とそのまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめと試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことがのぞましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験およびレポートによって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望は極力取り入れ、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

GEO200LA

地理学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：グローバリゼーションを身近な課題から考える

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業は、基本的に LC でグローバリゼーションにおける世界や日本の課題を地理学として考え、その解決方法の一端を LD で主に考えるという方向性です。世界や日本の課題を少子高齢化や格差、情報化などを中心に身近な課題から一緒に考えます。これは、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができることを目的としています。

【到達目標】

グローバリゼーションの中で、人や地域社会が格差・分断、また不寛容になりつつあります。こうしたことを学生が、身近なことから論理的に課題をみつけ、多様性を意識しながら、その背景や要因などを自ら考え、解決の方向性に活用できることを目標にしています。このため、身近な課題や地域的な問題などから地理学的に考察することを目指していきたい。そして、1 つの答えだけでなく柔軟に多様性を意識して考えることを最初の到達目標の 1 つにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義形式で行うが、課題解決型の方向性の一步を目指していきたい。グローバリゼーションのもとで、日本や世界の格差や不平等、AI も含めた情報社会など、複雑に絡み合った地域の諸問題を地理学的視点から考えていく。知識の共有のために、視覚的映像などを多用するが、多角的視点に立つために、レポートなどでのフィールドワーク、さらには GW、GD などの AL などを行う。この授業が自分のプラスになるかは自分次第かもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域とは、グローバルとは何かを世界の若者の就職から考える
2	グローバル化と地域社会の格差・分断	少子高齢化と都市・地方
3	日本の課題 1	東京だけがなぜ
4	日本の課題 2	周回遅れの日本 AI ビックデータ
5	日本の課題 3	格差・分断される地域社会を日本から考える・ブラック企業？ブラックバイト、それでも労働力不足
6	日本の課題 4	先進国か 日本の若者や高齢者の格差を就職や貧困の連鎖から再考する
7	グローバリゼーションと地域社会 1	女性の貧困と格差社会を再考する 市場という考え方と地域
8	グローバリゼーションと地域社会	大量生産から多品種少量生産、世界的分業体制？ 周回遅れの環境問題
9	グローバリゼーションの課題 1	第 4 次産業革命と格差社会・立地や仕事が変わる
10	グローバリゼーションの課題 2	AI / IoT / Big Data 社会とこれまで
11	グローバリゼーションの課題 3	人口ボーナスと労働力不足をどう考えるのか
12	グローバリゼーションの課題 4	ローカライゼーションと地域
13	グローバリゼーションの課題 5	多様化社会の必要性和孤独感、外国人との共生で考える
14	グローバリゼーションと日本の課題	地域をどう考えるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から何事にも興味・関心を持ち、最初の一步を踏み出してください。参考資料、支援システムなどを積極的に活用してもらいたい。フィールドワーク的なレポートを予定しているので活動的に日本や海外のことを新聞、TV、ネットなどで調べ知識化し、自ら問題を考え応用できるようにしたい。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

授業時や支援システム等に指示

【成績評価の方法と基準】

原則的には、期末試験（持ち込み可：60%） レポート（30%）
授業中のコメントシートあるいはアクションペーパー（10%）最初の授業時等に詳細は説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。また、ALなどの関係でグルーピングで授業を行うときもありますが、知り合いがいなくとも心配はまったくありません。むしろ、知り合いが増え、ネットワークが広がるという意見がありました。なんでも前向きに考えてみましょう。また、できるだけ理解しやすく、授業の知識を応用することを心がけて、受講生の成長に結び付けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等や映像を多用するため、これらや事前、事後に関連性のある情報、資料等を各自調べるなど活用してもらいたい。

【その他の重要事項】

秋学期の地理学LDと合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わないが、先に春学期のLCでの問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期のLDで知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。また、フィールドワーク的なレポートやGDなどから、なかなか一歩踏み出せないが踏み出したい人や柔軟な思考を持ちたい人が一歩先に進めるかもしれません。不安な人は、先輩など、これまでの受講した学生に聞くのも良いかもしれません。

なお、担当者の地理学LC、LDと基礎編I、IIの内容とは異なる予定です。このため授業内容の詳細に関しては4月（9月）に授業内で説明します。

【Outline and objectives】

This lesson is basically a direction of considering challenges in globalization by LC as geography and considering part of its solution method mainly on LD. I think about the problems of the world and Japan together from familiar tasks centering on a declining birthrate, aging population, disparities, employment, etc. This is aimed at allowing students themselves to think about tasks and problem consciousness and to think about various things.

GEO200LA

地理学LD

2017年度以降入学者

GEO200LA

地理学II

2016年度以前入学者

サブタイトル：地域・社会をどのように考えるか

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

法文営国環キ1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、地域社会の課題解決の方向性を考えます。具体的には、グローバル化の影響が多い地域社会を地域再生論やコミュニティデザイン、などの視点から地理学を考えます。外国人やインバウンド等、さらには人との共生などに関連がある解決策モデル等を紹介しながら、解決方法の糸口や方法を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会という方向性で解決方法を模索、検討できることを目的としています。

【到達目標】

秋学期には春学期の問題意識や地域的課題を解決方向へと踏み出した。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。そして、自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

地域再生を軸とした解決方法のモデル的紹介も含めて、講義形式だけでなく多様な意見や価値観の認識、コミュニケーションスキル等のためにグループワークなどによる問題解決学習も試みたい。また、春学期同様に地理学的視点も含めたフィールドワークのレポートなども考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域社会課題の再考
2	グローバル化の課題再考	不寛容社会とダイバーシティを考える
3	日本の地域社会 1	ネットワーク社会なのに 彼氏・彼女はいない レンタル・ つながる孤独とネットワーク・ コミュニティ・居場所
4	日本の地域社会 2	AKIBAの魅力と場の重要性 関係人口と地域文化の情報発信から考える
5	都市再生 1	コミュニティデザインを考える
6	都市再生 2	コミュニティデザインと郊外・地方 インバウンド・クールジャパン・聖地 巡礼・アニメ発信
7	都市再生 3	失敗から学ぶ サービス、ホスピタリ ティと観光戦略の失敗
8	都市再生 4	コンパクトシティとコミュニティ
9	地域再生 1	ソーシャルビジネス・移住 若者の意欲と解決から学ぶ
10	地域再生 2	共生社会を世界や地域で活躍している 人々から考える
11	地域再生 3	地域への想いと現実・震災から
12	地域再生 4	
13	地域再生 5	
14	まとめに	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやニュースなどから多様な考え方を学んでください。問題をどう解決するかは、さまざまな方法があり、必ずしも1つの方法が正解ではありません。将来、自ら考え、行動する意欲を常に持ち、失敗を恐れずむしろ失敗から学び、前向きになる自分を想像してください。

【テキスト（教科書）】

基本的にはないが使用する場合は、授業時に指示

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

期末試験もしくは授業内試験（持ち込み可：60%）、レポート（30%）授業中のコメントシート・平常点など（10%）で評価する。詳細に関しては最初の授業時等で話します。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞し、考える機会をもうけます。また、ALなどの関係でグルーピングで授業を行うときもありますが、知り合いがいなくとも心配はまったくありません。むしろ、知り合いが増え、ネットワークが広がるという意見がありました。これまでの地理とは世界が異なるかもしれませんが、新しい地理学という世界が見えるかもしれませんから、何でもポジティブに考えてみましょう

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等をかなり利用するので仕様の仕方等に習熟してほしい。

【その他の重要事項】

春学期の地理学 LC と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わないが、先に春学期の LC での問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期の LD で知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。また、なかなか一歩踏み出せないが踏み出したい人や柔軟な思考を持ちたい人はフィールドワークなどで先に進めるかもしれません。グルーピングで授業を行うときもありますが、一人で来ても不安にならずに仲間や知り合いが増えたと前向きに考えられると思います。不安な人は先輩など、これまでの受講した学生に聞くのも良いかもしれません。

なお、担当者の地理学 LC、LD と基礎編 I、II の内容とは異なる予定です。このため授業内容の詳細に関しては 4 月（9 月）に授業内で説明します。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will consider the direction of problem solving in the local community. Specifically, we consider geography from a viewpoint of regional revitalization theory, community design, etc. in a community where globalization has a lot of influence. Learn clues and methodology of solution method with geography logic while introducing solution models etc. related to foreigners, etc., and even symbiosis with people. From that point on, students themselves aim to be able to explore and consider solutions with the direction of society of diversity.

SOC200LA

社会学 L A

2017 年度以降入学者

SOC200LA

社会学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：戦後日本社会の都市社会学／文化社会学

塚田 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、戦後日本社会の形成と変容を、都市社会学および文化社会学の視点から考察していく。中でも日本の各地に所在する在日米軍基地を素材として、「基地の街」の都市形成や発展、さらには米軍基地の所在（と不在）によってもたらされた文化的影響を考察する。様々な映像や音楽、漫画等に言及していく予定である。

【到達目標】

「在日米軍基地」を思考の素材として、戦後日本社会の来し方と行く末を学ぶ。また、都市社会学および文化社会学の視点と作法を理解し、それらを自分なりに実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、レジュメを用いた講義形式で授業を進める。毎授業後に、コメントペーパー（小レポート）を提出してもらう。次の授業の初めに、そのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	米軍基地の基礎知識	『シン・ゴジラ』を素材として
第 2 回	米軍基地文化の基礎知識	上條淳士『SEX』などを素材として
第 3 回	米軍基地文化①	横須賀をフィールドに
第 4 回	米軍基地文化②	横浜をフィールドに
第 5 回	米軍基地文化③	立川をフィールドに
第 6 回	米軍基地文化④	福生をフィールドに
第 7 回	米軍基地文化⑤	狭山・入間をフィールドに
第 8 回	フィールドワーク	ワシントンハイツ跡を歩く
第 9 回	米軍基地の町①	岩国を中心に
第 10 回	米軍基地の町②	沖縄を中心に
第 11 回	基地の町の現在①	神奈川県大和市
第 12 回	基地の町の現在②	東京都練馬区光が丘
第 13 回	基地の町の現在③	神奈川県相模原市
第 14 回	まとめに代えて	米軍基地という文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考文献や映像作品に、積極的に目を通してほしい。コメントペーパー（小レポート）やフィールドワークにも真面目に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎授業でパワーポイントのレジュメや参考文献を配布する。

【参考書】

塚田修一・西田善行編著『国道 16 号線スタディーズ』青弓社。そのほか関連文献は適宜、授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70% として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

知的好奇心を持って授業を受けてほしい。

【Outline and objectives】

This course introduces the sociological theories and methods to students taking this course. It also enhances the development of students' skill in case study and self-regulated learning.

SOC200LA

社会学 L B

2017 年度以降入学者

SOC200LA

社会学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：現代日本の文化社会学

塚田 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国環キ 2～4 年

【Outline and objectives】

This course introduces sociological methods and theories of popular culture to students taking this course. By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall major terms and concepts in sociology.
- ・ Apply sociological theories or findings to real world situations.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、主に担当者の専門である文化社会学の視点から、現代日本のポピュラー文化に関わるテキストや現象を分析していく。具体的には、「時間」・「空間」・「演劇」・「メディア」のテーマに沿って、様々な文化テキスト・現象を取り上げていく。それらの文化テキスト・現象を能動的に解釈し、またそれらを取り巻く社会と相渡るだけの知的体力を養成する一助となることを願っている。受講者は、ただ講義を聞くだけでなくとどまらず、毎授業後のコメントペーパー（小レポート）の提出、および2回のレポート作成（中間・期末）を通して、文化テキスト・現象を自分なりに考察できるようになることを目指す。

【到達目標】

自分の身の回りの文化テキスト、文化現象について、能動的に思考できるようになる。さらにその思考を適切に表現できるようになる。文化社会的思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、レジュメを用いた講義形式で授業を進める。毎授業後に、コメントペーパー（小レポート）を提出してもらう。次の授業の初めに、そのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代日本の文化社会学への招待
第 2 回	時間①	アイドルの時間
第 3 回	時間②	〈ループする時間〉の想像力
第 4 回	時間③	記憶の時間、あるいはノスタルジアについて
第 5 回	空間①	都市空間とアイドル
第 6 回	空間②	秋葉原の戦後史
第 7 回	フィールドワーク	秋葉原を歩く
第 8 回	演劇①	2.5次元文化試論
第 9 回	演劇②	モノマネの歴史社会学
第 10 回	演劇③	宝塚という小宇宙
第 11 回	メディア①	アイドルファンのメディア史
第 12 回	メディア②	お笑い番組の文化社会学
第 13 回	メディア③	ジャニーズ文化のメディア論
第 14 回	総括	現代日本の文化現象に関するディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考文献や文化テキスト・文化現象に、積極的に目を通してほしい。コメントペーパー（小レポート）にも真面目に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

塚田修一・松田聡平著『アイドル論の教科書』2016年、青弓社

【参考書】

鈴木智之・西田善行著『失われざる十年の記憶』2012年、青弓社。その他、授業時に適宜参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席およびコメントペーパー）を30%、中間および期末の2回のレポートを70%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

知的好奇心を持って授業を受けてほしい。

SOC200LA

社会学 L C

2017 年度以降入学者

SOC200LA

社会学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：宗教と社会の関係

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の主な主題は、(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代（現代）社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「個人の自律性」と「個々人の連帯性」のバランスにかかわる問題であり、(2)は近代（現代）社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、その解決方向はいかに見出すかという問題である。この授業では、社会学の主な主題のうち(1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」のなかでも「宗教（宗教的なもの）と社会の関係」に焦点を当てる。社会における宗教の役割は何か？ それをいかに理解すればいいのか？ 宗教が個人の生活や社会に与える影響は何か？ この授業では、宗教について分析的に考えることで、上記のような質問に答えようとするものであり、この授業の目標は社会学の基本的な概念と宗教と社会的変化との間の関係を学ぶことである。

【到達目標】

- (1) 社会学的観点から宗教の伝統について議論することができる
- (2) 宗教の原理、宗教的信念、そして宗教と社会変化との関係を理解することができる
- (3) 個人的、社会的、および組織的な問題に対する社会学的概念を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2 回	基礎的概念の定義	「宗教/社会」「religion/society」に関連する基礎的な概念を語源から学ぶ
3 回	社会における宗教の潜在的機能の理解	E・デュルケム『宗教生活の原初形態』の一部講読を通して、宗教の潜在的機能について学ぶ
4 回	冠婚葬祭と年中行事	冠婚葬祭と年中行事の意味を宗教との関連で学ぶ
5 回	恋愛や学問における宗教の影響	恋愛や学問における宗教が及ぼした影響を学ぶ
6 回	宗教的意味の喪失	前回までの内容を M・エリアーデ『生と再生』、藤田省三『或る喪失の経験』の一部講読を通して、冠婚葬祭や年中行事が本来持っていた意味と今現在の意味との距離を考える
7 回	労働観の変遷①	ヨーロッパにおける労働観の変遷を宗教との関連で概略的に学ぶ（古代）
8 回	労働観の変遷②	ヨーロッパにおける労働観の変遷を宗教との関連で概略的に学ぶ（中世）
9 回	宗教改革と労働観の変化	M・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の一部講読を通して、宗教改革期に提示された「天職」と「二重予定説」の意味を学ぶ
10 回	「逆説」としての近代	M・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に即して「逆説」としての近代の論理を学ぶ
11 回	労働賛美と近代①	J・ロック、A・スミスの労働に関する議論を概略的に学ぶ
12 回	労働賛美と近代②	K・マルクスの労働に関する議論を学ぶ

13 回 信仰となった労働

「労働信仰」とも言いうる現代社会における労働の捉え方を概略的に学ぶ授業内容のおさらい

14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の授業のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組みようとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組みてほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、レジュメ、参考文献の抜粋などの配布資料に基づき授業を進める。

【参考書】

マックス・ウェーバー（1989）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

山之内靖（1997）『マックス・ウェーバー入門』岩波新書。

橋爪大三郎（2006）『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。

井上順孝編（2016）『宗教社会学を学ぶ人のために』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ② より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

【Outline and objectives】

What is the role of religion in society? How does religion affect individual lives and society? This course aims to familiarize students with the basic concepts utilized in understanding society and the Relationship Between religion and social change.

This course has three specific aims:

- (1) Students will be able to discuss religion traditions from a sociological perspective
- (2) Students will be able to understand the principles of religion, religious beliefs, and the relationship between religion and social change from the perspective of sociology.
- (3) Students will be able to understand sociological concepts to personal, social, and organizational issues.

SOC200LA

社会学 L D

2017 年度以降入学者

SOC200LA

社会学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の主な主題は (1)「社会秩序を可能にする基本原理の探求」(2)「近代(現代)社会の特殊性の解明」である。(1)は「社会」の両軸をなす「個人の自律性」と「個々人の連帯性」のバランスにかかわる問題であり、(2)は近代(現代)社会とはいかなる時代で、どのような問題を抱えており、その解決方向はいかに見出すかという問題である。

社会学 LD では、社会学の主な主題のうち (2)「近代(現代)社会の特殊性の解明」のなかでも、とくに「近代社会に内在する合理化の両義性」に焦点を当てる。合理化は近代社会を変えただけでなく、資本主義の発展において重要な役割を果たしつつ社会のあらゆる側面に広がった。この授業では、近代社会の合理化について社会的な成果に学びながら、官僚主義、権力、制度、統治など、これらの組織的な取り組みを説明するために使用される一般的な概念を学習する。「合理化の両義性」を学ぶことを通して、歴史の変化のなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについても考えるとともに社会に対する問題意識の「再発見」のきっかけを作る。

【到達目標】

- (1) 合理化の問題について討論できる基礎を習得できる
- (2) 現代社会の批判的な社会的見解を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2 回	「近代」の捉え方	E・H・カー『歴史とは何か』に学びつつ、歴史区分としての「近代」の基本的な捉え方を学ぶ
3 回	「信仰」から「理性」へ	思想的な次元での変化を概略的に学ぶ
4 回	「合理/合理性」の意味	M・ウェーバー『職業としての学問』を参照しつつ、「合理/合理性」の意味を学ぶ
5 回	官僚制と「近代」	前回の内容を踏まえて、M・ウェーバーと R・K・マートンの官僚制に関する相違点を中心に学ぶ
6 回	機械化としての近代	『モダン・タイムス (Modern Times)』(1936 年、Charles Chaplin 主演) を題材に社会の合理化の二面性について学ぶ
7 回	マニュアル化の時代としての「近代」	G・リッツァ『マクドナルド化する社会』を参照しながら、「合理化論」の理解を深める
8 回	監視社会としての「近代」①	G・オーウェル『1984』を題材に監視社会論の基本を学ぶ
9 回	監視社会としての「近代」②	前回の内容を発展させる形で、M・フーコー『監獄の誕生』の一部を参照しながら、規律・訓練型社会としての近代の特徴を学ぶ
10 回	合理的体制の非合理性①	J・ハーバーマスのいう「システムによる生活世界の植民地化」に関する議論を通して合理的体制の非合理性の一端を学ぶ

11 回	合理的体制の非合理性②	H・アーレントの『全体主義の起源』の一部、丸山眞男「超国家主義の論理と心理」の一部を通して合理的体制の非合理性の理解を深める
12 回	リスク社会としての現代①	U・ベック『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会の一面を学ぶ
13 回	リスク社会としての現代②	より理解を深め、視野を広めるために(A・ギデンズ/N・ルーマン)の「リスク」論を学ぶ
14 回	まとめ	授業内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」(多読)をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用せず、レジュメ、参考文献の抜粋などの配布資料に基づき授業を進める。

【参考書】

マックス・ウェーバー (1989)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫
ウルリヒベック (1998)『危険社会—新しい近代への道』法政大学出版局。
姜尚中 (2003)『マックス・ウェーバーと近代』岩波現代文庫
長谷川公一他 (2007)『社会学』有斐閣。
三上剛史 (2010)『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
日本社会学会社会学事典刊行委員会編 (2010)『社会学事典』丸善。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ② より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

【Outline and objectives】

This course is a sociological introduction to contemporary rationalization of society. It will focus on general concepts used to account for these organizing efforts, such as bureaucracy, power, institution, governance. Rationalization not only transformed modern society. It has spread to all aspects of society.

This course has two specific aims:

- (1) Students will be able to discuss problems in rationalization.
- (2) Understand the critical sociology view of modern society.

POL200LA

政治学 L A

2017 年度以降入学者

POL200LA

政治学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：政治と音楽：ボブ・ディランを中心に

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「黄金の時代」における政治と音楽
「黄金の時代」における政治とボブ・ディランの交錯を考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

20 世紀後半の US の社会と政治について知識を得ること。
時代・社会・政治の変遷とボブ・ディランの変容について理解すること。
US のフォークの政治との関係、およびビート・ジェネレーションの次世代に対する影響について理解すること。
ジョン・レノンの音楽と政治との関係について理解すること。
ボブ・ディランを中心にしながら 20 世紀のポピュラー・ミュージックに関する基礎知識を得ること。
以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。受講者の人数によってはディスカッションを取り入れたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要と受講上必要な情報について
# 2	ボブ・ディランの歩みと US の政治・経済・社会	ボブ・ディランの音楽的背景と US の 40 年代～50 年代について
#3	大衆消費社会における政治	テーマについての講義：「黄金の時代」特徴と「抑制によるデモクラシー」について
# 4	日本における「黄金の時代」の政治	「黄金の時代」における US の政治と日本の比較
# 5	US の社会運動とフォーク・ミュージック	US におけるフォーク・ミュージック歴史と政治との関係について
# 6	ビートとは何か	ビート・ジェネレーションの特徴と誕生の背景背景について
# 7	冷戦と核	抑止論を中心に核兵器に関する基本的な知識とキューバ危機について
#8	60 年代の US とボブ・ディラン（1）：公民権運動と「風に吹かれて」	プロテスト・シンガーとしてのボブ・ディラン誕生の政治的・社会的背景について
# 9	60 年代の US とボブ・ディラン（2）：「激しい雨が降る」	核戦争の恐怖と終末論について
#10	How Does It Feel?	ロックの誕生とボブ・ディランのフォークからロックへの移行について
#11	ベトナム反戦運動と音楽（1）：サイケデリック・ロック	Grateful Dead を中心にしながら、カウンター・カルチャーについて
# 12	ベトナム反戦運動と音楽（2）：ジョン・レノン	ジョン・レノンの音楽活動、反戦運動とアメリカの政治
# 13	アナキストとしてのボブ・ディランと	ボブ・ディランの政治に対する見方
# 14	Outro.	春学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

歌詞内容など、授業の際に必要な知識を事前に調べてその内容提出する。

【テキスト（教科書）】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013 年）¥760 + 税

【参考書】

ボブ・ディラン（菅野ヘッケル訳）『ボブ・ディラン自伝』（SB Creative、2005 年）¥1800 + 税

ジョン・ウィナー（原田洋一訳）『Come Together ジョン・レノンとその時代』（PCM 出版、1988 年）*絶版
BBC『20 世紀ポップ・ロック大全集 Vol.1～9』（NHK ソフトウェア、1996 年）DVD

Martin Scorsese, Bob Dylan: No Direction Home, 10th Anniversary Edition (ユニバーサルミュージック、2016 年) DVD/BD

【成績評価の方法と基準】

授業前に調べたペーパー 40 %

授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラーミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

しかしながら、洋楽やボブ・ディランについての知識がない学生に配慮して授業を行います。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。

政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。

わからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the Golden Age

This course deals with the interaction between Bob Dylan and politics in the Golden Age.

The fundamental aim of this course to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering interaction Bob Dylan and politics.

POL200LA

政治学 L B

2017 年度以降入学者

POL200LA

政治学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「黄金の時代」の終焉後の時代の政治と音楽

US における福音派の影響力の拡大とボブ・ディランの改宗の意味と「黄金の時代」の終焉時代の政治について考える。

パレスチナ問題について考える。

【到達目標】

現在、US の政治に大きな影響力を持つ福音派についての理解すること。

ボブ・ディランにとっての信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識と、宗教と政治の関係について理解すること。

パレスチナ問題について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。受講者の人数によってはディスカッションを取り入れたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要と受講上必要な情報
# 2	ユダヤ人としてのボブ・ディラン	US におけるユダヤ系移民の歴史
# 3	ボブ・ディランと聖書	旧約聖書が US 文化に与えた影響について
# 4	ボブ・ディランの改宗	福音派と政治の関係について
# 5	福音派の歴史的展開	近代化・世俗化に対する一つの対応の形として福音派の歴史的展開の考察
# 6	終末論	ユダヤ教とキリスト教の終末論について
# 7	ボブ・ディランと終末論	終末論がボブ・ディランに与えた影響について
# 8	パレスチナ問題	パレスチナ問題の歴史展開と現状について
# 9	ボブ・ディランとイスラエル	ボブ・ディランのイスラエル国家に対する姿勢
# 10	BDS とミュージシャン	BDS 運動に対するミュージシャンの対応
# 11	モリッシーと BDS	モリッシーの BDS への対応
# 12	頭脳警察／PANTA とパレスチナ問題（1）	頭脳警察／PANTA の歴史と現在
# 13	頭脳警察／PANTA とパレスチナ問題（2）	『ライラのバラード』～日本とパレスチナの関係について
# 14	Outro.	秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

歌詞内容など、授業の際に必要な知識を事前に調べてその内容を提出する。

【テキスト（教科書）】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013 年、760 円＋税）

【参考書】

青木保憲『アメリカ福音派の歴史』（明石書店、2012 年）

マーク・R・アムスタッツ『エヴァンジェリカルズ』（太田出版、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業前に調べたペーパー 40 %

授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するための試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。

政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。

わからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music after the end of the Golden Age

This course deals with the interaction between Bob Dylan and politics after the end of the Golden Age.

The fundamental aim of this course to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering interaction Bob Dylan and politics.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：政治人類学への招待

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治人類学は、文化人類学の中でも権力や秩序といった問題を中心に扱ってきた領域である。学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

【到達目標】

学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的プロセスとしての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	政治人類学の関心	政治人類学の初期における基本的な関心から出発し、エヴァンス・プリチャード以降の政治人類学の議論の大きな流れを紹介する。これが本講義のイントロダクションとなる。
第二回	国家なき統治	政治人類学における「未開社会」の研究、特に政治体系の研究を紹介する。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。
第四回	言語と政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
第五回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第六回	人種、民族、階級、ジェンダー	政治人類学の重要な概念である、人種、民族、階級、ジェンダーの定義を踏まえ、それらが政治的なアイデンティティ、あるいはアイデンティティの本質化とどのように関係するのかという問題を事例を交えて紹介する。
第七回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
第八回	人権と人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
第九回	難民の人類学	難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
第十回	移（住）民の人類学	移民政策を理解する上での基本的な考え方と、移民研究のトピックの変遷を概観した上で、近年の人類学的な移民研究を紹介していく。

第十一回 移住労働の人類学

第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形で労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。

第十二回 先住民運動と人類学

先住民運動を例に、先住民をめぐる国際法と、国際的な運動のネットワーク、そしてローカルな実践とをつなぐ運動の営みを把握する。

第十三回 文化と権利

文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

第十四回 試験

これまでの講義および授業外の学習を踏まえた記述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回のリアクションペーパー 40%、最終授業での記述式試験 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクション・ペーパーの提出を求め、毎回の授業の冒頭に前回のリアクション・ペーパーの紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of political anthropology / anthropology of politics that has been mainly dealing with topics related to the order and power. Students should study traditional topics as well as contemporary issues such as nation-states, human rights, social movements, global migration, essentialism and so on.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ 2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文化人類学の基礎について学ぶ。人間と文化との関係の構造的な理解をめざし、さまざまなテーマからそれを見ていく。

【到達目標】

文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的テーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討して試みることにする。この作業を通じて、文化人類学的なものの考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義して試みたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ひとつずつ基本テーマを取り上げ、それに関する詳細情報やデータ類を提示しつつ、解説と検討をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	プロローグ	受講にあたっての注意事項、授業の全体計画などについて解説。
②	焼畑と植生Ⅰ	焼畑農業と環境条件との関係について学ぶ。
③	焼畑と植生Ⅱ	ク
④	住居と生活空間	住居と居住空間の多様性について学ぶ。
⑤	年中行事の構造	日本の年中行事の構造分析について学ぶ。
⑥	民間信仰と文化変容	宗教学人類学および日本の民間信仰の特性について学ぶ。
⑦	台湾の社会と民族問題	多民族社会の実情と問題点について学ぶ。
⑧	アミ族の社会変容	母系制社会の変容の実態について学ぶ。
⑨	ブヌ族の社会変容	父系制社会の変容の実態について学ぶ。
⑩	アイヌ問題	日本の少数民族問題の実情について学ぶ。
⑪	沖縄文化の特色	沖縄の固有文化の特色について学ぶ。
⑫	冬季フィールドワーク解説	冬休みのフィールドワークとレポート作成について解説。
⑬	補足説明	全体の補足解説をおこなう。
⑭	秋学期授業のまとめ	秋学期授業の全体的な総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での復習をおこない、配布されたプリント資料などを通読し、整理しておくこと。教員への質問事項なども用意しておくことがのぞましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用せず、そのかわりに毎回、教室でプリント資料を配布する。それが、いわばテキストがわりとなる。

【参考書】

必要な文献資料や読んでおくべき参考書類は、授業時間内に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験およびレポート提出によって、成績評価をおこなう。特にレポートの内容の評価に重点を置くので、すぐれたレポートを作成することがのぞましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果を尊重し、極力受講者からの要望を取り入れ、つねに授業内容の改善につとめていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

CUA200LA

文化人類学Ⅰ 2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：文化人類学を通して考える現在の地球

岩原 絃伊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営国環キ 1～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代世界が直面するさまざまな課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視点を通して理解する。

【到達目標】①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について具体的に理解する視座を身に付ける。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文化人類学は、地球に生きる人間の様々な生のあり方を文化や社会に注目して理解することを目指す学問である。この授業では、グローバリゼーション、医療、環境、開発、観光という文化人類学が得意とする現代的テーマを掘り下げることにより、文化人類学の考え方が現代の世界が直面する課題を深く理解するのにいかに役立つかを解説する。毎回の授業では授業内容の理解度を確かめるためにコメントシートを記入してもらい、翌週には受講生のコメントの一部を取りあげて復習をしつつ、できるだけ質問に答えていく。なお、本授業では写真や映像資料を多用し、異なる文化や社会の様子を視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、成績評価など
2	グローバリゼーション①	グローバリゼーションと文化
3	グローバリゼーション②	ドキュメンタリー映画『バベルの学校』を視聴と解説
4	グローバリゼーション③	越境する人びと
5	医療①	医療と文化
6	医療②	生殖技術の発展と現代社会
7	環境①	環境保護と文化人類学
8	環境②	捕鯨問題から再考する文化
9	開発①	開発と文化
10	開発②	フェアトレード
11	観光①	観光と文化
12	観光②	エコ・ツーリズム
13	観光③	ヘリテージ・ツーリズム
14	授業内試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビなどのメディアを通して授業テーマに関する事象に触れた際、文化人類学的な視点でからどのように理解できるかを考えてみる。また、資料や参考書を読んで予習・復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回の授業でレジュメを配布する。

【参考書】山下晋司・船隻建夫編『文化人類学キーワード（改訂版）』（有斐閣、2008年）
山下晋司編『観光人類学』（新曜社、1996年）
その他、授業時に適宜指示する。**【成績評価の方法と基準】**

コメントシートの内容（20%）と試験の点数（80%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

資料を授業支援システムにアップロードする際にファイル名を統一するなど工夫する。

【その他の重要事項】

文化人類学（春学期開講）とあわせて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

This class explores 'global issues' by introducing the perspectives and arguments of anthropology/anthropologists. Especially by focusing on cultural side on the issues, you will gain the perspectives how culture matters in order to solve and overcome them.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：今日の文化人類学

阿部 朋恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業数回分ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学の課題	「他者理解」の可能性にまつわるさまざまな課題を確認する。
3	フィールドワークの再検討	文化人類学者が得意としてきた長期滞在型のフィールドワークの功罪を検討する。
4	開発と人類学	開発および開発によって生じる社会変容についての人類学的な諸議論を紹介する。
5	開発の現場と人類学者	人類学者はこれまで開発の現場で何をしてきたのか、そして開発援助に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
6	開発言説の人類学	言説（ディスコース・ディスクール）という概念をもとに、「開発」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
7	環境と人類学	環境および環境運動についての人類学的な諸議論を紹介する。
8	環境運動の現場と人類学者	人類学者はこれまで環境運動の現場で何をしてきたのか、環境運動に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
9	環境言説の人類学	言説（ディスコース・ディスクール）という概念をもとに、「環境」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
10	科学技術と人類学	われわれの暮らしを囲む科学技術の成り立ちを学び、科学と文化の関係について考える。
11	災害と人類学	災害の原因と対応にまつわるさまざまな知識と言説を学び、災害と文化の関係について考える。
12	食と人類学	食にまつわるさまざまな観念と実践を学び、食と文化の関係について考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。

14 試験 筆記形式（論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみること。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献について紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『グローバルゼーションのなかの文化人類学案内』中島成久（編）明石書店、2003年。

上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治人類学は、文化人類学の中でも権力や秩序といった問題を中心に扱ってきた領域である。学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

【到達目標】

学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	政治人類学の関心	政治人類学の初期における基本的な関心から出発し、エヴァンス・ブリチャード以降の政治人類学の議論の大きな流れを紹介する。これが本講義のイントロダクションとなる。
第二回	国家なき統治	政治人類学における「未開社会」の研究、特に政治体系の研究を紹介する。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。
第四回	言語と政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
第五回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第六回	人種、民族、階級、ジェンダー	政治人類学の重要な概念である、人種、民族、階級、ジェンダーの定義を踏まえ、それらが政治的なアイデンティティ、あるいはアイデンティティの本質化とどのように関係するのかという問題を事例を交えて紹介する。
第七回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
第八回	人権と人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
第九回	難民の人類学	難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
第十回	移（住）民の人類学	移民政策を理解する上での基本的な考え方や、移民研究のトピックの変遷を概観した上で、近年の人類学的な移民研究を紹介していく。

第十一回 移住労働の人類学	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
第十二回 先住民運動と人類学	先住民運動を例に、先住民をめぐる国際法と、国際的な運動のネットワーク、そしてローカルな実践とをつなぐ運動の営みを把握する。
第十三回 文化と権利	文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。
第十四回 試験	これまでの講義および授業外の学習を踏まえた記述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回のリアクションペーパー 40%、最終授業での記述式試験 60 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクション・ペーパーの提出を求め、毎回の授業の冒頭に前回のリアクション・ペーパーの紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of political anthropology / anthropology of politics that has been mainly dealing with topics related to the order and power. Students should study traditional topics as well as contemporary issues such as nation-states, human rights, social movements, global migration, essentialism and so on.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：今日の文化人類学

阿部 朋恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが抱えて立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業数回分ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学の課題	「他者理解」の可能性にまつわるさまざまな課題を確認する。
3	フィールドワークの再検討	文化人類学者が得意としてきた長期滞在型のフィールドワークの功罪を検討する。
4	開発と人類学	開発および開発によって生じる社会変容についての人類学的な諸議論を紹介する。
5	開発の現場と人類学者	人類学者はこれまで開発の現場で何をしてきたのか、そして開発援助に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
6	開発言説の人類学	言説（ディスコース・ディスカール）という概念をもとに、「開発」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
7	環境と人類学	環境および環境運動についての人類学的な諸議論を紹介する。
8	環境運動の現場と人類学者	人類学者はこれまで環境運動の現場で何をしてきたのか、環境運動に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
9	環境言説の人類学	言説（ディスコース・ディスカール）という概念をもとに、「環境」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
10	科学技術と人類学	われわれの暮らしを囲む科学技術の成り立ちを学び、科学と文化の関係について考える。
11	災害と人類学	災害の原因と対応にまつわるさまざまな知識と言説を学び、災害と文化の関係について考える。
12	食と人類学	食にまつわるさまざまな概念と実践を学び、食と文化の関係について考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。

14 試験 筆記形式（論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献について紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『グローバル化のなかの文化人類学案内』中島成久（編）明石書店、2003年。

上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかり行うこと。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：今日の文化人類学

阿部 朋恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業数回分ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学の課題	「他者理解」の可能性にまつわるさまざまな課題を確認する。3
3	フィールドワークの再検討	文化人類学者が得意としてきた長期滞在型のフィールドワークの功罪を検討する。
4	開発と人類学	開発および開発によって生じる社会変容についての人類学的な諸議論を紹介する。
5	開発の現場と人類学者	人類学者はこれまで開発の現場で何をしてきたのか、そして開発援助に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
6	開発言説の人類学	言説（ディスコース・ディスカール）という概念をもとに、「開発」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
7	環境と人類学	環境および環境運動についての人類学的な諸議論を紹介する。
8	環境運動の現場と人類学者	人類学者はこれまで環境運動の現場で何をしてきたのか、環境運動に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
9	環境言説の人類学	言説（ディスコース・ディスカール）という概念をもとに、「環境」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
10	科学技術と人類学	われわれの暮らしを囲む科学技術の成り立ちを学び、科学と文化の関係について考える。
11	災害と人類学	災害の原因と対応にまつわるさまざまな知識と言説を学び、災害と文化の関係について考える。
12	食と人類学	食にまつわるさまざまな概念と実践を学び、食と文化の関係について考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみること。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献について紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『グローバルゼーションのなかの文化人類学案内』中島成久（編）明石書店、2003年。

上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

岩原 絢伊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界が直面するさまざまな課題を、異文化理解の学問である文化人類学の視点を通して理解する。

【到達目標】

- ①文化人類学的な視座がいかに現代の世界を知るうえで役立つかを理解し、人に説明できるようにする。
- ②文化人類学を学ぶことで、わたしたちと異文化に生きる他者の間にある文化の違いに由来する衝突について具体的に理解する視座を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文化人類学は、地球上に生きる人間の様々な生のあり方を文化や社会に注目して理解することを目指す学問である。この授業では、グローバルゼーション、医療、環境、開発、観光という文化人類学が得意とする現代的テーマを掘り下げることにより、文化人類学の考え方が現代の世界が直面する課題を深く理解するのにいかに役立つかを解説する。毎回の授業では授業内容の理解度を確かめるためにコメントシートを記入してもらい、翌週には受講生のコメントの一部を取りあげて復習をしつつ、できるだけ質問に答えていく。なお、本授業では写真や映像資料を多用し、異なる文化や社会の様子を視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、成績評価など
2	グローバルゼーション①	グローバルゼーションと文化
3	グローバルゼーション②	ドキュメンタリー映画『バベルの学校』を視聴と解説
4	グローバルゼーション③	越境する人びと
5	医療①	医療と文化
6	医療②	生殖技術の発展と現代社会
7	環境①	環境保護と文化人類学
8	環境②	捕鯨問題から再考する文化
9	開発①	開発と文化
10	開発②	フェアトレード
11	観光①	観光と文化
12	観光②	エコ・ツーリズム
13	観光③	ヘリテージ・ツーリズム
14	授業内試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビなどのメディアを通して授業テーマに関する事象に触れた際、文化人類学的な視点でからどのように理解できるかを考えてみる。また、資料や参考書を読んで予習・復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回の授業でレジュメを配布する。

【参考書】

山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード（改訂版）』（有斐閣、2008年）

山下晋司編『観光人類学』（新曜社、1996年）

その他、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの内容（20%）と試験の点数（80%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

資料を授業支援システムにアップロードする際にファイル名を統一するなど工夫する。

【その他の重要事項】

文化人類学（春学期開講）とあわせて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

This class explores 'global issues' by introducing the perspectives and arguments of anthropology/anthropologists. Especially by focusing on cultural side on the issues, you will gain the perspectives how culture matters in order to solve and overcome them.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：「人種・民族問題入門、アジア・アフリカ編」

中島 成久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人種・民族問題入門、アジア・アフリカ編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。秋学期は主にアジア、アフリカにおける人種・民族問題を考える。

【到達目標】

グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本においては日常あまり意識のすることのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。レスポンスシートの内容を次の時間に紹介し、学生の理解を深めるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	人種・民族問題の基礎知識、春学期の内容説明、成績評価説明
第 2 回	マレーシア・シンガポール①	複合社会マレーシアの形成、イギリス海峽植民地
第 3 回	マレーシア・シンガポール②	プミブトラ政策
第 4 回	インドネシア①	インドネシアにおける「先住民」
第 5 回	インドネシア②	SARA(民族、人種、宗教、その他による差別)の実態
第 6 回	インドネシア③	東南アジアの華人
第 7 回	アパルトヘイト①	アパルトヘイトの起源
第 8 回	アパルトヘイト②	ネルソン・マンデラとアパルトヘイトの撤廃
第 9 回	オーストラリア ①	白豪主義、盗まれた世代
第 10 回	オーストラリア②	映画「裸足の 1500 マイル」
第 11 回	植民地人種主義①	ルワンダ紛争
第 12 回	植民地人種主義②	映画「ホテルルワンダ」
第 13 回	チベット問題①	チベット問題の現在
第 14 回	チベット問題②	映画「セブン・イヤーズ・イン・チベット」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをよく読むこと。図書館などで関連する文献を調べ、視野を広げること。紹介した Youtube の番組で英語の場合、自分で視聴しなおすこと。

【テキスト（教科書）】

中島成久（編著）『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (70 %) + 平常点 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

板書を丁寧に行うこと。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Race and Ethnic Relations are main issues of Introduction of Cultural Anthropology. Case studies from Asia and Africa are discussed in this class.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

CUA200LA

文化人類学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：今日の文化人類学

阿部 朋恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や環境運動、科学技術の発達、食生活の多様化といった今日の世界に共通してみられるさまざまな現象に焦点を当てながら、そうした変化がたどる過程が多様であることを学ぶ。さらに、そうした学びを通じて、環境破壊や災害、政治経済的基盤の変動などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業数回分ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学の課題	「他者理解」の可能性にまつわるさまざまな課題を確認する。
3	フィールドワークの再検討	文化人類学者が得意としてきた長期滞在型のフィールドワークの功罪を検討する。
4	開発と人類学	開発および開発によって生じる社会変容についての人類学的な諸議論を紹介する。
5	開発の現場と人類学者	人類学者はこれまで開発の現場で何をしてきたのか、そして開発援助に携わる人たちとどのように関わってきたのかを振り返る。
6	開発言説の人類学	言説（ディスコース・ディスクール）という概念をもとに、「開発」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
7	環境と人類学	環境および環境運動についての人類学的な諸議論を紹介する。
8	環境運動の現場と人類学者	言説（ディスコース・ディスクール）という概念をもとに、「環境」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
9	環境言説の人類学	言説（ディスコース・ディスクール）という概念をもとに、「環境」という考え方を相対的に捉え直す方法を紹介する。
10	科学技術と人類学	われわれの暮らしを囲む科学技術の成り立ちを学び、科学と文化の関係について考える。
11	災害と人類学	災害の原因と対応にまつわるさまざまな知識と言説を学び、災害と文化の関係について考える。
12	食と人類学	食にまつわるさまざまな観念と実践を学び、食と文化の関係について考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。

14 試験

筆記形式（論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献について紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『グローバルゼーションのなかの文化人類学案内』中島成久（編）明石書店、2003年。

上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。期末試験へのレジュメ、辞書、参考資料等の持ち込みは不可とする。ただし、期末試験では各回の授業内であらかじめ通知した問題（すべて論述形式）を出題するため、事前準備をしっかりと行うこと。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

SOS200LA

社会思想 L A

2017 年度以降入学者

SOS200LA

社会思想 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3 ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では 3 ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる
テキスト読解や講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる
テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	発生	日本の近代と在日朝鮮人の発生
4	定着化	定着化と二世の誕生
5	運動	さまざまな運動
6	コミュニティ	朝鮮人コミュニティの変容
7	強制動員	戦時下の在日朝鮮人
8	戦後	占領政策
9	帰国	帰国運動
10	二世 (1)	二世たちの挑戦
11	二世 (2)	転換期の思想と文化
12	グローバル化 (1)	多民族化する日本社会
13	グローバル化 (2)	国民の論理を超えて
14	まとめ	在日朝鮮人と日本の進む道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに指定するテキスト数十ページを事前に読んでおくことと授業の理解の助けになります。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント

期末レポート 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で出席者のコメントメールを紹介することによって刺激になり、他の受講者の理解が進むことが多いようです。また映像資料の視聴は理解、関心を深めるのに有用なので、映画や動画も使用する場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course. They are also called Korean minority in Japan or ZAINICHI in Japanese. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the modern history of ZAINICHI Koreans and a variety of their identities ,poetry,literature,movies,music,and some other cultural works.

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

SOS200LA

社会思想 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1～4 年

[Outline and objectives]

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course. They are also called Korean minority in Japan or ZAINICHI in Japanese. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the modern history of ZAINICHI Koreans and a variety of their identities ,poetry,literature,movies,music,and some other cultural works.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では 3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる
 テキスト読解や講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる
 テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	事件	歴史的背景
4	1960 年代 (1)	民族の問題
5	1960 年代 (2)	民族責任
6	小松川事件 (1)	李珍宇の犯罪
7	小松川事件 (2)	李珍宇の手紙
8	金嬉老事件 (1)	事件の発生
9	金嬉老事件 (2)	事件の意味
10	詩と文学 (1)	金時鐘と金石範
11	詩と文学 (2)	鷺沢萌・柳美里・崔実
12	映画 (1)	崔洋一と大島渚
13	映画 (2)	浦山桐郎と井筒和幸
14	音楽	在日音楽の百年

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業ごとに指定されたテキストの数十ページを読んでおく授業の理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント

期末レポート 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

授業中に受講者のコメントを紹介することで他の受講者の理解が進むようです。また、映像資料の視聴も関心を深めるのに有用なので、映画や動画も利用する場合があります。

SOS200LA

社会思想 L A

2017 年度以降入学者

SOS200LA

社会思想 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 1～4 年

【Outline and objectives】

This course introduces the ideas and style of essay of Hiromasa Ichimura who is a researcher of the history of ideas to students taking this course. His ideas include various themes. For example there are an intellectual history of a naming, the experience of the Edo city, Walter Benjamin and the 1920's mind, the experience of exiles and refugees, Franz Kafka, Hannah Arendt, Carl Schmitt and Paul Celan. The aim of this course is to help students acquire an understanding of an intellectual background of these themes and meanings of the historical experience of 20's century.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では 1945 年生まれの思想史研究者である市村弘正の思想を学びます。ここでは市村のエッセイを読解することを通して、論じられた主題群とともにその論じられ方について学ぶことが試みられます。その主題には例えば名づけの精神史、江戸という都市の経験、現代日本論、ベンヤミンとヨーロッパ 1920 年代論、映像作家や音楽家の経験、亡命や難民ということ、フランツ・カフカ、ハンナ・アーレント、カール・シュミット、パウル・ツェラン研究などを含みます。この授業ではこれらのエッセイの読解を通して、各主題の歴史的、思想的背景とともに、そこから読みとりうる 20 世紀という歴史的経験の意味を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して歴史的、思想的主題を理解することができる
テキスト読解や講義を通して人間の歴史的経験の意味を考えることができる
テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	読むことと経験すること I
3	物への弔辞	物と人間の交渉
4	都市の周縁	江戸から東京へ
5	都市の崩壊	東海道四谷怪談
6	断片の運動	ヨーロッパ 1920 年代
7	精神の現在形	統合失調という経験
8	失敗の意味	映画「水俣の甘夏」について
9	そぞろとす精神	映画「抵抗」について
10	思想史家	貧民とガストアルバイター
11	死の影のゆくえ	ノーマ・フィールドの仕事
12	名づけの精神史	名づけという経験
13	20 世紀の思考	逆向きに読まれる時代
14	結論	読むことと経験すること II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストの指定されたページを事前に読んでおくとう理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

市村弘正『（増補）「名づけ」の精神史』（平凡社ライブラリー）

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント

期末レポート 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを授業中に紹介することで刺激をうけ、授業の理解が進むようです。
また、映像資料の視聴は授業の理解を深めるのに有用なので、映画や動画を使用する場合があります。

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

SOS200LA

社会思想 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 1～4 年

[Outline and objectives]

This course introduces the ideas and style of essay of Hiromasa Ichimura who is a researcher of the history of ideas to students taking this course. His ideas include various themes. For example there are an intellectual history of a naming, the experience of the Edo city, Walter Benjamin and the 1920's mind, the experience of exiles and refugees, Franz Kafka, Hannah Arendt, Carl Schmitt and Paul Celan. The aim of this course is to help students acquire an understanding of an intellectual background of these themes and meanings of the historical experience of 20's century.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では 1945 年生まれの思想史研究者である市村弘正の思想を学びます。ここでは市村のエッセイを読解することを通して、論じられた主題群とともにその論じられ方について学ぶことが試みられます。その主題には例えば名づけの精神史、江戸という都市の経験、現代日本論、ベンヤミンとヨーロッパ 1920 年代論、映像作家や音楽家の経験、亡命や難民ということ、フランツ・カフカ、ハンナ・アーレント、カール・シュミット、パウル・ツェラン研究などを含みます。この授業ではこれらのエッセイの読解を通して、各主題の歴史的、思想的背景とともに、そこから読みとられる 20 世紀という時代の歴史的経験の意味を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して歴史的、思想的主題を理解することができる
 テキスト読解や講義を通して人間の歴史的経験の意味を考えることができる
 テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	読むことと経験すること I
3	文化崩壊の経験	晩年のバルトークについて
4	マイノリティ	小さなもののかたち
5	戦後経験	経験の古典化
6	残像文化	衰えゆく感覚
7	在日について	在日三世のカフカ
8	落下する世界	墮落と落下
9	友情について	友情の点呼に答える声
10	家族について	家族という場所
11	貧民について	貧民の都市
12	夢見ること	夢の弁証法
13	叙事詩	叙事詩的精神
14	結論	読むことと経験すること II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストの指定された箇所を事前に読んでおくことで理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント

期末レポート 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを紹介することで他の受講者の理解が進むようです。また、映像資料の視聴は授業の理解に有用なので、映画や動画を利用することもあります。

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ 2017年度以降入学者

MAT200LA

発展数学Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分1	微分の定義と基本性質
第3回	微分2	積の微分、商の微分、合成関数の微分
第4回	微分3	陰関数の微分
第5回	微分4	曲線の傾きと極値
第6回	微分の応用1	曲線の凹凸と変曲点
第7回	微分の応用2	テイラー展開
第8回	微分の応用3	マクローリン展開
第9回	微分の応用4	近似計算
第10回	積分1	定積分と不定積分
第11回	積分2	リーマン積分
第12回	積分3	微分積分法の基本定理
第13回	積分の応用1	図形的面積
第14回	積分の応用2	立体の体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版（2011）は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of one variable.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ 2017年度以降入学者

MAT200LA

発展数学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	2変数関数1	多変数関数とは
第3回	2変数関数2	平面のグラフ
第4回	2変数関数3	曲面のグラフ
第5回	偏微分1	偏微分とは
第6回	偏微分2	極限値
第7回	偏微分3	偏導関数の計算
第8回	偏微分4	合成関数の微分
第9回	偏微分5	全微分と接平面
第10回	偏微分の応用1	極値問題
第11回	偏微分の応用2	陰関数の微分法
第12回	偏微分の応用3	条件付極値問題
第13回	重積分1	重積分とは
第14回	重積分2	体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版（2011）は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of more than one variable.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

MAT200LA

発展数学Ⅰ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 2～4年

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of one variable.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	陰関数と微分
第06回	関数の形式と微分2	媒介変数表示と微分
第07回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第08回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第09回	高階導関数3	べき級数の基礎
第10回	高階導関数4	マクローリン展開
第11回	高階導関数5	社会科学への応用
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	積分3	社会科学への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。

【参考書】

微積分学を主題とした書物は参考となる。数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

練習問題（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子ですので、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

MAT200LA

発展数学Ⅱ 2017年度以降入学者

MAT200LA

発展数学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 2～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

～社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学2	2変数の1次式と平面
第04回	空間の数学3	2変数の多項式と曲面
第05回	偏微分1	偏微分とその意味
第06回	偏微分2	偏導関数の計算
第07回	偏微分3	全微分と接平面
第08回	偏微分4	2変数関数と最適化
第09回	偏微分5	社会科学への応用
第10回	偏微分と極値1	公務員試験問題での極値計算
第11回	偏微分と極値2	2階偏導関数の計算
第12回	偏微分と極値3	2階偏導関数と極値の判定
第13回	偏微分と極値4	制約条件のある極値問題
第14回	重積分	2変数関数に関する積分の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。

【参考書】

微積分学を主題とした書物は参考となる。数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

練習問題（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子ですので、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思っております。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of more than one variable.

PHY200LA

教養物理学ⅡA 2017年度以降入学者

PHY200LA

原子から宇宙までⅠ 2016年度以前入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法文営国環キ 2～4年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、我々の住む世界（宇宙）の理解がどのように変遷してきたか振り返り、背後にある物理学の法則の内容を簡潔に講義する。その上で、宇宙・地球におけるいろいろな現象の紹介と、それらが如何にして基本法則に基づいて理解されているか、いくつか実例を示し、自然現象を科学的に理解することの意味を説明する。更には、宇宙・地球の構造や歴史、宇宙と地球との関わりを探索する最近の研究にも触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	天体の階層性、星の光の観測から何がわかるか
第7回	宇宙の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第8回	宇宙の歴史	膨張宇宙、宇宙の始まり
第9回	星の一生と進化(1)	恒星の誕生と死、元素合成
第10回	星の一生と進化(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、月、系外惑星
第13回	宇宙の謎	暗黒物質、暗黒エネルギー
第14回	まとめ	地球と宇宙との関り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は授業支援システムを用いて提示する。

【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から始まった授業であるので、より分かりやすくなるよう内容を工夫しながら授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

PHY200LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国環キ 2～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基本法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、我々の住む世界（宇宙）の理解がどのように変遷してきたか振り返り、背後にある物理学の法則の内容を簡潔に講義する。その上で、宇宙・地球におけるいろいろな現象の紹介と、それらが如何にして基本法則に基づいて理解されているか、いくつか実例を示し、自然現象を科学的に理解することの意味を説明する。更には、宇宙・地球の構造や歴史、宇宙と地球との関わりを探る最近の研究にも触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	天体の階層性、星の光の観測から何がわかるか
第 7 回	宇宙の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 8 回	宇宙の歴史	膨張宇宙、宇宙の始まり
第 9 回	星の一生と進化 (1)	恒星の誕生と死、元素合成
第 10 回	星の一生と進化 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、月、系外惑星
第 13 回	宇宙の謎	暗黒物質、暗黒エネルギー
第 14 回	まとめ	地球と宇宙との関り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、講義資料は授業支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から始まった授業であるので、より分かりやすくなるよう内容を工夫しながら授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

PHY200LA

教養物理学 L B

2017 年度以降入学者

PHY200LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。時にはビデオや実験装置を使用する予定である。随時最新の話題を取り入れながら、高校にて物理学を履修していなくても理解してもらえるように進めていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体について紹介する。
第2回	万有引力：ガリレオ研究	17世紀のガリレオの研究について紹介する。
第3回	万有引力：ケプラーの研究	17世紀のケプラーの研究について紹介する。
第4回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第5回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第6回	宇宙：太陽系	第4回に関連して地球について、更に太陽系の天体について紹介する。
第7回	宇宙：アポロ計画	1960年代のアポロ計画を中心に、宇宙開発について紹介する。
第8回	宇宙：スペースシャトル計画	1980年代のスペースシャトル計画を中心とした宇宙開発について紹介する。
第9回	宇宙：冥王星探査・小惑星探査計画	地球上の生命はどこから来たのか。2000年代の冥王星探査・小惑星探査等について紹介する。
第10回	ラジウム：原子核	原子核について紹介する。
第11回	ラジウム：マリ・キュリー	マリ・キュリーの研究について紹介する。
第12回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。
第13回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績 80%と平常点 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course teaches some subjects of physics based on historical episode.

PHY200LA

教養物理学 L B

2017 年度以降入学者

PHY200LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営国環キ 2～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。時にはビデオや実験装置を使用する予定である。随時最新の話題を取り入れながら、高校にて物理学を履修していなくても理解してもらえるように進めていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体について紹介する。
第2回	万有引力：ガリレオ研究	17世紀のガリレオの研究について紹介する。
第3回	万有引力：ケプラーの研究	17世紀のケプラーの研究について紹介する。
第4回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第5回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第6回	宇宙：太陽系	第4回に関連して地球について、更に太陽系の天体について紹介する。
第7回	宇宙：アポロ計画	1960年代のアポロ計画を中心に、宇宙開発について紹介する。
第8回	宇宙：スペースシャトル計画	1980年代のスペースシャトル計画を中心とした宇宙開発について紹介する。
第9回	宇宙：冥王星探査・小惑星探査計画	地球上の生命はどこから来たのか。2000年代の冥王星探査・小惑星探査等について紹介する。
第10回	ラジウム：原子核	原子核について紹介する。
第11回	ラジウム：マリ・キュリー	マリ・キュリーの研究について紹介する。
第12回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。
第13回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course teaches some subjects of physics based on historical episode.

BIO200LA

教養生物学 L A

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：私たちの体を作る細胞の構造と働き

沼田 治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

我々の体は、37 兆 2 千億個の細胞から構成されていると言われている。この授業では、我々の体を構成する細胞について理解することを目的とする。学生諸君が自分の体を構成する基本単位である細胞の実態を理解できる授業を展開する。学生諸君が生活の中で毎日経験している活動、外界からの情報を感じて行動するしくみ、食事からエネルギーを獲得し、エネルギーを利用して運動することなどを、細胞レベルから理解することを旨とする。自分の体を構成する細胞について学ぶことで、命の本質を理解してもらいたい。

【到達目標】

私たちの体を構成している細胞がどのような構造をしているのか、細胞がどのような働きをしているのかを学び、細胞が活動するエネルギーがどのように作られるのか、細胞がどのように動くのか、細胞がどのように増えるのか、細胞がどのように組織や器官を形成するのかを理解する。生命の最小単位である細胞についての最新の知見をベースとして、我々が生きているということ、生命の本質について、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業は進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	細胞膜が細胞を外界から区切っている	細胞膜の構造と働きについて理解する。細胞膜を介しての外界との物質のやり取りと、神経の興奮の伝播を例にして、解説する。
2 回	遺伝子は染色体の中に収納され、核の中に保存されている	遺伝子を保存している核の構造について理解する。遺伝子を収納している染色体の構造と、その働きについて解説する。
3 回	ミトコンドリアはエネルギーを産生し、葉緑体は炭水化物を合成する	我々に不可欠なエネルギーを産生するミトコンドリアと、光と二酸化炭素から炭水化物を産生する葉緑体の働きを理解する。
4 回	細胞骨格とは何か？	細胞の形態維持や、細胞の運動に関わる、細胞の骨格を構成する成分について説明する。特に筋肉を例にして理解を深める。
5 回	細胞骨格を動かす細胞内モーター	細胞の中にもモーターがあり、それらの働きで我々は動くことができる。細胞内モーターの実態について、筋肉と精子を例にして解説する。
6 回	細胞が運動するしくみとその働き	細胞骨格と細胞内モーターの働きで、細胞は運動する。その具体的な仕組みに関して、筋収縮と細胞のアメーバ運動を例に挙げて解説する。
7 回	細胞質でタンパク質が作られる	遺伝子に蓄えられた遺伝情報はタンパク質を作る情報である。タンパク質がどのように作られるかを解説する。
8 回	作られたタンパク質は働く場所に運ばれる	タンパク質は働くべき場所が決まっている。どのようにタンパク質が働く場所に運ばれるかを解説する。
9 回	細胞は分泌し、細胞は取り込む	細胞がホルモンや消化酵素を分泌するしくみと、細胞が糖や脂肪を取り込む仕組みについて解説する。

10 回	細胞はシグナルをやり取りしている	細胞は外からシグナルを受け取り、そのシグナルを細胞内に伝達する。細胞間シグナル伝達と細胞内シグナル伝達について解説する。
11 回	細胞はどのように増殖するか？	細胞は細胞分裂を行って増殖する。細胞分裂は、核が分裂したのちに細胞質が分裂して完了する。核分裂と細胞質分裂のしくみを解説する。
12 回	細胞は遺伝子を複製した後分裂する	細胞は遺伝子の複製と分裂を繰り返している。これを細胞周期と呼ぶ。細胞周期を調節するしくみについて説明する。
13 回	私たちの体と細胞	私たちの体を構成する上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織とそれらを構成する細胞について説明する。
14 回	私たちは感じて行動する	私たちの行動と細胞の関係を、神経細胞の興奮伝達と筋肉の運動を例に挙げ、分子レベルで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習のためにテキストを事前に読むこと、復習のためにテキストの演習問題を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：「細胞生物学」

著者： 沼田治編著、千葉智樹、中野賢太郎、中田和人著

出版社： 化学同人

出版年： 2012 年第 1 版発行

価格： 3,000 円

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 % として、合計 100 % として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」ので、上記の授業改善アンケートの結果を見て、速やかに授業改善を実現する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline and objectives】

Our body is said to be composed of 37.2 trillion cells. The purpose of this lesson is to understand the cells that make up our body. We develop classes that allow students to understand the actual conditions of cells, which are basic units that make up their bodies. A class that allows students to understand the activities they are experiencing everyday in their lives, how they feel and act from the outside world, acquire energy from diet, exercise using energy, etc. . I would like you to understand the essence of life by learning about the cells that make up your body.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：不思議な生物テトラヒメナが教えてくれたこと

沼田 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テトラヒメナはノーベル賞に輝いたリボザイムとテロメアの発見に導いた研究材料である。現在でも、テトラヒメナを研究材料として、ヒストンの化学修飾によるエピジェネティック調節や低分子 RNA による遺伝子再編成などの発見がなされている。本講義では、テトラヒメナを用いて明らかにされた素晴らしい研究成果を紹介し、学生諸君が現代生物学の最先端を理解することを目的とする。さらに、学生諸君が研究者がテトラヒメナを利用して、いかに生物学の大発見に到達したかを学び、生物学の面白さとテトラヒメナのご不思議を理解してもらいたい。

【到達目標】

テトラヒメナを研究材料として明らかにされた生物学上の大発見について学ぶ。リボザイムの発見が生命誕生のなぞの解明につながったこと、テロメアの発見が我々の老化のしくみの理解に貢献していること、エピジェネティック調節が個体の発生分化を調節していること、エピジェネティック調節がガン化にも関係していることなどを学ぶ。水たまりにいる単細胞生物、テトラヒメナが現代生物学の進歩に如何に貢献したかを理解し、研究材料の重要さと研究者の熱意が大発見につながることを、その発見が我々の人生にも影響していることを理解してもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業は進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	不思議な生物テトラヒメナ	テトラヒメナのご不思議な性質を紹介する。具体的には、2 種類の核を持つこと、7 つの性を持つこと、細胞口と細胞肛門と収縮胞を持つことなど。
2 回	テトラヒメナのご小核（生殖核）と大核（栄養核）の働き	テトラヒメナが持つ 2 種類の核、生殖核と栄養核の働きを、我々の体を構成する生殖細胞と体細胞と比較しながら説明する。
3 回	テトラヒメナは 7 つの性を持つ。生物の性とは何か？	テトラヒメナは 7 つの性を持つが、ほとんどの生物は 2 つの性しか持たない。生物の性とは何か、性を決めるしくみは何かを学ぶ。
4 回	テトラヒメナのご繊毛を動かすモータータンパク質	精子の鞭毛運動や、テトラヒメナのご繊毛運動を引き起こすモータータンパク質、ダイニンの発見と、ダイニンの性状について紹介する。
5 回	染色体末端構造テロメアの発見	染色体の末端問題と染色体末端構造であるテロメアの発見、テロメアを合成するテロメララーゼの発見について紹介する。
6 回	テロメアは生物の寿命を決めるか？	生物の寿命とは何か？ 生殖細胞、体細胞、そして不死化したガン細胞のテロメアから生物の寿命について考察する。
7 回	酵素活性を持つ RNA、リボザイムの発見	テトラヒメナのご RNA が酵素活性を持つことが発見された。リボザイムの発見である。その発見の経緯と、リボザイムの働きを解説する。
8 回	リボザイムはセントラルドグマを覆すか？	セントラルドグマでは遺伝情報は「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達される。生命誕生は DNA からか？ タンパク質からか？ それが問題だ。リボザイムの発見はこの問題に解答を出した。

9 回	大核分化で生じる DNA 再編成	接合過程で、小核から大核が分化する時、DNA の大規模な再編成が起きる。我々の体の中で起きる DNA の組み換えと比較して、テトラヒメナの DNA 再編成について解説する。
10 回	大核の DNA 再編成を指揮する scnRNA	大核の大規模な DNA 再編成をコントロールしている scnRNA の発見と scnRNA の働きについて解説する。
11 回	遺伝子の発現を調節するヒストンの化学修飾	大核は盛んに遺伝子発現し、小核は全く遺伝子発現しない。この違いの原因は何と DNA が巻き付いているヒストンの化学修飾であった。ヒストンの化学修飾が遺伝子発現を調節するしくみを解説する。
12 回	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はすべての生物で起きている。	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はエピジェネティック調節と呼ばれている。エピジェネティック調節による発生分化の調節について解説する。
13 回	テトラヒメナの 7 つの性を司る DNA 再編成	テトラヒメナが持つ 7 つの性が、どのような遺伝子によって調節されているか、どのように個体の性が決まるかが明らかになった。大核の DNA 再編成によって、7 つの性のから一つが選択されるしくみを説明する。
14 回	テトラヒメナが教えてくれたこと	45 年間テトラヒメナを研究材料として、研究してきた沼田治にテトラヒメナが教えてくれたこと。研究者と研究材料の間の交流、交感について話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習のためにテキストを事前に読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：ノーベル賞に二度も輝いた不思議な生物 テトラヒメナの魅力
著者：沼田治
出版社：慶応義塾大学出版会
出版年：2018 年 10 月 12 日
価格：1,800 円

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 % として、合計 100 % として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」ので、上記の授業改善アンケートの結果を見て、速やかに授業改善を実現する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：月曜日の 4 時限終了後、16：40 から 18：00 まで

【Outline and objectives】

Tetrahymena is a research material that led to the discovery of ribozymes and the telomere, which won the Nobel Prize. Even now, discoveries such as epigenetic regulation by chemically modifying histones and genetic reediting by low-molecular RNA have been made using Tetrahymena as a research material. In this lecture, we introduce wonderful research results revealed using Tetrahymena, with the aim of students to understand the cutting edge of modern biology. In addition, students want to learn how researchers have reached a major discovery of biology by using Tetrahymena and understand the interest of biology and the wonders of Tetrahymena.

BIO200LA

教養生物学 L A

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：私たちの体を作る細胞の構造と働き

沼田 治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の体は、37 兆 2 千億個の細胞から構成されているとされている。この授業では、我々の体を構成する細胞について理解することを目的とする。学生諸君が自分の体を構成する基本単位である細胞の実態を理解できる授業を展開する。学生諸君が生活の中で毎日経験している活動、外界からの情報を感じて行動するしくみ、食事からエネルギーを獲得し、エネルギーを利用して運動することなどを、細胞レベルから理解することを目指す。自分の体を構成する細胞について学ぶことで、命の本質を理解してもらいたい。

【到達目標】

私たちの体を構成している細胞がどのような構造をしているのか、細胞がどのような働きをしているのかを学び、細胞が活動するエネルギーがどのように作られるのか、細胞がどのように動くのか、細胞がどのように増えるのか、細胞がどのように組織や器官を形成するのかを理解する。生命の最小単位である細胞についての最新の知見をベースとして、我々が生きているということ、生命の本質について、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業を進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	細胞膜が細胞を外界から区切っている	細胞膜の構造と働きについて理解する。細胞膜を介しての外界との物質のやり取りと、神経の興奮の伝播を例にして、解説する。
2 回	遺伝子は染色体の中に収納され、核の中に保存されている	遺伝子を保存している核の構造について理解する。遺伝子を収納している染色体の構造と、その働きについて解説する。
3 回	ミトコンドリアはエネルギーを産生し、葉緑体は炭水化物を合成する	我々に不可欠なエネルギーを生産するミトコンドリアと、光と二酸化炭素から炭水化物を生産する葉緑体の働きを理解する。
4 回	細胞骨格とは何か？	細胞の形態維持や、細胞の運動に関わる、細胞の骨格を構成する成分について説明する。特に筋肉を例にして理解を深める。
5 回	細胞骨格を動かす細胞内モーター	細胞の中にもモーターがあり、それらの働きで我々は動くことができる。細胞内モーターの実態について、筋肉と精子を例にして解説する。
6 回	細胞が運動するしくみとその働き	細胞骨格と細胞内モーターの働きで、細胞は運動する。その具体的な仕組みに関して、筋収縮とアメーバ運動を例に挙げて解説する。
7 回	細胞質でタンパク質が作られる	遺伝子に蓄えられた遺伝情報はタンパク質を作る情報である。タンパク質がどのように作られるかを解説する。
8 回	作られたタンパク質は働く場所に運ばれる	タンパク質は働くべき場所が決まっている。どのようにタンパク質が働く場所に運ばれるかを解説する。
9 回	細胞は分泌し、細胞は取り込む	細胞がホルモンや消化酵素を分泌するしくみと、細胞が糖や脂肪を取り込む仕組みについて解説する。

10 回	細胞はシグナルをやり取りしている	細胞は外からシグナルを受け取り、そのシグナルを細胞内に伝達する。細胞間シグナル伝達と細胞内シグナル伝達について解説する。
11 回	細胞はどのように増殖するか？	細胞は細胞分裂を行って増殖する。細胞分裂は、核が分裂したのちに細胞質が分裂して完了する。核分裂と細胞質分裂のしくみを解説する。
12 回	細胞は遺伝子を複製した後分裂する	細胞は遺伝子の複製と分裂を繰り返している。これを細胞周期と呼ぶ。細胞周期を調節するしくみについて説明する。
13 回	私たちの体と細胞	私たちの体を構成する上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織とそれらを構成する細胞について説明する。
14 回	私たちは感じて行動する	私たちの行動と細胞の関係を、神経細胞の興奮伝達と筋肉の運動を例に挙げ、分子レベルで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習のためにテキストを事前に読むこと、復習のためにテキストの演習問題を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：「細胞生物学」

著者： 沼田治編著、千葉智樹、中野賢太郎、中田和人著

出版社： 化学同人

出版年： 2012 年第 1 版発行

価格： 3,000 円

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 % として、合計 100 % として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」ので、上記の授業改善アンケートの結果を見て、速やかに授業改善を実現する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline and objectives】

Our body is said to be composed of 37.2 trillion cells. The purpose of this lesson is to understand the cells that make up our body. We develop classes that allow students to understand the actual conditions of cells, which are basic units that make up their bodies. A class that allows students to understand the activities they are experiencing everyday in their lives, how they feel and act from the outside world, acquire energy from diet, exercise using energy, etc. . I would like you to understand the essence of life by learning about the cells that make up your body.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：不思議な生物テトラヒメナが教えてくれたこと

沼田 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テトラヒメナはノーベル賞に輝いたリボザイムとテロメアの発見に導いた研究材料である。現在でも、テトラヒメナを研究材料として、ヒストンの化学修飾によるエピジェネティック調節や低分子 RNA による DNA 再編成などの発見がなされている。本講義では、テトラヒメナを用いて明らかにされた素晴らしい研究成果を紹介し、学生諸君が現代生物学の最先端を理解することを目的とする。さらに、学生諸君が研究者がテトラヒメナを利用して、いかに生物学の大発見に到達したかを学び、生物学の面白さとテトラヒメナのご不思議を理解してもらいたい。

【到達目標】

テトラヒメナを研究材料として明らかにされた生物学上の大発見について学ぶ。リボザイムの発見が生命誕生のなぞの解明につながったこと、テロメアの発見が我々の老化のしくみの理解に貢献していること、エピジェネティック調節が個体の発生分化を調節していること、エピジェネティック調節がガン化にも関係していることなどを学ぶ。水たまりにいる単細胞生物、テトラヒメナが現代生物学の進歩に如何に貢献したかを理解し、研究材料の重要さと研究者の熱意が大発見につながることを、その発見が我々の人生にも影響していることを理解してもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業は進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	不思議な生物テトラヒメナ	テトラヒメナのご不思議な性質を紹介する。具体的には、2 種類の核を持つこと、7 つの性を持つこと、細胞口と細胞肛門と収縮胞を持つことなど。
2 回	テトラヒメナのご小核（生殖核）と大核（栄養核）の働き	テトラヒメナが持つ 2 種類の核、生殖核と栄養核の働きを、我々の体を構成する生殖細胞と体細胞と比較しながら説明する。
3 回	テトラヒメナは 7 つの性を持つ。生物の性とは何か？	テトラヒメナは 7 つの性を持つが、ほとんどの生物は 2 つの性しか持たない。生物の性とは何か、性を決めるしくみは何かを学ぶ。
4 回	テトラヒメナのご繊毛を動かすモータータンパク質	精子の鞭毛運動や、テトラヒメナのご繊毛運動を引き起こすモータータンパク質、ダイニンの発見と、ダイニンの性状について紹介する。
5 回	染色体末端構造テロメアの発見	染色体の末端問題と染色体末端構造であるテロメアの発見、テロメアを合成するテロメララーゼの発見について紹介する。
6 回	テロメアは生物の寿命を決めるか？	生物の寿命とは何か？生殖細胞、体細胞、そして不死化したガン細胞のテロメアから生物の寿命について考察する。
7 回	酵素活性を持つ RNA、リボザイムの発見	テトラヒメナのご RNA が酵素活性を持つことが発見された。リボザイムの発見である。その発見の経緯と、リボザイムの働きを解説する。
8 回	リボザイムはセントラルドグマを覆すか？	セントラルドグマでは遺伝情報は「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達される。生命誕生は DNA からか？タンパク質からか？それが問題だ。リボザイムの発見はこの問題に解答を出した。

9 回	大核分化で生じる DNA 再編成	接合過程で、小核から大核が分化する時、DNA の大規模な再編成が起きる。我々の体の中で起きる DNA の組み換えと比較して、テトラヒメナの DNA 再編成について解説する。
10 回	大核の DNA 再編成を指揮する scnRNA	大核の大規模な DNA 再編成をコントロールしている scnRNA の発見と scnRNA の働きについて解説する。
11 回	遺伝子の発現を調節するヒストンの化学修飾	大核は盛んに遺伝子発現し、小核は全く遺伝子発現しない。この違いの原因は何と DNA が巻き付いているヒストンの化学修飾であった。ヒストンの化学修飾が遺伝子発現を調節するしくみを解説する。
12 回	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はすべての生物で起きている。	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はエピジェネティック調節と呼ばれている。エピジェネティック調節による発生分化の調節について解説する。
13 回	テトラヒメナの 7 つの性を司る DNA 再編成	テトラヒメナが持つ 7 つの性が、どのような遺伝子によって調節されているか、どのように個体の性が決まるかが明らかになった。大核の DNA 再編成によって、7 つの性のから一つが選択されるしくみを説明する。
14 回	テトラヒメナが教えてくれたこと	45 年間テトラヒメナを研究材料として、研究してきた沼田治にテトラヒメナが教えてくれたこと。研究者と研究材料の間の交流、交感について話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読むことと、授業の後にも復習のためテキストを読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：ノーベル賞に二度も輝いた不思議な生物 テトラヒメナの魅力
著者：沼田治
出版社：慶応義塾大学出版会
出版年：2018 年 10 月 12 日
価格：1,800 円

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 %として、合計 100 %として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」ので、上記の授業改善アンケートの結果を見て、速やかに授業改善を実現する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：月曜日の 4 時限終了後、16：40 から 18：00 まで

【Outline and objectives】

Tetrahymena is a research material that led to the discovery of ribozymes and the telomere, which won the Nobel Prize. Even now, discoveries such as epigenetic regulation by chemically modifying histones and genetic reediting by low-molecular RNA have been made using Tetrahymena as a research material. In this lecture, we introduce wonderful research results revealed using Tetrahymena, with the aim of students to understand the cutting edge of modern biology. In addition, students want to learn how researchers have reached a major discovery of biology by using Tetrahymena and understand the interest of biology and the wonders of Tetrahymena.

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：命とはなにか？

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか？』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか？」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか？」、「なぜ病気になるのか？」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる生物学の基本的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命をつなぐ情報伝達とは？	細胞が外部からの情報を受容し伝達するしくみについて概説します。
第 10 回	命を動かす細胞の運動とは？	細胞が周囲の環境や状況に応じて形態を変化させながら動いて個体の生命活動を支える現象について概説します。
第 11 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 12 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。

第13回 命に手を加えるとは？ 生命科学で技術の発達をもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱い・遺伝子技術・クローン技術・幹細胞技術を例にあげながら概説します。

第14回 期末試験 最終回に授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。
（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

BIO200LA

教養生物学 L D

2017年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：人間とはなにものか？

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにものか？』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きていくのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか？」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか？」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。
第3回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりについてふれながら概説します。
第4回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第5回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第6回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第7回	生物の体のしくみとは？	生物の生命の維持に関わる複雑かつ巧みな体のしくみについて、ヒトと他の生物との間で共通する点・異なる点に着目しながら概説します。
第8回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論が人々にどのような生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第9回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第10回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。

- 第 11 回 ヒトによる動物の家畜化とは？ 地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
- 第 12 回 ヒトの動物観とは？ ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
- 第 13 回 ヒトの食とは？ 自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
- 第 14 回 期末試験 最終回に授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things.

Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：命とはなにか？

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか？』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか？」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか？」、「なぜ病気になるのか？」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる生物学の基本的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命をつなぐ情報伝達とは？	細胞が外部からの情報を受容し伝達するしくみについて概説します。
第 10 回	命を動かす細胞の運動とは？	細胞が周囲の環境や状況に応じて形態を変化させながら動いて個体の生命活動を支える現象について概説します。
第 11 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 12 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。

第 13 回 命に手を加えるとは？ 生命科学で技術の発達をもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱い・遺伝子技術・クローン技術・幹細胞技術を例にあげながら概説します。

第 14 回 期末試験 最終回に授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。
（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

BIO200LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：人間とはなにものか？

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにものか？』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きていくのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。
第 3 回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりについてふれながら概説します。
第 4 回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第 5 回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第 6 回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第 7 回	生物の体のしくみとは？	生物の生命の維持に関わる複雑かつ巧みな体のしくみについて、ヒトと他の生物との間で共通する点・異なる点に着目しながら概説します。
第 8 回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論が人々にどのような生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第 9 回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第 10 回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。

- 第 11 回 ヒトによる動物の家畜化とは？ 地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
- 第 12 回 ヒトの動物観とは？ ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
- 第 13 回 ヒトの食とは？ 自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
- 第 14 回 期末試験 最終回に授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。（必要に応じてレポート課題等を出した場合、それらも加味します。）

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things.

Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

CHM200LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを手前に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標として下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。重要なページはプリントで配布します。また、授業で理解しておいて欲しいところを問題にしたプリントも配布します。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説
第 3 回	原子の構造	原子を構成する成分とそれらの性質について
第 4 回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて
第 5 回	放射性同位体	原子核の壊変について
第 6 回	原子力発電	核分裂連鎖反応について
第 7 回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界量について
第 8 回	電磁波のエネルギー	電磁波の性質と光子仮説について
第 9 回	化学結合のエネルギー	化学結合が形成されるしくみについて
第 10 回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造
第 11 回	砂糖のエネルギー	分子の立体構造と、糖類の代謝について
第 12 回	エネルギー物質	爆薬や危険物の特徴について
第 13 回	蓄電池と燃料電池	化学電池の原理と変遷について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や Web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します。（配分 100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM200LA

教養化学 L A 2017 年度以降入学者

CHM200LA

物質と環境 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：エネルギーと化学

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではエネルギーと環境をテーマに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について理解することを目標にします。

原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。温室効果ガスと地球温暖化も理屈を知っておく必要があります。太陽電池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自らが適切に判断できる理解力を養います。

【到達目標】

原子力エネルギーとは何か、利用に際してどのような問題があるのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に変換されるのか？ 温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然エネルギーが抱える問題点は何か？ 水素を利用した燃料電池の特徴に関する知識が得られる。また、現状残されている課題を知識として得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子の構造から放射能や原子力を学び、化学結合からなぜ燃えるかと熱が発生するかを理解することができます。太陽電池や燃料電池も原子や分子の中の電子の動きで理解することができます。これらをいずれも化学の基礎から講義形式で解説し、あわせて社会的な問題も考察したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の基礎（1）	原子の構造と電子配置について振り返ります。
第 2 回	化学の基礎（2）	原子量と質量数、モルの考え方を理解します。
第 3 回	原子力エネルギーとその源は何か	質量がエネルギーに変換されること、どのような核変化がエネルギーを生み出すのかを学びます。
第 4 回	放射能とは何か	どのような物質が放射能を持つのか、放射能の特質と核分裂反応との関係を学びます。
第 5 回	放射能の人体に与える影響について	過去に日本や海外で起こった原子力関連の事故を振り返り、人体への影響を学びます。
第 6 回	原子力発電の構造と種類	原子力発電の構造を理解し、その特徴を学びます。
第 7 回	原子力の問題点	プルトニウムやその他の放射性廃棄物の処理について考察します。
第 8 回	化石燃料の種類と分子構造の違い	石油、石炭、天然ガスの特徴を学びます。
第 9 回	燃焼による発熱の仕組み	共有結合の考え方、酸素との反応によるエネルギーの発生仕組みを学びます。
第 10 回	化石燃料の問題点	化石燃料の利用に伴う問題点（二酸化炭素による温暖化を含む）を考察します。
第 11 回	既存のエネルギーシステムの問題点	原子力、火力、水力発電のエネルギー変換効率や利用に伴う環境破壊などその問題点を整理します。
第 12 回	自然エネルギーの利用と問題点	太陽光、風力、地熱発電などの自然エネルギーの特徴を学びます。
第 13 回	水素エネルギーと燃料電池	エネルギー源として水素の利用に伴う問題点を学びます。
第 14 回	まとめ	授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマや内容に記載のある項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習するとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜プリントを配布します。

【参考書】

エネルギー資源学会編「エネルギーと未来社会」、省エネルギーセンター、1990。

【成績評価の方法と基準】

毎時限、講義の最後に小テストを行い、その結果（30%）と期末試験の成績（70%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年 3 月の大震災のため特に興味を持って授業に臨む学生さんが多く、原子力に関しては今年もできるだけ詳しく解説したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

使いません。

【その他の重要事項】

専門用語がいろいろ出てきます。もちろん、始めに説明をしますが、同じ説明は二度も行いません。従って、欠席や遅刻があれば、それ以降の内容が理解できなくなることが予想されます。

【Outline and objectives】

This course introduces the mechanism of producing energy from atomic energy and fossil fuels and also environmental issues related with them to students taking this course. It also deals with performance of new energy sources such as solar, wind, geothermal energies, and especially hydrogen energy.

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

CHM200LA

物質と環境 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：環境化学

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キ 1~4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなぞを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、あるいは技術が生み出され応用されて来ています。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質についての環境問題を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

【到達目標】

過去の公害問題の概要を理解する。
生命に関係する物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持って機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。合成品が生命に与える影響を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式です。質問等は適宜授業内で受け付けますが、リアクションペーパーに書かれたものは翌週、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の過去の公害事例 (1)	明治に始まる鉱山、精錬からの環境問題について
第 2 回	日本の過去の公害事例 (2)	昭和の高度成長期にあった工場廃液、排ガスによる環境問題について
第 3 回	有機化合物の基礎	有機化合物の結合と構造、反応性について解説します。
第 4 回	日本の過去の公害事例 (3)	有機塩素系化合物による環境汚染について
第 5 回	糖質 (1)	エネルギー源としての利用だけではない糖質の多様性を学びます
第 6 回	糖質 (2)	砂糖の歴史や合成甘味料などの食品添加物の紹介と味覚についての話題を紹介しします。
第 7 回	脂質 (1)	脂質の特徴と洗剤のしくみについて学びます
第 8 回	脂質 (2)	コレステロールや、ステロイドなどのドーピングの話題を紹介しします。
第 9 回	窒素化合物の働きと代謝 (1)	生命にとって重要な働きのあるアミノ酸とタンパク質の働きを学び、老化との関係について解説しします。
第 10 回	窒素化合物の働きと代謝 (2)	核酸と核酸塩基の多様な働き、呼吸によるエネルギーの獲得について学びます。
第 11 回	体内での物質認識 (1)	匂いと嗅覚の仕組みを学びます。
第 12 回	体内での物質認識 (2)	アレルギー、免疫反応の仕組みを学びます。
第 13 回	薬物汚染	大麻、覚せい剤、麻薬など、その危険性について学びます。
第 14 回	まとめ	全般的な振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマや内容に関係する項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習するとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

取り上げる項目が多岐にわたるため、適当な参考書が見当たりません。気になるキーワードを使用して図書館で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

基本的には期末試験の成績（90%）をもとにしますが、毎回出席を取り、授業への積極的な参加度（10%）も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な物質を例に挙げて説明をしていますが、網羅的になりすぎて、その関係の理解が難しいと感じる人が多いようです。ポイントをもっと明確にする必要があると考えています。

【その他の重要事項】

たくさんの化学物質を取り上げ、分子構造とともにその性質を考えます。個々の物質の名称や構造を暗記する必要はありませんが、その違いがどこにあるのかを知ってもらう必要があり、複雑な分子構造やカタカナで表記された物質名が出てきます。化学の基礎から説明を行います。繰り返しの同じことは説明しません。したがって、欠席をした場合などは翌週以降の授業が理解できなくなる可能性があります。欠席、遅刻は単位習得に大きく影響します。

【Outline and objectives】

This course introduces the functions of chemical compounds related with life and also the risk of synthetic chemicals applied to foods, cosmetics or drugs to students taking this course. It also enhances the mechanism of material recognition in our body.

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

CHM200LA

物質と環境 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：環境を考えるための化学

西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、地球が直面している環境問題は深刻である。環境問題を解決するためには、その問題点をメカニズムから理解することが大切である。そのためには基本的な化学の理解が必須である。本講座は環境問題を考えることを最終目的とするが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的とした。

【到達目標】

最終的には現在地球が直面している問題点を理解してもらい、その解決策を探るために必要な知識としての化学を理解してもらうことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめにどのくらいの化学的な知識があるのかのテストを行い、その結果をもとに最初の 3 週間の授業内容を決めます。その後は様々な環境問題を取り上げて、化学的な見地から説明する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	イントロダクション	本講座を理解するのに必要な基本的な化学法則、構造式、単位などをざっと説明。個人がどれだけの知識があるかのミニテストを行う。
No.2	化学基礎 1	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.3	化学基礎 2	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.4	化学基礎 3	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.5	小テスト	これまでの学習を振り返る
No.6	オゾン層破壊	オゾン層破壊のメカニズムについて
No.7	大気汚染の健康への影響	大気汚染全般と酸性雨について。さらにその人体への影響
No.8	温室効果ガス-1	温室効果ガスとはなにか
No.9	温室効果ガス-2	気候変動に及ぼす温室効果ガスの影響
No.10	小テスト	これまでの学習を振り返る
No.11	エネルギー	現行の発電をメインに、新エネルギー等も学習する
No.12	ゴミ問題から土壌汚染まで	なぜゴミの分別が必要なのか。環境を破壊するゴミ問題に関して
No.13	水質汚染と水質浄化	汚染水に含まれる化学物質と水質浄化法
No.14	テスト	最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート

【テキスト（教科書）】

なし。適宜プリントを配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

出席 (40%)、テスト (40%)、授業態度 (20%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「私たち文系なので、わかりやすく教えてください」とコメントいただくので、わかりやすく、急がずに授業を進めていきます。

【Outline and objectives】

One of the most pressing issues the Earth is facing is environmental problems. Such environmental problems are universal issues, so all the people on the earth should cooperate to solve these problems. At the beginning of this course, each environmental problem will be focused from the chemical viewpoint. Then, the students with different backgrounds will delve into the matters. The ultimate goal of this course is that we think about these problems deeply by sharing possible solutions with each other.

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

CHM200LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっている。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解する。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論する。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的である。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習する。また、新しいエネルギー社会として提唱されているメタノールエコノミーについて学習する。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	エネルギーの分類と性質	人類が利用するエネルギーについて分類を行い、エネルギーを支配する法則について学習する。
第3回	エネルギー利用の現状	現代文明が使用しているエネルギーの種類や量について学習する。
第4回	森林資源の利用	人類が古代より利用している森林資源について学習する。
第5回	化石燃料 (1)	産業革命以来の重要なエネルギー資源である石炭について、性質や利用法を学習する。
第6回	化石燃料 (2)	現代文明に於いて最も重要なエネルギー資源である石油について、性質や利用法を学習する。
第7回	化石燃料 (3)	近年、より重要な役割を果たしつつある天然ガスについて、性質や利用法を学習する。
第8回	化石エネルギー (1)	化石エネルギーの性質を理解するため、熱力学を学習する。
第9回	化石エネルギー (2)	化石エネルギーの由来を理解するため、ヘスの法則を学習する。
第10回	化石エネルギー (3)	結合エネルギーを導くと共に、未知の化合物の燃焼熱が予測できることを学習し、化学エネルギーが化学結合に蓄えられていることを理解する。
第11回	化石燃料の寿命	各化石燃料の寿命について学習し、新エネルギー資源開発の必要性について理解する。
第12回	水素エコノミー	水素エネルギーを利用した社会について概念を述べ、その限界について理解する。
第13回	メタノールエコノミー	メタノールを利用してエネルギーや化学物質を供給する社会について概念を述べ、その優位性について理解する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。（本科目担当初年度のため）

【Outline and objectives】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

CHM200LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ 1~4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっている。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解する。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論する。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的である。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習する。また、新しいエネルギー社会として提唱されているメタノールエコノミーについて学習する。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	エネルギーの分類と性質	人類が利用するエネルギーについて分類を行い、エネルギーを支配する法則について学習する。
第3回	エネルギー利用の現状	現代文明が使用しているエネルギーの種類や量について学習する。
第4回	森林資源の利用	人類が古代より利用している森林資源について学習する。
第5回	化石燃料 (1)	産業革命以来の重要なエネルギー資源である石炭について、性質や利用法を学習する。
第6回	化石燃料 (2)	現代文明に於いて最も重要なエネルギー資源である石油について、性質や利用法を学習する。
第7回	化石燃料 (3)	近年、より重要な役割を果たしつつある天然ガスについて、性質や利用法を学習する。
第8回	化石エネルギー (1)	化石エネルギーの性質を理解するため、熱力学を学習する。
第9回	化石エネルギー (2)	化石エネルギーの由来を理解するため、ヘスの法則を学習する。
第10回	化石エネルギー (3)	結合エネルギーを導くと共に、未知の化合物の燃焼熱が予測できることを学習し、化学エネルギーが化学結合に蓄えられていることを理解する。
第11回	化石燃料の寿命	各化石燃料の寿命について学習し、新エネルギー資源開発の必要性について理解する。
第12回	水素エコノミー	水素エネルギーを利用した社会について概念を述べ、その限界について理解する。
第13回	メタノールエコノミー	メタノールを利用してエネルギーや化学物質を供給する社会について概念を述べ、その優位性について理解する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。（本科目担当初年度のため）

【Outline and objectives】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

HSS200LA

健康の科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

清野 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「健康の科学 LA」では、総論と「青年期、壮年期、中年期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康管理に関する基本的な知識を習得し、身近な健康課題について考える。

【到達目標】

1. 青年期～中年期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に各テーマの学習を進める。毎回の授業終了時に、テーマに関する自身の考えや意見・質問などをまとめたアクションペーパーの提出を求める。提出された意見や質問は次の授業時に紹介・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 健康を測るものさし	授業の概要説明、健康指標の国際比較 健康の定義、平均余命と健康余命
第 2 回	日本の健康づくり施策 1	壮年期からの健康づくり施策
第 3 回	日本の健康づくり施策 2	高齢期の健康づくり施策
第 4 回	日本人の生活習慣	日本人の生活習慣（運動、食事）の現状
第 5 回	青～中年期の健康 1	健康と健康関連体力
第 6 回	青～中年期の健康 2	生活習慣病（肥満、メタボリックシンドローム）の現状と予防
第 7 回	青～中年期の健康 3	生活習慣病（循環器疾患）の現状と予防
第 8 回	青～中年期の健康 4	生活習慣病（糖尿病、脂質異常症）の現状と予防
第 9 回	青～中年期の健康 5	生活習慣病（骨粗鬆症、COPD）の現状と予防
第 10 回	減量の理論と実際	確かな減量方法と実例
第 11 回	健康づくりのための食事	適切な食習慣とは
第 12 回	健康づくりのための運動	適切な運動習慣とは
第 13 回	運動とメンタルヘルス	運動と精神面（抑うつ、ストレス）および睡眠の関係
第 14 回	まとめ	授業全体の総括と総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をもとに、授業内容を復習すること。また、今日では、メディア（テレビ、新聞、インターネットなど）を通して、多くの健康情報が発信されている。これらの情報に関心を持ち、正しい情報かどうかについて考える姿勢を身につけること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業テーマに合わせた資料を配布する。

【参考書】

適宜、関連する書籍などを授業のなかで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、健康づくりの課題について考える機会を設ける予定である。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

In this class, we will study the general topic and "Maintaining Health in Adolescent, Mature and Middle Ages" as the main theme. Through this class, students acquire basic knowledge on health management and think about familiar health problems.

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

HSS200LA

健康の科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

清野 諭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「健康の科学 LB」では、「健康の科学 LA」で学習した内容に続いて、「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。特に、現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、高齢期の健康問題には、若齢期の生活習慣が影響するものもあるため、ライフコースアプローチについて理解する。

【到達目標】

1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に各テーマの学習を進める。毎回の授業終了時に、テーマに関する自身の考えや意見・質問などをまとめたアクションペーパーの提出を求める。提出された意見や質問は次の授業時に紹介・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 本邦の高齢化の現状	授業の概要説明 高齢化の現状と要因・課題
第 2 回	高齢期の健康 1	高齢者の生活機能と体力
第 3 回	高齢期の健康 2	老年症候群（転倒）の現状と予防
第 4 回	高齢期の健康 3	老年症候群（低栄養）の現状と予防
第 5 回	高齢期の健康 4	老年症候群（尿失禁、閉じこもり）の現状と予防
第 6 回	高齢期の健康 5	老年症候群（うつ、認知症）の現状と予防
第 7 回	高齢期の健康 6	フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの現状と予防
第 8 回	健康づくりの三本柱 1	高齢期の運動
第 9 回	健康づくりの三本柱 2	高齢期の食習慣
第 10 回	健康づくりの三本柱 3	高齢期の社会参加
第 11 回	超高齢者の生活習慣	百寿者の生活習慣から健康長寿の要因を探る
第 12 回	地域・職域での健康づくり 1	地域に介護予防の取り組みを広げる方法
第 13 回	地域・職域での健康づくり 2	さまざまな地域や職域における介護予防の取り組みについて実例を紹介する
第 14 回	まとめ	授業全体の総括と総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をもとに、授業内容を復習すること。また、今日では、メディア（テレビ、新聞、インターネットなど）を通して、多くの健康情報が発信されている。これらの情報に関心を持ち、正しい情報かどうかについて考える姿勢を身につけること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業テーマに合わせた資料を配布する。

【参考書】

適宜、関連する書籍などを授業のなかで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、健康づくりの課題について考える機会を設ける予定である。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

In this class, students learn "Maintaining Elderly Health" as the main theme. In particular, the present Japan is entering a super aged society that is unprecedented in the world. Through this class, students will think about how they can contribute to the birthrate and aging problem faced by Japan. Moreover, life style of young age affect health condition in old age. Students will understand the importance of life course approach.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

HSS200LA

健康の科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Health Sciences for Ways of Living LA

谷本 都栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代を迎え人々の生き方が多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々なトピックスから個人の健康や社会の健康について考え、ウェルネスの確立に向けて自ら実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・健康の概念や健康観の変遷から、健康とは何かについて理解を深める。
- ・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
- ・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	健康の概念①	世界における健康観・健康概念がどのように多様化してきたかについて学ぶ。
第 3 回	健康の概念②	日本における健康観・健康概念の変遷について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 4 回	心身の健康①	ホリスティック・ヘルスの視点から現代人の心身の健康について考える。
第 5 回	心身の健康②	自己の身体的・精神的・社会的ストレス度を測り、ストレス特性を知る。
第 6 回	心身の健康③	自己のストレス特性に応じたストレス対処、セルフマネジメントについて学ぶ。
第 7 回	健康づくり政策①	我が国の健康政策から日本人の生活と健康課題について学ぶ。
第 8 回	健康づくり政策②	健康のための環境づくりの先進事例をとおして地域の課題を認識する。
第 9 回	健康づくり政策③	経済格差と健康をテーマに、国内外の事例をとおして考える。
第 10 回	ライフサイクルと健康①	ライフサイクル、各ライフステージにおける健康課題について学ぶ。
第 11 回	ライフサイクルと健康②	ライフコースの多様化と QOL に関わる問題について考える。
第 12 回	高齢社会と健康①	超高齢社会における健康課題について理解を深める。
第 13 回	高齢社会と健康②	超高齢社会における地域づくりについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・日頃から社会の出来事や身近な環境に対して関心をもつ。
- ・関心があることについて詳しく調べ、自ら学ぶよう心がける。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・映像資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】

With the 100-Year Life, a life-course has become increasingly dynamic and diversified. Regarding the quality of individual lives, not only physical health but also perspective of holistic health including “ikigai” and human dignity is becoming an important concept.

Health Sciences for ways of living is based on the biopsychosocial model, which posits that biological, psychological and social well-being are interactively. The program has the following objectives.

1. Introduce students to the field of Health Sciences of body, mind, and spirit
2. Provide a basic understanding of the theory and specific issues of biopsychosocial health
3. Encourage students to practice for health promotion in their life and community

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

HSS200LA

健康の科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Health Sciences for Ways of Living LB

谷本 都栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康は生活の質を高めいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくことは重要なライフスキルである。本講義では、ヘルスプロモーションの視点から、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識をはじめ健康的な生活習慣や環境づくりについて学び、各自の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
- ・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	生活習慣・健康度チェック	チェックシートにより自己の生活習慣や健康度を確認する。
第 3 回	食生活と健康①	適正体重やボディ・イメージを知り、健康的なウエイトコントロールについて学ぶ。
第 4 回	食生活と健康②	エネルギー必要量と摂取量、食事内容をチェックし、改善点を認識する。
第 5 回	食生活と健康③	食の安全、サプリメント等について取り上げ、食と健康について考える。
第 6 回	身体と運動①	人間の身体の特徴、運動・スポーツによるトレーニング効果について学ぶ。
第 7 回	身体と運動②	適切な運動量と運動内容を知り、運動習慣の改善点を認識する。
第 8 回	身体と運動③	各種生活習慣病とその予防について学ぶ。
第 9 回	生体リズムと健康①	睡眠を中心に生体リズムと健康の関係について学ぶ。
第 10 回	生体リズムと健康②	スポーツ・レクリエーション、自然療法と生体リズムについて学ぶ。
第 11 回	社会と健康①	日本人の労働と余暇の実態から、ワークライフバランスについて考える。
第 12 回	社会と健康②	企業の健康経営の取り組みから、日本人の労働環境と健康について考える。
第 13 回	社会と健康③	加齢による心身の変化を知り、老いをどう生きるかについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・日頃から社会の出来事や身近な環境に対して関心をもつ。
- ・関心があることについて詳しく調べ、自ら学ぶよう心がける。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・映像資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。

- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】

Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve, their health. It moves beyond a focus on individual behaviour towards a wide range of social and environmental interventions. (WHO)

To maintain a healthy body and mind is an essential life skill improving a quality of life. Developing healthy habits are needed not only to keep your life long but enhance your happiness and vitality. The program has the following objectives.

1. Provide students the foundational knowledge and skills required for healthy lifestyle
2. Encourage students to practice for health promotion in their life

LANe100LA

入門英語 (SSI) I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 I

2016 年度以前入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SSI 生のみを対象とする本授業では、英語で歌われているポップスを題材にリスニング、文法、作文、読解の訓練をおこなう。

【到達目標】

- ・基本的な英文法をマスターすること。
- ・英語の音を聞くことに慣れること。
- ・簡単な英文を読めるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書を使って英語圏のヒット曲を通じた英語の練習をおこないます。また、グループを組んで発表してもらいます。必ず毎回英和辞典を持参してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/12)	イントロ	席決め、グループ決め、授業の説明、ウォームアップ。
2 (4/19)	"Complicated" (Avril Lavigne)	リスニングと文法を中心に学ぶ。
3 (4/26)	"Complicated" (Avril Lavigne) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
4 (5/10)	"S.O.S." (ABBA) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
5 (5/17)	"S.O.S." (ABBA) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
6 (5/24)	"You Are Not Alone" (Michael Jackson) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
7 (5/31)	"You Are Not Alone" (Michael Jackson) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
8 (6/7)	"Don't Wanna Lose You" (Gloria Estefan) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
9 (6/14)	"Don't Wanna Lose You" (Gloria Estefan) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
10 (6/21)	"How Crazy Are You?" (Meja) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
11 (6/28)	"How Crazy Are You?" (Meja) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
12 (7/5)	"Sunday Morning" (Maroon 5) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
13 (7/12)	"Sunday Morning" (Maroon 5) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
14 (7/19)	まとめと確認テスト	これまでの内容の確認をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義では、辞書とネットを駆使して不明な単語、表現を下調べして準備しておくこと。発表は、資料の準備、そして必ずリハーサルをしておくこと。

【テキスト (教科書)】

『ヒットソングで学ぶ総合英語』、角山照彦、Simon Capper 著 (成美堂、2017)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』 (東京：研究社、1999)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

In this course, students improve their English skills through popular hit songs.

LANe100LA

入門英語 (SSI) II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 II

2016 年度以前入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SSI 生のみを対象とした本授業では、春学期に引き続き、英語で歌われているポップスを題材にリスニング、文法、作文、読解の訓練をおこなう。

【到達目標】

- ・基本的な英文法をマスターすること。
- ・英語の音を聞くことに慣れること。
- ・簡単な英文を読めるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書を使って英語圏のヒット曲を通じた英語の練習をおこないます。また、グループを組んで発表してもらいます。必ず毎回英和辞典を持参してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/20)	イントロ	ウォームアップ、席決め、グループ決め。
2 (9/27)	"I Want It That Way" (Backstreet Boys)	リスニングと文法を中心に学ぶ。
3 (10/4)	"I Want It That Way" (Backstreet Boys) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
4 (10/11)	"Suddenly I See" (KT Tunstall) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
5 (10/18)	"Suddenly I See" (KT Tunstall) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
6 (10/25)	"How Am I Supposed To Live Without You?" (Michael Bolton) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
7 (11/8)	"How Am I Supposed To Live Without You?" (Michael Bolton) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
8 (11/15)	"Save The Best For Last" (Vanessa Williams) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
9 (11/22)	"Save The Best For Last" (Vanessa Williams) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
10 (11/29)	"Last Christmas" (Wham!) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
11 (12/6)	"Last Christmas" (Wham!) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
12 (12/13)	"Torn" (Natalie Imbruglia) + グループ発表	リスニングと文法を中心に学ぶ。
13 (12/20)	"Torn" (Natalie Imbruglia) (続き) + グループ発表	読解方法を学ぶ。
14 (1/10)	まとめと確認テスト	これまでの内容の確認をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講読では、辞書とネットを駆使して不明な単語、表現を下調べして準備しておくこと。発表は、資料の準備、そして必ずリハーサルをしておくこと。

【テキスト (教科書)】

『ヒットソングで学ぶ総合英語』, 角山照彦, Simon Capper 著 (成美堂, 2017)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社，1999）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）、課題（15%）と試験（70%）から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。欠席回数が4回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から20分以内に入室した者だけ認めますが、2回の遅刻につき1回の欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

In this course, students improve their English skills through popular hit songs.

LANe100LA

入門英語 (SSI) I

2017年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 I

2016年度以前入学者

前川 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国環キ1年～（SSI生のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツサイエンスインスティテュート所属学生のための英語であり、それ以外のものは受講できない。学生は基礎的な文法力および英会話力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

スポーツ選手である学生が、海外等に出たときに、ある程度外国の競技者と英語で話ができるようになるために必要な英語基礎力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

簡単な英文法のテキストを使って、演習形式で授業を進める。また、英語に慣れるため、毎回、英語の音楽を聴き、平易な書き取り演習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit1	be 動詞（現在形）の解説。
2	Unit2	一般動詞（現在形）の解説。
3	Unit3	be 動詞（過去形）の解説。
4	Unit4	一般動詞（過去形、規則変化）の解説
5	Unit5	一般動詞（過去形、不規則変化）の解説。
6	Unit6	進行形の解説。
7	Unit7	未来形の解説。
8	Unit8	助動詞（1）must や can の用法の解説。
9	Unit9	助動詞（2）should や may の用法の解説。
10	Unit10	名詞・冠詞の解説。
11	Unit11	代名詞の解説。
12	Unit12	前置詞の解説。
13	Unit13	形容詞の解説。
14	英語学習の方法	春学期授業内容の総まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習し、練習問題は教室に来る前にすべて解いてくること。

【テキスト（教科書）】

Everyday English Grammar ー一大学生のためのコミュニケーション英文法（南雲堂）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、授業内試験（40%）各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの強化重要性およびいかに英語に関心を持たせるかの重要性。

【学生が準備すべき機器他】

学生が用意すべき情報機器は特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide the students with the basic knowledge of English which makes it possible for them to speak English in everyday conversation. The students are expected to review the basic English grammar and usage which they have ever learnt. This course is limited to S.S.I students.

LANe100LA

入門英語 (SSI) II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 II 2016 年度以前入学者

前川 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツサイエンスインスティテュート所属学生のための英語であり、それ以外のものは受講できない。学生が基礎的な文法力および英会話力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

スポーツ選手である学生が海外での競技生活が可能になる程度の英語力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

簡単な英文法のテキストを使って、演習形式で授業を進める。また、英語に慣れるため、毎回、英語の音楽を聴き、平易な書き取り演習も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit15	比較 (1) 比較級の用法の解説。
2	Unit16	比較 (2) 最上級の用法の解説。
3	Unit13	接続詞の解説。
4	Unit14	前置詞の解説。
5	Unit15	受動態の解説。
6	Unit16	不定詞の解説。
7	Unit17	動名詞の解説。
8	Unit18	分詞の解説。
9	Unit19	現在完了の解説。
10	英語学習法	それまで学習した基本文法の総復習。
11	旅行英会話 (1)	プリントを使い、簡単な旅行英会話の練習をする。
12	旅行英会話 (2)	具体的な場面設定をして、学生諸君に英語を話してもらう。
13	英語スピーチの練習	自分のとり組んでいるスポーツについて、英語で説明する練習をしてもらう。
14	英語学習の方法	最終試験に備えて、もう一度授業内容を総復習する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを予習し、練習問題は教室に来る前にすべて解いてくること。

【テキスト (教科書)】

Everyday English Grammar ー大学生のためのコミュニケーション英文法 (南雲堂)

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、授業内試験 (40%) 各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しく学習することの重要性

【学生が準備すべき機器他】

学生が用意すべき情報機器は特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide the students with the basic knowledge of English which makes it possible for them to speak English in everyday conversation. The students are expected to review the basic English grammar and usage which they have ever learnt. This course is limited to S.S.I students.

LANe100LA

入門英語 (SSI) I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 I 2016 年度以前入学者

須藤 祐二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SSI の学生のなかで、英語を苦手とする学生が英語の基本文法や表現を習得することを目的とする。英語のレベルは基礎的なものから始めるが、徐々にさまざまな場面で使用可能な表現の解説に移る。

【到達目標】

受講生は、英語の基本的な構造を理解できるようにする。また、挨拶や自己紹介など、日常生活で用いる日常会話の表現を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習をして授業に参加すること。テキストの解説を行った後、予習箇所の確認に移る。その後、テキストのテーマに沿った演習を繰り返すか、または、英会話の力をつけるための演習を行う。受講生には積極的に演習を行うことが求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期の授業の進め方を紹介する。必要であれば、受講者の選抜をする。
第 2 回	Unit1 の前半	Unit1 の前半を演習する。
第 3 回	Unit1 の後半	Unit1 の後半を演習する。
第 4 回	Unit2 の前半	Unit2 の前半を演習する。
第 5 回	Unit2 の後半	Unit2 の後半を演習する。
第 6 回	Unit3 の前半	Unit3 の前半を演習する。
第 7 回	Unit3 の後半	Unit3 の後半を演習する。
第 8 回	Unit4 の前半	Unit4 の前半を演習する。
第 9 回	Unit4 の後半	Unit4 の後半を演習する。
第 10 回	Unit5 の前半	Unit5 の前半を演習する。
第 11 回	Unit5 の後半	Unit5 の後半を演習する。
第 12 回	Unit6 の前半	Unit6 の前半を演習する。
第 13 回	Unit6 の後半	Unit6 の後半を演習する。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に学んだ英語表現や文法の再確認をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習をして授業に参加すること。また、授業では、前回授業の復習プリントを配布する予定である。授業で習った箇所の復習を行うこと。課題が出された場合には、遅れることなく提出すること。

【テキスト (教科書)】

Good Choice!: Basic Grammar for College Students, Sunji Tumura, et al. 金星堂
 英和・和英辞書を必ず持参すること

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、授業時の応答や参加度 50%。
 4 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れる。また、遅刻 2 回で欠席 1 回に換算するので、注意すること。
 授業に出ていても、予習を行っていない、または、演習に積極的に参加しない受講生は出席と認めないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ひきつづき、受講生の英語のレベルに合わせてながら進度を調節する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is for SSI students to learn basic English grammar and vocabulary. Students will start off by learning the basics of English, including developing a knowledge of English phrases and vocabulary used on a daily basis.

LANe100LA

入門英語 (SSI) II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 II 2016 年度以前入学者

須藤 祐二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文堂国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SSI の学生のなかで、英語を苦手とする学生が英語の基本文法や表現を習得することを目的とする。英語のレベルは基礎的なものから始めるが、徐々にさまざまな場面で使用可能な表現の解説に移る。春学期よりも多少難しい文法項目まで範囲に収め、基礎的な英語の運用能力の習得を目指す。

【到達目標】

受講生は、英語の基本的な構造を理解できるようにする。また、挨拶や自己紹介だけでなく、時制や適切な語句の選択などを通じて、春学期よりも多少高い英語表現能力を身につけるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習をして授業に参加すること。テキストの解説を行った後、予習箇所の確認に移る。その後、その授業におけるテキストのテーマに沿った演習を繰り返すか、または、口頭表現に特化した演習を行う。受講者には積極的に演習を行うことが求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の振り返り	春学期に学んだ文法項目等の再確認を行う。
第 2 回	Unit7 の前半	Unit7 の前半を演習する。
第 3 回	Unit7 の後半	Unit7 の後半を演習する。
第 4 回	Unit8 の前半	Unit8 の前半を演習する。
第 5 回	Unit8 の後半	Unit8 の後半を演習する。
第 6 回	Unit9 の前半	Unit9 の前半を演習する。
第 7 回	Unit9 の後半	Unit9 の後半を演習する。
第 8 回	Unit10 の前半	Unit10 の前半を演習する。
第 9 回	Unit10 の後半	Unit10 の後半を演習する。
第 10 回	Unit11 の前半	Unit11 の前半を演習する。
第 11 回	Unit11 の後半	Unit11 の後半を演習する。
第 12 回	Unit12 の前半	Unit12 の前半を演習する。
第 13 回	Unit12 の後半	Unit12 の後半を演習する。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期に学んだ英語表現や文法の再確認をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習をして授業に参加すること。また、授業では、前回授業の復習プリントを配布する予定である。授業で習った箇所の復習を行うこと。課題が出された場合には、遅れることなく提出すること。

【テキスト (教科書)】

Good Choice!: Basic Grammar for College Students. Shunji Tsumura, et al. 金星堂
英和・和英辞書を必ず持参すること

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %、授業時の応答や参加度 50 %。
4 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れる。また、遅刻 2 回で欠席 1 回に換算するので、注意すること。
授業に出ていても、予習を行っていない、または、演習に積極的に参加しない受講生は出席と認めないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ひきつづき、受講生の英語のレベルに合わせてながら進度を調節する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is for SSI students to learn basic English grammar and vocabulary. Students will start off by learning the basics of English, including developing a knowledge of English phrases and vocabulary used on a daily basis.

LANe100LA

入門英語 (SSI) I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 I 2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文堂国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語に慣れる。

【到達目標】

初歩的な英語を読み書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを用いて、英語の基礎を習得できるように指導する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	単語、品詞	名詞、形容詞、動詞等の違いの説明 単語のつながりについて
第 2 回	句と節	第 1 文型
第 3 回	文の型	第 2 文型
第 4 回	文の型	第 3 文型
第 5 回	文の型	第 4 文型
第 6 回	文の型	第 5 文型
第 7 回	文の型	単文
第 8 回	文の種類	複文
第 9 回	文の種類	重文
第 10 回	文の種類	肯定文
第 11 回	文の種類	否定文
第 12 回	文の種類	疑問文
第 13 回	文の種類	感嘆文

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をし英語の構造を理解できるようにする。

【テキスト (教科書)】

プリント使用

【参考書】

マスター英文法 (吾妻書房)

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your basic English skill can be developed.

LANe100LA

入門英語 (SSI) II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

入門英語 II

2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語に慣れる。

【到達目標】

初歩的な英語を読み書きけるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを用いて、英語の基礎を習得できるように指導する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	準動詞	不定詞①
第 2 回	準動詞	不定詞②
第 3 回	準動詞	動名詞①
第 4 回	準動詞	動名詞②
第 5 回	準動詞	分詞①
第 6 回	準動詞	分詞②
第 7 回	関係詞	関係代名詞①
第 8 回	関係詞	関係代名詞②
第 9 回	関係詞	関係代名詞③
第 10 回	関係詞	関係代名詞④
第 11 回	仮定法	仮定法現在
第 12 回	仮定法	仮定法未来
第 13 回	仮定法	仮定法過去
第 14 回	仮定法	仮定法過去完了

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をして英文の構造に慣れる事。

【テキスト (教科書)】

プリント使用

【参考書】

マスター英文法 (吾妻書房)

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline and objectives】

This class will show you how your basic English skill can be developed.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of the English Speaking World

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 法 2 年、文 (史地心) 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Current Issues in the English Speaking World

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

【到達目標】

- 1) Students will read and understand English texts and become familiar with relevant writing styles and vocabulary items.
- 2) Students will critically evaluate the reading and listening materials by paying attention to the style and conducting research.
- 3) Students will learn to express their own opinions in speech and in writing, including group discussions, presentations and an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include group discussion and presentations based on short reading or audio-visual materials on current affairs in the English-speaking world. The overall class atmosphere is friendly and informal.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know each other (communicative activities), plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

- 14 Submission of the essay, recap of the semester & student feedback
Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
- 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**
Students are expected to do homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations.
- 【テキスト（教科書）】**
No textbook is assigned. Materials will be provided by the instructor. Students are recommended to have an A4 folder/file to store the materials.
- 【参考書】**
Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)
- 【成績評価の方法と基準】**
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Homework and quizzes: 40%
Presentations and an essay: 40%
Please note that attendance and participation are *extremely* important. Any student who misses more than 3 classes without an acceptable reason will be automatically dropped from the class. Please also note that students are responsible for obtaining the homework assignments and handout materials when they are absent by contacting other students, and for coming back to class in the following week with the homework and preparation done.
- 【学生の意見等からの気づき】**
NA
- 【Outline and objectives】**
English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Current Issues in English Speaking World

佐藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 2 年、文（史地心）2 年：上級／英語／英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course builds upon the skills and knowledge gained from English 3 I, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

【到達目標】

- 1) Students will read and understand English texts and become familiar with relevant writing styles and vocabulary items.
- 2) Students will critically evaluate the reading and listening materials by paying attention to the style and conducting research.
- 3) Students will learn to express their own opinions in speech and in writing, including group discussions, presentations and an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include group discussion and presentations based on short reading or audio-visual materials on current affairs in the English-speaking world. The overall class atmosphere is friendly and informal.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Warm up communicative activities, recap of last semester, plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

14	Submission of the essay, recap of the semester & student feedback	Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
----	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to do homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations.

【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials will be provided by the instructor. Students are recommended to have an A4 folder/file to store the materials.

【参考書】

Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 40%

Presentations and an essay: 40%

Please note that attendance and participation are *extremely* important. Any student who misses more than 3 classes without an acceptable reason will be automatically dropped from the class. Please also note that students are responsible for obtaining the homework assignments and handout materials when they are absent by contacting other students, and for coming back to class in the following week with the homework and preparation done.

【学生の意見等からの気づき】

Students seem to have learned a lot from this course. More time will be spent on essay writing.

【Outline and objectives】

This course builds upon the skills and knowledge gained from English 3 I, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3
法2年、文（史地心）2年：上級／英語／世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Group work will be aimed at facilitating discussions; group presentations are required. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【到達目標】

The purpose English 3 is to further develop student's English proficiency in this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions; group presentations are required. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第2回	2020 Olympics	Hosting the Olympics in Japan Typed opinion paragraph due next week.
第3回	Peer editing	Peer editing of above paragraph and group discussion of same Make groups for presentations based on theme list provided by instructor.
第4回	Changes	Immigration Reform through authentic source such as TED or VOA. Group discussion. Start outline for group presentation
第5回	inside looking out	A.TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A B.Work on presentations
第6回	Comparing Health Insurance	A.National Health Insurance in Japan compared to Canada, America and Norway. -Group discussions- Work on presentations. Group presentation outline due. Essay outline due.
第7回	Tradition against modernity	A. Japan's Endless Search for Modernity article https://www.theatlantic.com
第8回	Peer editing	A. Peer editing on typed paragraphs B. Group work on presentations C. Japan and its neighbors
第9回	Discussion	Discussion on Japan and it's neighbors. Article: How Toyota Helped Create A Thriving Japanese Food Culture In Kentucky. Opinion paragraph on week 10
第10回	TED Talk	A.Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45) Q & A Technological change in Japan compared to the world

第 11 回	Presentation Prep	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.
第 12 回	Presentations	2~3 group presentations + Q & A
第 13 回	get ready	2~3 group presentations + Q & A
第 14 回	Active feedback	Voicing your opinion on what you would like to see added or omitted in this class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Highlighting, vocabulary work along with opinion and or summaries of all the handouts provided in class are also required before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class. is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 2 年、文（史地心）2 年：上級／英語／世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions; group presentations are required. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back	Discuss what you did during your spring break. The Convenience of Living in Japan article Highlight etc. in class
第 2 回	Peer editing	Discussion on article from week 1. Peer editing of above paragraph and group discussion of same. Make groups for presentations based on theme list provided by instructor.
第 3 回	Your choice	A. Select a short article related to Japan and the world; you must be prepared (highlighting, vocab work and opinion) before class. Discuss in groups. Group presentation work
第 4 回	Differences/ commonalities	TED: What does it mean to be a citizen of the world? Hugh Evans (16:57) Group discussion Group presentation work
第 5 回	Inside looking out	Single women living in poverty article Usual highlighting and vocab work. Discuss in small groups
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.
第 7 回	discussion	A. Select a short article from VOA (Voice of America), highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. Group work on presentations
第 8 回	Peer editing	A. Peer editing on typed paragraphs B. Group work on presentations
第 9 回	Short speeches	Short speeches based on topic list provided by the instructor.
第 10 回	Japan Times	Tokyo's internet cafe 'refugees' number 4,000, survey says Japan Times
第 11 回	Preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.
第 12 回	Presentations	2~3 group presentations + Q & A
第 13 回	Presentations	2~3 group presentations + Q & A

第 14 回 Sayonara

Fun conversation board game done
in small groups.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Highlighting, vocabulary work along with opinion and or summaries of all the handouts provided in class are also required before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代の諸相

猪俣 佳瑞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 2 年、文（史地心）2 年：上級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

American and English Ideals（英米人の理念）の読解を通して英米人の思考を構成する文化的要素を知り、English1,2 での学びを踏まえ、4 技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目指す。各学生が英米人の自然観や人生観などが根元的に由来していると考えられる文化的背景を批判的に分析し、自らの体験や現代の情報などを織り交ぜたスピーチ及びグループディスカッションを通して、英語コミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

長文英語を正しく理解し、要約できるようになる。
テキスト読解を通して深めた知識をもとに、自分の意見をまとめ他者に伝えられるようになる。
ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。
英米人の思考の核ともいえる文化的要素を知ることで、異文化対応能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法学学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。本文のリスニング、各学生が準備学習で行った要約の発表、練習問題の答え合わせなどを行った後、各 Chapter に関連付けたトピックのもと、ディスカッションを行う。進行に変更が生じた際には、クラス内で指示する。各学生がテキストを読んだことで、気付いたこと、思い出したこと、考えたことなどを共有し、更なる学びへとつなげたい。講義への積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、進め方の説明 自己紹介など
2	Chapter 1 Altruism ①	事前学習を踏まえ、Altruism: Helping Neighbors in Need の前半をリスニング及び要約の確認
3	Altruism ②	Altruism: Helping Neighbors in Need の後半をリスニング及び要約 の確認 練習問題の答え合せ
4	Altruism ③	Altruism: Helping Neighbors in Need で扱った内容と自分の経験や、 集めた資料をベースに書いてきた意見 をグループに発表。意見交換を行う。
5	Chapter 2 Spirit over Matter ①	Spirit over Matter: What are Humanity, Life, and Death?の前半 をリスニング及び要約の確認
6	Spirit over Matter ②	Spirit over Matter の後半をリスニ ング及び要約の確認 練習問題の答え合せ
7	Spirit over Matter ③	Spirit over Matter で扱った内容と自 分の経験や、集めた資料をベースに書 いてきた意見をグループに発表。意見 交換を行う。
8	Chapter 3 World Stewardship ①	World Stewardship: Western Views of Nature 前半をリスニング及 び要約の確認
9	World Stewardship ②	World Stewardship: Western Views of Nature 後半をリスニング及 び要約の確認 練習問題の答え合せ
10	World Stewardship ③	World Stewardship で扱った内容と 自分の経験や、集めた資料をベースに 書いてきた意見をグループに発表。意 見交換を行う。

11	ここまでのまとめと、プレゼンテーションの準備	今までに扱った内容を振り返り総括しながら、各自が全体に発表するトピックを決める。プレゼンテーションを効果的に行うポイントも紹介。
12	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
13	プレゼンテーション 2	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	テストと総括	春学期に扱った内容を中心とするテストを実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず以下の準備学習を行った上で、講義に参加すること。

- ・本文を読み、各パラグラフの要約を日本語で書く。
- ・本文を読んだことで得られた気付きをメモする。
- ・練習問題を行う。
- ・テキストで扱った内容に関連する自分の経験や資料をベースに意見を英語で書く。

【テキスト（教科書）】

American and English Ideals（英米人の理念） Revised Edition /（著者）カール・ベッカー 英宝社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（準備学習とディスカッションを含む授業への参加度）50%、プレゼンテーション 25%、期末テスト 25%。遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代の諸相

猪俣 佳瑞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 2 年、文（史地心）2 年：上級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期から引き続き、American and English Ideals（英米人の理念）の読解を通して英米人の思考を構成する文化的要素を知り、English1,2 での学びを踏まえ、4 技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目指す。各学生が英米人の自然観や人生観などが根元的に由来していると考えられる文化的背景を批判的に分析し、自らの体験や現代の情報などを織り交ぜたスピーチ及びグループディスカッションを通して、英語コミュニケーション能力を高める。

【到達目標】

長文英語を正しく理解し、要約できるようになる。
テキスト読解を通して深めた知識をもとに、自分の意見をまとめ他者に伝えられるようになる。
ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。
英米人の思考の核ともいえる文化的要素を知ることで、異文化対応能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。本文のリスニング、各学生が準備学習で行った要約の発表、練習問題の答え合わせなどを行った後、各 Chapter に関連付けたトピックのもと、ディスカッションを行う。進行に変更が生じた際には、クラス内で指示する。各学生がテキストを読んだことで、気付いたこと、思い出したこと、考えたことなどを共有し、更なる学びへとつながりたい。講義への積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 4 Positive Thinking in the Western Mind ①	事前学習を踏まえ、Positive Thinking in the Western Mind : Free Access to Wisdom の前半をリスニング及び要約の確認
2	Positive Thinking in the Western Mind ②	Positive Thinking in the Western Mind の後半をリスニング及び要約の確認 練習問題の答え合わせ
3	Positive Thinking in the Western Mind ③	Positive Thinking in the Western Mind で扱った内容と自分の経験や、集めた資料をベースに書いてきた意見をグループに発表。意見交換を行う。
4	Chapter 5 Historicism ①	Historicism : Man Struggles on the Stage of History の前半をリスニング及び要約の確認
5	Historicism ②	Historicism : Man Struggles on the Stage of History の後半をリスニング及び要約の確認 練習問題の答え合わせ
6	Historicism ③	Historicism で扱った内容と自分の経験や、集めた資料をベースに書いてきた意見をグループに発表。意見交換を行う。
7	Chapter 6 The Sacred Contract ①	The Sacred Contract : Responsibility in Black and White の前半をリスニング及び要約の確認
8	The Sacred Contract ②	The Sacred Contract : Responsibility in Black and White の後半をリスニング及び要約の確認 練習問題の答え合わせ
9	The Sacred Contract ③	The Sacred Contract で扱った内容と自分の経験や、集めた資料をベースに書いてきた意見をグループに発表。意見交換を行う。

10	Chapter 7 Egalitarianism ①	Egalitarianism : An Opportunity for Everyone の前半をリスニング及び要約の確認
11	Egalitarianism ②	Egalitarianism : An Opportunity for Everyone の後半をリスニング及び要約の確認 練習問題の答え合せ
12	Egalitarianism ③	Egalitarianism で扱った内容と自分の経験や、集めた資料をベースに書いてきた意見をグループに発表。意見交換を行う。
13	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った 4 つのトピックから 1 つを選び、クラス全体に発表する 1 回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション 2 と 総括	各学生が今までに講義で扱った 4 つのトピックから 1 つを選び、クラス全体に発表する 2 回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。秋学期の学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 必ず以下の準備学習を行った上で、講義に参加すること。
- ・本文を読み、各パラグラフの要約を日本語で書く。
 - ・本文を読んだことで得られた気付きをメモする。
 - ・練習問題を行う。
 - ・テキストで扱った内容に関連する自分の経験や資料をベースに意見を英語で書く。

【テキスト（教科書）】

American and English Ideals (英米人の理念) Revised Edition / (著者) カール・ベッカー 英宝社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（準備学習とディスカッションを含む授業への参加度）50%、プレゼンテーション 50%。遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：UK ロックを通して見るイギリス現代史

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 2 年、文（史地心）2 年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 つの技能を総合的に伸ばすことを目的とする。まず、UK ロックの歴史を 50 年代から現代まで辿るテキストの精読及び速読を通して読解力を強化し、イギリスに対する理解を深めるとともに、文化と社会の関係について考える。また、イギリス史を足掛かりに日本の戦後史を見直し、共時態の視点から歴史経験の違いと普遍性を見て行く。さらに、テキストに設定されたディベート演習を通して批判的な思考と論理的な文章を書く力を養う。テキストにはロックソングが教材として取り上げられているが、そのほかに映画などを追加して聴解力の向上も目指す。

【到達目標】

- (1) 適当に文意を類推するのではなく、文の構造などを正確に把握した上で内容が理解できる。
- (2) ポイントとなる部分を正しく聞き取ることができる。
- (3) 歴史を共時的に捉えることが出来る。
- (4) 様々なテーマについて複数の立場から考え、自分の考えをわかりやすい英語で伝えることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは全部で 15 ユニットから成っていますが、春学期は Unit 6 まで（ロック前史から 70 年代のバンク前夜まで）を扱います。映画の鑑賞なども挟んで、特に 60 年代と 70 年代前半を丁寧に見て行くつもりです。テキストは精読、速読を取り混ぜ、意味や構文の取りにくい文に注意を払いながら読んでいきたいと思っています。そのため、プリント教材による読解演習や小テストを追加する予定です。各ユニットの Debate & Further Research のセッションについては全部は取り上げず、一部は日本の戦後史に差し替え、たたき台として短い作文（英文）を用意した上でグループで話し合ってもらいます。テキストとは別にロックソングなどを使った Dictation の演習もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容やイギリスに関する基本情報について説明 Self-introduction Activity
2	Reading Practice	Unit 1 Introduction: Rock Roots
3	Reading & Listening Practice	Unit 1
4	Reading Practice	Unit 2 1850s-1950s: Before Rock and Roll
5	Reading & Listening Practice Group Talk	Unit 3 Early 1960s: Enter Rock and Roll 日本の 60 年代
6	Reading Practice Watching a Film	Unit 3 <i>The Boat that Rocked (1)</i>
7	Watching a Film	<i>The Boat that Rocked (2)</i> Unit 4 Later 1960s: Into Psychedelic
8	Reading & Listening Practice Group Talk	Unit 4 Discussing the Film
9	Reading & Listening Practice	Unit 5 Early 1970s: Prog Rock
10	Reading & Listening Practice Group Talk	Unit 5 "Does J-pop reflect the national character of Japan in any way?"
11	Reading Practice Group Talk	Unit 5 日本の 70 年代
12	Reading & Listening Practice Watching a Film	Unit 6 Early 1970s: Glam Rock <i>My Beautiful Laundrette (1)</i>
13	Watching a Film Reading Practice	<i>My Beautiful Laundrette (2)</i> Unit 6

14	Reading & Listening Practice Debate	Unit 6 "Men and women are biologically different, so can never be equal." For or Against?
----	---	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された Reading の予習。文の構造や文意について自分の頭でよく考え、疑問点があれば洗い出しておく。グループトークやディベートに備え、リサーチを行ったり、短い文章（英文）を用意する。

【テキスト（教科書）】

Paul Hullah & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】

Dick Hebdige, *Subculture: The Meaning of Style* (1979)

【成績評価の方法と基準】

Reading の小テストと演習 (30%)、グループトークやディベートのための英作文 (30%)、平常点 (Listening 演習、授業態度、予習が出来ているかどうか、など) (40%) の割合で総合的に評価します。所謂期末テストはありませんが、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

It is often said that in Britain the movements and styles of rock music, a key element of youth culture, are closely connected with the period and social climate from which they emerge. In this course, therefore, you will see how rock songs have reflected the views and moods of British people since the 1950s when rock music first arrived in Britain from the U. S. One of the objectives of this course is, by exploring the history of UK rock music, not only to learn more about Britain and the British but also understand the historical relationship between culture and society. Thereby, you will be able to expand your horizons as well. There will also be time for debate or group talk, and you are expected to write, in English, some short essays for them.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：UK ロックを通して見るイギリス現代史

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法 2 年、文（史地心）2 年：上級／日本語／英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

70 年代半ば（パンクの登場）から 2000 年代にいたる文化と歴史の関係について、特に 80 年代と 90 年代を中心にイギリスと日本を比較しながら考察する。また、引き続き、Listening と Writing の力の向上を目指し、Reading については、正確に、かつ速くたくさん読める力を養う。

【到達目標】

- (1) Reading, Listening とも、英語の語順通りに意味を取ることができる。
- (2) 文意を正確に把握するだけでなく、速くたくさん読めるようになる。
- (3) 現代社会が抱える問題について批判的に考察し、より自然な英語で説得力のある論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じで、テキストの Unit 7 からを対象としますが、速読の章を増やし、より効率的に速くたくさん読めるよう、練習を重ねます。ただし、Unit 8 Later 1970s: Heavy Metal は省略する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading Practice	Unit 7 Mid-1970s: Punk Rock 70 年代のイギリス
2	Reading & Listening Practice	Unit 7
3	Reading & Listening Practice Group Talk	Unit 12 1960s-Present: Women in UK Rock 王室/皇室制度について
4	Reading Practice	Unit 9 Early 1980s: New Romanticism, Futurism, Goth
5	Reading & Listening Practice Debate	Unit 9 "It is impossible for a man to be a feminist." For or Against?
6	Reading Practice Group Talk	Unit 10 Later 1980s: Romantic Realism 日本の 80 年代・90 年代
7	Watching a Film Reading Practice	<i>Billy Elliot</i> (1) Unit 10
8	Watching a Film Reading & Listening Practice	<i>Billy Elliot</i> (2) Unit 10
9	Reading Practice Group Talk	Unit 11 1990s: Britpop Discussing the Film
10	Reading & Listening Practice	Unit 11
11	Reading & Listening Practice Debate	Unit 13 1980s-Present: Dance Music "Patriotism is always a good thing." For or Against?
12	Reading Practice	Unit 14 2000s-Present: Where Now? Where Next? イギリスの EU 離脱について
13	Reading & Listening Practice	Unit 14
14	Reading & Listening Practice Group Talk	Unit 15 Conclusion: Functions of Rock グローバリゼーションとナショナリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期同様、指定された Reading の予習。グループトークやディベートに備えたりサーチや英作文。

【テキスト（教科書）】

Paul Hullah & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】

Dick Hebdige, *Subculture: The Meaning of Style* (1979)

【成績評価の方法と基準】

Reading の小テストと演習 (30%)、グループトークやディベートのための英作文 (30%)、平常点 (Listening 演習、授業態度、予習が出来ているかどうか、など) (40%) の割合で総合的に評価します。所謂期末テストはありませんが、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

You will continue to read about the historical relationship between culture and society from the mid-1970s to the present and to compare the post-war histories of Britain and Japan. In addition, you are expected to understand complex sentences as you read them without translating each of them into Japanese, which is necessary for extensive reading and should also lead to your developing confidence in listening.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヴィクトリア朝の文化と社会を通して現代生活のルーツを探る

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法 2 年、文 (史地心) 2 年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English3 は English1 と 2 で修得した四技能の英語運用能力を用いて、国際語としての英語を通じて、世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈の中で相対化する能力や多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析した上で、英語で意見を発信する能力の涵養を学習目標とします。従ってこの授業では、学生は英語を学びつつ様々な角度からイギリスの文化や社会について考えることとなります。

本授業は、Victorians - 総合教材：ヴィクトリア朝からの贈りもの - (英宝社) をテキストとして用いますが、必要に応じて様々な英文記事を配布します。学生は、ヴィクトリア朝のイギリスについて書かれた様々な資料を読み、読解力を鍛えるとともに、異文化理解を深めます。さらに、授業テーマに関連した内容のライティング課題やディスカッション、プレゼンテーションを通じて、英語で自分の意見を発信する能力を身につけます。世界で最初に産業革命を達成し、今日の産業資本主義社会の礎を築いたイギリスのヴィクトリア朝について学ぶことは、我々が生きる現代社会のルーツを知ることにつながります。本授業を通して学生は、英語力とともに、このような 21 世紀のグローバル社会を生きる上で必須の知見を養います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下に記載するとおりです。

- ①ヴィクトリア朝期のイギリスについて書かれた英文エッセイや映画などに触れることにより、異文化理解を深めると共に、現代生活のルーツや今日のグローバル社会に対する理解を深める。
- ②英文で書かれたある程度の長さのエッセイを読み、分からない単語や表現があっても、文章の流れを通して全体の意味を把握する能力を養う。英文法の知識を深める。
- ③パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。
- ④英語で発信された内容に対して、自分の意見を英語で簡潔に述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

タームの前半で、テキストの Chapter 1~7 までの内容を学習します。内容は、ヴィクトリア朝の文化と社会に関するリーディングとリスニングです。ディスカッションやライティングの指導も行ないます。Chapter7 まで進んだ後、学習した内容をさらに深めるための文献講義を行ないます。また、ヴィクトリア朝のイギリスを題材にした映画を視聴し、その内容についてディスカッションを行ないます。その後、夏学期の学習を通して学生が興味を持った事項を、各自が調べてグループプレゼンテーションを行ないます。学期末には、理解度確認のための筆記試験を授業内で行ないます。授業進度や学生の興味関心に応じて進め方は変更することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 8 日	ガイダンス 映画	授業方針・内容の説明
4 月 15 日	Chapter 1 : Queen Victoria'S Reign	テキスト精読、リスニング、ライティング
4 月 22 日	Chapter 2: First Industrial Nation	テキスト精読、リスニング、ライティング
5 月 6 日	Chapter 3: Coming of the Railways 復習問題 (Exercises 1)	テキスト精読、リスニング、ライティング
5 月 13 日	Chapter 4: The Great Exhibition	テキスト精読、リスニング、ライティング
5 月 20 日	Chapter 5: Working Lives	テキスト精読、リスニング、ライティング
5 月 27 日	Chapter 6: Victorian Cities	テキスト精読、リスニング、ライティング
6 月 3 日	Chapter 7: Angel in the Home 復習問題 (Exercises 2)	テキスト精読、リスニング、ライティング
6 月 10 日	Further Reading	専門的な文章の読解
6 月 17 日	映画	ディスカッション

6月24日	プレゼンテーション準備日	プレゼンテーション原稿作成等
7月1日	プレゼンテーション	学生によるグループプレゼンテーション
7月8日	期末試験	筆記試験の実施
7月15日	まとめ・復習日	試験の返却、解説、今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、各 Chapter の Vocabulary 問題をやってきてください。ライティングの課題は宿題として出します。

Further Reading では、専門性の高い長めの英文を読みますので事前に英文に目を通し、分からない語は調べておきましょう。プレゼンテーションの前には、十分時間を取って準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：Victorians - 総合教材：ヴィクトリア朝からの贈りもの -
著者：杉村醇子、古瀬明里、山崎麻由美
出版社：2011年
価格：2000円＋税

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は以下に示すとおりです。
期末試験 40%、ライティング課題 20%、グループプレゼンテーション 20%、授業貢献 20%（ディスカッション、ペア/グループワークなどへの参加）
欠席回数が4回を超えた場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、主テキストの英文が比較的読みやすかったため、学習のコンテンツ（ヴィクトリア朝の文化）に興味を持って取り組めたという学生からのフィードバックがありました。そのため、ライティングやプレゼンテーションなどの発信型学習において、学生が積極的に取り組めていたように感じました。学生の興味を引き出したことが良かった反面、テキストのリーディングの分量に若干物足りなさを感じたので、本年度は Further Reading の回を儲け、リーディングの不足を補います。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students the methods of a provocative study using English. In this class, students will read various essays about Victorian society and culture in England. Knowing Victorian England, which experienced the Industrial Revolution first in the world and laid the foundation of today's industrial capital society, will lead us to have better understanding of the roots of today's world, which is the indispensable for us to live in the global society in the 21 century. In this course, students will not only increase their English reading skills, they will also learn the skills to express their own ideas or opinions in English through doing many exercises related to the knowledge learned from the course, such as writhing, discussion, and presentation.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヴィクトリア朝の文化と社会を通して現代生活のルーツを探る

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

法2年、文（史地心）2年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 は English1 と 2 で修得した四技能の英語運用能力を用いて、国際語としての英語を通じて、世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈の中で相対化する能力や多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析した上で、英語で意見を発信する能力の涵養を学習目標とします。従ってこの授業では、学生は英語を学びつつ様々な角度からイギリスの文化や社会について考えることとなります。

本授業は、Victorians - 総合教材：ヴィクトリア朝からの贈りもの -（英宝社）をテキストとして用いますが、必要に応じて様々な英文記事を配布します。学生は、ヴィクトリア朝のイギリスについて書かれた様々な資料を読み、読解力を鍛えるとともに、異文化理解を深めます。さらに、授業テーマに関連した内容のライティング課題やディスカッション、プレゼンテーションを通じて、英語で自分の意見を発信する能力を身につけます。世界で最初に産業革命を達成し、今日の産業資本社会の礎を築いたイギリスのヴィクトリア朝について学ぶことは、我々が生きる現代社会のルーツを知ることに繋がります。本授業を通して学生は、英語力とともに、このような 21 世紀のグローバル社会を生きる上で必須の知見を養います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下に記載するとおりです。

- ①ヴィクトリア朝期のイギリスについて書かれた英文エッセイや映画などに触れることにより、異文化理解を深めると共に、現代生活のルーツや今日のグローバル社会に対する理解を深める。
- ②英文で書かれたある程度の長さのエッセイを読み、分からない単語や表現があっても、文章の流れを通して全体の意味を把握する能力を養う。英文法の知識を深める。
- ③パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。
- ④英語で発信された内容に対して、自分の意見を英語で簡潔に述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

タームの前半で、テキストの Chapter 1~7 までの内容を学習します。内容は、ヴィクトリア朝の文化と社会に関するリーディングとリスニングです。ディスカッションやライティングの指導も行いません。Chapter7 まで進んだ後、学習した内容をさらに深めるための文献講義を行いません。また、ヴィクトリア朝のイギリスを題材にした映画を視聴し、その内容についてディスカッションを行いません。その後、夏学期の学習を通して学生が興味を持った事項を、各自が調べてグループプレゼンテーションを行いません。学期末には、理解度確認のための筆記試験を授業内で行いません。授業進度や学生の興味関心に応じて進め方は変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9月23日	Chapter 8: Life below Stairs	テキスト精読、リスニング、ライティング
9月30日	Chapter 9: Victorian Schooling 復習問題 (Exercises 3)	テキスト精読、リスニング、ライティング
10月7日	Chapter 10: Art and Architecture	テキスト精読、リスニング、ライティング
10月14日	Chapter 11: A New Reading Public	テキスト精読、リスニング、ライティング
10月21日	Chapter 12: Social Reform 復習問題 (Exercises 4)	テキスト精読、リスニング、ライティング
10月28日	Chapter 13: Highdays and Holidays	テキスト精読、リスニング、ライティング
11月11日	Chapter 14: Empire-builders	テキスト精読、リスニング、ライティング
11月18日	Chapter 15: The Victorian Legacy 復習問題 (Exercises 5)	テキスト精読、リスニング、ライティング
11月25日	Further Reading	文献講義

12月2日	映画	ディスカッション
12月9日	映画	ディスカッション
12月16日	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの原稿作成
12月23日	期末試験	学生によるグループプレゼンテーション
1月20日	まとめ・復習	冬学期の理解度確認のための筆記試験実施 試験の返却、解説、今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、各 Chapter の Vocabulary 問題をやってください。
ライティングの課題は宿題として出します。

Further Reading では、専門性の高い長めの英文を読みますので事前に英文に目を通し、分からない語は調べておきましょう。
プレゼンテーションの前には、十分時間を取って準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：Victorians - 総合教材：ヴィクトリア朝からの贈りもの -
著者：杉村醇子、古瀬明里、山崎麻由美
出版社：2011年
価格：2000円＋税

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は以下に示すとおりです。
期末試験 40%、ライティング課題 20%、グループプレゼンテーション 20%、
授業貢献 20%（ディスカッション、ペア／グループワークなどへの参加）
欠席回数が4回を超えた場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、主テキストの英文が比較的読みやすかったため、学習のコンテンツ（ヴィクトリア朝の文化）に興味を持って取り組めたという学生からのフィードバックがありました。そのため、ライティングやプレゼンテーションなどの発信型学習において、学生が積極的に取り組めていたように感じました。学生の興味を引き出したことが良かった反面、テキストのリーディングの分量に若干物足りなさを感じたので、本年度は **Further Reading** の回を儲け、リーディングの不足を補います。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students the methods of a provocative study using English. In this class, students will read various essays about Victorian society and culture in England. Knowing Victorian England, which experienced the Industrial Revolution first in the world and laid the foundation of today's industrial capital society, will lead us to have better understanding of the roots of today's world, which is the indispensable for us to live in the global society in the 21 century. In this course, students will not only increase their English reading skills, they will also learn the skills to express their own ideas or opinions in English through doing many exercises related to the knowledge learned from the course, such as writhing, discussion, and presentation.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：英国雑誌で読む世界の中の日本

前川 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3
法2年、文（史地心）2年：上級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が、英語の新聞・雑誌等の読解を通して、世界が日本の政治・社会・文化をどのように見ているかを理解し、英語の読解力を増すだけでなく、高度な異文化理解の能力を涵養することを目指す。また、学生が英語の表現と日本語の表現の違いを考察し、それが単に言語的差異であるだけでなく、文化的差異でもあることを認識し、比較文化的な意識を高めることも、授業の重要な目的である。

【到達目標】

学生が、英語で書かれた高度な新聞・雑誌記事を理解でき、それについて議論できること。また、そういう時事英語で使用される独特の英語表現に精通すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

輪読による演習形式。学生はあらかじめ予習をし、UNITごとに付けられている練習問題を解いてこなければならぬ。最初に問題に対する答え合わせをしたあと、本文を精読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	英語学習および授業の進め方に関するオリエンテーション	授業方針を示し、授業を生かして効果的な英語学習をするために、学生が取り組むべきことを話す。
UNIT 1	海外における日本の食文化	寿司専門学校日本人学生が、海外で寿司職人として働こうとしていることに関する、 The New York Times の記事を読む。
UNIT 2	日本の政治	日本の政治的リーダーシップを皮肉った The New York Times の記事を読む。
UNIT 3	日本の相撲	大相撲における野球賭博事件を取り上げている The New York Times の記事を読む。
UNIT 4	中国漁船衝突事件	尖閣列島近辺で起った漁船衝突事件を取り上げている The New York Times の記事を読む。
UNIT 5	日本の行方不明者	日本における高齢者の行方不明事件を取り上げている The New York Times の記事を読む。
UNIT 6	日本のアニメ	日本のアニメについて、宮崎駿を取り上げている The Independent の記事を読む。
UNIT 7	オスカーとイルカ	イルカの問題をテーマにした映画『ザ・コープ』の日本における上映問題を取り扱った The Sydney Moening Herald の記事を読む。
UNIT 8	東日本巨大地震と原子力発電所の事故（前半）	日本の原発事故を扱った WalesOnline の記事を読む。
UNIT 9	東日本巨大地震と原子力発電所の事故（後半）	日本の原発事故を扱った WalesOnline の記事を読む。
UNIT 10	被爆国日本と平和	被爆国日本と平和の問題を扱った Kazakhstan Today の記事を読む。
UNIT 11	インドと日本	インドと日本の歴史的關係や現在の關係を説明する India PRwire の記事を読む。
UNIT 12	日本の看護師試験	日本の看護師試験に一人だけ合格したフィリピン人看護師に関する、 Philippine Daily Inquirer の記事を読む。
授業内試験	復習とまとめ	授業内試験を実施し、試験終了後、問題の解説を行ない、これまでの英語学習を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はテキストを読み、問題すべてを解いて、出席しなければならない。

【テキスト（教科書）】

The World Watches Japan ー世界から見た日本（南雲堂）

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

予習が十分なされていれば、効果が倍増するような授業を心がけたい。授業中、学生に訳読してもらい、誤訳を丁寧に直すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help the students to understand how people in the world look at the Japanese politics, society, and culture through reading some English essays on Japan. The students are also expected to develop the ability to comprehend English passages and acquire a high level of understanding of cross-cultural problems.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語雑誌で読む世界の中の日本

前川 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

法2年、文（史地心）2年：上級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が、英語の新聞・雑誌等の読解を通して、世界が日本の政治・社会・文化をどのように見ているかを理解し、英語の読解力を増すだけでなく、高度な異文化理解の能力を涵養することを目指す。また、学生が英語の表現と日本語の表現の違いを考察し、それが単に言語的差異であるだけでなく、文化的差異でもあることを認識し、比較文化的な意識を高めることも、授業の重要な目的である。

【到達目標】

学生が、英語で書かれた高度な新聞・雑誌記事を理解でき、それについて議論できること。また、そういう時事英語で使用される独特の英語表現に精通すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

輪読による演習形式。学生はあらかじめ予習をし、UNITごとに付けられている練習問題を解いてこなければならない。最初に問題に対する答え合わせをしたあと、本文を精読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	秋学期の授業の進め方の解説	テキストとプリントの併用とその意義を解説。
UNIT 13	日本の国債の格付け	アメリカの格付け会社が発表した日本経済の評価に関する、Daily Newsの記事を読む。
UNIT 14	マーケットとしての中東	日本のキャラクター「ハロー・キティー」が中東にも進出しようとしていることに関する ynetnewsの記事を読む。
UNIT 15	日本の領土問題	日本の領土問題に関して、アルゼンチンの新聞 Buenos Aires Herald が報道している記事を読む。
UNIT 16	日本の茶道と南アフリカ	茶道を通して行なわれた日本と南アフリカの交流に関する、City Pressの記事を読む。
日本文学の英訳	樋口一葉『たけくらべ』(1)	Seidenstickerによる『たけくらべ』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	樋口一葉『たけくらべ』(2)	Seidenstickerによる『たけくらべ』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	樋口一葉『たけくらべ』(3)	Seidenstickerによる『たけくらべ』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	芥川龍之介『地獄変』(1)	Normanによる『地獄変』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	芥川龍之介『地獄変』(2)	Normanによる『地獄変』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	芥川龍之介『地獄変』(3)	Normanによる『地獄変』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本論	ラフカディオ・ハーン『見知らぬ日本の面影』(1)	ハーン nのエッセイを読む。プリント授業。
日本論	ラフカディオ・ハーン『見知らぬ日本の面影』(2)	ハーンのエッセイを読む。
授業内試験	復習とまとめ	授業内試験を実施し、試験終了後、解説を行い、これまでの英語学習を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はテキストを読み、問題すべてを解いて、出席しなければならない。

【テキスト（教科書）】

The World Watches Japan ー世界から見た日本（南雲堂）

配布プリント

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

予習が十分なされていれば、効果が倍増するような授業を心がけたい。授業中、学生に訳読してもらい、誤訳を丁寧に直すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help the students understand how people in the world look at Japanese politics, society, and culture through reading some English essays on Japan. The students are also expected to develop the ability to comprehend English passages and acquire a high level of understanding of cross-cultural problems.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：Current Affairs

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

法2年：上級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】

This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that students acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. Students will be encouraged to develop critical thinking and to share their opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. They will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present their own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Working life	Watching video (TED Talks); Speaking exercise: giving mini-presentation about your job/studies (pair work); Grammar: present simple, expressions of frequency
Week 3	Unit 1 Working life	Reading exercise: skills for the 21st century; Listening exercise: asking about jobs; Writing assignment: a formal letter inquiring about a job
Week 4	Unit 2 Trends	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Speaking exercise: critical thinking about leadership and following others; Presentation tips
Week 5	Unit 2 Trends	Grammar: present simple and present continuous; Reading exercise: identifying trends; Writing exercise: formal and informal emails; Speaking: meetings and introductions, group work
Week 6	Unit 3 Money	Explanation of presentation No. 1 (parrotting); Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Grammar: countable and uncountable nouns, expressions of quantity
Week 7	Unit 3 Money	Reading exercise: financial literacy; Vocabulary review; Speaking: critical thinking - talking about money, pair & group work
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Success	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: past simple, past continuous, past perfect; Speaking: critical thinking – key factors for success in life
Week 10	Unit 4 Success	Reading exercise: topic about reward and motivation; Speaking: giving reasons for actions; Writing exercise: prepositions in messages
Week 11	Unit 5 Marketing	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking: critical thinking – companies giving control to customers
Week 12	Unit 5 Marketing	Reading with comprehension: effective marketing; Speaking exercise: comparison, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Current Affairs

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：上級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】

This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that students acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. Students will be encouraged to develop critical thinking and to share their opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. They will be given the opportunity to converse on topics related to current issues and to present their own ideas. There will also be regular listening and reading exercises, as well as writing assignments based on the topics discussed in each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Communication	Watching video (TED Talks); Key words; Speaking exercise: giving mini-presentation about your interests/hobbies or area of study (pair work); Grammar: Verb patterns with infinitive and -ing
Week 3	Unit 6 Communication	Reading exercise: good communication; Listening and speaking exercise: small talk; Writing assignment: short emails
Week 4	Unit 7 Experience	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Speaking exercise: critical thinking about a speaker's authority and credibility; Presentation tips
Week 5	Unit 7 Experience	Grammar: present perfect simple; Reading exercise: encouraging diversity; Vocabulary; Speaking: life experiences
Week 6	Unit 8 Seeing the future	Explanation of presentation No. 1 (parrotting); Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Grammar: future predictions (will/might)
Week 7	Unit 8 Seeing the future	Reading exercise: new gadgets; Speaking: phrases in telephoning, pair work; Writing assignment: reported speech
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Being effective	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar explanation and practice: zero and first conditional; Speaking: critical thinking – identifying the main idea of a speech

Week 10	Unit 9 Being effective	Reading exercise: small details matter; Speaking: giving instructions
Week 11	Unit 10 The environment	Watching video (TED Talks); Key words review; Grammar: comparatives and superlatives; Speaking: critical thinking – recognizing tone of a speaker
Week 12	Unit 10 The environment	Reading with comprehension: greenhouse gas emissions; Speaking exercise: ways to save the environment, pair & group work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummett, Helen Stephenson & Lewis Lansford: Keynote Intermediate, Cengage Learning, 2016. Student's Book + Online Workbook Code ISBN: 978-1-305-88061-0

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of the English Speaking World

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Current Issues in the English Speaking World

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

【到達目標】

- 1) Students will read and understand English texts and become familiar with relevant writing styles and vocabulary items.
- 2) Students will critically evaluate the reading and listening materials by paying attention to the style and conducting research.
- 3) Students will learn to express their own opinions in speech and in writing, including group discussions, presentations and an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include group discussion and presentations based on short reading or audio-visual materials on current affairs in the English-speaking world. The overall class atmosphere is friendly and informal.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know each other (communicative activities), plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

- 14 Submission of the essay, recap of the semester & student feedback Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
- 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**
Students are expected to do homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations.
- 【テキスト（教科書）】**
No textbook is assigned. Materials will be provided by the instructor. Students are recommended to have an A4 folder/file to store the materials.
- 【参考書】**
Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)
- 【成績評価の方法と基準】**
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Homework and quizzes: 40%
Presentations and an essay: 40%
Please note that attendance and participation are *extremely* important. Any student who misses more than 3 classes without an acceptable reason will be automatically dropped from the class. Please also note that students are responsible for obtaining the homework assignments and handout materials when they are absent by contacting other students, and for coming back to class in the following week with the homework and preparation done.
- 【学生の意見等からの気づき】**
NA
- 【Outline and objectives】**
English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Current Issues in English Speaking World

佐藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course builds upon the skills and knowledge gained from English 3 I, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

【到達目標】

- 1) Students will read and understand English texts and become familiar with relevant writing styles and vocabulary items.
- 2) Students will critically evaluate the reading and listening materials by paying attention to the style and conducting research.
- 3) Students will learn to express their own opinions in speech and in writing, including group discussions, presentations and an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include group discussion and presentations based on short reading or audio-visual materials on current affairs in the English-speaking world. The overall class atmosphere is friendly and informal.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Warm up communicative activities, recap of last semester, plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

14	Submission of the essay, recap of the semester & student feedback	Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
----	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to do homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations.

【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials will be provided by the instructor. Students are recommended to have an A4 folder/file to store the materials.

【参考書】

Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 40%

Presentations and an essay: 40%

Please note that attendance and participation are *extremely* important. Any student who misses more than 3 classes without an acceptable reason will be automatically dropped from the class. Please also note that students are responsible for obtaining the homework assignments and handout materials when they are absent by contacting other students, and for coming back to class in the following week with the homework and preparation done.

【学生の意見等からの気づき】

Students seem to have learned a lot from this course. More time will be spent on essay writing.

【Outline and objectives】

This course builds upon the skills and knowledge gained from English 3 I, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：四季と自然から読み解くイギリスの文化と社会

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 は English1 と 2 で修得した四技能の英語運用能力を用いて、国際語としての英語を通じて、世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈の中で相対化する能力や、多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析した上で、英語で意見を発信する能力の涵養を学習目標とします。従ってこの授業では、学生は英語を学びつつ様々な角度からイギリスの文化や社会について考えることとなります。

本授業は、主テキストとして Peter Milward 著の *Seasons in England* (南雲堂) を用い、サブテキストとして同著者編の *Seasonal Poems of England* (南雲堂) を用います。学生は、イギリスの季節と文化について書かれたエッセイを読み、読解力を鍛えるとともに、関連した英詩のリスニングやディクテーションを通じてリスニング力を強化させます。さらに、授業テーマに関連した内容のライティング課題やディスカッション、プレゼンテーションを通じて、英語で自分の意見を発信する能力を身につけます。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下に記載するのとおりです。

- ①イギリスの四季と文化について書かれた英文エッセイや詩、映画などに触れることにより、イギリスという異文化についての理解を深めるとともに、自分が育った日本という国の文化や社会についても相対化して見る視線を養う。
- ②英文で書かれたある程度の長さのエッセイを読み、分からない単語や表現があっても、文章の流れを通して全体の意味を把握する能力を養う。文法知識を深める。
- ③パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。
- ④英語で発信された内容に対して、自分の意見を英語で簡潔に述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

主テキストの講読を 2 週行い、その次の週に関連する英詩のリスニングと内容の解説、ライティングの指導を行います。春から夏までのエッセイと詩を読み終わった後で、イギリスの文化に触れた映画を視聴し、その内容について、ディスカッションを行います。その後、夏学期の学習を通して学生が興味を持った事項を、各自が調べてグループプレゼンテーションを行います。学期末には、理解度確認のための筆記試験を授業内で行います。授業進度や学生の興味関心に応じて進め方は変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 8 日	ガイダンス	授業方針・内容の説明
	映画視聴	
4 月 15 日	Chap. 3: Winds and Daffodils	テキスト講読
4 月 22 日	Chap. 4: Death and Resurrection	テキスト講読
5 月 6 日	Poems of Spring	リスニング ライティング指導
5 月 13 日	Chap. 5: Month of Flowers	テキスト講読
5 月 20 日	Chap. 6: Of Leaves and Roses	テキスト講読
5 月 27 日	Poems of Early Summer	リスニング ライティング指導
6 月 3 日	Chap. 7: Green Land	テキスト講読
6 月 10 日	Chap. 8: Holiday Season	テキスト講読
6 月 17 日	Poems of Summer	リスニング ライティング指導
6 月 24 日	映画視聴	ディスカッション
7 月 1 日	プレゼンテーション準備 プレゼンテーション	学生によるグループプレゼンテーション
7 月 8 日	期末試験	筆記試験の実施
7 月 15 日	まとめ・復習	試験の返却、解説、今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト講読の授業の前には、予習として英文に一通り目を通していただきます。分からない単語や表現は、巻末の Notes などを利用してあらかじめ調べておいてください。詩の授業の前には、扱う詩に一通り目を通し（意味は分からなくてもかまいません）、分からない語や表現を巻末の Notes を使って調べて、テキストに書き込んでおいてください。

ライティングの課題は宿題として出します。

プレゼンテーションの前には、十分時間を取って準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

1. テキスト： Seasons in England
著者： Peter Milward
出版社：南雲堂
出版年：1979年
価格：1600円＋税
2. テキスト： Seasonal Poems of England
著者： Peter Milward, Toshihiko Kawasaki
出版社：南雲堂
価格：1748円＋税

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は以下に示すとおりです。
期末試験 40%、ライティング課題 20%、グループプレゼンテーション 20%、授業貢献 20%（ディスカッション、ペア/グループワークなどへの参加）
欠席回数が4回を超えた場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は選んだテキストの英文が難しすぎたために授業が読解、文法中心になってしまった反省から、本年度はあまり難しすぎない英文のテキストは避け、バランスのよい授業になるように心がけています。特に昨年度はリスニングにあまり力を入れることができなかったため、本年度は授業にあらかじめリスニングの回を設けています。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students the methods of a provocative study using English. In this class, students will read the essays about seasons in England, and consider the culture and society of England from various viewpoints. England and Japan are alike as both countries have four seasons. Through considering some of English cultures and customs come from its climate, we will have the opportunity to see some of Japanese cultures and customs which we usually take for granted from different viewpoints. In this course, students will not only strive to increase their skills of reading, they will also learn the skills to express their own ideas or opinions in English by doing many exercises related to the knowledge learned from the course, such as writhing, discussion, and presentation.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：四季と自然から読み解くイギリスの文化と社会

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3は English1と2で修得した四技能の英語運用能力を用いて、国際語としての英語を通じて、世界の多様な文化を理解・尊重し、自らの文化を世界的な文脈の中で相対化する能力や、多様なテーマの英語資料を理解し、批判的に分析した上で、英語で意見を発信する能力の涵養を学習目標とします。従ってこの授業では、学生は英語を学びつつ様々な角度からイギリスの文化や社会について考えることとなります。

本授業は、主テキストとして Peter Milward 著の Seasons in England (南雲堂) を用い、サブテキストとして同著者編の Seasonal Poems of England (南雲堂) を用います。学生は、イギリスの季節と文化について書かれたエッセイを読み、読解力を鍛えるとともに、関連した英詩のリスニングやディクテーションを通じてリスニング力を強化させます。さらに、授業テーマに関連した内容のライティング課題やディスカッション、プレゼンテーションを通じて、英語で自分の意見を発信する能力を身につけます。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下に記載するとおりです。

- ①イギリスの四季と文化について書かれた英文エッセイや詩、映画などに触れることにより、イギリスという異文化についての理解を深めるとともに、自分が育った日本という国の文化や社会についても相対化して見る視線を養う。
- ②英文で書かれたある程度の長さのエッセイを読み、分からない単語や表現があっても、文章の流れを通して全体の意味を把握する能力を養う。文法知識を深める。
- ③パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。
- ④英語で発信された内容に対して、自分の意見を英語で簡潔に述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

主テキストの講読を2週行い、その次の週に関連する英詩のリスニングと内容の解説、ライティングの指導を行います。春から夏までのエッセイと詩を読み終わった後で、イギリスの文化に触れた映画を視聴し、その内容について、ディスカッションを行います。その後、夏学期の学習を通して学生が興味を持った事項を、各自が調べてグループプレゼンテーションを行います。学期末には、理解度確認のための筆記試験を授業内で行いません。授業進度や学生の興味関心に応じて進め方は変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9月23日	映画	ディスカッション
9月30日	Chap. 9: Harvest	テキスト講読
10月7日	Chap. 10: Goldengrove Unleaving	テキスト講読
10月14日	Poems of Autumn	リスニング ライティング指導
10月21日	Chap. 11: Foggy Memories	テキスト講読
10月28日	Chap. 12: Ring out the Old! Ring in the New!	テキスト講読
11月11日	Poems of Early Winter	リスニング ライティング指導
11月18日	Chap. 1: The New Year	テキスト講読
11月25日	Chap. 2: Blossoms of Snow	テキスト講読
12月2日	Poems of Winter	リスニング ライティング指導
12月9日	映画	ディスカッション
12月16日	プレゼンテーション準備 プレゼンテーション	学生によるグループプレゼンテーション
12月23日	期末試験	筆記試験の実施

1月20日 まとめ・復習

期末試験の返却、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト講読の授業の前には、予習として英文に一通り目を通しておいてください。分からない単語や表現は、巻末の Notes などを利用してあらかじめ調べておいてください。

詩の授業の前には、扱う詩に一通り目を通し（意味は分からなくてもかまいません）、分からない語や表現を巻末の Notes を使って調べて、テキストに書き込んでおいてください。

ライティングの課題は宿題として出します。

プレゼンテーションの前には、十分時間を取って準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

1. テキスト： Seasons in England

著者： Peter Milward

出版社：南雲堂

出版年：1979年

価格：1600円＋税

2. テキスト： Seasonal Poems of England

著者： Peter Milward, Toshihiko Kawasaki

出版社：南雲堂

価格：1748円＋税

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は以下に示すとおりです。

期末試験 40%、ライティング課題 20%、グループプレゼンテーション 20%、授業貢献 20%（ディスカッション、ペア／グループワークなどへの参加）
欠席回数が4回を超えた場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は選んだテキストの英文が難しすぎたために授業が読解、文法中心になってしまった反省から、本年度はあまり難しすぎる英文のテキストは避け、バランスのよい授業になるように心がけています。特に昨年度はリスニングにあまり力を入れることができなかったため、本年度は授業にあらかじめリスニングの回を設けています。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students the methods of a provocative study using English. In this class, students will read the essays about seasons in England, and consider the culture and society of England from various viewpoints. England and Japan are alike as both countries have four seasons. Through considering some of English cultures and customs come from its climate, we will have the opportunity to see some of Japanese cultures and customs which we usually take for granted from different viewpoints. In this course, students will not only strive to increase their skills of reading, they will also learn the skills to express their own ideas or opinions in English by doing many exercises related to the knowledge learned from the course, such as writhing, discussion, and presentation.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語雑誌で読む世界の中の日本

前川 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

法2年：上級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が、英語の新聞・雑誌等の読解を通して、世界が日本の政治・社会・文化をどのように見ているかを理解し、英語の読解力を増すだけでなく、高度な異文化理解の能力を涵養することを目指す。また、学生が英語の表現と日本語の表現の違いを考察し、それが単に言語的差異であるだけでなく、文化的差異でもあることを認識し、比較文化的な意識を高めることも、授業の重要な目的である。

【到達目標】

学生が、英語で書かれた高度な新聞・雑誌記事を理解でき、それについて議論できること。また、そういう時事英語で使用される独特の英語表現に精通すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

輪読による演習形式。学生はあらかじめ予習をし、UNITごとに付けられている練習問題を解いてこなければならない。最初に問題に対する答え合わせをしたあと、本文を精読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	英語学習および授業の進め方に関するオリエンテーション	授業方針を示し、授業を生かして効果的な英語学習をするために、学生が取り組むべきことを話す。
UNIT 1	歌舞伎を革新する松本幸四郎	日本の伝統文化である歌舞伎に関する英文記事を読み、それがどのような表現で伝えられているかを考える。文型研究。
UNIT 2	日本の知性 池上彰	日本の著名なジャーナリストを取りあげている英文を読み、時制について、研究する。
UNIT 3	傑物 田中角栄	日本の政治家田中角栄を取りあげている英文を読み、助動詞の有効な使用方法を研究する。
UNIT 4	オバマヒロシマスピーチ	オバマ大統領が広島原爆記念館で行なった演説に関する記事を読み、名詞・代名詞について研究する。
UNIT 5	多様化する IoT	日本のインターネットに関する英文を読み、形容詞について研究する。
UNIT 6	金融効率化 フィンテック	日本の新しい金融サービスに関する英文を読み、副詞について研究する。
UNIT 7	ガンの救世主 オプシーボ	日本のガン治療の最先端に関する英文を読み、英語の比較表現を研究する。
UNIT 8	生態系を解析 DNA 環境	日本の生態系に関する英文を読み、受動態について研究する。
UNIT 9	北限のつばき	岩手県のつばきに関する英文を読み、英語の分詞について研究する。
UNIT 10	至上の米 金色の風	日本の米に関する英文を読み、動名詞について研究する。
UNIT 11	働き方改革のストレスチェック	日本の働き方改革に関する英文を読み、不定詞について研究する。
UNIT 12	リーズナブルなゲネリック医薬	日本のジェネリック医薬品に関する英文を読んで、前置詞について研究する。
授業内試験	復習とまとめ	授業内試験を実施し、試験終了後、問題の解説を行ない、これまでの英語学習の総括を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はテキストを読み、問題すべてを解いて、出席しなければならない。

【テキスト（教科書）】

Japan Evolution ―進化する日本（南雲堂）

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

予習が十分なされていれば、効果が倍増するような授業を心がけたい。授業中、学生に訳読してもらい、誤訳を丁寧に直すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help the students understand how people in the world look at the Japanese politics, society, and culture through reading some English essays on Japan. The students are also expected to develop the ability to comprehend English passages and acquire a high level of understanding of cross-cultural problems.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語雑誌で読む世界の中の日本

前川 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：上級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が、英語の新聞・雑誌等の読解を通して、世界が日本の政治・社会・文化をどのように見ているかを理解し、英語の読解力を増すだけでなく、高度な異文化理解の能力を涵養することを目指す。また、学生が英語の表現と日本語の表現の違いを考察し、それが単に言語的差異であるだけでなく、文化的差異でもあることを認識し、比較文化的な意識を高めることも、授業の重要な目的である。

【到達目標】

学生が、英語で書かれた高度な新聞・雑誌記事を理解でき、それについて議論できること。また、そういう時事英語で使用される独特の英語表現に精通すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

輪読による演習形式。学生はあらかじめ予習をし、UNITごとに付けられている練習問題を解いてこなければならない。最初に問題に対する答え合わせをしたあと、本文を精読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	秋学期の授業の進め方の解説	テキストとプリントの併用とその意義を解説。
UNIT 13	夢の自動運転車	日本の自動運転車に関する英文を読み、英語の接続詞について研究する。
UNIT 14	無限の再生可能エネルギー	日本のエネルギー問題に関する英文を読み、仮定法について研究する。
UNIT 15	活躍する3Dプリンター	日本の3Dプリンターに関する英文を読んで、英語の関係詞について研究する。
UNIT 16	日本の貿易摩擦	過去に起こった日本とアメリカの貿易摩擦に関する、Timeの記事を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	樋口一葉『たけくらべ』(1)	Seidenstickerによる『たけくらべ』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	樋口一葉『たけくらべ』(2)	Seidenstickerによる『たけくらべ』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	樋口一葉『たけくらべ』(3)	Seidenstickerによる『たけくらべ』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	芥川龍之介『地獄変』(1)	Normanによる『地獄変』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	芥川龍之介『地獄変』(2)	Normanによる『地獄変』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本文学の英訳	芥川龍之介『地獄変』(3)	Normanによる『地獄変』の英訳の一部抜粋を読む。プリント授業。
日本論	ラフカディオ・ハーン『見知らぬ日本の面影』(1)	ハーンのエッセイを読む。プリント授業。
日本論	ラフカディオ・ハーン『見知らぬ日本の面影』(2)	ハーンのエッセイを読む。
授業内試験	復習とまとめ	授業内試験を実施し、試験終了後、解説を行い、これまでの英語学習を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はテキストを読み、問題すべてを解いて、出席しなければならない。

【テキスト（教科書）】

Japan Evolution 進化する日本（南雲堂）
配布プリント

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

予習が十分なされれば、効果が倍増するような授業を心がけたい。授業中、学生に訳読してもらい、誤訳を丁寧に直すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help the students to understand how people in the world look at the Japanese politics, society, and culture through reading some English essays on Japan. The students are also expected to develop the ability to comprehend English passages and acquire a high level of understanding of cross-cultural problems.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of the English Speaking World

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

法2年：中級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course is based on the textbook 'Across Cultures'. The textbook is a series of readings about where, how, why, and by whom the English language is used in different parts of the world by different cultures. The spring course will introduce six readings of about 450 words. The objectives of the course will be to strengthen five important skills:

1. Listening:

*Listening to the readings

*5 Dictations from the readings (+Final Test)

2. Speaking

*Voice training: accent and intonation (shadowing, look up method)

*Everyday speaking skills: reach basic communication level (quickly!)

*Discussing each passage

*Short Presentations

3. Reading

*Comprehension,

*Research for writing,

4. Writing

*Research and writing good answers to discussion questions

*Write a short essay useful for the Eiken Pre-Level 1 (英検準1級)

5. Critical Thinking - Considering all sides of an issue, formulating and opinion etc.

【到達目標】

The main goal of the course is to broaden your mind and deepen cultural knowledge, especially with relation to language. These specific practical goals should evolve from your study of the textbook and other sources.

1. Produce English for effective communication

2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)

3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, research, planning your own study schedule)

4. Develop skills for academic writing tasks

5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The course method is Content and Language Integrated Learning or CLIL. The main focus of the course is content, or English and how, where, why, when, and by whom it is used. CLIL is focused on tasks. Students will have many opportunities to speak with me and other students to complete those tasks. The main class activities are group discussions, pair work, and presentations. Research and writing are also included.

Japanese will be used as a tool to assist in our learning, but the first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese should only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introductions	Overview the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language Textbook: Overview of textbook How to prepare Chapter 1 'Whose English?'
Lesson 2	Users of English	BES 2 Classroom Group Language Make groups Textbook: Chapter 1 'Whose English?' Skills: How to prepare for a dictation test

Lesson 3	Users of English	Dictation Test BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences Textbook: Chapter 1 'Whose English?' Skills: How to make notes for an exam HW: Prepare Chapter 2 'My mother isn't well, sir.'	Preparing for each class by reading or doing exercises in the textbook, studying for dictation tests, working on outline and essay, practicing short presentations and for the discussion class with your group members. Average of 1 hour per week of homework or other out of class preparation
Lesson 4	Cross Cultural Communication in English	BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms Textbook: Chapter 2 'My mother isn't well, sir.' Skills: How to make notes for an exam	【テキスト (教科書)】 Honna, N., Kirkpatrick, A. & Takeshita, Y. Across Cultures: For Better English Communication and Understanding. Tokyo: Sanshusha, 2018.
Lesson 5	Cross Cultural Communication in English	BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) Textbook: Chapter 2 'My mother isn't well, sir.' Skills: How to outline and summarize a reading HW: Prepare for Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine'	【参考書】 A good dictionary. If electronic (電子辞書), then E-E, E-J, should include pronunciation feature, and examples of how to use words. We will add applications (アプリ) to your smartphone as necessary.
Lesson 6	Varieties of English	BES 6: WH Question and Answer Forms Textbook: Textbook Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine' Skills: How to outline and summarize a reading HW: Prepare for Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine'	【成績評価の方法と基準】 1. Print file (5%) 2. Dictation Test Final Test (10%) 3. Speaking Task 1: Short Group Reports (10%) 4. Writing Task 1: Write short answers to discussion questions (10%) 5. Writing Task 2: Short Essay (15%) 6. Semester Test (20%) 7. Discussion Test (20%) 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%) 9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills will be considered for raising or lowering final grades by 1 or 2 %.
Lesson 7	Varieties of English	BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) Textbook: Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine' Skills: How to write a short essay (Pre-writing) HW: Read 'Further Reading: Saying Hello' Prepare for Chapter 4 What is the culture of English?	(Adding value means asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)
Lesson 8	Cultures of English Users	BES 8: Follow-up Questions Textbook: Chapter 4 What is the culture of English? Skills: How to write a short essay (Outlining)	【学生の意見等からの気づき】 The textbook has been changed.
Lesson 9	Cultures of English Users	BES 9: Rebound Questions Textbook: Chapter 4 What is the culture of English? HW: Prepare for Chapter 5 Where should I go to learn English? Skills: How to write a short essay (Essay structure)	【学生が準備すべき機器他】 To be explained in the first class.
Lesson 10	Where to learn English	BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Chapter 5 Where should I go to learn English? How to write a short essay (MS Word Format)	
Lesson 11	Where to learn English	BES 12: Starting a Conversation BES 13 Ending a Conversation Textbook: Textbook: Chapter 5 Where should I go to learn English? HW: Read Further Reading 2: How do I know when it is my turn to speak?	
Lesson 12	Turn-taking in Conversation	Dictation Final Test Textbook: Read Further Reading 2: How do I know when it is my turn to speak?	
Lesson 13	Evaluation	Paper Test on Readings Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up the semester	Summer ideas Grade idea File check	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Before the course:

Students should review their English 1 and 2 course materials.

Students should upgrade computer skills including MS Word, PowerPoint and keyboarding skills.

*YouTube has many tutorials for MS Word and PowerPoint in both English and Japanese.

*To check your keyboarding, try www.typingtest.com

During the course:

LANe200LA		Lesson	Writing Extremely Short Stories	BDS 3: Discussion Start Questions Skill: Presentation Posture Textbook: Chapter 6 Extremely Short Stories Further Reading 2 How do I know when it is my turn to speak? HW: Preparation for Chapter 7 Who Makes the Best English Teachers?
English 3 II		2		
2017 年度以降入学者				
サブタイトル：Aspects of the English Speaking World				
ロジャー エドウィン パティモア				
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 4/Mon.4		Lesson	Who Make the Best English Teachers?	BDS 4: Give your opinion on an issue Textbook: Chapter 7 Who Makes the Best English Teachers? PowerPoint: Genius or need instruction? YouTube tutorials HW: Preparation for Unit 8: English is an Asian Language! HW: Submit a Practice PowerPoint practice presentation Dictation Test Unit 7
法 2 年：中級／英語／現代の諸相		3		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		Lesson	English is an Asian Language!	BDS 5: Giving Effective Reasons PowerPoint Critique Textbook: Chapter 8 English is an Asian Language! HW: Preparation for Chapter 9 What is my First Language? Dictation Test Unit 8 BDS 6: Using Support Textbook: Chapter 9 What is my First Language? Skills: How to organize the presentation (Sandwich) HW: Further Reading 3 Complimenting across Cultures and Genders HW Preparation for Chapter 11 When should we learn English? (We will skip Unit 10 as it is complicated and not really necessary for this course.) Dictation Test Chapter 9 BDS 7: Agreeing and Disagreeing Textbook: Chapter 11 When should we learn English? Skills: How to develop 'bread activities such as 'activating background knowledge' and 'consolidation'. HW: Preparation for Further Reading: Body Language Across Cultures Dictation Test Chapter 11 Advanced Discussion Skill 1: Effective Start Questions Textbook: Further Reading Body Language Across Cultures Skills: PPT Slide Preparation - Headings, Bullet Points, Short forms, Decide what should be said, and what should be written. HW: Preparation for Chapter 13 What do people talk about? Dictation Test on Further Reading - Body Language Across Cultures Advanced Discussion Skill 2: Socratic Reasoning Textbook: Chapter 13 What do people talk about? Choosing topics for presentations HW: Preparation for Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ...
The course is based on the second part of the textbook 'Across Cultures'. The textbook is a series of readings about where, how, why, and by whom the English language is used in different parts of the world by different cultures. In the fall semester the pace of the course will be faster. The course will introduce probably 10 of the 14 chapters for in class. Other readings will be fast-tracked and / or assigned as homework. The objectives of the course will be similar to the spring semester but with some changes.		4		
1.Listening: *Same		Lesson	What is my First Language?	Dictation Test Unit 8 BDS 6: Using Support Textbook: Chapter 9 What is my First Language? Skills: How to organize the presentation (Sandwich) HW: Further Reading 3 Complimenting across Cultures and Genders HW Preparation for Chapter 11 When should we learn English? (We will skip Unit 10 as it is complicated and not really necessary for this course.) Dictation Test Chapter 9 BDS 7: Agreeing and Disagreeing Textbook: Chapter 11 When should we learn English? Skills: How to develop 'bread activities such as 'activating background knowledge' and 'consolidation'. HW: Preparation for Further Reading: Body Language Across Cultures Dictation Test Chapter 11 Advanced Discussion Skill 1: Effective Start Questions Textbook: Further Reading Body Language Across Cultures Skills: PPT Slide Preparation - Headings, Bullet Points, Short forms, Decide what should be said, and what should be written. HW: Preparation for Chapter 13 What do people talk about? Dictation Test on Further Reading - Body Language Across Cultures Advanced Discussion Skill 2: Socratic Reasoning Textbook: Chapter 13 What do people talk about? Choosing topics for presentations HW: Preparation for Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ...
2.Speaking *Same		5		
NEW: Basic Discussion Skills NEW: Full Presentation(s)		Lesson	When should we learn English?	Dictation Test Chapter 9 BDS 7: Agreeing and Disagreeing Textbook: Chapter 11 When should we learn English? Skills: How to develop 'bread activities such as 'activating background knowledge' and 'consolidation'. HW: Preparation for Further Reading: Body Language Across Cultures Dictation Test Chapter 11 Advanced Discussion Skill 1: Effective Start Questions Textbook: Further Reading Body Language Across Cultures Skills: PPT Slide Preparation - Headings, Bullet Points, Short forms, Decide what should be said, and what should be written. HW: Preparation for Chapter 13 What do people talk about? Dictation Test on Further Reading - Body Language Across Cultures Advanced Discussion Skill 2: Socratic Reasoning Textbook: Chapter 13 What do people talk about? Choosing topics for presentations HW: Preparation for Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ...
3. Reading *Same		6		
4. Writing *Same: (Research and writing good answers to discussion questions) NEW: Write a longer essay useful for the Eiken Level 1 (英検1級), IELTS Task 2, or the TOEFL Independent task. (All are essays of about 250 to 400 words, 4 or 5 paragraphs)		Lesson	Body Language Across Cultures	Dictation Test Chapter 11 Advanced Discussion Skill 1: Effective Start Questions Textbook: Further Reading Body Language Across Cultures Skills: PPT Slide Preparation - Headings, Bullet Points, Short forms, Decide what should be said, and what should be written. HW: Preparation for Chapter 13 What do people talk about? Dictation Test on Further Reading - Body Language Across Cultures Advanced Discussion Skill 2: Socratic Reasoning Textbook: Chapter 13 What do people talk about? Choosing topics for presentations HW: Preparation for Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ...
5. Critical Thinking Continued		7		
6. NEW: Presentation Skills Full Presentation		Lesson	What do people talk about?	Dictation Chapter 13 Textbook: Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ... First presentation HW: Preparation for Chapter 15 English Across Cultures Dictation Chapter 14 Textbook: Chapter 15 English Across Cultures Second Presentations HW: Read Further Reading 5: When can we talk about what we want to talk about?
【到達目標】		8		
Same as spring semester + #6		Lesson	English Across Cultures	Dictation Chapter 13 Textbook: Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ... First presentation HW: Preparation for Chapter 15 English Across Cultures Dictation Chapter 14 Textbook: Chapter 15 English Across Cultures Second Presentations HW: Read Further Reading 5: When can we talk about what we want to talk about?
The main goal of the course is to broaden your mind and deepen cultural knowledge, especially with relation to language. These specific practical goals should evolve from your study of the textbook and other sources.		9		
1. Produce English for effective communication		Lesson	Japanese Schools, English Classes ...	Dictation Chapter 13 Textbook: Chapter 14 Japanese Schools, English Classes ... First presentation HW: Preparation for Chapter 15 English Across Cultures Dictation Chapter 14 Textbook: Chapter 15 English Across Cultures Second Presentations HW: Read Further Reading 5: When can we talk about what we want to talk about?
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)		10		
3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, research, planning your own study schedule)				
4. Develop skills for academic writing tasks				
5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)				
6. Develop good presentation skills				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3				
【授業の進め方と方法】				
The language and method of teaching will be fundamentally the same as the spring semester. However, in the fall semester, student presenters will be responsible for much larger parts of the class.				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No				
【授業計画】				
回	テーマ	内容		
Lesson	What's new?	Overview the fall course, upgraded policies if necessary, unfinished business from the spring Make new groups as necessary Review of BES 2 Group work Language (Print from spring file) Basic Discussion Skill 1 (BDS 1): Introduction to Discussion BDS 2: Issues Textbook: Overview of Fall Semester Essay information. HW: Preparation for Chapter 6 Writing Extremely Short Stories HW: Further Reading 2 How do I know when it is my turn to speak?		
1				

Lesson 11	When can we talk about what we want to talk about?	Dictation Unit 15 Further Reading 5: When can we talk about what we want to talk about? Final Presentations Preparation / practice for the discussion test
Lesson 12	Evaluation Preparation	Dictation Final Test Other: undone presentations Preparation of paper test Preparation / practice for the discussion test
Lesson 13	Evaluation	Paper Test on Readings Discussion Test
Lesson 14	Wrap Up	After this course - Ideas? Return of paper test Feedback on discussion test Grade idea File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before the course:

Sometime during the summer, you review all of the readings in the textbook. You could also do some extra reading such as easy novels available in any bookstore. Another good thing to do is prepare for the TOEIC or TOEFL test using inexpensive books published in Japan available in most bookstores. Ex.

【CD 付】 TOEIC L&R テスト 600 点奪取の方法 You don't have to take the test: just prepare for it!

During the course:

Preparing for each class by reading or doing exercises in the textbook, studying for dictation tests, working on outline and essay, practicing for your long presentations and for the discussion test with your group members.

Average of 90 minutes per week of homework or other out of class preparation

【テキスト（教科書）】

Honna, N., Kirkpatrick, A. & Takeshita, Y. Across Cultures: For Better English Communication and Understanding. Tokyo: Sanshusha, 2018.

【参考書】

Same as spring

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
 2. Dictation Test Final Test (10%)
 4. Writing Task 1: Write short answers to discussion questions (10%)
 5. Writing Task 2: Long Essay (15%)
 6. Presentation (20%)
 6. Semester Test (10%)
 7. Discussion Test (20%)
 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%)
 9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills will be considered for raising or lowering final grades by 1 or 2 %.
- (Adding value means asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)

【学生の意見等からの気づき】

Depends on spring semester performance.

【学生が準備すべき機器他】

Same as spring semester.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Welcome to this class. This course will integrate all language skill areas; listening and reading will be used to familiarize students with the content of global issue topics, speaking and writing will be employed to enable students to organize content, their ideas and opinions and communicate these to other members of the class; providing the basis for discussion and debate during class sessions.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about various social and cultural practices from around the world. Students should be able to contextualize their own culture within diverse cultural frameworks. Through the use of various authentic materials offered in English, students should learn how to think critically about the important issues that surround them today, and develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions. Furthermore, this course should enable students to further develop their English proficiency by drawing on the skills they have learned in English 1&2. To achieve this goal, all four language skills of reading, writing, speaking and listening will be integrated into the curriculum.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Weekly listening homework will be assigned. This involves listening to a recording, and completing a transcript of its content. In class, students will review the listening assignments, do a pair-work dictation exercise and briefly review vocabulary and grammatical structures contained therein, and ask and answer questions relating to the assignment. Grammatical accuracy, vocabulary expansion, improvement of fluency and pronunciation are the objectives of homework assignments. Students will perform multimedia presentations individually or in groups on a variety of global issues topics. The content of these presentations will provide the basis for subsequent debate and discussion. The focus of these presentations will be finding solutions to the problems or conflicts presented. Students viewing presentations will be required to complete an information form, noting the key points included in each presentation. Selected members of the class will also evaluate the presentations, providing written feedback to presenters so they may improve their delivery technique.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Introductions HW/L1	Getting started
2	2. Tips on effective presentations HW/L2	Presentation DVD. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
3	3. Choose presentation topics HW/L3	Scheduling presentations. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
4	4. Japan's territorial disputes HW/L4	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
5	5. Nuclear power issue HW/L5	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
6	6. Climate change HW/L6	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills

7	7. Women's rights HW/L7	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
8	8. Aging society HW/L8	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
9	9. Refugee problem HW/L9	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
10	10. Immigration/migration HW/L10	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
11	11. Problems of EU/Brexit HW/L11	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
12	12. Threats to world peace/N. Korea issue HW/L12	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
13	13. Threats to world peace/Nuclear weapons HW/none	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
14	14. Review/summary	End of term review. Evaluation of student performance.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcription sheet. In addition, students will research a variety of topics and selected students will prepare and perform multimedia presentations on a similar topic each week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this class. Instructor will distribute handouts for homework each week.

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include: www.bbc.co.uk/learningenglish/ www.ted.com www.npr.com www.rt.com/documentary and English Wikipedia. The homework listening recordings can be streamed or downloaded from <http://groups.yahoo.com/group/aief56/> Students will have to create a yahoo.com email address, join the group, and download the mp3 recordings from 'files' labeled 'NT2 Listening'.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria: Class participation, 25%; Presentations, 50%; Tests, quizzes, written work, 25%. Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their presentation slides to class on a memory stick. They can also download these files from their email accounts or dropbox.

【Outline and objectives】

このクラスへようこそ。このコースはすべての言語スキル分野を統合します。リスニングとリーディングは生徒が世界的な問題のトピックの内容に慣れるために使われます。スピーキングとライティングは生徒が内容、彼らの考えや意見をまとめ、クラスの他のメンバーに伝えるのを可能にするために使われます。授業中の討論と討論の基礎を提供する。

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Welcome to this class. This course will integrate all language skill areas; listening and reading will be used to familiarize students with the content of global issue topics, speaking and writing will be employed to enable students to organize content, their ideas and opinions and communicate these to other members of the class; providing the basis for discussion and debate during class sessions.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about various social and cultural practices from around the world. Students should be able to contextualize their own culture within diverse cultural frameworks. Through the use of various authentic materials offered in English, students should learn how to think critically about the important issues that surround them today, and develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions. Furthermore, this course should enable students to further develop their English proficiency by drawing on the skills they have learned in English 1&2. To achieve this goal, all four language skills of reading, writing, speaking and listening will be integrated into the curriculum.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Weekly listening homework will be assigned. This involves listening to a recording, and completing a transcript of its content. In class, students will review the listening assignments, do a pair-work dictation exercise and briefly review vocabulary and grammatical structures contained therein, and ask and answer questions relating to the assignment. Grammatical accuracy, vocabulary expansion, improvement of fluency and pronunciation are the objectives of homework assignments. Students will perform multimedia presentations individually or in groups on a variety of global issues topics. The content of these presentations will provide the basis for subsequent debate and discussion. The focus of these presentations will be finding solutions to the problems or conflicts presented. Students viewing presentations will be required to complete an information form, noting the key points included in each presentation. Selected members of the class will also evaluate the presentations, providing written feedback to presenters so they may improve their delivery technique.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation/choose presentation topics HW/L13	Getting started. Students choose topics and schedule their presentations.
2	2. Japan/China relations HW/L14	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
3	3. Food safety/GMO foods HW/L15	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
4	4. US military in Japan HW/L16	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
5	5. Religious extremism HW/L17	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
6	6. Globalization/free trade HW/L18	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
7	7. Death penalty HW/L19	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.

8	8. Japan economic problems/debt HW/L20	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
9	9. Illegal drugs/legalization HW/L21	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
10	10. Smartphones/social networking dangers-health and mental illness risk HW/L22	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
11	11. Globalization/social and economic inequality HW/L23	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
12	12. Cultural/linguistic uniformity vs diversity HW/none	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
13	13. Automation/robotization and structural unemployment HW/none	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
14	14 Review/summary	Finish the term. Review and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcription sheet. In addition, students will research a variety of topics and selected students will prepare and perform multimedia presentations on a similar topic each week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this class. Instructor will distribute handouts for listening homework each week.

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include: www.bbc.co.uk/learningenglish/ www.ted.com www.npr.com www.rt.com/documentary and English Wikipedia. The homework listening recordings can be streamed or downloaded from <http://groups.yahoo.com/group/aief56/> Students will have to create a yahoo.com email address, join the group, and download the mp3 recordings from 'files' labeled 'NT2 Listening'.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria: Class participation, 25%; Presentations, 50%; Tests, quizzes, written work, 25%. Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

このクラスへようこそ。このコースはすべての言語スキル分野を統合します。リスニングとリーディングは生徒が世界的な問題のトピックの内容に慣れるために使われます。スピーキングとライティングは生徒が内容、彼らの考えや意見をまとめ、クラスの他のメンバーに伝えるのを可能にするために使われます。授業中の討論と討論の基礎を提供する。

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：A multi-skill course in English looking at Japan in the world.

ジョナサン・エーブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

Students will read, write hear and speak about topics relevant to their lives, studies and futures. The main sources will be in British English, but cultures across the world - not only Anglophone - will be included in the sources used.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In each class reading and listening materials will be the starting point for discussion and information processing. In alternate weeks a writing exercise will be included with an emphasis on accurate self-expression. This work will be returned individually with corrections and comments. There will also be a group presentation exercise which will focus on cooperative communication and public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class methods and familiarisation with types of material.
2	A Place in the World 1	Global Perspectives.
3	A Place in the World 2	How Japan is Viewed Abroad.
4	Tradition 1	How History Informs our Present.
5	Tradition 2	Tradition Across the English Speaking World.
6	Popular Culture 1	The Fast Pace of Fashion.
7	Popular Culture 2	How Japanese Popular Culture Influences Others
8	Presentation Preparation	Topics, Groups and Ideas.
9	Presentations	Group Presentations In Class.
10	Media 1	Where We Get our News.
11	Media 2	Advertising and Commercial Communication.
12	Media 3	Movies and TV. How Entertainment Works.
13	Hello and Goodbye.	How We Meet and Take Our Leave.
14	Final Examination.	Self-assessment and Interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text Previews and Preparation for Presentations in class will be expected. The task will be set each week as required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. See references.

【参考書】

NHK/NHK Educational
Japan Times
BBC News
British Council online resources (Word on the Street et al.)
Channel 4 News (UK)
CNN
Newspapers, Magazines and Periodicals as relevant.

【成績評価の方法と基準】

Writing 25%
Presentation 15%
Class Participation 30%
Final Interview Test 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：A multi-skill course in English looking at Japan in the world.

ジョナサン・エーブル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：中級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. In part II we will continue this journey through intercultural exploration. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

Students will read, write hear and speak about topics relevant to their lives, studies and futures. The main sources will be in British English, but cultures across the world - not only Anglophone - will be included in the sources used.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In each class reading and listening materials will be the starting point for discussion and information processing. In alternate weeks a writing exercise will be included with an emphasis on accurate self-expression. This work will be returned individually with corrections and comments. There will also be a group presentation exercise which will focus on cooperative communication and public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Part II	Review and Look Forward.
2	Language.	How Languages Feed Each Other in a Globalising World.
3	Art.	Historical and Modern Views of Japanese Visual Art.
4	Performance.	How Japanese Performing Arts Influence the Worlds of Theatre and Dance.
5	Film.	Cross-cultural Storytelling.
6	Food 1.	What we Eat and Why.
7	Food 2.	Where and How we Eat.
8	Presentation Preparation.	Topics Groups and Planning.
9	Presentation.	Group Presentations in Class.
10	Travel.	From Commuters to Tourists.
11	Transport.	How Mobility Shapes Social Behaviour.
12	Social issues 1.	Ageing and Booming Populations
13	Social Issues 2.	Crime and Punishment.
14	Final Examination.	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text reading and review and presentation preparation will be required. Tasks will be set each week as appropriate.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. See References.

【参考書】

NHK/NHK Educational.
Japan Times.
BBC News
British Council online resources (Word on the Street et al.)
Channel 4 News (UK)
CNN
Newspapers, Magazines and Periodicals as relevant.

【成績評価の方法と基準】

Writing 25%
Presentation 15%
Class Participation 30%
Final Interview Test 30%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. In part II we will continue this journey through intercultural exploration. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：異文化コミュニケーション、Cultural bias, Culture shock

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1 と English 2 で身につけた読む、書く、聞く、話すという英語運用能力の更なる向上を目指しつつ、一つのテーマを掘り下げることによって、英語で得た情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を発信していく能力を養成します。本授業では、こうした作業を行いながら、いくつかのキーワードを探求し、現代社会の諸相における文化と政治・経済の関係について考えてみようと思います。教科書に加えて論文の抜粋を読み、イギリス映画を視聴し、グループ単位で発表し、可能であれば質疑応答を行うことで、上記の技能を向上させることを目指します。

【到達目標】

受講生は、英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読めるようになる。英語の文章のある程度の速度を持って読み、目的とする情報を読み取ることができるようになる。専門知識を要さない英米映画であれば、字幕なしでも重要な情報を聞き取り、それなりに楽しむことができるようになる。英語のリスニングに慣れ、リスニング学習の習慣を身につけることができる。文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書けるようになる。英語である程度まとまった自分の意見を表明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は教科書、後半は DVD を使用した演習を行います。また、英語論文の抜粋を読む回とグループ単位でプレゼンテーションをしてもらう回があります。学期末には、一つのテーマについての英文課題を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業テーマの確認と授業方法の説明
第 2 回	Unit 1. A Fortunate Accident	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 3 回	Unit 2. Britain's Best Ride	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 4 回	Unit 3. The Meaning of Bond	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 5 回	Unit 4. The Changing High Street	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 6 回	Unit 5. Mild and Cloudy with a Chance of Rain	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 7 回	Cultural Capital (1)	精読、クールブリタニアについての論文の抜粋を読みます。
第 8 回	Unit 6. Expressive Expressions	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 9 回	Unit 7. A Woman of Some Importance	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 10 回	Unit 8. Shakespeare Lives On	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 11 回	Cultural Capital (2)	精読、オリンピックについての論文の抜粋を読みます。
第 12 回	Presentation (1)	グループ単位のプレゼンテーションを行います。
第 13 回	試験の説明と復習	試験範囲の説明と復習を行います。
第 14 回	期末試験/課題提出	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。教科書を何度も音読すること。教科書と同様に英語のプリントもよく予習しておいてください。英語の専用ノートを作成し、表現や語彙を書き出し必ず例文も記入しておいてください。

【テキスト（教科書）】

Realise Britain, Colin Joyce, 金星堂, 2014 年, 1800 円, ISBN978-4-7647-3982-6.

【参考書】

Robert Hewison, Cultural Capital The Rise and Fall of Creative Britain, Verso, 2014. ただし購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：40%、英文作成もしくは英文要約の課題：20%、平常点（予習、発表、授業への積極的な参加）：40%。欠席が4回以上の場合は原則として単位を与えません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの期待に沿えるように努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To encourage students to further develop their English proficiency by drawing on what they have learned in English 1 and English 2.
2. To train students to learn how to think critically by examining closely various authentic materials offered in English, and thus to develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions.
3. To introduce students to the connections between culture and political economy, focusing on specific keywords like 'Cool Britannia' and 'the Establishment'.
4. To provide students with an opportunity to participate in discussion, improving their presentational skills on a group or individual basis.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：異文化コミュニケーション、Cultural bias, Culture shock

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1 と English 2 で身につけた読む、書く、聞く、話すという英語運用能力の更なる向上を目指しつつ、一つのテーマを掘り下げることによって、英語で得た情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を発信していく能力を養成します。本授業では、こうした作業を行いながら、いくつかのキーワードを探求し、現代社会の諸相における文化と政治・経済の関係について考えてみようと思います。教科書に加えて論文の抜粋を読み、イギリス映画を視聴し、グループ単位で発表し、可能であれば質疑応答を行うことで、上記の技能を向上させることを目指します。

【到達目標】

受講生は、英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読めるようになる。英語の文章のある程度の速度を持って読み、目的とする情報を読み取ることができるようになる。専門知識を要さない英米映画であれば、字幕なしでも重要な情報を聞き取り、それなりに楽しむことができるようになる。英語のリスニングに慣れ、リスニング学習の習慣を身につけることができる。文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書けるようになる。英語である程度まとまった自分の意見を表明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は教科書、後半は DVD を使用した演習を行います。また、英語論文の抜粋を読む回とグループ単位でプレゼンテーションをしてもらう回があります。学期末には、一つのテーマについての英文課題を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	試験の返却	春学期の学期末試験の返却と授業方法の確認
第 2 回	Unit 9. British Food: Better Than Awful	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 3 回	Unit 10. A Complicated Country	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 4 回	Unit 11. The Quite Fab Four	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 5 回	Unit 12. A Vulgar Custom	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 6 回	The Establishment (1)	精読、現代のイギリス社会についての論文の抜粋を読みます。
第 7 回	The Establishment (2)	精読、現代のイギリス社会についての論文の抜粋を読みます。
第 8 回	Unit 13. The Invention of Sport	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 9 回	Unit 14. Changing Classes	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 10 回	Unit 15 The Little Plane That Won the War	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 11 回	Unit 16 Mind the (Humour) Gap	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 12 回	Presentation (2)	グループ単位のプレゼンテーションを行います。
第 13 回	試験の説明と復習	試験範囲の説明と復習を行います。
第 14 回	期末試験/課題提出	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。教科書を何度も音読すること。教科書と同様に英語のプリントもよく予習しておいてください。英語の専用ノートを作成し、表現や語彙を書き出し必ず例文も記入しておいてください。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストを引き続き使用します。

【参考書】

Owen Jones, The Establishment, Penguin, 2015. ただし購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：40%、英文作成もしくは英文要約の課題：20%、平常点（予習、発表、授業への積極的な参加）：40%。欠席が4回以上の場合は原則として単位を与えません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの期待に沿えるように努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To encourage students to further develop their English proficiency by drawing on what they have learned in English 1 and English 2.
2. To train students to learn how to think critically by examining closely various authentic materials offered in English, and thus to develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions.
3. To introduce students to the connections between culture and political economy, focusing on specific keywords like 'Cool Britannia', 'the Olympics' and 'the Establishment'.
4. To provide students with an opportunity to participate in discussion, improving their presentational skills on a group or individual basis.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ文化・社会を学ぶ

田中 裕希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語そのものを学ぶだけではなく、英語を情報伝達的手段として使い、英語を通してアメリカ文化・社会について学ぶ。英字新聞の読解・ディスカッションを中心に授業を進め、自然に英語で読めるようになるまで読解力を高める。また、プレゼンテーションやライティング、ディスカッションなど、英語のすべての技能を高める訓練をする。春学期は政治関連の記事、秋学期はポップカルチャー関連の記事を読む。

【到達目標】

1. 英語を言語そのものとして学ぶだけではなく、英語を通して何かを学ぶ、という考え方に切り替える。
2. 英字新聞を苦もなく読める程度まで読解力・語彙を高める。
3. 論理的な英語でコミュニケーションができるようにする。
4. アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを中心に授業をすすめる。毎回配布される新聞記事を読み、クラス全体でディスカッションする。ライティングの課題も出る。また、ビデオクリップを活用し、リスニングの訓練もする。学期末にはグループごとに新聞記事を選び、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明 - 自己紹介 - 英語の学び方について
第2回	大統領・大統領制度（1）	関連記事を読みディスカッション
第3回	大統領・大統領制度（2）	関連記事を読みディスカッション
第4回	政治風刺	ビデオクリップを鑑賞しディスカッション
第5回	プレゼンテーション	自分で選んだスピーチの原稿を、イントネーションなどに気をつけて授業で読み上げる
第6回	プレゼンテーション	自分で選んだスピーチの原稿を、イントネーションなどに気をつけて授業で読み上げる
第7回	医療制度	関連記事を読みディスカッション
第8回	銃規制問題（1）	関連記事を読みディスカッション
第9回	銃規制問題（2）	関連記事を読みディスカッション
第10回	移民文化（1）	関連記事を読みディスカッション
第11回	移民文化（2）	関連記事を読みディスカッション
第12回	グループプレゼンテーション	記事を選び、グループで発表
第13回	グループプレゼンテーション	記事を選び、グループで発表
第14回	期末テスト	期末テストの解説 - 秋学期にむけての学習方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された新聞記事を読み、気になった一文、またよくわからなかった一文に線を引き授業にのぞむ。わからない単語はすべて辞書で引いてくること。ライティングの課題も出る。

【テキスト（教科書）】

毎回授業で新聞記事を配布。

【参考書】

最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、授業貢献など）40%
プレゼンテーション 30%
期末テスト 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業中のパソコンと携帯電話の使用は原則禁止。

原則として 4 回以上の欠席で単位を失う。

【Outline and objectives】

In this class, we will study English not just as a language but as a communication tool. The class covers various topics relating to American society and culture, and you will be asked to read relevant news articles. In-class exercises and homework will be assigned to help you improve your reading, writing, listening, and speaking. This semester we will focus on American politics; in the fall, we will read articles about American popular culture.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ文化・社会を学ぶ

田中 裕希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の English3 で培った英語力をさらに高める。前回は政治系の新聞記事を読んだが、今回はポップカルチャー関連の記事を読み、クラス全体でディスカッションする。The New Yorker のような総合雑誌によくみられる少々長めの記事にも挑戦する。また、夏休みに読んだ洋書の発表をするなど、読解力とスピーキングの向上にさらに力を入れる。

【到達目標】

1. 新聞記事よりも少々長めの文章を読み、読解力をさらに高める。
2. 論理的な英語で思考・ディスカッションをする。
3. アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを中心に授業をすすめる。事前に配布された新聞記事を読み、クラス全体でディスカッションする。ライティングの課題も出る。また、ビデオクリップを活用しリスニングの訓練もする。学期末には個人で新聞記事を選び、プレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容について
第 2 回	食生活（1）	関連記事を読みディスカッション
第 3 回	食生活（2）	関連記事を読みディスカッション
第 4 回	ファッション（1）	関連記事を読みディスカッション
第 5 回	ファッション（2）	関連記事を読みディスカッション
第 6 回	ブックプレゼンテーション	夏休み中に読んだ本にかんして英語で発表
第 7 回	ブックプレゼンテーション	夏休み中に読んだ本にかんして英語で発表
第 8 回	映画文化（1）	関連記事を読みディスカッション
第 9 回	映画文化（2）	関連記事を読みディスカッション
第 10 回	芸術（1）	関連記事を読みディスカッション
第 11 回	芸術（2）	関連記事を読みディスカッション
第 12 回	プレゼンテーション	自分の選んだ記事についてプレゼンテーションする
第 13 回	プレゼンテーション	自分の選んだ記事についてプレゼンテーションする
第 14 回	期末テスト	テストとこれからの学習計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された新聞記事を読み、気になった一文、またよくわからなかった一文に線を引き授業にのぞむ。わからない単語はすべて辞書で引いてくること。

【テキスト（教科書）】

毎回授業で新聞記事を配布。

【参考書】

最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、授業貢献など）40 %
プレゼンテーション 30%
期末テスト 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業中のパソコンと携帯電話の使用は原則禁止。

原則として 4 回以上の欠席で単位を失う。

【Outline and objectives】

Following up on the spring semester of English 3, this class will help you further improve your reading, listening, speaking, and writing in English. As in the previous semester, we will continue to read news articles about American society and culture. While we focused on politics last semester, this time we will read articles on popular culture in the U.S. We will also try to read slightly longer articles such as the ones that appear in *The New Yorker*. Halfway through the semester, you will be asked to give a presentation on an English-language book you have read during the summer break.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：イギリス社会と人権

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「英語を読む」から「英語で読み考える」への転換を図りながら、イギリス社会における人権と歴史教育について学びます。使用する主なソースは雑誌とウェブ上の英文記事です。多くの記事を読みながら自らの考えの幅を広げていってください。アカデミック・ライティングの基礎とリスニングにおけるノート・テーキングも学びます。リーディングとリスニングによるインプット情報を各自の見解に合わせ論理的にアウトプットする練習を行います。

【到達目標】

- 1 テキストの内容を正確に理解し、自らの考えを英語で発信できるようになること
- 2 授業で学んだ人権と歴史教育問題について具体的な事例を挙げながら論理的な解説ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 1 Reading Practice (paragraph reading)
- 2 Group-work, Pair-work, Presentation
- 3 Writing and Listening Workshop

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course topics and classroom methods
2	Universal Declaration of Human Rights	Paragraph reading and group work
3	Writing and Listening Workshop #1	Writing:Topic Sentence / Listening:Number Notation and Rhetorical Cues
4	Three important human rights	Presentation
5	Human rights education and history education	Paragraph reading and group work
6	The End of Slavery (1)	Paragraph reading and group work
7	Writing and Listening Workshop #2	Writing:From Paragraph to Essay and using English-English dictionaries / Listening:Abbreviation and Rhetorical Cues
8	The End of Slavery (2): The case of Manchester and London	Paragraph reading and group work
9	The End of Slavery (3): The case of other British cities	Paragraph reading and group work
10	Writing and Listening Workshop #3	Writing: Opinion Paragraph / Listening: Content Words and Rhetorical Cues
11	World Human Rights Reports	Paragraph reading and group work
12	World Human Rights Reports	Presentation
13	Writing and Listening Workshop #4	Writing: Opinion Paragraph / Listening:Key Words Listening and Adverbs as Content Words
14	Semester Final Examination	Examination based on content and skills of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignments
- 2 Preparation for discussion and presentation
- 3 Online TED watching assignments

【テキスト（教科書）】

Phyllis L, Lim and William Smalzer, Dynamic Listening Comprehension 2: Noteworthy, Cengage Learning, 2007

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Active class participation 20%
Home assignment 20%
final examination 60%

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

This is a content-based English learning class focusing on human rights issues. You will practice systematic reading skills. In Writing and Listening Workshops, you will also practice well-organized academic writing and effective lecture listening skills.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリス社会と人権

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス市民社会の形成と人権思想を学びます。引き続き「英語を読む」から「英語で読み考える」への転換を図りながら、インプットをアウトプットに接続していきます。リスニングのノート・テーキングのプラクティスに加え、論理的に組み立てられたエッセイを書くためのワークアウトも行います。

【到達目標】

- 1 テキストの内容を正確に理解し、自らの考えを英語で発信できるようになること
- 2 授業で学んだ人権と歴史教育問題について具体的な事例を挙げながら論理的な解説ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 1 Reading Practice (paragraph reading)
- 2 Group-work, Pair-work, Presentation
- 3 Writing and Listening Workshop

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of the course topics and classroom methods
2	Utopia and Millennialism	Paragraph reading and group work
3	The concept of dignity	Presentation
4	Writing and Listening Workshop #1	Writing: How to Write a Good Summary / Listening: Key Words
5	Coffee House and Journalism	Listening and Transition Words Paragraph reading and group work
6	Clubs and Associations	Paragraph reading and group work
7	Arts and Craft Movement	Presentation
8	Writing and Listening Workshop #2	Writing: Argumentative Essays / Listening: Structuring and Rhetorical Cues
9	The End of Poverty #1	Paragraph reading and group work
10	The End of Poverty #2	Paragraph reading and group work
11	Writing and Listening Workshop #3	Writing: Using Parallel structure / Listening: Outlining and Rhetorical Cues
12	Immigrants and Refugees in UK (1)	Paragraph reading and group work
13	Immigrants and Refugees in UK (2)	Presentation
14	Semester Final Test	Examination based on content and skills of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading and writing home assignments
- 2 Preparation for discussion and presentation
- 3 Online TED watching assignments

【テキスト（教科書）】

Phyllis L, Lim and William Smalzer, Dynamic Listening Comprehension 2: Noteworthy, Cengage Learning, 2007

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Active class participation 20%
Home assignment 20%
final test 60%

【学生の意見等からの気づき】

ハードになってくるとと思いますが、励まし合いながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

The course focuses on reading, thinking and writing about human rights and history education in English. Students will practice well-organized essay writing and effective presentation skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの多様な地域とその歴史・文化・社会問題を学びます。

English 3は English 1と2で身に付けた英語運用能力のさらなる養成とともに、英語で物事を批判的にくみ取って、意見を発信することを目的としています。この授業では英語を学びつつ、さまざまな角度からアメリカの地域について考えましょう。

アメリカはひとつの国ですが、異なる歴史的・文化的背景をもつ複数の地域からなります。この授業の受講者はアメリカの様々な地域の歴史や文化を、アメリカ映画の分析や英語で書かれた資料の読解を通して学びます。さらに、これらのトピックについてディスカッションやプレゼンテーションを行うことで自分の意見を英語で表現する能力を強化します。こうした作業を通して、アメリカという国家について知るだけでなく、人種や階級、ジェンダーやエスニシティなどの問題について批判的に考える能力を身につけるところまでをこの授業の目的とします。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①アメリカの地域毎の歴史的・文化的特色を把握することでアメリカという国家に対する理解を深める。
- ②英語の文章の構成をすばやく把握し、わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測する能力を習得する。
- ③ある程度難易度の高い英文を丁寧に正確に読む。
- ④英語で読んだ・聞いた情報を適切な方法で相手に伝える。
- ⑤人種や階級、ジェンダーやエスニシティといった問題を批判的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

アメリカを大きく10の地域に分け、各地域につき基本的に2回ずつ授業を行います。1回目は地域の特色をよくあらわす映画の一部を鑑賞し、英語でのリスニングとディスカッションを行います。その後、講師が説明をします。2回目は事前に指定していた英語資料の読解を行います。読んだ文章の語彙や構造を確認するだけでなく、それを要約します。

これらの授業に加え、学期末に学生によるグループプレゼンテーションの回を設け、アメリカの地域毎の音楽や食、政治などそれぞれ興味のあるテーマについてグループ毎に調査をし、英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。それまでの授業では英語で効果的なプレゼンテーションするための方法を学びます。

中間試験のかわりに中間レポートの提出を課します。それまでの授業では英語でレポートを書くための方法を学びます。また、学習内容の理解を確認・復習するための期末試験を実施します。

*進捗や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	スペイン領土 El Norte ①	映画、Listening& Speaking
3	スペイン領土 El Norte ②	Reading & Writing
4	フランス領土 France ①	映画、Listening& Speaking
5	フランス領土 France ②	Reading & Writing
6	低沿岸諸州 Tidewater ①	映画、Listening& Speaking
7	低沿岸諸州 Tidewater ②	Reading & Writing
8	ニューイングランド Yankeedom ①	映画、Listening& Speaking
9	ニューイングランド Yankeedom ②	Reading & Writing
10	オランダ領土 Netherland ①	映画、Listening& Speaking
11	オランダ領土 Netherland ②	Reading & Writing
12	グループ・プレゼンテーション①	学生によるプレゼンテーション

- 13 グループ・プレゼンター 学生によるプレゼンテーション
ション②
- 14 期末試験 期末試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディングの授業

各自辞書を丁寧にひきながら指定された資料を読んできて下さい。また、その英文に関するプリントを事前に配布するので、プリントの問題を解いた上で授業に臨んでください。

レポート

各自好きなアメリカ映画／ドラマを1本選んで視聴し、その要旨と感想を300words程度の英語で書き、授業支援システムを通じて提出します。詳細は授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。 *毎回の授業に必ず辞書を持参する。

【参考書】

Colin Woodard, *American Nations: A history of the Eleven Rival Regional Cultures of North America*. Penguin, 2012.

*その他、英語学習ウェブサイトやアプリケーション、文学作品など、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、グループプレゼンテーション 20%、レポート 30%、授業への貢献（グループ/ペアワーク、ディスカッションへの参加）10%

*欠席回数が4回以上で履修継続は不可となります。遅刻は2回で欠席とし、20分以上の遅刻も欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

グループプレゼンテーションのための準備を行う時間を授業内にも設けて欲しいとの要望があったので、今年度は効果的なプレゼンテーションのためのレクチャーを織り交ぜつつ、授業内でも準備を進められるようにします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to further develop students' English proficiency by drawing on what the students have learned in English 1 and English 2. Students will learn a history of America's ten rival cultural regions by referring to American films and written materials. This course will help students acquire the complex notions of race, class, gender as well as ethnicity and contextualize their own culture within diverse cultural frameworks.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：**英語圏の文化と社会**

遠藤 郁子

開講時期：**秋学期授業/Fall** | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの多様な地域とその歴史・文化・社会問題を学びます。

English 3は English 1と2で身に付けた英語運用能力のさらなる養成とともに、英語で物事を批判的にくみ取って、意見を発信することを目的としています。この授業では英語を学びつつ、さまざまな角度からアメリカの地域について考えましょう。

アメリカはひとつの国ですが、異なる歴史的・文化的背景をもつ複数の地域からなります。この授業の受講者はアメリカの様々な地域の歴史や文化を、アメリカ映画の分析や英語で書かれた資料の読解を通して学びます。さらに、これらのトピックについてディスカッションやプレゼンテーションを行うことで自分の意見を英語で表現する能力を強化します。こうした作業を通して、アメリカという国家について知るだけでなく、人種や階級、ジェンダーやエスニシティなどの問題について批判的に考える能力を身につけるところまでをこの授業の目的とします。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①アメリカの地域毎の歴史的・文化的特色を把握することでアメリカという国家に対する理解を深める。
- ②英語の文章の構成をすばやく把握し、わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測する能力を習得する。
- ③ある程度難易度の高い英文を丁寧に正確に読む。
- ④英語で読んだ・聞いた情報を適切な方法で相手に伝える。
- ⑤人種や階級、ジェンダーやエスニシティといった問題を批判的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

前期に引き続き、アメリカを大きく10の地域に分け、各地域につき基本的に2回ずつ授業を行います。1回目は地域の特色をよくあらわす映画の一部を鑑賞し、英語でのリスニングとディスカッションを行います。その後、講師が説明をします。2回目は事前に指定していた英語資料の読解を行います。読んだ文章の語彙や構造を確認するだけでなく、それを要約します。

これらの授業に加え、学期末に学生による個人プレゼンテーションの回を設け、アメリカの地域毎の音楽や食、政治などそれぞれ興味のあるテーマについて個人で調査をし、英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。それまでの授業では英語で効果的なプレゼンテーションするための方法を学びます。

中間試験のかわりに中間レポートの提出を課します。それまでの授業では英語でレポートを書くための方法を学びます。

また、学習内容の理解を確認・復習するための期末試験を実施します。

*進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 The Deep South ①	映画、Listening& Speaking
2	深南部 The Deep South ②	映画、Listening& Speaking
3	深南部 The Deep South ③	Reading & Writing
4	中西部 The Midlands ①	映画、Listening& Speaking
5	中西部 The Midlands ②	Reading & Writing
6	アパラチア山脈地域 Greater Appalachia ①	映画、Listening& Speaking
7	アパラチア山脈地域 Greater Appalachia ②	Reading & Writing
8	極西部 The Far West ①	映画、Listening& Speaking
9	極西部 The Far West ②	Reading & Writing
10	大西洋沿岸部 The Left Coast ①	映画、Listening& Speaking
11	大西洋沿岸部 The Left Coast ②	Reading & Writing
12	プレゼンテーション①	学生によるプレゼンテーション

13	プレゼンテーション②	学生によるプレゼンテーション
14	期末試験	試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自辞書を丁寧にひきながら指定された資料を読んでください。また、その英文に関するプリントを事前に配布するので、プリントの問題を解いた上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。 * 毎回の授業に必ず辞書を持参してください。

【参考書】

Colin Woodard, *American Nations: A history of the Eleven Rival Regional Cultures of North America*. Penguin, 2012.

*その他、英語学習ウェブサイトやアプリケーション、文学作品など、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、グループプレゼンテーション 20%、レポート 30%、授業への貢献(グループ/ペアワーク、ディスカッションへの参加) 10%

*欠席回数が4回以上で履修継続は不可となります。遅刻は2回で欠席とし、20分以上の遅刻も欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

グループプレゼンテーションのための準備を行う時間を授業内にも設けて欲しいとの要望があったので、今年度は効果的なプレゼンテーションのためのレクチャーを織り交ぜつつ、授業内でも準備を進められるようにします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to further develop students' English proficiency by drawing on what the students have learned in English 1 and English 2. Students will learn a history of America's ten rival cultural regions by referring to American films and written materials. This course will help students acquire the complex notions of race, class, gender as well as ethnicity and contextualize their own culture within diverse cultural frameworks.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：外国の視点による日本文化の特徴

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の現代社会や文化に関する様々な事象について書かれたテキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を中心とした英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、English 1 と English 2 で学んだ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の能力を包括的に高めていきます。その際に、構文を意識したより正確な英文読解力を身につけていくことを軸とし、その読解で得た情報を批判的に考察し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英語で発信する土台を構築していきます。

【到達目標】

- テキストなどの読解や問題を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③テキストなどの英文を繰り返し聞いたり音読したりすることにより、英語のリスニング力やスピーキング力を鍛えていく。
 - ④テキストの問題を活用しながら、トピックに関する自分の意見を英語で書く力を鍛えていく。
 - ⑤自分の意見を英語で他社に伝え、聞き手はその意見を聞き取る能力をつけていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学部：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、文章理解の正確性を高めるために構文を意識してもらって作業してもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。また、14回の授業の中の何回かでは、授業内で扱ってきたトピックから選択し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英文でまとめたものでプレゼンテーションをおこないます。聞き手には、各発表者の発言の聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	One Piece and the world's favorite pirates
3	Unit 1 & Unit 2	One Piece and the world's favorite pirates の続き Japan's company culture: the misery behind the miracle
4	Unit 2	Japan's company culture: the misery behind the miracle の続き
5	Unit 3	The genius of Japanese animation
6	Unit 3 & Unit 4	The genius of Japanese animation の続き How superstitious is Japan?
7	Unit 4	How superstitious is Japan?の続き
8	Unit 5	Bousouzoku: very Japanese rebels
9	Unit 5 & Unit 6	Bousouzoku: very Japanese rebels の続き Why do Japanese students sleep in class?
10	Unit 6	Why do Japanese students sleep in class?
11	Unit 7	The attraction of onsen
12	Unit 7	The attraction of onsen の続き
13	Unit 1-7 のトピックに関するプレゼンテーション	テキストの内容について自分の意見を述べ、その意見の聞き取りをおこないます。
15	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。授業中におこなうプレゼンテーションのためにもテキストの英文のリスニングや音読を普段からおこなうことを心がけてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

『総合英語で学ぶ自文化再発見～外国の視点から考えるニッポン文化～ Japan Goes Global! Thinking critically about Japanese popular culture』Stuart Gale, Tatsuya Namoto, Shigeru Suzuki, Makoto Eguchi, 南雲堂、1,900円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）とライティングおよび記述したものを基にしたプレゼンテーションとそのリスニング（40%）、そして期末試験（40%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：外国の視点による日本文化の特徴

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2年：中級/日本語/世界の中の日本**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の現代社会や文化に関する様々な事象について書かれたテキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を中心とした英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、English 1 と English 2 で学んだ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の能力を包括的に高めていきます。その際に、構文を意識したより正確な英文読解力を身につけていくことを軸とし、その読解で得た情報を批判的に考察し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英語で発信する土台を構築していきます。

【到達目標】

テキストなどの読解や問題を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③テキストなどの英文を繰り返し開いたり音読したりすることにより、英語のリスニング力やスピーキング力を鍛えていく。
- ④テキストの問題を活用しながら、トピックに関する自分の意見を英語で書く力を鍛えていく。
- ⑤自分の意見を英語で他社に伝え、聞き手はその意見を聞き取る能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、文章理解の正確性を高めるために構文を意識してもらって作業してもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。また、14回の授業の中の何回かでは、授業内で扱ってきたトピックから選択し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英文でまとめたものでプレゼンテーションをおこないます。聞き手には、各発表者の発言の聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8	Virtual Love
2	Unit 8 & Unit 9	Virtual Love の続き Otaku and proud!
3	Unit 9	Otaku and proud!
4	Unit 10	Similar but not the same: food cultures abroad
5	Unit 10 & Unit 11	Similar but not the same: food cultures abroad の続き Should the Japanese writing system be simplified by dropping kanji?
6	Unit 11	Should the Japanese writing system be simplified by dropping kanji?
7	Unit 12	The grey area of gambling
8	Unit 12 & Unit 13	The grey area of gambling の続き Pokemon: Do we really have to catch'em all?
9	Unit 13	Pokemon: Do we really have to catch'em all?の続き
10	Unit 14	J-pop production companies
11	Unit 14 & 15	J-pop production companies の続き Pop peace
12	Unit 15	Pop peace の続き
13	Unit 8-15 のトピックに関するプレゼンテーション	テキストの内容について自分の意見を述べ、その意見の聞き取りをおこないます。
15	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。授業中におこなうプレゼンテーションのためにもテキストの英文のリスニングや音読を普段からおこなうことを心がけてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

『総合英語で学ぶ自文化再発見～外国の視点から考えるニッポン文化～ Japan Goes Global! Thinking critically about Japanese popular culture』Stuart Gale, Tatsuya Namoto, Shigeru Suzuki, Makoto Eguchi, 南雲堂、1,900円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）とライティングおよび記述したものを基にしたプレゼンテーションとそのリスニング（40%）、そして期末試験（40%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：「世界の中の日本」

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：中級/日本語/世界の中の日本**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

English3では、English1とEnglish2で学んで、「読む、書く、聞く、話す」という4技能能力をさらに深めることを目指す。この授業に使うテキストブックには、日本に長年暮らしているアメリカ人の著者が書いた英文エッセイと、次に日本人の著者が書いたエッセイがアメリカ人の著者に応答する形で収録されている。

世界の中で日本がどのようなとらえられているかを知ると同時に、それについて自分の考えを発表できるよう、英語で情報を得るだけでなく、それを批判的に考察し、自分の考えをクラスでのディスカッションやプレゼンテーションなどで発信する能力を養うことを目指す。

また、新聞・雑誌などの時事記事を英文で読むことで、日本の立ち位置を知り単語力の増強を図る。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の内容を正確に理解する。
- ・辞書を使うことなく、初見でもある程度の早さで読み、情報を得る。
- ・リスニング力を高める。
- ・自分の意見を整ったパラグラフ文で表現できる。
- ・英語で自分の考えを発表し、他の人に英語で質問できる。
- ・日本についての理解を深め、自ら発信する能力と自信を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に1ユニットを二回の授業でカバーするが、テキストブック以外にも読む量を確認するために、テキストブックに関連したテーマや、時事問題記事を使用することもある。その場合、速読用の記事と精読用の記事を用意し、精読用の記事はあらかじめ配布し予習をしてもらうことを義務付ける。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。グループワークを積極的に取り入れ、リアクションペーパーの提出により、授業の理解度と、教師との意思の疎通を図る。他に、リーディング力と語彙力を伸ばすために補助教材を用いる。授業には、毎回テキストブックと補助教材などを予習して臨むことを必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について。
2	Unit 1-1 Change	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
3	Unit 1-2 Change	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; TOEIC Test Reading 550
4	Unit 2-1 Shouganai	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
5	Unit 2-2 Shouganai	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; TOEIC Test Reading 550
6	Unit 3-1 Tatemaie and Honne	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
7	Unit 3-2 Tatemaie and Honne	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; TOEIC Test Reading 550
8	Unit 4-1 Following the Crowd	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint

9	Unit 4-2 Following the Crowd	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
10	Unit 5-1 Vehicle Inspections	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
11	Unit 5-2 Vehicle Inspections	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
12	Unit 6-1 Overkill	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
13	Unit 6-2 Overkill	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
14	期末試験	テキストブック、副教材、プリント類から出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブック及び副教材などの予習を義務付け、授業態度を平常点に反映する。適宜提出を求められるレポート類の提出状況もまた、平常点の対象となる。それゆえ、**学生は授業前に予習を十分行うことが求められる。**

【テキスト（教科書）】

1. *Eye on Japan*, Shawn M. Clankie and Kobayashi Toshihiko, 三修社、2017年、2400円
2. *TOEIC Test Reading 550*, Rieko Kimura and Hiroko Katanoda, 南雲堂、2012年、700円

【参考書】

(参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013年、1800円
『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社DHC、2011年、1800円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験(40%)と合わせて総合評価する。必修科目であることから、欠席は4回までとし、4回以上欠席した場合、**単位を与えない。** 授業開始から30分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15分以上の遅刻2回を欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通して学生との意志の疎通を改善することができた。時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書（電子辞書）

【その他の重要事項】

教師が指示した時以外に、携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to further enhance students' skills in reading, writing, listening, and speaking. Each lesson provides two perspectives based on the same topic written by the non-Japanese author and the Japanese author. This class will provide the students opportunities to look at their own culture from a new perspective, and at the same time develop their critical thinking through discussions and presentations in the class.

Students will also be provided with articles from newspapers and magazines to open their minds about global issues and to reinforce their vocabularies.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：「世界の中の日本」

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
法2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、English3では、English1とEnglish2で学んで、「読む、書く、聞く、話す」という4技能能力をさらに深めることを目指す。この授業に使うテキストブックには、日本に長年暮らしているアメリカ人の著者が書いた英文エッセイと、次に日本人の著者が書いたエッセイがアメリカ人の著者に応答する形で収録されている。

世界の中で日本がどのようにとらえられているかを知ると同時に、それについて自分の考えを発表できるよう、英語で情報を得るだけでなく、それを批判的に考察し、自分の考えをクラスでのディスカッションやプレゼンテーションなどで発信する能力を養うことを目指す。

また、新聞・雑誌などの時事記事を英文で読むことで、日本の立ち位置を知り単語力の増強を図る。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の内容を正確に理解する。
- ・辞書を使うことなく、初見でもある程度の早さで読み、情報を得る。
- ・リスニング力を高める。
- ・自分の意見を整ったパラグラフ文で表現できる。
- ・英語で自分の考えを発表し、他の人に英語で質問できる、
- ・日本についての理解を深め、自ら発信する能力と自信を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に1ユニットを二回の授業でカバーするが、テキストブック以外にも読む量を確認するために、テキストブックに関連したテーマや、時事問題記事を使用することもある。その場合、速読用の記事と精読用の記事を用意し、精読用の記事はあらかじめ配布し予習をしてもらうことを義務付ける。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

グループワークを積極的に取り入れ、リアクションペーパーの提出により、授業の理解度と、教師との意思の疎通を図る。他に、リーディング力と語彙力を伸ばすために補助教材を用いる。授業には、毎回テキストブックと補助教材などを予習して臨むことを必須とする。

授業の後半では、授業で使うトピックスを目録の順序通りではなく、世界の中の日本について考察しうるトピックスを選んで取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-1 Sports Day	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
2	Unit 7-2 Sports Day	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
3	Unit 8-1 Striving to be Average	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
4	Unit 8-2 Striving to be Average	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
5	Unit 9-1 Pride in One's School	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
6	Unit 9-2 Pride in One's School	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>

7	Unit 10 Monster Fruit	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint, Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, (Further Activities)
8	Unit 14-1 School Uniforms	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
9	Unit 14-2 School Uniforms	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
10	Unit 15-1 Job Hunting	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
11	Unit 15-2 Job Hunting	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
12	Unit 16-1	Warming Up, Vocabulary Matching, An American Viewpoint, A Japanese Viewpoint
13	Unit 16-2	Reading Comprehension, Listening for Comprehension, Listening for Perception, Discussion, Further Activities; <i>TOEIC Test Reading 550</i>
14	期末試験	テキストブック、副教材、プリント類から出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブック及び副教材などの予習を義務付け、授業態度を平常点に反映する。適宜提出を求めるレポート類の提出状況もまた、平常点の対象となる。それゆえ、**学生は授業前に予習を十分行うことが求められる。**

【テキスト（教科書）】

1. *Eye on Japan*, Shawn M. Clankie and Kobayashi Toshihiko, 三修社、2017年、2400円
2. *TOEIC Test Reading 550*, Rieko Kimura and Hiroko Katanoda, 南雲堂、2012年、700円

【参考書】

(参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013年、1800円
『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、デイヴィッド・セイン、株式会社DHC、2011年、1800円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業への参加、毎回の予習、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験(40%)と合わせて総合評価する。
欠席は4回までとし、4回以上欠席した場合は単位を与えない。授業開始から30分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15分以上の遅刻2回を欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通して学生との意志の疎通を改善することができた。時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書（電子辞書）

【その他の重要事項】

授業中に携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to further enhance students' skills in reading, writing, listening, and speaking. Each lesson provides two perspectives based on the same topic written by the non-Japanese author and the Japanese author. This class will provide the students opportunities to look at their own culture from a new perspective, and at the same time develop their critical thinking through discussions and presentations in the class.

Students will also be provided with articles from newspapers and magazines to open their minds about global issues and to reinforce their vocabularies.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

大和久 梯一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

法2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。
- ・英語で自分の考えを表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト1章分を2回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の進め方等の確認。
第二回	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（精読）
第三回	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（再読、リスニング、質疑応答）
第四回	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（精読）
第五回	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（再読、リスニング、質疑応答）
第六回	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の4分の1がネット依存（精読）
第七回	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の4分の1がネット依存（再読、リスニング、質疑応答）
第八回	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（精読）
第九回	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（再読、リスニング、質疑応答）
第十回	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公（精読）
第十一回	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公（再読、リスニング、質疑応答）
第十二回	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のすべり（精読）
第十三回	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のすべり（再読、リスニング、質疑応答）
第十四回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト内にある英文に事前に目を通し、知らない語彙等はあらかじめ調べておくこと。リスニング、講読を終えた後は、授業内で指定された語彙、表現等を復習しておき、後のパラグラフライティングで活用すること。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017年

【参考書】

例文の多い英和・和英辞典（『ジーニアス英和・和英辞典』（大修館）など）
英英辞典（『ロングマン現代英英辞典』（OUP）など）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

大和久 梯一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
法2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。
- ・英語で自分の考えを表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト1章分を2回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	Chapter 7	Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car 26歳がスポーツカーをデザイン（精読、リスニング、質疑応答）
第二回	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（精読）
第三回	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（再読、リスニング、質疑応答）
第四回	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（精読）
第五回	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（再読、リスニング、質疑応答）
第六回	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（精読）
第七回	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）
第八回	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（精読）
第九回	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答）
第十回	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（精読）
第十一回	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）
第十二回	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（精読、リスニング、質疑応答）
第十三回	Chapter 14	Chapter 14 UN Women opens Japan office 国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト内にある英文に事前に目を通し、知らない語彙等はあらかじめ調べておくこと。リスニング、リーディングを終えた後は、授業内で指定された語彙、表現等を復習しておき、後のパラグラフライティングで活用すること。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017年

【参考書】

例文の多い英和・和英辞典（『ジーニアス英和・和英辞典』（大修館）など）
英英辞典（『ロングマン現代英英辞典』（OUP）など）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

サブタイトル：

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5
法2年：中級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course is based on the textbook 'Across Cultures'. The textbook is a serious of readings about where, how, why, and by whom the English language is used in different parts of the world by different cultures. The spring course will introduce six readings of about 450 words. The objectives of the course will be to strengthen five important skills:

1. Listening:

*Listening to the readings

*5 Dictations from the readings (+Final Test)

2. Speaking

*Voice training: accent and intonation (shadowing, look up method)

*Everyday speaking skills: reach basic communication level (quickly!)

*Discussing each passage

*Short Presentations

3. Reading

*Comprehension,

*Research for writing,

4. Writing

*Research and writing good answers to discussion questions

*Write a short essay useful for the Eiken Pre-Level 1 (英検準1級)

5. Critical Thinking - Considering all sides of an issue, formulating and opinion etc.

【到達目標】

The main goal of the course is to broaden your mind and deepen cultural knowledge, especially with relation to language. These specific practical goals should evolve from your study of the textbook and other sources.

1. Produce English for effective communication

2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)

3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, research, planning your own study schedule)

4. Develop skills for academic writing tasks

5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The course method is Content and Language Integrated Learning or CLIL. The main focus of the course is content, or English and how, where, why, when, and by whom it is used. CLIL is focused on tasks. Students will have many opportunities to speak with me and other students to complete those tasks. The main class activities are group discussions, pair work, and presentations. Research and writing are also included.

Japanese will be used as a tool to assist in our learning, but the first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese should only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introductions	Overview the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language Textbook: Overview of textbook How to prepare Chapter 1 Whose English?
Lesson 2	Users of English	BES 2 Classroom Group Language Make groups Textbook: Chapter 1 'Whose English?' Skills: How to prepare for a dictation test

Lesson 3	Users of English	Dictation Test BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences Textbook: Chapter 1 'Whose English?' Skills: How to make notes for an exam HW: Prepare Chapter 2 'My mother isn't well, sir.'	Preparing for each class by reading or doing exercises in the textbook, studying for dictation tests, working on outline and essay, practicing short presentations and for the discussion class with your group members. Average of 1 hour per week of homework or other out of class preparation
Lesson 4	Cross Cultural Communication in English	BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms Textbook: Chapter 2 'My mother isn't well, sir.' Skills: How to make notes for an exam	【テキスト (教科書)】 Honna, N., Kirkpatrick, A. & Takeshita, Y. Across Cultures: For Better English Communication and Understanding. Tokyo: Sanshusha, 2018.
Lesson 5	Cross Cultural Communication in English	BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) Textbook: Chapter 2 'My mother isn't well, sir.' Skills: How to outline and summarize a reading HW: Prepare for Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine'	【参考書】 A good dictionary. If electronic (電子辞書), then E-E, E-J, should include pronunciation feature, and examples of how to use words. We will add applications (アプリ) to your smartphone as necessary.
Lesson 6	Varieties of English	BES 6: WH Question and Answer Forms Textbook: Textbook Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine' Skills: How to outline and summarize a reading HW: Prepare for Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine'	【成績評価の方法と基準】 1. Print file (5%) 2. Dictation Test Final Test (10%) 3. Speaking Task 1: Short Group Reports (10%) 4. Writing Task 1: Write short answers to discussion questions (10%) 5. Writing Task 2: Short Essay (15%) 6. Semester Test (20%) 7. Discussion Test (20%) 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%) 9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills will be considered for raising or lowering final grades by 1 or 2 %.
Lesson 7	Varieties of English	BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) Textbook: Chapter 3 'Your Variety is Better than Mine' Skills: How to write a short essay (Pre-writing) HW: Read 'Further Reading: Saying Hello' Prepare for Chapter 4 What is the culture of English?	(Adding value means asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)
Lesson 8	Cultures of English Users	BES 8: Follow-up Questions Textbook: Chapter 4 What is the culture of English? Skills: How to write a short essay (Outlining)	【学生の意見等からの気づき】 The textbook has been changed.
Lesson 9	Cultures of English Users	BES 9: Rebound Questions Textbook: Chapter 4 What is the culture of English? HW: Prepare for Chapter 5 Where should I go to learn English? Skills: How to write a short essay (Essay structure)	【学生が準備すべき機器他】 To be explained in the first class.
Lesson 10	Where to learn English	BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Chapter 5 Where should I go to learn English? How to write a short essay (MS Word Format)	
Lesson 11	Where to learn English	BES 12: Starting a Conversation BES 13 Ending a Conversation Textbook: Textbook: Chapter 5 Where should I go to learn English? HW: Read Further Reading 2: How do I know when it is my turn to speak?	
Lesson 12	Turn-taking in Conversation	Dictation Final Test Textbook: Read Further Reading 2: How do I know when it is my turn to speak?	
Lesson 13	Evaluation	Paper Test on Readings Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up the semester	Summer ideas Grade idea File check	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Before the course:

Students should review their English 1 and 2 course materials.

Students should upgrade computer skills including MS Word, PowerPoint and keyboarding skills.

*YouTube has many tutorials for MS Word and PowerPoint in both English and Japanese.

*To check your keyboarding, try www.typingtest.com

During the course:

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法 2 年：中級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course is based on the second part of the textbook 'Across Cultures'. The textbook is a series of readings about where, how, why, and by whom the English language is used in different parts of the world by different cultures. In the fall semester the pace of the course will be faster. The course will introduce probably 10 of the 14 chapters for in class. Other readings will be fast-tracked and / or assigned as homework. The objectives of the course will be similar to the spring semester but with some changes.

1. Listening:

*Same

2. Speaking

*Same

NEW: Basic Discussion Skills

NEW: Full Presentation(s)

3. Reading

*Same

4. Writing

*Same: (Research and writing good answers to discussion questions)

NEW: Write a longer essay useful for the Eiken Level 1 (英検 1 級), IELTS Task 2, or the TOEFL Independent task. (All are essays of about 250 to 400 words, 4 or 5 paragraphs)

5. Critical Thinking

Continued

6. NEW: Presentation Skills Full Presentation

【到達目標】

Same as spring semester + #6

The main goal of the course is to broaden your mind and deepen cultural knowledge, especially with relation to language. These specific practical goals should evolve from your study of the textbook and other sources.

1. Produce English for effective communication

2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)

3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, research, planning your own study schedule)

4. Develop skills for academic writing tasks

5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

6. Develop good presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The language and method of teaching will be fundamentally the same as the spring semester. However, in the fall semester, student presenters will be responsible for much larger parts of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回 テーマ

Lesson What's new?

1

内容

Overview the fall course, upgraded policies if necessary, unfinished business from the spring

Make new groups as necessary

Review of BES 2 Group work

Language (Print from spring file)

Basic Discussion Skill 1 (BDS 1):

Introduction to Discussion

BDS 2: Issues

Textbook: Overview of Fall

Semester

Essay information.

HW: Preparation for Chapter 6

Writing Extremely Short Stories

HW: Further Reading 2 How do I

know when it is my turn to speak?

Lesson Writing Extremely
2 Short StoriesBDS 3: Discussion Start Questions
Skill: Presentation PostureTextbook: Chapter 6 Extremely
Short StoriesFurther Reading 2 How do I know
when it is my turn to speak?

HW: Preparation for Chapter 7

Who Makes the Best English
Teachers?

Dictation Test Unit 6

BDS 4: Give your opinion on an
issueTextbook: Chapter 7 Who Makes
the Best English Teachers?PowerPoint: Genius or need
instruction? YouTube tutorials

HW: Preparation for Unit 8:

English is an Asian Language!

HW: Submit a Practice PowerPoint
practice presentation

Dictation Test Unit 7

BDS 5: Giving Effective Reasons

PowerPoint Critique

Textbook: Chapter 8 English is an
Asian Language!

HW: Preparation for Chapter 9

What is my First Language?

Dictation Test Unit 8

BDS 6: Using Support

Textbook: Chapter 9 What is my
First Language?Skills: How to organize the
presentation (Sandwich)

HW: Further Reading 3

Complimenting across Cultures
and Genders

HW Preparation for Chapter 11

When should we learn English?

(We will skip Unit 10 as it is

complicated and not really
necessary for this course.)

Dictation Test Chapter 9

BDS 7: Agreeing and Disagreeing

Textbook: Chapter 11 When should
we learn English?Skills: How to develop 'bread
activities such as 'activating
background knowledge' and

'consolidation'.

HW: Preparation for Further

Reading: Body Language Across
Cultures

Dictation Test Chapter 11

Advanced Discussion Skill 1:

Effective Start Questions

Textbook: Further Reading Body

Language Across Cultures

Skills: PPT Slide Preparation -

Headings, Bullet Points, Short
forms, Decide what should be said,
and what should be written.

HW: Preparation for Chapter 13

What do people talk about?

Dictation Test on Further Reading

- Body Language Across Cultures

Advanced Discussion Skill 2:

Socratic Reasoning

Textbook: Chapter 13 What do
people talk about?

Choosing topics for presentations

HW: Preparation for Chapter 14

Japanese Schools, English Classes

...

Dictation Chapter 13

Textbook: Chapter 14 Japanese

Schools, English Classes ...

First presentation

HW: Preparation for Chapter 15

English Across Cultures

Dictation Chapter 14

Textbook: Chapter 15 English

Across Cultures

Second Presentations

HW: Read Further Reading 5:

When can we talk about what we

want to talk about?

Lesson Who Make the Best
3 English Teachers?Lesson English is an Asian
4 Language!Lesson What is my First
5 Language?Lesson When should we learn
6 English?Lesson Body Language Across
7 CulturesLesson What do people talk
8 about?Lesson Japanese Schools,
9 English Classes ...Lesson English Across
10 Cultures

Lesson 11	When can we talk about what we want to talk about?	Dictation Unit 15 Further Reading 5: When can we talk about what we want to talk about? Final Presentations Preparation / practice for the discussion test
Lesson 12	Evaluation Preparation	Dictation Final Test Other: undone presentations Preparation of paper test Preparation / practice for the discussion test
Lesson 13	Evaluation	Paper Test on Readings Discussion Test
Lesson 14	Wrap Up	After this course - Ideas? Return of paper test Feedback on discussion test Grade idea File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before the course:

Sometime during the summer, you review all of the readings in the textbook. You could also do some extra reading such as easy novels available in any bookstore. Another good thing to do is prepare for the TOEIC or TOEFL test using inexpensive books published in Japan available in most bookstores. Ex.

【CD 付】TOEIC L&R テスト 600 点奪取の方法 You don't have to take the test: just prepare for it!

During the course:

Preparing for each class by reading or doing exercises in the textbook, studying for dictation tests, working on outline and essay, practicing for your long presentations and for the discussion test with your group members.

Average of 90 minutes per week of homework or other out of class preparation

【テキスト（教科書）】

Honna, N., Kirkpatrick, A. & Takeshita, Y. Across Cultures: For Better English Communication and Understanding. Tokyo: Sanshusha, 2018.

【参考書】

Same as spring

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
 2. Dictation Test Final Test (10%)
 4. Writing Task 1: Write short answers to discussion questions (10%)
 5. Writing Task 2: Long Essay (15%)
 6. Presentation (20%)
 6. Semester Test (10%)
 7. Discussion Test (20%)
 8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%)
 9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills will be considered for raising or lowering final grades by 1 or 2 %.
- (Adding value means asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)

【学生の意見等からの気づき】

Depends on spring semester performance.

【学生が準備すべき機器他】

Same as spring semester.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Welcome to this class. This course will integrate all language skill areas; listening and reading will be used to familiarize students with the content of global issue topics, speaking and writing will be employed to enable students to organize content, their ideas and opinions and communicate these to other members of the class; providing the basis for discussion and debate during class sessions.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about various social and cultural practices from around the world. Students should be able to contextualize their own culture within diverse cultural frameworks. Through the use of various authentic materials offered in English, students should learn how to think critically about the important issues that surround them today, and develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions. Furthermore, this course should enable students to further develop their English proficiency by drawing on the skills they have learned in English 1&2. To achieve this goal, all four language skills of reading, writing, speaking and listening will be integrated into the curriculum.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Weekly listening homework will be assigned. This involves listening to a recording, and completing a transcript of its content. In class, students will review the listening assignments, do a pair-work dictation exercise and briefly review vocabulary and grammatical structures contained therein, and ask and answer questions relating to the assignment. Grammatical accuracy, vocabulary expansion, improvement of fluency and pronunciation are the objectives of homework assignments. Students will perform multimedia presentations individually or in groups on a variety of global issues topics. The content of these presentations will provide the basis for subsequent debate and discussion. The focus of these presentations will be finding solutions to the problems or conflicts presented. Students viewing presentations will be required to complete an information form, noting the key points included in each presentation. Selected members of the class will also evaluate the presentations, providing written feedback to presenters so they may improve their delivery technique.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Introductions HW/L1	Getting started
2	2. Tips on effective presentations HW/L2	Presentation DVD. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
3	3. Choose presentation topics HW/L3	Scheduling presentations. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
4	4. Japan's territorial disputes HW/L4	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
5	5. Nuclear power issue HW/L5	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
6	6. Climate change HW/L6	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills

7	7. Women's rights HW/L7	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
8	8. Aging society HW/L8	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
9	9. Refugee problem HW/L9	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
10	10. Immigration/migration HW/L10	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
11	11. Problems of EU/Brexit HW/L11	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
12	12. Threats to world peace/N. Korea issue HW/L12	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
13	13. Threats to world peace/Nuclear weapons HW/none	Student presentations and discussion. Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills
14	14. Review/summary	End of term review. Evaluation of student performance.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcription sheet. In addition, students will research a variety of topics and selected students will prepare and perform multimedia presentations on a similar topic each week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this class. Instructor will distribute handouts for homework each week.

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include: www.bbc.co.uk/learningenglish/ www.ted.com www.npr.com www.rt.com/documentary and English Wikipedia. The homework listening recordings can be streamed or downloaded from <http://groups.yahoo.com/group/aief56/> Students will have to create a yahoo.com email address, join the group, and download the mp3 recordings from 'files' labeled 'NT2 Listening'.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria: Class participation, 25%; Presentations, 50%; Tests, quizzes, written work, 25%. Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their presentation slides to class on a memory stick. They can also download these files from their email accounts or dropbox.

【Outline and objectives】

このクラスへようこそ。このコースはすべての言語スキル分野を統合します。リスニングとリーディングは生徒が世界的な問題のトピックの内容に慣れるために使われます。スピーキングとライティングは生徒が内容、彼らの考えや意見をまとめ、クラスの他のメンバーに伝えるのを可能にするために使われます。授業中の討論と討論の基礎を提供する。

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Welcome to this class. This course will integrate all language skill areas; listening and reading will be used to familiarize students with the content of global issue topics, speaking and writing will be employed to enable students to organize content, their ideas and opinions and communicate these to other members of the class; providing the basis for discussion and debate during class sessions.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about various social and cultural practices from around the world. Students should be able to contextualize their own culture within diverse cultural frameworks. Through the use of various authentic materials offered in English, students should learn how to think critically about the important issues that surround them today, and develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions. Furthermore, this course should enable students to further develop their English proficiency by drawing on the skills they have learned in English 1&2. To achieve this goal, all four language skills of reading, writing, speaking and listening will be integrated into the curriculum.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Weekly listening homework will be assigned. This involves listening to a recording, and completing a transcript of its content. In class, students will review the listening assignments, do a pair-work dictation exercise and briefly review vocabulary and grammatical structures contained therein, and ask and answer questions relating to the assignment. Grammatical accuracy, vocabulary expansion, improvement of fluency and pronunciation are the objectives of homework assignments. Students will perform multimedia presentations individually or in groups on a variety of global issues topics. The content of these presentations will provide the basis for subsequent debate and discussion. The focus of these presentations will be finding solutions to the problems or conflicts presented. Students viewing presentations will be required to complete an information form, noting the key points included in each presentation. Selected members of the class will also evaluate the presentations, providing written feedback to presenters so they may improve their delivery technique.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation/choose presentation topics HW/L13	Getting started. Students choose topics and schedule their presentations.
2	2. Japan/China relations HW/L14	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
3	3. Food safety/GMO foods HW/L15	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
4	4. US military in Japan HW/L16	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
5	5. Religious extremism HW/L17	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
6	6. Globalization/free trade HW/L18	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
7	7. Death penalty HW/L19	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.

8	8. Japan economic problems/debt HW/L20	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
9	9. Illegal drugs/legalization HW/L21	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
10	10. Smartphones/social networking dangers-health and mental illness risk HW/L22	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
11	11. Globalization/social and economic inequality HW/L23	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
12	12. Cultural/linguistic uniformity vs diversity HW/none	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
13	13. Automation/robotization and structural unemployment HW/none	Review homework, writing activity, vocabulary and grammar practice/drills.
14	14 Review/summary	Finish the term. Review and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcription sheet. In addition, students will research a variety of topics and selected students will prepare and perform multimedia presentations on a similar topic each week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this class. Instructor will distribute handouts for listening homework each week.

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include: www.bbc.co.uk/learningenglish/ www.ted.com www.npr.com www.rt.com/documentary and English Wikipedia. The homework listening recordings can be streamed or downloaded from <http://groups.yahoo.com/group/aief56/> Students will have to create a yahoo.com email address, join the group, and download the mp3 recordings from 'files' labeled 'NT2 Listening'.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria: Class participation, 25%; Presentations, 50%; Tests, quizzes, written work, 25%. Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

このクラスへようこそ。このコースはすべての言語スキル分野を統合します。リスニングとリーディングは生徒が世界的な問題のトピックの内容に慣れるために使われます。スピーキングとライティングは生徒が内容、彼らの考えや意見をまとめ、クラスの他のメンバーに伝えるのを可能にするために使われます。授業中の討論と討論の基礎を提供する。

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：異文化コミュニケーション、Cultural bias, Culture shock

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1 と English 2 で身につけた読む、書く、聞く、話すという英語運用能力の更なる向上を目指しつつ、一つのテーマを掘り下げることによって、英語で得た情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を発信していく能力を養成します。本授業では、こうした作業を行いながら、いくつかのキーワードを探求し、現代社会の諸相における文化と政治・経済の関係について考えてみようと思います。教科書に加えて論文の抜粋を読み、イギリス映画を視聴し、グループ単位で発表し、可能であれば質疑応答を行うことで、上記の技能を向上させることを目指します。

【到達目標】

受講生は、英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読めるようになる。英語の文章のある程度の速度を持って読み、目的とする情報を読み取ることができるようになる。専門知識を要さない英米映画であれば、字幕なしでも重要な情報を聞き取り、それなりに楽しむことができるようになる。英語のリスニングに慣れ、リスニング学習の習慣を身につけることができる。文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書けるようになる。英語である程度まとまった自分の意見を表明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は教科書、後半は DVD を使用した演習を行います。また、英語論文の抜粋を読む回とグループ単位でプレゼンテーションをしてもらい回があります。学期末には、一つのテーマについての英文課題を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業テーマの確認と授業方法の説明
第 2 回	Unit 1. A Fortunate Accident	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 3 回	Unit 2. Britain's Best Ride	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 4 回	Unit 3. The Meaning of Bond	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 5 回	Unit 4. The Changing High Street	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 6 回	Unit 5. Mild and Cloudy with a Chance of Rain	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 7 回	Cultural Capital (1)	精読、クールブリタニアについての論文の抜粋を読みます。
第 8 回	Unit 6. Expressive Expressions	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 9 回	Unit 7. A Woman of Some Importance	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 10 回	Unit 8. Shakespeare Lives On	リーディング、リスニングと DVD を使用した演習を行います。
第 11 回	Cultural Capital (2)	精読、オリンピックについての論文の抜粋を読みます。
第 12 回	Presentation (1)	グループ単位のプレゼンテーションを行います。
第 13 回	試験の説明と復習	試験範囲の説明と復習を行います。
第 14 回	期末試験/課題提出	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。教科書を何度も音読すること。教科書と同様に英語のプリントもよく予習しておいてください。英語の専用ノートを作成し、表現や語彙を書き出し必ず例文も記入しておいてください。

【テキスト（教科書）】

Realise Britain, Colin Joyce, 金星堂, 2014 年, 1800 円, ISBN978-4-7647-3982-6.

【参考書】

Robert Hewison, Cultural Capital The Rise and Fall of Creative Britain, Verso, 2014. ただし購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：40%、英文作成もしくは英文要約の課題：20%、平常点（予習、発表、授業への積極的な参加）：40%。欠席が4回以上の場合は原則として単位を与えません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの期待に沿えるように努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To encourage students to further develop their English proficiency by drawing on what they have learned in English 1 and English 2.
2. To train students to learn how to think critically by examining closely various authentic materials offered in English, and thus to develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions.
3. To introduce students to the connections between culture and political economy, focusing on specific keywords like 'Cool Britannia' and 'the Establishment'.
4. To provide students with an opportunity to participate in discussion, improving their presentational skills on a group or individual basis.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：異文化コミュニケーション、Cultural bias, Culture shock

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

法2年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1 と English 2 で身につけた読む、書く、聞く、話すという英語運用能力の更なる向上を目指しつつ、一つのテーマを掘り下げることによって、英語で得た情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を発信していく能力を養成します。本授業では、こうした作業を行いながら、いくつかのキーワードを探求し、現代社会の諸相における文化と政治・経済の関係について考えてみようと思います。教科書に加えて論文の抜粋を読み、イギリス映画を視聴し、グループ単位で発表し、可能であれば質疑応答を行うことで、上記の技能を向上させることを目指します。

【到達目標】

受講生は、英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読めるようになる。英語の文章のある程度の速度を持って読み、目的とする情報を読み取ることができるようになる。専門知識を要さない英米映画であれば、字幕なしでも重要な情報を聞き取り、それなりに楽しむことができるようになる。英語のリスニングに慣れ、リスニング学習の習慣を身につけることができる。文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書けるようになる。英語である程度まとまった自分の意見を表明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は教科書、後半はDVDを使用した演習を行います。また、英語論文の抜粋を読む回とグループ単位でプレゼンテーションをしてもらう回があります。学期末には、一つのテーマについての英文課題を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	試験の返却	春学期の学期末試験の返却と授業方法の確認
第2回	Unit 9. British Food: Better Than Awful	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第3回	Unit 10. A Complicated Country	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第4回	Unit 11. The Quite Fab Four	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第5回	Unit 12. A Vulgar Custom	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第6回	The Establishment (1)	精読、現代のイギリス社会についての論文の抜粋を読みます。
第7回	The Establishment (2)	精読、現代のイギリス社会についての論文の抜粋を読みます。
第8回	Unit 13. The Invention of Sport	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第9回	Unit 14. Changing Classes	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第10回	Unit 15 The Little Plane That Won the War	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第11回	Unit 16 Mind the (Humour) Gap	リーディング、リスニングとDVDを使用した演習を行います。
第12回	Presentation (2)	グループ単位のプレゼンテーションを行います。
第13回	試験の説明と復習	試験範囲の説明と復習を行います。
第14回	期末試験/課題提出	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。教科書を何度も音読すること。教科書と同様に英語のプリントもよく予習しておいてください。英語の専用ノートを作成し、表現や語彙を書き出し必ず例文も記入しておいてください。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストを引き続き使用します。

【参考書】

Owen Jones, The Establishment, Penguin, 2015. ただし購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：40%、英文作成もしくは英文要約の課題：20%、平常点（予習、発表、授業への積極的な参加）：40%。欠席が4回以上の場合は原則として単位を与えません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの期待に沿えるように努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To encourage students to further develop their English proficiency by drawing on what they have learned in English 1 and English 2.
2. To train students to learn how to think critically by examining closely various authentic materials offered in English, and thus to develop the ability to effectively express their own thoughts and opinions.
3. To introduce students to the connections between culture and political economy, focusing on specific keywords like 'Cool Britannia', 'the Olympics' and 'the Establishment'.
4. To provide students with an opportunity to participate in discussion, improving their presentational skills on a group or individual basis.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ文化・社会から考える

利根川 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、1年次に習得した4技能の英語運用能力を用いて、アメリカ文化や社会について書かれたり話されたりした情報を理解し、様々な角度から考察し、また自らの意見を発信する練習を行います。さらに、雑誌や新聞の記事やビデオクリップなどのインターネット上の情報を利用することにより、身の回りにある教科書でない英語にもなるべく多く触れるようにしていきます。

【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. 英語で発信された情報を理解する
3. 自分の意見を英語で表現できるようにする
4. アメリカ文化・社会についての知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングやスピーキングの力も同時につけていきます。春学期のプレゼンテーションはグループで行ない、また根拠を示して意見を述べるライティングの力もつけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の内容・進め方の説明
2 回目	家族 ①	<i>The New York Times</i> ビデオクリップとスクリプト
3 回目	家族 ②	Lesson 12 : Good Question
4 回目	家族 ③	関連資料、ディスカッション
5 回目	銃規制 ①	Lesson 11 : "Don't Shoot"
6 回目	銃規制 ②	<i>The Japan Times</i> 記事
7 回目	銃規制 ③	関連資料、ライティング
8 回目	新聞・雑誌記事等 選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	食生活、健康 ①	Lesson 2 : A Spreading Problem
10 回目	食生活、健康 ②	<i>TED</i> ビデオクリップとスクリプト
11 回目	食生活、健康 ③	関連資料、リスニング
12 回目	グループプレゼン①・②・③	グループごとに、投票で決めた記事を紹介
13 回目	グループプレゼン④・⑤	グループごとに、投票で決めた記事を紹介、フィードバック
14 回目	期末テストと補足	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習を前提にして進みますので、予習として、本文を少なくとも3回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに1行程度に要約し、練習問題を解きます。また、各レッスン（記事）から内容的に一番印象に残る1文、英語として一番難しい1文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。グループプレゼンテーションに向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト（教科書）】

『U.S.A. Update（いま、アメリカを読む）』、Jim Knudsen 著、南雲堂

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、記事紹介プレゼン課題関連25%、期末テスト35%。原則として欠席が4回以上になると、単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時の復習チェックにより語彙が定着したという意見が多かったため、続ける予定です。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce various aspects of American society and its culture while using and improving 4 skills of English, reading, writing, listening and speaking. Through pair work practices and group activities, the course will help students to expand their active vocabulary and get used to expressing their opinions in written and spoken English and responding to others. The textbook includes essays on racial and regional differences, current affairs as well as historical backgrounds in the USA. In addition to studying the textbook, students will also familiarize themselves with authentic materials offered in English. Besides, each student will search independently for an interesting article on a current topic in American life found in English newspapers and magazines and then will give a group presentation on it.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ文化・社会から考える

利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、1 年次に習得した 4 技能の英語運用能力を用いて、アメリカ文化や社会について書かれたり話されたりした情報を理解し、様々な角度から考察し、また自らの意見を発信する練習を行います。さらに、雑誌や新聞の記事やビデオクリップなどのインターネット上の情報を利用することにより、身の回りにある教科書でない英語にもなるべく多く触れるようにしていきます。

【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. 英語で発信された情報を理解する
3. 自分の意見を英語で表現できるようにする
4. アメリカ文化・社会についての知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行います。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングやスピーキングの力も同時につけていきます。根拠を示して意見を述べるライティングの力もつけていきます。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の内容・進め方の説明、ブック・プレゼンテーションの準備
2 回目	裁判制度 ①	Lesson 14: And Justice for All
3 回目	裁判制度 ②	The New York Times 記事
4 回目	裁判制度 ③	関連資料、ディスカッション
5 回目	移民、人種、ホリデイ①	Lesson 3: Juneteenth
6 回目	移民、人種、ホリデイ②	Lesson 7 : Illegal
7 回目	移民、人種、ホリデイ③	関連資料、ライティング
8 回目	ブック・プレゼンテーション (1~11)	夏休みに読んだ洋書のプレゼン (前半) とレスポンス
9 回目	ブック・プレゼンテーション (12~24)	夏休みに読んだ洋書のプレゼン (後半) とレスポンス
10 回目	パッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック
11 回目	環境問題、地域的多様性 ①	TED ビデオクリップとスクリプト
12 回目	環境問題、地域的多様性 ②	関連資料、リスニング
13 回目	環境問題、地域的多様性 ③	Lesson 6 : A New York State of Mind
14 回目	期末テストと補足	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約し、練習問題を解きます。また、各レッスン（記事）から内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。プレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】

『U.S.A. Update (いま、アメリカを読む)』、Jim Knudsen 著、南雲堂

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、プレゼンテーション課題関連 25 %、期末テスト 35%。原則として欠席が 4 回以上になると、単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時の復習チェックにより語彙が定着したという意見が多かったので、続ける予定です。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce various aspects of American society and its culture while using and improving 4 skills of English, reading, writing, listening and speaking. Through pair work practices and group activities, the course will help students to expand their active vocabulary and get used to expressing their opinions in written and spoken English and responding to others. The textbook includes essays on racial and regional differences, current affairs as well as historical backgrounds in the USA. In addition to studying the textbook, students will also familiarize themselves with authentic materials offered in English. Besides, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリス社会と人権

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「英語を読む」から「英語で読み考える」への転換を図りながら、イギリス社会における人権と歴史教育について学びます。使用する主なソースは雑誌とウェブ上の英文記事です。多くの記事を読みながら自らの考えの幅を広げていってください。アカデミック・ライティングの基礎とリスニングにおけるノート・テーキングも学びます。リーディングとリスニングによるインプット情報を各自の見解に合わせ論理的にアウトプットする練習を行います。

【到達目標】

- 1 テキストの内容を正確に理解し、自らの考えを英語で発信できるようになること
- 2 授業で学んだ人権と歴史教育問題について具体的な事例を挙げながら論理的な解説ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 1 Reading Practice (paragraph reading)
- 2 Group-work, Pair-work, Presentation
- 3 Writing and Listening Workshop

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course topics and classroom methods
2	Universal Declaration of Human Rights	Paragraph reading and group work
3	Writing and Listening Workshop #1	Writing:Topic Sentence / Listening:Number Notation and Rhetorical Cues
4	Three important human rights	Presentation
5	Human rights education and history education	Paragraph reading and group work
6	The End of Slavery (1)	Paragraph reading and group work
7	Writing and Listening Workshop #2	Writing:From Paragraph to Essay and using English-English dictionaries / Listening:Abbreviation and Rhetorical Cues
8	The End of Slavery (2): The case of Manchester and London	Paragraph reading and group work
9	The End of Slavery (3): The case of other British cities	Paragraph reading and group work
10	Writing and Listening Workshop #3	Writing: Opinion Paragraph / Listening: Content Words and Rhetorical Cues
11	World Human Rights Reports	Paragraph reading and group work
12	World Human Rights Reports	Presentation
13	Writing and Listening Workshop #4	Writing: Opinion Paragraph / Listening:Key Words Listening and Adverbs as Content Words
14	Semester Final Examination	Examination based on content and skills of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignments
- 2 Preparation for discussion and presentation
- 3 Online TED watching assignments

【テキスト（教科書）】

Phyllis L, Lim and William Smalzer, Dynamic Listening Comprehension 2: Noteworthy, Cengage Learning, 2007

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Active class participation 20%
Home assignment 20%
final examination 60%

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

This is a content-based English learning class focusing on human rights issues. You will practice systematic reading skills. In Writing and Listening Workshops, you will also practice well-organized academic writing and effective lecture listening skills.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリス社会と人権

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス市民社会の形成と人権思想を学びます。引き続き「英語を読む」から「英語で読み考える」への転換を図りながら、インプットをアウトプットに接続していきます。リスニングのノート・テーキングのプラクティスに加え、論理的に組み立てられたエッセイを書くためのワークアウトも行います。

【到達目標】

1 テキストの内容を正確に理解し、自らの考えを英語で発信できるようになること
2 授業で学んだ人権と歴史教育問題について具体的な事例を挙げながら論理的な解説ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 Reading Practice (paragraph reading)
2 Group-work, Pair-work, Presentation
3 Writing and Listening Workshop

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of the course topics and classroom methods
2	Utopia and Millennialism	Paragraph reading and group work
3	The concept of dignity	Presentation
4	Writing and Listening Workshop #1	Writing: How to Write a Good Summary / Listening: Key Words
5	Coffee House and Journalism	Paragraph reading and group work
6	Clubs and Associations	Paragraph reading and group work
7	Arts and Craft Movement	Presentation
8	Writing and Listening Workshop #2	Writing: Argumentative Essays / Listening: Structuring and Rhetorical Cues
9	The End of Poverty #1	Paragraph reading and group work
10	The End of Poverty #2	Paragraph reading and group work
11	Writing and Listening Workshop #3	Writing: Using Parallel structure / Listening: Outlining and Rhetorical Cues
12	Immigrants and Refugees in UK (1)	Paragraph reading and group work
13	Immigrants and Refugees in UK (2)	Presentation
14	Semester Final Test	Examination based on content and skills of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Weekly reading and writing home assignments
2 Preparation for discussion and presentation
3 Online TED watching assignments

【テキスト（教科書）】

Phyllis L, Lim and William Smalzer, Dynamic Listening Comprehension 2: Noteworthy, Cengage Learning, 2007

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Active class participation 20%
Home assignment 20%
final test 60%

【学生の意見等からの気づき】

ハードになってくると思いますが、励まし合いながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

The course focuses on reading, thinking and writing about human rights and history education in English. Students will practice well-organized essay writing and effective presentation skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの多様な地域とその歴史・文化・社会問題を学びます。

English 3は English 1と2で身に付けた英語運用能力のさらなる養成とともに、英語で物事を批判的にくみ取って、意見を発信することを目的としています。この授業では英語を学びつつ、さまざまな角度からアメリカの地域について考えましょう。

アメリカはひとつの国ですが、異なる歴史的・文化的背景をもつ複数の地域からなります。この授業の受講者はアメリカの様々な地域の歴史や文化を、アメリカ映画の分析や英語で書かれた資料の読解を通して学びます。さらに、これらのトピックについてディスカッションやプレゼンテーションを行うことで自分の意見を英語で表現する能力を強化します。こうした作業を通して、アメリカという国家について知るだけでなく、人種や階級、ジェンダーやエスニシティなどの問題について批判的に考える能力を身につけるところまでをこの授業の目的とします。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①アメリカの地域毎の歴史的・文化的特色を把握することでアメリカという国家に対する理解を深める。
- ②英語の文章の構成をすばやく把握し、わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測する能力を習得する。
- ③ある程度難易度の高い英文を丁寧に正確に読む。
- ④英語で読んだ・聞いた情報を適切な方法で相手に伝える。
- ⑤人種や階級、ジェンダーやエスニシティといった問題を批判的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

アメリカを大きく10の地域に分け、各地域につき基本的に2回ずつ授業を行います。1回目は地域の特徴をよくあらわす映画の一部を鑑賞し、英語でのリスニングとディスカッションを行います。その後、講師が説明をします。2回目は事前に指定していた英語資料の読解を行います。読んだ文章の語彙や構造を確認するだけでなく、それを要約します。

これらの授業に加え、学期末に学生によるグループプレゼンテーションの回を設け、アメリカの地域毎の音楽や食、政治などそれぞれ興味のあるテーマについてグループ毎に調査をし、英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。それまでの授業では英語で効果的なプレゼンテーションするための方法を学びます。

中間試験のかわりに中間レポートの提出を課します。それまでの授業では英語でレポートを書くための方法を学びます。また、学習内容の理解を確認・復習するための期末試験を実施します。

*進捗や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	スペイン領土 El Norte ①	映画、Listening& Speaking
3	スペイン領土 El Norte ②	Reading & Writing
4	フランス領土 France ①	映画、Listening& Speaking
5	フランス領土 France ②	Reading & Writing
6	低沿岸諸州 Tidewater ①	映画、Listening& Speaking
7	低沿岸諸州 Tidewater ②	Reading & Writing
8	ニューイングランド Yankeedom ①	映画、Listening& Speaking
9	ニューイングランド Yankeedom ②	Reading & Writing
10	オランダ領土 Netherland ①	映画、Listening& Speaking
11	オランダ領土 Netherland ②	Reading & Writing
12	グループ・プレゼンテーション①	学生によるプレゼンテーション

- 13 グループ・プレゼンター 学生によるプレゼンテーション
ション②
- 14 期末試験 期末試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディングの授業

各自辞書を丁寧にひきながら指定された資料を読んできて下さい。また、その英文に関するプリントを事前に配布するので、プリントの問題を解いた上で授業に臨んでください。

レポート

各自好きなアメリカ映画／ドラマを1本選んで視聴し、その要旨と感想を300words程度の英語で書き、授業支援システムを通じて提出します。詳細は授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。 * 毎回の授業に必ず辞書を持参する。

【参考書】

Colin Woodard, *American Nations: A history of the Eleven Rival Regional Cultures of North America*. Penguin, 2012.

*その他、英語学習ウェブサイトやアプリケーション、文学作品など、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、グループプレゼンテーション 20%、レポート 30%、授業への貢献（グループ/ペアワーク、ディスカッションへの参加）10%

*欠席回数が4回以上で履修継続は不可となります。遅刻は2回で欠席とし、20分以上の遅刻も欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

グループプレゼンテーションのための準備を行う時間を授業内にも設けて欲しいとの要望があったので、今年度は効果的なプレゼンテーションのためのレクチャーを織り交ぜつつ、授業内でも準備を進められるようにします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to further develop students' English proficiency by drawing on what the students have learned in English 1 and English 2. Students will learn a history of America's ten rival cultural regions by referring to American films and written materials. This course will help students acquire the complex notions of race, class, gender as well as ethnicity and contextualize their own culture within diverse cultural frameworks.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

遠藤 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの多様な地域とその歴史・文化・社会問題を学びます。

English 3はEnglish 1と2で身に付けた英語運用能力のさらなる養成とともに、英語で物事を批判的にくみ取って、意見を発信することを目的としています。この授業では英語を学びつつ、さまざまな角度からアメリカの地域について考えましょう。

アメリカはひとつの国ですが、異なる歴史的・文化的背景をもつ複数の地域からなります。この授業の受講者はアメリカの様々な地域の歴史や文化を、アメリカ映画の分析や英語で書かれた資料の読解を通して学びます。さらに、これらのトピックについてディスカッションやプレゼンテーションを行うことで自分の意見を英語で表現する能力を強化します。こうした作業を通して、アメリカという国家について知るだけでなく、人種や階級、ジェンダーやエスニシティなどの問題について批判的に考える能力を身につけるところまでをこの授業の目的とします。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①アメリカの地域毎の歴史的・文化的特色を把握することでアメリカという国家に対する理解を深める。
- ②英語の文章の構成をすばやく把握し、わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測する能力を習得する。
- ③ある程度難易度の高い英文を丁寧に正確に読む。
- ④英語で読んだ・聞いた情報を適切な方法で相手に伝える。
- ⑤人種や階級、ジェンダーやエスニシティといった問題を批判的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

前期に引き続き、アメリカを大きく10の地域に分け、各地域につき基本的に2回ずつ授業を行います。1回目は地域の特色をよくあらわす映画の一部を鑑賞し、英語でのリスニングとディスカッションを行います。その後、講師が説明をします。2回目は事前に指定していた英語資料の読解を行います。読んだ文章の語彙や構造を確認するだけでなく、それを要約します。

これらの授業に加え、学期末に学生による個人プレゼンテーションの回を設け、アメリカの地域毎の音楽や食、政治などそれぞれ興味のあるテーマについて個人で調査をし、英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。それまでの授業では英語で効果的なプレゼンテーションするための方法を学びます。

中間試験のかわりに中間レポートの提出を課します。それまでの授業では英語でレポートを書くための方法を学びます。

また、学習内容の理解を確認・復習するための期末試験を実施します。

*進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 The Deep South ①	映画、Listening& Speaking
2	深南部 The Deep South ②	映画、Listening& Speaking
3	深南部 The Deep South ③	Reading & Writing
4	中西部 The Midlands ①	映画、Listening& Speaking
5	中西部 The Midlands ②	Reading & Writing
6	アパラチア山脈地域 Greater Appalachia ①	映画、Listening& Speaking
7	アパラチア山脈地域 Greater Appalachia ②	Reading & Writing
8	極西部 The Far West ①	映画、Listening& Speaking
9	極西部 The Far West ②	Reading & Writing
10	大西洋沿岸部 The Left Coast ①	映画、Listening& Speaking
11	大西洋沿岸部 The Left Coast ②	Reading & Writing
12	プレゼンテーション①	学生によるプレゼンテーション

- 13 プレゼンテーション② 学生によるプレゼンテーション
14 期末試験 試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自辞書を丁寧にひきながら指定された資料を読んでください。また、その英文に関するプリントを事前に配布するので、プリントの問題を解いた上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。 * 毎回の授業に必ず辞書を持参してください。

【参考書】

Colin Woodard, *American Nations: A history of the Eleven Rival Regional Cultures of North America*. Penguin, 2012.

*その他、英語学習ウェブサイトやアプリケーション、文学作品など、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、グループプレゼンテーション 20%、レポート 30%、授業への貢献(グループ/ペアワーク、ディスカッションへの参加) 10%

*欠席回数が 4 回以上で履修継続は不可となります。遅刻は 2 回で欠席とし、20 分以上の遅刻も欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

グループプレゼンテーションのための準備を行う時間を授業内にも設けて欲しいとの要望があったので、今年度は効果的なプレゼンテーションのためのレクチャーを織り交ぜつつ、授業内でも準備を進められるようにします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to further develop students' English proficiency by drawing on what the students have learned in English 1 and English 2. Students will learn a history of America's ten rival cultural regions by referring to American films and written materials. This course will help students acquire the complex notions of race, class, gender as well as ethnicity and contextualize their own culture within diverse cultural frameworks.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：外国の視点による日本文化の特徴

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の現代社会や文化に関する様々な事象について書かれたテキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を中心とした英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、English 1 と English 2 で学んだ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能の能力を包括的に高めていきます。その際に、構文を意識したより正確な英文読解力を身につけていくことを軸とし、その読解で得た情報を批判的に考察し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英語で発信する土台を構築していきます。

【到達目標】

- テキストなどの読解や問題を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③テキストなどの英文を繰り返し開いたり音読したりすることにより、英語のリスニング力やスピーキング力を鍛えていく。
 - ④テキストの問題を活用しながら、トピックに関する自分の意見を英語で書く力を鍛えていく。
 - ⑤自分の意見を英語で他社に伝え、聞き手はその意見を聞き取る能力をつけていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、文章理解の正確性を高めるために構文を意識してもらった作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。また、14 回の授業の中の何回かでは、授業内で扱ってきたトピックから選択し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英文でまとめたものでプレゼンテーションをおこないます。聞き手には、各発表者の発言の聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	One Piece and the world's favorite pirates
3	Unit 1 & Unit 2	One Piece and the world's favorite pirates の続き Japan's company culture: the misery behind the miracle
4	Unit 2	Japan's company culture: the misery behind the miracle の続き
5	Unit 3	The genius of Japanese animation
6	Unit 3 & Unit 4	The genius of Japanese animation の続き How superstitious is Japan?
7	Unit 4	How superstitious is Japan?の続き
8	Unit 5	Bousouzoku: very Japanese rebels
9	Unit 5 & Unit 6	Bousouzoku: very Japanese rebels の続き Why do Japanese students sleep in class?
10	Unit 6	Why do Japanese students sleep in class?
11	Unit 7	The attraction of onsen
12	Unit 7	The attraction of onsen の続き
13	Unit 1-7 のトピックに関するプレゼンテーション	テキストの内容について自分の意見を述べ、その意見の聞き取りをおこないます。
15	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。授業中におこなうプレゼンテーションのためにもテキストの英文のリスニングや音読を普段からおこなうことを心がけてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

『総合英語で学ぶ自文化再発見～外国の視点から考えるニッポン文化～ Japan Goes Global! Thinking critically about Japanese popular culture』Stuart Gale, Tatsuya Namoto, Shigeru Suzuki, Makoto Eguchi, 南雲堂、1,900円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）とライティングおよび記述したものを基にしたプレゼンテーションとそのリスニング（40%）、そして期末試験（40%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：外国の視点による日本文化の特徴

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法2年：中級/日本語/世界の中の日本**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の現代社会や文化に関する様々な事象について書かれたテキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を中心とした英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、English 1 と English 2 で学んだ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の能力を包括的に高めていきます。その際に、構文を意識したより正確な英文読解力を身につけていくことを軸とし、その読解で得た情報を批判的に考察し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英語で発信する土台を構築していきます。

【到達目標】

- テキストなどの読解や問題を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③テキストなどの英文を繰り返し開いたり音読したりすることにより、英語のリスニング力やスピーキング力を鍛えていく。
 - ④テキストの問題を活用しながら、トピックに関する自分の意見を英語で書く力を鍛えていく。
 - ⑤自分の意見を英語で他社に伝え、聞き手はその意見を聞き取る能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『総合英語で学ぶ自文化再発見 Japan Goes Global!』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、文章理解の正確性を高めるために構文を意識してもらって作業してもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。また、14回の授業の中の何回かでは、授業内で扱ってきたトピックから選択し、テキストの問題を活用しながら自分の意見を英文でまとめたものでプレゼンテーションをおこないます。聞き手には、各発表者の発言の聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8	Virtual Love
2	Unit 8 & Unit 9	Virtual Love の続き Otaku and proud!
3	Unit 9	Otaku and proud!
4	Unit 10	Similar but not the same: food cultures abroad
5	Unit 10 & Unit 11	Similar but not the same: food cultures abroad の続き Should the Japanese writing system be simplified by dropping kanji?
6	Unit 11	Should the Japanese writing system be simplified by dropping kanji?
7	Unit 12	The grey area of gambling
8	Unit 12 & Unit 13	The grey area of gambling の続き Pokemon: Do we really have to catch'em all?
9	Unit 13	Pokemon: Do we really have to catch'em all?の続き
10	Unit 14	J-pop production companies
11	Unit 14 & 15	J-pop production companies の続き Pop peace
12	Unit 15	Pop peace の続き
13	Unit 8-15 のトピックに関するプレゼンテーション	テキストの内容について自分の意見を述べ、その意見の聞き取りをおこないます。
15	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。授業中におこなうプレゼンテーションのためにもテキストの英文のリスニングや音読を普段からおこなうことを心がけてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

『総合英語で学ぶ自文化再発見～外国の視点から考えるニッポン文化～ Japan Goes Global! Thinking critically about Japanese popular culture』Stuart Gale, Tatsuya Namoto, Shigeru Suzuki, Makoto Eguchi, 南雲堂、1,900円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）とライティングおよび記述したものを基にしたプレゼンテーションとそのリスニング（40%）、そして期末試験（40%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

中田 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/世界の中の日本**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

サブカテゴリー：日本の労働環境

1 年次の English 1・English 2 で学んだ内容をさらに深め、「読む」「聞く」「書く」「話す」という英語の 4 技能の能力を総合的に高めることを主眼とする。特に、content-based language teaching のアプローチを採用し、英語を通して日本の労働環境について学びながら、付随的に英語力を高めることを目指す。

【到達目標】

1) 指定のトピックに関するまとまった英文を読んだり (reading) 聞いたり (listening) して、口頭 (speaking) および文章 (writing) で要約したり、自分の意見を英語で効果的に表現することができる。
2) アイコンタクト、ジェスチャー、視覚資料等を効果的に活用し、英語で自分の意見を効果的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

日本の労働環境に関する映像資料を見たり、英文を読んだりした後に、その要約や自分の意見を書く。また、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、口頭で効果的に表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	成績・評価、授業運営等の説明
第 2 回	Unit 1	Sales Can Be Like Acting
第 3 回	Unit 1	Being a Good Co-worker
第 4 回	Unit 2	Travel Opens Up the World
第 5 回	Unit 2	Japan Needs Muslim-Friendly Meals
第 6 回	Unit 3	Love Sells Cars
第 7 回	Review	Mid-term Presentations
第 8 回	Unit 3	Staying Positive
第 9 回	Unit 4	Translating Is More Than Words
第 10 回	Unit 4	Why Learn Japanese?
第 11 回	Unit 5	Serve Up the Best Possible Service
第 12 回	Unit 5	What Do You Love About Japan?
第 13 回	Review	Final Presentations
第 14 回	Review	Final Presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に収録された英文テキストをあらかじめ精読し、概要を理解したうえで授業に出席すること。プレゼンテーションの際には、原稿を読み上げるのではなく、聴衆とアイコンタクトをとりながら発表できるように練習しておく。

【テキスト（教科書）】

Working in Japan: Video Interviews with 14 Professionals, by A. Gordenker & J. Rucynski. Cengage.

【参考書】

Just the Word (<http://www.just-the-word.com/>) や YouGlish (<http://youglish.com/>) 等の web サイトを積極的に活用し、コロケーション・語法・発音を調べることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、プレゼンテーション 40 %、小テスト 30 %
4 回以上欠席した場合は、原則として単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

【Outline and objectives】

This is a content-based course aimed at helping students improve English in the areas of reading, listening, writing, and speaking. To this end, students will learn about the working culture of Japan through watching interviews and reading articles, as well as practice summarizing and discussing issues related to interviews / articles.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

中田 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカテゴリー：日本の労働環境

1 年次の English 1・English 2 で学んだ内容をさらに深め、「読む」「聞く」「書く」「話す」という英語の 4 技能の能力を総合的に高めることを主眼とする。特に、content-based language teaching のアプローチを採用し、英語を通して日本の労働環境について学びながら、付随的に英語力を高めることを目指す。

【到達目標】

- 1) 指定のトピックに関するまとまった英文を読んだり (reading) 聞いたり (listening) して、口頭 (speaking) および文章 (writing) で要約したり、自分の意見を英語で効果的に表現することができる。
- 2) アイコンタクト、ジェスチャー、視覚資料等を効果的に活用し、英語で自分の意見を効果的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

日本の労働環境に関する映像資料を見たり、英文を読んだりした後に、その要約や自分の意見を書く。また、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、口頭で効果的に表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 6	Toast Your Success!
第 2 回	Unit 6	Think Global, Act Local
第 3 回	Unit 7	Teaching Is Helping Others Perform Their Best
第 4 回	Unit 7	Teaching English to Children
第 5 回	Unit 8	Build a Happy Life!
第 6 回	Unit 8	Finding the Best Job
第 7 回	Review	Mid-term Presentations
第 8 回	Unit 9	Life Is Like Riding a Bicycle
第 9 回	Unit 9	Internships — A Win-Win Situation
第 10 回	Unit 10	Trade Ideas for Positive Change
第 11 回	Unit 10	Being Environmentally-Friendly
第 12 回	Unit 11	Connect Workers With Companies
第 13 回	Review	Final Presentations
第 14 回	Review	Final Presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に収録された英文テキストをあらかじめ精読し、概要を理解したうえで授業に出席すること。プレゼンテーションの際には、原稿を読み上げるのではなく、聴衆とアイコンタクトをとりながら発表できるように練習しておく。

【テキスト（教科書）】

Working in Japan: Video Interviews with 14 Professionals, by A. Gordenker & J. Rucynski. Cengage.

【参考書】

Just the Word (<http://www.just-the-word.com/>) や YouGlish (<http://youglish.com/>) 等の web サイトを積極的に活用し、コロケーション・語法・発音を調べることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、プレゼンテーション 40%、小テスト 30%
4 回以上欠席した場合は、原則として単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

【Outline and objectives】

This is a content-based course aimed at helping students improve English in the areas of reading, listening, writing, and speaking. To this end, students will learn about the working culture of Japan through watching interviews and reading articles, as well as practice summarizing and discussing issues related to interviews / articles.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化を再認識し、英語で発信する。

English 3 では、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。世界各国の多様な文化背景を持つ人々が、日本文化を体験し、自国の文化との違いを語る映像を基に、聞く・読むから、自分の意見を話す・書くことで表現力を磨き、自国の社会問題などを論じるエッセイ・ライティングへと繋げていきます。

【到達目標】

- ・リスニングの際、大まかな内容をつかむだけでなく、ある程度の長さの語句を正確に聞き取れるようになる。
- ・そのスクリプトを読んで内容を正確に理解できるようになる。
- ・トピックごとによく用いられる語彙、表現をスピーキングやライティングで活用できるようになる。
- ・文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書くことが出来る。
- ・英語で自分の意見を述べ、他人と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつの Unit を二回に分けて学習します。

前半では主に Part1 の日本文化を紹介する "Report viewing" を扱います。Listening や Reading で内容を正確に理解し、その後に Exercises や配布プリントを用いてそのトピックに関する英作文や会話練習をします。

後半は、"studio discussion viewing" を Listening と Reading で内容を把握、そこで語られた様々な意見を英語でまとめたり、クラス内での意見交換を行います。

学期中に 1 回、複数のパラグラフから成るエッセイを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業説明、Pre-Unit	授業の進め方等の確認。
第二回	Unit 1 Long-Established Businesses (前半)	リスニング、リーディング リスニング、読解、英作文、スピーキング
第三回	Unit 1 Long-Established Businesses (後半)	読解、リスニング、スピーキング、パラグラフライティング
第四回	Unit 2 Uniforms (前半)	読解、リスニング、英作文、スピーキング
第五回	Unit 2 Uniforms (後半)	読解、リスニング、スピーキング、パラグラフライティング
第六回	Unit 3 Volunteer Work (前半) Essay Writing (1)	読解、リスニング、パラグラフ構造、エッセイライティングの説明、英作文
第七回	Unit 3 Volunteer Work (後半) Essay Writing (2)	読解、リスニング、パラグラフ構造、エッセイライティングの説明、英作文
第八回	Unit 4 High-Tech Living (前半)	読解、リスニング、英作文、スピーキング
第九回	Unit 4 High-Tech Living (後半)	読解、リスニング、スピーキング、パラグラフライティング
第十回	Unit 6 Homemakers of Japan (前半)	読解、リスニング、英作文、スピーキング
第十一回	Unit 6 Homemakers of Japan (後半)	読解、リスニング、スピーキング、パラグラフライティング
第十二回	Unit 7 Seafood (前半)	読解、リスニング、英作文、スピーキング
第十三回	Unit 7 Seafood (後半)	読解、リスニング、スピーキング、パラグラフライティング
第十四回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト内にある英文に事前に目を通し、知らない語彙等はあらかじめ調べておくこと。リスニング、講読を終えた後は、授業内で指定された語彙、表現等を復習しておき、後のパラグラフライティングで活用すること。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan（成美堂）

【参考書】

例文の多い英和・和英辞典（『ジーニアス英和・和英辞典』（大修館）など）
英英辞典（『ロングマン現代英英辞典』（OUP）など）

【成績評価の方法と基準】

ライティング課題：30%、期末テスト：40%、平常点（予習、小テスト、発表、授業への積極的な参加）：30%。
遅刻は30分まで。しかし2回の遅刻につき1回の欠席に換算します。
欠席が四回以上の場合原則として単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングやスピーキングなど、音声中心のワークを増やしていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

English 3 is an integrated skills course comprised of reading, writing, speaking, and listening components. Under the category of “Japan in the World”, students will gain knowledge of various social and cultural aspects of Japan, as well as other countries of the world.

The textbook consists of two parts: report viewing and studio discussion viewing, both of which introduce a cultural feature of Japanese people and their distinctive culture in English. Each part will help students increase their understanding of grammar and vocabulary which will aid them in precisely expressing their ideas relevant to topics.

Students will be provided with opportunities to describe unique features of their respective traditional or contemporary cultures and to express their opinions on them, compared with those of other cultures.

At the end of this course, students are expected to have further developed their critical thinking ability regarding social issues and to be able to effectively express their individual thoughts and opinions in English.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

大和久 梯一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。
- ・英語で自分の考えを表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト1章分を2回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	Chapter 7	Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car 26歳がスポーツカーをデザイン（精読、リスニング、質疑応答）
第二回	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（精読）
第三回	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（再読、リスニング、質疑応答）
第四回	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（精読）
第五回	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（再読、リスニング、質疑応答）
第六回	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（精読）
第七回	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）
第八回	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（精読）
第九回	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答）
第十回	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（精読）
第十一回	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）
第十二回	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（精読、リスニング、質疑応答）
第十三回	Chapter 14	Chapter 14 UN Women opens Japan office 国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト内にある英文に事前に目を通し、知らない語彙等はあらかじめ調べておくこと。リスニング、リーディングを終えた後は、授業内で指定された語彙、表現等を復習しておき、後のパラグラフライティングで活用すること。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

【参考書】

例文の多い英和・和英辞典（『ジーニアス英和・和英辞典』（大修館）など）
英英辞典（『ロングマン現代英英辞典』（OUP）など）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

サブタイトル：アメリカのメディアから見た世界

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身につけていく。高い英語力だけでなく、教養を身につけることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要とテキストの説明 プリント教材
2	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 昨年の認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 4 昨年の認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12	Unit 6 ロンドン地下の「郵便鉄 道」が新たな観光路線と して復活	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 6 ロンドン地下の「郵便鉄 道」が新たな観光路線と して復活	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声をダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900円 + 税

【参考書】
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
授業では DVD と CD を使う。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持つてくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 以上は欠席とする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカのメディアから見た世界

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-Up	プリント教材
2	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ルーブル・アブダビついに開館	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ルーブル・アブダビついに開館	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてプーチンの懐柔法	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてプーチンの懐柔法	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12	Unit 12 中国の大気汚染を救う？ スモッグを食べる巨大空 気清浄機	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 12 中国の大気汚染を救う？ スモッグを食べる巨大空 気清浄機	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900円 + 税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
授業では、DVD および CD を使用する。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。
欠席は3回までとする。
遅刻3回で欠席1回とする。
遅刻20以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

猪俣 佳瑞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

法2年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1,2での学びを踏まえ、4技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事を扱ったニュースなどを読む・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題として捉え直し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。
・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで類出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、進め方の説明 自己紹介など
2	イントロダクション Critical Thinking（批評的思考）を習得する ①	人間を「イヌ派」と「ネコ派」に分ける、という身近なトピックスを扱ったリーディング素材を使用し、与えられた命題に対して批評的な思考を組み立てる方法を学ぶ。意見を日本語で確認した上で、英語にする英作文練習。
3	イントロダクション Critical Thinking（批評的思考）を習得する ②	イヌ派とネコ派に関するリスニング、命題に対して批評的に組み立てた各自の意見を、ペアやグループで英語で発表するスピーキング演習。
4	美容整形の功罪①	美容整形に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。美容整形の功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	美容整形の功罪②	美容整形に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	美容整形の功罪③	各学生が英語で書いてきた美容整形に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つPhysical Aspects 1を紹介。
7	社内公用語は英語①	社内公用語に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
8	社内公用語は英語②	社内公用語に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。

9	社内公用語は英語 ③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Oral Aspects 1 を紹介。
10	レディーファースト ①	日本におけるレディーファーストに関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
11	レディーファースト ②	レディーファーストに関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
12	レディーファースト ③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Oral Aspects 2 を紹介。
13	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション 2 小テストとまとめ	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。 春学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ったか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各 Unit 初回授業の準備学習は、**HOMEWORK** と指定されているページ、2回目は **Part A Speech Content** まで、3回目は **Part A Speech Writing** と **Part B** を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 発表 40 % 小テスト 20 % 遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れなことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

猪俣 佳瑞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期から引き続き、**English1,2** での学びを踏まえ、4 技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事扱ったニュースなどを読む・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題として捉え直し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。

- ・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
- ・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
- ・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
- ・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで類出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリンピックの商業化 ①	オリンピックの商業化に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
2	オリンピックの商業化 ②	オリンピックの商業化に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
3	オリンピックの商業化 ③	各学生が英語で書いてきたオリンピックの商業化に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 3 を紹介。
4	国際結婚 ①	国際結婚に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	国際結婚 ②	国際結婚に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	国際結婚 ③	各学生が英語で書いてきた国際結婚に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 2 を紹介。
7	遺伝子組み換え食品 ①	遺伝子組み換え食品に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。

- 8 遺伝子組み換え食品 ② 遺伝子組み換え食品に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
- 9 遺伝子組み換え食品 ③ 各学生が英語で書いてきた遺伝子組み換え食品に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Visual Aids を紹介。
- 10 SNS と人間関係 ① SNS と人間関係に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
- 11 SNS と人間関係 ② SNS と人間関係に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
- 12 SNS と人間関係 ③ 各学生が英語で書いてきた SNS と人間関係に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Q&A の方法を紹介。
- 13 プレゼンテーション 1 各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
- 14 プレゼンテーション 2 各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。
小テストとまとめ 秋学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ってきたか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各 Unit 初回授業の準備学習は、HOMEWORK と指定されているページ、2回目は Part A Speech Content まで、3回目は Part A Speech Writing と Part B を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 発表 40 % 小テスト 20 % 遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れないことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「現代の諸相」

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年：初級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では、English1 と English2 で学んだ、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能能力をさらに深めることを目指す。学生はテキストブックを通して、食べ物や健康についての身近な問題から、地球温暖化問題のようなグローバルな事象について英語を用いて考察する。また、テキストブックに加えて、新聞や雑誌などのメディアの記事を読むことで、知識と語彙が増強されることが望ましい。このクラスでは、現代の諸相について、自らの考えをディスカッションやライティングなどで発表できる能力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の内容を正確に理解する。
- ・辞書を使うことなく、初見でもある程度の早さで読み、情報を得る。
- ・リスニング力を高める。
- ・自分の意見を整ったパラグラフ文で表現できる。
- ・英語で自分の考えを発表し、他の人に英語で質問できる。
- ・単に英語を学ぶだけでなく、国際問題などについて学び、自分の意見を発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に 1 ユニットを二回の授業でカバーするが、テキストブック以外にも読む量を確保するために、テキストブックに関連したテーマや、時事問題記事を使用することもある。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。グループワークを積極的に取り入れ、リアクションペーパーの提出により、授業の理解度と、教師との意思の疎通を図る。他に、リーディング力と語彙力を伸ばすために補助教材を用いる。授業には、毎回テキストブックと補助教材などを予習して臨むことを必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について。
2	1-1 Stereotypes and Racism	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
3	1-2 Stereotypes and Racism	Writing and Speaking ; TOEIC Test Reading
4	2-1 Information and Communication	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
5	2-2 Information and Communication	Writing and Speaking ; TOEIC Test Reading
6	3-1 Culture and Fashion	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
7	3-2 Culture and Fashion	Writing and Speaking ; TOEIC Test Reading
8	4-1 Health	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
9	4-2 Health	Writing and Speaking ; TOEIC Test Reading
10	5-1 Food	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
11	5-2 Food	Conclusion, Writing and Speaking ; TOEIC Test Reading
12	6-1 A Sound Material-Cycle Society	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
13	6-2 A Sound Material-Cycle Society	Writing and Speaking ; TOEIC Test Reading
14	期末試験	テキストブック、副教材、プリント類から出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブック及び副教材などの予習を義務付け、授業態度を平常点に反映する。適宜提出を求めるレポート類の提出状況もまた、平常点の対象となる。それゆえ、学生は授業前に予習を十分行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

1. *CLIL Global Issues*, Shigeru Sasajima その他、三修社、2018年、1900円
2. *TOEIC Test Reading 550*, Rieko Kimura and Hiroko Katanoda、南雲堂、2012年、700円

【参考書】

(参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013年、1800円

『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社DHC、2011年、1800円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験(40%)と合わせて総合評価する。

必修科目であることから、欠席は4回までとし、4回以上欠席した場合、単位を与えない。授業開始から30分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15分以上の遅刻2回を欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通して、学生との意思の疎通を改善することができた。時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書（電子辞書）

【その他の重要事項】

携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to further enhance the students' skills in reading, writing, listening, and speaking. Through the textbook, students will study about the comprehensive topics such as food and health, in addition to global issues like war and peace. Students will also be provided with articles from newspapers and magazines to open their minds about global issues and to reinforce their vocabularies.

This class aims to develop the students' comprehensive English skills, which will further enhance the students' expression of their own opinion on global issues through discussions and writings.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：「現代の諸相」

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法2年：初級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3では、English1とEnglish2で学んだ、「読む、書く、聞く、話す」という4技能能力をさらに深めることを目指す。春学期に引き続き、学生はテキストブックを通して食べ物や健康についての身近な問題から、地球温暖化問題のようなグローバルな事象について英語を用いて考察する。また、テキストブックに加えて、新聞や雑誌などのメディアの記事を読むことで、知識と語彙が増強されることが望ましい。

このクラスでは、現代の諸相について、自らの考えをディスカッションやライティングなどで発表できる能力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の内容を正確に理解する。
- ・辞書を使うことなく、初見でもある程度の早さで読み、情報を得る。
- ・リスニング力を高める。
- ・自分の意見を整ったパラグラフ文で表現できる。
- ・英語で自分の考えを発表し、他の人に英語で質問できる。
- ・単に英語を学ぶだけでなく、国際問題などについて学び、自分の意見を発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に1ユニットを二回の授業でカバーするが、テキストブック以外にも読む量を確保するために、テキストブックに関連したテーマや、時事問題記事を使用することもある。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

グループワークを積極的に取り入れ、リアクションペーパーの提出により、授業の理解度と、教師との意思の疎通を図る。他に、リーディング力と語彙力を伸ばすために補助教材を用いる。授業には、毎回テキストブックと補助教材などを予習して臨むことを必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Topic 7-1 Global Warming	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
2	Topic 7-2 Global Warming	Writing and Speaking; TOEIC Test Reading
3	Topic 8-1 Energy	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
4	Topic 8-2 Energy	Writing and Speaking; TOEIC Test Reading
5	Topic 9-1 Ecosystems and Humans	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
6	Topic 9-2 Ecosystems and Humans	Writing and Speaking; TOEIC Test Reading
7	Topic 10-1 Endangered Species	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
8	Topic 10-2 Endangered Species	Writing and Speaking; TOEIC Test Reading
9	Topic 11-1 International Relationships	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
10	Topic 11-2 International Relationships	Writing and Speaking; TOEIC Test Reading
11	Topic 12-1 War and Peace	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
12	Topic 12-2 War and Peace	Writing and Speaking; TOEIC Test Reading
13	Topic 14 Global Citizenship	Listening, Discussion, Reading, Reading Data
14	期末試験	テキストブック、副教材、プリント類から出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブック及び副教材などの予習を義務付け、授業態度を平常点に反映する。適宜提出を求めるレポート類の提出状況もまた、平常点の対象となる。

それゆえ、学生は授業前に予習を十分行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

1. *CLIL Global Issues*, Shigeru Sasajima その他、三修社、2018年、1900円
2. *TOEIC Test Reading 550*, Rieko Kimura and Hiroko Katanoda、南雲堂、2012年、700円（副教材）

【参考書】

（参考まで）

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013年、1800円

『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社DHC、2011年、1800円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験(40%)と合わせて総合評価する。

必修科目であることから、欠席は4回までとし、4回以上欠席した場合、単位を与えない。授業開始から30分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15分以上の遅刻2回を欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通じて、学生との意志の疎通を改善することができた。時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書（電子辞書）

【その他の重要事項】

携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to further enhance the students' skills in reading, writing, listening, and speaking. Through the textbook, students will study about the comprehensive topics such as food and health, in addition to global issues like war and peace. Students will also be provided with articles from newspapers and magazines to open their minds about global issues and to reinforce their vocabularies.

This class aims to develop the students' comprehensive English skills, which will further enhance the students' expression of their own opinion on global issues through discussions and writings.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

猪俣 佳瑞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法 2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1,2での学びを踏まえ、4技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事を扱ったニュースなどを読む・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題として捉え直し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。

- ・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
- ・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
- ・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
- ・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたかどうかスクリプトも使用し特定のトピックで類出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、進め方の説明 自己紹介など
2	イントロダクション Critical Thinking（批判的思考）を習得する ①	人間を「イヌ派」と「ネコ派」に分ける、という身近なトピックスを扱ったリーディング素材を使用し、与えられた命題に対して批判的な思考を組み立てる方法を学ぶ。意見を日本語で確認した上で、英語にする英作文練習。
3	イントロダクション Critical Thinking（批判的思考）を習得する ②	イヌ派とネコ派に関するリスニング、命題に対して批判的に組み立てた各自の意見を、ペアやグループで英語で発表するスピーキング演習。
4	美容整形の功罪①	美容整形に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。美容整形の功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	美容整形の功罪②	美容整形に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	美容整形の功罪③	各学生が英語で書いてきた美容整形に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つPhysical Aspects 1を紹介。
7	社内公用語は英語①	社内公用語に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
8	社内公用語は英語②	社内公用語に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。

9	社内公用語は英語 ③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Oral Aspects 1 を紹介。
10	レディーファースト ①	日本におけるレディーファーストに関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
11	レディーファースト ②	レディーファーストに関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
12	レディーファースト ③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Oral Aspects 2 を紹介。
13	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション 2 小テストとまとめ	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。 春学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ったか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各 Unit 初回授業の準備学習は、**HOMEWORK** と指定されているページ、2回目は **Part A Speech Content** まで、3回目は **Part A Speech Writing** と **Part B** を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 発表 40 % 小テスト 20 %

遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れぬことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

猪俣 佳瑞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

法 2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期から引き続き、**English1,2** での学びを踏まえ、4技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事扱ったニュースなどを読む・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題として捉え直し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。

- ・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
- ・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
- ・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
- ・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで類出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリンピックの商業化 ①	オリンピックの商業化に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
2	オリンピックの商業化 ②	オリンピックの商業化に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
3	オリンピックの商業化 ③	各学生が英語で書いてきたオリンピックの商業化に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 3 を紹介。
4	国際結婚 ①	国際結婚に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	国際結婚 ②	国際結婚に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	国際結婚 ③	各学生が英語で書いてきた国際結婚に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 2 を紹介。
7	遺伝子組み換え食品 ①	遺伝子組み換え食品に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。

- 8 遺伝子組み換え食品 ② 遺伝子組み換え食品に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
- 9 遺伝子組み換え食品 ③ 各学生が英語で書いてきた遺伝子組み換え食品に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Visual Aids を紹介。
- 10 SNS と人間関係 ① SNS と人間関係に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
- 11 SNS と人間関係 ② SNS と人間関係に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
- 12 SNS と人間関係 ③ 各学生が英語で書いてきた SNS と人間関係に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Q&A の方法を紹介。
- 13 プレゼンテーション 1 各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
- 14 プレゼンテーション 2 各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。
小テストとまとめ 秋学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ってきたか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各 Unit 初回授業の準備学習は、HOMEWORK と指定されているページ、2回目は Part A Speech Content まで、3回目は Part A Speech Writing と Part B を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 発表 40 % 小テスト 20 % 遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れないことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English speaking World

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2 年：上級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 3 course builds upon the skills and knowledge students gained in English 1 and English 2, and requires students to exercise all four communication skills: reading, writing, listening and speaking. The course explores different topics related to Modern society, from the perspectives of an International journalist. The course will compare Japanese society/lifestyle and other cultures. There are three major themes of the course which are inter-related:

- 1) The importance of food in cultures
- 2) Meeting people from different cultures
- 3) Living in different cities

【到達目標】

Students will enhance their English reading skills and critical thinking through reading various texts and will deepen their understanding of different cultures in the process. Students will improve their communication ability by practicing voicing their opinions about important issues related to society and lifestyle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The textbook for this subject will be supplemented by additional news articles or TED topics that will require comprehension analysis. Students will be required to prepare questions for discussion in small (random) groups and present their group opinions to the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview and join CMS. Grading and Attendance Basic structures review
2	Food cultures	Listening: Vocabulary Climate and food
3	Food culture	Speaking: Food staples Describing food
4	Food culture	Writing: Japanese food Video: Different food
5	Meeting people from other cultures	Vocabulary: Describe life experience Small talk topics
6	Meeting people from other cultures	Speaking: "Breaking the Ice" Overcome language barriers
7	Meeting people from other cultures	Writing: Video:
8	Urbanization	Listening and Note taking Video and Script. Changing cities
9	Urbanisation	Vocabulary: The future of cities. Video: ECO cities
10	Urbanisation	Speaking: What more do we need to make a great city?
11	Urbanisation	TED Video: How food shapes our cities (and our bodies)
12	Ancient cities	The History of Tokyo and food culture
13	Modern cities	Video: Having fun in the city
14	Bring it all together	Group work. Prepare and present a summary of the topics covered in this course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

World English 2, (2nd Edition), Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase, CENGAGE LEARNING

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework: 40%

Classroom Worksheets: 40%

Participation: 20%

There will be 10 assessments during the semester. Each assessment will have a course value of 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Please bring Japanese/English and English/English Dictionaries.

A Thesaurus will also be useful. (Most electronic dictionaries have all three functions).

Apps for smartphones / mobile devices are acceptable.

Also, a portable device that supports a Word Processor (Google Docs, Microsoft Word, Apple Pages ®) or similar.

Access to Cloud computing may be an advantage.

Voice recognition software may be an advantage.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number. Please download Google Classroom to your device before our first class. Course code is: 5hkzgj7

【Outline and objectives】

Students will be able to discuss, and give opinions on, some contemporary issues using English communication.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English speaking World

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級／英語／現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 3 course builds upon the skills and knowledge students gained in English 1, English 2 and English 3 1. It requires students to exercise all four communication skills: reading, writing, listening and speaking. The course explores different Aspects of Modern society, from the perspectives of an International journalist. The course will compare Japanese society/lifestyle and other cultures. There are three major themes of the course which are inter-related:

- 1) Health and health systems
- 2) Facing and overcoming challenges
- 3) Change and change management

【到達目標】

Students will enhance their English reading skills and critical thinking through reading various articles and will deepen their understanding of different cultures. Students will improve their communication ability by practicing voicing their opinions, in small groups, about important issues related to society and lifestyle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The textbook for this subject will be supplemented by additional news articles or TED topics that will require comprehension analysis. Students will be required to prepare questions for discussion in small (random) groups and present their group opinions to the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview, Grading and Attendance. Organs and systems. Comparatives and superlatives
2	Health and Health systems	Listening: Genetics vs lifestyle
3	Health and Health systems	Reading: Natural Remedies
4	Health and Health systems	Video: The Human body
5	Facing and overcoming challenges	Vocabulary of "challenge". Practice using Basic Past structures
6	Facing and overcoming challenges	Speaking about past accomplishments.
7	Facing and overcoming challenges	Reading / Writing about challenges Video: A challenging vocation
8	Change and Change management	Vocabulary of life stages. Unfinished business
9	Change and Change management	Listening: Life stages Vocabulary expansion adjectives and adjective opposites
10	Change and Change management	Video 1 Overcoming change. Video 2: Cultural differences
11	Change and Change management	TED Video: Economics, Technology and social equity
12	Changes in Technology	A.I., Blockchain and Robotics. Will these help or hinder us?
13	Changes in technology	Our aging society and do we really want to live forever?
14	Bring it all together	Group work. Prepare and present a summary of the topics covered in this course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

World English 2, (2nd Edition), Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase, CENGAGE LEARNING

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework: 40%

Classroom Worksheets: 40%

Participation: 20%

There will be 10 assessments during the semester. Each assessment will have a course value of 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Please bring Japanese/English and English/English Dictionaries.

A Thesaurus will also be useful. (Most electronic dictionaries have all three functions).

Apps for smartphones / mobile devices are acceptable.

Also, a portable device that supports a Word Processor (Google Docs, Microsoft Word, Apple Pages ®) or similar.

Access to Cloud computing will be required.

Voice recognition software may be an advantage.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

【Outline and objectives】

Students will be able to discuss, and give their opinions about, contemporary issues

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

中田 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

文（哲日英）2年：上級／英語／英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Course Title: Exploring the Culture of English Speaking Countries through Television Programs

This is a content-based course aimed at helping students improve English in the areas of reading, listening, writing, and speaking. In this course, students will practice and improve their English while learning about the culture of English speaking countries (e.g., USA, UK, and New Zealand) through television programs.

【到達目標】

By the end of the course, students should be able to (1) watch and understand television programs in English, and (2) discuss cultural issues related to the episodes.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a variety of previewing and post-viewing activities, as well as video-screening of English television programs. Students will also give short presentations on cultural issues related to the episodes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course introduction
第2回	Unit 1 Pilot	Viewing & Post-viewing activities
第3回	Unit 2 Pilot	Viewing & Post-viewing activities
第4回	Lucky Dog	Previewing activities & Viewing
第5回	Lucky Dog	Post-viewing activities
第6回	Presentation practice	Enhancing eye contact
第7回	Review	Mid-term presentations
第8回	Unit 3 Run for your wife	Viewing & Post-viewing activities
第9回	Unit 4 Run for your wife	Viewing & Post-viewing activities
第10回	The Nerdvana Annihilation (1)	Previewing activities & Viewing
第11回	The Nerdvana Annihilation (2)	Post-viewing activities
第12回	Unit 5 The bicycle thief	Viewing & Post-viewing activities
第13回	Review	Final presentations
第14回	Review	Final presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework (e.g., vocabulary practice, preparing a summary of a video) and prepare for in-class activities. They will also need to prepare for presentations.

【テキスト（教科書）】

Modern Family Episode 1-5 / 海外ドラマ総合教材「モダン・ファミリー」松柏社。

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Oral presentations (40%), quizzes (30%), class participation and in-class activities (30%)

A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

N/A (this is the first time the course is offered)

【その他の重要事項】

This course will be taught in English and students will be expected to interact in English at all times in class.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

中田 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Course Title: "Course Title: Exploring the Culture of English Speaking Countries through Television Programs"

This is a content-based course aimed at helping students improve English in the areas of reading, listening, writing, and speaking. In this course, students will practice and improve their English while learning about the culture of English speaking countries (e.g., USA, UK, and New Zealand) through television programs.

【到達目標】

By the end of the course, students should be able to (1) watch and understand television programs in English, and (2) discuss cultural issues related to the episodes.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a variety of previewing and post-viewing activities, as well as video-screening of English television programs. Students will also give short presentations on cultural issues related to the episodes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 6 The bicycle thief	Viewing & Post-viewing activities
第 2 回	Mr. Bean (1)	Previewing activities & Viewing
第 3 回	Mr. Bean (2)	Post-viewing activities
第 4 回	Unit 7 Come fly with me	Viewing & Post-viewing activities
第 5 回	Unit 8 Come fly with me	Viewing & Post-viewing activities
第 6 回	Presentation practice	Posture and eye contact
第 7 回	Review	Mid-term presentations
第 8 回	Unit 9 The incident	Viewing & Post-viewing activities
第 9 回	Unit 10 The incident	Viewing & Post-viewing activities
第 10 回	A Very Merry Mistake	Viewing & Post-viewing activities
第 11 回	The Bath Item Gift Hypothesis (1)	Previewing activities & Viewing
第 12 回	The Bath Item Gift Hypothesis (2)	Post-viewing activities
第 13 回	Review	Final presentations
第 14 回	Review	Final presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework (e.g., vocabulary practice, preparing a summary of a video) and prepare for in-class activities. They will also need to prepare for presentations.

【テキスト（教科書）】

Modern Family Episode 1-5 / 海外ドラマ総合教材「モダン・ファミリー」松柏社。

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Oral presentations (40%), quizzes (30%), class participation and in-class activities (30%)

A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

N/A (this is the first time the course is offered)

【その他の重要事項】

This course will be taught in English and students will be expected to interact in English at all times in class.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ロバート・D・ヒントン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy and confidence in the areas of speaking, listening, reading and writing. Students will also learn about the inner workings of American businesses and companies from the viewpoint of the workers and their CEOs and how those businesses impact American culture and society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each week students will see "real life" business dealings by way of "The Apprentice", an American reality show. As they watch, the students will complete a listening comprehension worksheet and take notes about different aspects of the company, the workers and the CEO. After each program, students will participate in discussions and activities related to that specific episode. This class incorporates Active Learning and task based activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Meet the contestants	Introduction of business culture and education system in America
Week 2	Sales	Developing an innovative product and marketing plan
Week 3	Advertising campaigns	Creating an advertising campaign for an innovative product
Week 4	Business ethics	A look at the importance of ethics in business dealings
Week 5	Fund raising for charities	Raising money for a charity - how businesses contribute to society
Week 6	Real Estate	Developing and presenting a "dream house"
Week 7	Marketing a food outlet	Increasing sales of a food outlet/restaurant
Week 8	Group planning for poster presentation	Group planning for poster session
Week 9	Poster presentation session	Students participate in a poster presentation
Week 10	Poster presentation session	Students participate in a poster presentation
Week 11	Transportation and distribution	Design an innovative transportation and distribution system
Week 12	Environmental Impact of companies	A look at how companies can contribute to a positive impact on the environment
Week 13	Managing an event	Design and implementation of a business event
Week 14	The Apprentice finale	An analysis of the winning strategy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be asked to prepare for the upcoming class. This will include activities such as: researching a specific topic, brainstorming, writing a report, and/or preparing for discussions and presentations

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used in this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on weekly homework (40%), classroom activities such as: listening comprehension worksheets, note taking, participation in discussions (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor appreciates student feedback and alters materials and procedures based on that feedback.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ロバート・D・ヒント

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級／英語／英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy and confidence in the areas of speaking, listening, reading and writing. Students will also learn about the inner workings of American businesses and companies from the viewpoint of the workers and their CEOs and how those businesses impact American culture and society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each week students will see "real life" business dealings by way of "Undercover Boss", an American reality show. As they watch, students will complete a listening comprehension worksheet and take notes about different aspects of the company, the workers and the CEO. After each program, students will participate in discussions and do activities related to that specific episode. This class incorporates Active Learning and task based activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	The Beginning of Undercover Boss - 7-11	Research 20 interesting facts about 7-11 - group discussion
Week 2	Herschend Entertainment	Partner interview of selected entertainment venue
Week 3	Roto Rooter	Review the Roto Rooter website and a comparable Japanese company - present findings
Week 4	CSI Commerce	Discussion of on-line shopping and websites
Week 5	Loehman's	Retail outlet presentation
Week 6	Alfred Angelo	Discuss 3 reasons for each of the 5 chosen CEOs or owners
Week 7	CEO/Owner presentation planning	Group work for CEO or owner presentation
Week 8	Student PowerPoint presentations	Student presentations and note taking sessions
Week 9	Student PowerPoint presentations	Student presentations and note taking sessions
Week 10	Cinnabon	Share research findings of fast food retail outlets - small group discussion
Week 11	Dutch Bros Coffee	Presentation of coffee facts and figures
Week 12	Mohecan Sun	Minority group presentations
Week 13	Peavey Electronics	Ecology quiz and group brainstorming
Week 14	Hudson Group	Partner interview sheet - "dream vacation"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be asked to prepare for the upcoming class. This will include activities such as: researching a specific topic, brainstorming, writing a report and/or preparing for discussions and presentations

【テキスト（教科書）】

No text will be used in this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on weekly homework (40%), classroom activities such as: listening comprehension worksheets, note taking, participation in discussions (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor appreciates student feedback and alters materials and procedures based on that feedback.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：Euro-American Events and Historical Figures: Part 1

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

文（哲日英）2年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is entitled 'Euro-American Events and Historical Figures: Part 1.'

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will use English to learn about Euro-American Events and Historical Figures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles and dialogues on various topics related to Euro-American culture. They will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view, and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected from six topic categories and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Topic: Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Class 2	Topic: Historical Figures 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 3	Topic: World Changing Events 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 4	Topic: World Festivals 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 5	Topic: Famous Historical Sites 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 6	Topic: Inventions that Changed the World 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 7	Topic: American Content 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Class 8	Topic: Historical Figures 2	Content: Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 9	Topic: World Changing Events 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 10	Topic: World Festivals 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 11	Topic: Famous Historical Sites 2	Content: Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 12	Topic: Inventions that Changed the World 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 13	Topic: American Content 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and to reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading and dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Dictation Tests: 10%
Paragraph Writing: 20%
Multi-paragraph Writing 20%
Student Presentations: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time this course has been offered by this instructor.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Euro-American Events and Historical Figures: Part 2

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is entitled 'Euro-American Events and Historical Figures: Part 2.'

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will use English to learn about Euro-American Events and Historical Figures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles and dialogues on various topics related to Euro-American culture. They will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected from six topic categories and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Topic: Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Class 2	Topic: Historical Figures 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 3	Topic: World Changing Events 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 4	Topic: World Festivals 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 5	Topic: Famous Historical Sites 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 6	Topic: Inventions that Changed the World 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 7	Topic: American Content 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Class 8	Topic: Historical Figures 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 9	Topic: World Changing Events 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 10	Topic: World Festivals 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 11	Topic: Famous Historical Sites 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 12	Topic: Inventions that Changed the World 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 13	Topic: American Content 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and to reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading and dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Dictation Tests: 10%
Paragraph Writing: 20%
Multi-paragraph Writing 20%
Student Presentations: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time this course has been offered by this instructor.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

Robert Durham

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a Spring semester English course for Second Year students who have chosen English as their main Second Language. This class will assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] Introductions, in smoothly, natural, friendly English. News video #1/TED Talk video #1.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: News video and/or TED Talk #1.
第2回	News or TED video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第3回	Using the Future tense in English, to explain your Golden Week plans.	Active English spoken expressions, re: Golden Week future plans. News video/TED video #2.
第4回	Actively explaining your Golden Week activities, in spoken English.	Actively speaking about Golden Week, in spoken English, using the Past Tense. News video/TED Talk #2 (continued).
第5回	"How are you?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?" News video/TED Talk #3, part 1.
第6回	Expressing your opinions about Current Affairs News videos/TED Talks, in active, dynamic spoken English.	Pair practice: speaking your opinions about News videos/TED Talks, in active English.
第7回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates, about a Current Affairs topic.
第8回	News or TED Talk video #4, part 1.	Pair practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.

第 9 回	News or TED Talk video #4, part 2.	Explaining, in spoken English, student opinions about the topics in the video.
第 10 回	Use of many different English adjectives, to explain opinions and comments.	Students will explain their opinions about many current topics to classmates, in smooth, Modern English.
第 11 回	News or TED Talk video #5, part 1.	Students will watch the News or TED video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	News or TED Talk video #5, part 2.	Students will watch the News or TED video clip; will be asked to answer questions about it; and will then discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 13 回	Exam, re: topics studied and discussed during the Spring 2018 semester.	Speaking exam. Students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Spring semester.
第 14 回	News video/ TED talk; Summer Break.	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Summer Break plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); attendance/on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

*IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

*

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Robert Durham

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2 年：上級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a Fall semester English course for Second Year students who have chosen English as their main Second Language. This class will assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] "How was your Summer Break?" [Discussing Summer events is smooth, Modern English, using the English Past tense.] News video #1/TED Talk video #1.	Summer Past Tense vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: News video and/or TED Talk #1.
第 2 回	News or TED video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第 3 回	Using the Future tense in English, to explain your Hallowe'en plans.	/Active English spoken expressions, re: Hallowe'en future plans. News video/TED video #2.
第 4 回	Actively explaining your possible Hallowe'en activities, in spoken English.	Actively speaking about Hallowe'en, in spoken English, using the Past Tense. News video/TED Talk #2 (continued).
第 5 回	"How was your ____ ?", & also News video/TED Talk #3, part 1.	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How was your weekend...?" News video/TED Talk #3, part 1.
第 6 回	Expressing your opinions about Current Affairs News videos.	TED Talk #3 part 2, in active, dynamic spoken English.
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates, about a Current Affairs topic.
第 8 回	News or TED Talk video #4, part 1.	Pair practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.

第 9 回	News or TED Talk video #4, part 2.	Explaining, in spoken English, student opinions about the topics in the video.
第 10 回	Use of many different English adjectives, to explain opinions and comments.	Students will explain their opinions about many current topics to classmates, in smooth, Modern English.
第 11 回	News or TED Talk video #5, part 1.	Students will watch the News or TED video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	News or TED Talk video #5, part 2.	Students will watch the News or TED video clip; will be asked to answer questions about it; and will then discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 13 回	Exam, re: topics studied and discussed during the Fall 2018 semester.	Speaking exam. Students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Fall semester.
第 14 回	News video/ TED talk; Summer Break. Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Winter Break plans.	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Winter Break plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); attendance/on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【—】

—

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今、アメリカに何が起きているかを様々な角度から見ることで、アメリカの現状を知る。政治、経済、文化、流行、音楽等の分野で、学生の興味を引くような新聞記事、インターネット、雑誌等から最新の情報を得て、それを正確に且つ迅速に読み込むテクニックを習得する。さらに、グループごとにテーマについて話し合い、要約、コメント力を磨く。さらに、各学生は自分の興味のある話題を他の学生と共有することで互いのアメリカの知識を深めていく。この授業を通して読む、書く、話す、聞くの4技能を学習する。

【到達目標】

スラッシュリーディング習得。

リスニングで内容理解の確認。

グループアクティビティで要約、コメント力をつける。

paragraph writing & essay writing (summarization, expressing own opinions involved)

アメリカの現状のさらなる理解。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

学生中心のグループアクティビティで進められる。スラッシュリーディングで新聞記事の速読、内容理解はグループ内で話し合い、要約し、結論を見つけていく。

リスニングに関しても、各自が聞き取った内容をグループ内でまとめ内容把握に至る。

学生は各自の関心のある話題を選び、それをほかの学生に発信して発表力をつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Marked for life	タトゥーは君にとって OK それとも NO ?
2.	Watch your language	手書き、キーボードの長所、短所を考えよう。
3.	What is the latest news?	ニュースの内容把握。グループでの討論。
4.	Food & cuisine	アメリカ人はなぜ痩せられない？
5.	What is the latest news?	ニュースの内容把握。グループ内での討論。
6.	Getting a driver's license	車社会ならではの運転免許取得法？
7.	Medical tourism	驚くほど日本とは異なる運転免許の取り方
8.	What is the latest news?	今や、治療目的の旅行に、ある人々は群がる。その現状を見る。
9.	What men want?	男性はどんな女性を好むのか？
10.	Why are they smoking marijuana?	レクリエショナルマリファナを合法化していく州の増加をどう見るか？
11.	Why are American strict about alcohol?	アメリカはアルコール飲酒年齢にかなり厳しい、その理由とは？
12.	What is the latest news?	ニュースの内容把握。グループ内で討論。
13.	Final test	wrap up

14. presentation 自分の関心のあるテーマで発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
paragraph & essay writing の課題 /preparing for presentation

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】

Japan Times, New York Times、Web など情報を集める。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) /ライティング・発表・平常点 (40%)
各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

教室内のグループアクティビティでお互いの親密度が回数を追うごとに増していきのは良かった。

【学生が準備すべき機器他】

presentation などの発表には USB、PC などを用を積極的に使用することも薦める。

【Outline and objectives】

This class focuses on America from various perspectives; politics, culture, social issues, music, fads and so forth. In doing so, the students will be exposed to what's going on in America right now. If a particular topic dealt in class gets to their hearts, they might be inspired to learn more and eventually their English skills may be improved as a communication tool. Furthermore this class involves plenty of group activities through which they can enhance the skills to discuss, summarize and express their opinions.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期と同じくアメリカに焦点を当て、今のアメリカに迫る。さらに、アメリカに関する記事を読み、それについてのコメントや要約を書き、CD、映像からの情報を聞いたり話したりすることで英語の4技能である聞く、話す、書く、読む能力を習得する。

【到達目標】

前期と同じ目標を目指し、さらなる強化と学生の動機づけを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

前期のシステムを踏襲し、積極的に学生の独自の目線で選んだトピックをクラス内で取り上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1..	Jackpot justice アメリカはなぜ訴訟が多い？	コーヒーこぼしただけで一獲千金？
2.	What's the latest news?	ニュースの内容把握。グループで討論。
3.	Don't shoot なぜ、アメリカは銃をあきらめられないのか？	なぜ銃にまつわる犯罪が減らないのに銃規制ができないのか？
4.	African American and Caucasian students don't mix いまだ根深く残る人種偏見。	なぜ、白人社会は有色人種を受け入れられないのか？
5.	What's the latest news?	ニュースの内容把握。グループ内で討論。
6.	Illegal アメリカにおける不法移民の現実。	トランプの移民政策はアメリカにとって有益なのか？
7.	American can't speak English? 英語を喋れないアメリカ人。	多人種からなるアメリカ、母国語で会話する彼らは？
8.	What's the latest news?	ニュースの内容把握。グループ内で討論。
9.	Holidays アメリカ人の祝日。	Happy Christmas それとも Merry Christmas?
10.	Yoga, Old but New アメリカのヨガ事情	進化するアメリカのヨガ。
11.	What's the latest news?	ニュースの内容把握。グループ内で討論。
12.	The Megachurch 今流行っている教会とは？	宗教離れが進むアメリカで人を引き付ける教会の形態。
13	final test	wrap up
14.	presentation	関心のあるトピックについて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

writing an essay/ preparing for presentation

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

same as the first semester

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) /ライティング・発表、グループ活動等平常点 (40%)
各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は日本語での討論も許されているので、精神的に楽。

【学生が準備すべき機器他】

presentation には USB、PC など有効に使う。

【その他の重要事項】

積極的な参加こそこのクラスを最大限に生かす条件。常にアメリカのニュース等にアンテナを張っておく。

【Outline and objectives】

We will follow the previous semester style and enhance the students' motivation and curiosity to know more about America. Through group activities, the students stimulate each other to express their own opinions more convincingly.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Bildungsroman

アンドリュウ・チェン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級／英語／現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The object of this course is for students to practice and improve their English listening, speaking, reading, and writing skills while examining the sub-genre of prose fiction known as the bildungsroman, also called Coming of Age fiction and the novel of formation. We will delve into this genre and explore the elements that make it popular: youth, self-cultivation, individual development, moral consciousness, ethical awareness, initiation and socialization.

In the spring semester, students focus on bildungsroman in the American high school setting the last decades of the twentieth century. listening, reading, and discussion skills are emphasized. Students will read and discuss two Bildungsroman novels with characters and settings in Michigan in the 1970's and Pennsylvania in the 1990's.

【到達目標】

Students aim to develop their academic skills of ① reading, ② writing, and ③ presentation skills. Students will read novels and short stories, learn to write summaries and opinion paragraphs, and practice presenting their ideas orally in class. Students will also learn how to write an academic and literary essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students read the assigned passages before class and take a quiz at the beginning of class. The instructor will summarize the reading passage initially but students will take turns during the course. Discussion questions written by students and the instructor will be given and students participate in discussion in small groups and eventually in one class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1st	現代の諸相、Suicide	The Perks of Being a Wallflower
2nd	現代の諸相、Bullying	The Perks of Being a Wallflower
3rd	現代の諸相、Drugs and alcohol	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
4th	現代の諸相、Homosexuality	The Perks of Being a Wallflower
5th	現代の諸相、Physical and Sexual Abuse	The Perks of Being a Wallflower
6th	現代の諸相、Parenting	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
Midterm Exam	Written Exam	The Perks of Being a Wallflower
8th	現代の諸相、Adolescent Love	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
9th	現代の諸相、Love and Innocence Lost	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
10th	現代の諸相、Desire for Freedom	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
11th	現代の諸相、Dreams and Memories	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
12th	現代の諸相、Passivity	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
Final Presentation	Oral presentation of critique and reviews	The Perks of Being a Wallflower and the Virgin Suicides
Final Exam	Review the themes and skills covered in the semester.	Examination to showcase the skills acquired in the semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading the assigned reading passages and writing down comments and questions on the passages.

【テキスト（教科書）】

The Perks of Being a Wallflower by Stephen Chbosky (ISBN 978-1847394071)

【参考書】

The Virgin Suicides by Jeffrey Eugenides (ISBN 978-0312428815)

【成績評価の方法と基準】

Quizzes 20%
Discussion leading 10%
Midterm Exam 20%
Final Presentation 20%
Final Exam 30%

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will adjust the amount of weekly reading to the pace of the class.

【学生が準備すべき機器他】

Read only the English original. Reading of the Japanese translation should be for reference and not in place of reading in English.

【その他の重要事項】

I take attendance for every class. Two unexcused absences will affect your grade. Students who miss more than three classes will not receive credit for the course. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started counts as an absence. Two times late equals one absence. This course will be conducted in English.

【Outline and objectives】

In the fall semester, students will focus on bildungsroman in literature set in England in the nineteenth century. Reading and writing skills are emphasized.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：The Anglican and American Bildungsroman

アンドリュー・チェン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The object of this course is for students to practice and improve their English reading, writing, and discussion skills while examining the sub-genre of prose fiction known as the bildungsroman. It is also called coming of age fiction. We will delve into this genre and explore the elements that make it popular: youth, self-cultivation, individual development, moral consciousness, ethical awareness, initiation and socialization.

【到達目標】

Students will first focus on bildungsroman through novels set in the Midlands and London, England in the nineteenth century. Students will read Great Expectations, The Mill on the Floss, and Jane Eyre. The editions used will be the Oxford Bookworm and McMillan Graded readers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students read and write summary paragraphs of assigned readings before class. Students discuss and share their views of the plot during class. Topics and issues raised in the reading will be presented to the class in individual and group presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1st	Introduction to the Bildungsroman novel.	Bildungsroman in Victorian England
2nd	Great Expectations The Village	Portrait of Victorian England and Rural Life
3rd	Great Expectations The Satis House	Emerging Middle Class, Women and Property
4th	Great Expectations London	Industrial Revolution and the Urban City
5th	Great Expectations Pip and Magwitch	Moral Consciousness
6th	Great Expectations Estella and Miss Havisham	Victorian Psychology and Vicarious Living
7th	Academic Writing	Paragraphs to Essays
8th	Selected Topics and Issues	Student Presentations
9th	Jane Eyre Gateshead	Class and Gender
10th	Jane Eyre Lowood Institute	Orphanages and Charity Schools
11th	Jane Eyre Thornfield	English Country Houses, Workers, Gentlemen, and Landowners
12th	Jane Eyre Moor House	Marriage and Divorce, Christianity, Separation of Church and State,
13th	Jane Eyre Ferndean Manor	Feminism and Confinement
14th	Course Themes	Student Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading in English must be done before class. Preparation of commentary to be shared in class.

【テキスト（教科書）】

Great Expectations by Charles Dickens (ISBN-13: 978-0194792264)

Jane Eyre by Charlotte Bronte (ISBN-13: 978-1904633037)

【参考書】

Richardson, Dorothy, et al, (1986) The Myth of the Heroine: The Female Bildungsroman in the Twentieth Century. (1986) New York
Hagan Jr., John H. "Structural Patterns in Dickens's Great Expectations." ELH. The Johns Hopkins University Press 21.1 (1954): 54 - 66.

Boes, Tobias. (2006). Modernist Studies and the Bildungsroman: A Historical Survey of Critical Trends. *Literature Compass* 3.2 (March 2006): 230-43.

【成績評価の方法と基準】

Quizzes 20%
Discussion leading 10%
Midterm Presentation 20%
Final Presentation 20%
Final Course Paper 30%

【学生の意見等からの気づき】

Amount of weekly reading adjusted to the level of the class.

【その他の重要事項】

I take attendance for every class. Two unexcused absences will affect your grade. Students who miss more than three classes will not receive credit for the course. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started counts as an absence. Two times late equals one absence. This course will be conducted in English.

【Outline and objectives】

The object of this course is for students to practice and improve their English reading, writing, and discussion skills while examining the sub-genre of prose fiction known as the bildungsroman. It is also called coming of age fiction. We will delve into this genre and explore the elements that make it popular: youth, self-cultivation, individual development, moral consciousness, ethical awareness, initiation and socialization.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：中級／英語／英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. In this course students will spend time using English to learn about American culture from a number of diverse perspectives. Students will learn about American culture through various sources of information and will incorporate a variety of topics about which they will express their opinion. In addition, students will also practice the fundamental English skills necessary to accomplish the above.

【到達目標】

Students will read and understand rather simple English texts without relying too much on dictionaries for understanding.

Students will learn to express their own opinion in speaking and writing, including how to examine content from a critical thinking perspective.

Students will not only learn about American culture, which continues to have a large impact on the world, but will also be able to apply that knowledge while improving their English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Warm up activities will include listening practice from various English websites. Various target language objectives will be emphasized during each class period. For example, while reading from text, an emphasis may be placed on building vocabulary as well as the comprehension of passages. When presentations are the focus, an emphasis will be placed on using the appropriate posture and body language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 3	Course overview: policies, procedures and student expectations.
2	American Food and Wine	Reading and Listening practice using DVD video.
3	American food and wine	Reading and Writing practice using the expressions from the textbook.
4	American Food and Culture.	Listening and Vocabulary Quiz; Preparation for Presentation 1.
5	American Food Culture.	Group presentations 1: Images of American food culture and products; Student reactions.
6	Sports in the United States	Listening and Reading practice from DVD and text.
7	Sports in the United States: Baseball	Reading and Writing practice using expressions from the textbook.
8	Sports in the U.S.	Listening and Vocabulary Quiz 2. Practice and Preparation for Sports Presentations.
9	Sports in the U.S. and Japan	Group Presentations 2: Sports in the U.S. and Japan. Student reactions.
10	The World of Disney	Listening practice from DVD; Reading comprehension from text.
11	The World of Disney	Reading and Writing practice using expressions from the textbook
12	Disney Movies and Gender.	Discussion of how gender is depicted in scenes from Disney movies. Listening and Reading practice from Unit 4.
13	Entertainment: Hollywood, California	Group presentations on chosen topics from Disney and Hollywood entertainment; Student reactions

14 Term end review. Review Test on Units 1-4:
Listening, Reading and Writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed any readings, writings or listening tasks assigned from the previous week. This is of utmost importance in order to fully participate in class activities (see below Grading criteria) and for the benefit of the class as a whole.

【テキスト（教科書）】

American Dream: Video Reading and Listening in American culture.(Asahi Press, Japan)

【参考書】

An English-Japanese/Japanese-English dictionary is highly recommended for each class session. Other supplemental readings and handouts will be provided at the discretion of the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on the following:

*Class participation: 30% (including the timely completion of homework assigned in the previous class)

Presentations: 30%

Unit Quizzes and Final Review Test: 40%

*Please note that in principle no more than three absences are permitted throughout the term. Without a valid reason (i.e. medical emergency/family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 II builds upon the skills and knowledge gained from English 1,2 and the first semester of English 3. It will continue to aim to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will spend time using English to learn about American culture from a number of diverse perspectives. Students will learn about American culture through various sources of information and will incorporate a variety of topics about which they will express their opinion. In addition, students will also practice the fundamental English skills necessary to accomplish the above.

【到達目標】

Students will read and understand rather simple English texts without relying too much on dictionaries for understanding.

Students will learn to express their own opinion in speaking and writing, including how to examine content from a critical thinking perspective.

Students will not only learn about American culture, which continues to have a large impact on the world, but also be able to apply that knowledge while improving their English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Various target language objectives will be emphasized during each class period. For example, while reading from text, an emphasis may be placed on building vocabulary as well as the comprehension of passages. When presentations are the focus, an emphasis will be placed on using the appropriate posture and body language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the Fall term.	Review of class policies and procedures; student expectations for Fall term. assignment for next class.
2	Unit 5: The Statue of Liberty.	Reading and Listening practice using DVD video.
3	The Statue of Liberty.	Readings and Writing practice using the expressions from the textbook.
4	The Statue of Liberty	Unit 5 Listening and Vocabulary Quiz. Preparation for first group presentations.
5	The Melting Pot	Group Presentations on the meaning of freedom and student reactions. Introduction to Unit 6.
6	The Melting Pot	Practice reading and listening using the text and DVD video
7	The Melting Pot	Practice reading and writing using the expressions and vocabulary in the textbook.
8	Unit 6 Review	Unit 6: Listening and Vocabulary Quiz; preparation for Presentations
9	Cultural Diversity	Group presentations on chosen topics of culture; student reactions.
10	Jazz, Gospel, Blues and Rock n Roll	Reading and Listening practice using the text and DVD video.
11	Jazz, Gospel, Blues and Rock n Roll	Practice reading and writing using the expressions and vocabulary in the textbook.
12	Cars and Planes	Listening and Vocabulary Quiz on Unit 7; Introduction to Unit 9 Reading and Listening practice using the text and DVD video.

13	Cars and Planes	Final Group presentations on chosen topics from Units 7,8 and 9.
14	Term End Review	Units 5-9 Final Test: Listening, Reading and Writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed any readings, writings or listening tasks assigned from the previous week. This is of utmost importance in order to fully participate in class activities (see Grading criteria below) and for the benefit of the class as a whole.

【テキスト（教科書）】

American Dream: Video Reading and Listening in American Culture.(Asahi Press, Japan)

【参考書】

An English-Japanese/Japanese-English dictionary is highly recommended for each class session. Other supplemental readings will be provided at the discretion of the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on the following:

*Class participation: 30% (including the timely completion of homework assigned in the previous class)

Presentations: 30%

Unit quizzes and final test: 40%

*Please be aware that in principle no more than three absences are permitted throughout the term. Without a valid reason (i.e. medical emergency/ family problem) a fourth absence will result in a failing grade for the term.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリスのニュース

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、ライティングの演習を行います。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト British News Update を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、Summary を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Unit 1 Repairing Big Ben 前半	授業の進め方の説明 英作文についての説明 Unit1 のリスニング
2	Unit 1 Repairing Big Ben 後半	テキスト P6 Summary のリスニング テキスト P1~6
3	Unit 2 Learning to Walk Again	テキスト P12 Summary のリスニング テキスト P7~12
4	Unit 3 A Secret Garden in London	テキスト P18 Summary のリスニング テキスト P13~18
5	Unit 4 Unpaid Internships	テキスト P24 Summary のリスニング テキスト P19~24
6	前半のまとめと英作文 1、ディスカッション	これまで扱ったニュースに関する意見等の英作文
7	中間試験とまとめ	第 1 回から第 6 回までの授業内容を試験範囲とします。
8	Unit 5 The Wedding Gallery	テキスト P30 Summary のリスニング テキスト P25~30
9	Unit 6 A Modern Stream Train	テキスト P36 Summary のリスニング テキスト P31~36
10	Unit 7 A T-shirt Exhibition	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P37~42
11	Unit 8 A Generation Z 前半	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P43~48
12	Unit 8 Generation Z 後半	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P43~48
13	後半のまとめと英作文 2、ディスカッション	これまで扱ったニュースに関する意見等の英作文
14	期末試験とまとめ	第 8 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、News Story の英文を事前に読んでください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの Making a Summary のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。

【テキスト（教科書）】

British News Update（金星堂 2019）¥2,600（+ Tax）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、提出物など）25 % 小テストの点数 15 % で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席、遅刻の回数に応じて減点となります。30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士のディスカッションなどの機会を増やしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリスのニュース

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、ライティングの演習を行います。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト **British News Update** を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、**Summary** を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文もを行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit9 Veganuary 前半	授業についての説明と Unit9 のリスニング
2	Unit9 Veganuary 後半	テキスト P54 Summary のリスニング テキスト P49～54
3	Unit10 Wind Power in Britain	テキスト P60 Summary のリスニング テキスト P55～60
4	Unit11 Preventing Transgender Bullying	テキスト P66 Summary のリスニング テキスト P61～66
5	Unit12 A Plastic Tenner	テキスト P72 Summary のリスニング テキスト P67～72
6	英作文 1 回目	これまでのニュースについての意見等を英作文してもらいます
7	中間試験と前半のまとめ	第 1 回から第 6 回までの授業内容を試験範囲とします。
8	Unit 13 How to Delay Ageing	テキスト P78 Summary のリスニング テキスト P73～78
9	Unit14 Schools Deal with Fake News 前半	テキスト P84 Summary のリスニング テキスト P79～84
10	Unit14 Schools Deal with Fake News 後半	テキスト P84 Summary のリスニング テキスト P79～84
11	Unit15 Experiences of Sexual Harassment 前 半	テキスト P90 Summary のリスニング テキスト P85～90
12	Unit15 Experiences of Sexual Harassment 後 半	テキスト P90 Summary のリスニング テキスト P85～90
13	英作文 2 回目	これまでのニュースについての意見等を英作文してもらいます
14	期末試験と内容のまとめ	第 8 回から 14 回までの内容を試験範囲とします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、**News Story** の英文を事前に読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの **Making a Summary** のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。

【テキスト（教科書）】

British News Update（金星堂 2018）¥2,600（+ Tax）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、グループワーク、提出物など）25 %、リスニングの点数 15 %で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席と遅刻の回数に応じて減点になります。30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士のディスカッションなどの機会を増やしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**Current Issues in the English Speaking World**

English 3 では、English 1 と 2 で学んだことをもとに、様々な英語の素材を批判的に吟味し、それぞれのトピックについて自分の意見を述べる力を養います。具体的には、新聞やニュースに取り上げられた英語圏の時事問題を理解したのち、group discussion や group presentation、essay の中で自分の意見を英語で表現する練習をします。

【到達目標】

- 1) 英語の素材の理解を通して、文法や単語を学びます。
- 2) 英語の素材の文体に注目したり関連情報を調べたりして、素材を批判的に吟味する力をつけます。
- 3) Group discussion、group presentation、essay writing を通して、英語で意見を表現する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

いわゆる 4 技能（reading, writing, listening, speaking）を用いたアクティビティやタスクが中心となります。具体的には、短いテキストを読んだり、短いオーディオ/ビジュアル・クリップを見聞きしたあとに、そのトピックについて group discussion を行い、結果を group presentation および essay として発表します。授業の雰囲気は和やかで楽しく friendly です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know each other (communicative activities), plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

14	Submission of the essay, recap of the semester & student feedback	Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
----	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を完璧にこなすこと、ほぼ毎回の単語のテストの準備をすること、**presentation** と **essay** の準備をすることが必須です。宿題に基づくグループワークが多いので、宿題をしていないと他のメンバーに迷惑をかけることとなります。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。ほぼ毎回ハンドアウトが渡されます。ハンドアウトを管理するため、**A4** のフォルダーやバインダーを用意してください。

【参考書】

辞書を必ず毎回持参してください。（紙版、電子版は問いません）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の基準で評価されます。

授業への積極的参加（出席ではありません）：20%

宿題と単語の豆テスト：40%

Presentation と **essay**: 40%

注意事項：出席と積極的参加は非常に重要です。授業を4回以上欠席した場合は原則として単位取得はできません。欠席してしまった際には、その回のハンドアウトや宿題をクラスメイトから入手し、次回の授業には他のクラスメイトと同様に予習、宿題を済ませて臨んでください。欠席は予習・宿題をしていない言い訳にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

佐藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】****Current Issues in the English Speaking World**

English 3 II では、English 3 I で学んだことをもとに、様々な英語の素材を批判的に吟味し、それぞれのトピックについて自分の意見を述べる力をさらに養います。具体的には、新聞やニュースに取り上げられた英語圏の時事問題を理解したのち、**group discussion** や **group presentation**、**essay** の中で自分の意見を英語で表現する練習をします。

【到達目標】

- 1) 英語の素材の理解を通して、文体や単語を学びます。
- 2) 英語の素材の文体に注目したり関連情報を調べたりして、素材を批判的に吟味する力をつけます。
- 3) **Group discussion**、**group presentation**、**essay writing** を通して、英語で意見を表現する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

いわゆる4技能（reading, writing, listening, speaking）を用いたアクティビティやタスクが中心となります。具体的には、短いテキストを読んだり、短いオーディオ/ビジュアル・クリップを見聞きしたあとに、そのトピックについて **group discussion** を行い、結果を **group presentation** および **essay** として発表します。授業の雰囲気は和やかで楽しく **friendly** です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know each other (communicative activities), plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

14	Submission of the essay, recap of the semester & student feedback	Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
----	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を完璧にこなすこと、ほぼ毎回の単語のテストの準備をすること、**presentation** と **essay** の準備をすることが必須です。宿題に基づくグループワークが多いので、宿題をしていないと他のメンバーに迷惑をかけることとなります。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。ほぼ毎回ハンドアウトが渡されます。ハンドアウトを管理するため、A4 のフォルダーやバインダーを用意してください。

【参考書】

辞書を必ず毎回持参してください。（紙版、電子版は問いません）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の基準で評価されます。

授業への積極的参加（出席ではありません）：20%

宿題と単語の豆テスト：40%

Presentation と **essay**: 40%

注意事項：出席と積極的参加は非常に重要です。授業を4回以上欠席した場合は原則として単位取得はできません。欠席してしまった際には、その回のハンドアウトや宿題をクラスメイトから入手し、次回の授業には他のクラスメイトと同様に予習、宿題を済ませて臨んでください。欠席は予習・宿題をしていない言い訳にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

ペアワークやグループワークを楽しみ、宿題や豆テストを頑張ってこなすうちに力がついたと感じる方がとても多く嬉しく思います。エッセーにかける時間を増やす予定です。

【Outline and objectives】

English 3 II builds upon the skills and knowledge gained from English 3 I and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1 および 2 で習得した英語運用能力である読む、書く、聴く、話すの4技能を使い、国際語である英語を通じて日本文化を世界的文脈の中で相対化し、英語資料を理解して批判的に分析し、たうえて英語による意見の発信ができる能力を養成する。

【到達目標】

- ・英語資料により世界における日本文化受容について理解を持つ
- ・日本文化に関する一般的英文を読み、コメントを英語で書く
- ・日本文化に関するアカデミックな英文を精読し、読解力を上げる
- ・日本に関する語彙の知識により英語の聴解力を上げる
- ・大学レベルのアカデミック・スキル (Writing, Presentation) を身につける
- ・Oxford English Dictionary をデータベースとして使えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業始めにリスニング小テスト、その後 DVD 視聴または英文読解、学習内容に関するコメントを英語で書いて提出、添削して返却する。DVD 視聴のないときは難度の高い長い英文読解を行い、音読・日本語訳等が課される。今期は日本文化の世界での受容をテーマとするため、Oxford English Dictionary 見出し語となった日本語を調べ、英語プレゼンテーションを行うので、学内 PC による辞書検索、Writing、Presentation が課される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	世界の日本文化受容 OED 採録の日本語	授業内容や課題の説明 データベース OED 利用案内
第2回	世界の中の日本文化 (Origin) Long-Established Business	(Listening 小テスト 1) Unit 1 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
	*() 内は Listening 小テスト テーマ	
第3回	世界の中の日本文化 (Geography) Uniforms and Identity	(Listening 小テスト 2) Unit 2 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第4回	世界の中の日本文化 (Climate) Volunteer Work and Helping Others	(Listening 小テスト 3) Unit 3 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第5回	世界の中の日本文化 (Constitution) High-Tech Living [Automobiles]	(Listening 小テスト 4) Unit 4 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第6回	世界の中の日本文化 (Government) Japanese Tableware	(Listening 小テスト 5) Unit 5 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第7回	世界の中の日本文化 (Economy) Homemakers of Japan	(Listening 小テスト 6) Unit 6 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第8回	世界の中の日本文化 (Education) Voice Actors	(Listening 小テスト 7) Unit 7 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第9回	日本社会と文化 (Religion) Assimilation	(Listening 小テスト 8) Reading Essay 1
第10回	日本文化の背景 (National Character) Multilayered Model	(Listening 小テスト 9) Reading Essay 2

第 11 回	日本文化の背景 (MiddleClass Consciousness) Multilayered Model	(Listening 小テスト 10) Reading Essay 3
第 12 回	Writing 試験	Presentation の原稿 Writing
第 13 回	Presentation 試験	OED にある日本語の英語説明
第 14 回	期末試験	Reading および Listening

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テストの学生用 DVD は自宅で視聴可能。Short Reading 教材は事前に配布するので、授業での速読とコメント Writing が終わらない場合は予め目を通して頂く。Essay Reading は十分な予習が必要。Writing や Presentation に用いる Oxford English Dictionary を調べた資料は期日までに必ず準備する。準備できていないと授業中に Writing、Presentation が行えず、試験未受験扱いとなる。Listening 小テストは準備の必要なし。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂
Listening 小テストと Reading 教材はコピーを配布。

【参考書】

Oxford English Dictionary.
R.J. Davies. Japanese Culture:The Religious and Philosophical Foundations. 2016.
J. Rauch. The Outnation:A Search for the Soul of Japan. 1992.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・Presentation・Speaking10%、その他授業内での課題 10%が原則。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点で、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。学期末の Presentation、原稿作成 Writing は授業内試験として扱い、単位取得に必須。このほか授業中の課題を遂行しない、あらかじめ割り当てられた担当課題があるのに無断欠席などは評価点がマイナスされる。授業では全員が担当をこなすため出席状況の良いことが必須で、欠席 4 回以上の者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当のため）

【学生が準備すべき機器他】

授業には辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書を使用することは原則として認めない。

【Outline and objectives】

This class aims to provide students with further opportunities to improve their English proficiency acquired in English 1 and 2 classes. Students will read, write, hear and speak about various topics of Japan, especially Japanese culture in the world in English in order fully to have an academic skill. The spring semester focuses on understanding how Japan and Japanese culture are recognized, accepted, or sometimes criticized in the world. The various reading and listening materials can give students a lot of information, and based on these, they try to write a comment or speak his/her opinion in English. To see the acceptance of Japanese culture, students will look into an entry of Japanese words in Oxford English Dictionary. Analyzing the definition and quotations of these words contributes to students' understanding Japanese culture. Concerning the class procedure, students take a listening test at the beginning and try to read a short English (around 500 words) and write a comment after watching DVD. They also read an English essay on the background of Japanese culture, the religious and philosophical foundations in a class they don't watch DVD. It is essential for students to take three kinds of exams — writing, presentation, and final reading & listening.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1 および 2 で習得した英語運用能力である読む、書く、聴く、話すの 4 技能を使い、国際語である英語を通じて日本文化を世界的文脈の中で相対化し、英語資料を理解して批判的に分析したうえで英語による意見の発信ができる能力を養成する。

【到達目標】

- ・英語資料により世界における日本文化受容について理解を持つ
- ・日本文化に関する一般的英文を読み、コメントを英語で書く
- ・日本文化に関するアカデミックな英文を精読し、読解力を上げる
- ・日本に関する語彙の知識により英語の聴解力を上げる
- ・大学レベルのアカデミック・スキル (Writing, Presentation) を身につける
- ・Oxford English Dictionary をデータベースとして使えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業始めにリスニング小テスト、その後 DVD 視聴または英文読解、学習内容に関するコメントを英語で書いて提出、添削して返却する。DVD 視聴のないときは難度の高い長い英文読解を行い、音読・日本語訳等が課される。今期は日本文化の世界への発信をテーマとするため、興味ある事象を調べ、英語プレゼンテーションを行う。よって、日本文化の事象に関する書籍等で英文資料の収集、それに基づく Writing、Speaking が課される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の中の日本文化 (Annual Events1) Seafood-Japanese Cuisine	(Listening 小テスト 1) Unit 8 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 2 回	世界の中の日本文化 (Annual Events 2) Japanized Foreign Dishes	(Listening 小テスト 2) Unit 9 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 3 回	世界の中の日本文化 (Diet) Bag-Culture	(Listening 小テスト 3) Unit10DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 4 回	世界の中の日本文化 (Sports) Senior Citizens [Medical Checkups]	(Listening 小テスト 4) Unit11DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 5 回	世界の中の日本文化 (Traveling) Money	(Listening 小テスト 5) Unit12DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 6 回	世界の中の日本文化 (Shiretoko) Zodiac	(Listening 小テスト 6) Unit13DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 7 回	日本語を英語にする (Nikko) Sino-Japanese War	(Listening 小テスト 7) Reading Essay 1
第 8 回	日本の美学 1 (Ogasawara) Japanese Aesthetics	(Listening 小テスト 8) Reading Essay 2
第 9 回	日本の美学 2 (Kyoto/Nara) Japanese Aesthetics	(Listening 小テスト 9) Reading Essay 3
第 10 回	日本の美学 3 (Shirakawa) Japanese Aesthetics	(Listening 小テスト 10) Reading Essay 4
第 11 回	Speaking 試験	写真にある日本の文物・観光地について英語で話す

第12回 Writing 試験	Presentation の原稿 Writing
第13回 Presentation 試験	日本文化の事象を英語で説明
第14回 期末試験	Reading および Listening

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テストの学生用 DVD は自宅で視聴可能。Short Reading 教材は事前に配布するので、授業での速読とコメント Writing が終わらない場合は予め目を通して置く。Essay Reading は十分な予習が必要。Writing や Presentation に用いる Oxford English Dictionary を調べた資料は期日までに必ず準備する。準備できていないと授業中に Writing、Presentation が行えず、試験未受験扱いとなる。Listening 小テスト、写真資料の日本文化・観光地 Speaking は準備の必要なし。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂

Listening 小テスト、Reading 教材、Speaking で使う写真プリントはコピーを配布。

【参考書】

Oxford English Dictionary.

R.J.Davies & Osamu Ikeno. The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture. 2002.

B.Lafayette de Monte. Japan: A Guide to Traditions, Customs and Etiquette - KATA as the Key to Understanding the Japanese. 2013.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・Presentation・Speaking10%、その他授業内での課題 10%が原則。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点で、60 %以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。学期末の Presentation、原稿作成 Writing は授業内試験として扱い、単位取得に必須。このほか授業中の課題を遂行しない、あらかじめ割り当てられた担当課題があるのに無断欠席などは評価点がマイナスされる。授業では全員が担当をこなすため出席状況の良いことが必須で、欠席 4 回以上の者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当のため）

【学生が準備すべき機器他】

授業には辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書を使用することは原則として認めない。

【Outline and objectives】

This class aims to provide students with further opportunities to improve their English proficiency acquired in English 1 and 2 classes. Students will read, write, hear and speak about various topics of Japan, especially Japanese culture in the world in English in order fully to have an academic skill. The autumn semester focuses on explaining Japanese culture in English to the world. The various reading and listening materials can give students a lot of information, and based on these, they try to write a comment or speak his/her opinion in English. To train an ability to explain Japanese culture in English, students will give a presentation of a topic of Japanese culture which interests them. Concerning the class procedure, students take a listening test at the beginning and try to read a short English (around 500 words) and write a comment after watching DVD. They also read an English essay on the Japanese aesthetics in a class they don't watch DVD. It is essential for students to take three kinds of exams — writing, presentation, and final reading & listening.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：明治期の日本

佐々木 一恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一年次に English1 ならびに English2 で培った力をベースに、日本の歴史（近代）に関する英語の文献・画像・視聴覚資料を用いて、英語の四技能（読む・聴く・話す・書く）をさらに高めていくことを目指します。

【到達目標】

- 英語を用いて日本の歴史（近代）に関する情報の受発信ができるようになること。
- 大学レベルの英語のアカデミック・スキル（プレゼンテーション、スピーチ、ライティング）を身につけること。
- 大学での学びに必要な英語の語彙力とその運用力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 語彙とリスニングのエクササイズ
- リーディング課題の内容理解
- 文字・映像資料に関するグループ・ワーク
- パラグラフ・ライティングとスピーチの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容や課題についての説明
2	ペリー来航	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：A Journal of The Perry Expedition to Japan
3	明治維新	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：A letter of resignation of the last Shogun, 1867
4	西郷隆盛と征韓論	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：A letter from Saigo Takamori to Itagaki Taisuke on the Korean question, July 29, 1873
5	文明開化とジェンダー	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Distinguish the equal rights of husband and wives
6	明治期の改革 1	●語彙・リスニングのエクササイズ ●ドキュメンタリー：Japan-Meiji Reforms (前半) とグループディスカッション
7	明治期の改革 2	●語彙・リスニングのエクササイズ ●ドキュメンタリー：Japan-Meiji Reforms (後半) とグループディスカッション
8	近代国家と教育 1	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Military-style physical training
9	近代国家と教育 2	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：The imperial rescript of education, the opening, 1890
10	日清戦争	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Jishu teki gaiko no igi
11	岡倉天心	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：The Book of Tea
12	明治期の日本について書く	●語彙・リスニングのエクササイズ ●パラグラフ・ライティング演習
13	明治期の日本について話す	●語彙・リスニングのエクササイズ ●スピーチ演習
14	期末試験	学期のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 語彙エクササイズ、リーディング課題の予習・復習
- ライティング、スピーチ課題の準備

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

語彙エクササイズ 30%
リーディング小テスト 30%
パラグラフ・ライティング演習 20%
スピーチ演習 10%
リスニング期末試験 10%

【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材をもう少しわかりやすいものに変える。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】

欠席が4回以上になった場合、原則として単位取得の資格を失います。

【Outline and objectives】

The course is designed for second-year students to further develop the ability to read, listen, speak, and write in English, by utilizing written documents (both primary and secondary) and audiovisual materials on modern Japanese history.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代の日本社会

佐々木 一恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一年次に English1 ならびに English2 で培った力をベースに、日本の社会や文化に関する英語の文献・画像・視聴覚資料を用いて、英語の四技能（読む・聴く・話す・書く）をさらに高めていくことを目指します。

【到達目標】

- 英語を用いて日本の社会や文化に関する情報の受発信ができるようになること。
- 大学レベルの英語のアカデミック・スキル（プレゼンテーション、スピーチ、ライティング）を身につけること。
- 大学での学びに必要な英語の語彙力とその運用力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 語彙とリスニングのエクササイズ
- リーディング課題の内容理解
- 文字・映像資料に関するグループ・ワーク
- パラグラフ・ライティングとスピーチの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容や課題に関する説明
2	ポップ・カルチャー	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Character Cafes
3	刺青/タトゥー	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：The Tattoo Taboo
4	外国人観光客	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：7,800 Yen a Day
5	プレゼンテーション演習 1	●語彙・リスニングのエクササイズ ●東京1日観光プラン（準備）
6	プレゼンテーション演習 2	●語彙・リスニングのエクササイズ ●東京1日観光プラン（発表）
7	人種観 1	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Face Value
8	人種観 2	●語彙・リスニングのエクササイズ ●ドキュメンタリー：Black in Japan とグループ・ディスカッション
9	ペット・ブームの陰	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Stray Observations on Booming Pet Culture
10	少子化問題	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Time for Mass Immigration
11	現金好きは変わる？	●語彙・リスニングのエクササイズ ●リーディング：Should Cash be King?
12	現代の日本社会について書く	●語彙・リスニングのエクササイズ ●パラグラフ・ライティング演習
13	現代の日本社会について話す	●語彙・リスニングのエクササイズ ●スピーチ演習
14	期末試験	学期のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 語彙エクササイズ、リーディング課題の予習・復習
- ライティング、スピーチ課題の準備

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

語彙エクササイズ 30%
リーディング小テスト 30%
プレゼンテーション 20%
ライティング演習 10%

リスニング期末試験 10%

【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材をもう少しわかりやすいものに変えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】

欠席が4回以上になった場合、原則として単位取得の資格を失います。

【Outline and objectives】

The course is designed for second-year students to further develop the ability to read, listen, speak, and write in English, by utilizing written documents (both primary and secondary) and audiovisual materials on modern Japanese society and culture.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：Current events, Social issues and Global topics

トビー トラブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

文（哲日英）2年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines. handout discussion activities
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

6	Unit 2 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	Departmental policy is that more than 3 absences will result in automatic failure of the course. Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade. 【学生の意見等からの気づき】 Not applicable 【学生が準備すべき機器他】
7	Research report/ mini- Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary. 【その他の重要事項】 This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course. 【Outline and objectives】
8	Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment. Tips for the Quiz	
13	Quiz Song lesson	Quiz Song lesson	
14	Wrap-up	Go over quiz Speaking activity	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%
 Departmental Quizzes, writing assignments, presentations:60%

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Current events, Social issues and Global topics

トビー トラブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：中級／英語／英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

6	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
10	Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	5 Powerpoints due Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	Presentation Day.	Tips for the Quiz
13	Song lesson	Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.
14	Big quiz	Thank you.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are given a writing assignment almost every week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations:60%

Departmental policy is that more than 3 absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英米の食物の歴史と文化

三輪 すみ江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要:

春、秋学期共通の内容:

英字新聞記事及び英米その他の国の文化や歴史が書かれている英語長文などを教材として、その内容を着実に理解することができる。異文化、異民族、異言語、様々な国際問題などに対する理解を深めることができる。教材を読み込み、各自の意見を英文でまとめて発表することができる。また段落ごとに英文の構成や、熟語、文法の細かい注意点まで着実に身につけることができる

使用教材:

各種英字新聞の記事、随筆、及び英語 newsweekly (The New York Times など)、各種英文時事週刊誌 (毎日新聞、朝日新聞など) のコラム、論評

授業の目的:

この授業の受講により英米文化、習慣、歴史などに関する英文を理解することができ、幅広い知見を獲得できる。学んだ多くの英文について、自ら深く考えたことを、まとめて、自分なりの英文を発信することができる。彼らの歴史、文化、習慣などに敬意を持つことができる。それらのことを常に意識し、毎回読む、書く、聞く、話すという訓練を続けることができ、英語の四技能を、更に錬磨することができる。

【到達目標】

この授業の受講により、英米及びその他の国々の文化、習慣、歴史などに関する知的関心を持つことができる。また異文化、異民族、異言語、国際問題などについて俯瞰的に英文で、理解し発信する力を養うことができる。

学習目標:

※英米と両国に関係する国の歴史と文化などに関する幅広い視野を持つことができる。

※各自授業で取り組みいずれかの主題について、英文でまとめて発表することができる。各自発表した論題について、互いに英語で質疑応答することができる。

※長文の英文の構成、熟語、文法などの細かい注意点を意識し、英文全体の内容を確実に把握することができ、英英辞典の引き方を習得することができる。※音声テープで、英文全体を聞き取る訓練を毎回行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の進め方:

毎回2～3ページの英文を読み終えることができる。全員に発表してもらうので必ず予習しておくこと。

授業の方法:

最初音声テープを聞き、英文全体の流れを把握する。指定した単語の英語の定義の確認をする。

理解不可能な箇所はその都度質問をしてもらい、全員が納得できるように授業を進めていく。文中に出てくる単語、地名、年号などについて、それらの歴史的、文化的背景をその都度紹介し、説明を行うので全員英文内容を理解することができる。文中の英文を用いて内容のある英文を書くことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス。	春学期の授業予定の説明その他。辞書 の使用法、ノートに英文の定義を書 写する際の注意点の説明を行う。英文 で発表する際の注意点なども説明する。
第2回	(第2回～第12回、プリント使用)	英字新聞の彼我の食文化についての記 事を読解することができる。リスニン グと英文書き取りを行い、自分の意見 をまとめた英作文を書くことができる。
第3回	英字新聞の記事を用いる。	英米の住宅事情に関する記事を英文の 構成に注意して読解することができる。 リスニングを行い、例文を参考に 英作文を書くことができる。
第4回	英字新聞のコラムを用いる。	英米の礼儀に関する英文を読解するこ とができる。リスニングを行い、内容 に即した英作文を書くことができる。

第 5 回	英字新聞のコラムを用いる。	英米人の日常生活について書かれた文章を吟味しつつ着実に内容を理解できる。リスニングを行いその内容に即した分かりやすい英作文を書くことができる。
第 6 回	英字新聞の記事を用いる。	英米の近所付き合いに関する英文を読解することができる。リスニングを行い人間関係について考察した英作文を書くことができる。
第 7 回	英字新聞の記事を用いる。	英米の贈答慣習に関する英文を読解することができる。リスニングを行い彼我の贈答慣習に関して考察した英作文を書くことができる。
第 8 回	英米の歴史についての英文。	英米人の辿ってきた長い歴史に関する英文を読解することができる。リスニングを行いその歴史に関する英作文を書くことができる。
第 9 回	英米の歴史についての英文。	特にアイルランドの人々の歴史についての英文を読解することができる。リスニングを行い、内容に即した英作文を書くことができる。
第 10 回	英国の作家たちについての英文。	英国の作家たち (Jane Austen, Thomas Hardy) に関する英文を読解することができる。リスニングを行い彼らに関して考えてまとめた英作文を書くことができる。
第 11 回	英米の歴史についての英文。	特に英米の過去の戦争に関する英文を読解することができる。リスニングを行い内容に即した英作文を書くことができる。
第 12 回	英国の歴史についての英文。	特に英国成立以前の長い歴史に関する英文を読解することができる。リスニングを行い内容に即した英作文を書くことができる。
第 13 回	学生発表。	これまで学習してきた教材の中からいくつか選択して、英文で自分の考えをまとめて発表する。
第 14 回	復習を行い、目標の達成度を評価する。	試験を行うことで学習の成果を見極めることができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：

毎回授業前に一時間程、プリントの英文全体をよく読んでおくこと。英文を段落ごとにきちんと読み、まず内容を推測すること。文脈に合致しているかを確認しつつ、辞書で単語の意味を調べること。文中の重要な単語は英英辞典を引き定義を書き写し、また例文を書いておくこと。

復習

毎回当日分のプリントを復習しておくこと。段落ごとに英文内容を確認して、誤りがあれば、その都度訂正して正確な訳文を書いておくこと。文脈にふさわしい言葉を選択する為に、随時国語辞典を引く習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用のため、テキストは用いない。

【参考書】

用例の多い大型英和辞典。

様々な英英辞典。

きちんとした文法書、例えば「英文法解説」（金子書房、1991年）

大型国語辞典。

【成績評価の方法と基準】

欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。30分以上の遅刻2回で欠席1回

みなす。授業への参加度（発表を含む）40%、期末試験60%。その60%を合格点とする。

【学生の意見等からの気づき】

一文、一文ゆっくりと丁寧に補足説明をして欲しいとの意見がいくつかありましたので意識してそのようにいたします。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Outline

Teaching materials:

English articles and essays (from various English newspapers and some English newweeklies e.g. The New York Times, Asahi & Mainichi Weeklies)

By using all these materials, students can have broad knowledges of various cultural and social practices from around the world.

Objective:

By attending this class and reading many teaching materials closely, students can understand various aspects of each country written in all these materials, and look at things from a broader point of view. And also they can understand each and every paragraph precisely using English-English dictionaries. In addition, each student can express their own view on one of the teaching materials in English. Furthermore, they can have the opportunity to discuss their own view with other students in English.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英米の食物の歴史と文化

三輪 すみ江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

英字新聞の記事及び英米その他の国の文化や歴史が書かれている英語長文などを教材として、その内容を着実に理解することができる。異文化、異民族、異言語、様々な国際問題などに対する理解を深めることができる。また段落ごとに英文の構成や、熟語、文法の細かい注意点まで確実に身につけることができる。

使用教材：

各種英字新聞の記事、随筆、及び英語 **newsweekly**, 各種英文時事週刊誌（毎日新聞、朝日新聞など）のコラム

授業の目的：

この授業の受講により英米文化、習慣、歴史などに関する英文を理解することができ、幅広い知見を獲得できる。学んだ多くの英文について、自ら深く考えたことを、まとめて、自分なりの英文を発信することができる。彼我の歴史、文化、習慣などに敬意を持つことができる。それらのことを常に意識し、毎回読む、書く、聞く、話すという訓練を続けることができ、英語の四技能を、更に錬磨することができる。

【到達目標】

この授業の受講により、英米及びその他の国々の文化、習慣、歴史などに関する知的関心を持つことができる。また異文化、異民族、異言語、国際問題などについて俯瞰的に英文で、理解し発信する力を養うことができる。

学習目標：

※英米と両国に関係する国の歴史と文化などに関する幅広い視野を持つことができる。

※各自授業で取り組むいずれかの論題について、英文でまとめて発表することができる。各自発表した論題について互いに英語で質疑応答をすることができる。

※長文の英文の構成、熟語、文法などの細かい注意点を意識し、英英辞典の引き方を習得することができる。

※音声テープで、英文全体を聞き取る訓練を毎回行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：

毎回2～3ページの英文を読み終えることができる。全員に発表してもらうので必ず予習してくる。

授業の方法：

最初音声テープを聞き、英文全体の流れを把握する。指定した単語の英語の定義の確認をする。

理解不可能な箇所はその都度質問をもらい、全員が納得できるように授業を進めていく。文中に出てくる単語、地名、年号などについて、それらの歴史的、文化的背景をその都度紹介し、説明を行うので全員英文内容を理解することができる。文中の英語表現を用いて内容のある英文を書くことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	英字新聞の記事。 (第1回～第12回、プリント使用)	日本語の慣用表現に関する英文記事を読解することができる。リスニングを行い学んだ内容に即した英作文を書くことができる。
第2回	英字新聞の記事。	ロンドンの成立に関する英文を読解することができる。リスニングを行い、その街の長い歴史について考慮した英作文を書くことができる。
第3回	英字新聞の記事。	レモンなどの日常よく使う柑橘類に関する英文を読解することができる。リスニングを行い、学んだ内容について考察した英作文を書くことができる。日英の敬語表現について解説した英文を読解することができる。リスニングを行い、学んだ内容に即した英作文を書くことができる。
第4回	英字新聞の記事。	

第5回	英字新聞の記事。	毎日利用しているじゃがいもについて解説した英文を読解することができる。リスニングを行いそれに関する英作文を書くことができる。
第6回	英字新聞の記事。	親子関係を扱っている英文を読解することができる。リスニングを行い内容に即した、英作文を書くことができる。
第7回	英米の歴史についての英文。	ハチミツが戦いで使用されたことを解説している英文を読解することができる。リスニングを行いその歴史について考慮した英作文を書くことができる。
第8回	英米の歴史についての英文。	日々よく使う玉ねぎの歴史について解説している英文を読解することができる。
第9回	英米の歴史についての英文。	リスニングを行い、それについての英作文を書くことができる。様々な食品（嗜好品、茶など）がどのようにして世界中で使われるようになったのかを説明している英文を読解することができる。リスニングを行い、それらについての英作文を書くことができる。
第10回	英米の歴史についての英文。	チョコレートについての長い歴史を説明している英文を読解することができる。リスニングを行いそれについて考えをまとめた英作文を書くことができる。
第11回	英米の歴史についての英文。	毎日使うキャベツの長い歴史が味わえる英文を読解することができる。リスニングを行いそれについて考察した英作文を書くことができる。
第12回	英米の歴史についての英文。	日々使用するコーヒーなどの嗜好品の由来がよくわかる英文を読解することができる。リスニングを行いそれに関する英作文を書くことができる。
第13回	学生発表	これまで学習してきた教材の中からいくつか選択して、英文で自分の考えをまとめて発表する。
第14回	復習を行い、目標の達成度を評価する。	試験を行うことで学習の成果を見極めることができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：

毎回授業前に一時間程度、プリントの英文全体をよく読んでおくこと。英文を段落ごとにきちんと

読み、まず内容を推測すること。文脈に合致しているかを確認しつつ、辞書で単語の意味を調べる。文中の重要な単語は英英辞典を引き定義を書き写し、また例文を書いておくこと。

復習

毎回当日分のプリントを復習しておくこと。段落ごとに英文内容を確認して、誤りがあれば、その都度訂正して正確な訳文を書いておくこと。文脈にふさわしい言葉を選択する為に、随時国語辞典を引く習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用のためテキストは使わない。

【参考書】

用例の多い大型英和辞典。

様々な英英辞典。

きちんとした文法書、例えば「英文法解説」（金子書房、1991年）

大型国語辞典。

【成績評価の方法と基準】

欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。30分以上の遅刻2回で欠席1回

みなす。授業への参加度（発表を含む）40%、期末試験60%。その60%を合格点とする

【学生の意見等からの気づき】

一文、一文ゆっくりと丁寧に補足説明をして欲しいとの意見がいくつかありましたので意識してそのようにいたします。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Outline

Teaching materials:

English articles and essays (from various English newspapers and some English newsweeklies e.g. The New York Times, Asahi & Mainichi Weeklies)

By using all these materials, students can have broad knowledges of various

cultural and social practices from around the world.

Objective:

By attending this class and reading many teaching materials closely, students can understand various aspects of each country written in all these materials and look at things from a broader point of view. And also they can understand each and every paragraph precisely using English-English dictionaries. In addition, they can express their own view on one of the teaching materials in English. Furthermore, they can have the opportunity to discuss their own view with other students in English.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文（哲日英）2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業ではこうした作業を、日本人のイメージと実像という課題の下に行います。これまで国内外で、日本人は自分を犠牲にして和を重んじる人々とされてきました。この根強い通説は、日本人の多様な姿を本当に映しているのでしょうか？ 考察上の手がかりの一つとして、イギリス人の日常的な姿と日本人を比較対照します。この課題への取り組みが織り込まれた各学習プロセスを通して、英語のテキストを読み、ニュース番組や文化的な映像コンテンツを視聴し、さらには自分でパラグラフを読み、クラスの前で発表し、質疑応答を行うことで、上記の能力を伸ばしていきます。

【到達目標】

- ・英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読解することができる。
- ・英語の文章をある程度速度をもって読み、目的とする情報をそこから読み取ることができる。
- ・英語のリスニングに慣れ、日々のリスニング学習の習慣を身に着ける。
- ・文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書くことが出来る。
- ・英語でまとめた自分の意見を表明し、他人の意見に質問をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

学期全体を 2 つのセッションに分けます。その 2 つは「日本人の基本的なイメージ」「偉大な人物」とします。これらをトピックとして、精読、速読、リスニング、ライティング、スピーキングを行っていきます。

○第 1 セッション：日本人の基本的なイメージ

・読解 1：Did DNA influence Japan's collectivist society? (The Japan Times, 07/21/2017)

<https://www.japantimes.co.jp/news/2017/07/21/national/science-health/dna-influence-japans-collectivist-society/#.WnbA5YKkJ-U>

・読解 2 & リスニング 1：Unit 1. A Fortunate Accident (イギリス人はアンフレンドリー?)

・読解 3 & リスニング 2：Unit 14. Changing Classes (階級制度は残っている?)

・ライティング：Write one paragraph in English, explaining your perspective on how much collectivistic Japanese people are.

○第 2 セッション：偉大な人物

・読解 1：Makoto Shinkai: could the anime director be cinema's 'new Miyazaki'? (The Guardian, 11/9/2016)

<https://www.theguardian.com/film/2016/nov/09/makoto-shinkai-director-anime-your-name>

・読解 2：When Robots replace Humans - Interview with Dr. Hiroshi Ishiguro

<http://blog.gtec.at/ishiguro/>

・読解 3 & リスニング 1：Unit 3. The Meaning of Bond (007 はイギリスの象徴?)

・ライティング：Write one paragraph in English on the question: Who do you think is the greatest man(woman) in Japan throughout its history, and why? Name him/her and explain the reason from your point of view.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	授業のテーマの確認と授業方法の説明
2	日本人の基本的なイメージ I (読解 1)	読解(グループワーク)、パラグラフ構造の確認、発音練習(母音 1)
3	日本人の基本的なイメージ II (読解 2、リスニング 1)	読解(グループワーク)、リスニング、プレゼンテーションの基礎、発音練習(母音 2)
4	日本人の基本的なイメージ III (読解 3、リスニング 3、プレゼンテーション)	読解(グループワーク)、リスニング、プレゼンテーション準備(グループワーク)

5	日本人の基本的なイメージ IV (プレゼンテーション)	プレゼンテーション準備(グループワーク)、アウトライン提出
6	日本人の基本的なイメージ V (プレゼンテーション)	プレゼンテーション(グループワーク)
7	偉大な人物 I (読解 1)	読解、発音練習(子音 1)
8	偉大な人物 II (読解 2)	読解、プロセスライティングの基礎、発音練習(子音 2)
9	偉大な人物 III (読解 3、リスニング 1、ショートエッセー、プレゼンテーション)	読解、リスニング、プロセスライティング 1 (Idea Generation、Organization)、プレゼンテーション準備
10	偉大な人物 IV (ショートエッセー、プレゼンテーション)	プロセスライティング 2 (Outlining、First Draft)、プレゼンテーション準備
11	偉大な人物 V (ショートエッセー、プレゼンテーション)	プロセスライティング 3 (アウトライン提出、First Draft)、プレゼンテーション準備
12	偉大な人物 VI (ショートエッセー、プレゼンテーション)	プロセスライティング 4 (Rewriting)、プレゼンテーション準備
13	偉大な人物 VII (ライティング、プレゼンテーション)	ライティング指導 (Rewriting)、プレゼンテーション
14	学期末試験、プレゼンテーション	テキストの Unit から読解、リスニングのテスト プレゼンテーション、ショートエッセー提出

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

読む、聞く、話す、書くという 4 技能のいずれか(あるいは複数)に関する課題が毎週必ず出ます。授業の予習、復習、および課題提出は必須です。

【テキスト(教科書)】

『Realise Britain』Colin Joyce, Yasushi Mano, 金星堂、2014 年、1800 円(税別)。

それ以外の教材は授業で配布します。
英和・和英辞書を必ず持参すること。

【参考書】

特に指定しないが、トピック別にソートされた単語帳や類語辞典は必ず必要になる。授業で詳説する。

【成績評価の方法と基準】

ライティング課題：25%、プレゼンテーション：20%、期末テスト：30%、平常点(予習、授業内課題の提出、授業時のパフォーマンス)：25%。
欠席が四回以上の場合原則として単位を与えない。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

English3, based on those skills you learned in English1 and 2, helps you further improve your language ability by integrated learning of the skills. In the class, you collect relevant information on certain topics, analyze it with critical eyes and create your opinion. Then, you are required to read(listen to) several English materials (news sources, videos, the text) to write down(speak out) your opinion in English. The topics are on the images and realities of Japanese. The Japanese society is considered as collectivistic, and you may have no doubt about it. You are asked to reconsider it and compare your society with another, such as the UK.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

文(哲日英) 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

English3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業ではこうした作業を、「日本の文化を発信する」という模範的な課題の下に行います。日本の文化や国民性について漠然としたイメージしか持たない人たちにその文化を発信したいとき、何が必要になるか考えましょう。こうした考察を織り込んだ授業の各プロセスを通して、英語のテキストを読み、ニュース番組や文化的な映像コンテンツを視聴し、さらには自分でパラグラフを読み、クラスの前で発表し、質疑応答を行うことで、上記の能力を伸ばしていきましょう。

【到達目標】

- ・英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読解することができる。
- ・英語の文章のある程度の速度をもって読み、目的とする情報をそこから読み取ることができる。
- ・英語のリスニングに慣れ、日々のリスニング学習の習慣を身に付ける。
- ・文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書くことが出来る。
- ・英語でまとまった自分の意見を表明し、他人の意見に質問をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

学期全体を「文化発信」というひとつのセッションでまとめ、サブ・セッションとして「音楽」「スポーツ」を扱います。これらをトピックとして、精読、速読、リスニング、ライティング、スピーキングを行っていきます。

○セッション：文化発信

・ライティング：以下のサブセッションに関連する日本の話題について、その文化現象、ジャンル、競技、選手の魅力を発信するショートエッセーを執筆する。

・プレゼンテーション：完成したショートエッセーをスライドや映像を交えてクラスで発表。質疑応答つき。

○サブ・セッション 1：音楽

・読解 1 & リスニング 1：Unit 11. The Quite Fab Four (やっぱりいいかもビートルズ)

・読解 2：The Connection Between Lofi Hip-Hop and Anime

<https://medium.com/@ochiaalexander47/the-connection-between-lofi-hip-hop-and-anime-c14ebf1ddc5b>

・読解 3 & リスニング 2：Unit 9. British Food: Better Than Awful (フィッシュ・アンド・チップスだけじゃない)

・読解 4：George Orwell "In Defence of English Cooking"

○サブ・セッション 2：スポーツ

・読解 1：Tokyo Grand Slam 2017: Inside the world's most spiritual sport (CNN, 12/01/2017)

<https://edition.cnn.com/2017/12/01/sport/kodokan-institute-noaki-murata-jigoro-kano-tokyo-2020/index.html>

・読解 2：What You Know about Judo (The Players' Tribune, 05/29/2016)

<https://www.theplayertribune.com/marti-malloy-usa-olympics-judo/>

・読解 3 & リスニング 1：Unit 13. The "Invention" of Sport (スポーツに多いイギリス「発祥」)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	授業のテーマの確認と授業方法の説明
2	音楽 I (読解 1、リスニング 1)	読解(グループワーク)、リスニング
3	音楽 II (読解 2)	読解(グループワーク)、発音練習(複合母音 1)
4	音楽 III (読解 3、リスニング 2)	読解(グループワーク)、リスニング、発音練習(複合母音 2)
5	音楽 IV (読解 4)	読解(グループワーク)、パラグラフライティングの発展
6	スポーツ I (読解 1)	読解(グループワーク)、発音練習(文の発音 1)

7	スポーツ II (読解2)	読解(グループワーク)、発音練習(文の発音2)
8	スポーツ III (読解3、リスニング1) ショートエッセー、プレゼンテーション	読解(グループワーク)、リスニング、プロセスライティング1 (Idea Generation)
9	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング2 (Idea Generation から Organization)
10	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング3 (Outlining)
11	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング4 (アウトライニング提出、First Draft)
12	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング5 (Rewriting)、プレゼンテーションの準備
13	ショートエッセー、プレゼンテーション	プレゼンテーション
14	学期末試験、プレゼンテーション	テキストの Unit から読解、リスニングのテスト プレゼンテーション、エッセー提出

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

読む、聞く、話す、書くという4技能のいずれか(あるいは複数)に関する課題が毎週必ず出ます。授業の予習、復習、および課題提出は必須です。

【テキスト(教科書)】

【Realise Britain】Colin Joyce, Yasushi Mano、金星堂、2014年、1800円(税別)。

それ以外の教材は授業内で配布します。

英和・和英辞書を必ず持参すること。

【参考書】

特に指定しないが、トピック別にソートされた単語帳や類語辞典は必ず必要になる。授業で詳説する。

【成績評価の方法と基準】

ライティング課題：25%、プレゼンテーション：20%、期末テスト：30%、平常点(予習、授業内課題の提出、授業時のパフォーマンス)：25%。
欠席が四回以上の場合原則として単位を与えない。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

English3, based on those skills you learned in English1 and 2, helps you further improve your language ability by integrated learning of the skills. In the class, you collect relevant information on certain topics, analyze it with critical eyes and create your opinion. Then, you are required to read(listen to) several English materials (news sources, videos, the text) to write down(speak out) your opinion in English. Your tasks are to choose one subject from among Japanese cultures, which is particularly interesting from your point of view, and to gather relevant information and to make a presentation and write down a short essay on how attractive the subject is.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代の諸相

宮本 三恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文(哲日英)2年：初級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

English1と2で学んだ「読む、書く、聴く、話す」という英語の4技能をさらに身につけることを目的の一つとします。その際、あるテーマに焦点を当てて進めていきます。現在、世界中で様々な争いが絶えません。それらを「現代の諸相」ととらえて、理由や解決方法を考えていくことをテーマとします。そのための材料として英字新聞、映画、音楽が役立つでしょう。

【到達目標】

英字新聞では英語の文章を構文・語彙を理解して正確に読解できるようにしましょう。映画では英会話のせりふが聞き取れるように努力し、自分で使えるようにもしましょう。英語の歌でもリスニングの努力をして意味をつかめるようにもしましょう。脚韻が把握できるようになりましょう。主にメッセージングやプロテストソングを使って反戦をどのように訴えているか学びます。自分の考えを英語で表現したり、書いたりもできるようにしましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

英字新聞ではヘッドラインを読み取ることから始めて徐々に本文の文章にも触れていきます。そのために必要な文法的特徴も学んでいきます。映画ではビデオを観て聞き取りの練習などします。自分で観てきた映画についての報告などもします。その中で覚えた英語の会話を実際に使ってみます。音楽でもビデオをみて聞き取りの練習をします。脚韻についても学びます。テーマについての自分の意見を英語で書いてみます。これらに関連して毎回問題を出すので、解答を提出してもらいます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマと授業の進め方を説明します。
第2回	英字新聞について学ぶ。	英字新聞の種類や特徴を学びます。問題を出してやってもらいます。
第3回	映画を観る。	映画についての情報を調べてもらいます。あるシーンの聞き取りをして提出してもらいます。
第4回	音楽を聴く。	歌詞を検索して書きます。単語調べなどもします。ビデオを使って聞き取り練習などします。学んだことを提出してもらいます。
第5回	英字新聞を読む。	headlineの特徴を学びます。学んだことを提出してもらいます。
第6回	映画を観る。	映画についての情報を報告します。別のシーンから聞き取りの報告をします。
第7回	音楽を聴く。	歌詞を検索して書きます。脚韻について学び、提出します。
第8回	英字新聞を読む。	2種類以上の新聞でheadlinesを比較してみます。その過程を書いて提出します。
第9回	映画を観る。	映画のテーマについて考える。それを英語でかいてみる。別のシーンの聞き取りをする。これらについて提出。
第10回	音楽を聴く。	歌詞からメッセージを読み取る。それを英語で書いてみて提出。
第11回	レポートについて。	レポートについて説明します。読み書き、聞き取りは通常通りで提出。
第12回	レポート評。	やってきたレポート(未完でも可)を交換してチェックし合います。その評を提出。
第13回	レポート評。	より良くしてきたレポートを前回と別の学生と交換してチェックしあう。その評を提出。
第14回	レポート提出。	完成したレポートを提出。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定した映画はあらかじめ観ておいてください。テーマにふさわしい本を図書館で自分で調べてください。

【テキスト（教科書）】

主にプリント使用。プリントは毎授業すべて持参すること。英字新聞を各自持ってきてもらう場合もあります。
英和・和英・国語辞書を持参のこと（電子辞書が便利）。携帯電話の辞書使用は認めません。

【参考書】

各自が参考文献にする本を読んで報告してください。あるいはネットで参考になるホームページなどチェックしておいてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート50%で60%以上で合格です。
平常点の内容は、授業中の集中度（授業中かけるビデオは必ず観ていること）、毎回の小テスト・提出物（レポート評も含め）をみます。
全出席が単位の条件です。やむをえず欠席したら、必ず理由を報告してください。理由があれば3回まで欠席を認めます。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は今年度から担当するので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンで調べものをしたり、歌詞を検索したりしてもらいます。授業に関係ないことでの使用は禁止です。英字新聞を持参する場合もあります。

【その他の重要事項】

提出物はすべてB5用紙使用です。レポート提出日は第14回より早い場合もあります。

【Outline and objectives】

The aim of English 3 is to further develop students' English proficiency which they acquired in English 1 (reading and listening) and English 2 (speaking and writing).
To do so, thinking "Current Affairs," the students in this class should read English newspapers, watch the movies, and listen to the musics.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代の諸相

宮本 三恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：初級/日本語/現代の諸相**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

English 1と2で学んだ「読む、書く、聴く、話す」という英語の4技能をさらに身に付けることを目的の一つとします。その際、あるテーマに焦点を当てて進めていきます。現在、世界中で様々な争いが絶えません。それらを「現代の諸相」ととらえて理由や解決方法を考えていくことをテーマとします。そのため材料として、英字新聞、映画、音楽などが役立つでしょう。

【到達目標】

英字新聞では英語の文章を構文や語彙を理解して正確に読解できるようにしましょう。映画では英会話のせりふが聞き取れるように努力し、自分で使えるようにもしましょう。英語の歌でもリスニングの努力をして意味をつかめるようにしましょう。脚韻が把握できるようになりましょう。主にメッセージソングやプロテストソングを使って反戦をどのように訴えているか学びます。自分の考えを英語で表現したり書いたりできるようにしましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

英字新聞ではヘッドラインを読み取ることから始めて、徐々に本文の文章にも触れていきます。そのために必要な文法の特徴も学んでいきます。映画ではビデオを観て聞き取りの練習などします。自分で観てきた映画についての報告などもします。その中で覚えた英語の会話を実際に使ってみます。音楽でもビデオを観て聞き取りの練習をします。脚韻についても学びます。テーマについて自分の意見を英語で書いてみます。これらに関連して毎回問題を出すので、解答を提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマと授業の進め方を説明します。
第2回	英字新聞について学ぶ。	英字新聞の種類や特徴を学びます。問題を出すので提出してもらいます。
第3回	映画を観る。	映画についての情報を調べます。あるシーンの聞き取りをして提出してもらいます。
第4回	音楽を聴く。	歌詞を検索して書きます。単語なども調べます。ビデオを使って聞き取りの練習をしたり英語の勉強をします。学んだことを提出してもらいます。
第5回	英字新聞を読む。	headlineの特徴を学びます。学んだことを提出します。
第6回	映画を観る。	映画についての情報を報告します。別のシーンの聞き取りをして提出してもらいます。
第7回	音楽を聴く。	歌詞を検索して書きます。脚韻について学び、提出します。
第8回	英字新聞を読む。	2種類以上の新聞でheadlineを比較してみても書いて提出します。
第9回	映画を観る。	映画のテーマについて考える。それを英語で書いてみる。別のシーンの聞き取りをして書いて提出。
第10回	音楽を聴く。	歌詞からメッセージを読み取り、英語で書いてみて提出。
第11回	レポートについて。	レポートについて説明します。読み書きや聞き取りは通常通りで、提出。
第12回	レポート評。	やってきたレポート（未完でも可）を交換してチェックし合います。その評を提出。
第13回	レポート評。	より良くしてきたレポートを前回と別の学生と交換してチェックしあう。その評を提出。
第14回	レポート提出。	完成したレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した映画はあらかじめ観ておいてください。テーマにふさわしい本を図書館で調べておいてください。

【テキスト（教科書）】

主にプリント使用。プリントは毎授業すべて持参すること。英字新聞を各自持ってきてもらう場合があります。
英和・和英・国語辞書を持参のこと（電子辞書が便利）。携帯電話の辞書使用は認めません。

【参考書】

各自が参考文献にする本を読んで報告してください。あるいはネットで参考になるホームページなどチェックしておいてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート50%で60%以上で合格です。平常点の内容は、授業への集中度（授業中かけるビデオは必ず観ていること）、毎回の小テスト・提出物（レポート評も含め）をみます。全出席が単位の条件です。やむをえず欠席したら、必ず理由を報告してください。理由があれば3回までの欠席は認めます。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は今年度から担当するので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンで調べものをしたり、歌詞を検索したりしてもらいます。授業に関係ないことでの使用は禁止です。

【その他の重要事項】

提出物はすべてB5用紙使用です。レポート提出日は第14回より早くなる場合もあります。

【Outline and objectives】

The aim of English 3 is to further develop students' English proficiency which they acquired in English 1 (reading and listening) and English 2 (speaking and writing).

To do so, thinking "Current Affairs," the students in this class should read English

Newspapers, watch movies and listen to musics.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

菊池 かおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2年：初級/日本語/英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

BBC ニュースを題材に、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能すべての側面から、総合的に英語コミュニケーション能力を伸ばすことを本授業の目的とします。多くの英単語や文法を学んだとしても、実際にそれらが活用できなければ知識が無駄になってしまいます。そのため授業では、パラグラフ・リーディングやグループ・プレゼンテーションなどを通して、論理的思考能力と英語の運用能力を磨きます。

【到達目標】

議論の大意を素早く把握するためのリーディングスキルとリスニングスキルの強化、そして自分の意見を論理的に述べるために必要なライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的にはBBCニュースを取り扱ったテキストに沿って授業を進めていく。また授業では、ライティングやグループ・プレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容や成績評価などの説明をする
2	The Power of the Face (1)	リスニング演習と記事の読解
3	The Power of the Face (2)	読解とライティング
4	Prince William (1)	リスニング演習と記事の読解
5	Prince William (2)	読解とライティング
6	Preparation for Group Presentation	プレゼンテーションの準備
7	Polar Bears	リスニング演習と記事の読解
8	The Taj Mahal	リスニング演習と記事の読解
9	Group Presentation	グループ・プレゼンテーション
10	Animal Attire	リスニング演習と記事の読解
11	Red Kangaroos	リスニング演習と記事の読解
12	Queen Elizabeth II (1)	リスニング演習と記事の読解
13	Queen Elizabeth II (2)	読解とライティング
14	期末試験	授業内で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に指示された課題と復習

【テキスト（教科書）】

教科書名：Challenging BBC on DVD

著者：Akira Morita 他

出版社：成美堂

出版年：2018年

価格：2,300円

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%、グループ・プレゼンテーション20%、期末試験40%

欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This is a content based course that builds upon skills gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

菊池 かおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

BBC ニュースを題材に、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能すべての側面から、総合的に英語コミュニケーション能力を伸ばすことを本授業の目的とします。多くの英単語や文法を学んだとしても、実際にそれらが活用できなければ知識が無駄になってしまいます。そのため授業では、パラグラフ・リーディングやグループ・プレゼンテーションなどを通して、論理的思考能力と英語の運用能力を磨きます。

【到達目標】

議論の大意を素早く把握するためのリーディングスキルとリスニングスキルの強化、そして自分の意見を論理的に述べるために必要なライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には BBC ニュースを取り扱ったテキストに沿って授業を進めていく。また授業では、ライティングやグループ・プレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容や成績評価などの説明をする
2	Dress to Impress (1)	リスニング演習と記事の読解
3	Dress to Impress (2)	読解とライティング
4	The Statue of Liberty	リスニング演習と記事の読解
5	The Statue of Liberty (1)	読解とライティング
6	The Statue of Liberty (2)	読解とライティング
7	Preparation for Group Presentation	プレゼンテーションの準備
8	Dream Soundtracks	リスニング演習と記事の読解
9	Queen Victoria	リスニング演習と記事の読解
10	Group Presentation	グループ・プレゼンテーション
11	The Great Wall	リスニング演習と記事の読解（小テスト）
12	Attention to Detail	リスニング演習と記事の読解
13	All Spun Out (1)	リスニング演習と記事の読解
14	All Spun Out (2)	読解とライティング
15	期末試験	授業内で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に指示された課題と復習

【テキスト（教科書）】

教科書名：Challenging BBC on DVD

著者：Akira Morita 他

出版社：成美堂

出版年：2018年

価格：2,300円

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%、グループ・プレゼンテーション20%、期末試験40%

欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This is a content based course that builds upon skills gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の4能力をさらに深める。またこの4技能を駆使してあるテーマについて英語で情報を得て考察し、発信する能力を養成する。本授業では NHK のニュース番組の資料を使うことで国内の話題を英語で理解し発信する力を養成する。

【到達目標】

英語の文章を理解し正確に読み取ることができる。

リスニングに慣れ、日々のリスニングの習慣をつける。

英語で自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。

1 単元につき、2 時限を使用して繰り返し映像資料を参照する。

すべてのユニットでリスニング、精読を行い

テキスト内での設問に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、教材についての説明
2	Unit1	資料のリスニングを中心とする学習
3	Unit1	資料の精読を中心とする学習
4	Unit2	資料のリスニングを中心とする学習
5	Unit2	資料の精読を中心とする学習
6	Unit3	資料のリスニングを中心とする学習
7	Unit3	資料の精読を中心とする学習
8	Unit4	資料のリスニングを中心とする学習
9	Unit4	資料の精読を中心とする学習
10	Unit5	資料のリスニングを中心とする学習
11	Unit5	資料の精読を中心とする学習
12	Unit6	資料のリスニングを中心とする学習
13	Unit6	資料の精読を中心とする学習
14	まとめ	Unit1-6 の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語など事前に指示された課題を解いてから授業にのぞむ

【テキスト（教科書）】

"NHK Newslines"『映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本』(2018) 金星堂

【参考書】

特に指定はしないが、該当記事に関するニュースなどを参照する

【成績評価の方法と基準】

小テストによる平常点 70%

出席や授業への参加 30%

各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

空調音響も含めた授業内環境に配慮する

【Outline and objectives】

This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about Japanese culture.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文（哲日英）2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 能力をさらに深める。またこの 4 技能を駆使してあるテーマについて英語で情報を得て考察し、発信する能力を養成する
本授業では NHK のニュース番組の資料を使うことで国内の話題を英語で理解し発信する力を養成する

【到達目標】

英語の文章を理解し正確に読み取ることができる。
リスニングに慣れ、日々のリスニングの習慣をつける。
英語で自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。

1 単元につき、2 時限を使用して繰り返し映像資料を参照する。
すべてのユニットでリスニング、精読を行い
テキスト内での設問に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit7	資料のリスニングを中心とする学習
2	Unit7	資料の精読を中心とする学習
3	Unit8	資料のリスニングを中心とする学習
4	Unit8	資料の精読を中心とする学習
5	Unit9	資料のリスニングを中心とする学習
6	Unit9	資料の精読を中心とする学習
7	Unit10	資料のリスニングを中心とする学習
8	Unit10	資料の精読を中心とする学習
9	Unit11	資料のリスニングを中心とする学習
10	Unit11	資料の精読を中心とする学習
11	Unit12	資料のリスニングを中心とする学習
12	Unit12	資料の精読を中心とする学習
13	Unit13	資料のリスニングを中心とする学習
14	Unit13	資料の精読を中心とする学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語など事前に指示された課題を解いてから授業にのぞむ

【テキスト（教科書）】

"NHK Newline"『映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本』(2018) 金星堂

【参考書】

特に指定はしないが、該当記事に関するニュースなどを参照する

【成績評価の方法と基準】

小テストによる平常点 70%
出席や授業への参加 30%
各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

教室環境への配慮をする

【Outline and objectives】

This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about Japanese culture.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. In this course students will spend time using English to learn about American culture from a number of diverse perspectives. Students will learn about American culture through various sources of information and will incorporate a variety of topics about which they will express their opinion. In addition, students will also practice the fundamental English skills necessary to accomplish the above.

【到達目標】

Students will read and understand rather simple English texts without relying too much on dictionaries for understanding.
Students will learn to express their own opinion in speaking and writing, including how to examine content from a critical thinking perspective.
Students will not only learn about American culture, which continues to have a large impact on the world, but will also be able to apply that knowledge while improving their English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Warm up activities will include listening practice from various English websites. Various target language objectives will be emphasized during each class period. For example, while reading from text, an emphasis may be placed on building vocabulary as well as the comprehension of passages. When presentations are the focus, an emphasis will be placed on using the appropriate posture and body language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 3	Course overview: policies, procedures and student expectations.
2	American Food and Wine	Reading and Listening practice using DVD video.
3	American food and wine	Reading and Writing practice using the expressions from the textbook.
4	American Food and Culture.	Listening and Vocabulary Quiz; Preparation for Presentation 1.
5	American Food Culture.	Group presentations 1: Images of American food culture and products; Student reactions.
6	Sports in the United States	Listening and Reading practice from DVD and text.
7	Sports in the United States: Baseball	Reading and Writing practice using expressions from the textbook.
8	Sports in the U.S.	Listening and Vocabulary Quiz 2. Practice and Preparation for Sports Presentations.
9	Sports in the U.S. and Japan	Group Presentations 2: Sports in the U.S. and Japan. Student reactions.
10	The World of Disney	Listening practice from DVD; Reading comprehension from text.
11	The World of Disney	Reading and Writing practice using expressions from the textbook
12	Disney Movies and Gender.	Discussion of how gender is depicted in scenes from Disney movies. Listening and Reading practice from Unit 4.
13	Entertainment: Hollywood, California	Group presentations on chosen topics from Disney and Hollywood entertainment; Student reactions

14 Term end review. Review Test on Units 1-4:
Listening, Reading and Writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed any readings, writings or listening tasks assigned from the previous week. This is of utmost importance in order to fully participate in class activities (see below Grading criteria) and for the benefit of the class as a whole.

【テキスト（教科書）】

American Dream: Video Reading and Listening in American culture.(Asahi Press, Japan)

【参考書】

An English-Japanese/Japanese-English dictionary is highly recommended for each class session. Other supplemental readings and handouts will be provided at the discretion of the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on the following:

*Class participation: 30% (including the timely completion of assignments)

Presentations (group and individual 30%

Unit tests, oral dictation quizzes and final end of term test: 40%

*Please note that in principle no more than three absences are permitted throughout the term. Without a valid reason (i.e. medical emergency/family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 II builds upon the skills and knowledge gained from English 1,2 and the first semester of English 3. It will continue to aim to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will spend time using English to learn about American culture from a number of diverse perspectives. Students will learn about American culture through various sources of information and will incorporate a variety of topics about which they will express their opinion. In addition, students will also practice the fundamental English skills necessary to accomplish the above.

【到達目標】

Students will read and understand rather simple English texts without relying too much on dictionaries for understanding.

Students will learn to express their own opinion in speaking and writing, including how to examine content from a critical thinking perspective.

Students will not only learn about American culture, which continues to have a large impact on the world, but also be able to apply that knowledge while improving their English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Various target language objectives will be emphasized during each class period. For example, while reading from text, an emphasis may be placed on building vocabulary as well as the comprehension of passages. When presentations are the focus, an emphasis will be placed on using the appropriate posture and body language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the Fall term.	Review of class policies and procedures; student expectations for Fall term. assignment for next class.
2	Unit 5: The Statue of Liberty.	Reading and Listening practice using DVD video.
3	The Statue of Liberty.	Readings and Writing practice using the expressions from the textbook.
4	The Statue of Liberty	Unit 5 Listening and Vocabulary Quiz. Preparation for first group presentations.
5	The Melting Pot	Group Presentations on the meaning of freedom and student reactions. Introduction to Unit 6.
6	The Melting Pot	Practice reading and listening using the text and DVD video
7	The Melting Pot	Practice reading and writing using the expressions and vocabulary in the textbook.
8	Unit 6 Review	Unit 6: Listening and Vocabulary Quiz; preparation for Presentations
9	Cultural Diversity	Group presentations on chosen topics of culture; student reactions.
10	Jazz, Gospel, Blues and Rock n Roll	Reading and Listening practice using the text and DVD video.
11	Jazz, Gospel, Blues and Rock n Roll	Practice reading and writing using the expressions and vocabulary in the textbook.
12	Native American Indians	Listening and Vocabulary Quiz on Unit 7; Introduction to Unit 9 Reading and Listening practice using the text and DVD video.

13	Native American Indians	Final Group presentations on chosen topics from Units 7,8 and 9.
14	Term End Review	Final Test, Units 5-9: Listening, Reading and Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed any readings, writings or listening tasks assigned from the previous week. This is of utmost importance in order to fully participate in class activities (see Grading criteria below) and for the benefit of the class as a whole.

【テキスト（教科書）】

American Dream: Video Reading and Listening in American culture.(Asahi Press, Japan)

【参考書】

An English-Japanese/Japanese-English dictionary is highly recommended for each class session. Other supplemental readings will be provided at the discretion of the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on the following:

*Class participation: 30% (including the timely completion of homework assigned in the previous class)

Presentations: 30%

Unit quizzes and final test: 40%

*Please be aware that in principle no more than three absences are permitted throughout the term. Without a valid reason (i.e. medical emergency/ family problem) a fourth absence will result in a failing grade for the term.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Legal Matters

アンドリュウ・チェン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will read and examine truncated versions of real court cases in the U.S. and Japan in order to discover values and cultural differences in establishing the rule of the law.

【到達目標】

Students aim to develop skills necessary to discuss and express different views and opinions on selected court cases and legal matters. Students are to apply the summarizing, paraphrasing, essay writing, and presentation skills acquired in the past to this seminar. Lastly, students will learn how to write a research paper in the American Psychological Association (APA) style for a term paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The class will be part lecture and part seminar. In areas requiring legal knowledge and commentary, the instructor will provide an overview and background of the law. In areas requiring summarizing, reporting, and analyzing the cases, students will work in groups and present to the class as in a seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	世界の中の日本	初授業オリエンテーション Child Abuse: The Case of a Japanese Exchange Student (児童虐待)
第二回	世界の中の日本	Child Abuse: The Case of a Japanese Exchange Student (児童虐待)
第三回	世界の中の日本	Child Abuse: The Case of a Japanese Exchange Student (児童虐待)
第四回	世界の中の日本	Divorce: The Case of a Famous Hollywood Actor (離婚)
第五回	世界の中の日本	Divorce: The Case of a Famous Hollywood Actor (離婚)
第六回	世界の中の日本	Divorce: The Case of a Famous Hollywood Actor (離婚)
第七回	世界の中の日本	Midterm Presentation, Wills: The Case of the late World Famous Pop star (遺言)
第八回	世界の中の日本	Wills: The Case of the late World Famous Pop star (遺言)
第九回	世界の中の日本	Bankruptcy: The Case of a Retired Woman Troubled with Chronic Symptoms (破産)
第十回	世界の中の日本	Bankruptcy: The Case of a Retired Woman Troubled with Chronic Symptoms (破産)
第十一回	世界の中の日本	Worked for an Advertising Agency (契約違反)
第十二回	世界の中の日本	Breach of Contract: The Case of a Man Who Worked for an Advertising Agency (契約違反)
第十三回	世界の中の日本	Traffic Violations: The Case of a Japanese Driver Who Violated Traffic Laws (交通違反)
第十四回	世界の中の日本	Traffic Violations: The Case of a Japanese Driver Who Violated Traffic Laws (交通違反)、Final Examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the gist of the cases before class and answer all questions in exercises 1-3 to prepare for in class vocabulary quizzes.

【テキスト（教科書）】

本テキストでは、アメリカと日本で実際に起こった、法律や訴訟に関わる様々なエピソードを紹介し、故マイケル・ジャクソンの遺産問題から、終身刑になった犯罪者の更正していく様を描いたものまで、幅広いトピックの法律に関連する事例を英語で読みます。法律だけでなく、考え方や社会など、いろいろな角度からアメリカと日本との違いを認識し、理解を深めることができます。事例の裏に絡み合う人間模様が学習者の興味を引き、英語の勉強になるだけでなく、一般教養としての法律の知識も身につけます。

Title: Legal Matters

Publisher: CENGAGE Learning

ISBN: 978-4-86312-150-8

【参考書】

The U.S.Code Legal Information Institute Cornell University Law School <http://www.law.cornell.edu/uscode/text>

Federal and State Laws and Regulations <http://www.usa.gov/Topics/Reference-Shelf/Laws.shtml>

Ono, Shusei. (1996), pp 27-45. Comparative Law and the Civil Code of Japan. The Hitotsubashi Journal of Law and Politics, The Hitotsubashi Academy.

English Translation of the Japanese Civil Code <http://www.moj.go.jp/content/000056024.pdf>

Japanese Law Research Guide New York University <http://www.nyulawglobal.org/globalex/japan1.htm>

【成績評価の方法と基準】

*Vocabulary Quizzes (10%)

*Class participation (10%)

*Written assignments and opinions (10%)

*Midterm Presentation and exam (20%)

*Research paper (20%)

*Final exam (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Special consideration will be given to students' abilities and the general pace of the class.

【その他の重要事項】

I take attendance for every class. Two unexcused absences will affect your grade. Students who miss more than three classes will not receive credit for the course. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started counts as an absence. Two times late equals one absence. This course will be conducted in English.

【Outline and objectives】

The course will introduce students to various legal topics and problems of the Japanese and US Society.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

アンドリュー・チェン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

文（史地心）2年：中級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will read and examine truncated versions of real court cases in the U.S. and Japan in order to discover values and cultural differences in establishing the rule of the law.

【到達目標】

Students aim to develop skills necessary to discuss and express different views and opinions on selected court cases and legal matters. Students are to apply the summarizing, paraphrasing, essay writing, and presentation skills acquired in the past to this seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The class will be part lecture and part seminar. In areas requiring legal knowledge and commentary, the instructor will provide an overview and background of the law. In areas requiring summarizing, reporting, and analyzing the cases, students will work in groups and present to the class as in a seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	世界中の日本	Products Liability: The Case of the Young Fast Food Lovers（製造物責任）
第二回	世界中の日本	Products Liability: The Case of the Young Fast Food Lovers（製造物責任）
第三回	世界中の日本	Harassment in the Workplace: The Case of the Male Worker and His Female Supervisor（職場でのハラスメント）
第四回	世界中の日本	Harassment in the Workplace: The Case of the Male Worker and His Female Supervisor（職場でのハラスメント）
第五回	世界中の日本	Copyright Infringement on the Internet: The Case of a Man Who Sold Game Software Illegally（インターネット上での著作権侵害）
第六回	世界中の日本	Copyright Infringement on the Internet: The Case of a Man Who Sold Game Software Illegally（インターネット上での著作権侵害）
第七回	世界中の日本	中間試験
第八回	世界中の日本	Anti-Stalking Law: The Case of a Co-Worker in the Restaurant（ストーカー規正法）
第九回	世界中の日本	Anti-Stalking Law: The Case of a Co-Worker in the Restaurant（ストーカー規正法）
第十回	世界中の日本	Rehabilitation of Juvenile Criminals: The Case of a Young Repeat Offender（若年犯罪者の更生）
第十一回	世界中の日本	Rehabilitation of Juvenile Criminals: The Case of a Young Repeat Offender（若年犯罪者の更生）
第十二回	世界中の日本	Miscarriage of Justice: The Case of a Former Kindergarten Bus Driver（誤審 冤罪）
第十三回	世界中の日本	Miscarriage of Justice: The Case of a Former Kindergarten Bus Driver（誤審 冤罪）
第十四回	世界中の日本	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the gist of the cases before class and answer all questions in exercises 1-3 to prepare for in class vocabulary quizzes.

【テキスト（教科書）】

本テキストでは、アメリカと日本で実際に起こった、法律や訴訟に関わる様々なエピソードを紹介し、故マイケル・ジャクソンの遺産問題から、終身刑になった犯罪者の更正していく様を描いたものまで、幅広いトピックの法律に関連する事例を英語で読みます。法律だけでなく、考え方や社会など、いろいろな角度からアメリカと日本との違いを認識し、理解を深めることができます。事例の裏に絡み合う人間模様が学習者の興味を引き、英語の勉強になるだけでなく、一般教養としての法律の知識も身につけます。

Title: Legal Matters

Publisher: CENGAGE Learning

ISBN: 978-4-86312-150-8

【参考書】

The U.S.Code Legal Information Institute Cornell University Law School <http://www.law.cornell.edu/uscode/text>

Federal and State Laws and Regulations <http://www.usa.gov/Topics/Reference-Shelf/Laws.shtml>

Ono, Shusei. (1996), pp 27-45. Comparative Law and the Civil Code of Japan. The Hitotsubashi Journal of Law and Politics, The Hitotsubashi Academy.

English Translation of the Japanese Civil Code <http://www.moj.go.jp/content/000056024.pdf>

Japanese Law Research Guide New York University <http://www.nyulawglobal.org/globalex/japan1.htm>

【成績評価の方法と基準】

*Vocabulary Quizzes (10%)

*Class participation (10%)

*Written assignments and opinions (10%)

*Midterm Presentation and exam (20%)

*Research paper (20%)

*Final exam (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Consideration will be given to students' abilities and the general pace of the class.

【その他の重要事項】

I take attendance for every class. Two unexcused absences will affect your grade. Students who miss more than three classes will not receive credit for the course. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started counts as an absence. Two times late equals one absence. This course will be conducted in English.

【Outline and objectives】

To be able to read legal cases and to understand the attempts to address problems in society through law. Students will learn how to write a research paper in the American Psychological Association (APA) style for a term paper.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリスのニュース

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、ライティングの演習を行います。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト **British News Update** を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、**Summary** を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Unit 1 Repairing Big Ben 前半	授業の進め方の説明 英作文についての説明 Unit1 のリスニング
2	Unit 1 Repairing Big Ben 後半	テキスト P6 Summary のリスニング テキスト P1~6
3	Unit 2 Learning to Walk Again	テキスト P12 Summary のリスニング テキスト P7~12
4	Unit 3 A Secret Garden in London	テキスト P18 Summary のリスニング テキスト P13~18
5	Unit 4 Unpaid Internships	テキスト P24 Summary のリスニング テキスト P19~24
6	前半のまとめと英作文 1、ディスカッション	これまで扱ったニュースに関する意見等の英作文
7	中間試験とまとめ	第1回から第6回までの授業内容を試験範囲とします。
8	Unit 5 The Wedding Gallery	テキスト P30 Summary のリスニング テキスト P25~30
9	Unit 6 A Modern Stream Train	テキスト P36 Summary のリスニング テキスト P31~36
10	Unit 7 A T-shirt Exhibition	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P37~42
11	Unit 8 A Generation Z 前半	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P43~48
12	Unit 8 Generation Z 後半	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P43~48
13	後半のまとめと英作文 2、ディスカッション	これまで扱ったニュースに関する意見等の英作文
14	期末試験とまとめ	第8回から13回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、**News Story** の英文を事前に読んでください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの **Making a Summary** のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。

【テキスト（教科書）】

British News Update（金星堂 2019）¥2,600（+ Tax）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

2回の試験の平均点 60%、平常点（授業内での発言等の貢献度、提出物など）25%、小テストの点数 15% で総合的に評価します。欠席が4回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席、遅刻の回数に応じて減点となります。30分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士のディスカッションなどの機会を増やしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イギリスのニュース

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、ライティングの演習を行います。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト **British News Update** を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、**Summary** を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文もを行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit9 Veganuary 前半	授業についての説明と Unit9 のリスニング
2	Unit9 Veganuary 後半	テキスト P54 Summary のリスニング テキスト P49～54
3	Unit10 Wind Power in Britain	テキスト P60 Summary のリスニング テキスト P55～60
4	Unit11 Preventing Transgender Bullying	テキスト P66 Summary のリスニング テキスト P61～66
5	Unit12 A Plastic Tenner	テキスト P72 Summary のリスニング テキスト P67～72
6	英作文 1 回目	これまでのニュースについての意見等を英作文してもらいます
7	中間試験と前半のまとめ	第 1 回から第 6 回までの授業内容を試験範囲とします。
8	Unit 13 How to Delay Ageing	テキスト P78 Summary のリスニング テキスト P73～78
9	Unit14 Schools Deal with Fake News 前半	テキスト P84 Summary のリスニング テキスト P79～84
10	Unit14 Schools Deal with Fake News 後半	テキスト P84 Summary のリスニング テキスト P79～84
11	Unit15 Experiences of Sexual Harassment 前 半	テキスト P90 Summary のリスニング テキスト P85～90
12	Unit15 Experiences of Sexual Harassment 後 半	テキスト P90 Summary のリスニング テキスト P85～90
13	英作文 2 回目	これまでのニュースについての意見等を英作文してもらいます
14	期末試験と内容のまとめ	第 8 回から 14 回までの内容を試験範囲とします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、**News Story** の英文を事前に読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの **Making a Summary** のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。

【テキスト（教科書）】

British News Update（金星堂 2018）¥2,600（+ Tax）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、グループワーク、提出物など）25 %、リスニングの点数 15 %で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席と遅刻の回数に応じて減点になります。30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士のディスカッションなどの機会を増やしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中での日本の歴史

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：中級/日本語/世界の中の日本**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講座では、日本の歴史について知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。本授業では、「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【到達目標】

日本についてより深く知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、得た知識の発表を個人及びグループで行います。グループ・ワーク及びグループ・プレゼンテーションを行い、アウトプットのトレーニングをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 項	発音練習	発音練習
第 3 講	Chapter 1 The Jomon Period	縄文時代について
第 4 講	Chapter 2 The Yayoi Period	弥生時代について
第 5 講	Chapter 3 The Tumulus Period	古墳時代について
第 6 講	Chapter 4, 5 The Asuka Period 1,2	飛鳥時代について
第 7 講	Chapter 6 The Nara Period	奈良時代について
第 8 講	Chapter 7 The Heian Period	平安時代について
第 9 講	Chapter 8 The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi	平安時代の終焉
第 10 講	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
第 11 講	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
第 12 講	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
復習	復習	復習
総括	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

The General History of Japan 五十嵐昭人著 南雲堂 2016 年 ISBN 978-4-523-17824-8

【参考書】

辞書等

【成績評価の方法と基準】

授業のための準備・予習等 (10%)、グループ・プレゼンテーション (30%)、提出物 (10%)、ペーパーテスト (50%) の総合点で評価します。尚、欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

クラス人数が比較的多い場合は、一人一人の発言の機会が少ないという意見がです。積極的な参加をしてもらえるような配慮をするつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、グループ性と一人 1 分程度かつ原稿なしでの英語での発言が求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students ability in English reading and outputting about Japanese history. It is going to be quite important for university students nowadays to improve their English reading and outputting skills in order to function in the future global society. I hope that this course will help guide you to a new 'you' with efficient English skills.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中での日本の歴史

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、日本の歴史について知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【到達目標】

日本についてより深く知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、得た知識の発表を個人及びグループで行います。グループ・ワーク及びグループ・プレゼンテーションを行い、アウトプットのトレーニングをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	ガイダンス
第2項	発音練習	発音練習
第3講	Chapter 9,10 The Kamakura Period 1,2	鎌倉時代について
第4講	Chapter 11,12 The Muromachi Period	室町時代について
第5講	Chapter 13, 14 The Azuchi-Momoyama Period	安土桃山時代について
第6講	Chapter 15,16 The Edo Period 1,2	江戸時代について
第7講	Chapter 17,18 The Edo Period 3,4	江戸時代について
第8講	Chapter 19,20 The Meiji Period 1,2	明治時代について
第9講	Chapter 21 The Meiji Period	明治時代の終焉
第10講	プレゼンテーション 4	プレゼンテーション 4
第11講	プレゼンテーション 5	プレゼンテーション 5
第12講	プレゼンテーション 6	プレゼンテーション 6
復習	復習	復習
総括	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

The General History of Japan 五十嵐昭人著 南雲堂 2016年 ISBN 978-4-523-17824-8

【参考書】

辞書等

【成績評価の方法と基準】

授業のための準備・予習等（10%）、グループ・プレゼンテーション（30%）、提出物（10%）、ペーパーテスト（50%）の総合点で評価します。尚、欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

クラス人数が比較的多い場合は、一人一人の発言の機会が少ないという意見がです。積極的な参加をしてもらえるような配慮をするつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、グループ性と一人1分程度かつ原稿なしでの英語での発言が求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students ability in English reading and outputting about Japanese history. It is going to be quite important for university students nowadays to improve their English reading and outputting skills in order to function in the future global society. I hope that this course will help guide you to a new 'you' with efficient English skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Current Issues in the English Speaking World

English 3 では、English 1 と 2 で学んだことをもとに、様々な英語の素材を批判的に吟味し、それぞれのトピックについて自分の意見を述べる力を養います。具体的には、新聞やニュースに取り上げられた英語圏の時事問題を理解したのち、group discussion や group presentation、essay の中で自分の意見を英語で表現する練習をします。

【到達目標】

- 1) 英語の素材の理解を通して、文法や単語を学びます。
- 2) 英語の素材の文法に注目したり関連情報を調べたりして、素材を批判的に吟味する力をつけます。
- 3) Group discussion、group presentation、essay writing を通して、英語で意見を表現する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

いわゆる 4 技能（reading, writing, listening, speaking）を用いたアクティビティやタスクが中心となります。具体的には、短いテキストを読んだり、短いオーディオ/ビジュアル・クリップを見聞きしたあとに、そのトピックについて group discussion を行い、結果を group presentation および essay として発表します。授業の雰囲気は和やかで楽しく friendly です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know each other (communicative activities), plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)

14	Submission of the essay, recap of the semester & student feedback	Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz
----	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を完璧にこなすこと、ほぼ毎回の単語のテストの準備をすること、**presentation** と **essay** の準備をすることが必須です。宿題に基づくグループワークが多いので、宿題をしていないと他のメンバーに迷惑をかけることとなります。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。ほぼ毎回ハンドアウトが渡されます。ハンドアウトを管理するため、A4 のフォルダーやバインダーを用意してください。

【参考書】

辞書を必ず毎回持参してください。（紙版、電子版は問いません）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の基準で評価されます。

授業への積極的参加（出席ではありません）：20%

宿題と単語の豆テスト：40%

Presentation と **essay**: 40%

注意事項：出席と積極的参加は非常に重要です。授業を4回以上欠席した場合は原則として単位取得はできません。欠席してしまった際には、その回のハンドアウトや宿題をクラスメイトから入手し、次回の授業には他のクラスメイトと同様に予習、宿題を済ませて臨んでください。欠席は予習・宿題をしていない言い訳にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Current Issues in English Speaking World

佐藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

English 3 II では、English 3 I で学んだことをもとに、様々な英語の素材を批判的に吟味し、それぞれのトピックについて自分の意見を述べる力をさらに養います。具体的には、新聞やニュースに取り上げられた英語圏の時事問題を理解したのち、**group discussion** や **group presentation**、**essay** の中で自分の意見を英語で表現する練習をします。

【到達目標】

- 1) 英語の素材の理解を通して、文体や単語を学びます。
- 2) 英語の素材の文体に注目したり関連情報を調べたりして、素材を批判的に吟味する力をつけます。
- 3) **Group discussion**、**group presentation**、**essay writing** を通して、英語で意見を表現する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

いわゆる4技能（**reading, writing, listening, speaking**）を用いたアクティビティやタスクが中心となります。具体的には、短いテキストを読んだり、短いオーディオ/ビジュアル・クリップを見聞きしたあとに、そのトピックについて **group discussion** を行い、結果を **group presentation** および **essay** として発表します。授業の雰囲気は和やかで楽しく **friendly** です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know each other (communicative activities), plans for the semester
2	Understanding Current Issue 1	Vocabulary quiz on reading HW on Topic 1, reading HW comprehension check, listening to audio-visual material (1) on Topic 1
3	Understanding and discussing Current Issue 1	Review vocabulary quiz on reading HW, listening to audio-visual material (2), group discussion (1) on Topic 1
4	Discussing Current Issue 1	Vocabulary quiz on listening material, Group discussion (2) on Topic 1
5	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
6	Feedback on presentations 1, understanding Current Issue 2	Peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
7	Understanding Current Issue 2	Review vocabulary quiz on Topic 2, listening to audio-visual material on Topic 2
8	Discussing Current Issue 2	Vocabulary quiz on listening material, group discussion on Topic 2
9	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
10	Feedback on presentations 2, understanding Current Issue 3	Peer- and teacher feedback on presentation 2, Vocabulary quiz on reading HW on Topic 3, reading HW comprehension check
11	Discussing Current Issue 3	Group discussion on Topic 3
12	Discussing essay on Current Issue 3 (1)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (1)
13	Discussing essay on Current Issue 3 (2)	Discussing a draft essay HW on Topic 3 (2)
14	Submission of the essay, recap of the semester & student feedback	Submission of the essay, recap of the semester; student feedback; vocabulary quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を完璧にこなすこと、ほぼ毎回の単語のテストの準備をすること、**presentation** と **essay** の準備をすることが必須です。宿題に基づくグループワークが多いので、宿題をしていないと他のメンバーに迷惑をかけることとなります。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。ほぼ毎回ハンドアウトが渡されます。ハンドアウトを管理するため、**A4** のフォルダーやバインダーを用意してください。

【参考書】

辞書を必ず毎回持参してください。（紙版、電子版は問いません）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の基準で評価されます。

授業への積極的参加（出席ではありません）：20%

宿題と単語の豆テスト：40%

Presentation と essay：40%

注意事項：出席と積極的参加は非常に重要です。授業を4回以上欠席した場合は原則として単位取得はできません。欠席してしまった際には、その回のハンドアウトや宿題をクラスメイトから入手し、次回の授業には他のクラスメイトと同様に予習、宿題を済ませて臨んでください。欠席は予習・宿題をしていない言い訳にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

ペアワークやグループワークを楽しみ、宿題や豆テストを頑張ってこなすうちに力がついたらと感じる方がとても多く嬉しく思います。エッセーにかける時間を増やす予定です。

【Outline and objectives】

English 3 II builds upon the skills and knowledge gained from English 3 I and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. To that end, in this course students will use English to learn about current issues published in newspapers, news websites etc and discuss and present their opinions.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：Various aspects of the modern world

磯部 芳恵開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：中級/日本語/英語圏の文化と社会**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course builds upon skills on knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

The first goal of this course is to enable students to learn about various cultural aspects from around the world. The second goal is for students to develop discussion and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. The textbook includes various activities
2. short lectures and explanations by the teacher
3. pair and group discussions
4. short oral reports
5. short written comments and reports

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Student introductions Course outline Getting started: reading an article
2	Unit 1 A Look at Gold	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
3	VOA Learning English	Vocabulary Summary Discussion
4	Unit 2 Daylight Savings	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
5	News in levels	Vocabulary Summary Discussion
6	Unit 3 Making Libraries	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
7	Review	Review Unit 1-3 Vocabulary/Idioms
8	Unit 4 Pyramid Tech	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
9	VOA Learning English	Vocabulary Summary Discussion
10	Unit 5 Pigments	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
11	News in Levels	Vocabulary Summary Discussion
12	Unit 6 Shopping Tech	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion

13	Review & Summary writing	Review Unit 4-6 Vocabulary/Idioms Writing a summary of an article
14	Wrap up and feed back	End of term review and Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcript exercise. In addition, students will research a variety of topics and selected students will prepare and perform presentations on a similar topic each week.

【テキスト（教科書）】

CNN 10 Vol. 2 - Student News - < 2019 年 > (朝日出版社)

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include:

<http://www.bbc.co.uk/learningenglish>
<https://learningenglish.voanews.com/>
<https://www.newsintlevels.com/>
<https://breakingnewsenglish.com>

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria:

Class participation, 30 %, Presentations, 20 %, Tests, quizzes, 40 %.
 Unexplained/Unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their presentation slide to class on a memory stick.

【Outline and objectives】

This course builds upon skills on knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Various aspects of the modern world

磯部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 文（史地心）2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course builds upon skills on knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

The first goal of this course is to enable students to learn about various cultural aspects from around the world. The second goal is for students to develop discussion and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. The textbook includes various activities
2. short lectures and explanations by the teacher
3. pair and group discussions
4. short oral reports
5. short written comments and reports

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading an article	Breaking News English Vocabulary Summary Discussion
2	Unit 7 Origami	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
3	VOA news	Vocabulary Summary Discussion
4	Unit 8 Ice Cream	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
5	BBC news	Vocabulary Summary Discussion
6	Unit 9 Nigerian Women's Bobsled Team	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
7	Review	Review Unit 7-9 Summary Discussion
8	Unit 10 Zoo Dog	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
9	Breaking News English	Vocabulary Summary Discussion
10	Unit 11 Google Before Google	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
11	VOA news	Vocabulary Summary Discussion

12	Unit 12 3D Food Printing	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
13	Review and summary writing	Review Unit 10-12 Summary Discussion Writing a summary of an article
14	Wrap up and feed back	End of the term review and Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcript exercise. IN addition, students will research a variety of topics and selected students will prepare and perform presentations on a similar topic each week.

【テキスト（教科書）】

CNN 10 Vol. 2 - Student News - < 2019 年 > (朝日出版社)

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include:

<http://www.bbc.co.uk/learningenglish>
<https://learningenglish.voanews.com/>
<https://www.newsintlevels.com/>
<https://breakingnewsenglish.com>

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria:

Class participation, 30 %, Presentations, 20 %, Tests, quizzes, 40 %.

Unexplained/Unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

This course builds upon skills on knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 文（史地心）2年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1 および 2 で習得した英語運用能力である読む、書く、聴く、話すの4技能を使い、国際語である英語を通じて日本文化を世界的文脈の中で相対化し、英語資料を理解して批判的に分析し、たうえて英語による意見の発信ができる能力を養成する。

【到達目標】

- ・英語資料により世界における日本文化受容について理解を持つ
- ・日本文化に関する一般的英文を読み、コメントを英語で書く
- ・日本文化に関するアカデミックな英文を精読し、読解力を上げる
- ・日本に関する語彙の知識により英語の聴解力を上げる
- ・大学レベルのアカデミック・スキル (Writing, Presentation) を身につける
- ・Oxford English Dictionary をデータベースとして使えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業始めにリスニング小テスト、その後 DVD 視聴または英文読解、学習内容に関するコメントを英語で書いて提出、添削して返却する。DVD 視聴のないときは難度の高い長い英文読解を行い、音読・日本語訳等が課される。今期は日本文化の世界での受容をテーマとするため、Oxford English Dictionary 見出し語となった日本語を調べ、英語プレゼンテーションを行うので、学内 PC による辞書検索、Writing、Presentation が課される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	世界の日本文化受容 OED 採録の日本語	授業内容や課題の説明 データベース OED 利用案内
第2回	世界の中の日本文化 (Origin) Long-Established Business *() 内は Listening 小テスト	(Listening 小テスト 1) Unit 1 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第3回	世界の中の日本文化 (Geography) Uniforms and Identity	(Listening 小テスト 2) Unit 2 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第4回	世界の中の日本文化 (Climate) Volunteer Work and Helping Others	(Listening 小テスト 3) Unit 3 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第5回	世界の中の日本文化 (Constitution) High-Tech Living [Automobiles]	(Listening 小テスト 4) Unit 4 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第6回	世界の中の日本文化 (Government) Japanese Tableware	(Listening 小テスト 5) Unit 5 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第7回	世界の中の日本文化 (Economy) Homemakers of Japan	(Listening 小テスト 6) Unit 6 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第8回	世界の中の日本文化 (Education) Voice Actors	(Listening 小テスト 7) Unit 7 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第9回	日本社会と文化 (Religion) Assimilation	(Listening 小テスト 8) Reading Essay 1
第10回	日本文化の背景 (National Character) Multilayered Model	(Listening 小テスト 9) Reading Essay 2

第 11 回	日本文化の背景 (MiddleClass Consciousness) Multilayered Model	(Listening 小テスト 10) Reading Essay 3
第 12 回	Writing 試験	Presentation の原稿 Writing
第 13 回	Presentation 試験	OED にある日本語の英語説明
第 14 回	期末試験	Reading および Listening

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テストの学生用 DVD は自宅で視聴可能。Short Reading 教材は事前に配布するので、授業での速読とコメント Writing が終わらない場合は予め目を通して行く。Essay Reading は十分な予習が必要。Writing や Presentation に用いる Oxford English Dictionary を調べた資料は期日までに必ず準備する。準備できていないと授業中に Writing、Presentation が行えず、試験未受験扱いとなる。Listening 小テストは準備の必要なし。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂
Listening 小テストと Reading 教材はコピーを配布。

【参考書】

Oxford English Dictionary.
R.J. Davies. Japanese Culture:The Religious and Philosophical Foundations. 2016.
J. Rauch. The Outnation:A Search for the Soul of Japan. 1992.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・Presentation・Speaking10%、その他授業内での課題 10%が原則。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点で、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。学期末の Presentation、原稿作成 Writing は授業内試験として扱い、単位取得に必須。このほか授業中の課題を遂行しない、あらかじめ割り当てられた担当課題があるのに無断欠席などは評価点がマイナスされる。授業では全員が担当をこなすため出席状況の良いことが必須で、欠席 4 回以上の者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当のため）

【学生が準備すべき機器他】

授業には辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書を使用することは原則として認めない。

【Outline and objectives】

This class aims to provide students with further opportunities to improve their English proficiency acquired in English 1 and 2 classes. Students will read, write, hear and speak about various topics of Japan, especially Japanese culture in the world in English in order fully to have an academic skill. The spring semester focuses on understanding how Japan and Japanese culture are recognized, accepted, or sometimes criticized in the world. The various reading and listening materials can give students a lot of information, and based on these, they try to write a comment or speak his/her opinion in English. To see the acceptance of Japanese culture, students will look into an entry of Japanese words in Oxford English Dictionary. Analyzing the definition and quotations of these words contributes to students' understanding Japanese culture. Concerning the class procedure, students take a listening test at the beginning and try to read a short English (around 500 words) and write a comment after watching DVD. They also read an English essay on the background of Japanese culture, the religious and philosophical foundations in a class they don't watch DVD. It is essential for students to take three kinds of exams — writing, presentation, and final reading & listening.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1 および 2 で習得した英語運用能力である読む、書く、聴く、話すの 4 技能を使い、国際語である英語を通じて日本文化を世界的文脈の中で相対化し、英語資料を理解して批判的に分析したうえで英語による意見の発信ができる能力を養成する。

【到達目標】

- ・英語資料により世界における日本文化受容について理解を持つ
- ・日本文化に関する一般的英文を読み、コメントを英語で書く
- ・日本文化に関するアカデミックな英文を精読し、読解力を上げる
- ・日本に関する語彙の知識により英語の聴解力を上げる
- ・大学レベルのアカデミック・スキル (Writing, Presentation) を身につける
- ・Oxford English Dictionary をデータベースとして使えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業始めにリスニング小テスト、その後 DVD 視聴または英文読解、学習内容に関するコメントを英語で書いて提出、添削して返却する。DVD 視聴のないときは難度の高い長い英文読解を行い、音読・日本語訳等が課される。今期は日本文化の世界への発信をテーマとするため、興味ある事象を調べ、英語プレゼンテーションを行う。よって、日本文化の事象に関する書籍等で英文資料の収集、それに基づく Writing、Speaking が課される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の中の日本文化 (Annual Events1) Seafood-Japanese Cuisine	(Listening 小テスト 1) Unit 8 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 2 回	世界の中の日本文化 (Annual Events 2) Japanized Foreign Dishes	(Listening 小テスト 2) Unit 9 DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 3 回	世界の中の日本文化 (Diet) Bag-Culture	(Listening 小テスト 3) Unit10DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 4 回	世界の中の日本文化 (Sports) Senior Citizens [Medical Checkups]	(Listening 小テスト 4) Unit11DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 5 回	世界の中の日本文化 (Traveling) Money	(Listening 小テスト 5) Unit12DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 6 回	世界の中の日本文化 (Shiretoko) Zodiac	(Listening 小テスト 6) Unit13DVD 視聴 Short Reading Comment writing
第 7 回	日本語を英語にする (Nikko)	(Listening 小テスト 7) Reading Essay 1
第 8 回	Sino-Japanese War 日本の美学 1 (Ogasawara)	(Listening 小テスト 8) Reading Essay 2
第 9 回	日本の美学 2 (Kyoto/Nara)	(Listening 小テスト 9) Reading Essay 3
第 10 回	日本の美学 3 (Shirakawa)	(Listening 小テスト 10) Reading Essay 4
第 11 回	Speaking 試験	写真にある日本の文物・観光地について英語で話す

第 12 回	Writing 試験	Presentation の原稿 Writing
第 13 回	Presentation 試験	日本文化の事象を英語で説明
第 14 回	期末試験	Reading および Listening

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テストの学生用 DVD は自宅で視聴可能。Short Reading 教材は事前に配布するので、授業での速読とコメント Writing が終わらない場合は予め目を通して置く。Essay Reading は十分な予習が必要。Writing や Presentation に用いる Oxford English Dictionary を調べた資料は期日までに必ず準備する。準備できていないと授業中に Writing、Presentation が行えず、試験未受験扱いとなる。Listening 小テスト、写真資料の日本文化・観光地 Speaking は準備の必要なし。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂
Listening 小テスト、Reading 教材、Speaking で使う写真プリントはコピーを配布。

【参考書】

Oxford English Dictionary.
R.J.Davies & Osamu Ikeno. The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture. 2002.
B.Lafayette de Monte. Japan: A Guide to Traditions, Customs and Etiquette - KATA as the Key to Understanding the Japanese. 2013.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・Presentation・Speaking10%、その他授業内での課題 10%が原則。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点で、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。学期末の Presentation、原稿作成 Writing は授業内試験として扱い、単位取得に必須。このほか授業中の課題を遂行しない、あらかじめ割り当てられた担当課題があるのに無断欠席などは評価点がマイナスされる。授業では全員が担当をこなすため出席状況の良いことが必須で、欠席 4 回以上の者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当のため）

【学生が準備すべき機器他】

授業には辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書を使用することは原則として認めない。

【Outline and objectives】

This class aims to provide students with further opportunities to improve their English proficiency acquired in English 1 and 2 classes. Students will read, write, hear and speak about various topics of Japan, especially Japanese culture in the world in English in order fully to have an academic skill. The autumn semester focuses on explaining Japanese culture in English to the world. The various reading and listening materials can give students a lot of information, and based on these, they try to write a comment or speak his/her opinion in English. To train an ability to explain Japanese culture in English, students will give a presentation of a topic of Japanese culture which interests them. Concerning the class procedure, students take a listening test at the beginning and try to read a short English (around 500 words) and write a comment after watching DVD. They also read an English essay on the Japanese aesthetics in a class they don't watch DVD. It is essential for students to take three kinds of exams — writing, presentation, and final reading & listening.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代イギリスの社会

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリス社会、とりわけその国制について、「興味ある者ならば当然知っていなければならない」という意味で「初歩的な」事柄を学ぶ（したがって「簡単な」という意味ではない）。同時に、主要 4 技能における英語運用能力の向上を図る。

【到達目標】

本授業に限って言えば、主要 4 技能の向上とは以下のことを意味する。
(1) パラグラフ・ライティングの観点から、ある程度の長さの文章の構造をすぐに確認できるようになる。また構造を確認する習慣を身につける。
(2) 個別の文においては、(1) の構造と文法知識を動員して正確に読解できるようにする。
(3) 内容理解のためならば、自主的に調べて足りない知識を補う習慣を身につける。
(4) パラグラフ・ライティングの基本事項を実践し、定着させる。
(5) 英語ならではのリズムを理解し、音声を聞き取れるようになる。
(6) 正確な発音と、(5) のリズムで話せるようになる。またそのように話す習慣を身につける。
(7) プレゼンテーションに必要な配慮に基づいた、適切な原稿・資料の作成や、基本的な所作を実践できるようにする。
加えて本授業では、イギリスの実像について時代錯誤的・ステレオタイプのな認識を改めることも必要となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit は、ほぼ 3 回の授業回に分けられる。それぞれの授業回に要求される学習内容が異なるので注意するよう。

- (A) 1 回目は長文読解を中心とするので、【到達目標】の (1)(2)(3) を確認するための質問を行なう。
(B) 2 回目は教科書のリスニング・ライティング練習問題と、余裕があればウェブ上の英語学習サイトにおける視聴覚教材を用いて、【到達目標】の (4)(5)(6) を確認する。
(C) 3 回目は【到達目標】の (4)(7) に必要な事項を解説した後、各 Unit のトピック関する 1 パラグラフ程度のライティング小テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスを行う
2	発音	発音練習を行う
3	Unit 1 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題
4	Timed Writing	文法とパラグラフ・ライティングに関する説明 Writing の小テスト
5	Unit 2 (1)	Reading を中心とした精読
6	Unit 2 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題
7	Timed Writing	文法とパラグラフ・ライティングに関する説明 Writing の小テスト
8	Unit 3 (1)	Reading を中心とした精読
9	Unit 3 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題
10	プレゼンテーション 1(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの計画法を学ぶ
11	プレゼンテーション 2(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の仕方を学ぶ
12	プレゼンテーション 3(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の批評の仕方を学ぶ
13	テキストの復習	Unit1 から Unit7 までの復習を行う
14	総括	ペーパーテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

ジョナサン・リンチ 委文光太郎『A Fresh Look at Britain（英国社会の実像を探る）』、成美堂、2013年 1900円＋税 ISBN: 9784791912827
毎回の授業には辞書（英和もしくは英英、授業回によっては和英も）の持参が必須になる。授業中に使用できるのは紙媒体もしくは専用装置型のもののみなので注意すること。

【参考書】

特に指定しない。英語学習サイトの教材を用いる場合は、導入を決定した時点で指定する。

【成績評価の方法と基準】

ライティングおよびプレゼンテーションの小テスト（計5回）の結果と平常点で総合的に評価する。前者が60%、後者が40%を占める。各授業回での質問に対する受け答えやアクティビティによって、予習・復習の程度や【到達目標】各項目の達成度を確認するため、これらすべてが平常点の評価対象となる。

・欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失なう。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとする。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられる。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとする。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となる。

・不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行ったことが発覚した場合、該当受講生に対する該当授業回の評価を無しとする。再犯が発覚した場合、単位取得資格を停止したうえで教務課に通報する。複数の受講生が関与した場合、全員同様の処分の対象となる。他受講生の不正を黙認した場合も同様である（したがって「他の人もやっている」という抗弁は通用しない）。

【学生の意見等からの気づき】

要求されるタスクが多すぎるのは、4技能とコンテンツ理解をまとめて要求し、それぞれに毎回細かい評価を出さなければいけない English 3 という科目の宿命です。1回の欠席で他の授業回数回分に悪影響が出ます。予習・復習にかけられる時間は非常に多くなることを覚悟し、決して不用意に欠席しないようにしなければなりません。

負担が大きすぎる場合は、タスクが減る可能性があります。

【Outline and objectives】

Students will acquire general knowledge about contemporary British society, especially its constitution (n.b. That does not mean this course is undemanding).

Throughout the course, students will improve their English skills as listed below.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代イギリスの社会

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリス社会、とりわけその日常生活・食文化について、「興味ある者ならば当然知っていなければならない」という意味で「初歩的な」事柄を学ぶ（したがって「簡単な」という意味ではない）。同時に、主要4技能における英語運用能力の向上を図る。

【到達目標】

本授業に限って言えば、主要4技能の向上とは以下のことを意味する。

- (1) パラグラフ・ライティングの観点から、ある程度の長さの文章の構造をすぐに確認できるようになる。また構造を確認する習慣を身につける。
 - (2) 個別の文においては、(1)の構造と文法知識を動員して正確に読解できるようにする。
 - (3) 内容理解のためならば、自主的に調べて足りない知識を補う習慣を身につける。
 - (4) パラグラフ・ライティングの基本事項を実践し、定着させる。
 - (5) 英語ならではのリズムを理解し、音声を聞き取れるようになる。
 - (6) 正確な発音と、(5)のリズムで話せるようになる。またそのように話す習慣を身につける。
 - (7) プレゼンテーションに必要な配慮に基づいた、適切な原稿・資料の作成や、基本的な所作を実践できるようにする。
- 加えて本授業では、イギリスの実像について時代錯誤的・ステレオタイプの認識を改めることも必要となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各Unitは、ほぼ3回の授業回に分けられる。それぞれの授業回に要求される予習内容が異なるので注意するように。

- (A) 1回目は長文読解を中心とするので、【到達目標】の(1)(2)(3)を確認するための質問を行なう。
- (B) 2回目は教科書のリスニング・ライティング練習問題と、余裕があればウェブ上の英語学習サイトにおける視聴覚教材を用いて、【到達目標】の(4)(5)(6)を確認する。
- (C) 3回目は【到達目標】の(4)(7)に必要な事項を解説した後、各Unitのトピック関する1パラグラフ程度のライティング小テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期まとめ・秋学期イントロダクション	今学期の授業の進め方に関する確認のほか、前学期の学修内容の到達度に関する総評と、プレゼンテーションについての解説を行なう。 当然のことながら出席にカウントされる。
2	Unit 5 (1)	Reading を中心とした精読
3	Unit 5 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題
4	Timed Writing	文法とパラグラフ・ライティングに関する説明 Writing の小テスト
5	Unit 6 (1)	Reading を中心とした精読
6	Unit 6 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題
7	Timed Writing	文法とパラグラフ・ライティングに関する説明 Writing の小テスト
8	Unit 7 (1)	Reading を中心とした精読
9	Unit 7 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題
10	Timed Writing	文法とパラグラフ・ライティングに関する説明 Writing の小テスト
11	Unit 8 (1)	Reading を中心とした精読
12	Unit 8 (2)	Listening と Writing を中心とした練習問題

13	Timed Writing	文法に関する説明 プレゼンテーションの作法 Writing の小テスト
14	Presentation	Unit 5-8 のトピックで小プレゼン テーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業回の内容によって、やるべきことが異なる。

【授業の進め方と方法】(A) に向けては、まずは長文の正確な内容理解が必要になる。まずは全体の構造を確認し、おおよその内容に見当をつけたうえで、(a) こまめに辞書を引く。たとえ知っているつもりでも、読んでいて文意が通じないのであれば必ず引くこと。自分の考えているのとは違う品詞や語意であるケースがほとんどである。(b) 文意が支離滅裂だったり文脈上論理が矛盾している場合は、当然誤読をしているので、文法知識も総動員し、意味と論理の通じる解釈を導けるよう「努力する」。(c) ひとえに英語力というよりトピックに関する知識不足に起因する理解不能もあるので、日本語・英語問わず調べられるものは自分で調べて、文意の理解に役立てる。

【授業の進め方と方法】(B) に向けては、(a) 授業中にノートに書き留めた事項をすべて踏まえてライティング問題を行ない、(b) リスニング問題は教材の音声に続けて真似て喋るシャドウイングを積極的に実践すること。そのためにはしかなるべき場所と時間を意識的に確保する必要がある。

【授業の進め方と方法】(C) に向けては、(a) 各回のトピックについて自ら知識を広める／深める必要があるほか、(b) 授業中に教わったパラグラフ・ライティングの基本事項を再三確認しなければならない。もちろん、(c) 自分の書いた（あるいは友人の書いた）文章に対して、自分で文法事項等のチェックができなければならない。

【テキスト（教科書）】

ジョナサン・リンチ 委文光太郎『A Fresh Look at Britain（英国社会の実像を探る）』、成美堂、2013年 1900円＋税 ISBN: 9784791912827

毎回の授業には辞書（英和もしくは英英、授業回によっては和英も）の持参が必須になる。授業中に使用できるのは紙媒体もしくは専用装置型のもののみなので注意すること。

【参考書】

特に指定しない。英語学習サイトの教材を用いる場合は、導入を決定した時点で指定する。

【成績評価の方法と基準】

ライティングおよびプレゼンテーションの小テスト（計 5 回）の結果と平常点で総合的に評価する。前者が 60%、後者が 40% を占める。

各授業回での質問に対する受け答えやアクティビティによって、予習・復習の程度や【到達目標】各項目の達成度を確認するため、これらすべてが平常点の評価対象となる。

・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失なう。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとする。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられる。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとする。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となる。

・不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行ったことが発覚した場合、該当受講生に対する該当授業回の評価を無しとする。再犯が発覚した場合、単位取得資格を停止したうえで教務課に通報する。複数の受講生が関与した場合、全員同様の処分の対象となる。他受講生の不正を黙認した場合も同様である（したがって「他の人もやっている」という抗弁は通用しない）。

【学生の意見等からの気づき】

要求されるタスクが多すぎるのは、4 技能とコンテンツ理解をまとめて要求し、それぞれに毎回細かい評価を出さなければいけない English 3 という科目の宿命です。1 回の欠席で他の授業回数回分に悪影響が出ます。予習・復習にかける時間は非常に多くなることを覚悟し、決して不用意に欠席しないようにしなければなりません。

負担が大きすぎる場合は、タスクが減る可能性があります。

【Outline and objectives】

Students will acquire general knowledge about contemporary British society, especially its people's daily lives and food culture (n.b. That does not mean this course is undemanding).

Throughout the course, students will improve their English skills as listed below.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 能力をさらに深める。またこの 4 技能を駆使してあるテーマについて英語で情報を得て考察し、発信する能力を養成する

本授業では NHK のニュース番組の資料を使うことで国内の話題を英語で理解し発信する力を養成する

【到達目標】

英語の文章を理解し正確に読み取ることができる。

リスニングに慣れ、日々のリスニングの習慣をつける。

英語で自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。

1 単元につき、2 時限を使用して繰り返し映像資料を参照する。

すべてのユニットでリスニング、精読を行い

テキスト内での設問に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、教材についての説明
2	Unit1	資料のリスニングを中心とする学習
3	Unit1	資料の精読を中心とする学習
4	Unit2	資料のリスニングを中心とする学習
5	Unit2	資料の精読を中心とする学習
6	Unit3	資料のリスニングを中心とする学習
7	Unit3	資料の精読を中心とする学習
8	Unit4	資料のリスニングを中心とする学習
9	Unit4	資料の精読を中心とする学習
10	Unit5	資料のリスニングを中心とする学習
11	Unit5	資料の精読を中心とする学習
12	Unit6	資料のリスニングを中心とする学習
13	Unit6	資料の精読を中心とする学習
14	まとめ	Unit1-6 の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語など事前に指示された課題を解いてから授業にのぞむ

【テキスト（教科書）】

"NHK Newslines"『映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本』(2018) 金星堂

【参考書】

特に指定はしないが、該当記事に関するニュースなどを参照する

【成績評価の方法と基準】

小テストによる平常点 70%

授業への参加 30%

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

教室環境への配慮

【Outline and objectives】

This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about Japanese culture.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文（史地心）2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 能力をさらに深める。またこの 4 技能を駆使してあるテーマについて英語で情報を得て考察し、発信する能力を養成する
本授業では NHK のニュース番組の資料を使うことで国内の話題を英語で理解し発信する力を養成する

【到達目標】

英語の文章を理解し正確に読み取ることができる。
リスニングに慣れ、日々のリスニングの習慣をつける。
英語で自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。
1 単元につき、2 時限を使用して繰り返し映像資料を参照する。
すべてのユニットでリスニング、精読を行い
テキスト内での設問に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit7	資料のリスニングを中心とする学習
2	Unit7	資料の精読を中心とする学習
3	Unit8	資料のリスニングを中心とする学習
4	Unit8	資料の精読を中心とする学習
5	Unit9	資料のリスニングを中心とする学習
6	Unit9	資料の精読を中心とする学習
7	Unit10	資料のリスニングを中心とする学習
8	Unit10	資料の精読を中心とする学習
9	Unit11	資料のリスニングを中心とする学習
10	Unit11	資料の精読を中心とする学習
11	Unit12	資料のリスニングを中心とする学習
12	Unit12	資料の精読を中心とする学習
13	Unit13	資料のリスニングを中心とする学習
14	Unit13	資料の精読を中心とする学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語など事前に指示された課題を解いてから授業にのぞむ

【テキスト（教科書）】

"NHK Newline"『映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本』(2018) 金星堂

【参考書】

特に指定はしないが、該当記事に関するニュースなどを参照する

【成績評価の方法と基準】

小テストによる平常点 70%
授業への参加 30%
各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

教室環境への配慮

【Outline and objectives】

This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about Japanese culture.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English speaking World

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：上級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 3 course builds upon the skills and knowledge students gained in English 1 and English 2, and requires students to exercise all four communication skills: reading, writing, listening and speaking. The course explores different topics related to Modern society, from the perspectives of an International journalist. the course will compare Japanese society/lifestyle and other cultures. There are three major themes of the course which are inter-related:

- 1) The importance of food in cultures
- 2) Meeting people from different cultures
- 3) Living in different cities

【到達目標】

Students will enhance their English reading skills and critical thinking through reading various texts and will deepen their understanding of different cultures in the process. Students will improve their communication ability by practicing voicing their opinions about important issues related to society and lifestyle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The textbook for this subject will be supplemented by additional news articles or TED topics that will require comprehension analysis. Students will be required to prepare questions for discussion in small (random) groups and present their group opinions to the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview and join CMS. Grading and Attendance Basic structures review
2	Food cultures	Listening: Vocabulary Climate and food
3	Food culture	Speaking: Food staples Describing food
4	Food culture	Writing: Japanese food Video: Different food
5	Meeting people from other cultures	Vocabulary: Describe life experience Small talk topics
6	Meeting people from other cultures	Speaking: "Breaking the Ice" Overcome language barriers
7	Meeting people from other cultures	Writing: Video:
8	Urbanization	Listening and Note taking Video and Script. Changing cities
9	Urbanisation	Vocabulary: The future of cities. Video: ECO cities
10	Urbanisation	Speaking: What more do we need to make a great city?
11	Urbanisation	TED Video: How food shapes our cities (and our bodies)
12	Ancient cities	The History of Tokyo and food culture
13	Modern cities	Video: Having fun in the city
14	Bring it all together	Group work. Prepare and present a summary of the topics covered in this course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

World English 2, (2nd Edition), Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase, CENGAGE LEARNING

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework: 40%

Classroom Worksheets: 40%

Participation: 20%

There will be 10 assessments during the semester. Each assessment will have a course value of 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Please bring Japanese/English and English/English Dictionaries.

A Thesaurus will also be useful. (Most electronic dictionaries have all three functions).

Apps for smartphones / mobile devices are acceptable.

Also, a portable device that supports a Word Processor (Google Docs, Microsoft Word, Apple Pages ®) or similar.

Access to Cloud computing may be an advantage.

Voice recognition software may be an advantage.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number. Please download Google Classroom to your device before our first class. Course code is: 5hkzgj7

【Outline and objectives】

Students will be able to discuss, and give opinions on, some contemporary issues using English communication.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English speaking World

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：上級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 3 course builds upon the skills and knowledge students gained in English 1, English 2 and English 3 1. It requires students to exercise all four communication skills: reading, writing, listening and speaking. The course explores different Aspects of Modern society, from the perspectives of an International journalist. The course will compare Japanese society/lifestyle and other cultures. There are three major themes of the course which are inter-related:

- 1) Health and health systems
- 2) Facing and overcoming challenges
- 3) Change and change management

【到達目標】

Students will enhance their English reading skills and critical thinking through reading various articles and will deepen their understanding of different cultures. Students will improve their communication ability by practicing voicing their opinions, in small groups, about important issues related to society and lifestyle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The textbook for this subject will be supplemented by additional news articles or TED topics that will require comprehension analysis. Students will be required to prepare questions for discussion in small (random) groups and present their group opinions to the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Overview, Grading and Attendance. Organs and systems. Comparatives and superlatives
2	Health and Health systems	Listening: Genetics vs lifestyle
3	Health and Health systems	Reading: Natural Remedies
4	Health and Health systems	Video: The Human body
5	Facing and overcoming challenges	Vocabulary of "challenge". Practice using Basic Past structures
6	Facing and overcoming challenges	Speaking about past accomplishments.
7	Facing and overcoming challenges	Reading / Writing about challenges Video: A challenging vocation
8	Change and Change management	Vocabulary of life stages. Unfinished business
9	Change and Change management	Listening: Life stages Vocabulary expansion adjectives and adjective opposites
10	Change and Change management	Video 1 Overcoming change. Video 2: Cultural differences
11	Change and Change management	TED Video: Economics, Technology and social equity
12	Changes in Technology	A.I., Blockchain and Robotics. Will these help or hinder us?
13	Changes in technology	Our aging society and do we really want to live forever?
14	Bring it all together	Group work. Prepare and present a summary of the topics covered in this course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

World English 2, (2nd Edition), Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase, CENGAGE LEARNING

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework: 40%

Classroom Worksheets: 40%

Participation: 20%

There will be 10 assessments during the semester. Each assessment will have a course value of 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Please bring Japanese/English and English/English Dictionaries.

A Thesaurus will also be useful. (Most electronic dictionaries have all three functions).

Apps for smartphones / mobile devices are acceptable.

Also, a portable device that supports a Word Processor (Google Docs, Microsoft Word, Apple Pages ®) or similar.

Access to Cloud computing will be required.

Voice recognition software may be an advantage.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

【Outline and objectives】

Students will be able to discuss, and give their opinions about, contemporary issues.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ロバート・D・ヒントン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy and confidence in the areas of speaking, listening, reading and writing. Students will also learn about the inner workings of American businesses and companies from the viewpoint of the workers and their CEOs and how those businesses impact American culture and society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each week students will see "real life" business dealings by way of "The Apprentice", an American reality show. As they watch, students will complete a listening comprehension worksheet and take notes about different aspects of the company, the workers and the CEO. After each program, students will participate in discussions and do activities related to that specific episode. This class incorporates Active Learning and task based activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Meet the contestants	Introduction of business culture the American educational system
Week 2	Sales	Developing an innovative product and marketing plan
Week 3	Advertising campaigns	Creating an advertising campaign for an innovative product
Week 4	Business ethics	A look at the importance of ethics in business dealings
Week 5	Fund raising and charities	Fund raising for a charity - how businesses can contribute to society
Week 6	Real Estate	Developing and presenting a "dream house"
Week 7	Marketing a food outlet	Increasing sales of a food outlet/restaurant
Week 8	Group planning for poster presentation	Group planning for poster presentation
Week 9	Poster presentation session	Students participate in a poster presentation
Week 10	Poster presentation session	Students participate in a poster presentation
Week 11	Transportation and distribution	Design an innovative transportation and distribution system
Week 12	Environmental impact of companies	A look to how companies can contribute to a positive impact on the environment
Week 13	Managing an event	Design and implementation of a business event
Week 14	The Apprentice finale	An analysis of the winning strategy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be asked to prepare for the upcoming class. This will include activities such as: researching a specific topic, brainstorming, writing a report and/or preparing for discussions and presentations.

【テキスト（教科書）】

No text will be used in this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on weekly home-work (40%), classroom activities such as: listening comprehension worksheets, note taking, participation in discussions (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor appreciates student feedback and alters materials and procedures based on that feedback.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ロバート・D・ヒント

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 営 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy and confidence in the areas of speaking, listening, reading and writing. Students will also learn about the inner workings of American businesses and companies from the viewpoint of the workers and their CEOs and how those businesses impact American culture and society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each week students will see "real life" business dealings by way of "The Apprentice", an American reality show. As they watch, students will complete a listening comprehension worksheet and take notes about different aspects of the company, the workers and the CEO. After each program, students will participate in discussions and do activities related to that specific episode. This class incorporates Active Learning and task based activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	The Beginning of Undercover Boss - 7-11	Research 20 interesting facts about 7-11 - group discussion
Week 2	Herschend Entertainment	Partner interview of selected entertainment venue
Week 3	Roto Rooter	Review the Roto Rooter website and a comparable Japanese company - present findings
Week 4	CSI Commerce	Discussion of on-line shopping and websites
Week 5	Loehman's	Retail outlet presentation
Week 6	Alfred Angelo	Discuss 3 reasons for each of the 5 chosen CEOs or owners
Week 7	CEO/Owner presentation planning	Group work for CEO or owner presentation
Week 8	Student PowerPoint presentations	Student presentations and note taking sessions
Week 9	Student PowerPoint presentations	Student presentations and note taking sessions
Week 10	Cinnabon	Share research findings of fast food retail outlets - small group discussion
Week 11	Dutch Bros Coffee	Presentation of coffee facts and figures
Week 12	Mohecan Sun	Minority group presentations
Week 13	Peavey Electronics	Ecology quiz and group brainstorming
Week 14	Hudson Group	Partner interview sheet - "dream vacation"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be asked to prepare for the upcoming class. This will include activities such as: researching a specific topic, brainstorming, writing a report and/or preparing for discussions and presentations.

【テキスト（教科書）】

No text will be used in this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on weekly home-work (40%), classroom activities such as: listening comprehension worksheets, note taking, participation in discussions (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor appreciates student feedback and alters materials and procedures based on that feedback.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：The English Speaking World

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students' ability to think critically and express their own thoughts and opinions on current issues and topics observed in the English speaking world

【到達目標】

Students will further develop their English communication proficiency by integrating the four skills of reading, writing, speaking, and listening in the communication tasks undertaken during the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The course will utilize pair work and group work for discussion activities. There will also be regular presentations made by students on topics covered throughout the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Chapter 1 Embrace stress	Vocabulary and listening development Introduction of Response Journals (RJ)
Week 2	Reading: The stressed-out generation TED talks: How to make stress your friend	Involving the audience Gerund/infinitives
Week 3	Quiz chapter 1 Chapter 2 Media influences	Vocabulary and listening development
Week 4	Reading: Superheros as role models TED talks: How movies teach manhood	Relative clauses Effect of Media Knowing your audience
Week 5	Quiz chapter 2 Ch 3 Development	Vocabulary and listening development
Week 6	Reading: The economics of happiness TED talks: Global population growth	Describing goals and ambitions Adding points to an explanation Present perfect simple/continuous
Week 7	Quiz chapter 3 Presentation: Favorite fictional character/Wealth distribution in a country	Presentations on Favorite fictional character/Wealth distribution in a country
Week 8	Ch 4 Secrets & lies	Vocabulary and listening development
Week 9	Reading: Lies we need to tell TED talks: How to spot a liar	Collocations Giving examples Modals of deduction & speculation
Week 10	Quiz chapter 4 Ch 5 To the edge	Vocabulary and listening development
Week 11	Reading: Magic man TED talks: How I held my breath for 17 minutes	Time expressions Stating challenges and successes Explaining technical words
Week 12	Quiz chapter 5 Ch 6 Money matters	Vocabulary and listening development
Week 13	Reading: Giving something back TED talks: Giving away wealth	Collocations Listening for main ideas Phrasal verbs Authenticity

Week 14 Quiz chapter 6
 Presentation: Explain your most significant achievement

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 Vocabulary review for speaking activities and quizzes
 Presentation preparation, including preparing visuals
 Assigned textbook exercises
 Regular writing assignments on topics covered in the course kept in a A4 sized notebook to be used as a response journal (RJ)

【テキスト（教科書）】
 Dummett, Stephenson, Lansford; Keynote 4, Cengage Learning, ISBN: 978-1-305-96505-5

【参考書】
www.vocabularysize.com
<https://quizlet.com/KreggJ/folders>
<https://owl.english.purdue.edu/owl/section/1/>

【成績評価の方法と基準】
 Homework 10%
 Writing 25%
 Class participation 15%
 Quizzes/Tests 40%
 Speech/Presentation 10%
 * Students must attend class regularly in order to pass. Excessive absences and tardiness will result in failure of the course

【学生の意見等からの気づき】
 More time devoted to in-class discussion of issues covered

【Outline and objectives】
 Students will learn about issues facing cultures around the world and will develop their ability to form and express their own opinions on these topics and react to the opinions of others.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：The English Speaking World

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 営 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students' ability to think critically and express their own thoughts and opinions on current issues and topics observed in the English speaking world

【到達目標】

Students will further develop their English communication proficiency by integrating the four skills of reading, writing, speaking, and listening in the communication tasks undertaken during the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The course will utilize pair work and group work for discussion activities. There will also be regular presentations made by students on topics covered throughout the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Chapter 7 Medical frontiers	Vocabulary and listening development
Week 2	Reading: Just press print TED talks: Problem of prosthetic limbs	Modals of probability Signpost language Body movement & gestures
Week 3	Quiz chapter 7 Chapter 8 Life decisions	Vocabulary and listening development
Week 4	Reading: The defining decade TED talks: Why the 30's is not the new 20's	Future perfect/future perfect progressive Listing for opinions Describing milestones
Week 5	Quiz chapter 8 Ch 9 Technology & innovation	Vocabulary and listening development
Week 6	Reading: Drones TED talks: Robots that can fly and cooperate	Clues from context 1st & 2nd conditional Referring to visuals Debating
Week 7	Quiz chapter 9 Presentation: Robotic surgery: for or against	Presentations whether robotic surgery should be allowed
Week 8	Ch 10 Connections	Vocabulary and listening development
Week 9	Reading: The lost art of listening TED talks: 5 ways to listen better	Reported speech Identifying cause & effect Summarizing with acronyms
Week 10	Quiz chapter 10 Ch 11 Life in the slow lane	Vocabulary and listening development
Week 11	Reading: Your brain on nature TED talks: Cloudy w/ a chance of joy	Articles & quantifiers Repeating main ideas Showing enthusiasm
Week 12	Quiz chapter 11 Ch 12 Make yourself heard	Vocabulary and listening development
Week 13	Reading: Whistle blowers TED talks: Dare to disagree	3rd & mixed conditionals Listen for stressed words Using pauses

Week 14	Quiz chapter 12 Presentation: A vacation spot where people can slow down and enjoy nature	Presentation on a place where people can slow down and enjoy nature
---------	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Vocabulary review for speaking activities and quizzes
Presentation preparation, including preparing visuals
Assigned textbook exercises
Regular writing assignments on topics covered in the course kept in a
A4 sized notebook to be used as a response journal (RJ)

【テキスト（教科書）】
Dummett, Stephenson, Lansford; Keynote 4, Cengage Learning, ISBN:
978-1-305-96505-5

【参考書】
www.vocabularysize.com
https://quizlet.com/KreggJ/folders
https://owl.english.purdue.edu/owl/section/1/

【成績評価の方法と基準】
Homework 10%
Writing 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 40%
Speech/Presentation 10%
* Students must attend class regularly in order to pass. Excessive
absences and tardiness will result in failure of the course

【学生の意見等からの気づき】
More time devoted to in-class discussion of issues covered

【Outline and objectives】
Students will learn about issues facing cultures around the world and
will develop their ability to form and express their own opinions on these
topics and react to the opinions of others.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Robert Durham

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：上級/英語/世界の中の日本**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This is a Spring semester English course for Second Year students who have chosen English as their main Second Language. This class will assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] Introductions, in smoothly, natural, friendly English. News video #1/TED Talk video #1.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: News video and/or TED Talk #1.
第 2 回	News or TED video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第 3 回	Using the Future tense in English, to explain your Golden Week plans.	Active English spoken expressions, re: Golden Week future plans. News video/TED video #2.
第 4 回	Actively explaining your Golden Week activities, in spoken English.	Speaking about Golden Week, in spoken English, using the Past Tense. News video/TED Talk #2 (continued).
第 5 回	"How are you?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?" News video/TED Talk #3, part 1.
第 6 回	Expressing your opinions about Current Affairs News videos/TED Talk #3 part 2, in active, dynamic spoken English.	Pair practice: speaking your opinions about News videos/TED Talks, in active English.
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates, about a Current Affairs topic.

第 8 回	News or TED Talk video #4, part 1.	Pair practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第 9 回	News or TED Talk video #4, part 2.	Explaining, in spoken English, student opinions about the topics in the video.
第 10 回	Use of many different English adjectives, to explain opinions and comments.	Students will explain their opinions about many current topics to classmates, in smooth, Modern English.
第 11 回	News or TED Talk video #5, part 1.	Students will watch the News or TED video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	News or TED Talk video #5, part 2.	Students will watch the News or TED video clip; will be asked to answer questions about it; and will then discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 13 回	Exam, re: topics studied and discussed during the Spring 2019 semester.	Speaking exam. Students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Spring semester.
第 14 回	News video/ TED talk; Summer Break.	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Summer Break plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); in-class performance (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

【学生の意見等からの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.*

[-]

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Robert Durham

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：上級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a Fall semester English course for Second Year students who have chosen English as their main Second Language. This class will assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回第 1 回:	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] "How was your Summer Break?" [Discussing Summer events is smooth, Modern English, using the English Past tense.] News video #1/TED Talk video #1.	Summer Past Tense vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: News video and/or TED Talk #1.
第 2 回	News or TED video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第 3 回	Using the Future tense in English, to explain your Hallowe'en plans.	Active English spoken expressions, re: Hallowe'en future plans. News video/TED video #2.
第 4 回	Actively explaining your possible Hallowe'en activities, in spoken English.	Actively speaking about Hallowe'en, in spoken English, using the Past Tense. News video/TED Talk #2 (continued).
第 5 回	"How was your ____ ?", & also News video/TED Talk #3, part 1.	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How was your weekend...?" News video/TED Talk #3, part 1.
第 6 回	Expressing your opinions about Current Affairs News videos.	TED Talk #3 part 2, in active, dynamic spoken English.
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates, about a Current Affairs topic.
第 8 回	News or TED Talk video #4, part 1.	Pair practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.

第 9 回	News or TED Talk video #4, part 2.	Explaining, in spoken English, student opinions about the topics in the video.
第 10 回	Use of many different English adjectives, to explain opinions and comments.	Students will explain their opinions about many current topics to classmates, in smooth, Modern English.
第 11 回	News or TED Talk video #5, part 1.	Students will watch the News or TED video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	News or TED Talk video #5, part 2.	Students will watch the News or TED video clip; will be asked to answer questions about it; and will then discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 13 回	Exam, re: topics studied and discussed during the Fall 2019 semester.	Speaking exam. Students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Fall semester.
第 14 回	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Winter Break plans.	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Winter Break plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); in-class performance (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【-】

—

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本は世界からどう見られているか

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：上級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の中の日本——日本は世界からどう見られているか

English 3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業では、英米のニュースメディアにおける日本についての情報を読み、聴くことを通して上記の力を伸ばしていきます。

【到達目標】

- ・複雑に見える英語の正確な読解ができること。
- ・英文記事全体の要旨を正確に把握できること。
- ・ニュースの英語が聞き取れるようになること。
- ・正確な英語で作文が出来るようになること。
- ・英語でニュース記事について発表そして質疑応答が出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

担当教員の選んだニュース記事の精読、グループによるニュース記事についての発表、ニュース記事についての作文、ニュース英語のリスニング練習という内容で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/12)	イントロ	席決め、グループ決め、授業の説明、ウォームアップ。
2 (4/19)	"Japan opens the door to debate on female succession to the Chrysanthemum throne" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
3 (4/26)	"Japan accused of eroding press freedom by UN special rapporteur" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
4 (5/10)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
5 (5/17)	"Disabled passenger forced by Japanese airline to crawl up stairs to board plane" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
6 (5/24)	"Records come round again—Sony to open vinyl factory in Japan" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
7 (5/31)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
8 (6/7)	"Japanese sacred island where women are banned gets Unesco world heritage listing" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
9 (6/14)	"As Japan falls out of love with sake, the world orders another glass" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
10 (6/21)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション

11 (6/28)	"Japan's doctors propose raising 'outdated' retirement age to 75"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
12 (7/5)	"Godzilla shows Japan's real fear is sclerotic bureaucracy not giant reptiles"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
13 (7/12)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
14 (7/19)	まとめと確認テスト	グループでディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読では、辞書とネットを駆使して不明な単語、表現を下調べして準備しておくこと。発表は、資料の準備、そして必ずリハーサルをしておくこと。課題作文では与えられたトピックについて英語でまとめて提出します。

【テキスト（教科書）】

扱う記事の入手方法（URL 等）は前週までに指示します。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社、1999）、および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも重点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how Japan is viewed from outside through US or UK media and try to express their own opinion in English.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本は世界からどう見られているか

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：上級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の中の日本——日本は世界からどう見られているか

English 3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業では、春学期に引き続き英米、またそれ以外の国のニュースメディアにおける日本についての情報を読み、聴くことを通して上記の力を伸ばしていきます。

【到達目標】

- ・複雑に見える英語の正確な読解ができること。
- ・英文記事全体の要旨を正確に把握できること。
- ・ニュースの英語が聞き取れるようになること。
- ・正確な英語で作文が出来るようになること。
- ・英語でニュース記事について発表そして質疑応答が出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

担当教員の選んだニュース記事の精読、グループによるニュース記事についての発表、ニュース記事についての作文、ニュース英語のリスニング練習という内容で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/20)	"Japanese minister Taro Aso praises Hitler, saying he had 'right motives'"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
2 (9/27)	"'Cockroaches' and 'old hags'_ hounding of the North Korean diaspora in Japan"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
3 (10/4)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
4 (10/11)	"Avant-garde legend Yayoi Kusama gets her own museum in Tokyo"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
5 (10/18)	"New Year's Eve in Japan_ Watching a hit TV show about a man who eats alone"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
6 (10/25)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
7 (11/8)	"So many Japanese people die alone, there's a whole industry devoted to cleaning up after them"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
8 (11/15)	"Fukushima evacuee to tell UN that Japan violated human rights"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
9 (11/22)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション

10 (11/29)	"Discovery of 50km cave raises hopes for human colonisation of moon"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
11 (12/6)	"Raze, rebuild, repeat – why Japan knocks down its houses after 30 years"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
12 (12/13)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
13 (12/20)	"Japanese rail company apologises after train leaves 20 seconds early"(記事名は過去扱ったものを参考に挙げた)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
14 (1/10)	まとめと確認テスト	グループでディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読では、辞書とネットを駆使して不明な単語、表現を下調べして準備しておくこと、発表は、資料の準備、そして必ずリハーサルをしておくこと、課題作文では与えられたトピックについて英語でまとめて提出します。

【テキスト（教科書）】

扱う記事の入手方法（URL など）は前週までに指示します。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社、1999）、および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）、課題（15%）と試験（70%）から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が4回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から20分以内に入室した者だけ認めますが、2回の遅刻につき1回の欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表についてのフィードバックにも力を入れたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how Japan is viewed from outside world through US or UK media, and try to express their opinions in English.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ロバート・D・ヒント

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 営2年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy and confidence in the areas of speaking, listening, reading and writing. Students will also learn about the inner workings of American businesses and companies from the viewpoint of the workers and their CEOs and how those businesses impact American culture and society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each week students will see "real life" business dealings by way of "The Apprentice", an American reality show. As they watch, students will complete a listening comprehension worksheet and take notes about different aspects of the company, the workers and the CEO. After each program, students will participate in discussions and do activities related to that specific episode. This class incorporates Active Learning and task based activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Meet the contestants	Introduction of business culture the American educational system
Week 2	Sales	Developing an innovative product and marketing plan
Week 3	Advertising campaigns	Creating an advertising campaign for an innovative product
Week 4	Business ethics	A look at the importance of ethics in business dealings
Week 5	Fund raising and charities	Fund raising for a charity - how businesses can contribute to society
Week 6	Real Estate	Developing and presenting a "dream house"
Week 7	Marketing a food outlet	Increasing sales of a food outlet/restaurant
Week 8	Group planning for poster presentation	Group planning for poster presentation
Week 9	Poster presentation session	Students participate in a poster presentation
Week 10	Poster presentation session	Students participate in a poster presentation
Week 11	Transportation and distribution	Design an innovative transportation and distribution system
Week 12	Environmental impact of companies	A look to how companies can contribute to a positive impact on the environment
Week 13	Managing an event	Design and implementation of a business event
Week 14	The Apprentice finale	An analysis of the winning strategy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be asked to prepare for the upcoming class. This will include activities such as: researching a specific topic, brainstorming, writing a report and/or preparing for discussions and presentations.

【テキスト（教科書）】

No text will be used in this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on weekly home-work (40%), classroom activities such as: listening comprehension worksheets, note taking, participation in discussions (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor appreciates student feedback and alters materials and procedures based on that feedback.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ロバート・D・ヒントン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 営 2 年：上級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy and confidence in the areas of speaking, listening, reading and writing. Students will also learn about the inner workings of American businesses and companies from the viewpoint of the workers and their CEOs and how those businesses impact American culture and society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each week students will see "real life" business dealings by way of "The Apprentice", an American reality show. As they watch, students will complete a listening comprehension worksheet and take notes about different aspects of the company, the workers and the CEO. After each program, students will participate in discussions and do activities related to that specific episode. This class incorporates Active Learning and task based activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	The Beginning of Undercover Boss - 7-11	Research 20 interesting facts about 7-11 - group discussion
Week 2	Herschend Entertainment	Partner interview of selected entertainment venue
Week 3	Roto Rooter	Review the Roto Rooter website and a comparable Japanese company - present findings
Week 4	CSI Commerce	Discussion of on-line shopping and websites
Week 5	Loehman's	Retail outlet presentation
Week 6	Alfred Angelo	Discuss 3 reasons for each of the 5 chosen CEOs or owners
Week 7	CEO/Owner presentation planning	Group work for CEO or owner presentation
Week 8	Student PowerPoint presentations	Student presentations and note taking sessions
Week 9	Student PowerPoint presentations	Student presentations and note taking sessions
Week 10	Cinnabon	Share research findings of fast food retail outlets - small group discussion
Week 11	Dutch Bros Coffee	Presentation of coffee facts and figures
Week 12	Mohecan Sun	Minority group presentations
Week 13	Peavey Electronics	Ecology quiz and group brainstorming
Week 14	Hudson Group	Partner interview sheet - "dream vacation"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be asked to prepare for the upcoming class. This will include activities such as: researching a specific topic, brainstorming, writing a report and/or preparing for discussions and presentations.

【テキスト（教科書）】

No text will be used in this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on weekly home-work (40%), classroom activities such as: listening comprehension worksheets, note taking, participation in discussions (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor appreciates student feedback and alters materials and procedures based on that feedback.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

Robert Durham

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：上級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a Spring semester English course for Second Year students who have chosen English as their main Second Language. This class will assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] Introductions, in smoothly, natural, friendly English. News video #1/TED Talk video #1.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: News video and/or TED Talk #1.
第 2 回	News or TED video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第 3 回	Using the Future tense in English, to explain your Golden Week plans.	Active English spoken expressions, re: Golden Week future plans. News video/TED video #2.
第 4 回	Actively explaining your Golden Week activities, in spoken English.	Actively speaking about Golden Week, in spoken English, using the Past Tense. News video/TED Talk #2 (continued).
第 5 回	"How are you?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?" News video/TED Talk #3, part 1.
第 6 回	Expressing your opinions about Current Affairs News videos/TED Talk #3 part 2, in active, dynamic spoken English.	Pair practice: speaking your opinions about News videos/TED Talks, in active English.
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates, about a Current Affairs topic.

第 8 回	News or TED Talk video #4, part 1.	Pair practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第 9 回	News or TED Talk video #4, part 2.	Explaining, in spoken English, student opinions about the topics in the video.
第 10 回	Use of many different English adjectives, to explain opinions and comments.	Students will explain their opinions about many current topics to classmates, in smooth, Modern English.
第 11 回	News or TED Talk video #5, part 1.	Students will watch the News or TED video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	News or TED Talk video #5, part 2.	Students will watch the News or TED video clip; will be asked to answer questions about it; and will then discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 13 回	Exam, re: topics studied and discussed during the Spring 2019 semester.	Speaking exam. Students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Spring semester.
第 14 回	News video/ TED talk; Summer Break.	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Summer Break plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks will be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); in-class performance (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

* IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

[-]

—

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Robert Durham

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：上級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a Fall semester English course for Second Year students who have chosen English as their main Second Language. This class will assist students to further develop their English proficiency, by shifting to more content-based English-learning.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will have to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will have to effectively express their own thoughts and opinions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] "How was your Summer Break?" [Discussing Summer events in smooth, Modern English, using the English Past tense.] News video #1/TED Talk video #1.	Summer Past Tense vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: News video and/or TED Talk #1.
第 2 回	News or TED video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第 3 回	Using the Future tense in English, to explain your Hallowe'en plans.	Active English spoken expressions, re: Hallowe'en future plans. News video/TED video #2.
第 4 回	Actively explaining your possible Hallowe'en activities, in spoken English.	Actively speaking about Hallowe'en, in spoken English, using the Past Tense. News video/TED Talk #2 (continued).
第 5 回	"How was your ____ ?", & also News video/TED Talk #3, part 1.	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How was your weekend...?" News video/TED Talk #3, part 1.
第 6 回	Expressing your opinions about Current Affairs News videos.	TED Talk #3 part 2, in active, dynamic spoken English.
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates, about a Current Affairs topic.
第 8 回	News or TED Talk video #4, part 1.	Pair practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.

第 9 回	News or TED Talk video #4, part 2.	Explaining, in spoken English, student opinions about the topics in the video.
第 10 回	Use of many different English adjectives, to explain opinions and comments.	Students will explain their opinions about many current topics to classmates, in smooth, Modern English.
第 11 回	News or TED Talk video #5, part 1.	Students will watch the News or TED video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	News or TED Talk video #5, part 2.	Students will watch the News or TED video clip; will be asked to answer questions about it; and will then discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 13 回	Exam, re: topics studied and discussed during the Fall 2019 semester.	Speaking exam. Students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Fall semester.
第 14 回	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Winter Break plans.	Students will be asked to give opinions in spoken English, re: the video, and/or Winter Break plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); in-class performance (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

【学生の意見等からの気づき】

—

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界のニュースから見る現代事情

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：上級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の諸相——世界のニュースから見る現代事情

English 3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業では、英米のニュース記事を読み、またニュース動画を見て聴くことを通して上記の力を伸ばしていきます。

【到達目標】

- ・複雑に見える英語の正確な読解ができること。
- ・英文記事全体の要旨を正確に把握できること。
- ・ニュースの英語が聞き取れるようになること。
- ・正確な英語で作文が出来るようになること。
- ・英語でニュース記事について発表そして質疑応答が出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

担当教員の選んだニュース記事の精読、グループによるニュース記事についての発表、ニュース記事についての作文、ニュース英語のリスニング練習という内容で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/12)	イントロ	席決め、グループ決め、授業の説明、ウォームアップ。
2 (4/19)	"Wall Street goes into reverse as risk appetite fades" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
3 (4/26)	"Wall Street goes into reverse as risk appetite fades" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
4 (5/10)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
5 (5/17)	"South Korea votes for a fresh face and reform" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
6 (5/24)	"South Korea votes for a fresh face and reform" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
7 (5/31)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
8 (6/7)	"Global stocks near record amid welter of data" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
9 (6/14)	"Global stocks near record amid welter of data" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
10 (6/21)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
11 (6/28)	"Disagreement is the essence of liberalism" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
12 (7/5)	"Disagreement is the essence of liberalism" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
13 (7/12)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
14 (7/19)	まとめと確認テスト	グループでディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読では、辞書とネットを駆使して不明な単語、表現を下調べして準備しておくこと。発表は、資料の準備、そして必ずリハーサルをしておくこと。課題作文では与えられたトピックについて英語でまとめて提出します。

【テキスト（教科書）】

扱う記事の入手方法（URL など）は前週までに指示します。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社、1999）、および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）、課題（15%）と試験（70%）から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が4回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から20分以内に入室した者だけ認めますが、2回の遅刻につき1回の欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表についてフィードバックをおこないたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how the world is going through reading UK or US media, and try to express their opinions on various world issues in English.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界のニュースから見る現代事情

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2年：上級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の諸相——世界のニュースから見る現代事情

English 3では、English1とEnglish2で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の4技能の能力を更に深めます。またこれら4技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業では、春学期に引き続いて、英米のニュース記事を読み、またニュース動画を見て聴くことを通して上記の力を伸ばしていきます。

【到達目標】

- ・複雑に見える英語の正確な読解ができること。
- ・英文記事全体の要旨を正確に把握できること。
- ・ニュースの英語が聞き取れるようになること。
- ・正確な英語で作文が出来るようになること。
- ・英語でニュース記事について発表そして質疑応答が出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

担当教員の選んだニュース記事の精読、グループによるニュース記事についての発表、ニュース記事についての作文、ニュース英語のリスニング練習という内容を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/20)	"Don't worry about bitcoin – at least not yet" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	席決め、グループ決め、記事の精読、ニュース英語のリスニング。
2 (9/27)	"The dark side of China's national renewal" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
3 (10/4)	"The dark side of China's national renewal" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
4 (10/11)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
5 (10/18)	"Myanmar's Aung San Suu Kyi fails the Rohingya test" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
6 (10/25)	"Myanmar's Aung San Suu Kyi fails the Rohingya test" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
7 (11/8)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
8 (11/15)	"Ignore Trump's lies. North Korea is no threat to Britain" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
9 (11/22)	"Ignore Trump's lies. North Korea is no threat to Britain" (続き)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。
10 (11/29)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
11 (12/6)	"The White House's much-needed rebuke to a country smothering democracy" (記事名は過去扱ったものを参考に挙げている)	記事の精読。ニュース英語のリスニング。

12 (12/13)	"The White House's much-needed rebuke to a country smothering democracy" (続き)	記事の精読. ニュース英語のリスニング.
13 (12/20)	グループの持ち寄り記事	グループ発表とディスカッション
14 (1/10)	まとめと確認テスト	グループでディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講読では、辞書とネットを駆使して不明な単語、表現を下調べして準備しておくこと。発表は、資料の準備、そして必ずリハーサルをしておくこと。課題作文では与えられたトピックについて英語でまとめて提出します。

【テキスト (教科書)】

扱う記事の入手方法 (URL など) は前週までに指示します。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』(東京: 研究社, 1999), および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%), 課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表についてフィードバックをおこないたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how the world is going through reading UK or US media, and try to express their opinions on various world issues in English.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル: Aspects of English Speaking World

川澄 亜岐子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 5/Fri.5
営 2 年: 上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Based on the skills and knowledge acquired in English 1 and 2, students in this course will study, review and analyze various international cultural and social issues. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities including group discussion. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

(この授業では、文化や社会に関する幅広い話題を取り上げます。春学期は、主に英語圏で発行されている新聞記事を読み、それに関する自分の意見を英語で表現することを目指します。また、国際的な文脈の中で自国の文化や社会について考えることで、これまでとは異なる角度からそれぞれの問題をとらえる視点を養います。)

【到達目標】

Students will be able to:

- read English passages of approximately 500-600 words quickly and with comprehension
- explain the main point of a news article
- express their opinions in English
- interact with others to brainstorm solutions to various issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Class activities focus on reading and discussion. Students are expected to understand the structure of news articles they collect, summarize them in English, and share their summaries and opinions with their classmates. Students will also review and discuss articles provided by the instructor. These activities will help them to enhance their reading skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview, explanation about "news file," self-introduction
2	The Media of English News 1	Introduction of English media
3	The Media of English News 2	Read and compare articles from different media
4	Newspapers and News Agencies 1	News sources, dateline and news agency
5	Newspapers and News Agencies 2	Read and compare articles from different news agencies
6	Making Yourself Familiar with a Newspaper	Examine and discuss the structure of newspaper
7	News Story Structure	The inverted pyramid
8	Summarizing Stories	Topic sentence, supporting sentences, and concluding sentence
9	Headlines	The purpose of headlines
10	What Makes a Story News?	Types of articles, Understanding news values
11	Write a News Story 1	To write a news story
12	Write a News Story 2	Interview and writing
13	Write a News Story 3	Peer-reading students' news stories and editing
14	Review and Final Examination	Course summary, exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework activities will center around a “news file” in which students will keep the texts they have read, as well as the notes and word lists they have created. Additional details will be provided by the instructor in the first lesson.

【テキスト（教科書）】

Tim Knight, Media English (Perceptia Press, 2013)

【参考書】

Useful links are provided by the instructor in the first lesson.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities (30%), homework assignments (30%), and the final exam (40%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

Based on the skills and knowledge acquired in English 1 and 2, students in this course will study, review and analyze various international cultural and social issues. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities including group discussion. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English Speaking World

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students in this course will continue to learn about media English, with a focus on various cultural and social issues of the English speaking world. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. Students will hone their ability to select significant news stories and evaluate them based on their own perspective, enhancing their critical thinking skills. In addition, during the autumn semester, internet sources, broadcast media, and magazines will be reviewed. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

(春学期に引き続き、文化や社会に関する幅広い話題について、自分の考えを英語で表現することを目指します。秋学期は英語で書かれた新聞記事に加え、テレビのニュース番組や雑誌記事も取り上げる予定です。)

【到達目標】

Students will be able to:

- read English passages of approximately 500-600 words quickly and with comprehension
- explain the main point of a news article
- express their opinions in English
- interact with others to brainstorm solutions to various issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class activities focus on reading and discussion. Students are expected to understand the structure of news articles they collect, summarize them in English, and share their summaries and opinions with their classmates. These activities will help them to enhance their reading skills. In addition, students will interview someone and write a story about them. Internet sources, broadcast media, and magazines will be reviewed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Lesson Plan
2	News Point and Time Analysis	The News Point and Time Order of Story
3	More Headlines	Headline Writing Techniques
4	Editorials and Opinion Articles 1	Editorials, Facts or Opinions?
5	Editorials and Opinion Articles 2	Reading Editorials from Newspapers
6	Reading and Writing about People 1	Interviewing and Profile Analysis
7	Reading and Writing about People 2	Guidelines for Writing a Profile and Making a Personality Profile
8	Reading and Writing about People 3	Profile Analysis and Writing a Profile
9	Electronic Media	Contrasting Features of Media
10	TV News and Radio News	Watch Programs Broadcast on TV and Listen to Radio News
11	Magazine Articles	Read Articles from Magazines
12	Reading and Writing about People 4	Peer-reading and Editing a Personality Profile
13	Media Jobs	What is the Journalist's Job?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework activities will center around a “news file” in which students will keep the texts they have read, as well as the notes and word lists they have created. Additional details will be provided by the instructor in the first lesson.

【テキスト（教科書）】

Tim Knight, Media English (Perceptia Press, 2013)

【参考書】

Useful links are provided by the instructor in the first lesson. Additional materials provided by the instructor when necessary.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities (30%), homework assignments (30%), and the final exam (40%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

Students in this course will continue to learn about media English, with a focus on various cultural and social issues of the English speaking world. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. Students will hone their ability to select significant news stories and evaluate them based on their own perspective, enhancing their critical thinking skills. In addition, during the autumn semester, internet sources, broadcast media, and magazines will be reviewed. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

サブタイトル：ヴィクトリア時代のイギリス社会

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説、ドラマ、漫画などで何かと舞台になる（だがよくは知らない）ヴィクトリア時代の英国について学びながら、英語の基本 4 技能（reading, listening, writing, speaking）の向上を目指します。

【到達目標】

英語の基本 4 技能については、以下の目標を設定します。
 ・英語に関するであろうとならうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
 ・あまり知識のないトピックに関する英語音声も聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。
 ・今まで使ったことのない語彙を用いて、品詞や節、文のルールを守った文章が書ける。
 ・質疑応答のパターンを身につけ、トピックが変わっても動揺せずにロジカルな発言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に教科書を進めていきます。1 章あたり 2 授業回を費やします。各章の初回は speaking と reading のタスクを行ない、ペアを組ませた質疑応答練習や、文章の内容に関する質問をします。次の回は listening と writing のタスクを行ない、ディクテーションや英作文をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバスに書かれていること以外の細かいルールについて説明します。持っている辞書を確認しますので、辞書を必ず持参して下さい。
第 2 回	Chapter 1 (1)	Queen Victoria's Reign Speaking & reading
第 3 回	Chapter 1 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第 4 回	Chapter 2 (1)	First Industrial Nation Speaking & reading
第 5 回	Chapter 2 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第 6 回	Chapter 3 (1)	Coming of the Railways Speaking & reading
第 7 回	Chapter 3 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第 8 回	Chapter 4 (1)	The Great Exhibition Speaking & reading
第 9 回	Chapter 4 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第 10 回	Chapter 5 (1)	Working Lives Speaking & reading
第 11 回	Chapter 5 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第 12 回	Chapter 6 (1)	Victorian Cities Speaking & reading
第 13 回	Chapter 6 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第 14 回	Chapter 1-6 のまとめ	内容のおさらい TOEIC 形式の小テストを 2 本実施します。単位取得希望者は必ず受けて下さい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業回の質問は、予習・復習を前提としたものになります。
 ・質問等にはみずから調べた事柄が必要になる場合もあります。予習や調べ物には相当の時間をかけねばならず、授業前に他の受講生から聞きかじる程度では単位を落とすと覚悟して下さい。
 ・Listening の問題については、予習が必須となるでしょう。Speaking 能力の向上のために、listening の音声を真似る'shadowing' という作業を行って下さい。

・Speaking のタスクについては、教科書で紹介された例文以外にも、自分で考えた回答を何パターンか用意しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

杉村醇子・古瀬明里・山崎麻由美（編注）『ヴィクトリア朝からの贈りもの - VICTORIANS』、英宝社、2011年。2000円＋税 ISBN：978-4-269-15014-0 C1082

毎授業回到辞書（英和もしくは英英、場合によっては和英も）持参が必須です。授業中使用できるのは紙媒体の辞書もしくは専用装置型の電子辞書のみです。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎授業回の授業参加度：70%

- ・質疑応答練習の出来栄
- ・質問に対して十分な予習をふまえた回答ができたか
- ・ディクテーション
- ・作文

第14回授業回の小テスト2本：30%

- ・春学期学修内容の理解度
- ・TOEIC形式の設問に対する順応
- ・欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失なう。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとする。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられる。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとする。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となる。

- ・不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当受講生に対する該当授業回の評価を無しとする。再犯が発覚した場合、単位取得資格を停止したうえで教務課に通報する。複数の受講生が関与した場合、全員同様の処分の対象となる。他受講生の不正を黙認した場合も同様である（したがって「他の人もやっている」という抗弁は通用しない）。

【学生の意見等からの気づき】

タスクが多すぎるのは、4技能およびコンテンツ理解のそれぞれについて成績評価を行なわなければならない English 3 の宿命です。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve their skills in English (i.e. reading, listening, writing, and speaking) through various topics on Victorian Britain.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヴィクトリア時代のイギリス社会

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営2年：上級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説、ドラマ、漫画などで何かと舞台になる（だがよくは知らない）ヴィクトリア時代の英国について学びながら、英語の基本4技能（reading, listening, writing, speaking）の向上を目指します。

【到達目標】

英語の基本4技能については、以下の目標を設定します。

- ・英語に関するであろうとならうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
- ・あまり知識のないトピックに関する英語音声も聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。
- ・今まで使ったことのない語彙を用いて、品詞や節、文のルールを守った文章が書ける。
- ・質疑応答のパターンを身につけ、トピックが変わっても動揺せずにロジカルな発言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に教科書を進めていきます。1章あたり2授業回を費やします。各章の初回は speaking と reading のタスクを行ない、ペアを組ませた質疑応答練習や、文章の内容に関する質問をします。次の回は listening と writing のタスクを行ない、ディクテーションや英作文をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Chapter 7 (1)	Angel in the Home Speaking & reading 最初の授業回から教科書を進めます。予習・準備を忘れないで下さい。
第2回	Chapter 7 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第3回	Chapter 8 (1)	Life below Stairs Speaking & reading
第4回	Chapter 8 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第5回	Chapter 9 (1)	Victorian Schooling Speaking & reading
第6回	Chapter 9 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第7回	Chapter 10 (1)	Art and Architecture Speaking & reading
第8回	Chapter 10 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第9回	Chapter 11 (1)	A New Reading Public Speaking & reading
第10回	Chapter 11 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第11回	Chapter 12 (1)	Social Reform Speaking & reading
第12回	Chapter 12 (2)	(前回の続き) Listening & writing
第13回	予備日	教科書でやり残した箇所を扱います。やり残した箇所がなければ、Chapter 13~15の内容を概観することとします。
第14回	Chapter 7~12 のまとめ	内容のおさらい TOEIC形式の小テストを2本実施します。単位取得希望者は必ず受けて下さい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業回の質問は、予習・復習を前提としたものになります。

・質問等にはみずから調べた事柄が必要になる場合もあります。予習や調べ物には相当の時間をかけねばならず、授業前に他の受講生から聞きかじる程度では単位を落とすと覚悟して下さい。

・Listening の問題については、予習が必須となるでしょう。Speaking 能力の向上のために、listening の音声を真似る'shadowing' という作業を行ってみて下さい。

・Speaking のタスクについては、教科書で紹介された例文以外にも、自分で考えた回答を何パターンか用意しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

杉村醇子・古瀬明里・山崎麻由美（編注）『ヴィクトリア朝からの贈りもの - VICTORIANS』、英宝社、2011 年。2000 円＋税 ISBN：978-4-269-15014-0 C1082

毎授業回到辞書（英和もしくは英英、場合によっては和英も）持参が必須です。授業中使用できるのは紙媒体の辞書もしくは専用装置型の電子辞書のみです。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎授業回の授業参加度：70%

- ・質疑応答練習の出来栄
- ・質問に対して十分な予習をふまえた回答ができたか
- ・ディクテーション

・作文

第 14 回授業回の小テスト 2 本：30%

- ・春学期学修内容の理解度
- ・TOEIC 形式の設問に対する順応
- ・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失なう。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとする。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられる。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとする。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となる。

・不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当受講生に対する該当授業回の評価を無しとする。再犯が発覚した場合、単位取得資格を停止したうえで教務課に通報する。複数の受講生が関与した場合、全員同様の処分の対象となる。他受講生の不正を黙認した場合も同様である（したがって「他の人もやっている」という抗弁は通用しない）。

【学生の意見等からの気づき】

タスクが多すぎるのは、4 技能およびコンテンツ理解のそれぞれについて成績評価を行なわなければならない English 3 の宿命です。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve their skills in English (i.e. reading, listening, writing, and speaking) through various topics on Victorian Britain.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 2 年：中級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To expand on skills gained in English 1 or 2

【到達目標】

Students will gain additional skills in reading, writing, listening, and speaking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Reading skills- skimming, scanning, and summarizing

Writing- structuring paragraphs

Speaking- giving speeches and presentations

Listening- listening for gist and details

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction of syllabus	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
community I	Community values Teaching tips I	Examining social values for societies. Exploring cultural bonds. class activities
community II	Unwritten Community rules Teaching tips II	Deepening understanding of social boundaries and possible conflicts. time flow, use of variety
Community III	Why some communities collapse teaching tips 3	Discussion of taboos and social misdeeds
responsibility I	Tourism barbs and unintended consequences	Discuss tourism negatives and positive outcomes
Responsibility II	Value brought by tourism	Tourism effects on our lives in both positive and negative ways.
Responsibility III	Rise of ecotourism and fair trade	Tourist initiatives to improve local lifestyles
World heritage I	Looking at historical buildings and the events they show	Why are these buildings important for remembering history?
World heritage II	Protecting our cultural artifacts	How buildings are preserved and design shows our history
World heritage III	Zoning and how it affects heritage buildings	Zoning code- the balance between modern life and showing our historical roots
Engineers food I	Science and side effects	Science and its end goals and how they might ruin our health
Engineers food II	Health influences of diet	Researching food sources and why variety is important
Engineers food III	Benefits of science engineered food	How radiation and mutations shape our diet
Summary	summary of course themes	Discuss various course themes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for teaching lessons by submitting lesson plan 1 week before. Review reading for further discussion

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido
ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/a

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%
Teaching 34%
Homework 33%

【学生の意見等からの気づき】

Additional time given for take home quizzes.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing instrument, paper

【その他の重要事項】

Blog work

【Outline and objectives】

Students will improve their English in 4 skill areas (writing, reading, listening, and speaking).

Students will particularly focus on discussions and short essay writing.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 2 年：中級/英語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To expand on skills gained in English 1 or 2

【到達目標】

Students will gain additional skills in reading, writing, listening, and speaking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Reading skills- skimming, scanning, and summarizing

Writing- structuring paragraphs

Speaking- giving speeches and presentations

Listening- listening for gist and details

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction of syllabus	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Disappearance I	Climate change Teaching tips I	How do we combat global climate change? class activities
Disappearance II	Climate change Teaching tips II	Positives and negatives of climate change time flow, use of variety
Disappearance III	Teaching tips III	Climate change and access to water class work vs. homework
Economic inequality I	Poverty and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce poverty
Economic inequality II	Poverty and its effects on society	Look at how inequalities affect our lives
Economic inequality III	How big business affects poverty	Big business around the world
War on sugar I	Debate of sugar effects	Look at diabetes and other health related problems
War on sugar II	Looking at health aspects affected by sugar	Diet, and balancing of other health aspects is explored
War on sugar III	Nutrition: is all sugar the same?	Explore types of sugar
Closing the loop I	Handling waste removal	Where does it go?
Closing the loop II	Recycling vs reusing	Discuss which is better: recycling or reusable materials
Closing the loop III	Saving energy	Cost effecting alternative energy approaches
Summary	Summary of course themes	Discussion of course themes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for teaching lessons by submitting lesson plan 1 week before. Review reading for further discussion

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido

ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/a

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Teaching 34%

Homework 33%

【学生の意見等からの気づき】

Allow more time for take home quizzes to be completed.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing instrument

【その他の重要事項】

Blog work

【Outline and objectives】

Students will improve discussion and short essay writing skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ社会

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースを通して、アメリカ社会について学びます。

English 3 では、English 1 と English 2 に引き続いて、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の運用能力を、課題を通して深めることを目的とします。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解し、書く、あるいは話すという形で自分の考えをわかりやすく表現してもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の 4 技能の練習を通して、アメリカに対して理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の 4 技能の運用能力の向上を目指して次の 4 つの目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 自分の考えを相手にわかりやすく英語で伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、発表をおこない、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Unit 1: Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	リスニング及び内容理解
第 3 回	Unit 1: Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	問題演習及び読解
第 4 回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	リスニング及び内容理解
第 5 回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	問題演習及び読解
第 6 回	Unit 3: Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	リスニング及び内容理解
第 7 回	Unit 3: Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	問題演習及び読解
第 8 回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	リスニング及び内容理解
第 9 回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	問題演習及び読解
第 10 回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	リスニング及び内容理解
第 11 回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	問題演習及び読解

第 12 回	Unit 6: Do happy People Live Long?	リスニング及び内容理解
第 13 回	Unit 6: Do happy People Live Long?	問題演習及び読解
第 14 回	学期末試験	教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業でもってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 (『CBS ニュースブレイク 4』)
熊井信弘他著 成美堂 2019 年 2400 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (50%)、英作文 (15%)、発表 (15%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から、(4) を発表から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の英語の発表を振り返り、英語を話すことに慣れていない学生が予想以上に多かったように思います。今年度の授業では、もっと英語を話す機会を増やして、慣れることを目指します。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ社会

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースを通して、アメリカ社会について学びます。

English 3 では、English 1 と English 2 に引き続いて、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の運用能力を、課題を通して深めることを目的とします。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解し、書く、あるいは話すという形で自分の考えをわかりやすく表現してもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の 4 技能の練習を通して、アメリカに対して理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の 4 技能の運用能力の向上を目指して次の 4 つの目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 自分の考えを相手にわかりやすく英語で伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、発表をおこない、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明及び春学期の授業内容のまとめ	授業の目標と進め方、春学期の授業の内容の確認
第 2 回	Unit 7: Selling Charity	リスニング及び内容理解
第 3 回	Unit 7: Selling Charity	問題演習及び読解
第 4 回	Unit 8: The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	リスニング及び内容理解
第 5 回	Unit 8: The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	問題演習及び読解
第 6 回	Unit 9: A Stitch in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clothing for Homeless	リスニング及び内容理解
第 7 回	Unit 9: A Stitch in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clothing for Homeless	問題演習及び読解
第 8 回	Unit 10: How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	リスニング及び内容理解
第 9 回	Unit 10: How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	問題演習及び読解
第 10 回	Unit 11: True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	リスニング及び内容理解

- 第 11 回 Unit 11: True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion 問題演習及び読解
- 第 12 回 Unit 12: The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up リスニング及び内容理解
- 第 13 回 Unit 12: The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up 問題演習及び読解
- 第 14 回 学期末試験 教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 (『CBS ニュースブレイク 4』)

熊井信弘他著 成美堂 2019年 2400円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (50%)、英作文 (15%)、発表 (15%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から、(4) を発表から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の英語の発表を振り返り、英語を話すことに慣れていない学生が予想以上に多かったように思います。今年度の授業では、もっと英語を話す機会を増やして、慣れることを目指します。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Euro-American Events and Historical Figures: Part 1

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is entitled 'Euro-American Events and Historical Figures: Part 1.'

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will use English to learn about Euro-American Events and Historical Figures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles and dialogues on various topics related to Euro-American culture. They will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view, and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected from six topic categories and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Topic: Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Class 2	Topic: Historical Figures 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 3	Topic: World Changing Events 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 4	Topic: World Festivals 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 5	Topic: Famous Historical Sites 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 6	Topic: Inventions that Changed the World 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 7	Topic: American Content 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Class 8	Topic: Historical Figures 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 9	Topic: World Changing Events 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 10	Topic: World Festivals 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 11	Topic: Famous Historical Sites 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 12	Topic: Inventions that Changed the World 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 13	Topic: American Content 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and to reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading and dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Dictation Tests: 10%
Paragraph Writing: 20%
Multi-paragraph Writing 20%
Student Presentations: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time this course has been offered by this instructor.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：Euro-American Events and Historical Figures: Part 2

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is entitled 'Euro-American Events and Historical Figures: Part 2.'

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will use English to learn about Euro-American Events and Historical Figures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles and dialogues on various topics related to Euro-American culture. They will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected from six topic categories and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Topic: Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Class 2	Topic: Historical Figures 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 3	Topic: World Changing Events 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 4	Topic: World Festivals 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 5	Topic: Famous Historical Sites 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 6	Topic: Inventions that Changed the World 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 7	Topic: American Content 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Class 8	Topic: Historical Figures 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 9	Topic: World Changing Events 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 10	Topic: World Festivals 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 11	Topic: Famous Historical Sites 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 12	Topic: Inventions that Changed the World 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 13	Topic: American Content 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and to reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading and dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Dictation Tests: 10%
Paragraph Writing: 20%
Multi-paragraph Writing 20%
Student Presentations: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time this course has been offered by this instructor.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：A multi-skill course in English looking at Japan in the world.

ジョナサン・エーブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

Students will read, write hear and speak about topics relevant to their lives, studies and futures. The main sources will be in British English, but cultures across the world - not only Anglophone - will be included in the sources used.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In each class reading and listening materials will be the starting point for discussion and information processing. In alternate weeks a writing exercise will be included with an emphasis on accurate self-expression. This work will be returned individually with corrections and comments. There will also be a group presentation exercise which will focus on cooperative communication and public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class methods and familiarisation with types of material.
2	A Place in the World 1	Global Perspectives.
3	A Place in the World 2	How Japan is Viewed Abroad.
4	Tradition 1	How History Informs our Present.
5	Tradition 2	Tradition Across the English Speaking World.
6	Popular Culture 1	The Fast Pace of Fashion.
7	Popular Culture 2	How Japanese Popular Culture Influences Others
8	Presentation Preparation	Topics, Groups and Ideas.
9	Presentations	Group Presentations In Class.
10	Media 1	Where We Get our News.
11	Media 2	Advertising and Commercial Communication.
12	Media 3	Movies and TV. How Entertainment Works.
13	Hello and Goodbye.	How We Meet and Take Our Leave.
14	Final Examination.	Self-assessment and Interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text Previews and Preparation for Presentations in class will be expected. The task will be set each week as required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. See references.

【参考書】

NHK/NHK Educational
Japan Times
BBC News
British Council online resources (Word on the Street et al.)
Channel 4 News (UK)
CNN
Newspapers, Magazines and Periodicals as relevant.

【成績評価の方法と基準】

Writing 25%
Presentation 15%
Class Participation 30%
Final Interview Test 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：A multi-skill course in English looking at Japan in the world.

ジョナサン・エーブル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：中級/英語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. In part II we will continue this journey through intercultural exploration. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

Students will read, write hear and speak about topics relevant to their lives, studies and futures. The main sources will be in British English, but cultures across the world - not only Anglophone - will be included in the sources used.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In each class reading and listening materials will be the starting point for discussion and information processing. In alternate weeks a writing exercise will be included with an emphasis on accurate self-expression. This work will be returned individually with corrections and comments. There will also be a group presentation exercise which will focus on cooperative communication and public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Part II	Review and Look Forward.
2	Language.	How Languages Feed Each Other in a Globalising World.
3	Art.	Historical and Modern Views of Japanese Visual Art.
4	Performance.	How Japanese Performing Arts Influence the Worlds of Theatre and Dance.
5	Film.	Cross-cultural Storytelling.
6	Food 1.	What we Eat and Why.
7	Food 2.	Where and How we Eat.
8	Presentation Preparation.	Topics Groups and Planning.
9	Presentation.	Group Presentations in Class.
10	Travel.	From Commuters to Tourists.
11	Transport.	How Mobility Shapes Social Behaviour.
12	Social issues 1.	Ageing and Booming Populations
13	Social Issues 2.	Crime and Punishment.
14	Final Examination.	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text reading and review and presentation preparation will be required. Tasks will be set each week as appropriate.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. See References.

【参考書】

NHK/NHK Educational.
Japan Times.
BBC News
British Council online resources (Word on the Street et al.)
Channel 4 News (UK)
CNN
Newspapers, Magazines and Periodicals as relevant.

【成績評価の方法と基準】

Writing 25%
Presentation 15%
Class Participation 30%
Final Interview Test 30%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. In part II we will continue this journey through intercultural exploration. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カテゴリー：現代の諸相

サブカテゴリー：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

CBS で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを主教材とし、アメリカを主とした現代の様々な諸問題を扱いながら、英語の情報を的確に理解・分析し、問題点を考察した上で自らの意見を発信する力を身に付けることを目指し、インプットとアウトプットのバランスを取りながら英語の総合的な語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

English 1 と English2 で学んだことをベースとして、英語の 4 技能をさらに向上させる。

2) 文化理解

コーヒーの効用、寝不足によるビジネスへの悪影響、日本の新しいレンタルサービスなどに関する、現代社会の様々な問題について見聞を広め、独自の分析ができる。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。スク립トは、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的には逐語訳をしてもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。その為受講者は各授業で進む全ての範囲を予習しておく必要がある。また、テキストで扱ったテーマに基づいて、プレゼンテーションを行う。さらに、テキストには欠けている政治問題について扱った固めの記事等を準備し、精読を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit1 前半	リスニング、リーディング
3	テキスト Unit1 後半	リスニング、ライティング
4	テキスト Unit2 前半	リスニング、リーディング
5	テキスト Unit2 後半	リスニング、ライティング
6	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
7	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション（グループ1）
8	テキスト Unit3 前半	リスニング、リーディング
9	テキスト Unit3 後半	リスニング、ライティング
10	テキスト Unit4 前半	リスニング、リーディング
11	テキスト Unit4 後半	リスニング、ライティング
12	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
13	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション（グループ2）
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ずテキストの予習をしてください。テキスト中のスク립トは、Web 動画を各自で観て穴埋めをして完成させたうえで、分からない単語などを調べてしっかり読み、また、問題は、あらかじめ指定された箇所を解いてくること。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4, Nobuhiro Kumai 他著, (成美堂, 2019 年), ¥2,400 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 (40%)、プレゼンテーション (20%)、授業参加度 (40%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外学習の時間を少しでも増やしてもらえよう、復習や予習についてより具体的に働きかけるよう心がけます。

【Outline and objectives】

Category: Current Affairs

Sub-category: Learning Modern American Culture and Society through Media

This course aims to improve students' four core English language skills – reading, writing, listening, and speaking – using a textbook made up of the news stories drawn from CBS News shows that feature various current topics, especially in the US. Students will develop their abilities to accurately understand the information, think critically about the important current issues, and effectively express their ideas.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カテゴリー：現代の諸相

サブカテゴリー：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

CBS で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを主教材とし、アメリカを主とした現代の様々な諸問題を扱いながら、英語の情報を的確に理解・分析し、問題点を考察した上で自らの意見を発信する力を身に付けることを目指し、インプットとアウトプットのバランスを取りながら英語の総合的な語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

English 1 と English2 で学んだことをベースとして、英語の 4 技能をさらに向上させる。

2) 文化理解

寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル、海洋汚染、人型ロボットの開発などに関する、現代社会の様々な問題について見聞を広め、独自の分析ができる。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。スク립トは、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的には逐語訳をしてもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。その為受講者は各授業で進む全ての範囲を予習しておく必要がある。また、テキストで扱ったテーマに基づいて、プレゼンテーションを行う。さらに、テキストには欠けている政治問題について扱った固めの記事等を準備し、精読を行う予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit7 前半	リスニング、リーディング
3	テキスト Unit7 後半	リスニング、ライティング
4	テキスト Unit10 前半	リスニング、リーディング
5	テキスト Unit10 後半	リスニング、ライティング
6	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
7	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション (グループ 1)
8	テキスト Unit13 前半	リスニング、リーディング
9	テキスト Unit13 後半	リスニング、ライティング
10	テキスト Unit14 前半	リスニング、リーディング
11	テキスト Unit14 後半	リスニング、ライティング
12	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
13	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション (グループ 2)
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前に必ずテキストの予習をしてください。テキスト中のスク립トは、Web 動画を各自で観て穴埋めをして完成させたいうえで、分からない単語などを調べてしっかり読み、また、問題は、あらかじめ指定された箇所を解いてくこと。

【テキスト (教科書)】

CBS NewsBreak 4, Nobuhiro Kumai 他著, (成美堂, 2019 年), ¥2,400 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(40%)、プレゼンテーション(20%)、授業参加度(40%)とから総合的に評価する。欠席が4回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は3回に達するごとに1回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外学習の時間を少しでも増やしてもらえよう、復習や予習についてより具体的に働きかけるよう心がけます。

【Outline and objectives】

Category: Current Affairs

Sub-category: Learning Modern American Culture and Society through Media

This course aims to improve students' four core English language skills – reading, writing, listening, and speaking – using a textbook made up of the news stories drawn from CBS News shows that feature various current topics, especially in the US. Students will develop their abilities to accurately understand the information, think critically about the important current issues, and effectively express their ideas.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：TED TALKS で知る現代社会

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の4技能：読み、聴き、話し、書くーを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることが非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを3部構成とします。第1部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術(Reading Skills)について学びます。第2部では、実際にTED TALKの発表を聴き、またそのscriptを読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第3部では、学習事項の確認テストを行い、各トピックについて更にリサーチを進め、TEDでの発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

【第一部】

- 第2週 Topic: Interdisciplinary
- 第5週 Topic: Business/ Leadership
- 第8週 Topic: Life Science
- 第11週 Topic: Sociology/ Fashion

【第二部】

第3週： TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days
https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第6週： TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower
https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第9週： TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments
https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第12週： TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New
https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第三部】：各 Unit テストと自己表現 第4,7,10,13週

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

- ・ develop creative and critical thinking skills
- ・ effectively express their opinions on current issues

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一週	Introduction	What is TED?
第二週	Unit 1: Life Changes	Topic: Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第 3 週	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第 4 週	Review Unit 1	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 5 週	Unit 2: Team Power	Topic: Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc.
第 6 週	Unit 2: Team Power	TED TALK by Tom Wujec Academic Skills: Understanding stages in a process, ...etc.
第 7 週	Review Unit 2	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 8 週	Unit 3: Ocean Wonders	Topic: Life Science Reading Skills: Identifying purpose/ referents
第 9 週	Unit 3: Ocean Wonders	TED TALK by David Gallo Academic Skills: Understanding main ideas and key details,... etc.
第 10 週	Review Unit 3	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 11 週	Unit 4: What We Wear	Topic: Sociology/ Fashion Reading Skills: Making connections/ Understanding a process
第 12 週	Unit 4: What We Wear	TED TALK by Jessi Arrington Academic Skills: Recognizing point of view
第 13 週	Review Unit 4	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 14 週	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED Talk をインターネット上で聞き、また、テキスト巻末のスクリプトを参照し、理解しにくかった語彙、表現、文章などを特定し、checksheet に記入しておく。

復習：checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。
宿題：授業で扱った TED Talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、プリント配布

【参考書】

<https://www.ted.com/>

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および checksheet の提出）40 %、小テスト 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻あるいは早退すると、1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の換気、温度調節等にも気を配り、より快適な学習環境を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills
- ・ understand speeches without translating into Japanese
- ・ identify main ideas
- ・ clarify the structure of a speech
- ・ develop global and cross-cultural awareness

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：TED TALKS で知る現代社会

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書く—を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること

・沢山の人々の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第 3 部では、学習事項の確認テストを行い、各トピックについて更にリサーチを進め、TED の発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

[第一部] 第 2 週 Topic: Architecture and Design 第 5 週 Topic: Conservation/ Engineering 第 8 週 Topic: Visual Arts/ Sociology 第 11 週 Topic: Technology/ Robotics [第二部] 第 3 週: TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja 第 6 週: TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja 第 9 週: TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ... https://www.ted.com/talks/cindy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja 第 12 週: TED TALK by Cynthia Breazeal: The Rise of Personal Robots https://www.ted.com/talks/cynthia_breazeal_the_rise_of_personal_robots?language=ja [第三部]: 各 Unit テストと自己表現 第 4,7,10,13 週

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業進行、テキスト、評価方法についての説明
第 2 週	Unit6: Building Solutions	Topic:Architecture and Design Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第 3 週	Unit6: Building Solutions	TED TALK by Iwan Baan Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 4 週	Unit6: Review	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収

第 5 週	Unit 7: Roads to Fame	Topic:Communication/ Sociology Reading Skills: Scanning for numbers,...etc. TED TALK by Kevin Allocca
第 6 週	Unit 7: Roads to Fame	
第 7 週	Unit 7: Review	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 8 週	Unit 9: Community Voices	Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose TED TALK by Candy Chang Academic Skills: Understanding main ideas and key details/making predictions,...etc.
第 9 週	Unit 9: Community Voices	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 10 週	Unit 9: REview	
第 11 週	Unit 10: Robots and Us	Topic:Technology/ Robotics Reading Skills: making comparisons TED TALK by Cynthia Breazeal Academic Skills: Understanding main ideas and key details/understanding sequence,...etc.
第 12 週	Unit 10: Robots and Us	Review Test Research & Presentation Checksheet 回収
第 13 週	Unit 10: Review	
第 14 週	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED Talk をインターネット上で聞き、また、テキスト巻末のスク립トを参照し、理解しにくかった語彙、表現、文章などを特定し、checksheet に記入しておく。
 復習：checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。
 宿題：授業で扱った TED Talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、プリント配布

【参考書】

<https://www.ted.com/>

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（授業内での発言および checksheet の提出）40 %、小テスト 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻あるいは早退すると、1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の換気、温度調節等にも気を配り、より快適な学習環境を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

- To help students
- ・ increase vocabulary
 - ・ improve their reading/listening comprehension skills
 - ・ understand speeches without translating into Japanese
 - ・ identify main ideas
 - ・ clarify the structure of a speech
 - ・ develop global and cross-cultural awareness
 - ・ develop creative and critical thinking skills
 - ・ effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English Speaking World

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Based on the skills and knowledge acquired in English 1 and 2, students in this course will learn about various international cultural and social issues. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities including group discussion. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

(この授業では、文化や社会に関して英語で書かれた文章を読み、それについての自分の意見を英語で表現することを目指します。春学期は、英語圏で発行されている新聞記事を中心に扱います。また、文章の要点を素早く把握するトレーニングも行います。)

【到達目標】

Students will be able to:

- read English passages of approximately 500-600 words quickly and with comprehension
- explain the main point of a news article
- express their opinions in English
- interact with others to brainstorm solutions to various issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class activities focus on reading and discussion. Students are expected to understand the structure of news articles they collect, summarize them in English, and share their summaries and opinions with their classmates. These activities will help them to enhance their reading skills. In addition, students will interview someone and write a story about them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview, explanation about "news file," self-introduction
2	The Media of English News 1	Introduction of English media
3	The Media of English News 2	Read and compare articles from different media
4	Newspapers and News Agencies 1	News sources, dateline and news agencies
5	Newspapers and News Agencies 2	Read and compare articles from different news agencies
6	Making Yourself Familiar with a Newspaper	Examine and discuss the structure of newspaper
7	News Story Structure	The inverted pyramid
8	Summarizing Stories	Structure of writing: Paragraph; Topic sentence, supporting sentence(s), and concluding sentence
9	Headlines	The purpose of headlines
10	What Makes a Story News?	Types of articles, Understanding news values
11	Write a News Story 1	Tips to write a news story
12	Write a News Story 2	What did I do this semester?
13	Write a News Story 3	Peer-reading students' news stories and editing

14 Review and Final Examination

Course summary, Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework activities will center around a "news file" in which students will keep the texts they have read, as well as the notes and word lists they have created. Additional details will be provided by the instructor in the first lesson.

【テキスト（教科書）】

Tim Knight, Media English (Perceptia Press, 2013)

【参考書】

Useful links are provided by the instructor in the first lesson.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities (30%), homework assignments (30%), and the final exam (40%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

Based on the skills and knowledge acquired in English 1 and 2, students in this course will learn about various international cultural and social issues. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities including group discussion. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Aspects of English Speaking World

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students in this course will continue to learn about media English, with a focus on various cultural and social issues of the English speaking world. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. In addition, during the autumn semester, internet sources, broadcast media, and magazines will be reviewed. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

(春学期に引き続き、文化や社会に関して英語で書かれた文章を読み、英文の構造を理解することを目指します。加えて、幅広い話題に関する自分の意見を英語で表現する練習も行います。秋学期は、英語圏で発行されている新聞記事に加え、テレビのニュース番組や雑誌記事も取り上げる予定です。)

【到達目標】

Students will be able to:

- read English passages of approximately 500-600 words quickly and with comprehension
- explain the main point of a news article
- express their opinions in English
- interact with others to brainstorm solutions to various issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class activities focus on reading and discussion. Students are expected to understand the structure of news articles they collect, summarize them in English, and share their summaries and opinions with their classmates. These activities will help them to enhance their reading skills. In addition, students will interview someone and write a story about them. Internet sources, broadcast media, and magazines will be reviewed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Lesson Plan
2	News Point and Time Analysis	The News Point and Time Order of a Story
3	More Headlines	Headline Writing Techniques
4	Editorials and Opinion Articles 1	Editorials, Facts or Opinions?
5	Editorials and Opinion Articles 2	Reading Editorials from Newspapers
6	Reading and Writing about People 1	Interviewing and Profile Analysis
7	Reading and Writing about People 2	Guidelines for Writing a Profile and Making a Personality Profile
8	Reading and Writing about People 3	Profile Analysis and Writing a Profile
9	Electronic Media	Contrasting Features of Media
10	TV News and Radio News	Watch Programs Broadcast on TV and Listen to Radio News
11	Magazine Articles	Read Articles from Magazines
12	Reading and Writing about People 4	Peer-reading and Editing a Personality Profile
13	Media Jobs	What is the Journalist's Job?
14	Review and Final Examination	Course summary, Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework activities will center around a “news file” in which students will keep the texts they have read, as well as the notes and word lists they have created. Additional details will be provided by the instructor in the first lesson.

【テキスト（教科書）】

Tim Knight, Media English (Perceptia Press, 2013)

【参考書】

Useful links are provided by the instructor in the first lesson. Additional materials provided by the instructor when necessary.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities (30%), homework assignments (30%), and the final exam (40%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

Students in this course will continue to learn about media English, with a focus on various cultural and social issues of the English speaking world. The course will encourage students to consider their own culture and society within the international context, and obtain new perspectives about current issues. In spring semester, students are encouraged to become familiar with reading English newspaper articles. Students will review and discuss an overview of the English-language media via the textbook and authentic materials. Articles from newspapers, magazines, and internet sources will be utilized. In addition, during the autumn semester, internet sources, broadcast media, and magazines will be reviewed. During classwork, students will become familiar with various cultural and social systems in the English speaking world. Students will analyze their own culture within the context of globalization, and express their views both in written text and during oral communication activities. Students will develop their reading, writing, listening and speaking skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英米の食物の歴史と文化

三輪 すみ江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

英字新聞の記事及び英米その他の国の文化や歴史が書かれている英語長文などを教材として、その内容を着実に理解することができる。異文化、異民族、異言語、様々な国際問題などに対する理解を深めることができる。また段落ごとに英文の構成や、熟語、文法の細かい注意点まで着実に身につけることができる。

使用教材：

各種英字新聞の記事、随筆、及び各種英語 newseekly, 各種英文時事週刊誌（毎日新聞、朝日新聞などの）コラム、論評

授業の目的：

この授業の受講により英米文化、習慣、歴史などに関する英文を理解することができ、幅広い知見を獲得できる。学んだ多くの英文について、自ら深く考えたことを、まとめて、自分なりの英文を発信することができる。彼我の歴史、文化、習慣などに敬意を持つことができる。それらのことを常に意識し、毎回読む、書く、聞く、話すという訓練を続けることができ、英語の四技能を、更に錬磨することができる。

【到達目標】

この授業の受講により、英米及びその他の国々の文化、習慣、歴史などに関する知的関心を持つことができる。また異文化、異民族、異言語、国際問題などについて俯瞰的に英文で、理解し発信する力を養うことができる。

学習目標：

※英米と両国に関係する国の歴史と文化などに関する幅広い視野を持つことができる。

※各自授業で取り組むいずれかの論題について、英文でまとめて発表することができる。各自発表した論題について互いに英語で質疑応答することができる。

※長文の英文の構成、熟語、文法などの細かい注意点を意識し、英英辞典の引き方を習得することができる。

※音声テープで、英文全体を聞き取る訓練を毎回行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：

毎回2～3ページの英文を読み終えることができる。全員に発表してもらうので必ず予習してくること。

授業の方法：

最初音声テープを聞き、英文全体の流れを把握する。指定した単語の英語の定義の確認を行う。

理解不可能な箇所はその都度質問をしてもらい、全員が納得できるように授業を進めていく。文中に出てくる単語、地名、年号などについて、それらの歴史的、文化的背景をその都度紹介し、説明を行うので全員英文内容を理解することができる。文中の英語表現を用いて内容のある英文を書くことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス。	春学期の授業予定の説明その他。辞書の使用方法、ノートに英文の定義を写す際の注意点の説明を行う。英文で発表する際の注意点なども説明する。
第 2 回	（第 2 回～第 12 回、プリント使用） 英字新聞の記事を用いる。	英字新聞の彼我の食文化についての記事を読解することができる。リスニングと英文書き取りを行い、自分の意見をまとめた英作文を書くことができる。
第 3 回	英字新聞の記事を用いる。	英米の住宅事情に関する記事を英文の構成に注意して読解することができる。リスニングを行い、例文を参考に英作文を書くことができる。
第 4 回	英字新聞のコラムを用いる。	英米の礼儀に関する英文を読解することができる。リスニングを行い、内容に即した英作文を書くことができる。

第 5 回	英字新聞のコラムを用いる。	英米人の日常生活について書かれた文章を吟味しつつ着実に内容を理解できる。リスニングを行いその内容に即した分かりやすい英作文を書くことができる。
第 6 回	英字新聞の記事を用いる。	英米の近所付き合いに関する英文を読解することができる。リスニングを行い人間関係について考察した英作文を書くことができる。
第 7 回	英字新聞の記事を用いる。	英米の贈答慣習に関する英文を読解することができる。リスニングを行い彼我の贈答慣習に関して考察した英作文を書くことができる。
第 8 回	英米の歴史についての英文。	英米人の辿ってきた長い歴史に関する英文を読解することができる。リスニングを行いその歴史に関する英作文を書くことができる。
第 9 回	英米の歴史についての英文。	特にアイルランドの人々の歴史についての英文を読解することができる。リスニングを行い、内容に即した英作文を書くことができる。
第 10 回	英国の作家たちについての英文。	英国の作家たち（Jane Austen, Thomas Hardy）に関する英文を読解することができる。リスニングを行い彼らに関して考えてまとめた英作文を書くことができる。
第 11 回	英米の歴史についての英文。	特に英米の過去の戦争に関する英文を読解することができる。リスニングを行い内容に即した英作文を書くことができる。
第 12 回	英国の歴史についての英文。	特に英国成立以前の長い歴史に関する英文を読解することができる。リスニングを行い内容に即した英作文を書くことができる。
第 13 回	学生発表。	これまで学習してきた教材の中からいくつかを選択して、英文で自分の考えをまとめて発表する。
第 14 回	復習を行い、目標の達成度を評価する。	試験を行うことで学習の成果を見極めることができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：

毎回授業前に一時間程度、プリントの英文全体をよく読んでおくこと。英文を段落ごとにきちんと読み、まず内容を推測すること。文脈に合致しているかを確認しつつ、辞書で単語の意味を調べること。文中の重要な単語は英英辞典を引き定義を書き写し、また例文を書いておくこと。

復習

毎回当日分のプリントを復習しておくこと。段落ごとに英文内容を確認して、誤りがあれば、その都度訂正して正確な訳文を書いておくこと。文脈にふさわしい言葉を選択する為に、随時国語辞典を引く習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用のためテキストは使わない。

【参考書】

用例の多い大型英和辞典。
様々な英英辞典。
きちんとした文法書、例えば「英文法解説」（金子書房、1991年）
大型国語辞典。

【成績評価の方法と基準】

欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。30分以上の遅刻2回で欠席1回みなす。授業への参加度（発表を含む）40%、期末試験60%。その60%を合格点とする

【学生の意見等からの気づき】

一文、一文ゆっくりと丁寧に補足説明をして欲しいとの意見がいくつかありましたので意識してそのようにいたします。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Outline

Teaching materials:

English articles and essays (from various English newspapers and some English newsweeklies e.g. The New York Times, Asahi & Mainichi Weeklies)

By using all these materials, students can have broad knowledges of various cultural and social practices from around the world.

Objective:

By attending this class and reading many teaching materials closely, students can understand various aspects of each country written in all these materials and

look at things from a broader point of view. And also they can understand each and every paragraph precisely using English-English dictionaries. In addition, each student can express their own view on one of the teaching materials in English. Furthermore, they can have the opportunity to discuss their own view with other students in English.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英米の食物の歴史と文化

三輪 すみ江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

英字新聞の記事及び英米その他の国の文化や歴史が書かれている英語長文などを教材として、その内容を着実に理解することができる。異文化、異民族、異言語、様々な国際問題などに対する理解を深めることができる。

使用教材：

各種英字新聞の記事、随筆、及び各種英語 **newsweekly**, 各種英文時事週刊誌（毎日新聞、朝日新聞など）のコラム、論評

授業の目的：

この授業の受講により英米文化、習慣、歴史などに関する英文を理解することができ、幅広い知見を獲得できる。学んだ多くの英文について、自ら深く考えたことを、まとめて、自分なりの英文を発信することができる。彼らの歴史、文化、習慣などに敬意を持つことができる。それらのことを常に意識し、毎回読む、書く、聞く、話すという訓練を続けることができ、英語の四技能を、更に錬磨することができる。

【到達目標】

この授業の受講により、英米及びその他の国々の文化、習慣、歴史などに関する知的関心を持つことができる。また異文化、異民族、異言語、国際問題などについて俯瞰的に英文で、理解し発信する力を養うことができる。

学習目標：

※英米と両国に関係する国の歴史と文化などに関する幅広い視野を持つことができる。

※各自授業で取り組むいずれかの論題について、英文でまとめて発表することができる。各自発表した論題について互いに英語で質疑応答することができる。

※長文の英文の構成、熟語、文法などの細かい注意点を意識し、英英辞典の引き方を習得することができる。

※音声テープで、英文全体を聞き取る訓練を毎回行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：

毎回2～3ページの英文を読み終えることができる。全員に発表してもらうので必ず予習しておくこと。

授業の方法：

最初音声テープを聞き、英文全体の流れを把握する。指定した単語の英語の定義の確認を行う。

理解不可能箇所はその都度質問をしてもらい、全員が納得できるように授業を進めていく。文中に出てくる単語、地名、年号などについて、それらの歴史的、文化的背景をその都度紹介し、

説明を行うので全員英文内容を理解することができる。文中の英語表現を用いて内容のある英文を書くことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	英字新聞の記事。 (第1回～第12回、プリント使用)	日本語の慣用表現に関する英文記事を読解することができる。リスニングを行い学んだ内容に即した英作文を書くことができる。
第2回	英字新聞の記事。	ロンドンの成立に関する英文を読解することができる。リスニングを行い、その街の長い歴史について考慮した英作文を書くことができる。
第3回	英字新聞の記事。	レモンなどの日常よく使う柑橘類に関する英文を読解することができる。リスニングを行い、学んだ内容について考察した英作文を書くことができる。
第4回	英字新聞の記事。	日英の敬語表現について解説した英文を読解することができる。リスニングを行い、学んだ内容に即した英作文を書くことができる。
第5回	英字新聞の記事。	毎日利用しているじゃがいもについて解説した英文を読解することができる。リスニングを行いそれに関する英作文を書くことができる。

第 6 回	英字新聞の記事。	親子関係を扱っている英文を読解することができる。リスニングを行い内容に即した、英作文を書くことができる。
第 7 回	英米の歴史についての英文。	ハチミツが戦いで使用されたことを解説している英文を読解することができる。リスニングを行いそれぞれの歴史について考慮した英作文を書くことができる。
第 8 回	英米の歴史についての英文。	日々よく使う玉ねぎの歴史について解説している英文を読解することができる。リスニングを行い、それについての英作文を書くことができる。
第 9 回	英米の歴史についての英文。	様々な食品（嗜好品、茶など）がどのようにして世界中で使われるようになったのかを説明している英文を読解することができる。リスニングを行い、それらについての英作文を書くことができる。
第 10 回	英米の歴史についての英文。	チョコレートについての長い歴史を説明している英文を読解することができる。リスニングを行いそれについて考えるまとめた英作文を書くことができる。
第 11 回	英米の歴史についての英文。	毎日使うキャベツの長い歴史が味わえる英文を読解することができる。リスニングを行いそれについて考察した英作文を書くことができる。
第 12 回	英米の歴史についての英文。	日々使用するコーヒーなどの嗜好品の由来がよくわかる英文を読解することができる。リスニングを行いそれに関する英作文を書くことができる。
第 13 回	学生発表。	これまで学習してきた教材の中からいくつか選択して、英文で自分の考えをまとめて発表する。
第 14 回	復習を行い、目標の達成度を評価する。	試験を行うことで学習の成果を見極めることができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：

毎回授業前に一時間程度、プリントの英文全体をよく読んでおくこと。英文を段落ごとにきちんと読み、まず内容を推測すること。文脈に合致しているかを確認しつつ、辞書で単語の意味を調べること。文中の重要な単語は英英辞典を引き定義を書き写し、また例文を書いておくこと。

復習

毎回当日分のプリントを復習しておくこと。段落ごとに英文内容を確認して、誤りがあれば、その都度訂正して正確な訳文を書いておくこと。文脈にふさわしい言葉を選択する為に、随時国語辞典を引く習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

プリント使用のためテキストは用いない。

【参考書】

用例の多い大型英和辞典。

様々な英英辞典。

きちんとした文法書、例えば「英文法解説」（金子書房、1991年）

大型国語辞典。

【成績評価の方法と基準】

欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。30分以上の遅刻2回で欠席1回

みなす。授業への参加度（発表を含む）40%、期末試験60%。その60%を合格点とする。

【学生の意見等からの気づき】

一文、一文ゆっくりと丁寧に補足説明をして欲しいとの意見がいくつかありましたので意識してそのようにいたします。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Outline

Teaching materials:

English articles and essays (from various English newspapers and some English newswEEKlies e.g. The New York Times, Asahi & Mainichi Weeklies)

By using all these materials, students can have broad knowledges of various

cultural and social practices from around the world.

Objective:

By attending this class and reading many teaching materials closely, students can understand various aspects of each country written in all these materials and

look at things from a broader point of view. And also they can understand each and

every paragraph precisely using English-English dictionaries. In addition, they can express their own view on one of the teaching materials in English. Furthermore, they can have the opportunity to discuss their own view with other students in English.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業ではこうした作業を、日本人のイメージと実像という課題の下に行います。これまで国内外で、日本人は自分を犠牲にして和を重んじる人々とされてきました。この根強い通説は、日本人の多様な姿を本当に映しているのでしょうか？ 考察上の手がかりの一つとして、イギリス人の日常的な姿と日本人を比較対照します。この課題への取り組みが織り込まれた各学習プロセスを通して、英語のテキストを読み、ニュース番組や文化的な映像コンテンツを視聴し、さらには自分でパラグラフを読み、クラスの前で発表し、質疑応答を行うことで、上記の能力を伸ばしていきます。

【到達目標】

- 英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読解することができる。
- 英語の文章をある程度の速度をもって読み、目的とする情報をそこから読み取ることができる。
- 英語のリスニングに慣れ、日々のリスニング学習の習慣を身に付ける。
- 文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書くことが出来る。
- 英語でまとまった自分の意見を表明し、他人の意見に質問をすることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

学期全体を 2 つのセッションに分けます。その 2 つは「日本人の基本的なイメージ」「偉大な人物」とします。これらをトピックとして、精読、速読、リスニング、ライティング、スピーキングを行っていきます。

○第 1 セッション：日本人の基本的なイメージ

・読解 1： Did DNA influence Japan's collectivist society? (The Japan Times, 07/21/2017)

<https://www.japantimes.co.jp/news/2017/07/21/national/science-health/dna-influence-japans-collectivist-society/#.WnbA5YKkKJ-U>

・読解 2 & リスニング 1： Unit 1. A Fortunate Accident (イギリス人はアンフレンドリー?)

・読解 3 & リスニング 2： Unit 14. Changing Classes (階級制度は残っている?)

・ライティング： Write one paragraph in English, explaining your perspective on how much collectivist Japanese people are.

○第 2 セッション：偉大な人物

・読解 1： Makoto Shinkai: could the anime director be cinema's 'new Miyazaki'? (The Guardian, 11/9/2016)

<https://www.theguardian.com/film/2016/nov/09/makoto-shinkai-director-anime-your-name>

・読解 2： When Robots replace Humans - Interview with Dr. Hiroshi Ishiguro

<http://blog.gtec.at/ishiguro/>

・読解 3 & リスニング 1： Unit 3. The Meaning of Bond (007 はイギリスの象徴?)

・ライティング： Write one paragraph in English on the question: Who do you think is the greatest man(woman) in Japan throughout its history, and why? Name him/her and explain the reason from your point of view.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	授業のテーマの確認と授業方法の説明
2	日本人の基本的なイメージ I (読解 1)	読解 (グループワーク)、パラグラフ構造の確認、発音練習 (母音 1)
3	日本人の基本的なイメージ II (読解 2、リスニング 1)	読解 (グループワーク)、リスニング、プレゼンテーションの基礎、発音練習 (母音 2)
4	日本人の基本的なイメージ III (読解 3、リスニング 3、プレゼンテーション)	読解 (グループワーク)、リスニング、プレゼンテーション準備 (グループワーク)

5	日本人の基本的なイメージ IV (プレゼンテーション)	プレゼンテーション準備 (グループワーク)、アウトライン提出
6	日本人の基本的なイメージ V (プレゼンテーション)	プレゼンテーション (グループワーク)
7	偉大な人物 I (読解 1)	読解、発音練習 (子音 1)
8	偉大な人物 II (読解 2)	読解、プロセスライティングの基礎、発音練習 (子音 2)
9	偉大な人物 III (読解 3、リスニング 1、ショートエッセー、プレゼンテーション)	読解、リスニング、プロセスライティング 1 (Idea Generation、Organization)、プレゼンテーション準備
10	偉大な人物 IV (ショートエッセー、プレゼンテーション)	プロセスライティング 2 (Outlining、First Draft)、プレゼンテーション準備
11	偉大な人物 V (ショートエッセー、プレゼンテーション)	プロセスライティング 3 (アウトライン提出、First Draft)、プレゼンテーション準備
12	偉大な人物 VI (ショートエッセー、プレゼンテーション)	プロセスライティング 4 (Rewriting)、プレゼンテーション準備
13	偉大な人物 VII (ライティング、プレゼンテーション)	ライティング指導 (Rewriting)、プレゼンテーション
14	学期末試験、プレゼンテーション	テキストの Unit から読解、リスニングのテスト プレゼンテーション、ショートエッセー提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読む、聞く、話す、書くという 4 技能のいずれか（あるいは複数）に関する課題が毎週必ず出ます。授業の予習、復習、および課題提出は必須です。

【テキスト（教科書）】

『Realise Britain』 Colin Joyce, Yasushi Mano、金星堂、2014 年、1800 円 (税別)。

それ以外の教材は授業で配布します。

英和・和英辞書を必ず持参すること。

【参考書】

特に指定しないが、トピック別にソートされた単語帳や類語辞典は必ず必要になる。授業で詳説する。

【成績評価の方法と基準】

ライティング課題：25%、プレゼンテーション：20%、期末テスト：30%、平常点（予習、授業内課題の提出、授業時のパフォーマンス）：25%。
欠席が四回以上の場合は原則として単位を与えない。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

English3, based on those skills you learned in English1 and 2, helps you further improve your language ability by integrated learning of the skills. In the class, you collect relevant information on certain topics, analyze it with critical eyes and create your opinion. Then, you are required to read(listen to) several English materials (news sources, videos, the text) to write down(speak out) your opinion in English. The topics are on the images and realities of Japanese. The Japanese society is considered as collectivist, and you may have no doubt about it. You are asked to reconsider it and compare your society with another, such as the UK.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English3 では、English1 と English2 で学んだ読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の能力を更に深めます。またこれら 4 技能を総合的に駆使し、あるテーマについて英語で情報を得、その情報を批判的に考察し、さらに自分の意見を英語で発信していく能力を養成します。

本授業ではこうした作業を、「日本の文化を発信する」という模倣的な課題の下に行います。日本の文化や国民性について漠然としたイメージしか持たない人たちにその文化を発信したいとき、何が必要になるか考えましょう。こうした考察を織り込んだ授業の各プロセスを通して、英語のテキストを読み、ニュース番組や文化的な映像コンテンツを視聴し、さらには自分でパラグラフを読み、クラスの前で発表し、質疑応答を行うことで、上記の能力を伸ばしていきましょう。

【到達目標】

- ・英語の文章を、構文・語彙を理解して正確に読解することができる。
- ・英語の文章のある程度の速度をもって読み、目的とする情報をそこから読み取ることができる。
- ・英語のリスニングに慣れ、日々のリスニング学習の習慣を身に着ける。
- ・文法的に正確で、形式の整った英文パラグラフを書くことが出来る。
- ・英語でまとまった自分の意見を表明し、他人の意見に質問をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

学期全体を「文化発信」というひとつのセッションでまとめ、サブ・セッションとして「音楽」「スポーツ」を扱います。これらをトピックとして、精読、速読、リスニング、ライティング、スピーキングを行っていきます。

○セッション：文化発信

・ライティング：以下のサブセッションに関連する日本の話題について、その文化現象、ジャンル、競技、選手の魅力を発信するショートエッセーを執筆する。

・プレゼンテーション：完成したショートエッセーをスライドや映像を交えてクラスで発表。質疑応答つき。

○サブ・セッション 1：音楽

・読解 1 & リスニング 1： Unit 11. The Quite Fab Four (やっぱりいいかもビートルズ)

・読解 2： The Connection Between Lofi Hip-Hop and Anime

<https://medium.com/@ochiaalexander47/the-connection-between-lofi-hip-hop-and-anime-c14ebf1ddc5b>

・読解 3 & リスニング 2： Unit 9. British Food: Better Than Awful (フィッシュ・アンド・チップスだけじゃない)

・読解 4： George Orwell "In Defence of English Cooking"

○サブ・セッション 2：スポーツ

・読解 1： Tokyo Grand Slam 2017: Inside the world's most spiritual sport (CNN, 12/01/2017)

<https://edition.cnn.com/2017/12/01/sport/kodokan-institute-noaki-murata-jigoro-kano-tokyo-2020/index.html>

・読解 2： What You Know about Judo (The Players' Tribune, 05/29/2016)

<https://www.theplayertribune.com/marti-malloy-usa-olympics-judo/>

・読解 3 & リスニング 1： Unit 13. The "Invention" of Sport (スポーツに多いイギリス「発祥」)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	授業のテーマの確認と授業方法の説明
2	音楽 I (読解 1、リスニング 1)	読解 (グループワーク)、リスニング
3	音楽 II (読解 2)	読解 (グループワーク)、発音練習 (複合母音 1)
4	音楽 III (読解 3、リスニング 2)	読解 (グループワーク)、リスニング、発音練習 (複合母音 2)
5	音楽 IV (読解 4)	読解 (グループワーク)、パラグラフライティングの発展
6	スポーツ I (読解 1)	読解 (グループワーク)、発音練習 (文の発音 1)

7	スポーツ II (読解 2)	読解 (グループワーク)、発音練習 (文の発音 2)
8	スポーツ III (読解 3、リスニング 1) ショートエッセー、プレゼンテーション	読解 (グループワーク)、リスニング、プロセスライティング 1 (Idea Generation)
9	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング 2 (Idea Generation から Organization)
10	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング 3 (Outlining)
11	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング 4 (アウトライン提出、First Draft)
12	ショートエッセー、プレゼンテーション	プロセスライティング 5 (Rewriting)、プレゼンテーションの準備
13	ショートエッセー、プレゼンテーション	プレゼンテーション
14	学期末試験、プレゼンテーション	テキストの Unit から読解、リスニングのテスト プレゼンテーション、エッセー提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

読む、聞く、話す、書くという 4 技能のいずれか (あるいは複数) に関する課題が毎週必ず出ます。授業の予習、復習、および課題提出は必須です。

【テキスト (教科書)】

『Realise Britain』 Colin Joyce, Yasushi Mano、金星堂、2014 年、1800 円 (税別)。

それ以外の教材は授業内で配布します。

英和・和英辞書を必ず* 持参すること。

【参考書】

特に指定しないが、トピック別にソートされた単語帳や類語辞典は必ず必要になる。授業で詳説する。

【成績評価の方法と基準】

ライティング課題： 25 %、プレゼンテーション： 20%、期末テスト： 30 %、平常点 (予習、授業内課題の提出、授業時のパフォーマンス)： 25 %。
欠席が四回以上の場合には原則として単位を与えない。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

English3, based on those skills you learned in English1 and 2, helps you further improve your language ability by integrated learning of the skills. In the class, you collect relevant information on certain topics, analyze it with critical eyes and create your opinion. Then, you are required to read(listen to) several English materials (news sources, videos, the text) to write down(speak out) your opinion in English. Your tasks are to choose one subject from among Japanese cultures, which is particularly interesting from your point of view, and to gather relevant information and to make a presentation and write down a short essay on how attractive the subject is.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中での日本の歴史

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、日本の歴史について知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。本授業では、「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【到達目標】

日本についてより深く知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、得た知識の発表を個人及びグループで行います。グループ・ワーク及びグループ・プレゼンテーションを行い、アウトプットのトレーニングをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	ガイダンス
第2項	発音練習	発音練習
第3講	Chapter 1 The Jomon Period	縄文時代について
第4講	Chapter 2 The Yayoi Period	弥生時代について
第5講	Chapter 3 The Tumulus Period	古墳時代について
第6講	Chapter 4, 5 The Asuka Period 1,2	飛鳥時代について
第7講	Chapter 6 The Nara Period	奈良時代について
第8講	Chapter 7 The Heian Period	平安時代について
第9講	Chapter 8 The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi	平安時代の終焉
第10講	プレゼンテーション 1(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの計画法を学ぶ
第11講	プレゼンテーション 2(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の仕方を学ぶ
第12講	プレゼンテーション 3(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の批評の仕方を学ぶ
復習	テキストの復習	Chapter1 から Chapter8 までの復習を行う
総括	総括	筆記テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくこと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

The General History of Japan 五十嵐昭人著 南雲堂 2016 年 ISBN 978-4-523-17824-8

【参考書】

辞書等

【成績評価の方法と基準】

授業のための準備・予習等 (10%)、グループ・プレゼンテーション (30%)、提出物 (10%)、ペーパーテスト (50%) の総合点で評価します。尚、欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

クラス人数が比較的多い場合は、一人一人の発言の機会が少ないという意見が得られます。積極的な参加をしてもらえるような采配をするつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、グループ性と一人 1 分程度かつ原稿なしでの英語での発言が求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students ability in English reading and outputting about Japanese history. It is going to be quite important for university students nowadays to improve their English reading and outputting skills in order to function in the future global society. I hope that this course will help guide you to a new 'you' with efficient English skills.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中での日本の歴史

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、日本の歴史について知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。本授業では、「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【到達目標】

日本についてより深く知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、得た知識の発表を個人及びグループで行います。グループ・ワーク及びグループ・プレゼンテーションを行い、アウトプットのトレーニングをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	ガイダンス
第2項	発音練習	発音練習
第3講	Chapter 9,10 The Kamakura Period 1,2	鎌倉時代について
第4講	Chapter 11,12 The Muromachi Period	室町時代について
第5講	Chapter 13, 14 The Azuchi-Momoyama Period	安土桃山時代について
第6講	Chapter 15,16 The Edo Period 1,2	江戸時代について
第7講	Chapter 17,18 The Edo Period 3,4	江戸時代について
第8講	Chapter 19,20 The Meiji Period 1,2	明治時代について
第9講	Chapter 21 The Meiji Period	明治時代の終焉
第10講	プレゼンテーション 4(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの計画法と振り返りの方策を学ぶ
第11講	プレゼンテーション 5(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の仕方と改良の方策を学ぶ
第12講	プレゼンテーション 6(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の批評の仕方と今後の改良計画の方策を学ぶ
第13講	テキストの復習	Chapter9 以降 Chapter21 までの復習を行う
第14講	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

The General History of Japan 五十嵐昭人著 南雲堂 2016 年 ISBN 978-4-523-17824-8

【参考書】

辞書等

【成績評価の方法と基準】

授業のための準備・予習等（10%）、グループ・プレゼンテーション（30%）、提出物（10%）、ペーパーテスト（50%）の総合点で評価します。尚、欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

クラス人数が比較的多い場合は、一人一人の発言の機会が少ないという意見がでます。積極的な参加をしてもらえるような配慮をするつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、グループ性と一人 1 分程度かつ原稿なしでの英語での発言が求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students ability in English reading and outputting about Japanese history. It is going to be quite important for university students nowadays to improve their English reading and outputting skills in order to function in the future global society. I hope that this course will help guide you to a new 'you' with efficient English skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Euro-American Events and Historical Figures: Part 1

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is entitled 'Euro-American Events and Historical Figures: Part 1.'

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will use English to learn about Euro-American Events and Historical Figures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles and dialogues on various topics related to Euro-American culture. They will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view, and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected from six topic categories and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Topic: Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Class 2	Topic: Historical Figures 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 3	Topic: World Changing Events 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 4	Topic: World Festivals 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 5	Topic: Famous Historical Sites 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 6	Topic: Inventions that Changed the World 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 7	Topic: American Content 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Class 8	Topic: Historical Figures 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 9	Topic: World Changing Events 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 10	Topic: World Festivals 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 11	Topic: Famous Historical Sites 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 12	Topic: Inventions that Changed the World 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 13	Topic: American Content 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and to reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading and dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Dictation Tests: 10%
Paragraph Writing: 20%
Multi-paragraph Writing 20%
Student Presentations: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time this course has been offered by this instructor.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Euro-American Events and Historical Figures: Part 2

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 営 2 年：中級/英語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is entitled 'Euro-American Events and Historical Figures: Part 2.'

English 3 builds upon the skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics using English. Students will use English to learn about Euro-American Events and Historical Figures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles and dialogues on various topics related to Euro-American culture. They will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected from six topic categories and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Topic: Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Class 2	Topic: Historical Figures 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 3	Topic: World Changing Events 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 4	Topic: World Festivals 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 5	Topic: Famous Historical Sites 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 6	Topic: Inventions that Changed the World 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 7	Topic: American Content 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Class 8	Topic: Historical Figures 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 9	Topic: World Changing Events 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 10	Topic: World Festivals 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 11	Topic: Famous Historical Sites 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 12	Topic: Inventions that Changed the World 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 13	Topic: American Content 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Class 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and to reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

No required textbook.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading and dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Dictation Tests: 10%
 Paragraph Writing: 20%
 Multi-paragraph Writing 20%
 Student Presentations: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time this course has been offered by this instructor.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：A multi-skill course in English looking at Japan in the world

ジョナサン・エーブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/英語/世界の中の日本

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2, and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

Students will read, write, hear and speak about topics relevant to their lives, studies and futures. The main sources will be in British English, but cultures across the world - not only Anglophone - will be included in the sources used.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In each class reading and listening materials will be the starting point for discussion and information processing. In alternate weeks a writing exercise will be included with an emphasis on accurate self-expression. This work will be returned individually with corrections and comments. There will also be a group presentation exercise which will focus on cooperative communication and public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Class methods and familiarisation with types of material.
2	A Place in the World 1	Global Perspectives.
3	A Place in the World 2	How Japan is Viewed Abroad.
4	Tradition 1	How History Informs our Present.
5	Tradition 2	Tradition Across the English Speaking World.
6	Popular Culture 1	The Fast Pace of Fashion.
7	Popular Culture 2	How Japanese Popular Culture Influences Others
8	Presentation Preparation	Topics, Groups and Ideas.
9	Presentations	Group Presentations In Class.
10	Media 1	Where We Get our News.
11	Media 2	Advertising and Commercial Communication.
12	Media 3	Movies and TV. How Entertainment Works.
13	Hello and Goodbye.	How We Meet and Take Our Leave.
14	Final Examination.	Self-assessment and Interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text Previews and Preparation for Presentations in class will be expected. The task will be set each week as required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. See references.

【参考書】

NHK/NHK Educational
Japan Times
BBC News
British Council online resources (Word on the Street et al.)
Channel 4 News (UK)
CNN
Newspapers, Magazines and Periodicals as relevant.

【成績評価の方法と基準】

Writing 25%
Presentation 15%
Class Participation 30%
Final Interview Test 30%

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：A multi-skill course in English looking at Japan in the world.

ジョナサン・エーブル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/英語/世界の中の日本

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. In part II we will continue this journey through intercultural exploration. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 3 builds upon skills and knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with further opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics in English. In part II we will continue this journey through intercultural exploration. Students will learn about aspects of culture and society across cultures with Japan at the centre, exchanging ideas and opinions while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】

Students will read, write, hear and speak about topics relevant to their lives, studies and futures. The main sources will be in British English, but cultures across the world - not only Anglophone - will be included in the sources used.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In each class reading and listening materials will be the starting point for discussion and information processing. In alternate weeks a writing exercise will be included with an emphasis on accurate self-expression. This work will be returned individually with corrections and comments. There will also be a group presentation exercise which will focus on cooperative communication and public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Part II	Review and Look Forward.
2	Language.	How Languages Feed Each Other in a Globalising World.
3	Art.	Historical and Modern Views of Japanese Visual Art.
4	Performance.	How Japanese Performing Arts Influence the Worlds of Theatre and Dance.
5	Film.	Cross-cultural Storytelling.
6	Food 1.	What we Eat and Why.
7	Food 2.	Where and How we Eat.
8	Presentation Preparation.	Topics Groups and Planning.
9	Presentation.	Group Presentations in Class.
10	Travel.	From Commuters to Tourists.
11	Transport.	How Mobility Shapes Social Behaviour.
12	Social issues 1.	Ageing and Booming Populations
13	Social Issues 2.	Crime and Punishment.
14	Final Examination.	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Text reading and review and presentation preparation will be required. Tasks will be set each week as appropriate.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. See References.

【参考書】

NHK/NHK Educational.
Japan Times.
BBC News
British Council online resources (Word on the Street et al.)
Channel 4 News (UK)
CNN
Newspapers, Magazines and Periodicals as relevant.

【成績評価の方法と基準】

Writing 25%
Presentation 15%
Class Participation 30%
Final Interview Test 30%

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カテゴリー：現代の諸相

サブカテゴリー：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

CBS で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを主教材とし、アメリカを主とした現代の様々な諸問題を扱いながら、英語の情報を的確に理解・分析し、問題点を考察した上で自らの意見を発信する力を身につけることを目指し、インプットとアウトプットのバランスを取りながら英語の総合的な語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

English 1 と English2 で学んだことをベースとして、英語の 4 技能をさらに向上させる。

2) 文化理解

コーヒーの効用、寝不足によるビジネスへの悪影響、日本の新しいレンタルサービスなどに関する、現代社会の様々な問題について見聞を広め、独自の分析ができる。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。スク립トは、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的には逐語訳をしてもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。その為受講者は各授業で進む全ての範囲を予習しておく必要がある。また、テキストで扱ったテーマに基づいて、プレゼンテーションを行う。さらに、テキストには欠けている政治問題について扱った固めの記事等を準備し、精読を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit1 前半	リスニング、リーディング
3	テキスト Unit1 後半	リスニング、ライティング
4	テキスト Unit2 前半	リスニング、リーディング
5	テキスト Unit2 後半	リスニング、ライティング
6	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
7	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション（グループ1）
8	テキスト Unit3 前半	リスニング、リーディング
9	テキスト Unit3 後半	リスニング、ライティング
10	テキスト Unit4 前半	リスニング、リーディング
11	テキスト Unit4 後半	リスニング、ライティング
12	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
13	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション（グループ2）
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ずテキストの予習をしてください。テキスト中のスク립トは、Web 動画を各自で観て穴埋めをして完成させうえて、分からない単語などを調べてしっかり読み、また、問題は、あらかじめ指定された箇所を解いてくこと。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4, Nobuhiro Kumai 他著, (成美堂, 2019 年), ¥2,400 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 (40%)、プレゼンテーション (20%)、授業参加度 (40%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外学習の時間を少しでも増やしてもらえよう、復習や予習についてより具体的に働きかけるよう心がけます。

【Outline and objectives】

Category: Current Affairs

Sub-category: Learning Modern American Culture and Society through Media

This course aims to improve students' four core English language skills – reading, writing, listening, and speaking – using a textbook made up of the news stories drawn from CBS News shows that feature various current topics, especially in the US. Students will develop their abilities to accurately understand the information, think critically about the important current issues, and effectively express their ideas.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カテゴリー：現代の諸相

サブカテゴリー：メディアを通して見る現代アメリカの文化と社会

CBS で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを主教材とし、アメリカを主とした現代の様々な諸問題を扱いながら、英語の情報を的確に理解・分析し、問題点を考察した上で自らの意見を発信する力を身に付けることを目指し、インプットとアウトプットのバランスを取りながら英語の総合的な語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

English 1 と English2 で学んだことをベースとして、英語の 4 技能をさらに向上させる。

2) 文化理解

寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル、海洋汚染、人型ロボットの開発などに関する、現代社会の様々な問題について見聞を広め、独自の分析ができる。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。スク립トは、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的には逐語訳してもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。その為受講者は各授業で進む全ての範囲を予習しておく必要がある。また、テキストで扱ったテーマに基づいて、プレゼンテーションを行う。さらに、テキストには欠けている政治問題について扱った固めの記事等を準備し、精読を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit7 前半	リスニング、リーディング
3	テキスト Unit7 後半	リスニング、ライティング
4	テキスト Unit10 前半	リスニング、リーディング
5	テキスト Unit10 後半	リスニング、ライティング
6	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
7	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション（グループ1）
8	テキスト Unit13 前半	リスニング、リーディング
9	テキスト Unit13 後半	リスニング、ライティング
10	テキスト Unit14 前半	リスニング、リーディング
11	テキスト Unit14 後半	リスニング、ライティング
12	政治問題に触れる	新聞記事のリーディング
13	プレゼンテーション	テキストの内容をテーマとしたプレゼンテーション（グループ2）
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ずテキストの予習をしてください。テキスト中のスク립トは、Web 動画を各自で観て穴埋めをして完成させうえて、分からない単語などを調べてしっかり読み、また、問題は、あらかじめ指定された箇所を解いてくこと。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4, Nobuhiro Kumai 他著, (成美堂, 2019 年), ¥2,400 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 (40%)、プレゼンテーション (20%)、授業参加度 (40%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外学習の時間を少しでも増やしてもらえよう、復習や予習についてより具体的に働きかけるよう心がけます。

【Outline and objectives】

Category: Current Affairs

Sub-category: Learning Modern American Culture and Society through Media

This course aims to improve students' four core English language skills – reading, writing, listening, and speaking – using a textbook made up of the news stories drawn from CBS News shows that feature various current topics, especially in the US. Students will develop their abilities to accurately understand the information, think critically about the important current issues, and effectively express their ideas.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：TED TALKS で知る現代社会

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること

・複雑な構文や語句を理解すること
・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること

・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること

・沢山の人々の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第 3 部では、学習事項の確認テストを行い、各トピックについて更にリサーチを進め、TED での発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

【第一部】

第 2 週 Topic: Interdisciplinary
第 5 週 Topic: Business/ Leadership
第 8 週 Topic: Life Science
第 11 週 Topic: Sociology/ Fashion

【第二部】

第 3 週： TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days
https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 6 週： TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower
https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第 9 週： TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments
https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 12 週： TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New
https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第三部】：各 Unit テストと自己表現 第 4,7,10,13 週

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	What is TED?
第 2 週	Unit 1: Life Changes	Topic: Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第 3 週	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第 4 週	Unit 1: Review	Review / Unit test Research & Presentation checksheet 回収
第 5 週	Unit 2: Team Power	Topic: Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc
第 6 週	Unit 2: Team Power	TED TALK by Tom Wujec
第 7 週	Unit 2: Review	Review / Unit test Research & Presentation checksheet 回収
第 8 週	Unit 3: Ocean Wonders	Topic: Life Science Reading Skills: Identifying purpose/ referents
第 9 週	Unit 3: Ocean Wonders	TED TALK by David Gallo Academic Skills: Understanding main ideas and key details,... etc
第 10 週	Unit 3: Ocean Wonders	Review / Unit test Research & Presentation checksheet 回収
第 11 週	Unit 4: What We Wear	Topic: Sociology/ Fashion Reading Skills: Making connections/ Understanding a process
第 12 週	Unit 4: What We Wear	TED TALK by Jessi Arrington Academic Skills: Recognizing point of view
第 13 週	Unit 4: Review	Review / Unit test Research & Presentation checksheet 回収
第 14 週	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED Talk をインターネット上で聞き、また、テキスト巻末のスク립トを参照し、理解しにくかった語彙、表現、文章などを特定し、checksheet に記入しておく。
復習：checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。
宿題：授業で扱った TED Talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、プリント配布

【参考書】

<https://www.ted.com/>

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および checksheet の提出）40 %、Unit test 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻あるいは早退すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の換気、温度調節等に気を配って、より快適な学習環境になるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills
- ・ understand speeches without translating into Japanese
- ・ identify main ideas
- ・ clarify the structure of a speech
- ・ develop global and cross-cultural awareness
- ・ develop creative and critical thinking skills
- ・ effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：TED TALKS で知る現代社会

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること

・複雑な構文や語句を理解すること
 ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること

・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
 ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること

・沢山の人々の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第 3 部では、学習事項の確認テストを行い、各トピックについて更にリサーチを進め、TED の発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

【第一部】第 2 週 Topic: Architecture and Design 第 5 週 Topic: Conservation/ Engineering 第 8 週 Topic: Visual Arts/ Sociology 第 11 週 Topic: Technology/ Robotics 【第二部】第 3 週: TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja 第 6 週: TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja 第 9 週: TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ... https://www.ted.com/talks/cindy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja 第 12 週: TED TALK by Cynthia Breazeal: The Rise of Personal Robots https://www.ted.com/talks/cynthia_breazeal_the_rise_of_personal_robots?language=ja 【第三部】：各 Unit テストと自己表現 第 4,7,10,13 週

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業進行、テキスト、評価方法についての説明
第 2 週	Unit6: Building Solutions	Topic:Architecture and Design Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第 3 週	Unit6: Building Solutions	TED TALK by Iwan Baan Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 4 週	Unit6: Review	Unit test Research, presentation checksheet 回収

第 5 週	Unit 7: Roads to Fame	Topic:Communication/ Sociology Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第 6 週	Unit 7: Roads to Fame	TED TALK by Kevin Allocca Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc. Unit Test
第 7 週	Unit 7: Review	Research & Presentation checksheet 回収
第 8 週	Unit 9: Community Voices	Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose TED TALK by Candy Chang
第 9 週	Unit 9: Community Voices	Academic Skills: Understanding main ideas and key details/making predictions,...etc. Unit test
第 10 週	Unit 9: Review	Research, presentation checksheet 回収
第 11 週	Unit 10: Robots and Us	Topic:Technology/ Robotics Reading Skills: making comparisons TED TALK by Cynthia Breazeal
第 12 週	Unit 10: Robots and Us	Academic Skills: Understanding main ideas and key details/understanding sequence,...etc. Unit test
第 13 週	Unit 10: Robots and Us	Research, presentation checksheet 回収
第 14 週	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED Talk をインターネット上で聞き、また、テキスト巻末のスク립トを参照し、理解しにくかった語彙、表現、文章などを特定し、checksheet に記入しておく。

復習：checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。
宿題：授業で扱った TED Talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5
その他、プリント配布

【参考書】

<https://www.ted.com/>

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および checksheet の提出）40 %、小テスト 30 %、期末テスト 30 %
4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻あるいは早退すると、1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

教室内の換気、温度調節等にも気を配り、より快適な学習環境を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

To help students

- ・increase vocabulary
- ・improve their reading/listening comprehension skills
- ・understand speeches without translating into Japanese
- ・identify main ideas
- ・clarify the structure of a speech
- ・develop global and cross-cultural awareness
- ・develop creative and critical thinking skills
- ・effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：カテゴリー：英語圏の文化と社会 サブカテゴリー：英国の歴史と伝統

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3では、English1とEnglish2で身に付けた英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を更に深めることを目的とする、また、この4技能を有機的に関連させながら、知的内容を英語で理解し、英語で発信する能力を高めていく。

【到達目標】

- * 知的内容を持った英文を文法的に正確に読解できるようにする。
- * 英文の内容について常に批判的に読む習慣を身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 文法的に正確できちんとした英語の体を成すセンテンスとパラグラフが書けるようにする。
- * 知的内容を持った意見を英語で発表できるようにする。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英語を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各 Chapter において、本文の読解、リスニング、ライティング（センテンス・レヴェル）、スピーキングはテキストに沿って行ない、ライティング（パラグラフ・レヴェル）に関しては別途課題を提示する。読解に関しては、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった精読を行い、テーマであるイギリスの歴史や文化に対する認識を深めていく。4技能全てにおいて、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第2回	Introduction	解説
第3回	Chapter1:ケルト時代のイギリス①	読解・リスニング・スピーキング
第4回	Chapter1:ケルト時代のイギリス②	読解・リスニング・ライティング
第5回	Chapter2:ローマ時代のイギリス①	読解・リスニング・スピーキング
第6回	Chapter2:ローマ時代のイギリス②	読解・リスニング・ライティング
第7回	Chapter3:アングロ・サクソン時代のイギリス①	読解・リスニング・スピーキング
第8回	Chapter3:アングロ・サクソン時代のイギリス②	読解・リスニング・ライティング
第9回	Chapter4:ノルマン人による征服①	読解・リスニング・スピーキング
第10回	Chapter4:ノルマン人による征服②	読解・リスニング・ライティング
第11回	Chapter5:中世のイギリス①	読解・リスニング・スピーキング
第12回	Chapter5:中世のイギリス②	読解・リスニング・ライティング
第13回	春学期のまとめ	リスニング・ライティング（課題提出）
第14回	春学期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習形式の授業なので、しっかりした予習が必須である。本文演習においては必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな場合には必ず文法書を調べること。問題演習（ライティング）においては必ず自分の解答を用意して臨み、授業中に自ら添削すること。各回の授業のポイントは必ず次回までに復習して身に付けておくようにすること。

【テキスト（教科書）】

Facets of Britain(珠玉の英国) 朝日出版社

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や自分で英文を読み書きする際には、辞書だけでなく必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

出席（欠席）率、発表、授業への積極的参加)45%、期末試験 45%、課題提出 10%で評価する。

尚、原則として欠席が4回以上の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英語の背景として重要なイギリスの歴史や文化に関する知識が身に付けられて良かったという意見があったので、今年度も広い観点からの英語力を高められるような授業にしたい。

【その他の重要事項】

年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期を通しての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of English3 is to improve the four skills of reading, writing, listening and speaking in English acquired in English1 and English2. Furthermore, with these four skills connected organically, the ability to understand and express intellectual content in English will be cultivated.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：カテゴリー：英語圏の文化と社会 サブカテゴリー：英国の歴史と伝統

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【学生の意見等からの気づき】

英語の背景として重要なイギリスの歴史や文化に関する知識が身に付けられて良かったという意見があったので、今年度も幅広い観点から英語力を高められるような授業にしたい。

【その他の重要事項】

本講義は、4年制のレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期を通しての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of English3 is to improve the four skills of reading, writing, listening and speaking in English acquired in English1 and English2. Furthermore, with these four skills connected organically, the ability to understand and express intellectual content in English will be cultivated.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English3 では、English1 と English2 で身に付けた英語の 4 技能（読む・書く・聞く・話す）を更に深めることを目的とする。また、この 4 技能を有機的に関連させながら、知的内容を英語で理解し、英語で発信する能力を高めていく。

【到達目標】

- * 知的内容を持った英文を文法的に正確に読解できるようにする。
- * 英文の内容について常に批判的に読む習慣を身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 文法的に正確できちんとした英語の体を成すセンテンスとパラグラフが書けるようにする。
- * 知的内容を持った意見を英語で発表できるようにする。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英語を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Chapter において、本文の読解、リスニング、ライティング（センテンス・レヴェル）、スピーキングはテキストに沿って行い、ライティング（パラグラフ・レヴェル）は別途課題を提示する。読解に関しては、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった精読を行い、テーマであるイギリスの歴史や文化に対する認識を深めていく。4 技能全てにおいて、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter6:キリスト教の到来①	読解、リスニング、スピーキング
第 2 回	Chapter6:キリスト教の到来②	読解、リスニング、ライティング
第 3 回	Chapter7:教会と国家①	読解、リスニング、スピーキング
第 4 回	Chapter7:教会と国家②	読解、リスニング、ライティング
第 5 回	ライティング演習	ライティング
第 6 回	Chapter8:産業革命①	読解、リスニング、スピーキング
第 7 回	Chapter8:産業革命②	読解、リスニング、ライティング
第 8 回	Chapter9:伝説と物語①	読解、リスニング、スピーキング
第 9 回	Chapter9:伝説と物語②	読解、リスニング、ライティング
第 10 回	ライティング演習	ライティング
第 11 回	Chapter10:自然への愛着①	読解、リスニング、スピーキング
第 12 回	Chapter10:自然への愛着②	読解、リスニング、ライティング
第 13 回	総まとめ	年間のまとめと総評、課題提出
第 14 回	秋学期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習形式の授業なので、しっかりした予習が必須である。本文演習においては必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな場合には必ず文法書を調べること。問題演習（ライティング）においては必ず自分の解答を用意して臨み、授業中に自ら添削すること。各回の授業のポイントは必ず次回までに復習して身に付けておくようにすること。

【テキスト（教科書）】

Facets of Britain(珠玉の英国) 朝日出版社

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や自分で英文を読み書きする際には、辞書だけでなく必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、発表、授業への積極的参加）45 %、期末試験 45 %、課題提出 10 % で評価する。尚、原則として欠席が 4 回以上の場合には不合格とする。

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内で視聴する教材の英語に関しては内容をほぼ理解できるようにリスニング能力を高める。またその論点をくみ取ったうえでそれを受けて英語で自分の考えをまとめるだけでなく、アメリカの文化に関する知識を身に着ける。

映像資料を用いて、アメリカの歴史と文化を学ぶ。
English3 では English1 2 で身に着けた英語運用能力のさらなる養成とともに英語で物事を理解し発信することを目的とする。
また英語の学習だけでなく、アメリカの文化についての理解を深めることも目的とする。

【到達目標】

授業内で視聴する教材の英語に関しては内容をほぼ理解できるようにリスニング能力を高める。またその論点をくみ取ったうえでそれを受けて英語で自分の考えをまとめるだけでなく、アメリカの文化に関する知識を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、ビデオ教材、CD 教材を用いたリスニングを行う。
扱われている内容に関してのテキストの精読も行い、語彙力の養成や構文の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方や評価についての説明
2	Unit1	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
3	Unit1	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
4	Unit2	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
5	Unit2	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
6	Unit3	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
7	Unit3	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
8	Unit4	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
9	Unit4	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
10	Unit5	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
11	Unit5	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
12	Unit6	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
13	Unit6	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
14	まとめ	Unit1-6 の復習、補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の予習のところが適宜指示に従って解き、新出単語の確認をすること。
小テストに向けての復習をすること。

【テキスト（教科書）】

American Culture. Video Listening/『アメリカン・カルチャー—ビデオで辿る歴史と文化』(2006) 朝日出版社

【参考書】

指定なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%
授業中の問題演習等 30%

【学生の意見等からの気づき】

空調音響照明などの授業環境への配慮をする

【Outline and objectives】

This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about American culture.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：中級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内で視聴する教材の英語に関しては内容をほぼ理解できるようにリスニング能力を高める。またその論点をくみ取ったうえでそれを受けて英語で自分の考えをまとめるだけでなく、アメリカの文化に関する知識を身に着ける。

映像資料を用いて、アメリカの歴史と文化を学ぶ。
English3 では English1 2 で身に着けた英語運用能力のさらなる養成とともに英語で物事を理解し発信することを目的とする。
また英語の学習だけでなく、アメリカの文化についての理解を深めることも目的とする。

【到達目標】

授業内で視聴する教材の英語に関しては内容をほぼ理解できるようにリスニング能力を高める。またその論点をくみ取ったうえでそれを受けて英語で自分の考えをまとめるだけでなく、アメリカの文化に関する知識を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、ビデオ教材、CD 教材を用いたリスニングを行う。
扱われている内容に関してのテキストの精読も行い、語彙力の養成や構文の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit7	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
2	Unit7	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
3	Unit8	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
4	Unit8	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
5	Unit9	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
6	Unit9	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
7	Unit10	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
8	Unit10	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
9	Unit11	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
10	Unit11	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
11	Unit12	映像資料を用いたリスニングと語彙の確認
12	Unit12	CD 資料を用いたリスニングと関係テキストの精読
13	まとめ1	Unit7-12 の復習、補足
14	まとめ2	Unit1-12 の復習、補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の予習のところが適宜指示に従って解き、新出単語の確認をすること。
小テストに向けての復習をすること。

【テキスト（教科書）】

American Culture. Video Listening/『アメリカン・カルチャー—ビデオで辿る歴史と文化』(2006) 朝日出版社

【参考書】

指定なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%
授業中の問題演習等 30%

【学生の意見等からの気づき】

教室の環境へ配慮する

【Outline and objectives】

This course introduces writing and listening skills to students taking this course by using news videos about American culture.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語で知る日本の現状

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、日本の現状について知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。本授業では、「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【到達目標】

日本についてより深く知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。本授業では、「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、得た知識の発表を個人及びグループで行います。グループ・ワーク及びグループ・プレゼンテーションを行い、アウトプットのトレーニングをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	ガイダンス
第2項	発音練習	発音練習
第3講	Unit 1 Smart Phones Deserve Smart Users	スマホと依存
第4講	Unit 2 The Animals in Our Lives	動物のいる生活
第5講	Unit 3 Reforming Japan's Education System	日本の教育
第6講	Unit 4 A Hungry Future	未来の食生活
第7講	Unit 5 No More Unwelcome Advertisements	広告
第8講	Unit 6 A Living Wage	給料
第9講	Unit 7 Keeping Mothers on the Payroll	働くお母さん達
第10講	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
第11講	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
第12講	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
第13講	復習	復習
第14講	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World? David Peaty 他著 ISBN 978-4-7919-6027-9

【参考書】

辞書等

【成績評価の方法と基準】

授業のための準備・予習等（10%）、グループ・プレゼンテーション（30%）、提出物（10%）、ペーパーテスト（50%）の総合点で評価します。尚、欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

クラス人数が比較的多い場合は、一人一人の発言の機会が少ないという意見がです。積極的な参加をしてもらえるような采配をするつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、グループ性と一人1分程度かつ原稿なしでの英語での発言が求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students ability in English reading and outputting about Japanese society. It is going to be quite important for university students nowadays to improve their English reading and outputting skills in order to function in the future global society. I hope that this course will help guide you to a new 'you' with efficient English skills.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：英語で知る日本の現状

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、日本の現状について知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。本授業では、すべて網羅した総合的な学習を目標としています。本授業では、「4 技能」（英語を読み、聞き、書き、話す）の学習を行います。

【到達目標】

日本についてより深く知り、日本のことを英語でアウトプットする力を伸ばすトレーニングを行います。簡単な文章を理解し、英語でアウトプットできることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、得た知識の発表を個人及びグループで行います。グループ・ワーク及びグループ・プレゼンテーションを行い、アウトプットのトレーニングをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	ガイダンス
第2講	発音練習	発音練習
第3講	Unit 10 Longevity: a Mixed Blessing	寿命
第4講	Unit 11 The Importance of Biodiversity	生物多様性
第5講	Unit 13 Japan's future Energy Supply	日本のエネルギー問題
第6講	Unit 14 Green Transportation	持続可能な社会
第7講	Unit 16 Business Can Be Green	環境に優しいビジネス
第8講	Unit 18 A Dollar a Day	貧困の撲滅
第9講	Unit 20 Shrink the Economy, Not the Earth	経済発展と地球
第10講	プレゼンテーション 4(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの計画法と振り返りの方策を学ぶ
第11講	プレゼンテーション 5(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の仕方と改良の方策を学ぶ
第12講	プレゼンテーション 6(グループ・セッション)	グループで行うプレゼンテーションの英語での発表の批評の仕方と今後の改良計画の方策を学ぶ
第13講	テキストの復習	Unit10 から Unit20 の復習を行う
第14講	総括	ペーパーテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World? David Peaty 他著 ISBN 978-4-7919-6027-9

【参考書】

辞書等

【成績評価の方法と基準】

授業のための準備・予習等（10%）、グループ・プレゼンテーション（30%）、提出物（10%）、ペーパーテスト（50%）の総合点で評価します。尚、欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

クラス人数が比較的多い場合は、一人一人の発言の機会が少ないという意見がでます。積極的な参加をしてもらえるような配慮をするつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、グループ性と一人1分程度かつ原稿なしでの英語での発言が求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students ability in English reading and outputting about Japanese society. It is going to be quite important for university students nowadays to improve their English reading and outputting skills in order to function in the future global society. I hope that this course will help guide you to a new 'you' with efficient English skills.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本に関するニュース・ストーリーを教材に使い、読み、聴き、話し、書くという 4 技能を総合的に身につけることを目標とする。ニュース・ストーリーを読み・聴くことによって読解力とリスニング能力を高める。教材の内容を理解したうえで、自分の意見を口頭あるいはエッセーで表現することによって、発話能力と書く技術を身につける。日本に関する様々なニュース・ストーリーを通して、日本の慣習の長所・弱点を理解したうえで、日本に関する自らの考えを発信できるようにになりたい。

【到達目標】

英字新聞の記事を理解する能力を養う。
 基本的な英語ニュース・ストーリーが聴き取れるようになる。
 英語らしい発音ができるようになる。
 自分の考えを英語で口頭で表現できるようになる。
 4 パラグラフからなるエッセーを作成し、自分の考えを論理的に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストのエッセイを読みその内容について他の学生と英語で意見を交換し、自分の意見を簡単な英語で発表する。各ユニットが終了した後、クラスに向けて本格的なプレゼンテーションを行う。学期中に一度、教材の中から好きなものを選び 4 パラグラフから成るエッセーを作成する。リスニングは、教科書を中心に聴き取りの練習を行う。英語の音声上の特徴を理解し、自分で英語らしい発音ができるようにするために、シャドーイングという音声学習を徹底的にやる。教科書以外に、最新あるいは興味深いアメリカのテレビニュース及び英字新聞の記事を随時教材に使う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明とリスニング	授業説明の後少年の拒食症についてのニュースを聴く。
2	Unit 1 Japanese Cultural Invasion	日本の漫画とアニメに関するエッセーを読み、その内容について英語で話し合う。
3	Unit 1 Japanese Cultural Invasion	日本の漫画とアニメに関するエッセーを読み、その内容について英語で話し合う。プレゼンテーションのやり方を学ぶ。シャドーイングの実践。
4	Unit 2 Emoji: From Japan to the World	Unit 1 の内容に関するプレゼンテーションを行う。
5	Unit 2 Emoji: From Japan to the World	絵文字の誕生に関するエッセーを読み、その内容について英語で話し合う。シャドーイングを実践。
6	Unit 2 Emoji: From Japan to the World	絵文字の背景に関するエッセーを読み、その内容について英語で話し合う。
7	Unit 3 Tokyo 2020: Chance for a New Beginning	東京オリンピックの意義に関するエッセーを読み、その内容について英語で話し合う。
8	Unit 3 Tokyo 2020: Chance for a New Beginning	東京オリンピック開催に向けての問題点に関するエッセーを読み、英語で話し合う。リスニング教材のシャドーイングを実践する。
9	Unit 4 Pet Obsession	Unit 3 の内容に関するプレゼンテーションを行う。
	現代のペットブーム	ペットブームに関するエッセーを読み、その内容について英語で話し合う。

10	Unit 4 Pet Obsession	日本のペット好きを歴史に関するエッセーを読み、それについて英語で話し合う。リスニング教材を用いてシャドーイングを実践する。パラグラフ・ライティングの基礎を学び、エッセーのドラフトを作成。
11	日本の参議院選挙に関する新聞記事	Unit 4 の内容に関するプレゼンテーションを行う。新聞記事を精読する。辞書の使い方を学ぶ。4 パラグラフから成るパラグラフの作成の仕方を学ぶ。新聞記事を精読する。エッセーの提出。
12	日本の参議院選挙に関する新聞記事。	エッセーの提出。
13	エッセー・ライティング	添削したエッセーの返却とリライティングに向けたフィードバック。
14	学期末試験と課題提出。	学期中に学んだ内容についての試験。リライトしたエッセーの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニングで聴いた教材のシャドーイングの復習を行い、次の授業でその成果を披露する。リーディング教材の指定箇所を読んで意味を理解できるようにしておく。プレゼンテーション用の原稿を作成し、完全に暗唱し、口頭で発表できるよう練習する。

【テキスト（教科書）】

Paul Stapleton 他『Portrait of Japan』センゲージラーニング

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。

一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上欠席した場合単位取得の意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】

アウトプットの比重を高めたい。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。必ず英和・和英辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of reading, listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations about what they have read or heard in class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs on what they have read or heard in class by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 営 2 年：中級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本に関するニュース・ストーリーを教材に使い、読み、聴き、話し、書くという 4 技能を総合的に身につけることを目標とする。ニュース・ストーリーを読み・聴くことによって読解力とリスニング能力を高める。教材の内容を理解したうえで、自分の意見を口頭あるいはエッセイで表現することによって、発話能力と書く技術を身につける。日本に関する様々なニュース・ストーリーを通して、日本的な慣習の長所・弱点を理解したうえで、日本に関する自らの考えを発信できるようにになりたい。

【到達目標】

英字新聞の記事を理解する能力を養う。
 基本的な英語ニュース・ストーリーが聴き取れるようになる。
 英語らしい発音ができるようになる。
 自分の考えを英語で口頭で表現できるようになる。
 4 パラグラフからなるエッセイを作成し、自分の考えを論理的に表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストのエッセイを読みその内容について他の学生と英語で意見を交換し、自分の意見を簡単な英語で発表する。各ユニットが終了した後、クラスに向けて本格的なプレゼンテーションを行う。学期中に一度、教材の中から好きなものを選び 4 パラグラフから成るエッセイを作成する。
 リスニングは、教科書を中心に聴き取りの練習を行う。英語の音声上の特徴を理解し、自分で英語らしい発音ができるようにするために、シャドーイングという音声学習を徹底的にやる。
 教科書以外に、興味深いアメリカのテレビニュース及び英字新聞の記事を随時教材に使う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明とリスニング	授業説明の後、ナキウサギ絶滅の危機についてのニュースを聴く。
2	Unit 5 Silver Japan 高齢化社会を考える。	高齢化の現状と将来への影響に関するエッセイを読み、内容について英語で話し合う。
3	Unit 5 Silver Japan 高齢化社会に関して意見を発表。	高齢化に関してプレゼンテーションを行う。
4	日本の右傾化を考える。	最新の米のテレビニュース映像を使い聞き取りを行う。
5	日本の右傾化について意見を発表。	新聞記事「ファシズムに回帰する日本」を読み、内容について英語で話し合う。
6	Unit 6 Changing Gender Roles ジェンダーの意味を知り、その意義について考える。	「ファシズムに回帰する日本」に関してプレゼンテーションを行う。
7	Unit 6 Changing Gender Roles ニュースの聞き取り。	最新の米のテレビニュース映像を使い聞き取りを行う。
8	言論の自由が侵害されている事実を考える	新聞記事「国連特別報告者、言論の自由を侵害していると日本を非難」を読み、それについて英語で話し合う。
9	言論の自由が侵害されている事実について意見を発表する	国際的に日本の言論の自由が低い問題についてプレゼンテーションを行う。
10	Unit 9 Japan's Peaceful Poor 日本の格差拡大と貧困問題を考える。	最新の米のテレビニュース映像を使い聞き取りを行う。

11	Unit 9 Japan's Peaceful Poor 日本の格差拡大と貧困問題に関する意見を発表する。	貧困と格差拡大についてプレゼンテーションを行う。
12	森友問題が象徴する日本の現状を考える。	新聞記事「日本の安倍晋三首相が幼稚園の汚職疑惑で危機に」を読み、それについて英語で話し合う。
13	森友問題が象徴する日本の現状について意見を発表する。	最新の米のテレビニュース映像を使い聞き取りを行う。
14	提出されたエッセイのフィードバック。	森友問題が象徴する付度政治の問題についてプレゼンテーションを行う。 添削したエッセイを返却し、その代表的な誤りを辞書を使って訂正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニングで聴いた教材のシャドーイングの復習を行い、次の授業でその成果を披露する。リーディング教材の指定箇所を読んで意味を理解できるようにしておく。プレゼンテーション用の原稿を作成し、完全に暗唱し、口頭で発表できるよう練習する。

【テキスト（教科書）】

Paul Stapleton 他「Portrait of Japan」センゲージラーニング

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。

一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上欠席した場合単位取得の意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】

アウトプットの比重を高めたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞典。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。必ず英和・和英辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、過度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of reading, listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations about what they have read or heard in class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs on what they have read or heard in class by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ社会

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 営 2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースを通して、アメリカ社会について学びます。

English 3 では、English 1 と English 2 に引き続いて、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の運用能力を、課題を通して深めることを目的とします。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解し、書く、あるいは話すという形で自分の考えをわかりやすく表現してもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の 4 技能の練習を通して、アメリカに対して理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の 4 技能の運用能力の向上を目指して次の 4 つの目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 自分の考えを相手にわかりやすく英語で伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、発表をおこない、英作文を提出してもらいます。また、教回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Unit 1: Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	リスニング及び内容理解
第 3 回	Unit 1: Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	問題演習及び読解
第 4 回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	リスニング及び内容理解
第 5 回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	問題演習及び読解
第 6 回	Unit 3: Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	リスニング及び内容理解
第 7 回	Unit 3: Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	問題演習及び読解
第 8 回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	リスニング及び内容理解
第 9 回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	問題演習及び読解
第 10 回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	リスニング及び内容理解
第 11 回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	問題演習及び読解

第 12 回	Unit 6: Do happy People Live Long?	リスニング及び内容理解
第 13 回	Unit 6: Do happy People Live Long?	問題演習及び読解
第 14 回	学期末試験	教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 (『CBS ニュースブレイク 4』)
 熊井信弘他著 成美堂 2019 年 2400 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (50%)、英作文 (15%)、発表 (15%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から、(4) を発表から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位修得を認めないの请注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の英語の発表を振り返り、英語を話すことに慣れていない学生が予想以上に多かったように思います。今年度の授業では、もっと英語を話す機会を増やして、慣れることを目指します。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ社会

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

営 2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースを通して、アメリカ社会について学びます。

English 3 では、English 1 と English 2 に引き続いて、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の運用能力を、課題を通して深めることを目的とします。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解し、書く、あるいは話すという形で自分の考えをわかりやすく表現してもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の 4 技能の練習を通して、アメリカに対して理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の 4 技能の運用能力の向上を目指して次の 4 つの目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 自分の考えを相手にわかりやすく英語で伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、発表をおこない、英作文を提出してもらいます。また、教回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明及び春学期の授業内容のまとめ	授業の目標と進め方、春学期の授業の内容の確認
第 2 回	Unit 7: Selling Charity	リスニング及び内容理解
第 3 回	Unit 7: Selling Charity	問題演習及び読解
第 4 回	Unit 8: The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	リスニング及び内容理解
第 5 回	Unit 8: The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	問題演習及び読解
第 6 回	Unit 9: A Stitch in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clothing for Homeless	リスニング及び内容理解
第 7 回	Unit 9: A Stitch in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clothing for Homeless	問題演習及び読解
第 8 回	Unit 10: How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	リスニング及び内容理解
第 9 回	Unit 10: How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	問題演習及び読解
第 10 回	Unit 11: True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	リスニング及び内容理解

第 11 回 Unit 11: True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion 問題演習及び読解

第 12 回 Unit 12: The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up リスニング及び内容理解

第 13 回 Unit 12: The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up 問題演習及び読解

第 14 回 学期末試験 教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業でもってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 (『CBS ニュースブレイク 4』)

熊井信弘他著 成美堂 2019 年 2400 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (50%)、英作文 (15%)、発表 (15%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から、(4) を発表から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位修得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の英語の発表を振り返り、英語を話すことに慣れていない学生が予想以上に多かったように思います。今年度の授業では、もっと英語を話す機会を増やして、慣れることを目指します。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

猪俣 佳瑞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1,2での学びを踏まえ、4技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事を扱ったニュースなどを読み・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題として捉え直し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。

- ・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
- ・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
- ・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
- ・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで頼出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、進め方の説明 自己紹介など
2	イントロダクション Critical Thinking (批評的思考)を習得する ①	人間を「イス派」と「ネコ派」に分ける、という身近なトピックスを扱ったリーディング素材を使用し、与えられた命題に対して批評的な思考を組み立てる方法を学ぶ。意見を日本語で確認した上で、英語にする英作文練習。
3	イントロダクション Critical Thinking (批評的思考)を習得する ②	イス派とネコ派に関するリスニング、命題に対して批評的に組み立てた各自の意見を、ペアやグループで英語で発表するスピーキング演習。
4	美容整形の功罪①	美容整形に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。美容整形の功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	美容整形の功罪②	美容整形に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	美容整形の功罪③	各学生が英語で書いてきた美容整形に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つPhysical Aspects 1を紹介。
7	社内公用語は英語①	社内公用語に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
8	社内公用語は英語②	社内公用語に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。

9	社内公用語は英語③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つOral Aspects 1を紹介。
10	レディーファースト①	日本におけるレディーファーストに関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批評的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
11	レディーファースト②	レディーファーストに関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
12	レディーファースト③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つOral Aspects 2を紹介。
13	プレゼンテーション1	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション2 小テストとまとめ	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。 春学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ったか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各Unit初回授業の準備学習は、HOMEWORKと指定されているページ、2回目はPart A Speech Contentまで、3回目はPart A Speech WritingとPart Bを課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40% 発表 40% 小テスト 20%

遅刻は厳禁。授業開始時刻から30分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れないことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：世界の中の日本

猪俣 佳瑞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 2 年：初級/日本語/世界の中の日本

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期から引き続き、English1,2 での学びを踏まえ、4 技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事を扱ったニュースなどを読む・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題として捉え直し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。
・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで頼り出す語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリンピックの商業化 ①	オリンピックの商業化に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
2	オリンピックの商業化 ②	オリンピックの商業化に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。各学生が英語で書いてきたオリンピックの商業化に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 3 を紹介。
3	オリンピックの商業化 ③	国際結婚に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
4	国際結婚 ①	国際結婚に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
5	国際結婚 ②	各学生が英語で書いてきた国際結婚に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 2 を紹介。
6	国際結婚 ③	遺伝子組み換え食品に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
7	遺伝子組み換え食品 ①	遺伝子組み換え食品に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
8	遺伝子組み換え食品 ②	各学生が英語で書いてきた遺伝子組み換え食品に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Visual Aids を紹介。
9	遺伝子組み換え食品 ③	SNS と人間関係に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
10	SNS と人間関係 ①	SNS と人間関係に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
11	SNS と人間関係 ②	各学生が英語で書いてきた SNS と人間関係に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Q&A の方法を紹介。
12	SNS と人間関係 ③	各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
13	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。
14	プレゼンテーション 2 小テストとまとめ	秋学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

8	遺伝子組み換え食品 ②	遺伝子組み換え食品に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
9	遺伝子組み換え食品 ③	各学生が英語で書いてきた遺伝子組み換え食品に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Visual Aids を紹介。
10	SNS と人間関係 ①	SNS と人間関係に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
11	SNS と人間関係 ②	SNS と人間関係に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
12	SNS と人間関係 ③	各学生が英語で書いてきた SNS と人間関係に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Q&A の方法を紹介。
13	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション 2 小テストとまとめ	各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。 秋学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ってきたか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各 Unit 初回授業の準備学習は、HOMEWORK と指定されているページ、2回目は Part A Speech Content まで、3回目は Part A Speech Writing と Part B を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 発表 40 % 小テスト 20 % 遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れないことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代の諸相

猪俣 佳瑞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2年：初級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English1,2での学びを踏まえ、4技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事扱ったニュースなどを読み・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題としてのみならず、海外での事例などとも比較し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。

- ・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
- ・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
- ・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
- ・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで頼出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、進め方の説明 自己紹介など
2	イントロダクション Critical Thinking (批判的思考)を習得する ①	人間を「イス派」と「ネコ派」に分ける、という身近なトピックスを扱ったリーディング素材を使用し、与えられた命題に対して批判的な思考を組み立てる方法を学ぶ。意見を日本語で確認した上で、英語にする英作文練習。
3	イントロダクション Critical Thinking (批判的思考)を習得する ②	イス派とネコ派に関するリスニング、命題に対して批判的に組み立てた各自の意見を、ペアやグループで英語で発表するスピーキング演習。
4	美容整形の功罪①	美容整形に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。美容整形の功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	美容整形の功罪②	美容整形に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	美容整形の功罪③	各学生が英語で書いてきた美容整形に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つPhysical Aspects 1を紹介。
7	社内公用語は英語①	社内公用語に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
8	社内公用語は英語②	社内公用語に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。

9	社内公用語は英語③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つOral Aspects 1を紹介。
10	レディーファースト①	日本におけるレディーファーストに関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
11	レディーファースト②	レディーファーストに関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
12	レディーファースト③	各学生が英語で書いてきた社内公用語を英語にすることに対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つOral Aspects 2を紹介。
13	プレゼンテーション1	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション2 小テストとまとめ	各学生が今までに講義で扱った3つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。 春学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ったか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各Unit初回授業の準備学習は、HOMEWORKと指定されているページ、2回目はPart A Speech Content まで、3回目はPart A Speech Writing と Part B を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40% 発表 40% 小テスト 20%

遅刻は厳禁。授業開始時刻から30分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れないことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代の諸相

猪俣 佳瑞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：初級/日本語/現代の諸相

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期から引き続き、English1,2 での学びを踏まえ、4 技能（英語を読み、聞き、書き、話す力）の向上を目的とする。現代社会における出来事を扱ったニュースなどを読む・聞くことで背景知識をインプットし、各命題を批判的に分析し、自らの意見を英語でまとめ発信する練習を行う。この授業では特に、各トピックを国内で起きている身近な問題としてのみならず、海外での事例などとも比較し、他学生と意見交換を繰り返すことで、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

講義の到達目標は、以下である。

- ・各トピックでよく使用される語彙や表現を活用できるようになる。
- ・ある程度の速さで話される英語を正確に聞き取れるようになる。
- ・特定のテーマについて相応しい語彙を選び、文法的に正しい文を作ることができるようになる。
- ・英語のリズムやイントネーションを意識したプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ひとつのトピックを3回の講義で取り上げる。初回は、トピックに関する英文読解の理解度チェックとリスニング演習を行う。また指定された動画を正しく理解できていたどうかスクリプトも使用し特定のトピックで頻出する語彙や表現を学ぶ。2回目の授業では、トピックに関する意見を日本語でまとめた上で英語にする英作文練習に取り組む。3回目の授業では、ペアまたはグループでの英語による意見交換など、スピーキング中心に進める。学期中にクラス全体に対して意見を発表するプレゼンテーションを全学生が行う機会を設ける。演習形式で進めるため、学生の積極的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリンピックの商業化 ①	オリンピックの商業化に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
2	オリンピックの商業化 ②	オリンピックの商業化に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。各学生が英語で書いてきたオリンピックの商業化に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 3 を紹介。
4	国際結婚 ①	国際結婚に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。このトピックを批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
5	国際結婚 ②	国際結婚に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
6	国際結婚 ③	各学生が英語で書いてきた国際結婚に対する意見をペアやグループで音読し発表。学生間での理解度をチェックすることを通して、より伝わりやすい英語表現ができないかディスカッションを行う。プレゼンテーションに役立つ Physical Aspects 2 を紹介。

7	遺伝子組み換え食品 ①	遺伝子組み換え食品に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。社内公用語を英語にする功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
8	遺伝子組み換え食品 ②	遺伝子組み換え食品に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
9	遺伝子組み換え食品 ③	各学生が英語で書いてきた遺伝子組み換え食品に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Visual Aids を紹介。
10	SNS と人間関係 ①	SNS と人間関係に関する記事を使用し、リーディングとリスニング演習。レディーファーストの功罪を批判的に述べる上で知っておきたい語彙を学ぶ。
11	SNS と人間関係 ②	SNS と人間関係に関する命題への一般的な意見を英語で読んだ上で、各学生が自分の意見を日本語で整理した後、英語にするライティング演習。
12	SNS と人間関係 ③	各学生が英語で書いてきた SNS と人間関係に対する意見をペアやグループで音読し発表。プレゼンテーションに役立つ Q&A の方法を紹介。
13	プレゼンテーション 1	各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する1回目。全学生がリスナーとして、フォームを利用してコメントする。
14	プレゼンテーション 2 小テストとまとめ	各学生が今までに講義で扱った4つのトピックから1つを選び、クラス全体に発表する2回目。 秋学期に扱った語彙を中心とする小テストも実施。学びを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習を前提に進めるため、学生は必ず課題を行った上で授業に参加すること。準備学習を含む課題を行ってきたか否かは、授業内で確認し平常点として評価の対象とする。基本的に、各 Unit 初回授業の準備学習は、HOMEWORK と指定されているページ、2回目は Part A Speech Writing と Part B を課題とする。変更が生じた際には、クラス内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Exchange Views! 意見交換のための英語—リーディングからスピーチへ—三修社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 発表 40 % 小テスト 20 % 遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、4 回以上欠席した場合、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

英語コミュニケーション能力向上には、シンプルに考えること、教室内で積極的に英語を使うこと、間違えを恐れなことが、大切です。クラス内の様々な学生と英語で話す機会を楽しんでください。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を必ず持参すること

【Outline and objectives】

This is a course designed to help students communicate effectively in public settings. The course focuses on the development of oral skills that prepare nonnative speakers of English to present ideas by giving speeches, while interacting with other students, leading group discussions, and improving through self and peer evaluation. Additionally, writing skills will be practiced with a short essay.

LANe200LA

English 3 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ社会

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースを通して、アメリカ社会について学びます。

English 3 では、English 1 と English 2 に引き続いて、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の運用能力を、課題を通して深めることを目的とします。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解し、書く、あるいは話すという形で自分の考えをわかりやすく表現してもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の 4 技能の練習を通して、アメリカに対して理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の 4 技能の運用能力の向上を目指して次の 4 つの目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 自分の考えを相手にわかりやすく英語で伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、発表をおこない、英作文を提出してもらいます。また、教回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Unit 1: Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	リスニング及び内容理解
第 3 回	Unit 1: Japan: Unusual Rental Universe – You Can Rent a Family	問題演習及び読解
第 4 回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	リスニング及び内容理解
第 5 回	Unit 2: Is Coffee the Secret to a Longer Life?	問題演習及び読解
第 6 回	Unit 3: Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	リスニング及び内容理解
第 7 回	Unit 3: Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	問題演習及び読解
第 8 回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	リスニング及び内容理解
第 9 回	Unit 4: Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	問題演習及び読解
第 10 回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	リスニング及び内容理解
第 11 回	Unit 5: Your Smartphone is Making You a Workplace Slacker	問題演習及び読解

第 12 回	Unit 6: Do happy People Live Long?	リスニング及び内容理解
第 13 回	Unit 6: Do happy People Live Long?	問題演習及び読解
第 14 回	学期末試験	教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 (『CBS ニュースブレイク 4』)
熊井信弘他著 成美堂 2019 年 2400 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (50%)、英作文 (15%)、発表 (15%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から、(4) を発表から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位修得を認めないの请注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の英語の発表を振り返り、英語を話すことに慣れていない学生が予想以上に多かったように思います。今年度の授業では、もっと英語を話す機会を増やして、慣れることを目指します。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200LA

English 3 II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アメリカ社会

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 2 年：初級/日本語/英語圏の文化と社会

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースを通して、アメリカ社会について学びます。

English 3 では、English 1 と English 2 に引き続いて、読む、書く、聞く、話すという英語の 4 技能の運用能力を、課題を通して深めることを目的とします。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解し、書く、あるいは話すという形で自分の考えをわかりやすく表現してもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の 4 技能の練習を通して、アメリカに対して理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の 4 技能の運用能力の向上を目指して次の 4 つの目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 自分の考えを相手にわかりやすく英語で伝える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、発表をおこない、英作文を提出してもらいます。また、教回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明及び春学期の授業内容のまとめ	授業の目標と進め方、春学期の授業の内容の確認
第 2 回	Unit 7: Selling Charity	リスニング及び内容理解
第 3 回	Unit 7: Selling Charity	問題演習及び読解
第 4 回	Unit 8: The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	リスニング及び内容理解
第 5 回	Unit 8: The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	問題演習及び読解
第 6 回	Unit 9: A Stitch in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clothing for Homeless	リスニング及び内容理解
第 7 回	Unit 9: A Stitch in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clothing for Homeless	問題演習及び読解
第 8 回	Unit 10: How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	リスニング及び内容理解
第 9 回	Unit 10: How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	問題演習及び読解
第 10 回	Unit 11: True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	リスニング及び内容理解

第 11 回 Unit 11: True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion 問題演習及び読解

第 12 回 Unit 12: The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up リスニング及び内容理解

第 13 回 Unit 12: The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up 問題演習及び読解

第 14 回 学期末試験 教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。スマートフォンなどで映像が見れるので、該当する箇所の英文の内容を聞いて、教科書を読み、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 (『CBS ニュースブレイク 4』)

熊井信弘他著 成美堂 2019 年 2400 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (50%)、英作文 (15%)、発表 (15%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から、(4) を発表から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位修得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の英語の発表を振り返り、英語を話すことに慣れていない学生が予想以上に多かったように思います。今年度の授業では、もっと英語を話す機会を増やして、慣れることを目指します。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary America through CBS news. The topics ranges from business trends to lifestyle issues, which help students understand American society. Watching the news reports, students can improve their listening ability. The news videos are useful to get the gist of them. By reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. On topics related with the news reports, students will make a short speech or express their own opinions in writing. I hope students can improve English skills and get a better sense of American society.

LANe200LA

English 3 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会:イギリスの「今」を歴史から考える

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法（Y 除く）文営3年：補講1組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリスの社会・文化に大きな影響を与えた女性たちを論じる15編のエッセイを収めた教科書をベースに、イギリスの歴史と現在を学びながら、1年次に習得した英語の4技能をさらに向上させる。

【到達目標】

1. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
2. 読んで理解できる英語を、聴き取ったり、音読したりすることができる。
3. 英語でインプットされた情報について、英語・日本語の両方で要約したり、批評したりすることができる。
4. イギリスの文化・社会についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各回、文字（教科書、関連記事や文学作品など）や映像（教科書に関連する映画や講演など）から得られる情報の確認をしたのち、要約・批評をしたり意見を述べたりする練習を行う。

情報（内容、音声）の確認をグループで行ったり、ペアで相互添削するなど、ペア/グループワークを軸に授業を進める。授業時間の最後には、理解を深めるためのリアクション・ペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業についての説明、イギリス史概説
2	Chapter 1	Boudicca: Warrior Queen
3	Chapter 2	Hild: Holy Woman
4	Chapter 3	Margaret Paston: Family Woman
5	女性と職業・家庭	Chapter1～3に関連したエッセイ、ニュース、講演など。
6	Chapter 4	Queen Elizabeth I: Virgin Queen
7	Chapter 5	Mary, Queen of Scots: Maverick Queen
8	メディアにおける女王像	Chapter 4, 5に関連して、英国の女王がさまざまなメディアにおいてどのように表象されてきたか。女王たちのメディア戦略。
9	Chapter 1～5 まとめ	前半：Chapter 1～5 および関連資料の復習・補足 後半：Chapter 1～5 の復習試験
10	Chapter 6	Mary Wollstonecraft: Feminist
11	Chapter 7	Florence Nightingale: Nurse
12	Chapter 8	Elizabeth Garrett Anderson: Doctor
13	フェミニズムの諸相	Chapter 6～8に関連した文学作品、映像作品、講演など。
14	Chapter 6～8 まとめ	前半：Chapter 6～8 および関連資料の復習・補足 後半：Chapter 6～8 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、英文・映像等（教科書、補助教材）の予習（読解、視聴）は必須である。それに加えて、教科書の場合は練習問題（英語で答える読解問題含む）、補助教材の場合は予習ワークシートの解答を持参して授業に臨むことが求められる。

【テキスト（教科書）】

Simon Rosati 著『Iconic British Women from History / アイコニック・ウイメン——イギリス女性と現代社会』英宝社。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%（リアクション・ペーパー 15%、予習課題への取り組み 25%）、復習試験 60%（Chapter1～5 35%、Chapter 6～8 25%）、の総合評価とする。

4回以上欠席となると、単位修得の資格を失う。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の担当なし。

【その他の重要事項】

授業支援システムを使えるようにしておくこと。特に、欠席した際、次回使用する資料や予習課題を入手するために必要である。

【Outline and objectives】

The aim of English 3 is to further develop students' English proficiency by drawing on what the students have learned in English 1 and English 2. Under the category of "Aspects of the English Speaking World" and the sub-category of "British Society Today Seen from a Historical Viewpoint," students will also explore historical female figures that have had a great influence on British culture and society.

LANe200LA

English 3 II

2017年度以降入学者

サブタイトル：英語圏の文化と社会:イギリスの「今」を歴史から考える

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法（Y 除く）文営 3 年：補講 1 組

【学生の意見等からの気づき】

前年度の担当なし。

【その他の重要事項】

授業支援システムを使えるようにしておくこと。特に、欠席した際、次回使用する資料や予習課題を入手するために必要である。

【Outline and objectives】

The aim of English 3 is to further develop students' English proficiency by drawing on what the students have learned in English 1 and English 2. Under the category of "Aspects of the English Speaking World" and the sub-category of "British Society Today Seen from a Historical Viewpoint," students will also explore historical female figures that have had a great influence on British culture and society.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリスの社会・文化に大きな影響を与えた女性たちを論じる 15 編のエッセイを取めた教科書をベースに、イギリスの歴史と現在を学びながら、1 年次に習得した英語の 4 技能をさらに向上させる。

【到達目標】

1. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
2. 読んで理解できる英語を、聴き取ったり、音読したりすることができる。
3. 英語でインプットされた情報について、英語・日本語の両方で要約したり、批評したりすることができる。
4. イギリスの文化・社会についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各回、文字（教科書、関連記事や文学作品など）や映像（教科書に関連する映画や講演など）から得られる情報の確認をしたのち、要約・批評をしたり意見を述べたりする練習を行う。

情報（内容、音声）の確認をグループで行ったり、ペアで相互添削するなど、ペア/グループワークを軸に授業を進める。授業時間の最後には、理解を深めるためのリアクション・ペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業についての説明、イギリス史概説
2	Chapter 9	Octavia Hill: Philanthropist
3	Chapter 10	Gertrude Bell: Adventurer
4	女性と移動・冒険	Chapter 9～10 に関連した文学作品、映像作品など。
5	Chapter 11	Marie Stopes: Sexologist
6	Chapter 12	Lily Parr: Footballer
7	Chapter 9～12 まとめ	前半：Chapter 9～12 および関連資料の復習・補足 後半：Chapter 9～12 の復習試験
8	Chapter 13	Elizabeth David: Food Writer
9	Chapter 14	Ruth Ellis: Murderer
10	Chapter 15	Margaret Thatcher: Prime Minister
11	女性と法	Chapter 14 に関連した文学作品、映像作品など。
12	女性と政治	Chapter 15 に関連したニュース、エッセイ、講演など。
13	イギリスにおける結婚・家庭	ニュース、エッセイ、講演など。
14	Chapter 13～15 まとめ	前半：Chapter 13～15 および関連資料の復習・補足 後半：Chapter 13～15 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、英文・映像等（教科書、補助教材）の予習（読解、視聴）は必須である。それに加えて、教科書の場合は練習問題（英語で答える読解問題含む）、補助教材の場合は予習ワークシートの解答を持参して授業に臨むことが求められる。

【テキスト（教科書）】

Simon Rosati 著『Iconic British Women from History / アイコニック・ウイメン——イギリス女性と現代社会』英宝社。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%（リアクション・ペーパー 15%、予習課題への取り組み 25%）、復習試験 60%（Chapter9～12 35%、Chapter 13～15 25%）、の総合評価とする。

4 回以上欠席となると、単位修得の資格を失う。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

LANe200LA

英語 7 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 7 2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 先での授業についていくことができるよう、読解力ならびに語彙力を身につけます。さまざまな分野の文章を読み視野を広げるとともに、それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて思考力ならびに批判力を養います。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉え咀嚼する力を養います。また、多岐にわたるテーマの文章を読むことで、さまざまな分野の語彙・表現を身につけることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。テキスト内の単語・慣用表現などの類義語・類似表現を解説し、語彙力ならびに表現力の向上をはかります。また、リーディングに加えて、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で意見を表現してもらいます。そのため、ライティングを組み合わせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	英語公用語
3	言語と文化（2）	文化帝国主義
4	言語と文化（3）	文化の衝突
5	社会と環境（1）	地球環境問題
6	社会と環境（2）	難民問題
7	社会と環境（3）	民族差別
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	児童労働
10	経済と社会（3）	国際紛争
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	プライバシー
13	技術と人間（3）	インターネット
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布するプリントを授業前に必ず読んでおいてください。わからない単語・表現がある場合には、必ず辞書で確認しておいてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 10%
試験 90%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究で授業を担当していませんでした。

【Outline and objectives】

This course aims to prepare students to join the Hosei Study-Abroad programme in English speaking countries. It focuses on the development of reading and writing skills, and also helps to develop critical thinking skills.

LANe200LA

英語 7 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 7 2016 年度以前入学者

須藤 祐二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 前に「英語を読むこと」を中心にした最後の授業になるので、移民について書かれた論説文や新聞記事の講読をテーマにする。これらの教材は英語学習者用に書かれたものではないが、専門的な内容を扱う割には平易に書かれている。この授業によって、専門的な内容のものでも読めるという自信を SA 前に身につけてもらいたい。また、読み取った内容を英語で表現する練習も取り入れる。英語圏 SA 先の社会は多様な人種背景をもった人々で成り立っているため、異文化体験を意義あるものにするためにも、こうした社会について、きちんとした基礎知識を身につけてほしい。

【到達目標】

学生は、簡単な英語で書かれたものであれば、専門的な内容でも読めるようにする。

専門的見地から書かれた論点を批判的にくみ取り、自分の意見を英語で表現できるようにする。英語運用能力の強化はもちろんとして、SA 前の学生が身につけるべき国際社会についての基礎知識の獲得も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

段落ごとの内容を日本語で要約する。難しい内容や表現の箇所については訳読も取り入れて理解を促進する。また、読み取った内容を基に自分の意見を英語で表現するための演習も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業テーマの確認をする。
第 2 回	移民の歴史	移民の歴史について書かれた論説文を読む。
第 3 回	移民と現代社会	移民と現代社会の多様なかかわりを考える。
第 4 回	強制移住とは	強制移住の定義と歴史を考える。
第 5 回	自発的な移民とは	自発的な移民の特徴を考える。
第 6 回	グローバリゼーションと移民	移民とグローバリゼーションの関係を考える。
第 7 回	グローバリゼーション下の移民と多様性	グローバリゼーションと多様性の関係を考える。
第 8 回	移民と経済発展	移住先の国の開発・経済発展と移民の関係を考える。
第 9 回	移民と開発支援	移民の出身国の開発支援と移民の関係を考える。
第 10 回	欧州と移民	欧州における非合法移民を考える。
第 11 回	アメリカと移民	アメリカにおける非合法移民を考える。
第 12 回	難民とは	難民の現状と定義を考える。
第 13 回	難民と統合	亡命先社会への難民の統合と課題を考える。
第 14 回	移民と言語	移民と言語の関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、予習が必要になる。また、有用と思われる資料を紹介した場合には、その読解や視聴を行ってから授業に出席すること。リスニング・ハンドブックに掲載のサイトを指定するので、各自でリスニングの練習をすること。

【テキスト（教科書）】

配布する。

必ず英和・和英辞書を持参して、授業に参加すること。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 70%、授業内に課した課題を含む平常評価を 30% とする。4 回以上欠席した者は単位を認定しない。欠席回数や遅刻による減点もあるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ひきつづき、受講生の英語力に配慮しながら、進む速度を調整することがある。

【Outline and objectives】

Since English 7 is the last course focusing on developing reading skills in English before students embark on their respective Study Abroad programs, emphasis will be put on reading passages of essays and newspaper articles related to immigrants. These materials are level-appropriate for English learners, though not written specifically for them. Reading passages written for specialists will enable students to develop confidence in their reading skills. Practices will also be given to make summaries of passages. Since students will go to SA campuses in multiethnic countries, this course also aims to help them acquire knowledge about some characteristic aspects of their host countries in order to make their SA experiences fruitful.

LANe200LA

英語 7

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 7

2016 年度以前入学者

栗飯原 文子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の SA に備えて読解力と語彙力を伸ばすことを主な目的とする。SA 先の授業に自信をもって臨めるように、やや高度な学術的・専門的な文章を多読し、内容を批判的・批評的に読む力を養う。また、読み取った内容の大意や内容へのコメントを英語で表現する技術もつけられるようにする。学期の後半では SA 先についてのプレゼンテーションをおこなう。

【到達目標】

- ・語彙力を強化して、多岐にわたるテーマの文章を読む力を養う。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・多読によって英語のスキルを養うと同時に、SA 前の準備としてさまざまな知識を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・文章の大意把握のためにパラグラフごとの内容の要約と全体の要約をおこなう。
- ・毎週指名された数人が責任をもって担当箇所の紹介・要約などをする。
- ・学期の後半では、SA 先の都市/地域の歴史や文化について（英語で）調査・発表し、互いに批評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価について説明。英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	帝国 (1)	帝国、帝国主義とはなにか、導入的な文章を読む。
第 3 回	帝国 (2)	帝国、帝国主義の影響について考える。
第 4 回	移民・難民 (1)	移民・難民問題について歴史を概観する。
第 5 回	移民・難民 (2)	移民・難民問題の現状を考える。
第 6 回	新自由主義 (1)	新自由主義とはなにか、導入的な文章を読む。
第 7 回	新自由主義 (2)	新自由主義の諸問題を考える。
第 8 回	グローバリゼーション (1)	グローバリゼーションとはなにか、導入的な文章を読む。
第 9 回	グローバリゼーション (2) グループ・プレゼンテーション	グローバリゼーションがもたらす問題を考える。 SA 先についてのプレゼンテーションをおこなう。
第 10 回	人種差別 (1) グループ・プレゼンテーション	人種差別の歴史を振りかえる。 SA 先についてのプレゼンテーションをおこなう。
第 11 回	人種差別 (2) グループ・プレゼンテーション	人種差別の現状を考える。 SA 先についてのプレゼンテーションをおこなう。
第 12 回	国際紛争 (1) グループ・プレゼンテーション	国際紛争について歴史的に学ぶ。 SA 先についてのプレゼンテーションをおこなう。
第 13 回	国際紛争 (2) グループ・プレゼンテーション	国際紛争について理解を深める。 SA 先についてのプレゼンテーションをおこなう。
第 14 回	期末試験	全体のまとめとして期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・毎回数名を指名して担当分について発表してもらうが、担当の有無にかかわらず予習は欠かさないようにする。
- ・わからない単語や表現は必ず辞書で確認しておく。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 30 %
 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度初めて担当する科目。学生が積極的に授業に参加できるよう工夫したい。

【その他の重要事項】

・4回以上欠席すると自動的に単位取得の資格を失う。
 大幅な遅刻は欠席とみなす。欠席はもちろん遅刻も減点の対象となるので注意すること。
 ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
 なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading comprehension skills to prepare them for studying abroad in an English-speaking country.

LANe200LA

英語 7

2017年度以降入学者

LANe200LA

英語 7

2016年度以前入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについての英文を素早く正確に読む力を養います。授業内でのリーディングの練習の他に、SA 英語圏留学の際に生かせるように、情報収集と意見を述べることに必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. テキスト内の英文を素早く正確に読解することが出来るようになる。
2. 既習事項を踏まえ、テキスト以外の様々なトピックについての英文を可能な限り速く読み、内容を正確に把握出来るようになる。
3. テキスト内の語彙や表現を理解し、情報収集や表現をする際に使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの学習を始める前に、第1回目の授業内に Placement Test を行い、春学期開始時のレベルを受講者が各自把握します。授業では1回につき1つの Unit を進めていきます。使用テキストには ActeaBo というリーディング専用のウェブ教材があります。授業後に、授業で学習したことの確認とリーディングスキルの向上のための復習として、各自ウェブ上で課題を行ってください。授業と復習課題の際には、素早く正確に読解できるようになることを目指しますので、リーディングにかかった時間を記録していきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、語彙テストなどを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、Placement Test
2	Unit 1: Register What It Looks Like	“Investing In Yourself” / リーディングでの単語認識を知る
3	Unit 2: Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right”	“The Circus” / リーディング中の目の動かし方について
4	Unit 3: Expand Your Eye: “Eye Span”	“I Touch the Future. I Teach.” / リーディングでの視野について
5	Unit 4: Eye Movement (2): “by Skipping Words with Little Meaning”	“Fruit, Veggie Lovers Not Immune to Weight Gain” / 内容語と機能語
6	Unit 5: Find It Quickly: “Scanning”	“International Exchange Programs” / 情報を探し出す
7	Unit 6: Get It Chunk by Chunk	“Cancer Rates in U.S. Keep Falling Report” / 自分の文法知識と語彙知識を活用する
8	Unit 7: Find What Will Come After: “Prediction”	“The Traveler’s Dilemma” / 文の構造から予測しながら読む
9	Unit 8: Imagine What Will Come After: “Anticipation”	“Little Charlie Goes on the Stage” / 文脈・内容から予想しながら読む
10	Unit 9: Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’re Lost”	“Does Travel Broaden the Mind” / sight reading を行う
11	Unit 10: Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming”	“Facebook Is Watching You” / 大まかな情報をつかむ
12	Unit 11: How a Paragraph Is Made	“Spanking Kids Can Cause Long-Term Harm - Canada Study” / 英文の論理構成の仕方を確認する
13	Unit 12: Read the Main Idea from the Details	“Being Green …” / Main Idea と Details を仕分けする
14	期末テスト	リーディングや語彙に関するテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業後に該当 Unit の復習をし、さらに ActeaBo にてウェブ学習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Read, Read, Read -Enhance Your WPM & Comprehension-
著者：宮崎充保・貞光宮城
出版社：成美堂
出版年：2015 年
価格：2300 円+税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・単語テスト）
2. 復習 20%（ActeaBo 内の Unit 1-12 のリーディング・Post Test）
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ウェブ教材での学習では、インターネット環境が必要です。自宅や情報処理室のパソコンを使用してください。
- ・ウェブ教材で学習する際には、登録が必要です。ID は 2 週目以降から使用可能となります。初回授業では登録手続きの説明をしますので、各自登録可能なメールアドレスを用意しておいてください（大学から発行されているメールアドレスの使用を推奨します）。

【その他の重要事項】

・授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は指示を出した際以外には認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire skills for reading accurately and fluently based on several daily and modern social topics in English. It also enhances students' vocabulary knowledge needed to gather information and express their ideas. It will help students prepare for assignments when studying abroad.

LANe200LA

英語 7

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 7

2016 年度以前入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み方を学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものを通じることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書やその他の媒体を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
 - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
 - ・リアクションペーパーに学んだ内容等について英語でコメント
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1	Unit1 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
3	Unit2	Unit2 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
4	Unit3	Unit3 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
5	Unit4	Unit4 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
6	Unit5	Unit5 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
7	Unit6	Unit6 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
8	Unit7	Unit7 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
9	Unit8	Unit8 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
10	Unit9	Unit9 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
11	Unit10	Unit10 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
12	Unit11	Unit11 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
13	Unit12	Unit12 の解説と授業内容にかんするリアクションペーパーの記入
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、教科書を精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。授業でできた表現の暗記も求められます。

【テキスト（教科書）】

『15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2019 年度版』（朝日出版社、2019 年）

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%

期末試験 65%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. The students' reading skills to skim the excerpts for main idea, to scan them for specific information, and to interpret them for inferences will be developed.

LANe200LA

英語 7

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 7

2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化コミュニケーションに関わるさまざまな知識や考え方を学びながら、SA に必要な英語力、とくに「読む力」をつける。

【到達目標】

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できる英文を、聴解できる。
4. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。
5. 異文化コミュニケーションへの理解を深めることを通じて、SA 先でコミュニケーションを円滑に行うための心構えができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書本文の内容を完全に理解し、本文に出てきた英語表現を身につけることを目的として、本文・練習問題に関するグループワークや質疑応答、ディスカッション（日本語、英語）などを行う。

各授業の最後に、理解を深めるためのリアクションペーパー（英語）を記入・提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション/ Unit 1	授業について。SA に向けての英語・各国文化事情などの勉強について。とくに、『英語リスニング・ハンドブック』の利用しての自習について。/ Intercultural Communication in Today's World
2	Unit 2	English for Intercultural Communication
3	Unit 3	Important Features of Human Communication
4	Unit 4	The Concept of Culture
5	Unit 5	Language and Thought
6	Unit 6/Unit 7	Communication Styles/ Human Psychology and Communication
7	復習	前半：Unit 1～7 の復習・補足 後半：Unit 1～7 の復習試験
8	Unit 8	Speech Acts across Cultures
9	Unit 9	Stereotypes and Intercultural Communication
10	Unit 10	Cultural Accommodation in Intercultural Communication
11	Unit 11	Intercultural Communication in Higher Education
12	Unit 12	Study Abroad and Intercultural Adaptation
13	Unit 13	Intercultural Competence for the Future
14	復習	前半：Unit 8～13 の復習・補足 後半：Unit 8～13 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。最低限、

- (1) 本文を読み、不明点を洗い出す
- (2) 本文の音声（教科書に付属の CD）を用いて、聴解・朗読ができるようにする
- (3) 練習問題を解くことが必要。

付属の CD のナレーションは、アメリカ (Unit 1,5,9,13)、イギリス (Unit 2,6,10)、カナダ (Unit3, 7, 11)、オーストラリア (Unit 4, 8, 12) の4か国のネイティブスピーカーが担当している。授業では繰り返し聴く時間はないので、自習の際に活用し、各 SA 先で使われる英語の違いに親しんだり、自分の SA 先の英語に耳を慣らしたりしてほしい。

【テキスト (教科書)】

Troy McConachy、古家聡、櫻井千佳子共著、『Intercultural Communication for English Language Learners in Japan (英語学習者のための異文化コミュニケーション)』南雲堂。

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各1点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを1点は使用すること。

毎回の授業にも持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクションペーパー、提出物) 30%、および復習試験 (全2回) 70%の成績の総合評価。

4回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

ペア/グループワークを効果的に取り入れ、学生同士で学び合えるようにすることが重要である。

【Outline and objectives】

The aim of English 7 is to further develop students' reading ability in preparation for their SA programs in English-speaking countries. Students will also be introduced to various academic approaches to intercultural communication, thereby conceiving their own ideas about how to communicate with people from different cultures.

LANe200LA

英語 7

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 7

2016 年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
国 2 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界のニュースを題材に、英字新聞の記事を読みます。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようにすることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を簡潔な日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。各適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方と評価の方法の説明をします。
第 2 回	第二言語としての英語 (前半)	英語を第二言語として学習することについての記事の前半の購読およびディスカッション。
第 3 回	第二言語としての英語 (後半)	英語を第二言語として学習することについての記事の後半の購読およびディスカッション。
第 4 回	スマートフォン	スマートフォンの利用について焦点を当てた記事の購読およびディスカッション。
第 5 回	ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの利用について焦点を当てた記事の購読およびディスカッション。
第 6 回	インターネットと個人情報	インターネットでの個人情報の扱いについて焦点を当てた記事の購読およびディスカッション。
第 7 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 8 回	Immigration (歴史)	イギリスの移民の歴史についての記事の購読およびディスカッション。
第 9 回	Immigration (文化)	イギリスの移民がもたらした文化についての記事の購読およびディスカッション。
第 10 回	Immigration (課題)	イギリスの移民によって生じている社会的課題についての記事の購読およびディスカッション。
第 11 回	TPP (自動車市場)	日米の自動車市場に対する考え方の違いについて焦点を当てた記事の購読およびディスカッション。
第 12 回	TPP (非関税障壁)	アメリカ視点での日本の市場の問題点に焦点を当てた記事の購読およびディスカッション。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。文全体の意味がわからなくても、単語の意味を調べることはできます。単語の意味を調べてきていない場合は予習したとはみなしません。英文の内容を自分だけがわかる状態ではなく、他の人にその内容を説明することを忘れずに準備することが重要です。

【テキスト（教科書）】

英字新聞の記事を配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および小テスト（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe200LA

英語 8

2017年度以降入学者

LANe200LA

英語 8

2016年度以前入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 先の授業で必ず出されるのが、「レポートを書く課題」です。この授業では、英語圏における大学のレポート執筆に必要な **paragraph writing, essay writing** の基礎を学び、一学期を通じて一本のレポートを仕上げしていきます。

【到達目標】

・英語圏におけるアカデミックライティングの基本的なルールを理解し、そのルールにのっとった複数のパラグラフからなるエッセイを執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・教科書の課題を中心に、パラグラフ執筆、およびエッセイ作成を少しずつ行っていきます。授業内では、学生相互の課題添削やディスカッションも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業と課題の説明
第2回	Unit 5: Reasoning	理由を説明するパラグラフ作成
第3回	Unit 7: Classification	分類のパラグラフ作成
第4回	Unit 8: Comparison	比較のパラグラフ作成
第5回	Unit 9: Convincing	説得する文章の書き方
第6回	Unit 10: Cause and Effect	原因と結果のパラグラフ作成
第7回	Unit 12: From Paragraph to Essay	エッセイの構成説明
第8回	Outline and introduction	アウトライン、導入部作成
第9回	First paragraph	第一パラグラフ作成
第10回	Second paragraph	第二パラグラフ作成
第11回	Third paragraph	第三パラグラフ作成
第12回	Conclusive paragraph	結論部作成
第13回	学生発表 I	口頭発表 ハンドアウトの作り方
第14回	学生発表 II	口頭発表 質疑応答の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週課題が出ます。次回の授業は、提出した課題に基づいて行われます。授業支援システムに必ず期日までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

・『基礎から始めるパラグラフ・ライティング Working Up to Paragraph Writing』米田みたか、井上幹子、加藤澄恵、Roberto Lamitie. 朝日出版社、2011年。1800円。

【参考書】

・『「英文ライティング」虎の巻 【改訂版】』（授業内で配布）

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加：20%
・毎週の課題：60%
・口頭発表：20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

・授業支援システムへの登録

【その他の重要事項】

・原則として、欠席が4回以上の場合単位取得の資格を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn the basics of paragraph writing and essay writing in English.

LANe200LA

英語 8

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 8

2016 年度以前入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏での SA プログラム参加に向け、必要とされるアカデミック・ライティング能力の養成を行います。

【到達目標】

- ・学術的な論述の構成およびその基本単位となるパラグラフの構造を習得します。
- ・パラグラフ・ライティングで用いられる、さまざまな論述の手法を習得します。
- ・アカデミック・ライティングに相応しい、正式な書き言葉の英語による作文ができるようになります。
- ・調べ物やアウトライン作成、スケジュール管理といった、エッセイ作成に重要な習慣を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書や参考書で述べられている、さまざまなパラグラフ・ライティングのルールや表現を確認しながら、設問を解いていきます。提出課題に向けて、各自調べ物やアウトラインの作成を授業中のアクティビティとして行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	シラバスの説明 連絡・注意事項 虎の巻の解説
2 回	エッセイの基本構造 パラグラフの基本構造	ピラミッド構造の論証 虎の巻 pp.1-6 教科書 Ch.1
3 回	Narration & Process	出来事を語る（時系列的説明） 手続き・手順を説明する 教科書 Ch.2 教科書 Ch.3
4 回	Description	感情・人物・場所の描写（記述） 教科書 Ch.4 教科書 Ch.5 教科書 Ch.6
5 回	Definition	人物や物事を定義する 教科書 Ch.7
6 回	Comparison & Contrast	比較と対照 教科書 Ch.8
7 回	Cause & Effect	原因と結果（因果関係） 教科書 Ch.9
8 回	Problems & Solutions	問題提起と解決策 教科書 Ch.10
9 回	Your Opinion (1)	賛成意見を述べる 教科書 Ch.11
10 回	Your Opinion (2)	反対意見を述べる 教科書 Ch.12
11 回	Data Analysis On Term Essay	データ分析 教科書 Ch.13 期末英文エッセイについて 虎の巻 pp.13-24
12 回	Term Essay (1)	期末英文エッセイについての相談
13 回	Term Essay (2)	エッセイ最終稿提出
14 回	予備・まとめ	やり残したアクティビティの消化 学修内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容にかんしては、すでに予習済みという前提で授業を行いますので、各自十分予習して授業に臨んで下さい（授業参加度の成績評価に関連します）。

ほぼ毎回短めのパラグラフ・ライティングの課題が出されます。必ず締め切り日時までに提出して下さい。テーマ探しや論拠の増強のために各自調べ物をする必要があります。場合によっては期末英文エッセイの作業と並行して行われることにもなるので、スケジュール管理には注意して下さい（提出課題および期末英文エッセイの成績評価に関連します）。

【テキスト（教科書）】

仲谷都・吉原学・Ruth Fallon 『Smart Writing はじめてのパラグラフ・ライティング』（成美堂、2017 年） ISBN 978-4-7919-6032-3 2000 円（税別）

【参考書】

法政大学国際文化学部英語科目改革委員会編 『英文ライティング』虎の巻』を毎回持参して下さい。

辞書（英和または英英、必要ならば和英も）の毎回持参が必須です。

【成績評価の方法と基準】

35% 授業参加度（授業中の受け答えやアクティビティ）

25% 提出課題

40% 期末英文エッセイ

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

期末英文エッセイには（できれば他の提出課題にも）授業支援システムを利用する予定です。授業支援システムを利用できる環境を確保して下さい。

【その他の重要事項】

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得の資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回扱いとします。忘れ物や授業の進行を滞らせる行為など、受講マナー違反は遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。授業開始後 30 分以上経過してからの入室は出席簿上欠席の扱いとします。剽窃に相当する行為や機械翻訳の使用が発覚した場合、関連する成績評価の項目が 0 点扱いもしくは大幅に減点されますので、気をつけましょう。かかる繰り返した場合さらに厳格に対処しますので、注意して下さい。

【Outline and objectives】

This course is for second year students in their final stage of preparation for studying abroad in a an English-speaking country. In particular, this course will focus on academic writing skills.

LANe200LA

英語 8

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 8

2016 年度以前入学者

マーク バーンズ開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The primary objective of this class is to develop both spoken and written communication skills. The course provides practice in conversation, essay writing, and presentation in clear communicative English. Students will engage with a wide range of subjects but communicative activities will be based around the students' own experiences and ambitions.

【到達目標】

This subject aims to improve learners' overall confidence in communicating in English through a wide range of communicative activities. It will review useful grammar and provide ample opportunity to practice both spoken and written language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Students will be expected to participate fully in weekly conversational activities. Students will also be required submit the occasional written assignment and prepare a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of the English 8 subject and explaining rules for participation and assignment submissions.
Unit 1a	Life Experiences 1	Review the use of present perfect and simple past tenses
Unit 1b	Life Experiences 2	Presentations focusing on old hobbies or club activities
Unit 2a	Events 1	Review the use of simple past and past continuous
Unit 2b	Events 2	Writing a 2-paragraph story about how you met a good friend
Unit 3a	Opinions 1	Review the use of too and enough with adjectives and nouns
Unit 3b	Opinions 2	Presentations focusing on suggestions for new rules
Unit 4a	Customs 1	Review the use of it & infinitives and gerunds as subjects
Unit 4b	Customs 2	Writing a 3-paragraph essay on customs
Unit 5a	Professions and skills 1	Review the use of how long, since and for with present perfect tense
Unit 5b	Professions and skills 2	Presentations focusing on your ideal job
Unit 6a	Recent activities 1	Review the use of the present perfect continuous tense
Unit 6b	Recent activities 2	Writing an instructional article
End-term Presentations	Final presentations	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to complete weekly homework (prepare for six short in-class unit review tests, three short presentation practices, and submit three short written assignments in addition to the academic written assignment and final presentation preparation.)

【テキスト（教科書）】

Stretch Multi-pack 3A Susan Stempleski Oxford University Press ISBN 978-0-19-460330-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary and the Hosei English 8 Academic Writing Guide (which will be provided)

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), academic written assignment (30%) and final presentation (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Individual personalised feedback will be provided to each student.

【その他の重要事項】

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

LANe200LA

英語 8

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 8

2016 年度以前入学者

前川 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋セメスターにおける S A 留学の準備のための授業。特に、学生が留学先でのレポート提出にも対応できるような英作文力を身につけ、能動的な英語発進力を涵養することを目指す。

【到達目標】

学生が留学先でレポート提出をおこなうとき、あるいは、日本文化を紹介するとき、適確な英語で表現できるようになることを目指す。また、英語圏の大学で授業を聴く際、最低限要求されるアカデミックな用語の習得も目指す。また、学生は英文レポートの形式も学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず授業の前に、各レッスンの英文を読んできてもらい、その英文に対する英語による質疑応答を行う。そのあと、英文の中に出てくる定型表現を使って、英作文を実践的に学習する。時に、テーマに即した長文の英文を書いてもらうこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本独自の風物の紹介（1）	比較文化論的な視点から、sashimi や sushi など日本特有の食文化を英語でどのように紹介するかを解説する。
2	日本独自の風物の紹介（2）	日本の受験戦争のシステムを「浪人」などの用語を交えながら、どう表現するかを解説する。
3	アメリカ人の考え方	「仕事」というものを例に取り、日本人とアメリカ人の取り組み方の違いを英語でどう表現するかを考える。
4	日本語の特性	D.Keene のエッセイを読みながら、日本語の特性を考え、それを欧米人に英語でどう説明するかを解説する。
5	戦争の歴史	D.Keene のエッセイを読みながら、過去の戦争について、自分の意見を英語で述べる時、どのような表現が可能かを考える。
6	長文英文エッセイの練習（1）	「戦争と平和」のような抽象的な内容のテーマを英語でどう書くかを練習をする。
7	国際会議	国際会議で使う英語定型表現を学習する。
8	日本の国土	日本の国土の大きさや人口をどう表現するかを学習する。
9	スピーチの方法	日本について、各学生に英語でスピーチをしてもらい、そのスピーチに対して、他の学生から英語で質問してもらう。
10	民主主義の基準	「民主主義」という用語を取り上げ、その本質について英語で表現するには、どんな書き方があるかを解説する。
11	長文英文エッセイの練習（2）	自分の日常生活を、英文メールでどう書くかを解説し、実際にそういうメールを書いてもらう。
12	日本文化とアメリカ文化	日本文化とアメリカ文化の差だけでなく、その類似性をも英語でどう表現するかを考える。
13	飲酒に関する東西の議論	アルコール飲料の自動販売機を置くことの可否に関して、英語で debate してもらう。
14	授業内試験	授業内試験終了後、総まとめの解説を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の英文を読み、その内容を把握し、授業の冒頭で英語で行われる質疑応答に対応できるようにしておくこと。また、和文英訳の練習問題もあらかじめ解いておかなければならない。

【テキスト（教科書）】

英語発想による作文演習——新訂版——（天満美智子編者、朝日出版）

【参考書】

『英語変換力検定』（前川裕著、池田書店）

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（70%）、平常点（20%）、レポート課題（10%）。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個人添削の機会を増やすように心がけたい。また、学生の能力に応じてきめの細かい指導を心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help the students acquire the ability to express their ideas and opinions in English in preparation for studying abroad in the autumn semester. The students are expected to study basic paragraph structure with the ultimate purpose of producing an essay with some paragraphs. The students will also have the opportunity to develop their writing skills through reading a variety of English passages and memorizing important words and idioms used in them.

i

LANe200LA

英語 8

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 8

2016 年度以前入学者

マーク バーンズ開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The primary objective of this class is to develop both spoken and written communication skills. The course provides practice in conversation, essay writing, and presentation in clear communicative English. Students will engage with a wide range of subjects but communicative activities will be based around the students' own experiences and ambitions.

【到達目標】

This subject aims to improve learners' overall confidence in communicating in English through a wide range of communicative activities. It will review useful grammar and provide ample opportunity to practice both spoken and written language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Students will be expected to participate fully in weekly conversational activities. Students will also be required submit the occasional written assignment and prepare a presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of the English 8 subject and explaining rules for participation and assignment submissions.
Unit 1a	Life Experiences 1	Review the use of present perfect and simple past tenses
Unit 1b	Life Experiences 2	Presentations focusing on old hobbies or club activities
Unit 2a	Events 1	Review the use of simple past and past continuous
Unit 2b	Events 2	Writing a 2-paragraph story about how you met a good friend
Unit 3a	Opinions 1	Review the use of too and enough with adjectives and nouns
Unit 3b	Opinions 2	Presentations focusing on suggestions for new rules
Unit 4a	Customs 1	Review the use of it & infinitives and gerunds as subjects
Unit 4b	Customs 2	Writing a 3-paragraph essay on customs
Unit 5a	Professions and skills 1	Review the use of how long, since and for with present perfect tense
Unit 5b	Professions and skills 2	Presentations focusing on your ideal job
Unit 6a	Recent activities 1	Review the use of the present perfect continuous tense
Unit 6b	Recent activities 2	Writing an instructional article
End-term presentations	Final presentations	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to complete weekly homework (prepare for six short in-class unit review tests, three short presentation practices, and submit three short written assignments in addition to the academic written assignment and final presentation preparation.)

【テキスト（教科書）】

Stretch Multi-pack 3A Susan Stempleski Oxford University Press ISBN 978-0-19-460330-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary and the Hosei English 8 Academic Writing Guide (which will be provided)

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), academic written assignment (30%) and final presentation (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Individual personalised feedback will be provided to each student.

【その他の重要事項】

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject

LANe200LA

英語 8 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 8 2016 年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

SA 先でのレポートの執筆や発表（発表用の資料の作成）に備え、英語でのアカデミック・ライティングの基本について学習する。授業では、教科書の課題を行いながら各自が1つのテーマを設定してレポートを完成させる。

【到達目標】

- ・アカデミックライティングの基礎を学習する
- ・実現可能なテーマの設定をし、論旨の構築を行う
- ・発表のための資料を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最終的に各自がレポートを執筆し発表することを意識しながら教科書の課題を行います。

レポートの内容および英語での書き方について学生同士で議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	Title of an Essay	タイトルの決定
第 3 回	Introduction of an Essay	イントロダクションの役割
第 4 回	Body of an Essay	ボディの構造
第 5 回	Conclusion of an Essay	コンクルージョンのまとめ方
第 6 回	発表のテーマの設定	各自が発表する内容の大まかなテーマを決めます
第 7 回	Structure of a Research Paper	研究論文の構造
第 8 回	Key Concepts of an Abstract	アブストラクトの重要な特徴
第 9 回	Key Concepts of Presentations	プレゼンテーションとは
第 10 回	Preparing Visual Aids	視覚資料の作成
第 11 回	発表の要旨 (abstract)	発表の要旨を完成させます
第 12 回	発表に向けての準備	発表に用いるスライドまたはハンドアウトの完成を目指します
第 13 回	発表 (前半)	学生による発表 (前半)
第 14 回	発表 (後半)	学生による発表 (後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として教科書の課題を行う必要があります。レポート執筆および発表のために少しずつ作業を進める必要があります。

【テキスト（教科書）】

・3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language
3つの要素で学ぶアカデミック・ライティングの基本、深山晶子/幸重美津子/尾鍋智子/村尾純子/Ashley Moore 著, 金星堂。(¥2,000 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (20%)
課題 (50%)
発表 (30%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。
授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

同一の授業の前年度の担当がなかったためありません。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English writing and for bulding materials for presentation.

LANe200LA

英語 8 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語 8 2016 年度以前入学者

マーク・フィールド

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course is for second year students with a strong desire to improve their language skills since they will be in their final stage of preparation for studying abroad in a an English-speaking country. The course will focus on further developing students' ability to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in their first year of university study, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to developing listening and note taking skills as well as discussion and presentation skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation	How to Study More Effectively
2 回	Listening for Main Ideas	The Meaning of Family
3 回	Critical Thinking	Ranking Importance
4 回	Tips for Success	Giving Reasons and Explanations
5 回	Thinking on Your Feet	Impromptu Speeches
6 回	Listening Skills	Recognizing Facts and Opinions
7 回	Actively Communicating	Participating in Group Discussions
8 回	Tips for Success	Filling in words you didn't hear!
9 回	Thinking on Your Feet	A Persuasive Presentation
10 回	Taking Notes	Listening for Details
11 回	Vocabulary Skills	Collocations
12 回	Critical Thinking	Giving Examples
13 回	Discussion Skills	Role-playing
14 回	Review	Sustainable Progress

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English media independently as a means of increasing their vocabulary and general knowledge.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be assigned by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Project/Paper
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

This course is for second year students with a strong desire to improve their language skills since they will be in their final stage of preparation for studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on further developing students' ability to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者
I

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2016年度以前入学者
I

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国 1～4年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills.

【到達目標】

The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. The course will make use of the TED English programmes to enable students become more effective and proficient in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The level of the material should suit students at a pre-intermediate level.

Students will be able to practice and develop their authentic listening, critical thinking and presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Outline of course, grading criteria and class policies. Access Classroom
2	Unit Introduction and Main Theme	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice
3	Theme Development	Theme Discussions
4	Intensive and Extensive Reading	Theme-related topic study
5	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
6	Unit Introduction and Main Theme	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice
7	Theme Development	Theme Discussions
8	Intensive and Extensive Reading	Theme-related topic study
9	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
10	Unit Introduction and Main Theme	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice
11	Theme Development	Theme Discussions
12	Intensive and Extensive Reading	Theme-related topic study
13	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills Quiz
14	Term Exam	Term Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation; There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

Keynote
Pre-Intermediate (Combo Split B)
by David Bohlke
National Geographic Learning/Cengage

【参考書】

Please bring Japanese/English and English/English Dictionaries. A Thesaurus will also be useful. (Most electronic dictionaries have all three functions).
Apps for smartphones / mobile devices are acceptable.
I use the dictionary function from Wikipedia (EN) and an App called "Imiwa".

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 40%
In Class Worksheets 40%
Participation 20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom” and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

【Outline and objectives】

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2016年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国 1～4年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills.

【到達目標】

The goal of this course is to further enhance students’ oral communication skills. The course will make use of the TED English programmes to enable students become more effective and proficient in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The level of the material should suit students at a pre-intermediate level.

Students will be able to practice and develop their authentic listening, critical thinking and presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction & Review	Review Presentation Techniques; Presentation Practice
2	Unit Introduction and Main Theme	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice
3	Theme Development	Theme Discussions
4	Intensive and Extensive Reading	Theme-related topic study
5	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
6	Unit Introduction and Main Theme	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice
7	Theme Development	Theme Discussions
8	Intensive and Extensive Reading	Theme-related topic study
9	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
10	Unit Introduction and Main Theme	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice
11	Theme Development	Theme Discussions
12	Intensive and Extensive Reading	Theme-related topic study
13	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
14	Review	Consolidation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

Pre-Intermediate (Combo Split B)
by David Bohlke
National Geographic Learning/Cengage

【参考書】

Please bring Japanese/English and English/English Dictionaries. A Thesaurus will also be useful. (Most electronic dictionaries have all three functions).

Apps for smartphones / mobile devices are acceptable.

I use the dictionary function from Wikipedia (EN) and an App called “Imiwa”.

TED.com

【成績評価の方法と基準】

Homework: 40%
In-Class Worksheets: 40%

Participation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom” and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

You will need a device, either smartphone or laptop, to access Classroom

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2016年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営国 1～4年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for students who wish to learn and practice oral communication. Language and fluency focused speaking activities will help prepare students for situations they may encounter in an international environment. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking accuracy and fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 Tell me more	Using longer more complex utterances.
3	Unit 2 Ask me more	Asking follow-up questions.
4	Unit 3 Give me a sign	Showing a speaker that you are listening, verbal cues, and rejoinders.
5	Unit 4 Show me what you mean	Physical actions and gestures.
6	Unit 5 Are you with me?	Agreeing, disagreeing, and giving an opinion.
7	Unit 6 How sure are you?	Expressing assuredness.
	Unit 7 Learning strategies review	All skills from Units 1-6.
8	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
9	Unit 8 In other words	Substituting one word for another.
10	Unit 9 Make it up	Inventing a word to overcome a language gap.
11	Unit 10 Describe it	Circumlocution
12	Unit 11 Describe it	Rephrasing ideas
13	Unit 12 Learning strategies review	All skills from Units 8-12.
14	Final test	Feedback on the course and reflection

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Tell Me More!

English conversation communication strategy

ISBN: 978-4-8958-5510-5

Macmillan Language House

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with opportunities to practice their oral communication through the use of problem-solving speaking activities, discussions on current events, presentations, and meetings.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2016年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営国 1～4年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for students who wish to learn and practice oral communication. Language and fluency focused speaking activities will help prepare students for situations they may encounter in an international environment. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking accuracy and fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 Talking about movies	Telling the outline of movie (Who, Where, When, What, How it ends)
3	Unit 2 My little accident	Talking about bad luck and minor accidents.
4	Unit 3 I was so embarrassed	Describing our feelings about things that have happened.
5	Unit 4 It made me feel so good	Talking about happy events and achievements.
6	Unit 5 That must have been disappointing	Showing interest and responding to other people's stories.
7	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
8	Unit 6 I know what you mean	Making comments while listening / adding a story of your own.
9	Unit 7 The day everything went wrong	Talking about a time when one bad thing happened after another.
10	Unit 8 We used to have so much fun	Talking about your childhood.
11	Unit 9 She's a brave girl, isn't she?	Telling interesting stories about people we know.
12	Unit 10 "Oh, talking about..."	Adding interesting stories to conversation / Explaining words you don't know.
13	Learning strategies review	Units 6-10.
14	Final test	Feedback on the course and reflection.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Tell Me Your Stories
Storytelling in Conversational English
ISBN: 978-4-7773-6249-3
Macmillan Language House

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with opportunities to practice their oral communication through the use of problem-solving speaking activities, discussions on current events, presentations, and meetings.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2016年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法文営国 1～4年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Outline and objectives

The course has these objectives:

1. Enjoy English for meaningful communication.
2. Upgrade high school (or other) English for production (speaking)
3. Learn strategies for better communication.
4. Improve student skills.
5. Achieve a goal of 60%- 70% inter-student English use during the full class period

【到達目標】

The goal of the course is to help motivated English students achieve a lower intermediate level of speaking and listening in English especially for discussion and other academic tasks.

By the end of the course (fall semester) students should be:

1. Able to achieve a n A1 / A2 level on the Common European Frame of Reference (CEFR)
2. Have a simple discussion in English without difficulty

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course uses a communicative method of teaching. Pair and group work are the main methods of learning. Students will do such things as
*Use English most of the time

*Pair work (upgrade basic English skills and strategies)

*Ask and answer various levels of discussion questions

*Practice dictation (sentences from the unit passage)

*Listen to music and do cloze tests (words from famous songs)

-Verify main idea and details of a conversation or listening passage

*Improve grammar and expression: Write answers for discussion questions

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Screening Class	Introductions Outline of the course Test for choosing students if necessary HW: Check the 掲示板外堀?
Lesson 2	Technology	Introductions of instructor and students More about the course Get Textbook (TB) Introduce the textbook and resources Basic English Skill (BES) 0 (zero) North American Greetings and Names HW: None
Lesson 3	Technology	Music Cloze (Introduction) Make Groups Website Registration Info BES 1 Classroom Language Unit 1 Technology I Warm-up Questions - Vocabulary - Listening / Reading HW: Find an interesting technological gadget, prepare a short presentation, use Smartphone for pictures of YouTube for film.

Lesson 4	Technology	Dictation Introduction Introduction to answering questions in writing BES 2 Group Work Language Unit 1 Technology II Further Discussion - Presentation HW: Prepare for dictation, Unit 2 Vocabulary, Unit 1 Practice Test Website	【参考書】 A good dictionary, electronic or Smartphone acceptable Other applications (アプリ) for Smartphone (ongoing uploads)
Lesson 5	Travel	Dictation Unit 1 Technology Unit 1 Practice test BES 3 Introduction - Model of a Conversation BES 3a Basic Sentence Formation Unit 2 Travel I Warm-up Questions - Vocabulary - Listening / Reading HW: Prepare answers for Further Questions	【成績評価の方法と基準】 1. Print File (_____/5) 2. Vocabulary and Practice Test Checks (_____/5) 3. Online Homework (_____/10) 4. Group Presentations or Role Plays (_____/5) 5. Written answers to discussion questions (_____/10) 6. Dictation Final Test (Units 1-4 sentences) (_____/10) 7. Unit 5 Paper Test (_____/20) 8. Discussion Test (_____/25) 9. Bonuses (_____/10) ① File 5 points (_____/1) ② Writing answer to discussion questions (_____/2) ③ Dictation 16/20 or better (_____/2) ④ Unit 5 Paper Test (16 / 20 or better) (_____/2) ⑤ Discussion Test (20/25 or better) (_____/3)
Lesson 6	Travel	Music Cloze BES 4 a + b Yes No Question forms Unit 2 Travel II Further Discussion - Role Play Debate HW: Prepare for Role play debate, Unit 2 Practice Test, Unit 3 Vocabulary Website	10. Adding value: Possibility of raising grade one step Example B to A. Adding value = asking questions in class, using English most of the time, communication with group members about preparation such as homework, perfect attendance, documents necessary when absent from test
Lesson 7	Culture	Dictation Unit 2 Travel Unit 2 Practice Test BES 5 Effective Yes No Answers Best Unit 3 Culture I Warm-up Questions - Vocabulary - Listening / Reading HW: Prepare answers for Further Questions	【学生の意見等からの気づき】 Writing has been eliminated from the syllabus.
Lesson 8	Culture	Music Cloze BES 6 a + b WH Question and Answer Forms Unit 3 Culture II Further Discussion - Presentation HW: Unit 3 Practice Test, Unit 4 Vocabulary Website	【学生が準備すべき機器他】 Textbook, writing instruments, 1 clear file
Lesson 9	Volunteering	Dictation Unit 3 Culture Unit 3 Practice Test BES 7 Answer WH Effectively 10 27 Version Unit 4 Volunteering I Warm-up Questions - Vocabulary - Listening / Reading HW: Prepare answers for Further Discussion	【その他の重要事項】 Students must attend the screening class (Lesson 1). Will review some basic speaking skills in the spring semester but the course can be difficult for low-level students. Start level should be well above zero. Starting level is determined by some of these: *Motivation - specific goal for joining the course, not a selfish goal (convenient day and time) *Experience 2/5 of these: -1 month living abroad or more -regular contact with native English speakers, Example: part-time job, ESS *Proven ability: 英検2級、TOEIC ITP above 450, tried TOEIC, IELTS or TOEFL *Non-native Japanese *大学入試合格
Lesson 10	Volunteering	Music Cloze BES 8 Follow-up questions Unit 4 Volunteering II Further Discussions - Presentation HW: Unit 4 dictation prep, Unit 4 practice test Website	Stylistically there should be spaces after the numbers and periods (1.) the work to be done outside of class section and the Grading criteria sections. Also Grading criteria so detailed that it could be confusing for some people.
Lesson 11	Review and Evaluation Prep	Dictation- Unit 4 Volunteering Unit 4 Practice Test BES 9 Rebound Questions Preparing summaries of Units 1-4 How to prepare for the live test, Unit 5 Preparation for the Discussion Test	
Lesson 12	Review and Evaluation Prep	Dictation Test - All Units BES 10 Reactions and BES 11 Pausing Practice for Discussion Test How to prepare Unit 5 for the Paper Test HW:	
Lesson 13	Evaluation	Final Live Test Unit 5 Group Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up	Course Wrap Up Summer Ideas Organize and check print file	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Prepare for dictation tests
2. Write answers for key discussion questions (4 times for this semester)
3. Online Homework Assignments: 30 minutes to 1 hour per week
4. Groups: Prepare short presentations and role plays. (4 times for this semester) 1 hour preparation outside of class

【テキスト（教科書）】

The textbook will be distributed in class.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション II 2016年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営国 1～4年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The fall course has these objectives:

1. Enjoy English for meaningful communication.
2. Further development of discussion skills from the spring semester -Basic Discussion Skills (BDS) tutorials
3. Improve student skills
4. Greater focus on presentation skills
5. Achieve a goal of 60%- 70% inter-student English use during the full class period

【到達目標】

The goal of the course is to help motivated English students achieve a lower intermediate level of speaking and listening in English especially for discussion and other academic tasks. The equivalent would be TOEFL Speaking 18/30, IELTS Band 5-6, Eiken Level 2 (英検準1級)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course uses a communicative method of teaching. Pair and group work are the main methods of learning. Students will do such things as

- *Use English to communicate with each other
- *Pair work (upgrade basic English discussion skills and strategies)
- *Ask and answer various levels of discussion questions
- *Practice dictation (sentences from the unit passage)
- *Listen to music and do cloze tests (words from famous songs)
- *Verify main idea and details of a conversation or listening passage
- *Improve grammar and expression: Write answers for discussion questions
- *Research textbook topics and make longer presentations

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Preparation for the fall semester	Introduction to fall semester. Intake of new students possibly. Review of Spring Semester BDS 000 Classroom Q and A BDS 1 Into to Discussion BDS 2 - Issues General BDS 3 - Discussion Start Unit 6 Ads and Commercials I- Vocabulary - Warm up questions - Listening and Reading HW: Research and Write Answers to 'Further Questions'
Lesson 2	Ads and Commercials	Warm-up Music Cloze BDS 00 Discussion and Reporting {2} Unit 6 Ads and Commercials II - Further Questions and supplementary activity HW: Take home Unit Paper Test
Lesson 3	Ads and Commercials	Dictation Unit 6 Presentation Posture Unit 7 The News I- Vocabulary - Warm up questions - Listening and Reading HW: Research and Write Answers to 'Further Questions'
Lesson 4	The News	Warm-up Music Cloze Presentation in Groups (Position) Unit 7 The News Commercials II - Further Questions and supplementary activity HW: Take home Unit Paper Test
Lesson 5	The News	

Lesson 6	Study Abroad	Dictation Unit7 Presentation Structure (Sandwich) Unit 8 Study Abroad I cabulary - Warm up questions - Listening and Reading HW: Research and Write Answers to 'Further Questions'
Lesson 7	Study Abroad	Warm-up Music Cloze PowerPoint Presentation Basics Unit Unit 8 II - Further Questions and supplementary activity HW: Take home Unit Paper Test
Lesson 8	Ecotourism	Dictation Unit 8 PPT Words versus visuals versus spoken Unit 9 Ecotourism - cabulary - Warm up questions - Listening and Reading HW: Research and Write Answers to 'Further Questions'
Lesson 9	Ecotourism Presentations	Warm-up Music Cloze Unit 9 Ecotourism II - Further Questions and supplementary activity HW: Take home Unit Paper Test
Lesson 10	Education Presentations	Dictation Unit 9 Unit 10 Education - cabulary - Warm up questions - Listening and Reading HW: Research and Write Answers to 'Further Questions'
Lesson 11	Education Presentations	Warm-up Music Cloze Unit 10 Education II - Further Questions and supplementary activity HW: Take home Unit Paper Test
Lesson 12	The Environment Review Test Prep.	Dictation Unit 10 Unfinished Units, Presentations Prepare for Discussion Test
Lesson 13	Evaluation	Unit 11 Live Paper test Group Discussion Test
Lesson 14	Wrap up	Return of tests After course ideas Print file check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Students must complete online HW when it is assigned. This will be checked after each unit is done. (About 30 minutes per week.)
2. Student groups will have a chance to present a role play, discussion skill, summary or other demonstration of practical English. (For each role play or demonstration about 30 minutes to 1 hour of serious practice is required outside of class.)

【テキスト（教科書）】

The textbook will be the same as the spring semester

【参考書】

Dictionary, electronic or Smartphone OK

【成績評価の方法と基準】

1. Print File (5%)
 2. Group Reports + Q&A (5%)
 3. Online Homework (10%)
 4. HW Answers (textbook and practice tests) (5%)
 5. Speaking Exam Question Preparation (10%)
 6. Longer Presentation (10%)
 7. Unit 11 Paper Test (Independent Preparation) (20%)
 8. Discussion Test (20%)
 9. Bonuses (10%)
 - ① File 5 points (1%)
 - ② Speaking Prep. Average of 80% or (8 or better) (2%)
 - ③ Presentation (better than 8) (2%)
 - ④ Paper Test (16 or better) (2%)
 - ⑤ Discussion Test (16 or better) (3%)
- General Impression - All of these may be considered. (5%)
1. Consistent performance,
 2. Self-initiated study such as the website
 3. Being in attendance for tests or bringing appropriate documents if absent
 4. Independently making copies of prints missed if absent before the next class
 5. Turning in assignments on time
 6. Following instructions for assignments (Example: 'Sandwich Presentation')
 7. Perfect attendance

【学生の意見等からの気づき】

More preparation and training are added (based on 2018 performance)

【学生が準備すべき機器他】

Textbook, writing instruments, dictionary, clear file

【その他の重要事項】

Students must come to the first or second classes. No students will be accepted after that.
Stylistically there should be spaces after the numbers and periods (1.) the work to be done outside of class section and the Grading criteria sections. Also Grading criteria so detailed that it could be confusing for some people.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュ I 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語ビジネス・コミュニケーション I 2016年度以前入学者

ジョン ライリー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国 1～4年/レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

【到達目標】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Explaining the course
2	Nice to meet you	Introducing people
3	Nice to meet you	Introducing people
4	Where do you work?	Describing companies
5	Where do you work?	Describing companies
6	Can I have your name please?	Having telephone conversations
7	Can I have your name please?	Having telephone conversations
8	I'm a sales rep	Describing occupations
9	I'm a sales rep	Describing occupations
10	They work in shifts	Describing time and schedules
11	They work in shifts	Describing time and schedules
12	How's business?	Making small talk
13	How's business?	Making small talk
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 1 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:
Coursework (Attendance, class participation, homework, quizzes, etc.): 50%
Student Pair Speaking Examination: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback would be helpful.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

None.

【Outline and objectives】

Gaining insights into these practices will increase their knowledge and expand their worldview.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語ビジネス・コミュニケーションⅡ
ジョン ライリー 2016年度以前入学者開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国 1～4年/レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

【到達目標】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business. Class activities will include pair work, group work and discussions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Explaining the course
2	How many employees are there?	Working with large numbers
3	How many employees are there?	Working with large numbers
4	It was a long day	Describing past work
5	It was a long day	Describing past work
6	Can you send me that file?	Explaining procedures
7	Can you send me that file?	Explaining procedures
8	It's in the filing cabinet	Describing location
9	It's in the filing cabinet	Describing location
10	This is good! What is it?	Describing food
11	This is good! What is it?	Describing food
12	She's going to give a presentation	Describing future plans
13	She's going to give a presentation	Describing future plans
14	Student Pair Speaking Examination	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 1 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Coursework (Attendance, class participation, homework, quizzes, etc.): 50%

Student Pair Speaking Examination: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback would be helpful.

【Outline and objectives】

Gaining insights into these practices will increase their knowledge and expand their worldview.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
I

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国 1～4年/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course hopes to have students reading and learning to use vocabulary at progressively higher levels.

【到達目標】

Read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Present basic goals of course with examples.
2	Sustainable communities	Keeping the social peace
3	Sustainable communities	Social peace
4	Dilemmas for a responsible tourist I	Tourists and value they bring to societies
5	Dilemmas for a responsible tourist II	New trends of tourism
6	Protecting our cultural heritage I	Protecting our cultural artifacts
7	Protecting our cultural heritage II	Looking at historical buildings and the events they show
8	No more bananas	Engineered food and possible consequences
9	No more bananas	Scientists develop strains and their goals
10	Blowing whistles I	Corruption and its problems
11	Blowing whistles II	Witness to government waste
12	Breaking the law I	Bad laws
13	Breaking the law II	Well meaning laws
14	Summary	Taking a look at useful words learned

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some reading and vocabulary review

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido
ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 50%
Homework 25%
Quizzes 25%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, smartphone or PC

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者 II

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course hopes to have students reading and learning to use vocabulary at progressively higher levels.

【到達目標】

Read and learn 5-10 new vocabulary items per class

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and roleplays based on new vocabulary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Goodbye Maldives I	Rising oceans	How do we combat global climate change?
Goodbye Maldives II	Rising seas	Positives and negatives of climate change
Economic inequality I	Poverty and its effects on society	Look at how inequalities affect our lives
Economic inequality II	Poverty and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce poverty
Presentation skills I	Covering aspects of structure and use of voice	Practicing presentation skills needed for the introduction, body, and conclusion
War on Sugar I	Looking at health aspects affected by sugar	Diet, and balancing of other health aspects is explored
War on Sugar II	Debate sugar effects	Look at diabetes and other health related problems
Presentation skills II	Covering slide improvements and gestures	Show and discuss slide enhancements.
Closing the loop	Handling waste removal	Discuss sanitation removal and various ways to reduce waste
Presentation I	Presentations	Presentations on course theme climate change
Presentation II	Presentations	Presentations on course theme economic inequalities
Presentation III	Presentations	Presentations on course theme war on sugar
Summary review	course themes	Discuss course related themes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare presentation material and review vocabulary lists.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter- Kinseido
ISBN 978-4-7647-4061-7

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 50%
Homework 25%
Quizzes 25%

【学生の意見等からの気づき】

Require more use of English by students

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, writing instrument

【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017 年度以降入学者
I

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営国 1～4 年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge.

【到達目標】

1. Understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. Summarize a magazine article and give an opinion of it.
3. Understand the gist and details of short articles they read.
4. Improve their reading speed.
5. Increase their vocabulary through reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
5	Quiz on Unit 1-2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
6	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
7	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
8	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Quiz on Unit 3-4 Start Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion

13	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
14	Final Exam on units 1-6	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Study vocabulary on Quizlet and read articles.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 2 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】

Book and Quizlet should be studied.

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams

25% writing exercises using new words

25% effort and participation

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【Outline and objectives】

Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017 年度以降入学者
II

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

法文営国 1～4 年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge.

【到達目標】

1. Understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. Summarize a magazine article and give an opinion of it.
3. Understand the gist and details of short articles they read.
4. Improve their reading speed.
5. Increase their vocabulary through reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
5	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
6	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
7	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
8	Midterm Exam	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion

11	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 12	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 13	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
14	Final Exam	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
none

【テキスト（教科書）】
Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 2 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】
Quizlet

【成績評価の方法と基準】
50% quizzes and exams
25% writing exercises using new words
25% effort and participation

【学生の意見等からの気づき】
No feedback

【Outline and objectives】
Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語アカデミック・ライティング I 2016年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国 1～4年/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Academic I is part 1 of a two-part course. Some of the objectives of the this part of the course are:

1. Increase academic vocabulary
2. Increase keyboarding skills
3. Improve word processing skills
4. Learn to paraphrase effectively
5. Learn to summarize
6. Write a paragraph
7. Write an independent essay suitable for IELTS or TOEFL or any other writing purpose.

【到達目標】

Some goals for the spring semester:

1. Develop skills necessary for good academic writing. (See outline and objectives for a list.)
2. Understand the importance of the paragraph and where it fits into academic writing.
3. Understand different kinds of paragraphs for essays:
 - a. Introduction paragraph
 - b. Body paragraph of a TOEFL or IELTS independent essay
 - c. Conclusion paragraph
4. Understand the purpose and structure of the independent essay for IELTS, TOEFL, Eiken (1級 200-240 words) or TOEIC Writing and Speaking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course is a straightforward system of learning about the tests and questions types, and analyzing various kinds of answers for structure and content. Then, I will introduce strategies about how to write that type of answer.

In addition, we will have keyboarding practice, weekly vocabulary assignments, and several grammar and sentence structure assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Short introduction to the course I	Example activities Writing Sample Students think about whether this is the right course for them.
Lesson 2	Introduction to the course II	Introduction to the Instructor Student Introductions Introduction to Keyboarding (KB) KB Diagnostic Test (Try a Test!) Introduction to the (AWL) and Academic Words in Use 1 Paraphrasing
Lesson 3	Grammar Paraphrasing	AWL SL1 Gr1 KB Module 1A Paraphrasing Title - topic - topic sentence
Lesson 4	Grammar Paraphrasing Applications	AWL SL1 Gr2 KB Module 1B Paragraphs and Essays paraphrasing
Lesson 5	Grammar Paraphrasing Evaluation	AWL SL1 Gr3 KB Module 2A 1 Paraphrasing Test
Lesson 6	Paragraphs	AWL SL 1 Gr4 KB Module 2A 2 MS Word Format Topic - Title - Topic sentence Pre-writing

Lesson 7	Paragraphs	AWL SL1 Gr5 KB Module 2B 1 Paragraph Outline
Lesson 8	Paragraphs	AWL SL1 Gr6 KB Module 2B 2 Write the paragraph
Lesson 9	Independent Essay	AWL SL2 Gr1 KB Module 3A 1 Introduction Paragraph and Thesis Sentence
Lesson 10	Independent Essay	AWL SL2 Gr2 KB Module 3A 2 Thesis Sentences Coherence (Essay logic and understandability) Pre-writing
Lesson 11	Independent Essay	AWL SL2 Gr3 KB Module 3B 1 Body and body paragraphs Conclusion Topic sentences Cohesion -Transitions, sequencers Outline
Lesson 12	Independent Essay	AWL SL2 Gr4 KB Module 3B 2 Write the independent essay
Lesson 13	Evaluation	AWL Final Test Keyboarding Exit Test
Lesson 14	Course Wrap Up	Getting tests and assignments back Summer work Print File(s) Check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Academic Word List (30 - 45 minutes per week)
2. Keyboarding (10 - 15 minutes per day)
3. Paragraph including pre-writing, outline, and final paragraph (4-6 hours over the semester)
4. Essay including pre-writing, outline, and final paragraph (8-10 hours over the semester)
5. Other assignments (?????)

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course.

【参考書】

I recommend a good electronic dictionary with E-J, J-E, and at least one good E-E dictionary loaded plus a pronunciation feature. These are various URLs that will be used or referred to in this course.
Main Website for TOEIC ®: <http://www.toeic.or.jp/>
Main Website for IELTS: http://www.ielts.org/test_takers_information/what_is_ielts/test_format.aspx
Eiken 1 級 Essays <https://www.cel-eigo.com/contents/essay/1706.html>
Academic Word List: <http://www.englishvocabularyexercises.com/>
Online Typing Test: <http://www.typingtest.com/>

【成績評価の方法と基準】

1. Participation (20 points) Proof of academic attitudes
 - a. Being really present in class by paying attention, asking questions
 - b. Cooperation with teacher by recognizing and answering a variety of different types of questions.
 - c. Following instructions
 - d. Communicating and cooperating with other students
2. Organization - Print file(s) (10 points)
3. Keyboarding (10)
4. Paraphrasing and other assignments handed in (5 points)
5. AWL Test (20 points)
6. Paragraph(s), Essay including pre-writing and outline assignments (35 points)

【学生の意見等からの気づき】

According to in-class comments from 2017, writing for proficiency tests was the main reason to be in this course. However, lessons learned in this course can be carried over to other writing activities later in your university life.

【学生が準備すべき機器他】

Dictionary EJ / JE / EE, I will recommend various smartphone apps in class

【その他の重要事項】

*Students must have good speaking and listening skills.
**Some students may want to try the IELTS or TOEFL test in 2018. If you plan to take the test after summer 2018, I will help you design your own independent study program. I will check the anything you want to write.
***Students who are taking either of these tests in the spring semester will not be allowed this extra service. TOEFL and IELTS take long-term planning, especially the writing parts. I will not check work that isn't part of such a plan.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語アカデミック・ライティング II 2016 年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国 1~4 年/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objectives for the fall are:

1. AWL Sbulist 2, Gr. 5, 6 and Sublist 3 Gr. 1-6 Sublist 4 Gr. 1,2
2. Increase keyboarding speed to 35 wpm 95% accuracy (or your goal)
3. Review the independent essay and write one
4. Notetaking (TOEFL Integrated Question skill), paraphrasing, summarizing
5. Skimming, Scanning and other reading skills
6. Write 2 IELTS Task 1 Essays
7. Write 2 TOEFL Integrated Tasks

【到達目標】

This course is a continuation of Academic I in the spring semester. The fall course aims to:

1. Build skills necessary IELTS Task 1 and TOEFL Integrated type proficiency tests.
 - a. paraphrasing
 - b. summarizing
 - c. skimming / scanning
 - d. essay structure
 - e. test strategy
2. Build academic vocabulary skills
3. Build keyboarding and word processing skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The method of the course and course description are similar to the spring semester. Students should refer to the spring semester syllabus. Different features in the fall are students will be expected to:

1. ...write more.
2. ...rewrite following advice in my feedback.
3. ...peer edit other student work.
4. ...manage parts of the class such as homework checks

For students who were eligible in the spring, I will continue to help prepare for particular tests. I will check and give feedback on whatever you write.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the fall semester	Short introduction to the second part of the course. Warm-up - Review of Independent Essay
Lesson 2	Independent Essays	AWL SL 2 Gr 5 KB Module 4A 1 Review Independent essay, rewrite perhaps
Lesson 3	Skills IELTS Task 1	AWL SL 2 Gr 6 KB Module 4A 2 IELTS Task 1 - Summarize graphs, charts, diagrams etc.
Lesson 4	Skills IELTS Task 1	AWL SL 3 Gr 1 KB Module 4B IELTS Task 1 - Write the introduction paragraph using a paraphrase
Lesson 5	Skills IELTS Task 1	AWL SL 3 Gr 2 KB Module 5A 1 IELTS Task 1 - Summarize the data and write a conclusion

Lesson 6	Skills IELTS Task 1	AWL SL 3 Gr 3 Mid-semester mini-test KB Module 5A 2 IELTS Task 1 - Write the untimed IELTS Task 1 essay
Lesson 7	Skills IELTS Task 1	AWL SL 3 Gr 4 KB Module 5B 1 Return of untimed Task 1 and analysis Write a timed IELTS Task 1 Essay
Lesson 8	Skills TOEFL Integrated Task	AWL SL3 Gr 5 KB Module 5B 2 TOEFL Integrated Reading strategies Making notes
Lesson 9	Skills TOEFL Integrated Task	AWL SL3 Gr 6 KB Module 5C 1 TOEFL Integrated Listening strategies Making notes
Lesson 10	Skills TOEFL Integrated Task	AWL SL 4 Gr 1 KB Module 5C 2 TOEFL Integrated Essay necessary paragraphs and essay structure Thesis sentence types
Lesson 11	Skills TOEFL Integrated Task	AWL SL4 Gr 2 Paragraphs for TOEFL Integrated Essay Structure
Lesson 12	Skills TOEFL Integrated Task	AWL Final Test Keyboarding Final Test Write an untimed TOEFL Integrated essay
Lesson 13	Skills TOEFL Integrated Task	Get untimed TOEFL Integrated essay back, analysis Write the timed TOEFL Integrated Essay
Lesson 14	Wrap up class	Get assignments and tests back Continuing education in writing ideas File checks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should refer to the spring semester syllabus for URLs to several websites that we use in this course.

In addition, the TOEFL Tips handbook is a useful place to start for students new to this type of testing. (See p. 24 for the writing tasks.)
URL = http://www.ets.org/Media/Tests/TOEFL/pdf/TOEFL_Tips.pdf

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course.

【参考書】

Students should refer to the spring semester syllabus for information about electronic dictionaries and other references.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on the following:

1. Participation (See spring semester syllabus) (10 points)
2. AWL (Mid-semester and Final 25 points)
3. Keyboarding (5 points)
4. Other assignments such as notes or summaries (10 points)
5. One review independent essay (timed) (5 points)
6. One IELTS Task 1 essay not timed (10 points)
7. One IELTS Task 2 essay in class (15 points)
8. One TOEFL Integrated Essay not timed (10 points)
9. One TOEFL Integrated Essay timed (15 points)

【学生の意見等からの気づき】

I don't think anything needs to be changed. Fall semester students in 2018 were motivated and realized the course could help them to achieve their goals.

【その他の重要事項】

Academic Writing (Level 4) is a progressive course and new students in the fall semester should be at the level of students continuing in the course. Please consider your current grammar and vocabulary skills, your keyboarding speed and accuracy, and your current level of writing. Students who are not at the right level should not join the course.

LANe200LA

English Academic Writing I

2017年度以降入学者

LANe200LA

英語アカデミック・ライティング I

2016年度以前入学者

マーク バーンズ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with social and creative writing. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing I subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 1a	Writing a paragraph about me	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write expository paragraphs and topic sentences
Unit 1b	Analysis of written assignment 1	Reading and selecting best paper. Focusing on paragraph format
Unit 2a	Writing a paragraph about another student's possible career	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write logical conclusions
Unit 2b	Analysis of written assignment 2	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of conjunctions
Unit 3a	Writing a paragraph about your partner's future success	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to support topic sentences with facts and examples
Unit 3b	Analysis of written assignment 3	Reading and selecting best paper. Focusing on direct and indirect speech
Unit 4a	Writing a paragraph about an invention	preparation, brainstorming main ideas, how to write definition paragraphs and attention getters
Unit 4b	Analysis of written assignment 4	Reading and selecting best paper. Focusing on avoiding repetition
Unit 5a	Writing a paragraph about an important event in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write cause-and-effect and introductory paragraphs
Unit 5b	Analysis of written assignment 5	Reading and selecting best paper. Focusing on cause-and-effect words
Unit 6a	Writing a paragraph about an exciting destination	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write process paragraphs and make suggestions
Unit 6b	Analysis of written assignment 6	Reading and selecting best paper. Focusing on using modifiers

End-term assignment feedback Final assignment feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano
Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Individual personalised feedback will be provided to each student.

【その他の重要事項】

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject

LANe200LA

English Academic Writing II 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語アカデミック・ライティング II 2016 年度以前入学者

マーク バーンズ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国 1～4 年/レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with social and creative writing. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing II subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 7a	Writing a research report about your classmates	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write classification and concluding paragraphs
Unit 7b	Analysis of written assignment 7	Reading and selecting best paper. Focusing on punctuation
Unit 8a	Writing an article about good and bad interview techniques	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write comparison and contrast paragraphs
Unit 8b	Analysis of written assignment 8	Reading and selecting best paper. Focusing on giving advice
Unit 9a	Writing a letter to your future self about your goals	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write persuasive paragraphs
Unit 9b	Analysis of written assignment 9	Reading and selecting best paper. Focusing on parallel construction
Unit 10a	Writing a composition about your own dorm design	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write division paragraphs
Unit 10b	Analysis of written assignment 10	Reading and selecting best paper. Focusing on articles
Unit 11a	Writing a composition about an important person in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to link paragraphs
Unit 11b	Analysis of written assignment 11	Reading and selecting best paper. Focusing on subject-verb agreement
Unit 12a	Writing a newspaper article	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write in objective, persuasive or entertaining styles
Unit 12b	Analysis of written assignment 12	Reading and selecting best paper. Focusing on verb variety
End-term assignment	Final assignment	Analysis of end-term assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano
Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Individual personalised feedback will be provided to each student.

【その他の重要事項】

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject

LANe200LA

English Academic Writing I 2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語アカデミック・ライティング I 2016 年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国 1～4 年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

【到達目標】

The student will be able to prepare an Essay in a format acceptable for academic publication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development, organization, essay writing, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing	Six Steps of Academic Writing. Using outlines
3.	Getting ready	Choosing a Topic Brainstorming Editing
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence
5.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example
6.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing
7.	Descriptive Writing	Using Adjectives:describing people and places
8.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors
9.	Organising ideas	Keeping ideas connected and in order
10.	Opinion Paragraphs	Introduce opinion v.s. fact, opinion paragraphs discussion, homework
11.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion
12.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review
13.	Using CausalAdverbs	Describing cause and effect ideas
14.	Presentation	Present your paragraphs to your peers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 (or 4) short Homework assignments

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

Worksheet Assignments: 30%

Participation: 20%

Presentation:20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device with a Word Processing capability.
Access to a Cloud computing service will be useful

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number. Please download Google Classroom to your device before our first class. Course code is: vhnqu2

【Outline and objectives】

Students will learn the structure of academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語アカデミック・ライティング II 2016年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. The final document will be a document format for an academic essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development, organization, essay writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Comparing Paragraphs	Structures to compare similar ideas
3.	Contrasting Paragraphs	Structures to contrast dissimilar ideas
4.	Block Organization vs Point-by Point Organization	Different ways to present similar / contrasting ideas
5.	Advantages / Disadvantages	Making arguments for and against proposals
6.	Conditional Statements	Grammar Review
7.	Problem / Solution Paragraphs	Linking problems with solutions
8.	Problem / Solution paragraphs	Review
9.	Writing Essays	Thesis statements
10.	Writing Essays	Writing thesis statements
11.	Outlining Essays	Using the software to create and outline structure.
12.	Outline development	Filling in the details
13.	Developing the Introduction and conclusion	The introduction to thesis statement. Linking the Conclusion to the thesis
14.	Presentation	Present your Essay to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 or more short Homework assignments will be set.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays from Paragraph to Essay" by D.E. Zemach and Lisa A Ghuldu, MACMILLIAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework assignments: 30%

Classroom Worksheets: 30%

Group Participation:20%

Presentation:20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device that supports a word processing application e.g. Microsoft Word, Apple Pages or Google Docs. Access to Cloud computing will also help. Students may use voice recognition software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom” and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

【Outline and objectives】

Students will learn the structure of academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国 1～4 年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（前半）	記事を講読します。
第3回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（後半）	記事を講読します。
第4回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第5回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第6回	地撮り投稿を考える（前半）	記事を講読します。
第7回	地撮り投稿を考える（後半）	記事を講読します。
第8回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第9回	デジタルデトックスのヒント（前半）	記事を講読します。
第10回	デジタルデトックスのヒント（後半）	記事を講読します。
第11回	中国発：一人っ子政策、その後（前半）	記事を講読します。
第12回	中国発：一人っ子政策、その後（後半）	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の子習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女 / Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社. (¥ 2100 円 + 税)

・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ
TOEIC®テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂. (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題 (30%)、中間テストおよび期末テスト (70%) の配分で評価する。

欠席回数が増え 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくくことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国 1~4 年/レベル 2,3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2~3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	エアコンの寒さに耐える夏 (前半)	記事を講読します。
第 3 回	エアコンの寒さに耐える夏 (後半)	記事を講読します。
第 4 回	ソーダに受難の時代到来 (前半)	記事を講読します。
第 5 回	ソーダに受難の時代到来 (後半)	記事を講読します。
第 6 回	節水対策は互いの監視から (前半)	記事を講読します。
第 7 回	節水対策は互いの監視から (後半)	記事を講読します。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 9 回	善意で始まるペア型腎臓移植 (前半)	記事を講読します。
第 10 回	善意で始まるペア型腎臓移植 (後半)	記事を講読します。
第 11 回	中国発：英語？ フランス語？ ブランド名は意味不明 (前半)	記事を講読します。
第 12 回	中国発：英語？ フランス語？ ブランド名は意味不明 (後半)	記事を講読します。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS
Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女 / Keith Wesley
ADAMS 編注, 英宝社. (¥ 2100 円+税)
・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ
TOEIC®テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂. (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題 (30%)、中間テストおよび期末テスト (70%) の配分で評価する。

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

菊池 かおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法文営国 1~4 年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において重要なトピックについての文章を読み解き、論理的思考に基づいた自分の意見を英語で表現する方法を学びます。多くの英単語や文法を学んだとしても、実際にそれらが活用できなければ知識が無駄になってしまいます。そのため授業では、パラグラフ・リーディングやグループ・プレゼンテーションなどを通して、論理的思考能力と英語の運用能力を磨きます。

【到達目標】

議論の大意を素早く把握するためのリーディングスキルとリスニングスキルの強化、そして自分の意見を論理的に述べるために必要なライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には TED Talks を取り扱ったテキストに沿って授業を進めていく。また授業では、ライティングやグループ・プレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容や成績評価などの説明をする
2	Life Changes 1	The Power of Change
3	Life Changes 2	Try something New for 30 Days
4	Team Power 1	The Marshmallow Challenge
5	Team Power 2	Build a Tower, Build a Team
6	Preparation for Group Presentation	Strong Introduction and Conclusion
7	Ocean Wonders 1	Message from the Sea
8	Ocean Wonders 2	Underwater Astonishments
9	Group Presentation	Group Presentation
10	What We Wear 1	The Science of Style
11	What We Wear 2	Wearing Nothing New
12	Moments and Memories 1	Preserving the Past
13	Moments and Memories 2	One Second Every Day
14	期末試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に指示された課題と復習

【テキスト（教科書）】

教科書名：21st Century Reading 1
著者：Robin Longshaw and Laurie Blass
出版社：Cengage Learnig
出版年：2015年

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%、グループ・プレゼンテーション 20%、期末試験 40%
欠席が 4 回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ペア/グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境づくりに努めます。

【Outline and objectives】

This is a content based course designed to help students improve their academic English skills as well as their critical and logical thinking skills. Students will practice paragraph development and organization of academic writing.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

菊池 かおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法文営国 1~4年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において重要なトピックについての文章を読み解き、論理的思考に基づいた自分の意見を英語で表現する方法を学びます。多くの英単語や文法を学んだとしても、実際にそれらが活用できなければ知識が無駄になってしまいます。そのため授業では、パラグラフ・リーディングやグループ・プレゼンテーションなどを通して、論理的思考能力と英語の運用能力を磨きます。

【到達目標】

議論の大意を素早く把握するためのリーディングスキルとリスニングスキルの強化、そして自分の意見を論理的に述べるために必要なライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的にはTED Talksを取り扱ったテキストに沿って授業を進めていく。また授業では、ライティングやグループ・プレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容や成績評価などの説明をする
2	Building Solutions 1	Living Spaces
3	Building Solutions 2	Ingenious Homes in Unexpected Places
4	Roads to Fame 1	Going Viral
5	Roads to Fame 2	Why Videos Go Viral
6	Preparation for Group Presentation	Problems and Solutions
7	Face Off 1	Lions Killed Near Nairobi
8	Face Off 2	My Invention that Made Peace with Lions
9	Group Presentation	Group Presentation
10	Community Voices 1	Art in the Community
11	Community Voices 2	Before I Die, I Want to ...
12	Robots and Us 1	Robots Like Us
13	Robots and Us 2	The Rise of Personal Robots
14	期末試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に指示された課題と復習

【テキスト（教科書）】

教科書名：21st Century Reading 1
 著者：Robin Longshaw and Laurie Blass
 出版社：Cengage Learnig
 出版年：2015年

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%、グループ・プレゼンテーション20%、期末試験40%
 欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ペア/グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境づくりに努めます。

【Outline and objectives】

This is a content based course designed to help students improve their academic English skills as well as their critical and logical thinking skills. Students will practice paragraph development and organization of academic writing.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅰ 2017年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 法文営国 1~4年/レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文法・語彙・熟語の面で対応できるようにする

・文法の知識をフル活用し、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする

・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する

・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める（最重要）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。秋学期のみの受講を希望する者も、この回で人数確認（あるいは選抜）を行ないますので、必ず出席して下さい。パキスタンで学校危機
2	Unit 2 (1)	The crisis in Pakistan's schools
3	Unit 2 (2)	(前回の続き) English as the medium of instruction (and its consequences)
4	Unit 3 (1)	幸福になるよりも「幸福になる方法」の講義を受ける方が簡単か？ 学生殺戮 Easier Taught than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness
5	Unit 3 (2)	(前回の続き) The fewer requirements, the better!
6	Unit 4 (1)	「米国第一」経済の問題点 The Case for 'America First' Economics

7	Unit 4 (2)	(前回の続き) Trump: The Un-American President
8	Unit 5 (1)	銃規制の実行を求めて数千人が教室から街頭行進へ Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control
9	Unit 5 (2)	(前回の続き) What is the N.R.A.?
10	Unit 6 (1)	収拾が付かない多言語国家 言語問題で北アイルランドが分裂 A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over Language issue divides Northern Ireland
11	Unit 6 (2)	(前回の続き) Culture War Over Beloved Dish Grips Quebec
12	Unit 8 (1)	チートスの激辛味が食べられずに魚ばかりで喪失感を味わう Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost
13	Unit 8 (2)	(前回の続き) Food culture among refugees
14	筆記試験 (期末)	単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。 授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをのぞく、筆記試験の問題だけをのぞく、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさからずこまめに辞書を引かなければいけません。
- ・代名詞が出てきた際に、文中の何(もしくは誰)を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずですよ。
- もし自分に馴染みのないテーマ(人物、国や地域、スポーツの種目など)を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト (教科書)】

高橋優身(他)、『15 Selected Units of English through the News Media — 2019 Edition — (15章版: ニュースメディアの英語— 演習と解説 2019年度版—)』、朝日出版社、2019年、1200円(税別)

辞書(英和もしくは英英)の持参が必須です。授業中に使用可能なのは紙媒体もしくは専用装置型の辞書のみです(アプリ、WEB辞書は不可)。

【参考書】

(皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく)実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』(研究社)です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。(電子辞書にせよ紙媒体にせよ)英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary** と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ(初回授業時に説明)を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

初回授業(イントロダクション)には春学期の受講希望者の人数確認を(場合によっては選抜も)行ないますので、必ず出席して下さい。

秋学期のみの受講を希望する学生も、初回授業(イントロダクション)に出席して説明を受けること。希望者の人数を確認して、場合によっては選抜を行ないます。

秋学期のみ受講する学生は、春学期のうちに教科書を購入しておいて下さい。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day. Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国 1～4年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面に対応できるようにする
- ・文法の知識をフル活用し、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
- ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
- ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める（最重要）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の受講者に対する諸事項の確認 春学期の筆記試験（期末）にかかる総評 出・欠席にカウントされます。必ず出席して下さい。 サウジアラビアで規制緩和 Saudi Arabia lightens up (前回の続き)
2	Unit 10 (1)	The Prince and the Saudi economy ビットコインがキャンパスに Bitcoin comes to campus (前回の続き)
3	Unit 10 (2)	Weak measures led to NEM hack ロヒンギャの若者には今も恐怖が Horror still await young Rohingya (前回の続き)
4	Unit 11 (1)	Rohingya find nowhere left to turn サッカーの元スター選手がリベリアの 正当な新大統領に Liberia Hails New President: A Soccer Star, Duly Elected (前回の続き)
5	Unit 11 (2)	Poverty and corruption (and civil wars)
6	Unit 12 (1)	
7	Unit 12 (2)	
8	Unit 13 (1)	
9	Unit 13 (2)	

10	Unit 14 (1)	イスラム教についてのドイツのやり方は間違い The wrong way for Germany to debate Islam (前回の続き)
11	Unit 14 (2)	Religion and civil society 紛争でヨーロッパの時計が遅れている Dispute slows Europe's clocks (前回の続き)
12	Unit 15 (1)	
13	Unit 15 (2)	Balkan states and power systems in Europe 単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。 授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。
14	筆記試験（期末）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをのぞく、筆記試験の問題だけをのぞく、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
- ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分では本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
- ・段落全体を見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずですよ。
- ・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2019 Edition —（15章版：ニュースメディアの英語— 演習と解説 2019年度版—）』、朝日出版社、2019年、1200円（税別）
辞書（英和もしくは英英）の持参が必須です。授業中に使用可能なのは紙媒体もしくは専用装置型の辞書のみです（アプリ、WEB辞書は不可）。

【参考書】

（学習者の習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の方は、参考にして下さい。アプリもあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summaryと記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day. Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I 2017 年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国 1～4 年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的な技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

BBC, Newsweek, The Times を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1 パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習しておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選択必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + BBC のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読
3	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + BBC のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読
4	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + BBC のアジアあるいは中東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + BBC のアジアあるいは中東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の序論部講読
7	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の本論前半部講読
8	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の本論後半部講読

9	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の結論部講読
10	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Times のイギリスに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Times のイギリスに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Times のイギリスに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Times のイギリスに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（70 %）と平常点（30 %）とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週 30 分未満の割合が平均に比べ高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中あてた際一人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働きかけを心掛けたと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営国 1～4年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的リスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Newsweek, The Guardian, The New York Times を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習しておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	リスニング演習+記事1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読
3	リスニング演習+記事1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読
4	リスニング演習+記事1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習+記事1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習+記事2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The Guardian のイギリスに関する記事の序論部講読
7	リスニング演習+記事2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The Guardian のイギリスに関する記事の本論前半部講読
8	リスニング演習+記事2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The Guardian のイギリスに関する記事の本論後半部講読

9	リスニング演習+記事2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The Guardian のイギリスに関する記事の結論部講読
10	リスニング演習+記事3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The New York Times のアメリカに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習+記事3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The New York Times のアメリカに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習+記事3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The New York Times のアメリカに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習+記事3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習+ The New York Times のアメリカに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（70%）と平常点（30%）とから総合的に評価する。欠席が4回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は3回に達するごとに1回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週30分未満の割合が平均に比べ高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中であつた際一人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働きかけを心掛けたと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営国 1~4 年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Japan Times, New York Times, The Daily Telegraph などからの英字新聞記事をまとめたテキストを使用し、国内外の幅広い分野に関する記事を読んで視野をひろめつつ英語表現について学習する。英語の語彙力、読解力をつけるとともに、読んだ記事の要点を捉え、更に自己の考えを英語で簡潔に表現できるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英字新聞を読む上で必要な語彙力、基礎知識を得ること
- ・英文の構文を意識し、文章の意味を正確に理解すること
- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな新聞記事を英語で理解し、英語で要約できるようにすること
- ・新聞記事読解を通して視野を広げ、物事に関して自分なりの見解を持つようになること
- ・読解した記事についての自分の考えを英語で表現すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

重要語彙、表現、そして記事を読む上での基礎知識を確認してから、英字新聞記事を読解する。音読 CD を聴き、理解の度合いを確認した後、更に内容については、選択問題や正誤問題、要約などを通して確認する。3 Unit ごとに小テストを行い、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業の進め方についての説明 自己紹介 目標の確認
第 2 週	Unit 1: Japan's demographic sweet spot	重要語彙の確認 読解 要約 記事についての考察
第 3 週	Unit 2: The Crisis in Pakistan's schools	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 4 週	Unit 3: Showing Spine to the Censors, a Bookstore Flourishes	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 5 週	Review Unit1~3	Review test/ これまで読んだ記事の一つ選んで自分の考えを述べる
第 6 週	Unit 4: Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Calss Tackles Happiness	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 7 週	Unit 5: The Case for 'America First' Economics	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 8 週	Unit 6: New pride in Paraguay's native language	重要語彙の確認 読解 要約 考察

第 9 週	Review Unit4~6	Review test/ Unit4~6 で読んだ記事から一つ選んで自分の考えを述べる
第 10 週	Unit 7: Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 11 週	Unit 8: Sumo gender controversy flares anew	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 12 週	Unit 9: How to Make A.I. Human-Friendly	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 13 週	Review Unit7~9	Review test/ Unit7~9 で読んだ記事から一つ選んで自分の考えを述べる
第 14 週	期末試験	前期に取り上げた記事に関する問題を 出題し、理解を確認する。内容要約や 自由英作文も出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱うトピックについての予備知識（テキストに記載）を頭にいった上で本文を予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。
復習：読んだ記事についての要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。
宿題：授業で扱ったトピック関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media (『ニュースメディアの英語』) 高橋優身 他著
(朝日出版, 2019) 1,700 円 + 税

【参考書】

<https://www.japantimes.co.jp/>
<https://www.nytimes.com/>
<https://www.telegraph.co.uk/>

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（授業内での発言および提出物）40 %、Review テスト（3 回）30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻あるいは早退すると、1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。また、この授業は選択科目であるため、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while reading about specific topics of newspapers. Students are expected to improve reading comprehension skills using topical reading materials as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

- To help students
- ・ increase vocabulary
 - ・ improve their reading/listening comprehension skills
 - ・ understand English sentences without translating into Japanese
 - ・ identify main ideas
 - ・ clarify the structure of a paragraph
 - ・ develop global and cross-cultural awareness
 - ・ develop creative and critical thinking skills
 - ・ effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

法文営国 1～4年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、The Japan Times, New York Times, The Daily Telegraph などからの英字新聞記事をまとめたテキストを使用し、国内外の幅広い分野に関する記事を読んで視野をひろめつつ英語表現について学習する。英語の語彙力、読解力をつけるとともに、読んだ記事の要点を捉え、更に自己の考えを英語で簡潔に表現できるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英字新聞を読む上で必要な語彙力、基礎知識を得ること
- ・英文の構文を意識し、文章の意味を正確に理解すること

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること

- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること

- ・英語の音声も聴いて、必要な情報を得ること

- ・さまざまな新聞記事を英語で理解し、英語で要約できるようにすること
- ・新聞記事読解を通して視野を広げ、物事に関して自分なりの見解を持つようになること
- ・読解した記事についての自分の考えを英語で表現すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

重要語彙、表現、そして記事を読む上での基礎知識を確認してから、英字新聞記事を読解する。音読 CD を聴き、理解の度合いを確認した後、更に内容については、選択問題や正誤問題、要約などを通して確認する。3 Unit ごとに小テストを行い、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業の進め方についての説明 目標の確認
第 2 週	Unit 11: A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over	重要語彙の確認 読解 要約 記事についての考察
第 3 週	Unit 12: The Star who brought the cosmos within reach	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 4 週	Unit 13: Van Gogh's obsession with Japan	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 5 週	Review Unit11~13	Review test/ Unit11~13 で読んだ記事から一つ選んで自己の考えを述べる
第 6 週	Unit 14: Maldives crisis may draw in India and China	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 7 週	Unit 15: Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 8 週	Unit 16: Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut	重要語彙の確認 読解 要約 考察

第 9 週	Review Unit14~16	Review test/ Unit14~16 で読んだ記事から一つ選んで自己の考えを述べる
第 10 週	Unit 17: Nobel for effort to abolish nuclear bombs	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 11 週	Unit 18: Saudi Arabia lightens up	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 12 週	Unit 19: Irish Border Problem Remains A Thorn for Britain in BrexitUnit	重要語彙の確認 読解 要約 考察
第 13 週	Review Unit17~19	Review test/ Unit17~19 で読んだ記事から一つ選んで自己の考えを述べる
第 14 週	期末試験	前期に取り上げた記事に関する問題を 出題し、理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱うトピックについての予備知識（テキストに記載）を頭にいられた上で本文を予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。

復習：読んだ記事についての要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱ったトピック関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media (『ニュースメディアの英語』) 高橋優身他著、(朝日出版、2019) 1,700 円 + 税

【参考書】

<https://www.japantimes.co.jp/>

<https://www.nytimes.com/>

<https://www.telegraph.co.uk/>

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（授業内での発言および提出物）40 %、Review テスト（3 回）30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻あるいは早退すると、1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。また、この授業は選択科目であるため、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ず辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while reading about specific topics of newspapers. Students are expected to improve reading comprehension skills using topical reading materials as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

- ・ to help students increase vocabulary
- ・ to help students improve their reading/listening comprehension skills
- ・ to help students understand English sentences without translating into Japanese
- ・ to help students identify main ideas
- ・ to help students clarify the structure of a paragraph
- ・ to help students develop global and cross-cultural awareness
- ・ to help students develop creative and critical thinking skills
- ・ to help students effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国 1~4 年/レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The New York Times の記事を題材として、経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々とタイト王に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、発表などを通して、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では **exercise** を解きながら精読し、トピックを選んで自分の意見を英文でまとめるところまで行う。グループワークで進めることが多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	プリント教材
2	Unit 2 Japan's Pollution Diet	Key Words, Reading
3	Unit 2 Japan's Pollution Diet	Exercises
4	Unit 3 Without Babies, Can Japan Survive?	Key Words, Reading
5	Unit 3 Without Babies, Can Japan Survive?	Exercises
6	Unit 4 Safe Food for Japan	Key Words, Reading
7	Unit 4 Safe Food for Japan	Exercises
8	Unit 5 Timing a Rise in Sea Level	Key Words, Reading
9	Unit 5 Timing a Rise in Sea Level	Exercises
10	Unit 6 What to Make of a Warming Plateau	Key Words, Reading
11	Unit 6 What to Make of a Warming Plateau	Exercises
12	Unit 7 The Decline of E-Empires	Key Words, Reading
13	Unit 7 The Decline of E-Empires	Exercises
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙の予習

【テキスト（教科書）】

Reading The New York Times 2

ニューヨークタイムズで高める英語と国際教養
成美堂 2100 円+税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。授業では CD を使用する。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through The New York Times.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

LANe200LA

マスメディアの英語Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国 1～4年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The New York Times の記事を題材として、経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々とタイト王に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、発表などを通して、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ほぼ2回の授業で1つのUnitを学習する。前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業ではexerciseを解きながら精読し、トピックを選んで自分の意見を英文でまとめるところまで行う。グループワークで進めることが多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	プリント教材
2	Unit 8 Abu Dhabi Company Searches for Greener method of Desalination	Key-Words, Reading
3	Unit 8 Abu Dhabi Company Searches for Greener method of Desalination	Exercises
4	Unit 9 British employers see Value in Europe-Wide Labor Pool	Key-Words, Reading
5	Unit 9 British employers see Value in Europe-Wide Labor Pool	Exercises
6	Unit 10 Hopes for Renewal in Japan, but Also a Host of Challengers	Key-Words, Reading
7	Unit 10 Hopes for Renewal in Japan, but Also a Host of Challengers	Exercises
8	Unit 11 Madrid and Istanbul Respond Differently to Rejection by Olympics	Key-Words, Reading
9	Unit 11 Madrid and Istanbul Respond Differently to Rejection by Olympics	Exercises
10	Unit 12 Need a Job? Invent It	Key-Words, Reading
11	Unit 12 Need a Job? Invent It	Exercises
12	Unit 14 Myanmar's educators Reach Out to the World	Key-Words, Reading

13 Unit 14 Exercises

Myanmar's educators Reach Out to the World

14 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語彙の予習

【テキスト（教科書）】

Reading The New York Times 2
ニューヨークタイムズで高める英語と国際教養
成美堂 2100円＋税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。授業ではCDを使用する。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は3回までとする。

遅刻3回で欠席1回とする。

遅刻20以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture

and so on through The New York Times.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2016 年度以前入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 法文堂国 1~4 年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語の各種検定試験受験に向けて、その基礎として英文法を学びなおすためのコースです。たとえば、TOEIC テストのリーディングセクションでは、100 問のうち訳半分を占める 46 問が文法問題となっており、正しい文法理解は TOEIC テストにおける高得点の鍵となります。本授業では、無味乾燥と思われ嫌われがちな英文法の学習を楽しくするための工夫として、スヌーピーの漫画を題材としたテキストを用います。英語文化圏で実際に読まれている漫画を題材とすることで、英文法の生きた用法を知ることができ、英語への親しみがわきます。さらに、TOEIC テストの part5,6 形式を用いた練習問題を通じて、実際のテスト形式の演習を行なうとともに、英作文を通じて習った文法知識を確実なものとしします。

【到達目標】

本授業を通して学生は、高校までに習った英文法の知識を実践で使えるレベルの確実なものとしします。本授業は TOEIC テスト対策に特化したものではなく、すべての英語学習の基礎となる文法事項を強化するための授業です。従って、学生は、TOEIC 形式の穴埋め問題だけではなく、習った文法事項を用いた英作文にも取り組みます。これらの学習を通して学生が、文法書の学習だけでは身につけにくい前置詞や仮定法のニュアンスや文型の基礎知識を身につけ、それが自然な表現として口をついて出てくる段階に到達できるようにすることが本授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行なわれます。漫画の読解や、文法解説は輪読形式で進めていきます。学生の積極的な授業参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 9 日	イントロダクション	授業方針・内容についての説明
4 月 16 日	Unit 1: 前置詞なんかこわくない (1)	前置詞 in と out のニュアンスと関連熟語
4 月 23 日	Unit 2: 前置詞なんかこわくない (2)	前置詞 into と atout のニュアンスと関連熟語
5 月 7 日	Unit 3 : 動詞のかたち (1)	受け身の用い方
5 月 14 日	Unit 4 : 動詞のかたち (2)	目的語に動名詞をとる動詞
5 月 21 日	Unit 5 : 便利な動詞 get	get を用いた様々な表現：他動詞の get と自動詞の get
5 月 28 日	Unit 6 : 完了形をつかひこなす	現在完了形と過去完了形
6 月 4 日	Unit 7 : 文型を意識する	5 文型の復習
6 月 11 日	Unit 8 : 仮定法をつかひこなす (1)	仮定法過去
6 月 18 日	Unit 9 : 仮定法を使いこなす (2)	仮定法過去完了
6 月 25 日	Unit 10 : カタカナ英語にご用心	カタカナ英語の本来の意味
7 月 2 日	Unit 11 : なじんでおきたい日常の語彙	日常会話表現の練習
7 月 9 日	Unit 12 : 英作文で総まとめ	英文法の総復習
7 月 16 日	夏学期末試験	授業内容の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外学習は特に求めませんが、学期末試験はすべてテキストの範囲から出題され、その範囲は広いので、単位修得のためには、授業後に各ユニットをしっかりと復習することが必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書名：Let's Study English with Prof. Snoopy! (『スヌーピーの英語塾』)
 著者：Shinako Imaizumi, Akira Inoue
 出版社：英宝社
 出版年：2013 年

価格：1900 円+税

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学期末試験の成績のみで行ないます。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students who hope to improve their English grammar skills towards passing various English proficiency tests, such as TOEIC, TOFLE, EIKEN etc. Sufficient knowledge of English grammar will help one to pass these exams, because, for example, almost half of the questions of the reading section of TOEIC L & R TEST are grammar questions. In order to make grammar lessons more enjoyable, this course uses the grammar text which takes the Snoopy cartoon as the subject matter. It will be an enlightening experience for students to encounter the English usages in actual scenes through cartoon. The grammar knowledge learned through the cartoon will be made sure through various exercises.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2016年度以前入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文堂国 1～4 年 / レベル 2,3**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、これから初めて TOEIC L & R TEST に挑戦しようと考えている学生を対象に、TOEIC のリーディングセクションに特化し、スコア 500 点を取ることを目標に対策をするための授業です。リーディング力を強化するには、文法、語彙、読解力などの幅広い範囲の総合的な学習が必要になります。従って、そのような幅広い力を身につけるには、合理的で系統立てた学習が欠かせません。本授業では TOEIC のリーディングセクションで出題される問題をいくつかの系統に分け、学生が出題された問題にロジカルに対応できるようにする訓練を行います。このような演習を通して、学生が読解問題への苦手意識を払拭し、自信を持って問題に取り組めるようにすることが、本授業の狙いです。

【到達目標】

学生は、本授業の履修を通じて、TOEIC L & R TEST でスコア 500 に到達できる文法力、語彙力、読解力を養います。リーディング問題では、図表や文書から、必要な情報だけを抜き取り、時間内に効率よく文書を処理していくためのスキミングやスキミングの技法など、速読のためのテクニカルな技術も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、テキストの内容の講義と、その演習という形式で進めます。また毎回の授業で語彙力増強に取り組みます。授業内で辞書を使った作業を行いますので、必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9月24日	イントロダクション Chapter1: TOEIC L & R TEST リーディングセクションを知ろう	授業方針・内容についての説明。 TOEIC L & R TEST リーディングセクションの概要説明。
10月8日	Chapter2: 品詞の選択、 図表 Chapter3: 接続詞	品詞選択問題の基礎知識の解説と演習。 図表問題の演習。 接続詞問題の基礎知識の解説と演習。
10月15日	Chapter4: 時制、広告宣 伝文	時制問題の基礎知識の解説と演習。 広告宣伝文の演習。
10月22日	Chapter5: 関係詞	関係詞問題の基礎知識の開設と演習。
10月29日	Chapter6: 語彙の問題、 お知らせ文	語彙の問題の基礎知識の解説と演習。 お知らせ文の演習。
11月5日	Chapter7: 前置詞	前置詞の問題の基礎知識の解説と演習。
11月12日	中間試験	Chapter1～7 の理解度確認
11月19日	Chapter8: 人称代名詞、 テキストメッセージ	人称代名詞の問題の基礎知識の解説と演習。 テキストメッセージの演習。
11月26日	Chapter9: 態、手紙文	態の問題の基礎知識の解説と演習。 手紙文の演習。
12月3日	Chapter10: 数量に関する 語、告知文	数量に関する語の問題の基礎知識の解説と演習。 告知文の演習。
12月10日	Chapter11: 形容詞の比 較、新聞記事など	形容詞の比較の問題の基礎知識の解説と演習。 新聞記事の演習
12月17日	Chapter12, 13: 総合演 習、様々な文書	TOEIC リーディングセクション実際の形式での演習。
12月24日	Chapter14: ダブルパッ セージ、トリプルパッ セージ	ダブルパッセージ、トリプルパッセージ問題の取り組み方と、演習。
1月14日	学期末試験	Chapter8～14 の理解度確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は特に指定しません。しかし、成績評価の基準となる中間試験と期末試験で得点を取るためには、習った範囲の復習が欠かせません。

【テキスト（教科書）】

教科書：モウレット TOEIC L&R TEST リーディング教室
著者：Donna T. Fujimoto, Akira Nakagawa, Koji Morita
出版社：三修社
価格：2000 円 + 税

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間試験 (50%) と期末試験 (50%) の成績を総合して行ないます。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students who aim to take the TOEIC test for the first time, focusing on the reading section of the test, and targeting score 500. Enhancing one's ability of reading requires a wide range of learning, including grammar, vocabulary, and some practical skills of reading. In order to attain this goal, a reasonable and systematic study is indispensable. This course will train students to be able to handle TOEIC questions logically and systematically by classifying various reading questions from TOEIC test into some categories. Through this kind of systematic training, students will be able to face on the reading section of the TOEIC test with confidence.

LANe200LA

English Presentation I 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 I 2016年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文堂国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	First presentation: "How to..."	Teach us how to do something better. Look at examples. Generate ideas and select topics.
3	Developing your work	Show your ideas and make an outline. Basic presentation structure.
4	Developing your work	Revise and practise. Body language and gestures -examples and practise.
5	Final practise	Combine all the elements and review your speech. Make changes after feedback from classmates and teacher.
6	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
7	Second presentation: SWOT analysis	A SWOT analysis. What is it? Look at examples. Generate ideas and select topics
8	Developing your work:	A SWOT analysis. Show your first research and organise. Voicework - how to vary your voice to make your words have more impact.

9	Developing your work:	Show us your presentation draft and practise. Turn your draft into notecards. Asking and answering questions during a presentation.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates.
11	Third Presentation: Pechakucha	What is a pechakucha presentation? Explanation and examples. Topic planning.
12	Developing your work:	Practise. Speaking to time limits and on the spot transitions.
13	Final practise	Review and practise.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the Pechakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students wanted to do fewer presentations.

【学生が準備すべき機器他】

You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to bring your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

LANe200LA

English Presentation II 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 II 2016年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 法文堂国 1～4 年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation and a review of the Spring Semester. First presentation: "Inspired by a movie"	A cultural or social theme picked from a movie For example. "The Lego Movie" - a comparison of the education systems of Denmark and Japan. The role of propaganda in Vietnam War movies "The Devil wears Prada" - Karoshi - is work /life balance really possible? Discussing ideas and topic selection.
2	Developing your work	Sharing research. Making outlines and considering some rhetorical techniques such as the rule of 3 and repetition.
3	Developing your work	Sharing research. Using rhetorical techniques. Review of voice techniques.
4	Final practise	Making discussion questions. Practise and make changes after feedback from classmates and teacher.
5	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

6	Second presentation: Something I've learned that you should know	What knowledge have you gained in your university life that you think other people would benefit from knowing? generating ideas
7	Developing your work	Considering different narratives styles. Sharing ideas.
8	Developing your work	Sharing your ideas and using props in a speech.
9	Final practise	Practise your speech using a prop.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
11	Third Presentation: A persuasive speech	A speech about something you feel strongly about. Make us believe how correct and important your opinion is.
12	Developing your work:	Adding passion and emotion to your words. Speaking with your whole body - examples and practise.
13	Final practise	Looking again at body language and voice.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the peckakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested fewer computer presentations.

【学生が準備すべき機器他】

You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to bring your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

LANe200LA

English Presentation I 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 I 2016年度以前入学者

ジョン ライリー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 法文営国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 1	A good friend
3	Unit 1	A good friend
4	Unit 1	A good friend
5	Unit 1	Presentation - "My Friend"
6	Unit 2	A favorite place
7	Unit 2	A favorite place
8	Unit 2	A favorite place
9	Unit 2	Presentation - "My Favorite Place"
10	Unit 3	A prized possession
11	Unit 3	A prized possession
12	Unit 3	A prized possession
13	Unit 3	Presentation - "My Prized Possession"
14	Make-up Presentations/Course Review	Finalize spring semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to ready for classes by reviewing the next pages in the textbook, preparing for class activities and practicing presentations.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75%
- Class participation - 25%

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline and objectives】

The presentations skills developed by students will help them be better communicators.

LANe200LA

English Presentation II 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 II 2016年度以前入学者

ジョン ライリー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 法文営国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 4	A memorable experience
3	Unit 4	A memorable experience
4	Unit 4	A memorable experience
5	Unit 4	Presentation - "My Memorable Experience"
6	Unit 5	I'll show you how
7	Unit 5	I'll show you how
8	Unit 5	I'll show you how
9	Unit 5	Presentation - "How to _____"
10	Unit 6	Screen magic
11	Unit 6	Screen magic
12	Unit 6	Screen magic
13	Unit 6	Presentation - "Movie or TV Show Review"
14	Make-up Presentations/Course Review	Finalize fall semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to ready for classes by reviewing the next pages in the textbook, preparing for class activities and practicing presentations.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75%
- Class participation - 25%

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline and objectives】

The presentations skills developed by students will help them be better communicators.

LANe200LA

English Presentation I 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 I 2016年度以前入学者

コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文堂国 1~4 年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Introductions HW/text pgs. 4-12	Talk about spring break. Getting started.
2	2. Text pgs. 13-14, 15-17, 18-22 HW/informative speech (pg. 17) with visuals, posture, eye contact, gestures	Watch sample presentation DVD.
3	3. Performance of informative speech HW/text pgs. 23-24, 28-29	Speech performance and feedback.
4	4. Text pgs. 30-38 HW/demonstration speech (pg. 38) with visuals, posture, eye contact, gestures, voice inflection	Demonstration speech.
5	5. Performance of demonstration speech HW/text pgs. 39-46	Student speech performances.
6	6. Text pgs. 47-48, pgs. 51-55 HW/country comparison (pgs. 49 & 56)	Prepare for country comparison speech.
7	7. Performance of country comparison HW/pgs. 57-59	Student speeches.
8	8. Text pgs. 60-67 HW/speech introduction (pg. 67)	Focus on speech introduction.
9	9. Performance of speech introduction HW/text pgs. 68-72	Speech introduction performances.

10	10. Text pgs. 73-85 HW/speech body (pg. 86)	Focus on speech body.
11	11. Performance of speech body HW/text pgs. 87-94 conclusion (pg. 95)	Student performances of speech body.
12	12. Presentation of conclusion HW/final presentation (pg. 99 steps 1,2,3)	Focus on speech conclusion.
13	13. Final presentation HW/none	Prepare and perform final presentations.
14	14. Final presentation	End of term evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Schedule is subject to change without notice and may be revised according to the number of students who choose to take this class. Students are expected to do homework assignments and prepare presentations for delivery in class.

【テキスト（教科書）】

All materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students will use online resources to research and prepare their presentations.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

このコースは主に学生のプレゼンテーションスキルを向上させ、それによって彼らの統合的な英語能力を伸ばすことを目的としています。春の目標は、プレゼンテーションの編成方法、証拠を用いた議論の支援、視覚補助の効果的な使用、アイコンタクトやジェスチャーなどの提供の側面など、基本的なプレゼンテーションスキルを習得することです。秋学期では、学生は現代的な関心事のトピックに関する説得力のある/議論的なプレゼンテーションに焦点を当てます。生徒は自分の発表の基本となるパターンに基づいてプレゼンテーションを行い、メモから話すことを学びます。授業は英語で行われます。

LANe200LA

English Presentation II 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 II 2016年度以前入学者

コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国 1~4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. The fall semester of this course will make little use of the textbook, and will instead concentrate on the preparation and delivery of persuasive, argumentative and rhetorical speeches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation HW/prepare speech on summer vacation	Warm up presentation.
2	2. Presentations on summer vacation HW/read handout parts 1&2	Students deliver their summer vacation presentations.
3	3. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 1	Read background information and answer questions.
4	4. Presentations on topic 1 and discussion HW/read handout parts 1&2	Delivery of speeches.
5	5. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 2	Read background information and answer questions.
6	6. Presentations on topic 2 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
7	7. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 3	Read background information and answer questions.
8	8. Presentations on topic 3 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
9	9. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 4	Read background information and answer questions.
10	10. Presentations on topic 4 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.

11	11. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 5	Read background information and answer questions.
12	12. Presentations on topic 5 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
13	13. Complete handout reading HW/prepare final presentations	Prepare for final presentations.
14	14. Final presentation	Final performance, summary and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Schedule is subject to change without notice and may be revised according to the number of students who choose to take this class. Students are expected to do homework assignments and prepare presentations for delivery in class.

【テキスト（教科書）】

All materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students will make use of a variety of online resources in the research and preparation of their speeches.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

このコースは主に学生のプレゼンテーションスキルを向上させ、それによって彼らの統合的な英語能力を伸ばすことを目的としています。春の目標は、プレゼンテーションの編成方法、証拠を用いた議論の支援、視覚補助の効果的な使用、アイコンタクトやジェスチャーなどの提供の側面など、基本的なプレゼンテーションスキルを習得することです。秋学期では、学生は現代的な関心事のトピックに関する説得力のある/議論的なプレゼンテーションに焦点を当てます。生徒は自分の発表の基本となるパターンに基づいてプレゼンテーションを行い、メモから話すことを学びます。授業は英語で行われます。

LANe200LA

English Presentation I 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 I 2016年度以前入学者

マーク バーンズ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文堂国 1～4年 / レベル 4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the confidence and basic ability to deliver effective presentations in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	Posture	Learners prepare and present a presentation about a city they like
Unit 2	Gesture	Learners prepare and present a presentation describing the layout of an interesting place
Unit 3	Use of voice	Learners prepare and present a presentation about a recipe
Section review	Review of the physical message	Review of the physical message
Unit 4	Effective visuals	Learners prepare a presentation comparing two countries
Unit 5	Explaining visuals	Learners prepare clear explanations for slides and charts
Section review	Review of the visual message	Learners deliver a presentation comparing two countries
Unit 6	Introduction	Learners prepare and present the introduction to a product comparison presentation
Unit 7	Body	Learners prepare and present the the body a product comparison presentation
Unit 8	Conclusion	Learners prepare and present the conclusion to a product comparison presentation
Section review	Review of presentation structure	Review of presentation structure
Final performance preparation	Final performance preparation	Final performance preparation

Final Final performance Final performance performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech New Edition, David Harrington and Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

First time this course has been taught

【その他の重要事項】

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject. Lesson schedule may change depending on student number.

LANe200LA

English Presentation II 2017年度以降入学者

LANe200LA

映画で学ぶ英語 II 2016年度以前入学者

マーク バーンズ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

法文営国 1～4年 / レベル 4

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2, Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6515-9

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

First time this course has been taught

【その他の重要事項】

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject. Lesson schedule may change depending on student numbers.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	What are the options?	Learners prepare option presentations
Unit 2	Performance 1	Option presentations and peer feedback.
Unit 3	Job hunting	Learners prepare a proposal presentation
Unit 4	Performance 2	Proposal presentations and peer feedback.
Unit 5	Have I got your attention?	Learners prepare sales presentations
Unit 6	Performance 3	Sales presentations and peer feedback.
Unit 7	Technical problems and solutions	Learners prepare technical presentations
Unit 8	Performance 4	Technical presentations and peer feedback.
Unit 9	Cite your sources	Learners prepare academic presentations
Unit 10	Performance 5	Academic presentations and peer feedback.
Unit 11	Creative innovations	Learners prepare team presentations
Unit 12	Performance 6	Team presentations and peer feedback.
End-term review	Final presentations	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング I 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語リーディング・ワークショップ I 2016年度以前入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文営国 1～4年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う論文を読む。英文を読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れる。個々の論文には難解なものもあるが、それを読み解き理解する喜びを体験したい。パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、多量の英文を読みこなす能力を養う。特に、トピックセンテンスを中心に、文章を要約する方法を学ぶ。また、読んで理解した内容を、口頭で的確に表現できるようにしたい。

【到達目標】

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
理解した内容を口頭で言い表すことができるようになる。
英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。
トピックを理解することにより、細部に理解できないところがあっても、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
レトリックを読み解く技術を身につける。
意味が文脈によって産出されることを理解する。
抽象的な表現の具体的な内容を理解する方法を学ぶ。
テキストを批判的に読み解く技術を学ぶ。
辞書を引く意味を理解する。
辞書が活用できるようになる。
最終的に、多量の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学生による要約と和訳の発表で授業を進める。不明な点、問題点があれば、全員で議論し解決して行く。その際、辞書を活用する術を学習する。各論文を読み終わった後、それに関する論評を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明。	授業に関する説明の後、パラグラフの構造について理解する。
2	Session 1 What a Painting Can Tell Us	この論文では、絵画に隠された物語を読み解く際の、筆者の論理的展開の方法に注意し、芸術作品の解釈の方法や説得力のある主張の仕方学ぶ。リーディングスキルとしては、パラグラフの構造を理解する。筆者の主張を裏付けるトピックセンテンスと、その根拠を示す支持文を区別することによって、パラグラフの内容を大まかにつかみ要約する力を養い、論理的な文章を効果的に読むことができるようにする。パラグラフの構造を理解する。
3	Session 1 What a Painting Can Tell Us	
4	Session 1 What a Painting Can Tell Us	トピックセンテンスと論証部分の関係を理解する。
5	Session 2 Split-Brain Research	右脳・左脳の機能の違いを世に知らしめた有名な事例を紹介する論文を読む。両脳間の機能上の最大の違いは、片方の脳のみが言語を扱うということに起因するという興味深い事実を学ぶ。リーディングスキルとしては、科学的論文の構造を理解する。また、図解を参照しながら英文を読む訓練をする。実験の手順を記述した文を理解する。
6	Session 2 Split-Brain Research	
7	Session 2 Split-Brain Research	図解を見ながら右脳左脳の機能を理解する。

8	Session 2 Split-Brain Research	図解を見ながら、実験の内容を理解する。
9	Session 9 On Speaking on Speaking	言語の変化生成に関する仮説を扱う論文を読む。言語は原初の形を痕跡として残しつつ絶えず変化し続けること、人間には言語を生み出す普遍的な能力があることを学ぶ。また、一般的には理解されていない、あらゆる言語に見られる普遍的性質のいくつかを知る。リーディングスキルとしては、トピックセンテンスと支持文の関係をより深く理解し、筆者の主張をより正確に把握する能力を養う。パラグラフの内容を自分の言葉で要約できるようにする。さらに、パラグラフ間のつながりにも留意することによって、論理の展開の仕方を学ぶ。
10	Session 9 On Speaking on Speaking	言語とは何かを理解する。
11	Session 9 On Speaking on Speaking	言語の変化の担い手が子どもだという事実を検証する。
12	Session 14 Teenage Nation	Teenager という概念が現れた背景を歴史的に考察する論文を読む。Teenager の出現には、産業革命による労働形態の変化、教育の普及、大量消費社会の到来など、大きな社会的変革が関わっていることを理解する。現在では常識とされている事柄でも、過去においては極めて希少・斬新であったことを知ることにより、新たな事実を理解するためには現在の常識を疑わなくてはならないということを学ぶ。リーディングスキルとしては、パラグラフ内の論理的展開に留意することにより論拠の妥当性を緊密に検証し、批判的に文章を読む術を学習する。
13	Session 14 Teenage Nation	子どもががっつは教育の対象ではなく、労働力だったことを理解する。
14	試験日	春学期試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を読み、要約・和訳できるようにしておくこと。予習に2時間は必要。

【テキスト（教科書）】

『The Universe of English』 東京大学英語教室編（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント、試験の点 50 パーセントの比率で評価を行う。一度欠席するたびに、平常点から 2 点ずつ引いて行く。4 回以上欠席した場合、単位の取得意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの発言の機会を増やそうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書持参のこと。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。特に、授業中にスマホを操作する学生が多くて困っています。授業中にスマホを机の上に出すことは禁止します。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Participants learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and make a summary of it. Participants are expected to read each essay critically and express their opinions in class. This course also helps students learn how to use dictionaries.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング 2017年度以降入学者Ⅱ

LANe200LA

英語リーディング・ワークショップ 2016年度以前入学者Ⅱ

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営国 1～4年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う論文を読む。論文を読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れる。個々の論文には難解なものもあるが、それを読み解き理解する喜びを体験したい。パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、多量の英文を読みこなす能力を養う。特に、トピックセンテンスを中心に、文章を要約する方法を学ぶ。また、読んで理解した内容を、口頭で的確に表現できるようにしたい。

【到達目標】

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
理解した内容を口頭で言い表すことができるようになる。
英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。
細部に理解できないところがあっても、トピックを理解することにより、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
レトリックを読み解く技術を身につける。
意味が文脈によって産出されることを理解する。
テキストを批判的に読み解く技術を学ぶ。
辞書を引く意味を理解する。
辞書が活用できるようになる。
最終的に、多量の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学生による要約と和訳の発表で授業を進める。不明な点、問題点があれば、全員で議論し解決して行く。その際、辞書を活用する術を学習する。各論文を読み終わった後、それに関する論評を学生が発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明。	パラグラフの構造を理解する。
2	Session 17 Ecology	エコロジーの入門書論文を読む。この論文はコンパクトながら、エコロジーの定義から始まり、生物圏の区分、食物連鎖、生物濃縮、生態遷移などに言及し、エコロジーの最も重要な分野をわかりやすく解説している。また、生態学的知識を吸収することによって、現在我々を取り巻く環境問題を考える。リーディングスキルとしては、ひとつの主張をひとつのパラグラフに端的に記述する方法を学ぶ。
3	Session 17 Ecology	食物連鎖の意味を学ぶ。
4	Session 17 Ecology	生物濃縮の理由を理解する。
5	Session 17 Ecology	生態遷移を具体的に理解する。

6 Session 18
Columbus: From Hero to Fall Guy

コロンブスが歴史上の偉人から、南米を侵略し社会を破壊した悪人に評価が変わった原因を考察する論文を読む。この論文は歴史的記述であるとともに、コロンブスの評価の変化の背景を追うことによって、歴史そのものがいかに作り出されるかということにも言及しており、極めて興味深い。歴史が産出される構造を知ることにより、歴史的事実とは決して客観的事実なのではなく、政治的意図が反映されたものの見方、すなわちある特権的な視点から事象を見るひとつの解釈であることを理解し、ひいては歴史とは何かを考察する。

リーディングスキルとしては、論理的に難解な文章を読む際に必要な文脈のたどり方に重点を置く。ある文の意味を理解することとは、その文脈を理解することであるということ、言い換えると、文の意味は文脈によって作り出されるという基本的事実を理解する。
西洋中心に考えたときの「アメリカ発見」の歴史的意義を学ぶ。

7 Session 18
Columbus: From Hero to Fall Guy

8 Session 18
Columbus: From Hero to Fall Guy

「アメリカ発見」という言葉が禁止されている理由を知る。

9 Session 18
Columbus: From Hero to Fall Guy

「発見」された側から見たコロンブス像を知る。

10 Session 18
Columbus: From Hero to Fall Guy

「発見」された側がコロンブスを歴史上傑出した悪人だと非難する、本当の理由を知る。

11 Session 11
Disneyland: America's Sacred Land

ディズニーランドの人気の理由を論じるエッセイを読む。ディズニーランドの背後には、アメリカを中心とした歴史観、アメリカを代表する中西部の白人中流階層の保守的な理念があることを学ぶ。

12 Session 11
Disneyland: America's Sacred Land

ディズニーの世界観がどのようにディズニーランドに反映されているのかを知る。

13 Session 11
Disneyland: America's Sacred Land

ディズニーが提供したかったものを知る。

14 試験日 秋学期試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を読み、要約・和訳できるようにしておくこと。予習に2時間は必要。

【テキスト（教科書）】
東京大学英語教室編『The Universe of English』（東京大学出版会）

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 パーセント、試験の点 50 パーセント。
一度欠席するたびに、平常点から 2 点ずつ引いて行く。
4 回以上欠席した場合、単位の取得意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生が話し合っ問題解決する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書持参のこと。

【その他の重要事項】
この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。
授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。特に、授業中にスマホを操作する学生が多くて困っています。授業中にスマホを机に出すことは禁止します。
教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Participants learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and make a summary of it. Participants are expected to read each essay critically and express their opinions in class. This course also helps students learn how to use dictionaries.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2016 年度以前入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文堂国 1~4 年/レベル 3,4**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

TOEIC Test listening part の速度に慣れ、重要点（設問部分）をチェックできるよう練習したい。
自習用オーディオファイルを何度も聞いて、音と速さ、設問形式になじんでほしい。

【到達目標】

TOEIC Test の listening part の速度に慣れ、単語ではなくフレーズの塊を聞き取れるようになる。
既習の文法事項を復習し再確認する。
ビジネス関連の語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

まずはテキストの TOEIC 類ボキャブラリーを使い、語彙の確認。テキストのリスニング・リーディング問題を解きながら文法・語法の復習をする。必要に応じてグラマークイズや補助的なリーディング問題のプリントを配布する。またテキストのユニットで使われた熟語の復習問題を宿題として課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	U.1 Daily Life 品詞	テキストのプリントを配布して TOEIC テストの形式を確認する
2	U. 2 Places 自動詞と他動詞	テキストの問題と解説 (この回からテキストを必ず用意すること。プリントは配布しません)
3	U. 3 People 代名詞	vocabulary quiz およびテキストの問題を解説する idiom review(U.1-3) のプリントを配布する
4	U. 4 Travel idiom review 提出	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
5	U. 5 Business 前後関係から語形を選択する	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
6	U. 6 Office 類語の意味の違いに注意する	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説 idiom review(U.4-6) を配布
7	U. 7 Technology 類語の意味の違い 2	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
8	U. 8 Personnel 語形選択 2	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
9	U. 9 Management 接続詞	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説 idiom review(U.7-9) を配布
10	U.10 Purchasing 接続詞 2	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
11	U.11 Finance 動詞の時制	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
12	U.12 Media / U.13 Entertainment 関係詞	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説 idiom review(U.10-12) を配布
13	U.14 Health / U.15 Restaurants 形容詞・前置詞	vocabulary quiz およびテキストの問題と解説
14	Review for Spring Term	春期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

かならず事前の語彙チェックをしましょう。毎回、ユニットの key vocabulary から vocabulary quiz を行います。

また、listening 練習用に音声ファイルがダウンロードできますので、繰り返し聞いて問題をチェックしてください。授業時には何度も音声チェックをする時間的な余裕がありませんので、事前にしっかり音を聞いてください。3 ユニット終了することに熟語のまとめプリントを配布し、宿題として提出していただきます。そのほか、必要に応じて文法プリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 : 4th Edition(桐原書店 1800 円)

新形式対応の改定版です。かならず Book 2 の 4th edition であることを確認して購入してください。

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物（テキストの演習問題、ボキャブラリークイズ、グラマークイズなど）80 %、期末テスト 20 %として評価する。

3 回以上欠席した場合、評価の対象としない。
遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

予習用にリスニングパートのスクリプトを配布していますが、何段階かに分けて使用していただければと思います。

まず音声ファイルのリスニングのみで問題を解いてみる、聞き取りにくい箇所をスクリプトを見ながら再度聞いてみる、スクリプトを見ながら音声ファイルと同時に声を出して読んでみる、というようにします。

じぶんで発音できれば、耳で聞いて意味をとりやすくなります。

プリントは採点して返却しますので、疑問点があれば授業時に質問して下さい。歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。ただし、辞書は必ず携帯してください（通信機器は使用しないでください）。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携帯すること。

提出物の累計が平常点となるので、欠席しないよう注意してください。

【Outline and objectives】

Try to accustomed to each part of TOEIC questions and to the speed of announcement. You can download listening file on the publisher's website. Please get well-prepared for the class.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2016年度以前入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文堂国 1～4 年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音の脱落・連結音など聞き取りにくい音になじみ、より正確に設問の意図をつかむよう練習したい。
必要に応じて文法プリントや追加の reading 問題を配布し、リーディングの基礎を固めていきたい。

【到達目標】

とくに Part III のように会話の流れと設問が前後するような問題でも、聞きながら情報を整理して、回答できるようにする。

Reading part では、設問から記事のポイントを押さえて、重要点を探せるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト各ユニットの重要単語を使ったボキャブラリークイズ、リスニングパートのディクテーションなど聞き取り練習（毎回、次の回のスクリプトを配布するので予習してほしい）、テキストのリスニングおよびリーディングパートで使われた文法の復習クイズなどを毎回提出してもらい、平常点とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Arts and Amusement 名詞と代名詞	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
2	U.2 Lunch & Parties 冠詞と形容詞	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
3	U.3 Medicine & Health 副詞	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
4	U.4 Traffic & Travel 比較形	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。
5	U.5 Ordering & Shipping 動詞の時制	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
6	U.6 Factories & Production 未来形	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
7	U.7 Research & Development 主語と動詞の呼応	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。
8	U.8 Computers & Technology 受動態と能動態	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
9	U.9 Employment & Promotion 不定詞と動名詞	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
10	U.10 Advertisement & Personnel 分詞の意味と使い方	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。
11	U.11 Telephone & Messages 助動詞	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
12	U.12 Banking & Finance / U.13 Office Work & Equipment 接続詞と関係詞	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック
13	U.14 Housing & Properties / U.15 Business & Management 条件文	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。
14	Review of Autumn Term	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ボキャブラリークイズを行い、テキストの解答も提出してもらいます。事前にテキストの問題にしっかり目を通し、難解な語彙・語法をチェックしておいて下さい。また listening part のスクリプトを配布しますので、出版社のホームページから音声ファイルをダウンロードして、予習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

Essential Approach for the TOEIC L&R Test: Revised Edition (成美堂 2000 円)

新形式対応の改定版です。必ず Revised Edition であることを確認して、購入してください。

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物 80 %、期末試験 20 %として評価する。
平常の提出物の評価割合が大きいため、欠席しないよう気をつけましょう。3 回以上欠席した場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でできるだけ多くの問題をこなしてもらいたいと考え、補助プリントを配布していますが、やや急ぎすぎて、もうすこし基本的な説明が必要かと考えています。

Listening part の予習の際、何度も繰り返して聞く、スクリプトを参考にしで音読する、という練習が必要だと思います。（聞き取るためには発音練習が必要です。）

また、Reading part、特に part VII では速読が必要になりますが、予習の際にはきちんと文を読み込む、できれば音読する、という準備が必要ではないかと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない

【その他の重要事項】

授業時は辞書を携行してください。
毎回授業の最初にボキャブラリークイズを行います。提出物の点数が平常点となるので、遅刻しないよう注意してください。
遅刻した場合、回数に応じて欠席にカウントされます。

【Outline and objectives】

In questions of Part III, the questions do not necessarily come to the order of the topic in the conversation. You have to get the information while listening and check up the choices on the page. Please listen to the listening file repeatedly and get accustomed to the reduction of pronunciation.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2016 年度以前入学者

鈴木 理枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法文堂国 1～4 年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC TEST650 点以上を目標に掲げる学生を対象とする。TOEIC TEST 受験に最低限必要な語彙力と文法の基礎知識の蓄積及び問題演習による解答テクニックの習得を目指す。

【到達目標】

- ・ TOEIC TEST を受験して、650 点以上を獲得する。
- ・ 社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
- ・ ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

TOEIC 試験に関連するテキストを使用する。各 Unit 毎に TOEIC 試験に出題されるトピックに出てくる語彙と表現を学ぶ。学び方として、通訳訓練法の 'Quick Response'、'Shadowing'、'Repeating'、'Slash Reading' を用い、訓練していく。ペアワーク、発表中心の授業になるため、積極的に参加できる学生の履修を希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 自己紹介	授業の目的、目標、進め方、成績のつけ方について解説する。自己紹介。
2	Unit 1 提案の仕方	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
3	プリント配布	通訳練習 Quick Response Shadowing Slash Reading 発表
4	Unit 2 確認の仕方	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
5	Unit 3 会話を始める 1	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
6	Unit 3 会話を始める 2	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
7	Unit 4 ニュース報道 1	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
8	Unit 4 ニュース報道 2	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
9	Unit 5 義務 1	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
10	Unit 5 義務 2	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
11	Unit 6 理由の伝え方	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
12	模擬試験 正答解説	模擬試験 正答解説
13	プリント配布	通訳練習 Quick Response Shadowing Slash Reading 発表

14 期末テスト
正答解説期末試験
正答季節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 受講するにあたって、必ず予習して授業に臨むこと。
 辞書を持参すること。

【テキスト（教科書）】

『The TOEIC TEST TRAINER target650』 Revised Edition
 Masahiko Yamaguchi, Hiroko Matsuura, Michael Howad, Maesaka Geore W. Pifer
 CENGAGE Learning K.K.,2016
 2000 円 + 税

【参考書】

TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編

【成績評価の方法と基準】

平常点：50 % 授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。

期末試験：50 % (TOEIC テスト形式)

【学生の意見等からの気づき】

発表中心の双方向の授業に対して、学生からの高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。

【Outline and objectives】

This class targets the students who want to get more than 650 points for TOEIC Test. The aim of the course is to acquire the Reading and Listening skills for TOEIC test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2016 年度以前入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法文営国 1~4 年 / レベル 3,4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き、この授業では TOEIC TEST で 650 点以上を目標に、このレベルに必要な知識の蓄積と、問題演習による解答テクニックの習得を目指す。社会で必要とされる知識を身につける。

【到達目標】

- ・ TOEIC TEST を受験して、650 点以上を獲得する。
- ・ 社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
- ・ ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

TOEIC 試験に関連するテキストを使用する。各 Unit 毎に TOEIC 試験に出題されるトピックに出てくる語彙と表現を学ぶ。学び方として、通訳訓練法の 'Quick Response'、'Shadowing'、'Repeating'、'Slash Reading' を用い、訓練していく。ペアワーク、発表中心の授業になるため、積極的に参加できる学生の履修を希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 苦情の伝え方	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
2	Unit 7 苦情の伝え方	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
3	Unit 8 交通情報—スキミング	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
4	Unit 8 交通情報—スキミング	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
5	Unit 9 Yes/No で答える質問	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
6	Unit 9 Yes/No で答える質問	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
7	Unit 10 意見の伝え方	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
8	Unit 10 意見の伝え方	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
9	Unit 11 意見の一致・不一致	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
10	Unit 11 意見の一致・不一致	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
11	Unit 12 会議—スキミング	Vocabulary Training Point 解説 Dictation
12	Unit 12 会議—スキミング	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
13	総復習	総復習 模擬試験 正答解説
14	期末テスト 正答解説	期末テスト 正答解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講するにあたって、必ず予習して授業に臨むこと。辞書を持参すること。

【テキスト（教科書）】

『The TOEIC TEST TRAINER target650』 Revised Edition
Masahiko Yamaguchi, Hiroko Matsuura, Michael Howad, Maesaka
Geore W. Pifer
CENGAGE Learning K.K., 2016
2000 円 + 税

【参考書】

TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編

【成績評価の方法と基準】

平常点：50 % 授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。

期末試験：50 % (TOEIC テスト形式)

【学生の意見等からの気づき】

発表中心の双方向の授業に対して、学生からの高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。

【Outline and objectives】

Continuing from the previous term, this class targets the students who want to get more than 650 points for TOEIC Test. The aim of the course is to acquire the Reading and Listening skills for TOEIC test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for TOEIC TEST.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅰ 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅰ 2016年度以前入学者

野崎 将俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文堂国 1～4 年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC の概要を知り、問題形式に慣れる。TOEIC 全パートの問題演習を通じてスコアアップと英語の基礎力向上を目指す。

【到達目標】

スコア 600 を目標とする。TOEIC に特有のボキャブラリーを増やす。アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア各国の英語に慣れ、正確に聞き取ることができる。文法問題に強くなる。リーディングのスピードを上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の問題演習および解答と解説。解答根拠をグループやペアで話し合い発表してもらう。毎回リスニングの小テスト、また適宜単語テストを実施する。学期末には TOEIC 形式のミニテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Daily Life	品詞の区別、広告
2	Places	E メール、カード、告知
3	People	代名詞、テキストメッセージ、記事
4	Travel	ウェブサイト、E メール
5	Business	動詞の形、メモ、E メール
6	Office	手紙
7	Technology	語彙、レポート、テキストメッセージ
8	Personnel	手紙、記事
9	Management	接続詞、告知、E メール
10	Purchasing	E メール、広告
11	Finances	時制、広告・メモ
12	Media	記事
13	Entertainment	前置詞、E メール
14	Health, Restaurants	広告、文書、熟語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 Goal 600 4th Edition. Mark D. Stafford. 桐原書店。2018年。1,800円。

【参考書】

テキスト記載のウェブサイトから音声ダウンロード。授業支援システムから資料を適宜ダウンロード。

【成績評価の方法と基準】

出席を含む平常点30%、小テスト40%、ポストテスト30%とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークに割く時間を増やしたい。文法事項などを体系的に説明したい。

【Outline and objectives】

This is an introductory course of the TOEIC Listening and Reading test. It aims to help students acquire basic skills that are essential for the TOEIC test.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ 2017年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ 2016年度以前入学者

野崎 将俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文堂国 1～4 年/レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC のスコアアップに有効な解答戦略を身につける。TOEIC 全パートの問題演習を繰り返すことで、解答力と総合的な英語力を向上させる。

【到達目標】

スコア 600 以上を目標とする。そのために必要なボキャブラリーを強化する。各国のナチュラルスピードの英語に慣れ、正確に聞き取ることができる。文法問題に強くなる。リーディングのスピードをさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の問題演習および解答と解説。解答根拠をグループやペアで話し合い発表してもらう。毎回、各ユニットの学習内容に基づいた小テストを行う。学期末には TOEIC 形式のミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Pre-test	実力診断
2	Food & Restaurant	料理、食事、名詞
3	Entertainment	娯楽、芸術、代名詞
4	Travel	旅行、観光、助動詞
5	Sports & Health	スポーツ、健康、形容詞
6	Purchasing	買い物、注文、現在進行形
7	Housing & Accommodations	住宅・不動産、宿泊施設、過去形・現在完了形
8	Office Work (1)	日常業務、販売、動名詞と不定詞
9	Office Work (2)	クレーム処理、出荷、似た意味を持つ前置詞
10	Employment	雇用、就職、注意すべき比較表現
11	Lectures & Presentations	講演、発表、仮定法
12	Business Affairs (1)	交渉、契約、関係詞
13	Business Affairs (2)	市場調査、売り込み、接続詞
14	Post-test	広告、文書、熟語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

Fast Pass for the TOEIC L&R Test. 上仲律子、是近成子。センゲージラーニング。2019年。2,100円

【参考書】

テキスト記載のウェブサイトから音声ダウンロード。授業支援システムから資料を適宜ダウンロード。

【成績評価の方法と基準】

出席を含む平常点30%、小テスト40%、ポストテスト30%とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークに割く時間を増やしたい。文法事項などを体系的に説明したい。

【Outline and objectives】

This course is designed for students to develop the test-taking strategies and language skills that are required to do well on the TOEIC Listening and Reading test.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法文堂国 1～4 年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

大学生の TOEIC(R) 全国平均 (400 点台後半) 以上の点を最低取れるようにして、実際に 500 点台の英単語を書けるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進み方を詳しく説明していく
2	文法説明 第 1 課	TOEIC(R) で必要とする基礎的文法の説明
3	第 1 課 芸術と娯楽	リスニング 音の変化 1（音の脱落）
4	第 1 課 芸術と娯楽	名詞・代名詞にフォーカスしていく
5	第 2 課 ランチとパーティー	第 1 課小テスト リスニング 音の変化 2（子音と母音の連結 1 there is, come in など）
6	第 2 課 ランチとパーティー	形容詞。冠詞にフォーカスしていく
7	第 3 課 医療と健康	第 2 課小テスト リスニング 音の変化 3（子音と母音の連結 2 call on, drop on など）
8	第 3 課 医療と健康	副詞
9	第 4 課 交通と旅行	第 3 課小テスト リスニング 音の変化 4（音の混合 did you, meet you など） 比較
10	第 4 課 交通と旅行	
11	第 5 課 注文と輸送	第 4 課小テスト リスニング 音の変化 5（t 音の変化 twenty, got to など）
12	第 5 課 注文と輸送	動詞&時制
13	第 6 課 注文と輸送	第 5 課小テスト リスニング いろいろな数字に慣れる
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニング（教科書付属の CD その他）
 自分で単語帳を作って英単語を覚える

【テキスト（教科書）】

Essential Approach For The TOEIC L&R TEST Revised Edition 成美堂 2000 円

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]
 成美堂 (1700 円)

【成績評価の方法と基準】

出席が 12 回以上で、試験の点数が、概ね 60 点以上の者を合格とする。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、また、学期半ばで欠席が 4 回以上になった者は、その時点で名簿から削除する。試験の点数のほかに、授業時の発言点、自主レポート点などを考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

体調不良のことがあり、声が聞こえにくいことがあるのを改善していきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法文堂国 1～4 年 / レベル 2,3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

大学生の TOEIC(R) 全国平均 (400 点台後半) 以上の点を最低取れるようにして、実際に 500 点台の英単語を書けるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期に引き続き授業を進めていく
2	第7課 研究と開発	英語とカタカナ表記の発音の違い
3	第7課 研究と開発	時制の一致
4	第8課 コンピュータと科学技術	第7課小テスト トピックの把握
5	第8課 コンピュータと科学技術	能動態・受動態
6	第9課 雇用と昇進	第8課小テスト 状況・人間関係の把握
7	第9課 雇用と昇進	不定詞・動名詞
8	第10課 宣伝と人事	第9課小テスト 場面のイメージ
9	第10課 宣伝と人事	分詞
10	第11課 電話とメッセージ	第10課小テスト 英語の話の展開の特徴
11	第11課 電話とメッセージ	助動詞
12	第12課 銀行業務と財務	第11課小テスト 大意を聞き取る
13	第12課 銀行業務と財務	接続詞
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リスニング（教科書付属の CD その他）
自分で単語帳を作って英単語を覚える

【テキスト（教科書）】

Essential Approach For The TOEIC L&R TEST Revised Edition 成美堂 2000 円

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]
成美堂 (1700 円)

【成績評価の方法と基準】

出席が 12 回以上で、試験の点数が、概ね 60 点以上の者を合格とする。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。正当な理由なく 4 回連続欠席した者、また、学期半ばで欠席が 4 回以上になった者は、その時点で名簿から削除する。試験の点数のほかに、授業時の発言点、自主レポート点などを考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

体調不良のことがあり、声が聞こえにくいことがあるのを改善していきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

LANe200LA

Oral Communication I 2017 年度以降入学者

LANe200LA

Oral Communication I 2016 年度以前入学者

山崎 亮介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では英語で自身の意見を表現できるようになることを目標に授業を展開していきます。毎週のスピーキングでは単なるディクテーションに終始することなく、ペア・ワークやグループ・ディスカッションといったアクティビティのなかで英語による会話そのものを楽しみながら、基礎的な英語の会話表現を習得することを目指します。

【到達目標】

1. 基礎的な英語の会話表現を習得し、自身の考えについて簡単なスピーキングで表現することができる。
2. ペア・ワークやグループ・ディスカッションに積極的に参加することを通して、受講生同士で意見や情報を伝え合うことができる。
3. 授業内のディスカッションにおいて、自身の考えを論理的に発せられるようになることに加え、他の受講生の意見についても丁寧に耳を傾ける姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書の各 Unit を 2 週かけて学習していきます。授業内で進めていく学習と、事前の予習に基づいた学習があるため、指定された箇所の予習は必ず事前に済ませておくことは必須です。予習箇所については、前の週ごとにこちらから指示を出します。また学期末にはグループ・プレゼンテーションに取り組み、学期内で学んだ表現を発揮する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半期の授業の進め方について：導入アクティビティ
2	Unit 1: Living for Work (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
3	Unit 1: Living for Work (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking
4	Unit 2: Good Times, Good Feelings (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
5	Unit 2: Good Times, Good Feelings (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking
6	Unit 3: The Marketing Machine (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
7	Unit 3: The Marketing Machine (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking
8	Unit 4: Wild Weather (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
9	Unit 4: Wild Weather (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking + グループ・プレゼンテーションの班を決めます。
10	Unit 5: Focus on Food (1) and, the Preparation for the Group Presentation	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking + グループ・プレゼンテーションの準備に取り掛かります。
11	Unit 5: Focus on Food (2) and, the Preparation for the Group Presentation	Activities based on the Video, Listening, and Speaking + グループ・プレゼンテーションの準備に取り組みます。
12	Preparation for the Group Presentation	グループ・プレゼンテーションの準備
13	Group Presentation	グループ・プレゼンテーションの実施
14	期末テスト	学期内で学習した習熟度を確認するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述したように、指定された箇所の予習は必須です（例：各ユニットに設定されている語彙の学習を事前に済ませておくこと）。予習範囲で分からない基礎的な文法事項や表現についても事前に調べておきましょう。予習段階で分からない内容があっても構いませんが、「何が」「どこが」分からなかったのかを明確にし、授業内で質問できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking (second edition)

出版社：Cengage Learning

出版年：2018 年

価格：¥ 3,210 + 税

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業への貢献度：授業内での発言、学習への熱心な取り組み、ペアワークやグループ・ディスカッションなどへの積極的参加度）
 2. 学期末のグループ・プレゼンテーション 30%
 3. 期末試験 40%
- ※ 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
※ 3 回の遅刻（授業開始時刻から 15 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎時、必ず辞書を持参すること。辞書の形式は電子辞書でも紙媒体でも、形式は問いません。スマートフォンや携帯電話などの外部と通信できる機能を有するものは、原則辞書として認めません。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic and academic English for practical purposes and aims to help students to present their ideas in English. In order to achieve the goal, students will have several opportunities to communicate with other students through pair work and small group discussion. Furthermore, this course sets the group presentation in English as one of the important academic skills.

LANe200LA

Oral Communication II 2017 年度以降入学者

LANe200LA

Oral Communication II 2016 年度以前入学者

山崎 亮介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では英語で自身の意見を表現できるようになることを目標に授業を展開していきます。毎週のスピーキングでは単なるディクテーションに終始することなく、ペア・ワークやグループ・ディスカッションといったアクティビティのなかで英語による会話そのものを楽しみながら、基礎的な英語の会話表現を習得することを目指します。

【到達目標】

1. 基礎的な英語の会話表現を習得し、自身の考えについて簡単なスピーキングで表現することができる。
2. ペア・ワークやグループ・ディスカッションに積極的に参加することを通して、受講生同士で意見や情報を伝え合うことができる。
3. 授業内のディスカッションにおいて、自身の考えを論理的に発せられるようになることに加え、他の受講生の意見についても丁寧に耳を傾ける姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書の各 Unit を 2 週かけて学習していきます。授業内で進めていく学習と、事前の予習に基づいた学習があるため、指定された箇所の予習は必ず事前に済ませておくことは必須です。予習箇所については、前の週ごとにこちらから指示を出します。また学期末にはグループ・プレゼンテーションに取り組み、学期内で学んだ表現を発揮する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	前期の復習：後期の学習内容確認：アクティビティ
2	Unit 6: Housing for the Future (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
3	Unit 6: Housing for the Future (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking
4	Unit 7: Exploring Space (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
5	Unit 7: Exploring Space (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking
6	Unit 8: Creative Arts (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
7	Unit 8: Creative Arts (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking
8	Unit 9: Our Relationship with Nature (1)	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking
9	Unit 9: Our Relationship with Nature (2)	Activities based on the Video, Listening, and Speaking + グループ・プレゼンテーションの班を決めます。
10	Unit 10: How We Communicate (1) and, the Preparation for the Group Presentation	Introduction of the Unit, Vocabulary, Listening, and Speaking + グループ・プレゼンテーションの準備に取り掛かります。
11	Unit 10: How We Communicate (2) and, the Preparation for the Group Presentation	Activities based on the Video, Listening, and Speaking + グループ・プレゼンテーションの準備に取り組みます。
12	Preparation for the Group Presentation	グループ・プレゼンテーションの準備
13	Group Presentation	グループ・プレゼンテーションの実施
14	期末テスト	学期内で学習した習熟度を確認するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述したように、指定された箇所の予習は必須です（例：各ユニットに設定されている語彙の学習を事前に済ませておくこと）。予習範囲で分からない基礎的な文法事項や表現についても事前に調べておきましょう。予習段階で分からない内容があっても構いませんが、「何が」「どこが」分からなかったのかを明確にし、授業内で質問できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking (second edition)

出版社：Cengage Learning

出版年：2018 年

価格：¥ 3,210 + 税

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業への貢献度：授業内での発言、学習への熱心な取り組み、ペアワークやグループ・ディスカッションなどへの積極的参加度）
 2. 学期末のグループ・プレゼンテーション 30%
 3. 期末試験 40%
- ※ 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
※ 3 回の遅刻（授業開始時刻から 15 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎時、必ず辞書を持参すること。辞書の形式は電子辞書でも紙媒体でも、形式は問いません。スマートフォンや携帯電話などの外部と通信できる機能を有するものは、原則辞書として認めません。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic and academic English for practical purposes and aims to help students to present their ideas in English. In order to achieve the goal, students will have several opportunities to communicate with other students through pair work and small group discussion. Furthermore, this course sets the group presentation in English as one of the important academic skills.

LANe200LA

Oral Communication I 2017年度以降入学者

LANe200LA

Oral Communication I 2016年度以前入学者

ロバート・G・ジェイムズ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
環 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To promote the development of communication skills in English

【到達目標】

To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will work in groups and pairs to share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher. Later they will develop a group response to a challenge about the topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Description of the course. Mini-lesson or placement test depending on student numbers.
Lesson 2	Family	Discuss family, family life and family members. Task: Pros and cons of living alone
Lesson 3	Friends	Discuss friends from different stages of life. Task: Assessing friendship
Lesson 4	House and Home	Discuss houses, homes and locations. Task: Deciding on a place for a permanent home.
Lesson 5	Transportation	Discuss travel and transport for work and leisure Task: Assessing Japanese public transport.
Lesson 6	Restaurants	Discuss places to eat, drink and menus. Task: Assess Japanese restaurant conditions and services.
Lesson 7	Mid-term review	Prepare a speech describing your personal lifestyle
Lesson 8	Mid-term test	Present your speech to students and teacher.
Lesson 9	School life	Discuss student lifestyles and study Task: Assessing a university curriculum
Lesson 10	Media and reading	Discuss a variety of on-online or paper reading material. Task: Assessing new sources of reading material.
Lesson 11	Fashion	Discuss personal tastes in clothes and fashion Task: Assess the role and usefulness of uniforms
Lesson 12	Sports	Discuss various sports and exercise, leisure or entertainment Task: Assess the relationship of sports and lifestyle.
Lesson 13	Vacations	Discuss memorable vacations. Task: Exploring ideal vacation places and activities.
Lesson 14	Review and test preparation	Review recent topics and prepare 2nd test speech.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should follow up lessons by compiling notes on each topic that expands on the new vocabulary and useful language they learned in each lesson.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】

Any topic-based elementary conversational English textbook could be studied in conjunction with the course. For vocabulary study, consider a "smart" flashcard app such as "Anki" available for most desktop and mobile platforms.

【成績評価の方法と基準】

Grading based on attendance and 2 speeches

in-class performance : 40%

2 x Speech performance : 2 x 15%

2 x Speech content : 2 x 15%

【学生の意見等からの気づき】

The topics discussed are a subset of many that could be used that reflect the interests of young people. Recent changes include discussion of online study material, particularly podcasts.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Attendance is an important component of the course. Students who are busy with club activities or other weekend commitments should consider if they can attend all the classes. Those with good attendance should have no problem in successfully completing the course.

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to speak fairly fluently about themselves and their life as a student.

LANe200LA

Oral Communication II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Oral Communication II 2016年度以前入学者

ロバート・G・ジェイムズ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
環 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop Communication skills in English.

【到達目標】

To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

The course will continue with the same methodology as Oral Communication I: discussion in pairs and groups followed by a task-based activity. The topics explored will be somewhat more challenging.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Description of the course. Mini-lesson or placement test depending on student numbers.
Lesson 2	Movies	Discuss movie genres and favorite examples Task: Movie review.
Lesson 3	Jobs and work	Discuss careers, jobs and job hunting Task: Assessing criteria for choosing a company to work for.
Lesson 4	Money	Discuss personal uses of money and obtaining it Task: Assess different countries' approach to financing students
Lesson 5	Music	Discuss tastes in music and musical styles Task: Assessing music sources in the digital age.
Lesson 6	Holidays	Discuss national holidays and traditional celebrations Task: Exploring free time and how to use it.
Lesson 7	Mid-term review	Prepare a speech describing your personal lifestyle
Lesson 8	Mid-term Test	Present your speech to other students and teacher.
Lesson 9	The academic year	Discuss study schedules and time management Task: Pros and Cons of adopting international semester times.
Lesson 10	Traditional and virtual classrooms	Discuss what and how to study. Task: Pros and Cons of traditional school curriculum.
Lesson 11	Alternative energy.	Discuss traditional sources of energy and how they are used Task: Pros and Cons of new and alternative energy sources.
Lesson 12	Crime and safety	Discuss common types of crime in Japan and safety measures. Task: Discuss and decide on appropriate punishment for various crimes.
Lesson 13	Christmas	Discuss Christmas traditions in Japan and elsewhere Task: Selecting and justifying gifts and gift-giving.
Lesson 14	Review	Review second half of course, and prepare final speech.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should follow up lessons by compiling notes on each topic that expands on the new vocabulary and useful language they learned in each lesson.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】

Any topic-based intermediate-level conversational English textbook could be studied in conjunction with the course. For vocabulary study, consider a "smart" flashcard app such as "Anki" available for most desktop and mobile platforms.

【成績評価の方法と基準】

Grading based on attendance and 2 speeches

Attendance: 40%

2 x Speech performance: 2 x 15%

2 x Speech content: 2 x 15%

【学生の意見等からの気づき】

The topics discussed are a subset of many that could be used that reflect the interests of young people. Recent changes include discussions of online learning and the virtual classroom.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Attendance is an important component of the course. Students who are busy with club activities or other weekend commitments should consider if they can attend all the classes. Those with good attendance should have no problem in successfully completing the course.

【Outline and objectives】

By the end of the course students should be able to speak in English fairly fluently about themselves, their life as a student and also on selected topics of current interest in the realm of society and culture.

LANe200LA

English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

LANe200LA

English through MD. I 2016年度以前入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
環 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Love Actually により口語表現を学びます。この作品は、軽い恋愛もののオムニバス映画ですが（だからこそ）、日常会話に応用し易い比較的平易な表現を豊富に含んでいます。

【到達目標】

1. 口語表現に親しみ、応用できるよう習得する。
2. **Authentic** な英語に対するリスニング力を向上させる。
3. シナリオを読むことに慣れる。
4. 場面や人物について、英語で描写できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この作品のテキストは、プレタスク（語句や表現の予備知識を習得する）→聴き取り→表現練習で構成される各ユニットから成る前半部と、各ユニットに該当する映画本編のスク립トから成る後半部で構成されています。本講座では、プレタスクと聴き取りの後、シナリオを味読し、最後に表現のタスクに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。受講希望者数によっては、選抜を行うので、最初の授業に必ず出席してください。
第2回	Unit 1: Love Actually is All Around	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第3回	Unit 1: Love Actually is All Around	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第4回	Unit 2: Agony of Being in Love	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第5回	Unit 2: Agony of Being in Love	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第6回	Unit 3: Feel Uncomfortable?	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第7回	Unit 3: Feel Uncomfortable?	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第8回	Unit 4: Have You Gone Completely Insane?	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第9回	Unit 4: Have You Gone Completely Insane?	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第10回	Unit 5: It's for You	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第11回	Unit 5: It's for You	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第12回	Unit1～5 までのまとめ	映画前半部分についてのコメント交換など。
第13回	期末試験	リスニングを含む筆記試験
第14回	春学期授業の総括と秋学期授業の導入	期末試験を返却して解説講義します。秋学期授業の予告と導入を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストのタスクとシナリオリーディングは、予習を前提として授業を進めます。

【テキスト（教科書）】

Love Actually -映画総合教材『ラブ・アクチュアリー』（松柏社）

【参考書】

ノベライズ版があります。
Love Actually(Penguin Readers)

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

2018年度は *Notting Hill* を使用しましたが、映画好きの受講者が多く、とても楽しみながら学んでいるリアクションでした。教える方も楽しかったです。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室での授業です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

You will be expected to learn colloquial expressions in the movie, *Love Actually*. It is an omnibus style of romantic comedy, and it contains a great variety of relatively plain English expressions which can be applied to everyday conversation in English.

LANe200LA

English through Movies and Drama II 2017年度以降入学者

LANe200LA

English through MD. II 2016年度以前入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
環 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Love Actually により口語表現を学びます。この作品は、軽い恋愛もののオムニバス映画ですが（だからこそ）、日常会話に応用し易い比較的平易な表現を豊富に含んでいます。

【到達目標】

1. 口語表現に親しみ、応用できるよう習得する。
2. Authentic な英語に対するリスニング力を向上させる。
3. シナリオを読むことに慣れる。
4. 場面や人物について、英語で描写できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この作品のテキストは、プレタスク（語句や表現の予備知識を習得する）→聴き取り→表現練習で構成される各ユニットから成る前半部と、各ユニットに該当する映画本編のスク립トから成る後半部で構成されています。本講座では、プレタスクと聴き取りの後、シナリオを味読し、最後に表現のタスクに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習とオリエンテーション	春学期の復習をしながら、秋学期から履修する受講生のオリエンテーションを行います。
第2回	Unit 6: You're Beautiful	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第3回	Unit 6: You're Beautiful	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第4回	Unit 7: All I Want for Christmas is You	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第5回	Unit 7: All I Want for Christmas is You	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第6回	Unit 8: The Time to Be With the People You Love	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第7回	Unit 8: The Time to Be With the People You Love	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第8回	Unit 9: All I Want for Christmas is You	テキストのプレタスク → 聴き取り → シナリオリーディングと映像理解
第9回	Unit 9: All I Want for Christmas is You	シナリオリーディングと映像理解 → 英語表現のタスク
第10回	Unit 10: Let's Review!!	テキストで準備された全編復習のタスク
第11回	イギリス英語とアメリカ英語の違い	発音・スペリング・表現における両者の違いを解説します。
第12回	Unit6～10までのまとめ	映画後半部分についてのコメント交換など。
第13回	期末試験	リスニングを含む筆記試験
第14回	秋学期授業の総括	期末試験を返却して解説講義します。主な出演俳優の他の作品について語ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストのタスクとシナリオリーディングは、予習を前提として授業を進めます。

【テキスト（教科書）】

Love Actually -映画総合教材『ラブ・アクチュアリー』（松柏社）

【参考書】

ノベライズ版があります。
Love Actually(Penguin Readers)

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

2018年度は *Notting Hill* を使用しましたが、映画好きの受講者が多く、とても楽しみながら学んでいるリアクションでした。教える方も楽しかったです。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室での授業です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

You will be expected to learn colloquial expressions in the movie, *LoveActually*. It is an omnibus style of romantic comedy, and it contains a great variety of relatively plain English expressions which can be applied to everyday conversation in English.

LANe200LA

English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

LANe200LA

English through MD. I 2016年度以前入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュー・グラント主演のイギリスのコメディ映画『アバウト・ア・ボーイ』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、CDでスクリプトを聞き、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、スクリプトの音源の CD を聞き、リスニング能力を向上させ、内容については、テキストで問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習を前提にした授業を行う。映画の一部をまず見て、CDでセリフを聞き、教科書の問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	辞書の使い方、授業の進め方などの説明を行う
2	Unit 1 A Boy and a Man	ふたりの男子
3	Unit 2 Will joins SPAT	ウィル SPAT に入会
4	Unit 3 You Need a Backup	支えが要るんだ
5	Unit 4 Will and Marcus Become Mates	ウィルとマーカスの奇妙な友情
6	Unit 5 Marcus's Fashion Makeover	マーカスを変身させよう
7	Unit 6 Will's First Real Christmas	初めての本物のクリスマス
8	Unit 7 The Boys Get Crushes	ふたりが同時に恋をした
9	Unit 8 Lies, Half-truths & Honesty	「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」
10	Unit 9 Marcus's Gift to Mum	お母さんへの贈り物
11	Unit 10 No Man Is an Island	人は孤島ではない
12	映画の前半を一気に見る	映画を通して見ることで、内容の理解を深める
13	映画の後半を一気に見る	映画の後半を見て、内容の理解を深める
14	まとめ、テスト	テキストを復習のためのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストの問題を解き、スクリプトに目を通して、注を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

Peter Hedges/ Chris Weitz & Paul Weitz, 神谷久美子, Kim R.Kanel 『About a Boy』 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、授業への貢献度を40%、学期末の試験を60%で採点する。

【学生の意見等からの気づき】

今年から映画を取り上げるので、アンケートは参考になりません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop English skills through watching a film called About a Boy, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

LANe200LA

English through Movies and Drama II 2017年度以降入学者

LANe200LA

English through MD. II 2016年度以前入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マイク・ニューエル監督、ヒュー・グラント、アンディ・マクドゥウェル主演のイギリスのラブコメディ映画『Four Wedding and a Funeral』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、リスニング能力を向上させ、内容については、スクリプトを読み、テキストで問題を解くことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習を前提にした授業を行う。各章のスクリプトと問題をあらかじめ予習している状態で、映画の一部を見て、テキストのスクリプトを読み、問題を解いて理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と辞書の使い方の説明
2	Week 1 Prologue	Wedding 1 へ
3	Week 2 Reception	披露宴
4	Week 3 After the reception	披露宴後
5	Week 4 Wedding 2	2つ目の結婚式
6	Week 5 Reception	2つ目の結婚式の披露宴
7	Week 6 A Day Off	休日
8	Week 7 Wedding 3	3つ目の結婚式
9	Week 8 Funeral	葬式
10	Week 9 Wedding 4 (1)	4つ目の結婚式の前半
11	Week 10 Wedding 4 (2)	4つ目の結婚式の後半 & Epilogue
12	映画の前半を通して見る	映画の前半を通して見て復習する
13	映画の後半を通して見る	映画の後半を通して見て復習する
14	まとめ	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストのスクリプトに目を通して、問題を解いておく。

【テキスト（教科書）】

Richard Curtis ed. & notes by Tomoko Otani, 『Four Wedding and a Funeral』 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、授業への貢献度を40%、学期末の試験を60%で採点する。

【学生の意見等からの気づき】

今年から映画を取り上げるので、アンケートは参考になりません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop English skills through watching a film called Four Wedding and a Funeral, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

LANe200LA

TOEIC(R) I 2017 年度以降入学者

LANe200LA

TOEIC(R) I 2016 年度以前入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 6/Tue.6
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「TOEIC®って何？」という入門レベルの話題から出発しますが、秋学期授業終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、春学期から出題内容・言語スキルを系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC®形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、CALL システムや e ラーニングによる個別問題演習や実践力を養う一斉小テストも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期・秋学期の概要とレベルの説明。
第 2 回	Unit 1: Dining and Shopping (形容詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 3 回	Unit 2: Computers (動詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 4 回	Unit 3: Science and Technology (不定詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 5 回	Unit1～3 の文法事項の復習	テキストの文法セクションを補強し、より系統的に学びます。
第 6 回	問題演習	CALL 教室のインストールソフトによる個別問題演習と、タイムキーピングのための小ペーパーテスト。
第 7 回	Unit 4: Entertainment (強調・倒置)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 8 回	Unit 5: Advertisement (否定)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 9 回	Unit 6: Medicine (使役)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 10 回	Unit 7: Transportation (仮定法)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 11 回	Unit4～7 の文法事項の復習	テキストの文法セクションを補強し、より系統的に学びます。
第 12 回	問題演習	CALL 教室のインストールソフトによる個別問題演習と、タイムキーピングのための小ペーパーテスト
第 13 回	春学期末テスト	12 回までの到達度を確認するため、リスニングを含めたペーパーテストを行います。
第 14 回	春学期の総括	期末テストの返却と解説、秋学期授業の予告、夏季休暇中の課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text (CD 付き) や関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。秋学期 12 月の TOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】

The Next Stage to the TOEIC® Test Intermediate (金星堂)

そのほか、プリント教材

【参考書】

『e ラーニングによる新 TOEIC® TEST 徹底レッスン』(朝日出版社)

URL (例)

<http://heathrow.com/>

<http://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度は少人数だったこともあり、効率良く授業を展開できました。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室での授業です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

We will start with the introductory topic, 'What it is like the TOEIC® test?' Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will learn such knowledge and skills systematically from the spring semester.

LANe200LA

TOEIC(R) II 2017 年度以降入学者

LANe200LA

TOEIC(R) II 2016 年度以前入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 6/Tue.6
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、秋学期はとくにビジネスシーンを意識した内容に取り組みます。秋学期終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。12月のTOEIC®本試は全員に受験していただきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC®形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進度を見計らって、CALL システムや e ラーニングによる個別問題演習や実践力を養う一斉小テストも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の学習内容の復習、夏季休暇中の課題の確認、秋学期の学習計画の説明など。
第 2 回	Unit 8: Business Trips (分詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 3 回	Unit 9: Environment (助動詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 4 回	Unit 10: Office Work(1) (副詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 5 回	Unit 11: Economy (主語と動詞の一致)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 6 回	1. Unit8～11 の文法事項の復習 2. 問題演習	1. テキストの文法セクションを補強し、より系統的に学びます。 2. CALL 教室のインストールソフトによる個別問題演習と、タイムキーピングのための小ペーパーテスト。
第 7 回	Unit 12: Industry (関係詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 8 回	Unit 13: Personnel (比較)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 9 回	Unit 14: Office Work(2) (時制)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 10 回	Unit 15: Banking and Finance (名詞)	テキストによる TOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 11 回	1. Unit12～15 の文法事項の復習 2. 問題演習	1. テキストの文法セクションを補強し、より系統的に学びます。 2. CALL 教室のインストールソフトによる個別問題演習と、タイムキーピングのための小ペーパーテスト。
第 12 回	問題演習	タイムキーピングのための小ペーパーテストをたくさんこなす。
第 13 回	期末テスト	12 回までの到達度を確認するため、リスニングを含めたペーパーテストを行います。

第 14 回 復習

期末テストの返却と解説、12月のTOEIC®本試スコアレポートの提出、今後のTOEIC®受験に関する学習アドバイスなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text (CD 付き) や関連配布プリントの予習を前提として授業を始めます。12月のTOEIC®本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】

The Next Stage to the TOEIC® Test Intermediate (金星堂)
そのほか、プリント教材

【参考書】

『e ラーニングによる新 TOEIC® TEST 徹底レッスン』(朝日出版社)
『TOEIC® テスト公式問題集 新形式問題対応編』(Educational Testing Service)
『TOEIC® Test プラスマガジン』(リント)
URL (例)
<http://heathrow.com/>
<https://www.expedia.co.uk/>
<https://www.ox.ac.uk/gazette/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と期末試験 (40%) と 12 月 TOEIC® 本試のスコア (20%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度は少人数だったこともあり、効率良く授業を展開できました。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室での授業です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

Our final goal for a series of "TOEIC(R)I・II" is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will continue to learn such knowledge and skills systematically. Especially in the fall semester, we will focus on a variety of business situations.

LANe200LA

TOEIC(R) I 2017年度以降入学者

LANe200LA

TOEIC(R) I 2016年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
環 2～4 年

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This class will show you how your English skill on TOEIC can be developed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の TOEIC の問題に近い形式の問題を解きながら、学生諸君の英語力を向上させる。

【到達目標】

各ユニットのリスニングとリーディングの問題を解きながら、学生諸君の力が TOEIC 目標スコア 500 から 600 点のレベルにステップアップすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

最初に学生諸君に問題を解いてもらい、次にその解答を説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	Shopping	Photographs Conversations Incomplete Sentences
2回	Entertainment and Weather	Photographs Question-Response Talks Reading Comprehension
3回	文法	分詞①
4回	文法	分詞②
5回	Eating out	Photographs Conversations Incomplete Sentences Text Completion
6回	Travel	Photographs Question-Response Talks Incomplete Sentences Reading
7回	文法	動名詞①
8回	文法	動名詞②
9回	Health	Photographs Question-Response Talks Text Completion Reading
10回	Housing and Media	Photographs Question-Response Talks Incomplete Sentences Reading
11回	文法	不定詞①
12回	文法	不定詞②
13回	Employment	Photographs Conversations Incomplete Sentences Reading
14回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず授業後に重要語句、文法事項を覚える事を学生諸君に求める。

【テキスト（教科書）】

TOEIC テスト：チャレンジ 500-600

三原京・他

南雲堂

¥1,800

【参考書】

何でもいいからできるだけ多くの問題を解く。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、試験点 80%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

LANe200LA

TOEIC(R) II 2017 年度以降入学者

LANe200LA

TOEIC(R) II 2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
環 2～4 年

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This class will show you how your English skill on TOEIC can be developed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の TOEIC の問題に近い形式の問題を解きながら、学生諸君の英語力を向上させる。

【到達目標】

各ユニットのリスニングとリーディングの問題を解きながら、学生諸君の力が TOEIC 目標スコア 500 から 600 点のレベルにステップアップすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

最初に学生諸君に問題を解いてもらい、次にその解答を説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Workplaces	Photographs Question and Response Talks Text Completion Reading
2 回	Making Deals	Photographs Conversations Incomplete Sentences Text Completion
3 回	文法	仮定法
4 回	文法	仮定法
5 回	文法	仮定法
6 回	Office Messages	Photographs Question-Response Talks Incomplete Sentences Reading
7 回	Sales	Photographs Conversations Incomplete Sentences Text Completion Reading
8 回	長文	アメリカの文化について
9 回	長文	環境問題について
10 回	長文	アメリカと環境問題について
11 回	Commuting	Photographs Question-Response Talks Incomplete Sentences Text Completion
12 回	Presentation and Workshops	Photographs Conversations Incomplete Sentences
13 回	復習	Reading Grammar
14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日学習した重要語句、文法事項について授業後必ず覚える事を学生諸君に求める。

【テキスト（教科書）】

TOEIC テスト：チャレンジ 500-600

【参考書】

何でもいいからできるだけ多くの問題を解く。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 % 試験点 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君が分かりやすいように、できるだけ丁寧に説明する。

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検、TOEFL、IELTS の 3 種類の英語検定試験内容の紹介と演習を行います。「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力をバランス良く強化するために必要な技能を学びます。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of long lectures
- 3 Improve grammatical skill and expand vocabulary

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 自らの学習動機の明確化とゴール設定
2. 英検、TOEFL、IELTS テスト形式の紹介
3. 実践練習問題による弱点の特定と強化

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	Self-introduction and explanation of the course
2 回	Introduction to STEP Eiken.	Explanation of the basic format of Eiken and practice
3 回	Introduction to TOEFL.	Explanation of the basic format of TOEFL and practice
4 回	Introduction to IELTS.	Explanation of the basic format of IELTS and practice
5 回	Examination practice to identify strengths and weaknesses	Grammar and logical reading skill practice
6 回	Examination practice to identify strengths and weaknesses	Grammar and logical reading skill practice
7 回	Examination practice to identify strengths and weaknesses	Effective listening practice
8 回	Examination practice focusing on listening	Intensive listening practice
9 回	Examination practice focusing on listening	Intensive listening practice
10 回	Examination practice focusing on listening	Intensive listening practice
11 回	Examination practice focusing on reading	Intensive grammar practice
12 回	Examination practice focusing on reading	Intensive logical reading practice
13 回	Examination practice focusing on reading	Intensive logical reading practice
14 回	Final test and Feedback	Test and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignment
- 2 Online TED watching assignments

【テキスト（教科書）】

Handout

【参考書】

You will be given a list of references.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and class participation (30%), Home assignment (20%), Final test (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No feedback from students because this is the first year of this course.

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

The course is for students who would like to improve their English through preparation for the STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. Students will practice logical reading and effective listening skills.

LANe200LA

Students will practice logical reading and well-organized writing skills.

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検、TOEFL、IELTS の3種類の英語検定試験内容の紹介と演習を行います。「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力をバランス良く強化するために必要な技能を学びます。

【到達目標】

- 1 Be able to write well-organized multi-paragraph essays;
- 2 Be able to understand long lectures;
- 3 Improve grammatical skill and expand vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 自らの学習動機の明確化とゴール設定
2. 英検、TOEFL、IELTS テスト形式の紹介
3. 実践練習問題による弱点の特定と強化

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	Self-introduction and explanation of the course
2 回	Introduction to STEP Eiken.	Explanation of the basic format of Eiken and practice
3 回	Introduction to TOEFL	Explanation of the basic format of TOEFL
4 回	Introduction to IELTS	Explanation of the basic format of IELTS
5 回	Examination practice to identify strengths and weaknesses	Grammar and logical reading skill practice
6 回	Examination practice to identify strengths and weaknesses	Effective listening practice
7 回	Examination practice to identify strengths and weaknesses	Well-organized writing practice
8 回	Examination practice focusing on listening	Intensive listening practice
9 回	Examination practice focusing on listening	Intensive listening practice
10 回	Examination practice focusing on listening	Intensive listening practice
11 回	Examination practice focusing on writing	Intensive writing practice
12 回	Examination practice focusing on writing	Intensive writing practice
13 回	Examination practice focusing on writing	Intensive writing practice
14 回	Final test and Feedback	Test and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignment
- 2 Online TED watching assignments

【テキスト（教科書）】

Handout

【参考書】

You will be given a list of references.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and class participation (30%), Home assignment (20%), Final test (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No feedback from students because this is the first year of this course.

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

The course is for students who would like to improve their English through preparation for the STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests.

LANe200LA

Business Communication I 2017年度以降入学者

LANe200LA

Business Communication I 2016年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に付ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず、TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めに商業英語短文の Dictation による Listening 小テストを毎回行う。メイン教材としては、まず TOEIC® 実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネス DVD 視聴、英文書類、E メール作成と添削指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Academic English と Business English	Business Communication に必要な英語について概説する
第 2 回	Listening 1 TOEIC® Listening Test	市場 TOEIC® の Listening 問題
第 3 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 1	信用照会先 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1（文法）
第 4 回	Listening 3 TOEIC® Grammar 問題 2	業歴 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2（語彙）
第 5 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 1	取引 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1（単一文書単語補充）
第 6 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 2	需要 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2（単一文書読解）
第 7 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 3	取扱 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3（複数文書の関連付け）
第 8 回	Listening 7 TOEIC® Reading 問題 4	代理店 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4（図表・伝票を含む複数文書）
第 9 回	Listening 8 英文帳票作成	見積 Leave Request Domestic/Oversea Travel Form
第 10 回	Listening 9 社内文書作成	オフター Interoffice Memo Notice
第 11 回	Listening 10 社交文書作成 1	値引 会合連絡への返信英文メール作成
第 12 回	社交文書作成 2	礼状、悔やみ状などの英文レター作成
第 13 回	就職活動文書作成	履歴書作成 応募カバーレター 紹介状・推薦状
第 14 回	期末試験	学習内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅準備する。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC® 問題、Dictation 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用する。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。TOEIC® や日商ビジネス英語検定試験の受験希望者には、別途参考文献を紹介する。国際ビジネスや貿易英語の基本文献についても、希望者に別途文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ビジネス英語に慣れるために TOEIC® 問題の読解を行うが、一回分すべてを扱うのに授業回数がかさみすぎて後半の Letter やメールの Writing が少ないとの指摘があった。このため、今年度は TOEIC® 問題読解の中心をビジネスレターやメールなどにし、新聞記事などを省くことにする。新聞記事や一般的な広告の英文は、辞書を引けば学生自身で読めるためである。

【Outline and objectives】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students.

LANe200LA

Business Communication II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Business Communication II 2016年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
環 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業始めに貿易取引の流れや用語を解説した後、商業英語短文の Dictation による Listening 小テストを行う。秋学期は文書面での学習が中心なので、TOEIC®のビジネス関連の問題も扱う。授業後半には、国際ビジネスの実際に触れるために英文書類作成、PCを使用した英文レター・Eメール作成を行い、添削指導を行う。TOEIC® Listening & Reading 問題や Writing 問題を使い、実力を伸ばす。なお、秋学期からの履修も可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Business English と TOEIC®等各種資格試験	Business Communication に必要な英語と TOEIC®, ビジネス英語検定試験等について解説する
第2回	Listening 1 TOEIC® Listening Test	在庫 TOEIC®の Listening 問題
第3回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 1	注文 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1(文法)
第4回	Listening 3 TOEIC® Grammar 問題 2	契約 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2(語彙)
第5回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 1	信用状 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1(単一文書単語補充)
第6回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 2	船腹 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2(単一文書読解)
第7回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 3	保険 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3(複数文書の関連付け)
第8回	Listening 7 TOEIC® Reading 問題 4	通関 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4(図表・伝票を含む複数文書)
第9回	Listening 8 英文帳票作成 1	船積 Cash Advanced Payment, Expense Report, Cash Payment Request
第10回	Listening 9 英文帳票作成 2	出航 Receipt を使った経費申告
第11回	Listening 10 貿易書類作成	値引 Packing List, Invoice
第12回	国際ビジネス文書 1	ビジネス取引に関する英文メール作成
第13回	国際ビジネス文書 2	ビジネス取引に関する英文レター作成
第14回	期末試験	学習内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で準備する。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC®問題、Dictation 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。TOEIC®や日商ビジネス英語検定試験の受験希望者には、別途参考文献を紹介する。国際ビジネスや貿易英語の基本文献についても、希望者に別途文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、課題等20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ビジネス英語に慣れるために TOEIC®問題の読解を行うが、一回分すべてを扱うのに授業回数がかさみすぎて後半の Letter やメールの Writing が少ないとの指摘があった。このため、今年度は TOEIC®問題読解の中心をビジネスレターやメールなどにし、新聞記事などを省くことにする。新聞記事や一般的な広告の英文は、辞書を引けば学生自身で読めるためである。

【Outline and objectives】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students.

LANe200LA

ニュース英語 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

世界のニュースを正確に読み取る力、聴き取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。基本文法事項や辞書の使い方についても理解を深め、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。扱うジャンルは社会、文化、政治経済、環境、スポーツなど様々だが、関連する情報やデータをネットで探して読み取る作業も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 1: Japan's demographic sweet spot	Reading & Exercises
第 3 回	Unit 2: The crisis in Pakistan's schools	Reading & Exercises
第 4 回	Unit 3: Showing Spine to the Censors, a Bookstore Flourishes	Reading & Exercises
第 5 回	Unit 4: Easier Taught Than Done? Most Popular Class Tackles Happiness	Reading & Exercises
第 6 回	Unit 5: The Case for 'American First' Economics	Reading & Exercises
第 7 回	Unit 7: Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control	Reading & Exercises
第 8 回	Unit 8: Sumo gender controversy flares anew	Reading & Exercises
第 9 回	Unit 9: How to Make A.I. Human-Friendly	Reading & Exercises
第 10 回	Unit 10: Hollywood's protest problem	Reading & Exercises
第 11 回	Unit 11: A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over	Reading & Exercises
第 12 回	Unit 12: The Star who brought the cosmos within reach	Reading & Exercises
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media — 2019 Edition — (Asahi Press, 2019)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)
[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60% + 発表 20% + 提出課題 10% + 平常点 10% によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read and listen efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe200LA

ニュース英語Ⅱ

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
環 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

世界のニュースを正確に読み取る力、聴き取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。基本文法事項や辞書の使い方についても理解を深め、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。扱うジャンルは社会、文化、政治経済、環境、スポーツなど様々だが、関連する情報やデータをネットで探して読み取る作業も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第2回	Unit 13: Van Gogh's obsession with Japan	Reading & Exercises
第3回	Unit 14: Maldives crisis may draw in India and China	Reading & Exercises
第4回	Unit 15: Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost	Reading & Exercises
第5回	Unit 16: Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut	Reading & Exercises
第6回	Unit 17: Nobel for effort to abolish nuclear bombs	Reading & Exercises
第7回	Unit 18: Saudi Arabia lightens up	Reading & Exercises
第8回	Unit 19: Irish Border Problem Remains A Thorn for Britain in Brexit	Reading & Exercises
第9回	Unit 20: Bitcoin comes to campus	Reading & Exercises
第10回	Unit 21: Horrors still await young Rohingya	Reading & Exercises
第11回	Unit 23: The wrong way for Germany to debate Islam	Reading & Exercises
第12回	Unit 26: Seoul OKs \$2.6 million to host Northerners	Reading & Exercises
第13回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第14回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身に付けて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media — 2019 Edition — (Asahi Press, 2019)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60%＋発表20%＋提出課題10%＋平常点10%によって評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格点とする。欠席が4回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3回で欠席1回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生はIDとパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read and listen efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe200LA

Practical English (オーラル・コミ
ユニケーション) A- I 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (オーラルコミュ) A-
I 2016年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
キ 1～4年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Develop practical communication skills to deal with situations that may be encountered while traveling or studying overseas in an English speaking country.

【到達目標】

Become more confident engaging in conversations and expressing opinions in English, both verbally and in written form.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Short lectures / group discussions / role plays

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Class overview / Student introductions	Explanation of class rules and expectations / Student interviews
Class 2	Meeting someone for the first time	Textbook unit 1 Making friends / Starting a conversation
Class 3	Asking for & giving advice	Textbook unit 2 Talking about sports / Keeping a conversation going
Class 4	Comparing & contrasting	Textbook unit 3 Talking about families / Wedding parties
Class 5	Making suggestions & offers	Textbook unit 4 Talking about cooking & eating / Giving yourself time to think (conversational placeholders)
Class 6	Making choices & decisions	Textbook unit 5 Talking about part-time jobs / Finding things in common
Class 7	Vocabulary development	Word Up exercise (small groups)
Class 8	Asking for & giving opinions	Textbook unit 6 Talking about movies / Asking for repetition
Class 9	Giving orders & instructions	Textbook unit 7 Contacting friends / Introducing a new topic
Class 10	Giving reasons to support your opinion	Textbook unit 8 Showing understanding & interest / Living independently
Class 11	Expressing agreement & disagreement	Textbook unit 9 Being an active listener / Talking about clothes & fashion
Class 12	Asking for permission	Textbook unit 10 Learning to drive / Using synonyms (words with similar meanings)
Class 13	Review units 1-10 / Vocabulary development	Practice key phrases & vocabulary / Word Up (group activity)
Class 14	Final exam	Textbook units 1-10

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. Keep a weekly journal of all English-related activities (i.e. watching a movie / reading an online article / listening to music, etc.). Do at least one activity each week.
2. Interview 3 non-Japanese and find out the following:
 - Name / Country of origin
 - Reason(s) for being in Japan
 - Likes & dislikes about Japan

【テキスト (教科書)】

On Air Listen and Communicate by Graeme Todd / Roger Palmer /
Makimi Kano
(Kinseido Publishing)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Class participation
40%-Outside assignments
30%-Final exam

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

none

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

【Outline and objectives】

Develop practical communication skills to deal with situations that may be encountered while traveling or studying overseas in an English speaking country.

LANe200LA

Practical English (オーラル・コミ
ユニケーション) A-II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (オーラルコミュ) A-
II 2016年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

キ 1～4年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Develop the necessary communication skills to deal with situations that may be encountered while traveling or studying overseas in an English-speaking country.

【到達目標】

Become more confident engaging in conversations and expressing opinions in English, both verbally and in written form.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Short lectures / group discussions / role plays

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Review class rules & expectations	Summer holiday student interviews
Class 2	Talking about future plans	Textbook unit 11 Talking about volunteer work / Using vague language
Class 3	Giving & accepting invitations	Textbook unit 12 Talking about dating / Asking for clarification
Class 4	Talking about frequency & routines	Textbook unit 13 Talking about music / Asking for explanation of words & phrases
Class 5	Adding emphasis (word stress)	Textbook unit 14 Talking about the environment / Speaking loudly & clearly
Class 6	Predicting the future	Textbook unit 15 Talking about hopes & ambitions / Using appropriate body language
Class 7	Vocabulary Development	Word Up exercise (small groups)
Class 8	Picking out & discussing key points / Individual speeches	Steve Jobs Stanford graduation speech
Class 9	Picking out & discussing key points / individual speeches	TED talk (topic to be determined)
Class 10	Writing a well-structured sentence	Making ideas clear & simple
Class 11	Writing a well-structured paragraph	Using topic, supporting & concluding sentences
Class 12	Writing a well-structured essay	Organizing & supporting key ideas
Class 13	Finalize & practice group project	Prepare a short skit (5 min) on one of the textbook topics
Class 14	Final group project	Prepare a short skit (5 min) on one of the textbook topics

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. Keep a weekly journal of all English-related activities being done outside of class (i.e. watching a movie / reading an online article / listening to music, etc.). Do at least one activity per week.
2. Prepare a 3-minute speech on one of the following topics (to be delivered in class 8 or 9)
 - Your favorite thing to do on the weekend
 - A place you would like to visit
 - A person you would like to meet
 - Your favorite high school teacher

【テキスト (教科書)】

On Air Listen and Communicate by Graeme Todd / Roger Palmer / Makimi Kano (Kinseido Publishing)

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

30%-Class participation
40%-Outside assignments
30%-Final group project

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

none

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

【Outline and objectives】

Develop the necessary communication skills to deal with situations that may be encountered while traveling or studying overseas in an English-speaking country.

LANe200LA

Practical English (オーラル・コミ ユニケーション) B- I 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (オーラルコミュ) B- I 2016年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
キ 1～4年

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

none

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

【Outline and objectives】

Using textbook listening and discussion activities as well as role plays and short speeches, students will have the opportunity to express their ideas in a more logical and persuasive manner.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Develop the ability to express ideas and opinions on a range of topics to enhance communication when traveling or studying overseas in an English speaking country.

【到達目標】

Become more confident engaging in conversations and expressing opinions in English, both verbally and in written form.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Short lectures / group discussions / role plays

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Class overview / Student introductions	Explanation of class rules and expectations / Student interviews
Class 2	Asking for and expressing opinions	Textbook unit 1-Extreme Sports -Discussion activity / Sharing opinions
Class 3	Supporting opinions	Textbook unit 1-Extreme Sports -Role play / Being assertive
Class 4	Asking for and giving advice	Textbook unit 2-Fraud: Avoiding Identity Theft -Discussion activity / Giving advice
Class 5	Inferring meaning through context	Textbook unit 2-Fraud: Avoiding Identity Theft -Role play / Reporting a crime
Class 6	Public speaking(1)	Each student gives a 3-5 minute talk on a selected topic
Class 7	Public speaking(2)	Each student gives a 3-5 minute talk on a selected topic
Class 8	Supporting ideas with examples & details	Textbook unit 3-Exploring Space -Discussion activity / Life beyond Earth
Class 9	Thinking logically	Textbook unit 3-Exploring Space -Role play / Mars Mission
Class 10	Expressing a point of view	Textbook unit 4-Words that Persuade -Discussion activity / Mandatory volunteerism
Class 11	Being persuasive	Textbook unit 4-Words that Persuade -Role play / Vacation Plans
Class 12	Vocabulary development	Word Up vocabulary game
Class 13	Review units 1-4	Practice key phrases & vocabulary
Class 14	Final exam	Textbook units 1-4

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. Prepare a 3-5 minute speech on a selected topic (list to be provided in the first class)
2. Interview 3 non-Japanese and ask each one their opinion on a selected topic (list to be provided in the first class)

【テキスト (教科書)】

NorthStar 3: Listening & Speaking (fourth edition)

Helen Solorzano / Jennifer Schmidt

Pearson Publishing

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Class participation

40%-Class assignments

30%-Final exam

LANe200LA

Practical English (オーラル・コミ
ュニケーション) B- II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (オーラルコミュ) B-
II 2016年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
キ 1～4年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Develop the ability to express ideas and opinions on a range of topics to enhance communication when traveling or studying overseas in an English speaking country.

【到達目標】

Become more confident engaging in conversations and expressing opinions in English, both verbally and in written form.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Short lectures / group discussions / role plays

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Review class rules & expectations	Summer holiday student interviews
Class 2	Extending a conversation	Textbook unit 5-Careers: Following your Passion Discussion activity: The Ideal Job
Class 3	Clarifying information	Textbook unit 5-Careers: Following your Passion Role play: Job interview
Class 4	Culture & Communication	Textbook unit 6-Tourism: Culture & Commerce Discussion activity: Impact of culture on communication
Class 5	Making a proposal	Textbook unit 6-Tourism: Culture & Commerce Role play: Japan Tour Package
Class 6	Public Speaking(1)	Each student will make a 3-5 persuasive speech on a selected topic
Class 7	Public Speaking(2)	Each student will make a 3-5 persuasive speech on a selected topic
Class 8	Debating a position	Textbook unit 7: Marriage & Relationships Discussion activity: Pros & cons of marriage
Class 9	Leading a discussion	Textbook unit 7: Marriage & Relationships Discussion activity: Future of marriage
Class 10	Seeing both sides of an issue	Textbook unit 8: Climate Change Discussion activity: Climate change: fact or fiction?
Class 11	Putting together a well-structured argument	Textbook unit 8: Climate Change Discussion activity: Climate change debate
Class 12	Vocabulary development	Word Up vocabulary game
Class 13	Review units 5-8	Practice key phrases & vocabulary
Class 14	Final exam	Units 5-8

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. Watch 3 TED Talks and write a short summary with your opinion of each talk
2. Prepare a 3-5 minute persuasive speech on a selected topic (to be provided during class 1)

【テキスト (教科書)】

NorthStar 3: Listening & Speaking (fourth edition)
Helen Solorzano / Jennifer Schmidt
Pearson Publishing

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

30%-Class participation
40%-Class assignments
30%-Final exam
More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

none

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

【Outline and objectives】

Using textbook listening and discussion activities as well as role plays and short speeches, students will have the opportunity to express their ideas in a more logical and persuasive manner.

LANe200LA

English for Study Abroad I 2017年度以降入学者

LANe200LA

English for Study Abroad I 2016年度以前入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語圏への短期留学を準備する学生のための準備クラスです。学生はこの授業を通して、英語圏で勉強するために必要な、英語表現（ライティングとスピーキング）とリスニングのための様々な技術を身につけます。ジェームズ・キャメロン監督の映画『タイタニック』を題材にしたテキストを用い、映画場面の聞き取りや英語要約、ディスカッションなど、英語 4 技能にまたがるレッスンをを通して、英語表現、英語コミュニケーションに対する心理的障壁を取り除くことが、この授業の目的です。

【到達目標】

この授業を履修することを通して学生は、英語コミュニケーションのために必要な、いくつかのスキルを身につけます。日常会話でスムーズにコミュニケーションをするためには、いくつかの定型的な表現を身につけていることが必要です。たとえば、'Get Closer' 「もっと近づいてくれ」、'We're running out of time' 「もうあまり時間がない」などの、日常会話に必要な口語表現を映画のシーンを通して学び、スムーズに会話の中で使えるよう、ペアワークなどを通して練習します。また、リスニングの練習を通して、英語の聞き取りを難しくしている音声変化の基礎知識を学びます。さらには、ディスカッションの演習を通して、自らの考えを英語で表現する技術を身につけます。欧米文化圏では、自分の意見を述べることを頻りに求められますが、その際に「分かりません」、「何も考えたことがありません」という答えは通用しません。自らの意見を持つためには、日常的に様々なことに興味を持ち、興味を持った事柄を批判的に見る視点や、自分がどのような人間なのか自己分析する姿勢が重要です。本授業を通して学生は、英語表現技術だけではなく、このような自己表現のための基本的マインドセットも身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、リスニングに関しては、DVD 視聴を中心に据え、演習形式で行います。スピーキングに関しては、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイなどを取り入れて行います。ライティングに関しては、リアクションペーパーを用いた課題を出します。リーディングに関しては、基本的には授業内で読みますが、読めなかった分は宿題とします。また理解度確認のための小テストを授業内で何度か行ないます。小テストを行なう前の週に予告します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4月9日	イントロダクション Unit1: The Woman in the Picture	授業の方針・内容 文法ポイント：分詞 1 読解：不沈船と呼ばれたタイタニック号
4月16日	Unit2: Back to Titanic	文法ポイント：受動態 読解：ホープダイヤモンド
4月23日	Unit3: Leaving Port	文法ポイント：助動詞 読解：不沈のモリー・ブラウン
5月7日	Unit4: Don't Do It	文法ポイント：仮定法 読解：沈没船から生還した船員
5月14日	Unit5: Do You Love Him?	文法ポイント：進行形 読解：船内の石炭運搬人と機関員
5月21日	Unit6: I Can't See You	文法ポイント：関係詞 1 読解：船名の由来
5月28日	Unit7: I'm Flying!	文法ポイント：関係詞 2 読解：船舶に女性代名詞を使う理由
6月4日	Unit8: Iceberg Right Ahead!	文法ポイント：完了形 読解：タイタニック号と衝突した氷山
6月11日	Unit9: An Honest Thief	文法ポイント：分詞 2 読解：沈没を予言した小説
6月18日	Unit10: Goodbye, Mother	文法ポイント：未来形 読解：沈没まで演奏し続けた楽団
6月25日	Unit11: Get in the Boat	文法ポイント：代名詞 読解：遺品にまつわる逸話
7月2日	Unit12: Two Tragic Bullets	文法ポイント：動名詞 読解：マードック一等航海士の実像
7月9日	Unit13: Promise Me	文法ポイント：不定詞 読解：避難時に起きた恥ずべき行為

7月16日 Unit14: Rose's Secret 文法ポイント：否定
日 全体のまとめ 読解：日本人の生存者

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、事前学習として、テキスト各ユニット冒頭の Vocabulary と Expressions の問題を各自でやっておくことが求められます。

授業内で読みきれなかったリーディングの問題は、宿題として出します。

事前学習と宿題は、次の授業の最初にチェックします。

小テストの予告がなされたら、出題範囲をよく復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：Learn English with Titanic (映画『タイタニックで学ぶ総合英語])

著者：角山輝彦、Simon Capper

出版社：成美堂

出版年：2016年

価格：2300円（税別）

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、すべて平常点で行います。従って学期末試験は行いません。

平常点の算出は、リスニングやリーディングへの取り組み、ペアワークやディスカッション等における授業参加 (40%)、授業内で行われる小テスト (40%)、ライティングの課題 (20%) などを総合して行います。これらの総合得点が 60 点以上で単位修得が可となります。

欠席回数が 4 回を超えた場合、原則として単位修得は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students who aim to prepare for SA. Students will learn skills of English communication required for studying abroad, especially skills of writing, speaking, and listening, through this course. Lessons will be given through the text 'Learn English with Titanic'. Students will watch some scenes from the movie and do exercises such as listening, discussion, retelling, etc. The final goal of this course is to encourage students to express their thoughts or ideas in English by removing psychological barriers they feel when communicating in English. Toward this goal, students will also learn the basic mindset for expressing themselves in English as well as the skills for that.

LANe200LA

English for Study Abroad II 2017年度以降入学者

LANe200LA

English for Study Abroad II 2016年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA先でのレポートの執筆や発表（発表用の資料の作成）に備え、英語でのアカデミック・ライティングの基本について学習する。授業では、教科書の課題を行いながら各自が1つのテーマを設定してレポートを完成させる。

【到達目標】

- ・アカデミックライティングの基礎を学習する
- ・実現可能なテーマの設定をし、論旨の構築を行う
- ・発表のための資料を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最終的に各自がレポートを執筆し発表することを意識しながら教科書の課題を行います。

レポートの内容および英語での書き方について学生同士で議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	Title of an Essay	タイトルの決定
第3回	Introduction of an Essay	イントロダクションの役割
第4回	Body of an Essay	ボディの構造
第5回	Conclusion of an Essay	コンクルージョンのまとめ方
第6回	発表のテーマの設定	各自が発表する内容の大まかなテーマを決めます
第7回	Structure of a Research Paper	研究論文の構造
第8回	Key Concepts of an Abstract	アブストラクトの重要な特徴
第9回	Key Concepts of Presentations	プレゼンテーションとは
第10回	Preparing Visual Aids	視覚資料の作成
第11回	発表の要旨 (abstract)	発表の要旨を完成させます
第12回	発表に向けての準備	発表に用いるスライドまたはハンドアウトの完成を目指します
第13回	発表 (前半)	学生による発表
第14回	発表 (後半)	学生による発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として教科書の課題を行う必要があります。レポート執筆および発表のために少しずつ作業を進める必要があります。

【テキスト（教科書）】

・3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language
3つの要素で学ぶアカデミック・ライティングの基本, 深山晶子/幸重美津子/尾崎智子/村尾純子/Ashley Moore 著, 金星堂。(¥2,000円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (20%)

課題 (50%)

発表 (30%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

同一の授業の前年度の担当がなかったためありません。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English writing and for bulding materials for presentation.

LANe200LA

Practical English (ビジネス・コミュニケーション) A-I 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (ビジネスコミュ) A-I 2016年度以前入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたいグローバルな知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第2講	発音ドリル	発音の確認
第3講	Lesson 1(1) What Is Business Psychology?	内容の購読
第4講	Lesson 1(2) What Is Business Psychology?	内容の要約と意見のまとめ
第5講	Lesson 2 (1)The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第6講	Lesson 2 (2)The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第7講	Lesson 3 Rest Assured	内容の理解、要約、意見のまとめ
第8講	Lesson 4 Working with Robots	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第9講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 1	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 2
第10講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 2	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第11講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1
第12講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2
復習	全体の復習	全体の復習
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters -The Psychology of Business and Work- Jim Knudsen 著
南雲堂
ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の教場練習への参加程度 (10%)、プレゼンテーション (30%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていたいただきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じて、DVD や CD などを使用します。

【その他の重要事項】

授業時以外の時間の学習が必要です。また、プレゼンテーションでは、グループ性と一人1分以上の英語を原稿なしで話すことが求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe200LA

Practical English (ビジネス・コミュニケーション) A-II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (ビジネスコミュ) A-II 2016年度以前入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたいグローバルな知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。グループ・プレゼンテーションでは、英語で自分の意見を言えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、英語で発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第2講	夏休みの出来事を書く	夏休みの出来事をテンプレートを用いて書く
第3講	夏休みの予定を書く	夏休みの予定をテンプレートを用いて書く
第4講	Lesson 7 Me, Myself, and I	内容の理解、要約、意見のまとめ
第5講	Lesson 8 Give and Take	内容の理解、要約、意見のまとめ
第6講	Lesson 9 What a Troublemaker: The Office Gossip	内容の理解、要約、意見のまとめ
第7講	Lesson 10 What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容の理解、要約、意見のまとめ
第8講	Lesson 11 Handsome Is As Handsome Does	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第9講	Lesson 12 My Space, Your Space	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 2
第10講	Lesson 13 So You Want to Be An Entrepreneur	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第11講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 3	グループ・プレゼンテーション 3
第12講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 4	グループ・プレゼンテーション 4
復習	全体の復習	全体の復習
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習及びグループ学習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくことと、グループ発表のための計画をし、グループで集まり、発表の内容を考え、発表の練習をすることです。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters - The Psychology of Business and Work - Jim Knudsen 著
南雲堂 2017年 ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習への参加程度 (10%)、プレゼンテーション (30%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていたいただきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じて、DVD や CD などを使用します。

【その他の重要事項】

授業時以外の時間の学習が必要です。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe200LA

Practical English (ビジネス・コミュニケーション) B- I 2017 年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (ビジネスコミュ) B- I 2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Business communication skills

【到達目標】

This course aims to develop the student's vocabulary and ability to discuss key business concepts and engage in realistic problem solving discussions. Topics such as Data management, Etiquette, and Success will be covered in the course. Special emphasis will be placed on vocabulary, listening and speaking skills. After group discussions, the students will be required write short memos or email messages to communicate in written form.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will study business communication skills and practice these by engaging in pair work, group work, and discussion/problem solving activities. Students will also discuss a business case at the end of each unit and report discussion results in class. Some brief written assignments will also be given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check	Ice breakers and introduction to course; level assessment
Week 2	Unit 1 Business Activities	Describing roles and activities; Word building; explaining jobs; greeting people; Simple present vs present continuous
Week 3	Unit 1 Business Activities	Describing roles and activities; Word building; explaining jobs; greeting people; Simple present vs present continuous Case discussion
Week 4	Unit 2 Data collection and management	Using the internet; countable nouns; Quantity and number; checking information
Week 5	Unit 2 Data collection and management	Using the internet; countable nouns; Quantity and number; checking information Case discussion
Week 6	Unit 3 Etiquette in business situations	Offers and requests; being polite vs being direct; Synonyms and prefixes
Week 7	Unit 3 Etiquette in business situations	Offers and requests; being polite vs being direct; Synonyms and prefixes Case discussion
Week 8	Unit 4 Image	Quiz Units 1-3 The fashion industry; Comparative, superlative; word building; describing products
Week 9	Unit 4 Image	The fashion industry; Comparative, superlative; word building; describing products Case discussion
Week 10	Unit 5 Factors of Success	Passion and profit; past simple; business failures; collocations; telling a story
Week 11	Unit 5 Factors of Success	Passion and profit; past simple; business failures; collocations; telling a story Case discussion
Week 12	Unit 6 Ideas for the Future	Modals of possibility; financing ventures; collocations; making predictions;

Week 13	Unit 6 Ideas for the Future	Modals of possibility; financing ventures; collocations; making predictions; Case discussion Quiz Units 4-6
Week 14	Unit 7 Business Location	Future plans and intentions; multi-part verbs; making appointments; planning

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assigned from textbook, Writing business correspondence such as email messages, reports of meetings and discussions; preparation for quizzes and presentations done in class.

【テキスト（教科書）】

Intelligent Business Coursebook, Pre-Intermediate, Christine Johnson; Pearson/Longman
ISBN- 0-582-84801-6

【参考書】

Intelligent Business Workbook, Pre-Intermediate, Christine Johnson; Pearson/Longman
ISBN- 0-582-84695-1

http://www.pearsonlongman.com/intelligent_business/
www.economist.com

<http://www.better-english.com/vocabulary.htm>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Course grades will be based on the following components:

Quizzes-50%

Homework from textbook or handouts-20%

Participation-15%

Written assignments (typed)-15%

80% attendance is required to pass the course. Students who miss more than 20% of class time will not be able to pass. Coming to class late will count against your attendance totals. The attendance policy will be explained on the first day of class.

【学生の意見等からの気づき】

More work on discussion skills and vocabulary development

【その他の重要事項】

Students may take this course in either Spring semester, Fall semester, or both.

This course is suitable for students having a TOEIC score between 400 and 550.

【Outline and objectives】

Develop spoken and written competence in a variety of business situations and on a variety of business topics

LANe200LA

Practical English (ビジネス・コミュニケーション) B-II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (ビジネスコミュ) B-II 2016年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Business communication skills

【到達目標】

This course aims to develop the student's vocabulary and ability to discuss key business concepts and engage in realistic problem solving discussions. Topics such as productivity, selling, and insurance will be covered in the course. Special emphasis will be placed on vocabulary, listening and speaking skills. After group discussions, the students will be required write short memos or email messages to communicate in written form.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアアデプティン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will study business communication skills and practice these by engaging in pair work, group work, and discussion/problem solving activities. Students will also discuss a business case at the end of each unit and report discussion results in class. Some brief written assignments will also be given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check	Ice breakers and introduction to course; level assessment
Week 2	Unit 8 Job seeking	The online job market; imperatives; Explaining what to do; Fixed procedures or flexibility
Week 3	Unit 8 Job seeking	The online job market; imperatives; Explaining what to do; Fixed procedures or flexibility Unit 8 quiz
Week 4	Unit 9 Selling	Case discussion Marketing to students; modals of obligation; Word building; making suggestions; showing reactions
Week 5	Unit 9 Selling	Marketing to students; modals of obligation; Word building; making suggestions; showing reactions Unit 9 quiz
Week 6	Unit 10 Pricing decisions	Case discussion Present perfect; synonyms; Describing a graph; Verbs with objects
Week 7	Unit 10 Pricing decisions	Present perfect; synonyms; Describing a graph; Verbs with objects Unit 10 quiz
Week 8	Unit 11 Insurance	Case discussion Quiz Units 7-9 Fighting fraud; Passive voice; problems; expressing arguments
Week 9	Unit 11 Insurance	Fighting fraud; Passive voice; problems; expressing arguments Unit 11 quiz
Week 10	Unit 12 Customer service	Case discussion Conditionals; feedback on services; dealing with problems
Week 11	Unit 12 Customer service	Conditionals; feedback on services; dealing with problems Unit 12 quiz
Week 12	Unit 13 Productivity	Case discussion Revolutions in car industry; Adjectives and adverbs; just-in time production; word building; stock control

Week 13	Unit 13 Productivity	Revolutions in car industry; Adjectives and adverbs; just-in time production; word building; stock control Unit 13 quiz Case discussion
Week 14	Unit 14 Creativity	Quiz Units 10-12 Conditionals, multi-part verbs; suffixes; Showing disagreement

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assigned from textbook, Writing business correspondence such as email messages, reports of meetings and discussions; preparation for quizzes and presentations done in class.

【テキスト（教科書）】

Intelligent Business Coursebook Pre-Intermediate, Christine Johnson; Pearson/Longman
ISBN 0-582-84801-6

【参考書】

Intelligent Business Workbook Pre-Intermediate, Christine Johnson; Pearson/Longman
ISBN 0-582-84695-1

http://www.pearsonlongman.com/intelligent_business/
www.economist.com

<http://www.better-english.com/vocabulary.htm>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Course grades will be based on the following components:

Quizzes-50%

Homework from textbook or handouts-20%

Participation-15%

Written assignments (typed)-15%

80% attendance is required to pass the course. Students who miss more than 20% of class time will not be able to pass. Coming to class late will count against your attendance totals. The attendance policy will be explained on the first day of class.

【学生の意見等からの気づき】

More work on discussion skills and vocabulary development

【その他の重要事項】

Students may take this course in either Spring semester, Fall semester, or both.

This course is suitable for students having a TOEIC score between 400 and 550.

【Outline and objectives】

Develop spoken and written competence in a variety of business situations and on a variety of business topics

LANe200LA

Practical English (英語検定試験対策) A- I

2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (英検試験対策) A- I

2016年度以前入学者

大和久 梯一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語運用能力は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語運用能力を図る基準の一つが TOEIC(R) のスコアであり、本授業ではいわゆる英語資格試験のスコアアップを目指して、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

語彙力を増やし、社会問題や時事問題に関する英文に対応できるだけの読解力とリスニング能力を身につける。また日常生活の中でも必要とされる表現や文章を得ることで、英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リーディング及びリスニングの練習をおこなう。テキスト 1 章分を、2 回の授業で扱うこととする。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 1	Unit 1 Daily Life [基本 5 文型] (精読、内容理解)
3	Unit 1	Unit 1 Daily Life [基本 5 文型] (再読、リスニング、質疑応答)
4	Unit 2	Unit 2 Eating Out & Leisure Activities [品詞] (精読、内容理解)
5	Unit 2	Unit 2 Eating Out & Leisure Activities [品詞] (再読、リスニング、質疑応答)
6	Unit 3	Unit 3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致] (精読、内容理解)
7	Unit 3	Unit 3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致] (再読、リスニング、質疑応答)
8	Unit 4	Unit 4 Traffic & Travel [形容詞・副詞] (精読、内容理解)
9	Unit 4	Unit 4 Traffic & Travel [形容詞・副詞] (再読、リスニング、質疑応答)
10	Unit 5	Unit 5 Advertising & ICT [時制] (精読、内容理解)
11	Unit 5	Unit 5 Advertising & ICT [時制] (再読、リスニング、質疑応答)
12	Unit 6	Unit 6 Production & Logistics [接続詞・前置詞] (精読、内容理解)
13	Unit 6	Unit 6 Production & Logistics [接続詞・前置詞] (再読、リスニング、質疑応答)
14	Unit 7	Unit 7 Business & Economics [助動詞] (精読、内容理解)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

安丸雅子、砂川典子、秋好礼子、十時康、渡邊晶子、Andrew Zitzmann 著『TOEIC® テスト コアをつかんで完全攻略』金星堂、2015年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

With reading, listening to text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only in classroom but also everyday life.

LANe200LA

Practical English (英語検定試験対策) A-II

2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (英検試験対策) A-II

2016年度以前入学者

大和久 梯一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3
キ1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語運用能力は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語運用能力を図る基準の一つが TOEIC(R) のスコアであり、本授業ではいわゆる英語資格試験のスコアアップを目指して、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

語彙力を増やし、社会問題や時事問題に関する英文に対応できるだけの読解力とリスニング能力を身につける。また日常生活の中でも必要とされる表現や文章を得ることで、英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リーディング及びリスニングの練習をおこなう。テキスト1章分を、2回の授業で扱うこととする。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 8	Unit 8 Employment & Personnel [受動態] (精読、リスニング、内容理解)
3	Unit 8	Unit 8 Employment & Personnel [受動態] (再読、質疑応答)
4	Unit 9	Unit 9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文] (精読、リスニング、内容理解)
5	Unit 9	Unit 9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文] (再読、質疑応答)
6	Unit 10	Unit 10 Health & the Environment [不定詞・動名詞] (精読、リスニング、内容理解)
7	Unit 10	Unit 10 Health & the Environment [不定詞・動名詞] (再読、質疑応答)
8	Unit 11	Unit 11 Finance & Banking [代名詞・関係詞] (精読、リスニング、内容理解)
9	Unit 11	Unit 11 Finance & Banking [代名詞・関係詞] (再読、質疑応答)
10	Unit 12	Unit 12 Law & Administration [比較構文] (精読、リスニング、内容理解)
11	Unit 12	Unit 12 Law & Administration [比較構文] (再読、質疑応答)
12	Review Test 1	小テスト、精読。
13	Review Test 1	小テスト、解説。
14	Review Test 2	小テスト、精読。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

安丸雅子、砂川典子、秋好礼子、十時康、渡邊晶子、Andrew Zitzmann 著『TOEIC® テスト コアをつかんで完全攻略』、金星堂、2015年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40%で評価します。30 分以上の遅刻は欠席とみなし、また 3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなします。4 回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

With reading and listening to text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only in classroom but also everyday life.

LANe200LA

Practical English (英語検定試験対策) B- I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (英検試験対策) B- I

2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生諸君が英検 2 級以上の級に合格することを目的とする。

【到達目標】

語彙、表現、構文、文法等できるだけ細かく説明し、学生諸君があらゆる点必要な知識を習得し、希望の級に合格できる様に指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを使用し必要な説明をした後に、実際に学生諸君に問題を解いて最後にもらう。最後に詳しい解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	句、節、文、5 文型	説明
第二回	句、節、文、5 文型	問題演習
第三回	句、節、文、5 文型	解答と解説
第四回	不定詞	説明
第五回	不定詞	問題演習
第六回	不定詞	解答と解説
第七回	動名詞	説明
第八回	動名詞	問題演習
第九回	動名詞	解答と解説
第十回	分詞	説明
第十一回	分詞	問題演習
第十二回	分詞	解答と解説
第十三回	熟語と表現	問題演習
第十四回	熟語と表現	解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に必ずその日学習した重要語句、文法事項を覚えることを各学生諸君に求める。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

学生諸君の力に合った英検問題集を購入し、できるだけ多くの問題を解く。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

明瞭な説明を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline and objectives】

This class will show you how your comprehensive English skill can be developed.

LANe200LA

Practical English (英語検定試験対策) B-II 2017年度以降入学者

LANe200LA

Practical Eng (英検試験対策) B-II 2016年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1～4年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生諸君が英検 2 級以上の級に合格することを目的とする。

【到達目標】

語彙、表現、構文、文法等できるだけ細かく説明し、学生諸君があらゆる点で必要な知識を習得し、希望の級に合格できるように指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを使用し必要な説明をした後に、実際に学生諸君に問題を解いてもらう。最後に詳しい解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	仮定法	説明
第二回	仮定法	問題演習
第三回	仮定法	解答と解説
第四回	関係詞	説明 (関係代名詞中心)
第五回	関係詞	説明 (関係副詞中心)
第六回	関係詞	問題演習 (関係代名詞中心)
第七回	関係詞	解答と解説 (関係代名詞中心)
第八回	関係詞	問題演習 (関係副詞中心)
第九回	関係詞	解答と解説 (関係副詞中心)
第十回	熟語	問題演習
第十一回	熟語	解答と解説
第十二回	表現	問題演習 (語順整序問題)
第十三回	表現	問題演習 (応用問題)
第十四回	表現	解答と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に必ずその日学習した重要語句、文法事項を覚えることを学生諸君に求める。

【テキスト (教科書)】

プリント使用

【参考書】

学生諸君の力に合った英検問題集を購入し、できるだけ多くの問題を解く。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

明瞭な説明を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline and objectives】

This class will show you how your comprehensive English skill can be developed.

LANj100LA

日本語 1 I 2017年度以降入学者

LANj100LA

日本語 1 - I 2016年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文国 1年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット (読む・聴く) 能力を高める。
また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習 (小テストを行う場合もあり)
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 1 0	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 1 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 1 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 %、課題（発表、提出物）40 %、試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 1 ー II

2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

文国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 %、課題（発表、提出物）40 %、試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj200LA

日本語 3 I

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 3 - I

2016 年度以前入学者

LANj200LA

日本語 3 - I

2017 年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、読解練習、特に速読を中心に練習を行い、テキストの内容を正確に理解するだけでなく、まとめたり、それに対する意見を表現したりする作業を通じて、大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】

学生は、読解練習した内容について、筆者の意図等を正確に理解し、簡潔にまとめられるようになる。また、そのテーマについて、批判的に読み、自分の意見を聞き手にわかりやすく述べるができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習してきた読解教材を音読し、内容についての質問に答える。また、語彙・表現の意味を日本語でわかりやすく説明する練習も行う。さらに、内容をまとめたり、それに対する意見を表現したりする練習を行う。読解練習した内容についての討論や発表なども行う。小テストは試験の前の回の授業で行う。漢字の読み方と語彙・表現の意味の説明を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス 練習 1	授業の説明 教材 1 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
2 回	練習 2	教材 1 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
3 回	練習 3	教材 2 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
4 回	練習 4	教材 2 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
5 回	練習 5	教材 3 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
6 回	練習 6 小テスト 1	小テスト 1 教材 3 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
7 回	中間試験	読解試験
8 回	練習 7	教材 4 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
9 回	練習 8	教材 4 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
10 回	練習 9	教材 5 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
11 回	練習 10	教材 5 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。

12 回	練習 11	教材 6 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
13 回	練習 12 小テスト 2	小テスト 2 教材 6 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
14 回	期末試験	読解試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布されたプリントを必ず予習してくる。予習の範囲は授業で伝える。また、読解練習後の討論などのため、配布されたプリントだけではなく、自分で様々な資料を調べておく。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。主に時事的なテーマを扱う予定なので、教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱ったテーマについて、自分で更に詳しく調べることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

試験（中間・期末）50 %、小テスト 20 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

読解の内容についての討論や発表等、学生が積極的に授業に参加できる練習を増やす。

【その他の重要事項】

・読解教材は一人一回しか配布しない。そのため、自分できちんと管理すること。
・毎回、必ず国語辞書を持ってくること。

【Outline and objectives】

Students will develop their academic skills through reading comprehension exercises, especially rapid reading. In this class, they will be able to understand the contents of the text correctly, summarize it and express their opinions about it.

LANj200LA

日本語 3 II

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 3 - II

2016 年度以前入学者

LANj200LA

日本語 3 - II

2017 年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は読解練習、特に速読を中心に練習を行い、テキストの内容をまとめたり、それに対する意見を表現したりする作業を通じて、大学におけるアカデミック・スキルを養う。さらに、前期での練習を踏まえ、クリティカルリーディングや行間を読む練習も行う。

【到達目標】

学生は、読解練習した内容について、筆者の意図等を正確に理解し、簡潔にまとめられるようになる。また、そのテーマについて、批判的に読み、自分の意見を聞き手にわかりやすく述べるができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習してきた読解教材を音読し、内容についての質問に答える。また、語彙・表現の意味を日本語でわかりやすく説明する練習も行う。さらに、内容をまとめたり、それに対する意見を表現したりする練習を行う。読解練習した内容についての討論や発表なども行う。小テストは試験の前の回の授業で行う。漢字の読み方と語彙・表現の意味の説明を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	練習 1	教材 1 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
2 回	練習 2	教材 1 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
3 回	練習 3	教材 2 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
4 回	練習 4	教材 2 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
5 回	練習 5	教材 3 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
6 回	練習 6 小テスト 1	小テスト 1 教材 3 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
7 回	中間試験	読解試験
8 回	練習 7	教材 4 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
9 回	練習 8	教材 4 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。
10 回	練習 9	教材 5 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
11 回	練習 10	教材 5 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。

12 回	練習 11	教材 6 を音読し、内容について質問し、正確に理解したか確認する。語彙・表現の意味を確認する。理解した内容について、小グループで確認する。
13 回	練習 12 小テスト 2	小テスト 2 教材 6 について、内容を要約する練習を行う。内容について、小グループでディスカッションし、意見を発表する。 読解試験
14 回	期末試験	読解試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布されたプリントを必ず予習してくる。予習の範囲は授業で伝える。また、読解練習後の討論などのため、配布されたプリントだけではなく、自分で様々な資料を調べておく。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。主に時事的なテーマを扱う予定なので、教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱ったテーマについて、自分で更に詳しく調べることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

試験（中間・期末）50 %、小テスト 20 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

読解の内容についての討論や発表等、学生が積極的に授業に参加できる練習を増やす。

【その他の重要事項】

・読解教材は一人一回しか配布しない。そのため、自分できちんと管理すること。
・毎回、必ず国語辞書を持ってくること。

【Outline and objectives】

Students will develop their academic skills through reading comprehension exercises, especially rapid reading, critical reading and reading between lines. In this class, they will be able to understand the contents of the text correctly, summarize it and express their opinions about it.

LANj200LA

日本語 3 I

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 3 - I

2016 年度以前入学者

戸村 佳代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法、語彙の拡充を図りながら、まとまった量の文章を読みとり、その内容を的確に口頭で説明できるようになるための訓練を行う。また、テキストの内容を批判的に読み、それに基づくディスカッションを行う。

【到達目標】

1. まとまった長さの文章を読み、要点を押さえて理解することができる。
2. わかりやすい配付資料をもとに、自分の意見を発表する。
3. 日本の社会問題について議論するために必要な語彙・表現を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 小テスト（漢字・語彙、表現、簡単な文章内容理解チェック）
- (2) 担当者による口頭報告
- (3) 文章の内容把握チェック
- (4) ディスカッション
※ 予習を前提に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	イントロダクション	1. ウォーミングアップとアイスブレーキング 2. テキスト配布 3. 授業の進め方 4. 成績評価について
②	授業の準備の仕方	1. 語彙・表現リストの利用方法、予習の仕方 2. ハンドアウトの作り方（説明と練習） 3. 作業分担について
③	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
④	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑤	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑥	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑦	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑧	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑨	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑩	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑪	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑫	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑬	読解・応用練習	口頭報告／読解（内容理解の確認）／ディスカッション
⑭	まとめ	漢字、語彙・表現、読解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次のような予習と準備をする。
1. 「語彙・表現リスト」を用い、漢字の読み方を確認した上で分からない単語の意味を調べ、内容を理解する。（全員）
2. 報告担当者 2 名は、配付資料（ハンドアウト）と発表用パワーポイントを分担して作成する。また、作成したファイルを授業前にメール添付で教員に送り、添削を受ける。

【テキスト（教科書）】

コピー教材（主に、文藝春秋社『2019 年の論点 100』等から抜粋）

【参考書】

『2019年の論点100』文藝春秋社
 ※その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %
 (小テスト、授業への取り組み)
 課題・授業での発表 30 %
 試験・レポート 40 %

※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。

※遅刻2回を欠席1回とみなす。

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が4回以下であること
- (2) 授業での口頭報告(発表)を行っていること
- (3) 学期末試験を受験していること

【学生の意見等からの気づき】

※効率的な予習が可能になるように、授業支援システムにより「語彙・表現リスト」を担当教員が作成・配布します。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPC、OHCを使用します。
 資料配付、課題提出に授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

※読解テキストの語彙・表現リストの受け渡しを、授業支援システムによって行います。履修登録の前に授業支援システムに登録してください。
 ※最初の授業時に詳しい授業進行予定と語彙・表現リスト作成・口頭発表の分担を決めますので、必ず出席してください。
 ※最初の授業でテキスト(コピー教材)を配布します。

【Outline and objectives】

This class aims to improve your ability of Japanese, focusing on reading, oral presentation, and discussion.

You should be able to:

- ・ identify the essay structure and paragraph structures of various type of Japanese essays, and to grasp the gist of them.
- ・ summarize what you have read and explain it to the rest of the class, using your own words.
- ・ actively discuss a variety of topics of Japanese.

LANj200LA

日本語3Ⅱ

2017年度以降入学者

LANj200LA

日本語3ⅠⅡ

2016年度以前入学者

戸村 佳代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 文2年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

一定のテーマについての必要な情報を収集し、的確に理解・整理した上で、説得力のあるプレゼンテーションを行う訓練を行う。文法、語彙の拡充のみならず、情報発信のために必要な表現方法を学びながらディスカッション・ディベートなどを行う。

【到達目標】

1. まとまった長さの文章を読み、文章構造と論理展開に注目することにより、要点を押さえて理解することができる。
2. わかりやすい配付資料をもとに、自分の意見を発表する。
3. 日本の社会問題について議論するために必要な語彙・表現を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 小テスト(漢字・語彙、表現、簡単な文章内容理解チェック)
 - (2) 担当者による口頭報告
 - (3) 文章の内容把握チェック
 - (4) ディスカッション・ディベート
- ※ 予習を前提に授業を進める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	イントロダクション	1. ウォーミングアップ 2. テキスト配布 3. 成績評価について 4. 口頭発表用資料の作り方(説明と練習)
②	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
③	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
④	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑤	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑥	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑦	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑧	読解・応用練習シオン	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑨	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑩	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑪	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑫	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション
⑬	読解・応用練習	口頭報告練習 読解(内容理解確認)ディスカッション

⑭ まとめ 漢字、語彙・表現、読解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次のような予習と準備をする。

1. 「語彙・表現リスト」を用い、漢字の読み方を確認した上で分からない単語の意味を調べ、内容を理解する。（全員）
2. 報告担当者2名は、配付資料（ハンドアウト）と発表用パワーポイントを分担して作成する。また、作成したファイルを授業前にメール添付で教員に送り、添削を受ける。

【テキスト（教科書）】

コピー教材（主に文藝春秋社『2019年の論点100』から抜粋）

【参考書】

文藝春秋社『2019年の論点100』

※その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

（小テスト、授業への取り組み）

課題・授業での発表 30%

試験・レポート 40%

※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。

※遅刻2回を欠席1回とみなす。

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が4回以下であること
- (2) 授業での口頭報告（発表）を行っていること
- (3) 学期末試験を受験していること

【学生の意見等からの気づき】

※効率的な予習が可能になるように、授業支援システムにより「語彙・表現リスト」を担当教員が作成・配布します。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPC、OHCを利用します。

資料配付、課題提出に授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

※読解テキストの語彙・表現リストの受け渡しを、授業支援システムによって行います。履修登録の前に授業支援システムに登録をしてください。

※最初の授業時に詳しい授業進行予定と語彙・表現リスト作成・口頭発表の分担を決めますので、必ず出席してください。

※最初の授業でテキスト（コピー教材）を配布します。

【Outline and objectives】

This class aims to improve your ability of Japanese, focusing on reading, oral presentation, and discussion.

You should be able to:

- ・ identify the essay structure and paragraph structures of various type of Japanese essays, and to grasp the gist of them.
- ・ summarize what you have read and explain it to the rest of the class, using your own words.
- ・ actively discuss a variety of topics of Japanese.

LANj200LA

日本語3 I

2017年度以降入学者

LANj200LA

日本語3－I

2016年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1
 営環2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートや論文の執筆などの研究活動に必要な読解力の向上を目的とする。

【到達目標】

1. 学生は、まとまった長さの文章が速く正確に読める。
2. 学生は、読んで理解したことをポイントを押さえてまとめられる。
3. 学生は、読んだ文章の内容をもとに自分の意見を発表・討論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 短めの文章を一人で読む
2. グループで内容を確認
3. 文章の概要を口頭で発表する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	プリントの紹介 授業の進め方 成績評価
②	読解・応用練習	読解・ディスカッション
③	読解・応用練習	読解・ディスカッション
④	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑤	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑥	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑦	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑧	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑨	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑩	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑪	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑫	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑬	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑭	期末課題	期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業で扱う文章の読解を予習として課す場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への取り組み、小テスト（30%）

課題・タスクシート・発表（40%）

期末試験または期末レポート（30%）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this class is to enhance reading comprehension skills for research activities.

LANj200LA

日本語 3 II 2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 3 - II 2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートや論文の執筆などの研究活動に必要な読解力の向上を目的とする。

【到達目標】

1. 学生は、まとまった長さの文章が速く正確に読める。
2. 学生は、読んで理解したことをポイントを押さえてまとめられる。
3. 学生は、読んだ文章の内容をもとに自分の意見を発表・討論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- ①タスクシート本文を数分で読む
- ②タスクシート本文で読み・意味が不明な表現に下線をつける
- ③上記下線部分の漢字、読み、意味などを本文の下に書く
- ④本文の音読後、要約を口頭で発表
- ⑤本文内容について教師の問い、学生からの質問
- ⑥本文関連読解資料を音読する
- ⑦本文、関連資料の話題についてグループディスカッション後に発表

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	プリントの紹介 授業の進め方 成績評価
②	読解・応用練習	読解・ディスカッション
③	読解・応用練習	読解・ディスカッション
④	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑤	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑥	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑦	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑧	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑨	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑩	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑪	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑫	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑬	読解・応用練習	読解・ディスカッション
⑭	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習は基本的に必要がないが、復習はきちんとすることが求められる。
2. 配布されたタスクシートは即時記入する。提出の期限は授業当日。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への取り組み、小テスト（30%）
課題・タスクシート・発表（40%）
期末試験または期末レポート（30%）
※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。
※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this class is to enhance reading comprehension skills for research activities.

LANj200LA

日本語 4 I 2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - I 2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - I 2016 年度以前入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「精読」を授業内での中心的な作業として行い、テキストを厳密に読み込む作業を通して、大学における読解のアカデミック・スキルを養成する。

【到達目標】

日本語テキストの内容をできるだけ主観的なバイアスをかけないように読み取ることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 生の日本語テキストを使用し、できうる限り厳密にテキストを読み込むことによって、執筆者の意図に近づく努力をする。
- 2 語彙や表現について予習を課し、授業では内容についての質疑応答を行い、必要に応じて内容に関する討論も行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとテキストの紹介	授業運営の詳細について解説し、テキストを紹介する
2	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
3	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
4	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
5	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
6	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
7	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
8	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
9	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
10	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
11	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
12	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
13	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
14	授業内試験	テキストの日本語および内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの語句・漢字・表現等を自分なりに予習し、不明な点があれば授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

最初は、鈴木睦「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」、田窪行則編『視点と言語行動』くろしお出版、を用いる。
このテキストは第一回目の授業の際に配布する。
このテキストが終了次第、滝浦真人『ボライトネス入門』研究社、を用いる。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

経験的に、学生自身はわかったつもりでも、実は理解していないところがあるので、理解度をためしつつ授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

授業内容に関係のないことでも、日本や日本人に関することであるならば、全員の益に資すると判断されれば取り扱うので、積極的にコミットしてほしい。

【Outline and objectives】

The title of this class is "the careful reading". The purpose of this class is to master the way of reading texts written with Japanese. You can get the reading ability of Japanese texts used at the academic class in the university.

LANj200LA

日本語 4 II

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - II

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - II

2016 年度以前入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「精読」を授業内での中心的な作業として行い、テキストを厳密に読み込む作業を通して、大学における読解のアカデミック・スキルを養成する。

【到達目標】

やや論文的なテキストを使用し、最終的に日本語テキストの内容を正確に読み取る能力を訓練する。これは専門のための勉強にも直接役立つ能力であるので、しっかりくわいついてきてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 以下の日本語テキストを使用し、厳密にテキストを読み込むことによって、執筆者の意図に近づく努力をする。
- 2 語彙や表現について予習を課し、授業では内容についての質疑応答を行い、必要に応じて内容に関する討論も行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期試験の解説・テキストの読解	春学期試験の解説およびテキストの読解と内容に関する質疑応答
2	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
3	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
4	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
5	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
6	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
7	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
8	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
9	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
10	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
11	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
12	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
13	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
14	授業内試験	テキストの日本語および内容に関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの語句・漢字・表現等を自分なりに予習し、不明な点があれば授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

おそらく春学期の途中から読み始める、滝浦真人『ポライトネス入門』研究社、の続きを読むことになる。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

経験的に、学生自身はわかったつもりでも、実は理解していないところがあるので、理解度をためしつづつ授業をすすめていきたい。

【その他の重要事項】

授業内容に直接関係のないことでも、日本や日本人に関することであるならば、全員の益に資すると判断されれば取り扱うので、積極的にコミットしてほしい。

【Outline and objectives】

The title of this class is "the careful reading". The purpose of this class is to master the way of reading texts written with Japanese. You can get the reading ability of Japanese texts used at the academic class in the university.

LANj200LA

日本語 4 I

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - I

2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を教材に読解力をつける
内容は学生の様子を見て適宜変更する

【到達目標】

- 1 語彙力をつける
- 2 物語の大意を取る
- 3 時代、社会背景を理解しながら、登場人物の気持ちや展開を考える
- 4 在日韓国・朝鮮人への理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 小説を事前に読み、わからない語彙・表現を調べてくる。
- 2 担当者が小説の内容について質問シートを作成する。
- 3 質問の答えを考え発表する。
- 4 翌週漢字の読みテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	長編小説を読む	GO 1 章 金城一紀（かねしろかずき）
2	長編小説を読む	GO 1 章
3	長編小説を読む	GO 2 章
4	長編小説を読む	GO 2 章
5	長編小説を読む	GO 3 章
6	長編小説を読む	GO 3 章
7	長編小説を読む	GO 4 章
8	長編小説を読む	GO 4 章
9	長編小説を読む	GO 5 章
1 0	長編小説を読む	GO 5 章
1 1	長編小説を読む	GO 6 章
1 2	長編小説を読む	GO 7 章
1 3	長編小説を見る	GO 映画鑑賞
1 4	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない語彙・表現を調べ小説を読んでくる。
担当者は小説の内容について質問シートを作成してくる。
漢字を覚える。

【テキスト（教科書）】

『GO』 金城一紀 角川文庫 473 円

【参考書】

プリント

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題 30 %、テスト 50 %
3 回欠席あるいは 3 回遅刻は落第

【学生の意見等からの気づき】

在日韓国・朝鮮人の歴史と生活について学びながら小説自体の面白さで最後まで楽しく読めたという意見がありました。
学生が問いかけ考える授業形態にしたいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to improve reading comprehension skills.
Students read Japanese novels and increase vocabulary.

LANj200LA

日本語 4 II 2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 ー II 2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

文国 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を教材に読解力をつける。
内容は学生の様子を見て適宜変更する。

【到達目標】

- 1 語彙力をつける
- 2 物語の大意を取る
- 3 物語の展開を理解する
- 4 物語を創作する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 語彙・表現のチェック
- 2 大意を取る
- 3 展開を理解し、結末を予想する
- 4 物語を創作する
- 5 漢字のテスト

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	短編小説 1-1	「夏の葬列」 山川方夫（やまかわまさお）
2	短編小説 1-2	「夏の葬列」 山川方夫
3	短編小説 1-3	「夏の葬列」 山川方夫
4	短編小説 2-1	「来訪者」 阿刀田高（あとうだたかし）
5	短編小説 2-2	「来訪者」 阿刀田高
6	長編小説 2-3	「来訪者」 阿刀田高
7	短編小説 2-4	「来訪者」 阿刀田高
8	長編小説 1-1	『阪急電車』 有川 浩（ありかわひろ）
9	長編小説 1-2	『阪急電車』 有川 浩
10	長編小説 1-3	『阪急電車』 有川 浩
11	長編小説 1-4	『阪急電車』 有川 浩
12	長編小説 1-5	『阪急電車』 有川 浩
13	長編小説 1-6	『阪急電車』 有川 浩
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない語彙、表現を予習する
質問シートを作成し、完成させる
漢字を覚える

【テキスト（教科書）】

『阪急電車』 有川 浩（ありかわひろ） 幻冬舎文庫 576 円

【参考書】

『夏の葬列』 集英社文庫
『阿刀田高傑作短編集』 集英社文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題 30 %、テスト 50 %
欠席 3 回あるいは遅刻 3 回で落第

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな短編・長編小説の展開を想像しながら読むのが楽しいようです。展開・結末が面白いものを選びました。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This class aims to improve reading comprehension skills. Students read Japanese novels and increase vocabulary.

LANj200LA

日本語 4 I 2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 ー I 2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 ー I 2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを緻密に読む技術、および、読むことを通して理解したことを簡潔に口頭で説明する技術を高める。また、読解内容に関して自らの考えを述べる。

【到達目標】

- (1) テキストを緻密に読む技術を身につける
- (2) 読解を通して理解したことの概要を口頭で説明する
- (3) 読解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. テキストの読解
3. テキストの内容に関する質疑応答・議論

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的、進め方について紹介
第 2 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 3 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 4 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 5 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 6 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 7 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 8 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 9 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 10 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 11 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 12 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 13 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 14 回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 30 %、提出物・課題 40 %、最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の知的好奇心を活発化させられるような教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj200LA

日本語 4 II

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - II

2017 年度以降入学者

LANj200LA

日本語 4 - II

2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを緻密に読む技術、および、読むことを通して理解したことを簡潔に口頭で説明する技術を高める。また、読解内容に関して自らの考えを述べる。

【到達目標】

- (1) テキストを緻密に読む技術を身につける
- (2) 読解を通して理解したことの概要を口頭で説明する
- (3) 読解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. テキストの読解
3. テキストの内容に関する質疑応答・議論

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的、進め方について紹介
第 2 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 3 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 4 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 5 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 6 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 7 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 8 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 9 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 10 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 11 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 12 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 13 回	テキストの読解	テキストの読解と内容に関する質疑応答
第 14 回	レポートへの FD	レポートへのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題・提出物 40 %、最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の知的好奇心を活発化させられるような教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

ARSe200LA

日本語の世界 L A

2017 年度以降入学者

ARSe200LA

日本語の世界 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

小宮 修太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語学入門の授業を行う。言語は現代社会のコミュニケーションの道具でもあるが、過去の時代から受けつがれ、形成されてきた文化的な産物でもある。そのようにしてできた言語の諸側面を見つめながら、日本語への理解を深めてもらうのが主な目的である。留学生の皆さんにとっては、読んだり話したりする中で日本語の力を伸ばしていく場にもなると思う。

【到達目標】

1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読解と討論を組み合わせた形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	「日本語の起源」	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
②	「日本語の音声」	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
③	「近頃の日本語」	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
④	「日本語の主語、『は』と『が』」	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑤	「日本語の時制」	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑥	「言葉と文化の関係」	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑦	「日本語の語彙」(1)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑧	「日本語の語彙」(2)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑨	「日本語の語彙」(3)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑩	「日本語の語彙」(4)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑪	「日本語の語彙」(5)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑫	「日本語の語彙」(6)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑬	「日本語の語彙」(7)	テキストの読み合わせ。Q & A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑭	期末テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】1週間前に教科書の予習の範囲を指定するので、その部分の内容を読んでくること。

【テキスト（教科書）】

『日本語の謎を解く 最新言語学Q&A』橋本陽介（新潮選書・2016年）1300円

【参考書】

『新ここからはじまる日本語学』伊坂淳一（ひつじ書房）

『日本語の教室』大野晋（岩波新書・新赤版800）

【成績評価の方法と基準】

予習宿題の提出率（25%）、期末テストの評価（25%）、平常点（50%）を総合して評価を決める。

出席率が60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

【学生の意見等からの気づき】

異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回実施していきたい。

【その他の重要事項】

授業計画は、一部変更することがある。

【Outline and objectives】

This class is an introduction of the study of Japanese language. Language is the tool for communication, and also cultural product which was formed and inherited in the people's history. Students learn various parts of this language, and deepen understanding of it. Also, they can develop ability of reading and speaking in this class lesson.

ARSe200LA

日本語の世界 L B

2017年度以降入学者

ARSe200LA

日本語の世界 II

2016年度以前入学者

サブタイトル：

小宮 修太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、留学生と日本人学生のための日本語・日本事情の授業を行う。言語や文化の面から日本事情についての理解を深めることと、日本語を運用する能力を高めることを主な目的とする。秋学期は、いろいろな職業・世代的日本人や、滞日している外国人が日本語にどんな思いを抱いているかを見ていく。

【到達目標】

1. 日本語の随筆（ずいひつ）を読解し、正しく要約することができる。
2. 日本語で自国の事情を説明したり、自分の意見を言うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読解と討論を組み合わせた形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	「日本語は難しいか」	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
②	「近頃の日本語」(1)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
③	「近頃の日本語」(2)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
④	「近頃の日本語」(3)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑤	「標準語って何？」(1)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑥	「標準語って何？」(2)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑦	「標準語って何？」(3)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑧	「少数民族の言語」	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑨	「話し言葉と向かい合う」(1)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑩	「話し言葉と向かい合う」(2)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑪	「日本語との出会い」(1)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑫	「日本語との出会い」(2)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑬	「日本語との出会い」(3)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。
⑭	「日本語との出会い」(4)	テキストの読み合わせ。Q&A。読解の練習。クラスで話し合う。グループで話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】1週間前に次回のプリントを配るので、内容を読んでくること。

【宿題】まとめシートに記入してくること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

大野晋『日本語の教室』（岩波新書・新赤版800）

【成績評価の方法と基準】

宿題の提出率（25%）、期末レポートの評価（25%）、平常点（50%）を総合して評価を決める。

出席率が60%以上であることを単位取得の条件とし、60%未満の人は試験が受けられない。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論で異文化交流ができるという点も好評なので、毎回実施していきたい。

【その他の重要事項】

授業計画は、一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is deepening of students' understanding of Japanese culture and situation, and developing of their ability of Japanese language. In autumn semester, students learn what kind of thought and feeling do Japanese people of various kinds and foreigners who have lived in Japan for a long time have for Japanese language.

ARSe200LA

日本の文化と社会 L A

2017年度以降入学者

ARSe200LA

日本の文化と社会 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本で生じている諸問題を、留学生の視点、日本人学生の視点から複眼的に検討する。

文献読解、発表、議論を通して特定の問題への理解を深めると共に、異なる文化的背景を持った学生同士で考えることの重要性を体験することを目的とする。

授業で扱うテーマは、参加者の興味関心を考慮し決定する。

（テーマの例：「食」をめぐる諸問題、「能力」とは？、「貧困」をめぐる諸問題、日本社会における「差別」の諸相、日本社会と外国人、SNSとの付き合い方、日本で「働く」ことの諸問題、ナショナリズムの諸相、など）

【到達目標】

1. テーマに関する文献を読み、その概要を口頭で要約することができる。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3. 異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ① テーマに関する文献を読み、その概要を口頭で発表する。
- ② グループで①の文献の内容に基づき、議論を行う。
- ③ グループでの議論の内容をクラス全体で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション(1)、選抜試験とアンケート	受講希望者の中から受講者を選抜するための試験を行う。
②	オリエンテーション(2)、議論の練習①	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する
③	議論の練習②	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する
④	テーマ①	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑤	テーマ①	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑥	テーマ①	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑦	テーマ②	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑧	テーマ②	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑨	テーマ②	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑩	テーマ③	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑪	テーマ③	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑫	テーマ③	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑬	レポート構想発表	レポートの構想について、グループ内で発表し、クラスメイトからFBをもらう
⑭	総括	今学期扱ったテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】授業中に指示した文献を授業までに読み、内容を把握しておくこと（必須）。

【発表の準備】発表の担当者は、よく調べて準備し、レジュメのコピーを人数分用意すること。

【記録の提出】グループ討論の記録者は当日のメモを整理して、次の週に報告すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努力していきたい。

【その他の重要事項】

議論の前提を共有するために、学生は授業までに指定の文献を必ず読んでおくこと。

議論では、他者の意見を真摯な態度で聞き、また、わかりやすく自分の意見を伝えるよう努力すること。

授業で扱われるテーマが自分の関心外であるように思われても、知的探求心をもって取り組み、自分の関心を上げられるよう努めること。

【Outline and objectives】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

ARSe200LA

日本の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

ARSe200LA

日本の文化と社会 II

2016年度以前入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本で生じている諸問題を、留学生の視点、日本人学生の視点から複眼的に検討する。

文献読解、発表、議論を通して特定の問題への理解を深めると共に、異なる文化的背景を持った学生同士で考えることの重要性を体験することを目的とする。

授業で扱うテーマは、参加者の興味関心を考慮し決定する。

（テーマの例：「食」をめぐる諸問題、「能力」とは？、「貧困」をめぐる諸問題、日本社会における「差別」の諸相、日本社会と外国人、SNSとの付き合い方、日本で「働く」ことの諸問題、ナショナリズムの諸相、など）

【到達目標】

1. テーマに関する文献を読み、その概要を口頭で要約することができる。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
3. 異文化の人と話す中で相手の文化をよく理解し、自国の文化との違いをつかむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ① テーマに関する文献を読み、その概要を口頭で発表する。
- ② グループで①の文献の内容に基づき、議論を行う。
- ③ グループでの議論の内容をクラス全体で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション(1)、 選抜試験とアンケート	受講希望者の中から受講者を選抜するための試験を行う。
②	オリエンテーション (2)、議論の練習①	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する
③	議論の練習②	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する
④	テーマ①	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑤	テーマ①	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑥	テーマ①	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑦	テーマ②	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑧	テーマ②	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑨	テーマ②	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑩	テーマ③	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑪	テーマ③	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑫	テーマ③	文献紹介（発表） グループ・ディスカッション
⑬	レポート構想発表	レポートの構想について、グループ内で発表し、クラスメイトからFBをもらう
⑭	総括	今学期扱ったテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】授業中に指示した文献を授業までに読み、内容を把握しておくこと（必須）。

【発表の準備】発表の担当者は、よく調べて準備し、レジュメのコピーを人数分用意すること。

【記録の提出】グループ討論の記録者は当日のメモを整理して、次の週に報告すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの評価（50%）、平常点の評価（50%）
出席率が70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努力していきたい。

【その他の重要事項】

議論の前提を共有するために、学生は授業までに指定の文献を必ず読んでおくこと。
議論では、他者の意見を真摯な態度で聞き、また、わかりやすく自分の意見を伝えるよう努力すること。
授業で扱われるテーマが自分の関心外であるように思われても、知的探求心をもって取り組み、自分の関心を上げられるよう努めること。

【Outline and objectives】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

LANd200LA

ドイツ語3 I

2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握 I

2016年度以前入学者

オストヴァルト・イエンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1
法2年A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解力と文法の強化
ドイツの習慣や文化について書かれたテキストを通して、文法の強化と読解力を身につけます。また、ドイツの文化についても触れることで、総合的なドイツの理解を深めます。

【到達目標】

文法の理解と、読解力をつけることで基礎的なドイツ語を使えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の読解と文法の復習および強化。
授業計画にあげたテーマは例です。受講生の興味などにより変更可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	文法・語彙復習	文法・語彙復習
第3回	第2回の続き	第2回の続き
第4回	自己紹介	自己紹介を言える、書ける、読めるように。 疑問文の練習
第5回	第4回の続き	第4回の続き
第6回	買い物	チラシを読む、買い物に必要な会話を習得する
第7回	旅行のドイツ語	メニューとレストランでの小会話
第8回	旅行のドイツ語	ホテルについての情報、予約 Web ページを読む
第9回	旅行のドイツ語	航空券、切符の購入など
第10回	旅行のドイツ語	観光案内 簡単な会話、情報を読む
第11回	ドイツの食べ物	レシピを読む
第12回	復習	復習
第13回	第12回の続き	第12回の続き
第14回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%
小テスト 20%
宿題 10%
平常点 20%
（単位認定の条件は、原則として4分の3以上の出席。）

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【その他の重要事項】

学生の興味や理解度に順じてプログラムを変更することもあります。

【Outline and objectives】

German language course;
vocabulary expansion and grammar review, readings (and conversation);

LANd200LA

ドイツ語3Ⅱ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握Ⅱ 2016年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法2年A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解力と文法の強化

ドイツの習慣や文化について書かれたテキストを通して、文法の強化と読解力を身につけます。また、ドイツの文化についても触れることで、総合的なドイツの理解を深めます。

【到達目標】

春学期と同じ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の読解と文法の復習および強化。

授業計画にあげたテーマは例です。受講生の興味などにより変更可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	復習
第2回	環境問題	環境問題についての資料を読み、会話する
第3回	第2回の続き	第2回の続き
第4回	広告のスローガン	スローガンを読み解く
第5回	第4回の続き	第4回の続き
第6回	童話	グリム童話を読む
第7回	第6回の続き	第6回の続き
第8回	ドイツの詩・歌	ゲーテ、国歌など、受講生の興味に合わせてドイツの詩・歌を読む
第9回	第8回の続き	第8回の続き
第10回	ドイツ憲法	ドイツ憲法の一部を読む
第11回	第10回の続き	第10回の続き
第12回	復習	復習
第13回	第12回の続き	第12回の続き
第14回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

小テスト 20%

宿題 10%

平常点 20%

（単位認定の条件は、原則として4分の3以上の出席。）

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【その他の重要事項】

学生の興味や理解度に順じてプログラムを変更することもあります

【Outline and objectives】

German language course;
vocabulary expansion and grammar review, readings (and conversation);

LANd200LA

ドイツ語3Ⅰ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握Ⅰ 2016年度以前入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法2年B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の向上を目指し、ドイツ文学を素材とする異文化理解を深める。

【到達目標】

文法の復習と読解力の向上をめざすばかりでなく、書かれた内容を通して、翻訳では伝わりにくいドイツの文学に触れ、世界を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回教科書に入る前に、よく使われるドイツ語の表現、ドイツの話題などを紹介する。

課題はクラスの様子を見ながら、適したものを学生と相談しながら出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、発音と文法の復習。	各学生の学び残しの確認と復習
2	発音と文法の復習。	前回に続き、復習中心の学び。
3	未習の文法項目がなければ Lektion1 Die Bremer Stadtmusikanten プレーメンの音楽隊	Lektion1 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
4	Lektion1 Die Bremer Stadtmusikanten プレーメンの音楽隊 の続き	Lektion1 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
5	Lektion1 Die Bremer Stadtmusikanten プレーメンの音楽隊 の続き	Lektion1 の練習問題の続き 文化的背景にも目を配る。
6	Lektion2 DerRäuberbräutigam 盗賊の花嫁	Lektion2 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
7	Lektion2 DerRäuberbräutigam 盗賊の花嫁 の続き	Lektion2 の練習問題の続き 文化的背景にも目を配る。
8	Lektion 2 DerRäuberbräutigam 盗賊の花嫁 の続き	Lektion2 の練習問題の続きとその応用 文化的背景にも目を配る。
9	Lektion 3 ハンスはりねずみ	Lektion3 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
10	Lektion 3 ハンスはりねずみ の続き	Lektion3 の練習問題の続き 文化的背景にも目を配る。
11	Lektion 3 ハンスはりねずみ の続き	Lektion3 の練習問題の続きとその応用 文化的背景にも目を配る。
12	Lektion 3 ハンスはりねずみ の続き	Lektion3 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
13	重要な事項の補足	文法、その他で重要な事項を詳しく学ぶ。
14	春学期の復習	春学期全体の復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での指示に従うこと。

本文は予習した方が、練習問題は解きやすい。

【テキスト（教科書）】

Stefan Wundt + Motohashi Ukyo 著「グリム童話で学ぶドイツ語 part II」郁文堂

【参考書】

本郷建治著『ドイツ文法の要点』三修社

中島悠爾他著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

出席回数が足りないと、課題を提出する資格も試験を受ける資格も失うので気をつけること。具体的には授業中に話す。授業に取り組む姿勢と授業時、授業後の課題を併せて 50%とし、期末試験を 50% とする。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は初めてなので、新鮮な気持ちで工夫しながら進めるつもりです。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

教科書と独和辞典を毎回持参すること。教科書は part I ではなく part II であるので、購入するとき気をつけてください。

【Outline and objectives】

The improvement in German and the mutual understanding of different culture based on German literature

LANd200LA

ドイツ語 3 II

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II

2016 年度以前入学者

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 2 年 B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の向上を目指し、ドイツ文学を素材とする異文化理解を深める。

【到達目標】

文法の復習と読解力の向上をめざすばかりでなく、書かれた内容を通して、翻訳では伝わりにくいドイツの文学に触れ、世界を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学部： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回教科書に入る前に、よく使われるドイツ語の表現、ドイツの話題などを紹介する。

課題はクラスの様子を見ながら、適したものを学生と相談しながら出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、ドイツ語の感覚を取り戻す。	プリントを配ってドイツ語の文に触れる。
2	Lektion4 König Drosselbart つぐみ髭の王様	Lektion4 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
3	Lektion4 König Drosselbart つぐみ髭の王様	Lektion4 の練習問題の続き 文化的背景にも目を配る。
4	Lektion4 König Drosselbart つぐみ髭の王様	Lektion4 の練習問題の続きとその応用 文化的背景にも目を配る。
5	Lektion4 König Drosselbart つぐみ髭の王様	Lektion4 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
6	Lektion4 König Drosselbart つぐみ髭の王様	Lektion4 の講読と練習問題 文化的背景にも目を配る。
7	7	卷末問題集 Lektion1,Lektion2
8	8	卷末問題集 Lektion3,Lektion4
9	あらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題などについての記事	あらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事などを読む。
10	引き続きあらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事など	引き続きあらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事などを読む。
11	別のあらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事など	別のあらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事などを読む。
12	3 つ目のあらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事など	3 つ目のあらかじめ希望をとってあった文学作品、時事問題についての記事などを読む。
13	重要事項の補足	文法、その他で特に重要な事項を詳しく学ぶ。
14	秋学期の復習と補足	秋学期全体の復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での指示に従うこと。

本文は予習した方が、練習問題は解きやすい。

【テキスト（教科書）】

Stefan Wundt + Motohashi Ukyo 著 『グリム童話で学ぶドイツ語 part II』

【参考書】

本郷建治著『ドイツ文法の要点』三修社

中島悠爾他著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

出席回数が足りない、課題を提出する資格も試験を受ける資格も失うので気をつけること。具体的には授業中に話す。授業に取り組む姿勢と授業時、授業後の課題を併せて 50%とし、期末試験を 50% とする。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は初めてなので、新鮮な気持ちで工夫しながら進めるつもりです。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

教科書と独和辞典を毎回持参すること。教科書は part I ではなく part II なので気をつけてください。

【Outline and objectives】

The improvement in German and the understanding of a different culture based on German literature

LANd200LA

ドイツ語 3 I

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I

2016 年度以前入学者

長倉 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法 2 年 C・D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の基礎を確かなものとしながら、さらに応用力を身につけ、ドイツ語文の読解力をふくめて総合的なドイツ語力を養います。テキストを読めば、異文化としてのドイツ文化について知ることになります。

【到達目標】

中級程度のドイツ語文を一年後には読解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに即して進めます。テキストには、長文読解とドイツ語文の作成、文法問題が含まれています。これによってドイツ語の総合力を養います。さらに、中級文法を加えますが、これは適宜プリントを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、次回の準備などの説明
第 2 回	初級文法の復習	完了形と受動態、長文読解 (プリント)
第 3 回	初級文法の復習	関係代名詞、長文読解 (プリント)
第 4 回	Lektion1「授業中の生徒」	長文読解と表現練習
第 5 回	Lektion1「授業中の生徒」	不定関係代名詞その他
第 6 回	Lektion2「ドイツの女性」	長文読解と表現練習
第 7 回	Lektion2「ドイツの女性」	Zu 不定詞句、形容詞の名詞化
第 8 回	Lektion3「答案の記載」	長文読解と表現練習
第 9 回	Lektion3「答案の記載」	受動態、動詞の名詞化
第 10 回	Lektion3「答案の記載」	否定冠詞の用法ならびに否定文について
第 11 回	文法補足	接続法の学習
第 12 回	文法補足	zu なしの不定詞とその主語について 接続法の学習
第 13 回	Lektion4a「タクシーのとめ方」	認容表現の学習 現在分詞などの文法 分詞を基礎語とする述語句 長文読解、独作文
第 14 回	学期末試験	第 13 回までの授業内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題が出ます。宿題をやっていないと欠席扱いにします。

【テキスト（教科書）】

『CD付き ドイツ人の生活を知る 11 章』

著者：大谷弘道

出版社：三修社

【参考書】

独和辞典

『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』(中島悠爾/平尾浩三/朝倉巧共著) 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) 期末試験 (50%) を基本とする総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

ドイツ語 1 とドイツ語 2 の単位を修得していることが履修の基本条件。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the foundation of grammar, and to cultivate German ability, including reading comprehension.

LANd200LA

ドイツ語 3 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

長倉 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法 2 年 C・D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の基礎を確かなものとしながら、さらに応用力を身につけ、ドイツ語文の読解力をふくめた総合力を養います。テキストを読めば、ドイツの文化を知ることになります。

【到達目標】

中級程度のドイツ語文を読解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに即して進めます。春学期より量を多くします。テキストは、長文読解とドイツ語文の作成、文法問題が含まれています。これによってドイツ語の総合力を養います。主な動詞の前綴りや重要な構文などについてプリントで補います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion4b「タクシーで乗客の座る場所」	長文読解と独作文
第 2 回	Lektion4b「タクシーで乗客の座る場所」	Wenn の省略文の表現、間違え易い文法事項（英語との比較）
第 3 回	Lektion5「猛暑日の対応」	長文読解と独作文
第 4 回	Lektion5「猛暑日の対応」	比較級・最高級の復習
第 5 回	Lektion6「犬と猫の購入」	長文読解と独作文
第 6 回	Lektion6「犬と猫の購入」	接続法の復習
第 7 回	Lektion6「犬と猫の購入」	長文読解
第 8 回	重点文法補足	冠飾句
第 9 回	重点文法補足	不定代名詞・指示代名詞、人称代名詞 2 格
第 10 回	Lektion7「ペットの大きさ」	長文読解と独作文
第 11 回	Lektion7「ペットの大きさ」	前置詞など初級文法復習、前置詞との合体形
第 12 回	Lektion7「ペットの大きさ」	序数の用法
第 13 回	Lektion8「ドイツの広告」	無冠詞の名詞他文法復習 長文読解と独作文
第 14 回	学期末試験	第 13 回までの授業内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題がでます。宿題をかならずやって授業にでること。

【テキスト（教科書）】

『CD付き ドイツ人の生活を知る 11 章』
著者：大谷弘道
出版社：三修社

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著）白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末試験（50 %）を基本とする総合評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ドイツ語 3 - I の単位を修得していることが履修の基本条件。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to reach the stage where they can understand more advanced German writings.

LANd200LA

ドイツ語3 I 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握 I 2016年度以前入学者

小野間 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法2年 E・S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行いつつ、辞書を使って平易な文章が読める程度の力を養成する。

日常生活に必要な語彙の定着を図り、ドイツ語による表現の方法を学ぶ。

【到達目標】

これまで学んできた初級ドイツ語よりも複雑かつ自然な表現を習得することができる。

ドイツ語圏の生活や文化に関する基本的な知識を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読解、作文および会話の練習を通じて、総合的なドイツ語力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	あいさつ	ドイツ語で自己紹介
第2回	ドイツ	ドイツを旅する魅力
第3回	ドイツ	数字で見るドイツ
第4回	ドイツ	ドイツ・クイズ
第5回	鉄道と自転車の旅	電車の旅
第6回	鉄道と自転車の旅	自転車で寄り道
第7回	鉄道と自転車の旅	ドイツ鉄道の時刻表
第8回	メルヒェンの森から	メルヒェンの成立
第9回	メルヒェンの森から	メルヒェンを読む
第10回	メルヒェンの森から	魔女とドイツの昔話
第11回	ウィーン	ウィーンのカフェ
第12回	ウィーン	モーツァルト
第13回	ウィーン	ベルヴェデーレ宮殿にて
第14回	期末試験	13回までに授業で扱った内容から出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章の読解テキストについては、予習を行った上で授業に臨むこと。また、ドイツ語作文の宿題を課したり、小テストを実施する場合がある。

【テキスト（教科書）】

Ute Schmidt・Mechthild Duppler-Takayama・三ツ石祐子・和泉雅人著『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化8章プラス・エクストラ』三修社

【参考書】

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況、課題への取り組みなど）50%、期末試験50%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

ペア・ワークやグループ・ワークを増やし、活気のある授業を目指す。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is the development of the students' language skills needed to communicate spontaneously and fluently by their German speaking, listening, reading and writing.

It also will enable participants to deepen the knowledge and understanding of the contemporary German culture.

LANd200LA

ドイツ語3 II 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握 II 2016年度以前入学者

小野間 亮子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法2年 E・S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行いつつ、辞書を使って平易な文章が読める程度の力を養成する。

日常生活に必要な語彙の定着を図り、ドイツ語による表現の方法を学ぶ。

【到達目標】

これまで学んできた初級ドイツ語よりも複雑かつ自然な表現を習得することができる。

ドイツ語圏の生活や文化に関する基本的な知識を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読解、作文および会話の練習を通じて、総合的なドイツ語力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	世界遺産	ドイツの世界遺産
第2回	世界遺産	世界文化遺産
第3回	世界遺産	世界遺産紹介
第4回	アイディアの国、ドイツ	ドイツ人の発明
第5回	アイディアの国、ドイツ	「足のためのベッド」
第6回	Die DDR	壁の崩壊
第7回	Die DDR	Ostalgie(オスタルギー)
第8回	Die DDR	ベルリン観光
第9回	第九	新たな音楽、新たな絵画
第10回	第九	日本初演
第11回	第九	第九の合唱
第12回	祭りと祝日	クリスマス
第13回	祭りと祝日	大晦日
第14回	期末試験	13回までに授業で扱った内容から出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章の読解テキストについては、予習を行った上で授業に臨むこと。また、ドイツ語作文の宿題を課したり、小テストを実施する場合がある。

【テキスト（教科書）】

Ute Schmidt・Mechthild Duppler-Takayama・三ツ石祐子・和泉雅人著『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化8章プラス・エクストラ』三修社

【参考書】

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況、課題への取り組みなど）50%、期末試験50%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

ペア・ワークやグループ・ワークを増やし、活気のある授業を目指す。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is the development of the students' language skills needed to communicate spontaneously and fluently by their German speaking, listening, reading and writing.

It also will enable participants to deepen the knowledge and understanding of the contemporary German culture.

LANd200LA

ドイツ語 3 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I 2016 年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
文 2 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解力と文法理解力の強化

ドイツの習慣や文化について書かれたテキストを通して、文法理解力の強化と読解力を身につけます。また、ドイツの文化についても触れることで、総合的なドイツの理解を深めます。

【到達目標】

文法の理解と、読解力をつけることで基礎的なドイツ語を使えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の読解と文法の復習および強化。

授業計画にあげたテーマは例です。受講生の興味などにより変更可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	文法・語彙復習	文法・語彙復習
第 3 回	第 2 回の続き	第 2 回の続き
第 4 回	自己紹介	自己紹介を言える、書ける、読めるように。 疑問文の練習
第 5 回	第 4 回の続き	第 4 回の続き
第 6 回	買い物	チラシを読む、買い物に必要な会話を習得する
第 7 回	旅行のドイツ語	メニューとレストランでの小会話
第 8 回	旅行のドイツ語	ホテルについての情報、予約 Web ページを読む
第 9 回	旅行のドイツ語	航空券、切符の購入など
第 10 回	旅行のドイツ語	観光案内 簡単な会話、情報を読む
第 11 回	ドイツの食べ物	レシピを読む
第 12 回	未定	未定
第 13 回	復習	復習
第 14 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

小テスト 20%

宿題 10%

平常点 20%

（単位認定の条件は、原則として4分の3以上の出席。）

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【その他の重要事項】

学生の興味や理解度に順じてプログラムを変更することもあります。

【Outline and objectives】

German language course;
vocabulary expansion and grammar review, readings (and conversation);

LANd200LA

ドイツ語 3 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
文 2 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解力と文法理解力の強化

ドイツの習慣や文化について書かれたテキストを通して、文法理解力の強化と読解力を身につけます。また、ドイツの文化についても触れることで、総合的なドイツの理解を深めます。

【到達目標】

文法の理解と、読解力をつけることで基礎的なドイツ語を使えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の読解と文法の復習および強化。

授業計画にあげたテーマは例です。受講生の興味などにより変更可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習	復習
第 2 回	環境問題	環境問題についての資料を読み、会話する
第 3 回	第 2 回の続き	第 2 回の続き
第 4 回	童話	グリム童話を読む
第 5 回	第 4 回の続き	第 4 回の続き
第 6 回	ドイツの哲学	ニーチェ、カントなど、受講生の興味に合わせてドイツ哲学の 1 ページを読む
第 7 回	第 6 回の続き	第 6 回の続き
第 8 回	第 7 回の続き	第 7 回の続き
第 9 回	第 8 回の続き	第 8 回の続き
第 10 回	ドイツ憲法	ドイツ憲法の一部を読む
第 11 回	第 10 回の続き	第 10 回の続き
第 12 回	復習	復習
第 13 回	第 12 回の続き	第 12 回の続き
第 14 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

小テスト 20%

宿題 10%

平常点 20%

（単位認定の条件は、原則として4分の3以上の出席。）

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【その他の重要事項】

学生の興味や理解度に順じてプログラムを変更することもあります

【Outline and objectives】

German language course;
vocabulary expansion and grammar review, readings (and conversation);

LANd200LA

ドイツ語3 I 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握 I 2016年度以前入学者

佐藤 まり子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 2年 B～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を学びながら、ドイツの生活・社会・文化などに深い関心を持つ。

【到達目標】

中級文法を習得し、読解力、語彙力、表現力が身につく。独検3級・2級に合格できる力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期は、グリム童話の『長靴をはいた牡猫』を読む。初級文法の確認と補足、中級文法の説明をしながら、テキストを精読する。一人一文ずつ読んで和訳してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	グリム童話	ガイダンス
2	動詞の三基本形	三人の息子と父の遺産
3	過去	王様に謁見を許された牡猫
4	現在完了	ご褒美に金を持ち帰る
5	分離動詞の現在完了	お城へ出入り自由の身となる
6	非分離動詞の現在完了	王様と王女は湖へ散歩
7	指示代名詞	猫は、泳いでいる三男の服を隠す
8	再帰代名詞	王様に、「主人の服が盗まれた」と窮状を訴える
9	人称代名詞	王様から最高の服をもらう
10	形容詞の比較級・最高級	猫は魔法使いの城へ向かう
11	定冠詞類と形容詞の格変化	魔法使いは得意技を披露
12	不定冠詞類と形容詞の格変化	猫に煽てられ、鼠に変身した魔法使い
13	無冠詞と形容詞の格変化	裕福となった三男は王女と結婚
14	まとめと復習	1課～7課の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初級文法を忘れていたようであれば、適宜、復習しておく。テキストの注と辞書を使って本文を和訳してくる。本文の内容をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

教科書：『グリム童話で学ぶドイツ語』シュテファン・ヴァント、本橋右京（郁文堂）

辞書：1年次で使用した独和辞典

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

試験70%、宿題・授業内課題・授業参加度など平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

何人かの学生は、子供の頃にグリム童話を読んだことがあり、親しみを持ってたようだ。また、ドイツ語でグリム童話を読める喜びを感じ、進んで勉強する学生がいて、良かった。

【その他の重要事項】

毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

LANd200LA

ドイツ語3 II 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握 II 2016年度以前入学者

佐藤 まり子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 2年 B～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を学びながら、ドイツの生活・文化・社会などに深い関心を持つ。

【到達目標】

中級文法を習得し、読解力、語彙力、表現力が身につく。独検3級・2級に合格できる力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期は、グリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』を読む。特に、初級文法の後半でやり残した、受動態、関係代名詞、接続法の説明をしながら、テキストを精読する。一人一文ずつ読んで和訳してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	グリム童話	ガイダンス
2	従属接続詞と副文	貧しい木こり夫婦と二人の子供
3	分離動詞	空腹で眠れぬ妹が聞いてしまった事は？
4	非分離動詞	森に置き去りにされた子供たち
5	関係代名詞	何とか家にたどり着いた子供たち
6	関係副詞	今度は更に森の奥深くに連れて行かれ。。。
7	接続法 I 式の作り方	偶然、お菓子の家にたどり着く
8	接続法 I 式の用法	そこは魔女の家
9	接続法 II 式の作り方	魔女の企み
10	接続法 II 式の用法	ヘンゼルは家畜小屋に閉じ込められる
11	受動態	グレーテルは台所仕事を命じられる
12	受動態の時制	グレーテルの機転で、魔女を籠に押し込み焼き殺す
13	復習	1課～6課
14	まとめと整理	日本の童話と比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初級文法を忘れていたようであれば、適宜、復習しておく。テキストの注と辞書を使って和訳してくる。本文の内容をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

教科書：『グリム童話で学ぶドイツ語』シュテファン・ヴァント、本橋右京（郁文堂）

辞書：1年次で使用した独和辞典

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

試験70%、宿題・授業内課題・授業参加度など平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

『ヘンゼルとグレーテル』では、1年次の文法の最後で学習する受動態、関係代名詞、接続法など難しい文法項目が出てくるので、和訳で戸惑った学生もいたようだった。但し、授業2回位を使って、これらの文法を説明したので、かなり理解できたと思う。

【その他の重要事項】

毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

LANd200LA

ドイツ語3 I 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握 I 2016年度以前入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文2年F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を1年間履修した学生の読解ならびに表現の運用を、中級程度のテキストによってブラッシュアップしていきます。その際、語彙力をのばし、また現代社会のボキャブラリー（政治・経済・環境・社会問題）にも多くふれていく。とくにI（前期）においては、環境先進国ドイツの現代事情を読みかつ訳しながら、このテーマへの理解度もふかめていく。

【到達目標】

ネットやニュースに頻繁に出てくる用語（英語と比較しながら）ボキャブラリーを増やしていく。たとえば原発は、ドイツ語でなんというのか？ エネルギー・シフトにあたる用語は？ ドイツ語だけでなく時事英語のボキャブラリーとの比較もしていきます。テキストのほかに、適宜、ドイツの **Nachrichte**(ニュース) から引用したプリントも配布し、この記事はニュースウィークではこうであったが、フランクフルト・アルゲマイネ紙ではこんなふうには報道されているというような勉強もまじえていくつもりである。ただし、難解なものではなく、その都度話題になっていて、日本のニュースでも流れているようなグローバルで、比較的読みやすい記事をチョイスしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの訳読と解説。第一ステージは、教師が手ほどきとして、ていねいに構文や用語を解説していく。学生は、その週にわりあてられた一定の分量の予習にしたがって、その解説を生かして、自分で翻訳文を作成していく。(大量ではありません) また、環境テーマのドキュメント(ドイツ語、日本語)の視覚教材を、その演習にまぜていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	時事的ドイツ語をどう読むか。	予習の方法と程度、とりくみかたを指導。
2	教材 Die deutsche Energiewende? ドイツのエネルギー転換とは? Lektion 1 エネルギー反対なしには手に入らない	二週で一課進むスピードを想定しています。
3	Lektion 1 後半	ボキャブラリーと内容解説。指名による和訳の添削など。
4	Lektion2 エネルギー転換とは?	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
5	Lektion2 エネルギー転換とは	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
6	Lektion3 電気 エネルギーの要	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
7	Lektion3 電気 エネルギーの要	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
8	Lektion4 再生可能エネルギー法	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
9	Lektion4 再生可能エネルギー法	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
10	Lektion5 バイオマスからのエネルギー	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
11	Lektion5 バイオマスからのエネルギー	読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。

- 12 配布プリントによる、時事ドイツ語を読む。 読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
- 13 配布プリントによる、時事ドイツ語を読む。 読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。
- 14 配布プリントによる、時事ドイツ語を読む。 読解と解説。そのほか視覚・聴覚メディアを使った目と耳でまなぶドイツ語。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙確認(教材には豊富な語彙の説明が付属しています)

【テキスト（教科書）】

ヘルマン・トロール/甲斐崎由典著『ドイツエネルギー転換とは?』(第三書房)と適宜配布されるプリント教材による。

【参考書】

各授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験。平常発表。レポート提出などの総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

各自のノートを出してもらい、どのように学習したかのプロセスも評価します。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書

【その他の重要事項】

再度強調しますが、ノートをきちんと整理すること。学期末に平常点として評価する時間を設けます。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

I will brush up the comprehension of the reading and expression of the students who have taken German for one year by the intermediate level text. In doing so, we will expand our vocabulary skills and will also touch on vocabulary of modern society (political, economic, environmental, social issues). Especially in I (previous term), read and translate contemporary circumstances of environmentally advanced country Germany, we will also grasp the degree of understanding of this theme.

LANd200LA

ドイツ語3Ⅱ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握Ⅱ 2016年度以前入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

文2年F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語3Ⅱにつづくテキストの後半部を使用する時事ドイツ語と比較的文芸的なドイツ語を半々にまぜて訳読していく。テキストとプリントによる。開講時に再度くわしく、そのとりくみかたを説明します。（文芸的教材はプリントで配布）

【到達目標】

ドイツ語の構造をしっかりとらえ、単語の意味を適切にえらんで、意味のおおる日本語にしていく練習。はじめはゆるやかに、しだいに速度をあげていきます。山カンで適当に訳してしまわないクセをつけましょう。わかるまで説明していくつもりです。語学とは、情報を知り、また伝える道具であるべきです。それには、日々の積みかさねが大事です。習うより慣れろでもあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読解練習と解説。視聴覚教材で当該テキストの内容にあうものを見開きして慣れでもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion6	原子力代替の進め方
2	Lektion6	同上
3	Lektion7	水力（発電）
4	Lektion7	同上
5	Lektion8	送電法について
6	Lektion8	同上
7	Lektion9	交通制度
8	Lektion9	同上
9	Lektion10	再生可能な熱源
10	Lektion10	同上
11	Lektion11	ドイツと近隣諸国
12	Lektion11	同上
13	Lektion12	エネルギー転換の未来？
14	Lektion12	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された行数までの予習。ボキャブラリー確認。

【テキスト（教科書）】

ヘルマン・トロール/甲斐崎由典著『ドイツエネルギー転換とは？』（第三書房）

【参考書】

このテーマにそった資料や書籍は、日々更新されるので、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常授業時の発表・ノート・学期末試験などの総合評価。開講時にくわしく説明する。

【学生の意見等からの気づき】

ただドイツ語を学習するのではなく、聞いたり見たりと実際に日常でできるネット情報をたくさん紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書（電子辞書可）

【その他の重要事項】

出席重視。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

We translate current affair German and relatively literary German using half the text of German 3Ⅰ followed by half. By text and print. I will explain again how to deal with it again at the beginning of the course. (Distribution of literary teaching materials on prints)

LANd200LA

ドイツ語 3 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I 2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
文 2 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年次の学習内容を確認しながら、ドイツ語の理解を深め、ドイツ語表現を習得する。ドイツの文化と暮らしについての基礎的な知識を得る。

【到達目標】

ドイツ語の骨格についての理解を深め、ドイツ語による基礎的な表現を習得する。ドイツの文化と暮らしについての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「おもしろドイツ！—異文化への招待」（郁文堂）を教科書として用います。基本的な文法事項と発音の復習、練習をおこないながら、ドイツ語による表現を習得します。同時に、ドイツの文化と暮らしについての簡単なテキストを読みます。毎回、範囲と担当者を決めて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。授業の目標と進め方。	授業の目標と進め方、学習の仕方についてのガイダンスをおこないます。以下の進捗はおおよその目安です。
第 2 回	教科書・第 1 課 (1)	教科書の第 1 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 3 回	教科書・第 1 課 (2)	教科書の第 1 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 4 回	教科書・第 2 課 (1)	教科書の第 2 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 5 回	教科書・第 2 課 (2)	教科書の第 2 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 6 回	教科書・第 3 課 (1)	教科書の第 3 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 7 回	教科書・第 3 課 (2)	教科書の第 3 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 8 回	教科書・第 4 課 (1)	教科書の第 4 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 9 回	教科書・第 4 課 (2)	教科書の第 4 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 10 回	教科書・第 5 課 (1)	教科書の第 5 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 11 回	教科書・第 5 課 (2)	教科書の第 5 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 12 回	教科書・第 6 課 (1)	教科書の第 6 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 13 回	教科書・第 6 課 (2)	教科書の第 6 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 14 回	まとめの試験	春学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予め指定した進む範囲について、予習をおこなって授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

「おもしろドイツ！—異文化への招待」著者名：斎藤佑史、荒木詳二、郁文堂。

【参考書】

市販の独和辞典のいずれかを必ず所持すること。

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に筆記試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます。平常点 35%、試験 65%。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の私語は厳禁する。毎回の担当者は必ずその責任を果たすこと。

【Outline and objectives】

German 3 I. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic reading and speaking; broadening basic knowledge of life, society, culture and history of Germany.

LANd200LA

ドイツ語 3 II

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

文 2 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて文法事項を確認しながら、ドイツ語の理解を深め、ドイツ語表現を習得する。ドイツの文化、暮らし、歴史についての基礎的な知識を得る。

【到達目標】

ドイツ語の骨格についての理解を深め、ドイツ語による基礎的な表現を習得する。ドイツの文化、暮らし、歴史についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

『おもしろドイツ！—異文化への招待』（郁文堂）を教科書として用います。基本的な文法事項と発音の復習、練習をおこないながら、ドイツ語による表現を習得します。同時に、ドイツの文化と暮らしについての簡単なテキストを読みます。毎回、範囲と担当者を決めて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書第 7 課 (1)	教科書の第 7 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。以下の進捗はおおよその目安です。
第 2 回	教科書第 7 課 (2)	教科書の第 7 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 3 回	教科書第 8 課 (1)	教科書の第 8 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 4 回	教科書第 8 課 (2)	教科書の第 8 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 5 回	教科書第 9 課 (1)	教科書の第 9 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 6 回	教科書第 9 課 (2)	教科書の第 9 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 7 回	教科書第 10 課 (1)	教科書の第 10 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 8 回	教科書第 10 課 (2)	教科書の第 10 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 9 回	教科書第 11 課 (1)	教科書の第 11 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 10 回	教科書第 11 課 (2)	教科書の第 11 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 11 回	教科書第 12 課 (1)	教科書の第 12 課によって、文法事項を復習し、ドイツ語表現を習得する。
第 12 回	教科書第 12 課 (2)	教科書の第 12 課によって、ドイツ語表現についての理解を深め、ドイツの文化、暮らしについての知識を得る。
第 13 回	秋学期のまとめ	秋学期に学習した内容を振り返り、要点を整理します。
第 14 回	秋学期試験	秋学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予め指定した進捗範囲について、予習をおこなって授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

『おもしろドイツ！—異文化への招待』、郁文堂。

【参考書】

市販の独和辞典のいずれかを必ず所持すること。

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に筆記試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます。平常点 35%、試験 65%。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の私語は厳禁する。毎回の担当者は必ずその責任を果たすこと。

【Outline and objectives】

German 3 II. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic reading and speaking; broadening basic knowledge of life, society, culture and history of Germany.

LANd200LA

ドイツ語 3 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I 2016 年度以前入学者

長倉 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 2 年 P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の基礎を確かなものとしながら、さらに応用力を身につけ、ドイツ語文の読解力をふくめて総合的なドイツ語力を養います。テキストを読めば、異文化としてのドイツ文化について知ることになります。

【到達目標】

中級程度のドイツ語文を一年後には読解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに即して進めます。テキストには、長文読解とドイツ語文の作成、文法問題が含まれています。これによってドイツ語の総合力を養います。さらに、中級文法を加えますが、これは適宜プリントを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、次回の準備などの説明
第 2 回	初級文法の復習	完了形と受動態、長文読解（プリント）
第 3 回	初級文法の復習	関係代名詞、長文読解（プリント）
第 4 回	Lektion1「授業中の生徒」	長文読解と表現練習
第 5 回	Lektion1「授業中の生徒」	不定関係代名詞その他
第 6 回	Lektion2「ドイツの女性」	長文読解と表現練習
第 7 回	Lektion2「ドイツの女性」	Zu 不定詞句、形容詞の名詞化
第 8 回	Lektion3「答案の記載」	長文読解と表現練習
第 9 回	Lektion3「答案の記載」	受動態、動詞の名詞化
第 10 回	Lektion3「答案の記載」	否定冠詞の用法ならびに否定文について
第 11 回	文法補足	接続法の学習
第 12 回	文法補足	zu なしの不定詞とその主語について
第 13 回	Lektion4a「タクシーの とめ方」	接続法の学習 認容表現の学習 現在分詞などの文法 分詞を基礎語とする述語句 長文読解、独作文
第 14 回	学期末試験	第 13 回までの授業内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題が出ます。宿題をやっていないと欠席扱いにします。

【テキスト（教科書）】

『CD付き ドイツ人の生活を知る 11 章』

著者：大谷弘道
出版社：三修社

【参考書】

独和辞典

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著）白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）期末試験（50％）を基本とする総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

ドイツ語 1 とドイツ語 2 の単位を修得していることが履修の基本条件。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the foundation of grammar, and to cultivate German ability, including reading comprehension.

LANd200LA

ドイツ語 3 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

長倉 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 2 年 P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の基礎を確かなものとしながら、さらに応用力を身につけ、ドイツ語文の読解力をふくめた総合力を養います。テキストを読めば、ドイツの文化を知ることになります。

【到達目標】

中級程度のドイツ語文を読解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに即して進めます。春学期より量を多くします。テキストは、長文読解とドイツ語文の作成、文法問題が含まれています。これによってドイツ語の総合力を養います。主な動詞の前綴りや重要な構文などについてプリントで補います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion4b「タクシーで乗客の座る場所」	長文読解と独作文
第 2 回	Lektion4b「タクシーで乗客の座る場所」	Wenn の省略文の表現、間違え易い文法事項（英語との比較）
第 3 回	Lektion5「猛暑日の対応」	長文読解と独作文
第 4 回	Lektion5「猛暑日の対応」	比較級・最高級の復習
第 5 回	Lektion6「犬と猫の購入」	長文読解と独作文
第 6 回	Lektion6「犬と猫の購入」	接続法の復習
第 7 回	Lektion6「犬と猫の購入」	長文読解
第 8 回	重点文法補足	冠飾句
第 9 回	重点文法補足	不定代名詞・指示代名詞、人称代名詞 2 格
第 10 回	Lektion7「ペットの大きさ」	長文読解と独作文
第 11 回	Lektion7「ペットの大きさ」	前置詞など初級文法復習、前置詞との合体形
第 12 回	Lektion7「ペットの大きさ」	序数の用法
第 13 回	Lektion8「ドイツの広告」	無冠詞の名詞他文法復習 長文読解と独作文
第 14 回	学期末試験	第 13 回までの授業内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題がでます。宿題をかならずやって授業にでること。

【テキスト（教科書）】

『CD付き ドイツ人の生活を知る 11 章』

著者：大谷弘道
出版社：三修社

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著）白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と期末試験（50％）を基本とする総合評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ドイツ語 3 I の単位を修得していることが履修の基本条件。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to reach the stage where they can understand more advanced German writings.

LANd200LA

ドイツ語 3 I

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I

2016 年度以前入学者

渡辺 広佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 2 年 T~W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな有名作家のテキストを読む。

【到達目標】

ドイツ語の発音をマスターし、中級の表現を理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

『Lesebuch Deutsch（ドイツ語を読む）』（改訂版）に収められたさまざまな文章を精読することで、ドイツ語読解能力を養うと同時に、それぞれの作家についての知識も深めたい。その際、音読を重視し、基礎文法の知識も確認もする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方など、授業環境（雰囲気）を整える
第 2 回	ドイツ人の思想	ことわざ、名言
第 3 回	モーツァルト	父親の誕生日にあたってのモーツァルトの手紙
第 4 回	リルケ	リルケのカプス宛の手紙
第 5 回	モーツァルト、リルケ	モーツァルト、リルケについて
第 6 回	グリム童話 1	『蛙の王様』
第 7 回	グリム童話 2	『蛙の王様』のつづき
第 8 回	グリム兄弟	グリム兄弟とグリム童話（映像資料など）
第 9 回	ヨハンナ・シュヰリ 1	『アルプスの少女ハイジ』
第 10 回	ヨハンナ・シュヰリ 2	『アルプスの少女ハイジ』のつづき
第 11 回	リルケ	リルケの『秋の日』
第 12 回	ゲーテ 1	『若きウェルテルの悩み』
第 13 回	ゲーテ 2	『若きウェルテルの悩み』つづき
第 14 回	試験	春学期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

くりかえし音読したうえで辞書を引くこと。予習の際、わからない箇所に拘泥しすぎないで、質問箇所とし、予定のところまで予習をやること。

【テキスト（教科書）】

Schermann / 相原『ドイツ語を読む』改訂版（朝日出版社）

【参考書】

特になし。必要とあれば、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。学期 4 回欠席した者は原則として評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

とくに変更しなければならないような指摘はないので、従来どおりおこなうが、要望があれば、アンケートを待たないで、その都度提案するように。

【Outline and objectives】

Translating text from various Germany writers to Japanese.

LANd200LA

ドイツ語3Ⅱ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握Ⅱ 2016年度以前入学者

渡辺 広佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文2年 T~W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな有名作家のテキストを読む

【到達目標】

ドイツ語の発音をマスターし、中級の表現を理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

【Lesebuch Deutsch（ドイツ語を読む）】（改訂版）に収められたさまざまな文章を精読することで、ドイツ語読解能力を養うと同時に、それぞれの作家についての知識も深めたい。

その際、音読を重視し、基礎文法の知識も確認もする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、プロイスラー1	『クラバート』
第2回	プロイスラー2	『クラバート』つづき
第3回	プロイスラー3	プロイスラーについて（映像資料など）
第4回	カフカ1	『変身』
第5回	カフカ2	『変身』つづき
第6回	カフカ3	カフカについて
第7回	ツェラーン1	『死のフーガ』
第8回	ツェラーン2	『死のフーガ』つづき/ツェラーンについて
第9回	ヴァイツゼッカー1	【1985年5月8日の演説】
第10回	ヴァイツゼッカー2	【1985年5月8日の演説】つづき
第11回	ヴァイツゼッカー3	ヴァイツゼッカーの演説関連（映像資料など）
第12回	シュリンク1	『朗読者』
第13回	シュリンク2	『朗読者』つづき
第14回	試験	秋学期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

くりかえし音読したうえで辞書を引くこと。予習の際、わからない箇所に拘泥しすぎないで、質問箇所とし、予定のところまで予習をやること。

【テキスト（教科書）】

Schermann / 相原『ドイツ語を読む』改訂版（朝日出版社）

【参考書】

特になし。必要とあれば、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。学期4回欠席した者は原則として評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

とくに変更しなければならないような指摘はないので、従来どおりおこなうが、要望があれば、アンケートを待たないで、その都度提案するように。

【Outline and objectives】

Translating text from various Germany writers to Japanese.

LANd200LA

ドイツ語3Ⅰ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3：理解テキスト把握Ⅰ 2016年度以前入学者

小野間 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営2年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行いつつ、辞書を使って平易な文章が読める程度の力を養成する。

日常会話に必要な語彙の定着を図り、ドイツ語による表現の方法を学ぶ。

【到達目標】

これまで学んできた初級ドイツ語よりも複雑かつ自然な表現を習得することができる。

ドイツ語圏の生活や文化に関する基本的な知識を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読解、作文および会話の練習を通じて、総合的なドイツ語力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	あいさつ	ドイツ語で自己紹介
第2回	ドイツ	ドイツを旅する魅力
第3回	ドイツ	数字で見るドイツ
第4回	ドイツ	ドイツ・クイズ
第5回	鉄道と自転車の旅	電車の旅
第6回	鉄道と自転車の旅	自転車で寄り道
第7回	鉄道と自転車の旅	ドイツ鉄道の時刻表
第8回	メルヒェンの森から	メルヒェンの成立
第9回	メルヒェンの森から	メルヒェンを読む
第10回	メルヒェンの森から	魔女とドイツの昔話
第11回	ウィーン	ウィーンのカフェ
第12回	ウィーン	モーツァルト
第13回	ウィーン	ベルヴェデーレ宮殿にて
第14回	期末試験	13回までに授業で扱った内容から出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章の読解テキストについては、予習を行った上で授業に臨むこと。また、ドイツ語作文の宿題を課したり、小テストを実施する場合がある。

【テキスト（教科書）】

Ute Schmidt・Mechthild Duppel-Takayama・三ツ石祐子・和泉雅人著『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化8章プラス・エクストラ』三修社

【参考書】

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況、課題への取り組みなど）50%、期末試験50%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

ペア・ワークやグループ・ワークを増やし、活気のある授業を目指す。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is the development of the students' language skills needed to communicate spontaneously and fluently by their German speaking, listening, reading and writing.

It also will enable participants to deepen the knowledge and understanding of the contemporary German culture.

LANd200LA

ドイツ語 3 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

小野間 亮子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 2 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行いつつ、辞書を使って平易な文章が読める程度の力を養成する。
日常生活に必要な語彙の定着を図り、ドイツ語による表現の方法を学ぶ。

【到達目標】

これまで学んできた初級ドイツ語よりも複雑かつ自然な表現を習得することができる。
ドイツ語圏の生活や文化に関する基本的な知識を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読解、作文および会話の練習を通じて、総合的なドイツ語力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界遺産	ドイツの世界遺産
第 2 回	世界遺産	世界文化遺産
第 3 回	世界遺産	世界遺産紹介
第 4 回	アイディアの国、ドイツ	ドイツ人の発明
第 5 回	アイディアの国、ドイツ	「足のためのベッド」
第 6 回	Die DDR	壁の崩壊
第 7 回	Die DDR	Ostalgic(オスタルギー)
第 8 回	Die DDR	ベルリン観光
第 9 回	第九	新たな音楽、新たな絵画
第 10 回	第九	日本初演
第 11 回	第九	第九の合唱
第 12 回	祭りと祝日	クリスマス
第 13 回	祭りと祝日	大晦日
第 14 回	期末試験	13 回までに授業で扱った内容から出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章の読解テキストについては、予習を行った上で授業に臨むこと。
また、ドイツ語作文の宿題を課したり、小テストを実施する場合がある。

【テキスト（教科書）】

Ute Schmidt・Mechhild Duppler-Takayama・三ツ石祐子・和泉雅人著『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8 章プラス・エクストラ』三修社

【参考書】

中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習状況、課題への取り組みなど）50 %、期末試験 50 % を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

ペア・ワークやグループ・ワークを増やし、活気のある授業を目指す。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is the development of the students' language skills needed to communicate spontaneously and fluently by their German speaking, listening, reading and writing.
It also will enable participants to deepen the knowledge and understanding of the contemporary German culture.

LANd200LA

ドイツ語 3 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I 2016 年度以前入学者

梶谷 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
営 2 年 C~J・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の文章を的確に把握して、内容を正確に理解できるようになることを目的とする。同時に、ドイツ語を用いて何らかの対応ができるようになることを目指す。ドイツ語検定試験 3 級に合格できることを見据える。

【到達目標】

ドイツ語の文法を読解に役立つように捉えて、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語を用いて何らかの対応ができるようになることを目指します。ドイツ語検定試験 3 級に合格できることを見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの各課は本文と本文に関連する 5 から 7 の設問からできている。各課の最初に本文の内容と文法的な説明をした後、音読の練習をする。その後、各受講生に本文の一文を割り当てて音読してもらう。これは各授業の最初に共通に行う。それから、設問を各受講生に割り当てて解答してもらう。各問題の文章はその都度受講生全員で音読する。各課の最後に、設問の最後にある本文の内容と関連する長文を 15 分を最大に翻訳してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	パーティーを開くのは祝ってもらう人（一回目）	本文解説、音読練習
2	パーティーを開くのは祝ってもらう人（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
3	パーティーを開くのは祝ってもらう人（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
4	パーティーを開くのは祝ってもらう人（四回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
5	20 歳を過ぎれば親元を離れる（一回目）	本文解説、音読練習
6	20 歳を過ぎれば親元を離れる（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
7	20 歳を過ぎれば親元を離れる（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
8	教室で手をあげないと減点（一回目）	本文解説、音読練習
9	教室で手をあげないと減点（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
10	教室で手をあげないと減点（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
11	2 回不合格だと失格（一回目）	本文解説、音読練習
12	2 回不合格だと失格（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
13	2 回不合格だと失格（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
14	予備	授業が予定通りに進んでいない場合の調整にこの授業を充てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音読する文章を付録の CD を参考に予め練習すること。設問の予習をすること。復習は主に既習の本文の音読を練習すること。

【テキスト（教科書）】

CD 付き ドイツ人を知る 9 章+ 1 大谷弘道著 株式会社三修社 2007 年 2 月 20 日 ¥2500

【参考書】

独和辞典はもちろんだが、そのほかの参考書については授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 10 % (主に出席と授業態度で評価する)、音読の評価 30 % (ドイツ語として理解できる A+、ドイツ語の発音の基本を理解している A、発音の基本を二度間違える B、発音の基本を数回以上間違える C)、設問解答の姿勢 10 % (解答の正誤より解答姿勢を問う)、各課終了時の小テストの平均 50 % (短時間の翻訳で、授業で学んだ翻訳の基本事項を理解しているかどうかを評価する)

【学生の意見等からの気づき】

授業の方針や授業の目的を受講生によく理解してもらうように丁寧に説明する。

【Outline and objectives】

ドイツ語の文法を読解に役立つように捉えて、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語を用いて何らかの対応ができるようになることを目指します。

LANd200LA

ドイツ語 3 II

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

梶谷 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

営 2 年 C~J・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の文章を的確に把握して、内容を正確に理解できるようになることを目的とする。同時に、ドイツの生活に根差した文化、習慣を日本の文化と比較しながら理解する。

【到達目標】

ドイツ語の文法を読解に役立つように捉えて、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語に何らかの対応ができるようになることを目指します。ドイツ語検定試験 3 級に合格できることを見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの各課は本文と本文に関連する 5 から 7 の設問からできている。各課の最初に本文の内容と文法的な説明をした後、音読の練習をする。その後、各受講生に本文の一文を割り当てて音読してもらう。これは各授業の最初に共通に行う。それから、設問を各受講生に割り当てて解答してもらう。各問題の文章はその都度受講生全員で音読する。各課の最後に、設問の最後にある本文の内容と関連する長文を最長 15 分で最大に翻訳してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事故死傷者の氏名公表はご法度（一回目）	本文解説、音読練習
2	事故死傷者の氏名公表はご法度（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
3	事故死傷者の氏名公表はご法度（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
4	事故死傷者の氏名公表はご法度（四回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
5	終点を知らないと電車に乗れない（一回目）	本文解説、音読練習
6	終点を知らないと電車に乗れない（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
7	終点を知らないと電車に乗れない（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
8	コミュニケーションの決め手は、相手の名前を覚えること（一回目）	本文解説、音読練習
9	コミュニケーションの決め手は、相手の名前を覚えること（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
10	コミュニケーションの決め手は、相手の名前を覚えること（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
11	人間は「動物」ではない（一回目）	本文解説、音読練習
12	人間は「動物」ではない（二回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説
13	人間は「動物」ではない（三回目）	音読練習、個別の音読、設問の解答と解説、翻訳の小テスト
14	予備	授業が予定通りに進んでいない場合の調整にこの授業を充てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音読する文章を付録の CD を参考に予め練習すること。設問の予習をすること。復習は主に既習の本文の音読を練習すること。

【テキスト（教科書）】

CD 付き ドイツ人を知る 9 章 + 1 大谷弘道著 株式会社三修社 2007 年 2 月 20 日 ¥2500

【参考書】

独和辞典はもちろんだが、そのほかの参考書については授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 10 % (主に出席と授業態度で評価する)、音読の評価 30 % (ドイツ語として理解できる A+、ドイツ語の発音の基本を理解している A、発音の基本を二度間違える B、発音の基本を数回以上間違える C)、設問解答の姿勢 10 % (解答の正誤より解答姿勢を問う)、各課終了時の小テストの平均 50 % (短時間の翻訳で、授業で学んだ翻訳の基本事項を理解しているかどうかを評価する)

【学生の意見等からの気づき】

授業の方針や授業の目的を受講生によく理解してもらうように丁寧に説明する。

【Outline and objectives】

ドイツ語の文法を読解に役立つように捉えて、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語を用いて何らかの対応ができるようになることを目指します。

LANd200LA

ドイツ語 3 I

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I 2016 年度以前入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
営 2 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本文法をひと通り学習した学生が対象です。基本文法を確認しながら語彙を増やし、ドイツ語表現を学ぶことがこの授業の目標です。

【到達目標】

ドイツ語の文法上の弱点を発見し、関連語彙や派生語を増やしていきます。ドイツ語で日常的な表現や意思疎通ができるようにする。ドイツの生活・習慣・習俗・休暇制度について知る。日常生活や習慣・制度についてドイツ語での表現法を知る。論説的な文章を読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法説明等は講義形式になりますが、毎回、担当を決めて訳読します。回ごとのトピックや表現方法を取り上げながら、授業を進めます。DVDがあるので、それを授業で見ること、聞き取る能力をつけます。これらと並行して、ドイツの歴史や文化に触れる視聴覚資料を利用していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価について
第 2 回	Lektion1 自己紹介の表現	現在人称変化のまとめ
第 3 回	Lektion1 相手について知る	動詞の位置と練習問題
第 4 回	Lektion2 Meine Familie 家族の紹介	名詞の性のまとめ
第 5 回	Lektion2 Meine Familie 家族の持ち物	所有冠詞と練習問題
第 6 回	Lektion3 Meine Hobbys 趣味について語る	不規則動詞のまとめ
第 7 回	Lektion3 Meine Hobbys ドイツ人の趣味	名詞の複数形と練習問題
第 8 回	Lektion4 Zum Chiemsee ドイツの名所	名詞の 3 格について
第 9 回	Lektion4 Zum Chiemsee 交通機関について	前置詞と練習問題
第 10 回	Lektion5 Gesundheit ドイツの保険・医療制度	分離・非分離動詞のまとめ
第 11 回	Lektion5 Gesundheit ドイツと日本の医療の比較	時刻の表現と練習問題
第 12 回	Lektion6 Einkaufen 買い物の表現	話法の助動詞のまとめ
第 13 回	Lektion6 Einkaufen	命令形と練習問題
第 14 回	春学期で学んだ表現のまとめ	春学期の文法事項のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行う。次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みしておく（予習）。自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

テキストの毎回のテーマに関心を持ち、関連する本を読むとより興味をもって授業に臨め、理解も深めることができます。

【テキスト（教科書）】

ドイツ語の時間<ときめきミュンヘン> 清野智明他著 朝日出版社

【参考書】

必要な場合は授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業準備や訳読、積極的参加）30%、
期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語文法・表現についてわかりやすい丁寧な説明を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center(ILAC) Program.
This course provides advanced German expressions through reading and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

ドイツ語 3 II

2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016年度以前入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

営 2年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本文法をひと通り学習した学生が対象です。
春学期に学習したことを確実にし、基本文法を確認しながら語彙を増やし、ドイツ語表現を学ぶことがこの授業の目標です。

【到達目標】

ドイツの生活・習慣・習俗・休暇制度について知る。
日常生活や習慣・制度についてドイツ語での表現法を知る。
論理的な文章を読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学部：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1年時に学んだ文法事項を確認しながら、別角度で文法体系を見直します。
毎回、担当者を決めて本文と Lesetext を訳読し、解説を加えます。
DVDがあるので、それを授業で見ることで、聞き取る能力をつけます。
これらと並行して、ドイツの歴史や文化に触れる視聴覚資料を利用していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ミュンヘン 大都市の生活	3・4格支配の前置詞の文章
第2回	ミュンヘン 文化と芸術	並列接続詞を使った文を学ぶ
第3回	Nach dem Urlaub ドイツの休暇制度	定冠詞類のまとめ
第4回	Nach dem Urlaub ドイツ人の休暇の過ごし方	過去形を使った文を学ぶ
第5回	Essen und Trinken ドイツの食習慣	現在完了形の表現を学ぶ
第6回	Essen und Trinken テーブルマナーの比較	副文を使った表現を学ぶ
第7回	Weihnachten ドイツのクリスマス	比較級と最上級を学ぶ
第8回	Weihnachten クリスマスの祝い	再帰代名詞と再帰動詞を学ぶ
第9回	Mode ドイツのファッション	形容詞の格変化のまとめ
第10回	Mode 日本・ドイツ・イタリアのモードの比較	天候の表現を学ぶ
第11回	Mein Wunsch 願望や仮定の表現	接続法第2式を使った文例を学ぶ
第12回	Mein Wunsch 留学生の生活	zu不定詞を学ぶ
第13回	Mein Wunsch 夢を語る表現	esの用法を学ぶ
第14回	秋学期の総復習と試験	文法や表現方法の要点確認と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行う。
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みておく（予習）。

自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。
テキストの毎回のテーマに関心を持ち、関連する本を読むとより興味をもって授業に臨め、理解も深めることができます。

【テキスト（教科書）】

ドイツ語の時間<ときめきミュンヘン> 清野智明他著 朝日出版社

【参考書】

必要があれば適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業準備や訳読、積極的参加）30%、
期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい丁寧な説明を継続する。
ドイツについて新しい発見ができるように構成する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center(ILAC) Program.
This course provides advanced German expressions through reading and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

ドイツ語 3 I

2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 I

2016 年度以前入学者

長倉 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
営 2 年 Q・R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の基礎を確かなものとしながら、さらに応用力を身につけ、ドイツ語文の読解力をふくめて総合的なドイツ語力を養います。テキストを読めば、異文化としてのドイツ文化について知ることになります。

【到達目標】

中級程度のドイツ語文を一年後には読解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに即して進めます。テキストには、長文読解とドイツ語文の作成、文法問題が含まれています。これによってドイツ語の総合力を養います。さらに、中級文法を加えますが、これは適宜プリントを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、次回の準備などの説明
第 2 回	初級文法の復習	完了形と受動態、長文読解 (プリント)
第 3 回	初級文法の復習	関係代名詞、長文読解 (プリント)
第 4 回	Lektion1「授業中の生徒」	長文読解と表現練習
第 5 回	Lektion1「授業中の生徒」	不定関係代名詞その他
第 6 回	Lektion2「ドイツの女性」	長文読解と表現練習
第 7 回	Lektion2「ドイツの女性」	Zu 不定詞句、形容詞の名詞化
第 8 回	Lektion3「答案の記載」	長文読解と表現練習
第 9 回	Lektion3「答案の記載」	受動態、動詞の名詞化
第 10 回	Lektion3「答案の記載」	否定冠詞の用法ならびに否定文について
第 11 回	文法補足	接続法の学習
第 12 回	文法補足	zu なしの不定詞とその主語について 接続法の学習
第 13 回	Lektion4a「タクシーのとめ方」	認容表現の学習 現在分詞などの文法 分詞を基礎語とする述語句 長文読解、独作文
第 14 回	学期末試験	第 13 回までの授業内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題が出ます。宿題をやっていないと欠席扱いにします。

【テキスト（教科書）】

『CD付き ドイツ人の生活を知る 11 章』

著者：大谷弘道

出版社：三修社

【参考書】

独和辞典

『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』(中島悠爾/平尾浩三/朝倉巧共著) 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) 期末試験 (50%) を基本とする総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

ドイツ語 1 とドイツ語 2 の単位を修得していることが履修の基本条件。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the foundation of grammar, and to cultivate German ability, including reading comprehension.

LANd200LA

ドイツ語 3 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3：理解テキスト把握 II 2016 年度以前入学者

長倉 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

営 2 年 Q・R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の基礎を確かなものとしながら、さらに応用力を身につけ、ドイツ語文の読解力をふくめた総合力を養います。テキストを読めば、ドイツの文化を知ることになります。

【到達目標】

中級程度のドイツ語文を読解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに即して進めます。春学期より量を多くします。テキストは、長文読解とドイツ語文の作成、文法問題が含まれています。これによってドイツ語の総合力を養います。主な動詞の前綴りや重要な構文などについてプリントで補います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion4b「タクシーで乗客の座る場所」	長文読解と独作文
第 2 回	Lektion4b「タクシーで乗客の座る場所」	Wenn の省略文の表現、間違え易い文法事項（英語との比較）
第 3 回	Lektion5「猛暑日の対応」	長文読解と独作文
第 4 回	Lektion5「猛暑日の対応」	比較級・最高級の復習
第 5 回	Lektion6「犬と猫の購入」	長文読解と独作文
第 6 回	Lektion6「犬と猫の購入」	接続法の復習
第 7 回	Lektion6「犬と猫の購入」	長文読解
第 8 回	重点文法補足	冠飾句
第 9 回	重点文法補足	不定代名詞・指示代名詞、人称代名詞 2 格
第 10 回	Lektion7「ペットの大きさ」	長文読解と独作文
第 11 回	Lektion7「ペットの大きさ」	前置詞など初級文法復習、前置詞との合体形
第 12 回	Lektion7「ペットの大きさ」	序数の用法
第 13 回	Lektion8「ドイツの広告」	無冠詞の名詞他文法復習 長文読解と独作文
第 14 回	学期末試験	第 13 回までの授業内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題がでます。宿題をかならずやって授業にでること。

【テキスト（教科書）】

『CD 付き ドイツ人の生活を知る 11 章』

著者：大谷弘道

出版社：三修社

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著）白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末試験（50 %）を基本とする総合評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ドイツ語 3 I の単位を修得していることが履修の基本条件。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to reach the stage where they can understand more advanced German writings.

LANd200LA

ドイツ語 4 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 4 I 2016 年度以前入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文館 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次にドイツ語 1、2 を学習した学生が文法事項や構文上の学習知識を確かなものとし、さらに高めていくためにさまざまなシチュエーションのなかで必要な表現を学ぶことを目的とします。

またドイツの若者の日常や関心などを会話表現を通して学びます。

【到達目標】

初級文法の知識を確かなものとし、

日常のさまざまなシチュエーションで使われる表現、使える会話表現を身につけます。聞き取る力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ドイツの若者や家族の日常を題材にしたビデオを使い、その表現を学びます。テキストを担当者を決めて訳読し、そこに使われている文法事項を理解するように、1 年次の文法知識の復習を兼ねながら丁寧にわかりやすく説明してゆきます。

また、またヒアリングの練習のためにもなるようビデオも繰り返し見てゆきます。

配布のテキストはプリントしてこちらで用意します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期授業の説明 Introduction Kapitel 1 Auf dem Flughafen 空港での待ち合わせの表現	授業の進め方、評価基準などを説明 Kapitel 1 Auf dem Flughafen の文法的説明を行う
第 2 回	Kapitel 1 Auf dem Flughafen 電話の表現	テキストの Kapitel 1 Auf dem Flughafen の読解を行う
第 3 回	Kapitel 1 Auf dem Flughafen 心情の表現 この章のまとめと確認	テキストの Kapitel 1 Auf dem Flughafen の会話的表現を学ぶ この章の練習問題で内容確認と表現の練習・まとめ
第 4 回	Kapitel 2 Sommer 休暇の過ごし方の表現	Kapitel 2 Sommer の文法的説明を行う
第 5 回	Kapitel 2 Sommer 命令形の表現	テキストの Kapitel 2 Sommer の読解を行う
第 6 回	Kapitel 2 Sommer 季節の表現 この章のまとめと確認	テキストの Kapitel 2 Sommer の表現を学ぶ この章の練習問題で内容確認と表現の練習・まとめ
第 7 回	Kapitel 3 Pferde und Fahrraeder 農村体験について	Kapitel 3 Pferde und Fahrraeder の文法的説明を行う
第 8 回	Kapitel 3 Pferde und Fahrraeder ドイツ人と自転車について	テキストの Pferde und Fahrraeder の読解を行う②
第 9 回	Kapitel 3 Pferde und Fahrraeder ドイツの家庭について この章のまとめと確認	Pferde und Fahrraeder の表現を学ぶ この章の練習問題で内容確認と表現の練習・まとめ
第 10 回	Kapitel 4 Zu Hause 家での過ごし方について	Kapitel 4 Zu Hause の文法的説明を行う
第 11 回	Kapitel 4 Zu Hause 高校生活と友人について	テキストの Kapitel 4 Zu Hause の読解を行う

第 12 回	Kapitel 4 Zu Hause 現在完了形について この章のまとめと確認	テキストの Kapitel 4 Zu Hause の表現を学ぶ この章の練習問題で内容確認と表現の練習・まとめ
第 13 回	Kapitel 5 Guten Appetit! レストランとメニューの表現	Kapitel 5 Guten Appetit! の読解と文法的説明を行う。食事の表現を学ぶ。
第 14 回	これまで学んだ表現の確認と試験	読解と文法的説明のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行う。次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みしておく（予習）。

自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。テキストに描かれている事柄（例えば、環境問題や人種問題、家族の状況）などに関心を持ち、そうした時事的な事柄に関して書かれた本を読むとより興味をもって授業に臨め、理解も深めることができます。

【テキスト（教科書）】

Deutsch Aktuell 2 を使用する。ビデオも毎回使用する。（テキストはこちらで毎回プリントして用意しますので、購入するテキストはありません）

【参考書】

とくにありませんが、毎回、独和辞典を持ってきてください。また、テキストに描かれている事柄などに関して書かれた本を読むことも重要です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%

平常点 30%（訳読などの課題発表・積極的参加）

【学生の意見等からの気づき】

ドイツやドイツ語の知識がついた、説明がわかりやすいというコメントなので、今後も丁寧な解説で説明しています。

また、各章の終わりについている内容確認と表現練習で知識を確かなものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German expressions on various topics through reading and with audio-visual aids and helps students to develop reading and listening skills.

It is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

ドイツ語 4 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 4 II 2016 年度以前入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文館 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に学んだことを踏まえて、1 年次にドイツ語 1、2 を学習した学生が文法事項や構文上の学習知識を確実なものとし、さらに高めていくために、さまざまなシチュエーションを想定した表現を身につけていくことを目的とします。

またドイツの若者の日常や関心などを会話表現で学びます。

【到達目標】

初級文法の知識を確実なものとし、日常のさまざまなシチュエーションで使われる表現学びます。

聞き取る力を養成します。

日常生活のさまざまな事柄を簡単なドイツ語で表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツの若者や家族の日常を題材にしたビデオを使います。

各回ごとにテキストを担当者を決めて訳読してもらい、そこに使われている文法事項を解説します。

1 年次の文法知識の復習を兼ねながら丁寧にわかりやすく説明します。

ヒアリングの力を養成するためにビデオを字幕あり・なしの形式で繰り返し見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction Kapitel 6 Das Mittagessen 接続法の表現	Introduction Kapitel 6 Das Mittagessen の文法的説明を行う。
第 2 回	Kapitel 6 Das Mittagessen 命令形の表現	Kapitel 6 Das Mittagessen のテキスト読解を行う。
第 3 回	Kapitel 6 Das Mittagessen (3) この Kapitel のまとめと確認	Kapitel 6 Das Mittagessen の表現について学ぶ。 練習問題で確認と応用
第 4 回	Kapitel10 Der Arzt kommt ドイツの医療について	Kapitel10 Der Arzt kommt テキストの文法的説明を行う
第 5 回	Kapitel10 Der Arzt kommt 感謝の表現	Kapitel10 Der Arzt kommt テキストの読解を行う
第 6 回	Kapitel10 Der Arzt kommt この Kapitel のまとめと確認	Kapitel10 Der Arzt kommt テキストの表現の説明を行う 練習問題で確認と応用
第 7 回	Kapitel 11 Autos ドイツの環境問題に対する意識	Kapitel 11 Autos テキストの文法的説明を行う
第 8 回	Kapitel 11 Autos ドイツの若者の環境問題への取り組み	Kapitel 11 Autos(2) テキストの読解を行う
第 9 回	Kapitel 11 Autos	Kapitel 11 Autos(3) テキストの表現の説明を行う 練習問題で確認と応用
第 10 回	Kapitel 12 Im Fernsehen 受動形表現を学ぶ	Kapitel 12 Im Fernsehen テキストの文法的説明を行う
第 11 回	Kapitel 12 Im Fernsehen テレビクルーについて	Kapitel 12 Im Fernsehen テキストの読解を行う

第 12 回	Kapitel 12 Im Fernsehen インタビューの表現	Kapitel 12 Im Fernsehen テキストの表現を学ぶ
第 13 回	Kapitel 12 Im Fernsehen この Kapitel のまとめと確認	Kapitel 12 Im Fernsehen 練習問題で確認と応用
第 14 回	ドイツ事情や日常会話表現のまとめと試験	ドイツ事情解説 会話表現の要点 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習った知識を確実にするために復習をします。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みておきます（予習）。

自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます（復習）。

テキストに描かれている事柄（例えば、環境問題や人種問題、家族の状況）に関心を持ち、そうした時事的な事柄に関して書かれた本を読み、より興味をもって授業に臨み、理解を深めます。

【テキスト（教科書）】

Deutsch Aktuell 2 (Fourth Edition)

EMC/Paradigm Publishing

テキストはこちらでプリントし、配布します。

【参考書】

とくにありませんが、毎回、独和辞典を持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。

期末試験 70%

平常点（訳読などの課題発表・積極的参加）30%

【学生の意見等からの気づき】

ドイツやドイツ語の知識がついた、説明がわかりやすいというコメントなので、今後も丁寧な説明に努めたい。

また、各章の終わりについている内容確認と表現練習で知識を確実なものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German expressions on various topics through reading and with audio-visual aids and helps students to develop reading and listening skills.

It is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

ドイツ語 4 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 4 I 2016 年度以前入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3
法文堂 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の向上を目指し、異文化理解を深める。

【到達目標】

文法の復習と読解力の向上をめざすばかりでなく、書かれた内容を通して、翻訳では伝わりにくいドイツの文化、ヨーロッパの文化に触れ、世界を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回教科書に入る前に、よく使われるドイツ語の表現、ドイツの話題などを紹介する。

課題はクラスの様子を見ながら、適したものを学生と相談しながら出す

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、発音と文法の復習。	各学生の学び残しの確認と復習
2	発音と文法の復習。	前回に続き、復習中心の学び。
3	未習の文法項目がなければ Lektion 1	ドイツ人は家族の間でなんと呼び合うか？
4	未習の文法項目がなければ Lektion 1 の続き。	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。語順・形容詞の名詞的用法・2 格の用法
5	Lektion 2	さすがドイツ人—マンションの掃除は当番制で！
6	Lektion 2 の続き。	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。枠構造・前置詞つき目的語をとる動詞と形容詞
7	Lektion 3	ドイツ人は風呂が嫌い？
8	Lektion 3 の続き。	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。外交的接続法・特別な意味を持つ前置詞・所有の 3 格
9	Lektion 4	閉店法一日曜日には何も買えない！
10	Lektion 4 の続き	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。副文の短縮
11	Lektion 5	シュワルツェネッカーとボディービル
12	Lektion 5	不定関係代名詞・冠飾句
13	重要事項の補足	特に重要な事項を詳しく学ぶ。
14	春学期の復習	学んだことの全体的な復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での指示に従うこと。

本文は予習した方が、練習問題は解きやすい。

【テキスト（教科書）】

橋本政義他著『グレードアップドイツ語<新訂増補版>』郁文堂

【参考書】

本郷建治著『ドイツ文法の要点』三修社

中島悠爾他著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

出席回数が足りないと、課題を提出する資格も試験を受ける資格も失うので気をつけること。具体的には授業中に話す。授業に取り組む姿勢と授業時、授業後の課題を併せて 50% とし、期末試験を 50% とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生には満足し、感謝しています。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

教科書と独和辞典を毎回持参すること。

【Outline and objectives】

The improvement in German and the mutual understanding of other cultures

LANd200LA

ドイツ語 4 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 4 II 2016 年度以前入学者

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3
法文堂 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の向上を目指し、異文化理解を深める。

【到達目標】

ドイツ語の文章が自分でも楽しみながら読めるようになる。それにとどまらず語彙を増やし、構造を理解しながらドイツ語の総合力を高める。

ドイツへの理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

比較的平易なドイツ語で書かれた文章を味わいながら読む。各課ごとの練習問題を通して総合力を高める。教科書の他に、すぐに役立つ表現、最新のドイツ事情なども紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業方針の説明、ドイツについての知識を増やす映像の鑑賞。
2	Lektion 6	ドイツ人が一番好きなスポーツ—サッカー
3	Lektion 6 の続き	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。様々な受動的表現
4	Lektion 7	世界最大の民族祭—オクトーバーフェスト
5	Lektion 7 の続き	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。様々な枠外配置・不定代名詞の名詞的用法
6	Lektion 8	大学の授業の行方は？
7	Lektion 8 の続き	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。機能動詞構造
8	Lektion 9	ドイツ人の友達を作ろう！
9	Lektion 9 の続き	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。様々な命令的表現
10	Lektion 10	ドイツでは離婚が多い？
11	Lektion 10 の続き	文化の背景に目を配りながら、練習問題を解く。語法の助動詞の注意すべき用法
12	Lektion 11	シュタイナー学校—理想の教育とは？
13	重要事項の補足	特に重要な事項を詳しく学ぶ。
14	秋学期の復習	秋学期学んだことの全体的な復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回学んだことの復習とテキストの予習。

【テキスト（教科書）】

橋本政義他著『グレードアップドイツ語<新訂増補版>』郁文堂

【参考書】

中島悠爾他著『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社

【成績評価の方法と基準】

授業に取り組む姿勢、授業時、授業後の課題提出 (50%)、試験 (50%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく勉強しましょう！

【その他の重要事項】

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

教科書と独和辞典を毎回持参すること。

【Outline and objectives】

The improvement in German and the mutual understanding of other cultures

LANd200LA

ドイツ語 4 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 4 I 2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文館 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日本のドイツ語学習者向けに編纂した時事ドイツ語のテキストを読み、初級～中級レベルの時事テキストを読むための読解力・文法力・語彙力を身につけることを目的とします。扱うテキストは、1 年間初級文法を学んだ人にとって最初は難しく感じるかもしれませんが、じっくり読んでいけば着実に力は付きます。また受講者のみなさんにはドイツで起きていることを把握し、日本の現状と比較検討しながら自分の意見を組み立てていただきたいと思います。

【到達目標】

- ・ドイツ語の時事テキストを読むだけの文法能力と語彙力を身につける。
- ・ドイツの現代事情を知るための背景知識を得て、日本と比較しながら考える視座を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全体練習・ペアワークで文章を声に出して読み、その後文章を日本語に訳していきます。必要に応じて教員が文章の文法構造や内容理解に関わる背景情報について解説を加えます。訳の日本語よりもドイツ語の文章の文法構造や内容の理解を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	文章を読むための文法知識	ドイツ語の語順と格について
第 3 回	Der Wolf kehrt zurück (1)	第一段落および第二段落
第 4 回	Der Wolf kehrt zurück (2)	第三段落および第四段落
第 5 回	Der Wolf kehrt zurück (3)	第五段落および練習問題
第 6 回	Insektensterben in Deutschland (1)	第一段落および第二段落
第 7 回	Insektensterben in Deutschland (2)	第三段落および第四段落
第 8 回	Insektensterben in Deutschland (3)	第五段落および練習問題
第 9 回	Der Dreißigjährige Krieg - ein deutsches Trauma (1)	第一段落および第二段落
第 10 回	Der Dreißigjährige Krieg - ein deutsches Trauma (2)	第三段落および第四段落
第 11 回	Der Dreißigjährige Krieg - ein deutsches Trauma (3)	第五段落および練習問題
第 12 回	Karl Marx zum 200. Geburtstag (1)	第一段落および第三段落
第 13 回	Karl Marx zum 200. Geburtstag (2)	第四段落および練習問題
第 14 回	まとめ	これまでに学んだことの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ指示した範囲の文章を声に出して読み、日本語に訳していただくこと。文法構造や内容についてわからない箇所は、なぜわからないのかをはっきりさせていただくこと。

【テキスト（教科書）】

Andrea Raab・石井寿子『時事ドイツ語 2019 年度版』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『アクセス独和辞典』三修社 4,100 円

『アポロン独和辞典』同学社 4,200 円

電子辞書でも可。また一年生のときに用いたドイツ語の文法教科書を授業にもってくる可。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ペアワークを含めた授業への積極的な参加・予習）： 50 %

学期末テスト： 50 %

※ ただし学期末テストの点数が 50 点未満の場合には単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

ときおり文法の解説などで話すのが早いとの指摘を受けているので気をつけたい。またリアクションペーパーや学生との対話を通じて密なコミュニケーションに務めたい。

【その他の重要事項】

授業計画の内容および進度は受講者の理解度に応じて変更されることがある。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire intermediate language skills by reading texts about current events in Germany. At the beginning of the semester these texts will be difficult to understand for those who have studied the basic grammar for a year, but participants will soon improve their language skills and be able to understand the texts at the end of the semester. Participants are also expected to inform themselves about the culture, history, politics and society of Germany and to express opinions in comparison to Japan.

LANd200LA

ドイツ語 4 II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 4 II 2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期に引き続き日本のドイツ語学習者向けに編纂した時事ドイツ語のテキストを読み、初級～中級クラスの時事テキストを読むための読解力・文法力・語彙力を身につけることを目的とします。扱うテキストは、1年間初級文法を学んだ人にとって最初は難しく感じるかもしれませんが、じっくり読んでいけば着実に力は付きます。また受講者のみなさんにはドイツで起きていることを把握し、日本の現状と比較検討しながら自分の意見を組み立てていただきたいと思います。

【到達目標】

・ドイツ語の時事テキストを読むだけの文法能力と語彙力を身につける。
・ドイツの現代事情を知るための背景知識を得て、日本と比較しながら考える視座を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

全体練習・ペアワークで文章を声に出して読み、その後文章を日本語に訳していきます。必要に応じて教員が文章の文法構造や内容理解に関わる背景情報について解説を加えます。訳の日本語よりもドイツ語の文章の文法構造や内容の理解を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	150 Jahre Reclams Universal-Bibliothek (1)	第一段落および第二段落
第3回	150 Jahre Reclams Universal-Bibliothek (2)	第三段落および第四段落
第4回	150 Jahre Reclams Universal-Bibliothek (3)	第五段落および練習問題
第5回	Die Augusburger Puppenkiste hat Geburtstag (1)	第一段落および第二段落
第6回	Die Augusburger Puppenkiste hat Geburtstag (2)	第三段落および第四段落
第7回	Die Augusburger Puppenkiste hat Geburtstag (3)	第五段落および練習問題
第8回	"Echo" geht an Gangsta-Rapper: Aus für namhaften Musikpreis (1)	第一段落および第二段落前半部
第9回	"Echo" geht an Gangsta-Rapper: Aus für namhaften Musikpreis (2)	第二段落後半部および第三段落
第10回	Sehnsucht nach dem Mittelalter (1)	第一段落および第二段落
第11回	Sehnsucht nach dem Mittelalter (2)	第三段落～練習問題
第12回	Pflegenotstand in Deutschland (1)	第一段落～第三段落
第13回	Pflegenotstand in Deutschland (2)	第四段落～練習問題
第14回	まとめ	これまでに学んだことの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ指示した範囲の文章を声に出して読み、日本語に訳していただくこと。日本語に訳すことそのものよりも、わからない箇所があれば、それがなぜわからないのかをはっきりさせてくださることを重視する。

【テキスト（教科書）】

Andrea Raab・石井寿子『時事ドイツ語 2019 年度版』朝日出版社、2019 年。

【参考書】

『アクセス独和辞典』三修社 4,100 円

『アポロン独和辞典』同学社 4,200 円

電子辞書でも可。また一年生のときに用いたドイツ語の文法教科書を授業にもってくることを。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ペアワークを含めた授業への積極的な参加・予習）：50 %

学期末テスト：50 %

※ ただし学期末テストの点数が 50 点未満の場合には単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

ときおり文法の解説などで話すのが早くなるとの指摘を受けているので気をつけたい。またリアクションペーパーや学生との対話を通じて密なコミュニケーションに努めたい。

【その他の重要事項】

授業計画の内容および進度は受講者の理解度に応じて変更されることがある。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire intermediate language skills by reading texts about current events in Germany. At the beginning of the semester these texts will be difficult to understand for those who have studied the basic grammar for a year, but participants will soon improve their language skills and be able to understand the texts at the end of the semester. Participants are also expected to inform themselves about the culture, history, politics and society of Germany and to express opinions in comparison to Japan.

LANd200LA

ドイツ語 (3) I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 (3) I 2016 年度以前入学者

内田 俊一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一年生で学んだドイツ語の知識にもとづいて、さらに上の段階のドイツ語基礎能力の養成を目指します。また、ドイツ人と日本人の生活観の違い、ひいては文化の違いに注意を喚起したいと思います。

【到達目標】

一年生で学んだ項目を復習しながら、発音・表現・語彙・聞きとり・読解といったドイツ語の基礎能力をさらに充実させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ人の生活をスケッチした簡単な読み物を読みながら、ドイツ人と日本人の生活観の違いについて考えてみましょう。同時に、テキストに関連した練習問題を解くことを通して、ドイツ語の基礎能力のさらなる充実をはかります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	第 1 課「授業中の生徒」前半	第 1 課前半の学習
第 3 回	第 1 課「授業中の生徒」後半	第 1 課後半の学習
第 4 回	第 2 課「ドイツの女性」前半	第 2 課前半の学習
第 5 回	第 2 課「ドイツの女性」後半	第 2 課後半の学習
第 6 回	第 3 課「答案の記載」前半	第 3 課前半の学習
第 7 回	第 3 課「答案の記載」後半	第 3 課後半の学習
第 8 回	第 4 課「タクシーのとめ方/タクシーで乗客の座る場所」前半	第 4 課前半の学習
第 9 回	第 4 課「タクシーのとめ方/タクシーで乗客の座る場所」後半	第 4 課後半の学習
第 10 回	第 5 課「猛暑日の対応」前半	第 5 課前半の学習
第 11 回	第 5 課「猛暑日の対応」後半	第 5 課後半の学習
第 12 回	第 6 課「犬と猫の購入」前半	第 6 課前半の学習
第 13 回	第 6 課「犬と猫の購入」後半	第 6 課後半の学習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。なお、この教科書には CD が付いていますから、それを使って自宅で予習・復習をしてください。

【テキスト (教科書)】

大谷弘道著『CD 付き ドイツ人の生活を知る 1 1 章』(三修社)、2500 円 + 税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行います。授業への参加状況 (練習問題や教授者の質問に熱心に取り組んだかどうか) も平常点として評価します。成績評価基準：試験 50 % + 平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけたつもりですが、いくつかわかりにくい点が残ってしまったかもしれません。さらにわかりやすい説明に努めます。

LANd200LA

ドイツ語 (3) II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 (3) II 2016 年度以前入学者

内田 俊一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一年生で学んだドイツ語の知識にもとづいて、さらに上の段階のドイツ語基礎能力の養成を目指します。また、ドイツ人と日本人の生活観の違い、ひいては文化の違いに注意を喚起したいと思います。

【到達目標】

一年生で学んだ項目を復習しながら、発音・表現・語彙・聞きとり・読解といったドイツ語の基礎能力をさらに充実させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ人の生活をスケッチした簡単な読み物を読みながら、ドイツ人と日本人の生活観の違いについて考えてみましょう。同時に、テキストに関連した練習問題を解くことを通して、ドイツ語の基礎能力のさらなる充実をはかります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	第 7 課「ベッドの大きさ」前半	第 7 課前半の学習
第 3 回	第 7 課「ベッドの大きさ」後半	第 7 課後半の学習
第 4 回	第 8 課「ドイツの広告」前半	第 8 課前半の学習
第 5 回	第 8 課「ドイツの広告」後半	第 8 課後半の学習
第 6 回	第 9 課「除雪」前半	第 9 課前半の学習
第 7 回	第 9 課「除雪」後半	第 9 課後半の学習
第 8 回	第 10 課「話しの途中の質問」前半	第 10 課前半の学習
第 9 回	第 10 課「話しの途中の質問」後半	第 10 課後半の学習
第 10 回	第 11 課「結婚制度」前半	第 11 課前半の学習
第 11 回	第 11 課「結婚制度」後半	第 11 課後半の学習
第 12 回	チャレンジコーナー「結婚すると、こんなにもお得です」	チャレンジコーナーの学習
第 13 回	総復習	総復習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。なお、この教科書には CD が付いていますから、それを使って自宅で予習・復習をしてください。

【テキスト (教科書)】

大谷弘道著『CD 付き ドイツ人の生活を知る 1 1 章』(三修社)、2500 円 + 税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行います。授業への参加状況 (練習問題や教授者の質問に熱心に取り組んだかどうか) も平常点として評価します。成績評価基準：試験 50 % + 平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心がけたつもりですが、いくつかわかりにくい点が残ってしまったかもしれません。さらにわかりやすい説明に努めます。

LANd200LA

ドイツ語7

2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語7

2016年度以前入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 2年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前年度の「ドイツ語1」「ドイツ語3」の後続授業という位置付けです。SAドイツ語圏での留学に対する事前準備として、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要なドイツ語運用能力の獲得とさらなる向上を目指します。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語の文章を文法に即し分析的に読む能力の向上です。これが一定のレベルに達しないうちは、SA先大学のドイツ語での授業についていけません。

第二の目標は、大学生の知的な会話にふさわしい、抽象的なトピックに関する語彙を増やし、それについてコメントや意見を述べる（作文）能力の獲得です。第三の目標は、地域ごと異なる社会制度や文化慣習を、言語の特性と関連づけて理解できる能力への目配せです。「リューネブルクならでは」という文化的差異を知的に理解し楽しめれば、SAはより充実した体験になるはずだからです。

以上を通じて、留学地での生活に適応するために必要な能力と心構えをしつかり身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語のテキスト読解と、その内容に対する質問に答える作文を軸に進めます。並行して、前年度「ドイツ語1」「ドイツ語3」で使用した教科書を用いながら、ドイツ語の初級文法の基礎固めを行います。初級文法の知識を確かなものにしつつ、ドイツ語圏とヨーロッパの様々な制度や風土、ひとびとの暮らしに沿った秋学期のSA先の大学での授業の準備、積極的にドイツ語で発信できる自信の獲得を目指し、マルチメディア教材・資料も用いながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業全般について、1年次の復習をまじえ教科書と既習事項の確認
2	一緒に出かけよう（復習1）	話法の助動詞と分離動詞：枠構造、時刻・天候の表現、現在完了：過去の自分の行動を説明する
3	自分の毎日・一日の行動（復習2）	再帰動詞と再帰表現、受動態を使った方が適切な場合：身体に関わる表現、お付き合いの仕方
4	補足1：話法の助動詞の補足・知覚動詞・不定詞と不定詞句	話法の助動詞に準じる動詞、「動詞を名詞に変えて使う」利点
5	もうすぐクリスマス（アドヴェント）	（文法の補足）定関係代名詞（1）：複文を徹底的に理解する
6	もうすぐクリスマス（クリスマスマーケット）	（文法の補足）定関係代名詞（2）及び関係副詞：複文を理解する、名詞、動詞及び副詞を区別し作文する
7	教会と信仰1 — クリスマスを祝う	（文法の補足）接続法（1）：法（Mode）の考え方、直説法・命令法・接続法の違い、接続法第II式の用法
8	教会と信仰2 — さまざまな風習	（文法の補足）接続法（2）：接続法第II式の用法、「引用する」とはそもそもどういう現象なのか
9	「ドイツ語」という言葉	ドイツ語を話す地域・様々な方言と多様な表現、「ドイツ語」の成立の背景にあったもの
10	教育と学校制度	義務教育で身に付けるもの、「自分で選択する」という自覚
11	"Bildung"という価値	大学あるいは職業教育という選択、大学は何のため？
12	働き方と住み方	働くのは何のため？ 人間関係と住まいの関係、くつろいだ気持ちを表すドイツ語
13	余暇と休暇（長期休暇・有給休暇）	自由な時間を謳歌する権利、有給休暇を消化する義務

14 まとめ

学期末最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごとに予習・復習の課題を出します。ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。

【テキスト（教科書）】

"Dreimal Deutsch" (Klett, 2000/2005)

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ・Ver2』（朝日出版社、2011年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014年）

【成績評価の方法と基準】

授業運営への貢献と積極的な参加（予習、復習、プレゼンテーション）70%、学期末試験30%を合わせた総合的評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通につとめます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。紙媒体の辞書を用いること（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・「ドイツ語技能検定試験」（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）3級未合格者には、SA参加前の受験（2019年6月23日実施予定）を強く薦めません。受験費用は各自負担となります。

【Outline and objectives】

German course for the intermediate levels (nearly A1. completed), exclusively for Participants of SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) in the next semester (2019WS) held by the faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary Grammar and vocabulary with reading Text in German. The aim of this course is to get basic knowledge of the German language and german speaking world, especially ability of reading and composition for general topics to talk about.

LANd200LA

ドイツ語 8 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 8 2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

国 2 年 SA

[Outline and objectives]

This preparatory course for studying abroad aims to acquire intermediate German language skills, basic knowledge of the country and the target city of Lüneburg. Students will improve their reading skills and their ability to find information quickly and accurately. They are also expected to get used to expressing their opinions in a positive way.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA によるドイツ留学の準備として、現地で授業を理解し、留学生活を送るために必要なドイツ語運用能力を高めることを目的とします。とくに書かれたテキストから効率よく正確に情報を得る力とリサーチ能力を磨きます。また現地では日本の日常生活以上に積極的な発言や自己表現が要求されるため、そのような意識を持っていただくこと、そしてわからないことに戸惑わない「図太さ」を養うことも、この授業の目的です。

【到達目標】

SA に参加し、十分な成果を修めることができるために必要なドイツ語運用能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

SA での授業を理解し、留学生活を送るために必要なドイツ語運用能力を高めるための練習を行う。具体的にはドイツや日本について書かれたテキストを読み、訳さずにすばやく正確に内容を理解する力を磨く。なお、学生の理解度や関心に応じて、進度や扱うテーマは変わる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	ドイツの基本情報	ドイツの基本情報を学ぶ
第 3 回	ドイツの政治（1）	ドイツの政治制度について学ぶ
第 4 回	ドイツの政治（2）	ドイツの選挙制度
第 5 回	EU について	EU の歴史と制度を学ぶ
第 6 回	ドイツと EU	EU におけるドイツの位置について学ぶ
第 7 回	ドイツの経済（1）	ドイツの経済について学ぶ
第 8 回	ドイツの経済（2）	ドイツの対外貿易について学ぶ
第 9 回	リューネブルクについて（1）	留学先リューネブルクの歴史や地理を学ぶ
第 10 回	リューネブルクについて（2）	留学先リューネブルクの街について学ぶ（グループワーク）
第 11 回	リューネブルクについて（3）	留学先リューネブルクの街について学ぶ（発表）
第 12 回	ドイツ人の学生は日本をどう見たか（1）	ドイツ人留学生の留学体験記を読む（テキスト購読）
第 13 回	ドイツ人の学生は日本をどう見たか（2）	ドイツ人留学生の留学体験記を読む（議論）
第 14 回	まとめ	これまでに学んだことの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を出すので、それを行ってくる。また授業で出た宿題をこなすだけでなく、自ら復習することが重要となる。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）その他のテキストは授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストと期末試験によって評価する。留学生活に必要な知識と理解力、ドイツ語運用能力を獲得しているかが基準となる。

授業への積極的な参加：40 %

課題提出：20 %

期末試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンかスマートフォンを持ってきてください。

LANd200LA

ドイツ語 3 - I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3 - I 2016 年度以前入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 G~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語初級文法を終えた学生が対象です。ひととおりの基本文法を学習したとはいえ、長文のドイツ語を読む訓練はこれからの学生が、基本的な文法事項を復習しながら、ドイツ語を読み、理解する楽しさを身につけることが目標となります。

【到達目標】

平易な文章から始め、ドイツ語の語彙を増やしながらか段階を経て読み進めていくことで、より複雑で内容的にも高度な文章を理解できることを目指します。あわせてより一層文法知識を定着させ弱点を補強します。幅広いテーマについての文章を読んでいます、「いま」のドイツで話題・問題になっていることを取り上げた文章も読むことで、現在のドイツの姿を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

学生各自が事前に準備した課題を発表する形式を基本として授業を進めていきます。必要に応じて文法事項やテキストを理解するための背景知識の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、第1章 前半	授業の進め方、教材の説明、成績評価について、Der Wolf kehrt zurueck 1
2	第1章 後半	Der Wolf kehrt zurueck 2
3	第2章 前半	Insektensterben in Deutschland 1
4	第2章 後半	Insektensterben in Deutschland 2
5	第3章	Der Dreissigjaehrige Krieg
6	第4章 前半	Karl Marx 1
7	第4章 後半	Karl Marx 1
8	第5章 前半	150 Jahre Reclams 1
9	第5章 後半	150 Jahre Reclams 2
10	第6章 前半	Die Augsburger Puppenkiste 1
11	第6章 後半	Die Augsburger Puppenkiste 2
12	第7章 前半	Echo geht an Gangsta-Rapper 1
13	第7章 後半	Echo geht an Gangsta-Papper 2
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画に従って授業準備をします。次回の授業で取り上げるテキストを予習し、意味をつかんでおきます。文法的に分からないことがあれば、教科書や参考書等で確認しておきます。

【テキスト（教科書）】

Neuigkeiten aus Deutschland(石井寿子、アンドレア・ラープ著『時事ドイツ語 2019 年度版』)、朝日出版社、2019 年 1 月

【参考書】

必要の場合は授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60% で総合的に評価します。平常点は日々の授業準備や宿題等によって判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire advanced skills in reading and understanding long passages by reviewing the basic grammar.

LANd200LA

ドイツ語 3 - II 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語 3 - II 2016 年度以前入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 G~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、長文のドイツ語を読む訓練として、基本的な文法事項を復習しながら、ドイツ語を読み、理解する楽しさを身につけることが目標となります。

【到達目標】

平易な文章から始め、ドイツ語の語彙を増やしながらか段階を経て読み進めていくことで、より複雑で内容的にも高度な文章を理解できることを目指します。あわせてより一層文法知識を定着させ弱点を補強します。幅広いテーマについての文章を読んでいます、「いま」のドイツで話題・問題になっていることを取り上げた文章も読むことで、現在のドイツの姿を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

学生各自が事前に準備した課題を発表する形式を基本として授業を進めていきます。必要に応じて文法事項やテキストを理解するための背景知識の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 章	Sehnsucht nach dem Mittelalter
2	第 9 章 前半	Pflegenotstand in Deutschland 1
3	第 9 章 後半	Pflegenotstand in Deutschland 2
4	第 10 章 前半	Fussballweltmeisterschaft 2018 1
5	第 10 章 後半	Fussballweltmeisterschaft 2018 2
6	第 11 章 前半	Japan und die EU 1
7	第 11 章 後半	Japan und die EU 2
8	第 12 章 前半	Die Deutschen und die Boerse 1
9	第 12 章 後半	Die Deutschen und die Boerse 2
10	第 13 章 前半	Neue Regierung in der Krise 1
11	第 13 章 後半	Neue Regierung in der Krise 2
12	第 14 章	Trend aus Japan
13	第 15 章	Die Romantische Strasse
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画に従って授業準備をします。次回の授業で取り上げるテキストを予習し、意味をつかんでおきます。文法的に分からないことがあれば、教科書や参考書等で確認しておきます。

【テキスト（教科書）】

Neuigkeiten aus Deutschland(石井寿子、アンドレア・ラープ著『時事ドイツ語 2019 年度版』)、朝日出版社、2019 年 1 月

【参考書】

必要の場合は授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60% で総合的に評価します。平常点は日々の授業準備や宿題等によって判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire advanced skills in reading and understanding long passages by reviewing the basic grammar.

LANd200LA

ドイツ語3-I 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3-I 2016年度以前入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
環 2年 A~F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発展練習をします。

【到達目標】

この授業では、1年間初級文法を学んできた人を対象に、さらに文法の知識や語彙の力を強化して、ドイツ語の文章を読んだり聞いたりできたりできるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

春学期は、文法の基礎事項を再確認しつつ、さらに高度な文法を学んでいきます。さらに応用練習として、環境問題やサステイナビリティに関連するドイツ語のテキストの読解と、音声や映像の教材を用いた聞き取り練習を平行しておこないます。

参加者は、必ず辞書を用意し、宿題・予習をして授業にのぞんで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入・第1回小テスト	1年次に学習した文法事項の確認テスト。
第2回	名詞と代名詞	基礎的文法の確認と発展。基本動詞・冠詞類・名詞について。
第3回	応用練習 1	テキスト読解をおこないます。
第4回	応用練習 2	テキスト読解、および音声・映像教材を使用します。
第5回	過去形と現在完了形	動詞の時制の確認をします。
第6回	応用練習 3	テキスト読解をおこないます。
第7回	応用練習 4	テキスト読解、および音声・映像教材を使用します。
第8回	第2回小テスト	第2～第7回の内容をテストします。
第9回	動詞のいろいろ	分離動詞・助動詞・再帰動詞について。
第10回	応用練習 5	テキスト読解をおこないます。
第11回	応用演習 6	テキスト読解、および音声・映像教材を使用します。
第12回	形容詞と分詞	形容詞・分詞とその名詞化、冠飾句について。
第13回	応用練習 7	テキスト読解、および音声・映像教材を使用します。
第14回	期末テスト	テストをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に出席を取る際に、前回の内容をチェックする問題を出題します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社

ISBN：978-4-560-00492-0

必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、小テスト（20%）、学期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

German Course for Students from A2 Level

LANd200LA

ドイツ語3-II 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語3-II 2016年度以前入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
環 2年 A~F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発展練習をします。

【到達目標】

この授業では、1年間初級文法を学んできた人を対象に、さらに文法の知識や語彙の力を強化して、ドイツ語の文章を読んだり書いたりできるようにすることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

秋学期では、より高度な文法事項をとりあげ、短い作文をすることでそのニュアンスや使い方を徹底的に練習します。さらに応用練習として、環境問題やサステイナビリティに関連するドイツ語のテキストの読解と、音声や映像の教材を用いた聞き取り練習を平行しておこないます。

参加者は、必ず辞書を用意し、宿題・予習をして出席して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入・復習	前期の内容についての確認、第1回小テスト。
第2回	関係代名詞について	関係代名詞とその用例について。
第3回	応用練習 1	テキスト読解および音声・映像教材を使用します。
第4回	応用練習 2	テキスト読解および音声・映像教材を使用します。
第5回	受動について	受動、自動詞の受動、状態受動文など。
第6回	応用練習 3	テキスト読解および音声・映像教材を使用します。
第7回	応用練習 4	テキスト読解および音声・映像教材を使用します。
第8回	第2回小テスト	第2～第7回の内容を確認します。
第9回	接続法 1	非現実話法と外交的接続法。
第10回	接続法 2	要求話法と間接話法。
第11回	応用練習 5	テキスト読解および音声・映像教材を使用します。
第12回	機能動詞	さまざまな機能動詞を用いた熟語について。
第13回	応用練習 6	テキスト読解および音声・映像教材を使用します。
第14回	期末テスト	テストをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に出席を取る際に、前回の内容をチェックする問題を出題します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社

ISBN：978-4-560-00492-0

必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、小テスト（20%）、学期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

German Course for Students from A2 Level

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅠ 2016年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文堂国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

下にあげた授業計画は例である。受講生の希望によりテーマを決定していく。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
	自己紹介	Zur Person
②	自己紹介	Zur Person
③	趣味	Hobbys
④	③の続き	③の続き
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物	Essen & Trinken
⑦	⑥の続き	⑥の続き
⑧	総復習	Wiederholung
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付	Uhrzeit und Datum
⑪	⑩の続き	⑩の続き
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	⑫の続き	⑫の続き
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung und Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題

【テキスト（教科書）】

佐藤修子『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社
他、別途配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末テストあるいはレポート課題 50%
平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

German language course;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;
introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2016年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文堂国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

下にあげた授業計画は例である。受講生の希望によりテーマを決定していく。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語1	Reisedeutsch (Wegbeschreibung)
④	旅行のためのドイツ語2	Reisedeutsch (Wegbeschreibung)
⑤	旅行のためのドイツ語3	Reisedeutsch (Im Hotel)
⑥	旅行のためのドイツ語4	Reisedeutsch (Im Hotel)
⑦	旅行のためのドイツ語5	Reisedeutsch (Im Restaurant)
⑧	旅行のためのドイツ語6	Reisedeutsch (Im Restaurant)
⑨	旅行のためのドイツ語7	Reisedeutsch (Verkehr)
⑩	旅行のためのドイツ語8	Reisedeutsch (Verkehr)
⑪	旅行のためのドイツ語9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	⑫の続き	⑫の続き
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung und Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題

【テキスト（教科書）】

佐藤修子『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社
他、別途配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末テストあるいはレポート課題 50%
平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

German language course;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;
introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語表現法 I 2017 年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語表現法 I 2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

法文堂国環キ 2 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまった文章まで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。ただし、この授業では書くことを重点的に練習します。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者はこの授業でドイツ語で文章、会話文や短いエッセイを書く練習をします。

自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、ブログなどの書き方を学びます。少し文学らしい感じの文章、詩や俳句、物語の作成にもトライします。

書くことによって基礎文法を確認できるだけでなく、実践的に使える語彙も増えます。

ドイツ語初心者でも文章を書くことは可能です。それぞれのドイツ語のレベルに合わせて、文章やテキストを書く練習をしましょう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。最後に作品集を作ることも計画しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	作文の作成	ドイツ語らしい語順 I
4.	Essen und Trinken	好きなものを描写する
5.	Was ich nicht mag	嫌いなこと nicht und kein 否定文
6.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
7.	Familie und Beruf	家族について書く
8.	Liebingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Hobby und Freizeit	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます：家で作文を書く、完成させる、修正することはありません。

【テキスト（教科書）】

Szenen 1 heute aktuell

『場面て学ぶドイツ語』

Shuko Sato 他

三修社

ISBN 978-4-384-12292-3

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN : 9784560064177

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。

学期中に提出してもらうドイツ語の作文（60%）

と授業中の課題に取り組む態度（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です、電子辞書可

【Outline and objectives】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ 2016年度以前入学者

ウテ・シュミット

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文堂国環キ2年～**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまった文章まで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。ただし、この授業では書くことを重点的に練習します。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うならば是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者はこの授業でドイツ語で文章、会話文や短いエッセイを書く練習をします。自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、ブログなどの書き方を学びます。少し文学らしい感じの文章、詩や俳句、物語の作成にもトライします。書くことによって基礎文法を確認できるだけでなく、実践的に使える語彙も増えます。ドイツ語初心者でも文章を書くことは可能です。それぞれのドイツ語のレベルに合わせて、文章やテキストを書く練習をしましょう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります。パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。作文は必ず添削して返却されます。最後に作品集を作ることも計画しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Tagesablauf	時間、一日の予定 約束のメール
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Orientierung in der Stadt	道案内
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität 1	グループワーク： 大学紹介を書く
10.	Meine Universität 2	グループワーク発表
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen 1	過去形 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen 2	プレゼンテーション発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます：家で作文を書く、完成させる、修正することはあります。

【テキスト（教科書）】

Szenen 1 heute aktuell

【場面で学ぶドイツ語】

Shuko Sato 他

三修社

ISBN 978-4-384-12292-3

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。

学期中に提出してもらったドイツ語の作文（60%）と授業中の課題に取り組む態度（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅰ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅰ 2016年度以前入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文堂国環キ 2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「名文で養うドイツ語能力と異文化理解力」をテーマに、このクラスでは古今様々な不滅のテキストを新しいメディアを用いて学ぶ。たとえば、
・簡潔で覚えやすいことわざ
・耳に入りやすい民謡と流行歌のリフレインなど

【到達目標】

・ドイツ語の能力を向上させる。
・ドイツ人の価値観や文化などについての知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メディアをプレゼンテーションし、新しい言葉の説明、内容を正確に翻訳する。重要な表現の応用練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
2	TV・WEB アニメ (1)	<i>Die grosse Frage</i>
3	TV・WEB アニメ (2)	<i>Feierabend</i>
4	TV・WEB アニメ (3)	<i>Krabat</i>
5	民謡と流行歌 (1)	<i>Lili Marleen</i>
6	民謡と流行歌 (2)	<i>Die Moritat von Mackie Messer</i>
7	民謡と流行歌 (3)	<i>Ein Freund, ein guter Freund</i>
8	メルヘン (1)	<i>Vom Fischer und seiner Frau (1)</i>
9	メルヘン (2)	<i>Vom Fischer und seiner Frau (2)</i>
10	メルヘン (3)	<i>Vom Fischer und seiner Frau (3)</i>
11	映画の台詞 (1)	<i>Lola rennt (1)</i>
12	映画の台詞 (2)	<i>Lola rennt (2)</i>
13	映画の台詞 (3)	<i>Lola rennt (3)</i>
14	授業内試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習が必要。詳細は毎回授業の終了時に指示する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

独和辞書を持ってきて下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

学期末試験：50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

"German and intercultural understanding ability through famous sentences" as theme, we use in this class new media to learn various immortal texts. Including

・ Simple and memorable proverbs

・ Refrains of popular folk songs or popular songs

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ 2017年度以降入学者

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ 2016年度以前入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文堂国環キ 2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「名文で養うドイツ語能力と異文化理解力」をテーマに、このクラスでは古今様々な不滅のテキストを新しいメディアを用いて学ぶ。たとえば、
・有名文学作品の冒頭文
・心に残る映画台詞など

【到達目標】

・ドイツ語の能力を向上させる。
・ドイツ人の価値観や文化などについての知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メディアをプレゼンテーションし、新しい言葉の説明、内容を正確に翻訳する。重要な表現の応用練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
2	有名文学作品の冒頭文 (1)	<i>Die Verwandlung</i>
3	有名文学作品の冒頭文 (2)	<i>Das Parfum</i>
4	有名文学作品の冒頭文 (3)	<i>Michael Kohlhaas</i>
5	メルヘン (1)	<i>Der Zwerg Nase (1)</i>
6	メルヘン (2)	<i>Der Zwerg Nase (2)</i>
7	メルヘン (3)	<i>Der Zwerg Nase (3)</i>
8	寓話とことわざ (1)	<i>Der Rabe und der Fuchs</i>
9	寓話とことわざ (2)	<i>Der Löwe und der Esel</i>
10	寓話とことわざ (3)	<i>Die Henne und die Schwalbe</i>
11	映画の台詞 (1)	<i>Kaspar Hauser</i>
12	映画の台詞 (2)	<i>Kaspar Hauser</i>
13	映画の台詞 (3)	<i>Kaspar Hauser</i>
14	授業内試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習が必要。詳細は毎回授業の終了時に指示する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

独和辞書を持って来て下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

学期末試験：50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

"German and intercultural understanding ability through famous sentences" as theme, we use in this class new media to learn various immortal texts. Including

・ Famous introducing sentences of novels

・ Motivational dialogues of films

LANd200LA

時事ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

LANd200LA

時事ドイツ語 I

2016 年度以前入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 法文堂国環キ 2 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。

ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。

ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

【到達目標】

1. 現代のドイツについて知ること

春学期は、政治、経済、社会、環境の 3 つの分野から、現代ドイツの基礎的な事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと

ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の 3 つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業は 3 つの部分から構成される。

1. 映像および音声による短いニュース（映像・音声）：簡単なニュースの映像や音声を繰り返し視聴し、またテキストを確認することで、定型表現や構文、語彙について学習する。

2. ドイツ社会の状況についての解説：ニュースを理解するために必要な社会背景や事情について解説し、知識を補充する。短い報告の形で参加者に情報提供してもらうことがある。

3. 上記の情報をふまえた上で、発展的な内容を持つニュース記事を読む。新聞や雑誌の記事を教材として用いる。ドイツ語のさらに高度な表現や文法についての練習を兼ねる。教材は前回に配布するので、出席者は準備したうえで出席すること（下記授業時間外学習の項参照）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ドイツとは	ドイツ語力についての確認と、ドイツについて最低限の知識を確認する。
第 2 回	政治①連邦政府と連邦議会・政党	2017 年連邦議会選挙の結果と新政権発足について紹介する。
第 3 回	政治②州政府と議会	16 の連邦州それぞれの政府と議会の状況、かかえる課題を概観する。
第 4 回	政治③小規模政党・地域政党	極右政党や左派などのほか、さらに地域政党を含めたドイツの政治ランドスケープを明らかにする。
第 5 回	経済① EU とユーロ圏	EU 最大の経済大国であるドイツの経済政策をあつかう。
第 6 回	経済②ドイツの労働市場と失業	ドイツでは就職や転職はどのようにおこなわれているのか。
第 7 回	経済③インターネットと消費生活	クレジットカードや宅配サービスの事情を学ぶ。
第 8 回	社会①貧困と福祉	ドイツの生活保護をはじめ社会福祉の状況を日本との違いに注目して概観する。
第 9 回	社会②高齢者と介護	日本と並ぶ高齢化社会であるドイツで、高齢者の暮らしはどうなっているのか。
第 10 回	社会③育児と保育	日本と同じくドイツでも育児の負担や保育園不足が問題になっている。その解決策や問題点を検証する。
第 11 回	環境①再生可能エネルギー	日本でも注目されているドイツの再生可能エネルギー利用の実態を紹介する。
第 12 回	環境②エコロジーと生活	家庭でのゴミ出しなど市民生活で見られる環境努力について取りあげる。
第 13 回	環境③自転車と公共交通	ドイツの都市内交通として注目されている自転車の利用についてあつかう。

第 14 回 まとめ：ヨーロッパの中のドイツ 学習内容をふりかえり、ヨーロッパの一国としてのドイツの特徴を改めて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布したテキストを事前に読み、全部理解できなくても良いので、最低限わからない単語の意味を調べるなど予習を行ってから授業にのぞむこと。また、テーマについて事前に調べ、予備知識を得ておくこと。参加者の所属・専門に応じて、短い報告の形で情報提供をおこなってもらうことがある。

ドイツのことだけでなく、日本や他国の事情についても関心を広げていくことを希望する。

【テキスト（教科書）】

毎回授業中に配布する。

【参考書】

独和辞書は毎回持ってくる。

また文法参考書としては以下のものが適当である。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：50%

レポート提出：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教室の設備を利用する。

【その他の重要事項】

ドイツ語の教材を扱うが、基礎文法終了程度の語学力があれば受講可能である。

【Outline and objectives】

This seminar gives information about the contemporary German society and provides practical training on German at intermediate level.

LANd200LA

時事ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

LANd200LA

時事ドイツ語Ⅱ

2016年度以前入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。

ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。

ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

【到達目標】

1. 現代のドイツについて知ること

秋学期は、市民社会、地域発展、外国人問題、歴史問題、教育の5つの分野から、現代ドイツの最先端の事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと

ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の3つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業は3つのパートから構成される。

1. 映像および音声による短いニュース（映像・音声）：簡単なニュースの映像や音声を繰り返し試聴し、またテキストを確認することで、定型表現や構文、語彙について学習する。

2. ドイツ社会の状況についての解説：ニュースを理解するために必要な社会背景や事情について解説し、知識を補充する。短い報告の形で参加者に情報提供してもらうことがある。

3. 上記の情報をふまえて、発展的な内容を持つニュース記事を読む。新聞や雑誌の記事を教材として用いる。ドイツ語のさらに高度な表現や文法についての練習を兼ねる。教材は前回に配布するので、出席者は準備したうえで出席すること（下記授業時間外学習の項参照）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：ドイツとは	ドイツ語力についての確認と、ドイツについて最低限の知識を確認する。
第2回	市民社会①ボランティアと市民参加	連邦ボランティア・イヤー制度や民間福祉団体など、新旧のボランティア制度について紹介する。
第3回	市民社会②市民イニシアティブ	市民たちの権利要求や抗議の自主的活動の歴史と現状を分析する。
第4回	外国人問題①難民とアジール	ドイツ社会が長年向き合ってきた外国人問題についてとくに2015年に発生した難民危機を中心に概観する
第5回	外国人問題②社会統合とインクルージョン	外国人とドイツの共生をいかに可能にしていくか、政治や民間で行われている努力について取り上げる。
第6回	地域発展①大都市の生活	ドイツの大都市はさまざまな開発プロジェクトにより町並みは大きく変貌しつつある。その様子を問題点とともに紹介する。
第7回	地域発展②地方都市の未来	大都市が繁栄する一方で、ドイツ地方都市は東部を中心に厳しい経済状況からの再生に挑んでいる。その状況をあつかう。
第8回	地域発展③東部各州の問題	再統一から25年以上が経過したのち、旧東ドイツだった地域の現状を学ぶ。
第9回	歴史問題①ホロコーストを記憶する	ナチスによるユダヤ人迫害はドイツ社会でどのように認識され、教えられてきたのかについて紹介する。
第10回	歴史問題②歴史修正主義の台頭に抗して	ナチスを美化ないし相対化しようとする一部の動きに対してどのような対策が取られているのか。

第11回 歴史問題③東ドイツの過去の克服

ドイツの歴史のもう一つの問題点である1990年までの東ドイツの歴史をどのように考えていくべきかという問題を扱う。

第12回 教育①小学校と学力問題

外国籍や移民の背景を持つ子どもたちの増加は教育現場にどのような影響を与えているのか。

第13回 教育②大学教育

入学から卒業までドイツの大学制度の問題点を議論する。

第14回 教育③生涯学習

市民大学（Volkshochschule）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布したテキストを事前に読み、全部理解できなくてもよいので、最低限わからない単語の意味を調べるなど予習を行ってから授業にのぞむこと。

また、テーマについて事前に調べ、予備知識を得ておくことと良い。参加者の所属・専門に応じて、短い報告をしてもらうことがある。

ドイツのことだけでなく、日本や他国の事情についても関心を広げていくと欲しい。

【テキスト（教科書）】

毎回授業中に配布する。

【参考書】

独和辞書は各自毎回持ってくる（電子辞書、スマートフォンアプリでも可まわらない）。

また文法参考書としては以下のものが適当である。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：50%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教室の設備を利用する。

【その他の重要事項】

ドイツ語の教材を扱うが、基礎文法終了程度の語学力があれば受講可能である。

【Outline and objectives】

This seminar gives information about the contemporary German society and provides practical training on German at intermediate level.

LANd200LA

検定ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

LANd200LA

検定ドイツ語 I

2016 年度以前入学者

佐々木 宗夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文堂国環キ 2 年～**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語検定試験 5 級合格に必要な語彙力をつける。文法の説明を受けた後、実践的な読解、作文で文法知識を定着させる。また、ドイツの歴史や文化に対する興味もより深めるようにする。

検定試験が目標でなくとも、初級から学びたい学生も受講してよい。「易しく簡明に」がこの授業のモットー。

【到達目標】

ドイツ語検定試験 5 級に対応する文法、読解力を習得し、ドイツ語の表現に慣れる。

ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法は英語や日本語と比較するなどして、解りやすく、シンプルに…をモットーに進める。基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。文法の説明などは講義形式になるが、読解、作文などは実習形式。不明な点は遠慮せずその場で質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツ語紹介	英語とドイツ語の関係。
2	発音練習	アルファベットの発音。ドイツ語に特有の発音。
3	発音練習	単語の発音原則。キビキビした音感を楽しもう。
4	動詞の人称変化 1	人称代名詞と動詞の語尾変化の規則を覚える。
5	動詞の人称変化 2	辞書を使って文中の動詞を引く練習。小テスト。
6	動詞の人称変化 3	sein と haben の変化。作文練習。
7	文の構造	動詞の位置と疑問文。
8	名詞と冠詞	名詞の性と格。
9	ヒアリング 名詞の格 1	定冠詞と不定冠詞。 格の意味。日本語の格助詞との比較で。これは春学期のメインテーマ、格変化は日本語の格助詞の働きに似たものです。格が実際の文章でどんな役割を担っているかじっくり時間をかけてやっていきます。
10	名詞の格 2	定冠詞と不定冠詞の 1 格と 4 格。 読解と作文。
11	名詞の格 3 代名詞の格変化	定冠詞と不定冠詞の 2 格と 3 格。 読解と作文。代名詞の格変化も覚えよう。
12	名詞の格 4	格変化の応用練習。 すべての格を使った文の定冠詞と不定冠詞の格を見分ける。
13	ヒアリング 表現	冠詞の格変化がどれだけ聞き取れるか。また、格変化が必要な文を作って表現する練習。
14	試験日 最終週の授業	実際の検定試験の要領で。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『独検 5 級・4 級・3 級対応ドイツ語文法』在問進 著 三修社

【参考書】

『初級クラスのドイツ語』 石渡均 著 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、宿題、平常点 20 %、の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

プリントの練習問題は解答を配布する予定。

【その他の重要事項】

授業は学生諸君の習熟度を見ながら進める。従って、この授業計画通りに進まないこともあり得る。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who are going to study German for the first time. So we will begin our course with the pronunciation of the German alphabet and some German words. I hope you will enjoy the briskness and liveliness of the German language.

The main point in this class is to read and write German. After an explanation of each grammatical subject, we will practice reading and writing based on it. This will be effective to fix your grammatical knowledge and help with your reading and writing skills. Our goal is to pass the 5th stage (Elementalstufe) of German Deploma in Japan at the end of this semester. That's why we lay great importance on reading and writing based on the grammar.

Also we aim to increase your interest in German history and culture.

The motto of this class is "simple and easy to understand" When you have any questions during class, please ask me without reservation. Any questions will be welcome.

LANd200LA

検定ドイツ語Ⅱ 2017年度以降入学者

LANd200LA

検定ドイツ語Ⅱ 2016年度以前入学者

佐々木 宗夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文堂国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語検定試験4級に合格に必要な語彙力をつける。文法の説明を受けた後、実践的な読解、作文で文法知識を定着させる。また、ドイツの歴史や文化に対する興味もより深めるようする。
検定試験が目標でなくとも、初級から学びたい学生も受講してよい。「易しく簡明に」がこの授業のモットー。

【到達目標】

ドイツ語検定試験4級に対応する文法、読解力を習得し、ドイツ語の表現に慣れる。

ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法は英語や日本語と比較するなどして、解りやすく、シンプルに…をモットーに進める。後半は、ドイツ語検定試験4級レベルを超える内容にもなるが、どこまで進むかは学生諸君の出来具合を判断して決める。

基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。文法の説明などは講義形式になるが、読解、作文などは実習形式。不明な点は遠慮せずその場で質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	格の用法の復習	文章の中の格を読み取る練習。 名詞の複数形。
2	格の用法 1	定冠詞と不定冠詞の仲間。dieser と mein 不規則変化動詞のパターン。
3	格の用法 2	冠詞類を用いて作文。 聴き取りと表現の練習。
4	格変化の総まとめ	気を付けるべき格。 3格、4格の語順。
5	不規則変化動詞 ヒヤリング	使用頻度の高いものを覚えよう。
6	前置詞 1	前置詞の格支配について。
7	前置詞 2	前置詞を使った文の読解と作文。
8	前置詞 3	辞書を駆使し、前置詞の様々な意味を 汲み取る。 小テスト。
9	人称代名詞と再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞を区別できる ように。 再帰動詞の用法。
10	助動詞	助動詞構文の特徴。話法の助動詞の用 法。
11	複合動詞 1	分離動詞を見分ける練習。二つに分離 する動詞とそうでないもの。分離動詞 と非分離動詞。辞書を引く際の注 意。複合動詞の読解と作文練習。
12	動詞の三基本形	過去基本形と人称変化。過去分詞の形。
13	現在完了の用法	過去形との違い。長文読解。
14	試験日	検定試験の要領で。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『独検5級・4級・3級対応ドイツ語文法』在間進 著 三修社

【参考書】

『初級クラスのドイツ語』 石渡均 著 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、宿題、平常点 20%、の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、作文練習を多用するつもり。プリントの練習問題は解答を配布します。

【その他の重要事項】

授業は学生諸君の習熟度を見ながら進める。後半は3級レベルの内容も多くなるのでこの授業計画通りに進まないこともあり得る。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who took the former course last semester. On the basis of what you studied then, we will aim at a higher level of your literacy.

The main point in this class is to read and write German. After an explanation of each grammatical subject, we will practice reading and writing based on it. This will be effective to fix your grammatical knowledge and help with your reading and writing skills.

Our goal is to pass the 4th stage (Anfängerstufe) of German Diploma in Japan and to get practicable ability for 3th stage (Grundstufe) at the end of this semester. That's why we lay great importance on reading and writing based on the grammar.

Also, we aim to increase your interest in German history and culture. The motto of this class is "simple and easy to understand" When you have any questions during class, please ask me without reservation. Any questions will be welcome.

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) I

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ生を対象にしたドイツ語の入門クラスです。ドイツ語とはどんな言葉かを理解することを目的としています。

【到達目標】

ドイツ語で表現するための基本となる文法の初歩と関連したドイツ語の文章を学習し、日常のあいさつなどの言い回しが言えるようにする。ドイツ語を正しく発音し、初歩的なドイツ語の総合力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

語句や文章を説明した後で、各学習者に声を出して読んでもらったり、練習問題を解いてもらい、出来るだけ授業に参加してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介。年間の授業の進め方などの説明を行う。
2	アルファベットと発音 (1)	アルファベットの読み方の説明をし、口頭で練習をする。単語の音の原則を学ぶ。
3	アルファベットと発音 (2)	注意すべき母音や子音の読み方を学ぶ。簡単な挨拶表現を覚える。
4	自己紹介 (1)	現在人称変化一規則動詞・sein
5	自己紹介 (2)	疑問詞のある疑問文・ja か nein で答える疑問文
6	余暇 (1)	現在人称変化：不規則動詞・haben、否定疑問文の用法
7	余暇 (2)	動詞の名詞化・語順・否定詞 nicht の位置
8	持ち物 (1)	名詞の性・定冠詞、不定冠詞の 1 格と 4 格・名詞の複数形
9	持ち物 (2)	否定冠詞、所有冠詞、人称代名詞の 1 格と 4 格
10	家族 (1)	格変化・人称代名詞の 3 格
11	家族 (2)	否定詞 nicht と否定冠詞 kein の使い分け
12	買い物	定冠詞類の 1 格と 4 格 指示代名詞の 1 格と 4 格・非人称主語 es を使った表現
13	総復習	春学期で学んだ文法事項と各場面における表現のまとめと復習
14	期末試験	春学期で学んだ文法事項と各場面における表現のまとめの試験を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、プリントの該当箇所内容についての情報を得た上でこれに目を通して疑問点を明確にしておくこと。また重点ポイントとして指摘したところは必ずチェックしておいてください。

【テキスト (教科書)】

プリント (授業時に配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業への取り組み方などを評価する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、授業参加度 20 %を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項の説明をさらに丁寧に行い、黒板にはできるだけわかりやすく、大きく書くように心がける。履修者による発表や自発的な音読、質問を行えるように徹底する。

【Outline and objectives】

This class is an introduction to the study of German aimed at the students who play sports. The purpose of this class is to understand what the German language is like.

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) II

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ生を対象にしたドイツ語の入門クラスです。I からの継続で、初歩の文法と日常的な場面で使える文を学びながら、基礎的な表現を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ドイツ語で表現するための基本となる文法の初歩と関連したドイツ語の文章を学習し、日常のあいさつなどの言い回しが言えるようにする。ドイツ語を正しく発音し、初歩的なドイツ語の総合力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

各課に挙げられている文を繰り返し音読し、文の内容を説明した後、各学習者にも反復練習してもらいドイツ語の表現を覚えてもらうなど、出来るだけ授業に参加してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の授業の進め方や今後実施していく授業内容の説明
2	春学期の復習	春学期で学んだ文法事項や各テーマを復習する。
3	一日の出来事 (1)	分離動詞と非分離動詞の用法と注意点
4	一日の出来事 (2)	命令文の形態と意味およびその使い方
5	ショッピングセンターで (1)	話法の助動詞の現在人称変化と用法について
6	ショッピングセンターで (2)	不定代名詞 man の日常での用法
7	町で (1)	場所と方向を表す前置詞 + 3 格か 4 格
8	町で (2)	場所と方向を表す前置詞 + 3 格か 4 格の用法をさらに練習する。
9	一日の出来事 (過去) (1)	sein と haben 過去人称変化の形態と用法
10	一日の出来事 (過去) (2)	日常会話で過去を表す時に用いる現在完了形の使い方
11	数詞と時刻	基数と序数・数詞を使った時刻の言い表し方
12	旅行	現在完了形の用法の発展練習
13	総復習	秋学期に学んだ文法事項や各テーマで覚えた表現の復習と実践
14	期末試験	秋学期に学んだ文法事項や各テーマで覚えた表現をチェックするための試験を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、プリントの該当箇所内容についての情報を得た上で、これに目を通して疑問点を明確にしておきましょう。また、授業中に指摘したポイントは必ずチェックしておいてください。

【テキスト (教科書)】

プリント (授業時に配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業に対する取り組み方、授業中にしっかりとドイツ語を声を出して読んでいるかなどのポイントを加味しながら、到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、授業参加度 20 %の割合で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項やドイツ語の表現などについての説明をさらに詳しくわかりやすいように行い、また履修者による発表や自主的な質問等ができるように徹底する。

【Outline and objectives】

This class is an introduction to the study of German aimed at the students who play sports. The purpose of this class is to understand what the German language is like and to learn the basic expressions of German.

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) I

2017 年度以降入学者

梶谷 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を理解して、発音練習や簡単な日常会話の練習をして、ドイツ語に親しむことを目的とする。ドイツの文化と日本の文化も比較しながら理解する。

【到達目標】

一通りドイツ語の仕組みを理解し、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語に何らかの対応ができるようになることを目指す。ドイツ語検定試験 3 級に合格できることを見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で 1 つの課を学ぶ。テキストの各課は文法説明と会話文、練習問題に分かれている。1 回目の授業では会話文を解説しながら文法の説明を行い、練習問題の一部を解いて、文法の理解を目指します。2 回目の授業では会話文の発音練習をして、会話のシュミレーションを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音の原則	アルファベットと発音の基本。数字の練習。
2	第 1 課 動詞の現在人称変化	会話文の解説と文法説明。練習問題。
3	第 1 課 動詞の現在人称変化	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
4	第 2 課 名詞の性と数と格/冠詞類/人称代名詞	会話文の解説と文法説明。練習問題。
5	第 2 課 名詞の性と数と格/冠詞類/人称代名詞	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
6	第 3 課 動詞の不規則変化/命令形	会話文の解説と文法説明。練習問題。
7	第 3 課 動詞の不規則変化/命令形	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
8	第 4 課 冠詞類/時刻の表現	会話文の解説と文法説明。練習問題。
9	第 4 課 冠詞類/時刻の表現	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
10	第 5 課 前置詞 ja, nein, doch/数詞	会話文の解説と文法説明。練習問題。
11	第 5 課 前置詞 ja, nein, doch/数詞	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
12	第 6 課 形容詞の格変化	会話文の解説と文法説明。練習問題。
13	第 6 課 形容詞の格変化	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
14	予備	授業が予定通りに進んでいない場合の調整にこの授業を充てる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

音読する文章を付録の CD を参考に予め練習すること。設問の予習をすること。復習は主に既習の本文の音読を練習すること。

【テキスト (教科書)】

ヴェスト 初級ドイツ語クラス (CD 付き) 上村昂史/寺澤大奈著 株式会社白水社 2017 年 3 月 10 日 ¥2400

【参考書】

独和辞典はもちろんだが、そのほかの参考書については授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 40 % (主に出席と練習問題への取り組み、発音の習熟度で評価する)、中間、期末、2 回の定期試験の平均 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

授業の方針や授業の目的を受講生によく理解してもらうように丁寧に説明する。

【Outline and objectives】

一通りドイツ語の仕組みを理解し、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語に何らかの対応ができるようになることを目指す。

LANd100LA

入門ドイツ語 (SSI) II

2017 年度以降入学者

梶谷 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 法文営国環キ 1 年～ (SSI 生のみ)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を理解して、発音練習や簡単な日常会話の練習をして、ドイツ語に親しむことを目的とする。ドイツの文化と日本の文化も比較しながら理解する。

【到達目標】

一通りドイツ語の仕組みを理解し、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語に何らかの対応ができるようになることを目指す。ドイツ語検定試験 3 級に合格できることを見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で 1 つの課を学ぶ。テキストの各課は文法説明と会話文、練習問題に分かれている。1 回目の授業では会話文を解説しながら文法の説明を行い、練習問題の一部を解いて、文法の理解を目指します。2 回目の授業では会話文の発音練習をして、会話のシュミレーションを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課 話法の助動詞/未来形	会話文の解説と文法説明。練習問題。
2	第 7 課 話法の助動詞/未来形	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
3	第 8 課 分離・非分離動詞/接続詞の種類	会話文の解説と文法説明。練習問題。
4	第 8 課 分離・非分離動詞/接続詞の種類	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
5	第 9 課 再帰代名詞・再帰動詞/zu 不定詞	会話文の解説と文法説明。練習問題。
6	第 9 課 再帰代名詞・再帰動詞/zu 不定詞	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
7	第 10 課 動詞の 3 基本形/過去形・現在完了形	会話文の解説と文法説明。練習問題。
8	第 10 課 動詞の 3 基本形/過去形・現在完了形	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
9	第 11 課 受動態/比較表現	会話文の解説と文法説明。練習問題。
10	第 11 課 受動態/比較表現	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
11	第 12 課 関係代名詞/関係副詞	会話文の解説と文法説明。練習問題。
12	第 12 課 関係代名詞/関係副詞	会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
13	第 13 課 接続法	会話文の解説と文法説明。練習問題。会話文の発音練習と会話のシュミレーション。
14	予備	授業が予定通りに進んでいない場合の調整にこの授業を充てる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

音読する文章を付録の CD を参考に予め練習すること。設問の予習をすること。復習は主に既習の本文の音読を練習すること。

【テキスト (教科書)】

ヴェスト 初級ドイツ語クラス (CD 付き) 上村昂史/寺澤大奈著 株式会社白水社 2017 年 3 月 10 日 ¥2400

【参考書】

独和辞典はもちろんだが、そのほかの参考書については授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 40 % (主に出席と練習問題への取り組み、発音の習熟度で評価する)、中間、期末、2 回の定期試験の平均 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

授業の方針や授業の目的を受講生によく理解してもらうように丁寧に説明する。

【Outline and objectives】

一通りドイツ語の仕組みを理解し、読むこと、話すこと、書くことなど、ドイツ語に何らかの対応ができるようになることを目指す。

ARSa200LA

ドイツ語の世界 L A

2017 年度以降入学者

ARSa200LA

ドイツ語の世界 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：映画を通して見るドイツ社会

ウテ・シュミット

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- 各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- 映画の解釈方法を身につける。
- 異文化理解能力を高める。
- テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語の世界	地理、言語、その他
3.	文学	ドイツと言えばゲーテ？
4.	文学	映画：ゲーテの恋～君に捧ぐ「若き ウエルテルの悩み」 Goethe! (2010)
5.	文学	プレゼンテーション ディスカッション
6.	日本の中のドイツ	ベーターヴェンの「第九」
7.	日本の中のドイツ	映画：バルトの楽園 (2006)
8.	日本の中のドイツ	プレゼンテーション ディスカッション
9.	サッカーを通してみる戦後ドイツ社会	サッカーって文化？
10.	サッカーを通してみる戦後ドイツ社会	映画：ベルンの奇跡 Das Wunder von Bern (2003)
11.	サッカーを通してみる戦後ドイツ社会	プレゼンテーション ディスカッション
12.	東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで
13.	東西ドイツ	映画：トンネル Der Tunnel (2001)
14.	東西ドイツ	プレゼンテーション ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成

【テキスト（教科書）】

コピー配布

【参考書】

- ・森井裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class

ARSa200LA

ドイツ語の世界Ⅰ B 2017年度以降入学者

ARSa200LA

ドイツ語の世界Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：映画を通して見るドイツ社会

ウテ・シュミット

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- 各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- 映画の解釈方法を身につける。
- 異文化理解能力を高める。
- テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	青春	ドイツの若者
2.	青春	映画：50年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
3.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊
4.	ドイツ統一	映画：グッバイ、レーニン！ Good Bye Lenin (2003) プレゼンテーション ディスカッション
5.	ドイツ統一	ディスカッション
6.	ヒトラー	ヒトラーについて笑っているのか？
7.	ヒトラー	映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラー	ディスカッション
9.	テロリズム	ドイツ極右組織 NSU
10.	ドイツ極右組織	映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション
11.	ドイツ極右組織	ディスカッション
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016)
14.	移民国ドイツ	プレゼンテーション ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

【テキスト（教科書）】

コピーを配布

【参考書】

- ・森井裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための50章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%
授業中のディスカッション参加：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class.

ARSA200LA

ドイツの文化と社会ⅠA 2017年度以降入学者

ARSA200LA

ドイツの文化と社会Ⅰ 2016年度以前入学者

サブタイトル：ドイツ語の歌を歌ってみよう

内田 俊一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2
法文営国環キ2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ローレライ」や「野ばら」、「菩提樹」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は、誰でも知っているでしょう。またドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聴けば、ああ、あの曲かとわかるでしょう。CD等を使ってそのような歌の数々を鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。さらに、取り上げた歌の背後にある、成立当時の社会状況等についての解説も加えます。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。

【到達目標】

ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

CD等で歌曲を鑑賞し、詩を味わった後で、(ドイツ語既習者には)和訳してもらいます。ドイツ語既習者でなくても、意欲のある人は受け入れて、発音の練習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	「蓮の花」(シューマン)	「蓮の花」の学習
第3回	「歌のつばさ」(メンデルスゾーン)	「歌のつばさ」の学習
第4回	「菩提樹」(シューベルト)	「菩提樹」の学習
第5回	「わたしの指の指輪よ」(シューマン)	「わたしの指の指輪よ」の学習
第6回	「セレナーデ」(シューベルト)	「セレナーデ」の学習
第7回	「アヴェ・マリア」(シューベルト)	「アヴェ・マリア」の学習
第8回	「野ばら」(シューベルト)	「野ばら」の学習
第9回	「きみを愛す」(ベートーヴェン)	「きみを愛す」の学習
第10回	「旅の幸せ」(フレリヒ)	「旅の幸せ」の学習
第11回	「トゥーレの王様」(ツェルター)	「トゥーレの王様」の学習
第12回	「ローレライ」(ジルヒャー)	「ローレライ」の学習
第13回	「水車屋の花」(シューベルト)	「水車屋の花」の学習
第14回	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習

【テキスト（教科書）】

志田龍他編『歌のつばさ 第2集』（第三書房）、900円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に、それまでの授業内容に関連したレポートを提出してもらいます。成績評価基準：レポート50%+平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

受講者の希望に応じて取り上げる曲を決めることに、この授業の特徴があるので、なるべく春学期のうちからアンケートを取って、希望の出た曲を取り上げていきたいと思っています。

ARSA200LA

ドイツの文化と社会ⅠB 2017年度以降入学者

ARSA200LA

ドイツの文化と社会Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：ドイツ語の歌を歌ってみよう

内田 俊一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2
法文営国環キ2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の歌を鑑賞し、歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしましょう。そのようにしてドイツの文化の一端に触れ、教養を深めることが目標です。

【到達目標】

ドイツの文化や社会についての知見を広げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期と同様、ドイツ語既習者には歌詞を和訳してもらいます。ドイツ語未習者にも発音だけはしてもらいます。取り上げる曲については、なるべく受講者の希望に沿いたいと思っています。アンケートを取って、希望のあったものは、可能な限り取り上げるつもりです。オペラやミュージカル等からの曲であれば、DVDやインターネットからの映像等を使うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	クラシックの歌曲	クラシックの歌曲の学習
第3回	近・現代の流行歌	近・現代の流行歌の学習
第4回	オペラの歌曲	オペラの歌曲の学習
第5回	宗教曲	宗教曲の学習
第6回	民謡	民謡の学習
第7回	ミュージカルの歌曲	ミュージカルの歌曲の学習
第8回	クラシックの歌曲	クラシックの歌曲の学習
第9回	近・現代の流行歌	近・現代の流行歌
第10回	オペラの歌曲	オペラの歌曲の学習
第11回	宗教曲	宗教曲の学習
第12回	民謡	民謡の学習
第13回	クリスマスの歌	クリスマスの歌の学習
第14回	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習

【テキスト（教科書）】

要望のあった曲のプリントを、授業内に配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に、それまでの授業内容に関連したレポートを提出してもらいます。成績評価基準：レポート50%+平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

受講者の希望に応じて取り上げる曲を決めることに、この授業の特徴があるので、なるべく春学期のうちからアンケートを取って、希望の出た曲を取り入れていきたいと思っています。

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

森本 謙子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法 2 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次に学習が終わらなかった箇所を中心に文法の基礎を固め、読解力、表現力を伸ばすこと。

【到達目標】

フランス語文法の基礎を把握し、さまざまな文章に触れることを通して、仏検 4 級レベルのフランス語力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めますが、日本文学専攻のクラス向けに、フランス文学の作品のなかから平易なテキストの読解・鑑賞をする時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業方針の説明
第 2 回	フランス語 I の復習	今までに習った文法事項を再確認する
第 3 回	第 1 課	複合過去 代名動詞
第 4 回	第 1 課	代名動詞の複合過去 過去分詞の一致
第 5 回	第 2 課	半過去 大過去
第 6 回	第 2 課	複合過去と半過去 時制の再確認
第 7 回	第 3 課	関係代名詞 配布したテキストの講読
第 8 回	第 3 課	命令形と補語人称代名詞 序数
第 9 回	映画	映画の中のフランス語を学ぶ
第 10 回	第 4 課	現在分詞 ジェロンディフ
第 11 回	第 4 課	疑問代名詞 配布したテキストの講読
第 12 回	第 5 課	受動態 比較級・最上級 副詞
第 13 回	まとめ	まとめ
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当箇所を事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

『新・彼女は食いしん坊！ 2』 藤田裕二、朝日出版社

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学習する内容をしっかりと把握できるような速度で進みます。

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

森本 謙子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法 2 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様に、一年次に学習が終わらなかった箇所を中心に文法の基礎を固め、読解力、表現力を伸ばすこと。

【到達目標】

春学期と同様に、フランス語文法の基礎を把握し、さまざまな文章の読解を通して、仏検 4 級レベルのフランス語力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。随時テキストを配布し、多様なフランス語の表現に触れる機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期に学んだことを再確認する
第 2 回	第 6 課	強調構文 中性代名詞 I 中性代名詞 II 年号
第 3 回	第 6 課	条件法現在 配布したテキストの講読
第 4 回	第 7 課	条件法過去 配布したテキストの講読
第 5 回	第 7 課	映画の中のフランス語を学ぶ
第 6 回	映画	映画の中のフランス語を学ぶ
第 7 回	第 8 課	接続法現在
第 8 回	第 8 課	接続法過去
第 9 回	第 9 課	間接話法 配布したテキストの講読
第 10 回	第 9 課	時制の一致 配布したテキストの講読
第 11 回	第 10 課	前置詞 配布したテキストの講読
第 12 回	第 10 課	接続詞 時・場所を表す表現 論理を表す表現
第 13 回	まとめ	まとめ
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当箇所を事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

『新・彼女は食いしん坊！ 2』 藤田裕二、朝日出版社

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解力を深めるために、ゆっくりしたペースで進んでいきます。

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法 2 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を復習しながら、簡単なフランス語の文章を読んでいく。フランス語の読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

フランス語の、特に読解の面に絞ってレベル・アップを図る。履修した学生は、まじめに学習していけば、フランス語の平易な文章が読めるようになるはず。そのレベルまで、フランス語の力を伸ばすことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、フランス語の文章を発音、訳読してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明など
第 2 回	第 1 課 vous にする？ tu にする？	vous と tu の使い分けについて書かれたフランス語の文章を訳読する
第 3 回	第 1 課 文法の復習	所有形容詞や疑問形の復習と、練習問題
第 4 回	第 2 課 bise は何回？	フランス人の挨拶について書かれたフランス語の文章を訳読する
第 5 回	第 2 課 文法の復習	非人称構文などの復習と、練習問題
第 6 回	第 3 課 迷信を信じますか	迷信について書かれたフランス語の文章を訳読する
第 7 回	第 3 課 文法の復習	半過去などの復習と、練習問題
第 8 回	第 4 課 不人気なのに止められないサマータイム	サマータイムについて書かれたフランス語の文章を訳読する。
第 9 回	第 4 課 文法の復習	複合過去などの復習と、練習問題
第 10 回	第 5 課 エイプリルフールは背中に注意	エイプリルフールについて書かれたフランス語の文章を訳読する。
第 11 回	第 5 課 文法の復習	代名動詞などの復習と、練習問題
第 12 回	第 6 課 動物から学ぼう	動物について書かれたフランス語の文章を訳読する。
第 13 回	第 6 課 文法の復習	単純未来などの復習と、練習問題
第 14 回	全体の復習	最後のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習をしてもらうことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『読んで学ぶフランス語』久保田剛史ほか編著 朝日出版社 1900円

【参考書】

一年次の文法テキストを参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席と授業での発表）を 50%、学期末テストの点数を 50% とし、それぞれの点数を合算して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語を機械的に学んでいくだけだと、どうしても脱落してしまう学生がいるようなので、フランス語の学習を通じて、もっとフランス（圏）の社会や文化に興味を持ってもらえるように工夫していきたい。

【Outline and objectives】

While reviewing French beginner grammar, we read simple French sentences. It aims to cultivate French reading comprehension ability.

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法 2 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を復習しながら、簡単なフランス語の文章を読んでいく。フランス語の読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

フランス語の、特に読解の面に絞ってレベル・アップを図る。履修した学生は、まじめに学習していけば、フランス語の平易な文章が読めるようになるはず。そのレベルまで、フランス語の力を伸ばすことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、フランス語の文章を発音、訳読してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課 ロボットはどこまで進化するか	ロボットについて書かれたフランス語の文章を訳読する
第 2 回	第 7 課 文法の復習	前未来などの復習と、練習問題
第 3 回	第 8 課 君もフランコフォニーの一員	フランコフォニーについて書かれたフランス語の文章を訳読する
第 4 回	第 8 課 文法の復習	受動態などの復習と、練習問題
第 5 回	第 9 課 左利きにも優しい社会	左利きについて書かれたフランス語の文章を訳読する
第 6 回	第 9 課 文法の復習	条件法現在などの復習と、練習問題
第 7 回	第 10 課 食品ロスを解決するには	食品ロスについて書かれたフランス語の文章を訳読する
第 8 回	第 10 課 文法の復習	疑問形容詞などの復習と、練習問題
第 9 回	第 11 課 フランス王について	フランス王について書かれたフランス語の文章を訳読する
第 10 回	第 11 課 文法の復習	大過去などの復習と、練習問題
第 11 回	第 12 課 熊は友達	熊について書かれたフランス語の文章を訳読する
第 12 回	第 12 課 文法の復習	強調構文などの復習と、練習問題
第 13 回	第 13 課 漫画が市民権を得るまで	漫画について書かれたフランス語の文章を訳読する
第 14 回	全体の復習	最後のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習をしてもらうことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『読んで学ぶフランス語』久保田剛史ほか編著 朝日出版社 1900円

【参考書】

一年次の文法テキストを参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席と授業での発表）を 50%、学期末テストの点数を 50% とし、それぞれの点数を合算して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語を機械的に学んでいくだけだと、どうしても脱落してしまう学生がいるようなので、フランス語の学習を通じて、もっとフランス（圏）の社会や文化に興味を持ってもらえるように工夫していきたい。

【Outline and objectives】

While reviewing French beginner grammar, we read simple French sentences. It aims to cultivate French reading comprehension ability.

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 2 年 T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業は、一年次に身につけたフランス語、とりわけその読解能力のアップをはかります。未習の箇所を行い、文法事項の確認を踏まえながら、将来社会にでも通用するようなより正確で迅速な読解力のレベルアップをはかります。どうせやるなら、かなりのレベルまで高めたい。また、その読解を通じてさまざまなフランス文化の理解も同時に深めたいと思います。

【到達目標】

辞書さえあれば、英語で言えば高校 1～2 年程度の内容の文章を読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、次のような 3 つの段階を考えています。

- ① 文法に注意しながら、単語を増やしながらか正確に読む段階。(1 回の授業で 15 ～ 25 行程度)
- ② 習得した単語を踏まえ、スピードを上げて読む段階 (30 ～ 40 行)
- ③ 速読・レジュメ・内容把握問題 (40 ～ 50 行)

春学期では①②秋学期では②③ということになります。当然のことながら、毎回の出席と予習復習を要望します。詳しいことは、オリエンテーションで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション（必ず出席のこと）	オリエンテーション
②	ロワール河の北と南 1	訳読
③	ロワール河の北と南 2	訳読
④	文化を生み出すカフェ 1	訳読
⑤	文化を生み出すカフェ 2	訳読
⑥	エコ・ライフには自転車を 1	訳読
⑦	エコ・ライフには自転車を 2	訳読
⑧	カンヌ・映画祭 1	訳読
⑨	カンヌ・映画祭 2	訳読
⑩	魅力あふれるモナコ	訳読
⑪	海洋環境復元	訳読
⑫	模擬試験	模擬試験
⑬	模擬試験の確認	訳読
⑭	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示された箇所について 60 分程度の予習

【テキスト（教科書）】

『フランスさまさま』（朝日出版社）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業への積極性（40 %）
期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

厳しかったけど、力は格段についた！ など
しっかりやってくれば、力はつきます。

【Outline and objectives】

Rise to a higher level of reading French

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 2 年 T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の授業は、春学期とは異なりアトラダムな内容ではなく、テーマを絞って読むことでフランス文化の一面を体系的に学ぶことにします。将来社会にでも通用するようなより正確で迅速な読解力の養成をめざします。

【到達目標】

辞書さえあれば、容易なフランス語の文章がサラサラ読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業の進め方。自宅で訳すというより、読んで理解しそして難しい部分だけ訳し、要約文を書く。授業の前に、要約文を提出。授業は個人々に読ませ、訳読。毎回の出席と予習復習を要望します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション（必ず出席のこと）	演習
②	上昇する出生率	演習
③	PACS	演習
④	PACS の 10 年後（プリント）	演習
⑤	労働時間短縮の道のり	演習
⑥	35 時間労働の功罪（プリント）	演習
⑦	ヴァカンス（プリント）	演習
⑧	遠距離通勤（プリント）	演習
⑨	大学事情（プリント）	演習
⑩	女性の社会進出（プリント）	演習
⑪	ストライキ大国	演習
⑫	模擬試験	試験
⑬	模擬試験の解説	演習
⑭	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたものについて 60 分程度の予習

【テキスト（教科書）】

『フランスさまさま』（朝日出版社）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業への積極性（40 %）
期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎回やらないといけな。急には、力がつかない。こんな貴重な意見がありました。

【Outline and objectives】

Rise to a higher level of reading French

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 2 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を復習しつつ、フランス語で書かれた簡単な文章を講読します。特に辞書の有効な使い方を徹底的に指導します。

【到達目標】

仏和辞典さえあれば、ある程度の文章は訳せるレベルの語学力を身に付けることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

下記教科書をおおむね一回の授業で一課進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	vous にする？ tu にする？	直説法現在、所有形容詞、疑問文の種類
第 2 回	bise は何回？	非人称構文、関係代名詞 qui と que、比較級と最上級
第 3 回	迷信を信じますか？	直説法半過去、指示形容詞、目的格の人称代名詞
第 4 回	不人気なのにやめられないサマータイム	準助動詞、直説法複合過去（1）、中性代名詞 le
第 5 回	復習 1：綴り字の読み方	発音練習
第 6 回	まとめ	第一回小テスト（予定）
第 7 回	エイブルフルには背中に注意！	代名動詞、直説法複合過去（2）、指示代名詞
第 8 回	動物から学ぼう！	不定法構文、直説法単純未来、所有代名詞
第 9 回	ロボットはどこまで進化するか？	人称代名詞の強勢形、直説法前未来、所有代名詞
第 10 回	君もフランコフォニーの一員	特殊な女性形と複数形、受動態、前置詞＋関係代名詞
第 11 回	復習 2	練習問題
第 12 回	まとめ	第二回小テスト（予定）
第 13 回	復習 2	練習問題
第 14 回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要は特にありません。簡単な宿題が毎回出ます。必ずやって来ててください。

【テキスト（教科書）】

『読んで学ぶフランス語 初級文法総仕上げ』（朝日出版社）

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を全体の 2/3、二回の小テストをそれぞれ 1/6 の割合で評価を下します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回指摘しているが、「気づき」という日本語は正確とは言えないし、何よりも美しくないと思います。せめて「気づいたこと」とすべきだと強く訴えます。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典は毎回必ず持参してください。

【Outline and objectives】

review of basic grammar, lecture of simple texts and how to use the dictionary

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 2 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 3 I に準じます。

【到達目標】

フランス語 3 I に準じます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語 3 I に準じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習 1	春学期のまとめ
第 2 回	左利きにも優しい社会	条件法現在、命令文、中性代名詞 en, y
第 3 回	簿記を学んだフランス王	疑問形容詞、関係代名詞 dont, 過去分詞
第 4 回	熊は友達	現在分詞、関係代名詞 ou, 強調構文
第 5 回	漫画が市民権を得るまで	近接未来・近接過去、ジェロンディフ、感嘆文
第 6 回	まとめ	第一回小テスト（予定）
第 7 回	指先で読むアルファベ	接続法現在、否定の表現（1）
第 8 回	フランス人も知らないワインの世界	理由・原因の表現、結果の表現、否定の表現（2）
第 9 回	パリの地下は秘密がいっぱい	時の表現、目的の表現、対立・歩歩の表現
第 10 回	プリント	練習問題
第 11 回	プリント	練習問題
第 12 回	まとめ	第二回小テスト（予定）
第 13 回	復習 2	練習問題
第 14 回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語 3 I に準じます。

【テキスト（教科書）】

フランス語 3 I に準じます。

【参考書】

フランス語 3 I に準じます。

【成績評価の方法と基準】

フランス語 3 I に準じます。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語 3 I に準じます。

【Outline and objectives】

review of basic grammar, lecture of simple texts and how to use the dictionary

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 2 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランス語 1」で学んだ文法事項の続きを学習し基礎文法の強化をしながら、フランス語の音読と読解を学ぶ授業です。話し言葉と書き言葉どちらにも親しむことができます。また、フランス以外のフランス語圏についての知識も増やせます。

【到達目標】

辞書を使えば簡単なフランス語の文章を読むことができ、フランス語検定 4 級レベルの基礎文法を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で 1 レッスン進みます。2 つのレッスンが終わるごとに、あつかわれたテーマに沿って調べたことをまとめて発表してみましょう。発表は、用紙一枚に画像やイラストなどを使ってコンパクトにまとめたものを提示しながら、簡単なフランス語を使って短時間で説明をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1「フランス語圏の都市」	不定冠詞・定冠詞
2 回目	Leçon 1「世界の中のフランス語圏」	よく使う疑問詞・前置詞
3 回目	Leçon 2「フランスの学生」	être, avoir、形容詞
4 回目	Leçon 2「フランスの言語」	人称代名詞強勢形
5 回目	まとめと発表	口頭発表
6 回目	Leçon 3「よく勉強する人」	-er 動詞、命令形
7 回目	Leçon 3「ヨーロッパのフランス語圏」	疑問文・否定文、所有形容詞
8 回目	Leçon 4「週末には何をします？」	-ir 動詞・おもな不規則動詞、部分冠詞
9 回目	Leçon 4「北米のフランス語圏」	縮約、指示形容詞、近接未来・近接過去
10 回目	まとめと発表	口頭発表
11 回目	Leçon 5「フランス語圏だったら、どこに行く？」	動詞 pouvoir, vouloir
12 回目	Leçon 5「カリブ海地域のフランス語圏」	比較級・最上級
13 回目	まとめと発表	口頭発表
14 回目	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語をひいて予習をする時に、文章の中に出てくる場所や都市を地図などでよく調べましょう。

【テキスト（教科書）】

『フランコフォニーへの旅』小松祐子・Gilles Delmaire 著（駿河台出版社）

【参考書】

講読には仏和の辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

授業内の発言と発表 50 % + 試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

音読と読解のほかに聞き取りの練習もします。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）
明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）
初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当
フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話をを行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

Learning the continuation of grammar items learned in French 1 and studying the reading and subscription of French while strengthening the basic grammar. It can be familiar to both spoken and written French. You can also increase your knowledge of French speaking countries other than France.

LANf200LA

フランス語 3 II

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II

2016 年度以前入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

文 2 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランス語 1」で学んだ文法事項の続きを学習し基礎文法の強化をしながら、フランス語の音読と読解を学ぶ授業です。話し言葉と書き言葉どちらにも親しむことができます。また、フランス以外のフランス語圏についての知識も増やせます。

【到達目標】

辞書を使えば簡単なフランス語の文章を読むことができ、フランス語検定 4 級レベルの基礎文法を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2回の授業で1レッスン進みます。2つのレッスンが終わるごとに、あつかわれたテーマに沿って調べたことをまとめて発表してみましょう。発表は、用紙一枚に画像やイラストなどを使ってコンパクトにまとめたものを提示しながら、簡単なフランス語を使って短時間で説明をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 6「ブリュッセルでの週末」	代名動詞、devoir, Il faut
2 回目	Leçon 6「マグレブのフランス語圏」	補語人称代名詞
3 回目	Leçon 7「夏休み」	複合過去
4 回目	Leçon 7「ブラック・アフリカのフランス語圏」	受動態、否定表現
5 回目	まとめと発表	口頭発表
6 回目	Leçon 8「フランスに住んだことがない」	半過去、使役動詞 faire・放任動詞 laisser
7 回目	Leçon 8「東南アジアのフランス語圏」	関係代名詞
8 回目	Leçon 9「アフリカの国に行こう」	単純未来、現在分詞・ジェロンディフ
9 回目	Leçon 9「太平洋のフランス語圏」	中性代名詞 y,en,le
10 回目	まとめと発表	口頭発表
11 回目	Leçon 10「かわいい子には旅をさせよ」	条件法
12 回目	Leçon 10「フランス語圏組織」	接続法
13 回目	まとめと発表	口頭発表
14 回目	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語をひいて予習をする時に、文章の中に出てくる場所や都市を地図などでよく調べましょう。

【テキスト（教科書）】

『フランコフォニーへの旅』小松祐子・Gilles Delmaire 著（駿河台出版社）

【参考書】

講義には仏和の辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

授業内の発言と発表 50 % + 試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

音読と読解のほかに聞き取りの練習もします。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）
 明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）
 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当
 フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話をを行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

Learning the continuation of grammar items learned in French 1 and studying the reading and subscription of French while strengthening the basic grammar. It can be familiar to both spoken and written French. You can also increase your knowledge of French speaking countries other than France

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 2 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法を復習しながら、フランス文化を紹介したテキストを読む

【到達目標】

- 1 フランス語の発音をきちんとできるようにする
- 2 フランス語の構造を理解する
- 3 フランス語を理解することで日本語表現能力をアップする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語文法の復習と練習問題

辞書を引きながらフランス語の文をきちんとした日本語に訳す

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発音の復習
第 2 回	Tintin	所有形容詞
第 3 回	アニメ事情	指示形容詞
第 4 回	Macaron	冠詞の復習
第 5 回	カフェ文化	疑問形容詞
第 6 回	TGV	比較級
第 7 回	鉄道事情	最上級
第 8 回	Petanque	中性代名詞 y
第 9 回	余暇事情	非人称構文
第 10 回	Baguette et Beret	人称代名詞
第 11 回	フランス人のイメージ	中性代名詞 en
第 12 回	les Bleus	代名動詞
第 13 回	スポーツ事情	規則動詞活用
第 14 回	前期のまとめ	文法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回やる予定のテキストの単語調べをしておく

【テキスト（教科書）】

『フランスを読み解く鍵 第 3 巻』D.Meyer 著、アシェット・ジャポン、2017 年、1800 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 50 %で、60 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 SABCDE で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn Franch culture

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 2 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法を復習しながら、フランス文化を紹介したテキストを読む

【到達目標】

- 1 フランス語の発音をきちんとできるようにする
- 2 フランス語の構造を理解する
- 3 フランス語を理解することで日本語表現能力をアップする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語文法の復習と練習問題

辞書を引きながらフランス語の文をきちんとした日本語に訳す

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期ガイダンス	時制のまとめ
第 2 回	Napoleon	基本文型
第 3 回	共和制	複合時制
第 4 回	Vacances	疑問文
第 5 回	労働事情	否定文
第 6 回	La Sorbonne	現在分詞
第 7 回	教育制度	過去分詞
第 8 回	Beaujolais nouveau	動詞の法
第 9 回	ワイン文化	過去時制
第 10 回	Châteaux de la Loire	単純未来
第 11 回	ロワール河の城めぐり	近接未来
第 12 回	Dictée	発音の復習
第 13 回	リエゾン	簡単なディクテ
第 14 回	後期のまとめ	中級文法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回やる予定のテキストの単語調べをしておく

【テキスト（教科書）】

『フランスを読み解く鍵 第 3 巻』D.Meyer 著、アシェット・ジャポン、2017 年、1800 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 50 %で、60 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 SABCDE で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn French culture

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

森本 謙子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
文 2 年 R・T・U～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基礎的な構造を把握し、発音やコミュニケーション力を高めること。

【到達目標】

平易なフランス語で書かれた文章を読むことを通して、フランス語の語彙を広げ、表現する力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。必要に応じて随時プリントを配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業方針を説明
第 2 回	第 1 課	命令形 好き嫌いの表権 語彙
第 3 回	第 1 課	疑問詞 (1) 語彙
第 4 回	第 2 課	所有形容詞 否定表現
第 5 回	第 2 課	名詞の複数形 疑問詞 (2)
第 6 回	第 3 課	近接未来 近接過去 時の表現
第 7 回	第 3 課	非人称構文 不定形容詞 指示形容詞
第 8 回	第 4 課	形容詞、副詞の比較級 時刻、日付
第 9 回	第 4 課	直接話法、間接話法 季節、天候
第 10 回	シャンソン	フランス語の響きを味わう
第 11 回	第 5 課	形容詞、副詞の最上級
第 12 回	第 5 課	単純未来 語彙
第 13 回	第 6 課 まとめ	代名動詞 関係代名詞 (I) まとめ
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に本文を読み、CD を聞いておくこと。

【テキスト（教科書）】

『続・小さなコント』リリアヌ・ラタンジオ、村松定史著、駿河台出版社。

【参考書】

教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の苦手とする箇所を重点的に補うようにします。

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

森本 謙子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
文 2 年 R・T・U～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様に、フランス語の表現力、コミュニケーション力の向上を目指します。

【到達目標】

教科書に載っている文章だけでなく、様々なジャンルの文章を読むことで理解力を高め、コミュニケーション力を強化していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。必要に応じて随時プリントを配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期学習したことを復習する
第 2 回	第 6 課	関係代名詞 (II) 受動態
第 3 回	第 7 課	複合過去 (I) 語彙
第 4 回	第 7 課	複合過去 (II) 語彙
第 5 回	第 8 課	中性代名詞 語彙
第 6 回	第 9 課	半過去 現在分詞
第 7 回	第 10 課	ジェロンディフ 序数
第 8 回	第 10 課	強調構文 数詞
第 9 回	第 11 課	複合過去と半過去 語彙
第 10 回	第 11 課	使役表現 単純過去
第 11 回	第 12 課	大過去 過去時制のまとめ
第 12 回	第 12 課	条件法現在 条件法過去
第 13 回	第 13 課 まとめ	接続法現在 まとめ
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に本文を読み、CD を聞いておくこと。

【テキスト（教科書）】

『続・小さなコント』リリアヌ・ラタンジオ、村松定史著、駿河台出版社。

【参考書】

教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、平常点（30%）、宿題（20%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の弱点を補えるよう、理解が徹底していない箇所を繰り返して学習するようにします。

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
営 2 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を復習しながら、簡単なフランス語の文章を読んでいく。フランス語の読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

フランス語の、特に読解の面に絞ってレベル・アップを図る。履修した学生は、まじめに学習していけば、フランス語の平易な文章が読めるようになるはず。そのレベルまで、フランス語の力を伸ばすことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、フランス語の文章を発音、訳読してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明など
第 2 回	第 1 課 フランス語圏の街など	フランス語圏の街や人々について書かれたフランス語の文章を訳読する。
第 3 回	第 1 課 文法の復習	不定冠詞や疑問詞などの復習と、練習問題。
第 4 回	第 2 課 フランスの言語	フランスの言語などについて書かれたフランス語の文章を訳読する。
第 5 回	第 2 課 文法の復習	形容詞などの復習と、練習問題。
第 6 回	第 3 課 ヨーロッパのなかのフランス語	ヨーロッパにおけるフランス語圏について書かれた文章を訳読する
第 7 回	第 3 課 文法の復習	疑問文、否定文、所有形容詞などの復習と、練習問題
第 8 回	第 4 課 北アメリカのフランス語	北アメリカのフランス語圏について書かれた文章を訳読する。
第 9 回	第 4 課 文法の復習	近接未来、近接過去などの復習と、練習問題
第 10 回	第 5 課 カリブの人たちのフランス語	カリブのフランス語圏について書かれたフランス語の文章を訳読する。
第 11 回	第 5 課 文法の復習	比較級、最上級などの復習と、練習問題
第 12 回	第 6 課 マダガスカル島のフランス語	マダガスカル（北アフリカ）のフランス語圏について書かれた文章を訳読する。
第 13 回	第 6 課 文法の復習	代名動詞などの復習と、練習問題
第 14 回	全体の復習	最後のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習をしてもらうことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『フランコフォニーへの旅』小松祐子ほか著 駿河台出版社 2300円

【参考書】

一年次の文法テキストを参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席と授業での発表）を 50%、学期末テストの点数を 50%とし、それぞれの点数を合算して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語を機械的に学んでいくだけだと、どうしても脱落してしまう学生がいるようなので、フランス語の学習を通じて、もっとフランス（圏）の社会や文化に興味を持ってもらえるように工夫していきたい。

【Outline and objectives】

While reviewing French beginner grammar, we read simple French sentences. It aims to cultivate French reading comprehension ability.

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
営 2 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を復習しながら、簡単なフランス語の文章を読んでいく。フランス語の読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

フランス語の、特に読解の面に絞ってレベル・アップを図る。履修した学生は、まじめに学習していけば、フランス語の平易な文章が読めるようになるはず。そのレベルまで、フランス語の力を伸ばすことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、フランス語の文章を発音、訳読してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課 夏休み	夏休みについて書かれたフランス語の会話文を訳読する。
第 2 回	第 7 課 ブラックアフリカのフランス語	ブラックアフリカのフランス語圏について書かれた文章を訳読する。
第 3 回	第 7 課 初級文法の復習	複合過去などの復習と練習問題。
第 4 回	第 8 課 移民	移民の親子の会話文を読む。
第 5 回	第 8 課 東南アジアのフランス語	東南アジアのフランス語圏について書かれた文章を読む。
第 6 回	第 8 課 文法の復習	半過去、関係代名詞などの復習と、練習問題
第 7 回	第 9 課 フランス人の二人の会話	アフリカに行く二人のフランス人の会話文を訳読する。
第 8 回	第 9 課 太平洋のフランス語	太平洋のフランス語圏について書かれた文章を訳読する。
第 9 回	第 9 課 文法の復習	単純未来、中性代名詞など復習と練習問題。
第 10 回	第 10 課 旅行	旅行に関する会話文を読む。
第 11 回	第 10 課 フランス語教育	フランス語教育について書かれた文章を訳読する。
第 12 回	第 10 課 文法の復習	条件法、接続法などの復習と練習問題
第 13 回	語彙・表現	これまでに習った語彙・表現の復習。
第 14 回	全体の復習	最後のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習をしてもらうことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『フランコフォニーへの旅』小松祐子ほか編著 朝日出版社 2300円

【参考書】

一年次の文法テキストを参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席と授業での発表）を 50%、学期末テストの点数を 50%とし、それぞれの点数を合算して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語を機械的に学んでいくだけだと、どうしても脱落してしまう学生がいるようなので、フランス語の学習を通じて、もっとフランス（圏）の社会や文化に興味を持ってもらえるように工夫していきたい。

【Outline and objectives】

While reviewing French beginner grammar, we read simple French sentences. It aims to cultivate French reading comprehension ability.

LANF200LA

フランス語 3 I

2017 年度以降入学者

LANF200LA

フランス語 3 I

2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 営 2 年 D~K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法の習得と語彙の増強を目指す。

【到達目標】

仏検 3 級を受験できる学力レベルに達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

前年度の復習をしながら、文法の解説、問題練習をかさねてゆくが、フランス語の発音と語彙の増強に留意しながら授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課：名詞・冠詞	授業と成績評価のやり方。 定冠詞・不定冠詞・部分冠詞の問題練習。
第 2 回	第 1 課：提示の表現、数字	提示表現、数字の問題練習とディクテ（書取り）。
第 3 回	第 2 課：動詞 être	国籍、職業の語彙。 仏作文とディクテ。
第 4 回	第 2 課：動詞 avoir	数字、年齢の語彙。 il y a~の構文。 仏作文とディクテ。
第 5 回	第 3 課：第 1 群規則動詞	-er 動詞の活用、否定文。 頻度と程度の副詞の語彙。 練習問題。
第 6 回	第 3 課：疑問文	疑問文と答え方。 練習問題とディクテ。
第 7 回	第 4 課：形容詞	形容詞の位置、女性形、性数一致の原則。 仏作文、練習問題。
第 8 回	第 4 課：形容詞	名詞・形容詞の複数形、男性第 2 形、不定形容詞。 色の形容詞の語彙。 練習問題、ディクテ。
第 9 回	第 5 課：形容詞	指示・所有形容詞。 人称代名詞強勢形。 家族・服装の語彙。 練習問題。
第 10 回	第 5 課：第 2 群規則動詞	第 2 群規則動詞と partir 他の活用。 練習問題、ディクテ。
第 11 回	第 6 課：aller と venir 動詞	定冠詞の縮約。 交通手段・国名と前置詞・場所・季節の語彙。 練習問題。
第 12 回	第 6 課：命令法	近接未来と近接過去、命令法の活用。 練習問題とディクテ。
第 13 回	第 7 課：prendre と faire	使役動詞、非人称構文。 prendre と faire の慣用表現。 仏作文と練習問題。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）と到達目標に関する期末試験（70 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Our objectives are to master the French grammar and to enrich French vocabulary.

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 2 年 D~K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法の習得と語彙の増強を目指す。

【到達目標】

仏検 3 級を受験できる学力レベルに達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の解説、問題練習をかさねてゆくが、フランス語の発音と語彙の増強に留意しながら授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 8 課：疑問代名詞・副詞、不定代名詞 on	さまざまな否定表現。数字：70-10000 まで。疑問詞の使い方。ディクテ。練習応答問題。
第 2 回	第 9 課：主な動詞の活用	直説法現在の規則・不規則動詞の活用練習。
第 3 回	第 9 課：補語人称代名詞	動詞 pouvoir, vouloir, devoir の活用練習。補語人称代名詞の位置・語順。
第 4 回	第 10 課：比較	形容詞・副詞の比較級、最上級。練習問題。
第 5 回	第 10 課：現在分詞とジェロンディフ。	現在分詞とジェロンディフの用法。位置関係の前置詞語彙。練習問題。
第 6 回	第 11 課：中性代名詞	中性代名詞 le, en, y の用法。練習問題。
第 7 回	第 11 課：動詞 savoir と connaître	savoir と connaître の用法。さまざまな数量表現の語彙。ディクテ。
第 8 回	第 12 課：複合過去	複合過去の作り方と用法。練習問題。ディクテ。
第 9 回	第 13 課：関係代名詞	関係代名詞。指示代名詞。受動態。強調構文の形と用法。練習問題。
第 10 回	第 14 課：代名動詞	代名動詞の用法。練習問題。ディクテ。
第 11 回	第 16 課：半過去、大過去	半過去、大過去の活用と用法。練習問題。
第 12 回	17 課：単純未来、条件法	単純未来と条件法の活用と用法。直接話法と間接話法。練習問題。
第 13 回	第 18 課：接続法	接続法の活用と用法。練習問題。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と到達目標に関する期末試験（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Our objectives are to master the French grammar and to enrich French vocabulary.

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

畑中 敏夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 2 年 L~R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平易な現代フランス語の読解を通して、フランス文化の多様な側面を学びます。その為に、今学期は動詞の時制を中心とした文法の復習と簡単な文章読解を学びます。

【到達目標】

一年間の目標としては、自力で平易な文の読解が可能になること、又、文法と読解の有機的連関の理解をめざしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法説明の後で問題を訳しながら解いて行きます。読解の練習を兼ねています。辞書は、必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学習上の注意	辞書の利用法
2	過去時制 1	直説法複合過去
3	過去時制 2	直説法半過去
4	過去時制 3	直説法大過去
5	未来時制	単純未来と前未来
6	仮定の表現	条件法
7	文章の過去 1	単純過去
8	文章の過去 2	単純過去
9	感情表現	接続法
10	読解入門 1	Le Petit Prince 1
11	読解入門 2	Le Petit Prince 2
12	読解入門 3	Le Petit Prince 3
13	復習	動詞の用法の確認
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に、復習を中心に学習すること。

【テキスト（教科書）】

プリント教材をこちらで用意する。

【参考書】

使用せず。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績で判断する。その内訳は、文法問題に 60 点、読解問題に 40 点、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書と説明を解りやすくすること。

【Outline and objectives】

The main aim of this class is to develop French understanding by reading several writings.

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

畑中 敏夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 2 年 L~R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期は、時事的なフランス文に接して読解力を高めると同時に、現代世界の様々な問題が如何なるものか視点を広めていきます。

但し、これは、こちらからの提案であって、諸君の希望によっては小説や評論と言った、文に変更可能です。文の種類については、柔軟に考えて下さい。

【到達目標】

読解力の向上と同時に、フランスの様々な側面を知ることで、視野が広がる事も目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

今学期は、君たちが主役です。毎回、10名程の人に訳を発表して貰い、それを10点満点で評価します。単に訳だけでなく、文法面も調べておくこと。平均して、一人5回は、あたります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学習上の注意	授業の進め方
2	社会 1	教育問題
3	社会 2	青少年犯罪
4	社会 3	バカロレア
5	文化 1	モードの世界
6	文化 2	モナリザ盗難騒動
7	文化 3	ワインの危機
8	文化 4	もてはやされる柔道
9	経済 1	農業国フランス
10	経済 2	観光大国フランス
11	フランスの抱える問題 1	テロリズム
12	フランスの抱える問題 2	移民問題
13	フランスの抱える問題	失業問題
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語のみならず、文法面や文の構造まで含めた予習が必須です。

【テキスト（教科書）】

プリント教材をこちらで用意する。

【参考書】

使用せず。

【成績評価の方法と基準】

訳の発表を10点満点で評価し、各自発表する度にこの点数が加算される。この発表は平均して5回行って貰う。この累積された点数と50点満点の試験の成績を加算して評価を決める。合わせて60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書と説明を解りやすくする事を心がける。

【Outline and objectives】

The main aim of this class is to develop French understanding by reading several writings.

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
営 2 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を復習しつつ、フランス語で書かれた簡単な文章を精読します。特に辞書の有効な使い方を徹底的に指導します。

【到達目標】

仏和辞典さえあれば、ある程度の文章は訳せるレベルの語学力を身に付けることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

下記教科書をおおむね二回の授業で一課進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1：講読、文法	La passion du sport 直説法複合過去と半過去
第2回	2：講読	La lutte contre le gaspillage
第3回	2：文法	人称代名詞、強勢形
第4回	3：講読	Simple comme bonjour
第5回	3：文法	代名動詞
第6回	復習	綴り字の読み方
第7回	まとめ	第一回小テスト（予定）
第8回	4：講読	Pour ou contre les devoirs
第9回	4：文法	中性代名詞
第10回	5：講読、文法	Les bonnes manieres a table 関係代名詞
第11回	6：講読、文法	Vivement les vacances ! 直説法単純未来、命令法
第12回	まとめ	第二回小テスト（予定）
第13回	7：講読、文法	Les petits noms amoureux 大過去、条件法
第14回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要は特にありません。簡単な宿題が毎回出ます。必ずやって来て下さい。

【テキスト（教科書）】

『ヴレマン？』（三修社）

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を全体の2/3、二回の小テストをそれぞれ1/6の割合で評価を下します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回指摘しているが、「気づき」という日本語は正確とは言えないし、何よりも美しくないと思います。せめて「気づいたこと」とすべきだと強く訴えます。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典は毎回必ず持参してください。

【Outline and objectives】

review of basic grammar, lecture of simple texts and how to use the dictionary

LANf200LA

フランス語 3 II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II 2016 年度以前入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
営 2 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 3 I に準じます。

【到達目標】

フランス語 3 I に準じます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語 3 I に準じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習1	春学期の復習
第2回	8：講読、文法	La philosophie pour tous 疑問詞
第3回	9：講読	Les nouvelles familles
第4回	9：文法	現在分詞、ジェロンディフ
第5回	10：講読	La politique environnementale
第6回	10：文法	接続法
第7回	まとめ	第1回小テスト（予定）
第8回	11：講読、文法	Le bricolage 比較級、最上級、形容詞
第9回	12：講読	La folie des soldes
第10回	12：文法	直接話法、間接話法
第11回	13：講読、文法	Le droit de greve 過去分詞
第12回	まとめ	第二回小テスト（予定）
第13回	14：講読、文法	Il etait une fois le cinema. 単純過去、前過去、知覚動詞
第14回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語 3 I に準じます。

【テキスト（教科書）】

フランス語 3 I に準じます。

【参考書】

フランス語 3 I に準じます。

【成績評価の方法と基準】

フランス語 3 I に準じます。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語 3 I に準じます。

【Outline and objectives】

review of basic grammar, lecture of simple texts and how to use the dictionary

LANf200LA

フランス語 (3) I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3- I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I 2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 2 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を一年程度学習した経験があり、さらに高度なフランス語力を身につける意欲をもつ学生を対象とします。モチベーションが高い学習者向けです。

フランス語で書かれたテキストを読んでフランスの文化に親しむこと、これまで習得した文法の知識を確認しながら総合的なフランス語能力を向上させることを目的とします。

【到達目標】

- ・フランス語の文章を読めるようになること。
- ・初級文法の知識を固めること。
- ・フランス語の文章を正しく発音できるようになること。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）で言えば3～4級レベル、DELFD で言えば A1～A2 レベルに到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。テキストの文化的背景を説明し、文法の練習問題を解き、文章を日本語に訳し、音読の練習を行う、という手順になります。はじめはゆっくりしたペースで進め、年間を通して少しずつペースを上げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明 Leçon 1 の説明
2	Leçon 1	フランスのチーズ
3	Leçon 1	人称代名詞 中性代名詞 en ワインとミネラルウォーター
4	Leçon 2	比較級・最上級
5	Leçon 2	コンシエルジュ
6	Leçon 3	関係代名詞
7	中間テスト	文法・単語・音読テスト
8	Leçon 4	ジャンヌ・ダルク
9	Leçon 4	複合過去・受動態
	Leçon 5	アステリックスとオベリックス
10	Leçon 5	代名動詞
11	Leçon 6	共和国の象徴マリアヌ
12	Leçon 6	現在分詞・ジェロンディフ
	Leçon 7	エディット・ピアフ
13	Leçon 7	半過去・代名動詞の複合過去
14	期末テスト	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出席するだけでは高度なフランス語力は身につけません。そのため予習・復習（宿題として指示します）を怠らないようにしてください。

インテンシブの授業ですので、宿題を行っていることを前提としますが、どうしても勉強する時間がないときでも、最低限教科書で学んだ文章の音声聞き、発音練習をするようにしてください。

【テキスト（教科書）】

Denis C. Meyer, 北村卓『Clés pour la France フランスを読み解く鍵-第2巻 改訂版』、アシェット・ジャポン（Hachette Japon）、2017年
*全部で3巻あるうちの第2巻の改訂版です。間違えないようにしてください。

【参考書】

文法参考書・単語集（希望者には授業内に指示します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、中間試験 30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

文法だけに偏らない授業にします。

【学生が準備すべき機器他】

和仏辞書（電子辞書可）

【Outline and objectives】

Intensive French course; developing the skills of listening, speaking, reading, and writing French in a cultural context.

LANf200LA

フランス語 3 I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 (3) I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 - I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 I

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 (Y 除く) 文営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を一年程度学習した経験があり、さらに高度なフランス語力を身につける意欲をもつ学生を対象とします。モチベーションが高い学習者向けです。

フランス語で書かれたテキストを読んでフランスの文化に親しむこと、これまで習得した文法の知識を確認しながら総合的なフランス語能力を向上させることを目的とします。

【到達目標】

- ・フランス語の文章を読めるようになること。
- ・初級文法の知識を固めること。
- ・フランス語の文章を正しく発音できるようになること。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）で言えば 3～4 級レベル、DELFL で言えば A1～A2 レベルに到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。テキストの文化的背景を説明し、文法の練習問題を解き、文章を日本語に訳し、音読の練習を行う、という手順になります。はじめはゆっくりしたペースで進め、年間を通して少しずつペースを上げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明 Leçon 1 の説明
2	Leçon 1	フランスのチーズ
3	Leçon 1	人称代名詞 中性代名詞 en
4	Leçon 2	ワインとミネラルウォーター
5	Leçon 2	比較級・最上級
6	Leçon 3	コンシエールジュ 関係代名詞
7	中間テスト	文法・単語・音読テスト
8	Leçon 4	ジャンヌ・ダルク
9	Leçon 4	複合過去・受動態
	Leçon 5	アステリックスとオベリックス
10	Leçon 5	代名動詞
11	Leçon 6	共和国の象徴マリアヌ
12	Leçon 6	現在分詞・ジェロンディフ
	Leçon 7	エディット・ピアフ
13	Leçon 7	半過去・代名動詞の複合過去
14	期末テスト	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出席するだけでは高度なフランス語力は身につけません。そのため予習・復習（宿題として指示します）を怠らないようにしてください。インテンシブの授業ですので、宿題を行っていることを前提としますが、どうしても勉強する時間がないときでも、最低限教科書で学んだ文章の音声を開き、発音練習をするようにしてください。

【テキスト（教科書）】

Denis C. Meyer, 北村卓『Clés pour la France フランスを読み解く鍵-第 2 巻 改訂版』、アシェット・ジャポン (Hachette Japon)、2017 年
*全部で 3 巻あるうちの第 2 巻の改訂版です。間違えないようにしてください。

【参考書】

文法参考書・単語集（希望者には授業内に指示します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、中間試験 30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

文法だけに偏らない授業にします。

【学生が準備すべき機器他】

和仏辞書（電子辞書可）

【Outline and objectives】

Intensive French course; developing the skills of listening, speaking, reading, and writing French in a cultural context.

LANf200LA

フランス語 3 II

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 (3) II

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 II

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 (Y 除く) 文営 2 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語を一年程度学習した経験があり、さらに高度なフランス語力を身につける意欲をもつ学生を対象とします。モチベーションが高い学習者向けです。

フランス語で書かれたテキストを読んでフランスの文化に親しむこと、これまで習得した文法の知識を確認しながら総合的なフランス語能力を向上させることを目的とします。

【到達目標】

- ・フランス語の文章を読めるようになること。
- ・初級文法の知識を固めること。
- ・フランス語の文章を正しく発音できるようになること。
- ・実用フランス語技能検定試験 (仏検) で言えば 3～4 級レベル、DELFF で言えば A1～A2 レベルに到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。テキストの文化的背景を説明し、文法の練習問題を解き、文章を日本語に訳し、音読の練習を行う、という手順になります。はじめはゆっくりしたペースで進め、年間を通して少しずつペースを上げていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明/春学期試験答案返却
2	Leçon 8	Leçon 8 の説明 イヴ・サン＝ローラン 未来の表現
3	Leçon 9	アメリ・ブルーラン
4	Leçon 9	条件法
5	Leçon 10	共和国フランス
6	Leçon 10	条件法
7	中間テスト	文法・単語・音読テスト
8	Leçon 11	エッフェル塔
9	Leçon 12	ヴァイトン
10	Leçon 13	ツール・ド・フランス
11	Leçon 14	ラントレ フランスは9月に始まる
12	Leçon 15	奇才ボリス・ヴィアン
13	Document authentique	解説のないフランス語の文章の読解
14	期末テスト	筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に出席するだけでは高度なフランス語力は身につけません。そのため予習・復習 (宿題として指示します) を怠らないようにしてください。インテンシブの授業ですので、宿題を行っていることを前提としますが、どうしても勉強する時間がないときでも、最低限教科書で学んだ文章の音声聞き、発音練習をするようにしてください。

【テキスト (教科書)】

Denis C. Meyer, 北村卓『Clés pour la France フランスを読み解く鍵-第2巻 改訂版』、アシェット・ジャポン (Hachette Japon)、2017 年
*全部で 3 巻あるうちの第 2 巻の改訂版です。間違えないようにしてください。

【参考書】

文法参考書・単語集 (希望者には授業内に指示します)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、中間試験 30 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

文法だけに偏らない授業にします。

【学生が準備すべき機器他】

和仏辞書（電子辞書可）

【Outline and objectives】

Intensive French course; developing the skills of listening, speaking, reading, and writing French in a cultural context.

LANf200LA

フランス語 4 I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 4 I

2016 年度以前入学者

コルベユ スティープ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語と文化は切り離せないものである。本授業の目的は、フランスとフランス語圏の社会と文化についての文章を読み、翻訳することにより、基礎文法を復習し、語彙を増やし、表現力を高めることである。

【到達目標】

フランス時事についての文章を読み、関連する簡単な会話ができるようになること。フランス語検定 3 級レベル程度に達成することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、フランス文化や社会の側面が紹介された文章を読む。意味を確認し、音読をする。多くの練習問題や短い会話練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語文法の復習 (1)	・シラバスの説明 ・1 年生の文法を復習
第 2 回	フランス語文法の復習 (2)	・1 年生の文法を復習
第 3 回	モン＝サン・ミシェル 世紀の大潮 (1)	本文読解 複合過去 (1) 音読
第 4 回	モン＝サン・ミシェル 世紀の大潮 (2)	本文読解 複合過去 (2) 会話
第 5 回	チュニジアの過去と現在 (1)	本文読解 半過去と複合過去 (1) 音読
第 6 回	チュニジアの過去と現在 (2)	本文読解 半過去と複合過去 (2) 会話
第 7 回	レッドブル税 (1)	本文読解 大過去と複合過去 (1) 音読
第 8 回	レッドブル税 (2)	本文読解 大過去と複合過去 (2) 会話
第 9 回	サロン・デュ・ショコラ (1)	本文読解 単純未来、近未来、前未来 (1) 音読
第 10 回	サロン・デュ・ショコラ (2)	本文読解 単純未来、近未来、前未来 (2) 会話
第 11 回	エッフェル塔の著作権 (1)	本文読解 条件法現在 (1) 音読
第 12 回	エッフェル塔の著作権 (2)	本文読解 条件法現在 (2) 会話
第 13 回	ワートルローの戦い 200 周年 (1)	本文読解 条件法過去 (1) 音読
第 14 回	ワートルローの戦い 200 周年 (2)	本文読解 条件法過去 (2) 会話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文章を読み、単語を辞書で調べる。音読する。

【テキスト（教科書）】

『アンフォ vol. 5』、井上 美穂 著、Florence Yoko SUDRE 著、ISBN978-4-411-01353-8 C1085

【参考書】

プチ・ロワイヤル仏和辞典

電子辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

宿題 (20%)

期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

初担当のため、なし。

【Outline and objectives】

This class aims to improve the student's reading abilities as well as increase French vocabulary. The student will be asked to read and translate texts about French culture. There will also be ample time to review grammar points learned in previous classes.

LANf200LA

フランス語 4 II

2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 4 II

2016年度以前入学者

コルベユ スティープ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営環 2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語と文化は切り離せないものである。本授業の目的は、フランスとフランス語圏の社会と文化についての文章を読み、翻訳することにより、基礎文法を復習し、語彙を増やし、表現力を高めることである。

【到達目標】

フランス時事についての文章を読み、関連する簡単な会話ができるようになること。フランス語検定 3 級レベル程度に達成することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、フランス文化や社会の側面が紹介された文章を読む。意味を確認し、音読をする。多くの練習問題や短い会話練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ラグビーと国籍 (1)	本文読解 音読 中性代名詞 en と人称代名詞 le, la, les (1)
第 2 回	ラグビーと国籍 (2)	本文読解 中性代名詞 en と人称代名詞 le, la, les (2)
第 3 回	ルーブル美術館を走る？ (1)	会話 本文読解 音読 関係代名詞 qui, que, dont. où (1)
第 4 回	ルーブル美術館を走る？ (2)	本文読解 関係代名詞 qui, que, dont. où 会話
第 5 回	観光の女王フランス (1)	本文読解 音読 前置詞 + lequel, 前置詞 + qui (1)
第 6 回	観光の女王フランス (2)	本文読解 前置詞 + lequel, 前置詞 + qui (2) 会話
第 7 回	ブレグジットとは？ (1)	本文読解 音読 間接話法 (1)
第 8 回	ブレグジットとは？ (2)	本文読解 間接話法 (2) 会話
第 9 回	ニュースのテロ事件 (1)	本文読解 音読 間接話法 (3)
第 10 回	ニュースのテロ事件 (2)	本文読解 間接話法 (4) 会話
第 11 回	フランスの家族と出生率 (1)	本文読解 音読 接続法と直説法、接続法の現在と過去 (1)
第 12 回	フランスの家族と出生率 (2)	本文読解 接続法と直説法、接続法の現在と過去 会話
第 13 回	復習と会話	質問に答える
第 14 回	復習と会話	質問に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文章を読み、単語を辞書で調べる。音読する。

【テキスト（教科書）】

『アンフォ vol. 5』、井上 美穂 著、Florence Yoko SUDRE 著、ISBN978-4-411-01353-8 C1085

【参考書】

プチ・ロワイヤル仏和辞典
電子辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
宿題 (20%)
期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

初担当のため、なし。

【Outline and objectives】

This class aims to improve the student's reading abilities as well as increase French vocabulary. The student will be asked to read and translate texts about French culture. There will also be ample time to review grammar points learned in previous classes.

LANF200LA

フランス語 4 I

2017 年度以降入学者

LANF200LA

フランス語 4 I

2016 年度以前入学者

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2 年生以上の学生を対象とします。既に習得したフランス語の知識を用いて比較的平易な文章を読み、練習問題に取り組むことで、フランス語の運用能力を高めます。読み書きに重点を置きますが、聞き取りや発話もおろそかにはしません。

【到達目標】

1 年生で学んだ知識を定着させ、さらにまだ学んでいない基本事項を勉強して、フランス語の基本的な運用能力を身に付けます。フランス語の検定試験 4 級以上、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）で A1 以上の力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

時事問題を扱った教科書を用いて読みます。CD が付録としてありますので、あらかじめ家で音読する練習をしてください。それから文章を訳読します。各章の終わりにある練習問題を行います。いつあてられてもいように準備をしておいてください。

文法事項では、まだやっていないもの、十分に定着していないものがあると思います。随時学びなおしますので、1 年生の時に使った教科書もしくは参考書として下に挙げた本を持ってきてください。特に複合過去、単純未来は重要でありながら十分に勉強していない項目だと考えられますので重点を置く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明 「エマニュエル・マクロン 前進」1	政治に関する文章 部分冠詞、複合過去、
2	「エマニュエル・マクロン 前進」2	関係代名詞
3	「エマニュエル・マクロン 前進」3	受動態
4	「フランス極右勢力の後 退」1	政治に関する文章 中性代名詞"y"
5	「フランス極右勢力の後 退」2	人称代名詞の強勢形
6	「フランス極右勢力の後 退」3	動詞の名詞形
7	「EU 都市ストラスブル ル」1	地理、ヨーロッパに関する文章 複合過去
8	「EU 都市ストラスブル ル」2	名詞の動詞形
9	「EU 都市ストラスブル ル」3	冠詞
10	「シモヌ・ヴェイユ」1	歴史、政治に関する文章 中性代名詞"en"
11	「シモヌ・ヴェイユ」2	感嘆文
12	「シモヌ・ヴェイユ」3	名詞の人称代名詞化
13	「シモヌ・ヴェイユ」4 お よび総復習	複合過去、名詞、形容詞の性と数、人 称代名詞、中性代名詞、関係代名詞
14	期末試験	試験と総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予習、復習として CD を聞いて音読してください。さらに予習として、知らない単語、表現は辞書で調べておいてください。文法事項でわからないところは、1 年生のときに使った教科書、もしくは下に挙げた参考書で調べておいてください。

【テキスト（教科書）】

A la page. Actualité française 2019 『時事フランス語 2019 年度版』
加藤晴久、ミシェル・サガズ、朝日出版社

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

授業にどれだけ積極的に参加したか（問いへの答え、発話、質問、提出物など）が平常点になります。（10％）
音読の小テストを時々行います。（10％）
また期末試験を行います（80％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度初めて担当します。

【学生が準備すべき機器他】

1年生の時に使った文法の本、もしくは上に挙げた文法の参考書を持ってきてください。

【Outline and objectives】

This course is designed for students who has already learned French for at least one year. They will enhance their communication skills by reading rather easy texts and doing exercises. This course focuses on reading and writing without neglecting listening or speaking.

LANf200LA

フランス語 4 II

2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 4 II

2016年度以前入学者

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営環 2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2年生以上の学生を対象とします。既に習得したフランス語の知識を用いて比較的平易な文章を読み、練習問題に取り組むことで、フランス語の運用能力を高めます。読み書きに重点を置きますが、聞き取りや発話もおろそかにはしません。

【到達目標】

1年生で学んだ知識を定着させ、さらにまだ学んでいない基本事項を勉強して、フランス語の基本的な運用能力を身に付けます。
フランス語の検定試験 4級以上、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）で A1以上の力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

時事問題を扱った教科書を用いて読みます。CDが付録としてありますので、あらかじめ家で音読する練習をしてください。それから文章を訳読します。各章の終わりにある練習問題を行います。いつあてられてもいように準備しておいてください。

文法事項では、まだやっていないもの、十分に定着していないものがあると思います。随時学びなおしますので、1年生の時に使った教科書もしくは参考書として下に挙げた本を持ってきてください。特に複合過去、単純未来、条件法は重要でありながら十分に勉強していない項目だと考えられますので重点を置く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「ローラン・ギャロス」1	スポーツに関する文章 関係代名詞
2	「ローラン・ギャロス」2	形容詞の名詞形
3	「ローラン・ギャロス」3	疑問副詞
4	「サッカー女子ワールドカップ」1	スポーツに関する文章 場所と時を表す先行しを受ける関係代名詞（関係副詞）
5	「サッカー女子ワールドカップ」2	接続法
6	「サッカー女子ワールドカップ」3	前置詞
7	「食事のちゃりんこ宅配」1	経済、社会に関する文章 ce que (=what)
8	「食事のちゃりんこ宅配」2	代名動詞 1
9	「食事のちゃりんこ宅配」3	代名動詞 2
10	「フランスの外国人医師」1	社会に関する文章 条件法現在と単純未来形 1
11	「フランスの外国人医師」2	条件法現在と単純未来形 2
12	「フランスの外国人医師」3	名詞の動詞形、前置詞
13	「フランスの外国人医師」4	複合過去、単純未来、条件法現在、関係代名詞
	総復習	
14	期末試験	秋学期で学んだことの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予習、復習として CD を聞いて音読してください。さらに予習として、知らない単語、表現は辞書で調べておいてください。文法事項でわからないところは、1年生のときに使った教科書、もしくは下に挙げた参考書で調べておいてください。

【テキスト（教科書）】

春学期で用いた教科書を引き続き使います：

A la page. *Actualité française 2019* 『時事フランス語 2019 年度版』
加藤晴久、ミシェル・サガズ、朝日出版社

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

授業にどれだけ積極的に参加したか（問いへの答え、発話、質問、提出物など）が平常点になります。（10％）
音読の小テストを時々行います。（10％）
また期末試験を行います（80％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度初めて担当します。

【学生が準備すべき機器他】

1年生の時に使った文法の本、もしくは上に挙げた文法の参考書を持ってきてください。

【Outline and objectives】

This course is designed for students who has already learned French for at least one year. They will enhance their communication skills by reading rather easy texts and doing exercises. This course focuses on reading and writing without neglecting listening or speaking.

LANf200LA

フランス語 5 I

2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 5 I

2016年度以前入学者

村松 マリ エマニュエル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法文営環 2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すでにフランス語の基礎を学んだがまだ初級レベルである学生のための授業である。特に発音やコミュニケーションに重点を置く。

Do you have still learn french but you are still a beginner ? This class is for you. It is focus on oral communication and pronunciation.

【到達目標】

フランス旅行で使えるフランス語を習得する。仏検4級をレベルへの早期の到達を目指す。

You will be able to converse in french during a travel, to talk about your program, your visit and tell your impressions. You will be qualified to pass the test of aptitude in french, level 4.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を使わず、会話のモデルの発音の練習した後、黒板に書く。学生がそれをノートに写す。時折、プリント、ビデオなどを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・自己紹介 Guidance - Self presentation	授業の説明・講師、学生の自己紹介 Description of the class, self presentation of teacher and students
2	連絡先 Mail address and phone number	メールアドレス、電話番号などの言い方。 Tell a mail address and a phone number.
3	居るところと行きたいところ Where are you ? Where to you want to go ?	大学、銀行などの場所の名前。 University, bank, etc the name of different places.
4	目的を言う Tell your intention	何をしに行きたいかを説明する。 Tell why you want to go to a place.
5	ショッピング Go shopping	洋服の名前、色、サイズ、値段。 Name of the clothes, color, size, ask for the price.
6	カフェで in a coffee-shop	飲み物や食べ物を注文する。 ジュースの種類を聞くなどの質問をする。 Command a drink or a food.
7	時間 The time	時間の言い方、一日の中の時間 Tell the time, the moment of the day.
8	予定 Schedule	曜日の名前、付きの名前。 Tell your schedule for the week.
9	お腹が空いたなど You are hungry.	お腹が空いたなどの表現。その時、どうするかを言う。 Hungry, thirsty, cold, etc...
10	何をしに行ったかを説明する。 What did you do ?	昨日や先週した事を言う。 What did you do yesterday or last week ?
11	満足感を伝える Satisfied or not satisfied ?	満足感を伝えるための表現。 Happy, satisfied, tired, etc ...
12	支度する。 Preparing yourself	家を出る前の支度。 Prepare before going to the university.
13	夏休みの予定 Your project for the holidays	決まっていること、したいこと、望んでいることなど。 Projects for sure, intentions, wishes ...
14	前期のまとめ Recapitulation	期末テスト（会話） Oral test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の復習をすることと宿題が出た場合、それをこなすこと。

Every time, revise the pas lesson and sometimes spécial home work.

【テキスト（教科書）】

なし

No textbook

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末テスト 40 %

Average in the class 60 % + Oral test 40 %

【学生の意見等からの気づき】

今回初めての担当なので特になし。

Nothing

【Outline and objectives】

モデルの会話を練習して、ペアワーク、ロールプレイなど、様々な手法を使って、フランス語でのやりとりの土台造りをする。

We will learn short conversations and make pattern practice by playing roles and doing pair work, so that you get use to talk in french.

LANf200LA

フランス語 5 II

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 5 II

2016 年度以前入学者

村松 マリ エマニュエル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すでにフランス語の基礎を学んだがまだ初級レベルである学生のための授業である。特に発音やコミュニケーションに重点を置く。

Do you have still learn french but you are still a beginner ? This class is for you. It is focus on oral communication and pronunciation.

【到達目標】

フランス旅行で使えるフランス語を習得する。仏検 4 級をレベルへの早期の到達を目指す。

You will be able to converse in french during a travel, to talk about your program, your visit and tell your impressions. You will be qualified to pass the test of aptitude in french, level 4.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

モデルの会話を練習して、ペアワーク、ロールプレイなど、様々な手法を使って、フランス語でのやりとりの土台造りをする。

We will learn short conversations and make pattern practice by playing roles and doing pair work, so that you get use to talk in french.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	前期の復習 Revisions of the first semester	前期のテーマのメルチング・ポット Melting pot of the subjects learner on the first semester.
2 回目	過去の出来事と感想を言う。 Talking about Past event. Say your opinion.	夏休みについて話す。 Summer holidays.
3 回目	禁止する。 Not permitted, not allowed things.	社会のルール Social rules.
4 回目	可能、不可能なこと Possibilities.	許可をお願いする。 Ask for permission.
5 回目	技術的に、知識的にできること。しなければならないこと。 Things you are able to do, things you have to do.	就職活動。 Looking for a job.
6 回目	都会暮らし Living in a big city.	有利なこと、不利なこと Advantages and disadvantages.
7 回目	環境保護 Ecologie	ゴミの分別。 Rubbish and recycling
8 回目	祭り、祝日 Feast, fair and festival	クリスマス、お正月など Christmas, New Year, etc...
9 回目	食事会 Special diner	クリスマスなどのメニュー Menu for Christmas
1 0 回目	思い出 Memories	初恋を思い出す。 Remembering your first love.
1 1 回目	慣用表現 Idioms	フランスの比喩的な表現のなぞなぞ Guess the sens of french figurative expressions.
1 2 回目	将来の話し Your futur	する予定のこと、したいこと、できればしたいこと Things you will do, you want to do, you may do, your wishes
1 3 回目	予定 Project	春休みの予定を言う。 your projects for Spring holidays.
1 4 回目	前期のまとめ Revising the things learned this semester.	会話の期末テスト Oral test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の復習をすることと新しい合意と表現を暗記すること。
Every time, revise the last lesson and learn the new words.

【テキスト（教科書）】

プリント

Print

【参考書】

ありません。

Nothing

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末テスト 40 %

Average in the class 60 % + Oral test 40 %

【学生の意見等からの気づき】

今回初めての担当なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートとプリントを入れるためのファイル

Notebook, file for prints

LANf200LA

フランス語（3）I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語（3）I

2016 年度以前入学者

瀬戸 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス語を学習した後で、易しく書かれた時事問題のテキストを使って読解力を養うとともに、広くフランス社会・世界への関心を培う。

【到達目標】

初級フランス語の総復習を踏まえて、さらに未習の文法項目を学び、中級フランス語としての読解力、表現力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、異なる様々なトピックを辞書を使って訳す。読解が中心だが、「読む」だけでなく、「書く、聞く、話す」の総合力を養う為、余力あれば各課の練習問題にも時間をかける。なお訳出力だけでなく、テキストの音読がきちんと出来る様にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	アルファベ、つづり字の読み方 冠詞、数詞（1）
	初級復習（1）	数詞（2）人称代名詞と基本動詞
②	初級復習（2）	
③	フランスの政治（1）	フランスの大統領について
④	フランスの政治（2）	フランスの政党について
⑤	フランスの地理	EU 都市 ストラスブール
⑥	フランスの歴史（現代）	国葬されたシモーヌ・ヴェエユ
⑦	スポーツ（1）	ローランギャロス
⑧	スポーツ（2）	サッカー女子ワールドカップ
⑨	フランスの経済（1）	自転車宅配
⑩	フランスの経済（2）	社会貢献
⑪	フランスの社会（1）	休暇、夏休み
⑫	フランスの社会（2）	コンシエルジュ
⑬	期末テスト	新たなテキストの訳出問題と今までの各課の内容理解問題
⑭	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず、指摘された範囲の仏文を予め、辞書を引いて、日本語の訳文にしておくこと。単語調べだけでは、不十分！その為、この授業用のノート、単語帳（ノートに含めてもよい）を用意すること。この授業は予習重視です。

【テキスト（教科書）】

時事フランス語（ア・ラ・パージュ）2019年版（朝日出版）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50 %（訳出力 35 %、内容理解力 15 %）、平常点 50 %（授業中の訳出と音読力）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

After learning elementary grammar, using an easy textbook on current French issues, students will gain an understanding of the content. They will also develop an interest in French society and the world.

LANf200LA

フランス語 (3) II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 (3) II 2016 年度以前入学者

瀬戸 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級フランス語を学習した後で、易しく書かれた時事問題のテキストを使って読解力を養う。同時に広くフランス社会・世界への関心を培う

【到達目標】

初級フランス語の総復習を踏まえて、さらに未習の文法項目を学び、中級フランス語としての読解力・表現力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

前期と同じ。ただし、クラスの数と初級フランス語の達成度の個人差を考慮。前期テキストの半分を学習する予定だが、範囲が残れば、後期はそこから始める。また進度を早くしても問題ないとなれば、後期の範囲を前期に組み込み、テキストを終了したら別の時事問題をコピーで用意する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	テキスト1課～5課
	前期の復習 (1)	
②	前期の復習 (2)	テキスト6課～10課
③	フランスの社会 (1)	医療・医師事情
④	フランスの社会 (2)	平均余命
⑤	フランスの社会 (3)	家族構成・家族事情
⑥	フランスの教育	言葉と辞書
⑦	フランスの農業	農作物：じゃがいも
⑧	ガストロノミー (1)	フランスパン
⑨	ガストロノミー (2)	オーギュスト・エスコフィエ
⑩	フランスの文化	フランスの祝日：バレンタイン・デー
⑪	日仏関係 (1)	フランスにおける日本語
⑫	日仏関係 (2)	フランス語になった」日本語
⑬	期末テスト	訳出力と内容理解力
⑭	まとめと総復習	動詞と時制

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前期と同じ。予習重視。必ず自分で辞書を引いて単語を調べ、日本語の文章に訳したものをノートに予め書いて授業にのぞむこと。わからないところ、訳せないところを事前に明確にしておいて、授業の中で学習、間違った訳もおしえていく。

【テキスト (教科書)】

前期と同じ (時事フランス語 2019 年度版一朝日出版)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

前期と同じ。期末テスト 50% (訳出力 35%、内容理解力 15%) 平常点 (授業内、予習と発表、音読力)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

After learning elementary grammar, using an easy textbook on current French issues students will gain an understanding of the content. They will also develop an interest in French society and the world.

LANf200LA

フランス語 7 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 7 2016 年度以前入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
国 2 年 SA

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語 8 (フランス語ネイティブ教員)、フランス語コミュニケーション II (日本人教員)、フランス語コミュニケーション III (フランス語ネイティブ教員) と連携する SA アンジェ参加者向けの授業です。4 名の教員が使う共通教科書『Le Nouveau Taxi 1!』を用いて「聞く・話す・読む・書く」フランス語の技能を総合的に強化することを目的としています。

この授業ではさらに、もう一冊の教科書『改訂版グラメール・アクティヴ』やプリントで練習問題を解きながら文法の定着を目指します。

【到達目標】

『Le Nouveau Taxi 1!』を確実に理解した上で、SA アンジェ滞在中に必要な日常表現を運用できるようになります。『改訂版グラメール・アクティヴ』等の練習問題を解くことで、フランス語の基礎文法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2 冊の教科書やプリントでの練習問題に取り組みながら、未習の基礎文法も含めて説明しフランス語の基礎的な文法事項はすべて学習できるようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション・文法の復習	授業の進め方説明・1 年次の重要事項の復習
2 回目	授業の進め方説明・1 年次の重要事項の復習	授業の進め方説明・1 年次の重要事項の復習
3 回目	Leçon 25	代名詞 en, ça・否定表現
4 回目	Leçon 26	なぜ?pourquoi・～だから parce que
5 回目	Leçon 27	代名動詞 (現在形・命令形)
6 回目	Leçon 28	L.25-27 の文法事項の練習
7 回目	Leçon 29	半過去・近接過去
8 回目	半過去・近接過去	半過去・複合過去
9 回目	Leçon 31	過去分詞
10 回目	Leçon 32	L.29-31 の文法事項の練習
11 回目	Leçon 33	単純未来
12 回目	Leçon 34	未来時制の使い分け
13 回目	Leçon 35	仮定文
14 回目	Leçon 36、まとめテスト	L.32-35 の文法事項の練習・筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

家で付属の CD を聞いて声に出してテキストを読んでみましょう。発音上達の近道です。復習と宿題はその日のうちに終えると記憶・習得が楽です。

【テキスト (教科書)】

『Le Nouveau Taxi! 1』 Guy Capelle 他著 (Hachette)
『改訂版 グラメール・アクティヴ』大木充 他著 (朝日出版社)

【参考書】

『久松健一のフランス語 Q & A350』久松健一 著 (国際語学社)
『フランス語基本単語 2000』Elisabeth Morla・渡邊弘美 著 (語研)
『フランス語動詞 60』久保田剛史 他著 (朝日出版社)

【成績評価の方法と基準】

授業内評価 50% + 試験 50% (4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります)

【学生の意見等からの気づき】

音読の練習や便利な表現を使った会話の練習もします。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許 (フランス語)、高等学校教諭一種免許 (フランス語) 明治大学付属明治高等学校兼任講師 (1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日) 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当) フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話を行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

It is a class for SA Angers participants working in French 8 (French native teacher), French communication II (Japanese teacher), French communication III (French native teacher). It is aimed at comprehensively strengthening French skills by “listening, speaking, reading, and writing” using the common textbook Le nouveau Taxi 1 used by four teachers.

In this lesson, we aim to establish grammatical skills while solving practice problems with another textbook La Grammaire Active du Français and printed exercises.

LANf200LA

フランス語 8

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 8

2016 年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 2 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文法と初歩的な会話の復習・予習

【到達目標】

SA 先フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座です。基礎文法と初歩的な会話の復習・予習を徹底し、渡仏前に留学先で困らないようしっかり最大限の準備をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前年度と同じテキストを使用し、同様の教授法で行いますが、学習速度はスピードアップし、語彙・慣用表現を増やし、自己表現に重点をおきます。LL 教室を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 6 Savoir-faire	授業の紹介 Unité 6 の応用編
②	Unité 7 L25	趣味、頻度、程度
③	Unité 7 L26	意見、異議
④	Unité 7 L27	休暇、趣味、助言
⑤	Unité 7 L28 Savoir-faire	フランス人のバカンス Unité 7 の応用編
⑥	Unité 8 L29	近接過去、過去の習慣
⑦	Unité 8 L30	過去の出来事、過去の状況 中間テスト
⑧	Unité 8 L31	時間の表現、目的
⑨	Unité 8 L32 Savoir-faire	フランスの象徴 Unité 8 の応用編
⑩	Unité 9 L33	天気予報、可能性
⑪	Unité 9 L34	未来、計画
⑫	Unité 9 L35	条件、意図
⑬	Unité 9 L36	未来、結果
⑭	Unité 9 Savoir-faire	Unité 9 の応用編 最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（秋学期の SA フランス・Cidef プログラムと等しく）

【テキスト（教科書）】

学生はすでに Le Nouveau Taxi 1 を持っています。

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

平常評価重視。小テストおよび秋学期末テストを行います。中間テスト + 期末試験 = 60%、平常点（宿題、参加度）= 40%

【学生の意見等からの気づき】

さらに会話の練習をしてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、録音機の持ち込みは構いません。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

[Outline and objectives]

French for beginners (3rd part). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

LANf200LA

フランス語 3 - I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 - I

2016 年度以前入学者

竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 2 年 G~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部 2 年 G-L 組の学生を対象にして、2 年次以降の専門科目の学習に資するような、サステナビリティを中心とした現代フランス語圏社会の諸問題についてのフランス語圏テキストの読解演習およびラジオニュースなどの聴解演習を行う。

【到達目標】

人間環境学部の学生が、各人の関心に応じたサステナビリティ研究を行うにあたって、簡単な内容のフランス語文献や新聞、雑誌記事を利用できるフランス語読解力をつけること、ならびに簡単な内容のテレビ、ラジオ、ネット動画などを視聴できる視聴能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

(1) 学期の前半は、1 年生のときに終えられなかった文法事項を新たに勉強する。

教員が文法事項を説明 → 例文の音読練習 → 指定箇所の宿題 → 次回の授業で答え合わせ・解説。

(2) 学期の後半は、サステナビリティを中心とした現代フランス語圏社会の諸問題についての初歩的なフランス語テキストを読んだり、ラジオニュースを聴いたりする。

指定箇所の宿題（全訳） → 音読練習 → 学生が発表 → 教員が既習文法事項を振り返りながら解説。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	1 年生の文法の復習 (1)	条件法
第 3 回	1 年生の文法の復習 (2)	接続法
第 4 回	第 1 課	La passion du sport
第 5 回	第 2 課	La lutte contre le gaspillage
第 6 回	第 3 課	Simple comme bonjour
第 7 回	復習 (1)	第 1-3 課の復習
第 8 回	第 4 課	Pour ou contre les devoirs
第 9 回	第 5 課	Les bonnes manières à tables
第 10 回	第 6 課	Vivement les vacances!
第 11 回	復習 (2)	第 4-6 課の復習
第 12 回	第 7 課	Les petits noms amoureux
第 13 回	期末試験 (1)	音読試験
第 14 回	期末試験 (2)	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の音読と全訳を行うこと

【テキスト（教科書）】

リアンス・ラタンジオ、澤田直『ヴレマン？ ー 文法を深めながら発見するフランス 14 章』、三修社、2017 年。定価：2,100 円＋税
ISBN：978-4-384-23209-7

【参考書】

* 1 年次に用いていた「フランス語 1」および「フランス語 2」の教科書
* 仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

未修文法に関する小テスト [9%] + 教科書の全訳 [21%] + 音読試験 [10%] + 筆記試験 [60%]

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のためなし

【その他の重要事項】

もちろん、この「フランス語 3」の授業だけでは、フランス語の運用能力を十全に身につけることは非常に困難である。本格的にフランス語の勉強を志すのであれば、選択外国語科目や総合科目のフランス語諸科目を積極的に受講してほしい。語学は筋トレである。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the reading books and newspaper articles in French on Sustainability to students taking this course.

LANf200LA

フランス語 3 - II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 - I 2016 年度以前入学者

竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 2 年 G~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部 2 年 G-L 組の学生を対象にして、2 年次以降の専門科目の学習に資するような、サステナビリティを中心とした現代フランス語圏社会の諸問題についてのフランス語圏テキストの読解演習およびラジオニュースなどの聴解演習を行う。

【到達目標】

人間環境学部の学生が、各人の関心に応じたサステナビリティ研究を行うにあたって、簡単な内容のフランス語文庫や新聞、雑誌記事を利用できるフランス語読解力をつけること、ならびに簡単な内容のテレビ、ラジオ、ネット動画などを視聴できる視聴能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

サステナビリティに関わる現代フランス語圏社会についての初歩的なフランス語テキストを読んだり、ラジオニュースを聴いたりする。指定箇所の宿題（全訳）→音読練習→学生が発表→教員が既習文法事項を振り返りながら解説。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 8 課	La philosophie pour tous
第 2 回	第 9 課	Les nouvelles familles
第 3 回	第 10 課	La politique environnementale
第 4 回	復習 (1)	第 8-10 課の復習
第 5 回	第 11 課	Le bricolage
第 6 回	第 12 課	La folie des soldes
第 7 回	第 13 課	Le droit de grève
第 8 回	第 14 課	Il était une fois le cinéma
第 9 回	復習 (2)	第 11-14 課の復習
第 10 回	プリント (1)	新聞、雑誌記事を読む (1)
第 11 回	プリント (2)	新聞、雑誌記事を読む (2)
第 12 回	プリント (3)	新聞、雑誌記事を読む (3)
第 13 回	期末試験 (1)	音読試験
第 14 回	期末試験 (2)	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の音読と全訳を行うこと

【テキスト（教科書）】

リアンス・ラタンジオ、澤田直『ヴレマン？ ―文法を深めながら発見するフランス 14 章』、三修社、2017 年。

定価：2,100 円+税

ISBN：978-4-384-23209-7

【参考書】

* 1 年次に用いていた「フランス語 1」および「フランス語 2」の教科書

* 仏和辞典

【成績評価の方法と基準】

教科書の全訳 [27%] + 音読試験 [10%] + 筆記試験 [67%]

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のためなし

【その他の重要事項】

もちろん、この「フランス語 3」の授業だけでは、フランス語の運用能力を十分に身につけることは非常に困難である。本格的にフランス語の勉強を志すのであれば、選択外国語科目や総合科目のフランス語諸科目を積極的に受講してほしい。語学は筋トレである。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the reading books and newspaper articles in French on Sustainability to students taking this course.

LANf200LA

フランス語 3 - I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 - I 2016 年度以前入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 A~F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの時事についての平易なエッセイを読むことを通じ、フランス語の文法、語彙、構文の理解を深めます。

【到達目標】

フランス語の基本文法の理解を完成し、辞書を引きつつ、平易な文章を読むようになること。また、仏検 3 級レベルへの早期の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

あらかじめ発表者を指名し、指名された学生がテキストの該当箇所を音読し、和訳します。それをもとに教師が修正・説明・和訳し、文法を再確認したり、構文を分析したりしながら、テキストを読み進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション。文法の確認 (1)。	授業の進め方。現在分詞とジェロンディフ。
第 2 回	文法の確認 (2)。	単純未来。条件法。
第 3 回	文法の確認 (3)。	接続法。
第 4 回	講読「コーヒーのおとものにスベキュロス・クッキーはいかが？」(1)。	テキスト第 1 課を読む。
第 5 回	講読「コーヒーのおとものにスベキュロス・クッキーはいかが？」(2)。	テキスト第 1 課を読む。
第 6 回	講読「ベルギーにおける言語の争い」(1)。	テキスト第 2 課を読む。
第 7 回	講読「ベルギーにおける言語の争い」(2)。	テキスト第 2 課を読む。
第 8 回	講読「ステーキ・フライドポテト添え、フランスの国民食？」(1)。	テキスト第 3 課を読む。
第 9 回	講読「ステーキ・フライドポテト添え、フランスの国民食？」(2)。	テキスト第 3 課を読む。
第 10 回	講読「サッカーとビデオ判定」(1)。	テキスト第 4 課を読む。
第 11 回	講読「サッカーとビデオ判定」(2)。	テキスト第 4 課を読む。
第 12 回	講読「トヨタとバランシエンヌ ある美しい愛の物語」(1)。	テキスト第 5 課を読む。
第 13 回	講読「トヨタとバランシエンヌ ある美しい愛の物語」(2)。	テキスト第 5 課を読む。
第 14 回	期末テスト。	試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指名された学生は、しっかりと準備してください。それ以外の学生も、最低限、単語だけは調べてきてください。

【テキスト（教科書）】

「アンフォ vol.4 フランス語でニュースを読む」、駿河台出版社。

【参考書】

仏和辞典は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

出席と授業中の発言 50 %、期末試験 50 % で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストをより面白いものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC も 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Reading easy essays about current affairs in France, students will improve their knowledge of French grammar and vocabulary.

LANf200LA

フランス語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語 3 - II

2016 年度以前入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの時事についての平易なエッセイを読むことを通じて、フランス語の文法、語彙、構文の理解を深めます。最後の数回はプリントを用い、持続可能性についてのエッセイを読みましょう。

【到達目標】

フランス語の基本文法の理解を完成し、辞書を引きつつ、平易な文章を読めるようになること。また、仏検 3 級レベルへの早期の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

あらかじめ発表者を指名し、指名された学生がテキストの該当箇所を音読し、和訳します。それをもとに教師が修正・説明・和訳し、文法を再確認したり、構文を分析したりしながら、テキストを読み進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講読「浮体式洋上風力発電機」(1)。	テキスト第 6 課を読む。
第 2 回	講読「浮体式洋上風力発電機」(2)。	テキスト第 6 課、第 8 課を読む。
第 3 回	講読「シェールガス 革命・・・ですか？」(1)。	テキスト第 8 課を読む。
第 4 回	講読「シェールガス 革命・・・ですか？」(2)。	テキスト第 8 課を読む。
第 4 回	講読「ハラル食品 成長まっさかりの市場」。	テキスト第 11 課を読む。
第 5 回	講読「フランスのトリュフと、中国のトリュフ」。	テキスト第 13 課を読む。
第 6 回	講読「万聖節の菊の花」。	テキスト第 15 課を読む。
第 7 回	講読「聖母お清めの祝日に食べるクレープ」。	テキスト第 17 課を読む。
第 8 回	講読・モンサンミッシェルについて。	プリントを読む。
第 9 回	講読・テロについて。	プリントを読む。
第 10 回	講読・フランスの出生率について。	プリントを読む。
第 11 回	講読・水について。	プリントを読む。
第 12 回	講読・都市鉱山について。	プリントを読む。
第 13 回	講読・二酸化炭素について。	プリントを読む。
第 14 回	期末テスト。	試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指名された学生は、しっかりと準備してくる。それ以外の学生も、最低限、単語だけは調べてきてください。

【テキスト（教科書）】

「アンフォ vol.4 フランス語でニュースを読む」、駿河台出版社。

【参考書】

仏和辞典は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

出席と授業中の発言 50 %、期末試験 50 % で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストをより面白いものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC も 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Reading easy essays about current affairs in France, students will improve their knowledge of French grammar and vocabulary.

ARSA200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

ARSA200LA

フランス語の世界 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の広がりを知ることを主たる目的とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土の「地域圏」を単位として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的広がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国を紹介しながら、フランス語の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン＝テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏（PACA）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイトを参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため）。
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久本編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドロー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税
- 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年。本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

- ・以下の項目を総合的に判断して評価する。
- 1) 30%：平常点（コメントシート等）
- 2) 70%：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

- ・担当初年度であるため、特になし。

【その他の重要事項】

- ・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republicque. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

ARSA200LA

フランス語の世界 L B 2017 年度以降入学者

ARSA200LA

フランス語の世界 II 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の広がりを知ることを主たる目的とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的広がりに関して理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国を紹介しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	アメリカ① Martinique, Guadeloupe, Guyane	・カリブ海域の地域圏に関する解説： 地理・歴史・言語・諸文化など
3	アメリカ② Réunion, Mayotte	・インド洋海域の地域圏に関する解説： 地理・歴史・言語・諸文化など
4	アメリカ③ Québec (Canada)	・カナダのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	アメリカ④ Nouveau-Brunswick(Acadie), Louisiane	・カナダおよびアメリカ合衆国のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	マグレブ① Algérie	・アルジェリア民主人民共和国のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	マグレブ② Maroc, Tunisie	・モロッコ王国およびチュニジア共和国のフランコフォニーに関する解説： 地理・歴史・言語・諸文化など
8	アフリカ① Sénégal	・セネガル共和国に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	アフリカ② Cameroun	・カメルーン共和国に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

10	アフリカ③ Congo(République démocratique du Congo / Congo-Kinshasa)	・コンゴ民主共和国に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	アフリカ④ Rwanda	・ルワンダ共和国に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	ヨーロッパ① Belgique	・ベルギー王国に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパ② Suisse	・スイス連邦に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	オセアニア Nouvelle-Calédonie, Polynésie française	・オセアニア地域に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べ際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため）。
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

1. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年、本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年、本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年、本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年、本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年、本体 1900 円＋税
- 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年、本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

- ・以下の項目を総合的に判断して評価する。
- 1) 30%：平常点（コメントシート等）
- 2) 70%：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

- ・担当初年度であるため、特になし。

【その他の重要事項】

- ・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

LANf200LA

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語コミュニケーション I 2016年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国環キ 1~4年**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語の基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。ビデオを利用して、フランスに住む家族の物語を通じて、日常生活に触れ合えます。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアで会話を作って、ロールプレーを行います。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをしてから、フランス語でまとめの文章を書きます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課 Bienvenue! (Wellcome)	挨拶する、名前を聞く、名前を言う
2	第1課 Bienvenue! (Wellcome)	Qui est-ce? 人の説明する
3	第2課 Moi, je suis...	自己紹介(名前、職業)
4	第2課 Mes amis et moi...	自分の家族の話をする。年齢を歳を言う。
5	第2課 Toi	相手に質問する
6	第2課 Habiter à Nantes	ナントと言う町を紹介する
7	第2課 Entraînement	文法の練習
8	第3課 Et pour vous?	レストランで注文する
9	第3課 À Paris	町を説明する
10	第3課 Métro Odéon	予定を立てる(どこ、いつ、何時に)
11	第3課 Bienvenue à Paris	パリを紹介す
12	第3課 Entraînement	文法の練習
13	復習	復習
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前の授業の時に勉強したことを復習することが必要です。

【テキスト(教科書)】

Totem 1 出版社：Hachette Pearson Education Japan 作者：Marie-José Lopes ISBN：978-2-01-156048-3

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 33%、期末試験 34%、平常点(授業中の発言と態度)33%。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので、注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Every week, we will watch a video about a French family and their everyday life. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANf200LA

フランス語コミュニケーション(初級) II 2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語コミュニケーション II 2016年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国環キ 1~4年**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語の基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。ビデオを利用して、フランスに住む家族の物語を通じて、日常生活に触れ合えます。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアで会話を作って、ロールプレーを行います。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをしてから、フランス語でまとめの文章を書きます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第4課 Ça vous plaît ?	服屋で買う。洋服の名前。
2	第4課 Qu'est-ce qu'on mange ? 何を食べますか。	量を言う。料理の単語。
3	第4課 Au marché	買い物する。果物と野菜の名前を言う。
4	第4課 Le bien manger	フランス人の食文化について
5	第4課 Entraînement	文法の練習
6	第5課 Et une comédie ?	誘う。コメントする。自分の好き嫌い
7	第5課 Personnalités	コメディはどうですか
8	第5課 Le livre du jour	人柄を説明する。外見を説明する。
9	第5課 Intouchable	出来事がいつ起きたか言う。愛情関係の言葉。
10	第5課 Entraînement	「最強の二人」と言う映画について話す。
11	第6課 Le lycée, c'est fini!	文法の練習
12	第6課 Les vacances	出来事について話す。勉強について話す。
13	復習	思い出を語る。頻度を表す。バカンスの時のアクティビティを表す単語。
14	期末テスト	復習 期末テスト

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前の授業の時に勉強したことを復習することが必要です。

【テキスト(教科書)】

Totem 1 出版社：Hachette Pearson Education Japan 作者：Marie-José Lopes ISBN：978-2-01-156048-3

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 33%、期末試験 34%、平常点(授業中の発言と態度)33%。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので、注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Every week, we will watch a video about a French family and their everyday life. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANf200LA

フランス語視聴覚 (入門) I 2017 年度以降入学者

LANf200LA

フランス語視聴覚 I 2016 年度以前入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法 (Y のみ) 国環キ 1~4 年、法 (Y 除く) 文営 2~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映像を使ったダイアログを聴き取り簡単な会話を身につけて、置き換え練習で語彙を増やします。使われている基本文法についても学びます。

【到達目標】

自己紹介や簡単な受け答えができて、フランス語圏でのホームステイを楽しめるようになります。旅行中も買い物や待ち合わせがスムーズにできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で 1 レッスン進むゆっくりとしたペースで反復練習を行います。まずは画像を見て内容を把握、まねをして話してみましょう。フレーズの一部を置き換えるといろいろなことが表現できます。必要な基本文法も学びましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1	自己紹介、たずねる (国籍、職業)、男性形・女性形、動詞 être
2 回目	Leçon 2	～がある、何ですか?、誰の?
3 回目	Leçon 2	名詞の性・数、不定冠詞・定冠詞
4 回目	Leçon 3	持っている、否定表現
5 回目	Leçon 3	動詞 avoir、疑問文・否定文
6 回目	Leçon 4	どんな?
7 回目	Leçon 4	- er 動詞、形容詞、指示形容詞・疑問形容詞・所有形容詞
8 回目	Leçon 5	欲しい、どのくらい?
9 回目	Leçon 5	動詞 vouloir、部分冠詞、中性代名詞 en
10 回目	Leçon 6	どこ? いつ? なぜ? どのように?
11 回目	Leçon 6	動詞 aller, venir、縮約、人称代名詞強勢形、疑問副詞
12 回目	Leçon 7	何時? 天気は? できる?
13 回目	Leçon 7	動詞 faire, pouvoir、不定代名詞・不定形容詞
14 回目	試験とまとめ	口頭・筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ダイアログを応用したロールプレイの会話を作って、なめらかに発表できるように家で練習しましょう。教科書巻末の単語一覧を参考にして各レッスンに必要な単語帳を作ると便利です。

【テキスト (教科書)】

『きみはな—きみと話したい! フランス語 スマート版—』大久保政憲・木島愛 著 (朝日出版社)

【参考書】

『コフレ』杉山香 他著 (朝日出版社)

『フランス語動詞 60』久保田剛史 他著 (朝日出版社)

【成績評価の方法と基準】

授業内評価 50 % + 期末試験 50 % (4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります)

【学生の意見等からの気づき】

音読の練習や簡単な文章の講読もします。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許 (フランス語)、高等学校教諭一種免許 (フランス語) 明治大学付属明治高等学校兼任講師 (1997 年 4 月 1 日~2000 年 3 月 31 日) 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当) フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話を行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

Listen to the dialog using the DVD, acquire simple conversation, increase vocabulary with word replacement (commutation). We will also learn about the basic grammar used in the dialog.

LANf200LA

フランス語視聴覚(入門)Ⅱ 2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語視聴覚Ⅱ 2016年度以前入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法(Yのみ) 国環キ1~4年、法(Y除く) 文営2~4年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

映像を使ったダイアログを聴き取り簡単な会話を身につけて、置き換え練習で語彙を増やします。使われている基本文法についても学びます。

【到達目標】

フランス語で日記やブログを書いたり、経験したことを友だちに話せるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2回の授業で1レッスン進むゆっくりとしたペースで反復練習を行います。まずは画像を見て内容を把握、まねをして話してみましょう。フレーズの一部を置き換えるといろいろなことが表現できます。必要な基本文法も学びましょう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	Leçon 8	～するつもり?、近接未来・近接過去
2回目	Leçon 8	動詞 prendre, boire, partir, sortir、疑問代名詞、中性代名詞 y
3回目	Leçon 9	比べる
4回目	Leçon 9	動詞 savoir, mettre、比較級・最上級、指示代名詞
5回目	Leçon 10	知ってる?
6回目	Leçon 10	動詞 connaître、目的語人称代名詞、疑問代名詞
7回目	Leçon 11	起きる・寝る・散歩する
8回目	Leçon 11	代名動詞、命令形
9回目	Leçon 12	過去のことを言う1
10回目	Leçon 12	複合過去、疑問代名詞
11回目	Leçon 13	未来のことを言う
12回目	Leçon 13	単純未来
13回目	Leçon 14	過去のことを言う2
14回目	Leçon 14、試験とまとめ	半過去、現在分詞・ジェルマンディフ、口頭・筆記試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ダイアログを応用したロールプレイの会話を作って、なめらかに発表できるように家で練習しましょう。教科書巻末の単語一覧を参考にして各レッスンに必要な単語帳を作ると便利です。

【テキスト(教科書)】

『きみはな—きみと話したい! フランス語 スマート版—』大久保政憲・木島愛 著(朝日出版社)

【参考書】

『コフレ』杉山香 他著(朝日出版社)
『フランス語動詞60』久保田剛史 他著(朝日出版社)

【成績評価の方法と基準】

授業内評価 50% + 期末試験 50% (4回以上の欠席や、未受験はE評価となります)

【学生の意見等からの気づき】

音読の練習や簡単な文章の講読もします。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許(フランス語)、高等学校教諭一種免許(フランス語) 明治大学付属明治高等学校兼任講師(1997年4月1日~2000年3月31日) 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当) フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話をを行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

Listen to the dialog using the DVD, acquire simple conversation, increase vocabulary with word replacement (commutation). We will also learn about the basic grammar used in the dialog.

LANf200LA

フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ 2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語視聴覚Ⅲ 2016年度以前入学者

村松 マリ エマニュエル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ2~4年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

まだ初級レベルであるが、中級レベルを目指したい人のための授業で、映像や音声容易ながら、様々な状況についての会話の表現を学び、聞き取り脳力を向上させる。

You are still a beginner in french? Do you want to progress in oral communication? In this class you will learn french in situation, with audio-visual supports.

【到達目標】

日常の会話とSMSのやり取りをできることを目的にする。(活動、感想、趣味、予定)

You will be able to converse about daily things (your activities, yours impressions, yours hobbies, ...) and exchange SMS or mail in french.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

聞き取りの向上を目指して、ビデオや音声の会話を聞いて、それに関する質問に答える。

表現力の向上を目指し、モデルの会話してを聞いて、みんなで発音の練習してから、ペアで練習する。そして応用練習して、自分の会話にする。授業の始まりに前回の会話について質問し、復習をさせる。

Listening exercises: listen to video or audio support and answer to questions.

Practice exercises: first, you will learn a model of conversation then change a part to express personally and converse with others students.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	授業の説明講師の自己紹介	名前を言う。挨拶。Introducing oneself. Greeting someone.
第02回	数、年齢、日付	30までの数。年齢を言う。Count until 30, ask the age.
第03回	国籍、住所、メールアドレス・60までの数	国籍、出身地、住んでる町、メールアドレスを言う。Nationality, address - Numbers (60)
第04回	人にものをあげる。	Ask nationality, place of birth, address and mail address. プレゼントをあげる、もらう、ありがとうを言う。Offering something.
第05回	職業・100までの数	Offering a present, giving a present, thanks. 職業を聞く。大学生として、専攻を言う。Ask the profession. Ask the subject of studies.
第06回	電話、LINE、FACEBOOK	電話番号を聞く。SNSの友達 Ask the telephone number and facebook or line.
第07回	Telephone, line, facebook	どのぐらい疲れているか言う。How much tired do you feel?
第08回	程度を言う	洋服の買いに行く。Shopping to buy clothes.
第09回	好きなもの、嫌いなもの	The name of the clothes, the colors ...
第10回	Likes	好みを言う。Expressing likes.
第11回	自分の町	住んでる地域の店。Present your town.
第12回	Your town	八百屋で
第13回	値段を聞く。	イチゴの値段を聞く。Buying stawberries.
第14回	Ask for a price.	

第 12 回	時間 Time	時間を聞く・時差、 What time is it? Time difference.
第 13 回	予定 Projects	予定を言う為の表現・夏休みの予定を 言う。 Your projects for summer holidays.
第 14 回	前期のまとめ Revising the things you have learned during the semester.	会話のテスト Oral test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の復習をすることと新しい合意と表現を暗記すること。
Every time, revise the last lesson and learn the new words.

【テキスト（教科書）】

プリント

Print

【参考書】

なし。

Nothing

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%+期末テスト 40%

Average in the class 60%+ Oral test 40%

【学生の意見等からの気づき】

今回初めての担当なので、特になし。

【Outline and objectives】

話す力と聞き取る力を向上させるため、様々な練習をする。

We will do different exercises to progress in oral expression and oral comprehension.

LANf200LA

フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ 2017年度以降入学者

LANf200LA

フランス語視聴覚Ⅳ 2016年度以前入学者

村松 マリ エマニュエル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営国環キ 2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まだ初級レベルであるが、中級レベルを目指したい人の為の授業で、映像や音声を容易ながら、様々な状況についての会話の表現を学び、聞き取り脳力を向上させる。

You are still a beginner in french? Do you want to progress in oral communication? In this class you will learn french in situation, with audio-visual supports.

【到達目標】

日常の会話と SMS のやり取りをできることを目的にする。(活動、感想、趣味、予定)

You will be able to converse about daily things (your activities, your impressions, your hobbies, ...) and exchange SMS or mail in french.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

聞き取りの向上を目指して、ビデオや音声の会話を聞いて、それに関する質問に答える。

表現力の向上を目指し、モデルの会話してを聞いて、みんなで発音の練習してから、ペアで練習する。そして応用練習して、自分の会話にする。授業の始まりに前回の会話について質問し、復習をさせる。

Listening exercises : listen to video or audio support and answer to questions.

Practice exercises : first, you will learn a model of conversation then change a part to express personally and converse with others students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	授業の説明講師の自己紹介 Presentation of the class. Teacher will introduce himself.	名前を言う。挨拶。 Introducing oneself. Greeting someone.
第 02 回	細かい自己紹介 Introducing yourself	管理人に出会って、自己紹介する。 Present yourself to the carateker of your building.
第 03 回	謝る Saying sorry	待ち合わせに遅れなかったことを謝る。 You apologize for naot coming to the apointement.
第 04 回	経験 Experience	経験について質問する。 Ask oneself about experience.
第 05 回	時間を聞く Asking about time.	映画を観に行く最中渋滞に巻き込まれて、間に合うかどうかを心配する。 Wondering if you can arrive in time to the cinema.
第 06 回	家事 Housework	家事について話す。 Speak about the housework.
第 07 回	妥協する Reaching a compromise	家事を分担を要求する。 Asking you partner to share the housework.
第 08 回	しないでくれと言う Telling some one not to do something.	心配しないでなど Don't worry, etc...
第 09 回	道を聞く Asking for the location of a place.	道に迷って、つうこ人に道を聞く。 You are lost, you ask how to get to a place.
第 10 回	特約について尋ねる。 Asking about the characteristic.	好きな人の特約を聞かれて、説明する。 Describe the characteristics of your friend.
第 11 回	提案する Suggesting	友達を散歩に誘う。 You propose a walk to your friend.

第 12 回	シャンソン Chanson	フランスのシャンソンの聞き取りをする。 You will listen a french chanson and try to catch the lyrics.
第 13 回	招待する Inviting somebody	どこで、いつ、何時からなどを聞く。 You ask for the place, the date, the time.
第 14 回	後期のまとめ Revising the things you have learned during the semester.	会話のテスト Oral test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の復習をすることと新しい合意と表現を暗記すること。
Every time, revise the last lesson and learn the new words.

【テキスト（教科書）】

プリント

Print

【参考書】

なし。

Nothing

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末テスト 40 %

Average in the class 60 % + Oral test 40 %

【学生の意見等からの気づき】

今回の件初めての担当なので特になし。

【Outline and objectives】

話す力と聞き取る力を向上させるため、様々な練習をする。

We will do different exercises to progress in oral expression and oral comprehension.

LANf200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

時事フランス語 I

2016 年度以前入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、フランス語の学習を、時事問題の理解へとつなげられるようになることにあります。外交やビジネス、国際交流の現場でフランス語を／も使えるようになるには、(ア) 語学力にくわえて、(イ) 政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解が必要です。この授業では、(ア) と (イ) に等しく目配りをしながら学習を進めていきます。

【到達目標】

基本的には、時事フランス語 I・II で 1 年間学ぶことを通じて、学生が CEFR 等で 1 段階上に近づけるようになることを目標とします。ただし、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) 科目であるこの授業では、語学レベルだけでなく、政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解、および専攻分野の異なる学生が参加することが予想されます。そのため到達目標も学生により異なるのが実状であることを踏まえ、個別に到達目標の設定および自己チェックをおこないます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) 教科書各章の講読・聞き取り・発音・語彙・文法を学ぶ。

(イ) 教科書各章に登場するテーマに関連する題材をインターネット上で探し、分析する。

(ウ) (ア)・(イ) に基づき、学生が発表する。ただし、履修者数により (ウ) の実施方法は変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	初回顔合わせ	授業の進め方に関する説明 最近のフランス（語圏）情勢について各自、到達目標を設定（宿題）
第 2 回	1. フランスの国土と地方	
第 3 回	1.1. フランスの国土	教科書 8-9 頁
第 4 回	1.2. フランス各地の特色	教科書 10-11 頁
第 5 回	学生発表①	Document complémentaire (12 頁) を含めた、第 2 回～第 4 回で扱った題材との共通点がある内容を発表する。
第 6 回	6. フランスの政治	教科書 37 頁
第 7 回	6.1. フランス人と政治	教科書 38-39 頁
第 8 回	6.2. フランスの左派と右派	教科書 40-41 頁
第 9 回	学生発表②	Document complémentaire (42 頁) を含めた、第 6 回～第 8 回で扱った題材との共通点がある内容を発表する。
第 10 回	4. フランスの高等教育	教科書 25 頁
第 11 回	4.1. フランスの大学	教科書 26-27 頁
第 12 回	4.2 グランゼコールとその他の専門職教育	教科書 28-29 頁
第 13 回	学生発表③	Document complémentaire (30 頁) を含めた、第 10 回～第 12 回で扱った題材との共通点がある内容を発表する。
第 14 回	まとめ	到達目標の自己チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを用いた宿題や資料の提示を行うため、第 2 回授業までに自己登録をしてください。

【テキスト（教科書）】

Bruno Vannieuwenhuysse et al., La Société française, Alma, 2013.

【参考書】

Radio France Internationale, Journal en français facile.
TV5 Monde, Langue française.

【成績評価の方法と基準】

(ア) 期末試験：実施しない (0%)

(イ) 期末レポート：実施しない (0%)

- (ウ) 授業での教科書講読への参加の質および量 (20%)
 (エ) (ウ) に関する授業内での発表の質および量 (20%)
 (オ) 「授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)」への取り組みの質および量 (30%)
 (カ) (オ) に関する授業内での発表の質および量 (20%) ※必須です。
 (キ) その他 (運営協力や講師のミスの指摘) (10%)

【学生の意見等からの気づき】

この授業を担当するのは 2019 年度からなので、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・仏仏辞典、文法の解説書
 スマートフォンなど、インターネットに接続できる機器

【その他の重要事項】

学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学各学部の事務窓口までお問合せ下さい。

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized French vocabulary. By the end of the course, students will be expected to use resources from francophone websites in order to discuss a wide range of current affairs.

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2016 年度以前入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、フランス語の学習を、時事問題の理解へとつなげられるようになることにあります。外交やビジネス、国際交流の現場でフランス語を／も使えるようになるには、(ア) 語学力にくわえて、(イ) 政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解が必要です。この授業では、(ア) と (イ) に等しく目配りをしながら学習を進めていきます。

【到達目標】

基本的には、時事フランス語Ⅰ・Ⅱで1年間学ぶことを通じて、学生が CEFR 等で1段階上に近づけるようになることを目標とします。ただし、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) 科目であるこの授業では、語学レベルだけでなく、政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解、および専攻分野の異なる学生が参加することが予想されます。そのため到達目標も学生により異なるのが実状であることを踏まえ、個別に到達目標の設定および自己チェックをおこないます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (ア) 教科書各章の講読・聞き取り・発音・語彙・文法を学ぶ。
 (イ) 教科書各章に登場するテーマに関連する題材をインターネット上で探し、分析する。
 (ウ) (ア)・(イ)に基づき、学生が発表する。ただし、履修者数により(ウ)の実施方法は変更する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	初回顔合わせ	授業の進め方に関する説明 最近のフランス (語圏) 情勢について 各自、到達目標を設定 (宿題)
第 2 回	7. フランス人と仕事	教科書 44-45 頁
第 3 回	7.1. 雇用と失業	教科書 46-47 頁
第 4 回	7.2. 職場の人間関係	Document complémentaire (48 頁) を含めた、第 2 回～第 4 回で扱った題材との共通点がある内容を発表する。
第 5 回	学生発表①	教科書 55 頁
第 6 回	9. フランス人と信仰	教科書 56-57 頁
第 7 回	9.1. カトリック教	教科書 58-59 頁
第 8 回	9.2. フランスの左派と右派	教科書 58-59 頁
第 9 回	学生発表②	Document complémentaire (60 頁) を含めた、第 6 回～第 8 回で扱った題材との共通点がある内容を発表する。
第 10 回	10. 女性と男性	教科書 61 頁
第 11 回	10.1. 社会における女性と男性	教科書 62-63 頁
第 12 回	10.2 家族、カップル、そして、子ども	教科書 64-65 頁
第 13 回	学生発表③	Document complémentaire (66 頁) を含めた、第 10 回～第 12 回で扱った題材との共通点がある内容を発表する。
第 14 回	まとめ	到達目標の自己チェック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムを用いた宿題や資料の提示を行うため、第 2 回授業までに自己登録をしてください。

【テキスト (教科書)】

Bruno Vannieuwenhuysse et al., La Société française, Alma, 2013.

【参考書】

Radio France Internationale, Journal en français facile.
 TV5 Monde, Langue française.

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない (0%)
 (イ) 期末レポート：実施しない (0%)

- (ウ) 授業での教科書講読への参加の質および量 (20%)
 (エ) (ウ) に関する授業内での発表の質および量 (20%)
 (オ) 「授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)」への取り組みの質および量 (30%)
 (カ) (オ) に関する授業内での発表の質および量 (20%) ※必須です。
 (キ) その他 (運営協力や講師のミスの指摘) (10%)

【学生の意見等からの気づき】

この授業を担当するのは 2019 年度からなので、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・仏辞典、文法の解説書
 スマートフォンなど、インターネットに接続できる機器

【その他の重要事項】

学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学各学部の事務窓口までお問合せ下さい。

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized French vocabulary. By the end of the course, students will be expected to use resources from francophone websites in order to discuss a wide range of current affairs.

LANf200LA

検定フランス語 (初級) I

2017 年度以降入学者

LANf200LA

検定フランス語 I

2016 年度以前入学者

瀬戸 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級フランス語を学んだ後の続きとして、フランス語実用技能検定試験 (仏検) 4 級~3 級レベルの、中級フランス語を学ぶ

【到達目標】

個人の能力に応じて、仏検 5 級~4 級レベルの実力養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初級フランス語 (文法、発音、会話表現、など) を復習して、さらに中級文法項目を学習。テキストの読解、練習問題に加えて、CD・ビデオ教材を活用して会話表現も身につけ実践的な力を養成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	アルファベ、つづり字の読み方
		初級フランス語復習 (1)
②		初級フランス語復習 (2)
③		初級フランス語復習 (3)
④	写真学校	名詞の修飾 (冠詞、数詞、形容詞) 受動態 希望を述べる
⑤	エッフェル塔と自由の女神	最上級 勧誘・提案表現
⑥	ベルシー・ヴィラージュ	関係代名詞 感嘆文
⑦	1 課~3 課復習	仏検 4 級をめざして (1)
⑧	ルイヴィトン美術館	疑問代名詞 不定代名詞
⑨	電話をかける	条件法 電話の表現
⑩	ディジョン到着	代名動詞 複合過去 自己紹介の表現
⑪	ディジョン街散策	半過去と複合過去
⑫	4 課~7 課の復習	仏検 4 級をめざして (2)
⑬	期末テスト	仏検 4 級模擬テスト
⑭	総復習とまとめ	聞き取りテスト Di

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの、文法項目と表現のフランス語の例文、及び Dialogue (会話本文) のフランス語は必ず事前に、わからない単語は辞書で引いて、文章として訳しておくこと。

【テキスト (教科書)】

『パリーブルゴージュ』 (朝日出版)

【参考書】

参考書は特になし。仏和辞典は必携。電子辞書可。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50%、平常点 50% (毎回の授業での訳出力、練習問題)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講座の受講は 1 年から 4 年までに開かれているが、初級~と名がついているが、すでに 50 時間程度 (1 年間週 1 回) のフランス語学習を終えた学生を対象にしている。

【Outline and objectives】

After learning elementary grammar, students will learn Intermediate French, targeting the 3rd/4th level of the DAPE (diploma aptitude practical in French)

LANf200LA

検定フランス語 (初級) II 2017 年度以降入学者

LANf200LA

検定フランス語 II 2016 年度以前入学者

瀬戸 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級フランス語を学んだ後の、続きとしてフランス語実用技能試験 (仏検) 4~3 級合格レベルの中級フランス語を学ぶ。

【到達目標】

個人の能力に応じて仏検 4~3 級合格レベルの実力養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期 (検定フランス語初級 I) と同じ。前期の復習、やり残したところがあれば、そこを補ってから進む。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス 春学期復習 (1)	テキスト 1 課~3 課
②	春学期復習 (2)	4 課~7 課
③	春学期復習 (3)	仏検 4 級模擬テスト
④	ブルゴーニュ名物料理	接続法
⑤	ボースへ行く	様々な前置詞 勧誘表現 現在分詞 比較表現
⑥	ワインの試飲	現在分詞 比較表現
⑦	8 課~10 課復習	仏検 3 級をめざして 1
⑧	ブドウ畑訪問	様々な副詞
⑨	ヴェズレー訪問	所有代名詞 謝礼表現 間接話法
⑩	将来を語る	間接話法 時制の一致
⑪	再会・別れ	強調構文 時の表現
⑫	11 課~14 課復習	仏検 3 級をめざして 2
⑬	期末テスト	仏検 3 級模擬テスト
⑭	まとめと総復習	聞き取りテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前期と同じ テキストの予習重視。

【テキスト (教科書)】

春学期と同じ。春学期の続き。『パリ・ブルゴーニュ』(朝日出版)

【参考書】

特になし。仏和辞典は必携。電子辞書可。

【成績評価の方法と基準】

春学期と同じ。期末テスト 50%、平常点 50% (予習・発表点、授業中の練習・課題点)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

春学期と同じ。

【Outline and objectives】

After learning elementary grammar, students will learn Intermediate French, targeting the 3rd/4th level of the DAPF (diploma aptitude practical in French)

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L A 2017 年度以降入学者

ARSA200LA

フランスの文化と社会 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。春学期では地理、観光、音楽、歴史、政治、教育などを扱います。一般的なフランスのイメージ、高校の世界地理や世界史で学んだ知識から、あまり知られていないことまで広げてフランスの文化および社会について学びます。パリの美術館、ヴェルサイユやロワール河畔の城、モン・サン・ミシュールについて、あるいは古楽、ドビュシーなどのクラシック、ピアフなどのシャンソン、ボレナルフなどのポップスといった音楽、さらには古代、中世から、革命、大戦に至る歴史、現代の政治機構や教育制度などを学びます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標とします。観光や輸出入、マスメディアなどの分野で働くために役に立つ基礎知識を学ぶことができます。またフランス流の考え方を学ぶことを通して、様々な現代社会の問題に向き合うためのヒントを得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義の形をとりますが、教員が投げかける疑問に学生が考えて答えることが求められます。学生の側からの疑問の投げかけも歓迎されます。提出するべきレポートの題材を日ごろから自ら探しておくことが必要です。毎回テーマごとに、文書や映像資料を用いて解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明； フランスとはどんな国か	本土と海外県、海外領土； 人口、地理
2	パリとその近郊 1	ルーヴル美術館やその他の名所
3	パリとその近郊 2	オルセー美術館など
4	フランスの地方 1	ヴェルサイユ、ヴォー・ル・ヴィコント、フォンテーヌブローなどパリ近郊の城、ノルマンディなどの北部、ロワール河流域の城 プロヴァンス： アルル、ニーム、カンヌなど
5	フランスの地方 2	中世、古典期： 吟遊詩人、マショール、デブレ、クーブラン、リュリ、ラモーなど
6	フランスの音楽 1	古典期から近・現代： ビゼー、ドビュシー、サティ、メシアン、アンリ、プーレーズなど
7	フランスの音楽 2	シャンソン、ロック、ポップなど： トレネ、ピアフ、ボルナルフ、ジャールなど
8	フランスの音楽 3	フランス国家の成立、百年戦争
9	フランスの歴史 1	絶対王政の確立と衰退
10	フランスの歴史 2	フランス革命から帝政へ
11	フランスの歴史 3	第二次大戦と戦後
12	フランスの歴史 4	立法府、行政府、政党
13	フランスの政治制度	初等、中等、高等教育の制度
14	フランスの教育制度	学校生活、バカロレア、いわゆる名門校

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：フランスの地理と人口に関して調べる。第2回：ルーヴル美術館に関して調べる。第3回：オルセー美術館に関して調べる。第4回：パリに関して調べる。第5回：フランスの地方に関して調べる。第6回：フランスの中世音楽を聴く。第7回：フランスの古典期の音楽を聴く。第8回：フランスの現代音楽やポップスを聴く。第9回：フランスの古代・中世に関して調べる。第10回：フランスの絶対王政について調べる。第11回：フランス革命に関して調べる。第12回：ナチスのフランス占領に関して調べる。第13回：フランスの政治制度について調べる。第14回：フランスの学校に関して調べる。

常日頃から、提出するレポートの題材を探して、調べておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。プリントを配ります。

【参考書】

『かしこい旅のバリガイド』（CD付）、田中成和、渡辺隆司 著 駿河台出版社
『ケータイ版 ラビッド・フランス旅行会話-レストランの料理写真付-』

加藤雅郁 著 駿河台出版社

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（授業で扱った主題の中から興味のあるもの一つを選んで調べる）を主な判断材料とします（90%）。

授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べるのが大切です。授業への参加状況（発言や質問など）をも考慮して（10%）成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

私語が迷惑であるのご指摘をいただきました。確かに、授業中に話をしてる人がいました。それとなく近くに行き、気づいてもらうようにしましたが、徹底していなかったかもしれません。今年は授業を始めるにあたって、私語は他人の権利を侵すものであることをはっきりと伝えようと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with a variety of aspects of French culture: geography, tourisme(museums in Paris, Versailles, castels on the Loire, Mont-Saint-Michel etc.), music(troubadour, classical composers, contemporary composers, chansons, pops), history(antiquity, medieval era, French Revolution, Second World War), politics(systems and parties) and educational system. Beginning with well-known or school-taught knowledge, students will extend their interest to other aspects of French culture which are not necessarily paid attention to.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

ARSA200LA

フランスの文化と社会 II

2016年度以前入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランスの文化と社会をさまざまな角度から検討します。秋学期では文学・思想、ワイン、チーズ、料理、菓子、映画、マスメディア、社会問題、ヨーロッパ連合などを扱います。一般的なフランスのイメージではとらえきれない、様々なフランスの現実について考えます。モリエールなどの古典演劇、デカルトなどの近代思想、ルソーなどの啓蒙思想、ユゴーなどのロマン主義文芸、実存主義、構造主義やポストモダンなどの現代思潮を学び、グルメで一息？ ワインはロマネー・コンティやマルゴーから日本ではあまり知られていない逸品まで、料理は高級料理から郷土料理まで見て回ります。映画は創成期からいわゆるヌーヴェル・ヴァーグを経て『シラノ』や『アメリカ』の現代まで。忘れてはならないのは優雅でない厳しいフランスの現実です。メディアはこれをどう伝えているか。厳しさを増すEUの現状と将来は？ そもそもどうやって成立したのか？

フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

この授業は、フランスに関する知識と関心を深めることを目標とします。観光や輸出入、マスメディアなどの分野で働くために役に立つ基礎知識を学ぶことができます。またフランス流の考え方を学ぶことを通して、様々な現代社会の問題に向き合うためのヒントを得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義の形をとりますが、教員が投げかける疑問に学生が考えて答えることが求められます。学生の側からの疑問の投げかけも歓迎されます。また日ごろから、提出すべきレポートの題材を探しておく必要があります。毎回テーマごとに、文書や映像資料を用いて解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、フランスの文学と思想 1	古典主義演劇：コルネイユ、ラシーヌ、モリエール
2	フランスの文学と思想 2	近代思想の祖、デカルト：『方法序説』、『情念論』
3	フランスの文学と思想 3	啓蒙主義からロマン主義へ：ルソー、ユゴー：『パリのノートルダム』など
4	フランスの文学と思想 4	現代思想：実存主義：サルトル 構造主義：レヴィ=ストロース
5	フランスの文学と思想 5	現代思想：ポスト構造主義へ： フーコー ポストモダン： ドゥルーズとガタリ
6	ワインと食文化 1	ワイン、チーズ
7	ワインと食文化 2	料理、菓子
8	フランスの映画 1	創生期： リュミエール兄弟 メリエス『月世界旅行』、フィヤード『ファントマス』など
9	フランスの映画 2	トーキーから戦中、戦後へ： カルネ『天井桟敷の人々』、コクトー『美女と野獣』、クレマン『禁じられた遊び』など
10	フランスの映画 3	ヌーヴェル・ヴァーグから 70年代へ： ゴダール『勝手にしやがれ』、ドゥミ『シェルブールの雨傘』、トゥリュエフ『夜霧の恋人たち』など

11	フランスの映画 4	現代： マル『さよなら子供たち』、 ラプノー『シラノ・ド・ベルジュラク』、 ジュネ『アメリカ』、バラティエ『天使たちのコーラス』など
12	フランスのマス・メディア	新聞、雑誌、テレビなど
13	フランスの社会問題	失業、移民、犯罪など
14	ヨーロッパ連合	EU の成立と現状、またその将来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：フランスの古典期の作品を読む。第2回：古典期の科学思想に関して調べる。第3回：啓蒙主義、ロマン主義の作品を読む。第4回：実存主義、構造主義に関して調べる。第5回：構造主義以降の思想に関して調べる。第6回：ワインとチーズに関して調べる。第7回：フランスのデザートと和菓子と比べる。第8回：フランスの無声映画を鑑賞する。第9回：フランスの戦前、戦中映画を鑑賞する。第10回：ヌーヴェル・ヴァーグに関して調べる。第11回：フランス映画の最新作を鑑賞する。第12回：フランスのマスメディアについて調べる。第13回：フランス現代社会の問題について調べる。第14回：ヨーロッパ連合を出発点として国家また国家連合について考える。また日ごろから、提出すべきレポートの題材を探し、調べておくことが大切です。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。プリントを配ります。

【参考書】

『かしこい旅のバリガイド』（CD付）、田中成和、渡辺隆司 著 駿河台出版社
『ケータイ版 ラピッド・フランス旅行会話-レストランの料理写真付-』
加藤雅郁 著 駿河台出版社
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603。
『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（授業で扱った主題の中から興味のあるものの一つを選んで調べる）を主な判断材料とします（90%）。授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べるのが大切です。授業への参加状況（発言や質問など）をも考慮して（10%）成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

私語が迷惑であるとの指摘をいただきました。確かに、授業中に話をしてる人がいました。それとなく近くに行き、気づいてもらうようにしましたが、徹底していなかったかもしれません。今年は授業を始めるにあたって、私語は他人の権利を侵すものであることをはっきりと伝えようと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with a variety of aspects of French culture: literature and thought(classicism, Enlightenment, Romanticism, contemporary thought), wine and dishes, cinema(earliest works, talkies, Nouvelle vague, contemporary films), mass media, social problems(unemployment, immigration, crimes, etc.), European Union. Beginning with well-known materials, students will deepen and extend their knowledge on French culture.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近世フランス服飾文化論

内村 理奈

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、服飾を通して、アンシャン・レジーム期フランスの社会や文化を読み解く。服飾は、着用者の美意識、感性、身体感覚、思想、経済状況など、個人の内側や、個人を取り巻くあらゆる事柄を反映し、その時代の社会構造や文化を表象している。一見小さく思える服飾の世界から、近世フランスの文化はもちろん、この時代に生きた人々の精神世界や感性の深淵に迫ることになった。講義期間中に服飾関連の展覧会があるので、学外授業として見学も行う。

【到達目標】

様々な文献資料や図像資料にみられる服飾描写や服飾表現から、フランス文化を洞察し、服飾に託された人間の感情や感性、そして、服飾の表象を読み解くことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。パワーポイントで図像資料を紹介する。また、一部、学外の美術館で開催されている服飾展の見学も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方などイントロダクションと、服飾文化を学ぶ意義。
第2回	服飾と清潔感①白い下着	17世紀の白いリネン類の流行と清潔の関係について
第3回	服飾と清潔感②肌の白さのアピール	肌の白さのアピールによる清潔感の表現
第4回	服飾と清潔感③漂白技法	白いリネン類はどのように漂白され、洗濯されていたのか
第5回	服飾と清潔感④清潔のヒエラルキー	白いリネン類およびレースによる身外表象
第6回	服飾とふるまい①帽子に見られるジェンダー	中世から17世紀に至る帽子(chapeau)にみられる男性性の表象
第7回	服飾とふるまい②脱帽、帽子の喜劇	17世紀の帽子のエチケット
第8回	服飾とふるまい③帽子の挨拶	パレエの教本に見られた帽子の挨拶の所作
第9回	学外授業、展覧会见学、事前解説	服飾に関する展覧会の見学を予定
第10回	学外授業、展覧会见学、見学後ディスカッション	服飾に関する展覧会の見学を予定
第11回	服飾と文学①ツヴァイク『マリー・アントワネット』前半	伝記作家ツヴァイクの『マリー・アントワネット』を服飾から読み解く
第12回	服飾と文学②ツヴァイク『マリー・アントワネット』後半	伝記作家ツヴァイクの『マリー・アントワネット』にみられる白いドレスと指輪の表象
第13回	映像資料の鑑賞	講義に関連する映像資料の鑑賞
第14回	まとめ	講義を総括し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

内村理奈『ヨーロッパ服飾物語』北樹出版、2016年

【参考書】

内村理奈『モードの身体史—近世フランスの服飾にみる清潔・ふるまい・逸脱の文化』悠書館、2013年

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、レポートあるいは試験70点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Histoire de la mode et de l'apparence en France sous l'ancien régime.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：近代フランス服飾文化論

内村 理奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、服飾を通して、主に 19 世紀フランスの社会と文化を読み解く。絵画や、ファッション・プレートと呼ばれる服飾版画などの図像資料や、19 世紀に多く出版されたモード雑誌などを資料にして、アートとメディア、ビジュアルと言説の観点から、服飾文化を論じる。フランス生活文化論 LA と同様に、服飾を通して、この時代に生きた人々の精神世界や感性にまで肉薄していきたい。

【到達目標】

様々な図像資料や文献資料から服飾文化を読み解くことができること。
美術、文学、服飾の連関を理解することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。パワーポイントにて図像資料を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方などのイントロダクションと、服飾文化を学ぶ意義について
第 2 回	モードの意味	mode の言葉の意味の変遷について
第 3 回	ギャランティーのリボン	17 世紀パリに流行った男性のリボンの文化について
第 4 回	雅宴画のリボン	ギャランティーのリボンのその後の展開を雅宴画や文学作品から読み解く
第 5 回	印象派絵画とモード	印象派の絵画とファッションプレートの関係について
第 6 回	ルノワールの描いたモード	印象派の巨匠ルノワールの作品とモード雑誌の関係について
第 7 回	ネオ・ロココのモード	19 世紀後半にみられた一種の懐古趣味であるネオ・ロココとモードの関係
第 8 回	第 2 帝政期のマリー・アントワネット好み	第 2 帝政期にみられたマリー・アントワネットに関係するモードの懐古趣味
第 9 回	モード雑誌と礼儀作法書	モード雑誌と礼儀作法書の歴史を概観する
第 10 回	モードになった花嫁衣裳	モード雑誌と礼儀作法書に記された花嫁衣裳の記事と図像の比較
第 11 回	喪服にみられるジェンダー	17 世紀から 19 世紀の寡婦の喪服について
第 12 回	モードになった喪服	モード雑誌と礼儀作法書に記された喪服の記事と図像の比較
第 13 回	映像資料の鑑賞	講義に関連する映像資料の鑑賞
第 14 回	まとめ	講義を総括し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

内村理奈『ヨーロッパ服飾物語Ⅱ』北樹出版、2019 年出版予定。

【参考書】

徳井淑子、朝倉三枝、内村理奈、新實五穂、角田奈歩、原口碧『フランス・モード史への招待』悠書館、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、試験あるいはレポート 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Histoire de la mode en France moderne.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：Culture française フランス文化。ファッションと料理

ヴァリエヌ コリヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。

【到達目標】

ファッションと料理の語彙や表現を発見。学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランスのファッションとグルメの文化についてのテキストとビデオを制作します。

Nous travaillerons sur des textes et des vidéos concernant la culture française de la mode et de la gastronomie.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーション	クラスとプログラムのプレゼンテーション
第 2 回	ファッション	あなたのファッションのイメージ。文化的、言語的知識の評価
第 3 回	料理	あなたの料理のイメージ。文化的、言語的知識の評価
第 4 回	ファッション	有名なスタイリスト 2 - 有名な "グランド" メーゾン 歴史
第 5 回	ファッション	シャネル - テキストとビデオ - 2 衣服、形状、色を記述する - 語彙や文法
第 6 回	ファッション	サンローラン - テキスト - 2 語彙や文法
第 7 回	料理	有名なレストラン 2 - 郷土料理
第 8 回	料理	アルザス - テキストとビデオ - 2 メニュー、メインコースを記述する、ロヴァンス - テキストとビデオ - 2 レストランで注文をする
第 9 回	料理	映画の料理のイメージイメージ - 2 クリスチアン ディオール - テキストとビデオ - 2 衣服、形状、色を記述する - 語彙や文法
第 10 回	ファッション	ジャン=ポール・ゴルチエ - 2 衣服、形状、色を記述する - 語彙や文法
第 11 回	ファッション	料理とファッションの復習
第 12 回	ファッション	試験
第 13 回	復習	
第 14 回	試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、テキスト・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応など、準備学習・復習・宿題等の内容を具体的に記述します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

出席と参加 La présence et la participation en classe : 60%.
最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline and objectives】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話を持っている基本的

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ヴァリエンス コリヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。

【到達目標】

ファッションと料理の語彙や表現を発見。学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランスのファッションとグルメの文化についてのテキストとビデオを制作します。

Nous travaillerons sur des textes et des vidéos concernant la culture française de la mode et de la gastronomie.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーション	クラスとプログラムのプレゼンテーション
第 2 回	ファッション	Yves Saint-Laurent. 文化的、言語的知識の評価
第 3 回	料理	Les cafés célèbres de Paris. 言語的知識の評価
第 4 回	ファッション	ファッションショー 有名な
第 5 回	料理	ブルゴーニュ spécialités et histoire 1
第 6 回	料理	ブルゴーニュ spécialités et histoire 2
第 7 回	料理	Les macarons - texte
第 8 回	料理	Les macarons - texte
第 9 回	料理	ロヴァンス テキストとビデオ 2 レストランで注文をする
第 10 回	ファッション	Les parfums 1
第 11 回	ファッション	Les parfums 2
第 12 回	ファッション	17 世紀と 18 世紀のヴェルサイユのファッション La mode à Versailles aux XVII et XVIIIe siècles
第 13 回	復習	料理とファッションの復習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、テキスト・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応など、準備学習・復習・宿題等の内容を具体的に記述します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

出席と参加 La présence et la participation en classe : 60%.
最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline and objectives】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話を持っている基本的

LANR200LA

ロシア語 3 I 2017 年度以降入学者

LANR200LA

ロシア語 3 I 2016 年度以前入学者

長屋 房夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を学んで 1 年経ちました。これまでの復習、そして残っている文法をなるべく早く終えましょう。

外国語学習で最も大事な辞書も頻繁に活用して語彙数を増加させ、さらに文法を理解するようになりましたので、会話の訓練も行います。実践的な学習にしたいと思います。

【到達目標】

新聞やネットなどのロシア語短文にも挑戦できる力をつける。辞書を用いて読解できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを通じロシア語を読み、書き、そして簡単な会話ができるように、音読に力を入れます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 1	これまでの復習（運動の動詞、名詞の前置格、対格、生格）
2	復習 2	これまでの復習（名詞の与格と造格）
3	第 1 2 課 動詞の完了体、不完了体	完了体と不完了体の文法説明
4	第 1 2 課 動詞の体と時制	第 12 課の「体と時制」、テキストの解説と文法説明
5	第 1 2 課	会話の読解と練習問題の答え合わせ、文法の復習
6	第 1 3 課 関係代名詞、関係副詞	関係代名詞と関係副詞の文法説明
7	第 1 3 課	テキストと会話の読解
8	第 14 課 数詞と時間	文法：数詞と名詞の結びつき、個数詞と順序数詞を覚える
9	第 14 課 数詞と時間	年月日の表現、年齢の表現などの文法説明、テキストの読解
10	第 14 課 会話と練習問題	会話の読解、練習問題の答え合わせ、文法説明
11	第 15 課 比較級、最上級、仮定法	比較級、最上級、仮定法の文法説明
12	第 15 課 テキスト、会話、練習問題	テキスト、会話の読解、練習問題の答え合わせ、文法説明
13	春期の総復習	春期に学んだ範囲の総復習
14	春学期試験	授業内試験（1 時間）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットなどを用いてロシア語に関する新聞・雑誌等の記事を読み、ロシア語だけでなく、ロシアのことに関心を持ちましょう

【テキスト（教科書）】

1 年生から継続して用いる教科書（法政大学ロシア語担当教員編）
「入門ロシア語文法」和久利智一著、白水社

【参考書】

参考書は使用しないが、露和辞書の入手が好ましい。ネットにも幾つかのサイトで辞書が使用可能：Yaku.ru など

【成績評価の方法と基準】

学期の最終日に授業内筆記試験を行います。試験（60 %）、中間テスト、宿題（20 %）、平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

小テスト（単語・短文暗記など）を実施する

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして 3 回以上欠席した学生は授業内受験の資格を失います。（授業の中で詳しく説明します）

【Outline and objectives】

A year has passed since we learned Russian. Let's finish our review and the grammar that remains as quickly as possible.

We often use the most important dictionaries for foreign language learning to increase the number of vocabulary, and since we have come to understand grammar, we will also carry out conversation training. I want to make it practical learning.

LANr200LA

ロシア語 3 II

2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 3 II

2016 年度以前入学者

長屋 房夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法を終えたので、配布するテキストの読解に入ります。今まで学んだ文法を文章の中で確認し復習、また新たな構文を学習して理解する

【到達目標】

新しい単語や文法の学習。会話にも慣れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

辞書を用いてテキストの読みと訳を確実にできるようにするため、多くのテキストを読み込む

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 1	春学期の復習（12 課～13 課）数詞と順序数詞の復習
2	復習 2	春学期の復習（14 課～15 課）数詞と順序数詞の復習・暗記
3	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説
4	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説
5	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説、形動詞について
6	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説。能動形動詞現在と過去
7	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説。被動形動詞の現在と過去
8	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説。被動形動詞過去単語尾形について
9	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説。副動詞について
10	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説
11	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説
12	ロシア語文の読解	配布テキストの読みと訳 文法解説
13	秋学期の総復習	もう一度困難な文章などを復習する
14	秋学期試験	授業内試験（1 時間）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語に関する新聞・雑誌等の記事に慣れ親しむ。ロシアのニュースや文化に関心を持つ

【テキスト（教科書）】

授業用のプリントを配布します

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一著、白水社

このほかに露和辞書を入手するか、ネットの辞書サイトを利用して語彙を学ぶ：Yaku.ru など。

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行なう。試験（60%）、中間テスト・宿題回答（20%）、平常点（20%）で評価します

【学生の意見等からの気づき】

中間テスト（単語や短文の暗記など）を実施する

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして3回以上欠席した学生は授業内受験の資格を失います。（授業の中で詳しく説明します）

【Outline and objectives】

Now that you have completed the basic grammar, you can start reading the text you are distributing to confirm and review the grammar one has learned so far in writing and to learn and understand new syntax

LANr200LA

ロシア語3 I 2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語3 I 2016年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この春学期でロシア語基礎文法を学び終え、文法力を身につける。辞書を引きながらさまざまなテキストを読解できるようになる。ロシア語能力検定試験4級3級の過去問題や対策問題に取り組み、合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際にコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【到達目標】

教科書のロシア語基礎文法を学び終え、しっかりと文法力を身につける。特に数詞の表現、関係代名詞や仮定法、比較級などが使いこなせるようになる。基礎文法が対象のロシア語能力検定試験4級3級の過去問題や対策問題に取り組み、合格を目指す。辞書を引き、より高度な文章の和訳ができるようになる。ロシア語テキストを速くきれいに音読できるようになる。実際にコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、基礎文法を終わらせます。文法を理解し習得、その知識を使いミニテストやロシア語検定試験過去問題を解いていきます。テキストを美しい発音で速く音読し、実際に使える会話の練習を行います。また、テキストの和訳を辞書を使い行います。名詞や形容詞などの変化形を乗り越えられれば、パズルのようなロシア語の文章構造を読み解くことが、おもしろく感じられるはずです。CDやDVDでロシア語のリスニングのレッスンも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	一年次の文法の総まとめ	一年次の文法の総まとめ、会話練習
2	第12課 動詞の体と時制	動詞の体（完了体、完了体）と時制
3	第12課 完了体と完了体	練習問題、テキスト音読と和訳、会話練習
4	第13課 関係代名詞	関係代名詞とその練習問題
5	第13課 関係副詞、接続詞の用法	関係副詞、接続詞 чтобы の文法と練習問題、テキストの音読と和訳
6	12課と13課のまとめと中間試験	検定試験対策も考慮した中間試験（12-13課対象）
7	第14課 数詞	個数詞と順序数詞の音読と筆記、復唱し暗記
8	第14課 数詞と名詞の結合	数詞と名詞の結合、ロシア語能力検定試験3級の数詞問題を解く
9	第14課 時間・年月日、年齢、値段の表現	時間・年月日、年齢、値段の表現（文法）、練習問題、会話練習
10	第15課 比較級	比較級（形容詞と副詞）、比較の対象の表現、ロシア語能力検定試験3級の比較級の問題を解く
11	第15課 最上級、仮定法	最上級（形容詞と副詞）、仮定法、名詞の特殊変化
12	検定対策（1）	発音、代名詞、名詞の複数形、疑問文とその答え、動詞の現在人称変化
13	検定対策（2）	格変化（名詞、形容詞、人称代名詞、所有代名詞、指示代名詞）
14	期末試験	14-15課を対象とした試験。検定試験対策も兼ねる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。小テスト前には集中的に復習をする。

ロシア語能力検定試験4級、3級に向けて練習問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHKロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（12-13課）と期末テスト（14-15課）を評価テストとして行います。この試験結果が評価の60%となります。その他にリーディングや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40%とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験対策の時間を増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の展開により変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: 1) to finish learning basic Russian grammar; 2) to be able to read various texts with the help of a dictionary; 3) to develop your listening and reading skills and master daily conversation, self-introductions, etc., that you can actually use for communication. You will also aim to pass the Russian language proficiency test at levels 3 and 4.

LANr200LA

ロシア語3Ⅱ 2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語3Ⅱ 2016年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習のロシア語基礎文法を復習・整理し、使いこなせるようになる。その力試しにロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。より高度なテキストを読み解くため、中級文法を習得する。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える日常会話、自己紹介等を身につける。ロシアの歴史文化の映画やDVD、ニュースなどの視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を整理、記憶し、確実に自身のものとする。ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。より高度なテキストを読解するため、中級文法を習得する。その文法を用いて、ロシアの歴史や文化、文学作品やニュースなど、さまざまなテキストを辞書を引き訳せるようになる。また、リスニングや、テキストをきれいな発音で速く音読できること、ロシア語の実践会話、和訳や露訳など、「聴く、読む、話す、書く」の総合的な語学力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では、まずは10月に開催されるロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指すし、基礎文法の復習と習得を完成させます。過去問や対策問題を解いていきます。また、速く美しい発音でのリーディング練習、CDやDVD（映画、ニュース等）などでロシア語をリスニングしていきます。皆さんの理解度に合わせてテキストを用意します。世界最高峰のロシア文学なども、一緒に読み解いていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎文法の復習	教科書での基礎文法の復習。格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
2	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形、命令形）、比較級
3	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）、数詞（数詞と名詞の結合）
4	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	露文和訳、和文露訳、リスニング練習
5	中級文法（副動詞）	中級文法の学習と練習問題（副動詞）、テキスト読解
6	中級文法（能動形動詞）	中級文法の学習と練習問題（能動形動詞）、テキスト読解
7	中級文法（被動形動詞）	中級文法の学習と練習問題（被動形動詞）、テキスト読解
8	ニュースのリスニングと和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
9	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアの民話や歴史など）、ロシア語作文
10	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解とロシア語作文（日本紹介や手紙など）
11	テキスト読解とその映像資料のリスニング1	テキスト読解（ロシア文学作品；チャーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
12	テキスト読解とその映像資料のリスニング2	（ロシア文学作品；ドストエフスキー）、映像資料（映画）のリスニング
13	テキスト読解とその映像資料のリスニング3	テキスト読解（ロシア文学作品；トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を済ませ、授業に臨む。・副動詞と形動詞の練習問題を解く。・NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。

【テキスト（教科書）】

・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013年
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい）
・その他のテキストとして、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の60%となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40%とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格というひとつの目標ができたことが良かったという感想がありました。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の展開により変更があり得ます。

10月から翌年5月のロシア語能力検定試験4級か3級いずれかを受験してください。

【Outline and objectives】

You will review, order, and master the basic Russian grammar you have already learned and aim to acquire the ability to pass the Russian language proficiency test at levels 3 and 4. To understand more advanced texts, you will master intermediate grammar. By fostering your listening and reading skills, you will acquire ordinary conversational ability that can be used to actually introduce yourself, etc. You will deepen your knowledge of Russian using audiovisual teaching materials such as movies and DVDs of Russian history, culture, and news.

LANr200LA

ロシア語 3 I 2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 3 I 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本学期では、初級で学んだ基礎をもとに、ロシア語の文章を読み理解していくうえで必要となる文法事項を学び、基本的な文法をひとつお終えることを目指します。

【到達目標】

学んだ文法事項を的確に理解し運用できること、数詞を含む表現を理解し表現できること、関係代名詞を含む文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の解説、練習問題、テキストや会話の読解という順序で授業を進めていきます。練習問題やテキストなどの読解は学生主体で行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習	既習文法の確認と復習
2	動詞の体の用法①	動詞の不完了体、完了体の練習
3	動詞の体の用法②	動詞の体を意識したテキストの読解
4	関係代名詞	関係代名詞の説明と練習
5	関係副詞	関係代名詞、関係副詞が含まれるテキストの読解
6	数詞を含む表現①	数詞と名詞の結びつきの説明、時間の表現
7	数詞を含む表現②	年齢と年月日の表現の練習
8	数詞を含む表現③	数詞が含まれるテキストの読解
9	形容詞、副詞の比較級	形容詞、副詞の比較級の用法
10	形容詞、副詞の最上級	形容詞・副詞の最上級の用法
11	仮定法	仮定法の説明と用法
12	形容詞・副詞のまとめ	形容詞、副詞関連の総復習
13	まとめと練習	既習事項のまとめと練習
14	まとめと確認	既習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が大切です。事前に新出単語を調べ、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形は格変化表を繰り返し見て覚えるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 法政大学ロシア語担当教員編』辞書を持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利誓一、白水社

【成績評価の方法と基準】

試験 60%、平常点（授業参加態度、課題提出などを含む）40%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

疑問点はその場で質問し解決に努めましょう。個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

LANr200LA

ロシア語 3 II 2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 3 II 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文法を終えた学生を対象とした授業です。文章の読解を通して既習事項の確認、定着、応用を目指します。学期の後半では映画や大統領演説などを教材とし、リスニングや会話表現などを学びます。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を理解し、日本語に訳すことができる、文章を正確に音読できる、文章の内容に関するロシア語での質問に的確に答えることができる。簡単な会話表現を理解でき、的確に応えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに教材を用意します。文章講読の場合は、テキストの音読、日本語への訳出、内容についての質疑応答を行います。映画教材の場合は、音読と日本語への置き換えなどが中心となります。

辞書と格変化表は持参してください。なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法事項の確認	既習文法の確認と復習
2	文章読解（1）	副動詞が含まれる文章読解
3	文章読解（2）	形動詞が含まれる文章読解
4	文章講読（1）	歴史がテーマの文章講読
5	文章講読（2）	都市がテーマの文章講読
6	文章講読（3）	社会がテーマの文章講読
7	詩を読む	詩の音読練習
8	詩の暗唱	詩の暗唱の試み
9	ロシア映画（1）	音読・リスニング練習
10	ロシア映画（2）	一場面の音読練習
11	ロシア映画（3）	一場面の会話練習
12	ロシア映画（4）	場面ごとの会話練習
13	大統領演説	大統領の新年演説を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題はやってこること。格変化の形は何度でも復習して定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

プリント教材（授業で配布します）。辞書、1 年次に使用した『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参のこと。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40%、学期末試験 60% の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業には積極的に参加しましょう。皆さんが発言、質問しやすい授業を心掛けます。

【Outline and objectives】

Through reading comprehension, we aim for confirmation, fixing and application of what we have learned so far. In the second half, learn Russian expression using materials such as movies and speech of president.

LANr200LA

ロシア語 4 I 2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 4 I 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次に学んだ初級文法を復習し、残りの文法の学習を終える。それらを基礎に、簡単な文章の読解や暗唱を行う。

【到達目標】

辞書等を用いながら、自分自身の力でロシア語の文章を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを各自で読解し、それに関して教師が解説やコメントを与える。テキストの意味が分かるだけでなく、それを暗記して語彙力や読解力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アーニャとユーラが話しています」その1	前置格（単数形と複数形）の練習問題
2	「アーニャとユーラが話しています」その2	テキストの暗記
3	「ユーラとお母さんのニーナが話しています」その1	対格（単数形と複数形）の練習問題
4	「ユーラとお母さんのニーナが話しています」その2	テキストの暗記
5	「文夫がサモワールについて尋ねています」その1	生格（単数形と複数形）の練習問題
6	「文夫がサモワールについて尋ねています」その2	テキストの暗記
7	「文夫と美紀の多忙な毎日」その1	形容詞の短語尾形の練習問題
8	「文夫と美紀の多忙な毎日」その2	テキストの暗記
9	「ニーナとイーゴリの夫妻が話しています」その1	与格（単数形と複数形）および無人称述語の練習問題
10	「ニーナとイーゴリの夫妻が話しています」その2	テキストの暗記
11	「夏休みの計画」その1	無人称文の練習問題
12	「夏休みの計画」その2	テキストの暗記
13	復習	期末試験の想定問題
14	期末試験	文法問題、露文和訳、和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に探り当てるよう予習しなければならない。この予習を前提に、理解したテキストを暗記するよう努力する。また、文法ないし暗記の小テストを毎回行う。

【テキスト（教科書）】

1 年次より継続のテキスト（「ロシア語初級」法政大学ロシア語教員編）。また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

文法の知識と読解力を問う期末テスト（80%）および平常点（20%）。平常点は小テストの評価が主である。

【学生の意見等からの気づき】

より一層音声教材を活用する。

【Outline and objectives】

Russian Reading Part1. The aim of this course is to learn to read easy Russian texts, and also to memorize them in order to increase your vocabulary and reading skills.

LANr200LA

ロシア語 4 II 2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 4 II 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本格的にテキスト読解の練習に取り組む。既習の文法事項の知識を駆使し、さらに新たな文法を学びながら、正確な読解力を養う。

【到達目標】

新聞・雑誌やネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを各自で読解し、それに関して教師が解説やコメントを与える。テキストの意味が分かるだけでなく、それを暗記して語彙力や読解力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「イワンがおなかをこわしたようです」その1	否定生格の練習問題
2	「イワンがおなかをこわしたようです」その2	テキストの暗記
3	「ニキーチン先生の問はず語り」その1	造格（単数形と複数形）の練習問題
4	「ニキーチン先生の問はず語り」その2	テキストの暗記
5	「美紀がナターシャとメッセージを交換しています」その1	動詞の完了体と完了体の練習問題
6	「美紀がナターシャとメッセージを交換しています」その2	テキストの暗記
7	「学生たちの会話」その1	関係代名詞および形容詞の比較級の練習問題
8	「学生たちの会話」その2	テキストの暗記
9	「コートを買うに」その1	数詞の表現の練習問題
10	「コートを買うに」その2	テキストの暗記
11	「ニーナが映画監督に電話しています」その1	仮定法の練習問題
12	「ニーナが映画監督に電話しています」その2	テキストの暗記
13	復習	期末試験の想定問題
14	期末試験	文法問題、露文和訳、和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に探り当てるよう予習しなければならない。この予習を前提に、理解したテキストを暗記するよう努力する。また、文法ないし暗記の小テストを毎回行う。

【テキスト（教科書）】

1 年次より継続のテキスト（「ロシア語初級」法政大学ロシア語教員編）。また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

文法の知識と読解力を問う期末テスト（80%）および平常点（20%）。平常点は小テストの評価が主である。

【学生の意見等からの気づき】

より一層音声教材を利用する。

【Outline and objectives】

Russian Reading Part2. The aim of this course is to learn to read easy Russian texts, and also to memorize them in order to increase your vocabulary and reading skills.

LANr200LA

ロシア語 4 I 2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 4 I 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営環 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文章読解や和文露訳練習などを通じて、基本文法や基本的な構文を定着させ、未習の文法事項を学び基本的な文法の修得を目指します。さらに、音読や会話のロールプレイなどを通じて、話す、聴く力を伸ばす練習も行います。

【到達目標】

既習文法を正しく理解していること、辞書を用いてロシア語の文章を理解し日本語に訳せること、ロシア語での質問を理解し、それに適切に答えられること。アクセントの位置やイントネーションを意識して、文章の音読ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

既習の文法事項の復習から始め、本学で学習した文法事項やロシア語での表現などをテキストや練習問題を通じて定着させます。また、音読やリスニング、会話表現の練習も行います。

なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習 (1)	格変化の復習 (名詞)
2	既習文法の復習 (2)	格変化の復習 (形容詞など)
3	動詞 (1)	動詞関連の文法事項の確認
4	動詞 (2)	動詞の完了体・不完了体
5	複文 (1)	関係代名詞を含む複文の読解
6	複文 (2)	接続詞を含む複文の読解
7	数詞 (1)	数詞と時間の表現
8	数詞 (2)	年齢の表現など
9	数詞 (3)	年月日の表現
10	数詞 (4)	数詞を含むその他の表現
11	形容詞・副詞の比較級	形容詞・副詞の比較級
12	形容詞・副詞の最上級	形容詞・副詞の最上級
13	仮定法	仮定法を用いた表現
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習すること。格変化形や動詞の活用は意識して覚えること。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編
その他適宜プリントを配布します。辞書は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40%、学期末テスト 60%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業には積極的に参加し、疑問点はその場で質問して解決しましょう。皆さんが質問や発言のしやすい授業を心掛けます。

【Outline and objectives】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is get used to Russian through writing comprehension and translation. Students will read texts written with various themes and translate them from Russian to Japanese or Japanese to Russian.

LANr200LA

ロシア語 4 II 2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 4 II 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営環 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

基本文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。文章の読解を通して、これまで学習したことの確認、定着、応用を目指します。また、学期の後半には映画など視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。教材を通してロシアに対する理解を深めることも目的の一つです。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を読み、理解し、日本語に訳すことができる。ロシア語のテキストを正確に音読できる、簡単な会話表現を理解でき、的確に応えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに教材を用意します。文章講読の場合は、テキストの音読、日本語への訳出、内容についての質疑応答が中心となります。視聴覚教材の場合は、音読と日本語への置き換えなどが中心となります。

辞書と格変化表は持参してください。

なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法事項の確認	既習文法事項の確認
2	文章読解 (1)	副動詞が含まれる文章読解
3	文章読解 (2)	能動形動詞が含まれる文章読解
4	文章読解 (3)	被動形動詞が含まれる文章読解
5	文章講読 (1)	歴史に関する文章を読む
6	文章講読 (2)	社会に関する文章を読む
7	ロシア文学 (1)	昔話を読む
8	ロシア文学 (2)	文学作品を読む試み
9	ロシア映画 (1)	リスニング練習
10	ロシア映画 (2)	一場面の音読練習
11	ロシア映画 (3)	一場面の会話練習
12	ロシア映画 (4)	内容を文章にする試み
13	演説	政治家の演説を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（日本語訳など）はやってこること。格変化形や動詞の活用は意識して覚えること。

【テキスト（教科書）】

プリント教材（授業で配布します）。
辞書、格変化表、参考書は持参してください。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40%、学期末試験 60%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業には積極的に参加し、疑問点はその場で解決しましょう。皆さんが発言、質問しやすい授業を心掛けます。

【Outline and objectives】

Through reading comprehension, we aim for get used to Russian texts with various themes such as history, society, culture of Russia. In the second half, learn conversation and speech expression using materials such as movies and TV programs.

LANr200LA

ロシア語5 I 2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語5 I 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法に踏まえ、ロシア語の主な文法構文を日常の会話に生かし、ロシア語コミュニケーション力を伸ばす授業です。身近な場面で使われるロシア語の表現を学び、リスニングと会話によって実践的に覚えます。扱うロシア語文書と会話練習の内容は面白いので授業を楽しみながらロシア語の勉強ができます。

【到達目標】

ロシア語能力試験 A1 - A2 レベルの解読、聴解、会話が確実にできることを目標とする授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期では、紹介、家族構成、一日の過ごし方、買い物などの会話表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取りをしてから会話の実践を行います。難しい文法科目は必要に応じて日本語で教えます。「読む・書く・聴く・話す」という段階で、ロシア語の基本文法とロシア語の表現を本格的に覚えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「家族」	家族の単語を使うリスニング、会話練習
2	「仕事」	職業の単語を使うリスニング、会話練習
3	「学生」	リスニング、会話練習
4	「お名前は？」	人称代名詞の対格形を使う会話練習
5	「いくつ？」	個数字を使う会話練習
6	所有表現	「…を持っている」リスニング、会話練習
7	「試験」	第1変化動詞を使うリスニング、会話練習
8	「ご意見」	副詞を使うリスニング、会話練習
9	「写真」	所有代名詞を使うリスニング、会話練習
10	「どこ？」	副詞「左・右・上・下」などを使うリスニング、会話練習
11	「外国語」	動詞 дел а т ь を使うリスニング、会話練習
12	「何曜日？」	過去文、曜日などを使うリスニング、会話練習
13	ロシア人の名前	名前、父称、“愛称版”と“形式版”。聴解練習、会話練習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの音声データを使った宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

中間テストや学期末試験の範囲をはっきりしました。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の授業支援システムにアクセスできるスマートフォン又はPC。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業スケジュールは変更できます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr200LA

ロシア語5Ⅱ 2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語5Ⅱ 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法に踏まえ、ロシア語の主な文法構文を日常の会話に生かし、ロシア語コミュニケーション力を伸ばす授業です。身近な場面で使われるロシア語の表現を学び、リスニングと会話によって実践的に覚えます。扱うロシア語文書と会話練習の内容は面白いので授業を楽しめながらロシア語の勉強ができます。

【到達目標】

ロシア語能力試験（T P K II）A1 - A2 レベルの解読、聴解、会話ができることを目標とする授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読む・書く・聴く・話すの段階に総合的にロシア語を学びますが、授業の特徴はリスニング問題が多くて、聴解の宿題もあります。音声データを使って常に通訳練習もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	動詞を使う会話練習
2	「オフィス」	副詞を使うリスニング、会話練習
3	「レストランで」	場所表現を使うリスニング、会話練習
4	「何時？」	時間表現を使うリスニング、会話練習
5	「土曜日」	時間表現などを使うリスニング、会話練習
6	「何を？ 誰を？」	他動詞構文を使うリスニング、会話練習
7	「何を持っていた？」	所有表現の過去文を使うリスニング、会話練習
8	複文	複文を使うリスニング、会話練習
9	「私の職場」	過去構文を使うリスニング、会話練習
10	第2変化	第2変化動詞を使う会話練習
11	理由・結果	理由・結果を表す構文を使う会話練習
12	「天気」	未来時制文を使うリスニング、会話練習
13	「人の体」	特集複数形などを使う会話練習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの音声データを使った宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

中間テストや学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の授業支援システムにアクセスできるスマートフォン又はPC。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業スケジュールは多少変更できます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr200LA

ロシア語7 2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語7 2016年度以前入学者

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
国 2年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次に学んだロシア語文法を復習しながら、新たな文法事項（関係副詞／比較級・最上級／形動詞・副動詞など）を学んでいき、ロシア語文法の基礎をひととおり完成させることになります。

【到達目標】

辞書があればロシア語の文章を読めるようになる段階を目指すべく長文を読む機会を多くもって、文法の基礎力の充実と語彙力の増大に努めます。コミュニケーションの上でも、文法力と語彙力は不可欠です。ロシアで生活しても困らないレベルのロシア語力の獲得が最終的な目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まだ学習していないロシア語文法のいくつかの事項を練習問題を重ねつつ、学んでいきます。その後、ロシアの生活習慣や行事、文化をテーマとした長文の読解に入っていきます。ロシア語の文法、文章の構造を確認しながら読み進め、同時に、ロシアの文化についても知識を得て、SA ロシアに備えます。毎回、ロシアの文化について触れることができる映像を鑑賞する時間ももちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとロシア語文法の復習	既習文法の復習を練習問題を通して行う。映像鑑賞。
第2回	関係代名詞	関係代名詞の復習
第3回	関係副詞、目的を示す接続詞	関係副詞、目的を示す接続詞を使った文章の概説
第4回	比較級	比較級の作り方と使い方。練習問題
第5回	比較級・最上級	比較級の復習と最上級について
第6回	副動詞	副動詞（現在と過去）の概説。練習問題をを通して形動詞に慣れる。
第7回	副動詞・形動詞	副動詞の復習と形動詞の概説。能動形動詞（完了体）のつくりかたと練習問題。
第8回	形動詞	能動形動詞（完了体）のつくりかたと練習問題。
第9回	形動詞	受動形動詞（完了体と完了体）のつくりかたと練習問題。
第10回	形動詞	受動形動詞（完了体）のつくりかたと練習問題。
第11回	形動詞	受動形動詞（完了体）のつくりかたと練習問題。
第12回	長文読解：ロシアの祝日について(1)	ロシアの国民の祝日や宗教行事について知る文章を文法、文の構造、語彙に留意しながら丁寧に読んでいく。
第13回	長文読解：ロシアの祝日について(2)	ロシアの国民の祝日や宗教行事について知る文章を文法、文の構造、語彙に留意しながら丁寧に読んでいく。
第14回	学期末試験	ロシア語文法の総復習をかねて、試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付プリントの予習。適宜、課題も出すので必ず提出してください。また、長文読解に際しては、辞書を引く労を惜まずに、「自分の単語帳」を作って語彙力の増大に励んで下さい。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末テスト（25%）、小テスト（25%）

【学生の意見等からの気づき】

習得に困難な文法事項を学び、文法の総仕上げをする授業となりますが、平易に教えるよう努めます。

【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with course: Russian 8.
In this course, we will acquire basics of Russian grammar: relative adverb, comparative degree, superlative degree and participial construction. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian. We will complete the basic grammar of Russian!

LANr200LA

ロシア語 8

2017 年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語 8

2016 年度以前入学者

長屋 房夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 2 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語の読解と会話を両立させるために、残されている教科書の基本的な文法を終え、配布するプリントでより実践的なロシア語に触れ、会話に役立てる

【到達目標】

教科書「初級ロシア語」にない副動詞、形動詞を学び、同時に進んで会話ができるようになるための授業にする。ネットの記事を読解できるように語彙を増すことを目的とします

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書を終えるまでは 2 人の先生がリレー方式で授業を進め、教科書を終えたら配布するプリントの読解、文法説明を行う。習得レベルによって下記授業計画より速く進む場合があります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンスと復習	今までに学んだロシア語の復習、特に完了体と完了体動詞について
2	第 13 課	関係代名詞と関係副詞 個数詞の暗記
3	第 13 課	テキスト、会話、練習問題、順序数詞の暗記
4	第 14 課	数詞、時間（個数詞と名詞の結合）時間の表現、年月日の表現、年齢の表現、値段の表現
5	第 14 課	テキストの読解、会話、練習問題の答え合わせと文法復習
6	第 15 課	比較級、最上級、仮定法
7	第 15 課	テキスト、会話の読解、文法説明、練習問題
8	配布プリント	プリントの読解と文法説明、無人称文を学ぶ
9	配布プリント	プリントの読解と文法説明、形動詞（能動形動詞現在と過去）
10	配布プリント	プリントの読解と文法説明、形動詞（被動形動詞現在と過去）
11	配布プリント	プリントの読解と文法説明、（被動形動詞現在と過去）
12	配布プリント	プリントの読解と文法説明、被動形動詞過去短語尾形
13	春学期総復習	教科書とプリントの授業を復習する
14	春学期の試験	授業内筆記試験（1 時間）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を課しますので各自で予習する。教科書・プリントのテキストに出てくる新出単語は予習する。読みと発音を繰り返す。文章暗記も会話には必要なので短文の暗記を行う

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

プリントを教科書とする

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利智一著、白水社

このほかに露和辞書を入手するか、ネットの辞書サイトを利用して語彙を学ぶ：Yaku.ru など

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、中間テスト・宿題（20%）、平常点（20%）で評価して 60 点以上が合格

【学生の意見等からの気づき】

文章暗記と単語の小テストを行う

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして 3 回以上欠席した学生は授業内受験の資格を失います。（授業内で説明します）

【Outline and objectives】

In order to balance reading comprehension and conversation in Russian, the basic grammar of the remaining textbooks is finished, and the printed copies are distributed to touch the more practical Russian language and to use it for conversation.

LANr200LA

ロシア語3-I

2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語3-I

2016年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この春学期でロシア語基礎文法を学び終え、文法力を身につける。辞書を引きながらさまざまなテキストを読解できるようになる。ロシア語能力検定試験4級3級の過去問題や対策問題に取り組み、合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際にコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【到達目標】

教科書のロシア語基礎文法を学び終え、しっかりと文法力を身につける。特に数詞の表現、関係代名詞や仮定法、比較級などが使いこなせるようになる。基礎文法が対象のロシア語能力検定試験4級3級の過去問題や対策問題に取り組み、合格を目指す。辞書を引き、より高度な文章の和訳ができるようになる。ロシア語テキストを速くきれいに音読できるようになる。実際にコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、基礎文法を終わらせます。文法を理解し習得、その知識を使いミニテストやロシア語検定試験過去問題を解いていきます。テキストを美しい発音で速く音読し、実際に使える会話の練習を行います。また、テキストの和訳を辞書を使い行います。名詞や形容詞などの変化形を乗り越えられれば、パズルのようなロシア語の文章構造を読み解くことが、おもしろく感じるはず。CDやDVDでロシア語のリスニングのレッスンも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	一年次の文法の総まとめ	一年次の文法の総まとめ、会話練習
2	第12課 動詞の体と時制	動詞の体（完了体、不完了体）と時制
3	第12課 完了体と不完了体	練習問題、テキスト音読と和訳、会話練習
4	第13課 関係代名詞	関係代名詞とその練習問題
5	第13課 関係副詞、接続詞の用法	関係副詞、接続詞 что бы の文法と練習問題、テキストの音読と和訳
6	第12課と第13課のまとめと中間試験	検定試験対策も考慮した中間試験（12-13課対象）
7	第14課 数詞	個数詞と順序数詞の音読と筆記、復唱し暗記
8	第14課 数詞と名詞の結合	数詞と名詞の結合、ロシア語能力検定試験3級の数詞問題を解く
9	第14課 時間・年月日、年齢、値段の表現	時間・年月日、年齢、値段の表現（文法）、練習問題、会話練習
10	第15課 比較級	比較級（形容詞と副詞）、比較の対象の表現、ロシア語能力検定試験3級の比較級の問題を解く
11	第15課 最上級、仮定法	最上級（形容詞と副詞）、仮定法、名詞の特殊変化
12	検定対策（1）	発音、代名詞、名詞の複数形、疑問文とその答え、動詞の現在人称変化
13	検定対策（2）	格変化（名詞、形容詞、人称代名詞、所有代名詞、指示代名詞）
14	期末試験	14-15課を対象とした試験。検定試験対策も兼ねる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。小テスト前には集中的に復習をする。

ロシア語能力検定試験4級、3級に向けて練習問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHKロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（12-13課）と期末テスト（14-15課）を評価テストとして行います。この試験結果が評価の60%となります。その他にリーディングや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40%とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験対策の時間を増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の展開により変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: 1) to finish learning basic Russian grammar; 2) to be able to read various texts with the help of a dictionary; 3) to develop your listening and reading skills and master daily conversation, self-introductions, etc., that you can actually use for communication. You will also aim to pass the Russian language proficiency test at levels 3 and 4.

LANr200LA

ロシア語3-II

2017年度以降入学者

LANr200LA

ロシア語3-I

2016年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習のロシア語基礎文法を復習・整理し、使いこなせるようになる。その力試しにロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。より高度なテキストを読み解くため、中級文法を習得する。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える日常会話、自己紹介等を身につける。ロシアの歴史文化の映画やDVD、ニュースなどの視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を整理、記憶し、確実に自身のものとする。ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。より高度なテキストを読解するため、中級文法を習得する。その文法を用いて、ロシアの歴史や文化、文学作品やニュースなど、さまざまなテキストを辞書を引く訳せるようになる。また、リスニングや、テキストをきれいな発音で速く音読できること、ロシア語の実践会話、和訳や露訳など、「聴く、読む、話す、書く」の総合的な語学力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業では、まずは10月に開催されるロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指し、基礎文法の復習と習得を完成させます。過去問や対策問題を解いていきます。また、速く美しい発音でのリーディング練習、CDやDVD（映画、ニュース等）などでロシア語をリスニングしていきます。皆さんの理解度に合わせてテキストを用意します。世界最高峰のロシア文学なども、一緒に読み解いていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎文法の復習	教科書での基礎文法の復習。格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
2	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形、命令形）、比較級
3	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）、数詞（数詞と名詞の結合）
4	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	露文和訳、和文露訳、リスニング練習
5	中級文法（副動詞）	中級文法の学習と練習問題（副動詞）、テキスト読解
6	中級文法（能動形動詞）	中級文法の学習と練習問題（能動形動詞）、テキスト読解
7	中級文法（被動形動詞）	中級文法の学習と練習問題（被動形動詞）、テキスト読解
8	ニュースのリスニングと和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
9	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアの民話や歴史など）、ロシア語作文
10	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解とロシア語作文（日本紹介や手紙など）
11	テキスト読解とその映像資料のリスニング1	テキスト読解（ロシア文学作品；チェーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
12	テキスト読解とその映像資料のリスニング2	（ロシア文学作品；ドストエフスキー）、映像資料（映画）のリスニング
13	テキスト読解とその映像資料のリスニング3	テキスト読解（ロシア文学作品；トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を済ませ、授業に臨む。・副動詞と形動詞の練習問題を解く。・NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。

【テキスト（教科書）】

・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013年

・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620
 ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい）
 ・その他のテキストとして、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の60%となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を40%とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格というひとつの目標ができたことが良かったという感想がありました。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の展開により変更があり得ます。

10月か翌年5月のロシア語能力検定試験4級か3級いずれかを受験してください。

【Outline and objectives】

You will review, order, and master the basic Russian grammar you have already learned and aim to acquire the ability to pass the Russian language proficiency test at levels 3 and 4. To understand more advanced texts, you will master intermediate grammar. By fostering your listening and reading skills, you will acquire ordinary conversational ability that can be used to actually introduce yourself, etc. You will deepen your knowledge of Russian using audiovisual teaching materials such as movies and DVDs of Russian history, culture, and news.

ARSA200LA

ロシア語の世界 L A

2017年度以降入学者

ARSA200LA

ロシア語の世界 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーラシア大陸の中央から北方部分を網羅する広大なロシア語圏諸国の歴史・政治・文化（文学・芸術等）を、テーマ別に講義していきます。私たちが生きる現代史において、隣国ロシア本国はもちろん、旧ソ連に属したロシア語圏諸国が果たす重要な役割と意義を理解します。また、ロシア文化の日本との関係や交流に関する知識を得ます。芸術の宝庫であるロシアにもぜひ触れて頂きたいと思います。アニメーションなどのサブカルチャーも紹介していきます。ロシア語履修経験が無くても受講できます。ただし、授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【到達目標】

ロシア語圏諸国の歴史・政治と文化（文学・芸術等）についての知識を得ること。ヨーロッパや日本におけるロシア文化の影響や交流にも関心をもち、自身で掘り下げたテーマでレポートを完成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回トピックを決め、ビデオやDVD、画集等視聴覚教材を取り入れた講義を行います。ロシア語圏の歴史や文化をひも解いていきます。また事前にレポートの課題を用意。春学期末完成を目指して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	世界の中のロシア語圏。国と文化。	BRICsのひとつロシアはもとより、旧ソ連の国々（中央アジア5カ国、南カフカス3カ国、ウクライナ、ベラルーシ等）の国と文化・風俗の概要。後者の国々はODAにも関係します。
2	チェルノブイリの遺産	1986年に起こったチェルノブイリ原発事故。当時史上最悪であり、ソ連崩壊の原因のひとつであった事故を概観。
3	ベレストロイカ（再構築、改革）と東欧革命	ベレストロイカから1989年の東欧革命までを映像も交えながら振り返ります。「鉄のカーテン」「ベルリンの壁」を壊した自由を求めた民主化の戦いを20年後の今再考します。
4	現代ロシアとサブカルチャー	現代ロシアを身近で感じて頂く為に、日本と関係の深いサブカルチャーを紹介。宮崎駿に影響を与えたアニメーションを始め、ノルシュテインやベトロフなど、ロシアのメンタリティーを考察。
5	ロシアと芸術（美術編）	ロシア正教のイコンから、エルミタージュ美術館、アバンギャルドまでを鑑賞しながら、ロシア人の美意識を考察します。
6	『坂の上の雲』から	明治期の近代日本とロシア、とりわけ日露戦争を司馬遼太郎『坂の上の雲』などから再考察します。
7	ロシア語とビジネス	日ソおよび日露の経済交流史を概観します。BRICsの一員であり、エネルギー大国であるロシア、日本の隣極東の様子や、北方領土の事情まで映像を交えながら概観。
8	幕末日本とロシア	漂流民であった大黒屋光太夫を中心に、近代日本の夜明けを開いた幕末日露交渉を紐解きます。井上靖『おろしや国酔夢譚』の映画の一部鑑賞。

9	ロシアと芸術（舞台・音楽編）	バレエ、オペラやオペレッタ、ラフマニノフにいたるまでのロシア芸術を概観。サーカスや新体操の分野でも、ロシア語圏が世界的に優勢であり、その背景を考察。
10	エルミタージュ美術館	ロシアの美術館とその歴史および所蔵品の紹介。世界三大美術館のエルミタージュ以外にも、トレチャコフ美術館など。
11	詩人と革命。自由への戦い	詩の国であるロシアを学ぶ。言霊として詩が人々を動かし、体制を揺さぶった史実を概観。19世紀プーシキンから20世紀エッセニン、ヴァイツキー等、自由を詠った詩人を取り上げます。国民詩人として今も人気のあるプーシキンの死の世界を考察。
12	国民詩人プーシキンの世界	旧ソ連の国々（中央アジア5カ国、北オセチアやアゼルバイジャン等）の国と文化・歴史の概観。
13	ロシア語圏の中のイスラム	世界最大の面積をもつ森林の国ロシア。その自然環境と生活の調和と共存を実現させてきたロシア人の暮らしと風俗を概観。家庭菜園を持つ郊外の家や食事等の紹介。
14	ロシアとエコロジー	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシアおよびロシア語圏諸国の文化や歴史に関する文献を読む。その中で自身の興味あるテーマについて調べる。講義で扱ったテーマの中からひとつを選び、レポートを準備して下さい。

【テキスト（教科書）】

授業で参考文献を紹介し、適時テキストとなるプリントを配布します。DVDやビデオ等の視聴覚教材も使います。

【参考書】

『ロシア史』（山川出版社）
『ロシア・ソ連を知る事典』（平凡社）
ゴルバチョフ.M.S『ペレストロイカ』（講談社）

【成績評価の方法と基準】

試験の1ヵ月前に授業内容に沿った課題を提出します。課題からテーマを選び、レポートを準備して下さい。また、授業への参加度や授業中の取り組み姿勢（平常点）からも総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

予備知識を得られる資料の紹介

【Outline and objectives】

You will look at the vast Russian-speaking countries that cover the northern part of the Eurasian continent, mainly in terms of cultural aspects and historical themes. In the context of the modern times in which we live, you will come to understand the role and meaning of Russian-speaking countries belonging to the former Soviet Union, including the neighboring Russia. In addition, you will obtain knowledge about cultural relations and exchanges between Japan and Russia as a treasure trove of art. Note that course schedule is subject to change based on class progress.

ARSa200LA

ロシア語の世界ⅠB

2017年度以降入学者

ARSa200LA

ロシア語の世界Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

法文営国環キ1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの文化現象と影響を世界の中で考えていきます。亡命ロシア人文化を含め、世界の中の多様なロシア語圏（芸術と文化やスポーツの国であるロシア、スラブ諸国、イスラム圏の中央アジア及びカフカス地域）を学びます。また、19世紀から20世紀までのロシアの文学、美術、舞台、音楽、バレエ等の芸術は、日本にも多くの影響を及ぼしました。その歴史と政治も日本に深く関わっています。比較文化的な視点でロシア語圏の世界を考えていきます。ロシア語履修経験が無くても受講できます。ただし、授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【到達目標】

ロシア語圏諸国の歴史・政治と文化（文学・芸術等）についての知識を得ること。ヨーロッパや日本におけるロシア文化の影響や交流にも関心をもち、自身で掘り下げたテーマでレポートを完成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、配布テキストをもとに、さまざまな視聴覚教材を使い理解を深めます。ロシア語圏・ロシア文化の交流を世界史・日本史の中で捉えていきましょう。個人が、レポートの学期末完成を目指し準備を進めて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロマノフ王朝と最後の皇帝	1917年のロシア革命により終焉した約400年続いたロマノフ王朝。王朝の文化と歴史、そして最後の皇帝とその一族の悲劇、革命後のソ連を概観。
2	ロシアのフェミニズム	女性解放が実現されたとするソ連時代に、フェミニズム運動が地下活動にならざるを得なかった史実および女性のコミュニティの社会的意義を考察。
3	亡命と芸術	ソ連時代の反体制亡命芸術家（音楽家ラフマニノフやロストロポーヴィチ、映画監督タルコフスキー、『ロリータ』の作者ナボコフ等）の芸術や言論の自由を求めた闘いを概観。
4	シャガールの人と芸術	ペラルーシ出身のユダヤ系画家シャガールの生涯と芸術を概観。作品を鑑賞しながら、その芸術論を考察。
5	ロシアの森。神話と昔話1	ロシアはスラヴ文化圏に属し、東・中欧諸国と共通した神話、伝承を共有。ロシアの起源とアニミズム、昔話や寓話、スラヴ発祥の吸血鬼と人狼伝説について概説。
6	ロシアの森。神話と昔話2	ロシアの神話と昔話を具体的なテキストに沿って学ぶ。トルストイやゴーゴリの再話など。
7	ソ連邦崩壊と新生ロシア	ソビエト連邦崩壊を、政権内部から概観します。1991年の8月クーデターの資料と映像を中心に、冷戦を終結させたゴルバチョフの再評価を試みます。
8	チェーホフと近代日本演劇	明治日本の新劇運動の黎明期に影響を与え、その後も上演され続けているチェーホフ作品の世界を分析。中短編を読み、映像でもその芸術空間に触れます。
9	ドストエフスキーと日本	黒澤明から大江健三郎、村上春樹までの日本の多くの文学者らに深い影響を与えているドストエフスキーの世界を紐解きます。事前に作品を読んで臨んで下さい。

10	ロシアと宇宙	冷戦時代から現代までのロシアの宇宙開発の歴史を概観。「地球は青かった」の宇宙飛行士ガガーリンらの功績、思想としてのロシア・コスミズムなどを考察。
11	チャイコフスキーの芸術	バレエ音楽や協奏曲、交響曲で日本に愛好者の多いチャイコフスキーの生涯と音楽について概説。バレエ『白鳥の湖』やオペラ『イオランタ』『オネーギン』などの映像も鑑賞。
12	カフカス山脈地方とロシア	『カフカス（コーカサス）の虜』の題名で、プーシキン、レーモントフ、トルストイが作品を描いている。同名映画も参照し、19世紀ロシア文学における異郷の地カフカスの意味を考察。
13	トルストイ『戦争と平和』	トルストイの大作『戦争と平和』を通じ、トルストイの思想を考察。ナポレオンとの戦争を通じての主人公の価値観の変遷、生命論と作家のその後の非暴力思想への傾倒を考察。
14	ロシアとポーランド	19世紀ロシアからの祖国ポーランドの解放を謳ったショパン、第二次世界大戦中のカティンの森事件などを再考。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシアおよびロシア語圏諸国の文化や歴史に関する文献を読む。その中で自身の興味あるテーマについて調べる。講義で扱ったテーマの中からひとつを選び、レポートを準備して下さい。

【テキスト（教科書）】

授業で参考文献を紹介し、適時テキストとなるプリントを配布します。DVDやビデオ等の視聴覚教材も使います。

【参考書】

エリザベス ワーナー著『ロシアの神話』（丸善）
沼野 充義著『徹夜の魂 亡命文学論』（作品社）
セミョーンヴァ.S 著『ロシアの宇宙精神』（せりか書房）
ドストエフスキー、トルストイ、チャーホフの作品

【成績評価の方法と基準】

試験の1ヵ月前に授業内容に沿った課題を提出します。課題からテーマを選び、レポートを準備して下さい。また、授業中の取り組み姿勢（平常点）からも総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア芸術に触れる機会を紹介したいと思います。

【Outline and objectives】

This course will explore Russian cultural phenomena and the country's influence in the world. You will learn about diverse Russian-speaking spheres (Russia, Slavic countries, Islamic-Central Asia, and the Caucasus region, which are countries of art, culture, and sports), including exiled Russian culture. Also, arts such as Russian literature, art, stage plays, music, and ballet from the nineteenth to the twentieth centuries have had many influences on Japan. Russia's history and politics are deeply involved with Japan's. Note that the course plans may change by the degree of progress of classes.

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017年度以降入学者

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文営国環キ 2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。SA ロシアに向かう予定の2年生は事前学習の一環として、必ず履修してください。

ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でバワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに基づき、映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴覚資料を多数用いて解説していきます。言うまでもなく隣国ロシアの問題であり、かつ世界のグローバル化が進行する今日、私たちにとてもアクチュアルな問題である、という想像力と好奇心をもって授業に臨んでください。授業の最後には、毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートをみなさんに提出してもらい、次回の授業に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワードなどを通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルク。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。
第4回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は再び絶大なものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。
第5回	ロシア・バレエの世界1	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。
第6回	ロシア・バレエの世界2	前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。

第7回	ロシアの音楽：グリーンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリーンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、国際的に活躍する現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第8回	ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。
第9回	ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第10回	ロシア文学：イーゴリ軍記から19世紀前半	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。
第11回	ロシア文学：19世紀半ば～（ゴーゴリ）、ドストエフスキー	ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。
第12回	ロシア文学：19世紀後半～20世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）	トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。
第13回	ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツイン、プロツキー、ベレーヴィン）／日本文学との影響関係	亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第14回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べる。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーの活用を勧めます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場でプリントを配付します。

【参考書】

参考文献については教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レヴューシート（50%）、期末レポート（50%）の基準により判断します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots, Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

ARSa200LA

ロシアの文化と社会 II

2016年度以前入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくこととなりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収していただきたいと思います。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレヴューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期同様、毎回のテーマに基づき、映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴覚資料を用いて解説していきます。授業の最後に、毎回、意見や疑問点をまとめたレヴューシートを提出してもらい、次回の授業に活かしていくのも春学期と同じですが、すでに獲得したロシア情報に基づいた、あるいは、日本を含む他国との比較をまじえた、一歩踏み込んだ意見を望みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ロシアの歴史1：キエフルシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルシ、タタールの軛、イワン雷帝の治世について。
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ大帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ベレストロイカ、チェリノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。
第7回	ソ連映画2	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。
第8回	ソ連映画3	反体制の烙印を押された監督（タルコフスキー、パラジャーノフ、イオセリアーニら）の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ベレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
第9回	ロシア映画4	検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び諷き上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
第10回	ロシア映画5	前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。

第 11 回	ロシア美術 1	アイコン（聖像画）の機能について、移動展派の営み、パトロンの役割について。
第 12 回	ロシア美術 2	マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。カバコフ、コマール&メラミッドら現代アートについて紹介。
第 13 回	ロシア・アニメ 1	黎明期からプロバガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。
第 14 回	ロシア・アニメ 2	アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べる。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AV ライブラリーの活用を勧めます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場でプリントを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レビューシート（50％）、期末レポート（50％）の基準により判断します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

LANe200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法 2 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語 1、中国語 2 を一通り終えた学生を対象にする授業です。使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた 2 年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語 1 と中国語 2 の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、しっかり読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をもちます。また、三回目の授業から、毎回授業の最初の 5 分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介します。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 1 課 三大産業の区分	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 2 課 銀行サービスのご案内	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 3 課 不動産業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 4 課 会社概要	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 5 課 パソコンの新製品	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	第 6 課 取締役会の議事録	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
8 回目	第 7 課 生産部門	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
9 回目	第 8 課 ソーシャルサイト	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
10 回目	第 9 課 物流業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
11 回目	第 10 課 投資方法の紹介	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
12 回目	復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。
13 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。

14 回目 授業内試験 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、私語または携帯の辞書以外の使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2016年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法2年G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語3Ⅰの続きの授業です。

中国語1、中国語2を一通り終えた学生を対象にする授業です。

使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた2年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語1と中国語2の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。

教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。

授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の5分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介する。 ②自己紹介を練習する。
2回目	第11課 経営管理の課題	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3回目	第12課 環境/リサイクル	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4回目	第13課 労働契約の締結	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5回目	第14課 アフターサービスの方針	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6回目	第15課 経理と財務	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7回目	総合復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
8回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
9回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
10回目	中国語検定試験4級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
11回目	中国語検定試験4級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
12回目	中国語検定試験3級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
13回目	中国語検定試験3級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
14回目	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語と中国語学習以外の携帯使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3 I

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3 I

2016年度以前入学者

余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法 2 年 H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

準中級レベルの中国語の授業です。教材の内容は、中国と日本の文化や社会の違いをテーマにした長文で構成されています。教材を学習し、一年次で勉強した基礎中国語文法をかため、さらに複文を含む30の新しい文型と300個の新しい単語を学習します。

【到達目標】

1年で学んだ中国語の基礎を踏まえ、読む、書く、聞く、話す力を伸ばすことを目標にします。具体的には、日常生活にまつわる簡単な会話ができる、また200～300文字の文章が読めるように目指します。一方、教材の内容は、中国と日本の文化、慣習、生活などの違いをテーマにしていますので、中日両国の理解への促進も目標の一つとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に演習の形式で、本文、単語、文法の説明と練習問題から構成されているテキストに沿って進行します。本文の内容を理解するために、DVDや音楽の鑑賞など、また、グループディスカッションや、プレゼンテーションによって、内容の理解を一層深めたいです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課	本文：「鬼」のイメージについて 文法：複文「既～又～」 複文「除了～以外、 <input type="checkbox"/> ～」 練習問題
2	第1課	
3	第2課	本文：歌手や芸能人の学歴について 文法：複文「～是因 <input type="checkbox"/> ～」 複文「只有～才～」 複文「即使～也～」 練習問題
4	第2課	
5	第3課	本文：美意識について 文法：前置詞「 <input type="checkbox"/> 和～有关」前置詞「按照～」 複文「因 <input type="checkbox"/> ～所以～」 複文「但是～」 練習問題
6	第3課	
7	プレゼンテーション予備時間	学生が発表する
8	第4課	本文：友人に求めることについて 文法：前置詞「在～看来」前置詞「从～来 <input type="checkbox"/> 」連体修飾語「～的 <input type="checkbox"/> 候」 複文「是～而不是～」 練習問題
9	第4課	
10	第5課	本文：親子の関係について 文法：複文「不 <input type="checkbox"/> ～也/都～」 練習問題
11	第5課	
12	第6課	本文：大学生のアルバイトについて 文法：副詞「 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 」 複文「只要～就～」 複文「与其～不如～」 動詞「 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> /得/感到/想」 練習問題
13	第6課	
14	期末テスト	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CDを必ず聞きこと。授業の後に必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】

『日中異文化の出会い』三修社 中桐典子・余瀾・芳沢ひろこ・黄曉惠著

【参考書】

『ポイント学習中国語初級【新装版】』（東方書店）

ほかは授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業中行う小テストあるいは発表、などは50点で、期末テストは50点です。成績は100点満点とし、60点以上が合格となります。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲とテスト問題のずれがありました。教師の出題ミスです。今度の授業で改正します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法 2 年 H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

準中級レベルの中国語の授業です。教材の内容は、中国と日本の文化や社会の違いをテーマにした長文で構成されています。教材を学習し、一年次で勉強した基礎中国語文法をかため、さらに複文を含む30の文型と300個の新しい単語を学習します。

【到達目標】

1年で学んだ中国語の基礎を踏まえ、読む、書く、聞く、話す力を伸ばすことを目標にします。具体的には、日常生活にまつわる簡単な会話ができる、また200～300文字の文章が読めるように目指します。一方、教材の内容は、中国と日本の文化、慣習、生活などの違いをテーマにしていますので、中日両国の理解への促進も目標の一つとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に演習の形式で、本文、単語、文法の説明と練習問題から構成されているテキストに沿って進行します。本文の内容を理解するために、DVDや音楽の鑑賞など、また、グループディスカッションや、プレゼンテーションによって、内容をの理解を一層深めたいです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第7課	本文：ご馳走をするときさされるとき 文法：複文「 <input type="checkbox"/> ～都～」複文「 <input type="checkbox"/> 如果/要是～的 <input type="checkbox"/> 、就～」複文「 <input type="checkbox"/> 虽然～、但是～」方向補語の派生義
2	第7課	練習問題
3	第8課	本文：家に中を全部見せる中国人 文法：複文「 <input type="checkbox"/> 先～然后再～」
4	第8課	練習問題
5	第9課	本文：色のいろいろ 文法：複文「 <input type="checkbox"/> ～、要不然～」複文「 <input type="checkbox"/> 不是～、而是～」 「 <input type="checkbox"/> 一定会～的」
6	第9課	練習問題
7	プレゼンテーション予備時間	学生が発表
8	第10課	本文：席は譲るべきなのか 文法：副詞「 <input type="checkbox"/> 就」と「 <input type="checkbox"/> 才」複文「 <input type="checkbox"/> 不但～而且～」
9	第10課	練習問題
10	第11課	本文：七夕は八月の行事 文法：「 <input type="checkbox"/> 相当子」「 <input type="checkbox"/> 来」接続詞「 <input type="checkbox"/> 以」の用法
11	第11課	練習問題
12	第12課	本文：結婚式について 文法：複文「 <input type="checkbox"/> 一 <input type="checkbox"/> ～一 <input type="checkbox"/> ～」複文「 <input type="checkbox"/> 越～越～」複文「 <input type="checkbox"/> 一点～都没有」
13	第12課	練習問題
14	期末テスト	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CDを必ず聞きこと。授業の後に必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】

『日中異文化の出会い』三修社 中桐典子・余瀾・芳沢ひろ子・黄曉惠著

【参考書】

『ポイント学習中国語初級【新装版】』（東方書店）

ほかは授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業中行う小テストあるいは発表、などは50点で、期末テストは50点です。成績は100点満点とし、60点以上が合格となります。欠席と遅刻をすると小テストができませので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲とテスト問題のずれがありました。教師の出題ミスです。今度の授業で改正します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法 2 年 1・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	招く	動作の進行形
3 回目	婉曲に断る	1、連用修飾語としての期間を表す名詞 2、動態助詞【了】
4 回目	お詫び	1、結果補語としての形容詞【好】 2、副詞【就】、【才】など
5 回目	残念	1、兼語文 2、【是不是】を用いる反復疑問文
6 回目	称賛	1、文型【又～又～】 2、複文【要是～就～】
7 回目	祝賀	1、結果補語としての【開】、【下】 2、可能補語としての【了】
8 回目	忠告	存現文など
9 回目	比較	1、比較文 2、数量補語
10 回目	趣味	時量補語（1）など
11 回目	言葉	時量補語（2）など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】

「中国語学習ハンドブック」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法 2 年 I・J**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	旅行 (1)	1、方向補語 (3) 2、反語文
3 回目	旅行 (2)	1、動作の持続 2、結果補語としての【見】
4 回目	旅行 (3)	1、形容詞の重ね型 2、可能補語 (2)
5 回目	診察を受ける	1、【把】文 (1) 2、【一～就～】
6 回目	見舞い	受動文
7 回目	お別れの挨拶	1、時量補語 (3) 2、【有的～、有的～】
8 回目	送別会	1、複文【雖然～但是～】 2、【把】文 (2)
9 回目	託送	1、複文【不但～而且～】 2、可能補語としての【動】
10 回目	送別 (1)	1、動作の持続と進行 2、【不如】を用いる比較文
11 回目	送別 (2)	1、【把】文 (3) 2、慣用句【～了～就～】
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』(下) 語文研究社、1365 円。

【参考書】

『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (40%)、発音試験 (30%)、平常点 (30%)、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

靳 耀勳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 2 年 K**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国語の基礎を学んだ学生を対象に、習った基礎事項を発展的に学習する。

【到達目標】

反復練習を通じた実用的な会話力の増進、文法知識の発展とともに、文章を読む基礎的な力も養いたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課の新出単語をきれいに発音でき、文法を理解して読解を進めて行く、練習問題を解いて、着実に力をつけていけるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第〇課	一年次の文法の復習
2 回	第一課	ポイントの説明と本文と会話文への読解
3 回	第一課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
4 回	第二課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
5 回	第二課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
6 回	第三課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
7 回	第三課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
8 回	復習	三課までの復習及び練習
9 回	第四課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
10 回	第四課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
11 回	第五課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
12 回	第五課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
13 回	第六課	ポイントの説明と本文の読解。
14 回	総復習	総復習・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習、予習するよう。

【テキスト（教科書）】

『学ぶ中国語』初中級編 王亜新 劉素英 朝日出版社 2016 年 2200 円

【参考書】

必要に応じて指導する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、宿題の完成度、および小テストなど (50 点)、期末試験 (50 点) により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりと読解できて、きれいに発音できることを目標にした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

靳 耀勳開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 2 年 K**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国語の基礎を学んだ学生を対象に、習った基礎事項を発展的に学習する。

【到達目標】

反復練習を通じて実用的な会話力の増進、文法知識の発展とともに、文章を読む基礎的な力も養いたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課の新出単語をきれいに発音でき、文法を理解して読解を進めて行く、練習問題を解いて、着実に力をつけていけるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回	第六課	本文と会話の内容についての練習と練習問題への解答
2 回	第七課	新出単語の読みとポイントを学習後、本文と会話への読解。
3 回	第七課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
4 回	第八課	新出単語の読みとポイントを学習後、本文と会話への読解。
5 回	第八課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
6 回	第九課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文と会話文への読解。
7 回	第九課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
8 回	復習	9 課までの復習と練習など
9 回	第十課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文のと会話への読解。
10 回	第十課	本文の読解の続きと読みの訓練。練習問題の解答。
11 回	第十一課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文と会話への読解。
12 回	第十一課	読みのチェック、本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
13 回	第十二課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文と会話への読解。
14 回	総復習	総復習・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習・予習してくる。

【テキスト（教科書）】

『学ぶ中国語』（朝日出版社）初中級編 王亜新 劉素英

【参考書】

必要に応じて指導する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、宿題の完成度、および小テストなど（40点）、期末試験（60点）により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりと読解でき、きれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

福木 滋久開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 2 年 L**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

一年次における発音・ピンインのシステムと基本的な文法・語彙を修得した者が、中級レベルの講読文を通して中国の「現在」を理解していく。また、初級中国語の基礎をベースに、それらの復習を行いつつ、より高度な文法とより多くの語彙を覚えることによって、中級レベルの語学力を身につけていく。

【到達目標】

学生の、中国語運用におけるの四技能、「1. 聞く」「2. 話す」「3. 書く」「4. 読む」、それぞれのブラッシュアップをはかるが、特に「3. 書く」「4. 読む」能力の向上に重点を置く。「1. 聞く」「2. 話す」については、一年時の復習と到達確認が中心。「1. 聞く」は、初級レベルの平易な短文を聞き取ることができるようになっていくか、「2. 話す」は、基本的な言い回しを正しい発音で表現できるようになっているかを確認し、なっていない場合は身につけていく。「3. 書く」については、より高度な単語・慣用表現を用いた文章を覚えて作文できるようにすることを目指し、「4. 読む」については、中級レベルの講読文を読解できるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書と補助教材によって進め、事前事後学習を必須とする。教科書は現代中国を話題とした中級レベルの講読教材であり、第1～8課から成るが、春学期においては第1・第2・第4課のみを学び、おおむね3回の授業で1課を学ぶペースで進める。毎時限は、前半に自宅学習の確認・小テスト・基礎の復習を行い、後半で新しい文法・語彙を解説して講読文の読解に取り組んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと基礎の確認	授業・評価方法等の説明と中国語学習における基礎の確認。春学期期末口頭試験課題文の第1・第2例文他
第2回	教科書第1課前半及び課題文第3・4例文他	期末口頭試験課題文第1・2例文等の小テスト実施後、教科書第1課前半を学び、次回小テストの例文を確認
第3回	教科書第1課後半及び課題文第5・6例文他	期末口頭試験課題文第3・4例文等の小テスト実施後、教科書第1課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第4回	教科書第1課総合及び課題文第7・8例文他	期末口頭試験課題文第5・6例文等の小テスト実施後、教科書第1課をまとめ、次回小テストの例文を確認
第5回	教科書第2課前半及び課題文第9・10例文他	期末口頭試験課題文第7・8例文等の小テスト実施後、教科書第2課前半を学び、次回小テストの例文を確認
第6回	教科書第2課後半及び課題文第11・12例文他	期末口頭試験課題文第9・10例文等の小テスト実施後、教科書第2課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第7回	教科書第2課総合及び課題文第13・14例文他	期末口頭試験課題文第11・12例文等の小テスト実施後、教科書第2課をまとめ、次回小テストの例文を確認
第8回	映像教材	テキストからはなれた中国語映像教材による学修
第9回	教科書第4課前半及び課題文第15・16例文他	期末口頭試験課題文第13・14例文等の小テスト実施後、教科書第4課前半を学び、次回小テストの例文を確認
第10回	教科書第4課後半及び課題文前半の復習	期末口頭試験課題文第15・16例文等の小テスト実施後、教科書第4課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第11回	教科書第4課総合及び課題文後半の復習	期末口頭試験課題文第15・16例文等の小テスト実施後、教科書第4課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第12回	春学期の復習あるいは予備日	期末口頭試験課題文の練習に続いて、教科書第1・2・4課をまとめ、次回小テストの例文を確認
第13回	口頭試験	春学期に到達確認した部分の期末口頭試験

第14回 筆記試験

春学期に学んだ部分の期末筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間小テストを行うので自宅学習は必須である。小テストは、期末口頭試験対策と期末筆記試験対策につながる。期末筆記試験対策の事前学習としては、次の授業で、あらかじめ指示された「学習ポイント」の重要短文を時間内に数回書いてもらうので、事前に訳し、書く練習をしておく。また本文については授業内で扱う単語について辞書で調べるなどして理解を深めておくこと。事後学習としては、本文の訳の確認はもちろん、授業内で学習した「学習ポイント」の重要短文について復習、繰り返し口頭で発音したり書いたりして覚えてほしい。口頭試験対策としては、毎回、事前に指定された期末口頭試験課題文の短文を、正確に聞き取れ、正しい音で発音できるように覚えてもらう。この部分については、学修サポートを目的として、インターネットサイト Quizlet に「法政大学中国語3法L 2019」というクラスを作成し、適宜補助教材を提供していくこととする。本サイトは法政大学とは無関係で、科目担当者が個人的に民間サイト Quizlet に加入し、教材を公開するものである。希望者はこちらを活用するとよい。Quizlet 利用には無料のユーザー登録が必要である。まずは「参考書」に記した URL にアクセスし、Quizlet のコンセプトを理解した上で取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

「知ってる？ 今の中国 ダイジェスト版」 山下輝彦・路元 著 朝日出版社刊

【参考書】

「ポイント学習中国語初級改訂版」 東方書店

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視する。毎回行う小テストの結果を成績に反映させ、授業に取り組む姿勢などの平常点、期末口頭試験、期末筆記試験の結果を総合的に評価する。評価の割合は、平常点が 25 %、小テストが 25 %、期末口頭試験が 25 %、期末筆記試験が 25 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストと期末の口頭試験は大変かと思われるが、最終的には一定の学習効果が得られるので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようだ。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用する web 教材 Quizlet「法政大学中国語3法L 2019」で公開する補助教材（以下の URL へアクセス <https://quizlet.com/join/PztNHAv4J>）は、スマートフォンやネットに接続された自宅の PC、学内の PC での学習が可能。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けがないが、質問などについては、その都度個別に時間をとり、教室内もしくは会議室などで対応する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 2 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次における発音・ピンインのシステムと基本的な文法・語彙、そして秋学期の学修内容を修得した者が、中級レベルの講読文を通して中国の「現在」を理解していく。また、初級中国語の基礎をベースに、それらの復習を行いつつ、より高度な文法とより多くの語彙を覚えることによって、中級レベルの語学力を身につけていく。

【到達目標】

受講者一人一人の日々の学修・練習によって、中国語運用におけるの四技能、「1. 聞く」「2. 話す」「3. 書く」「4. 読む」、それぞれのブラッシュアップをはかるが、特に「3. 書く」「4. 読む」能力の向上に重点を置く。「1. 聞く」「2. 話す」については、一年時の復習と到達確認が中心。「1. 聞く」は、初級レベルの平易な短文を聞き取ることができるようになってきているか、「2. 話す」は、基本的な言い回しを正しい発音で表現できるようになっているかを確認し、なっていない場合は身につけていく。「3. 書く」については、より高度な単語・慣用表現を用いた文章を覚えて作文できるようになることを目指し、「4. 読む」については、中級レベルの講読文を読解できるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書と補助教材によって進め、受講者の事前・事後学修を必須とする。教科書は現代中国を話題とした中級レベルの講読教材であり、第1～8課から成るが、秋学期においては第5・第6・第7課のみを学び、おおむね3回の授業で1課を学ぶペースで進める。毎時限は、前半に自宅学修の確認、小テスト、基礎の復習を行い、後半で新しい文法・語彙を解説して講読文の読解に取り組んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと基礎の確認・期末口頭試験課題文の第1・第2例文他	授業・評価方法等の説明と前期学習内容の確認。秋学期期末口頭試験課題文の配付
第2回	教科書第5課前半及び課題文第3・4例文他	期末口頭試験課題文第1・2例文等の小テスト実施後、教科書第5課前半を学び、次回小テストの例文を確認
第3回	教科書第5課後半及び課題文第5・6例文他	期末口頭試験課題文第3・4例文等の小テスト実施後、教科書第5課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第4回	教科書第5課総合及び課題文第7・8例文他	期末口頭試験課題文第5・6例文等の小テスト実施後、教科書第5課をまとめ、次回小テストの例文を確認
第5回	教科書第6課前半及び課題文第9・10例文他	期末口頭試験課題文第7・8例文等の小テスト実施後、教科書第6課前半を学び、次回小テストの例文を確認
第6回	第6回 教科書第6課後半及び課題文第11・12例文他	期末口頭試験課題文第9・10例文等の小テスト実施後、教科書第6課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第7回	教科書第6課総合及び課題文第13・14例文他	期末口頭試験課題文第11・12例文等の小テスト実施後、教科書第6課をまとめ、次回小テストの例文を確認
第8回	映像教材	テキストからはなれた中国語映像教材による学修
第9回	教科書第7課前半及び課題文第15・16例文他	期末口頭試験課題文第13・14例文等の小テスト実施後、教科書第7課前半を学び、次回小テストの例文を確認
第10回	教科書第7課後半及び課題文前半の復習	期末口頭試験課題文第15・16例文等の小テスト実施後、教科書第7課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第11回	教科書第7課総合及び課題文後半の復習	期末口頭試験課題文第15・16例文等の小テスト実施後、教科書第7課後半を学び、次回小テストの例文を確認
第12回	秋学期の復習あるいは予備日	期末口頭試験課題文の練習に続いて、教科書第5・6・7課をまとめ、次回小テストの例文を確認

- 第 13 回 筆記試験 秋学期に到達確認した部分の期末筆記試験
 第 14 回 口頭試験 秋学期に学んだ部分の期末口頭試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間小テストを行うので自宅学習は必須である。小テストは、期末口頭試験対策と期末筆記試験対策につながる。期末筆記試験対策の事前学習としては、次の授業で、あらかじめ指示された「学習ポイント」の重要短文を時間内に数回書いてもらうので、事前に訳し、書く練習をしておく。また本文については授業内で扱う単語について辞書で調べるなどして理解を深めておくこと。事後学習としては、本文の訳の確認はもちろん、授業内で学習した「学習ポイント」の重要短文について復習、繰り返し口頭で発音したり書いたりして覚えてほしい。口頭試験対策としては、毎回、事前に指定された期末口頭試験課題文の短文を、正確に聴き取れ、正しい音で発音できるよう覚えてもらう。この部分については、学修サポートを目的として、インターネットサイト Quizlet に「法政市ヶ谷中国語3法L 2019」というクラスを作成し、適宜補助教材を提供していくこととする。本サイトは法政大学とは無関係で、科目担当者が個人的に民間サイト Quizlet に加入し、教材を公開するものである。希望者はこちらを活用するとよい。Quizlet 利用には無料のユーザー登録が必要である。まずは「参考書」に記した URL にアクセスし、Quizlet のコンセプトを理解した上で取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『知ってる？ 今の中国 ダイジェスト版』 山下輝彦・路元 著 朝日出版社刊

【参考書】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視する。毎回行う小テストの結果を成績に反映させ、授業に取り組む姿勢などの平常点、期末口頭試験、期末筆記試験の結果を総合的に評価する。評価の割合は、平常点が 25 %、小テストが 25 %、期末口頭試験が 25 %、期末筆記試験が 25 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストと期末の口頭試験は大変かと思われるが、最終的には一定の学習効果が得られるので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようだ。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用する web 教材 Quizlet「法政市ヶ谷中国語3法L 2019」で公開する補助教材（以下の URL へアクセス <https://quizlet.com/join/PztNHAv4J>）は、スマートフォンやネットに接続された自宅の PC、学内の PC での学習が可能。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問などについては、その都度個別に時間をとり、教室内もしくは会議室などで対応する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

廣野 行雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 法 2 年 U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次の学習にもとづいて中国語の文章を読解する力を養う。言語としての中国語の特色を知り、中国語の文献を読みこなすことによって中国への理解を深める。

【到達目標】

語形変化がなく、語幹部分の並列を基本構造とする中国語文における語順（語の分布）のもつ意味を理解し、一つ一つの語の品詞や文法成分を理解した上で日本語に訳せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

あらかじめ受講者一人一人に担当部分を割り当てておき、各自の十分な予習にもとづき、訳文の発表と担当教員からの質問に答える形で文法的な内容把握の確認をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	到達目標や方法を周知徹底する。
第 2 回	第 1 課本文講読 1	判断文、存現文、叙述文
第 3 回	第 1 課本文講読 2	文法成分の確認
第 4 回	第 1 課文法ポイントとドリル	第 1 課に現れた文法事項の整理、把握確認
第 5 回	第 2 課本文講読 1	完了態と結果補語
第 6 回	第 2 課本文講読 2	使役、様態補語など
第 7 回	第 2 課文法ポイントとドリル	第 2 課に現れた文法事項の整理と把握確認
第 8 回	第 3 課本文講読	中国語における助動詞
第 9 回	第 3 課文法ポイントとドリル	第 3 課に現れた文法ポイント整理と把握確認
第 10 回	第 4 課本文講読	呼応構文その他
第 11 回	第 4 課文法ポイントとドリル	第 4 課に現れた文法事項整理と把握確認
第 12 回	第 5 課本文講読 2	可能補語、未然態など
第 13 回	第 5 課文法ポイントとドリル	第 5 課に現れた文法事項整理と把握確認
第 14 回	進捗調整日	休講などあった場合の対応、春学期全体の内容に対する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ決められた各自の担当部分について、十分な予習をする。また、ラジオやテレビの中国語講座の視聴もすすめたい。

【テキスト（教科書）】

山下輝彦・路元著「知ってる？ 今の中国」朝日出版社刊

【参考書】

たとえば小学館「中日辞典第 2 版」など、学習参考書の機能もあわせもつ中型以上の辞書を購入することを強く勧める。辞書をもつことは、学習それ自体に役立つことはいままでもないが、自分自身に学習者としての自覚・覚悟を促すという意味でも大きな意味がある。なお、紙辞書の効用には遠く及ばないが電子辞書の使用も可とする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度、予習内容）60 パーセント、期末試験 40 パーセントの割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションにおいて、講義のめざすところややり方を周知徹底する。学習効果が上がるようにするためにはどのような準備が必要なのかを理解してもらう。

【その他の重要事項】

学ぶこと、特に語学学習は、学習者の主体的な参加なしには成り立ちません。その自覚を高めるためにも、途中休憩時以外での飲食は遠慮して下さい。但し、熱中症その他の発症時には、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

廣野 行雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 2 年 U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き中国語の読解能力を養成する。そのことによって中国への理解を深める。

【到達目標】

中国語の虚詞に対する知識を深め、たとえ実詞の意味がわからなくても、文自体の組み立てが理解できるようになる。加えて、中国の文化的事象についても一定の知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期と同じく各自の担当部分を徹底的に下調べし、品詞や文法成分の理解を確認しつつ読解を進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期試験のふりかえり	春学期の講義内容の確認
第 2 回	第 6 課本文講読	譲歩条件節、経験態など
第 3 回	第 6 課文法ポイントとドリル	文法事項の整理とドリル
第 4 回	第 7 課本文講読	動量補語、方向補語など
第 5 回	第 7 課文法ポイントとドリル	持続態、存現文など。文法的事項の整理とドリル
第 6 回	第 8 課本文講読	発生の「了」、複合方向補語など。文法的要点整理。
第 7 回	第 8 課文法ポイントとドリル	結果補語「為」、助動詞「要」など
第 8 回	第 9 課本文講読	不定の語の呼応表現、可能性の助動詞「会」など
第 9 回	第 9 課文法ポイントとドリル	反問の表現、文法的要点の整理とドリル
第 10 回	第 10 課本文講読	結果補語「在」、方向補語「下」「出来」の派生用法など
第 11 回	第 10 課文法ポイントとドリル	受身の文、確定条件節など
第 12 回	第 11 課本文講読ならびに文法ポイントとドリル	文法的要点整理とドリル。
第 13 回	第 12 課本文講読ならびに文法ポイントとドリル	一年間の学習事項のまとめ
第 14 回	授業内試験	後期授業の学習達成度を測るためのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

虚詞そのものにたいする知識を獲得し、その使用法に習熟するために、意識的な予習復習をおこなう。

【テキスト（教科書）】

山下輝彦・路元著「知ってる？ 今の中国」朝日出版社刊

【参考書】

「小学館中日辞典第 2 版」など中型以上の辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度、予習の度合い）60パーセント、期末試験40パーセントで評価。

【学生の意見等からの気づき】

文法的知識の伝授のみならず中国の文化に対する興味を喚起するよう努める。

【その他の重要事項】

学ぶこと、特に語学学習の主体は学生諸君であるという自覚を高めるためにも、授業時間途中に取る休憩時間以外には、飲食を遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時はこの限りではありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 2 年 V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級～中級レベルに必要な語彙・文法・表現を総合的に習得し、中国の文化・習慣における基本知識を理解する。授業では、各課の内容を巡って、グループで会話をしたり、重要文法項目について作文をしたり、様々な練習問題をしたりすることによって、学んだ知識を確実に身につけていく。

【到達目標】

初級中国語を終えた学習者を対象に、初級中国語の内容を実際に運用できるように練習し、中級中国語の語彙、文法、構文を身につけることを目標とする。読解力のみならず、「話す」「聞く」「書く」などの能力もバランスよく訓練し、中国語総合能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わし、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	発音の復習、中国語初級文法、構文などの復習
2 回	第 1 課 自我紹介	①自己紹介に関する重要表現、言い方を学習する。 ②重要文法項目：前置詞“在、跟”などの用法、動詞の重ね型。
3 回	第 1 課 自我紹介	実践練習：自己紹介の仕方（自分の名前、故郷、家族構成、専攻、など）
4 回	第 2 課 李有很多爱好	①趣味を紹介する際に使う重要表現、言い方を学習する。 ②重要文法項目：前置詞“对”“从”の用法、助動詞“打算”の用法。
5 回	第 2 課 李有很多爱好	実践練習：様々な趣味の中国語の言い方を身につけ、自分や友人の趣味を人に紹介する。
6 回	第 3 課 大的一天	①一日の行動を述べる際の構文、表現を学ぶ。 ②重要文法項目：連動文、様態補語、時間副詞の用法。
7 回	第 3 課 大的一天	実践練習：連動文や時間副詞を用いて、自分の一日の行動を中国語で表現する。
8 回	第 4 課 芳的	①人の性格、特徴や仕事に関する言い方、表現を学習する。 ②重要文法項目：助動詞“能”の用法、方向補語、中国語の感情動詞など。
9 回	第 4 課 芳的	実践練習：中国語で自分の友人の性格、特徴などを紹介する。
10 回	第 5 課 我是去年去的	①過去の出来事を述べる際に使用する表現、構文などを学ぶ。 ②重要文法項目：“是…的”構文、因果関係の複文、中国語の離合動詞。
11 回	第 5 課 我是去年去的	実践練習：中国語の“是…的”構文の機能、使い方を正しく理解し、“是…的”構文を伝えるように練習する。

1 2 回	第 6 課 你知道“ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ” <input type="checkbox"/> ?	①情報や知識を人に伝える際に使う表現、構文を学ぶ ②重要文法項目： 前置詞、逆接接続詞の使い方、“快要…了”の使い方、助動詞“要”の用法
1 3 回	第 6 課 你知道“ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ” <input type="checkbox"/> ?	実践練習： 中国語である情報やニュースまたは知識を人に紹介する。
1 4 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1、事前に教科書を音読し、「warming up」を予習してください。
- 2、授業で補足された内容を必ずメモし、授業後整理してください。
- 3、授業後、復習を通してその日の語彙と構文を知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語読解力 UP 編』 王安・楊川・王欣・孫樹林 朝日出版
2200 円＋税

ISBN978-4-255-45215-9C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を日常的に聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 2 年 V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、中国語中級レベルに必要な語彙・文法・表現を総合的に習得し、中国の文化・習慣への理解を深める。授業では、各課の内容を巡って、グループで会話をしたり、重要文法項目について作文をしたり、様々な練習問題をしたりすることによって、学んだ知識を確実に身につけていく。

【到達目標】

初級～中級中国語を終えた学習者を対象に、これまで学んできた内容を実際に運用できるように練習し、中級中国語の語彙、文法、構文を身につけることを目標とする。読解力のみならず、「話す」「聞く」「書く」などの能力もバランスよく訓練し、中国語総合能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わり、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第 7 課	①前期復習 ②中国語の外来語 ③重要表現、文法の説明 実践練習：
2 回	第 7 課	中国語の外来語や日中両言語の表記体系、外来語の相違を紹介する。
3 回	第 8 課	①中国の大学や大学生の生活に関する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明
4 回	第 8 課	実践練習： 中国語で自分の大学や大学生活を紹介する。
5 回	第 9 課	①中国の若者文化、若者の生活に関する中国語表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
6 回	第 9 課	実践練習： 中国の若者言葉を紹介し、日本語や日本の文化が中国の若者に与えた影響を紹介する。
7 回	第 10 課	①日本の“動漫”に関する中国語表現を学ぶ ②重要文法項目の説明。
8 回	第 10 課	実践練習： 日本の“動漫”が中国に与えた影響を紹介し、映画やアニメに関する中国語表現を紹介する。
9 回	第 11 課	①北京に関する知識、北京生活に関する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
10 回	第 11 課	実践練習： 北京の言葉、生活、文化などに関連する中国語表現を練習する。
11 回	第 12 課	①中国の飲食文化を紹介し、それに関連する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
12 回	第 12 課 第 13 課	①飲食に関する中国語表現を用いて練習する。 ②中国の民族に関連する知識を紹介する

- 13回 第14課 ①中国の旧正月に関する知識、表現を学ぶ。
②重要文法項目の説明。
③まとめ
筆記試験
- 14回 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1、事前に教科書を音読し、「warming up」を予習してください。
- 2、授業で補足された内容を必ずメモし、授業後整理してください。
- 3、授業後、復習を通してその日の語彙と構文を知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語読解力 UP 編』王安・楊川・王欣・孫樹林 朝日出版
2200 円＋税
ISBN978-4-255-45215-9C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

新 耀勳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年 B～G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎を学んだ学生を対象に、習った基礎事項を発展的に学習する。

【到達目標】

反復練習を通じた実用的な会話力の増進、文法知識の発展とともに、文章を読む基礎的な力も養いたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課の新出単語をきれいに発音でき、文法を理解して読解を進めて行く、練習問題を解いて、着実に力をつけていけるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第〇課	一年次の文法の復習
2 回	第一課	ポイントの説明と本文と会話文への読解
3 回	第一課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
4 回	第二課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
5 回	第二課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
6 回	第三課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
7 回	第三課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
8 回	復習	三課までの復習及び練習
9 回	第四課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
10 回	第四課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
11 回	第五課	ポイントの説明と本文と会話への読解。
12 回	第五課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
13 回	第六課	ポイントの説明と本文の読解。
14 回	総復習	総復習・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習、予習するよう。

【テキスト（教科書）】

『学ぶ中国語』初中級編 王亜新 劉素英 朝日出版社 2016 年 2200 円

【参考書】

必要に応じて指導する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、宿題の完成度、および小テストなど（40点）、期末試験（60点）により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりと読解できて、きれいに発音できることを目標にした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

靳 耀勳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年 B～G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎を学んだ学生を対象に、習った基礎事項を発展的に学習する。

【到達目標】

反復練習を通じて実用的な会話力の増進、文法知識の発展とともに、文章を読む基礎的な力も養いたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課の新出単語をきれいに発音でき、文法を理解して読解を進めて行く、練習問題を解いて、着実に力をつけていけるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第六課	本文と会話の内容についての練習と練習問題への解答
2 回	第七課	新出単語の読みとポイントを学習後、本文と会話への読解。
3 回	第七課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
4 回	第八課	新出単語の読みとポイントを学習後、本文と会話への読解。
5 回	第八課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
6 回	第九課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文と会話への読解。
7 回	第九課	本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
8 回	復習	9 課までの復習と練習など
9 回	第十課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文のと会話への読解。
10 回	第十課	本文の読解の続きと読みの訓練。練習問題の解答。
11 回	第十一課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文と会話への読解。
12 回	第十一課	読みのチェック、本文と会話の内容についての練習及び練習問題への解答。
13 回	第十二課	新出単語の読みチェックとポイントを学習後、本文と会話への読解。
14 回	総復習	総復習・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習・予習してくること。

【テキスト（教科書）】

『学ぶ中国語』（朝日出版社）初中級編 王亜新 劉素英

【参考書】

必要に応じて指導する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、宿題の完成度、および小テストなど（40点）、期末試験（60点）により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりと読解でき、きれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年 H・I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的平易な文章で書かれた中国語を通じて、聞く、読む、訳す、書くなど総合的な能力を高めると同時に、中国語及び中国事情を知る。より高度な語学力を身に付けるために段階的にレベルアップを図る。

【到達目標】

- ・中国語の発音と聞き取りの能力を高める。
- ・文法をきちんと理解し、中国語の文章を自然な日本語に訳せるようにする。
- ・簡単な会話と作文ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 1、単語
- 2、文法の確認
- 3、聞き取りの練習
- 4、短文の読解

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	諸事情の確認	シラバスの配布、注意事項の伝達、初級文法の復習。
2	第 1 課 中国概況	単語と文法
3	第 1 課 中国概況	聞き取り練習、会話文訳の確認
4	第 1 課 中国概況	短文の読解
5	第 2 課 中国人の食生活	単語と文法
6	第 2 課 中国人の食生活	聞き取り練習、会話文訳の確認
7	第 2 課 中国人の食生活	短文の読解
8	第 3 課 中国の祝祭日	単語と文法
9	第 3 課 中国の祝祭日	聞き取り練習、会話文訳の確認
10	第 3 課 中国の祝祭日	短文の読解
11	第 4 課 家族間のあいさ	単語と文法
12	第 4 課 家族間のあいさ	聞き取り練習、会話文訳の確認
13	第 4 課 家族間のあいさ	短文の読解
14	まとめ	第 1～4 課の筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の練習問題を解く。
きちんと復習する。

【テキスト（教科書）】

『新・中国ってこんな国 一日々は変化―』池上貞子・張国路著 朝日出版社

【参考書】

日中・中日辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100点満点）の成績を基本とする。学習態度も評価の参考になる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II 2016 年度以前入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年 H・I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的平易な文章を通じて、聞く、読む、訳す、書くなど総合的な能力を高めると同時に、中国語及び中国事情を知る。より高度な語学力を身に付けるために段階的なレベルアップを図る。

【到達目標】

- ・中国語の発音と聞き取りの能力を向上させる。
- ・文法をきちんと理解し、中国語の文章を自然な日本語に訳せるようにする。
- ・簡単な会話と作文ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 1、単語
- 2、文法の確認
- 3、聞き取りの練習
- 4、会話文と短文の読解

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 5 課	交際上のマナー 単語と文法
2	第 5 課	交際上のマナー 聞き取りの練習、会話文訳の確認
3	第 5 課	交際上のマナー 短文の読解
4	第 6 課	通過儀礼 単語と文法
5	第 6 課	通過儀礼 聞き取りの練習、会話文訳の確認
6	第 6 課	通過儀礼 短文の読解
7	第 7 課	80 後と 90 後 単語と文法
8	第 7 課	80 後と 90 後 聞き取りの練習、会話文訳の確認
9	第 7 課	80 後と 90 後 短文の読解
10	第 8 課	今どきの大学生 単語と文法
11	第 8 課	今どきの大学生 聞き取りの練習、会話文訳の確認
12	第 8 課	今どきの大学生 短文の読解
13	筆記テスト	第 5～8 課の筆記試験
14	まとめ	指定されたテーマで会話をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の練習問題を解く。
きちんと復習する。

【テキスト（教科書）】

『新・中国ってこんな国 - 日々は変化-』池上貞子・張国路著 朝日出版社

【参考書】

日中・中日辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50点）と口頭試験（50点）の合計点を基本とする。普段の学習態度も考慮に入れる。

【学生の意見等からの気づき】

適宜に進度を調節する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I 2016 年度以前入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 2 年 L～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	招く	動作の進行形
3 回目	婉曲に断る	1、連用修飾語としての期間を表す名詞 2、動態助詞【了】
4 回目	お詫び	1、結果補語としての形容詞【好】 2、副詞【就】、【才】など
5 回目	残念	1、兼語文 2、【是不是】を用いる反復疑問文
6 回目	称賛	1、文型【又～又～】 2、複文【要是～就～】
7 回目	祝賀	1、結果補語としての【開】、【下】 2、可能補語としての【了】
8 回目	忠告	存現文など
9 回目	比較	1、比較文 2、数量補語
10 回目	趣味	時量補語（1）など
11 回目	言葉	時量補語（2）など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】

『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 2 年 L~P**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	旅行（1）	1、方向補語（3） 2、反語文
3 回目	旅行（2）	1、動作の持続 2、結果補語としての【見】
4 回目	旅行（3）	1、形容詞の重ね型 2、可能補語（2）
5 回目	診察を受ける	1、【把】文（1） 2、【一～就～】
6 回目	見舞い	受動文
7 回目	お別れの挨拶	1、時量補語（3） 2、【有的～、有的～】
8 回目	送別会	1、複文【雖然～但是～】 2、【把】文（2）
9 回目	託送	1、複文【不但～而且～】 2、可能補語としての【動】
10 回目	送別（1）	1、動作の持続と進行 2、【不如】を用いる比較文
11 回目	送別（2）	1、【把】文（3） 2、慣用句【～了～就～】
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】

『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

耿 函

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 2 年 Q**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国語（現代漢語）の基礎を固めながら、学生生活や日常生活の様々な場面における実用性の高い中国語を学ぶ。

【到達目標】

既習文法・文型が定着し、テキストに出ている様々な場面に応じて会話のやりとりができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に 1 課を 2 回にわたって進めていく。1 回目は会話文に出ている語彙や文法要点や文型を学習・理解する。2 回目は主に聞く・話す・読む・書くなどの応用練習を通じて、語彙や文法・文型の定着・応用力の向上に重点を置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	発音・基礎文法の復習
2	第 1 課、第 2 課 第 3 課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
3	第 3 課（2）	応用練習・課題の発表
4	第 4 課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
5	第 4 課（2）	応用練習・課題の発表
6	第 5 課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
7	第 5 課（2）	応用練習・課題の発表
8	第 6 課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
9	第 6 課（2）	応用練習・課題の発表
10	第 7 課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
11	第 7 課（2）	応用練習・課題の発表
12	第 8 課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
13	第 8 課（2）	応用練習・課題の発表
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽の代わりにヘッドホンステレオで何度も聴くなどの努力を重ね、例文・会話文・短文の音読・暗記・暗唱を行い、フレーズが自然に口について出てくるくらいになることが望ましい。また、与えられた課題についても真面目に取り込んでほしい。

【テキスト（教科書）】

『話そう 実践中国語』宮本大輔・温琳著 朝日出版社 2012 年 2200 円+税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 7 割、小テスト・会話や課題の発表・出席回数・授業参加態度などを 3 割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生全員に高い意欲をもって授業に参加してもらうように工夫していきたい

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II 2016 年度以前入学者

耿 函

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 2 年 Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を固めながら、学生生活や日常生活の様々な場面における実用性の高い中国語を学ぶ。

【到達目標】

既習文法・文型が定着し、テキストに出ている様々な場面に応じて会話のやりとりができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に1課を2回にわたって進めていく。1回目は会話文に出ている語彙や文法要点や文型を学習・理解する。2回目は主に聞く・話す・読む・書くなどの応用練習を通じて、語彙や文法・文型の定着・応用力の向上に重点を置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	春学期末試験の総括・既習の内容の復習
2	第9課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
3	第9課（2）	応用練習・課題の発表
4	第10課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
5	第10課（2）	応用練習・課題の発表
6	第11課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
7	第11課（2）	応用練習・課題の発表
8	第12課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
9	第12課（2）	応用練習・課題の発表
10	第13課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
11	第13課（2）	応用練習・課題の発表
12	第14課（1）	会話文と短文の学習・文法の確認・読みの練習
13	第14課（2）	応用練習・課題の発表
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽の代わりにヘッドホンステレオで何度も聴くなどの努力を重ね、例文・会話文・短文の音読・暗記・暗唱を行い、フレーズが自然に口について出てくるくらいになることが望ましい。また、与えられた課題についても真面目に取り込んでほしい。

【テキスト（教科書）】

「話そう 実践中国語」宮本大輔・温琳著 朝日出版社 2012 年 2200 円+税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験を7割、小テスト・会話や課題の発表・出席回数・授業参加態度などを3割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生全員に高い意欲をもって授業に参加してもらうように工夫していきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I 2016 年度以前入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 2 年 U・V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年生で学んだ中国語から一歩進んで、教科書に沿って重要なポイントをくり返し練習しながら、自分のことや日本のことを中国語で伝えられるようになるための訓練をします。教科書の内容を通して、中国、台湾、香港等の中華圏とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習します。

【到達目標】

中国語で会話ができるようになるための訓練を通して、準中級から中級レベルの中国語能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で中国語による会話表現を反復練習し、テキストの日本語訳や中国語の文法・語彙について、全員に発言を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課	「 <input type="checkbox"/> 一下儿好 <input type="checkbox"/> 」本文の解説と会話の練習
2	第1課	ポイント（助動詞「会」など5項目）の説明とドリル
3	第2課	「想去的地方很多」本文の解説と会話の練習
4	第2課	ポイント（介詞「 <input type="checkbox"/> 」など5項目）の説明とドリル
5	第3課	「好久不 <input type="checkbox"/> 」本文の解説と会話の練習
6	第3課	ポイント（動態助詞「了」など5項目）の説明とドリル
7	第4課	「 <input type="checkbox"/> 子去旅行」本文の解説と会話の練習
8	第4課	ポイント（複文「 <input type="checkbox"/> 因 <input type="checkbox"/> ~所以~」など5項目）の説明とドリル
9	第5課	「外国人都喜 <input type="checkbox"/> 吃」本文の解説と会話の練習
10	第5課	ポイント（複文「先~然后~」など5項目）の説明とドリル
11	第6課	「今天我 <input type="checkbox"/> 客」本文の解説と会話の練習
12	第6課	ポイント（複文「不但~而且~」など5項目）の説明とドリル
13	総復習	前期の内容のまとめ
14	授業内試験	前期の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で指示された範囲の最低限の予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】

徐送迎『仲間て話そう中国語』、白水社

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II 2016 年度以前入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 2 年 U・V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年生で学んだ中国語から一歩進んで、教科書に沿って重要なポイントをくり返し練習しながら、自分のことや日本のことを中国語で伝えられるようになるための訓練をします。教科書の内容を通して、中国、台湾、香港等の中華圏とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習します。

【到達目標】

中国語で会話ができるようになるための訓練を通して、準中級から中級レベルの中国語能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で中国語による会話表現を反復練習し、テキストの日本語訳や中国語の文法・語彙について、全員に発言を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第7課	「我☑的梦想」本文の解説と会話の練習
2	第7課	ポイント（介詞「作☑～」など5項目）の説明とドリル
3	第8課	「有一个愿望」本文の解説と会話の練習
4	第8課	ポイント（挿入語「据☑～」など5項目）の説明とドリル
5	第9課	「☑☑个人☑☑」本文の解説と会話の練習
6	第9課	ポイント（介詞「向～」など5項目）の説明とドリル
7	第10課	「☑系方法」本文の解説と会話の練習
8	第10課	ポイント（「快～了」など5項目）の説明とドリル
9	第11課	「☑聚北京」本文の解説と会話の練習
10	第11課	ポイント（「越来越～」など5項目）の説明とドリル
11	第12課	「☑到我家做客」本文の解説と会話の練習
12	第12課	ポイント（介詞「跟」など5項目）の説明とドリル
13	総復習	後期の内容のまとめ
14	授業内試験	後期の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で指示された範囲の最低限の予習を欠かささないこと。

【テキスト（教科書）】

徐送迎『仲間て話そう中国語』、白水社

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト）40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I 2016 年度以前入学者

蔣 彧婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
文 2 年 X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次の既習内容をベースにして、さらに基礎を固め、レベルアップにつながる読解力、表現力などを培うことを目的とする。

【到達目標】

基礎的な文法に関するスキルを身に付ける。

一般的な会話ができる。

簡単な文書の内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、履修者のレベルに合わせてつづ、内容への理解をチェックしながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	一年次に習った主な文法事項などの復習
②	第1課	助動詞「可以」、「要」 主述述語文 目的語が主述句のとき 本文：中国に行こう！
③	第1課	「的」の用法
④	第2課	原因、理由を表す「因为」 文末の助詞「吧」、「呢」 本文：ジャスミン茶を飲もう！
⑤	第2課	連動文
⑥	第3課	「是～的」の文 疑問詞「怎么」 本文：友達を作ろう！
⑦	第3課	「了」の三つの用法
⑧	第4課	副詞「就」 本文：長城に登ろう！
⑨	第4課	様態補語
⑩	第5課	可能性の予測を表す「会」 仮定を表す「要是」 本文：卓球を楽しもう！
⑪	第5課	結果補語 1
⑫	第6課	副詞「有点儿」 本文：漢字を覚えよう！
⑬	第6課	復習、試験、まとめ
⑭	第6課	復習、試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず復習と予習をすること。毎課の新出単語と文法事項を確実に理解したかを必ず自己チェックをすること。毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

尹景春、竹島毅著『中国語つぎへの一歩』 白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果が反映されるよう更なる改善を模索していく。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

蔣 彥婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
文 2 年 X**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文法事項の基礎を固めつつ、中国語のさらなるスキルアップを目標とする。

【到達目標】日常会話ができる。
簡単な文章を書ける。
読解力や表現力などの更なるスキルアップを目指す。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

発音および読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	春学期期末テストの解説と復習
②	第 7 課	存現文 主語がフレーズの時 「～了～了」の用法
③	第 7 課	本文：街を歩こう！
④	第 8 課	状態の持続を表す「着」 副詞「在」 疑問詞の不定用法 本文：中国映画を見よう！
⑤	第 8 課	方向補語
⑥	第 9 課	使役を表す「让」 本文：チャイナドレスを買おう！
⑦	第 9 課	可能補語
⑧	第 10 課	強調表現 本文：中華を食べよう！
⑨	第 10 課	結果補語（二）
⑩	第 11 課	受身を表す「被」 本文：西遊記を読もう！
⑪	第 11 課	「快～了」の用法
⑫	第 12 課	「把」の構文 本文：春節を祝おう！
⑬	第 12 課	本文：春節を祝おう！
⑭	復習、試験、まとめ	第 7～12 課の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】授業前に必ず復習と予習をすること。毎課の新出単語と文法事項を確実に理解したかを必ず自己チェックをすること。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。**【テキスト（教科書）】**

尹景春、竹島毅著『中国語つぎへの一步』白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果が反映されるよう更なる改善を模索していく。

【その他の重要事項】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 2 年 D**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**本授業は、中国語 1、中国語 2 を一通り終えた学生を対象にする授業です。使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた 2 年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。
本授業では、中国語 1 と中国語 2 の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、しっかり読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。**【到達目標】**

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。
教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。
授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。
また、三回目の授業から、毎回授業の最初の 5 分間で、単語小テストをします。**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介します。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 1 課 三大産業の区分	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 2 課 銀行サービスのご案内	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 3 課 不動産業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 4 課 会社概要	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 5 課 パソコンの新製品	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	第 6 課 取締役会の議事録	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
8 回目	第 7 課 生産部門	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
9 回目	第 8 課 ソーシャルサイト	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
10 回目	第 9 課 物流業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
11 回目	第 10 課 投資方法の紹介	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
12 回目	復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。
13 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。

14 回目 授業内試験 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、私語または携帯の辞書以外の使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2016年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 2年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語3Ⅰの続きの授業です。

中国語1、中国語2を一通り終えた学生を対象にする授業です。

使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた2年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語1と中国語2の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。

教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。

授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の5分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介する。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 11 課 経営管理の課題	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 12 課 環境/リサイクル	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 13 課 労働契約の締結	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 14 課 アフターサービスの方針	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 15 課 経理と財務	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	総合復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
8 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
9 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
10 回目	中国語検定試験 4 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
11 回目	中国語検定試験 4 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
12 回目	中国語検定試験 3 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
13 回目	中国語検定試験 3 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
14 回目	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語と中国語学習以外の携帯使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016年度以前入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
営 2 年 E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級～中級レベルに必要な語彙・文法・表現を総合的に習得し、中国の文化・習慣における基本知識を理解する。授業では、各課の内容を巡って、グループで会話をしたり、重要文法項目について作文をしたり、様々な練習問題をしたりすることによって、学んだ知識を確実に身につけていく。

【到達目標】

初級中国語を終えた学習者を対象に、初級中国語の内容を実際に運用できるように練習し、中級中国語の語彙、文法、構文を身につけることを目標とする。読解力のみならず、「話す」「聞く」「書く」などの能力もバランスよく訓練し、中国語総合能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わし、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	発音の復習、中国語初級文法、構文などの復習
2回	第1課 自我紹介	①自己紹介に関する重要表現、言い方を学習する。 ②重要文法項目：前置詞“在、跟”などの用法、動詞の重ね型。
3回	第1課 自我紹介	実践練習：自己紹介の仕方（自分の名前、故郷、家族構成、専攻、など）
4回	第2課 李有很多爱好	①趣味を紹介する際に使う重要表現、言い方を学習する。 ②重要文法項目：前置詞“对”“从”の用法、助動詞“打算”の用法。
5回	第2課 李有很多爱好	実践練習：様々な趣味の中国語の言い方を身につけ、自分や友人の趣味を人に紹介する。
6回	第3課 大的一天	①一日の行動を述べる際の構文、表現を学ぶ。 ②重要文法項目：連動文、様態補語、時間副詞の用法。
7回	第3課 大的一天	実践練習：連動文や時間副詞を用いて、自分の一日の行動を中国語で表現する。
8回	第4課 芳的	①人の性格、特徴や仕事に関する言い方、表現を学ぶ。 ②重要文法項目：助動詞“能”の用法、方向補語、中国語の感情動詞など。
9回	第4課 芳的	実践練習：中国語で自分の友人の性格、特徴などを紹介する。
10回	第5課 我是去年去的	①過去の出来事を述べる際に使用する表現、構文などを学ぶ。 ②重要文法項目：“是…的”構文、因果関係の複文、中国語の離合動詞。
11回	第5課 我是去年去的	実践練習：中国語の“是…的”構文の機能、使い方を正しく理解し、“是…的”構文を使えるように練習する。

1 2 回	第 6 課 你知道“ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ” <input type="checkbox"/> ?	①情報や知識を人に伝える際に使う表現、構文を学ぶ ②重要文法項目： 前置詞、逆接接続詞の使い方、“快要…了”の使い方、助動詞“要”の用法
1 3 回	第 6 課 你知道“ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ” <input type="checkbox"/> ?	実践練習： 中国語である情報やニュースまたは知識を人に紹介する。
1 4 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1、事前に教科書を音読し、「warming up」を予習してください。
- 2、授業で補足された内容を必ずメモし、授業後整理してください。
- 3、授業後、復習を通してその日の語彙と構文を知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語読解力 UP 編』 王安・楊川・王欣・孫樹林 朝日出版
2200 円＋税
ISBN978-4-255-45215-9C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を日常的に聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
営 2 年 E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、中国語中級レベルに必要な語彙・文法・表現を総合的に習得し、中国の文化・習慣への理解を深める。授業では、各課の内容を巡って、グループで会話をしたり、重要文法項目について作文をしたり、様々な練習問題をしたりすることによって、学んだ知識を確実に身につけていく。

【到達目標】

初級～中級中国語を終えた学習者を対象に、これまで学んできた内容を実際に運用できるように練習し、中級中国語の語彙、文法、構文を身につけることを目標とする。読解力のみならず、「話す」「聞く」「書く」などの能力もバランスよく訓練し、中国語総合能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わり、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第 7 課	①前期復習 ②中国語の外来語 ③重要表現、文法の説明 実践練習：
2 回	第 7 課	中国語の外来語や日中両言語の表記体系、外来語の相違を紹介する。
3 回	第 8 課	①中国の大学や大学生の生活に関する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明
4 回	第 8 課	実践練習： 中国語で自分の大学や大学生活を紹介する。
5 回	第 9 課	①中国の若者文化、若者の生活に関する中国語表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
6 回	第 9 課	実践練習： 中国の若者言葉を紹介し、日本語や日本の文化が中国の若者に与えた影響を紹介する。
7 回	第 10 課	①日本の“動漫”に関する中国語表現を学ぶ ②重要文法項目の説明。
8 回	第 10 課	実践練習： 日本の“動漫”が中国に与えた影響を紹介し、映画やアニメに関する中国語表現を紹介する。
9 回	第 11 課	①北京に関する知識、北京生活に関する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
10 回	第 11 課	実践練習： 北京の言葉、生活、文化などに関連する中国語表現を練習する。
11 回	第 12 課	①中国の飲食文化を紹介し、それに関連する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
12 回	第 12 課 第 13 課	①飲食に関する中国語表現を用いて練習する。 ②中国の民族に関連する知識を紹介する

- 13回 第14課 ①中国の旧正月に関する知識、表現を学ぶ。
②重要文法項目の説明。
③まとめ
筆記試験
- 14回 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1、事前に教科書を音読し、「warming up」を予習してください。
- 2、授業で補足された内容を必ずメモし、授業後整理してください。
- 3、授業後、復習を通してその日の語彙と構文を知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語読解力 UP 編』王安・楊川・王欣・孫樹林 朝日出版
2200 円＋税
ISBN978-4-255-45215-9C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

李 維涛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 2 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で学んだ基礎知識を織り交せてそれを復習しながら中級の学習を進めて行く。

「聞く」「読む」「話す」「書く」の四つのスキルのバランスを考慮し、実践活動などを通して、中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

初級で学んだ、基礎となる知識を、ただ「知っている」のではなく、「使える」ものにすべく、中級の学習項目に織り交せて復習しながら授業を進めて行く。たくさん学ぶのではなく、少しでも学んだ知識を活かして応用できるように、様々な場面を想定して実践活動を行い、学んだ知識のアウトプットによる円滑なコミュニケーションを行えることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は、教科書を使つての勉強、コミュニケーション活動、課題と、3つのブロックに分けて行なう。

【教科書】

初回はレベルチェックテストを行い、その結果に応じて、初級で学んだ基礎知識の復習・練習を、最初の3回にわたって行なう。4回目以後教材を使つての学習に入る。

基本的に1課を2回に分けて、1回目は主に言葉の学習と文法の解説や練習・応用などを、2回目は本文の会話文の学習をベースに、シナリオプレイ・ロールプレイなどの応用・実践活動を行い、既習文型を活かしての実際のコミュニケーション能力の向上を目指して、授業を進めて行く。

課毎に、語彙・文法テストを行う。

予習・復習は必須。

【コミュニケーション活動】

グループまたはペアによるコミュニケーション活動を行なう。

活動中に能動的且つ積極的に参加し、自己表現することを望む。

【課題】

春学期の課題は自由作文。

テーマ決め → 執筆 → 提出 → リライト → プレゼンテーションという流れで行なう。

授業スケジュールは、状況に応じて、変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション レベルチェックテスト	①授業目標、教材、授業の進め方、スケジュール、履修上の注意事項などについて説明。 ②授業用語と挨拶 ③授業アンケート ④レベルチェックテスト
第2回	・初級基礎復習 I ・コミュニケーション活動 (1)	①初級基礎知識点検・復習・練習 I ②活動 (1) 私、そして、私の家族
第3回	・初級基礎復習 II ・コミュニケーション活動 (2)	①チェックテスト【初級復習 I】 ②初級基礎知識点検・復習・練習 II ③活動 (2) 私の一日、あなたの日
第4回	・初級基礎復習 III ・コミュニケーション活動 (3)	①チェックテスト【初級復習 II】 ②初級基礎知識点検・復習・練習 III ③活動 (3) 趣味について ④語彙導入【1 課】
第5回	声をかける・挨拶をする【1 課】。	①チェックテスト【初級復習 III・1 課語彙】 ②■方位詞 ■動作・行為の同伴者 ■動詞の重ね型
第6回	声をかける・挨拶をする【1 課】。	①チェックテスト【1 課文法】 ②既習文型応用・実践練習 ③語彙導入【2 課】

第7回	初対面の自己表現 [2 課]。	①チェックテスト [2 課語彙] ②■推測・判断 ■行為の積極性 ■様態補語
第8回	初対面の自己表現 [2 課]。	①チェックテスト [2 課文法] ②既習文型応用・実戦練習 ③コミュニケーション活動 (4) 声をかける・自己紹介する ④語彙導入 [3 課]
第9回	伝聞による話題について話す [3 課]。	①チェックテスト [3 課語彙] ②■伝聞 ■全否定 ■結果補語
第10回	伝聞による話題について話す [3 課]。	①チェックテスト [3 課文法] ②可能補語 ③既習文型応用・実戦練習 ④課題作文について説明
第11回	・伝聞による話題について話す。 ・課題作文	①コミュニケーション活動 (5) 伝聞による話題について話す ②課題作文：テーマ決め・ストーリー作り ③語彙導入 [4 課]
第12回	買物について話す [4 課]。	①チェックテスト [4 課語彙] ②■動詞文：現在進行形 ■目的を表現する ■原因・理由についての訳わ方 ③課題作文提出
第13回	買物について話す [4 課]。	①チェックテスト [4 課文法] ②既習文型応用・実戦練習 ③コミュニケーション活動 (6) 買物情報を交換する
第14回	・春学期学習内容の復習・質疑応答 ・期末試験	①課題作文リライト提出 ②期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週に、言葉クイズ、文法クイズを行う。授業で学習した内容をしっかりと復習・予習すること。
課題などの準備は授業時間外の作業となる。提出締切など時間を守ること。

【テキスト（教科書）】

『中国語へのアプローチⅡ』

楊凱榮・張麗群 著

朝日出版社 2010 年

ISBN978-4-255-45142-8

【参考書】

・中日・日中辞典類 [紙媒体、電子辞書、APP の何れも可。電子辞書を推奨する]

・『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂など 同学社

・『中国語生活図解辞典』 遠藤雅裕 小学館

【成績評価の方法と基準】

授業貢献度・参加態度なども考慮しながら、主にテスト・活動・課題によって評価する。

チェックテスト [語彙・文法] 35%

期末テスト 30%

活動・口頭表現 15%

課題 10%

授業貢献度・学習態度など 10%

【学生の意見等からの気づき】

○授業では口頭練習と活動がたくさん行われるが、どうしても耳だけでは不安で随一板書して欲しいとの学生からの意見があった。今後の授業では、口頭活動の内容を、なるべく文字でも提示するように心掛けてみる。

【学生が準備すべき機器他】

学習内容に応じて、教室に備えてある機器、または PC などを使う。

また、学内授業支援システムなどを利用して、学生とのコミュニケーションを図る。

【その他の重要事項】

授業中、学習用具類以外、机上に置かないこと。

特に、携帯電話、飲み物類は、鞆等にしまうこと。

教科書を持参せずの受講は欠席と見なし、必ず教科書、授業関連資料を持って授業に臨むこと。

授業中の他に影響を与えるような私語を厳禁する。注意を受ける場合、期末評価の減点要素になる。

【授業に臨む心構え】

其の一 勉強する意欲と意識を高く持つこと

其の二 しっかり予習・復習してくること

其の三 教科書は勿論のこと、ノート、筆記具、辞書も必ず持ってくること。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

李 維涛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 2 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級と中級前半で学んだ基礎知識を織り交ぜて復習しながら中上級を目指して学習を進めて行く。

「聞く」「読む」「話す」「書く」の四つのスキルのバランスを考慮し、実戦活動などを通して、中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

初級と中級前半で学んだ、基礎となる知識を、ただ「知っている」のではなく、「使える」ものにすべく、中級後半の学習項目に織り交ぜて復習しながら授業を進めて行く。

たくさん学ぶのではなく、少しでも学んだ知識を活かして応用できるように、学んだ知識のアウトプットを重視し、様々な場面を想定して実戦活動を行なう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は、教科書を使つての勉強、コミュニケーション活動、課題と、3つのブロックに分けて行なう。

【教科書】

初回は初級と中級前半で学んだ知識をチェックするテストを行い、その結果に応じて、既習基礎知識の復習・練習を、最初の 2 回にわたって行なう。3 回目以後教材を使つての学習に入る。

基本的に 1 課を 2 回に分けて、1 回目は主に文法の解説や練習や応用などを、2 回目は本文の会話文の学習をベースに、シナリオプレイ・ロールプレイなどの応用・実戦活動を行い、既習文型を活かしての実際のコミュニケーション能力の向上を目指して、授業を進めて行く。

課毎に、語彙・文法テストを行う。

予習・復習は必須。

【コミュニケーション活動】

グループまたはペアによるコミュニケーション活動を行なう。

活動中には能動的に参加し、積極的に中国語による自己表現をすることを望む。

【課題】

秋学期の課題は二つ。作文と当該年度の中国語の新語・流行語のリサーチレポート。

何れも下記の流れで行なう。

テーマ決め → 執筆 → 提出 → リライト → プレゼンテーション

授業スケジュールは、状況に応じて、変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	秋学期学習内容を確認・復習	①中級春学期学習内容チェックテスト ②秋学期授業内容・進め方・スケジュールなどについて説明 ③活動 (1) 絵と言葉で表現する私の夏休み [前半]
第2回	■秋学期学習内容を確認・復習。後期学習への準備。 ■コミュニケーション活動で新学期のウォームアップをする。	・チェックテストを返却・FB ①春学期学習内容を総括・復習 ②活動 (1) 絵と言葉で表現する私の夏休み [後半] ③語彙導入 [5 課]
第3回	天気について話す [5 課]	①チェックテスト [5 課語彙] ②■確認 ■比較 [否定] ■能願動詞:可能性や見込み
第4回	天気について話す [5 課]	①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型を復習・応用・練習 ③活動 (2):天気について話す ④語彙導入 [6 課]
第5回	初めての経験について話す [6 課]	①チェックテスト [6 課語彙] ②■感想・考え・意見を述べる表現 ■能願動詞:「喜んで～する」 ③課題 (1) 課題作文について説明

第6回	初めての経験について話す [6 課]	①チェックテスト [6 課文法] ②既習文型を復習・応用・練習 ③活動 (3) カフェでおしゃべり ④語彙導入 [7 課]
第7回	買物について話す [7 課]	①チェックテスト [7 課語彙] ②■選択：二者択一 ■能願動詞：「～しなければなら ない」 ③課題 (1) 提出
第8回	買物について話す [7 課]	①チェックテスト [7 課文法] ②既習文型を復習・応用・練習 ③課題 (1) を返却・FB
第9回	書いた物を、声に出して表現する。	①課題 (2) 課題 (1) をプレゼンター ション ②語彙導入 [8 課]
第10回	会食をプランニングする [8 課]	①チェックテスト [8 課語彙] ②■全否定/全肯定 ■例外の表し方 ■既定条件
第11回	会食をプランニングする [8 課]	①チェックテスト [8 課文法] ②能願動詞:総括・復習 既習文型の応用練習
第12回	日常生活における食事の場面でのコミュニケーションを学ぶ。	①活動 (4):食事の誘い、食事をする ②語彙導入 [9 課] ③課題 (3) 中国語の新語・流行語をリサーチ
第13回	二つのものを比べて表現する [9 課]	①チェックテスト [9 課語彙] ②■動詞文:持続形 ■推測・判断 [肯定] ③課題 (3) ピア活動
第14回	■期末テスト前復習・質疑応答 ■期末テスト [筆記]	①授業アンケート ②期末テスト前復習・質疑応答 ③期末テスト [筆記]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課毎に言葉クイズ・文法クイズを行う。授業で学習した内容をしっかりと復習・予習すること。
課題などの準備は授業時間外の作業となるが、提出締切など時間を守ること。

【テキスト（教科書）】

『中国語へのアプローチⅡ』
楊凱栄・張麗群 著
朝日出版社 2010年
ISBN978-4-255-45142-8

【参考書】

- ・ 中日・日中辞典類 [紙媒体、電子辞書、App の何れも可。電子辞書を奨める]
- ・ 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂など 同学社
- ・ 『中国語生活図解辞典』 遠藤雅裕 小学館

【成績評価の方法と基準】

授業参加度・参加態度なども考慮しながら、主にテスト・活動・課題によって評価する。

チェックテスト [語彙・文法] 35%

期末テスト 25%

活動・口頭表現 15%

課題 15%

授業貢献度・学習態度など 10%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、コミュニケーション活動など、口頭表現する活動が多く行われて来た。学生から、口頭表現の内容を板書して提示して欲しいとの要望があった。今後の授業では、これらの口頭活動の内容を、なるべく文字資料でも提示するように心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習内容に応じて、教室に備えてある機器、または PC などを使う。
また、学内授業支援システムなどを利用して、学生とのコミュニケーションを図る。

【その他の重要事項】

授業中、学習用具類以外、机上に置かないこと。
特に、携帯電話、飲み物類は、鞆等にしまうこと。
教材 [教科書、授業関連資料] を持参せずの受講は欠席と見なすこと。

【授業に臨む心構え】

- 其の一 勉強する意欲と意識を高く持つこと
- 其の二 しっかり予習・復習してくること。
- 其の三 教科書は勿論のこと、ノート、筆記具、辞書も必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

三田村 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 2 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法を復習しながら、文法項目の更なる基礎固めを行う。基礎の中国語で学習した事項をもとに、聞く・話す・読む・書くをバランスよく練習する。それによって、中級以上の中国語を学習する際に必要な事項を学習する。

【到達目標】

春学期終了時には、中国語検定 4 級程度の能力を習得し、簡単な会話を正確な文法を用いて行えることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

はじめの 3 回については、基礎で学んだ事項について復習する。毎回、授業の始めに簡単な発音とヒアリングの練習を行い、本文へ進む。教科書は、文法の解説、発音練習、本文の訳といった順序で進める。その後、練習問題を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎で学習したことの復習①	自己紹介。特に発音の確認と練習。
第 2 回	基礎で学習したことの復習②	基礎文法事項の練習。
第 3 回	基礎で学習したことの復習③復習と小テスト	通学について話す。
第 4 回	動作の出来や程度・簡単な構文	趣味の聞き方と答え方。
第 5 回	伝聞・比較と簡単な構文の練習	アルバイトや仕事について話す。
第 6 回	小テスト	第 1 課から第 3 課まで
第 7 回	時に関する表現	スケジュールに関連する表現の練習と検定問題。
第 8 回	補語表現と少し複雑な表現	指定した部分の暗誦と検定問題を実際に取り組んでみる。
第 9 回	少し複雑な表現と使役の練習	料理を注文する①
第 10 回	構文を用いての応用練習・特に把構文	料理を注文する②実際の状況を想像しながら作文してみる。
第 11 回	構文を用いての応用練習	検定問題の文法部分を行う。
第 12 回	全体の復習	第 4 課から第 6 課。
第 13 回	ヒアリングと発音の復習と暗誦	第 4 課から第 6 課。
第 14 回	文法事項の復習 期末試験	補語表現や把構文を主に練習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間のないときは音声教材だけでもよく聴いてくること。
また辞典を持っているのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『しゃべくり中国語～場面による中国語会話』内田慶市・張軼欧著
金星堂 2200円（税別） また随時、プリントを配布

【参考書】

授業開始時に辞典や参考書について詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、宿題・小テスト 30%、平常点 20%を総合して評価する。平常点には宿題の提出や暗誦を含む。また、春学期においては HSK 3・4 級・中国語検定試験 4 級合格者には 10%を上限として加点をする。点数が極めて良好な場合は期末試験の一部を免除する。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に中国語に取り組みたい学生は、実際の会話や練習の機会を求めている。また、検定試験のためにどのような準備学習が必要であるかを知りたい学生も多いので、練習を増やしながら授業を進行したい。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材をダウンロードできる機器

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

三田村 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 2 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法に関しては、いくらか長い会話文の学習を通じ、さまざまな中国語の表現を身につける。また、実際に作文や口頭の練習を行うことによって、HSK や中国語検定試験に対応しうる能力を養成する。

【到達目標】

より複雑な構文を習得し、自分の生活に関する事柄を明瞭に話せるようになる。文法に関しては中国語検定 3 級程度の能力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期よりも授業進行が、若干速めになる。基本的には、春学期の授業進行と同様、文法の解説、発音の練習、本文の訳の順番だが、途中で、中国語検定問題や応用問題を行う時間をとる。また、比較的難解な文法事項については、プリントを使用しながら、十分に時間をかけて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課から第 6 課までの復習と発音練習	発音練習を中心に。
第 2 回	新しい構文①と副詞	診察を受ける。すでに起こったことについて尋ねる表現。
第 3 回	新しい構文②	病院での表現。動作・行為・状況の結果の表現と練習問題。
第 4 回	相手の意見を求める表現と限度・限界の表現	買い物をする。本文の翻訳の確認と文法の解説。
第 5 回	復習	第 1 回から 4 回までの練習と簡単な文章の暗誦。
第 6 回	小テスト	食事・病院・買い物にかなする表現のまとめ。
第 7 回	把構文の復習と比較の表現	旅行について。強調構文の練習と本文の訳と文法解説。
第 8 回	結果補語・反語・使役の表現	検定試験の問題にも取り組む。
第 9 回	補語表現の総合復習	髪型について。本文の訳と文法解説。
第 10 回	方向補語と「了」の復習	検定試験の補語についての問題を行う。
第 11 回	小テスト	第 7 回から 10 回までの指定部分暗誦とヒアリング。
第 12 回	新しい構文を使った表現練習①	ファッション。本文の翻訳と文法の解説。
第 13 回	新しい構文を使った表現練習②	検定問題
第 14 回	応用表現の総合復習 期末試験	第 11 回から第 13 回までを中心に。ホテルを予約するときに役立つ表現の暗誦。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は内容も難しくなるので、音声教材を授業以外の時間にもよく聴くこと。また授業以外でも DVD を観るなど、幅広く興味を持ってほしい。

【テキスト（教科書）】

『しゃべくり中国語～場面による中国語会話』内田慶市・張軼欧著
金星堂 2200円（税別） また随時、プリントを配布。

【参考書】

授業時開始時に再度、辞典や参考書について紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、宿題・小テスト 30 %、平常点 20 %を総合して評価する。平常点には宿題の提出や暗誦を含む。点数が極めて良好な場合は期末試験の一部を免除する。3 分の 1 以上欠席した学生は評価の対象としない。また、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。特に各自が行う課題に関しては採点の比重を重く置く。中検 3 級合格者は試験を免除し A+ の評価を与える。

【学生の意見等からの気づき】

秋以降は基礎ができていない学生と不十分な学生の差が顕著に出てくるので、余裕のある学生には問題を追加し、各自にプリントを配り予備練習を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

音声ダウンロードできる機器

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

蔣 彧婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 営 2 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次の既習内容をベースにして、さらに基礎を固め、レベルアップにつながる読解力、表現力などを培うことを目的とする。

【到達目標】

基礎的な文法に関するスキルを身に付ける。
 一般的な会話ができる。
 簡単な文書の内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、履修者のレベルに合わせて、内容への理解をチェックしながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	一年次に習った主な文法事項などの復習
②	第 1 課	助動詞「可以」、「要」 主述述語文 目的語が主述句のとき 本文：中国に行こう！
③	第 1 課	「的」の用法
④	第 2 課	原因、理由を表す「因为」 文末の助詞「吧」、「呢」 本文：ジャスミン茶を飲もう！
⑤	第 2 課	連動文
⑥	第 3 課	「是～的」の文 疑問詞「怎么」 本文：友達を作ろう！
⑦	第 3 課	「了」の三つの用法
⑧	第 4 課	副詞「就」 本文：長城に登ろう！
⑨	第 4 課	様態補語
⑩	第 5 課	可能性の予測を表す「会」 仮定を表す「要是」 本文：卓球を楽しもう！
⑪	第 5 課	結果補語 1
⑫	第 6 課	副詞「有点儿」 本文：漢字を覚えよう！
⑬	第 6 課	復習、試験、まとめ
⑭	第 6 課	第 1～6 課の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず復習と予習をすること。毎課の新出単語と文法事項を確実に理解したかを必ず自己チェックをすること。
 毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

尹景春、竹島毅著『中国語つぎへの一歩』 白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果が反映されるよう更なる改善を模索していく。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

蒋 彧婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営 2 年 M・N**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文法事項の基礎を固めつつ、中国語のさらなるスキルアップを目標とする。

【到達目標】日常会話ができる。
簡単な文章を書ける。
読解力や表現力などの更なるスキルアップを目指す。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

発音および読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	復習	春学期期末テストの解説と復習
②	第 7 課	存現文 主語がフレーズの時 「～了～了」の用法
③	第 7 課	本文：街を歩こう！
④	第 8 課	状態の持続を表す「着」 副詞「在」 疑問詞の不定用法 本文：中国映画を見よう！
⑤	第 8 課	方向補語
⑥	第 9 課	使役を表す「让」 本文：チャイナドレスを買おう！
⑦	第 9 課	可能補語
⑧	第 10 課	強調表現 本文：中華を食べよう！
⑨	第 10 課	結果補語（二）
⑩	第 11 課	受身を表す「被」 本文：西遊記を読もう！
⑪	第 11 課	「快～了」の用法
⑫	第 12 課	「把」の構文 本文：春節を祝おう！
⑬	第 12 課	本文：春節を祝おう！
⑭	復習、試験、まとめ	第 7～12 課の復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】授業前に必ず復習と予習をすること。毎課の新出単語と文法事項を確実に理解したかを必ず自己チェックをすること。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。**【テキスト（教科書）】**

尹景春、竹島毅著『中国語つぎへの一步』白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果が反映されるよう更なる改善を模索していく。

【その他の重要事項】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
営 2 年 O・Q**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**本授業は、中国語 1、中国語 2 を一通り終えた学生を対象にする授業です。使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた 2 年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。
本授業では、中国語 1 と中国語 2 の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、しっかり読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。**【到達目標】**

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。
教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。
授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。
また、三回目の授業から、毎回授業の最初の 5 分間で、単語小テストをします。**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介します。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 1 課 三大産業の区分	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 2 課 銀行サービスのご案内	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 3 課 不動産業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 4 課 会社概要	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 5 課 パソコンの新製品	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	第 6 課 取締役会の議事録	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
8 回目	第 7 課 生産部門	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
9 回目	第 8 課 ソーシャルサイト	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
10 回目	第 9 課 物流業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
11 回目	第 10 課 投資方法の紹介	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
12 回目	復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。
13 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。

14 回目 授業内試験 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、私語または携帯の辞書以外の使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2016年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
営 2年 O・Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語3Ⅰの続きの授業です。

中国語1、中国語2を一通り終えた学生を対象にする授業です。

使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた2年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語1と中国語2の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。

教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。

授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の5分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介する。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 11 課 経営管理の課題	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 12 課 環境/リサイクル	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 13 課 労働契約の締結	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 14 課 アフターサービスの方針	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 15 課 経理と財務	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	総合復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
8 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
9 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
10 回目	中国語検定試験 4 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
11 回目	中国語検定試験 4 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
12 回目	中国語検定試験 3 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
13 回目	中国語検定試験 3 級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
14 回目	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語と中国語学習以外の携帯使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3 I

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3 I

2016年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1
営2年R・S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で学んだ中国語基礎を固め、正しい声調で、自然なリズムで話せること、そして中国語の文章を読むことと、簡単な文章が書けることを指導する。

【到達目標】

中国語の基礎を学んだ学生を対象に、習った文法、句型を復習しながら、さらに中国語のレベルアップを目指す。そして現代中国の理解を深められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課の新出単語をきれいに発音でき、文法を理解して読解を進めて行く。練習問題を解いて、着実に力をつけていけるようにする。時々、小テストをして勉強結果を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	第0課	一年次の文法の復習
2回	第一課	前置詞、動詞句による連体修飾語、様態補語などの勉強、本文と会話文への読解
3回	第一課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
4回	第二課	第二課副詞、逆説の表現、数量補語など、本文と会話文への読解
5回	第二課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
6回	第三課	前置詞、複文など、本文と会話文への読解
7回	第三課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
8回	第四課	形容詞句による連体修飾語、仮定条件文など、本文と会話文への読解
9回	第四課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
10回	第五課	結果補語、可能補語など、本文と会話文への読解
11回	第五課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
12回	第六課	因果関係文、追加・排他を表す表現、本文と会話文への読解
13回	第六課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
14回	総復習など	いままでの復習・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、予習するよう。発音練習をたくさんしてください。

【テキスト（教科書）】

『学ぶ中国語』初中級編 王亜新 劉素英 朝日出版社 2016年 2200円

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題の完成度、授業中の解答および発音など（60点）。期末試験（40点）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりと読解できて、きれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 II 2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 II 2016 年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 2 年 R・S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎を学んだ学生を対象に、習った文法、句型を復習しながら、さらにレベルアップを目指す。

【到達目標】

中国語の文章を流暢に読めること、簡単な文章を書けるようにすること、教科書の内容が聞き取れること。また、中国についての知識を増やすことにより中国への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課の新出単語をきれいに発音でき、文法を理解して読解を進めて行く。教科書の内容について聞き取りの練習をし、練習問題を解いて、着実に力をつけていけるようにする。そして習った文法で簡単な文章が書けるように指導する。新しい課を習う前に小テストをして勉強結果を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	復習	前期内容に対する復習、会話の練習とリスニングの練習
2 回	第七課	“是…的”の構文、動詞+“着”の用法など、本文と会話文への読解
3 回	第七課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
4 回	第八課	使役の表現、複文など、本文と会話文への読解
5 回	第八課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
6 回	第九課	疑問詞+副詞、慣用型など、本文と会話文への読解
7 回	第九課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
8 回	第十課	助動詞、副詞など、本文と会話文への読解
9 回	第十課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
10 回	第十一課	受動表現、反語表現など、本文と会話文への読解
11 回	第十一課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
12 回	第十二課	引用を表す表現、目的実現を表す言葉など、本文と会話文への読解
13 回	第十二課	本文と会話文への読みチェック、リスニングの訓練。練習問題の解答。
14 回	総復習	後期習った内容への復習・期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習・予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『学ぶ中国語』（朝日出版社）初中級編 王亞新 劉素英

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題の完成度、授業中の解答および発音、小テストなど（60点）、期末試験（40点）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりと読解でき、きれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 I 2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I 2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 2 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語 1、中国語 2 で学習した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

【到達目標】

- ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
- ・基礎的な中国語を使って自分の意思を伝えることができる。
- ・中国の歴史、文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 課を 2 回の授業で進める。毎回の授業は概ねに次のように進める。1) 小テスト(約 25 分) 2) テキストの学習(約 40 分) 3) 文法に関する問題演習、会話の練習など(約 35 分)。 外国語を身につけるために継続的な学習が必要なので、毎回授業の始めに小テストを設ける。またこの授業は教室の中での学習と自宅での学習を組み合わせる展開することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課 『北京に到着』 連動文	1 原因、結果の表現 2 動詞主語 3 数字に関して 文法問題の演習
3	第一課 『北京に到着』 本文暗唱	
4	第二課 『道を尋ねる』 疑問文の使い方	1 動詞の完了表現 2 反復疑問文
5	第二課 『道を尋ねる』 本文暗唱	文法問題の演習/会話
6	第三課 『買い物』 数量補語	形容詞と比較の表現に関して
7	第三課 『買い物』 本文の暗唱	文法問題の演習/会話
8	文法問題の演習	第一課～第三課の勉強した内容の復習、確認
9	第四課 『バスに乗る』 1 名詞の修飾語 2 副詞に関して	1 結果補語 2 人民元に関して
10	第四課 『バスに乗る』 本文の暗唱	文法問題の演習/会話
11	第五課 『新しい友達』 様態補語	1 完了の「了」に関して 2 変化の「了」に関して
12	第五課 『新しい友達』 本文の暗唱	文法問題の演習/会話
13	第六課 『外食』 1 経験に関する助詞 2 依頼に関する動詞	1 主述述語文 2 能願動詞
14	第六課 『外食』 本文暗唱	第一課～第六課勉強した内容の復習、 文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、付属の教材 CD や <http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『2 年生のコミュニケーション中国語』

塚本慶一 劉穎 著

白水社

【参考書】

中国語辞書を必ず 1 冊用意すること（電子辞書可）

『ポイント学習中国語初級』東方書店

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 2 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語 1、中国語 2 で学習した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

【到達目標】

- ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
- ・基礎的な中国語を使って自分の意思を伝えることができる。
- ・中国の歴史、文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 課を 2 回の授業で進めていく。単語などの小テストを行う。新出単語・文法事項を確認しながら、本文の和訳、中訳、発音練習などを行う。毎回会話練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	第一課～第六課の復習
2	第七課 〔約束〕 伝聞に関する動詞	「可～了」に関して 能願動詞：打算
3	第七課 〔約束〕 本文の暗唱	文法、表現、語彙に関する練習/会話
4	第八課 〔友達に電話する〕 方向補語	使役文、兼語
5	第八課 〔友達に電話する〕 本文の暗唱	文法、表現、語彙に関する練習/会話
6	第九課 〔郵便局〕 慣用句： 「如果～」	方向補語の「到」
7	第九課 〔郵便局〕 本文の暗唱	文法、表現、語彙に関する練習/会話
8	まとめ、復習	第七課～第九課の復習、勉強した内容の確認
9	第十課 〔医者に行く〕 1 「有一點」に関して	1 能願動詞の「要」 2 一～就
10	第十課 〔医者に行く〕 本文の暗唱	文法、表現、語彙に関する練習/会話
11	第十一課 〔家庭訪問〕 1 助動詞「用」 2 進行形	「就是」の使い方
12	第十一課 〔家庭訪問〕 本文の暗唱	文法、表現、語彙に関する練習/会話
13	第十二課 〔謝恩会〕 可能補語	1 変化を表す「了」 2 「就要～了」
14	第十二課 〔謝恩会〕 本文の暗唱	第七課～第十二課の復習、勉強した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・付属の CD を繰り返して聴く。
- ・単語の意味を必ず事前に調べる。

【テキスト（教科書）】

『二年生のコミュニケーション中国語』

塚本慶一 劉穎 著

白水社

【参考書】

中国語辞書を必ず 1 冊用意すること（電子辞書可）

『ポイント学習中国語初級』東方書店

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 2 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語 1、中国語 2 を一通り終えた学生を対象にする授業です。使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた 2 年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語 1 と中国語 2 の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、しっかり読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をもちます。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の 5 分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介します。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 1 課 三大産業の区分	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 2 課 銀行サービスのご案内	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 3 課 不動産業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 4 課 会社概要	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 5 課 パソコンの新製品	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	第 6 課 取締役会の議事録	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
8 回目	第 7 課 生産部門	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
9 回目	第 8 課 ソーシャルサイト	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
10 回目	第 9 課 物流業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
11 回目	第 10 課 投資方法の紹介	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
12 回目	復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。
13 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。

14 回目 授業内試験 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、私語または携帯の辞書以外の使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3Ⅱ

2016年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4
営2年B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語3Ⅰの続きの授業です。

中国語1、中国語2を一通り終えた学生を対象にする授業です。

使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた2年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語1と中国語2の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。

教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。

授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の5分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介する。 ②自己紹介を練習する。
2回目	第11課 経営管理の課題	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3回目	第12課 環境/リサイクル	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4回目	第13課 労働契約の締結	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5回目	第14課 アフターサービスの方針	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6回目	第15課 経理と財務	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7回目	総合復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
8回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
9回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
10回目	中国語検定試験4級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
11回目	中国語検定試験4級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
12回目	中国語検定試験3級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
13回目	中国語検定試験3級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
14回目	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語と中国語学習以外の携帯使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 I

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 I

2016年度以前入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 2年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級～中級レベルに必要な語彙・文法・表現を総合的に習得し、中国の文化・習慣における基本知識を理解する。授業では、各課の内容を巡って、グループで会話をしたり、重要文法項目について作文をしたり、様々な練習問題をしたりすることによって、学んだ知識を確実に身につけていく。

【到達目標】

初級中国語を終えた学習者を対象に、初級中国語の内容を実際に運用できるように練習し、中級中国語の語彙、文法、構文を身につけることを目標とする。読解力のみならず、「話す」「聞く」「書く」などの能力もバランスよく訓練し、中国語総合能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わり、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	発音の復習、中国語初級文法、構文などの復習
2回	第1課 自我紹介	①自己紹介に関する重要表現、言い方を学習する。 ②重要文法項目：前置詞“在、跟”などの用法、動詞の重ね型。
3回	第1課 自我紹介	実践練習：自己紹介の仕方（自分の名前、故郷、家族構成、専攻、など）
4回	第2課 李有很多爱好	①趣味を紹介する際に使う重要表現、言い方を学習する。 ②重要文法項目：前置詞“对”“从”の用法、助動詞“打算”の用法。
5回	第2課 李有很多爱好	実践練習：様々な趣味の中国語の言い方を身につけ、自分や友人の趣味を人に紹介する。
6回	第3課 大的一天	①一日の行動を述べる際の構文、表現を学ぶ。 ②重要文法項目：連動文、様態補語、時間副詞の用法。
7回	第3課 大的一天	実践練習：連動文や時間副詞を用いて、自分の一日の行動を中国語で表現する。
8回	第4課 芳的	①人の性格、特徴や仕事に関する言い方、表現を学ぶ。 ②重要文法項目：助動詞“能”の用法、方向補語、中国語の感情動詞など。
9回	第4課 芳的	実践練習：中国語で自分の友人の性格、特徴などを紹介する。
10回	第5課 我是去年去的	①過去の出来事を述べる際に使用する表現、構文などを学ぶ。 ②重要文法項目：“是…的”構文、因果関係の複文、中国語の離合動詞。
11回	第5課 我是去年去的	実践練習：中国語の“是…的”構文の機能、使い方を正しく理解し、“是…的”構文を使えるように練習する。

1 2 回	第 6 課 你知道“ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ” <input type="checkbox"/> ?	①情報や知識を人に伝える際に使う表現、構文を学ぶ ②重要文法項目： 前置詞、逆接続詞の使い方、“快要…了”の使い方、助動詞“要”の用法
1 3 回	第 6 課 你知道“ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ” <input type="checkbox"/> ?	実践練習： 中国語である情報やニュースまたは知識を人に紹介する。
1 4 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1、事前に教科書を音読し、「warming up」を予習してください。
- 2、授業で補足された内容を必ずメモし、授業後整理してください。
- 3、授業後、復習を通してその日の語彙と構文を知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語読解力 UP 編』 王安・楊川・王欣・孫樹林 朝日出版
2200 円＋税
ISBN978-4-255-45215-9C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を日常的に聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 2 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、中国語中級レベルに必要な語彙・文法・表現を総合的に習得し、中国の文化・習慣への理解を深める。授業では、各課の内容を巡って、グループで会話をしたり、重要文法項目について作文をしたり、様々な練習問題をしたりすることによって、学んだ知識を確実に身につけていく。

【到達目標】

初級～中級中国語を終えた学習者を対象に、これまで学んできた内容を実際に運用できるように練習し、中級中国語の語彙、文法、構文を身につけることを目標とする。読解力のみならず、「話す」「聞く」「書く」などの能力もバランスよく訓練し、中国語総合能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わり、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第 7 課	①前期復習 ②中国語の外来語 ③重要表現、文法の説明 実践練習：
2 回	第 7 課	中国語の外来語や日中両言語の表記体系、外来語の相違を紹介する。
3 回	第 8 課	①中国の大学や大学生の生活に関する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明
4 回	第 8 課	実践練習： 中国語で自分の大学や大学生活を紹介する。
5 回	第 9 課	①中国の若者文化、若者の生活に関する中国語表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
6 回	第 9 課	実践練習： 中国の若者言葉を紹介し、日本語や日本の文化が中国の若者に与えた影響を紹介する。
7 回	第 10 課	①日本の“動漫”に関する中国語表現を学ぶ ②重要文法項目の説明。
8 回	第 10 課	実践練習： 日本の“動漫”が中国に与えた影響を紹介し、映画やアニメに関する中国語表現を紹介する。
9 回	第 11 課	①北京に関する知識、北京生活に関する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
10 回	第 11 課	実践練習： 北京の言葉、生活、文化などに関連する中国語表現を練習する。
11 回	第 12 課	①中国の飲食文化を紹介し、それに関連する表現を学ぶ。 ②重要文法項目の説明。
12 回	第 12 課 第 13 課	①飲食に関する中国語表現を用いて練習する。 ②中国の民族に関連する知識を紹介する

- 13回 第14課 ①中国の旧正月に関する知識、表現を学ぶ。
②重要文法項目の説明。
③まとめ
- 14回 期末試験 筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1、事前に教科書を音読し、「warming up」を予習してください。
- 2、授業で補足された内容を必ずメモし、授業後整理してください。
- 3、授業後、復習を通してその日の語彙と構文を知識として定着させる。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語読解力 UP 編』王安・楊川・王欣・孫樹林 朝日出版
2200 円＋税
ISBN978-4-255-45215-9C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語 3 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3 I

2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 2 年 G~K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次に学んだ初級中国語の基礎を踏まえて、各自の中国語能力を中級レベルに向上させ、併せて日中二国間の文化の違いについて理解を深める。

【到達目標】

- ・初級中国語の基礎をしっかりと定着させる。
- ・中国語の文章読解能力を高める。
- ・華語圏の人々に対して、中国語（華語）で日本の様々な情報を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

指定テキストの内容に沿って授業を進める（基本的に読んで訳すが中心）。また、折に触れて授業内小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	一年間の授業の進め方・方針・約束事などを説明し、併せて現在の華語圏の状況等を解説する。
2	第一課 相	課文「自我」、おさらい文法“从～”、“～”
3	第一課 相	ポイント“～”、“因～”、“虽然～、但是～”、練習問題
4	第二課 花季	課文「花」、おさらい文法 結果補語“～”
5	第二課 花季	ポイント“会”、“一～就～”、“不管是～是～”、練習問題
6	第三課 浅草一日游	課文「一日的趣」、おさらい文法 動詞＋単純方向補語・連動文（1）
7	第三課 浅草一日游	ポイント“～而且～”、“～的” 構造・動詞＋“着”、練習問題、単元復習（一課～三課）
8	第四課 在雨中	課文「梅雨季的趣」、おさらい文法 二つの“了”、“听”
9	第四課 在雨中	ポイント“即使～也～”、“可能”、“以～”、練習問題
10	第五課 七夕的心愿	課文「两个情人」、おさらい文法 動詞＋“在”、“可以”
11	第五課 七夕的心愿	ポイント“提起”、“快要”、“～或者～”、練習問題
12	第六課 焰火的浪漫	課文「夏天的目」、おさらい文法“别”、“有点儿”
13	第六課 焰火的浪漫	ポイント“一点儿”、“～极了”、“一～一～”、練習問題、単元復習（四課～六課）
14	期末試験	筆記・ヒアリング試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須。毎回、各課に出て来る単語・課文・例文の意味を、事前に調べておく。また、二回に一回の頻度で宿題として課される各課の練習問題を事前にやっておく。その際は、問題を解くだけではなく、必ず各漢字のピンインも調べて記しておく。

【テキスト（教科書）】

『日中ふれあい“漢語”教室』（李貞愛著、朝日出版社、2018、2200 円＋税）。また、一年時に使用した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を必ず授業時に持参すること。

【参考書】

中日辞典を必ず用意すること（どこの出版社のものでも良い。電子辞書も可とする）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・授業内小テスト）20 %
期末試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 II

2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 営 2 年 G~K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次に学んだ初級中国語の基礎を踏まえて、各自の中国語能力を中級レベルに向上させ、併せて日中二国間の文化の違いについて理解を深める。

【到達目標】

- ・初級中国語の基礎をしっかりと定着させる。
- ・中国語の文章読解能力を高める。
- ・華語圏の人々に対して、中国語（華語）で日本の様々な情報を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

指定テキストの内容に沿って授業を進める（基本的に読んで訳すが中心）。また、折に触れてを授業内小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第七課 教☑☑	課文「☑生情」、おさらい文法“オ” (1)・様態補語
2	第七課 教☑☑	ポイント“向～”・“在～上”・“☑～”、 練習問題
3	第八課 学園祭	課文「校园文化」、おさらい文法“更”・ “☑得”
4	第八課 学園祭	ポイント“由～”・“和～比、～更～”・ 差量補語、練習問題
5	第九課 双 11	課文「百奇日和光棍☑」、おさらい文 法“怎么”・“☑☑”
6	第九課 双 11	ポイント“作☑”・“把～”・“越来越～”、 練習問題
7	第十課 秋游	課文「共享☑☑」、おさらい文法“再”・ 連動文(2)
8	第十課 秋游	ポイント 複合方向補語の“起来”・“离 ～”・“～没有～(☑么/那么)～”、練習 問題
9	第十一課 ☑年	課文「☑白歌会和是春晚」、おさらい 文法 時量補語・“～和～☑”
10	第十一課 ☑年	ポイント“按～”・“差不多”・“☑”、練 習問題
11	第十二課 成人☑	課文「☑祝成人」、おさらい文法“～比 ～☑～”・“又”
12	第十二課 成人☑	ポイント“被～”・“并且”・“如果～就 ～”、練習問題
13	総合復習	単元復習(七課～九課、十課～十二課)
14	期末試験	筆記・ヒアリング試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須。毎回、各課に出て来る単語・課文・例文の意味を、事前に調べておく。また、二回に一回の頻度で宿題として課される各課の練習問題を事前にやっておく。その際は、問題を解くだけではなく、必ず各漢字のピンインも調べて記しておく。

【テキスト（教科書）】

『日中ふれあい“漢語”教室』（李貞愛著、朝日出版社、2018、2200 円＋税）。また、一年時に使用した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を必ず授業時に持参すること。

【参考書】

中日辞典を必ず用意すること（どこの出版社のものでも良い。電子辞書も可とする）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・授業内小テスト）20%
 期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

三田村 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は中国語の基礎を集中的に復習し定着させる。中国語検定試験 4 級に照準をあてて「話す」・「読解できる」・「聴き取れる」中国語の中級への基礎事項の習得を目指す。また難易度の高い補語表現を獲得する。

【到達目標】

春学期は中国語検定試験 4 級の合格（6 月末）、同程度の中国語運用能力の習得を到達目標とする。終了時には簡単な中国語で基本的な文法を踏まえながら、中国と日本の文化の違いについて読解でき、自分の生活や習慣・文化などについて具体的に話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

本文に沿って読解、聴き取り、発音練習を行う。毎回の授業では、一人ずつ発音をチェックしたうえで自己紹介を初めに行う。その後、学習した文法を使いながら、中国語で本文に関する表現を反復練習する。最後に中心となる文法を使用して簡潔な文章を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎と発音の復習	ピンインの復習と自己紹介。基礎文法事項の確認。
第 2 回	ホテルから車に乗る、交通に関して表現	「都」と「也」の用法。呼応関係で「都」「也」が使われる構文を学習する。
第 3 回	交通事情に関しての質疑応答と閲読	交通手段を利用した移動の際にかかる表現を口頭で練習する。
第 4 回	インターネットに関しての表現	「都」と「才」、「就」と「才」の用法。「また～」を表現する言葉の区別と練習。
第 5 回	自分がどのようにインターネットを使用しているかについて	時制に関する表現の復習と併せて「就」「才」の練習を行う。
第 6 回	もてなしの表現	兼語文に関する復習と命令表現について学習する。
第 7 回	誕生日や一緒にお茶を飲む場面での表現	使役・受身表現を復習し、使い分け方を修得する。
第 8 回	小テスト 中国語検定 4 級問題の解説	呼応関係にある副詞のまとめと、兼語文に関する総合練習。
第 9 回	仕事場での表現	「不是」「哪儿」「怎么」「什么」「难道」などの様々な反語表現について学習する。
第 10 回	自分の専門や新技術用語を使って仕事に関することを説明	仕事に関する言葉を覚え、聴き取り応対できるための練習を行う。
第 11 回	自分が好きなことや物についての表現	存現文に特化した練習。存在の「着」・出現の「完了」・消失の「了」との組み合わせについて学習する。
第 12 回	基礎的な補語表現について	存現文の中でも、方向補語との組み合わせになる場合を練習する。
第 13 回	学習した部分までのヒアリングの補充練習	質問文を書き取り、それに対する答えを書く、或いは口頭で返答する練習。
第 14 回	筆記試験と総合復習	中級の前半に学習する構文のまとめと最終到達度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本文は分担して翻訳してもらうので、担当分について調べてくること。ラジオ・テレビ講座なども利用して積極的に中国語に触れて欲しい。また、本文の内容を十分に理解するために辞典を持っていることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『総合中級中国語教程 改訂版』上野恵司監修・李錚強著 白帝社 2400 円+税
ISBN978-4-86398-263-5

【参考書】

中日辞典を持っていることが望ましいが、授業開始時に詳しく紹介するので、辞典などの購入は説明の後からで構わない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 30 %、課題・平常点 20 % を総合して評価する。中国語検定試験 4 級・HSK 3・4 級合格者は大きく加点する。また、暗誦や各課にある練習問題の提出も総合評価に含む。中国語外部試験の点数によっては、期末試験を免除とする。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは基礎を習得した学生が履修するが、各学生の習得度はさまざまであるので中国語でのグループでの会話練習を通し、表現力を習得できるように進みたい。昨年度と同様に例文・会話・閲読がバランス良く学習できる教科書にした。中国語での会話練習を充実させることと、中国語での造句の時間を十分に取りたい。また、作文に時間が取られる傾向にあるので、数回に一度は宿題にするなどの効率よくできる方法を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

辞典を携帯することを強く望む。また付属の音声教材を日常的にヒアリングできる機器を準備して欲しい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

三田村 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級の文法の確立と応用練習を行う。中国語検定試験 3 級に照準をあてて春学期よりも長めの会話文を聴き取り、それについての簡単な質疑応答ができる中国語の力を養成する。また、現代中国の日常に関する比較的短い閲読も並行して行う。

【到達目標】

秋学期は中国語検定試験 3 級の合格（1 1 月末）、あるいは HSK 4・5 級の能力習得を到達目標とする。より複雑な時制の表現や構文の修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

始めに発音の練習をし例文を把握する。その後、文法を解説し会話文・閲読・実践問題と進行する。1 ヶ月に 1 度は検定問題などを使用しながら実践練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習とまとめ	中検 4 級程度の文法の復習。
第 2 回	料理を注文する表現	疑問詞の連用。「拿～来☒」「先～再～」「要是～就～」の表現練習。
第 3 回	中華料理の文化についての長めの文章の閲読	仮定法の練習を行うのに併せて、冠婚葬祭のときに使う表現を修得する。
第 4 回	コンビニで	「如」と「不如」の練習。「不但～而且～」、「☒得～」の用法を学習する。
第 5 回	コンビニで買い物をするときの表現練習	自分自身の生活中で、どのようにコンビニや商店を利用しているかを表現する練習を行う。
第 6 回	寒暖晴雨について	「☒之～」「有☒～有☒～」「反正～」「当～☒～」などを使う表現練習を行う。
第 7 回	天候に関する表現	自分の好きな季節や中国と日本の気候の違いなどを簡潔に口頭で答える練習を行う。
第 8 回	小テストと暗誦 HSK・中国語検定のヒアリング	前半で学習した構文の確認と指定の文章の暗誦を行う。
第 9 回	色の象徴的な意味について	「把」構文と「在～方面」「在～下」の在を使った応用練習。
第 10 回	色が含まれる日常よく使われる語彙の確認	中国語での色彩の意味を比較的難しい文章で読む。閲読後、質問に答える。
第 11 回	漢方医学に関して	接続詞「而」の用法。介詞「以」の用法の整理。「一方面～一方面～」「按照～」の練習。
第 12 回	西洋医学と東洋医学の違いについて	自分が病気になった場合、どのように医師につげるか、薬や治療に関する表現を修得する。
第 13 回	全体の復習	特に補語表現と時制に関するより複雑な表現を整理し練習する。
第 14 回	最終到達度の確認	秋学期に学習した文法事項と聴き取り。時間があれば部分的に HSK や中国検定の問題を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎段階を終了した後の応用練習なので、夏休みを利用して内容を把握・予習していることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『総合中級中国語教程 改訂版』上野恵司監修・李錚強著 白帝社 2400 円＋税
ISBN978-4-86398-263-5

【参考書】

授業進行時に詳しく紹介する。個々に指定するので授業開始後に参考書や辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %・小テスト 30 %・平常点 20 %の総合評価。授業時に指定の暗誦・作文の提出も評価の対象とする。中国語検定試験3級・HSK4 級以上の合格者は、期末試験を免除し評価を A + とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は教科書をほぼ最後まで終了することができた。しかし、発音問題の一部を割愛したので、今年度はできる限り、この部分の練習も行いたい。2 回で1 課を進行する。この段階になると予習なしでは円滑な進行が難しくなるので、授業内で活発に発言することを望む。クラスは様々な目的を持った学生が参加している。できるだけ予習をしてもらうことで聴く・話す・読むを最大限練習できる時間が確保できるかと思う。

【学生が準備すべき機器他】

辞典を携帯することを強く希望する。また、ヒアリングができるよう音声機器を準備して欲しい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた基本語彙、初級文法を復習しながら、中国語検定試験4 級に照準をあてて「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を目指します。発音の矯正（スピーチ）・基礎単語と日常用語の暗記・文法理解（翻訳練習）などを授業内容とします。

【到達目標】

春学期は中国語検定試験4 級の合格（6 月末、しっかり授業について来なければ楽に合格できる。2018 年度の合格者は 10 名）を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、一人ずつ発音をチェックしたうえで、自己紹介スピーチの実演、リスニング（翻訳練習と日常用語）の練習を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	発音の復習	ピンインの復習と自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 15 文。
第2回	発音の復習	ピンインの復習と自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 15 文。
第3回	単語・文法	ピンインの復習と自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 20 文。
第4回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 15 文。
第5回	復習とテスト	第1回から第4回までの復習とテスト
第6回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 10 文。4 級過去問 1 回目
第7回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 20 文。4 級過去問 2 回目
第8回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 20 文。4 級過去問 3 回目
第9回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 20 文。
第10回	復習とテスト	第5回から第9回までの復習とテスト
第11回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 10 文。
第12回	単語・文法	自己紹介スピーチ。単語 20 語。日常用語 5 語。翻訳練習 10 文。
第13回	総合復習	単語 200 語。日常用語 50 語。翻訳練習 50 文。
第14回	期末試験（口頭試験と筆記試験）	期末試験（口頭試験と筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に集中して授業に参加すれば、授業時間外に予習や復習する必要がありません。中国語検定試験4 級を受験する場合は多少単語を覚え、リスニングをトレーニングする必要があります（4 級受験勉強のための資料を配布）。

【テキスト（教科書）】

オリジナルプリントをテキストとして使用します。検定試験4 級の関連資料を配布します。

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチテスト（15 %）と小テストの平常点（15 %）、期末試験の成績（70 %）などを総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学んできた基本語彙や文法を復習しながら、中国語検定試験 3 級という挑戦的なレベルに照準をあてて「話せる」・「読める」・「聞ける」中国語の習得を目指します。発音の矯正（長文暗記）・基礎単語と日常用語の暗記・文法理解（翻訳練習）などを授業内容とします。

【到達目標】

秋学期は中国語検定試験 3 級の合格（11 月末）を到達目標（挑戦的な目標ですが、2018 年度の合格者は 3 名）とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、一人ずつ発音をチェックしたうえ、長文暗記、リスニング（翻訳練習と日常用語）の小テストを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習とまとめ	単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（10 文）。
第 2 回	春学期の復習とまとめ	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習。
第 3 回	長文理解（累加関係の複文）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（20 文）。
第 4 回	長文理解（逆接関係の複文）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（10 文）。
第 5 回	復習とテスト	第 1 回から第 4 回までの復習と小テスト。
第 6 回	長文理解（仮定関係の複文）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（20 文）。3 級過去問 1 回目
第 7 回	長文理解（条件関係の複文）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（20 文）。3 級過去問 2 回目
第 8 回	長文理解（因果関係の複文）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（10 文）。
第 9 回	長文理解（譲歩関係の複文）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（10 文）。
第 10 回	復習とテスト	第 5 回から第 9 回までの復習と小テスト。
第 11 回	長文理解（いろいろの表現）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（10）。
第 12 回	長文理解（いろいろの表現）	長文暗記。単語 20 語。リスニングと翻訳の練習（10）。
第 13 回	総合復習	単語 200 語。リスニングと翻訳の練習（50 文）。
第 14 回	期末試験（口頭試験と筆記試験）	期末試験（口頭試験と筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に集中して授業に参加すれば、必要がありません。中国語検定試験 3 級を受験する場合は多少単語を覚え、リスニングをトレーニングすることが必要です（3 級試験の関連資料を配る）。

【テキスト（教科書）】

オリジナルプリントをテキストとして使用します。検定試験 3 級の関連資料を配布します。

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチテスト（15 %）と小テストの平常点（15 %）、期末試験の成績（70 %）などを総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を完了した人を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、中級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 中級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 中級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、ユニット 1（発音の復習）
2	ユニット 2-A	基本語順：SVO、疑問文（1）、否定、人称代詞
3	ユニット 2-B	疑問文（2）、形容詞述語文、誘い方
4	ユニット 2-C ユニット 2-D	“的”、名前の聞き方・答え方、疑問文（3）、二重目的語 選択疑問文、“多少”と“幾”、場所を表わす指示代詞
5	ユニット 2-E	指示代詞、文末付加型疑問文、“ba”の用法
6	ユニット 3-A	所有を表わす“有”、助動詞“可以”、“太～了”
7	ユニット 3-B	存在を表わす“有”、量詞、“何”、“的”が省略できる場合、動詞の重ね型
8	ユニット 3-C	動詞“在”、前置詞“在”、方位詞
9	ユニット 3-D ユニット 3-E	年齢の聞き方、数詞述語文、“多”+形容詞という構成の疑問詞、後の名詞が省略された“的” 助動詞“会”、助動詞“能”、助動詞“想”
10	ユニット 4-A	曜日の言い方、時刻の言い方
11	ユニット 4-B	助動詞“要/不用”、禁止を表わす“不用/别”、前置詞“離”、前置詞“到”、積極的な気持ちを表す“来”
12	ユニット 4-C	比較の言い方、“一点兒”と“有点兒”、語気詞の“的”
13	ユニット 4-D	年月日の言い方、お金の言い方、時点と時間量
14	ユニット 4-E	動量詞、前置詞“給”、前置詞“用”

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業前に、学習する課に予め目を通し、学習内容の概要を把握しておくこと。受講開始後は、復習をしっかりと行うこと。「聞くこと・話すこと」に関しては、中国語の発音に慣れるために、教科書の内容に準拠した映像教材を準備する予定なので、それを活用するよう心がけてほしい。「読むこと・書くこと」に関しては、教科書に付属の練習問題を活用すること。

【テキスト（教科書）】

『北京物語—話す中国語—』（董燕・遠藤光暁 [著]）2002 年、朝日出版社（2500 円+税）。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
 ・劉月華 他『实用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
 ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
 ・相原茂 他『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
 これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳、『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ている。HSKの勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回実施する小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストの平均点が 60 点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

映像教材を活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
 ・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の 2 級問題の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職・昇進、留学、自己学習など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を完了した人を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、中級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 中級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 中級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK3 級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ユニット 5-A	“了”、“了”が動詞末につく場合、連動文
2	ユニット 5-B	進行を表わす“在”、変化を表わす“了”、他の文が後続する場合の“了”の位置
3	ユニット 5-C	“了”が 2 つある場合、“更”と“最”、“可能”
4	ユニット 5-D	経験を表わす“過”、仮定、「～するはず」を表わす“会”、分離動詞、これから起こることを表わす“了”
5	ユニット 6-A	存現文、同一・類似を表わす表現、強調を表わす“是”、逆接
6	ユニット 6-B	“着”、“着”がついた動詞からなる存現文、「在」+動詞」と「動詞+“着”」の違い
7	ユニット 6-C	結果補語、動詞 1 + “着” + 動詞句 2、“再”
8	ユニット 6-D	数量補語、程度補語、前置詞句からなる結果補語
9	ユニット 7-A	方向動詞、方向補語、抽象的な意味を持つ方向補語、“別～了”
10	ユニット 7-B	“把”、“是～的”、“難”
11	ユニット 7-C	可能補語、可能を表わす助動詞と可能補語の違い
12	ユニット 7-D	“祝～”、方向補語が 2 つある場合の目的語の位置
13	ユニット 8	ユニット 8 のポイントの解説
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業前に、学習する課に予め目を通し、学習内容の概要を把握しておくこと。受講開始後は、復習をしっかりと行うこと。「聞くこと・話すこと」に関しては、中国語の発音に慣れるために、教科書の内容に準拠した映像教材を準備する予定なので、それを活用するよう心がけてほしい。「読むこと・書くこと」に関しては、教科書に付属の練習問題を活用すること。

【テキスト（教科書）】

『北京物語—話す中国語—』（董燕・遠藤光暁 [著]）2002 年、朝日出版社（2500 円＋税）。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
 ・劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
 ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
 ・相原茂 他『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
 これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳、『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ている。HSKの勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回実施する小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストの平均点が 60 点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

映像教材を活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
 ・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の 3 級問題の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職・昇進、留学、自己学習など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次に学んだ中国語の基礎知識を土台とし、中国語会話の実践力を養成する。基本的な日常会話で構成されるテキストを用い、ネイティブ教師との会話練習を中心に授業を進めていく。
 毎回、2~3 個の基本的な文法を学習し、それが含まれている 4 行会話を覚え、その会話の置き換え練習や聴き取り練習などを通して、言葉がすんなり口から出てくるよう指導していく。簡単なフレーズや文を繰り返し練習することによって基本的な表現がしっかり身につくこと、またネイティブ教師の発音をたくさん聞くことによって耳が中国語に慣れることをこの講義の目的とする。

【到達目標】

他者との協働、表現力、発信力を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。

- ① 中国語の常用表現が聞き取れる力を身につける。
- ② 中国語の初級会話において的確な表現ができる力を身につける。
- ③ 中国語の常用単語、常用フレーズを暗記し、簡単な会話文を暗唱することができる。
- ④ 簡単な日常会話において、中国人と意思疎通ができるような会話力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

講義演習方式。単語、基本文型、置き換えなど幾つかのパターンを用いて、授業を進める。ロールプレと寸劇などにより、楽しく会話力を身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第 1 課	会話を学習する 文法を学習する 年月日の言い方 曜日の言い方
2 回	第 2 課	会話を学習する 文法を学習する 人称代名詞 <~の~>
3 回	第 3 課	会話を学習する 文法を学習する 時刻の言い方 変化する言い方
4 回	第 4 課	会話を学習する 文法を学習する 値段の言い方 数量表現 動詞述語文
5 回	第 5 課	会話を学習する 文法を学習する <是>の文 電話番号の言い方
6 回	第 6 課	会話を学習する 文法を学習する 指示代名詞 疑問詞<なに>
7 回	第 7 課	会話を学習する 文法を学習する 選択疑問文 連動文 前置詞<~で>
8 回	第 8 課	会話を学習する 文法を学習する <~が好きだ> <この~>の言い方
9 回	第 9 課	会話を学習する 文法を学習する 形容詞述語文 前置詞<~に>

10 回	第 10 課	会話を学習する 文法を学習する 比較文 <少しも～しない>の言い方
11 回	第 11 課	会話を学習する 文法を学習する 省略疑問文 <来+数量>の言い方
12 回	第 12 課	会話を学習する 文法を学習する 主述述語文
13 回	期末筆記テスト	試験
14 回	期末口頭テスト	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CD を必ず繰り返し聞きこと。授業の後に必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】

『あなたが主役 演じる入門中国語』余瀾・中桐典子著、朝日出版社

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なう小テスト（単語テスト、書取テスト、会話の発表など）が 40 点、
期末口頭テスト 20 点、筆記テストが 40 点。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANe200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間で学んだ中国語の基礎知識を土台とし、中国語会話の実践力を養成する。基本的な日常会話で構成されるテキストを用い、ネイティブ教師との会話練習を中心に授業を進めていく。「中国語会話 I」より少し難度の高い会話文を学ぶ。

授業の流れは「中国語会話 I」と同様で、基本的な文法、4 行会話、置き換え練習、聴き取り練習…と学習を進めていく。簡単なフレーズや文を繰り返し練習することによって基本的な表現がしっかり身につくこと、またネイティブ教師の発音をたくさん聞くことによって耳が中国語に慣れることをこの講義の目的とする。中国人との簡単な会話において、相手の言っていることを正確に聴き取り、的確に言葉が返せるレベルにまで到達できるよう指導していく。

【到達目標】

〔到達目標〕

他者との協働、表現力、発信力を実現するため、次の 4 点を到達目標とする。

- ① 中国語の常用表現が聞き取れる力を身につける。
- ② 中国語の会話において的確な表現ができる力を身につける。
- ③ 中国語の常用単語、常用フレーズを暗記し、簡単な会話文を暗唱することができる。
- ④ 簡単な日常会話において、中国人と意思疎通ができるような会話力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

講義演習方式。単語、基本文型、置き換えなど幾つかのパターンを用いて、授業を進める。ロールプレイと寸劇などにより、楽しく会話力を身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第 13 課	会話を学習する 文法を学習する 助動詞<～したい> 存在を現す<有>
2 回	第 14 課	会話を学習する 文法を学習する 存在を現す<在> <有>と<在>の区別
3 回	第 15 課	会話を学習する 文法を学習する 所有を現す<有> 疑問詞<どうですか>
4 回	第 16 課	会話を学習する 文法を学習する 疑問詞<どうやって> <好+動詞>
5 回	第 17 課	会話を学習する 文法を学習する 進行を現す言い方 禁止する言い方
6 回	第 18 課	会話を学習する 文法を学習する 疑問詞<なぜ> 結果補語
7 回	第 19 課	会話を学習する 文法を学習する 完了を現す言い方 前置詞<～から>
8 回	第 20 課 会話を学習する 文法を学習する	経験を現す言い方 <ちょっと>の言い方
9 回	第 21 課	会話を学習する 文法を学習する 方向補語 使役を現す言い方

10 回	第 22 課	会話を学習する 文法を学習する 連体修飾語 助動詞<できる>
11 回	第 23 課	会話を学習する 文法を学習する 様態補語
12 回	第 24 課	会話を学習する 文法を学習する 助動詞<できる> 時量補語 <～するつもりだ>
13 回	期末筆記テスト	試験
14 回	期末口頭テスト	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後必ず CD を繰り返し聞き、復習すること。

【テキスト（教科書）】

『あなたが主役 演じる入門中国語』余闌・中桐典子著、朝日出版社

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なう小テスト（単語テスト、書き取りテスト、会話の発表など）が 40 点、期末口頭テスト 20 点、筆記テストが 40 点。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANe200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

蔣 彧婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

発音を固める。
読解力を培う。
日常会話ができる。
簡単な文章を書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、履修者のレベルを確認の上、内容への理解をチェックしながら、効果的に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習	一年次に習った文法を復習する
第 2 回	第 1 課	名詞の前に置く“的”、動詞の前に置く“地”、助動詞“要”、連動文
第 3 回	第 1 課	第 1 課のチャレンジ・スキット
第 4 回	第 2 課	動態助詞の“了”、語気助詞の“了”、語気助詞の“吗”と“吧”
第 5 回	第 2 課	第 2 課のチャレンジ・スキット
第 6 回	第 3 課	経験・経過を表わす“过”、“怎么”の 2 つの用法、副詞“才”の用法
第 7 回	第 3 課	第 3 課のチャレンジ・スキット
第 8 回	第 4 課	動作の進行、動作・状態の持続を表わす“着”、動作を行う時間の長さ・動作の回数、“因为～所以…”
第 9 回	第 4 課	第 4 課のチャレンジ・スキット
第 10 回	第 5 課	近い未来“要～了”・“快～了”、反語の表現、副詞“就”の用法、“要是～就…”
第 11 回	第 5 課	第 5 課のチャレンジ・スキット
第 12 回	第 6 課	結果補語、感嘆文、副詞“还”の用法、“虽然～但是…”
第 13 回	第 6 課	第 6 課のチャレンジ・スキット
第 14 回	復習、試験、まとめ	ここまで習った内容を復習、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習しておくこと。毎課の新出単語と文法をしつかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

本間史・孟広学『2年めの中国語ポイント 4 5』白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、前年度の授業アンケートを生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

蒋 彧婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

読解力や、表現力などのさらなるスキルアップを目指す。
 日常の中国語のコミュニケーションが取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、履修者のレベルに合わせて、内容への理解をチェックしながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	解説と復習	春学期の学習内容の復習
第 2 回	第 7 課	様態補語、比較の表現、形容詞の重ね方、“不但～而且…”
第 3 回	第 7 課	第 7 課のチャレンジ・スキット
第 4 回	第 8 課	方向補語、複合方向補語、強調表現“連～也…”、“一～就…”
第 5 回	第 8 課	第 8 課のチャレンジ・スキット
第 6 回	第 9 課	“把”構文、受身の表現、副詞“再”と“又”、“只要～就…”
第 7 回	第 9 課	第 9 課のチャレンジ・スキット
第 8 回	第 10 課	可能補語、“是～的”の構文、“只有～才…”
第 9 回	第 10 課	第 10 課のチャレンジ・スキット
第 10 回	第 11 課	“～得了”/“～不了”の可能補語、兼語文、“不是～而是…”
第 11 回	第 11 課	第 11 課のチャレンジ・スキット
第 12 回	第 12 課	現文、同じ疑問詞の呼応、“不管～都…”
第 13 回	第 12 課	第 12 課のチャレンジ・スキット
第 14 回	復習、まとめ、試験	第 7～12 課の復習と試験、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習しておくこと。
 毎課の新出単語と文法をしっかりと記憶し、理解したかどうかチェックすること。
 毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

本間史・孟広学『2 年めの中国語ポイント 4 5』白水社

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50%）、学習態度や学習意欲（20%）、小テスト（20%）、平常点なども（10%）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、前年度の授業アンケートを生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語 1、中国語 2 で学習した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

【到達目標】

・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
 ・基礎的な中国語を使って自分の意思を伝えることができる。
 ・中国の歴史、文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1 課を 2 回の授業で進める。毎回の授業は概ねに次のように進める。1) 小テスト（約 25 分） 2) テキストの学習（約 40 分） 3) 文法に関する問題演習、会話の練習など（約 35 分）。 外国語を身につけるために継続的な学習が必要なので、毎回授業の始めに小テストを設ける。またこの授業は教室の中での学習と自宅での学習を組み合わせる展開することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課 【換銭】	1 慣用句：挺+形容詞+的 2 助動詞：「要」 3 副詞：「点儿」 文法問題の演習/会話
3	第一課 【換銭】	1 「太+形容詞」 2 「就是」 文法問題の演習
4	第二課 【小学校内前】	1 「什么的」 2 「等等」 文法問題の演習/会話
5	第二課 【小学校内前】	1 「着」：場所+動詞+着 2 「在」：在+動詞 家族の称呼に関して： 「[]」[她] 「奶奶」「姥姥」
6	第三課 【早上的公园】	健康についての諺を紹介、説明 文法問題の演習/会話
7	第三課 【早上的公园】	「多～啊」 1 「数詞+多」 2 「怎么」 文法問題の演習/会話
8	第四課 【年人的就 []】	1 「了」：変化を表す 2 「又」：状況、動作の累加 部分的な否定を表す慣用句 「不都是」
9	第四課 【年人的就 []】	1 「了」：変化を表す 2 「又」：状況、動作の累加 部分的な否定を表す慣用句 「不都是」
10	第四課 【年人的就 []】	1 「了」：変化を表す 2 「又」：状況、動作の累加 部分的な否定を表す慣用句 「不都是」
11	第五課 【相 []】	1 能願動詞： 「[]」 2 推測の表現： 「听 []」
12	第五課 【相 []】	1 「就」の使い方 2 「很」の使い方 文法問題の演習/会話
13	第六課 【外甥的婚房】	1 「[]」の使い方 2 「本」の使い方 3 「支」の使い方 文法問題の演習/会話
14	第六課 【外甥的婚房】	1 副詞： 「[]」 2 慣用句：「就要～了」 第一課～第六課勉強した内容の復習、 文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、付属の教材 CD や <http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『日中いぶこみ 1 2 景』相原茂・蘇明

【参考書】

中国語辞書を必ず 1 冊用意すること（電子辞書可）
 『ポイント学習中国語初級』東方書店
 康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社
 佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の入を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で取るべき対応を取る。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 法文堂環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学習した内容を基礎とし、次のステップへ進む。

【到達目標】

- ・中国語による基本的な日常会話を聞いて理解できる。
- ・基礎的な中国語で自分の意思を伝えることができる。
- ・中国の歴史、文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1 課を 2 回の授業で進めていく。毎回の授業を概ねに次のように進める。1) 小テスト（約 25 分） 2) テキストの学習（約 40 分） 3) 文法に関する問題演習、会話の練習など（約 35 分）。外国語を身につけるためには、継続的な学習が必要なので、毎回授業の始めに小テストを設ける。またこの授業は教室の中での学習と自宅での学習を合わせて展開することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	第一課～第六課の復習
2	第七課 『婆媳关系』 不特定の表現： 「哪儿～？」	口語的な表現：『照』 書面的な表現：『按照』
3	第七課 『婆媳关系』 気持ちを表す語彙： 1 「幸福」 2 「愉快」 3 「心」	前置詞： 1 「从」 2 「到」
4	第八課 『川菜』 慣用句： 1 「既～又」 2 「是～啊」	1 連詞：「就是」 2 複合方向補語： 「出来」と「去」
5	第八課 『川菜』 量詞： 「家」の使う場合	語彙の説明： 「排出去」の使い方
6	第九課 『中～医』 慣用句： 「在～之中」	1 比較と選択の表現： 「是～是」 2 否定の表現： 「没有」
7	第九課 『中～医』 仮定の表現： 「～的」	解釈： 1 「只是」 2 「是」
8	文法のまとめ	第七課～第九課の復習、勉強した内容の確認
9	第十課 『九九重阳』 1 前置詞「」の使い方 2 慣用句「跟～一起」	副詞： 1 「将」の使い方 2 「尽快」の意味
10	第十課 『九九重阳』 1 「三世同堂」の意味 2 「孝」の語彙に内在する意味	常用副詞のまとめ 1 「或者」 2 「早就」 3 「尽快」
11	第十一課 『旅游』 1 副詞の「」について 2 慣用句の「～都」について	仮定の表現： 「如果～的」の使い方
12	第十一課 『旅游』 1 動詞の重ね「看看」 2 慣用句「是～的」	パソコン関係の語彙 1 「」 2 「网址」 3 「短信」
13	第十二課 『除夕夜』 お祝いの言葉に関する紹介、説明	1 疑問詞の「怎么」 2 前置詞としての「」

- 14 第十二課『除夕夜』 「年夜」に関する説明
1 副詞「才」 第七課～第十二課の復習、勉強した内
2 慣用句としての「有的」 容の確認
文法に関するまとめ、演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、付属の教材 CD や <http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『日中いぶこみ12景』相原茂・蘇明 朝日出版社

【参考書】

中国語辞書を必ず1冊用意すること（電子辞書可）
『ポイント学習中国語初級』東方書店
康玉華 『漢語301句』北京言語大学出版社
佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績評価の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるため、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で燃るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANe200LA

中国語 4 I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 4 I

2016 年度以前入学者

取 函

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年生で学んだ中国語から一歩すすんで準中級の会話スタイルの学習と練習を通して中国語の語彙を増やし、文法などの知識をより理解・定着させ、「自分のことばで」会話・表現できる力、また聴き取りの力を養う。

【到達目標】

テキストに出てくる身の回りの様々な場面の会話の学習と練習を通して、中国語の語彙を増やすとともに文法の仕組みを理解し、様々な場面に相応しい中国語の会話ができる能力が身に付くように訓練します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に1課を2回にわたって進めていく。1回目は会話文に出てくる語彙や文法要点や文型を学習・理解する。2回目は主に聞く・話す・読む・書くなどの応用練習を通じて、語彙や文法・文型の定着・応用力の向上に重点を置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 復習	中国語の発音と基本文法の復習 第1課単語・文法・文型・本文の理解と練習
第2回	第1課「自己紹介」(1)	読み・応用表現練習
第3回	第1課「自己紹介」(2) 第2課「仕事探し」(1)	第1課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第4回	第2課「仕事探し」(2)	読み・応用表現練習
第5回	第3課「私の新しい仕事」(1)	第2課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第6回	第3課「私の新しい仕事」(2)	読み・応用表現練習
第7回	小テスト、第4課「私たちの学校の図書館」(1)	第4課単語・文法・文型・本文の理解と練習
第8回	第4課「私たちの学校の図書館」(2)	読み・応用表現練習
第9回	第5課「期末試験を迎える」(1)	第4課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第10回	第5課「期末試験を迎える」(2)	読み・応用表現練習
第11回	第6課「試験後の息抜き」(1)	第5課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第12回	第6課「試験後の息抜き」(2)	読み・応用表現練習
第13回	まとめと復習	まとめと復習
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年次に学習した初級レベルの内容をきちんと身につけられるように日常から1年次の内容の総ざらいを心がけ、学習した単語・フレーズを繰り返して自分で音読し、そのうえで、毎回の授業で指示された応用練習を予め準備しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『準中級中国語 会話編 ～自分のことばで話す中国語～準中級編』奥村佳代子・塩山正純・張軼欧著 金星堂

【参考書】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験を7割、小テスト・会話や課題の発表・出席回数・授業参加態度などを3割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 4 II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 4 II

2016 年度以前入学者

耿 函

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年生で学んだ中国語から一歩すすんで準中級の会話スタイルの学習と練習を通して中国語の語彙を増やし、文法などの知識をより理解・定着させ、「自分のことばで」会話・表現できる力、また聴き取りの力を養う。

【到達目標】

テキストに出ている身の回りの様々な場面の会話の学習と練習を通して、中国語の語彙を増やすとともに文法の仕組みを理解し、様々な場面に相応しい中国語の会話ができる能力が身に付くように訓練します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に1 課を 2 回にわたって進めていく。1 回目は会話文に出ている語彙や文法要点や文型を学習・理解する。2 回目は主に聞く・話す・読む・書くなどの応用練習を通じて、語彙や文法・文型の定着・応用力の向上に重点を置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課「夏休みの過ごし方」(1)	単語・文法・文型・本文の理解と練習
第 2 回	第 7 課「夏休みの過ごし方」(2)	読み・応用練習
第 3 回	第 8 課「1 日インターン」(1)	第 7 課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第 4 回	第 8 課「1 日インターン」(2)	読み・応用練習
第 5 回	第 9 課「PPT レポート作り」(1)	第 8 課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第 6 回	第 9 課「PPT レポート作り」(2)	読み・応用練習
第 7 回	小テスト、第 10 課「クリスマスの過ごし方」(1)	単語・文法・文型・本文の理解と練習
第 8 回	第 10 課「クリスマスの過ごし方」(2)	読み・応用練習
第 9 回	第 11 課「春節の習俗」(1)	第 10 課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第 10 回	第 11 課「春節の習俗」(2)	読み・応用練習
第 11 回	第 12 課「将来の仕事」(1)	第 11 課の復習、単語・文法・文型・本文の理解と練習
第 12 回	第 12 課「将来の仕事」(2)	読み・応用練習
第 13 回	まとめと復習	まとめと復習
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年次に学習した初級レベルの内容をきちんと身につけられるように日常から 1 年次の内容の総ざらいを心がけ、学習した単語・フレーズを繰り返して自分で音読し、そのうえで、毎回の授業で指示された応用練習を予め準備しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「準中級中国語 会話編 ～自分のことばで話す中国語～準中級編」奥村佳代子・塩山正純・張軼欧著 金星堂

【参考書】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 7 割、小テスト・会話や課題の発表・出席回数・授業参加態度などを 3 割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the upper intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition

LANc200LA

中国語 (3) I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 (3) I

2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年生で習った初級をしっかりと復習しながら、日常をコミュニケーションでできる中級レベルの中国語を目指しましょう。

【到達目標】

基礎段階を終えた学習者を対象に、より複雑な中国語の表現で日常生活における交流場面に対応できるように、読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。到達レベルは、中国語検定試験の 3 級合格可能な程度である。3 級合格者は、成績評価が A+ となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し、仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常生活における交流場面に対応する、比較的高度な中国語のコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

授業の方法については、まず前回の授業で習った内容について会話を練習する。新出単語を簡単に説明した後、ビデオで本文と基本的な文法事項を確認する。本文の朗読を十人程度させた上、ビデオを見ながら質問に答える練習を行う。その上、叙述文を質問文に変える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第一課	初級の復習 (1)
2 回	第一課	初級の復習 (2)
3 回	第二課	初級の復習 (1)
4 回	第二課	初級の復習 (2)
5 回	第三課	ある動作を行う目的や方法を説明する表現
6 回	第四課	好き嫌い・心配の表現
7 回	復習	第一課～第四課の復習
8 回	第五課	動作の程度・状態を説明する表現
9 回	第六課	能力と可能性の表現
10 回	第七課	動作の結果を説明する表現
11 回	第八課	動作の方向を説明する表現
12 回	第九課	動作の結果と方向の可能性を表す表現
13 回	第十課	使役の表現
14 回	復習	I 期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切である。初級に比べより高度な内容となるので、放課後の予習・復習を怠らないこと。付属の CD と DVD を活用して、また初級復習用に配布したプリントに基づく問答ができるよう（試験範囲内）、練習を繰り返し行い、毎回授業の初めに聞かれる質問に即答できるようにしていただきたい。

【テキスト（教科書）】

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2～5 点マイナスになる。

検定試験 4 級合格者：I 期終了時合格は 15 点プラス。

検定試験 3 級合格者：I 期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

書く練習をより多くしたいとの要望に応じていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 版テキストは、授業支援システムより各自ダウンロードし、印刷する必要があります。

附属 CD・DVD も授業支援システムにて提供されます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 (3) II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 (3) II

2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一年生で習った初級をしっかりと復習しながら、日常をコミュニケーションでできる中級レベルの中国語を目指しましょう。

【到達目標】

基礎段階を終えた学習者を対象に、より複雑な中国語の表現で日常生活における交流場面に対応できるように、読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。到達レベルは、中国語検定試験の 3 級合格可能な程度である。3 級合格者は、成績評価が A+ となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し、仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常生活における交流場面に対応する、比較的高度な中国語のコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

授業の方法については、まず前回の授業で習った内容について会話を練習する。新出単語を簡単に説明した後、ビデオで本文と基本的な文法事項を確認する。本文の朗読を十人程度させた上、ビデオを見ながら質問に答える練習を行う。その上、叙述文を質問文に変える練習をする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	総括	I 期期末試験の解説
2 回	復習	春学期の復習
3 回	第十一課	受身の表現
4 回	第十二課	存在と出現を説明する表現
5 回	第十三課	対象への処理・処分を表す表現
6 回	第十四課	二つの動作の前後順・時間順の表現
7 回	復習	第十一課～第十四課の復習
8 回	第十五課	仮定の表現
9 回	第十六課	因果関係を表す表現
10 回	第十七課	逆接関係を表す表現
11 回	第十八課	付け加えの表現
12 回	第十九課	除外の表現
13 回	第二十課	何でもどこでも誰でも
14 回	復習	II 期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切である。初級に比べより高度な内容となるので、放課後の予習・復習を怠らないこと。付属の CD と DVD を活用して、また初級復習用に配布したプリントに基づく問答ができるよう (試験範囲内)、練習を繰り返し行い、毎回授業の初めに聞かれる質問に即答できるようにしていただきたい。

【テキスト (教科書)】

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題 (小テストなど) 15 %、期末試験 60 % とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2～5 点マイナスになる。

検定試験 3 級合格者：II 期終了時合格は 90 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

書く練習をより多くしたいとの要望に応じていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 版テキストは、授業支援システムより各自ダウンロードし、印刷する必要があります。

附属 CD・DVD も授業支援システムにて提供されます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 (3) I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 (3) I

2016 年度以前入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一年生で学んだ中国語から一歩進んで、教科書に沿って重要なポイントをくり返し練習しながら、自分のことや日本のことを中国語で伝えられるようになるための訓練をします。教科書の内容を通して、中国、台湾、香港等の中華圏とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習します。

【到達目標】

中国語で会話ができるようになるための訓練を通して、準中級から中級レベルの中国語能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で中国語による会話表現を反復練習し、テキストの日本語訳や中国語の文法・語彙について、全員に発言を求めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	「 <input type="checkbox"/> 一下儿好 <input type="checkbox"/> 」本文の解説と会話の練習
2	第 1 課	ポイント (助動詞「会」など 5 項目) の説明とドリル
3	第 2 課	「 <input type="checkbox"/> 想去的方很多」本文の解説と会話の練習
4	第 2 課	ポイント (介詞「 <input type="checkbox"/> 」など 5 項目) の説明とドリル
5	第 3 課	「 <input type="checkbox"/> 好久不 <input type="checkbox"/> 」本文の解説と会話の練習
6	第 3 課	ポイント (動態助詞「了」など 5 項目) の説明とドリル
7	第 4 課	「 <input type="checkbox"/> 子去旅行」本文の解説と会話の練習
8	第 4 課	ポイント (複文「 <input type="checkbox"/> 因 <input type="checkbox"/> ~所以~」など 5 項目) の説明とドリル
9	第 5 課	「 <input type="checkbox"/> 外国人都喜 <input type="checkbox"/> 吃」本文の解説と会話の練習
10	第 5 課	ポイント (複文「先~然后~」など 5 項目) の説明とドリル
11	第 6 課	「今天我 <input type="checkbox"/> 客」本文の解説と会話の練習
12	第 6 課	ポイント (複文「不但~而且~」など 5 項目) の説明とドリル
13	総復習	前期の内容のまとめ
14	授業内試験	前期の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で指示された範囲の最低限の予習を欠かさないこと。

【テキスト (教科書)】

徐逸迎『仲間て話そう中国語』、白水社

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の態度や小テスト) 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 (3) II 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 (3) II 2016 年度以前入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一年生で学んだ中国語から一歩進んで、教科書に沿って重要なポイントをくり返し練習しながら、自分のことや日本のことを中国語で伝えられるようになるための訓練をします。教科書の内容を通して、中国、台湾、香港等の中華圏とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習します。

【到達目標】

中国語で会話ができるようになるための訓練を通して、準中級から中級レベルの中国語能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で中国語による会話表現を反復練習し、テキストの日本語訳や中国語の文法・語彙について、全員に発言を求めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第7課	「我☐的梦想」本文の解説と会話の練習ポイント (介詞「作☐～」など5項目) の説明とドリル
2	第7課	「我有一个愿望」本文の解説と会話の練習ポイント (挿入語「据☐～」など5項目) の説明とドリル
3	第8課	「☐☐个人☐☐」本文の解説と会話の練習ポイント (介詞「向～」など5項目) の説明とドリル
4	第8課	「☐系方法」本文の解説と会話の練習ポイント (「快～了」など5項目) の説明とドリル
5	第9課	「☐到我家做客」本文の解説と会話の練習ポイント (介詞「跟」など5項目) の説明とドリル
6	第9課	後期の内容のまとめ
7	第10課	後期の内容の定着度チェック
8	第10課	
9	第11課	
10	第11課	
11	第12課	
12	第12課	
13	総復習	
14	授業内試験	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業で指示された範囲の最低限の予習を欠かさないこと。

【テキスト (教科書)】

徐送迎『仲間で話そう中国語』、白水社

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の態度や小テスト) 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 7 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 7 2016 年度以前入学者

曾 士才

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 2 年 SA

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国語 1～6 で学んだことを基礎にして、中国語の読解能力と聞き取り能力を並行してトレーニングする。

【到達目標】

半年後の上海外国語大学での授業にスムーズに入れることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

SAでの授業を念頭に置き、素材の対話文、長文だけでなく、解説もすべて中国語の音声教材を用いる。教材の内容は中国の社会、歴史、民族、文化、風俗習慣、故事来歴など多彩である。毎回の授業では、中国語の朗読練習、語句の使い方の説明と練習、日本語への翻訳を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と準備学習の説明と心構え、WEB版教材の紹介をする。
第2回	素材1 (1) の聞き取りと読解	上海事情に関する教材を用い、対話形式の課文とその解説部分を読み、聞き取れるようにする。
第3回	素材1 (2) の聞き取りと読解	引き続き課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第4回	素材1 (3) の聞き取りと読解	残りの課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。最後に全文を頭から再度聞き通す。
第5回	素材2 (1) の聞き取りと読解	社会に関する課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第6回	素材2 (2) の聞き取りと読解	引き続き課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第7回	素材2 (3) の聞き取りと読解	残りの課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。最後に全文を頭から再度聞き通す。
第8回	素材3 (1) の聞き取りと読解	風俗習慣に関する課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第9回	素材3 (2) の聞き取りと読解	引き続き課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第10回	素材3 (3) の聞き取りと読解	残りの課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。最後に全文を頭から再度聞き通す。
第11回	素材4 (1) の聞き取りと読解	ことわざに関する課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第12回	素材4 (2) の聞き取りと読解	引き続き課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。
第13回	素材4 (3) の聞き取りと読解	残りの課文とその解説を読み、聞き取れるようにする。最後に全文を頭から再度聞き通す。
第14回	テストと講評	聞く力と読解力を測定するテストの実施と講評を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業までに、WEB版教材の音声文字起こし、日本語訳をつけておく。なお、予習の進捗状況、理解度などを事前に担当教員が把握できるシステムになっている。

WEB版教材の利用方法については、初回の授業で説明する。

【テキスト (教科書)】

愛漢語播客 2010 年集 (iMandarin Pod.com) からセレクトした音声教材を使用。

【参考書】

各自使い慣れている辞書と文法書を持参する。

【成績評価の方法と基準】

準備学習 (20 %) と期末に行うテスト (80 %) によって評価する。出席は成績評価の大前提である。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習の状況を把握するシステムにより、授業ではよりきめ細やかな説明をするようにしたい。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of both reading and hearing,on the basis of their abilities trained in Chinese 1~6 .

The goal of this course is to let Pre-SA students develop their Chinese communication skills in order to apply themselves to the class in Shanghai International Studies University smoothly.

LANe200LA

中国語 8

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 8

2016 年度以前入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 2 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

H S K の過去問のディクテーションを通じて、4 級合格に必要な 1200 語の語彙力と語法知識、リスニング力を身につけていく。

また、過去問のシミュレーターによる模擬試験によって、H S K の問題形式に慣れ、確実な合格をめざす。

【到達目標】

H S K 4 級の合格に必要な 1200 語の語彙力と語法知識、リスニング力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅での e-Learning による予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な授業の進め方は次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、H S K のリスニング問題のディクテーションを行う

【授業の進め方と方法】

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）
- ②リスニング問題の解説の後、解答の作文練習
- ③スキットのロールプレイ練習
- ④過去問シミュレーターによる模擬試験

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目標と学習方法の解説
第 2 回	H S K 3 級リスニング対策①	H S K 3 級リスニング問題の第一部分の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 3 回	H S K 3 級リスニング対策②	H S K 3 級リスニング問題の第二部分の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 4 回	H S K 3 級リスニング対策③	H S K 3 級リスニング問題の第三部分の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 5 回	H S K 3 級リスニング対策④	H S K 3 級リスニング問題の第四部分（前半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 6 回	H S K 3 級リスニング対策⑤	H S K 3 級リスニング問題の第四部分（後半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 7 回	H S K 3 級リスニング対策⑥	H S K 3 級模擬試験
第 8 回	H S K 4 級リスニング対策①	H S K 4 級リスニング問題の第一部分（前半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 9 回	H S K 4 級リスニング対策②	H S K 4 級リスニング問題の第一部分（後半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 10 回	H S K 4 級リスニング対策③	H S K 4 級リスニング問題の第二部分（前半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 11 回	H S K 4 級リスニング対策④	H S K 4 級リスニング問題の第二部分（後半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 12 回	H S K 4 級リスニング対策⑤	H S K 4 級リスニング問題の第三部分（後半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 13 回	H S K 4 級リスニング対策⑥	H S K 4 級リスニング問題の第三部分（後半）の解説と解答の作文練習、スキットのロールプレイ練習
第 14 回	H S K 4 級リスニング対策⑦	H S K 4 級模擬テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

- ①パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーションを行う
 ②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、ロールプレイができるよう準備する

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

・劉月華ほか『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

- ①授業のはじめに行う小テスト（60%）
 ②事前学習（ディクテーション）の実施状況（20%）
 ③ロールプレイの内容（20%）

【学生の意見等からの気づき】

自宅にパソコンがない学生のため、スマートフォンでも利用できるよう教材を修正した。

【Outline and objectives】

Chinese 8 is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China in the next semester. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 1200 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 4.

Grammar:

We will learn the intermediate grammar required for the HSK level 4.

Skills work:

We will expand vocabulary and improve listening skills through the use of e-Learning.

Through the use of a test simulator, we will do mock examinations of the HSK, Chinese proficiency test, to prepare students to take, the HSK proficiency test.

LANe200LA

中国語 3-I

2017 年度以降入学者

LANe200LA

中国語 3-I

2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 G~I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次に学んだ初級中国語の基礎を踏まえて、各自の中国語能力を中級レベルに向上させ、併せて日中二国間の文化の違いについて理解を深める。

【到達目標】

- ・初級中国語の基礎をしっかりと定着させる。
- ・中国語の文章読解能力を高める。
- ・華語圏の人々に対して、中国語（華語）で日本の様々な情報を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

指定テキストの内容に沿って授業を進める（基本的に読んで訳すが中心）。また、折に触れて授業内小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	一年間の授業の進め方・方針・約束事などを説明し、併せて現在の華語圏の状況等を解説する。
2	第一課 相☒	課文「自我介☒」、おさらい文法「从～」・「～☒」
3	第一課 相☒	ポイント「～☒」・「因～☒」・「虽然～，但是～」・練習問題
4	第二課 ☒花季	課文「☒花」、おさらい文法 結果補語・「☒～」
5	第二課 ☒花季	ポイント「会」・「一～就～」・「不管是～☒是～」・練習問題
6	第三課 浅草一日游	課文「不～☒的煎☒」、おさらい文法 動詞+単純方向補語・連動文（1）
7	第三課 浅草一日游	ポイント「～而且～」・「～的」構造・動詞+「着」、練習問題、単元復習（一課～三課）
8	第四課 在雨中	課文「梅雨季☒的☒趣」、おさらい文法 二つの「了」・「听☒」
9	第四課 在雨中	ポイント「即使～也～」・「可能」・「以～」・練習問題
10	第五課 七夕的心愿	課文「两个情人☒」、おさらい文法 動詞+「在」～・「可以」
11	第五課 七夕的心愿	ポイント「提起」・「快要」・「～或者～」・練習問題
12	第六課 焰火的浪漫	課文「夏天的☒目」、おさらい文法「别」・「有点儿」
13	第六課 焰火的浪漫	ポイント「一点儿」・「～极了」・「一☒～一☒～」・練習問題、単元復習（四課～六課）
14	期末試験	筆記・ヒアリング試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須。毎回、各課に出て来る単語・課文・例文の意味を、事前に調べておく。また、二回に一回の頻度で宿題として課される各課の練習問題を事前にやっておく。その際は、問題を解くだけでなく、必ず各漢字のピンインも調べて記しておく。

【テキスト（教科書）】

『日中ふれあい「漢語」教室』（李貞愛著、朝日出版社、2018、2200 円+税）。また、一年時に使用した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を必ず授業時に持参すること。

【参考書】

中日辞典を必ず用意すること（どこの出版社のものでも良い。電子辞書も可とする）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・授業内小テスト）20%
期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 - II

2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 G~I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年次に学んだ初級中国語の基礎を踏まえて、各自の中国語能力を中級レベルに向上させ、併せて日中二国間の文化の違いについて理解を深める。

【到達目標】

- ・初級中国語の基礎をしっかりと定着させる。
- ・中国語の文章読解能力を高める。
- ・華語圏の人々に対して、中国語（華語）で日本の様々な情報を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

指定テキストの内容に沿って授業を進める（基本的に読んで訳すが中心）。また、折に触れてを授業内小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第七課 教☑	課文「☑生情」、おさらい文法“才” (1)・様態補語
2	第七課 教☑	ポイント“向～”・“在～上”・“☑～”、 練習問題
3	第八課 学園祭	課文「校园文化」、おさらい文法“更”・ “☑得”
4	第八課 学園祭	ポイント“由～”・“和～比、～更～”・ 差量補語、練習問題
5	第九課 双 11	課文「百奇日和光棍☑」、おさらい文 法“怎么”・“☑☑”
6	第九課 双 11	ポイント“作☑”・“把～”・“越来越～”、 練習問題
7	第十課 秋游	課文「共享☑☑」、おさらい文法“再”・ 連動文(2)
8	第十課 秋游	ポイント 複合方向補語の“起来”・“离 ～”・“～没有～(☑么/那么)～”、練習 問題
9	第十一課 ☑年	課文「☑白歌会和是春晚」、おさらい 文法 時量補語：“～和～☑”
10	第十一課 ☑年	ポイント“按～”・“差不多”・“☑”、練 習問題
11	第十二課 成人☑	課文「☑祝成人」、おさらい文法“～比 ～☑”・“又”
12	第十二課 成人☑	ポイント“被～”・“并且”・“如果～就 ～”、練習問題
13	総合復習	単元復習（七課～九課、十課～十二課）
14	期末試験	筆記・ヒアリング試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須。毎回、各課に出て来る単語・課文・例文の意味を、事前に調べておく。また、二回に一回の頻度で宿題として課される各課の練習問題を事前にやっておく。その際は、問題を解くだけでなく、必ず各漢字のピンインも調べて記しておく。

【テキスト（教科書）】

『日中ふれあい“漢語”教室』（李貞愛著、朝日出版社、2018、2200 円＋税）。また、一年時に使用した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を必ず授業時に持参すること。

【参考書】

中日辞典を必ず用意すること（どこの出版社のものでも良い。電子辞書も可とする）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・授業内小テスト）20%
期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 - I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 - I

2016 年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 J~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語 1、中国語 2 を一通り終えた学生を対象にする授業です。使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた 2 年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語 1 と中国語 2 の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、しっかり読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。

教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。

授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をもします。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の 5 分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介する。 ②自己紹介を練習する。
2 回目	第 1 課 三大産業の区分	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3 回目	第 2 課 銀行サービスのご案内	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4 回目	第 3 課 不動産業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5 回目	第 4 課 会社概要	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6 回目	第 5 課 パソコンの新製品	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7 回目	第 6 課 取締役会の議事録	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
8 回目	第 7 課 生産部門	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
9 回目	第 8 課 ソーシャルサイド	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
10 回目	第 9 課 物流業界	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
11 回目	第 10 課 投資方法の紹介	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
12 回目	復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。
13 回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする。
14 回目	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,200円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、私語または携帯の辞書以外の使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語3-II

2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語3-I

2016年度以前入学者

王 翠莉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環2年J~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語3Iの続きの授業です。

中国語1、中国語2を一通り終えた学生を対象にする授業です。

使用教科書は、今年発売の新書で、内容は銀行、不動産、会社管理、インターネット事情、環境保護、労働契約、物流、投資、会計と財務など幅広い分野をカバーしているので、中国語の基礎勉強を終えた2年生にとっては、とても実用的で充実している内容です。

本授業では、中国語1と中国語2の授業で学んだ中国語の基礎知識を生かして、読解、翻訳、作文の勉強と練習をします。

【到達目標】

教科書の勉強と練習により、中国語の読解力を向上させ、中級レベルの中国語文章が読み取れて、ちゃんと翻訳できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的には教科書に従って授業を進めます。

教科書の各課は、本文、ポイント、練習問題からなっています。

授業の進め方は、まず、教科書のポイントを説明し、受講生たちにポイントの例文を音読の上、翻訳してもらいます。本文を勉強する際、まず、難しい中国語の表現を説明し、それから、受講生たちに音読の上、翻訳してもらいます。最後に、練習問題をやります。時間の余裕がある時、音読の練習と短文作りの練習をします。

また、三回目の授業から、毎回授業の最初の5分間で、単語小テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	①オリエンテーション ②総合復習	①本授業の目標・内容、授業の進め方、成績評価の方法などについて説明し、使用教科書を紹介します。 ②自己紹介を練習する。
2回目	第11課 経営管理の課題	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
3回目	第12課 環境/リサイクル	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
4回目	第13課 労働契約の締結	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
5回目	第14課 アフターサービスの方針	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
6回目	第15課 経理と財務	①ポイントを説明する ②本文を読解する。 ③練習問題をやる。
7回目	総合復習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
8回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
9回目	総合練習	音読、翻訳、短文づくりなどの総合練習をする
10回目	中国語検定試験4級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
11回目	中国語検定試験4級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
12回目	中国語検定試験3級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
13回目	中国語検定試験3級過去問題	①過去問の筆記部分をやる ②解説する
14回目	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習はとても大事なことです。

【テキスト（教科書）】

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん・趙青著、白水社、2019年2月、2,300円＋税

【参考書】

中国語辞書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点と期末試験の成績により総合評価を出す。

平常点は30%、期末試験は70%。

平常点には、出席、授業中の小テストと練習および学習態度等を含む。

*無断欠席4回以上の受講生は評価対象にならない可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語と中国語学習以外の携帯使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe200LA

中国語3-I

2017年度以降入学者

LANe200LA

中国語3-I

2016年度以前入学者

三田村 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5
環2年A～C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法を復習しながら、文法項目の更なる基礎固めを行う。基礎の中国語で学習した事項をもとに、聞く・話す・読む・書くをバランスよく練習する。それによって、中級以上の中国語を学習する際に必要な事項を学習する。

【到達目標】

春学期終了時には、中国語検定4級程度の能力を習得し、簡単な会話を正確な文法を用いて行えることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

はじめの3回については、基礎で学んだ事項について復習する。毎回、授業の始めに簡単な発音とヒアリングの練習を行い、本文へ進む。教科書は、文法の解説、発音練習、本文の訳といった順序で進める。その後、練習問題を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎で学習したことの復習①	自己紹介。特に発音の確認と練習。
第2回	基礎で学習したことの復習②	基礎文法事項の練習。
第3回	基礎で学習したことの復習③復習と小テスト	通学について話す。
第4回	動作の出来や程度・簡単な構文	趣味の聞き方と答え方。
第5回	伝聞・比較と簡単な構文の練習	アルバイトや仕事について話す。
第6回	小テスト	第1課から第3課まで
第7回	時に関する表現	スケジュールに関連する表現の練習と検定問題。
第8回	補語表現と少し複雑な表現	指定した部分の暗誦と検定問題を実際に取り組んでみる。
第9回	少し複雑な表現と使役の練習	料理を注文する①
第10回	構文を用いての応用練習・特に把構文	料理を注文する②実際の状況を想像しながら作文してみる。
第11回	構文を用いての応用練習	検定問題の文法部分を行う。
第12回	全体の復習	第4課から第6課。
第13回	ヒアリングと発音の復習と暗誦	第4課から第6課。
第14回	文法事項の復習	補語表現や把構文を主に練習する。到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間のないときは音声教材だけでもよく聴いてくること。

また辞典を持っているのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

『しゃべくり中国語～場面による中国語会話』内田慶市・張軼欧著
金星堂 2200円 また随時、プリントを配布

【参考書】

授業開始時に辞典や参考書について詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、宿題・小テスト30%、平常点20%を総合して評価する。

平常点には宿題の提出や暗誦を含む。また、春学期においてはHSK3・4級・中国語検定試験4級合格者には10%を上限として加点をする。点数が極めて良好な場合は期末試験の一部を免除する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に口頭での練習をしてもらうために頻繁に当てるようにしたが少し騒がしいと感じた学生もいたので、待機している学生には別の課題をもらうなど、口頭練習に集中できるような対策をとりたい。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材をダウンロードできる機器

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 - II

2016 年度以前入学者

三田村 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 A～C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法に関しては、よく使用される中級構文を練習問題を通して確実なものとする。また、いくらか長い会話文の学習を通じ、さまざまな中国語の表現を身につける。実際に作文や口頭の練習を行うことによって、HSK や中国語検定試験に対応しうる能力を養成する。

【到達目標】

より複雑な構文を習得し、自分の生活に関する事柄を明瞭に話せるようになる。文法に関しては中国語検定 3 級程度の能力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

春学期よりも授業進行が、若干速めになる。基本的には、春学期の授業進行と同様、文法の解説、発音の練習、本文の訳の順番だが、途中で、中国語検定問題や応用問題を行う時間をとる。また、比較的難解な文法事項については、プリントを使用しながら、十分に時間をかけて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課から第 6 課までの復習と発音練習	発音練習を中心に。
第 2 回	新しい構文①と副詞	診察を受ける。すでに起こったことについて尋ねる表現。
第 3 回	新しい構文②	病院での表現。動作・行為・状況の結果の表現と練習問題。
第 4 回	相手の意見を求める表現と限度・限界の表現	買い物をする。本文の翻訳の確認と文法の解説。
第 5 回	復習	第 1 回から 4 回までの練習と簡単な文章の暗誦。
第 6 回	小テスト	食事・病院・買い物にかんする表現のまとめ。
第 7 回	把構文の復習と比較の表現	旅行について。強調構文の練習と本文の訳と文法解説。
第 8 回	結果補語・反語・使役の表現	検定試験の問題にも取り組む。
第 9 回	補語表現の総合復習	髪型について。本文の訳と文法解説。
第 10 回	方向補語と「了」の復習	検定試験の補語についての問題を行う。
第 11 回	小テスト	第 7 回から 10 回までの指定部分暗誦とヒアリング。
第 12 回	新しい構文を使った表現練習①	ファッション。本文の翻訳と文法の解説。
第 13 回	新しい構文を使った表現練習②	検定問題を用いた練習。
第 14 回	応用表現の総合復習 筆記試験	第 11 回から第 13 回までを中心に。ホテルを予約するときに役立つ表現の暗誦。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は内容も難しくなるので、音声教材を授業以外の時間にもよく聴くこと。また授業以外でも DVD を観るなど、幅広く興味を持ってほしい。

【テキスト（教科書）】

『しゃべくり中国語～場面による中国語会話』内田慶市・張軼欧著
金星堂 2200円（税別） また随時、プリントを配布。

【参考書】

授業時開始時に過去問や辞典や参考書について、再度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、宿題・小テスト 30 %、平常点 20 %を総合して評価する。平常点には宿題の提出や暗誦を含む。点数が極めて良好な場合は期末試験の一部を免除する。3 分の 1 以上欠席した学生は評価の対象としない。また、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。特に各自が行う課題に関しては採点の比重を重く置く。中検 3 級合格者は試験を免除し A+ の評価を与える。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は『ポイント学習』のe練習を並行して復習を行った。任意での参加であったが、積極的に復習に取り組んだ学生は結果的に授業での成績も良好であった。暗誦など、口頭練習時に、待機する学生が取り組めるよう、今年度も引き続き行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

音声ダウンロードできる機器

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 - I

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 - I

2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 D~F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年生で習った初級をしっかりと復習しながら、日常をコミュニケーションでできる中級レベルの中国語を目指しましょう。

【到達目標】

基礎段階を終えた学習者を対象に、より複雑な中国語の表現で日常生活における交流場面に対応できるように、読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。到達レベルは、中国語検定試験の 3 級合格可能な程度である。3 級合格者は、成績評価が A+ となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し、仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常生活における交流場面に対応する、比較的高度な中国語のコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

授業の方法については、まず前回の授業で習った内容について会話を練習する。新出単語を簡単に説明した後、ビデオで本文と基本的な文法事項を確認する。本文の朗読を十人程度させた上、ビデオを見ながら質問に答える練習を行う。その上、叙述文を質問文に変える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	第一課	初級の復習 (1)
2 回	第一課	初級の復習 (2)
3 回	第二課	初級の復習 (1)
4 回	第二課	初級の復習 (2)
5 回	第三課	ある動作を行う目的や方法を説明する表現
6 回	第四課	好き嫌い・心配の表現
7 回	復習	第一課～第四課の復習
8 回	第五課	動作の程度・状態を説明する表現
9 回	第六課	能力と可能性の表現
10 回	第七課	動作の結果を説明する表現
11 回	第八課	動作の方向を説明する表現
12 回	第九課	動作の結果と方向の可能性を表す表現
13 回	第十課	使役の表現
14 回	復習	I 期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切である。初級に比べより高度な内容となるので、放課後の予習・復習を怠らないこと。付属の CD と DVD を活用して、また初級復習用に配布したプリントに基づく問答ができるよう（試験範囲内）、練習を繰り返し行い、毎回授業の初めに聞かれる質問に即答できるようにしていただきたい。

【テキスト（教科書）】

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2～5 点マイナスになる。

検定試験 4 級合格者：I 期終了時合格は 15 点プラス。

検定試験 3 級合格者：I 期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

書く練習をより多くしたいとの要望に応じていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 版テキストは、授業支援システムより各自ダウンロードし、印刷する必要があります。

附属 CD・DVD も授業支援システムにて提供されます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語 3 - II

2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 D~F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年生で習った初級をしっかりと復習しながら、日常をコミュニケーションでできる中級レベルの中国語を目指しましょう。

【到達目標】

基礎段階を終えた学習者を対象に、より複雑な中国語の表現で日常生活における交流場面に対応できるように、読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。到達レベルは、中国語検定試験の 3 級合格可能な程度である。3 級合格者は、成績評価が A+となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し、仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常生活における交流場面に対応する、比較的高度な中国語のコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

授業の方法については、まず前回の授業で習った内容について会話を練習する。新出単語を簡単に説明した後、ビデオで本文と基本的な文法事項を確認する。本文の朗読を十人程度させた上、ビデオを見ながら質問に答える練習を行う。その上、叙述文を質問文に変える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	総括	I 期期末試験の解説
2 回	復習	春学期の復習
3 回	第十一課	受身の表現
4 回	第十二課	存在と出現を説明する表現
5 回	第十三課	対象への処理・処分を表す表現
6 回	第十四課	二つの動作の前後順・時間順の表現
7 回	復習	第十一課～第十四課の復習
8 回	第十五課	仮定の表現
9 回	第十六課	因果関係を表す表現
10 回	第十七課	逆接関係を表す表現
11 回	第十八課	付け加えの表現
12 回	第十九課	除外の表現
13 回	第二十課	何でもどこでも誰でも
14 回	復習	II 期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切である。初級に比べより高度な内容となるので、放課後の予習・復習を怠らないこと。付属の CD と DVD を活用して、また初級復習用に配布したプリントに基づく問答ができるよう（試験範囲内）、練習を繰り返し行い、毎回授業の初めに聞かれる質問に即答できるようにしていただきたい。

【テキスト（教科書）】

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題（小テストなど）15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2～5 点マイナスになる。

検定試験 3 級合格者：II 期終了時合格は 90 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

書く練習をより多くしたいとの要望に応じていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 版テキストは、授業支援システムより各自ダウンロードし、印刷する必要があります。

附属 CD・DVD も授業支援システムにて提供されます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for intermediate learners. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語コミュニケーション基礎 I 2017 年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーション I 2016 年度以前入学者

薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文堂国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この中国語コミュニケーション基礎 I については、言語に共通の 4 技能：「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」をより正確に把握することで、基本的な中国語発音を基とし、肝心の言い伝えることを、正しい発音をしっかりと身につけることにより、はじめて本当の意味での中国語によるコミュニケーション能力を向上できるようにこの授業の目的とする。

【到達目標】

中国語によるコミュニケーションについては、先ず簡単な会話を交わすことよりスタートし、徐々に複雑な、いろんな分野においての意思の疎通を交わせるようになるもの、基は自信を持って正しい発音を身につけることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語によるさまざまな表現を紹介し、学習者自らさまざまな表現を体験し、発音の特徴を把握できるように、毎回の課題の提示を、その課題をしっかりと内容復習や発音練習することにより、授業内にて発表を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と紹介	中国語コミュニケーション I に対する授業の紹介と学生による自己紹介
第 2 回	第 1 課	中国語による発音の特徴 1、発音記号 2、4 声と轻声 3、構文形式
第 3 回	第 2 課	中国語による自己紹介の形式と作成
第 4 回	第 3 課	中国語による自己紹介の実施
第 5 回	第 4 課	音読前の確認事項、要領。そして、短文の分析によるポイントのチェック
第 6 回	第 5 課	音読の確認、特徴、全体のバランス
第 7 回	第 1 ユニットの復習	音読前の確認事項、要領。そして、短文の分析によるポイントのチェック
第 8 回	第 6 課	音読の確認、特徴、全体のバランス
第 9 回	第 7 課	朗読前の確認事項、要領。そして、漢詩の分析によるポイントのチェック
第 10 回	第 8 課	朗読の確認、特徴、全体のバランス
第 11 回	第 9 課	歌唱前の確認事項、要領。そして、歌詞やメロディーの分析によるポイントのチェック
第 12 回	第 10 課	歌唱の確認、特徴、全体のバランス
第 13 回	第 2 ユニットの復習	作成前の確認事項、要領。そして、表現内容の分析によるポイントのチェック
第 14 回	春学期のまとめ	到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、指示した本文の内容を、次回までに覚えて発表すること。

毎回の授業にしたがって、教科書の内容をよく復習し、不明な点をしっかりとチェックし、CD や類似の学習資料をよく確認すること、それをベースにし、予習を実施すること。

【テキスト（教科書）】

1、「ともだち・朋友」1 董 燕・遠藤光暁著 朝日出版社 2,700 円＋税
2、授業に必要な教科内容をコピーして提示する。音声 CD や類似の学習資料を補充資料とする。

【参考書】

日中辞典（小学館）
中日辞典（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、授業に対する態度、設問に対する応答、遅刻、欠席の有無等： 20点
2、授業に対する宿題の提出、暗誦や完成度等： 20点
3、春学期末における到達度チェック等： 60点

【学生の意見等からの気づき】

学生よりの意見や提案を随時に吸収し、よく分析をすることによって、授業改善を実施する。なお、春学期末到達度チェック時に、学生より「感想」を聞かせて頂き、さらなる授業改善を構築する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for beginners. The aim of this course is to acquire natural Chinese pronunciation.

LANc200LA

中国語コミュニケーション基礎Ⅱ 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーションⅡ 2016年度以前入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この中国語コミュニケーション基礎Ⅱについては、言語に共通の4技能：「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」をより正確に把握することで、基本的な中国語発音を基とし、肝心の言い伝えることを、正しい発音をしっかりと身につけることにより、はじめて本当の意味での中国語によるコミュニケーション能力を向上できるようにこの授業の目的とする。

【到達目標】

中国語によるコミュニケーションについては、先ず簡単な会話を交わすことよりスタートし、徐々に複雑な、いろんな分野においての意思の疎通を交わせるようになるもの、基は自信を持って正しい発音を身につけることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語によるさまざまな表現を紹介し、学習者自らさまざまな表現を体験し、発音の特徴を把握できるように、毎回の課題の提示を、その課題をしっかりと内容復習や発音練習することにより、授業内にて発表を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期中学習内容に対する復習	春学期に学習した内容の復習により、秋学期の授業進行に基礎を確認する。
第2回	第1課	音読前の確認、特徴の把握、場面の背景、音読の要領、内容の認識
第3回	第1.2課	音読の実施、明確な発音、ジェスチャーの言語表現
第4回	第1.3課	会話前の確認、特徴の把握、場面の設定、質問応答の要領、話し手の認識
第5回	第1.4課	会話練習の実施、会話中の対応、言語表現と非言語表現の工夫
第6回	第1.5課	歌唱前の確認、特徴の把握、発音の要領、メロディーの認識、リズムの感覚
第7回	第3ユニットの復習	歌唱練習の実施、歌唱中の対応、間の工夫、場面の背景
第8回	第1.6課	宋詞を朗読前の準備、特徴の確認、発音の工夫
第9回	第1.7課	宋詞の朗読を実施、表現の特徴、リズムの工夫
第10回	第1.8課	宋詞を朗読前の準備、特徴の確認、発音の工夫
第11回	第1.9課	宋詞の朗読を実施、表現の特徴、リズムの工夫
第12回	第2.0課	作成前の確認、特徴の把握、場面の背景、音読の要領、内容の認識
第13回	第4ユニットの復習	長篇の作成の朗読実施、聞き取り易いための工夫、発音の確認
第14回	秋学期末復習とまとめ	到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、指示した本文の内容を、次回までに覚えて発表すること。

毎回の授業にしたがって、教科書の内容をよく復習し、不明な点をしっかりとチェックし、CDや類似の学習資料をよく確認すること、それをベースにし、予習を実施すること。

【テキスト（教科書）】

1、「とどち・朋友」董 燕・遠藤光暁著 朝日出版社 2,700円+税
2、授業に必要な教科内容をコピーして提示する。音声 CD や類似の学習資料を

補充資料とする。

【参考書】

日中辞典（小学館）

中日辞典（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、授業に対する態度、設問に対する応答、遅刻、欠席の有無等： 20点
 2、授業に対する宿題の提出、暗誦や完成度等： 20点
 3、春学期末における到達度チェック等： 60点

【学生の意見等からの気づき】

学生よりの意見や提案を随時に吸収し、よく分析をすることによって、授業改善を実施する。なお、春学期末到達度チェック時に、学生より「感想」を聞かせて頂き、さらなる授業改善を構築する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for beginners. The aim of this course is to acquire natural Chinese pronunciation.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーション I 2016年度以前入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 法文堂国環キ 2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかり覚える。
 発音を正確にする。
 日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第2回	ピンイン	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつの練習をする
第4回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第6回	基本構文（1）	1、主語・述語・目的語 2、品詞
第7回	基本構文（2）	1、連体修飾語 2、疑問文
第8回	基本構文（3）	1、連用修飾語 2、「着」、「了」、「過」
第9回	基本構文（4）	補語
第10回	基本構文（5）	使役・受身・「把」文
第11回	会話（2）	買い物する時の会話パターン
第12回	授業内発表（2）	教師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第13回	復習	文法の復習をする
第14回	まとめ	筆記テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をする。
 また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（100%）評価する。普通の学習態度や発表の出来なども平常点として考慮に入れる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語コミュニケーションⅡ 2016年度以前入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
 日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容の復習
第2回	文法（6）	複文のさまざまな
第3回	文法の練習	プリントの文法に関する問題を解く
第4回	作文（1）	長文作文のイロハ
第5回	作文（2）	宿題の作文を添削する
第6回	会話（3）	レストランでの会話パターン
第7回	授業内発表（3）	教師と一対一でレストランでのやり取りを練習する
第8回	会話（4）	道を尋ねる/教える
第9回	授業内発表（4）	教師と一対一で道順に関するやり取りをする
第10回	会話（5）	スピーチやものの語り方
第11回	授業内発表（5）	スピーチ/ものを語る
第12回	復習	複文の復習
第13回	作文（3）	作文の提出
第14回	まとめ	口頭による試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習すること。
 単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作ること。
 また、HSK や中国語検定の受験も推奨する。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要なのは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50%）、口頭試験（50%）を併せて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

中国語作文初級Ⅰ 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語表現法Ⅰ 2016年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。そして正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解できる段階まで力を付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず中国語作文の基礎を理解してもらい、基本的な文法事項や重要な文型について詳しく説明します。それを基に、単文を中心とした練習問題を解くことによって基礎的な作文能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	レベルチェック
2回	数字の使い方（一）	例文解説
3回	数詞の使い方（二）	翻訳の練習
4回	「是」の使い方（一）	例文解説
5回	「是」の使い方（二）、一日の行動	翻訳の練習
6回	連体修飾語+的+被修飾語	例文解説、翻訳の練習
7回	「有」構文、「在」構文	例文解説、翻訳の練習
8回	疑問詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
9回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11回	程度補語の使い方	例文解説、翻訳の練習
12回	アスペクト（一）	例文解説
13回	アスペクト（二）	翻訳の練習
14回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。

【テキスト（教科書）】

授業にてプリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業中の学習態度、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【その他の重要事項】

学生の様子によって、内容を調整する場合があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

LANc200LA

中国語作文初級Ⅱ 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語表現法Ⅱ 2016年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解できる段階まで力を付けることを目指します。正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず中国語作文の基礎を理解してもらい、基本的な文法事項や重要な文型について詳しく説明します。それを基に、単文を中心とした練習問題を解くことによって基礎的な作文能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	能願動詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
2回	方向補語	例文解説、翻訳の練習
3回	結果補語	例文解説、翻訳の練習
4回	可能補語	例文解説、翻訳の練習
5回	兼語文	例文解説、翻訳の練習
6回	受身文	例文解説、翻訳の練習
7回	「是……的」構文	例文解説、翻訳の練習
8回	存現文	例文解説、翻訳の練習
9回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11回	「把」構文	例文解説、翻訳の練習
12回	動量補語・時量補語	例文解説、翻訳の練習
13回	複文・「了」の使い方	例文解説、翻訳の練習
14回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること

【テキスト（教科書）】

授業にてプリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業中の学習態度、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高く評価されました。続けてこのやり方でやります。

【その他の重要事項】

学生の様子によって内容を調整することがあります。

【Outline and objectives】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

LANc200LA

中国語視聴覚初級Ⅰ 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語視聴覚Ⅰ 2016年度以前入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1課	文法理解と応用
3	第1課	会話と応用
4	第1課	読解文の理解と応用
5	第2課	文法理解と応用
6	第2課	会話と応用
7	第2課	読解文の理解と応用
8	第3課	文法理解と応用
9	第3課	会話と応用
10	第3課	読解文の理解と応用
11	第4課	文法理解と応用
12	第4課	会話と応用
13	第4課	読解文の理解と応用
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc200LA

中国語視聴覚初級Ⅱ 2017年度以降入学者

LANc200LA

中国語視聴覚Ⅱ 2016年度以前入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第5課	文法理解と応用
3	第5課	会話と応用
4	第5課	読解文の理解と応用
5	第6課	文法理解と応用
6	第6課	会話と応用
7	第6課	読解文の理解と応用
8	第7課	文法理解と応用
9	第7課	会話と応用
10	第7課	読解文の理解と応用
11	第8課	文法理解と応用
12	第8課	会話と応用
13	第8課	読解文の理解と応用
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc200LA

資格中国語初級Ⅰ 2017年度以降入学者

LANc200LA

検定中国語Ⅰ 2016年度以前入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (☑️☑️水平考☑️) 1級～3級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に2級、秋学期中に3級に合格できるよう指導します。

ただ、HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。

昨年度は春秋履修した学生のうち、HSK 3級と中国語検定3級に3人が合格しました。

【到達目標】

HSK 2級に合格できるリスニング力と読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。今年度は特にリスニング練習を強化したいと考えています。中国語検定準4級程度の簡単なものからトレーニングを始めます。繰り返し練習して、リスニング力を養います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1級単語	HSK 1級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1級単語復習	HSK 1級単語リスニングテスト
4	HSK 1級単語	HSK 1級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1級単語復習	HSK 1級単語リスニングテスト
6	HSK 1級過去問	HSK 1級過去問を解きます。
7	HSK 1級過去問	HSK 1級過去問を解きます。
8	HSK 2級単語	HSK 2級単語を学びます。
9	HSK 2級単語	HSK 2級単語リスニングテスト。
10	HSK 2級	HSK 2級単語を学びます。
11	HSK 2級単語	HSK 2級単語リスニングテスト
12	HSK 2級単語	HSK2級単語を学びます
13	HSK 2級単語	HSK 2級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布

【参考書】

HSK 過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。欠席は3回まで。4回以上は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートはありません

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

LANc200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

LANc200LA

検定中国語Ⅱ

2016年度以前入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加を認めますが、それなりの覚悟が必要です。

【到達目標】

HSK 3級合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
2	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
3	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
4	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
5	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
6	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
7	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
8	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
9	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
10	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
11	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
12	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
13	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価します。4回以上欠席の者は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は試行錯誤を重ねてしまい、ご迷惑をおかけしましたが、よい学習成果が得られました。今年度は教材をより工夫し、学習効果をさらにアップするように努力をいたします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

ARSe200LA

中国語の世界 L A

2017年度以降入学者

ARSe200LA

中国語の世界 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：

渡邊 大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 法文堂国環キ 1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語ということばを通して、中国人や中国文化、また、中国という国について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ることで、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式が中心ですが、質疑応答しながら授業を進めていきます。小グループでの討論や発表も行う予定です。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ことばとは何か	あまりにも身近すぎて気づきにくいことばのはたらきについて考えます。
②	類型論からみた中国語	英語や日本語と比較した中国語の特徴
③	中国語の音韻体系－その1	声調・韻母・声母
④	中国語の音韻体系－その2	有声音・無声音等
⑤	中国語文法概説－その1	品詞分類
⑥	中国語文法概説－その2	形態素・単語・フレーズ・センテンス
⑦	中国語文法概説－その3	承前
⑧	中国語の語彙－その1	語彙からみる中国的発想法
⑨	中国語の語彙－その2	外来語・新語・流行語
⑩	中国語の語彙－その3	中国語になった日本語と日本語になった中国語
⑪	文語と白話	書き言葉と話し言葉
⑫	中国語の方言	言語の変化－その1
⑬	大陸の中国語と台湾の中国語	言語の変化－その2
⑭	まとめと試験	論述式の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を適宜出します。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967年
 ・朱德熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986年
 ・木村英樹、『中国語はじめての歩』、ちくま新書、1996年
 ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971年
 ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989年
 ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、期末試験（70%）

小テストは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的に毎授業おこないます。

期末試験は論述式でおこないます。評価の基準は、①講義の内容をふまえているか、②中国語ということば、外国語を学ぶということ、人間にとってことばとは、というような問題を多様な角度から捉えているか、③自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、の3点です。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々ですが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【Outline and objectives】

Through learning characteristics of Chinese language, we will deepen our understanding about the Chinese culture.

ARSe200LA

中国語の世界 L B

2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国語の世界 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

渡邊 大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系が、中国語や中国的思考法といかに関係しているのか、を理解してもらえればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式が中心ですが、質疑応答しながら授業を進めていきます。小グループでの討論や発表も行う予定です。

積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字とはなにか	文字の定義と文化形成における文字の役割について
②	中国文化の思考基底－その1	中国的世界観
③	中国文化の思考基底－その2	古い中国と新しい中国
④	漢字学の伝統－その1	中国の伝統的学問分類と漢字学の位置づけ
⑤	漢字学の伝統－その2	許慎と『説文解字』
⑥	漢字学の伝統－その3	漢字の分類法と字書の変遷
⑦	漢字学の伝統－その4	日本の漢字研究
⑧	漢字の歴史－その1	甲骨文・金文・戦国文字
⑨	漢字の歴史－その2	小篆・隸書・楷書
⑩	漢字の歴史－その3	文字の社会的機能の変遷
⑪	漢字の歴史－その4	新中国における文字改革
⑫	日本の漢字と文字政策	常用漢字・人名漢字・国字等
⑬	漢字とコンピュータ	文字コードと入力法
⑭	まとめと試験	論述形式の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を適宜出します。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
 ・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
 ・木村英樹、『中国語はじめの一步』、ちくま新書、1996 年
 ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
 ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年
 ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30%）、期末試験（70%）

小テストは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的に毎授業おこないます。

期末試験は論述式でおこないます。評価の基準は、①講義の内容をふまえているか、②漢字という文字、書写言語と音声言語との違い、人間にとって文字とは、というような問題を多様な角度から捉えているか、③自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、の 3 点です。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々ですが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【Outline and objectives】

Through learning characteristics of Chinese characters, we will understand Chinese thinking process and view of the world.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国の文化と社会 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：映画で学ぶ現代中国

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その時代の社会を映し出します。

今学期は、当時中国で若者を中心に人気を博した映画などを題材に、これらの映画がなぜ製作されたのか、なぜ人気を博したのかについて考えてみたいと思います。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

映像資料を用い、講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業の進め方について
第二回～	映画で学ぶ中国の文化と	映画『シンデレラはオンライン中』
第四回	社会 1	
第五回～	映画で学ぶ中国の文化と	映画『ダイヤモンドの恋人』
第七回	社会 2	
第八回～	映画で学ぶ中国の文化と	映画『あの頃、君を追いかけた』
第十回	社会 3	
第十一回	映画で学ぶ中国の文化と	映画『私の少女時代』
～第十三	社会 4	
回		
第十四回	レポート	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will introduce Chinese society and culture by using various materials such as movies, traditional plays and so on.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B 2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国の文化と社会 II 2016 年度以前入学者

サブタイトル：映画で学ぶ中国の文化

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国環キ 2～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、中国文化を語るうえで欠くことのできない中国武術、いわゆるカンフー映画を題材に、なぜ中国でカンフー映画が人気を博しているのか、中国の人々はカンフー映画に何をみているのかについて考えていきたいと思えます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

映像資料を用い、講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業の進め方について
第二回～	映画で学ぶ中国の文化と	映画『イップマン 序章』
第四回	社会 1	
第五回～	映画で学ぶ中国の文化と	映画『イップマン 葉問』
第七回	社会 2	
第八回～	映画で学ぶ中国の文化と	映画『イップマン 継承』
第十回	社会 3	
第十一回	映画で学ぶ中国の文化と	映画『ドラゴンへの道』
～第十三	社会 4	
回		
第十四回	レポート	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60%、レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will introduce Chinese society and culture by using various materials such as movies, traditional plays and so on.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L C 2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国の文化と社会 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：近現代の演劇

鈴木 直子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法文営国環キ 2～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、主に中国の演劇作品を通して、中国の文化や社会に対する知識の習得を目標としている。隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どういうものなのか。中国の伝統演劇と近代劇について日中演劇交流を中心に学んでいく。

【到達目標】

1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢についての知識の習得。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国の近現代の演劇史についての講義を中心に、作品の鑑賞を行う。授業の最後には、当日の授業内容に関するリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容やスケジュールの確認と、授業で扱う中国演劇についての概説を行う。
第 2 回	中国の伝統演劇——「京劇」	京劇についての概要と主な作品を取り上げる。
第 3 回	中国の伝統演劇——「京劇」と梅蘭芳	著名な京劇俳優梅蘭芳と、日本との関わりについて学ぶ。また伝記映画の鑑賞。
第 4 回	中国の伝統演劇——「京劇」と梅蘭芳	梅蘭芳の伝記映画作品鑑賞。
第 5 回	演劇の近代化——伝統演劇の改革から文明戯	中国で近代演劇が誕生する以前の段階の文明戯と日本との関わりを学ぶ。
第 6 回	演劇の近代化——文明戯から話劇へ	近代劇としての話劇がどうやって誕生したのか、オスカーワイルドの『ウィンダミア夫人の扇』を中心に学ぶ。
第 7 回	演劇の近代化——文明戯から話劇へ	『ウィンダミア夫人の扇』のハリウッド版と中国版の比較と日本での上演との比較。
第 8 回	1930 年代の話劇と中国人留学生	1930 年代に日本に留学した中国人留学生の演劇活動について。
第 9 回	1930 年代から 1940 年代の日中演劇交流	日本で上演された中国演劇『雷雨』と、中国で上演された日本の演劇について。『雷雨』の作品鑑賞。
第 10 回	1930 年代から 1940 年代の日中演劇交流	日本で上演された中国演劇『雷雨』と、中国で上演された日本の演劇について。『雷雨』の作品鑑賞。
第 11 回	『白毛女』の日中交流	『白毛女』は日本でも松山バレエ団によって上演された著名な作品である。作品と日本での上演の経緯を学ぶ。
第 12 回	戦後の日中演劇交流	終戦後の中国演劇訪問団の来日や、京劇上演について。
第 13 回	伝統演劇のコラボレーション	2000 年代以降の日中伝統演劇の競演や日本での中国演劇公演等について紹介する。
第 14 回	期末試験	講義内容に関する記述式の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱い興味を持った作品は、インターネット上の動画でも見られるものがあるので、鑑賞する。期末試験では自分の興味を持ったテーマについて記述するので、その準備として関連書籍を読む、人物について調べるなどしておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布する。

【参考書】

参考書は指定しないが、必要な場合は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらおう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。

平常点 (15 点)、リアクションペーパー (35 点)、期末試験 (50 点)

【学生の意見等からの気づき】

日本語の字幕のない作品を鑑賞することがあるので、作品についての説明や翻訳をあらかじめ準備する。

【その他の重要事項】

中国語履修者の受講が望ましい。

【Outline and objectives】

This course is introduces Chinese traditional and modern drama. Chinese modern drama developed from the influence of the West and Japan. The aim of this course is to help students acquire the knowledge about the Chinese culture and society. By the end of this course, the student should be able to describe the cultural difference between China and own country.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L D

2017 年度以降入学者

ARSe200LA

中国の文化と社会 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：演劇、映画作品から見る中国文化

鈴木 直子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、中国の演劇や映画作品を通して中国の文化や社会に対する知識の習得を目標としている。隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どういうものなのか。中国でよく知られた演劇作品や最近の映画から見える中国の姿について考察する。

【到達目標】

1. 作品に描かれる時代背景や社会情勢についての知識の習得。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品の背景やキーワードに関する講義と、作品鑑賞。授業の最後には、当日の授業内容に関するリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容やスケジュールの確認と、授業で扱う作品についての概説を行う。
第 2 回	中国の演劇と映画の歴史	中国映画は初期の演劇とも接点を持っている。中国映画史について紹介し、初期の無声映画などを鑑賞する。
第 3 回	中国の女優①	中国の近代では女性が舞台や銀幕に登場するようになる。中国女性史から女優の誕生をみていく。
第 4 回	中国の女優②	中国の女優阮玲玉について、当時の言説や伝記映画を鑑賞する。
第 5 回	中国の話劇①	中国の作家老舍と作品『茶館』についての紹介と作品鑑賞。
第 6 回	中国の話劇②	中国の作家老舍と作品『茶館』についての紹介と作品鑑賞。文革期の演劇にも触れる。
第 7 回	文化大革命と演劇、バレエ①	文化大革命の時期に行われた現代革命京劇について紹介する。この時期を描いた作品鑑賞。
第 8 回	文化大革命と演劇、バレエ②	文化大革命の時期に行われた現代革命京劇について紹介する。この時期を描いた作品鑑賞。
第 9 回	香港と雨傘運動①	中国文化圏の香港について、最近の雨傘運動を中心に紹介する。香港で製作された『十年』を鑑賞し、香港の抱える問題について考える。
第 10 回	香港と雨傘運動②	中国文化圏の香港について、最近の雨傘運動を中心に紹介する。ドキュメンタリーを鑑賞し、香港の抱える問題について考える。
第 11 回	香港と雨傘運動③	中国文化圏の香港について、最近の雨傘運動を中心に紹介する。ドキュメンタリーを鑑賞し、香港の抱える問題について考える。
第 12 回	台湾とひまわり学生運動	香港同様、台湾でも同時期におこったひまわり学生運動について紹介し、台湾の抱える問題について考える。
第 13 回	現代中国の問題	いまの中国の抱える社会問題について考える。賈樟柯作品を鑑賞する。
第 14 回	期末試験	講義内容に関する記述式の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱い興味を持った作品は、インターネット上の動画でも見られるものがあるので、鑑賞する。期末試験では自分の興味を持ったテーマについて記述するので、その準備として関連書籍を読む、人物について調べるなどしておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布する。

【参考書】

参考書は指定しないが、必要な場合は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。

平常点（15点）、リアクションペーパー（35点）、期末試験（50点）

【学生の意見等からの気づき】

日本語の字幕のない作品を鑑賞することがあるので、作品についての説明や翻訳をあらかじめ準備する。

【その他の重要事項】

中国語履修者の受講が望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the Chinese modern drama and film. The aim of this course is to help students acquire the knowledge about the Chinese culture and society. By the end of this course, the student should be able to describe the cultural difference between China and own country.

LANs200LA

スペイン語 3 I

2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I

2016年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 1・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語のコミュニケーション能力を高める

【到達目標】

基礎文法を習得し語彙を強化して、読む・書く・聴く・話す力を高める。スペイン語圏の地理・自然・歴史・宗教・文化等に関する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生は、CDを聴いて発音練習、テキスト記載の対話文の和訳、練習問題、ペアやグループで会話を行う。時々、テーマに関連した映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介とオリエンテーション	スペイン語で自己紹介、授業の進め方や学習方法の説明
2	1年次の復習	スペイン語の法と時制、性数変化する品詞、数詞、動詞
3	家族と友人	直説法点過去（規則動詞）
4	人物描写	線過去
5	昔と今の生活	直説法点過去（不規則動詞）
6	場所・位置関係	関係詞、前置詞
7	過去の出来事、原因・結果	点過去と線過去
8	招待、余暇	現在分詞
9	旅行の思い出	直接・間接目的格人称代名詞
10	休暇の計画	命令
11	食習慣	現在完了
12	料理	過去完了
13	復習	春学期に学習した内容の復習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

ファン・カルロス・モヤノ・ロベス、カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ、廣康好美『いいね！スペイン語2』朝日出版社、2019年

【参考書】

小林一宏・清水憲男ほか『詳解スペイン語』上智大学出版会
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、課題（25%）、小テスト（10%）、期末試験（25%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はあまりペア、グループワークができなかったので、アクティビティのしやすい教科書にしました。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。スマートフォン・携帯電話・PCの操作は禁止します。電子辞書は可。
家で勉強する時は、紙媒体の辞書をお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the communication skill of Spanish.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語のコミュニケーション能力を高める

【到達目標】

基礎文法を習得し語彙を強化して、読む・書く・聴く・話す力を高める。スペイン語圏の地理・自然・歴史・宗教・文化等に関する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生は、CDを聴いて発音練習、テキスト記載の対話文の和訳、練習問題、ペアやグループで会話をを行う。時々、テーマに関連した映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	予定	未来
2	将来の計画	条件節
3	希望・助言	過去未来、感嘆文
4	社会の出来事	接続法現在
5	学生生活	無人称表現
6	留学	命令
7	社会の変化	数字、派生語
8	社会問題と解決策	直説法と接続法
9	スポーツ	接続法現在と過去
10	感情、価値判断	条件節
11	スペイン語と私	形容詞、所有詞、不定語
12	別れの挨拶	修飾語、接辞
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージ
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

ファン・カルロス・モヤノ・ロペス、カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ、廣康好美『いいね！スペイン語2』朝日出版社、2019年

【参考書】

小林一宏・清水憲男ほか『詳解スペイン語』上智大学出版会
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、課題（25%）、小テスト（10%）、期末試験（25%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はあまりペア、グループワークができなかったため、アクティビティのしやすい教科書にしました。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。スマートフォン・携帯電話・PCの操作は禁止します。電子辞書は可。
家で勉強する時は、紙媒体の辞書をお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the communication skill of Spanish.

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法 2 年 K・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、文法事項の学習を再度行う。長文テキストに取り組みながら、実用的なスペイン語運用能力（読解、表現）を習得することを目指す。

【到達目標】

長文テキストの読解を通して、語彙力が身につく。それによって、作文や会話でもさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1レベルの読解の試験で70%以上得点できる実力が身につく。言語学的に見たスペイン語についての知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 教科書 1 課	本シラバスを用いた授業の説明。 疑問詞、関係詞、接続詞。
2	教科書 1 課-教科書 2 課	人工言語：エスペラント語。 直説法現在の規則動詞。
3	教科書 2 課	目的格人称代名詞。スペイン語史。
4	教科書 3 課	直説法現在不規則活用。
5	教科書 3 課-教科書 4 課	ネット用語。再帰動詞。
6	教科書 4 課	リニューアルされる言語。
7	理解度確認 教科書 5 課	中間試験を実施。 過去分詞、受身文、直説法現在完了。
8	教科書 5 課-教科書 6 課	スペイン語と英語の表現。直説法過去。
9	教科書 6 課	"Literalmente"の意味の変化。
10	教科書 7 課	直説法線過去、現在分詞。
11	教科書 7 課-第教科書 8 課	消滅危機言語。点過去と線過去の用法の違い。
12	教科書 8 課	過去完了。「エニユ」の誕生。
13	理解度確認	春学期の総復習。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習を必ずする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

中川節子他(2019)『スペイン語とことば』三修社
978-4-384-42017-3

【参考書】

西和辞書は必携。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加を20%、中間試験の得点を30%、期末試験の得点を50%とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説を心がける。受講生と双方向のコミュニケーションを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の音声随時聞けるように、スマートフォンにダウンロードしておくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

A general review of Spanish grammar to consolidate and reinforce the knowledge obtained in elementary Spanish classes. Using medium size texts for reading training, we will achieve the practical ability of the Spanish language.

LANs200LA

スペイン語 3 II

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法 2 年 K・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、文法事項の学習を再度行う。長文テキストに取り組みながら、実用的なスペイン語運用能力（読解、表現）を習得することを目指す。

【到達目標】

長文テキストの読解を通して、語彙力が身につく。それによって、作文や会話でもさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1 レベルの読解の試験で 70%以上得点できる実力が身につく。言語学的に見たスペイン語についての知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本シラバスを用いた授業の説明。
2	教科書 9 課	直説法未来と未来完了。
3	教科書 9 課-教科書 10 課	スペイン語の今とその未来。命令文 I。
4	教科書 10 課	差別を避けるためのスタイルガイド。
5	教科書 11 課	接続法現在 I。
6	教科書 11 課	死語（ラテン語）。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	教科書 12 課	接続法現在 II。
9	教科書 12 課	練習問題。
10	教科書 12 課-教科書 13 課	「接続法か直説法か、それが問題だ」。
		接続法過去。
11	教科書 13 課	独立文。練習問題。
12	教科書 13 課	言語差別の状況。
13	理解度確認	期末試験を実施。
14	理解度確認	秋学期の総復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習を必ずする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

中川節子他 (2019)『スペイン語とことば』三修社
978-4-384-42017-3

【参考書】

西和辞書は必携。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加を 20%、中間試験の得点を 30%、期末試験の得点を 50%とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説を心がける。受講生と双方向のコミュニケーションを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の音声随時聞けるように、スマートフォンにダウンロードしておくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

[Outline and objectives]

A general review of Spanish grammar to consolidate and reinforce the knowledge obtained in elementary Spanish classes. Using medium size texts for reading training, we will achieve the practical ability of the Spanish language.

LANs200LA

スペイン語 3 I

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I

2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 2 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達が出来る様に学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	大学で勉強をしています。	勉強について話す。
2 回	大学で勉強をしています。	日常や余暇の過ごし方について理解し話す。
3 回	大学で勉強をしています。	時刻を言う、スケジュールについて話す。
4 回	家族	家族について話す。
5 回	家族	人の性格や容姿について話す。
6 回	休暇	有名な場所について話し、そこに何かあるのか話す。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	休暇	場所ややりたい生活についての情報をやり取りする。
9 回	休暇	旅の計画や簡単な行動について話す。
1 0 回	音楽が大好き。	好み、趣味や興味について話す。
1 1 回	音楽が大好き。	計画や義務について話す。
1 2 回	音楽が大好き。	イベントについての簡単な情報を聞いて理解する。
1 3 回	音楽が大好き。	ソーシャルネットワーク。
1 4 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

いいね！ スペイン語
朝日出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 %・授業参加 15%、中間テスト 30 %と学期末試験 40 %で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 2 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達ができるようになるように学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	買い物	店で欲しいものを伝える、質問に答える。
2 回	買い物	店での会話を聞いて理解する。
3 回	買い物	市場や店の様子を理解し、記述する。
4 回	飯	スペイン語圏の食べ物について話したり尋ねたりする。
5 回	飯	食べたいもの飲み物を頼む。
6 回	飯	レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	日常	1 日の生活について上場交換する。
9 回	日常	天候についてのやり取り。
10 回	日常	スペイン語圏の祭りやその他の文化的行事について読んで理解する。
11 回	体調や気分	体調や気分について尋ねたり話したり。
12 回	体調や気分	体の痛い場所や体調について説明する。
13 回	体調や気分	健康的な生活をおくるためのアドバイスをする。
14 回	期末テスト	期末テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

いいね！ スペイン語
朝日出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 %・授業参加 15%、中間テスト 30 %と学期末試験 40 %で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 N~V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の完成。応用力をつけること。

【到達目標】

スペイン語の基礎的な会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で使ってきた教科書、および進度にばらつきがあると思うので、まずはそれを確認し、できるだけ多数の学生に満足してもらえような方法をとりたい。

その他、授業を通じてスペイン語圏の文化を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
2	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
3	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
4	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
5	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
6	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
7	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
8	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
9	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
10	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
11	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
12	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
13	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
14	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要。復習をしっかりと。

【テキスト（教科書）】

受講学生が今まで使っていた教科書を調査してから決める。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

「語学の授業」という固定観念にとらわれることのないよう、スペイン語圏の文化に親しめるような授業を実施。

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 2 年 N~V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の完成。応用力をつけること。
スペイン語圏の文化に親しむこと。

【到達目標】

スペイン語の基礎的な会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で使ってきた教科書、および進度にばらつきがあると思うので、まずはそれを確認し、できるだけ多数の学生に満足してもらえるような方法をとりたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
2	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
3	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
4	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
5	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
6	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
7	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
8	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
9	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
10	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
11	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
12	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
13	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
14	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習不要。復習をしっかりと。

【テキスト（教科書）】

学生が使ってきた教科書を調査して決定。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

文法中心となるが、適宜スペイン語圏の文化を紹介するなど、「語学の授業」とならないように進めていく。

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 2 年 W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

【到達目標】

スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められる。必要に応じて教員が説明を行うが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語	南米にスペイン語を話す国々
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	生活習慣、スペイン語圏の家族	現在進行形 / 現在分詞のその他の用法
4	人一生 / 家族	復習:直説法点過去。過去を表す副詞句。
5	中南米諸国への日本人移民	関係詞 I : 関係詞代名詞
6	町で	SER. ESTAR. HABER. TENER 直説法線過去:活用 / -mente で終わる副詞
7	昔と今	直説法線過去の用法 / 品質形容詞
8	旅行	直説法点過去と線過去 / 旅行: 活動と携行品
9	天候	色々な副詞節
10	余暇活動	過去分詞 / 直説法現在完了: 活用 / 余暇生活 / 勧誘表現
11	社会生活	直説法現在完了の用法 / 過去分詞のその他用法
12	未来を表す副詞	直説法未来: 活用 / 直説法未来の用法
13	推測	直説法未来完了: 活用と用法
14	確実性を示す表現	直説法過去未来: 活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre Amigos2,2a. Edición. Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

In this lesson, students who have finished Spanish for beginners learn to communicate in Spanish through speaking, listening, reading, and writing skills. In addition, our goal is to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 2 年 W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

【到達目標】

自分の住環境、学習環境、労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べるができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って進められる。必要に応じて教員が説明を行うが、会話練習や練習問題への取り組みが主要な時間を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家具	家具と調度品 / 直説法過去完了：活用と用法
2	調度品	直説法の時制：まとめ/関係詞 II
3	命令形	命令形 I: tu / vosotros に対する肯定命令 / 命令形の用法命令形と目的人称代名詞 / 再帰代名詞
4	食べ物/スポーツ	無人称表現 / 直説法過去未来の用法 II
5	意見	接続法現在：活用 / 接続法の用法 I: 名詞節過去形 II : usted/ustedes に対する肯定命令
6	命令	否定命令 / 願望、依頼、命令表す表現
7	数	接続法の用法 II : 副詞節
8	環境問題	接続法の用法 III: 形容詞節/
9	自然と人間	接続法現在完了：活用と用法
10	願望表現	接続法の用法 I V : 独立文 / 接続法過去：活用
11	スペイン語国々の映画	接続法過去 / 条件文 I
12	会話で用いられる表現	接続法過去完了:活用 / 接続法過去完了の用法 / 直説法過去未来完了:活用と用法
13	後悔	条件文 II
14	丁寧な依頼	接続法の時制：まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre Amigos 2, 2a. edición. Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため、学生からの意見は今後反映させる。

【Outline and objectives】

In this lesson, students who have finished Spanish for beginners learn to communicate in Spanish through speaking, listening, reading, and writing skills. In addition, our goal is to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 2 年 B~I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達が出来るように学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	大学で勉強をしています。	勉強について話す。
2 回	大学で勉強をしています。	日常や余暇の過ごし方について理解し話す。
3 回	大学で勉強をしています。	時刻を言う、スケジュールについて話す。
4 回	家族	家族について話す。
5 回	家族	人の性格や容姿について話す。
6 回	休暇	有名な場所について話し、そこに何かあるのか話す。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	休暇	場所ややりたい生活についての情報をやり取りする。
9 回	休暇	旅の計画や簡単な行動について話す。
1 0 回	音楽が大好き。	好み、趣味や興味について話す。
1 1 回	音楽が大好き。	計画や義務について話す。
1 2 回	音楽が大好き。	イベントについての簡単な情報を聞いて理解する。
1 3 回	音楽が大好き。	ソーシャルネットワーク。
1 4 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。

・単語の意味調べを行い、授業に出る。

・授業中に出る宿題を必ず行うこと。

・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。

・努めて語彙を増やしていくこと。

・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

いいね! スペイン語

朝日出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15%・授業参加 15%、中間テスト 30%と学期末試験 40%で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 2 年 B~I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達ができるようになるように学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	買い物	店で欲しいものを伝える、質問に答える。
2 回	買い物	店での会話を聞いて理解する。
3 回	買い物	市場や店の様子を理解し、記述する。
4 回	飯	スペイン語圏の食べ物について話したり尋ねたりする。
5 回	飯	食べたいもの飲み物を頼む。
6 回	飯	レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	日常	1 日の生活について上場交換する。
9 回	日常	天候についてのやり取り。
10 回	日常	スペイン語圏の祭りやその他の文化的行事について読んで理解する。
11 回	体調や気分	体調や気分について尋ねたり話したり。
12 回	体調や気分	体の痛い場所や体調について説明する。
13 回	体調や気分	健康的な生活をおくるためのアドバイスをする。
14 回	期末テスト	期末テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

いいね！スペイン語
朝日出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 %・授業参加 15%、中間テスト 30 %と学期末試験 40 %で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 2 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語のコミュニケーション能力を高める

【到達目標】

基礎文法を習得し語彙を強化して、読む・書く・聴く・話す力を高める。スペイン語圏の地理・自然・歴史・宗教・文化等に関する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生は、CDを聴いて発音練習、テキスト記載の対話文の和訳、練習問題、ペアやグループで会話を行う。時々、テーマに関連した映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介とオリエンテーション	スペイン語で自己紹介、授業の進め方や学習方法の説明
2	1 年次の復習	スペイン語の法と時制、性数変化する品詞、数詞、動詞
3	家族と友人	直説法点過去（規則動詞）
4	人物描写	線過去
5	昔と今の生活	直説法点過去（不規則動詞）
6	場所・位置関係	関係詞、前置詞
7	過去の出来事、原因・結果	点過去と線過去
8	招待、余暇	現在分詞
9	旅行の思い出	直接・間接目的格人称代名詞
10	休暇の計画	命令
11	食習慣	現在完了
12	料理	過去完了
13	復習	春学期に学習した内容の復習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

ファン・カルロス・モヤノ・ロベス、カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ、廣康好美『いいね！スペイン語2』朝日出版社、2019 年

【参考書】

小林一宏・清水憲男ほか『詳解スペイン語』上智大学出版会
西川喬『わかるスペイン語文法』同社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %)、課題 (25 %)、小テスト (10 %)、期末試験 (25 %) から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はあまりペア、グループワークができなかったので、アクティビティのしやすい教科書にしました。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。スマートフォン・携帯電話・PC の操作は禁止します。電子辞書は可。
家で勉強する時は、紙媒体の辞書をお勧めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the communication skill of Spanish.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 2 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語のコミュニケーション能力を高める

【到達目標】

基礎文法を習得し語彙を強化して、読む・書く・聴く・話す力を高める。スペイン語圏の地理・自然・歴史・宗教・文化等に関する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生は、CDを聴いて発音練習、テキスト記載の対話文の和訳、練習問題、ペアやグループで会話をを行う。時々、テーマに関連した映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	予定	未来
2	将来の計画	条件節
3	希望・助言	過去未来、感嘆文
4	社会の出来事	接続法現在
5	学生生活	無人称表現
6	留学	命令
7	社会の変化	数字、派生語
8	社会問題と解決策	直説法と接続法
9	スポーツ	接続法現在と過去
10	感情、価値判断	条件節
11	スペイン語と私	形容詞、所有詞、不定語
12	別れの挨拶	修飾語、接辞
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージ
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

ファン・カルロス・モヤノ・ロベス、カルロス・ガルシア・ルイス・カステイロ・ジョ、廣康好美『いいね！スペイン語2』朝日出版社、2019年

【参考書】

小林一宏・清水憲男ほか『詳解スペイン語』上智大学出版会
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、課題（25%）、小テスト（10%）、期末試験（25%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はあまりペア、グループワークができなかったので、アクティビティのしやすい教科書にしました。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。スマートフォン・携帯電話・PCの操作は禁止します。電子辞書は可。
家で勉強する時は、紙媒体の辞書をお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the communication skill of Spanish.

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 2 年 R～T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の完成。応用力をつけること。

【到達目標】

スペイン語の基礎的な会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で使ってきた教科書、および進度にばらつきがあると思うので、まずはそれを確認し、できるだけ多数の学生に満足してもらえるような方法を取りたい。

その他、授業を通じてスペイン語圏の文化を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
2	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
3	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
4	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
5	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
6	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
7	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
8	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
9	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
10	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
11	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
12	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
13	文法説明、練習問題、購読	文法説明、練習問題、購読。
14	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要。復習をしっかりと。

【テキスト（教科書）】

受講生が今まで使っていた教科書を調査してから決める。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

各単元において、練習問題を多めにできるよう内容を調整していく。

【Outline and objectives】

文法中心となるが、適宜スペイン語圏の文化を紹介するなど、「語学の授業」とならないように進めていく。

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 2 年 R~T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の完成。応用力をつけること。
スペイン語圏の文化に親しむこと。

【到達目標】

スペイン語の基礎的な会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で使ってきた教科書、および進度にばらつきがあると思うので、まずはそれを確認し、できるだけ多数の学生に満足してもらえるような方法をとりたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
2	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
3	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
4	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
5	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
6	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
7	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
8	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
9	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
10	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
11	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
12	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
13	文法説明、練習問題、購読。	文法説明、練習問題、購読。
14	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習不要。復習をしっかりと。

【テキスト（教科書）】

学生が使ってきた教科書を調査して決定。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

各単元において、練習問題を多めにできるように内容を調整していく。

【Outline and objectives】

文法中心となるが、適宜スペイン語圏の文化を紹介するなど、「語学の授業」とならないように進めていく。

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
文 2 年 U~X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく。

【到達目標】

初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基礎を終えた学生を対象とし、基本的にはテキストに添って文法事項などを説明しながら進める。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課 グラナダ（スペイン） 文法説明	ser,estar,hay の活用と用法、直説法現在の活用、直説法現在の用法、指示形容詞・指示代名詞
第 2 回	第 1 課 グラナダ（スペイン） 会話文・読解	ser,estar,hay の活用と用法、直説法現在の活用、直説法現在の用法、指示形容詞・指示代名詞
第 3 回	第 2 課 セビリア（スペイン） 文法説明	再帰動詞、目的格人称代名詞、不定詞と弱い代名詞
第 4 回	第 2 課 セビリア（スペイン） 会話文・読解	再帰動詞、目的格人称代名詞、不定詞と弱い代名詞
第 5 回	第 3 課 ハバナ（キューバ） 文法説明	現在分詞、進行形、現在分詞を用いた分詞構文、所有形容詞
第 6 回	第 3 課 ハバナ（キューバ） 会話文・読解	現在分詞、進行形、現在分詞を用いた分詞構文、所有形容詞
第 7 回	第 4 課 テオティワカン（メキシコ） 文法説明	過去分詞、受動態、結果状態、点過去
第 8 回	第 4 課 テオティワカン（メキシコ） 会話文・読解	過去分詞、受動態、結果状態、点過去
第 9 回	第 5 課 ティカル（グアテマラ） 文法説明	線過去、点過去と線過去の使い分け、時間の経過を示す hace、比較表現、絶対最上級
第 10 回	第 5 課 ティカル（グアテマラ） 会話文・読解	線過去、点過去と線過去の使い分け、時間の経過を示す hace、比較表現、絶対最上級
第 11 回	第 6 課 マチュ・ピチュ（ペルー） 文法説明	直説法現在完了、直説法過去完了、不定語と否定語、無人称表現
第 12 回	第 6 課 マチュ・ピチュ（ペルー） 会話文・読解	直説法現在完了、直説法過去完了、不定語と否定語、無人称表現
第 13 回	前期の総復習	テストに向けた前期の総復習、文法ポイントの確認
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である

【テキスト（教科書）】

『—初級～中級スペイン語— 世界遺産を訪ねて —改訂版—』 禰野美穂他著、朝日出版社、2,300 円（+税）

【参考書】

辞書：『西和中辞典』（小学館）

文法書：『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく

【Outline and objectives】

Basic to middle level Spanish grammar and conversation

LANs200LA

スペイン語 3 II

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II

2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
文 2 年 U～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく。

【到達目標】

初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基礎を終えた学生を対象とし、基本的にはテキストに添って文法事項などを説明しながら進める。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課 メキシコ市（メキシコ） 文法説明	直説法未来、直説法過去未来、関係詞（1）
第 2 回	第 7 課 メキシコ市（メキシコ） 会話文・読解	直説法未来、直説法過去未来、関係詞（1）
第 3 回	第 8 課 クスコ（ペルー） 文法説明	直説法未来完了、直説法過去未来完了、間接話法
第 4 回	第 8 課 クスコ（ペルー） 会話文・読解	直説法未来完了、直説法過去未来完了、間接話法
第 5 回	第 9 課 ボトシ（ボリビア） 文法説明	接続法現在の活用、接続法の用法（1） 独立文、知覚、使役の表現
第 6 回	第 9 課 ボトシ（ボリビア） 会話文・読解	接続法現在の活用、接続法の用法（1） 独立文、知覚、使役の表現
第 7 回	第 10 課 ラ・サンティシマ・トリニダードとヘスス・デ・タバランゲ（パラグアイ） 文法説明	命令文、再帰前置詞格人称代名詞
第 8 回	第 10 課 ラ・サンティシマ・トリニダードとヘスス・デ・タバランゲ（パラグアイ） 会話文・読解	命令文、再帰前置詞格人称代名詞
第 9 回	第 11 課 ガラバゴス諸島（エクアドル） 文法説明	接続法の用法（2）、名詞説、形容詞節、副詞節
第 10 回	第 11 課 ガラバゴス諸島（エクアドル） 会話文・読解	接続法の用法（2）、名詞説、形容詞節、副詞節
第 11 回	第 12 課 ラバ・ヌイ国立公園（チリ） 文法説明	接続法過去の活用と用法、条件文
第 12 回	第 12 課 ラバ・ヌイ国立公園（チリ） 会話文・読解	接続法過去の活用と用法、条件文
第 13 回	後期の総復習	テストに向けた後期の総復習、文法ポイントの確認
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である

【テキスト（教科書）】

『一初級～中級スペイン語― 世界遺産を訪ねて 一改訂版―』 禪野美穂他著、朝日出版社、2,300 円（+税）

【参考書】

辞書：『西和中辞典』（小学館）

文法書：『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく

【Outline and objectives】

Basic to middle level Spanish grammar and conversation

LANs200LA

スペイン語 3 I

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I

2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
営 2 年 D・E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語で話し、聞き、書き、読むことを強化することを目標とする。日本の文化と比較し、スペイン語圏の文化の理解も深める。

【到達目標】

スペイン語で基本的なこと、更に自分の興味や関心事について、意思疎通ができるようになるよう目指す。また、スペイン語圏の文化に関する理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語で読み、話すことに重点を置き、発音の練習も多に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción: ¡ Vamos a saludar a los compañeros!	スペイン語の読み方を復習し、クラスメートとあいさつをし、自己紹介する
2	¡ Vamos a presentarnos!	名前、職業、国籍や出身地について話す
3	¡ Vamos a hablar de las cosas que haces! (1)	基本的な動詞を使って毎日の生活を話す (1)
4	¡ Vamos a hablar de las cosas que haces! (2)	基本的な動詞を使って毎日の生活を話す (2)
5	¡ Vamos a hablar de la familia!(1)	自分の家族のこと、名前、年齢、性格、容姿等を話す (1)
6	¡ Vamos a hablar de la familia!(2)	自分の家族のこと、名前、年齢、性格、容姿等を話す (2)
7	¿ Dónde está tu casa? ¿ Cómo es tu habitación? (1)	自分の部屋、家、住んでいるところについて話す (1)
8	¿ Dónde está tu casa? ¿ Cómo es tu habitación? (2)	自分の部屋、家、住んでいるところについて話す (2)
9	Examen. ¿ Qué te gusta? ¿ Qué no te gusta? (1)	中間試験、自分の好きなものやこと、嫌いなものやことを話す (1)
10	¿ Qué te gusta? ¿ Qué no te gusta? (2)	自分の好きなものやこと、嫌いなものやことを話す (2) 天気の説明をする
11	¡ Vamos a invitar a un amigo!(1)	友達を誘ったり、頼む表現を覚え、買い物や食事の際の会話を学ぶ (1)
12	¡ Vamos a invitar a un amigo!(2)	友達を誘ったり、頼む表現を覚え、買い物や食事の際の会話を学ぶ (2)
13	¡ Vamos a hablar de lo que haces en un día o en una semana!	時間や曜日の表現を覚え、1 日、一週間のスケジュールを話す
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っている会話文や例文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

浦真佐子、フランシスコ・バルティダ 『¡ Imagínatelo!—イラストで楽しもう、スペイン語!』朝日出版社、2500 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to reinforce your Spanish skills (speaking, listening, writing and reading). Furthermore, you are going to get a glimpse of cultural diversity in Spanish-speaking countries.

LANs200LA

スペイン語 3 II

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II

2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
営 2 年 D・E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語で話し、聞き、書き、読むことを強化することを目標とする。日本の文化と比較し、スペイン語圏の文化の理解も深める。

【到達目標】

スペイン語で基本的なこと、更に自分の興味や関心事について、意思疎通ができるようになるよう目指す。また、スペイン語圏の文化に関する理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語で読み、話すことに重点を置き、発音の練習も多く行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	i Vamos a repasar!	春学期の復習（テキストの Lección 1 - 7）
2	¿ Qué le regalamos?(1)	誕生日やクリスマスに友達にプレゼントを贈る際の会話やカードの書き方を学ぶ（1）
3	¿ Qué le regalamos?(2)	誕生日やクリスマスに友達にプレゼントを贈る際の会話やカードの書き方を学ぶ（2）
4	¿ Qué te pasa?	痛み、病気、体調が悪い時の表現を覚え、症状について話す（1）
5	¿ Te sientes mal? (1)	痛み、病気、体調が悪い時の表現を覚え、症状について話す（2）
6	¿ Qué te pasa?	行ったことがある、食べたことがある等、経験を話し、道順や料理の作り方等について話す（1）
7	¿ Te sientes mal? (2)	行ったことがある、食べたことがある等、経験を話し、道順や料理の作り方等について話す（2）
8	Perdón, ¿ puede enseñarme...? (1)	中間試験、過去にしたことや旅行について話す（1）
9	Examen. i Vamos hablar del pasado!(1)	過去にしたことや旅行について話す（2）
10	i Vamos hablar del pasado!(2)	身近な人物の一生について話す
11	i Vamos a contar sobre la vida de un familiar!	子供の頃のことや旅行の思い出を話す（1）
12	i Hablamos de recuerdos!(1)	子供の頃のことや旅行の思い出を話す（2）
13	i Hablamos de recuerdos!(2)	子供の頃のことや旅行の思い出を話す（3）
14	i Hablamos de recuerdos!(3)	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。
14	Repaso y examen	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っている会話文や例文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

浦真佐子、フランシスコ・バルティダ 『i Imagínatelo!—イラストで楽しもう、スペイン語!』朝日出版社、2500 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to reinforce your Spanish skills (speaking, listening, writing and reading). Furthermore, you are going to get a glimpse of cultural diversity in Spanish-speaking countries.

LANs200LA

スペイン語 3 I

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I

2016 年度以前入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 2 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1 年次の学習内容を踏まえ、中級のスペイン語文法を学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時までには、スペイン語の直説法未来形及び直説法過去未来形の文を理解し、また作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。授業はできる限りゆっくり、かつ丁寧に進行するよう心がけるが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため学期の途中で一度、理解度の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1 年次の復習 (ser, estar, hay)	本授業のガイダンス 動詞 ser の用法 動詞 estar の用法 hay 存在文の用法 (テキスト: 第 1 課)
2	1 年次の復習 (動詞の現在形、不定詞、現在分詞)	動詞の直説法現在形 動詞の不定詞の用法 動詞の現在分詞の用法 (テキスト: 第 1 課)
3	1 年次の復習 (再帰動詞①)	再帰動詞の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)
4	1 年次の復習 (再帰動詞②)	再帰動詞の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)
5	現在完了	直説法現在完了の活用と用法 (テキスト: 第 3 課)
6	点過去の活用① 現在完了と点過去	直説法点過去の活用① 現在完了と点過去の違い (テキスト: 第 3 課)
7	中間試験 点過去の活用②	中間試験 直説法点過去の活用② (テキスト: 第 4 課)
8	線過去の活用 点過去と線過去①	直説法線過去の活用 点過去と線過去の違い① (テキスト: 第 4 課)
9	点過去と線過去②	点過去と線過去の違い② (テキスト: 第 4 課)
10	過去完了	直説法過去完了の活用と用法 (テキスト: 第 5 課)
11	受身表現	受身表現の作り方 (テキスト: 第 5 課)
12	未来形	直説法未来形の活用と用法 (テキスト: 第 6 課)
13	過去未来形	直説法過去未来形の活用と用法 (テキスト: 第 6 課)
14	授業内期末試験	授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。

【テキスト（教科書）】

二宮哲『一歩進んだスペイン語（Un paso más）』（同学社）、2,400 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期中間で1度小テストを行う。平常点を30%、学期中間での小テスト結果を30%、学期末試験結果を40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

Intermediate grammar of Spanish.

LANs200LA

スペイン語 3 II

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II

2016 年度以前入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 2 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1 年次の学習内容を踏まえ、中級のスペイン語文法を学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、スペイン語の接続法現在完了形の文及び条件文を理解し、また作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行う。授業はできる限りゆっくり、かつ丁寧に進行するよう心がけるが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため学期の途中で一度、理解度の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 春学期の復習	イントロダクション 春学期の復習
2	関係代名詞	関係代名詞の用法 (テキスト: 第 7 課)
3	関係副詞 関係形容詞	関係副詞と関係形容詞の用法 (テキスト: 第 7 課)
4	接続法現在形① 接続法現在形②	接続法現在形の活用① 接続法現在形の活用② (テキスト: 第 8 課、第 9 課)
5	名詞節の接続法	名詞節での接続法の使い方 (テキスト: 第 8 課)
6	形容詞節の接続法 副詞節の接続法	形容詞節及び副詞節での接続法の使い方 (テキスト: 第 8 課、第 9 課)
7	中間試験 その他の接続法	中間試験 接続法のその他の使い方 (テキスト: 第 9 課)
8	肯定命令形	肯定命令文の作り方 (テキスト: 第 10 課)
9	否定命令形 代名詞と命令形	否定命令文の作り方 命令文における代名詞の扱い (テキスト: 第 10 課)
10	接続法過去①	接続法過去形の活用 (テキスト: 第 11 課)
11	接続法過去②	接続法過去形の用法 (テキスト: 第 11 課)
12	接続法現在完了	接続法現在完了の活用と用法 (テキスト: 第 12 課)
13	条件文	条件文の作り方 (テキスト: 第 12 課)
14	授業内期末試験	授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。

また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。

【テキスト（教科書）】

二宮哲『一歩進んだスペイン語（Un paso más）』（同学社）、2,400 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期中間で1度小テストを行う。平常点を30%、学期中間での小テスト結果を30%、学期末試験結果を40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

Intermediate grammar of Spanish.

LANs200LA

スペイン語3 I

2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語3 I

2016年度以前入学者

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4
営2年F・H～J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

このクラスの皆さんは2年目になりますが、新たに使用する教科書に沿って文法事項や会話表現など、復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地で収集した食材、生活用品などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらう。

【テキスト（教科書）】

「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs200LA

スペイン語 3 II

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II

2016 年度以前入学者

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 営 2 年 F・H～J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

前期に引き続いて教科書に沿って文法事項や会話表現などを学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地で収集した食材、生活用具などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞 所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるとか記憶に残し、適宜発表してもらおう。

【テキスト（教科書）】

「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で出向いた際持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 2 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達ができるようになる様に学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	大学で勉強をしています。	勉強について話す。
2 回	大学で勉強をしています。	日常や余暇の過ごし方について理解し話す。
3 回	大学で勉強をしています。	時刻を言う、スケジュールについて話す。
4 回	家族	家族について話す。
5 回	家族	人の性格や容姿について話す。
6 回	休暇	有名な場所について話し、そこに何が あるのか話す。
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	休暇	場所ややりたい生活についての情報を やり取りする。
9 回	休暇	旅の計画や簡単な行動について話す。
10 回	音楽が大好き。	好み、趣味や興味について話す。
11 回	音楽が大好き。	計画や義務について話す。
12 回	音楽が大好き。	イベントについての簡単な情報を聞いて 理解する。
13 回	音楽が大好き。	ソーシャルネットワーク。
14 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

いいね！ スペイン語
朝日出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % ・ 授業参加 15%、中間テスト 30 % と学期末試験 40 % で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 2 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達ができるようになる様に学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	買い物	店で欲しいものを伝える、質問に答える。
2 回	買い物	店での会話を聞いて理解する。
3 回	買い物	市場や店の様子を理解し、記述する。
4 回	食事	スペイン語圏の食べ物について話したり尋ねたりする。
5 回	食事	食べたいもの飲み物を頼む。
6 回	食事	レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する。
7 回	中間テスト	中間テスト。
8 回	日常	1 日の生活について上場交換する。
9 回	日常	天候についてのやり取り。
10 回	日常	スペイン語圏の祭りやその他の文化的行事について読んで理解する。
11 回	体調や気分	体調や気分について尋ねたり話したり。
12 回	体調や気分	体の痛い場所や体調について説明する。
13 回	体調や気分	健康的な生活をおくるためのアドバイスをする。
14 回	期末テスト	期末テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している。

【テキスト（教科書）】

『いいね！ スペイン語』朝日出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % ・ 授業参加 15%、中間テスト 30 % と学期末試験 40 % で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 2 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学習したスペイン語の続きを学習しさらに幅の広い話題について会話ができるようにするための文法を学ぶ

【到達目標】

さらに複雑な会話を発展させるために文法を学ぶ

In order to develop complex conversation, learn more grammar and structure correct sentences

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

前半はテキストの文法を中心に学び、後半は適宜新聞記事などを读んだり、ディスカッションを行ったりする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	点過去形、不規則動詞	点過去のうち、不規則な動詞を覚えその変化を学ぶ
2	点過去形、不規則動詞	点過去のうち不規則な動詞を覚えて練習問題に取り組む
3	線過去形についてとその用法	線過去とは何なのか、その用法について学ぶ
4	線過去と点過去の違いおよび時を表す表現	線過去と点過去の違いの説明とそれに伴う時を表す表現を学ぶ
5	比較表現	形容詞・副詞の規則形と形容詞・副詞の不規則な比較級
6	比較表現	形容詞の最上級と副詞の最上級についての説明および練習問題の取り組み
7	未来形	未来形の形と用法についての説明
8	未来形に伴う時を表す表現	未来形の変化と時を表す表現について
9	知覚動詞と使役動詞	知覚動詞や使役動詞の目的語が原形と現在分詞の意味上の主語となる説明
10	受身表現	受身表現の文章の作り方
11	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
12	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
13	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
14	ディスカッション	与えられたテーマについてスペイン語でディスカッションをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を毎回出すので必ずやっておくこと。また必要に応じてプリントも配布する。これも必ず授業前にやって授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを毎回配布するので、質問や復習してほしい点を書いて提出すること

【Outline and objectives】

Based on what the students studied in the first year, they are to study further grammar in order to be able to develop varied conversation

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 2 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期で習得した文法に加えさらに新しい文法と実際の会話の練習に入っていく

【到達目標】

簡単な会話を行うことができること

Simple conversation in Spanish is to be carried out

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを決めてディスカッションを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関係代名詞	関係代名詞の用法の学びと実際の使い方
2	過去完了	過去完了の用法とその作り方
3	間接話法と時制の一致	間接話法の用法と時制の一致の仕方の説明
4	間接話法と時制の一致	間接話法の用法と時制の一致の仕方の説明
5	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
6	自己紹介	自分について話をする
7	大学生活について	自分の生活について動詞を用いながら話をする
8	時の話題	ディスカッション
9	家族について	自分の家族について形容詞を用いて説明する
10	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
11	自分について	線過去、点過去を用いて過去の話題を話す
12	現在の生活	動詞の現在形を用いて自分の今の生活について話す
13	時の話題	新聞記事を用いてディスカッションを行う
14	時の話題	新聞記事を用いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のディスカッションや会話でわからない単語や言い回しがあれば調べてくること

【テキスト（教科書）】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクションペーパーを配布する。質問、提案などがあれば記載すること。これも評価の基準の一つとなる

【Outline and objectives】

Adding to the grammar studied in the prior semester, some new grammar are to be studied and will practice actual conversation

LANs200LA

スペイン語 3 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
営 2 年 O~Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達ができるようになる様に学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スペイン語の授業を語る。	案内や情報を確認する。
2 回	家。	人やものの存在する事を述べる。
3 回	好みを表現する。	食べ物と飲み物の好み。
4 回	習慣を表現する。	自由時間の行動や週末の習慣を語る。
5 回	スペイン語圏の文化	語学と文化の交換
6 回	練習問題ノート	文法
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	町の案内	町を描写する
9 回	スーパーに行く	買い物をする。 有るか無いかを表現する。
10 回	能力、知識	出来るかどうか尋ねる。 知識があるかどうか聞く。
11 回	スペイン圏の文化	小さな商店から大きいなショッピングモールまでの変化。 外国からの移民の商店
12 回	練習ノート	文法
13 回	家の事	家事の話をする。
14 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

著者 VV. AA. "Avanzamos A1" Curso de Español
スペイン文化協会
Stanley Publishing

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 %・授業参加 15%、中間テスト 30 %と学期末試験 40 %で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II 2016 年度以前入学者

ロベルト・コルメナ・ロメロ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
営 2 年 O~Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

同講義の目的は、会話を通じてスペイン語圏の人々と簡単な意思の伝達ができるようになる様に学んでいくと同時に、前年度から更に進んだ複雑な文章の構成、ヒアリングのレベルアップを図ります。

【到達目標】

この授業では、前年度に学んだポイントの復習も兼ねて、一段階上のレベルの表現が出来る様に教科書に従ってダイアログ・単語を学びながら文化についても習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の最初に会話の意図を説明した上で、文法や文脈を解説し、実際に会話を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	願い、許可	お願いをする事。 許可を与えるか与えない事。
2 回	スペイン圏の文化	言い訳。 社会ルール。
3 回	自由時間	予定や計画を表現する。
4 回	旅行	必要性、義務、または指示を表現する。
5 回	計画	推薦するやアドバイスする。
6 回	スペイン圏の文化	若者の行動
7 回	中間テスト	中間テスト
8 回	練習問題ノート	文法
9 回	場所	提案すると計画を勧める。
10 回	場所	好みを表現する。
11 回	デート	同意するそして待ち合わせをする。
12 回	デート	丁寧に計画を断る。
13 回	デート	情報を言い直すそして情報の確認をする。
14 回	期末テスト	期末テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・一年次で学んだことをかならずしっかり復習しておく。
- ・単語の意味調べを行い、授業に出る。
- ・授業中に出る宿題を必ず行うこと。
- ・毎回学んだことを確実にし復習しておくこと。
- ・努めて語彙を増やしていくこと。
- ・スペイン語圏のニュースに注意している

【テキスト（教科書）】

著者 VV. AA. "Avanzamos A1" Curso de Español
出版社 スペイン文化協会
Stanley Publishing

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 %・授業参加 15%、中間テスト 30 %と学期末試験 40 %で総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

なるべく生徒の意見を授業に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

西和和西辞典

【Outline and objectives】

The objective of this class is to communicate simple intentions to Spanish-speaking people. And, at the same time, try to improve the composition of more complicated sentences and improve the level of listening comprehension of the previous course.

LANs200LA

スペイン語 3 I

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 I

2016 年度以前入学者

飯屋 浩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 2 年 T・U**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文法や表現の理解を高めるとともに、スペイン語でのコミュニケーション力を向上させ、スペインやラテンアメリカに関するテキストを読むことでスペイン語圏の理解を深める。

学生は、これまで習得してきた文法事項や表現を復習しながらさらにステップアップすることで、日常で身近な表現に関して理解し、即座に対応することができるようになることを目標とする。

【到達目標】

学生は本授業を履修し課題をこなすことで、これまで習得してきたスペイン語文法をさらに掘り下げ、簡単な既知の内容や習慣の会話、自身の過去の出来事や身の回りで起こったことの描写など、必要に応じて表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて授業を進める。文法事項を確認し、それに基づいたエクササイズ、ペアワーク、グループワーク、リーディング、ライティングを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、復習	基本事項の復習。動詞 直説法現在形
2	点過去：規則活用	自己紹介ができる
3	線過去と点過去	家族や友人など人間関係について話すことができる。 ある人の過去について記述することができる。
4	線過去・点過去 2	今の生活と以前の生活を比べてみる
5	頻度表現と関係詞	過去の習慣について話すことができる
6	線過去・点過去 3	ある場所のひとそこへの行き方について、質問したり答えたりすることができる。
7	時を表す表現：過去	過去に行った事柄について話したり質問したりすることができる。
8	線過去・点過去 4	過去の記述をしたり、原因や結果について表現したりすることができる
9	現在分詞	招待する、また招待を受けたり断ったりすることができる
10	線過去・点過去 5	過去の旅行について、質問したり話したりすることができる。
11	命令形	旅行にかなして人に何かを勧めることができる。
12	時を表す表現：現在完了	近い過去の経験や行為について、質問したり話したりすることができる。
13	過去完了	過去のある時点までに起こったこと表現をすることができる。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、その日に習ったことを音読、復習してから、次の授業に臨む。教科書外からも出される宿題、課題を指定の期日までにやり遂げる、もしくは提出する。教員から指示される教材の動画を視聴し、会話を覚えること。

【テキスト（教科書）】

Juan Carlos Moyano Lopez 他著『Muy bien』朝日出版社（2600 円）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点。25 %

宿題。25 %

小テストおよび期末試験の成績。50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

By understanding Spanish basic grammar, the students will improve communication ability in this language. Also by reading text about Spain and Latin America they will deepen knowledge about these region's history and reality.

The students will learn step by step, reviewing grammar points and expressions they studied in the first year, and their objective will be understanding dairy and simple expressions and react to respond quickly.

LANs200LA

スペイン語 3 II

2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 II

2016 年度以前入学者

飯屋 浩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

営 2 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法や表現の理解を高めるとともに、スペイン語でのコミュニケーション力を向上させ、スペインやラテンアメリカに関するテキストを読むことでスペイン語圏の理解を深める。

学生は、これまで習得してきた文法事項や表現を復習しながらさらにステップアップすることで、日常で身近な表現に関して理解し、即座に対応することができるようになることを目標とする。

【到達目標】

学生は本授業を履修し課題をこなすことで、これまで習得してきたスペイン語文法をさらに掘り下げ、新たに接続法を学ぶことで簡単な既知の内容や習慣の会話、自身の過去の出来事や身の回りで起こったことの描写など、必要に応じて表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて授業を進める。文法事項を確認し、それに基づいたエクササイズ、ペアワーク、グループワーク、リーディング、ライティングを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	時を表す表現：未来形	将来何をしたいのかについて話すことができる
2	条件節	仕事についての意見交換ができる
3	過去未来	パーティー等で会話することができる。
4	接続法	希望、アドバイス、推薦などを行うことができる
5	接続法 2	希望や好み、意見交換をすることができる
6	無人称 se	ある場所ですべきではないこと、習慣について質問したり、話したりすることができる
7	接続法現在	解決法の提案をすることができる。
8	直説法と接続法	重要な社会の変化や問題点について質問したり答えたりすることができる。
9	接続法過去	過去の出来事や行為について、感情を表したり、価値判断を表現したりすることができる
10	条件節 2	現在や未来において、可能性の低いあるいは全くない条件を使って話すことができる。
11	接続法現在と過去	様々な種類の事柄について感情を表すことができるようになる。
12	接続法現在と過去 2	様々な種類の事柄について価値判断を表現することができる。
1 3	スペイン語文法基礎のまとめ	学期中に行ったことについて質問したり話したりすることができる。
1 4	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、その日に習ったことを音読、復習してから、次の授業に臨む。教科書外からも出される宿題、課題を指定の期日までにやり遂げる、もしくは提出する。教員から指示される教材の動画を視聴し、会話を覚える。

【テキスト（教科書）】

Juan Carlos Moyano Lopez 他 著『Muy bien』朝日出版社、2600 円

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

平常点。25 %

宿題。25 %

小テストおよび期末試験の成績。50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

By understanding of grammar and expressions, the students will improve communication skills in Spanish, and deepen understanding of Spanish speaking world by reading texts on Spain and Latin America. Students will aim to be able to understand familiar expressions on daily basis and to be able to respond instantly by reviewing the grammatical items and expressions that have been learned up to now while stepping up

LANs200LA

スペイン語 4 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 4 I 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

【到達目標】

スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められる。必要に応じて教員が説明を行うが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語	南米にスペイン語を話す国々
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞。
3	生活習慣、スペイン語圏の家族	現在進行形 / 現在分詞のその他の用法。
4	人の一生、家族	復習:直説法過去。過去を表す副詞句。
5	中南米諸国への日本人移民	関係詞 I : 関係詞代名詞
6	町で	SER, ESTAR, HABER, TENER 直説法線過去:活用 / -mente で終わる副詞
7	昔と今	直説法線過去の用法 / 品質形容詞
8	旅行	直説法点過去と線過去 / 旅行:活動と携行品
9	天候	色々な副詞節
10	余暇活動	過去分詞 / 直説法現在完了:活用 / 余暇生活 / 勧誘表現
11	社会生活	直説法現在完了の用法 / 過去分詞のその他用法
12	未来を表す副詞	直説法未来:活用 / 直説法未来の用法
13	推測	直説法未来完了:活用と用法
14	確実性を示す表現	直説法過去未来:活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 2, 2da. Edición, Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

In this lesson, students who have finished Spanish for beginners learn to communicate in Spanish through speaking, listening, reading, and writing skills. In addition, our goal is to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs200LA

スペイン語 4 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 4 II 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

【到達目標】

自分の住環境、学習環境、労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べるができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って進められる。必要に応じて教員が説明を行うが、会話練習や練習問題への取り組みが主要な時間を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家具	家具と調度品 / 直説法過去完了:活用と用法
2	調度品	直説法の時制:まとめ/関係詞 II
3	命令形	命令形 I: tu / vosotros に対する肯定命令 / 命令形の用法命令形と目的人称代名詞 / 再帰代名詞
4	食べ物/スポーツ	無人称表現 / 直説法過去未来の用法 II
5	意見	接続法現在:活用 / 接続法の用法 I:名詞節過去形 II : usted/ustedes に対する肯定命令
6	命令	否定命令 / 願望、依頼、命令表す表現
7	数	接続法の用法 II : 副詞節
8	環境問題	接続法の用法 III:形容詞節/
9	自然と人間	接続法現在完了:活用と用法
10	願望表現	接続法の用法 I V : 独立文 / 接続法過去:活用
11	スペイン語圏の映画	接続法過去/条件文 I
12	会話で用いられる表現	接続法過去完了:活用 / 接続法過去完了の用法 / 直説法過去未来完了:活用と用法
13	後悔	条件文 II
14	丁寧な依頼	接続法の時制:まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 2, 2da. Edición, Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため、学生からの意見は今後反映させる。

【Outline and objectives】

In this lesson, students who have finished Spanish for beginners learn to communicate in Spanish through speaking, listening, reading, and writing skills. In addition, our goal is to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs200LA

スペイン語 4 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 4 I 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営環 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

【到達目標】

スペイン語での日常会話ができるようになる。また、辞書を使用しながら、少し長めのテキストを読解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められる。必要に応じて教員が説明を行うが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語	南米にスペイン語を話す国々
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞。
3	生活習慣、スペイン語圏の家族	現在進行形 / 現在分詞のその他の用法。
4	人の一生、家族	復習:直説法過去。過去を表す副詞句。
5	中南米諸国への日本人移民	関係詞 I : 関係詞代名詞
6	町で	SER, ESTAR, HABER, TENER 直説法線過去:活用 / -mente で終わる副詞
7	昔と今	直説法線過去の用法 / 品質形容詞
8	旅行	直説法点過去と線過去 / 旅行:活動と携行品
9	天候	色々な副詞節
10	余暇活動	過去分詞 / 直説法現在完了:活用 / 余暇生活 / 勧誘表現
11	社会生活	直説法現在完了の用法 / 過去分詞のその他用法
12	未来を表す副詞句	直説法未来:活用 / 直説法未来の用法
13	推測	直説法未来完了:活用と用法
14	確実性を示す表現	直説法過去未来:活用 / 直説法過去未来の用法 I

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 2, 2da. Edición, Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続していることで欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

In this lesson, students who have finished Spanish for beginners learn to communicate in Spanish through speaking, listening, reading, and writing skills. In addition, our goal is to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world

LANs200LA

スペイン語 4 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 4 II 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営環 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では初級スペイン語を終了した学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを通してスペイン語でコミュニケーションすることを学ぶ。また、スペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指す。

【到達目標】

自分の住環境、学習環境、労働環境について、評価または願望などをスペイン語で述べるができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って進められる。必要に応じて教員が説明を行うが、会話練習や練習問題への取り組みが主要な時間を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家具	直説法過去完了:活用と用法
2	調度品	直説法の時制:まとめ/関係詞 II
3	命令形	命令形 I: tu / vosotros に対する肯定命令 / 命令形の用法命令形と目的人称代名詞 / 再帰代名詞
4	食べ物/スポーツ	無人称表現 / 直説法過去未来の用法 II
5	意見	接続法現在:活用 / 接続法の用法 I:名詞節過去形 II : usted/ustedes に対する肯定命令
6	命令	否定命令 / 願望、依頼、命令を表す表現
7	数	接続法の用法 II : 副詞節
8	環境問題	接続法の用法 III:形容詞節/
9	自然と人間	接続法現在完了:活用と用法
10	願望表現	接続法の用法 I V : 独立文 / 接続法過去:活用
11	スペイン語圏の映画	接続法過去の用法/条件文 I
12	事実と異なる仮定	条件文 II
13	会話で用いられる表現	接続法過去完了:活用 / 接続法過去完了の用法 / 直説法過去未来完了:活用と用法
14	後悔 / 丁寧な依頼	接続法の時制:まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 2, 2da. Edición, Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続していることで欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため、学生からの意見は今後反映させる。

【Outline and objectives】

In this lesson, students who have finished Spanish for beginners learn to communicate in Spanish through speaking, listening, reading, and writing skills. In addition, our goal is to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world

LANs200LA

スペイン語 4 I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 4 I 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学習したスペイン語の続きを学習しさらに幅の広い話題について会話ができるようにするための文法を学ぶ

【到達目標】

さらに複雑な会話を発展させるために文法を学ぶ

In order to develop complex conversation, learn more grammar and structure correct sentences

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

前半はテキストの文法を中心に学び、後半は適宜新聞記事などを读んだり、ディスカッションを行ったりする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	点過去形、不規則動詞	点過去のうち、不規則な動詞を覚えその変化を学ぶ
2	点過去形、不規則動詞	点過去のうち不規則な動詞を覚えて練習問題に取り組む
3	線過去とその用法	線過去とは何なのか、その用法について学ぶ
4	線過去と点過去の違いおよび時を表す表現	線過去と点過去の違いの説明とそれに伴う時を表す表現を学ぶ
5	比較表現	形容詞・副詞の規則形と形容詞・副詞の不規則な比較級
6	比較表現	形容詞の最上級と副詞の最上級についての説明および練習問題の取り組み
7	未来形	未来形の形と用法についての説明
8	未来形に伴う時を表す表現	未来形の変化と時を表す表現について
9	知覚動詞と使役動詞	知覚動詞や使役動詞の目的語が原形と現在分詞の意味上の主語となる説明
10	受身表現	受身表現の文章の作り方
11	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
12	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
13	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
14	ディスカッション	与えられたテーマについてスペイン語でディスカッションをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を毎回出すので必ずやっておくこと。また必要に応じてプリントも配布する。これも必ず授業前にやって授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを毎回配布するので、質問や復習してほしい点を書いて提出すること

【Outline and objectives】

Based on what the students studied in the first year, they are to study further grammar in order to be able to develop varied conversation

LANs200LA

スペイン語 4 II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 4 II 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期で習得した文法に加えさらに新しい文法と実際の会話の練習に入っていく

【到達目標】

簡単な会話を行うことができること

Simple conversation in Spanish is to be carried out

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを決めてディスカッションを行う/discussion will be carried out under given subject

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関係代名詞	関係代名詞の用法の学びと実際の使い方
2	過去完了	過去完了の用法とその作り方
3	間接話法と時制の一致	間接話法の用法と時制の一致の仕方の説明
4	間接話法と時制の一致	間接話法の用法と時制の一致の仕方の説明
5	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
6	自己紹介	自分について話をする
7	大学生活について	自分の生活について動詞を用いながら話をする
8	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
9	家族について	自分の家族について形容詞を用いて説明する
10	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
11	自分について	線過去、点過去を用いて過去の話題を話す
12	現在の生活	動詞の現在形を用いて自分の今の生活について話す
13	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
14	時の話題	新聞記事を用いてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のディスカッションや会話でわからない単語や言い回しがあれば調べてくること

【テキスト（教科書）】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクションペーパーを配布する。質問、提案などがあれば記載すること。これも評価の基準の一つとなる

【Outline and objectives】

Adding to the grammar studied in the prior semester, some new grammar are to be studied and will practice actual conversation

LANs200LA

スペイン語補講 3 - I

2016 年度以前入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文堂環キ 3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1 年次の学習内容を踏まえ、中級のスペイン語文法を学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、スペイン語の直説法点過去形、線過去形、および過去完了形の文を理解し、また作文でできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。授業はできる限りゆっくり、かつ丁寧に進行するよう心がけるが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため学期の途中で一度、理解度の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 直説法現在形規則動詞	本授業のガイダンス 直説法現在形規則活用の復習 (テキスト: 第 1 課)
2	直説法現在形不規則動詞	直説法現在形不規則活用の復習 (テキスト: 第 1 課、第 2 課)
3	目的格代名詞	目的格代名詞の復習 (テキスト: 第 3 課)
4	gustar 型動詞 関係代名詞 que	gustar 型動詞の復習 関係代名詞 que の用法 (テキスト: 第 3 課)
5	直説法点過去形規則動詞 直説法点過去形不規則動詞 (1)	直説法点過去形の活用の復習 (テキスト: 第 4 課)
6	再帰動詞 se の受け身	再帰動詞の基本用法 再帰動詞を用いた受け身表現 (テキスト: 第 4 課)
7	直説法点過去形不規則動詞 (2)	直説法点過去形不規則活用の復習 (テキスト: 第 5 課)
8	中間試験 過去分詞 直説法現在完了形	中間試験 過去分詞の作り方と用法 直説法現在完了形の復習 (テキスト: 第 5 課)
9	直説法線過去形	直説法線過去形の復習 点過去形と線過去形の使い分け (テキスト: 第 6 課)
10	無人称文 感嘆文	再帰動詞および 3 人称複数形を用いた 無人称文の作り方 感嘆文の作り方 (テキスト: 第 6 課)
11	直説法過去完了形	直説法過去完了形の意味と用法 (テキスト: 第 7 課)
12	ser 受動態	動詞 ser を用いた受け身表現 (テキスト: 第 7 課)
13	春学期の復習	期末試験に備えた春学期の学習内容の振り返り
14	授業内期末試験	授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。

【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぼう！ スペイン語 中級 (Aprendamos los fundamentos del idioma español: Curso intermedio)』(朝日出版)、2,300 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験結果を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

Intermediate grammar of Spanish.

LANs200LA

スペイン語補講3－Ⅱ

2016年度以前入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営環キ3年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1年次の学習内容を踏まえ、中級のスペイン語文法を学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、スペイン語の接続法現在形および過去形の文を理解し、また作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。授業はできる限りゆっくり、かつ丁寧に進行するよう心がけるが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため学期の途中で一度、理解度の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 直説法未来形 直説法過去未来形	本授業のガイダンス 直説法未来形の意味と用法 直説法過去未来形の意味と用法 (テキスト：第2課、第8課)
2	不定詞 + 目的格代名詞	不定詞と目的格代名詞および再帰代名詞の接続 (テキスト：第8課)
3	進行形	現在進行形、過去進行形、未来進行形の文の作り方 (テキスト：第9課)
4	命令法	命令文の作り方 (テキスト：第9課)
5	接続法現在形規則動詞 接続法現在形語幹母音変化動詞	接続法概念 接続法現在形の規則活用と語幹母音変化動詞 (テキスト：第10課)
6	接続法現在形の命令用法	命令文で用いられる接続法現在形 (テキスト：第10課)
7	接続法現在形不規則動詞	接続法現在形のその他の不規則活用 (テキスト：第11課)
8	中間試験 接続法現在形の用法①	中間試験 接続法現在形の名詞節での用法 (テキスト：第12課)
9	接続法現在形の用法②	接続法現在形の形容詞節での用法 (テキスト：第13課)
10	現在分詞構文	現在分詞構文の意味と用法 (テキスト：第13課)
11	接続法現在形の用法③	接続法現在形の副詞節での用法 (テキスト：第14課)
12	接続法過去形	接続法過去形の活用と用法 (テキスト：第14課)
13	秋学期の復習	期末試験に備えた秋学期の学習内容の振り返り
14	授業内期末試験	授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。

【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぼう！スペイン語中級（Aprendamos los fundamentos del idioma español: Curso intermedio）』（朝日出版）、2,300円＋税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期中間で1度小テストを行う。平常点を30%、学期中間での小テスト結果を30%、学期末試験結果を40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。

平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

Intermediate grammar of Spanish.

LANs200LA

スペイン語 (3) I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 (3) I 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1 年次で学習したスペイン語の続きを学習しさらに幅の広い話題について会話ができるようにするための文法を学ぶ

【到達目標】

さらに複雑な会話を発展させるために文法を学ぶ

In order to develop complex conversation, learn more grammar and structure correct sentences

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

前半はテキストの文法を中心に学び、後半は適宜新聞記事などを読んだり、ディスカッションを行ったりする

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	点過去形、不規則動詞	点過去のうち、不規則な動詞を覚えその変化を学ぶ
2	点過去形、不規則動詞	点過去のうち不規則な動詞を覚えて練習問題に取り組む
3	線過去とその用法	線過去とは何なのか、その用法について学ぶ
4	線過去と点過去の違いおよび時を表す表現	線過去と点過去の違いの説明とそれに伴う時を表す表現を学ぶ
5	比較表現	形容詞・副詞の規則形と形容詞・副詞の不規則な比較級
6	比較表現	形容詞の最上級と副詞の最上級についての説明および練習問題の取り組み
7	未来形	未来形の形と用法についての説明
8	未来形に伴う時を表す表現	未来形の変化と時を表す表現について
9	知覚動詞と使役動詞	知覚動詞や使役動詞の目的語が原形と現在分詞の意味上の主語となる説明 受身表現の文章の作り方
10	受身表現	
11	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
12	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
13	過去未来	過去未来の用法の説明と変化について
14	ディスカッション	与えられたテーマについてスペイン語でディスカッションをする

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

宿題を毎回出すので必ずやっておくこと。また必要に応じてプリントも配布する。これも必ず授業前にやって授業に臨むこと。

【テキスト (教科書)】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点 (参加態度) 40 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを毎回配布するので、質問や復習してほしい点を書いて提出すること

【Outline and objectives】

Based on what the students studied in the first year, they are to study further grammar in order to be able to develop varied conversation

LANs200LA

スペイン語 (3) II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 (3) II 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前期で習得した文法に加えさらに新しい文法と実際の会話の練習に入っていく

【到達目標】

簡単な会話を行うことができること

Simple conversation in Spanish is to be carried out

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを決めてディスカッションを行う/discussion will be carried out under a given subject

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関係代名詞	関係代名詞の用法の学びと実際の使い方
2	過去完了	過去完了の用法とその作り方
3	間接話法と時制の一致	間接話法の用法と時制の一致の仕方の説明
4	間接話法と時制の一致	間接話法の用法と時制の一致の仕方の説明
5	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
6	自己紹介	自分について話をする
7	大学生活について	自分の生活について動詞を用いながら話をする
8	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
9	家族について	自分の家族について形容詞を用いて説明する
10	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
11	自分について	線過去、点過去を用いて過去の話題を話す
12	生活について	動詞の現在形を用いて自分の今の生活について話す
13	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション
14	時の話題	新聞記事を用いてディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回のディスカッションや会話でわからない単語や言い回しがあれば調べてくること

【テキスト (教科書)】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点 (参加態度) 40 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクションペーパーを配布する。質問、提案などがあれば記載すること。これも評価の基準の一つとなる

【Outline and objectives】

Adding to the grammar studied in the prior semester, some new grammar are to be studied and will practice actual conversation

LANs200LA

スペイン語 (3) I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 (3) I 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく。

【到達目標】

初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基礎を終えた学生を対象とし、基本的にはテキストに添って文法事項などを説明しながら進める。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課 グラナダ（スペイン） 文法説明	ser,estar,hay の活用と用法、直説法現在の活用、直説法現在の用法、指示形容詞・指示代名詞
第 2 回	第 1 課 グラナダ（スペイン） 会話文・読解	ser,estar,hay の活用と用法、直説法現在の活用、直説法現在の用法、指示形容詞・指示代名詞
第 3 回	第 2 課 セビリア（スペイン） 文法説明	再帰動詞、目的格人称代名詞、不定詞と弱い代名詞
第 4 回	第 2 課 セビリア（スペイン） 会話文・読解	再帰動詞、目的格人称代名詞、不定詞と弱い代名詞
第 5 回	第 3 課 ハバナ（キューバ） 文法説明	現在分詞、進行形、現在分詞を用いた分詞構文、所有形容詞
第 6 回	第 3 課 ハバナ（キューバ） 会話文・読解	現在分詞、進行形、現在分詞を用いた分詞構文、所有形容詞
第 7 回	第 4 課 テオティワカン（メキシコ） 文法説明	過去分詞、受動態、結果状態、点過去
第 8 回	第 4 課 テオティワカン（メキシコ） 会話文・読解	過去分詞、受動態、結果状態、点過去
第 9 回	第 5 課 ティカル（グアテマラ） 文法説明	線過去、点過去と線過去の使い分け、時間の経過を示す hace 、比較表現、絶対最上級
第 10 回	第 5 課 ティカル（グアテマラ） 会話文・読解	線過去、点過去と線過去の使い分け、時間の経過を示す hace 、比較表現、絶対最上級
第 11 回	第 6 課 マチュ・ピチュ（ペルー） 文法説明	直説法現在完了、直説法過去完了、不定語と否定語、無人称表現
第 12 回	第 6 課 マチュ・ピチュ（ペルー） 会話文・読解	直説法現在完了、直説法過去完了、不定語と否定語、無人称表現
第 13 回	前期の総復習	テストに向けた前期の総復習、文法ポイントの確認
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である

【テキスト（教科書）】

『一初級～中級スペイン語― 世界遺産を訪ねて 一改訂版―』 禰野美穂他著、朝日出版社、2,300 円（+税）

【参考書】

辞書：『西和中辞典』（小学館）
文法書：『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく

【Outline and objectives】

Basic to middle level Spanish grammar and conversation

LANs200LA

スペイン語 (3) II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 (3) II 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の初級文法を復習しながら、中級レベルの文法へのステップアップを目指し、構文などの応用的な表現を学んでいく。

【到達目標】

初級から一歩進んだ文法を習得し、読み書きのレベルを高めていく。また語学だけでなく、スペイン語圏諸国の歴史、文化などの理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基礎を終えた学生を対象とし、基本的にはテキストに添って文法事項などを説明しながら進める。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課 メキシコ市 (メキシコ) 文法説明	直説法未来、直説法過去未来、関係詞 (1)
第 2 回	第 7 課 メキシコ市 (メキシコ) 会話文・読解	直説法未来、直説法過去未来、関係詞 (1)
第 3 回	第 8 課 クスコ (ペルー) 文法説明	直説法未来完了、直説法過去未来完了、間接話法
第 4 回	第 8 課 クスコ (ペルー) 会話文・読解	直説法未来完了、直説法過去未来完了、間接話法
第 5 回	第 9 課 ボトシ (ボリビア) 文法説明	接続法現在の活用、接続法の用法 (1) 独立文、知覚、使役の表現
第 6 回	第 9 課 ボトシ (ボリビア) 会話文・読解	接続法現在の活用、接続法の用法 (1) 独立文、知覚、使役の表現
第 7 回	第 10 課 ラ・サンティシマ・トリニダドとヘス・デ・タバランゲ (パラグアイ) 文法説明	命令文、再帰前置詞格人称代名詞
第 8 回	第 10 課 ラ・サンティシマ・トリニダドとヘス・デ・タバランゲ (パラグアイ) 会話文・読解	命令文、再帰前置詞格人称代名詞
第 9 回	第 11 課 ガラバゴス諸島 (エクアドル) 文法説明	接続法の用法 (2)、名詞説、形容詞節、副詞節
第 10 回	第 11 課 ガラバゴス諸島 (エクアドル) 会話文・読解	接続法の用法 (2)、名詞説、形容詞節、副詞節
第 11 回	第 12 課 ラバ・スイ国立公園 (チリ) 文法説明	接続法過去の活用と用法、条件文
第 12 回	第 12 課 ラバ・スイ国立公園 (チリ) 会話文・読解	接続法過去の活用と用法、条件文
第 13 回	後期の総復習	テストに向けた後期の総復習、文法ポイントの確認
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

わからない単語を辞書で調べておくこと
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である

【テキスト (教科書)】

『一初級～中級スペイン語― 世界遺産を訪ねて 一改訂版―』 禪野美穂他著、朝日出版社、2,300 円 (+税)

【参考書】

辞書：『西和中辞典』(小学館)

文法書：『わかるスペイン語』西川喬 (同学社)

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく

【Outline and objectives】

Basic to middle level Spanish grammar and conversation

LANs200LA

スペイン語7 2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語7 2016年度以前入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
国 2年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、SAに参加する2年生を対象とする授業である。1年次に学んだスペイン語文法の知識を生かしながら、長文読解や作文、リスニング、スピーキングなどの技能の習得をめざす。また、おもにスペインの新聞記事や小説など、さまざまなジャンルの読み物に挑戦し、文章理解力の向上に努める。

【到達目標】

長文読解では、おもにスペインの新聞記事や小説など、さまざまなジャンルの読み物に挑戦し、文章理解力の向上に努める。そのほか、複雑な時制を含む和文西訳や、視聴覚教材を用いたリスニングなどにも取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には、指名された学生による発表を軸に授業を進める。また、随時小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	直説法現在形	直説法現在形を用いた文章の読解を行なう。
2	直説法現在形（不規則）	直説法現在形（不規則）を用いた文章の読解を行なう。
3	直説法点過去	直説法点過去を用いた文章の読解を行なう。
4	直説法線過去	直説法線過去を用いた文章の読解を行なう。
5	直説法現在完了	直説法現在完了形を用いた文章の読解を行なう。
6	直説法未来形	直説法未来形を用いた文章の読解を行なう。
7	直説法過去未来形	直説法過去未来形を用いた文章の読解を行なう。
8	直説法過去完了	直説法過去完了形を用いた文章の読解を行なう。
9	接続法現在	接続法現在形を用いた文章の読解を行なう。
10	接続法現在完了	接続法現在完了形を用いた文章の読解を行なう。
11	接続法過去	接続法過去形を用いた文章の読解を行なう。
12	仮定法	仮定法を用いた文章の読解を行なう。
13	接続法独立用法	接続法（独立用法）を用いた文章の読解を行なう。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for second-year students to participate in SA program. We will aim to improve students' reading, writing, listening and speaking skills in Spanish, by making the most of grammar they learned in their previous year. A further goal is to increase students' awareness and understanding of Spanish vocabulary and sentence-patterns, by reading newspaper-accounts, novels and other sundry books of all kinds.

LANs200LA

スペイン語8 2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語8 2016年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
国 2年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語基礎文法の学習を終え、SA 出発へ向けに準備を進める。随時講読テキストを用いて、スペイン語読解力の向上を目指す。

【到達目標】

スペイン語文法の「総仕上げ」を行う。スペイン語初級文法の全項目について一通りの知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法の講義に加えて、リスニングや AV 資料を用いながらスペイン語やスペイン語圏の文化についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	過去未来	過去未来形について学習する
2	接続法	接続法の活用と用法について学習する
3	接続法 2	接続法の活用と用法について練習する
4	接続法 3	接続法の活用と用法について練習する
5	講読とディスカッション ： La Semana Santa	聖週間に行われる儀式と祭りについて
6	講読とディスカッション ： La Fiesta de los Patos de Córdoba	コルドバのパティオ祭りについて
7	講読とディスカッション El Inti Raymi	インティ・ライミについて
8	講読とディスカッション Las Fiestas de San Fermin	サン・フェルミン祭りについて
9	講読とディスカッション La Feria de las Flores	花まつりについて
10	講読とディスカッション El Grito de Dolores	ドロレスの叫びについて
11	講読とディスカッション El Día de la Raza	民族の日について
12	講読とディスカッション El Día de Muertos	死者の日について
13	講読とディスカッション El Carnaval de Oruro	オルーロのカーニバルについて
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法については、復習をしっかりと行うこと。講読については、あらかじめ下訳を準備しておくこと。ディスカッションについては、各回のテーマについて各自で調べて臨むこと。

【テキスト（教科書）】

1年時から使っているテキスト『初歩のスペイン語』（大学書林）および『レベル別スペイン語ドリル』を継続使用する。新規で村上陽子・ナカガワ・マルガリータ『フィエスタ！ フィエスタ！ 一解きながら読むスペイン語圏の12ヶ月』（朝日出版）2300円+税を使用する。

【参考書】

田澤耕『物語 カタルーニャの歴史 知られざる地中海帝国の興亡』（中公新書）2013年
田澤耕『カタルーニャを知る事典』（平凡社新書）2013年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%。期中、期末試験 60%。

【学生の意見等からの気づき】

全員参加型の授業を目指します。

【Outline and objectives】

We will finish learning basic Spanish grammar. As preparations for participating in the SA program, practice reading and do discussion in Spanish

LANs200LA

スペイン語 3 - I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 - I 2016 年度以前入学者

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 G~L**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみよう、〇〇をしてみよう」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

このクラスの皆さんは2年目になりますが、新たに使用する教科書に沿って文法事項や会話表現など、復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地で収集した食材、生活用品などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらおう。

【テキスト（教科書）】

「エスピゲータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs200LA

スペイン語 3 - II 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 - II 2016 年度以前入学者

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 G~L**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみよう、〇〇をしてみよう」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

前期に引き続いて教科書に沿って文法事項や会話表現などを学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地で収集した食材、生活用品などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞
		所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらおう。

【テキスト（教科書）】

「エスピゲータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs200LA

スペイン語 3 - I 2017 年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語 3 - I 2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法で得た知識をより確固としたものにする目的で、再度学習を行う。聴き取り、読解、作文など、実用的なスペイン語を運用する能力を習得することを目指す。

【到達目標】

1 年次の初級文法での未習の分野を学習する。その上で、1 年次に既習の分野もふくめて、この授業で、発展的な文法事項をあらたに学習する。それによって、作文や会話でさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、A3 レベルの文法・語彙の試験で 70%以上得点できる実力を身につける。聴き取り能力の向上も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、1 年次の教科書を用いて未習分野を学習する。後半は、中級の教科書で、文法事項の学習、会話文の訳読、問題演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	初級文法、未習分野の学習 (1)	初級文法の教科書を用いた授業 (1)
3	初級文法、未習分野の学習 (2)	初級文法の教科書を用いた授業 (2)
4	初級文法、未習分野の学習 (3)	初級文法の教科書を用いた授業 (3)
5	初級文法、未習分野の学習 (4)	初級文法の教科書を用いた授業 (4)
6	初級文法、未習分野の学習 (5)	初級文法の教科書を用いた授業 (5)
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	中級教科書	ser, estar, hay、直説法現在、など。
9	中級教科書	再帰動詞。
10	中級教科書	現在完了と点過去。
11	中級教科書	点過去と線過去。
12	中級教科書	過去完了、受身表現。
13	中級教科書	未来、過去未来。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習を必ずする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。

【テキスト（教科書）】

春学期前半では、1 年次に使用した教科書を使用する。後半でどのような教科書を使用するかは、受講生の理解度を把握したうえで決定する。

【参考書】

西和辞書は必携。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 %とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説を心がける。受講生と双方向のコミュニケーションを心がける。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuhasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

A general review of Spanish grammar to consolidate and reinforce the knowledge obtained in elementary Spanish classes. Using medium size texts for reading training, we will achieve the practical ability of the Spanish language. We will obtain the practical ability of the Spanish language in listening comprehension, reading and composition.

LANs200LA

スペイン語3-II 2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語3-I 2016年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環2年 A~F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法で得た知識の復習に加えて、接続法を重点的に学ぶ。初級よりも、より複雑な内容の読解、聞き取り、作文など、実用的なスペイン語を運用する能力を習得することを目指す。

【到達目標】

この授業で、接続法をはじめ、発展的な文法事項をあらたに学習することによって、作文や会話でさらに幅広い表現ができるようになる。くわえて、DELE、B1レベルの文法・語彙の試験で70%以上得点できる実力を身につける。聴き取り能力の向上も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

中級の教科書で、文法事項、会話文、問題演習をやる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	中級教科書	関係詞。
3	中級教科書	関係詞。
4	中級教科書	接続法現在。
5	中級教科書	接続法現在。
6	中級教科書	接続法現在。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	中級教科書	命令形。
9	中級教科書	命令形。
10	中級教科書	接続法過去。
11	中級教科書	接続法過去。
12	中級教科書	接続法現在完了、条件文。
13	中級教科書	接続法現在完了、条件文。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習を必ずする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

受講生の理解度を把握したうえで、秋学期が始まる前に決定する。

【参考書】

西和辞書は必携。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50%とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が5回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説を心がける。受講生と双方向のコミュニケーションを心がける。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

In addition to reviewing the knowledge gained by elementary grammar. Students learn the subjunctive mode intensively. Aim to master the ability to operate more practical and intricate Spanish language in reading comprehension, listening comprehension, and composition, etc.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2016年度以前入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国環キ 2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な表現、文法、語彙を学ぶ。解説とそれに基づく実践的な口頭練習の繰り返しによって、1年間で日常的なレベルにおいて、「聞く・話す・読む・書く」という4つの技能を総合的に習得することが目的である。

【到達目標】

文法の復習しながら口頭表現力の育成をめざし、より高度な文法・表現の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

動詞の現在形を中心に今まで勉強してきた文法を生かして、自己紹介や身近な話題での簡単な表現練習を通して関連する表現を覚える。「聞き・話し・読み・書く」という四つの技能をバランスよく身につけるようにする。このコースの履修者には、宿題、予習・復習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	発音
2	挨拶	固有名詞
3	教室で役に立つ表現	スペイン語でなんと言うんですか。
	数字（1~10）	
4	出身地を訪ねる	国名と国籍
5	自己紹介に必要な語彙・表現・文法	外見と性格を表す名詞と形容詞
6	人を描写するのに必要な語彙・表現・文法	人の記述
7	家族	家族の紹介
8	大学	自分の大学の紹介
9	位置関係	場所を表す副詞
10	日常生活	曜日
11	頻度を表す表現	自分のスケジュール
12	計画	月と四季
13	時間の表現	未来の表現
14	交通機関	自分の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回文書の意味調べなどの宿題をだす。基本的にペアで練習を行うので、宿題ができていないとスムーズに進めない。それに留意して授業にのぞんでほしい。

【テキスト（教科書）】

『Entre amigos 総合スペイン語コース 初級』朝日出版社 スペイン語教材研究会

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び期末試験から判断する。

期末試験:70%

平常点評価:30% 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は日常生活に使う言い回しの多い教科書に変えた。一年間文法の勉強を終えた学生を対象に使う。

【Outline and objectives】

The objective is the integrated learning of the four skills

"Listen・speak・read・write" to be able to carry out communication in everyday life. After learning the expressions, grammar and vocabulary related to each topic, oral practice will be done working in pairs.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2016年度以前入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な表現、文法、語彙を学ぶ。解説とそれに基づく実践的な口頭練習の繰り返しによって、1年間で日常的なレベルにおいて、「聞く・話す・読む・書く」という4つの技能を総合的に習得することが目的である。

【到達目標】

文法の復習をしながら口頭表現力の育成をめざし、より高度な文法・表現の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

動詞の現在形を中心に今まで勉強してきた文法を生かして、自己紹介や身近な話題での簡単な表現練習を通して関連する表現を覚える。「聞き・話し・読み・書く」という四つの技能をバランスよく身につけるようにする。このコースの履修者には、宿題、予習・復習をしっかり行い、積極的に授業に参加することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	普通の日	住居 天候表現
2	日常の習慣	朝起きてから寝るまでの行動
3	食にまつわる話	食べ物と飲み物
4	レストランで	注文の仕方
5	買い物	衣服とアクセサリー
6	店で	買い物の練習
7	余暇	余暇の過ごし方
8	好み	スポーツ
9	体調を表現するのに	体の部分
10	状態	体調と感情表現
11	過去形	時を表す副詞
12	過去の出来事を話す	行った場所
13	旅行	最期にやった旅行
14	今年度の出来事	今年度の出来事について話す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回文書の意味調べなどの宿題をだす。基本的にペアで練習を行うので、宿題ができていないとスムーズに進めない。それに留意して授業にのぞんでほしい。

【テキスト（教科書）】

『Entre amigos 総合スペイン語コース 初級』朝日出版社 スペイン語教材研究会

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び期末試験から判断する。

期末試験:70%

平常点評価:30% 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではない。この授業では出席も非常に重視する。欠席と遅刻は減点の対象となるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は日常生活に使う言い回しの多い教科書に変えた。一年間文法の勉強を終えた学生を対象に使う。

【Outline and objectives】

The objective is the integrated learning of the four skills "Listen・speak・read・write" to be able to carry out communication in everyday life. After learning the expressions, grammar and vocabulary related to each topic, oral practice will be done working in pairs.

LANs200LA

時事スペイン語Ⅰ

2017年度以降入学者

LANs200LA

時事スペイン語Ⅰ

2016年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文堂国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。また、この授業では、スペイン語圏の世界遺産に光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の世界遺産に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りませ、高度なレベルの文章読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行う。その後、順番に指名された受講生が訳読を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	「グラナダ」	直説法現在を使ったスペインの都市グラナダに関する文章を読解する。
4	「セビーリャ」	再帰動詞を使ったスペインの都市セビーリャに関する文章を読解する。
5	「ハバナ」	現在分詞と進行形を使ったキューバの都市ハバナに関する文章を読解する。
6	「テオティワカン」	過去分詞と点過去を使ったメキシコの古代遺跡テオティワカンに関する文章を読解する。
7	「ティカル」	線過去を使ったグアテマラの古代遺跡ティカルに関する文章を読解する。
8	「マチュ・ピチュ」	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。

【テキスト（教科書）】

『世界遺産を訪ねて（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験50%、随時行う小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course will focus on several famous World Heritages in Spanish-speaking countries and their history and the present state. A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

LANs200LA

時事スペイン語Ⅱ 2017年度以降入学者

LANs200LA

時事スペイン語Ⅱ 2016年度以前入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国環キ 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。また、この授業では、スペイン語圏の世界遺産に光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の世界遺産に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りまぜ、高度なレベルの文章読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行なう。その後、順番に指名された受講生が訳読を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行なう。
3	「メキシコ・シティ」	直説法未来を使ったメキシコ・シティに関する文章を読解する。
4	「クスコ」	直説法未来完了を使ったペルーのクスコに関する文章を読解する。
5	「ボトシ」	接続法現在を使ったボリビアの都市ボトシに関する文章を読解する。
6	「イエズス会の布教村」	肯定命令を使ったパラグアイのイエズス会布教村に関する文章を読解する。
7	「ガラパゴス諸島」	接続法（名詞節）を使ったエクアドルのガラパゴス諸島に関する文章を読解する。
8	「ラバ・ヌイ国立公園」	接続法過去を使ったチリのラバ・ヌイ国立公園に関する文章を読解する。
9	直接法過去未来形の復習	直説法過去未来形を使った文章を読解する。
10	間接話法の復習	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現の復習	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	接続法現在の復習	接続法現在形を使った文章を読解する。
13	秋学期のまとめ	秋学期に学んだ文法事項の復習。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。

【テキスト（教科書）】

『世界遺産を訪ねて（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course will focus on several famous World Heritages in Spanish-speaking countries and their history and the present state. A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

ARSA200LA

スペイン語の世界 L A 2017 年度以降入学者

ARSA200LA

スペイン語の世界 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：スペインの言語と文化

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。
また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（プレゼン担当決定）	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション
13	プレゼンテーション⑩	担当者によるプレゼンテーション
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。
また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容（70%）と平常点（30%）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

ARSA200LA

スペイン語の世界 L B 2017 年度以降入学者

ARSA200LA

スペイン語の世界 II 2016 年度以前入学者

サブタイトル：スペイン語圏の社会と国際関係

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国環キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。
また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（プレゼン担当決定）	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション
13	プレゼンテーション⑩	担当者によるプレゼンテーション
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。
また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容（70%）と平常点（30%）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

言語・地域・文化を軸に、スペインやスペイン語圏の社会の多様性を学ぶことにより、既存の枠組みを再考し、多様性を有する社会のあり方について捉えなおすきっかけを提供したい。

LANk200LA

朝鮮語 3 A I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 ー I 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I 2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法文営 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習, ピュブ不規則用言
2	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	第 2 課	長い不可能形, 助詞「～に」の用法
5	第 3 課	文中の疑問形, 強調表現
6	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ, 方向をあらわす動詞
7	第 4 課	もうひとつの意思・推量形, ショット不規則用言
8	第 4 課	動詞のこそあどことば, 副詞をつくる方法
9	第 5 課	用言の名詞形, 「～することはする」
10	第 5 課	いくつかの助詞, 「～という」の短縮形
11	第 6 課	動作の反復, 推量表現
12	第 6 課	大過去, ヘヨ体の命令形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語【私家版】』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 3 A II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 ー II 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II 2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法文営 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
2	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
3	第 8 課	移動をあらわす合成動詞, 用言の「～である」形
4	第 8 課	間接話法 1, 反語表現
5	第 9 課	ハンダ体, 間接話法 2
6	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
7	第 10 課	概数の表現, 間接話法と第Ⅲ語基
8	第 10 課	「～について」、「～しやすい/しにくい」
9	第 11 課	手段・状況をあらわす「～して」、理由をあらわす表現
10	第 11 課	各種の濃音化, パンマル疑問文のもうひとつの形
11	第 12 課	「～と思う／考える」、「～して」の話しことば
12	第 12 課	「やりもらい」の間接話法, 助詞の尊敬形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語【私家版】』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the spring semester.

LANk200LA

朝鮮語 3 A I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 - I

2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I

2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行いません。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習, ピウブ不規則用言
2	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	第 2 課	長い不可能形, 助詞「～に」の用法
5	第 3 課	文中の疑問形, 強調表現
6	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ, 方向をあらわす動詞
7	第 4 課	もうひとつの意思・推量形, ショット不規則用言
8	第 4 課	動詞のこそあどことば, 副詞をつくる方法
9	第 5 課	用言の名詞形, 「～することはする」
10	第 5 課	いくつかの助詞, 「～という」の短縮形
11	第 6 課	動作の反復, 推量表現
12	第 6 課	大過去, ヘヨ体の命令形
13	復習	春学期の総復習を行いません。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしくらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語 [私家版]』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANK200LA

朝鮮語 3 A II 2017 年度以降入学者

LANK200LA

朝鮮語 3 ー II 2016 年度以前入学者

LANK200LA

朝鮮語 3 II 2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法文営 2 年

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the spring semester.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
2	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
3	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
4	第 8 課	間接話法 1、反語表現
5	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
6	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
7	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
8	第 10 課	「～について」、「～しやすい／しにくい」
9	第 11 課	手段・状況をあらわす「～して」、理由をあらわす表現
10	第 11 課	各種の濃音化、パンマル疑問文のもうひとつの形
11	第 12 課	「～と思う／考える」、「～して」の話しことば
12	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしくらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお薦めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

LANk200LA

朝鮮語 3 A I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 ー I 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I 2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法文営 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習、ピップ不規則用言
2	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形、禁止形
4	第 2 課	長い不可能形、助詞「～に」の用法
5	第 3 課	文中の疑問形、強調表現
6	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ、方向をあらわす動詞
7	第 4 課	もうひとつの意思・推量形、シオッ不規則用言
8	第 4 課	動詞のこそあどことば、副詞をつくる方法
9	第 5 課	用言の名詞形、「～することはする」
10	第 5 課	いくつかの助詞、「～という」の短縮形
11	第 6 課	動作の反復、推量表現
12	第 6 課	大過去、へヨ体の命令形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語【私家版】』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 3 A II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 ー II 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II 2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法文営 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
2	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
3	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「～である」形
4	第 8 課	間接話法 1、反語表現
5	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
6	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
7	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
8	第 10 課	「～について」、「～しやすい/しにくい」
9	第 11 課	手段・状況をあらわす「～して」、理由をあらわす表現
10	第 11 課	各種の濃音化、パンマル疑問文のもうひとつの形
11	第 12 課	「～と思う／考える」、「～して」の話しことば
12	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語【私家版】』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

[Outline and objectives]

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the spring semester.

LANk200LA

朝鮮語 3 B I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I

2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 2 年 A～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。学生の様子を見て内容を適宜変更する。

【到達目標】

native speaker（韓国人留学生・中国人朝鮮族など）と簡単な会話ができるようになる。

語彙・文型の知識が増強できる。

正しい発音ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- 1 単語と文型を予習する。
- 2 文型練習をする。
- 3 会話練習をする。
- 4 自宅で作文、暗誦、読解の宿題をする。
- 5 暗唱と作文の小テスト。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	一年次の復習 第 1 課 文型・会話練習	自己紹介
2	第 1 課 文型・会話練習 CM 聞き取り	ましょうか・ください
3	第 1・2 課 読解	ましょう・たい、たがる・から、 てくて
4	第 2 課	ウ不規則活用・できない
5	第 2 課 文型・会話練習	ことにする・電話番号
6	第 3 課 文型・会話練習 歌	ば、たら、と
7	第 3 課 文型・会話練習	てみる・ますね、ですね
8	第 3・4 課 文型・会話練習	連体形
9	第 4 課 文型・会話練習	ようと・ばいい
10	第 4 課 文型・会話練習	でしょうか、ましょうか・んですよ
11	韓国人留学生との会話 第 4 課	ネイティブと朝鮮語で 100 分会話する たあと・ますよ、ますからね
12	読解 文型・会話練習	
13	第 5 課 文型・会話練習	ビウップ不規則活用・んですが
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる語彙・文の意味を授業の前に調べておくこと。

辞書を使って読解プリントを訳してくること。

本文の暗記・発音・作文の練習をすること。

【テキスト（教科書）】

『韓国語を学ぼう 中級』李昌圭 朝日出版社 2300 円+税

【参考書】

朝鮮語辞書 小学館 など

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %

欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

【学生の意見等からの気づき】

エンタメに興味がある学生が多いので取り上げます。韓国人留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので行う予定です。

【Outline and objectives】

This class is designed for lower intermediate Korean learners. Students study grammar and vocabulary. It aims to enhance overall Korean.

LANk200LA

朝鮮語 3 B II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II

2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 2 年 A～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。学生の様子を見て内容を適宜変更する。

【到達目標】

native speaker（韓国人留学生・中国朝鮮族留学生など）と簡単な会話ができるようになる。

語彙・文型の知識が増強できる。

正しい発音ができるようになる。

辞書を引きながらまとまった文章を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 単語と文型を予習する。

2 文型練習をする。

3 会話練習をする。

4 自宅で作文、暗誦、読解の宿題をする。

5 暗唱と作文の小テスト。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 第 5 課 文型・会話練習	夏休みの話 が、けれども・シオツ不規則活用
2	第 5 課 読解 文型・会話練習	ことができる・しない
3	第 6 課 文型・会話練習	するつもりです・でも
4	第 6 課 歌	ながら・まだしていな・にくい
5	第 6 課 文型・会話練習	するようだ・しそうだ
6	第 7 課 文型・会話練習	いようだ（推測）・そうだ（伝聞）
7	第 7 課 文型・会話練習	ますか（意志）・くなる
8	第 7・8 課 読解 文型・会話練習	仕方を知っている・したことがある・ ティグツ不規則活用
9	第 8 課 文型・会話練習	するから（意思）・ばいと思う
10	韓国人留学生との会話	ネイティブと 100 分会話する
11	第 8 課 文型・会話練習	ていて、する途中で
12	第 9 課 文型・会話練習	なければならない・てはいけない
13	第 9 課 文型・会話練習 ドラマ	ので・ている、てもいい、ますが
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる語彙・文の意味を授業の前に調べておくこと。

辞書を使って読解プリントを訳してくること。

本文の暗記・発音・作文の練習をすること。

【テキスト（教科書）】

『韓国語を学ぼう 中級』李昌圭 朝日出版社 2300+税

【参考書】

朝鮮語辞典 小学館 等

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %

欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も行う予定です。

韓国エンタメに興味がある学生が多いため、授業で教材として取り上げます。

【Outline and objectives】

This class is designed for lower intermediate Korean learners. Students study grammar and vocabulary. It aims to enhance overall Korean.

LANk200LA

朝鮮語 3 B I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I

2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年 A～N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課	語基の復習他
2	第1課	語基の復習他
3	第1課	語基の復習他
4	第2課	「～している」の2つの形、禁止形
5	第2課	長い不可能形、助詞「～に」の用法
6	中間試験	中間試験
7	第3課	文中の疑問形、強調表現
8	第3課	存在詞と語尾の組み合わせ、方向をあらわす動詞
9	第4課	もうひとつの意思・推量形、シオッ不規則用言
10	第4課	動詞のこそあどことば、副詞をつくる方法
11	第5課	用言の名詞形、「～することはする」
12	第5課	いくつかの助詞、「～という」の短縮形
13	春学期のまとめ	春学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

It aims to comprehensively improve each ability of "reading, writing, listening, talking" on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 3 B II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 2 年 A～N**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部等のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 6 課	疑問詞の不定詞的用法他
2	第 6 課	大過去形他
3	第 6 課	へヨ体の命令形他
4	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
5	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
6	中間試験	中間試験
7	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
8	第 8 課	間接話法 1、反語表現
9	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
10	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
11	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
12	第 10 課	「～について」、「～しやすい／にくい」
13	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

Continuing from the spring semester, it aims to comprehensively improve each ability of "Reading, Writing, Listening, Talking".

LANk200LA

朝鮮語 3 B I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 2 年 P～X、営 2 年 J～O**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部等のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習他
2	第 1 課	語基の復習他
3	第 1 課	語基の復習他
4	第 2 課	「～している」の 2 つの形、禁止形
5	第 2 課	長い不可能形、助詞「～に」の用法
6	中間試験	中間試験
7	第 3 課	文中の疑問形、強調表現
8	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ、方向をあらわす動詞
9	第 4 課	もうひとつの意思・推量形、シオット
10	第 4 課	規則用言
11	第 5 課	動詞のこそあどことば、副詞をつくる方法
12	第 5 課	用言の名詞形、「～することはする」
13	春学期のまとめ	いくつかの助詞、「～という」の短縮形
14	期末試験	春学期のまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

It aims to comprehensively improve each ability of "reading, writing, listening, talking" on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 3 B II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 2 年 P～X、営 2 年 J～O

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 6 課	疑問詞の不定詞的用法他
2	第 6 課	大過去形他
3	第 6 課	へヨ体の命令形他
4	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
5	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
6	中間試験	中間試験
7	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
8	第 8 課	間接話法 1、反語表現
9	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
10	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
11	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
12	第 10 課	「～について」、「～しやすい／しにくい」
13	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

Continuing from the spring semester, it aims to comprehensively improve each ability of "Reading, Writing, Listening, Talking".

LANk200LA

朝鮮語 3 B I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I 2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 2 年 A～H・Q～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ朝鮮語の基礎の定着を図りつつ、それを活用して会話に導いていきます。また、発音にも力をいれて、きれいな発音で自信を持って会話ができるように反復します。

【到達目標】

ハングル検定 4 級のレベルに合わせて、文法、単語、会話に力を入れます。身近な会話ができることが学習到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

復習と作文。

読む練習と発音練習。

文法説明。

会話。

練習問題。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	授業の進め方についての説明	授業の進め方についての説明
2 回目	韓国語上手になりましたか?	読むと文型について。
3 回目	韓国語上手になりましたか?	練習問題について。
4 回目	今日の授業は何限までありますか?	読む、文型について。
5 回目	今日の授業は何限までありますか?	練習問題について。
6 回目	趣味は何ですか?	読む、文型について。
7 回目	趣味は何ですか?	文型について。
8 回目	趣味は何ですか?	練習問題について。
9 回目	今日韓国へ来てから一年になりますよね?	読む、文型について。
10 回目	今日韓国へ来てから一年になりますよね?	文型について。
11 回目	今日韓国へ来てから一年になりますよね?	練習問題について。
12 回目	家族は日本にいらっしゃいますよね?	読む、文型について。
13 回目	家族は日本にいらっしゃいますよね?	練習問題について。
14 回目	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題。

韓国文化など韓国についての知識。

韓国ドラマや K-POP を活用する。

【テキスト（教科書）】

教室用教材「中級韓国語－ハングル 4 級基準」 梁禮先

【参考書】

韓日・日韓辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、課題など）30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音と会話をもっとやることなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は変わることがある。

【Outline and objectives】

We will make sure to establish a foundation on the content covered in the first year as well as using it to guide the conversation in Korean. We will also pay close attention to pronunciation to be able to confidently have a conversation with correct pronunciation through repetition.

LANk200LA

朝鮮語 3 B II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II

2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 営 2 年 A～H・Q～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、朝鮮語 1・2 で学んだ知識を利用し、実践的な練習を繰り返すことで朝鮮語を確実に身に付けることを目標にします。朝鮮語の会話をもっと自信を持って話すことができることです。

【到達目標】

できれば、希望者はハングル検定 4 級に合格することも目標にしていきたいです。また、日常の簡単な会話ができることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期も春学期と同じ方法で、発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきますが、もっと会話に力を入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	秋学期授業の進め方などについて	春学期の復習と本文の説明。
2 回目	電話について	本文を読んで説明
3 回目	電話について	会話と練習問題
4 回目	電話について	会話と練習問題
5 回目	夏休みには日本へ帰りますか？	本文を読んで説明
6 回目	夏休みには日本へ帰りますか？	会話と練習問題
7 回目	夏休みには日本へ帰りますか？	会話と練習問題
8 回目	語学研修に行こうかと思えます	本文を読んで説明。
9 回目	語学研修に行こうかと思えます	会話と練習問題
10 回目	語学研修に行こうかと思えます	会話と練習問題
11 回目	この頃天気がいいですね	本文を読んで説明
12 回目	この頃天気がいいですね	会話と練習問題
13 回目	この頃天気がいいですね	会話と練習問題
14 回目	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作文・会話・ヒアリングの練習など。

【テキスト（教科書）】

教室用教材「中級朝鮮語－ハングル検定 4 級基準」（梁禮先）

【参考書】

朝鮮語辞書など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、課題など）30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

会話練習をもっとやりたいなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業内容は変わることがあります。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, We aim to use the knowledge learned in Korean 1 and 2 to make sure to acquire solid Korean language skills through practice. It is important to have Korean conversations with confidence.

LANk200LA

朝鮮語 4 A I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 ー I 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 I 2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習, ピュブ不規則用言
2	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	第 2 課	長い不可能形, 助詞「～に」の用法
5	第 3 課	文中の疑問形, 強調表現
6	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ, 方向をあらわす動詞
7	第 4 課	もうひとつの意思・推量形, ショット不規則用言
8	第 4 課	動詞のこそあどことば, 副詞をつくる方法
9	第 5 課	用言の名詞形, 「～することはする」
10	第 5 課	いくつかの助詞, 「～という」の短縮形
11	第 6 課	動作の反復, 推量表現
12	第 6 課	大過去, ヘヨ体の命令形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語【私家版】』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 4 A II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 ー II 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 II 2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営 2 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
2	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
3	第 8 課	移動をあらわす合成動詞, 用言の「～である」形
4	第 8 課	間接話法 1, 反語表現
5	第 9 課	ハンダ体, 間接話法 2
6	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
7	第 10 課	概数の表現, 間接話法と第Ⅲ語基
8	第 10 課	「～について」、「～しやすい/しにくい」
9	第 11 課	手段・状況をあらわす「～して」、理由をあらわす表現
10	第 11 課	各種の濃音化, パンマル疑問文のもうひとつの形
11	第 12 課	「～と思う／考える」、「～して」の話しことば
12	第 12 課	「やりもらい」の間接話法, 助詞の尊敬形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語【私家版】』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the spring semester.

LANk200LA

朝鮮語 4 A I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 - I

2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 I

2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行いません。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習, ピウブ不規則用言
2	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	第 2 課	長い不可能形, 助詞「～に」の用法
5	第 3 課	文中の疑問形, 強調表現
6	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ, 方向をあらわす動詞
7	第 4 課	もうひとつの意思・推量形, ショット不規則用言
8	第 4 課	動詞のこそあどことば, 副詞をつくる方法
9	第 5 課	用言の名詞形, 「～することはする」
10	第 5 課	いくつかの助詞, 「～という」の短縮形
11	第 6 課	動作の反復, 推量表現
12	第 6 課	大過去, ヘヨ体の命令形
13	復習	春学期の総復習を行いません。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしながら声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語 [私家版]』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 4 A II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 II 2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

法文堂 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
2	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第三語基
3	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
4	第 8 課	間接話法 1、反語表現
5	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
6	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
7	第 10 課	概数の表現、間接話法と第三語基
8	第 10 課	「～について」、「～しやすい／にくい」
9	第 11 課	手段・状況をあらわす「～して」、理由をあらわす表現
10	第 11 課	各種の濃音化、パンマル疑問文のもうひとつの形
11	第 12 課	「～と思う／考える」、「～して」の話しことば
12	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the spring semester.

LANk200LA

朝鮮語 4 A I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 I 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 I 2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

法文堂 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習、ピウブ不規則用言
2	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形、禁止形
4	第 2 課	長い不可能形、助詞「～に」の用法
5	第 3 課	文中の疑問形、強調表現
6	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ、方向をあらわす動詞
7	第 4 課	もうひとつの意思・推量形、シオッ不規則用言
8	第 4 課	動詞のこそあどことば、副詞をつくる方法
9	第 5 課	用言の名詞形、「～することはする」
10	第 5 課	いくつかの助詞、「～という」の短縮形
11	第 6 課	動作の反復、推量表現
12	第 6 課	大過去、ヘヨ体の命令形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 4 A II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 一 II 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 II 2016 年度以前入学者**梁 禮先**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

法文営 2 年

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the spring semester.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。前者は日本語を母語とする教員が、後者は朝鮮語を母語とする教員が、それぞれの特長を生かした授業を行います。またそれぞれの授業で必要に応じて独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
2	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
3	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
4	第 8 課	間接話法 1、反語表現
5	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
6	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
7	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
8	第 10 課	「～について」、「～しやすい／しにくい」
9	第 11 課	手段・状況をあらわす「～して」、理由をあらわす表現
10	第 11 課	各種の濃音化、パンマル疑問文のもうひとつの形
11	第 12 課	「～と思う／考える」、「～して」の話しことば
12	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
13	復習	春学期の総復習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。与えられた課題はかならずやるようにしてください。授業中でも家での復習でも、恥ずかしくなく声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は小学館の『朝鮮語辞典』をお薦めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

「朝鮮語 3 A」と「朝鮮語 4 A」はそれぞれ 3 クラスあります。リレー授業を行ないますので、指定された組み合わせどおりに履修してください。また 2 年次のリレー授業ははじめての試みなので、授業の進め方や進度に多少変更がありうることをご了承ください。

LANk200LA

朝鮮語 (3) I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 (3) I

2016 年度以前入学者

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このクラスでは基本文型の例文を増やし、新しい単語を習得することによって語彙力を養成します。また口頭による発音の直接伝授を繰り返していきます。

【到達目標】

朝鮮語の文法と語彙の知識を確かなものにし、正確な発音を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って毎回 1 課ずつ進めますが、本文内容の理解を助けるために韓国の文化などを紹介する映像を適宜用います。

各課の「テーマ」を表現するために、「内容」にある文型を学んでいきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自己紹介	連体形と時制
第 2 回	出会い	用言の縮約形、- してから、- になる・- だろう (か)・だよ・なさい - くなる・- すること・- であること
第 3 回	外国語	数字の読み方と発音、- から・ので、 - しても・でも・- する・するよ
第 4 回	学籍番号	- みたいだ・ようだ・- くて・なので、 - できない
第 5 回	食べ物	- けれど (も)・から・のに・ね・か、 - できる・できない・- する
第 6 回	学生生活	「語彙力の確認」
第 7 回	小テスト	- ねばならない・- かも知れない・- するか?・- だろうか?
第 8 回	タクシー	- ようだ・- そうだ・- みたいだ・- して いて・- する途中で・- し (て)・- - か?・- かな?・- かい? - からだ・- なら ば、- するが・- だが
第 9 回	遅刻	「連体形と不規則用言のまとめ」
第 10 回	コーヒーショップ	- したところ・- したと思ったら・- だ ったが・- する、- だ、- すると・- だ と・- からといって
第 11 回	これまでの復習	- したらすぐ・- するままに、- するよ うに・- く・- に・- してはじめて・- して こそ・- しなければ
第 12 回	招待	これまでに学習してきたことのまとめ と期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に重点をおおいて毎課の単語をその都度暗記すること
テキスト付属の CD を毎日 15 分ずつ聞くこと

【テキスト (教科書)】

高島淑郎『書いて覚える中級朝鮮語』白水社

【参考書】

随時必要な資料を配布
辞書は授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席率・小テスト) 50%・期末試験 50% を総合して評価

【学生の意見等からの気づき】

板書をきれいにすること

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業を 3 分の 1 以上欠席すると、原則として期末試験は受けられないものとする。
期末試験を受けないと、単位はとれない。

【Outline and objectives】

In this class, we increase vocabulary skills by increasing the example sentences of basic sentence patterns and learning new words. We will repeat the direct pronunciation of verbal pronunciation repeatedly

LANk200LA

朝鮮語 (3) II 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 (3) II 2016 年度以前入学者

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 2 年 Y

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に続き秋学期を通しては、主に漢数詞と固有数詞・助詞などの品詞の使い方、用言の語尾の基本的変化 (現在と過去、普通語と敬語、意志・推量・控え目と命令) について学びます。

【到達目標】

以上の授業内容を用いた基本文型をマスターし、簡単な文が作れることと基礎会話ができることを授業目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って毎回 1 課ずつ進めます。本文内容の理解を助けるために韓国の文化などを紹介する映像を適宜用います。各課の「テーマ」を表現するために、「内容」にある文型を学んでいきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	露天街	－く見える・－とは・なんて・－いたす
第 2 回	植民地時代	－だろうよ・と思うよ・－として
第 3 回	仲直り	－こと・で・－するならば・ならば・－しようかと思う・だろうかという
第 4 回	寝不足	－するのかと・のかと・－しようってば
第 5 回	ぞんざいな言葉	－するの・か・なの・か・－よ・さ・なの？・なのか？
第 6 回	占い	－することは～する・であることは～である・－することができる・できない・－であり得る・であり得ない・－するって・だって
第 7 回	俗語	－ね・な・－しに
第 8 回	小テスト	「語彙力のテスト」
第 9 回	思い出	－よ・ね・だったよ・だったね・－して・で
第 10 回	ベトナム	－しろって (さ)・するからって (さ)・かって (さ)・しようって (さ)
第 11 回	準備	－でも・－するつもりだから・だろうから・するはずだから・するから
第 12 回	軍隊	－するの・か・なの・か・－することになる・になる
第 13 回	日記	短文の日本語訳、朗読
第 14 回	まとめとテスト	変速用言のまとめと期末テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に重点をおいて毎課の単語をその都度暗記すること
テキスト付属の CD を毎日 15 分ずつ聞くこと

【テキスト (教科書)】

高島淑郎『書いて覚える中級朝鮮語』白水社

【参考書】

随時必要な資料を配布
辞書は授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席率・小テスト) 50%、期末試験 50% を総合して評価

【学生の意見等からの気づき】

板書をきれいにすること

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業を 3 分の 1 以上欠席すると、原則として期末試験を受けられないものとする

【Outline and objectives】

In the fall semester, we mainly learn Chinese numerals and unique numerals, and learn about the use of verbs.

LANk200LA

朝鮮語 7 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 7 2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/WED.5
国 2 年 SA

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。
2 年次秋学期の SA に備えます。

【到達目標】

SA に通用する語学力の習得、具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「3 級」に編入できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 7」「朝鮮語 8」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします。
2	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 11 課	理由をあらわす表現、各種の濃音化
6	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 13 課	使役形、2 ケタの固有数字
9	第 14 課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 15 課	漢字の読み方、南北のことばの違い
12	第 16 課	話者の体験をあらわす語尾、年月日と週の言い方
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

語彙力を高めるよう自主的に努力してください。

BT20 階の国際文化学部資料室には、検定試験の問題集や、韓国で出版されている各大学の語学テキストなどを多数取り揃えていますので、活用してみましよう。

【テキスト (教科書)】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語 [私版]』を用います。

【参考書】

初歩の内容で不十分な箇所があったら、1 年次の内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』(白水社) に立ち返ってください。

さらに進んだ学習には、たとえば白峰子『韓国語文法辞典』(三修社)、韓国国立国語院『韓国語学習者のためのやさしい韓韓辞典』(アルク) などが参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません。日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましよう。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 8 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 8 2016 年度以前入学者

高柳 俊男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
国 2 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

2 年次秋学期の SA に備えます。

【到達目標】

SA に通用する語学力の習得、具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「3 級」に編入できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 7」「朝鮮語 8」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

「朝鮮語 8」では、韓国の子どもの向けの教材から始まって、新聞広告、新聞記事、マンガなど、いろいろな文章に接するなかで、文に慣れることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします。
2	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 11 課	理由をあらわす表現、各種の濃音化
6	第 12 課	「やりもらい」の間接話法、助詞の尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 13 課	使役形、2 ケタの固有数字
9	第 14 課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 15 課	漢字の読み方、南北のことばの違い
12	第 16 課	話者の体験をあらわす語尾、年月日と週の言い方
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙力を高めるよう自主的に努力してください。

BT20 階の国際文化学部資料室には、検定試験の問題集や、韓国で出版されている各大学の語学テキストなどを多数取り揃えていますので、活用してみましよう。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】

初歩の内容で不十分な箇所があったら、1 年次の内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）に立ち返ってください。

さらに進んだ学習には、たとえば白峰子『韓国語文法辞典』（三修社）、韓国国立語院『韓国語学習者のためのやさしい韓韓辞典』（アルク）などが参考になります。

【成績評価の方法と基準】

平常点と期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません。日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか?」ということを考える習慣をつけましよう。

【Outline and objectives】

This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA

朝鮮語 3 B I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 - I 2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 ー I 2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I 2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 2 年 V～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。学生の様子を見て内容を適宜変更する。

【到達目標】

native speaker（韓国人留学生・中国人朝鮮族など）と簡単な会話ができるようになる。

語彙・文型の知識が増強できる。

正しい発音ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 単語と文型を予習する。
- 2 文型練習をする。
- 3 会話練習をする。
- 4 自宅で作文、暗誦、読解の宿題をする。
- 5 暗唱と作文の小テスト。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	一年次の復習 第 1 課	自己紹介
	文型・会話練習	
2	第 1 課	ましようか・てください
	文型・会話練習	
	CM 聞き取り	
3	第 1・2 課	ましよう・たい、たがる・から、
	読解	てくて
4	第 2 課	ウ不規則活用・できない
5	第 2 課	ことにする・電話番号
	文型・会話練習	
6	第 3 課	ば、たら、と
	文型・会話練習	
7	第 3 課	てみる・ますね、です
	文型・会話練習	
8	第 3・4 課	連体形
	文型・会話練習	
9	第 4 課	ようと・ばいい
	文型・会話練習	
10	第 4 課	でしょうか、ましようか・んです
	文型・会話練習	
11	韓国留学生との会話	ネイティブと朝鮮語で 100 分会話する
12	第 4 課	たあと・ますよ、ますからね
	読解	
	文型・会話練習	
13	第 5 課	ピウツ不規則活用・んですが
	文型・会話練習	
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる語彙・文の意味を授業の前に調べておくこと。

辞書を使って読解プリントを訳してこること。

本文の暗記・発音・作文の練習をすること。

【テキスト（教科書）】

『韓国語を学ぼう 中級』李昌圭 朝日出版社 2300 円+税

【参考書】

朝鮮語辞書 小学館 など

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %
欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

【学生の意見等からの気づき】

エンタメに興味がある学生が多いので取り上げます。韓国人留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので行う予定です。

【Outline and objectives】

This class is designed for lower intermediate Korean learners. Students study grammar and vocabulary. It aims to enhance overall Korean.

LANk200LA

朝鮮語 3 - I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 B I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 - I

2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 I

2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。学生の様子を見て内容を適宜変更する。

【到達目標】

native speaker（韓国人留学生・中国人朝鮮族など）と簡単な会話ができるようになる。

語彙・文型の知識が増強できる。
正しい発音ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 単語と文型を予習する。
- 2 文型練習をする。
- 3 会話練習をする。
- 4 自宅で作文、暗誦、読解の宿題をする。
- 5 暗唱と作文の小テスト。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	一年次の復習 第 1 課 文型・会話練習	自己紹介
2	第 1 課 文型・会話練習 CM 聞き取り	ましょうか・てください
3	第 1・2 課 読解	ましょう・たい、たがる・から、 てくて
4	第 2 課	ウ不規則活用・できない
5	第 2 課 文型・会話練習	ことにする・電話番号
6	第 3 課 文型・会話練習 歌	ば、たら、と
7	第 3 課 文型・会話練習	てみる・ますね、です
8	第 3・4 課 文型・会話練習	連体形
9	第 4 課 文型・会話練習	ようと・ばいい
10	第 4 課 文型・会話練習	でしょうか、ましょうか・んです
11	韓国人留学生との会話	ネイティブと朝鮮語で 100 分会話する
12	第 4 課 読解 文型・会話練習	たあと・ますよ、ますからね
13	第 5 課 文型・会話練習	ピウツ不規則活用・んですが
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる語彙・文の意味を授業の前に調べておくこと。
辞書を使って読解プリントを訳してくること。
本文の暗記・発音・作文の練習をすること。

【テキスト（教科書）】

『韓国語を学ぼう 中級』李昌圭 朝日出版社 2300 円+税

【参考書】

朝鮮語辞書 小学館 など

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %
欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

【学生の意見等からの気づき】

エンタメに興味がある学生が多いので取り上げます。韓国人留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので行う予定です。

【Outline and objectives】

This class is designed for lower intermediate Korean learners. Students study grammar and vocabulary. It aims to enhance overall Korean.

LANk200LA

朝鮮語 3 B II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II

2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 - II

2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 2 年 V~W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。学生の様子を見て内容を適宜変更する。

【到達目標】

native speaker（韓国人留学生・中国朝鮮族留学生など）と簡単な会話ができるようにする。

語彙・文型の知識が増強できる。

正しい発音ができるようになる。

辞書を引きながらまとまった文章を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 単語と文型を予習する。
- 2 文型練習をする。
- 3 会話練習をする。
- 4 自宅で作文、暗誦、読解の宿題をする。
- 5 暗唱と作文の小テスト。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 第 5 課 文型・会話練習	夏休みの話 が、けれども・シオッ不規則活用
2	第 5 課 読解 文型・会話練習	ことができる・しない
3	第 6 課 文型・会話練習	するつもりです・でも
4	第 6 課 歌	ながら・まだしていない・にくい
5	第 6 課 文型・会話練習	するようだ・しそうだ
6	第 7 課 文型・会話練習	いようだ（推測）・そうだ（伝聞）
7	第 7 課 文型・会話練習	ますか（意志）・くなる
8	第 7・8 課 読解 文型・会話練習	仕方を知っている・したことがある・ ティグッ不規則活用
9	第 8 課 文型・会話練習	するから（意思）・ばいと思う
10	韓国人留学生との会話	ネイティブと 100 分会話する
11	第 8 課 文型・会話練習	ていて、する途中で
12	第 9 課 文型・会話練習	なければならない・てはいけない
13	第 9 課 文型・会話練習 ドラマ	ので・ている、てもいい、ますが
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる語彙・文の意味を授業の前に調べておくこと。
辞書を使って読解プリントを訳してくること。
本文の暗記・発音・作文の練習をすること。

【テキスト（教科書）】

『韓国語を学ぼう 中級』李昌圭 朝日出版社 2300+税

【参考書】

朝鮮語辞典 小学館 等

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %
 欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も行う予定です。

韓国エンタメに興味がある学生が多いため、授業で教材として取り上げます。

【Outline and objectives】

This class is designed for lower intermediate Korean learners. Students study grammar and vocabulary. It aims to enhance overall Korean.

LANk200LA

朝鮮語 3 - II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 B II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 II

2016 年度以前入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 - II

2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級後半から中級の語彙・文型を学び、話し・読み・聞き・書けるようにする。学生の様子を見て内容を適宜変更する。

【到達目標】

native speaker（韓国人留学生・中国朝鮮族留学生など）と簡単な会話ができるようになる。

語彙・文型の知識が増強できる。

正しい発音ができるようになる。

辞書を引きながらまとまった文章を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 単語と文型を予習する。
- 2 文型練習をする。
- 3 会話練習をする。
- 4 自宅で作文、暗誦、読解の宿題をする。
- 5 暗唱と作文の小テスト。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 第 5 課 文型・会話練習	夏休みの話 が、けれども・シオッ不規則活用
2	第 5 課 読解 文型・会話練習	ことができる・しない
3	第 6 課 文型・会話練習	するつもりです・でも
4	第 6 課 歌	ながら・まだしていない・にくい
5	第 6 課 文型・会話練習	するようだ・しそうだ
6	第 7 課 文型・会話練習	いようだ（推測）・そうだ（伝聞）
7	第 7 課 文型・会話練習	ますか（意志）・くなる
8	第 7・8 課 読解 文型・会話練習	仕方を知っている・したことがある・ ティグッ不規則活用
9	第 8 課 文型・会話練習	するから（意思）・ばいと思う
10	韓国人留学生との会話	ネイティブと 100 分会話する
11	第 8 課 文型・会話練習	ていて、する途中で
12	第 9 課 文型・会話練習	なければならない・てはいけない
13	第 9 課 文型・会話練習 ドラマ	ので・ている、てもいい、ますが
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる語彙・文の意味を授業の前に調べておくこと。
 辞書を使って読解プリントを訳してくること。
 本文の暗記・発音・作文の練習をすること。

【テキスト（教科書）】

『韓国語を学ぼう 中級』李昌圭 朝日出版社 2300+税

【参考書】

朝鮮語辞典 小学館 等

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、課題 25 %、平常点 25 %
欠席 4 回、あるいは遅刻 4 回以上は落第

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も行う予定です。

韓国エンタメに興味がある学生が多いため、授業で教材として取り上げます。

【Outline and objectives】

This class is designed for lower intermediate Korean learners. Students study grammar and vocabulary. It aims to enhance overall Korean.

LANk200LA

朝鮮語 3 C I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 3 C- I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語コミュニケーション I

2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。

教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習、ピウブ不規則用言
2	第 1 課	語基の復習、ピウブ不規則用言
3	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
4	第 2 課	「～している」の 2 つの形、禁止形
5	第 2 課	長い不可能形、助詞「～に」の用法
6	中間試験	中間試験
7	第 3 課	文中の疑問形、強調表現
8	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ、方向をあらわす動詞
9	第 4 課	もうひとつの意思・推量形、シオッ不規則用言
10	第 4 課	動詞のこそあどことば、副詞をつくる方法
11	第 5 課	用言の名詞形、「～することはする」
12	第 5 課	いくつかの助詞、「～という」の短縮形
13	春学期のまとめ	春学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20 %

中間試験 40 %

期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

It aims to comprehensively improve each ability of "reading, writing, listening, talking" on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

LANk200LA	
朝鮮語 3 C II	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語 3 C-II	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語コミュニケーション II	2016 年度以前入学者
富所 明秀	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 4/Mon.4 法文営国 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに毎回小テストを実施します。教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第6課	動作の反復、推量表現
2	第6課	大過去形
3	第6課	へヨ体の命令形
4	第7課	「～して」をあらわすふたつの形
5	第7課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
6	中間試験	中間試験
7	第8課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
8	第8課	間接話法1、反語表現
9	第9課	ハンダ体、間接話法2
10	第9課	「～しはじめる」、受身形
11	第10課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
12	第10課	「～について」、「～しやすい/しにくい」
13	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、毎回小テストを実施しますので必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%
中間試験 40%
期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

Continuing from the spring semester, it aims to comprehensively improve each ability of "Reading, Writing, Listening, Talking".

LANk200LA	
朝鮮語 4 B I	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語 4 B-I	2017 年度以降入学者
LANk200LA	
朝鮮語視聴覚 I	2016 年度以前入学者
新谷 あゆり	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 法文営国 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。韓国人留学生との会話も行う予定。一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

1 韓国の小説・ドラマ・歌・スピーチ・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の数・レベル・ニーズを見て小説・ドラマを適宜変更する。
候補：シークレットガーデン、逆転の女王、二度目の二十歳、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
2 小説・ドラマの一場面を読み、日本語訳する。
3 文型・表現を学び、発音練習をする。
4 読解・暗唱等の課題をする。
5 翌週、単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さんとオモニ ①②	聞き取り スクリプト読解
2	シークレットガーデン1 サランバンのお客さんとオモニ ③④	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
3	シークレットガーデン2 サランバンのお客さんとオモニ ⑤⑥	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
4	シークレットガーデン3 サランバンのお客さんとオモニ ⑦⑧	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
5	シークレットガーデン4 サランバンのお客さんとオモニ ⑨⑩	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
6	小テスト インタビュー聞き取り 歌など	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
7	サランバンのお客さんとオモニ ⑪⑫	聞き取り スクリプト読解
8	シークレットガーデン5 サランバンのお客さんとオモニ ⑬⑭	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
9	シークレットガーデン6 サランバンのお客さんとオモニ ⑮⑯	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
10	シークレットガーデン7 サランバンのお客さんとオモニ ⑰⑱	文型・表現・発音練習 聞き取り スクリプト読解
11	小テスト 留学生との会話	文型・表現・発音練習 韓国人留学生と 100 分会話する聞き取り
12	サランバンのお客さんとオモニ ⑲⑳	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

13	サランバンのお客さんと オモニ 最終回 シークレットガーデン 8 期末試験	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習 期末試験
----	--	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語1』学研
シークレットガーデン DVD
二度目の二十歳 DVD
逆転の女王 DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極性、課題含む）50%、テスト50%
3回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

音声録音できるもの（スマホでも可）

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

LANk200LA

朝鮮語 4 B II

2017年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語 4 B-II

2017年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語視聴覚 II

2016年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営国 2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・ニュース・スピーチなどの聞き取りを通じ、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の人数・レベル・ニーズを見てドラマを適宜変更する。
候補：華麗なる遺産、逆転の女王、二度目の二十歳

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 ドラマ・ニュースなどを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 読解・音読等の課題をする。
- 5 単語や音読の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 4 アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 5 小テスト	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	華麗なる遺産 8 アナウンス	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	華麗なる遺産 9 会話練習 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と 100分会話する
12	華麗なる遺産 10	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

13	華麗なる遺産 1 1 アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習 期末試験
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、スクリプト読解・音読等の課題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極性、課題）50%、テスト50%
3回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

1 留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設けます。2 先学期グループに分かれ好きなドラマの演技・撮影を行い好評でした。学生の希望があればドラマの演技・撮影も考えています。

【学生が準備すべき機器他】

音声録音できる録音機（スマホも可）

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

LANk200LA

朝鮮語 5 A I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語講読 I

2016 年度以前入学者

高橋 梓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キ 3~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、朝鮮語の基礎的な内容の学習を終えた学生や、韓国のエッセイや小説に関心がある学生が、さまざまなジャンルの朝鮮語の文章を読解する能力を身につけることを目的としている。具体的には、ハン・ガン『菜食主義者』やチョ・ナムジュ『82 年生まれ、キム・ジヨン』など、近年世界中で注目を集めつつある韓国文学（小説・エッセイ）を読みながら、朝鮮語の読解力を身につける。また、これらの小説・エッセイを読むことをとおして、現代の韓国社会や韓国の文化についても幅広い知識を身につけることを目指す。

【到達目標】

1. 書き言葉と間接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解することができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を引きながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で指定したエッセイや小説を、文法内容や関連語彙を確認しながら読み解いていく。

初回の授業では、講読小説の文献リストを配布するとともに、簡単なレベルチェックテストを行う。

第 2・3 回の授業では、韓国文学に関するエッセイを読みながら、韓国文学のジャンルや韓国の作家についての知識を深める。

その後、初回の授業で配布した文献リストの中から講読する小説を決め、小説の講読を行っていく。

授業の最後に、講読テキストに関連したテーマでレポートを提出してもらう（アクティブラーニング課題）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、レベルチェックテスト、韓国文学の文献リストの配布
2	エッセイの講読・ディスカッション（1）	韓国文学に関するエッセイを読んで、韓国文学への知識を深める
3	エッセイの講読・ディスカッション（2）	韓国文学に関するエッセイを読んで、韓国文学への知識を深める
4	小説の講読・ディスカッション（1）	小説を読んで、内容について議論する
5	小説の講読・ディスカッション（2）	小説を読んで、内容について議論する
6	小説の講読・ディスカッション（3）	小説を読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション（4）	小説を読んで、内容について議論する
8	小説の講読・ディスカッション（5）	小説を読んで、内容について議論する
9	小説の講読・ディスカッション（6）	小説を読んで、内容について議論する
10	小説の講読・ディスカッション（7）	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション（8）	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション（9）	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション（10）	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブラーニング	講読テキストの内容に関連したテーマでレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。また、授業時に講読テキストに関連した朝鮮語の文章を配布し、読解の練習をしてもらう場合もあるため、辞書は必ず持参すること。

【テキスト（教科書）】

講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、宿題（20％）、レポート課題（20％）

【学生の意見等からの気づき】

どのようなレベルの学生にとっても、朝鮮語の文章を読むことをとおして新しい発見ができるような授業にしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

長い文章の講読は少しハードルが高いかもしれませんが、韓国で話題になっている本やエッセイを読むことは、韓国社会や韓国文化に対するより深い理解へとつながると思います。

初級・中級レベルの朝鮮語の学習を終えてエッセイや小説の読解に挑戦してみたいという学生他に、韓国に留学したことがあって読解力をもっと高めたいという学生や、文学作品の翻訳に関心がある韓国の留学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' Korean skills by reading Korean novels, which are attracting attention from all over the world.

Acquiring the ability to translate Korean novels into natural Japanese will be another objective of this course.

The goals of this course are to

1. Be able to capture the structure of written Korean.
2. Be able to translate Korean novels and essays into natural Japanese.
3. Be able to understand Korean society by reading Korean novels.

LANk200LA

朝鮮語 5 A II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語講読 II

2016 年度以前入学者

高橋 梓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キ 3~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、朝鮮語の基礎的な内容の学習を終えた学生や、韓国のエッセイや小説に関心がある学生が、さまざまなジャンルの朝鮮語の文章を読解する能力を身につけることを目的としている。具体的には、ハン・ガン『菜食主義者』やチョ・ナムジュ『82 年生まれ、キム・ジヨン』など、近年世界中で注目を集めつつある韓国文学（小説・エッセイ）を読みながら、朝鮮語の読解力を身につける。また、これらの小説・エッセイを読むことをとおして、現代の韓国社会や韓国の文化についても幅広い知識を身につけることを目指す。

【到達目標】

1. 書き言葉と間接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解することができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を引ながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業で指定したエッセイや小説を、文法内容や関連語彙を確認しながら読み解いていく。

初回の授業では、講読小説の文献リストを配布するとともに、簡単なレベルチェックテストを行う。

第 2・3 回の授業では、韓国文学に関するエッセイを読みながら、韓国文学のジャンルや韓国の作家についての知識を深める。

その後、初回の授業で配布した文献リストの中から講読する小説を決め、小説の講読を行っていく。

（※春学期と履修者が変わらなかった場合、初回の授業で講読テキストを決め、第 2 回目の授業から小説の講読を行う）

授業の最後に、講読テキストに関連したテーマでレポートを提出してもらう（アクティブラーニング課題）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、レベルチェックテスト、韓国文学の文献リストの配布
2	エッセイの講読・ディスカッション（1）	韓国文学に関するエッセイを読んで、韓国文学への知識を深める
3	エッセイの講読・ディスカッション（2）	韓国文学に関するエッセイを読んで、韓国文学への知識を深める
4	小説の講読・ディスカッション（1）	小説を読んで、内容について議論する
5	小説の講読・ディスカッション（2）	小説を読んで、内容について議論する
6	小説の講読・ディスカッション（3）	小説を読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション（4）	小説を読んで、内容について議論する
8	小説の講読・ディスカッション（5）	小説を読んで、内容について議論する
9	小説の講読・ディスカッション（6）	小説を読んで、内容について議論する
10	小説の講読・ディスカッション（7）	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション（8）	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション（9）	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション（10）	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブラーニング	講読テキストの内容に関連したテーマでレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。また、授業時に講読テキストに関連した朝鮮語の文章を配布し、読解の練習をしてもらう場合もあるため、辞書は必ず持参すること。

【テキスト（教科書）】

講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、宿題（20％）、レポート課題（20％）

【学生の意見等からの気づき】

どのようなレベルの学生にとっても、朝鮮語の文章を読むことをとおして新しい発見ができるような授業にしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

長い文章の講読は少しハードルが高いかもしれませんが、韓国で話題になっている本やエッセイを読むことは、韓国社会や韓国文化に対するより深い理解へとつながると思います。

初級・中級レベルの朝鮮語の学習を終えてエッセイや小説の読解に挑戦してみたいという学生他に、韓国に留学したことがあって読解力をもっと高めたいという学生や、文学作品の翻訳に関心がある韓国の留学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' Korean skills by reading Korean novels, which are attracting attention from all over the world.

Acquiring the ability to translate Korean novels into natural Japanese will be another objective of this course.

The goals of this course are to

1. Be able to capture the structure of written Korean.
2. Be able to translate Korean novels and essays into natural Japanese.
3. Be able to understand Korean society by reading Korean novels.

LANk200LA

朝鮮語 5 B I

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語表現法 I

2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

法文堂国環キ 3~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解も深める。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業の前半は、簡単な会話を交わすことで、話すことに慣れていく。後半は、昔話のテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「アマガエル」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「天女とはごろも」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	「天女とはごろも」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	「トラと干し柿」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	「トラと干し柿」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	「ウサギのさいばん」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	「ウサギのさいばん」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	「おひさまとおつきさま」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	「おひさまとおつきさま」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	「ウサギとトラ」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	「ウサギとトラ」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	「おならくらべ」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物課題を予習すること。毎回、身近な話題について、簡単な日記形式のレポート課題があります。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50％、プレゼンテーション 50％

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術身に着けられるようになります。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline and objectives】

This course deals with Korean intermediate level. It also enhances the development of students' skill in reading, writing, listening and talking.

LANk200LA

朝鮮語 5 B II

2017 年度以降入学者

LANk200LA

朝鮮語表現法 II

2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文堂国環キ 3~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解も深める。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業の前半は、簡単な会話を交わすことで、話すことに慣れていく。後半は、昔話のテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「檀君神話」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「檀君神話」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	「パンチョギ」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	「パンチョギ」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	「アワー粒で嫁をもらった若者」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	「アワー粒で嫁をもらった若者」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	「コンジとパッジ」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	「コンジとパッジ」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	「トッケビのこん棒」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	「トッケビのこん棒」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	「こぶじいさん」①	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	「こぶじいさん」②	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物課題を予習すること。毎回、身近な話題について、簡単な日記形式のレポート課題があります。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術身に着けられるようになります。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline and objectives】

This course deals with Korean intermediate level. It also enhances the development of students' skill in reading, writing, listening and talking.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。
朝鮮・韓国の文化と社会に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、日本をより客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

【到達目標】

春学期には、韓国映画をとおして韓国の文化、社会、歴史についてわかりやすく、かつ楽しく学べる内容からなるテキストに沿って、朝鮮・韓国の文化と社会を概観する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストの内容を中心に講義する。
一つのテーマを2週連続で取り上げ、第1週目は講義、第2週目は関連映像の上映と解説といった順に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	韓国・朝鮮の地理	韓国・朝鮮の位置、領土、気候、山河などの自然環境など。特に地政学的な要素を中心に講義。
第3回	韓国・朝鮮の地理関連映像の上映	韓国・朝鮮の地理的な条件や四季などの自然環境に関する視聴覚教材を用いた講義内容の復習。
第4回	韓国・朝鮮の通史	古代から近世、近代を経て現代に至るまでの韓・朝鮮半島の通史を概説し、その流れを理解する。
第5回	韓国・朝鮮の通史関連映像の上映	韓国・朝鮮の歴史の流れを映像で取り上げる。
第6回	韓国・朝鮮の近代	特に日本との関係を中心に。
第7回	韓国・朝鮮の近代に関する映像の上映	伝統社会から近代へ変わっていく時代の映像を上映。
第8回	南北の政府樹立と朝鮮戦争	大韓民国（韓国）、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、朝鮮戦争。
第9回	南北の政府樹立と朝鮮戦争関連映像の上映	独立、南北政府樹立、朝鮮戦争、韓・朝鮮半島をとりまく国際情勢に関する記録映像。
第10回	韓・朝鮮半島の言語文化	朝鮮語と韓国語、朝鮮語と漢字、朝鮮語と日本語、標準語と方言、韓国語教育。
第11回	韓・朝鮮半島の言語文化に関する映像を上映	朝鮮語・韓国語に関する上記諸事情について、音声を確認しながら理解度を高める。
第12回	韓・朝鮮半島と儒教文化	伝統社会の統合理念、生活および倫理規範、規範・法・秩序意識。
第13回	韓・朝鮮半島の儒教文化に関する映像の上映	祭祀、宗族、三綱五輪、身分社会と儒教、農耕社会と儒教、親族の範囲と役割、氏と姓。
第14回	春学期のまとめと筆記テストの実施	筆記テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

秋月望『韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史』キネマ旬報ムック、2015年。

【参考書】

朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史』三省堂、1995年
長田彰文監修・津久井恵著『朝鮮半島がわかる本』かもがわ出版、2015年

【成績評価の方法と基準】

筆記テスト50%、平常点50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席すること。

映像を用いた授業の時は、毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this lesson, we learn about Korean culture and society.

The purpose of the lesson is to develop basic knowledge on Korean and Korean culture and society, to deepen their understanding of neighboring countries and nurture eyes to look at Japan more objectively.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国・朝鮮の文化と社会全般について学ぶ。

韓国・朝鮮の文化と社会に関する基礎知識を身につけ、隣国に対する理解を深めることと、そのことによって自国の日本を客観的に見る目を育むことが授業の目的である。

【到達目標】

秋学期には、主に現代韓国の文化と社会について、ひと通り概観することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに沿った内容を中心に講義する。

一つのテーマを2週連続で取り上げ、第1週目は講義、第2週目は関連映像の上映と解説。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	現代の韓国社会	現代韓国社会の諸特徴 伝統社会との比較 日本社会との比較 世界の中の韓国社会
第3回	現代韓国社会関連映像の上映	現代韓国社会の諸特徴および規模について、実際の映像をとおして確認する
第4回	韓国の生活文化	衣食住
第5回	韓国の生活文化関連の映像を上映	映像をとおして韓国の衣食住について、立体的にとらえる。
第6回	韓国の年中行事	韓国の年中行事について、1月から12月まで月別の行事を取り上げる。
第7回	韓国年中行事関連映像の上映	1月から12月まで月別行事に関する映像をとおして、実際の様子を理解する。
第8回	韓国人の精神文化	神話、伝説、昔話、宗教、坐俗など。
第9回	韓国人の精神文化に関する映像の上映	神話、伝説、昔話、宗教、坐俗などに関する、実際の遺贈をとおして理解を深める。
第10回	教育制度	教育制度、教育に対する人々の意識、高等教育進学率、大学受験と浪人、私教育（塾）事情。
第11回	教育事情関連映像の上映	韓国の教育制度と韓国人の教育に対する意識、教育に関する社会現象などについて、映像をとおして確認。
第12回	大衆文化	韓流ドラマや映画、K-POP など。
第13回	大衆文化関連映像の上映	現代韓国の大衆文化を代表する韓流ドラマ、映画、K-POP の状況を確認し、そのルーツや背景について理解する。
第14回	秋学期のまとめと筆記テストの実施	筆記テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

『現代思想-朝鮮半島のリアル』第46巻第12号（2018年8月号）、青土社。

【参考書】

朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史』三省堂、1995年

長田彰文監修・津久井恵著『朝鮮半島がわかる本』かがわ出版、2015年

【成績評価の方法と基準】

筆記テスト50%、平常点50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

映像を用いた授業お時は、毎回短い感想文を提出する。

**2019年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
200・300番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覽

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6001】 第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6002】 第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6003】 第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6051】 日本語コミュニケーション A [江村 裕文] 春学期授業/Spring	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6052】 日本語コミュニケーション B [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6101】 漢字・漢文学 A [加納 留美子] 春学期授 業/Spring	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6102】 漢字・漢文学 B [加納 留美子] 秋学期授 業/Fall	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】 教養ゼミ I [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】 教養ゼミ II [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6105】 文芸創作講座 A [岩川 ありさ] 春学期授 業/Spring	8
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6106】 文芸創作講座 B [岩川 ありさ] 秋学期授 業/Fall	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6107】 日本芸能論 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	11
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6108】 日本芸能論 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6109】 身体表現論 A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	13
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6110】 身体表現論 B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論 A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論 B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間 A [石原 陽一郎] 春学期授 業/Spring	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間 B [石原 陽一郎] 秋学期授業/Fall	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論 A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論 B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6117】 行為の理論 A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6118】 行為の理論 B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】 教養ゼミ I [森村 修] 春学期授業/Spring	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】 教養ゼミ II [森村 修] 秋学期授業/Fall	22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化 A [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化 B [齋藤 勝] 秋学期授 業/Fall	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6123】 ギリシヤの文化と社会 A [中村 純] 春学 期授業/Spring	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6124】 ギリシヤの文化と社会 B [中村 純] 秋学 期授業/Fall	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6125】 古代日本・中国の法と社会 A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6126】 古代日本・中国の法と社会 B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 A [柳沢 遊] 春学期授業/Spring	28
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [柳沢 遊] 秋学期授業/Fall	29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミ II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	31

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6131】	クィア・スタディーズA [岩川 ありさ]	
春学期授業/Spring	32
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6132】	クィア・スタディーズB [岩川 ありさ]	
秋学期授業/Fall	33
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6133】	キリスト教思想史A [酒井 健]	春学期授業/Spring
.....	34
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6134】	キリスト教思想史B [酒井 健]	秋学期授業/Fall
.....	35
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6135】	教養ゼミⅠ [江村 裕文]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6136】	教養ゼミⅡ [江村 裕文]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6137】	異文化コミュニケーション論A [山本 ところ]	春学期授業/Spring
.....	38
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6138】	異文化コミュニケーション論B [山本 ところ]	秋学期授業/Fall
.....	39
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】	教養ゼミⅠ [川鍋 義一]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】	教養ゼミⅡ [川鍋 義一]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6201】	法哲学A [内藤 淳]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6202】	法哲学B [内藤 淳]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6203】	教養ゼミⅠ [木村 正俊]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6204】	教養ゼミⅡ [木村 正俊]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6205】	教養ゼミⅠ [水野 和夫]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6206】	教養ゼミⅡ [水野 和夫]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6208】	福祉社会論B [菅野 摂子]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6209】	人文地理学セミナーA [米家 志乃布]	春学期授業/Spring
.....	47
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6210】	人文地理学セミナーB [米家 志乃布]	秋学期授業/Fall
.....	47
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6211】	文化人類学方法論A [中島 成久]	春学期授業/Spring
.....	48
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6212】	文化人類学方法論B [中島 成久]	秋学期授業/Fall
.....	48
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6213】	教養ゼミⅠ [大井 赤亥]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6214】	教養ゼミⅡ [大井 赤亥]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6215】	人間行動学A [海部 紀行]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6216】	人間行動学B [海部 紀行]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6217】	教養ゼミⅠ [浅川 希洋志]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6218】	教養ゼミⅡ [浅川 希洋志]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6219】	沖縄を考えるA [中俣 均]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6220】	沖縄を考えるB [中俣 均]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6221】	グローバル社会の地域研究A [片岡 義晴]	春学期授業/Spring
.....	57
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6222】	グローバル社会の地域研究B [片岡 義晴]	秋学期授業/Fall
.....	57
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6301】	自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄]	春学期授業/Spring
.....	58
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6302】	自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄]	秋学期授業/Fall
.....	59
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6303】	数理論理学A [安東 祐希]	春学期授業/Spring
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6304】	数理論理学B [安東 祐希]	秋学期授業/Fall
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6305】	計算と言語のしくみ [倉田 俊彦]	春学期授業/Spring
.....	62
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6306】	コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦]	秋学期授業/Fall
.....	63
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6307】	確率の世界A [池田 宏一郎]	春学期授業/Spring
.....	64
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6308】	確率の世界B [池田 宏一郎]	秋学期授業/Fall
.....	64

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	65
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	66
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	67
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	68
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	69
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミⅡ [島野 智之] 秋学期授業/Fall	70
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6321】 教養ゼミⅠ [木原 章] 春学期授業/Spring	71
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6322】 教養ゼミⅡ [木原 章] 秋学期授業/Fall	72
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	73
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	73
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	74
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	75
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	76
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	77
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	78
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	79
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6331】 現代科学の新しい目A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	80
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6332】 現代科学の新しい目B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	81
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	82
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	83
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Natural Science A [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	84
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	85
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	86
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級A [アネッテ・グルーバー] 春学期授業/Spring	87
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級B [アネッテ・グルーバー] 秋学期授業/Fall	88
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6425】 教養ゼミⅠ [山下 敦] 春学期授業/Spring	89
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6426】 教養ゼミⅡ [山下 敦] 秋学期授業/Fall	90
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	91
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	92
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 ドイツ語圏の文学A [林 志津江] 春学期授業/Spring	93
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 ドイツ語圏の文学B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	94
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術A [林 志津江] 春学期授業/Spring	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	97

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6435】 留学ドイツ語A [平松 英人] 春学期授 業/Spring	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6436】 留学ドイツ語B [平松 英人] 秋学期授業/Fall	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授 業/Spring	99
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学A [落合 久夫] 春学期授 業/Spring	101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学A [磯部 薫] 春学期授業/Spring	103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学B [磯部 薫] 秋学期授業/Fall	104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学A [落合 久夫] 春学期授 業/Spring	106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授 業/Spring	108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6515】 スポーツ科学A [小谷 究] 春学期授業/Spring	110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6516】 スポーツ科学B [小谷 究] 秋学期授業/Fall	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業/Spring	112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6521】 スポーツ科学A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6522】 スポーツ科学B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミ I [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミ II [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6525】 スポーツ科学A [伊藤 マモル] 春学期授 業/Spring	121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6526】 スポーツ科学B [伊藤 マモル] 秋学期授 業/Fall	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6527】 教養ゼミ I [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6528】 教養ゼミ II [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6603】 上級フランス語A [ニコラ・ガイヤール] 春学期授業/Spring	128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6604】 上級フランス語B [ニコラ・ガイヤール] 秋学期授業/Fall	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミ I [ジョルディ・フィリップ] 春 学期授業/Spring	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミ II [ジョルディ・フィリップ] 秋 学期授業/Fall	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級) A [ジョルディ・フィリップ] 春学期授業/Spring	134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級) B [ジョルディ・フィリップ] 秋学期授業/Fall	135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6611】 フランス語表現法A [ヴァリエヌ コリ ンヌ] 春学期授業/Spring	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6612】 フランス語表現法B [ヴァリエヌ コリ ンヌ] 秋学期授業/Fall	137

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語A [木部 敬] 春学期授業/Spring	138
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	138
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級A [三神 エレナ] 春学期授業/Spring	139
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級B [三神 エレナ] 秋学期授業/Fall	140
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語A [三神 エレナ] 春学期 授業/Spring	140
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語B [三神 エレナ] 秋学期 授業/Fall	141
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読A [土岐 康子] 春学期授 業/Spring	142
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読B [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	142
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語A [油本 真理] 春学期授 業/Spring	143
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	143
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語A [廣野 行雄] 春学期授業/Spring	144
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語B [廣野 行雄] 秋学期授業/Fall	145
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6805】 中国語視聴覚中級A [劉 湯水] 春学期授 業/Spring	145
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6806】 中国語視聴覚中級B [劉 湯水] 秋学期授 業/Fall	146
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級A [周 重 雷] 春学期授業/Spring	146
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級B [周 重 雷] 秋学期授業/Fall	147
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳A [葉 進] 春学期授 業/Spring	147
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳B [葉 進] 秋学期授業/Fall	148
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6813】 中国語翻訳・通訳C [高田 裕子] 春学期 授業/Spring	148
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6814】 中国語翻訳・通訳D [高田 裕子] 秋学期 授業/Fall	149
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	150
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	151
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授 業/Spring	151
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授 業/Fall	152
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授 業/Spring	153
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	154
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	155
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	155
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	156
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	156
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級A [佐々木 直美] 春学期 授業/Spring	157
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級B [佐々木 直美] 秋学期 授業/Fall	158

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [瓜 谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	159
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [瓜 谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall.....	160
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [大西 亮] 春学期授業/Spring	161
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [大西 亮] 秋学期授業/Fall .	162
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [大西 亮] 春学期授 業/Spring.....	163
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	163

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

LANk300LA

朝鮮語初級 I 2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音を学び、文法の初歩を学びます。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつが言えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1課	基本母音音
2	第2課	基本子音音
3	第3課	合成母音音
4	第4課	パッチム（7つの終声）
5	第5課（1）	用言の「ですます」形
6	第5課（2）	私は～です
7	第6課（1）	時間ありますか？
8	第6課（2）	予定や持ち物の有無を尋ねる
9	第7課（1）	それは何ですか？
10	第7課（2）	尊敬形
11	第7課（3）	助詞と疑問詞のまとめ
12	第8課（1）	うちとけた「です・ます」形
13	第8課（2）	数字に親しむ
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

【テキスト（教科書）】

『最新チャレンジ！韓国語』金順玉・阪堂千津子著、白水社、2014年、2300円＋税

【参考書】

朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

CDの活用

【Outline and objectives】

This course is an elementary Korean course. In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangeul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

LANk300LA

朝鮮語初級 II 2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語A」を終了したレベルのかた向けの講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、現在形のハムニダ形、ヘヨ形ができ、テキストの8課程度までの内容を理解していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・変則用言を理解し、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第9課（1）	何か好きですか？
2	第9課（2）	変則用言を学ぶ
3	第10課（1）	週末に何をしましたか？
4	第10課（2）	過去形の作り方
5	第10課（3）	一日の日課
6	第11課（1）	明日は何をするつもりですか？
7	第11課（2）	買い物をしてみましょう。
8	第12課（1）	スープが冷たくておいしいです。
9	第12課（2）	ペアで覚える形容詞
10	第12課（3）	自分の気持ちや周りの様子を表現する
11	第13課（1）	一度遊びに来てください
12	第13課（2）	もっとチャレンジしてみよう
13	第13課（3）	副詞をものにしよう
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

【テキスト（教科書）】

『最新チャレンジ！韓国語』金順玉・阪堂千津子著、白水社、2014年、2300円＋税

【参考書】

朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

CDの活用

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 8 of the text book.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017年度以降入学者

LANk300LA

朝鮮語中級 I 2016年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。ある程度朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返ししながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

朝鮮語辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANJ300LA

日本語コミュニケーション A 2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のほうなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どのような要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際にあった例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】

文化の異なりについて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介します
5	「コード・モデル」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位（単音）について i	コードの単位の一つである「音」の単位（単音）について紹介します
9	「音」の単位（音素）について ii	コードの単位の一つである「音」の単位（音素）について紹介します
10	「意味」の単位（形態素）について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介します
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説します
12	「文法カテゴリー」について i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
13	「文法カテゴリー」について ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
14	春学期試験	以上で紹介・解説した内容について、理解度を判定するために試験をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な実例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40点、試験の得点 60点、合計 100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In this class, we will treat following issues;

- 1 What is Culture.
- 2 What is Language.
- 3 What is Communication.

There is those who think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many cultural components for communication. It is cultural items that make communication possible.

In this class, You are able to understand what is communication, and can use the needs that are for how to communicate with those who has different cultures.

LANJ300LA

日本語コミュニケーションB

2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っ
ても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どのような要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際の例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】

この授業で培った知識と技能によってより日本人とよりスムーズなコミュニケーションができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題 i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題 ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
8	「宗教」について ii	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素 i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素 ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」の制約	「コミュニケーション」における制約について解説します
14	期末試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語という言語によるコミュニケーションについて、について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、試験の得点30点、レポートの得点40点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方だけの問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In this class, we will treat following issues;

- 1 What is Culture.
- 2 What is Language.
- 3 What is Communication.

There is many students think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many components for communication. It is cultural items that make communication possible.

In this class, You are able to understand What is communication, and can use the needs that are for communication with those who has different culture.

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけでなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第 9 回	恋愛作品と文字	・「詩経」と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩識」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけでなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第 10 回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第 11 回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儂い栄達 ・動物への変身
第 12 回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第 13 回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

LIT300LA

文章論－文章表現の実践

2016年度以前入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 A

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものか、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要素を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。

第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。
 創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品〔三作以上〕への批評文） 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

教養ゼミとしては本年度スタートとなるため、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of essays and novels, students acquire the ability to from there own worldview and imagination.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 B

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。

今semesterでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらったこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

教養ゼミとしては本年度スタートとなるため、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of essays and novels, student acquire the ability to from there own world view and imagination.

In addition, learning the basic skills of proofreading and editing by creating a collection works.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

LIT300LA

文芸創作講座

2016 年度以前入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作はこの世界を見る新しい視座をえることを可能にします。この授業では、自分の書きたい世界を明確にし、他者に向けて小説を書くための基礎について学びます。春学期のテーマは、「短編小説をつくる」です。春学期に完成させた短編小説を冊子にして、受講生の短編集を作成し、2019 年 11 月 1 日（金）から 4 日（月）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に参加します。

【到達目標】

- (1) 短編小説を分析的に読み、その構造を把握できるようになる。
- (2) 文芸作品の時代背景や著者についてまとめることができるようになる。
- (3) 構想を練り、原稿用紙 30-120 枚（12,000 文字から 48,000 文字）程度の短編小説の草稿を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・前半では、短編小説を読み、著者や作品の背景となる時代について整理したり、本文の分析的読解を行います。各作品につき、1 名が発表し、コメンテーター 1 名がコメントをし、クラスで議論を行います。
- ・後半には短編小説を書きます。個別面談を行い、各自の小説の草稿を完成させます。実際の完成原稿は夏休みを用いて秋学期までに行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	選抜試験	初回は選抜試験について説明を行います。選抜試験の内容は以下の通りですので、締め切りまでに提出できるように準備を進めてください。 1. 「さみしさ」をテーマに 2,000 文字程度のショート小説を作成してください。 2. この授業を受講したい理由を 800 文字程度で書いてください。 ・受講希望者は、2019 年 4 月 12 日（金）23:59 までに以上の内容を選抜説明会当日に指定したメールアドレスまで Word ファイルにて提出してください。締め切りは厳守。締め切り以降の到着は受け付けません。選抜を行った後、2019 年 4 月 14 日（日）23:59 までに合否をお知らせします。
第 2 回	イントロダクション	・春学期の授業計画について説明を行います。 ・受講生の顔合わせをし、春学期のテーマ「短編小説をつくる」について説明します。 ・ゼミ進行係、書記係、冊子係、会計などの役割を決定します。 ・毎回短編小説 2 本程度を読みます。発表者は各 1 名 ・コメンテーター 1 名 ・全員がコメントカードを書き、フィードバックを行う。
第 3 回	創作とは何だろう	(1)「世界観」を言語化する、(2) 時間や場所の表現、(3) 文法の大切さ、(4) アイデアの整理、メモのとり方、プロットを立てる？ 立てない？ etc.

第4回	短編小説を読む(1)	吉本ばなな「デッドエンドの思い出」(『デッドエンドの思い出』文春文庫、2006) 村上春樹「納屋を焼く」(『蝿・納屋を焼く・その他の短編』新潮文庫、1987) *毎回のレジュメは、A4用紙4枚以内で作成し、人数分印刷してください。ただし、別途資料を提示しての発表の場合は、別紙資料を準備しても構いません。 *発表者は発表が終わった後、発表翌日の23:55までに授業支援システムの「課題」に提出してください。
第5回	短編小説を読む(2)	林京子「祭りの場」(『祭りの場 ギヤマン ビードロ』講談社文芸文庫、1988) 川上弘美「神様」(『神様 2011』(『神様 2011』講談社、2011)
第6回	短編小説を読む(3)	多和田葉子「かかとを失くして」(『かかとを失くして 三人関係 文字移植』講談社文芸文庫、2014) リービ英雄「千々にくくく」(『千々にくくく』講談社文庫、2008)
第7回	短編小説を読む(4)	川端康成「伊豆の踊子」(『伊豆の踊子』新潮文庫ほか) 大江健三郎「飼育」(『大江健三郎自選短編』岩波文庫、2014)
第8回	短編小説を書く(1)	アイデアを具体的に作品につなげるための演習を行います。
第9回	短編小説を書く(2)	草稿を書きます。まずは最後まで書くことが大事なので、そのための基本姿勢について学びます。
第10回	短編小説を書く(3)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ1
第11回	短編小説を書く(4)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ2
第12回	短編小説を書く(5)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ3
第13回	短編小説を書く(6)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ4
第14回	短編集作成についての相談	市ヶ谷キャンパス祭に参加するためのスケジュール調整や役割の確認、や冊子の表紙について相談します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

(1) 1週間に短編小説2作品を読み、発表者とコメントーターは発表の準備が必要です。

(2) 2019年8月31日(土)に授業支援システムから完成原稿を提出。必要があれば個別面談を行います。9月中旬に、1度、講座で集まり、市ヶ谷祭に關しての企画や冊子の校正についての説明をします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表(40%)、学期末までに完成させた小説(60%)で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者が多い場合、選抜試験で決定します。
- ・この講義は、文芸創作講座A(春学期)と文芸創作講座B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
- ・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
- ・初回講義に來られない場合は、受講できないので注意してください。
- ・冊子作成などに必要な実習費用は年間3,000円です。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels.

LIT300LA

文芸創作講座B

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

秋学期のテーマは、「短編集をつくる、批評を行う」です。春学期に書きはじめた短編小説を完成させ、短編集を作成し、2019年11月1日(金)から4日(月)に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。秋学期後半では、文芸批評や合評を通して、自分が書いた小説を客観的に見て、さらに精緻な小説にするための方法を身につけます。

【到達目標】

- (1) 自分の作品を客観的に見、改善することができる。
- (2) グループワークを行い、冊子を編集することができる。
- (3) 合評や文芸批評を通して、相互に意見を交換することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・秋学期前半では、春学期から夏休みを通じて作成した短編小説を校正し、冊子にします。その後、2019年11月1日(金)から4日(月)に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。

・11月半ばから、合評会を行い、それをもとにリライトを行い、さらに作品を洗練させます。毎回、受講者の短編小説3作を読みます。それぞれの作品について発表者1名が10分ほど講評を行い、著者リプライを5分、全体での合評を15分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	(1) 秋学期の計画の説明、(2) 市ヶ谷キャンパス祭に向けて、(3) 校正の仕方について。 *校正は、自分以外の2名の原稿の誤字脱字をチェック。9月23日(月)23:55までに著者に戻してください。その後、2名の指摘を受けて修正した原稿を9月27日(金)23:55までに授業支援システムにアップロードしてください。
第2回	冊子の校正	冊子の校正を完了させます。印刷会社に依頼するので、メット厳守です。
第3回	合評や批評について	合評や批評とは何かについてまとめます。
第4回	再校	10月11日に校正ゲラ(初稿)が戻ってくるので、再度、誤字脱字がないか確認をし、10月15日(火)に校正を印刷会社に戻します。
第5回	市ヶ谷キャンパス祭の準備(1)	ブースの配置や備品、役割分担などを決めます。
第6回	市ヶ谷キャンパス祭の準備(2)	市ヶ谷キャンパス祭のための準備を行います。冊子の完成見本ができあがります。
第7回	合評会(1)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説3作を読みます。それぞれの作品について発表者1名が10分ほど講評(要レジュメ・A4・1枚程度)を行い、著者リプライを5分、全体での合評を15分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→グループ1 *発表翌日23:55までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。

発行日：2019/5/1

- 第 8 回 合評会 (2) 作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 2
*発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
- 第 9 回 合評会 (3) 作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 3
*発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
- 第 10 回 合評会 (4) 作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 4
*発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
- 第 11 回 合評会 (5) 作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 5
*発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
- 第 12 回 合評会 (6) 作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 6
*発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
*批評の内容を受けて、自分の作品をリライトします。その場合も、原稿用紙 30-120 枚 (12,000 文字から 48,000 文字) を越えないようにしてください。
- 第 13 回 リライトに関する個別面談
第 14 回 まとめ 授業全体のまとめを行います。
* 2020 年 1 月 23 日 (水)23:55 までに、完成した小説を授業支援システムから提出してください。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1)2019 年 11 月 1 日 (金) から 4 日 (月) に行われる市ヶ谷キャンパス祭に参加します。
(2) 後半は、1 週間に短編小説 3 作品を読み、合評の準備が必要です。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

市ヶ谷祭への参加度 (20%)、合評での発表 (30%)、学期末までに完成させた小説 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・この講義は、文芸創作講座 A(春学期) と文芸創作講座 B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
- ・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
- ・冊子作成などに必要な実習費用は年間 3,000 円です。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels. We will participate in the Hosei university school festival.

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

日本芸能史論

2016 年度以前入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時間：火 2/Tue.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多様な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見方とセーラムーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について
第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めています。

【その他の重要事項】

受講希望の人は必ず第 1 回授業に出席して下さい。やむをえず欠席する場合は、第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは必ず件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。

春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ受講する予定の人も、春学期第 1 回授業までに、上記の要領でその旨をメールで連絡してください。

第 1 回授業終了後、受講許可者を掲示します。受講許可者がこの授業の履修登録をしないことは可能ですが、受講許可者以外の方が履修登録することは不可としますので、注意して下さい。

なお、秋学期「日本芸能論 B」を受講せず、春学期「日本芸能論 A」のみを履修する場合は、必ず発表して下さい。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラムーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について
第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めています。

【その他の重要事項】

春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修する予定の人は、必ず、春学期第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。なお、メールで受講希望の連絡をしなかった人は、秋学期授業に出席しても、履修者数に余裕がない場合、受講を許可しないこともありますので、注意してください。

秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解度を高めるために「日本芸能論 A」の受講をおすすめします。「日本芸能論 B」のみを履修する場合は、必ず発表してください。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

身体表現論 (バレエの世界)

2016 年度以前入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・プレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『コッペリア』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス (1)	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について
13	モダン・ダンス (2)	ベジャール、パウシュ、フォーサイス等の実践について
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に舞台鑑賞するように努める。(映像を含む)

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇 (1) ~ (4)』(ちくま文庫)
シェイクスピア (福田恆存訳) 『ハムレット』(新潮文庫)
シェイクスピア (安西徹雄訳) 『リア王』(光文社古典新訳文庫)
日本演劇学会 『ベスト・プレイヤー-西洋古典戯曲』(相田書房)
岩瀬孝 『フランス演劇史序説』(早稲田大学出版部)
邦正美 『舞踊の文化史』(岩波新書)
鈴木晶 『バレエの魔力』(講談社現代新書)
長野由紀 『バレエの見方』(新書館)

三浦雅士 『バレエ入門』(新書館)
舞踊教育研究会 『舞踊学講義』(大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30 % : 適宜課される小テストや小レポートを通し、それまでの授業の理解度を評価。

期末試験 40 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考文献等の紹介
2	演芸と身体	イギリスのミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアン
3	レビューと身体	フランスのキャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカルと身体（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカルと身体（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	リアリズム演劇と身体	20 世紀のアメリカ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	反リアリズム演劇と身体	20 世紀日本のアンクラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
8	ダンスと身体	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
9	映画と身体（1）	アクション映画におけるの身体表現（ヒーロー像他）について
10	映画と身体（2）	シンデレラのストーリーにおける女性像：『マイ・フェア・レディ』、他
11	事例研究（1）	宝塚版『Me and My Girl』（仮）
12	事例研究（2）	『ポーの一族』：原作との比較（仮）
13	事例研究（3）	『Cabin in the Sky』（仮）
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から舞台鑑賞をするように努める。（映像を含む）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アピニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリ）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
西脇英夫『日本のアクション映画』（現代教養文庫）
四方田犬彦・鴛谷花編『戦う女たち—日本映画の女性アクション』（作品社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チャーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
テネシー・ウィリアムズ（小田島雄志訳）『欲望という名の電車』（新潮文庫）
アーサー・ミラー（倉橋健訳）『るつぽ』（ハヤカワ文庫）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）

油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30%：適宜課される小テスト、小レポートを通して、それまでの講義の理解度を評価。

試験 40%：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

美術論

2016 年度以前入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、近現代美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。

1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

『西洋の近代美術』

18 世紀以降の西洋近代美術史の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。

『現代美術』

第二次世界大戦から 21 世紀に至る現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。また、後半はグローバル化した現代美術のアイデアや方法について学びます。

講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	『西洋の近代美術』 近代美術の誕生と印象派	近代とは/新古典主義/ロマン主義/写実主義
3	『西洋の近代美術』 近代美術の誕生と印象派 1	印象派の背景/印象派/新印象派/ポスト印象派
4	『西洋の近代美術』 ルネサンス美術 バロック・ロココ美術	ルネサンス/マニエリスム/バロック/ロココ
5	ワークショップ 1	プレゼンテーションとディスカッション
6	『西洋の近代美術』 前衛芸術運動 1	アバンギャルド/フォヴィスム/表現主義/キュビズム
7	『西洋の近代美術』 前衛芸術運動 2	未来派/ダダイズム/シュルレアリズム
8	『西洋の近代美術』 第二次大戦前	構成主義/デ・スタイル/バウハウス
9	ワークショップ 2	プレゼンテーションとディスカッション
10	『西洋の現代美術』 戦後からポップアートまで	抽象表現主義/ネオダダ/ポップアート
11	『西洋の現代美術』 1960 年代のアート	ランドアート/ミニマリズム/コンセプチュアル・アート
12	『西洋の現代美術』 1980 年から現代まで	ポストモダニズム/ニューバインティング/YBA/関係性の美術/ソーシャルプラクティス
13	ワークショップ 3	プレゼンテーションとディスカッション
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。
参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）
授業毎に行うレポートもしくは制作課題（25%）
試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容を、俯瞰的、実践的に学びます。

1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

『日本の美術』

古代から近代までの日本美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。

『現代美術』

現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる日本美術史がテーマとなります。また、後半は現代美術の制作や美術館、美術批評の現場について学びます。

講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	『日本の美術』 古代美術	飛鳥・奈良時代/白鳳時代/奈良・平安時代
3	『日本の美術』 中世美術	鎌倉・室町時代/桃山・江戸時代
4	ワークショップ（1）	プレゼンテーションとディスカッション
5	『日本の近代美術』 近代美術のはじまり 大正から戦前	明治時代・西洋画と日本画 /大正デモクラシー/戦争画
6	『日本の近代美術』 戦後美術	アンデパンダン/ネオダダ/ハイレッド センター/実験工房/もの派/
7	ワークショップ（2）	プレゼンテーションとディスカッション
8	『日本の現代美術』 1979-1980	もの派以降/ インスタレーション・パフォーマンス
9	『日本の現代美術』 1990-2019	関係性の美術 ソーシャル・プラクティス
10	ワークショップ（3）	プレゼンテーションとディスカッション
11	『現代美術のコンテクスト』	美術館・ギャラリー・オルタナティブ スペース
12	『現代美術のコンテクスト』	美術批評
13	ワークショップ（4）	プレゼンテーションとディスカッション
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。

参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

授業毎に行うレポートもしくは制作課題（25%）

試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content・ Planning of art exhibitions・ Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

芸術と人間

2016 年度以前入学者

石原 陽一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジュアル・アートの代表的なモチーフである〈風景〉および〈身体〉が絵画、写真、映画においてどのように表現されてきたかをたどることによって、それぞれの表現メディアの特質ならびに表現メディア間の関係を理解する。

【到達目標】

ヨーロッパを中心とするビジュアル・アートの歴史を理解するとともに、ビジュアル・アートを分析・批評するためのツールとして役立つさまざまな理論を学び、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ビジュアル資料の鑑賞や関連する文章の講読を織り交ぜて講義を行う。ミニレポートを学期中に三回以上提出してもらう。また、授業中に小グループに分かれて意見を交換してもらい、その結果を簡単に報告してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	フレーミングの発明
2	絵画と風景	風景画の変貌
3	写真と風景	人間の消滅？
4	古典映画と風景	サイレント映画、西部劇など
5	現代映画と風景（1）	アントニオニーニ、ストロープ＝ユイレらの作品
6	現代映画と風景（2）	タルコフスキー、テレンス・マリックらの作品
7	絵画と身体（1）	キリスト像など
8	絵画と身体（2）	ルネサンスとその周辺
9	絵画と身体（3）	近現代絵画
10	写真と身体	司法、精神病理学、芸術
11	映画と身体（1）	スラップスティック映画
12	映画と身体（2）	ロベール・ブレッソンの映画
13	映画と身体（3）	カサヴェテス、クローネンバーグら
14	まとめ	講義の補足とまとめ 期末レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントを熟読する。指定した作品を各自で鑑賞する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況・参加度・ミニレポート 50 %、期末レポート 50 %（ただし期末レポート未提出の場合は E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合は初回に選抜考査を行うので、必ずこれに出席すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of visual arts. By comparing painting, photography and film from the viewpoint of representations of landscape and human body, it will help students to acquire knowledge of the history of visual arts and the specificity of each medium as well as their relations.

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

石原 陽一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術と人間 A」で扱ったテーマを掘り下げ、映画における身体表現という観点から映画俳優の演技について学ぶ。演技者であると同時に被写体でもあるという映画俳優の特異な存在様式、および日常生活では潜在的なままにとどまっている人間の身体さまざまな可能性を映画という表現メディアがどのように引き出してきたかを理解する。エポックメイカーとなってきた名優たちのケーススタディーを軸に、アメリカとヨーロッパを中心とする映画史におけるアクティング・スタイルの変遷をたどることによって、映画俳優とは誰か、映画における演技とは何かを考える。

【到達目標】

演技という観点から映画という表現メディアを考えることで、映画史の流れをつかむとともに映画表現の特性を理解する。あわせて映画や演技についてのさまざまな理論を知り、分析・批評のコツを体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ビジュアル資料の鑑賞および関連文献の講読を交えて講義を行う。ミニレポートを学期中に三回以上提出してもらう。また、授業中に小グループに分かれて意見を交換してもらい、その結果を簡単に報告してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	映画俳優とは誰か？
2	サイレント映画	リリアン・ギッシュら
3	ディーヴァ女優	グレタ・ガルボ、マルレーネ・ディートリッヒ
4	演技派とは？	ベティ・デイヴィス
5	ミュージカル映画	フレッド・アステアとジーン・ケリー
6	フィルム・ノワールとその周辺	ジョン・ガーフィールド、ジェームズ・キャグニー
7	スクリーンボール・コメディとその周辺	ケイリー・グラントら
8	フランス映画の黄金期	ジャン・ギャバン、ミシェル・シモン
9	アクトーズ・スタジオとメソッド演技	マーロン・ブランド
10	非職業俳優と即興演技	ネオレアリズモ、ヌーヴェル・ヴァーグ、ニューヨーク派
11	アメリカン・ニューウェーブ	ジャック・ニコルソン、アル・パチーノ、ロバート・デ・ニーロ
12	同時代の俳優（1）	フランスの女優を中心に
13	同時代の俳優（2）	ハリウッドを中心に
14	まとめ	講義の補足とまとめ 期末レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示された作品を DVD などで鑑賞する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況・参加度・ミニレポート 50 %、期末レポート 50 %（ただし期末レポート未提出の場合は E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合は初回に選抜考査を行うので、必ずこれに出席すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of visual arts. By making a survey of the history of acting style, it will help students acquire knowledge of film history and theories on acting. The aim of this course is to help students appreciate film acting from the viewpoint of representation of human body.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

PHL300LA

仏教思想論

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主とするが、演習形式を採ることもあります。また、課題を出すこともあります。課題の担当者には、調べたことを授業中に発表してもらいます。毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていく予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法
第5回	仏教の基本思想（1）	仏教思想の多様性・段階性 五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印）
第6回	仏教の基本思想（2）	「諸行無常」（1）
第7回	仏教の基本思想（3）	「諸行無常」（2） 西洋の真理観との比較 「諸行無常」（3）
第8回	仏教の基本思想（4）	西洋の真理観との比較（続き） 「一切皆苦」（1） 苦と苦の因
第9回	仏教の基本思想（5）	十二支縁起 「一切皆苦」（2） 苦の滅と苦の滅に至る方法 八支聖道・中道
第10回	仏教の基本思想（6）	「一切皆苦」（3） 苦からの解放と生の充実
第11回	仏教の基本思想（7）	「諸法無我」 非我と無我 人無我と法無我 人無我論証
第12回	初期仏典講読（1）	『ダンマバダ』
第13回	初期仏典講読（2）	『スッタニパータ』
第14回	まとめと授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：プリント資料の精読、発表の準備（課題担当者）

授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

資料はプリントで配布する。

【参考書】

中村元著『原始仏教 その思想と生活』、NHK ブックス、1970年
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内筆記試験の成績（70%）、授業での発表内容・質疑応答（15%）、平常点（15%）

学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、などによる。

【学生の意見等からの気づき】

仏教思想を学ぶのが初めての学生がほとんどであるから、出来るだけ丁寧な指導・解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
 ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
 ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
 ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義と演習の両形態を採ります。演習では、担当者を決め、授業内に発表してもらいます。また、課題を出すこともあります。課題の担当者にも、調べたことを授業内で発表してもらいます。
 毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？
第2回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	諸部派成立から大乘仏教へ 有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第5回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6心所）
第6回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第7回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴 大乘諸経典 『般若経』の空思想
第8回	大乘仏教（2）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中
第9回	大乘仏教（3）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』『稲苜経』
第10回	大乘仏教（4）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苜経』
第11回	大乘仏教（5）	空思想と経文解釈 瑜伽行唯識派の解釈 中観派の解釈
第12回	大乘仏教（6）	後期中観思想 修道階梯 哲学思想の序列化 一乘思想
第13回	大乘仏教（7）	大乘仏教（後期中観派）の人生観
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読、発表の準備（演習・課題担当者）
 授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

テキスト・資料はプリントで配布する。

【参考書】

佐々木剛著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、2013年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内筆記試験の成績（70%）、授業での発表内容・質疑応答（15%）、平常点（15%）
 学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的に偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによる。

【学生の意見等からの気づき】

「少し難しかったけど、仏教思想を詳しく知ることができて良かった」という感想をもらいました。本年度は、少し難易度を下げ、より丁寧な分かり易い解説・指導を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

PHL300LA

行為の理論

2016 年度以前入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制限なし**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	序論	自己をクリエートする 21 世紀精神へ
第 3 回	I 行為の構造	合理主義的行為論
第 4 回	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第 5 回	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか?》
第 6 回	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは?》
第 7 回	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第 8 回	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第 9 回	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第 10 回	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第 11 回	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは?》
第 12 回	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
第 13 回	III 行為の根源	《運命とは自己自身である》
第 14 回	III 行為の根源	《自己を創造する行為とは?》

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】

Semester末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制限なし**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義の行為を再検討し、<クリエイティブな行為>を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	自己をクリエートする行為とは?	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する。
第 3 回	動機なき行為とは	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
第 4 回	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義の行為批判を紹介する。
第 5 回	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
第 6 回	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
第 7 回	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
第 8 回	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
第 9 回	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
第 10 回	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
第 11 回	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。
第 12 回	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。
第 13 回	自己創造としての変身	ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。
第 14 回	まとめ	行為論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。拙著『ニーチェとヘーゲル』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

Semester末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche's selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

PHL300LA

人間存在論

2016 年度以前入学者

サブタイトル：他者に認められるとはどういうことか——「承認」の哲学 (1)

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想 A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミ II」「現代思想 B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくりに精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2019 年度は、春・秋共通のテーマとして「他人に認められるとはどういうことか」という問いを「承認」の問題として考察する。その際に、藤野寛先生〔國學院大学教授〕の『「承認」の哲学——他者から認められるとはどういうことか』（2015）を手引きとしながら、藤野先生が依拠する現代ドイツの哲学者アクセル・ホネット（Axel Honneth, 1949-）の哲学や、ホネットが参照する様々な哲学者のテキストを参照しながら、「承認の哲学」を学んでいく。

【到達目標】

- (1) 「承認」という問題について、自分の思想・哲学について説明することができる。
- (2) アクセル・ホネットの「承認の哲学」や「承認」をめぐる様々な哲学者の見解について説明することができる。
- (3) 「他者を認める／他者から認められる」という「承認」をめぐる問題について、自らの思想を鍛錬することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所を読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験（受講生が 30 名以上の場合） ②授業の概要・資料の配布 ③日程の確認 ④柄谷行人の思想解説
2	他者に認められるとはどういうことか？ (1)	・承認とは何か？
3	他者に認められるとはどういうことか？ (2)	・「認める」／「認められる」
4	承認されないとはどういうことか？ (1)	・承認を拒まれるということ
5	承認されないとはどういうことか？ (2)	・承認しないことの意味
6	承認が認識に優先するか (1)	・社会性の意味
7	承認が認識に優先するか (2)	・社会の中で認められること
8	承認の三つの類型 (1)	・愛という承認の形
9	承認の三つの類型 (2)	・人権の尊重
10	承認の三つの類型 (3)	・フェアな業績評価
11	差異と向き合う (1)	・差異と向き合うとはどういうことか
12	差異と向き合う (2)	・差異への寛容か、差異の承認か
13	差異と向き合う (3)	・マルチ・カルチュラリズムと寛容の問題 ・「承認」の哲学の起源へ
14	まとめ	・「承認」の哲学の起源へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。

【テキスト（教科書）】

藤野寛『「承認」の哲学』（青土社、2015 年）

※ 各自でテキストを用意すること。

【参考書】

アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争〔増補版〕』法政大学出版社、2014年
 アクセル・ホネット『正義の他者』法政大学出版社、2005年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (50%) (質問を3点以上用意する)
- (2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員(30名)が決めている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】

In this class, we consider philosophically the question "What does it mean to be recognized by others?"

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：他者から認められるとはどういうことか？——「承認」の哲学

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」「現代思想B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくりに精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2019年度は、春・秋共通のテーマとして「他人に認められるとはどういうことか」という問いを「承認」の問題として考察する。その際に、藤野寛先生（國學院大学教授）の『「承認」の哲学——他者から認められるとはどういうことか』（2015）を手引きとしながら、藤野先生が依拠する現代ドイツの哲学者アクセル・ホネット（Axel Honneth, 1949-）の哲学や、ホネットが参照する様々な哲学者のテキストを参照しながら、「承認の哲学」を学んでいく。

【到達目標】

- (1) 「承認」という問題について、自分の思想・哲学について説明することができる。
- (2) アクセル・ホネットの「承認の哲学」や「承認」をめぐる様々な哲学者の見解について説明することができる。
- (3) 「他者を認める／他者から認められる」という「承認」をめぐる問題について、自らの思想を鍛錬することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所を読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①授業の概要・資料の配布 ②「承認の哲学」解説 ・ルソー『不平等起源論』をよむ
2	・「他者から認められたい」ってことは、要するに「人目を気にする」ってことでしょ？——「承認の哲学」の思想(1)	
3	・「他者を等しく尊重する」ってことは、要するに「みんなの個性を認めない」ってことでしょ？(1) ——「承認の哲学」の思想史(2)	・カント『人倫の形而上学の基礎づけ』を読み直す
4	・「他者を等しく尊重する」ってことは、要するに「みんなの個性を認めない」ってことでしょ？(2) ——「承認の哲学」の思想史(3)	・トゥーゲントハット『倫理学講義』のカント解釈を読む
5	・「他者を等しく尊重する」ってことは、要するに「みんなの個性を認めない」ってことでしょ？(3) ——「承認の哲学」の思想史(4)	・テイラー『マルチ・カルチュラリズム』を読む
6	・「異なる他者を広い心で受け入れる」ってことは、要するに「互いに打算で生きる」ってことでしょ？(1)——「承認の哲学」の思想史(5)	・ウォルツァー『寛容について』を読む(1)

- 7 ・「異なる他者を広い心で受け入れる」ってことは、要するに「互いに打算で生きる」ってことでしょ？ (2) —— 「承認の哲学」の思想史 (6)
- 8 ・「コミュニケーションすれば、仲良くなる」って本当かよ？ —— 「承認の哲学」の思想史 (7)
- 9 ・「コミュニケーションすれば、仲良くなる」って本当かよ？ —— 「承認の哲学」の思想史 (8)
- 10 ・「社会的に承認される」ってことは、要するに「みんなに妥協する」ってことでしょ？ (1)
- 11 ・「社会的に承認される」ってことは、要するに「みんなに妥協する」ってことでしょ？ (2)
- 12 ・「他者に承認される」ってけっこう大変だ
- 13 ・「異性の他者に承認される」のはもっと大変だ
- 1 4 まとめ
- ・ウォルツァー『寛容について』を読む (2) —— 「寛容」のパラドクス
- ・ハーバーマス『討議倫理』を読む
- ・デリダ『友愛のポリティクス』を読む
- ・承認は卑屈な人間を生み出すか？ —— ホネット『私たちのなかの私』を読む (1) 「イデオロギーとしての承認」
- ・承認は胡散臭いか？ —— ホネット『私たちのなかの私』を読む (2) 「イデオロギーとしての承認」 (20)
- ・「承認をめぐる闘争」 —— ホネット『承認をめぐる闘争』を読む
- ・「承認か、再分配か」は問題か —— フレイザー&ホネット『再分配か、承認か？』を読む
- ・「承認の哲学」はどこに向かうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。

【テキスト（教科書）】

藤野寛『承認の哲学』（青土社、2015年）

※各自でテキストを用意すること。

【参考書】

アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争（増補版）』法政大学出版局、2003年/増補版2014年

アクセル・ホネット『正義の他者』法政大学出版局、2005年

アクセル・ホネット『物象化』法政大学出版局、2011年

ナンシー・フレイザー&アクセル・ホネット『再分配か承認か？』法政大学出版局、2012年

アクセル・ホネット『私たちのなかの私』法政大学出版局、2017年

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (50%) (質問を3点以上用意する)

(2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】

In this class, we consider philosophically the question "What does it mean to be recognized by others?"

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017年度以降入学者

HIS300LA

中国の民族と文化

2016年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を行っていく。なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業をお進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史 (1)	【史記】の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史 (2)	【史記】の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史 (3)	【史記】の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史 (4)	【後漢書】の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史 (5)	【三国志】の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史 (6)	【三国志】の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史 (7)	【三国志】の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）

円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講読する漢文の量を増やしていければと思います。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

各学部に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。なお、秋学期には比較的古い文章の読解を行っていくが、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ漢文句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講読する漢文の量を増やしていければと思います。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

ギリシャの文化と社会A

2017年度以降入学者

HIS300LA

ギリシャの文化と社会

2016年度以前入学者

中村 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アルキビアデス・ストーリー（1）」という副題を添えて、民主政の最盛期とされる紀元前5世紀のアテネで奔放な生を生き抜いたアルキビアデスという一政治家の生きた軌跡を、ツキディデスの叙述を検討することを通して吟味します。

【到達目標】

参加型の直接民主政という特徴を持つ古典期アテネの民主政のなかで、もって生まれた自己の資質を余すところなく開花させることを極限まで追求し、そのゆえに毀誉褒貶半ばすることの多かった一人のエリート市民の生涯を、ツキディデスという第一級の歴史家の著述を通して辿ることによって、厳密な史料批判の方法を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態ですが、少なくとも1回は課題について受講生に発表してもらい、それについて議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要の説明
第2回	アルキビアデスって誰？	アルキビアデスという人物についての概括的説明
第3回	ツキディデスとアルキビアデス	春学期のテーマの主要な資料となるツキディデスの『戦史』について
第4回	ツキディデスのアルキビアデス評価：問題の所在	アルキビアデスの軍事的才能と私生活における問題点 受講生によるアルキビアデスについてのツキディデスの記述の紹介 マンティネアの戦いの戦略
第5回	アルキビアデスの軍事的才能(1)	マンティネアの戦いにおける戦略の評価
第6回	アルキビアデスの軍事的才能(2)	シチリア遠征
第7回	アルキビアデスの軍事的才能(3)	ヘルメス像破損事件
第8回	アルキビアデスの私的性癖(1)	ツキディデスの回り道：アルキビアデスは僧主になろうとしたか？
第9回	アルキビアデスの私的性癖(2)	シチリア遠征を決める民会におけるアルキビアデスの演説の分析
第10回	アルキビアデスとアテネ民会	軍事と政治に関係ないことをめったに記述しないツキディデスがなぜアルキビアデスの私的性癖にこだわったのか
第11回	ツキディデスのアルキビアデス評価 中間総括	ツキディデスの描写とアリストテレスの記述：クローンロジーの問題
第12回	411年の政変：問題の提示	政体の変転、アルキビアデスをめぐる人間関係、戦況の変化、3者の絡み合い
第13回	411年の政変：具体的検討	ツキディデスはアルキビアデスをどのように評価したのか
第14回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、下の参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくとういでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

『西洋古代史研究入門』、伊藤貞夫、本村凌二編、東大出版会 1997。
『古典期アテネの政治と社会』、伊藤貞夫著、東大出版会 1982。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『アテネ民主政』、澤田典子著、講談社選書メチエ 2010。

【成績評価の方法と基準】

学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 % で評価します。
出席が十分でなければ評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the life of Alcibiades, examining closely the historical sources written by Thucydides.

HIS300LA

ギリシャの文化と社会 B

2017 年度以降入学者

中村 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アルキビアデス・ストーリー (2)」という副題を添えて、民主政の最盛期とされる紀元前 5 世紀のアテネで奔放な生き抜いたアルキビアデスという一政治家の生きた軌跡を、主としてプルタルコス、プラトンの叙述を検討することを通して吟味します。

【到達目標】

アルキビアデスという人物が、なぜ多くのすぐれた古典古代の著作家たちの注目を引いたのかを検討することを通して、古典期アテネの文化の特徴の一端を明らかにし、若者が一人の人間として成長するためには教養（パイドイア）を身につけねばならないという考え方が、アルキビアデスに注目が集まる原因の一つであったということの持つ意味をかみしめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態ですが、少なくとも 1 回は課題について受講生に発表してもらい、それについて議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の概要についての説明
第 2 回	プルタルコスとその時代	プルタルコスの生きた時代とその著作物
第 3 回	プルタルコスとアルキビアデス	アルキビアデス伝について
第 4 回	プルタルコスの「アルキビアデス伝」：受講生による紹介と検討	「アルキビアデス伝」の内容について受講生に発表してもらって、全員でその内容について議論する。
第 5 回	プルタルコスが用いた史料の検討	アルキビアデスよりざっと半世紀ほど後の時代に生きたプルタルコスはどのような史料を用いたか。
第 6 回	プラトンの描くアルキビアデス	アルキビアデスより 1 世紀後の人プラトンの見解。
第 7 回	プラトンとその学園アカデメイア	プラトンの立ち位置
第 8 回	『饗宴』をめぐって	アルキビアデスとソクラテスの関係
第 9 回	Greek Homosexuality	アルキビアデスはどのようにソクラテスに愛されたのか
第 10 回	プラトンの描くアルキビアデス、再び：小括	プラトンはアルキビアデスのどこに心をひかれたのか
第 11 回	ペロポネソス戦争期のアテネにおける Generation Gap	420年代のアテネは若者の時代だったのか
第 12 回	アルキビアデスの「若さ」について	B. ストロースの見解
第 13 回	「若さ」とギリシア文化	藤縄謙三の所論をめぐって
第 14 回	総括	古代の多くの著名な著作家の関心を引いたアルキビアデスの魅力はどこにあったのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、下の参考文献の中から、自分が必要と思うものを選んで読んでおくとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

『西洋古代史研究入門』、伊藤貞夫、本村凌二編、東大出版会 1997。
『古典期アテネの政治と社会』、伊藤貞夫著、東大出版会 1982。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『アテネ民主政』、澤田典子著、講談社選書メチエ 2010。

【成績評価の方法と基準】

学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 % で評価します。
出席が十分でなければ評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【Outline and objectives】
This course will introduce students to the life of Alcibiades, examining closely the historical sources written by Plutarchos and Platon..

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A 2017 年度以降入学者

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 2016 年度以前入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

円仁の『入唐求法巡礼行記』を素材として、唐の仏教・道教の諸様相を読み取る。そして日本・中国の仏教受容や宗教政策の共通点・相違点を考える。

【到達目標】

古代日本の仏教は、律令制を基軸とした国家運営のなかに組み込まれ、僧尼の身分や行動、教団や寺院の運営も、国家の政策とは無関係には存在しえなかった。その淵源は中国にあるが、日中の相違点も少なくない。『入唐求法巡礼行記』に記された具体的な事象から、そのことを考え、得られた知見を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	入唐僧の概要	7～9世紀の入唐僧を概観する
3	円仁の揚州での見聞	揚州の寺院、円仁の修学を解説する
4	円仁の赤山法華院での見聞	山東半島での新羅人の活動を考える
5	円仁の五台山での見聞	五台山の諸寺院と靈仙について解説する
6	円仁の長安での活動	円仁の密教受法、会昌の廃仏について解説する
7	円仁の日本への帰国	会昌の廃仏の影響を考える
8	道僧格と僧尼令	唐と日本の宗教法制の相違点を考える
9	中国宗教としての道教	道教の発達を政治との関係で考える
10	僧・尼と道士・女冠	唐の仏教政策・道教政策の相違を考える
11	長安の寺院	長安の諸寺院を概観する
12	日本の都城と寺院	藤原京・平城京の寺院と長安の寺院との関係を考える
13	隋唐の諸州寺院	大雲寺・開元寺と日本の国分寺との関係を考える
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料（漢文）を読解もしくは現代語訳してくる。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円仁』（吉川弘文館、1989年）
佐伯有清『慈覚大師伝の研究』（吉川弘文館、1986年）
足立喜六・塩入良道注『入唐求法巡礼行記』1・2（平凡社、1970、1985年）
小野勝年『入唐求法巡礼行記の研究』1～4（鈴木学術財団、1964～69年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
磯波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）
塚本善隆訳注『魏書釈老志』（平凡社、1990年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50%）、②途中で実施する確認試験（30%）、③予習事項の紙面での提出（20%）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【その他の重要事項】

「人ヲ害スル勿レ（人の人権を侵害しないこと）。ボアソナード博士はこんな言葉で法の精神を伝えました。教室ではお互いの学ぶ権利を尊重する、それが建学の精神です。私語はしない、それがルール 法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター」
学内に掲示してあるポスターから引用しました。

【Outline and objectives】

Comparing Tang and Japanese religion with Ennin's diary as a material

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

円珍の入唐関係史料（『行歴抄』『天台宗延暦寺座主円珍伝』『園城寺文書』）を素材として、入唐僧の処遇や活動環境を探る。そして、僧侶の社会的地位、学問内容、布教活動のありかたなどを、日中で比較する。

【到達目標】

7～9世紀の入唐僧は一様ではなく、その目的、処遇、留学・巡礼の場所、成果はそれぞれ異なる。円珍を素材として、その実情を理解する。また世俗権力と僧侶社会との関係を示す記事に着目し、政治と宗教との関係を日本と中国とで比較する。そして得られた内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	入唐僧の概要	7～9世紀の入唐僧を概観する
3	円珍の入唐	円珍の入唐事情を解説する
4	円珍の天台山での活動	円珍の天台教学の受学、円載との関係を確認する
5	円珍の長安での活動	円珍の密教受学について確認する
6	円珍の天台山への帰山	円珍の天台山での動向と日本への帰国を解説する
7	帰朝後の円珍と唐の関係	円珍と唐僧・貿易商との交流を確認する
8	身分証と通行証	僧尼の身分把握、交通政策を日唐で比較する
9	台州刺史と太政官の公験	入唐僧の事績を俗官が証明する意味を考える
10	仏典目録・円珍疑問	仏典の請求、教学の探求について確認する
11	円珍・円載と智聡	入唐僧に従った弟子の活動を紹介する
12	天台山僧正としての清観	僧正（僧界の代表、僧官）を日唐で比較する
13	円仁・円珍が見聞した俗講	都城での布教を日唐で比較する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料（漢文）を読解もしくは現代語訳してくる。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
磯波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）
塚本善隆訳注『魏書積老志』（平凡社、1990年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50%）、②途中で実施する確認試験（30%）、③予習事項の紙面での提出（20%）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【その他の重要事項】

「人ヲ害スル勿レ (人の人権を侵害しないこと)。ボアソナード博士はこんな言葉で法の精神を伝えました。教室ではお互いの学ぶ権利を尊重する、それが建学の精神です。私語はしない、それがルール 法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター」
学内に掲示してあるポスターから引用しました。

【Outline and objectives】

Exploring the treatment and activity environment of the priest who visited Tang from Japan from the historical materials of "Enchin"

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

HIS300LA

アジア・太平洋国際関係史 2016 年度以前入学者

柳沢 遊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、20 世紀の前半期を中心にして、日本人の植民地支配へのかわり方、アジア及び太平洋島嶼各地域への進出の仕方、植民地経営の特質を考察するものです。過去に日本人や日本軍がおこなった植民地統治や勢力圏への企業進出、軍事行為などを明らかにすることで、21 世紀に、東アジア及び太平洋島嶼各地域の人々が、文化・宗教・政治体制の違いをこえて「共生」しうるための条件を模索していきます。「未来志向」の関係構築のためには、逆説的ではありますが、戦前・戦時期の日本人が、どのように東アジアや東南アジア、太平洋島嶼にかかわりを持ち、「つまずいたか」を丁寧に正確に知る必要があるのです。本講義では、1900 年から 1920 年代初頭までの時期を扱います。

【到達目標】

- 1, 日本と中国東北部の経済・社会との関係史を学び、戦前日本の「満洲権益」とは何であったか、と「進出された側の人びと」の立場を理解できるようになります。
- 2、学生は、この講義を履修することで、近現代の日本史と東アジア史についての歴史的センスとアジア経済圏や人の移動についての空間的な視野の両方を身に付けることができます。とりわけ、戦争と植民地獲得の関係、植民地の中の日本人の役割など、これまでに考えることのなかった問題を考察する素材を得ることができます。
- 3、各回の授業を通じて、日本—東アジア関係史の知識力と理解力が身に付き、それに応じて成績がつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を主とします。毎回、教員が用意したレジュメを配布し、その内容にそって授業を進めます。90 分たつと、授業を終えて、その日の講義に対する大小の質問を受け付けます。教員が質問に答えて、授業がおわります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の目的と進め方について	この科目の意義・目的と進め方を説明します。
2	日清戦争期の東アジアと世界経済の変動—帝国主义時代の幕開け	中華帝国秩序の動揺から、日本の工業化と日清戦争によって、「帝国主義」の台頭が見られるようになる過程を講義します。
3	日本の産業革命と東アジア市場—石炭・綿糸・雑貨—	日本の産業革命が、朝鮮・台湾・中国をどのように巻き込んだかを講義します。
4	日清戦後経営と日露戦争への道	日清戦争の結果、ロシアと日本の朝鮮での覇権争いがおこなわれ、ついに日露戦争に至る歴史過程を講義します。
5	朝鮮と中国の改革—大韓帝国の成立と洋務運動—	1897 年の大韓帝国の成立と中国の洋務運動が、アジアにおける「近代の胎動」であった理由を説明します。
6	日露戦争と朝鮮民衆—鉄道・道路建設に徴発される人びと	日露戦争は、日本とロシアとの戦争でありながら、朝鮮の植民地化の重要なステップになったことを講義します。
7	世界史の中の日露戦争—帝国主义体制の仲間となった日本	日露戦争に「勝利」した日本は、アジアの植民地帝国を築き、「五大列強」の仲間入りを使用とするが、そこには、財政面、金融面でおおきな無理があったことを説明します。
8	日露戦争後の「満洲」経営—「満蒙経営悲観論」の台頭—	「満洲」に渡航した人びとは、どのような人々であったかを、具体例とともに説明し、彼らが、「満洲」で目指したものと現実の在満日本社会の乖離を示します。
9	辛亥革命と韓国併合—変動する東アジアの中の日本—	日本の行った韓国併合と、孫文などによる辛亥革命をみることで、東アジアにおける 2 つの政治経済変動の深さと広さを学ぶことができます。

10	第一次世界大戦と東南アジアへの経済進出	第一次大戦期の日本は、ドイツの海軍拠点である山東半島に攻撃するとともに、南洋群島にたいしても占領し、「委任統治」を行います。それぞれどのような課題が存在したか、既存の研究から説明します。
11	大戦期の経済好況と「満州」日本人経済界	未曾有の「大戦好況」「戦後好況」の到来が、東アジア都市に何を生み出したか。満洲諸都市でも、不動産ブーム、企業ブームが、さかんとなったが、1920年4月にそれが崩壊する歴史をダイナミックに説明します。
12	「満州バブル経済」の開花と投資に走る人びと	株価と不動産価格の上昇は、人びとを経済活動にかりたてたが、気が付いたときに、多くの企業家は、借金と不良債権にまみれていました。それはなぜか？
13	「満州バブル経済」の崩壊と1920年恐慌—株価と不動産価格の下落	1921年、大量の株式会社が倒産、合併、閉鎖に追い込まれていき、「大豆経済」も破綻をきたしました。「満州」のバブル経済とは何だったのか、それを考えます。
14	春学期のまとめ	学んできた20世紀前半、とりわけ日露戦争期から、1920年代初頭までの東アジアの歴史をふりかえり、総括します。学生からも、多くの質問を受け付けていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際のレジュメをよく読み、関連文献に眼をとしてください。講義の流れについていけないときには、いつでも教員に相談ください。

【テキスト（教科書）】

・柳沢遊『日本人の植民地経験—大連日本人商工業者の歴史—』青木書店、1999年。
・和田春樹ほか編『東アジア近現代通史3 世界戦争と改造』岩波書店、2010年。

【参考書】

・原朗『日清・日露戦争をどう見るか』NHK出版新書、2014年。
・大日方純夫他編『近代日本の戦争をどう見るか』大月書店、2004年。
・国立歴史民俗博物館編『韓国併合』100年を問う』岩波書店、2011年。
・柳沢遊・木村健二・浅田進史編著『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾出版会、2013年。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験を行います。それ以外に、予告のうへ「小テスト」を実施します。「質問票」の提出は、任意ですが、それも「平常点」に入れて成績に加味されます。「定期試験」7割、「小テスト」1割、「平常点」2割という割合で、成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての担当であるため、情報はない。

【Outline and objectives】

This course examines Japanese aggression and colonization on Asia and Pacific Islands focusing on history from 1900s to 1920s. To make "future oriented" relationship in Asia and Pacific Islands, we need to know historically how Japanese civilians, companies and military had engaged with people in these areas and deteriorated their relationship. Understanding this history will be the first step for people of Asia and Pacific Islands to live together despite of our difference of culture, religion and political system in 21st century.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

柳沢 遊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、20世紀の前半期を中心にして、日本人の植民地支配へのかかり方、アジア及び太平洋島嶼各地域への進出の仕方、植民地経営の特質を考察するものです。授業の目的は、過去に日本人や日本軍がおこなった植民地統治や勢力圏への企業進出、軍事行為などを明らかにすることによって、21世紀に、東アジア及び太平洋島嶼各地域の人々が、文化・宗教・政治体制の違いをこえて共生しうするための歴史的条件を考える第一歩にすることです。「未来志向」の関係構築のためには、戦前・戦時期の日本人が、どのように東アジアや東南アジア、太平洋島嶼にかかわりを持ち、「つまずいたか」を丁寧に正確に知る必要があるのです。本講義では、1920年代から1940年代前半までの時期を扱います。主な内容としては、日本が、アジア及び太平洋島嶼地域に軍事的膨張を試みたが、なぜその試みが失敗したか、を学びます。

【到達目標】

- 1, 日本と中国東北部の経済・社会との関係史を学び、日本の「満洲権益」を名目に行われた中国大陸への軍事侵略が、なぜ止められず、多くのアジア民衆に犠牲を強いるようになったかについて、ミクロの歴史、地域の歴史から学びます。
- 2、学生は、この講義を履修することで、近現代の日本史と東アジア史についての歴史的センスとアジア経済圏や人の移動についての空間的な視野の両方を身に付けることができます。とりわけ、戦争と植民地・占領地拡大との関係、植民地・占領地の中の日本人の役割など、これまでに考えることのなかった問題を考察する素材を得ることができます。
- 3、各回の授業を通じて、日本—東アジア関係史の知識力と理解力が身に付き、それに応じて成績がつかます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を主とします。毎回、教員が用意したレジュメを配布し、その内容にそって授業を進めます。90分たつと、授業を終えて、その日の講義に対する大小の質問を受け付けます。教員が質問に答えて、授業がおわります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「鮮満一体化」政策の展開とその矛盾—山県伊三郎の野望と挫折	日露戦争後にさかのぼり、陸軍に生まれたこの構想が、1917年以降現実となり、第一次大戦期に、シベリアから華北にいたる広域的な経済進出がなされた過程とその政策的矛盾を明らかにします。
2	「満洲」金融不祥事の続発と中国人経済への影響	1920年恐慌後、在満日本人経済界では、日系金融機関の破綻と合併があいつぎ、それは、日本人と中国人との商取引にも、大きな支障となりました。なぜ、そういうことが起きたのかを学びます。
3	山東省・青島経済の不振と低利資金問題—山東出兵の歴史的背景—	「山東還付」に伴い、在青島日本人に貸し付けられた低利資金が、居留民社会の混乱により、返済不可に陥るものが続出します。山東出兵直前の外務省は、どう対応したのでしょうか。
4	満州事変への道—中国国民革命・張学良政権・満蒙権益の危機—	満洲における経済界の疲弊、蒋介石による国民革命の中国全土統一、張学良政権の自律的経済政策は、次第に、在満日本人社会に危機意識をうみだしていきます。
5	昭和恐慌下の満洲侵略—関東軍の野望と民衆の大陸願望—	独自の中国侵略構想を以て準備を進めていた関東軍が、日本本国の昭和恐慌を契機に、一挙に満洲国建国に軍事行動を拡大し、国際的孤立化の道を歩むことを説明します。
6	中国華北進出と「日満ブロック」経済論—資源開発への夢—	満州事変は、塘沽停戦協定をえて、華北資源調査にエスカレートしていきます。この軍事拡大を許容した経済的利害と、国内政治について説明します。

- 7 「満洲国」経済の変遷と満洲産業開発五ヶ年計画 満洲国という傀儡国家は、どのような経済建設を行ったのでしょうか。それが挫折し、「満洲産業開発五ヶ年計画」に至る道のりを説明します。
- 8 日中戦争期の日本と東アジア 短期間での解決をもちろんだ日本の構想と裏腹に長期化する日中戦争。そこで、歴史にのこる深刻な軍事作戦や虐殺がおこなわれていきます。
- 9 「大東亜共栄圏」の形成へ 「日満ブロック」から「日満支ブロック」への道が行き詰まり、アジア太平洋戦争に入っていく日本の姿を、同時代的意識と今日的観点から説明します。
- 10 「大東亜共栄圏」の経済的実態 資源獲得のための戦争であったはずの太平洋戦争は、逆に物資不足、輸入の不能で深刻な国民生活の低下をもたらします。その時、アジア地域の民衆は？
- 11 大東亜経済圏の軍事的膨張と崩壊 太平洋の多くの地域を占拠したかに見えた日本軍は、ミッドウェイの海戦を転機に連合軍の反撃にあい、各地で敗退や「玉砕」がおこなわれた。1942年を転換点とする日本軍の敗北を規定した経済力をみていきます。
- 12 日本帝国の敗北と、「引き揚げ」問題 1945年から1948年にかけて、日本の占領地、植民地から多くの「日本人」が引き揚げられます。彼らは、どのように帰還し、戦後日本社会に何を残したのでしょうか。
- 13 戦後アジアの解放と日本の「民主化」 戦後日本は、焼け跡の都市とモノ不足の農村に、600万人の復員者、引揚者をかかえて再出発します。帝国主義支配に屈していたアジア諸地域でも、民族の解放の動きが加速してきます。それから73年たった今、何が求められるかを考えましょう。
- 14 秋学期のまとめ 日本のアジアへのかかわり方を総括し、その「傷跡」の一つひとつに戦後日本はどのように向き合ってきたか(こなかったか)を、授業のまとめとして問題提起します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際のレジュメをよく読み、関連文献に眼をとってください。講義の流れについていけないときには、教員に相談ください。

【テキスト（教科書）】

・大日方純夫他編『近代日本の戦争をどう見るか』大月書店、2004年。
・今泉裕美子ほか編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』日本経済評論社、2016年。

【参考書】

・木村健二ほか編『近代朝鮮の境界を越えた人びと』日本経済評論社、2019年。
・国立歴史民俗博物館編『韓国併合』100年を問う』岩波書店、2011年
・柳沢遊・木村健二・浅田進史編著『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版会、2013年。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験を行います。それ以外に、予告のうへ「小テスト」を実施します。「質問票」の提出は任意ですが、それも「平常点」にいて成績に加点されます。「定期試験」7割、「小テスト」1割、「平常点」2割という割合で、成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての担当であるため、情報はない。

【Outline and objectives】

This course examines Japanese aggression and colonization on Asia and Pacific Islands focusing on history from 1920s to 1940s. To make "future oriented" relationship in Asia and Pacific Islands, we need to know historically how Japanese civilians, companies and military had engaged with people in these areas and deteriorated their relationship. Understanding this history will be the first step for people of Asia and Pacific Islands to live together despite of our difference of culture, religion and political system in 21st century.

HIS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

HIS300LA

在日朝鮮人の歴史

2016年度以前入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 I

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本に来たのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かされて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史Ⅱ

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	学生によるテキストの報告	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち
3	学生によるテキストの報告	在日コリアンと焼き肉文化
4	学生によるテキストの報告	在日コリアンの民族教育
5	まとめ①	映像（1）
6	学生によるテキストの報告	在日コリアンとパチンコ産業
7	学生によるテキストの報告	在米コリアンの社会史
8	学生によるテキストの報告	ベトナム戦争とコリアン
9	まとめ②	映像（2）
10	学生によるテキストの報告	済州島と在日コリアン
11	学生によるテキストの報告	大震災と在日コリアン
12	学生によるテキストの報告	Jリーグと在日コリアンサッカー選手
13	まとめ③	映像（3）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「在日朝鮮人の歴史A」とともに履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の濁集に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

GDR300LA

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、性、身体、欲望の規範的なあり方を問うクィア・スタディーズの基礎的な知識について学び、普段の生活の中で「あたりまえ」のように触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につけます。各回では、フェミニズムやレズビアン／ゲイ・スタディーズとクィア・スタディーズの繋がりについてまとめ、ヘテロセクシズム、性暴力、オルタナティヴな家族といった重要なトピックを歴史的・社会的な文脈の中で考える力を培います。

【到達目標】

- 1、クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2、普段から何気なく触れている社会現象や表象を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。小レポートによって問題解決型の学習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダー、セクシュアリティと人権の関係について学びます。
第2回	フェミニズムの歴史(1)	第1波フェミニズムと選挙権、ウーマンリブの展開、第2波フェミニズムの展開について学びます。
第3回	フェミニズムの歴史(2)	セックスとジェンダー概念、本質主義と構築主義、フェミニズムの多様性、トランスジェンダーとフェミニズムについて学びます。
第4回	「Suffragette」	サラ・ガヴロン監督「Suffragette」(2015、邦訳「未来を花束にして」)を中心に、現在までに達成されたことと今後の課題について考えます。→小レポート(1)
第5回	ホモセクシュアル／ヘテロセクシュアル	「ホモセクシュアル」概念と病理化の繋がりについて説明し、ホモファイル運動からレズビアン、ゲイの解放運動の歴史についてまとめます。
第6回	エイズ・アクティヴィズムの展開	1980年代のエイズ危機とアクティヴィズムの展開について説明し、「クィア(queer)」という言葉がどのような歴史的な文脈で用いられたのかについてまとめます。
第7回	ネオリベリズムとホモノーマティビティ	1990年代、2000年代を中心にセクシュアル・マイノリティの脱政治化、クィアの「主流化」について考えます。
第8回	表象の政治性	日本のメディアにおける「オネエ」という表象を批判的に読みます。また、LGBT／SOGIという概念についてまとめます。→小レポート(2)
第9回	トランスジェンダーと性同一性障害	トランスジェンダーと性同一性障害の概念について整理し、歴史的な経緯についてまとめます。
第10回	トランスジェンダーとシスジェンダー	トランスジェンダーとシスジェンダーという概念を中心に性別二元論やジェンダー規範について問う視座について紹介します。
第11回	ヘテロセクシズム	いくつかのニュースや映像を通して、日常の中にある「普通」を問う批評的実践を紹介します。→小レポート(3)
第12回	性暴力とトラウマ	性暴力とトラウマについて学びます。また、刑法改正と未だに残る課題について考えます。
第13回	オルタナティヴな家族／家族のオルタナティヴ	「誰とともに生きてゆきたいか」という視座から、家族について考えます。
第14回	まとめ	全体のまとめを行います。学生による授業改善アンケートを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムから全3回の小レポート（800文字以上）の提出が必要です。(1)よく調べ、十分な分量で書くこと、(2)感想ではなく、論理的な記述を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

河口和也『クィア・スタディーズ』岩波書店、2003。
 ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』堀田碧訳、新水社、2003。
 竹村和子編『ポスト・フェミニズム』作品社、2003。
 高橋準『ジェンダー学への道案内 四訂版』北樹出版、2014〔2006〕。
 森山至貴『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017。
 河口和也・風間孝編著『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート70%、小レポート30%で総合的に評価します。
 ・学期末レポートでは、以下の点を基準とします。

- (1) 必ず、「法政大学学習支援ハンドブック」(2018年度版ではpp.32-49)を参照してください。この書き方に合致していない場合、レポートを構成できていないと判断せざるをえないのでくれぐれも気を付けてください。
- (2) wikipedia やまとめサイトなどの記述ではなく、書籍や論文などを十分に調べることが必要です。
- (3) 感想ではなく、社会的事象や表象作品についての分析的、論理的な記述を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

はじめて学ぶ事柄が多いという指摘があったので、段階を追って学べるスケジュールにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末があると便利かもしれません。

【その他の重要事項】

授業中の私語は他の学生が学ぶ機会を奪うこととなります。くれぐれも注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of important issues pertaining to gender and sexuality. They will examine social and historical problems of gender and sexuality independently. Coursework will include writing comments on various topics 5 times during the semester.

GDR300LA

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
 2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期のクィア・スタディーズAで学んだ内容を復習しながら、映画、ドラマ、マンガ、アニメーション、ボーイズラブ(BL)、2.5次元ミュージカルなど幅広い領域の表象文化作品をジェンダーやセクシュアリティと繋いで読み解くための分析方法や理論を学びます。各回では、ジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々なトピックをとりあげ、映像作品を読み解きながら、先行研究や歴史的な展開について概観します。それらと並行して、表象文化を受信したり発信したりするときの倫理について自ら考えることを目指します。

【到達目標】

- 1、クィア・スタディーズの理論や分析方法について学ぶ。
- 2、クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行いますが、具体的な表象分析を行いますので、積極的な参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	クィア・スタディーズの基礎について復習し、映像作品を読み解く視座についてまとめます。
第2回	生命をめぐる倫理(1)	優生思想、優生保護法の歴史について学びます。
第3回	生命をめぐる倫理(2)	映画「ガタカ」(1997)を通して、生命をめぐる倫理について考えます。→小レポート(1)
第4回	エイズ危機と病の表象	エイズ危機における病の表象や言説の問題について考えます。
第5回	1980年代：広範囲にわたる連帯	マシュー・ウォーチャス監督「パレードへようこそ」(2014)を通して、広範囲にわたる連帯の可能性について考えます。
第6回	1980、1990、2000年代：保守化と新自由主義	1980年代の政治的な保守化と新自由主義的な政治経済体制について考えます。→小レポート(2)
第7回	クィア理論の展開(1)	テレサ・ド・ローレティス「クィア・セオリー」を中心にして初期のクィア理論の問題意識について学びます。
第8回	クィア理論の展開(2)	ジュディス・バトラーの議論を中心に、志村貴子「放浪息子」、「プリキュア」第7話「彼女がデビューする日」などのアニメーションをとりあげます。
第9回	クィア理論の展開(3)	イヴ・コソフスキー・セジウィックの議論を中心に、カミングアウトとクローゼット、ホモソーシャルについてなどの概念について学びます。
第10回	トランスジェンダーをめぐる状況(1)	「彼らが本気で編むときは、」(2017)、「女子的生活」(2018)などの映像を通して、トランスジェンダーをめぐる近年の状況についてまとめます。
第11回	トランスジェンダーをめぐる状況(2)	セバスティアン・レリオ監督「ナチュラル・ウーマン」(2017)を取り上げ、世界におけるトランスジェンダーをめぐる状況についてまとめます。→小レポート(3)
第12回	少女マンガ/BLスタディーズ	少女マンガ研究、BLスタディーズの成果について学びます。
第13回	ファンダムの成熟とクィア・リーディング	2.5次元ミュージカル、『HUG っと!プリキュア』(2018)のキュアアンフィニ(若宮アンリ)登場回、二次創作「悲嘆可能性」と前未来形という概念について学びます。
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムから全3回の小レポート（800文字以上）の提出が必要です。(1)よく調べ、十分な分量で書くこと、(2)感想ではなく、論理的な記述を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店、2003。
 森山至貴『LGBTを読みとくクイア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017。
 竹村和子『彼女は何を視ているのか』作品社、2012。
 中央大学人文科学研究所（編）『愛の技法—クイア・リーディングとは何か』中央大学出版部、2013。
 黒岩裕市『ゲイの可視化を読む—現代文学に描かれる性の多様性？—』見洋書房、2016。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70%、小レポート 30%で総合的に評価します。
 ・学期末レポートでは、以下の点を基準とします。

- (1)必ず、「法政大学学習支援ハンドブック」(2018年度版ではpp.32-49)を参照してください。この書き方に合致していない場合、レポートを構成できていないと判断せざるをえませんのでくれぐれも気を付けてください。
- (2)wikipedia やまとめサイトなどの記述ではなく、書籍や論文などを十分に調べる必要があります。
- (3)感想ではなく、社会的事象や表象作品についての分析的、論理的な記述を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

はじめて学ぶ事柄が多いという指摘があったので、段階を追って学べるスケジュールにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末があると便利かもしれません。

【その他の重要事項】

授業中の私語は他の学生が学ぶ機会を奪うことになります。くれぐれも注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire an advanced understanding about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will examine social and historical issues of gender and sexuality independently. In this semester we will analyze some stereotypes of the representation of gender and sexuality. Coursework will include writing comments on various topics 5 times during the semester.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

PHL300LA

キリスト教思想論

2016年度以前入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

- ①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
- ②信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、授業の終わりの20分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。

定員の35名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第2回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第3回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第4回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第5回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第6回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第7回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第8回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）
第9回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教（1）（ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ）
第10回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教（2）（聖書の誕生）
第11回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教（3）（信者の増加と迫害）
第12回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教（4）（コンスタンティヌス大帝の政策）
第13回	国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教（5）（キリスト教の国教化とローマ教会の組織力）
第14回	試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キリスト教関係の入門書を読んでおくこと。
 たとえば『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）など。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業内で詳しく紹介する。
 『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。

期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。

《到達目標との関連》＝上記①と②に関して期末の論述試験において習熟度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism. Students must write in Japanese their reaction after each lesson.

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりとらえる。

【到達目標】

①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
②中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。

定員の 35 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第 2 回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第 3 回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第 4 回	キリスト教と修道院	修道士の活躍 (1) (禁欲主義の問題)
第 5 回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍 (2) (アイルランド系修道院と修道士の特徴)
第 6 回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス (シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策)
第 7 回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触 (1) (西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教)
第 8 回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触 (2) (十字軍の問題)
第 9 回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化 (1) (西欧の地方へのキリスト教の伝播)
第 10 回	修道院の拡大	ロマネスク文化 (2) (クリュニー会とシトー会)
第 11 回	ゴシックとは何か	ゴシック文化 (1) (新都市住民の感性と新たな大聖堂建築)
第 12 回	中世神学の本質	ゴシック文化 (2) (光の神学)
第 13 回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化 (キリスト教と芸術家)
第 14 回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な入門書を読んでおいてほしい。

たとえば

『世界の歴史 (9)、ヨーロッパ中世』 鯖田豊之著、河出文庫など

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業のなかで詳しく紹介する。

『ゴシックとは何か』 酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】

中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。学期末の論述試験 50%と平素の授業態度（毎回提出の論述の内容など）が具体的なデータになる。

《到達目標との関係》＝上記①と②に関して習熟度を期末の論述試験において判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to continue to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism. Students must write in Japanese their reaction after each lesson.

ARSh300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

ARSh300LA

アラブの言語と文化

2016 年度以前入学者

サブタイトル：アラビア語への招待 I

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第1章	テキストの作りについて解説する。文字と発音のまとめ
5	第2章	名詞、形容詞と定冠詞
6	第3章	名詞の性、および指示詞と否定文
7	第4章	名詞、形容詞の格変化
8	第5章	名詞の数
9	第6章	指示詞（単数、双数、複数）
10	第7章	人称代名詞
11	第8章	否定動詞
12	第9章	前置詞
13	第11章	形容詞
14	授業内試験	「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どのような文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついていくのは不可能になります。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、榮谷温子『はじめましてアラビア語』第三書館を予定しています。
辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is an official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Culture of it.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：アラビア語への招待Ⅱ

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書 1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書 2	辞書の引き方を訓練する
3	第1 2章	動詞の完了形と副詞、疑問詞
4	第1 3章	動詞の未完了直説形
5	第1 4章	アラビア語の be 動詞
6	第1 5章	動詞の未完了接続形
7	第1 6章	inna とその姉妹
8	第1 7章	動詞の未完了短形および命令形
9	第1 8章	受動態と分詞、動名詞
10	第1 9章	関係代名詞
11	第2 0章、第2 1章	ハムザ動詞、第一語根 waw 動詞、重語根動詞
12	第2 2章、第2 3章	第二語根弱動詞、第三語根弱動詞
13	第2 4章、第2 5章	4語根動詞と二重弱動詞、動詞の派生形
14	まとめとレポート提出	アラビア語の動詞のまとめとレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期からは、動詞の変化形に入ります。単純な形の間には、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、榮谷温子『はじめましてアラビア語』第三書館 を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Culture of it.

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 2016 年度以前入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション ・日本と日本語の実像を考える	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・日本語はどんな言語か
第 2 回	・日本語の漢字使用について	・漢字の読みはなぜややこしいのか ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	・ラジオ型言語とテレビ型言語	(1) 文字言語としての日本語と他言語との比較。 (2) 音声言語としての日本語と他言語との比較
第 4 回	・文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	・カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	・文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	・形容詞のかくれた基準 ・有標性と無標性 ・新語の話	・天狗の鼻は「長い」でなく「高い」 ・形容詞の中身はなに？ - 形容詞のかくれた基準 ・江戸時代、「日本酒」はなかった
第 8 回	日本語の人称代名詞を巡る問題	身内の呼び方の方程式
第 9 回	指示語と自己中心語	「人称」の本質は何か
第 10 回	言語政策	日本語に対する考えを改めよう ・日本語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育の必要性
第 11 回	住まいと美意識	・住居、建築、都市計画
第 12 回	食文化	・日本の食べ物、世界の食べ物 ・日本の食べ方、世界の食べ方
第 13 回	宗教・迷信・タブー	・何を信じるか ・何を忌避するか
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。

【テキスト（教科書）】

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書 740円

【参考書】

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書

鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書

今井むつみ『ことばと思考』岩波新書

G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30%

発表 30%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜をします。

・2016年度以前の入学者は、秋学期開講の「異文化コミュニケーション論B」を合わせた通年科目となります。

【Outline and objectives】

In this course, students will read a book on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LAN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②「異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2・4回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3回・第5～13回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ①	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪について (学生発表と質疑応答。)
第4回	ステレオタイプ②	・ステレオタイプの真偽 ・ステレオタイプの流布と強化
第5回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテクスト (学生発表と質疑応答。以下13回まで)
第6回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテークキング ・パラ言語
第7回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第8回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第9回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第10回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第11回	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第12回	非言語コミュニケーション④	時間感覚

発行日：2019/5/1

- 第13回 価値観
・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観
・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
- 第14回 期末試験
第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のことはば-文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %
発表 30 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
- ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜をします。
- ・2016年以前の入学者にとっては通年科目「異文化コミュニケーション論」となりますので、秋学期のみの履修はできません。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考えるために、一端そこから離れて、日本近現代文学と周辺領域の学問から捉え直し、新たな視点を得ます。
春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式。

ただし初めの4～5回程度は教員が講義します。
また、下記授業計画で「導入」とある回は、教員の講義が中心になります。その他は学生の発表（レジュメ）、議論が中心になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細 および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	【探究1】
3	他者とはなにか	【探究1】
4	柄谷行人のモチーフを探る	【探究1】
5	「大導寺伸介の半生」導入 ——芥川龍之介の生涯	「大導寺伸介の半生」
6	他者へのまなざし	「大導寺伸介の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導寺伸介の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	【人間失格】
9	他者へのまなざし	【人間失格】
10	自意識と他者	【人間失格】
11	吉本隆明について——導入	【転位のための十篇】
12	他者へのまなざし	【転位のための十篇】
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	【転位のための十篇】
14	他者論のアクチュアリー——他者と自己をどうとらえるか	半期の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。
また、3回程度、発表のためのレジュメを書きます。

【テキスト（教科書）】

柄谷行人『探究1』（「1」はローマ数字）講談社学術文庫
芥川龍之介『大導寺伸介の半生』（『大導寺信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫 など当該作品の収録されているもの）
太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫 など当該作品の収録されているもの）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメなど）50%、期末レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考えるために、一端そこから離れて、日本近現代文学と周辺領域の学問から捉え直し、新たな視点を得ます。
秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式。

ただし初めの4回程度は教員が講義します。

また、下記授業計画で「導入」とある回は、教員の講義が中心になります。その他は学生の発表（レジュメ）、議論が中心になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	【供養】
3	供養とはなにか	【供養】
4	放棄と交換	【供養】
5	贈与とはなにか	【贈与論】
6	贈与と放棄と交換	【贈与論】
7	供養とテロリズム	【贈与論】
8	宮澤賢治について——導入1	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について——導入2	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるテクノポールの意味	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
14	【供養】のアクチュアリー——他者と自己をどうとらえるか	年間の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。
また、3回程度、発表のためのレジュメを書きます。

【テキスト（教科書）】

モース/ユベール『供養』法政大学出版局
モース『贈与論 他二篇』岩波文庫
宮澤賢治
「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫 ほか

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメなど）50%、期末レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LAW300LA

法哲学A

2017年度以降入学者

LAW300LA

法哲学

2016年度以前入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身に付け、現代社会の具体的な課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的な問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講生には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第2回	法哲学を学ぶにあたって1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第3回	法哲学を学ぶにあたって2	「もしも法がなかったら？」を考える
第4回	法哲学を学ぶにあたって3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第5回	格差・不平等問題1	基礎知識と論点の解説
第6回	格差・不平等問題2	論点と問題点の検討・討論
第7回	格差・不平等問題3	理論的立場の整理
第8回	法と道徳1	基礎知識と論点の解説
第9回	法と道徳2	具体的事例の検討
第10回	復興増税1	基礎知識と論点の解説
第11回	復興増税2	論点と問題点の検討・討論
第12回	人工妊娠中絶1	基礎知識と論点の解説
第13回	人工妊娠中絶2	論点と問題点の検討・討論
第14回	人工妊娠中絶3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容をよく復習し、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
 森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）
 マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
 内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）
 内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講者には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講者のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどのような社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、履修希望者は、春学期初回の授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
 ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
 ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の「法哲学 A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	死刑制度の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 3 回	死刑制度の是非 2	論点と問題点の検討・討論
第 4 回	裁判員制度と死刑 1	基礎知識と論点の解説
第 5 回	裁判員制度と死刑 2	論点と問題点の検討・討論
第 6 回	一夫一婦制と契約婚 1	基礎知識と論点の解説
第 7 回	一夫一婦制と契約婚 2	論点と問題点の検討・討論
第 8 回	一夫一婦制と契約婚 3	婚姻制度の意義の検討
第 9 回	代理出産と親子関係 1	基礎知識と論点の解説
第 10 回	代理出産と親子関係 2	論点と問題点の検討・討論
第 11 回	代理出産規制の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 12 回	代理出産規制の是非 2	論点と問題点の検討・討論
第 13 回	代理出産規制の是非 3	議論のまとめ
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容をよく復習し、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
 竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文(レポート)の点数を中心に(評価割合 80 %程度を予定)、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して(評価割合 20 %程度を予定)上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行う。そのため、履修人数は 25 人を上限とし、原則として春学期の「法哲学 A」受講者を履修対象者とする。ただし、受講人数に余裕がある場合には、過去に「法哲学 A」を履修済みの学生に関して個別事情を勘案した上で(4年生なので次年度以降の履修機会がないなど)、初回授業にて選抜を行い、例外的に履修を認める。(受講人数に余裕があっても、状況により、そうした例外措置をとらない場合がある。)

いずれにしろ、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、春学期の「法哲学 A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと。

人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

POL300LA

現代政治学の基礎

2016 年度以前入学者

サブタイトル：1960 年代の政治と音楽

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

1960 年代の政治について、そして政治と音楽の関係について考察する。文献やサウンド、映像を通して 1960 年代について知識を獲得するとともに、60 年代の「文化革命」がその後の時代にもたらしたことを考えることを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

60 年代の政治を、主として USA を対象にして理解すること
カウンター・カルチャーの思想と運動の特徴について理解すること
USA の広義のフォーク・ミュージックから生み出されたボビュラー・ミュージックの中から、特にサイケデリック・ロックについて考察する
カウンター・カルチャーがもたらした(と思われる)現代への影響について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

60 年代に関する文献を読み、サウンドを聴き、映像を観た上で参加者の間で意見を交換する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読	文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#4	映像視聴	映像の内容確認と議論
#5	文献講読	文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#7	映像視聴	映像の内容確認と議論
#8	文献講読	文献の内容確認と議論
# 9	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#10	映像視聴	映像の内容確認と議論
#11	文献講読	文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#13	映像視聴	映像の内容確認と議論
# 14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

文献は必ず事前に読むこと
音楽聴取・映像視聴後、関連する文献を読んで理解を深めること

【テキスト(教科書)】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

政治学 LA, 政治学 LB の履修(既履修)は必要ではありません。
ロック、特にサイケデリック・ロックの知識は必要ではありません。
ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のあることがあるかもしれません。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the 1960's
The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of politics in the 1960's and consider the interaction between politics and music of 60's.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：新自由主義の時代の政治と音楽

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新自由主義の特徴と新自由主義の時代の政治と音楽について理解・考察する

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：
 新自由主義を統治の様式として理解する
 サッチャー政権の政治とその後の UK 政治について理解する
 UK の政治と音楽について考察する
 マンチェスター発の音楽の意味について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマに関する文献を読み、サウンドを聴き、映像を観た上で参加者との意見を交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認
#2	文献講読	文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#4	映像視聴	映像の内容確認と議論
#5	文献講読	文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#7	映像視聴	映像の内容確認と議論
#8	文献講読	文献の内容確認と議論
#9	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#10	映像の視聴	映像の内容確認と議論
#11	文献講読	文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#13	映像視聴	映像の内容確認と議論
#14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献は必ず事前に読むこと
 音楽聴取・映像視聴後、関連する文献を読んで理解を深めること

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

政治学 LA, 政治学 LB の履修（既履修）は必要ではありません。
 ロックの知識は必要ではありません。
 ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のことがあるかもしれません。
 同年度の教養ゼミⅠの履修者は受講する権利があります。
 教養ゼミⅡの未履修者は、教室などの条件が許せば履修できます。関心がある学生は初回に教室に来てください。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the age of neo-liberalism
 The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of neo-liberalism
 and to consider the interaction between politics and music of Manchester.

ECN300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ECN300LA

グローバル経済論

2016年度以前入学者

サブタイトル：グローバル経済の課題と展望A

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はデフレ、ゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代=成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領が2018年9月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」と言われる。いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいっさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、次の二つのテーマを通じて、現代社会が抱える問題点を探る。

テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」

テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で1ないし2回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業（演習）の概要と進め方の説明
第2回	基礎的概念の説明Ⅰ	經常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第3回	基礎概念の説明Ⅱ	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第4回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」①	「利子とはなにか」（利子説の紹介）
第5回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」②	「利子生活者の安楽死」とは
第6回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」③	2030年、「わが孫たちの経済的可能性」（ケインズ、1930）、「例外」と「常態」
第7回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」④	13世紀、利子誕生の経緯
第8回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」⑤	テーマⅠのまとめと質疑応答
第9回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」①	支配と被支配の正当性基準は何か、その変遷
第10回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」②	国際収支の発展段階説-中国は債権国か債務国か
第11回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」③	帝国とは何か—マイケル・ドイルの「帝国」論、カフカ「皇帝の論旨」
第12回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」④	テーマⅡのまとめと質疑応答
第13回	プレゼンテーションⅠ	テーマⅠについて発表
第14回	プレゼンテーションⅡ	テーマⅡについて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーター、櫻井純理訳、岩波書店、2010年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + プレゼン内容 60 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次回の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

ECN300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：グローバル経済の課題と展望 B

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代を招来させるのか、いわゆるグローバリゼーション論争を学ぶことで、グローバリゼーションの本質、およびグローバル資本主義が抱える課題を理解することができる。

【到達目標】

秋学期の具体的な到達目標は、次の 2 つのテーマを学び、グローバリゼーションが何をもたらすかを理解できるようになることである。

テーマ I 「インターナショナル化とグローバリゼーション」

テーマ II 「資本主義の課題」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で 1 ないし 2 回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期、この演習の目的と進め方を説明
第 2 回	テーマ I 「インターナショナル化とグローバリゼーション」①	インターナショナル化とグローバリゼーションの定義と歴史ーどちらが先か
第 3 回	テーマ I 「インターナショナル化とグローバリゼーション」②	国民国家 VS. 帝国ーマイケル・ドイルの『帝国論』
第 4 回	テーマ I 「インターナショナル化とグローバリゼーション」③	グローバリゼーションのイデオロギー性
第 5 回	テーマ I 「インターナショナル化とグローバリゼーション」④	グローバリゼーションの論争、グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代か
第 6 回	テーマ I 「インターナショナル化とグローバリゼーション」⑤	主権国家システムと資本主義を超えてー新中世主義
第 7 回	テーマ II 「資本主義の課題」①	富の集中と貧困問題ーオックスファムレポート
第 8 回	テーマ II 「資本主義の課題」②	「過剰・飽満・過多」
第 9 回	テーマ II 「資本主義の課題」③	「蒐集」の歴史と「歴史の危機」（ブルクハルト）
第 10 回	テーマ II 「資本主義の課題」④	資本主義と国民国家の関係
第 11 回	テーマ II 「資本主義の課題」⑤	主権国家システムと資本主義を超えてー新中世主義
第 12 回	テーマ II 「資本主義の課題」⑥	テーマ II のまとめと質疑応答
第 13 回	プレゼンテーション①	テーマ I の発表
第 14 回	プレゼンテーション②	テーマ II の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『変容する民主主義』（マッグルー、アントニー・G. 編、松下列監訳、日本経済評論社、2003 年）

<http://www.nikkeihyo.co.jp/books/view/1562>

『陸と海とー世界史の一考察』（カール・シュミット、生松敬三・前野光弘訳、慈学社出版、2006 年）

<http://www.jigaku.jp/mokuroku13.htm>

『国際社会論ーアナキカル・ソサイエティ』（ヘドリー・ブル、白杵英一訳、岩波書店、2000 年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b265180.html>
『帝国の研究』（山本有造、名古屋大学出版会、2003年）
<http://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN4-8158-0473-7.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40% + プレゼン内容 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a nature of globalizaitin and internatinalization to students taking this course. Students can uenderstand the defference between internatinalization and golobalizaitin and a issues of capital-ism.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題を取り上げつつ、主に講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーを作成する。提出されたリアクションペーパーは、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の3分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	ジェンダー主流化と社会政策	ジェンダー視点とジェンダー平等
11	子ども・家庭と社会福祉	児童福祉、児童虐待
12	「障碍観」の転換と社会福祉	優生思想、自立生活運動
13	貧困と社会的排除	絶対的貧困と相対的貧困
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011年）2,300円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013年）、『社会福祉学』平岡絃一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたりリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

We will learn basic ideas of social welfare by using textbooks and resume distributed at the time of class, and pick up the social issue which is regarded as the area of welfare. Learning mainly takes place in lecture form. Also, for the purpose of aquisition the learning contents and applying it, prepare a reaction paper. The submitted reaction paper is fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

HUG300LA

人文地理学セミナー

2016 年度以前入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史料資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史料資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、『東京の歴史 地帯編』の分担部分を発表してもらい、利用されている史料資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む	千代田区
第 4 回	地帯編を読む	新宿区
第 5 回	地帯編を読む	文京区
第 6 回	地帯編を読む	港区
第 7 回	地帯編を読む	中央区
第 8 回	地帯編を読む	台東区
第 9 回	地帯編を読む	墨田区
第 10 回	地帯編を読む	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 13 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史料資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年
『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年
B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、ありません。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸東京の各地域の歴史地理について、明治 30 年～40 年代に出版された日本初のグラフィック雑誌『風俗画報』別冊のなかから『新撰東京名所図会』の各区部の記述をもとに学びます。

【到達目標】

江戸東京の歴史地理について、明治期の資料をもとに深く理解し、現在に生きる歴史景観、失われてしまった景観とはなにか、過去から現在の地理を考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式です。履修者が多い場合はグループワークとします。資料を丹念に読みながら地図上で確認し、江戸東京を構成する地域の歴史地理（主に法政大学周辺から旧東京 15 区の中心部）を理解するため、議論しながらすすめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、担当の分担
第 2 回	名所図会とは？	江戸名所図会から東京名所図会へ概要を講義
第 3 回	新撰東京名所図会を読む	麹町区・神田区
第 4 回	新撰東京名所図会を読む	牛込区・四谷区
第 5 回	新撰東京名所図会を読む	赤坂区・芝区
第 6 回	新撰東京名所図会を読む	小石川区・本郷区
第 7 回	新撰東京名所図会を読む	京橋区・日本橋区
第 8 回	新撰東京名所図会を読む	浅草区・下谷区
第 9 回	新撰東京名所図会を読む	上野公園・後楽園など
第 10 回	新撰東京名所図会を読む	隅田川・吉原など
第 11 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行き確認する
第 12 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行き確認する
第 13 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行き確認する
第 14 回	まとめ	授業内容の復習・まとめ・今後の課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当箇所を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめてください。現地調査後のレポートも作成してください。

【テキスト（教科書）】

『風俗画報別冊 新撰東京名所図会』12 階の地理学科事務室に備えておきますので、必要な部分を適宜、コピーしてください。なお、デジタル版は法政大学図書館のデータベースからダウンロードもしくは印刷できます。

【参考書】

授業のなかで、他の名所図会などの史料資料を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、ありません。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines historical geographies of Edo-Tokyo areas.

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

CUA300LA

文化人類学方法論

2016 年度以前入学者

中島 成久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジアのアグリビジネス研究」というテーマで授業を行う。アブラヤシ、コーヒーと茶、チョコレートを中心としたアグリビジネスについて詳細に検討する。

【到達目標】

- ①アグリビジネスの世界支配の実態を理解する
- ②マレーシア、インドネシアのアブラヤシ開発の実態を理解する
- ③アグリビジネスにおける労働者の位置を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式と受講者の発表形式で進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容説明、登録者確定
第 2 回	アブラヤシ関連アグリビジネス①	映画「森の慟哭」
第 3 回	アブラヤシ関連アグリビジネス②	インドネシアのアグリビジネス
第 4 回	アブラヤシ関連アグリビジネス③	マレーシアのアグリビジネス
第 5 回	チョコレートの歴史①	映画「バレンタイン〜掬」
第 6 回	チョコレートの歴史②	『チョコレートの世界史』①
第 7 回	チョコレートの歴史③	『チョコレートの世界史』②
第 8 回	チョコレートの歴史④	『チョコレートの世界史』③
第 9 回	チョコレートの歴史⑤	『チョコレートの世界史』④
第 10 回	アグリビジネスの世界支配①	『現代の食とアグリビジネス』講読①
第 11 回	アグリビジネスの世界支配②	『現代の食とアグリビジネス』講読②
第 12 回	アグリビジネスの世界支配③	『現代の食とアグリビジネス』講読③
第 13 回	アグリビジネスの世界支配④	『現代の食とアグリビジネス』講読④
第 14 回	アグリビジネスの世界支配⑤	『現代の食とアグリビジネス』講読⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストの予習、復習
- 2 図書館等で関連する文献を調べる
- 3 プレゼンに慣れること

【テキスト（教科書）】

頼 俊輔『インドネシアのアグリビジネス改革』日本経済評論社
 岩佐和幸『マレーシアにおける農業開発とアグリビジネス』法律文化社
 武田尚子『チョコレートの世界史』中公新書、2010年
 大塚 茂・松原豊彦『現代の食とアグリビジネス』有斐閣選書、2004年

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%) + 学期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を引き出すような工夫を凝らす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The topic of this class is Agribusiness in Asia. Case studies of oil palm plantation, coffee and chocolate are examined in detail.

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

中島 成久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジアにおける国家と民族」というテーマで授業を行う。アジアの先住民社会をめぐる民族誌研究というテーマで関連文献を読み、理解を深める。

【到達目標】

- 1 アジア、特に東南アジアにおける国家建設と開発主義について理解する
- 2 開発主義により熱帯林が破壊されている状況を理解する
- 3 開発主義が先住民社会に及ぼしている影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と受講者による発表で授業を進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、受講者の確定
第 2 回	開発の人類学①	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読①
第 3 回	開発の人類学②	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読②
第 4 回	開発の人類学③	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読③
第 5 回	開発の人類学④	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読④
第 6 回	森の先住民①	『熱帯アジアの森の民』講読①
第 7 回	森の先住民②	『熱帯アジアの森の民』講読②
第 8 回	森の先住民③	『熱帯アジアの森の民』講読③
第 9 回	森の先住民④	『熱帯アジアの森の民』講読④
第 10 回	伝統と開発①	『森と人のアジア』講読①
第 11 回	伝統と開発②	『森と人のアジア』講読②
第 12 回	伝統と開発③	『森と人のアジア』講読③
第 13 回	伝統と開発④	『森と人のアジア』講読④
第 14 回	伝統と開発⑤	『森と人のアジア』講読⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストの予習、復習
- 2 図書館等で関連文献を探す
- 3 プレゼンに慣れる

【テキスト（教科書）】

信田敏宏・真崎克彦『東南アジア・南アジア 開発の人類学』明石書店
 池谷和信『熱帯アジアの森の民』人文書院
 山田 勇『森と人のアジア』昭和堂

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%) + 学期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を引き出しやすい環境を整えること

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The topic of this class is Nation and Ethnic Groups in Asia. Especially indigenous peoples in Asia are discussed in the context of nation building and development.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

POL300LA

政治思想

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ポスト冷戦期の日本と世界 A

大井 赤亥

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4 年 ※定員制

協田成『日本経済論 15 講』新世社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

発表内容 (60%)、レポート (40%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide a basic framework to understand the Japanese politics and economy since 1989, and to discuss the past and future of the contemporary Japanese politics. In doing so, this course focuses (1) "tilt toward right" in politics and (2) trend of "reform" in economic agenda as two important perspectives to analyze Japan after the end of the Cold War.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

冷戦が終焉して 30 年が経ち、「ポスト冷戦期」が歴史や学問の対象になり始めている。1989 年は東西対立の終結、55 年体制やバブル経済の崩壊など、多くの出来事が重なった時期であり、その後 30 年間の日本の政治経済の変化の起点となった。このゼミでは、ポスト冷戦期の日本を、さしあたり、(1) 政治における「右傾化」、(2) 経済における「改革 (化)」という二つの視点から振り返り、その時代の特徴と性格を把握したい。

【到達目標】

- ① 55 年体制下の日本政治とポスト冷戦期の日本政治との違いを理解できるようになる。
- ② ポスト冷戦期 = 平成年間の日本の政治と経済の特徴的出来事を説明できるようになる。
- ③ これからの日本の政治と経済のあるべき方向性について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行い、毎回授業の前半は学生による報告、後半は参加者全員による討論にあてる。授業参加者には少なくとも 1 回の発表をしてもらう。また、3 回程度は教員による講義を行ない、ポスト冷戦期の出来事の基本的知識や大まかな認識枠組を提供する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の狙いと進め方、発表者の割り当て
2	ポスト冷戦期の日本の政治	【講義】 日本政治の対立軸の変化
3	ポスト冷戦期の日本社会の変化	【発表】 政治の変化をもたらした社会と産業の変化
4	『右傾化する日本政治』	【発表】 55 年体制の「保革対立」と支持基盤
5	『右傾化する日本政治』	【発表】 冷戦の終焉と 1990 年代の政界再編
6	『右傾化する日本政治』	【発表】 安倍政権下の「改憲」と「改革」
7	ポスト冷戦期の日本の経済	【講義】 経済成長の鈍化と政治の反応
8	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 バブル崩壊と製造業の変容
9	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 1990 年代の経済危機
10	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 リーマンショックと日本経済
11	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 民主党政権からアベノミクスへ
12	追加教材	発表と議論
13	追加教材	発表と議論
14	追加教材	発表と議論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在、政治や経済に関する情報源は、インターネットと活字 (新聞、雑誌、書籍など) に二分化されている。インターネットと活字の双方に強みと弱みがあるため、さしあたり、ネット上のニュースと新聞との双方に日常的に触れ、バランスよく情報を摂取するようにしてほしい。

【テキスト (教科書)】

中野晃一『右傾化する日本政治』岩波新書、2015 年
野口悠紀雄『平成はなぜ失敗したのか』幻冬舎、2019 年

【参考書】

小熊英二編『平成史 (増補新版)』河出書房新社、2014 年
中北浩爾『自民党—「一強」の実像』中公新書、2017 年

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ポスト冷戦期の日本と世界 B

大井 赤亥

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦が終焉して 30 年が経ち、「ポスト冷戦期」が歴史や学問の対象になり始めている。1990 年代以降の世界はいわゆる「新自由主義グローバリズム」の拡大と浸透に重なってきたが、2016 年の英国の Brexit やアメリカのトランプ大統領の登場によってその趨勢は曲がり角を迎えている。このゼミでは、ポスト冷戦期の世界秩序を、(1)「新自由主義グローバリズム」の席卷、(2) 2000 年代の欧米における右派排外主義や保護主義の高揚、(3) 2010 年代後半に現れた左派ポピュリズムという三つの流れから捉え返し、その時代の特徴と性格を把握したい。

【到達目標】

- ①「新自由主義グローバリズム」の特徴について理解できるようになる。
- ②右派排外主義や左派ポピュリズムについてその主張内容を説明できるようになる。
- ③これからの世界秩序のあるべき方向性について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行い、毎回授業の前半は学生による報告、後半は参加者全員による討論にあてる。授業参加者には少なくとも 1 回の発表をしてもらう。また、3 回程度は教員による講義を行ない、ポスト冷戦期の出来事の基本的知識や大まかな認識枠組を提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の狙いと進め方、発表者の割り当て
2	ポスト冷戦期の世界秩序	【講義】「新自由主義」の席卷と斜陽化
3	『新自由主義』	【発表】1980 年代における自由の再定義
4	『新自由主義』	【発表】英米における「保守革命」
5	『新自由主義』	【発表】「新自由主義コンセンサス」の形成
6	極右排外主義の興隆	【発表】右からの反グローバリズム
7	『ポピュリズムとは何か』	【発表】抑圧の論理としてのポピュリズム
8	『ポピュリズムとは何か』	【発表】極右排外主義勢力の台頭
9	『ポピュリズムとは何か』	【発表】英国の Brexit とアメリカでのトランプ登場
10	新しい左派の動き？	【講義】反緊縮や社会保障を掲げる社会運動
11	『左派ポピュリズムのために』	【発表】左派ポピュリズムと民主シーの活性化
12	『左派ポピュリズムのために』	【発表】英米におけるコービンやサンダースの登場
13	『左派ポピュリズムのために』	【発表】ありうべきオルタナティブ？
14	追加教材	発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在、政治や経済に関する情報源は、インターネットと活字（新聞、雑誌、書籍など）に二分化されている。インターネットと活字の双方に強みと弱みがあるため、さしあたり、ネット上のニュースと新聞との双方に日常的に触れ、バランスよく情報を摂取するようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

D・ハーヴェイ『新自由主義』作品社、2007 年
水島治郎『ポピュリズムとは何か』中公新書、2016 年
C・ムフ『左派ポピュリズムのために』明石書店、2019 年
場合によってはプリントを配布する。

【参考書】

三宅芳夫・菊池恵介編『近代世界システムと新自由主義グローバリズム』作品社、2014 年

【成績評価の方法と基準】

発表内容（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide a basic framework to understand the international politics after the end of the Cold War. In doing so, this course focuses (1) the rise and alleged fall of "neo-liberal globalization", (2) the emergence of chauvinism and protectionism in Europe and (3) the eruption of so called "Left Populism" in the 2010s.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

PSY300LA

人間行動学

2016 年度以前入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「心」を考えます。

【到達目標】

心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面、ストレスへの対処や強いメンタル、ポジティブな生き方のためにも活用できます。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、あるいはクローン等々と比べることで、ヒトの「命」や「心」の意味が分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「命」や「心」というのと同じなのか異なるのか。さて、「心」とは何か、「心」はどこにあるのか。改めて考えることが目標です。

その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に対話・議論を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「心」を考えてきました。今日の社会・文化が「心」に及ぼす影響が、「行動」となって顕著に表現されているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「心」は、何かヘンなのでしょうか。良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

きわめて自由ですが、それだけ難しくなります。[難度=自由度：☆☆☆☆★]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

13 報告・発表と討論 単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

14 まとめ 学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。

報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。

報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

参加者相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。

(4) 多くても 30 名前後、少なれば 1 名の参加で実施します。

(5) 履修希望者が多い場合は、春学期初回の参加者から選抜します（2018 年度は 70 名超のなかで 35 名ほどを選抜）。

(6) 「臨床心理士」として関わってきたことの反映が多いかもしれません。

(7) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける予定です。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(8) 2018 年度の報告・発表テーマは、次のとおりでした。

#1 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方

#2 「炎上」はなぜ起こるのか

#3 フェティシズムと犯罪者予備軍

#4 うつ病への理解

#5 なぜ人は周りからよく見られようとするのか

#6 優生思想について

#7 返報性について

#8 安楽死からみる自己決定権について

#9 自己欺瞞

#10 「心の監禁」からの脱出

#11 バーナム効果とは

#12 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み

#13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか

#14 承認欲求

#15 パーソナルスペース

#16 「ネタばれ」は悪くない？

#17 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気

#19 自己成就予言効果

#20 ツァイガルニック効果

#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「心」を考えます。

【到達目標】

心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面、ストレスへの対処や強いメンタル、ポジティブな生き方のためにも活用できます。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じるのは何か。AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、あるいはクローン等々と比べることで、ヒトの「命」や「心」の意味が分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「命」や「心」というのと同じなのか異なるのか。さて、「心」とは何か、「心」はどこにあるのか。改めて考えることが目標です。

その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に討論・議論を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出し出しているようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「心」を考えてきました。今日の社会・文化が「心」に及ぼす影響が、「行動」となって顕著に表現されているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれない。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「心」は、何かへんなのでしょうか。良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

きわめて自由ですが、それだけ難しくなります。[難度=自由度：☆☆☆☆★]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	まとめ	学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担当した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。

報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。

報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

参加者相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。

(4) 多くても 30 名前後、少なれば 1 名の参加で実施します。

(5) 履修希望者が多い場合は、春学期初回の参加者から選抜します（2018 年度は 70 名超のなかで 35 名ほどを選抜）。

(6) 「臨床心理士」として関わってきたことの反映が多いかもしれません。

(7) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける予定です。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(8) 2018 年度の報告・発表テーマは、次のとおりでした。

#01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方

#02 「炎上」はなぜ起こるのか

#03 フェティシズムと犯罪者予備軍

#04 うつ病への理解

#05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか

#06 優生思想について

#07 返報性について

#08 安楽死からみる自己決定権について

#09 自己欺瞞

#10 「心の監禁」からの脱出

#11 パーナム効果とは

#12 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み

#13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか

#14 承認欲求

#15 パーソナルスペース

#16 「ネタばれ」は悪くない？

#17 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気

#19 自己成就予言効果

#20 ツァイガルニック効果

#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

PSY300LA

人間発達学

2016 年度以前入学者

サブタイトル：心理的ウェルビーイングを考える A

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

【到達目標】

臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミ II「心理的ウェルビーイングを考える B」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員 30 名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第 2 回	試験の解説および今後の予定について	第 1 回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第 3 回	『カウンセリングを考える・上』第 1 章「現代社会とカウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 4 回	『カウンセリングを考える・上』第 2 章「カウンセリングにおける家族の問題」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 5 回	『カウンセリングを考える・上』第 3 章「不登校カウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 6 回	『カウンセリングを考える・上』第 4 章「いじめとカウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 7 回	『カウンセリングを考える・上』第 5 章「事例研究の大切さ」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 8 回	『カウンセリングを考える・上』第 6 章「カウンセラーの資格と責任」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 9 回	『カウンセリングを考える・下』第 1 章「新しい家族関係」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 10 回	『カウンセリングを考える・下』第 2 章「ユング心理学から見た禅体験」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第 11 回 『カウンセリングを考える・下』第 3 章「カウンセリングにおける男性と女性」を読む

学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第 12 回 『カウンセリングを考える・下』第 4 章「カウンセラーのための児童文学」を読む

学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第 13 回 『カウンセリングを考える・下』第 5 章「『生きる』ということ」を読む

学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第 14 回 授業の総括

学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

河合隼雄著『カウンセリングを考える・上・下』（創元社、1996 年）。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。

授業への取り組み（50%）+ 期末レポート（50%）

レポートの字数はクラスで発表した学生は 2,000 字以上、発表しなかった学生は 3,500 字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline and objectives】

Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bullying (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

PSY300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：心理的ウェルビーイングを考える B

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

【到達目標】

文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学んでいく。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張—形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことにも焦点を当てていきたい。

本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミⅠ「心理的ウェルビーイングを考える A」からの連続履修を期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について	第1回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『日本人のしつけと教育』第1章「意欲の構造」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第4回	『日本人のしつけと教育』第2章「役割社会と受容的勤勉性」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第5回	『日本人のしつけと教育』第3章「内在モデルとしてのいい子」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第6回	『日本人のしつけと教育』第4章「『気持ち』への関心」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第7回	『日本人のしつけと教育』第5章「滲み込み型のしつけと教育」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第8回	『日本人のしつけと教育』第6章「道徳意識と道徳判断」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第9回	『日本文化のゆくえ』第1章「『私』さがし」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第10回	『日本文化のゆくえ』第7章「異文化体験の軌跡」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第11回	『ひきこもり文化論』第4章「『甘え文化』と『ひきこもり』—比較文化的考察」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第12回	ポジティブ感情の機能に関する文献を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第13回	フロー理論に関する文献を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第14回 授業の総括

学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

①東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、②河合隼雄著『日本文化のゆくえ』（岩波現代文庫、2013年）、③斎藤環著『ひきこもり文化論』（ちくま学芸文庫、2016年）。また、ポジティブ心理学に関する文献は授業支援システムにアップする。

授業では、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。

授業への取り組み（50%）＋ 期末レポート（50%）

レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline and objectives】

This is a continuation of the seminar from the spring semester. Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this autumn seminar, students will read books and articles about cultural and positive psychologies and discuss how we can attain psychological well-being from different psychological perspectives from those we discuss in the spring term. Through these learning experiences, this course hopes students to obtain abilities to capture human beings from different perspectives and angles.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

ARSe300LA

総合講座～沖縄を考える～

2016 年度以前入学者

中俣 均

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を、日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならない。だから、沖縄を知ることは、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

【到達目標】

毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残り、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。時には舞踊、音楽の実演も行う。一般の社会人も参加する講義である。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから研究所 HP<http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame/main.html> で公開するので、そちらを参照してほしい。

今年度は、「沖縄の日本復帰の意味」という問題意識を共有する講義を複数準備する。「沖縄独立論」などについても関心をもって学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：中俣均）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についての地理的知識など。
2	沖縄を知るための基礎知識のまとめ（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現代についての概説
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	未定	未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回ミニ・レポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講師と講義テーマについて調べておくことが望ましい。
2. 図書館、沖縄文化研究所開架閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（90％）と、毎回のミニ・レポート（10％）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

大教室での大人数の講義であるためか、例年一部学生の、緊張感のない受講態度が目につくので、これは改めてほしい。例年、信頼性に欠ける web 上の諸情報などを切り貼りして形式的にレポートを書き提出しさえすれば、単位取得がかなうなどと甘く考えてもらっては困る。そうした希望は各学期末に打ち砕かれることになろう。

【Outline and objectives】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

中俣 均

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を、日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならぬ。だから、沖縄を知ること、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

【到達目標】

毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。時には舞踊、音楽の実演も行う。一般の社会人も参加する講義である。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから研究所 [HPhttp://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame.html](http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame.html) で公開するので、そちらを参照してほしい。今年度は、「沖縄の日本復帰の意味」という問題意識を共有する講義を複数準備する。「沖縄独立論」などについても関心をもって学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：中俣均）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についての地理的知識など。
2	沖縄を知るための基礎知識のまとめ（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現代についての概説
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	未定	未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回ミニ・レポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講師と講義テーマについて調べておくことが望ましい。
2. 図書館、沖縄文化研究所開架閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（90%）と、毎回のミニ・レポート（10%）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大教室での大人数の講義であるためか、例年一部学生の、緊張感のない受講態度が目につくので、これは改めてほしい。例年、信頼性に欠ける web 上の諸情報などを切り貼りして形式的にレポートを書き提出しさえすれば、単位取得がかなうなどと甘く考えてもっては困る。そうした希望は各学期末に打ち砕かれることになろう

【Outline and objectives】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 A 2017 年度以降入学者

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 2016 年度以前入学者

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル化」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバル化」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思えます。

【到達目標】

「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとする事によって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

テキストを決め、それを読み、要約する作業から始めて行きます。

【授業の方法】

参加者を 4~5 名程度に班編制します。毎回、順番に担当班に報告してもらいます。その際はプリントを用意して全員に配布します。それを踏まえて全員で議論して行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方 テキスト案
第 2 回	グローバル化、グローバル社会の理解	「グローバル化」、「グローバル社会」の基礎的概念の整理
第 3 回	輪読と討論	ディスカッション
第 4 回	輪読と討論	ディスカッション
第 5 回	輪読と討論	ディスカッション
第 6 回	輪読と討論	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論	ディスカッション
第 11 回	輪読と討論	ディスカッション
第 12 回	輪読と討論	ディスカッション
第 13 回	輪読と討論	ディスカッション
第 14 回	輪読と討論	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、決めたテキストを読むこと、それをまとめることです。授業に来て、座っているだけではこの授業は成立しません。自ら手足を動かし、議論し、発表することが必要です。

【テキスト（教科書）】

授業の最初にテキスト案を示します。

【参考書】

鶴見良行（1982）『バナナと日本人』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

【学生の意見等からの気づき】

「批判が多すぎる」とか「具体案がない」とか、他の授業では言われているようです。とはいえ、それを素直に受け入れようなどとは思いません。「具体案」を示し、それを実行できるくらいなら、この社会はもっと変革されているはず。安易な「解決策」など示さず、試行錯誤しつつ考えていこうと思えます。

【Outline and objectives】

The dark side of Globalization and regional problems.

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 B 2017 年度以降入学者

片岡 義晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル化」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバル化」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思えます。

【到達目標】

「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとする事によって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

テキストを決め、それを読み、要約する作業から始めて行きます。

【授業の方法】

参加者を 4~5 名程度に班編制します。毎回、順番に担当班に報告してもらいます。その際はプリントを用意して全員に配布します。それを踏まえて全員で議論して行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方 テキスト案
第 2 回	輪読と討論	ディスカッション
第 3 回	輪読と討論	ディスカッション
第 4 回	輪読と討論	ディスカッション
第 5 回	輪読と討論	ディスカッション
第 6 回	輪読と討論	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論	ディスカッション
第 11 回	輪読と討論	ディスカッション
第 12 回	輪読と討論	ディスカッション
第 13 回	輪読と討論	ディスカッション
第 14 回	輪読と討論	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、決めたテキストを読むこと、それをまとめることです。授業に来て、座っているだけではこの授業は成立しません。自ら手足を動かし、議論し、発表することが必要です。

【テキスト（教科書）】

最初の授業時にテキスト案を示します。

【参考書】

塩川伸明（2008）『民族とネーション-ナショナリズムという難問』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

【学生の意見等からの気づき】

「批判が多すぎる」とか「具体案がない」とか、他の授業では言われているようです。とはいえ、それを素直に受け入れようなどとは思いません。「具体案」を示し、それを実行できるくらいなら、この社会はもっと変革されているはずです。安易な「解決策」など示さず、試行錯誤しつつ考えていこうと思えます。

【Outline and objectives】

The dark side of Globalization and regional problems.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって変化した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは作図を実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーの質問には、必ず回答するとともに、記載された事項により授業内容を変更することがある。

第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないと受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 地球温暖化の概要	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。また、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。
2	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
3	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
4	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
5	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇について説明する。
7	生態系への影響	地球温暖化により動物、植物がどのような影響を受けているかを説明する。
8	緩和策の現状1（国際的な取り組み）	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。
9	緩和策の現状2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明する。
10	懐疑論への対応	地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討する。
11	地球温暖化の予測1（気温、CO2）	気温、CO2の予測と課題を説明する。
12	地球温暖化の予測2（生態系へのリスク）	生態系の変化とリスク、人間への影響を説明する。
13	適応策の現状	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。なお、自然環境変化への対応における発表では、報告者は発表内容のレジュメを作成し、事前に提出すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象。吉野正敏著。成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－。吉野正敏著。古今書院
- ・異常気象と地球温暖化。鬼頭昭雄著。岩波新書
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－。日本気象学会 地球環境問題委員会編。朝倉書店
- ・新百万人の天気教室。白木正規著。成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：30%
- ・小テスト・作図：20%
- ・レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

数理論理学 A

2017 年度以降入学者

MAT300LA

論理って何だ？

2016 年度以前入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か ～～ まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、論理的に証明できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論（人の論理）、さらには古典論理（神の論理）まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	クシャミ大王	授業概要の説明
第 2 回	「かつ」を壊す	連言の除去
第 3 回	「かつ」を作る	連言の導入
第 4 回	「または」を壊す	選言の除去
第 5 回	「または」を作る	選言の導入
第 6 回	「ならば」を壊す	含意の除去
第 7 回	「ならば」を作る	含意の導入
第 8 回	「でない」を壊す	否定の除去
第 9 回	「でない」を作る	否定の導入
第 10 回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第 11 回	「すべて」を作る	全称量化の導入
第 12 回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第 13 回	「ある」を作る	存在量化の導入
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年 (初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 秋期科目「数理論理学 B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学 A)」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

MAT300LA

数理論理学 B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か ～～～ 人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知り、その中でも古典論理（神の論理）と直観主義論理（人の論理）について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、論理的に証明できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今できること	最小論理
第 2 回	万能業	量子子の順序
第 3 回	矛盾がどうした	否定と含意
第 4 回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第 5 回	人の論理	直観主義論理
第 6 回	どちらかだ	排中律
第 7 回	神の論理	古典論理
第 8 回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第 9 回	別の顔	背理法
第 10 回	得意分野	古典論理の表現
第 11 回	真か偽か	古典論理の意味論
第 12 回	まだわからない	可能世界
第 13 回	人の論理とは	直観主義の意味論
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』（日本評論社）2005 年（初版 1967）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

（1）春期科目「数理論理学 A」で扱う内容を既知として授業を進める。

（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2（数理論理学 B）」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

MAT300LA

コンピュータの裏側

2016 年度以前入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようになっているか?」「そうした機械的な仕組の上で、形式言語で書かれた命令が問題なく動作するのは何故か?」など解説する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの装置とその上で言語が処理される仕組の本質を大雑把に理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?) 処理系の違いに依存しない普遍的な動作原理を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」を十分とりたいと考えているので、授業は講義形式と実験・実習形式の割合が半々となる予定である。(特に、終盤では、アセンブリ言語と呼ばれるプログラミング言語を使用して、各種装置の状態を意識しながら簡単な計算を組み立てる体験をする。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラミングが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算機と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組について解説する。
第 04 回	計算機と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文が活用される事例を学ぶ。
第 05 回	計算機と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰り返し構文が活用される事例を学ぶ。
第 06 回	計算機と形式言語 (4)	チューリング機械の仕組と形式言語との関係を解説する。
第 07 回	計算機と自然言語	機械学習を利用した自然言語の解析手法を観察する。
第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数、10 進数、16 進数による正整数の表現方法を説明する。
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
第 11 回	アセンブリ言語 (1)	アセンブリ言語の実習環境について基本的な操作を説明する。
第 12 回	アセンブリ言語 (2)	コンピュータのメモリの構造を実験で確認する。
第 13 回	アセンブリ言語 (3)	ジャンプ命令を利用したプログラムの動作を実験で確認する。
第 14 回	試験	これまでの内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説した内容は練習問題を通して確認するため、終わらなかった部分については授業時間外の学習で完成させる必要がある。また実習については、作業が円滑に進むように事前の予習が望まれる。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)、練習問題 (30%)、計算機実習 (30%)、試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

プログラミングなどの実習では情報実習室の PC を利用し、資料等の配布には授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「PC の使用経験」は特に必要ない。(工学的に高度で細かな内容までは踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく理解できる概要の理解を目指す。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら進める。)

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers such as embedded systems into various electric devices, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers originated from Charles Babbage's analytical engine. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかるので小さな演習問題で済まされることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、1000人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたい現状がある。

こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要であり、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理の活用の勘を養うこと」を目標としている。そのため、各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（このことは、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないという利点もある。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、扱う事例数を少なくする可能性がある。また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」「個別に質問・相談を受ける時間」を十分とりたいと考えているので、授業は実験・実習の割合が6～7割程になる予定である。（特に、Java言語で記述されたプログラムによるデータ処理の機会が多くなると思われる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	理論的背景と共にプログラムの実行方法を確認する。
第02回	計算機による数学(1)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第03回	計算機による数学(2)	級数などを利用して、円周率を計算してみる。
第04回	計算機による数学(3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ。
第05回	シミュレーション(1)	基礎となる数学として、行列の掛算を学ぶ。
第06回	シミュレーション(2)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う。
第07回	シミュレーション(3)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ。
第08回	線形計画法(1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。
第09回	線形計画法(2)	シンプレックス法と呼ばれる解法とそのプログラムを紹介する。
第10回	線形計画法(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。
第11回	暗号の数理(1)	基礎となる数学として、ユークリッド互除法などの計算を学ぶ。
第12回	暗号の数理(2)	公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ。
第13回	暗号の数理(3)	実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う。
第14回	試験	講義内容の基本部分を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説した内容は練習問題を通して確認するため、終わらなかった部分については授業時間外の学習で完成させる必要がある。また実習については、作業が円滑に進むように事前の予習が望まれる。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

平常点(10%)、実験(60%)、試験(30%)

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

実習では情報実習室のPCを利用する。資料等の配布には授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「PCの使用経験」は特に必要ない。（工学的に高度で細かな内容までは踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく理解できる概要の理解を目指す。実験についても、PCの電源を入れるところから確認しながら進める。）

【Outline and objectives】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, this course explains a method to use computer programs according to some typical examples. More precisely, the effectiveness of programs in Java or Python is confirmed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes and machine learning, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界 A 2017 年度以降入学者

MAT300LA

確率・統計 2016 年度以前入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B 2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学ぶ。現在、高校では統計をまったくやらないか、その「さわり」を教えるくらいである。この授業ではもう少し本格的な統計を扱いたい。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in statistics.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

PHY300LA

現代の錬金術

2016 年度以前入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制**【Outline and objectives】**

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・ 自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・ 我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。講義では主にスライドを使用するが、ビデオなどを用いて視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	古代の物質観	四元素説を中心とした古代の物質観・自然観や、中世の錬金術の試みについて
第3回	原子は存在するのか？ (1)	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第4回	原子は存在するのか？ (2)	気体の法則と分子運動論について
第5回	原子は存在するのか？ (3)	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第6回	原子は構造を持つのか？ (1)	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第7回	原子は構造を持つのか？ (2)	第6回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第8回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第9回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子核の理解について
第10回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第11回	原子構造 (1)	主にボーアの原子模型について
第12回	原子構造 (2)	主に電子配置について
第13回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第14回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素と、元素の歴史や宇宙の歴史などの最先端の現代物理学のテーマとがどのように関連するのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。講義では主にスライドを使用するが、ビデオなどを用いて視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の崩壊	原子核の崩壊について
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第8回	標準模型	第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験について解説する
第10回	宇宙における元素合成（1）	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（2）	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（3）	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	人工的に元素を生成する方法について
第14回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in modern physics
- ・ Explain the nucleosynthesis in the universe
- ・ Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

PHY300LA

原子核と素粒子—ミクロの世界— 2016 年度以前入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制**【学生の意見等からの気づき】**

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について、紹介する。
第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体構造をもつメカニズムについて、解説する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

PHY300LA

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はといったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第5回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

BIO300LA

自然史

2016 年度以前入学者

サブタイトル：～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第 2 回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第 3 回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第 4 回	生物地理学とは	生物地理学概論
第 5 回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第 6 回	グループワーク (1)	沖縄県の抱える問題 (1)
第 7 回	グループワーク (2)	沖縄県の抱える問題 (2)
第 8 回	グループワーク (3)	沖縄県の抱える問題 (2)
第 9 回	グループ調査 (1)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 10 回	グループ調査 (2)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 11 回	グループ調査 (3)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 12 回	発表 (1)	事前調査の発表 (1)
第 13 回	発表 (2)	事前調査の発表 (2)
第 14 回	まとめ	各自の発表に基づいたまとめ、フィールドワークのガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにして下さい。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。
- 3) 2017 年度以降入学者：[半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」として履修する学生]半期のみ履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016 年度以前入学者：年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、フィールドワーク（1）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて；
第2回	ガイダンス、フィールドワーク（2）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第3回	ガイダンス、フィールドワーク（3）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第4回	ガイダンス、フィールドワーク（4）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。森林の生物多様性
第5回	ガイダンス、フィールドワーク（5）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。湿地の生物多様性
第6回	ガイダンス、フィールドワーク（6）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。夜の森林の生物多様性
第7回	ガイダンス、フィールドワーク（7）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第8回	ガイダンス、フィールドワーク（8）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは

第9回 ガイダンス、フィールドワーク（9）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】

イノアの生物多様性

第10回 ガイダンス、フィールドワーク（10）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】

ヤンバルの森林保護

第11回 討議（1）【現地フィールドワーク】

世界遺産指定について。

第12回 討議（2）【現地フィールドワーク】

各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう。

第13回 発表【現地フィールドワーク】

発表のまとめ

第14回 まとめとガイダンス【現地フィールドワーク】

発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。

事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行うのではなく、積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
- 3) [半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月または2月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。
- 6) 9月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年2月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

BIO300LA

バイオイメーjingの世界

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バイオイメーjing

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国環キ 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、生き物のしくみを実際に生き物を使って実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を1から学びます。そのために使う生き物は、粘菌・ソバ・プラナリア・テントウムシ・ダンゴムシ・アリ等です。基礎知識は必要ありませんが、これらの生き物の名前を聞いただけで萎縮するようなタイプの方はご遠慮下さい。作業は全て班単位で行いますので、グループとしての問題解決法を学んで頂けます。

【到達目標】

1. 基本操作技術の修得（デジカメを用いた、マクロ撮影法、インターバル撮影法、高速撮影法、スタジオ作製法、画像解析法など）
2. 規定課題（ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔、プラナリアの再生 など）を通じた問題解決手順の修得
3. ノートの取り方の修得（授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全ての班が同じ規定課題を行います。規定課題は、ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔などを、材料調達のタイミングを見ながら約2週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	バイオイメーjingの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。
⑥	アリの歩行①	ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	アリの歩行②	昆虫の6本足歩行について、画像解析をします。
⑧	ダンゴムシの歩行パターン①	ダンゴムシのレーストラックを作成します。
⑨	ダンゴムシの歩行パターン②	作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析します。
⑩	テントウムシの飛翔①	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	テントウムシの飛翔②	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	プラナリアの再生①	プラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
⑬	プラナリアの再生②	プラナリアの再生結果の解析を行います。
⑭	班活動の総括・発表	班活動について、総括反省します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。評価の基準は、授業内の活動の評価が50%、ノートの充実度が50%になります。

単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件ありました。現在使っているMacintoshは画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメージング

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国環キ 2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、教養ゼミⅠ「バイオイメージング」で学んだ知識を元に、生き物のしくみを実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を学びます。教養ゼミⅠ「バイオイメージング」を履修していないと授業に参加できませんので、注意して下さい。

本授業では、班ごとに独自のテーマを設定して、その問題を解決するための計画立案、実験観察、データ解析、結果発表までの全ての研究過程を体験し学んで頂きます。

【これまでの実績】

メダカの体色変化の観察、ダンゴムシの交替性転向反応、様々な液体による植物の発芽、夜行性のダンゴムシ、光・温度がプラナリアに及ぼす影響及び刺激に対する反応、プラナリアの成長 <奇形プラナリアの作成>、プラナリアの行動解析、アリとダンゴムシの歩行から見る規則性について、植物の根はどのように伸びるのか、ダンゴムシの壁認識実験、光の色による光屈性の有無等

【到達目標】

生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。

1. 実験の計画立案とその企画書の作成能力
2. 計画実施能力
3. 完遂力
4. プレゼン・発表力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

班ごとに独自のテーマで、計画立案・実験実施・データ解析・結果発表までを行います。

全体討論では、①計画立案の妥当性、②中間発表、③最終発表 についてそれぞれプレゼンとディスカッションを行います。

最後に、研究結果を示すポスターを作成して廊下に展示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	テーマ設定	班ごとにテーマを何にするか話し合い、複数の候補を挙げて発表します。
②	テーマの実施可能性の検討	テーマを更に具体的に絞り込んで、何を、どの様に、どこまで明らかにするかを検討します。
③	実験準備	実験に必要な機材や生物試料、その他材料を調達します。
④	実験日①	班ごとに、実験観察を行います。
⑤	実験日②	班ごとに、実験観察を行います。
⑥	実験日③	班ごとに、実験観察を行います。
⑦	データ整理・中間発表準備	ここまでのデータをまとめ、中間発表のプレゼンを作成します。
⑧	中間発表	各班による中間発表と討論を行います。
⑨	実験日④	班ごとに、実験観察を行います。
⑩	実験日⑤	班ごとに、実験観察を行います。
⑪	データ整理・画像処理	主として画像関係のデータの解析を行います。
⑫	ポスター作成	研究結果をポスターとして発表します。
⑬	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。
⑭	班活動の総括・発表	最終プレゼンを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。成績は、授業内の活動（50%）と、最後に提出するレポート（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline and objectives】

In this class, students will work on their own subject, which they have found in the previous class. The lecture starts from the basic outline of scientific research work, then detail instructions of each research step from the planning to the final presentation. In those process, students will learn how to accomplish the scientific project from the beginning.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

CHM300LA

イオンの科学

2016 年度以前入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第 8 回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート（配分 70%）と学期末試験（配分 30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。2017、2018 年度は抽選を実施しました。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート（配分 70%）と学期末試験（配分 30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行います。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けられない場合があります。2018 年度秋学期の「イオンの科学 B」は新規履修者を受け付けませんでした。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

CHM300LA

光と色の科学

2016 年度以前入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理解は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は主に視覚の仕組みと光に関する現象を取り上げ、基本的には講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間（A・B）の講義内容の説明を行います。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚異常、昆虫の色覚	色覚異常の仕組みについて解説します。
第 5 回	光の種類とその利用	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	電波の利用	身の回りにおける電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み (熱輻射、星の光)	固体を加熱するとその温度に応じた光が放出される様子を観察するとともにその原理を学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み (放電と蛍光)	ネオンサインや蛍光灯の発行原理を学びます。
第 9 回	光源の種類と発光の仕組み (LED と LASER)	LED や LASER の発光原理とこれらを利用した事例を紹介します。
第 10 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。
第 11 回	生物発光と化学発光	ホタルやケミカルライトの発光原理とその応用を学びます。
第 12 回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第 13 回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
安藤幸司著「光と光の記録 光編」, 産業開発機構, 2004.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学B

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期のこの科目では色に関する内容を基本的に講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	光と色の関係	光の3原色と色素の3原色の関係を人間の視覚と関係して解説します。
第2回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第3回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第4回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第5回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第6回	染料分子の構造	化学結合の仕組みを解説した後、染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第7回	植物の色	植物が利用する色素の種類と構造を学びます。
第8回	色覚の仕組み	オプシントパクの違いで吸収波長に違いが出る仕組みを学びます。
第9回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第10回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第11回	染色実験	草木染を実際に行います。
第12回	染色	食品などにみられる発酵や酸化による色の変化について学びます。
第13回	身の回りの色	銀塩写真やボラロイド、温度で色が変わるグッズの仕組みについて学びます。
第14回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
安藤幸司著「光と光の記録 光編」, 産業開発機構, 2004.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。できるだけ授業内容に関するプリントを配布したいと思っています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学 A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “B” deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学 A

2017年度以降入学者

CHM300LA

物質科学

2016年度以前入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。

ノートをきちんとまとめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第5回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第7回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第9回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第10回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第11回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第12回	香料（ラベンダー）の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第13回	香料（ラベンダー）の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。

第14回 香料(ラベンダー)の分析 (2) ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学B(秋学期開講)で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト(教科書)】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席(25%)、各テーマ毎に提出するレポート(25%)、および、平常点(50%)によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式を進めてまいります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員(30名)を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

CHM300LA

物質の科学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。

ノートをきちんとまとめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第3回	定量分析(1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第4回	定量分析(2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第5回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第6回	けん化価(1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第1回)
第7回	けん化価の測定(1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	けん化価の測定(2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第2回)
第9回	けん化価(2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第10回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第11回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第12回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第13回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第14回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席（25%）、各テーマ毎に提出するレポート（25%）、および、平常点（50%）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員（30名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

I T リテラシー

2017年度以降入学者

PRI300LA

I T リテラシー

2016年度以前入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数(1)	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数(2)	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数(3)	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム(1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム(2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ(1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ(2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末試験（レポート）と平常点において合計が50%、出席点が50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験と平常点の合計が 60%、出席点が 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

PHY300LA

現代科学の新しい目 A

2017 年度以降入学者

PHY300LA

現代科学の新しい目

2016 年度以前入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の自然科学の急速な発展の要因は、これまで“見る”ことのできなかった現象を、最新の技術革新のもとにいろいろな方法で“見る”ことが可能になってきたことにある。本授業では、現代自然科学のいろいろな場面のうち、ミクロの世界や地球内部などの“見えない”対象を“見る”手段の基礎知識と、その成果について学ぶ。

学生は、現代科学の種々の最先端の成果を無批判に受け入れることなく正しく理解できるための基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学の発展の基礎がどこにあるのか理解する。
- ・色々な科学成果が、“何故そのようなになるのか”、自分で理解でき、人に説明できる能力を身につける。
- ・データ解析の初歩を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、適時、実験および実習を行う。受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で選抜を行う。(定員：30 名)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	講義内容の解説
2	“見る”ことの基礎 (1)	ものを“見る”技術の発展と科学の進歩
3	“見る”ことの基礎 (2)	波動の性質（屈折、分散、干渉、分光器）
4	測定とデータ解析	測定・データ解析に関する基礎事項
5	ミクロ世界を見る (1)	顕微鏡の仕組み
6	ミクロ世界を見る (2)	屈折率の測定実験
7	ミクロ世界を見る (3)	放射光
8	ミクロ世界を見る (4)	回折と干渉実験
9	ミクロ世界を見る (5)	原子の世界を覗く
10	ミクロ世界を見る (6)	素粒子・原子核の世界を覗く
11	地球を見る (1)	地球という惑星の概要
12	地球を見る (2)	重力の測定
13	地球を見る (3)	地震波と地球内部構造（地殻）
14	地球を見る (4)	地震波と地球内部構造（地球深部）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料、参考文献を用いて講義内容の復習、実験結果の整理・解析を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「宇宙創成」上・下、サイモン・シン著、青木薫訳、新潮文庫
(その他必要に応じて、授業内で紹介する)

【成績評価の方法と基準】

適時出題するレポート課題（実験レポート、簡単な発表を含む。配分は約 8 割）と平常点（約 2 割）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実験・実習・解析のための時間をもう少し増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（スマホ等のアプリで可）、PC（実験のデータ解析に用いる）

【その他の重要事項】

- ・入門物理学 A、入門物理学 B、サイエンス・ラボ A、サイエンス・ラボ B、のいずれかを履修していることが望ましい。
- ・Word、Excel、Power Point の基本的な使い方を身につけていることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class introduces some recent achievements of natural science, focusing on understanding of microscopic phenomena and inner structure of our earth.

Students will learn how these achievements become possible by "seeing" the phenomenon which we could not "see" in various ways under the latest innovation.

PHY300LA

現代科学の新しい目 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の自然科学の急速な発展の一因は、これまで“見る”ことのできなかった現象を、最新の技術革新のもとにいろいろな方法で“見る”ことが可能になってきたことにある。本授業では、現代自然科学のいろいろな場面のうち、望遠鏡を中心とした宇宙を観測する手段の発展と宇宙観・自然観の理解の変遷について学ぶ。

学生は、現代科学の種々の最先端の成果を無批判に受け入れることなく正しく理解できるための基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学の発展の基礎がどこにあるのか理解する。
- ・色々な科学成果が、“何故そのようになるのか”、自分で理解でき、人に説明できる能力を身につける。
- ・データ解析の初歩を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、適時、実験および実習を行う。春学期では、ミクロの世界、地球内部などの“見えない”対象を“見る”手段と、その成果について学ぶ。秋学期では、望遠鏡を中心とした宇宙を観測する手段の発展と宇宙観・自然観の理解の変遷について学ぶ。受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で選抜を行う。（定員：30 名）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	講義内容の解説
2	天体の観測と宇宙観の変遷 (1)	天体望遠鏡の歴史と宇宙観の広がり
3	天体の観測と宇宙観の変遷 (2)	古代、中世の地球観：天動説と地動説
4	天体の観測と宇宙観の変遷 (3)	太陽系世界
5	天体の観測と宇宙観の変遷 (4)	天の川銀河と宇宙
6	天体の観測と宇宙観の変遷 (5)	現代の宇宙論
7	光のスペクトル (1)	熱放射と原子スペクトル
8	光のスペクトル (2)	原子スペクトルの観察と波長の測定
9	光のスペクトル (3)	原子スペクトル実験の解析
10	色々な光による宇宙の観測 (1)	赤外線で見える宇宙
11	色々な光による宇宙の観測 (2)	X 線や電波で見える宇宙
12	色々な光による宇宙の観測 (3)	ニュートリノで見える宇宙
13	系外惑星の探索	もう一つの地球を探す
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料、参考文献を用いて講義内容の復習、実験結果の整理・解析を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「宇宙創成」上・下、サイモン・シン著、青木薫訳、新潮文庫
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

適時出題するレポート課題（実験レポート、簡単な発表を含む。配分は約 8 割）と平常点（約 2 割）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実験・実習・解析のための時間をもう少し増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（スマホ等のアプリで可）、PC（実験のデータ解析に用いる）

【その他の重要事項】

・入門物理学 A、入門物理学 B、サイエンス・ラボ A、サイエンス・ラボ B、のいずれかを履修していることが望ましい。
・Word、Excel、Power Point の基本的な使い方を身につけていることが望ましい

【Outline and objectives】

This class introduces some recent achievements of natural science, focusing on understanding of the universe.

Students will learn how these achievements become possible by "seeing" the phenomenon which we could not "see" in various ways under the latest innovation.

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

BIO300LA

人間と地球環境

2016年度以前入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、私たちは「危機の時代」を生きていると言われていています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。基本的には講義形式で解説していきますが、映像資料やグループワークも取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	生態系における「安定性」	安定した生態系とはどのようなものかを、破壊と再生のプロセスから考えてみます。
第3回	生物がつくるコミュニティ	生態系を構成する複数種類の生物同士の関係によって構成される生物のコミュニティがどのようなものかについて学びます。
第4回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第5回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第6回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第7回	なぜ食糧問題はおきのか？	食糧供給の現状と「食糧不足」が起きる原因について考察します。
第8回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第9回	南諸国から見た世界	経済的グローバリゼーションは発展途上国に何をもたらしたのかを考えてみます。
第10回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。

第14回 地球環境の現状とこれから
学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義内容の復習、配布資料の通読。

欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40%、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など）＝20%、期末レポート＝40%を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の資料やグループワークは、好評でもあり、学生同士での意見交換など参加型の授業形態についてさらに工夫をかせねたい。

【Outline and objectives】

There is a recognition that we are living in the age of crises. This is an indication that the human society is currently facing various environmental problems, as well as social problems such as hunger and poverty. In consideration of such human conditions, this course focuses on the concept of "sustainability" to learn and consider the human-nature relationship as well the human-human relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

Although this course is taught in an English language environment, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is structured roughly in two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	What does a stable ecosystem look like?	The question of stability will be addressed in relation to human activities and their impacts on ecosystem.
Week 3	Species interactions and biological community	Different types of relationships among organisms and the complexity of biological community will be discussed.
Week 4	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 5	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 7	What is a food crisis and why does it occur?	The current state of global food security and causes of food shortage will be described.
Week 8	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.

Week 9	Viewing the world from the South	Consequences of economic globalization will be discussed by drawing examples from the "developing" world.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (20 %), and writing assignments (40 %).

【学生の意見等からの気づき】

Students of varying background are taking this course, and, as such, there is an increasing need to cope with such differences among students, including their English skills. It seems effective to provide students with opportunities to interact with each other through group discussion, etc., Doing so seems to naturally provide opportunities to help each other.

BIO300LA

Natural Science A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

Although this course is taught in an English language environment, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is structured roughly in two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	What does a stable ecosystem look like?	The question of stability will be addressed in relation to human activities and their impacts on ecosystem.
Week 3	Species interactions and biological community	Different types of relationships among organisms and the complexity of biological community will be discussed.
Week 4	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 5	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 7	What is a food crisis and why does it occur?	The current state of global food security and causes of food shortage will be described.
Week 8	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.

Week 9	Viewing the world from the South	Consequences of economic globalization will be discussed by drawing examples from the "developing" world.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (20 %), and writing assignments (40 %).

【学生の意見等からの気づき】

Students of varying background are taking this course, and, as such, there is an increasing need to cope with such differences among students, including their English skills. It seems effective to provide students with opportunities to interact with each other through group discussion, etc., Doing so seems to naturally provide opportunities to help each other.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語初級 I 2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。発音の基礎から始め、ドイツ語の表現の基本を学んでゆきます。ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜お伝えしてゆきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、ドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的表現を学びます。初めて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	Lektion1 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学びます。
第 3 回	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化 (1)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
第 4 回	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化 (2)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を復習します。
第 5 回	Lektion3 名詞の性と格 (1)	ドイツ語の名詞の性と格を学びます。
第 6 回	Lektion3 名詞の性と格 (2)	ドイツ語の名詞の性と格の復習をします。
第 7 回	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類 (1)	ドイツ語の定冠詞類と不定冠詞類の基本を学びます。
第 8 回	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類 (2)	ドイツ語の定冠詞類と不定冠詞類の基本を復習します。
第 9 回	Lektion5 人称代名詞 (1)	ドイツ語の人称代名詞の基本を学びます。
第 10 回	Lektion5 人称代名詞 (2)	ドイツ語の人称代名詞の基本を復習します。
第 11 回	Lektion6 不規則動詞・命令形 (1)	ドイツ語の不規則動詞と命令形の基本を学びます。
第 12 回	Lektion6 不規則動詞・命令形 (2)	ドイツ語の不規則動詞と命令形の基本を復習します。
第 13 回	Lektion7 前置詞 (1)	ドイツ語の前置詞の基本を学びます。
第 14 回	Lektion7 前置詞 (2)	前置詞の基本の復習。 春学期のまとめとして基礎の確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

萩原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点、課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語を選択し、履修している学生、すでに選択履修をした学生は受講できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic speaking and vocabulary; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語初級Ⅱ 2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜お伝えしてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と表現の仕方の習得を目指す。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion8 分離動詞・接続詞 (1)	春学期の内容の復習。 ドイツ語の接続詞、分離動詞、非分離動詞の基本を学びます。 以下の進度はおおその目安です。
第 2 回	Lektion8 分離動詞・接続詞 (2)	接続詞、分離動詞、非分離動詞の基本を復習します。
第 3 回	Lektion9 話法の助動詞 (1)	ドイツ語の話法の助動詞の基本を学びます。
第 4 回	Lektion9 話法の助動詞 (2)	話法の助動詞の使い方の復習をします。
第 5 回	Lektion10 動詞の 3 基本形・過去形 (1)	ドイツ語の動詞の 3 基本形を学び、過去形の使い方の基本を学びます。
第 6 回	Lektion10 動詞の 3 基本形・過去形 (2)	動詞の 3 基本形と過去形の基礎を復習します。
第 7 回	Lektion11 現在完了形・受動文 (1)	ドイツ語の現在完了形と受動文の基礎を学びます。
第 8 回	Lektion11 現在完了形・受動文 (2)	現在完了形と受動文の基礎を復習します。
第 9 回	Lektion12 形容詞・比較表現 (1)	ドイツ語の形容詞の用法の特徴と形容詞を使った比較表現を学びます。
第 10 回	Lektion12 形容詞・比較表現 (2)	形容詞と比較表現の復習をします。
第 11 回	Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞 (1)	ドイツ語の再帰代名詞と zu 不定詞の用法の基礎を学びます。
第 12 回	Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞 (2)	再帰代名詞と zu 不定詞の用法の基礎を復習します。
第 13 回	Lektion14 関係代名詞・接続法 (1)	ドイツ語の関係代名詞と接続法の基礎を学びます。
第 14 回	Lektion14 関係代名詞・接続法 (2) まとめの試験	関係代名詞と接続法の基礎を復習します。秋学期のまとめとして確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

荻原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点、課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic speaking and vocabulary; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueßung, Befinden	sich begrüßen/verabschieden
3	Begrueßung, Befinden	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/Plural Negation
6	Familie 1	Ja/Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraechе, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraechе
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Kursbuch
Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Arbeitsbuch

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。

40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Kursbuch
Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Arbeitsbuch

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語講読 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ドイツ語講読：『グリム童話』をドイツ語で読む

山下 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

『グリム童話』の代表的な作品を、ドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原文を正確に読み解くことによって、物語の中に表れたドイツ語圏の文化的特性を把握し、物語本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。春学期は、イメージはよく知られている白雪姫の物語の実像を、文法的な説明とともに読みとります。

【到達目標】

ドイツ語の原文を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、『グリム童話』の成立過程に見られる社会的背景を学びながら、物語のヨーロッパの規模の広がりや改稿の課程に読みとれる市民社会の成立について理解する。ドイツ語の原文を題材として、語学的知識の向上と作品世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストブック及び授業時に配布するプリントによって、ドイツ語原文を詳しく読解する。その際に、日本語訳を参照することは構わない。各授業時に扱う部分の読解を学生が担当して、担当部分の説明と解釈をし、必要に応じて教員が文法的な説明を補う。その後、作品をめぐる背景の説明を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 テキストの紹介
2	グリム童話とは？	作品と編者の紹介
3	「白雪姫 (Sneewittchen)」1	物語の発端：白・赤・黒
4	「白雪姫 (Sneewittchen)」2	物語の展開：森の住人
5	「白雪姫 (Sneewittchen)」3	物語の結末：王子の愛したもの
6	「白雪姫 (Sneewittchen)」初版 1	実母か継母か？
7	「白雪姫 (Sneewittchen)」初版 2	鏡よ鏡！ 悪女の末路
8	「赤ずきん (Rotkäppchen)」1	森の奥の意味
9	「赤ずきん (Rotkäppchen)」2	女の子のエプロン
10	「赤ずきん (Rotkäppchen)」初版	ここで終り？
11	ペロー「赤ずきん」	**はみんなオオカミよ
12	『グリム童話』序文を読む 1	物語の伝えるもの
13	『グリム童話』序文を読む 2	収集の背景
14	春学期の学習のまとめ	独力でグリム童話原文を読んでみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業で扱うドイツ語の原文を、毎回必ずテキストの文法構造の確認を含めて理解し、授業中の解釈の試みに備えること。課題が与えられた場合には、翌週までに学習して提出すること。独和辞典を持参すること。

【テキスト（教科書）】

富山芳正編：白雪姫 第三書房 ¥900

その他、授業時にプリントを配布する。

【参考書】

野村法訳『完訳グリム童話集1～7』筑摩書房 各巻 ¥1,900

吉原高志・吉原素子『初版グリム童話集1～4』白水社 各巻 ¥1,600

吉原高志・吉原素子『グリム〈初版〉を読む』白水社 ¥1,600

野村法『グリム童話 子供に聞かせてよいか?』ちくまライブラリー ¥1,030

小澤俊夫『グリム童話の誕生』朝日選書 ¥1,350

シャルル・ペロー『ペローの昔ばなし』白水社 ¥2,000

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末の試験・レポート (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

Class of German intensive reading. Students read the original german text and the Japanese translation of Grimm's Fairy Tales comparing with its first edition, and study the knowledge about the Grimm's Fairy Tales and the cultural background. Also learn the advanced grammar of German.

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語講読Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：ドイツ語講読：『グリム童話』をドイツ語で読む

山下 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『グリム童話』の代表的な作品を、ドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原文を正確に読み解くことによって、物語の中に表れたドイツ語圏の文化的特性を把握し、物語本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。秋学期は、シンデレラ、眠れる森の美女、ラプンツェルという3人のプリンセスの物語の原像を求めます。

【到達目標】

ドイツ語の原文を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、『グリム童話』の成立過程に見られる社会的背景を学びながら、物語のヨーロッパ的規模の広がりや改稿の課程に読みとれる市民社会の成立について理解する。ドイツ語の原文を題材として、語学的知識の向上と作品世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストブック及び授業時に配布するプリントによって、ドイツ語原文を詳しく読解する。その際に、日本語訳を参照することは構わない。各授業時に扱う部分の読解を学生が担当して、担当部分の説明と解釈をし、必要に応じて教員が文法的な説明を補う。その後、作品をめぐる背景の説明を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロタクシオン	授業の進め方 テキストの紹介
2	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」1	物語の発端：家族の関係
3	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」2	物語の展開：魔法の力
4	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」3	物語の結末：ガラスの靴はどこに？
5	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」初版 1	イメージの落差
6	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」初版 2	異なる結末
7	「いばら姫 (Dornröschen)」1	物語の発端：森の意味するもの
8	「いばら姫 (Dornröschen)」2	物語の結末：眠りの意味
9	「いばら姫 (Dornröschen)」初版	読み比べ
10	ペロー「眠れる森の女王」&バジール「ターリア」	物語のルーツを辿る
11	「ラプンツェル (Rapunzel)」	どんな植物？
12	「ラプンツェル (Rapunzel)」初版	読み比べ
13	バジール「ペトロシネッラ」	イタリア版ラプンツェル
14	秋学期の学習のまとめ	独力でグリム童話原文を読んでみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業で扱うドイツ語の原文を、毎回必ずテキストの文法構造の確認を含めて理解し、授業中の解釈の試みに備えること。課題が与えられた場合には、翌週までに学習して提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

野村法訳『完訳グリム童話集1～7』筑摩書房 各巻 ¥1,900
吉原高志・吉原素子『初版グリム童話集1～4』白水社 各巻 ¥1,600

吉原高志・吉原素子『グリム〈初版〉を読む』白水社 ¥1,600
野村法『グリム童話 子供に聞かせてよいか?』ちくまライブラリー ¥1,030
小澤俊夫『グリム童話の誕生』朝日選書 ¥1,350
シャルル・ペロー『ペローの昔ばなし』白水社 ¥2,000
バジール『ペンタメローネ』大修館書店 ¥4,738

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末の試験・レポート (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

Class of German intensive reading. Students read the original german text and the Japanese translation of Grimm's Fairy Tales comparing with its first edition, and study the knowledge about the Grimm's Fairy Tales and the cultural background. Also learn the advanced grammar of German.

PHI300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

PHI300LA

ドイツの思想 I

2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。
不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。
毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。
受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。
春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期ニーチェも視野に入れます。
授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想に対する理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、質問やアクション・ペーパーに示された感想や見方に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 10 % の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。 以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』(1)	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な事柄をとらえます。
第 4 回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソスのもの」と「アポロ的のもの」をとらえます。
第 5 回	『悲劇の誕生』(3)	ギリシア悲劇とはどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第 6 回	『悲劇の誕生』(4)	ワグナーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、若きニーチェがなぜワグナーに傾倒したのかをワグナーの作品にふれながら考えます。
第 7 回	『悲劇の誕生』(5)	ショーペンハウアーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、ニーチェとショーペンハウアーの接点と違いについて考えます。
第 8 回	『悲劇の誕生』(6)	『悲劇の誕生』の背景にあるニーチェの芸術論と音楽論をとらえ、その意義を考えます。
第 9 回	『悲劇の誕生』(7)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第 10 回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と特徴を考えます。

第 11 回	初期ニーチェと現代哲学・思想	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。
第 12 回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の展開の方向性を展望します。
第 13 回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
第 14 回	春学期の試験	春学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業内容の整理と復習をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』、ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』、世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。高辻知義『ワグナー』、岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』、法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価します（平常点 40 %、試験 60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを正確にとつてほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the composite art of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to contemporary thoughts.

PHI300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

PHI300LA

ドイツの思想 II

2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された意見や感想に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第 3 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—アフォリズムの思考	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的な思考の特徴をとらえます。
第 4 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—〈形而上学〉への批判	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によって〈形而上学（従来の哲学）〉へのニーチェの批判の意味を考えます。
第 5 回	『悦ばしき知恵』—〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第 6 回	『ツァラトゥストラ』(1)—〈身体〉と〈心〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第 7 回	『ツァラトゥストラ』(2)—〈力への意志〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 8 回	『ツァラトゥストラ』(3)—〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によってニーチェの「永遠回帰」の思想を捉え、考えます。
第 9 回	『道徳の系譜』—〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、その論点を解きほぐして考えます。
第 10 回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業の内容を踏まえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点をとらえます。

第 11 回 ニーチェと現代の哲学・思想、芸術 (1) 中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。

第 12 回 ニーチェと現代の哲学・思想、芸術 (2) ニーチェの現代芸術への影響をヨーロッパの世紀末芸術について、絵画・音楽を中心に紹介します。

第 13 回 まとめ 秋学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。

第 14 回 秋学期の試験 秋学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業内容の整理と復習をおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます（平常点 40%、試験 60%）。

【学生の意見等からの気づき】

正確にノートを取ってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche' philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to contemporary thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 A

2017 年度以降入学者

LIT300LA

ドイツの文学 I

2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「私」探しの源流を求めて】

近代ドイツ語圏は、明治期以降の日本に「(他とは違う) 私自身」という思考の枠組みを与えました。中でもドイツ語で書かれた文学は、日本の近代化とその人材育成に非常に大きな影響を与えています。現在の日本を見回しても、カフカがいなければ「作家・村上春樹」はいなかったでしょうし、Th. マンほか数々のドイツ語圏発の文学や文化現象がなければ、「スタジオ・ジブリ」(宮崎駿)は今とは似ても似つかぬものだったかもしれません。あるいは明治期の日本が「ドイツ」とあのように深く付き合わなければ、日本では王道の「青春もの」「学園もの」のマンガはここまで当たり前のものではなく (Bildung 概念の形成)、ついでに、みなさんに「私の個性」や「私が大学時代に達成したこと」を語らせる日本の「就活」も、今とはちょっと違っていただいけませんね。

この授業では、ドイツ語圏文学の魅力の一片を、王道と王道じゃないものを取り混ぜつつ、皆さんと楽しみたいと思っています。なぜフィクションが真実を表現しうるのであるのか (しえないのか)、言語テキストが表現できること、さらにはそこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、ご一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

履修する学生の皆さんが到達すべきは、以下の通りです。第一の目標は、テキストの意味を捉える読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できた」「自分が何かを考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第二の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正 (= ありえない大人や組織) や自己疎外 (= 「自分は必要とされていない」と思う気持ち) と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

最後の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19 ~ 20 世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突 (= 「苦手」と感じる状況) を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

主に 19 世紀～ 20 世紀のドイツ語圏文学を、時系列的に扱います。授業では毎回、担当者が講義形式で、作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の終わりには、各自が一定量の小レポート (リアクションペーパー) を記述し提出します。授業 3 回目以降は、各回授業の最初に、みなさんからの前回授業コメントのフィードバックも行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って? 「ドイツ語圏」ってどこ??
2	「カッコいい俺」の生き方?	ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』(1774 年、ドイツ)
3	この世界の片隅で	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェック』(1835 年、ドイツ) その 1
4	僕にはあの人しかいないのに	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェック』(1835 年、ドイツ) その 2
5	先生って何であんなに怖いのか?	ゴットフリート・ケラー『緑のハイブリヒ (第二版)』(1879-80 年、スイス)
6	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドール・フォンターネ『迷誤あれば』(1888 年、ドイツ) その 1
7	社会の変化についていけない気がする	テオドール・フォンターネ『迷誤あれば』(1888 年、ドイツ) その 2

8	元祖 BL? 満たされない空虚な気持ち	ローベルト・ムーゼル『寄宿生テルレスの混乱』(1906 年、オーストリア/ハンガリー)
9	「私」はもういない	フランツ・カフカ『掟の前で』(1914/15 年)『家父の気がかり』(1917/19 年) (オーストリア/チェコ)
10	私はあなたのことを決して忘れない	シュテファン・ツヴァイク『書痴メンデル』(1929 年、オーストリア)
11	都会の「キラキラ」に憧れる女の子	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』(1932 年、ドイツ) その 1
12	本当の私を好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』(1932 年、ドイツ) その 2
13	どこでだって今を楽しく生きていける	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り』(1999 年、ドイツ)
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当すると思います。あらゆる大学の授業に関わることはそうですし、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。
・新聞 (日刊紙) を読む習慣があればなお良いです。
・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすときの言葉を、しっかり振り返ることができれば一番いいですね。

【テキスト (教科書)】

毎授業、コピーを配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』(ミネルヴァ書房、2003 年)
・手塚富雄・神品芳夫 (著)『増補』ドイツ文学案内 (岩波書店、1993 年)
その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献 (25%)、リアクションペーパー (25%)、学期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
(携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces literature from the era of german "Strum und Drang"/Weimar classicism to the german modernism (Berliner Moderne/Wiener Moderne). In the course, we also focus on the sense of "self-identity" and "Bildung" that was developed intensively by Germany or German speaking areas like Habsburg Monarchy as well as by entire German modern literature and culture influences modernization of Japan since Meiji-era definitely. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学B 2017年度以降入学者

LIT300LA

ドイツの文学Ⅱ 2016年度以前入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

【「私」の源流・子どもの頃の思い出】

この授業が着目するのは、ドイツ語圏発の子ども向け・児童文学作品です。ドイツ語圏のメルヒェンやファンタジーの古典には、今もディズニーやハリウッド、あるいは「スタジオ・ジブリ」の着想源となるような作品があります。あんな昔のドイツ語圏発のフィクションに、どんなアクチュアリティがあるのでしょうか？

この授業では、「子ども向け」「ヤングアダルト向け」の作品を通して、ドイツ語圏文学の魅力の一片を楽しみたいと思っています。授業で扱うのは全て、今なお読み継がれる世界的なベストセラーや、その映画化やアニメーション化が日本で大ヒットした作品です。「私と家族」「親」「学校」「友だち」…を通して見える真実、そこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、一緒に考えていきましょう。

担当者の私には、若い学生の皆さんが「大人になりかけの人たち」のように思えます。もちろん「私はもう大人だ！」という方、今改めて大学で学んでいるという方も、文学作品を通じて自分の子ども時代を少し振り返ってみませんか。今の自分次第で過去も変わります。今の皆さんだから見えること、わかることがあるはずですよ。

【到達目標】

履修する学生の皆さんが到達すべきは、以下の通りです。第一の目標は、テキストの意味を捉える読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できた」「自分が何かを考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第二の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正（＝ありえない大人や組織）や自己疎外（＝「自分が必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

最後の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずですよ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀以降のドイツ・ロマン派、モダニズムから現代までのドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）文学を扱います。

授業では、原作の小説と、一部その二次創作（映画、パレエ）の映像を扱います。毎回、担当者が講義形式で、作品や作家の概要の説明を行った後、テキストを読み、または映像の抜粋を確認します。

その後、参加者同士でお互いの理解を確認する作業を行います。

授業の終わりには、各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

授業3回目以降は、各回授業の最初に、みなさんからの前回授業コメントのフィードバックも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	美しい自然・大好きなお母さん	フェーリクス・ザルテン『パンビ』（1923年）その1
3	いじわるな人はいるけど、きっと大丈夫	フェーリクス・ザルテン『パンビ』（1923年）その2
4	貧しくも美しいアルプスの麓で	ヨハナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』（1880-1881）その1
5	豊かで不幸せな都会・成長したのはどっち？	ヨハナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』（1880-1881）その2
6	こっちの世界へようこそ	ミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（1979年）その1

7	ひとりひとりが選ばれた「あなた」だから	ミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（1979年）その2
8	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その1
9	大切な友だちの悲しみ・忘れられない日々	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その2
10	みんなが何と言おうと私はこれがいいの！	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1814年）その1
11	お姫様になれたらどうしちゃう？	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1814年）その2
12	子どもは親を選べないから	エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』（1933年）その1
13	「正義」の真実？	エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』（1933年）その2
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当すると思います。あらゆる大学の授業に関わることはそうですし、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。

・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を、しっかり振り返ることができれば一番いいですね。

【テキスト（教科書）】

毎授業、コピーを配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）

・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）

その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください

（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。

・扱う作品・内容や順序は変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces german-language children's and juvenile literature: It deals with exclusively the worldwide best seller of all-times as well as highly estimated works from Germany and german-speaking areas like Austria or Switzerland, those derivative works from all over the world has proved to be also mega hits in Japan.

In the course, we also focus on "childhood" as a concept. What is the real actuality of children's and juvenile literature that are still adapted by the Hollywood, the Disney or the Studio Ghibli? What are we thinking about from the stories of "me"/"my self", "family", "school" or "friends"? Our works in this course would lead us also remembrance and reconsideration about our own childhood that bring us generous and definite differences.

ARSk300LA

比較文化 A

2017 年度以降入学者

ARSk300LA

比較文化 I

2016 年度以前入学者

D. ハイデンライヒ開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

映画の食卓から見る比較文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスでは映画とその他のメディアに描かれた料理と食卓シーンを比較し、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化理解力を高める。

【到達目標】

- 異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 形式的にも丁寧なレポートを書くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

短いシーンを選んで分析し、鑑賞後は、ディスカッションまたは課題の提出を求めることもあります。補足的に様々なテキストを読むこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
②	孤食と軽食（1）	軽食店のシーンなど
③	孤食と軽食（2）	課題、ディスカッション
④	Dinner for two（1）	初アートのシーンなど
⑤	Dinner for two（2）	課題、ディスカッション
⑥	家族の会食と祝宴（1）	クリスマス、感謝祭の食卓シーンなど
⑦	家族の会食と祝宴（2）	課題、ディスカッション
⑧	飢えと暴飲暴食（1）	メルヘンから戦前戦後など貧しい時代の食卓シーン
⑨	飢えと暴飲暴食（2）	課題、ディスカッション
⑩	過剰消費社会と風刺（1）	伊丹十三『タンポポ』などについて
⑪	過剰消費社会と風刺（2）	課題、ディスカッション
⑫	古代と宗教上のモチーフ（1）	キリスト教の「晩餐会」と古代ギリシャの「饗宴」などについて
⑬	古代と宗教上のモチーフ（2）	課題、ディスカッション
⑭	学生の発表	レポートのフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）： 50%

レポート提出と発表： 50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

Food, Media, and Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will analyse the representations of food in films and other media.

ARSk300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

ARSk300LA

比較文化 II

2016 年度以前入学者

D. ハイデンライヒ開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

シンボル動物から見る比較文化

諸文化間の動物観とそれらのシンボルの意味を題材に、類似点と相違点を探求する。この授業では、主に神話、宗教や文学の視点から人間と動物の関係を学ぶ。

【到達目標】

- 人間と動物の関係についての理解、異文化の理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 形式的にも丁寧なレポートを書くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、テキスト購読（和訳）、全員で^ての討議、五回の課題とフィードバックによって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	動物の犠牲について
⑩	北欧神話と動物（1）	課題、ディスカッション
⑪	北欧神話と動物（2）	カラス、オオカミについて
⑫	詩人と白鳥（1）	課題、ディスカッション
⑬	詩人と白鳥（2）	「レダと白鳥」について
⑭	学生の発表	ワグナー『ローエングリン』について レポートのフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）： 50%、レポート提出と発表： 50%

受講者数によって評価方法が 変わる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A 2017 年度以降入学者

ART300LA

ドイツの芸術 I 2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っほい芸術ってどういうことでしょうか？ というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？

18 世紀から 19 世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっほい (deutsch)」や「ドイツ人 (Deutsche)」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術 B」と併せて、近代ドイツ語圏の造形芸術（建築、デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものさまたまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術に対する知的なアプローチの方法を学ぶことです。「芸術=天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19 世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。三つめの目標は、「ドイツっほい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっほい」の不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は 18 世紀末～20 世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各授業後には、一定量のコメント（リアクションペーパー）を書き提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第 2 回	ルネサンスから北方ルネサンスへーアルプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502 年）、『メランコリア I』（1514 年）ほか
第 3 回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第 1 番 長調 K.80 (73f) 「ローディ」』（1770-1773 年）ほか
第 4 回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782 年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787 年）『魔笛』（1791 年）
第 5 回	ナポレオン後の世界と 1824 年の衝撃ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調 作品 67 「運命」』（1808 年）『交響曲第九番ニ短調 作品 125 「合唱付」』（1824 年）
第 6 回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814 年）とゲーテの『ファウスト（悲劇第一部）』（1808 年）

第 7 回	反動と啓蒙の時代ー合唱と「ドイツ」を讃える歌	「フィルハーモニー」の誕生、「ジング・アカデミー」とゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829 年）
第 8 回	「国歌」を歌ってみたい？ー「ドイツ人としての誇り」	ハイドン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797 年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841 年）
第 9 回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947 年）『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1872-1875 年）
第 10 回	戦うオーストリアーヴィーンのワルツ・ビジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』（1867 年）『ウィーン気質』（1873 年）ほか
第 11 回	終わりの始まりー権威への思慕と反動のせめぎ合い	ウィーン工房とウィーン分離派（O. ヴァーグナー、J・ホフマンなど）
第 12 回	オワコンなブルジョワの光と影	クリムト『アデーレ・プロッホ＝パウアーの肖像』（1907 年）ほか
第 13 回	「新たな時代の生き方」ー「ブリュッケ」（表現主義）	O. ミュラー『水浴する風景』（1906 年）、キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912 年）『ポツダム広場』（1914 年）
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブの体験や観劇は素晴らしいと思います。首都圏近郊の美術館へもぜひ「キャンパス・メンバーズ」などを活用し足を運んでください。

【テキスト（教科書）】

各回プリントを配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014 年）
神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995 年）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

* 「クラシック音楽」の範疇のコンサート、ヨーロッパの古典演劇や舞踊（バレエ）、西洋美術や造形芸術の展覧会などの鑑賞に関し、学期末レポートと同水準でなおかつ「ドイツ」との関連が明確に論じられたレポートであれば、「授業への積極的な参加と貢献（25%）」ないし「リアクションペーパー（25%）」の評価に組み入れます。全てプロと認知される演者や作家の公演・展覧会であることが条件です。レポートの提出は一回限り、展覧会等の半券ないし日付の入った入場券購入記録の提出を義務とします（以上「フィールドワーク」に該当）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
(携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

ART300LA

ドイツの芸術Ⅱ

2016年度以前入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術ってどんな感じなんだろう？というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？

20世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものささまざまな内実に取り入ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術への知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならではの…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、20世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術を幅広く、おおよそ時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各授業後には一定量のコメント（リアクションペーパー）を書き提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第2回	永世中立国スイスと「反芸術」—言葉と音の大胆な融合	H. バル『ダダ宣言』（1916年）、チューリヒ・ダダとT・ツァラの「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第3回	混乱と不条理を愛する—「コラージュ」こそがモダニズムのパラダイム	ベルリン・ダダ（R. ハウスマン、H. ヘーヒほか）、K. シュヴィッターズ『メルツ絵画』（1919年〜）ほか
第4回	美と労働と生活の結合—田園都市ヘレラウの実験	「デザイン」の時代の到来、ドイツ工作連盟とドイツ工芸工房、教育と芸術の融合、第一次世界大戦と生活改革運動の限界
第5回	身体にリズムを取り戻す—モダンダンスの革命・女性の時代	ヘレラウ生まれのリトミック、R. ラバンの身体教育構想、M. ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第6回	「全ては建築に収束する」—バウハウスの誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919年）、表現主義と機能主義の混合、O. シュレンマーの舞台工房と『トリアディック・バレエ』（1922年）ほか

第7回	審美的な芸術から機能主義へ—マイアーとM・v・d・ローエのバウハウス	W・グロピウスによるデッサウのバウハウス校舎（1925年）、タイポグラフィとデザインの融合
第8回	ハイパーインフレと虚無の後で—機械の時代の芸術	W. グロピウス『大都会』（1927/28年）、C. シャート『ソーニャ』（1929年）、A. ザンダー『20世紀の人々1892-1952』（1962年）
第9回	ナチスの権力掌握と芸術—「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書（1933年）
第10回	ベルリン・フィルの運命—追われるユダヤ系芸術家	フルトヴェングラーとベルリン・フィル、近衛秀麿の見たベルリン・フィル
第11回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」—「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す（第一回ドクメンタ）、冷戦に翻弄される東西ドイツ、芸術の意味の多様化
第12回	社会主義リアリズム—観てはいけない映画、聴いてはいけない音楽	映画『善き人のためのソナタ』（2006年）、Th. プルスィヒ『太陽通り』（1999年）を例に
第13回	電子音楽・ロック・クラブカルチャー—ミュージック・コンクレートからテクノまで	クラフトワーク『アウトバーン』（1974年）、ベルリンの「ラブ・パレード」
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブの体験や観劇は素晴らしいと思います。首都圏近郊の美術館へもぜひ「キャンパス・メンバーズ」などを活用し足を運んでください。

【テキスト（教科書）】

各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加）：33%
期末試験：34%
小テスト：33%
この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので、注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

LANd300LA

留学ドイツ語 A 2017 年度以降入学者

LANd300LA

留学ドイツ語 I 2016 年度以前入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主に SA や派遣留学等で海外の大学で学ぶ準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。通常のクラス授業で学んだ文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】

ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解を深め、留学で特に重要になるリスニング力と自らの考えを「発信」する力を身につけることを到達目標とする。初級ドイツ語を終え、さらにドイツ語学習を続けたい学生は、独検三級以上合格を目指す語学力の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、マルチメディア教材も活用しながら、できるだけ多くドイツ語に触れる機会を持つ。まずはドイツ語圏での生活に必要な基礎的なリスニング、会話練習を多く行ないつつ、徐々に具体的なテーマについての知見を深め、最終的には個々のテーマに関し、自らの意見を発信できる訓練を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について
2	初対面、お互いを知ろう1	Kennen lernen, sich vorstellen
3	初対面、お互いを知ろう2	Verhalten beschreiben
4	様々な場所で1	Leben in der Stadt, Leben auf dem Lande
5	様々な場所で2	Wohnen und Wohnung
6	余暇とスポーツ1	Trends im Sport
7	余暇とスポーツ2	Freizeitbeschaeftigung
8	日常生活1	Ueber Gewohnheiten sprechen
9	日常生活2	Sich verabreden, jemanden einladen
10	教育と仕事1	Verschiedene Berufe und Ausbildung
11	教育と仕事2	Bewerbung, Lebenslauf
12	学び	Schule, Lehrer, Klassentreffen
13	まとめ	Studieren an der Universtitaat
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】

初回授業時において指示する。

【参考書】

必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30%）・宿題（10%）に加え、授業への参加度を平常点（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to prepare for Study abroad or want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire practical communication skills by reviewing the basic grammar and expressions.

LANd300LA

留学ドイツ語 B 2017 年度以降入学者

LANd300LA

留学ドイツ語 II 2016 年度以前入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「留学ドイツ語 A」に引き続き、派遣留学等で海外の大学で学ぶための準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。今までに学習した文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】

ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解をより深め、それについて自らの考えを発信し、ドイツ語での議論ができるようになる。留学先での授業を想定し、レポートを書く、あるいはプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

マルチメディア教材も多く用い、個々の教材で扱われているテーマを理解し、議論につなげていく。受講生によるドイツ語での短いプレゼンテーションと議論の機会も設けたい。「留学ドイツ語 A」の履修は必ずしも必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について、先学期学習内容の確認
2	人間関係1	Ratschlaege geben, Auffordern
3	人間関係2	Streiten, Konsens finden
4	消費生活1	Einkaufen, Verkaufsgespraech
5	消費生活2	Werbeanzeigen, Auktion im Netz
6	メディアと現代社会1	Neue Medien, Kommunikationsspannen
7	メディアと現代社会2	Diskussion ueber neue Medien
8	旅行と移動1	Mobilitaet
9	旅行と移動2	Reise, Urlaub
10	プレゼンテーションとディスカッション1	参加学生による発表と討論1
11	プレゼンテーションとディスカッション2	参加学生による発表と討論2
12	プレゼンテーションとディスカッション3	参加学生による発表と討論3
13	まとめ	まとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30%）・宿題（10%）に加え、授業への参加度を平常点（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to prepare for Study abroad or want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire practical communication skills by reviewing the basic grammar and expressions.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム I	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	ネットスポーツ I	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	ネットスポーツ II	ネットスポーツとしてバドミントンを 行う（講義と実習）。
7	ネットスポーツ III	ネットスポーツとして卓球のシングルス を行う（講義と実習）。
8	ネットスポーツ IV	ネットスポーツとして卓球のダブルス を行う（講義と実習）。
9	ボールゲーム II	バスケットボールを行う（講義と実 習）。
10	ボールゲーム III	フットサルを行う（講義と実習）。
11	ネットスポーツ V	ネットスポーツとして簡易ルールにて バレーボールを行う（講義と実習）。
12	ネットスポーツ VI	ネットスポーツとしてバレーボールを 行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行 う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析につい ての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えようとして授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B 2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II 2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム I	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	ネットスポーツ I	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	ネットスポーツ II	ネットスポーツとしてバドミントンを 行う（講義と実習）。
7	ネットスポーツ III	ネットスポーツとして卓球のシングルス を行う（講義と実習）。
8	ネットスポーツ IV	ネットスポーツとして卓球のダブルス を行う（講義と実習）。
9	ボールゲーム II	バスケットボールを行う（講義と実 習）。
10	ボールゲーム III	フットサルを行う（講義と実習）。
11	ネットスポーツ V	ネットスポーツとして簡易ルールにて バレーボールを行う（講義と実習）。
12	ネットスポーツ VI	ネットスポーツとしてバレーボールを 行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行 う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析につい ての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えようとして授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミンントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミンントンの概要（講義&実技）
3	基本技術	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）
4	基本技術	シャトルを使つてのストローク（講義・実技）
5	基本ストローク	ドライブ技術習得（講義・実技）
6	基本ストローク	クリア技術習得（講義・実技）
7	基本ストローク	ドロップ&レシーブ技術習得（講義・実技）
8	基本ストローク	プッシュ&レシーブ技術習得（講義・実技）
9	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ&ネット技術習得（講義・実技）
10	審判	ダブルスでの審判・線審の仕方（講義・実技）
11	ゲーム	半面シングルス
12	ゲーム	半面シングルスの結果により、実力別による
13	ゲーム	ダブルス
14	実技試験	基本ストローク実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本技術	各ストロークの復習（講義&実技）
2	基本技術	各ストロークの確認（講義&実技）
3	シングルの組み立て	DVD 等による学習（講義）
4	シングルの組み立て	シングルのフットワーク・ラケットワーク技術（講義&実技）
5	シングルの組み立て	シングルのポジショニング（講義&実技）
6	ダブルスゲームの組み立て	DVD 等による学習（講義）
7	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション（講義&実技）
8	ダブルスゲームの組み立て	フォーメーション（トップ&バック）（講義&実技）
9	ダブルスゲームの組み立て	フォーメーション（サイド by サイド）（講義&実技）
10	ダブルスゲームの組み立て	ローテーション技術（講義&実技）
11	ダブルスゲーム	トランプによるペア決め
12	トリプル	ルール等の説明とやり方
13	トリプルゲーム展開	トリプルゲーム（講義&実技）
14	実技試験	各競技の技術試験（ジャッジメント含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
その都度配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装、運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

磯部 薫開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

自己の体力レベルを把握することができる。
心身の健康増進を図ることができる。
生涯にわたる運動習慣を身に付けることができる。
コミュニケーション能力といった社会性を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は数種類のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、レポート課題や毎回のアクションペーパーの評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等
2	マシントレーニング講習	目的に応じた効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ
3	講義	筋肉のしくみを学ぶ
4	講義	運動と食事の関係性を学ぶ
5	バドミントン I	バドミントンの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	バドミントン II	バドミントンの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球 I	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球 II	卓球の基本的技術の習得、ゲーム
9	バレーボール I	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボール II	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	講義	メンタルトレーニングを学ぶ
12	講義	オリンピック競技を学ぶ
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種目 2020 オリンピック・パラリンピック種目でもあるので、日常のテレビや新聞、雑誌等で扱われるニュースに関心を持ち、各々の番組等で提起される課題について考えることが（予習）につながる。
また実習するにあたり、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します

【参考書】

必要に応じて資料を配布します

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 50 %：各授業で取り組むアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 50 %
授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。
第一回目の授業に必ず出席のこと。
春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.
We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学B 2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

磯部 薫開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

自己の体力レベルを把握し、向上させることができる
心身の健康増進を図ることができる
生涯にわたる運動習慣を身に付けることができる
コミュニケーション能力といった社会性を習得することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、レポート課題や毎回のリアクションペーパーの評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等
2	マシントレーニング講習	トレーニング機器の使用方法和効果を学ぶ
3	講義	筋肉のしくみを学ぶ
4	講義	運動と食事の関係性を学ぶ
5	バドミントンⅠ	バドミントンの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	バドミントンⅡ	バドミントンの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球Ⅰ	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球Ⅱ	卓球の基本的技術の取得、ゲーム
9	バレーボールⅠ	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボールⅡ	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	講義	メンタルトレーニングを学ぶ
12	講義	オリンピック競技を学ぶ
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種目 2020 オリンピック・パラリンピック種目でもあるので、日常のテレビや新聞、雑誌等で扱われるニュースに関心を持ち、各々の番組等で提起される課題について考えることが（予習）につながる。
また実習するにあたり、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します

【参考書】

必要に応じて資料を配布します

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 50%：各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 50%
授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は35名程度とする。
第1回目の授業に必ず出席のこと。
春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.
We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学II

2016年度以前入学者

サブタイトル：ウォーキング・ヨガストレッチ

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。

ヨガは、筋肉の解剖を意識して、ヨガのポーズを実践する。また呼吸を意識しながら瞑想状態に近づく様、心身のリラクゼーションを図る。

教室で行う講義は、DVD やプロジェクターを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキング I (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、身体における効用について説明し、大学周辺を実践する。
5	スポーツ・ウォーキング II (講義および実習)	基本技術を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガ I (講義および実習)	ヨガについて概説し、基本のポーズと解剖学を説明する。
7	ヨガ II (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し、実践する。
8	スポーツ・ウォーキング III (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら実践する。特に走り型にならないように注意する。
9	スポーツ・ウォーキング IV (講義および実習)	バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
10	ヨガ III (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。 呼吸法について説明し実践する。

1 1	スポーツ・ウォーキング V (講義および実習)	携帯アプリケーションを活用して、移動距離数から身体活動に関わるエネルギー消費を検討する。
1 2	ヨガ IV (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。 呼吸法について説明し実践する。
1 3	ヨガ V (講義および実習)	基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。 Meditation（瞑想）の方法を説明する。
1 4	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気付きを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 % 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるように配慮する。

【その他の重要事項】

1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史と道具の説明、ラケットとシャトルになれる。(講義&実技)
4	バドミントン	基本ストロークの練習とシングルゲーム (講義&実技)
5	バドミントン	基本ストロークの練習とダブルゲーム (講義&実技)
6	ユニホック	歴史と道具とルールの説明、スティックとボールになれる。(講義&実技)
7	ユニホック	ゲーム
8	バスケットボール	歴史と道具とルールの説明、基本練習 (講義&実技)
9	バスケットボール	ゲーム
10	バレーボール	歴史と道具とルールの説明、基本練習 (講義&実技)
11	バレーボール	ゲーム
12	フットサル	歴史と道具とルールの説明、基本練習 (講義&実技)
13	フットサル	ゲーム
14	レポート	反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えうえて授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我防止のため、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
2～4 年 ※定員制**【学生が準備すべき機器他】**

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン	基本ストロークと基本練習
3	バドミントン	全面シングルス
4	バドミントン	ダブルスゲーム
5	バスケットボール	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
6	バスケットボール	リーグ戦
7	バレーボール	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
8	バレーボール	リーグ戦
9	ユニホック	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
10	ユニホック	リーグ戦
11	フットサル	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
12	フットサル	リーグ戦
13	卓球	リーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたくうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし。

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バレーボール

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めしていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習&講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習&講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 14 回	筆記試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、基本的なルールや技術に必要な要点など、各自で行った内容を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バレーボール

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めしていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（B）は 2 年生以上を対象としており、A を受講した学生の連続受講が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	バレーボールのトレーニングについて（実習&講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第 2 回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第 3 回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	A で行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第 4 回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集団的技術・ゲーム①（実習&講義）	A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	集団的技術・ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。A よりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。
第 7 回	集団的技術・ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術・ゲーム④（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術・ゲーム⑤（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術・ゲーム⑥（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術・ゲーム⑦（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術・ゲーム⑧（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 13 回	実技試験（実習&講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第 14 回	レポート作成、提出	レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バスケットボール

小谷 究

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。 2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。 3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第 3 回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第 4 回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第 5 回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第 6 回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第 7 回	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 10 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第 11 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第 12 回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 1
第 13 回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 2
第 14 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, by learning the basic skills of basketball competition and deepening their understanding, we aim to create a chance to position basketball competition as one of lifelong sports.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バスケットボール

小谷 究

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。 2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。 3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第 3 回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第 4 回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第 5 回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第 6 回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第 7 回	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 10 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第 11 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第 12 回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 1
第 13 回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 2
第 14 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, by learning the basic skills of basketball competition and deepening their understanding, we aim to create a chance to position basketball competition as one of lifelong sports.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学I

2016年度以前入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義と体験的学習を通じてトレーニングに関する理解を深めていく。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、個々が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングメニューの幅を広げる。各授業では、個々が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況及び成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、独自のトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定、トレーニング目標の設定（講義）
2	トレーニング入門	安全講習及び各種機器の使用方法について学ぶ（講義及び実習）
3	トレーニングの理論1	トレーニングの原理・原則について学ぶ（講義）
4	トレーニングの理論2	体幹トレーニングの理論と実践（講義及び実習）
5	自己理解の促進	グループワークを通じて自己理解、他者理解を促進する（講義及び実習）
6	トレーニングの進め方	リカバリーレートと超回復について学ぶ（講義及び実習）
7	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングと栄養	トレーニング効果を高める食事・サプリメントの摂取の仕方について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングと睡眠	トレーニング効果を高める睡眠のとり方について学ぶ（講義及び実習）
10	無酸素運動	無酸素運動について学ぶ（講義及び実習）
11	有酸素運動	有酸素運動について学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング	上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	トレーニングプログラムに関するレポートの作成・提出、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニング効果促進のため、食事、栄養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパーおよび授業への参画状況（50%）、レポート課題（50%）による総合評価。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定する。なお、継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となる。そのため、スポーツ科学A・Bの通年履修が望ましい。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館1階・会議室の予定である。
3. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. It also enhances the development of student's skill in an original training program.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義と体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深めていく。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、個々が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムをブラッシュアップする。各授業では、個々が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況及び成果をまとめてアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、独自のトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定、トレーニングプログラムの再考（講義及び実習）
2	トレーニング再入門	安全講習及び各種機器の効果的な使用方法に関する情報共有（講義及び実習）
3	自己理解の促進	グループワークを通じて自己理解、他者理解を促進する（講義及び実習）
4	トレーニングと姿勢	トレーニングと姿勢について学ぶ（講義及び実習）
5	ストレッチ	ストレッチの理論と実践（講義及び実習）
6	有酸素運動と無酸素運動	有酸素運動と無酸素運動の効果について学ぶ（講義及び実習）
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
8	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
10	腹部のトレーニング	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	トレーニングプログラムに関するレポートの作成・提出、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニング効果促進のため、食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパーおよび授業への参画状況（50%）、レポート課題（50%）による総合評価。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30 名程度）を決定する。その際、スポーツ科学 A・B の通年履修を推奨する観点から、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用する。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階・会議室または地下トレーニングセンターの予定である。
3. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the applied principles and methods of physical training. It also enhances the development of students' skill in an original training program.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの重要性について講義及び実習
3	リーダーシップとボールゲーム 1	リーダーシップについて講義及び実習 1
4	リーダーシップとボールゲーム 2	リーダーシップについて講義及び実習 2
5	チームワークとボールゲーム	チームワークについて講義及び実習
6	コミュニケーションと身体活動	コミュニケーションについて講義及び実習
7	筋力トレーニング	トレーニングについて講義及び実習
8	トレーニングと健康	トレーニングと健康について講義
9	チームワークと身体活動	チームワークについて講義及び実習
10	フィットネス	フィットネスについて講義及び実習
11	コミュニケーションとボールゲーム	コミュニケーションについて講義及び実習
12	レクリエーションと身体活動	レクリエーションと身体活動について講義及び実習
13	レクリエーションとボールゲーム 1	レクリエーションとボールゲームについて講義及び実習 レポート課題
14	レクリエーションとボールゲーム 2	授業の総括及びレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60%
- ②課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
あり/Yes**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの講義及び実践
3	体力測定	体力測定の意義及び実践
4	バドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基礎技術の習得及びゲーム
5	バレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基礎技術の習得及びゲーム
6	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
7	トレーニング演習	トレーニング理論の講義及び実践
8	運動と健康	運動の効果について講義
9	卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
10	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
11	筋力トレーニング	筋力トレーニングについて講義及び実践
12	バスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基礎技術習得及びゲーム
13	フットサル	スポーツと健康について講義フットサルの基礎技術習得及びゲーム
14	総括	レポート課題 授業の総括 健康についてのディスカッション レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：フィットネス

笠井 淳開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について理解を深める。
豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、希望者多数の場合、1回目の授業ガイダンスにおいて履修者を決定する。

授業はトレーニング実習が主となる他、幾つかのスポーツも実践する。
PDCA 理論にのっとり、各自のトレーニング計画を立て、それに沿った内容で実習を行う。毎回トレーニング内容とリアクションペーパーを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についてガイダンスを行う 履修者を決定する
2	ウォーミングアップの意義	ウォーミングアップの意義についての 講義及び実践
3	トレーニングの基礎	トレーニングの基礎理論について講義
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	トレーニング演習 1	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
8	トレーニング演習 2	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
9	トレーニング演習 3	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
10	トレーニング演習 4	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
11	トレーニング演習の チェック	PDCA 理論に沿ったトレーニングの チェック 講義及び実習
12	トレーニング演習 5	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内容についてディスカ ッションを実施 レポート課題
14	授業総括	授業を総括する レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で臨むこと。
授業後の課題や次の授業への準備等は、その都度の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価は方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに即した内容の提供を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日頃より各自の健康状態をチェックし、常に良好な状態での履修が望ましい
教場等、計画通りに進行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this cour are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：フィットネス

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたり開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合1回目のガイダンス時に履修者決定を行う

各自の計画に基づくトレーニング及び数種目のスポーツ実践を行う。
PDCA理論に沿ったトレーニングの立案、実施、評価、見直しを行う。毎時間トレーニング内容及び反省を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容のガイダンス 受講者の決定
2	PDCA理論	PDCA理論について講義する
3	トレーニング理論	トレーニング理論について講義する
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義。卓球の基礎技術習得及びゲーム講義及び実習
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	トレーニング演習1	トレーニング計画に沿った内容の実践講義及び実習
8	トレーニング演習2	トレーニング計画に沿った内容の実践講義及び実習
9	トレーニング演習3	トレーニング計画に沿った内容の実践講義及び実習
10	トレーニング演習4	トレーニング計画に沿った内容の実践講義及び実習
11	トレーニング内容のチェック	トレーニング内容をチェックし、必要に応じて見直しをする。 講義
12	トレーニング演習5	トレーニング計画に沿った内容の実践講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内夜についてディスカッションを行う 講義及び実習 レポート課題
14	授業の総括	授業の総括を行う レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

各自の健康管理を十分行い、常に良好な状態で参加することが望ましい。教場等、計画通りに施行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は 2 年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、自主的かつ多角的な学修を通じて独自のトレーニングプログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の 1 回目はガイダンス（教室）です。

ガイダンス後に 15 名までの履修者を確定します。

授業の 2 回目から以下の 4 期（目標、計画、実行・評価、反省・改善）に分けてゼミを進めていきます。主な教場は体育館 B 1 F トレーニングセンター（以下、トレセン）です。

1. 課題を検討し決める期間

自分自身の筋力を把握するための測定と分析・評価を通じて、このゼミで取り組む課題（自分自身の身体や体力について改善したいこと）を明確にする期間です。

2. 計画を立案する期間

改善したい課題と段階的な目標を決める期間です。効果が期待できる適切なトレーニング方法を実践を通じて決めていく（実行可能なデザイン）期間です。

3. 実行の期間

計画したトレーニングを積極的に実行する期間です。実施した内容を正確に記録する方法を学習し、随時その結果を自己分析し、評価した結果をゼミ内で共有します。

4. 反省・改善の期間

トレーニング効果を検証し、ゼミ内で共有する期間です。春学期に取り組んだ過程を発表し、秋学期の課題を検討しより良い方法を見出していきます。以上のように、本ゼミは教員からの一方的な講義を受けるのではなく、履修者が自主的・能動的にゼミ活動に取り組むことを重視した双方向性・相互啓発性の高い授業を目指し、その過程で専門的なトレーニングの理論と実践方法を学び取り、自身の課題解決につなげることをねらいとしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	課題検討期 I	<トレセン> ①筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期 II	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②ゼミで取り組む課題を検討する

4	課題検討期 III	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える ②ゼミで取り組む課題を検討する
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期 I	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ②検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期 II	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期 I	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期 II	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期 III	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期 IV	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期 IV	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（ピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した 6 項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. ゼミ活動前の測定評価に関するレポート：20%
2. トレーニングプログラム：20%
3. ゼミ活動後の測定評価を検証したレポート：20%
4. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017 年度および 2018 年度の履修者は 25 名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしてい予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の15人を超えてた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行うことを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が15名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも体験や実習に多くの時間を割くことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ	<トレセン> ①授業概要と目標の説明 ②筋力を把握するための測定と分析を行う
2	課題・計画の検討期Ⅱ	<トレセン> 測定結果を「夏季休暇前後」で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する <教室>
3	課題・計画の検討期Ⅲ	①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②トレーニングプログラムを試作する <教室>
4	課題・計画の決定期Ⅰ	「夏季休暇前後」で比較した測定結果を分析・評価したレポートを作成する <教室>
5	課題・計画の決定期Ⅱ	①取り組む課題を決定する ②トレーニングプログラムを作成する <トレセン>
6	実行期Ⅰ	①作成したトレーニングプログラムを実行し種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

7	実行期Ⅱ	<p><トレセン></p> <p>①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
8	実行期Ⅲ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニング法を決め、プログラムを確定する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
9	実行期Ⅳ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
10	実行期Ⅴ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニングプログラムを実行する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
11	実行期Ⅵ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
12	実行期Ⅶ	<p><トレセン></p> <p>①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定</p> <p>②測定結果を分析・評価する</p> <p>③これまでの学修過程の整理と反省を行う</p> <p>④考察した測定結果をゼミ内で共有する</p>
13	発表・共有期Ⅰ	<p><教室></p> <p>秋学期に取り組んだ学修過程とトレーニング効果の検証結果を発表する</p>
14	発表・共有期Ⅱ、総括	<p><教室></p> <p>①秋学期に取り組んだ学修過程とトレーニング効果の検証結果を発表する</p> <p>②秋学期を総括する</p>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるアクションペーパー：30%
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019年度の授業においては、小人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の15人を超えた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行う場合があることを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学I

2016年度以前入学者

サブタイトル：シェイプアップの実践と検証

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。
隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）でシェイプアップしていくことを目的としたアクティブラーニング型の授業です。本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレンクストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
- 2) ウォームアップ時にセルフコンディションチェックを行う
- 3) 授業のテーマに取り組む
- 4) ウォームダウンを行う
- 5) リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	筋力の測定	<トレセン> ストレンクスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
4	有酸素能力の測定	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニングI	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
6	シェイプアップ・トレーニングII	<トレセン> ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
7	シェイプアップ・トレーニングIII	<トレセン> ①ストレンクスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する

8	シェイプアップ・トレーニングIV	<大学周辺> ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニングV	<トレセン> ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングVI	<トレセン> ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングVII	<大学周辺> ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングVIII	<トレセン> ①ストレンクスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングIX	<トレセン> ①ストレンクスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度からの新設開講した授業のため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。
3. スポーツ科学Aの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期のスポーツ科学Bの受講を認めません。
4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。
5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training. Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class. Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：シェイプアップの実践と検証

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上のスポーツ科学 A からの継続履修者を対象にしています。

本授業では、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）でシェイプアップしていくことを目的としたアクティブラーニング型の授業です。本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：ストレンクスマシンを用いた筋力測定ができる
- 2：運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングができる
- 3：ストレッチングを効果を説明できる
- 4：ジョギングまたはウォーキングの注意点を述べるができる
- 5：ストレンクストレーニングの負荷を適切に設定できる
- 6：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
- 2) ウォームアップ時にセルフコンディションチェックを行う
- 3) 授業のテーマに取り組む
- 4) ウォームダウンを行う
- 5) リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価 ③春学期の結果と比較する
3	筋力の測定	<トレセン> ①ストレンクスマシンを利用した筋力測定と評価を行う ②春学期の結果と比較する
4	有酸素能力の測定	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②春学期の結果と比較する
5	シェイプアップ・トレーニングⅠ	<大学周辺> ①カルボネン法またはボルグ指数による運動強度でジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
6	シェイプアップ・トレーニングⅡ	<トレセン> ①パートナーストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
7	シェイプアップ・トレーニングⅢ	<トレセン> ①サーキットトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
8	シェイプアップ・トレーニングⅣ	<大学周辺> ①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する ②身体組成、活動量を測定し評価する

9	シェイプアップ・トレーニングV	<トレセン> ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングVI	<トレセン> ①バランスディスクを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングVII	<大学周辺> ①ジョギングを実践し運動強度を算出する ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングVIII	<トレセン> ①ストレンスマシンを主としたトレーニングの実践（遅筋繊維刺激する運動負荷で筋持久力を向上させる） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングIX	<トレセン> ①ストレンスマシンを用いたトレーニングの実践（パワーを向上させる方法） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	<トレセン> ①秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート：40%

※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から新設開講の授業であるため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. スポーツ科学Aを履修せずに、スポーツ科学Bのみを履修することは認めません。

基本的にスポーツ科学Aの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、スポーツ科学Aの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training. Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.

Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。運動不足で衰えた身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）で改善していくためのゼミナールです。健康の保持増進に必要な運動プログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレンクストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の1回目はガイダンス（教室）です。ガイダンス後に最大20名までの履修者を確定します。授業の2回目から以下の4期（目標、計画、実行・評価、反省・改善）に分けてゼミを進めていきます。主な教場は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）および大学周辺の歩道です。

1. 課題を検討し決める期間

自分自身の体力を把握するための測定と分析・評価を通じて、このゼミで取り組む課題（自分自身の身体や体力について改善したいこと）を明確にする期間です。

2. 計画を立案する期間

改善したい課題と段階的な目標を決める期間です。効果が期待できる適切な運動方法を実践を通じて決めていく（実行可能なデザイン作成）期間です。

3. 実行の期間

計画した運動を積極的に実行する期間です。実施した内容を正確に記録する方法を学習し、随時その結果を自己分析し、評価した結果をゼミ内で共有します。

4. 反省・改善の期間

運動の効果を検証し、ゼミ内で共有する期間です。春学期に取り組んだ過程をレポートにまとめ、秋学期に向けたより良い課題を見出します。

以上のように、本ゼミは教員からの一方的な講義を受けるのではなく、履修者が自主的・能動的にゼミ活動に取り組むことを重視した双方向性・相互啓発性の高い授業を目指し、その過程で運動不足の解消に役立つ実践的な健康づくりを学び、自身の課題解決につなげることをねらいとしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	課題検討期 I	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②ゼミで取り組む運動課題を検討する <大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う ③ゼミで取り組む課題を検討する
3	課題検討期 II	

4	課題検討期Ⅲ	<トレセン> ①柔軟性の測定と評価を行う ②ストレッチングの概説と実践
5	課題検討期Ⅳ	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事(摂取)・運動(消費)のバランスを考える ②ゼミで取り組む運動課題を検討する
6	課題検討期Ⅴ	<トレセン> ①ストレッチングマシンを利用した筋力測定と評価を行う ②運動課題の記録方法を確認する
7	計画立案期Ⅰ	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できる運動方法を定める
8	計画立案期Ⅱ	<教室> ①運動プログラムを試作する ②姿勢の評価を行う ③座位姿勢のストレッチングを実践する
9	計画実行期Ⅰ	<トレセン> ①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う ②実施した運動を記録する
10	計画実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの運動強度とセット数を修正する ②実施した運動を記録する
11	計画実行期Ⅲ	<大学周辺> ①適切な運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングを実践する ②実践した運動を記録する
12	計画実行期Ⅳ	<トレセン> ①運動プログラムの実践 ②実施した運動を記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①実践してきた運動の効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・総括	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著, 若さを伸ばすストレッチ, 平凡社新書
2. 伊藤マモル監, ひとりで巻けるテーピング, 日本文芸社
3. 伊藤マモル監, 基本のストレッチ, 主婦の友社
4. 斎藤真嗣著, 体温を上げると健康になる, サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した**8項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. ゼミ活動前の測定評価に関するレポート： **20%**
2. 運動プログラム： **20%**
3. ゼミ活動後の測定評価を検証したレポート： **20%**
4. 春学期の学修過程をまとめたレポート： **40%**

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から開講するゼミのため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が**20名**を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. **1**を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to act positively in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・脱運動不足と健康づくり（Basic course）」：木曜日2限の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも**体験や実習に多くの時間を割く**ことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

【到達目標】

- 1：目的に応じた運動方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践した運動の効果を検証できる
- 5：検証した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画した運動を実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回へのゼミ活動に活かします。

3. 総括・共有の期間

運動の効果を総括した結果をレポートにまとめ、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ	<トレセン> ①授業概要と目標の説明 ②健康づくりに必要な体力測定を行い評価する <教室>
2	課題・計画の検討期Ⅱ	測定結果を「夏季休暇前後」で比較し、新たな運動プログラムを模索する <トレセン>
3	課題・計画の検討期Ⅲ	①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②運動プログラムを試作する <トレセン>
4	課題・計画の決定期Ⅰ	①試作した運動プログラムを実践する ②実施した内容を正確に記録する <大学周辺または教室>
5	課題・計画の決定期Ⅱ	①取り組む課題を決定する ②運動プログラムを作成する <トレセン>
6	実行期Ⅰ	①作成したトレーニングプログラムを確認し見直す ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する

7	実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <大学周辺またはトレセン>
8	実行期Ⅲ	①運動プログラムを実行し、強度とセット数を決定する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
9	実行期Ⅳ	①運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
10	実行期Ⅴ	①運動プログラムの種目を見直し入れ替える ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <大学周辺またはトレセン>
11	実行期Ⅵ	①種目を入れ替えた運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
12	実行期Ⅶ	①運動プログラムの効果を検証するための測定方法を決める ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
13	総括・共有期Ⅰ	①実践してきた運動の効果を検証するための測定を行う ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する <トレセン>
14	総括・共有期Ⅱ	①秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるリアクションペーパー：30%
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から開講するゼミのため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートホン

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to act positively in class.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

LANf300LA

フランス語初級 I 2016 年度以前入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を著実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間試験	筆記試験または課題提出
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre

13	Leçon 6	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト (教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『Vas-y! : 初級フランス語 会話・文法そして文化』、駿河台出版社、2014年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『デイクロム和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017年度以降入学者

LANf300LA

フランス語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級Ⅰと継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験 (仏検) 4級~5級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞 (つづき) ・形容詞 ・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字 21~69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現 (つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・数字 70~100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い

- 13 Leçon 12 過去のことを言う (2)、否定する
・直接法大過去
・中性代名詞 y と le
・様々な否定表現
- 14 期末試験 筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著，『Vas-y!：初級フランス語 会話・文法そして文化』，駿河台出版社，2014年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年

西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ 仏和辞典』，駿河台出版社，2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANf300LA

上級フランス語 A

2017年度以降入学者

LANf300LA

フランス語中級 I

2016年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目標は、受講生がより高度なフランス語運用能力を獲得することです。そのために、口頭・筆記に関わる様々な練習をします。できるだけ実践的に言語を学びます。フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマを取り上げる授業です。中～上級の学生向けの授業です。

【到達目標】

学生は教員の解説を聞き、クラスの仲間と意見交換したり、資料に出ている語彙と今まで勉強したフランス語の知識を活かして文章を書きます。ビデオなどの資料を用いてフランス人の生活について知識を深めます。学生はフランス文化の知識を深めるだけではなく、筆記・口頭表現の強化を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

クラスディスカッション、グループディスカッション、書き取り、作文。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Les stéréotypes sur la France et les Français	フランスとフランス人についてのステレオタイプ
2	À la boulangerie	フランスのパン屋で。品揃いなど
3	À la boulangerie	フランスのパン屋で。店員と客の会話
4	Chez le boucher	肉屋で。品揃いなど
5	Chez le boucher	肉屋で。店員と客の会話
6	Au café	カフェで。フランスと日本の違い。
7	Au restaurant	レストランで。
8	Les plats préférés des Français	フランス人の好きな料理
9	Le repas des Français	フランスの食事
10	La délinquance en France	フランスの治安
11	Être en retard et s'excuser	時刻して謝る
12	Dans le métro	地下鉄で
13	Les Français et les vacances	フランス人とバカンス
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各授業後、復習が必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しなさい。

【参考書】

辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

一平常点（授業参加）：33%

一期末試験：33%

一小テスト：33%

この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意をすること。

【学生の意見等からの気づき】

対象外

【Outline and objectives】

In this class, intermediate and advanced students will study French at a higher level. They will put in practice their skills to understand different type of documents (video, infography, articles...). They will also write and speak to comment on different aspects of French culture and French people. Active participation is required.

LANF300LA

上級フランス語 B

2017 年度以降入学者

LANF300LA

フランス語中級 II

2016 年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目標は、受講生がより高度なフランス語運用能力を獲得することです。そのために、口頭・筆記に関わる様々な練習をします。できるだけ実践的に言語を学びます。フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマを取り上げる授業です。中～上級の学生向けの授業です。

【到達目標】

学生は教員の解説を聞き、クラスの仲間と意見交換をしたり、資料に出ている語彙と今まで勉強したフランス語の知識を活かして文章を書きます。ビデオなどの資料を用いてフランス人の生活について知識を深めます。学生はフランス文化の知識を深めるだけでなく、筆記・口頭表現の強化を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

クラスディスカッション、グループディスカッション、書き取り、作文。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Les sports les plus populaires en France	フランスでの人気なスポーツ
2	Les Français et le football	フランス人とサッカー
3	Au marché	市場で
4	À l'opéra, les Français et la musique	オペラ座で、フランス人と音楽
5	« Qu'est-ce qu'on fait ce week-end ? »	外出先を決める
6	Les Français et le travail	フランス人と仕事 (1)
7	Les Français et le travail	フランス人と仕事 (2)
8	Le logement des Français	フランス人の住まい
9	Le logement des Français	フランス人の住まい
10	La population française, l'immigration	フランスの人口・移民
11	Publicité française	フランスのコマーシャル
12	Noël et le nouvel an	クリスマスと年末年始
13	復習	復習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各授業後復習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。

【参考書】

辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加): 33%

期末試験: 34%

小テスト: 33% この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化をもっと紹介します。

【Outline and objectives】

In this class, intermediate and advanced students will study French at a higher level. They will put in practice their skills to understand different types of documents (video, infography, articles...). They will also write and speak to comment on different aspects of French culture and French people. Active participation is required.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待①

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化について学びます。各学部における専攻分野（ディシプリン）に沿った学びとは異なる、専攻が異なる人が共存する自由な学び（リベラルアーツ）の場です。

【到達目標】

1. フランスの地理、季節感、教育制度、食文化、政治制度、経済、余暇（ヴァカンス）の過ごし方、宗教、男女間の関係、フランス式のマナーなど、フランス社会で生活していく上での基礎知識を、（専門家としてではなく教養として）ある程度身に付けている。
2. 就職活動での面接などに際して、フランスについて語り得るテーマを何か一つもっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 教科書の輪読
2. 授業内での発表
3. 校外学習（授業内で相談のうえ、場所を決定し、学生が各自、授業外で行う）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	今学期のフランス関連イベントについての情報収集	各自のイベントに参加するか、複数のアイデアを考えた上で、担当講師や他の学生の意見も聞いて決める。
3	パリはなんと行って花の都	教科書 4-8 頁の講読、学生による発表
4	まとまりのよい国土	教科書 8-11 頁の講読、学生による発表
5	義務教育普及は日仏とも	教科書 12-18 頁の講読、学生による発表
6	第 1 回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】(エ)について報告する。
7	家庭ではフランス語を話さない地方がある	教科書 18-21 頁の講読、学生による発表
8	時代を逆に眺めるとだんだん減る国土	教科書 22-30 頁の講読、学生による発表
9	「国引き」の凄い話を一つ	教科書 30-34 頁の講読、学生による発表
10	第 2 回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】(エ)について報告する。
11	フランス人の頭に入っている古代史の要点	教科書 34-38 頁の講読、学生による発表
12	他の地方ではわからない地方の心	教科書 38-41 頁の講読、学生による発表
13	ケルト暮らしの長さは縄文暮らしに匹敵	教科書 42-46 頁の講読、学生による発表
14	第 3 回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】(エ)について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) このゼミ 1 回あたりの毎週の授業外学修時間が少なくとも 90 分になるようにすること。具体的には、(イ) 以下のことを行ってください。
(イ) 教科書の次回発表の範囲を読んできること。
(ウ) NHKBS に加入している人は、ワールドニュースの枠内で日仏同時通訳付きで毎日放映されている、公共放送 France2（フランス・ドゥー）のニュースを、録画するなどして観る。NHKBS に加入していない人は、他の方法を考えなくてはなりませんので、講師に相談してください。

(エ) 学生が各自授業内で行う校外学習：2019 年 4 月から 7 月の間に開催される、つぎの行事に 1 度は参加して下さい：フランスに関連する美術展や映画の上映、日仏会館（恵比寿）やアンステティエ・フランセ（飯田橋）で開催される講演会やイベント、在日フランス商工会議所が開催する企業フォーラムやインターンシップなど。授業内で概要や成果を報告していただきます【単位を修得する上で、授業内での成果報告が必須です。「成績評価の方法と基準」の項目（カ）を参照】。

【テキスト（教科書）】

篠沢秀夫『フランス三昧』中公新書、2006 年。

【参考書】

鹿島茂編『パスデイ・セイント』飛鳥新社、2000 年。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない (0%)
(イ) 期末レポート：実施しない (0%)
(ウ) 授業での教科書講読への参加の質および量 (20%)
(エ) (ウ) に関する授業内での発表の質および量 (20%)
(オ) 「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量 (20%)
(カ) (オ) に関する授業内での発表の質および量 (30%) ※必須です。
(キ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）(10%)

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿の提出やさまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN 接続の使い方をマスターすることパソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎しています。

【その他の重要事項】

- ①法政大学の学部に所属する 2～4 年生ならば、学部やキャンパスに関係なく、この授業で単位履修できます。詳しくは所属学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ②フランス語学習を含めたフランスの政治や社会に関する初中級の授業としては、「時事フランス語 I・II」を履修してください。
- ③語学の授業ではないフランス文化に関する特色ある授業としては「フランス生活文化論 LA/LB（服飾史）」(ILAC 学部の 1～4 年生向け、法政大学内他学部は 2～4 年生向け) がお勧めです。
- ④学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学各学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ⑤履修希望者が多数となった場合には、人数を制限することがあります。
- ⑥教科書となっている篠沢教授の文章は、初学者にわかりやすく、また人柄がしのばれて面白いですが、講師とは意見が異なる場合があります。

【Outline and objectives】

This interdepartmental seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待①

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化について学びます。各学部における専攻分野（ディシプリン）に沿った学びとは異なる、専攻が異なる人が共存する自由な学び（リベラルアーツ）の場です。

【到達目標】

1. フランスの地理、季節感、教育制度、食文化、政治制度、経済、余暇（ヴァカンス）の過ごし方、宗教、男女間の関係、フランス式のマナーなど、フランス社会で生活していく上での基礎知識を、（専門家としてではなく教養として）ある程度身に付けている。
2. 就職活動での面接などに際して、フランスについて語り得るテーマを何か一つもっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 教科書の輪読
2. 授業内での発表
3. 校外学習（授業内で相談のうえ、場所を決定し、学生が各自、授業外で行う）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	今学期のフランス関連イベントについての情報収集	各自のイベントに参加するか、複数のアイデアを考えた上で、担当講師や他の学生の意見も聞いて決める。
3	ローマ支配下の「ガロ＝ロマン」文明	教科書 46-50 頁の講読、学生による発表
4	フランク族のガロ＝ロマン化	教科書 50-55 頁の講読、学生による発表
5	ブルトン人がらみで仏英関係を見る	教科書 55-60 頁の講読、学生による発表
6	第1回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】（エ）について報告する。
7	ノルマン人がらみで仏英関係を見る	教科書 60-63 頁の講読、学生による発表
8	国家観念の芽生えは百年戦争	教科書 64-71 頁の講読、学生による発表
9	ルネッサンスは神に人間の尊厳を主張	教科書 71-75 頁の講読、学生による発表
10	第2回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】（エ）について報告する。
11	ナントの勅令は関が原の二年前	教科書 75-78 頁の講読、学生による発表
12	ブルボン王朝による国勢の得失	教科書 78-83 頁の講読、学生による発表
13	大革命によるキリスト教の否定	教科書 83-90 頁の講読、学生による発表
14	第3回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】（エ）について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）このゼミ1回あたりの毎週の授業外学修時間が少なくとも90分になるようにすること。具体的には、（イ）以下のことを行ってください。
（イ）教科書の次回発表の範囲を読んできること。
（ウ）NHKBSに加入している人は、ワールドニュースの枠内で日仏同時通訳付きで毎日放映されている、公共放送 France2（フランス・ドゥー）のニュースを、録画するなどして観る。NHKBSに加入していない人は、他の方法を考えなくてはなりませんので、講師に相談してください。

（エ）学生が各自授業内で行う校外学習：2019年9月から2020年1月の間に開催される、つぎの行事に1度は参加して下さい：フランスに関連する美術展や映画の上映、日仏会館（恵比寿）やアンステティテュ・フランセ（飯田橋）で開催される講演会やイベント、在日フランス商工会議所が開催する企業フォーラムやインターンシップなど。授業内で概要や成果を報告していただきます【単位を修得する上で、授業内での成果報告が必須です。「成績評価の方法と基準」の項目（カ）を参照】。

【テキスト（教科書）】

篠沢秀夫『フランス三昧』中公新書、2006年。

【参考書】

池上俊一『お菓子でたどるフランス史』岩波ジュニア新書、2013年。

【成績評価の方法と基準】

- （ア）定期試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業での教科書講読への参加の質および量（20%）
（エ）（ウ）に関する授業内での発表の質および量（20%）
（オ）「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量（20%）
（カ）（オ）に関する授業内での発表の質および量（30%）※必須です。
（キ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿の提出やさまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN接続の使い方をマスターすること
パソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎しています。

【その他の重要事項】

- ①法政大学の学部に所属する2～4年生ならば、学部やキャンパスに関係なく、この授業で単位履修できます。詳しくは所属学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ②フランス語学習を含めたフランスの政治や社会に関する初中級の授業としては、「時事フランス語Ⅰ・Ⅱ」を履修してください。
- ③語学の授業ではないフランス文化に関する特色ある授業としては「フランス生活文化論 LA/LB（服飾史）」（ILAC 学部の1～4年生向け、法政大学内他学部は2～4年生向け）がお勧めです。
- ④学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学各学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ⑤履修希望者が多数となった場合には、人数を制限することがあります。
- ⑥教科書となっている篠沢教授の文章は、初学者にわかりやすく、また人柄がしのばれて面白いですが、講師とは意見が異なる場合があります。

【Outline and objectives】

This interdepartmental seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会問題

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce premier semestre, les étudiants, en petit groupe, présentent un thème social ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre TOUS les étudiants. Voici quelques exemples de thèmes : la crise sociale (mouvement des Gilets Jaunes); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les difficultés de la jeunesse ; les atouts de la France ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau A2/B1+) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis. Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :
- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.
Nous pourrions aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite ou excursion...

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales

⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	- dissertation individuelle rendue en cours - courte note de recherche personnelle rédigée en classe
---	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.
(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布). Mais une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera distribuée pour une lecture fortement recommandée.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests fréquents).

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】

Students, individually or in small groups, present a social or historical theme on contemporary France. This is a seminar aimed at developing academic skills. Intermediate and advanced level in French.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce semestre, les étudiants, en petit groupe, présentent un thème social ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant quelques séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre TOUS les étudiants.

Voici quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer...); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma francophone ; littératures francophones ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare directement à un séjour en université francophone (méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau A2/B1+) ou DAPF ("kentei-shiken": 2 kyû+). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis. Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orale ou écrite, grâce à la pratique des moyens de recherche et d'analyse suivants :

- résumé écrit ou oral.
- note de lecture ou de compte-rendu.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

Nous pourrions aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite voire excursion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème

⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	- dissertation individuelle rendue en cours - courte note de recherche personnelle rédigée en classe

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas, en principe, de manuel mais des photocopiés, souvent distribués.

(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence pourront être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou commentaire) (レポート)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests fréquents).

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

Students, individually or in small groups, present a social or historical theme on one or more countries of the francophonie (french-speaking community). This is a seminar aimed at developing academic skills. Intermediate and advanced level in French.

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

LANF300LA

フランス語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Dans ce cours, nous étudierons quelques textes de la littérature française ou francophone des XXe et XXIe siècles. Avec le plaisir de leur lecture, nous découvrirons leurs auteurs et le contexte culturel de leur production (histoire, localisation, genre et effets littéraires).

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants relativement confirmés (niveau A2-B1), notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare aussi aux examens de type DELF ou "Kentei-shiken". Le plaisir de la lecture se doublera d'une meilleure compréhension et production de l'écrit, sans oublier l'oral.

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

L'étude porte sur la lecture, la compréhension et la reproduction de textes écrits. Divers exercices, faciles d'accès et gradués, seront proposés. Périodiquement, un ou plusieurs élèves présenteront un travail plus important (fiche et compte-rendu de lecture, explication de texte, résumé-analyse, exposé). Des activités orales souvent ludiques (jeu de rôle, théâtre) compléteront ce travail sur l'écrit.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours et de la méthode.
②	Le Petit Prince, d'Antoine de Saint-Exupéry	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
③	L'oeuvre de Saint-Exupéry	Critique du Petit Prince. Présentation d'autres oeuvres de Saint-Exupéry.
④	Désert, de J-M-G Le Clézio	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑤	L'oeuvre de Le Clézio	Critique de Désert. Présentation d'autres oeuvres de Le Clézio.
⑥	Les Soleils des indépendances, d'Ahmadou Kourouma	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑦	Les écrivains francophones d'Afrique	Critique des Soleils des indépendances. Présentation d'autres oeuvres de la littérature africaine francophone.
⑧	Une enfance créole, de Patrick Chamoiseau	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑨	Les écrivains francophones de la Caraïbe.	Critique d'une Enfance créole. Présentation d'autres oeuvres francophones des Amériques.
⑩	L'Amant, de Marguerite Duras	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑪	L'oeuvre de Marguerite Duras	Critique de L'Amant. Présentation d'autres oeuvres de Duras.
⑫	La Condition humaine, d'André Malraux	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑬	L'oeuvre d'André Malraux. Les écrivains "engagés".	Critique de La Condition humaine. Panorama de quelques auteurs engagés.

- ⑭ Cannibale, de Didier Daeninckx L'oeuvre de Didier Daeninckx. L'essor de la littérature policière en France.

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト(教科書)】

Pas de manuel, mais des photocopiés souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant doit déjà posséder.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

50% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, etc.) (積極性)

50% = exposé et compte-rendu (口頭発表・作文)

【学生の意見等からの気づき】

L'accent sera mis sur les techniques de présentation à l'oral (débats et exposés) comme à l'écrit (compte-rendu, résumé, technique de plan, dissertation).

【学生が準備すべき機器他】

Dans ce labo de langues (LL 教室), les étudiants peuvent enregistrer le son du cours et des supports de cours (録音機の持ち込み可)。

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

We will study, through some extracts, texts of French or French literature of the 20th and 21st centuries. French Intermediate Level (A2/B1).

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

LANF300LA

フランス語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Dans ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présentent un film francophone, dont ils analysent quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartient à un genre cinématographique particulier.

D'autres types d'oeuvres pourront aussi être étudiés (chansons, textes, bandes dessinées, etc.)

【到達目標】

Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.

Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)

Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Après la présentation d'un film francophone par quelques étudiants, 3 scènes importantes de ce film seront choisies pour le travail de toute la classe. L'étude de ces scènes sélectionnées permettra d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites. Puis des exercices seront effectués en relation avec les scènes étudiées : technique du résumé écrit ou oral, substitution de dialogues, jeux de rôles, analyse stylistique ou cinématographique, révision des points de grammaire, expression des nuances, etc.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le second semestre - attribution des premiers exposés (présentation d'un film)
②	FILM 1 (1)	Présentation critique du film 1, travail sur une première scène
③	FILM 1 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
④	FILM 1 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑤	FILM 2 (1)	Mini-test sur film 1. Présentation critique du film 2, travail sur une première scène
⑥	FILM 2 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑦	FILM 2 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑧	FILM 3 (1)	Mini-test sur film 2. Présentation critique du film 3, travail sur une première scène
⑨	FILM 3 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑩	FILM 3 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑪	FILM 4 (1)	Mini-test sur film 3. Présentation critique du film 4, travail sur une première scène
⑫	FILM 4 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑬	FILM 4 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales

- ⑭ Récapitulatif du cours Mini-test sur film 4.
Discussion sur les caractéristiques des films présentés : la notion de genre cinématographique...

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト(教科書)】

Pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués.
(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

60% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, mini-tests) (積極性)

40% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer expressions ou mots nouveaux (mini-tests après l'étude de chaque film).

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

Students, either individually or in small groups, present and analyse a French-language film. Each selected film belongs to a particular genre. A few scenes are then selected to be studied in depth by all the class. Intermediate level in French (A2/B1).

LANF300LA

フランス語表現法 A 2017 年度以降入学者

LANF300LA

フランス語表現法 I 2016 年度以前入学者

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。

Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。

L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ビデオが呈示され、授業で発表されたテーマの表現や語彙を発見するために、筆者が書き写しに取り組みます。

Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ビデオ 1a 読書/発音。 Vidéo 1a Lecture/ prononciation.	博物館 Un Musée
2 回目	ビデオ 1b 語彙と文法 Vidéo 1b Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
3 回目	ビデオ 1c 学生の発表 Video 1c Présentation des étudiants	博物館の会話する Discussion sur le musée
4 回目	ビデオ 2 a 読書/発音。 Video 2a Lecture/ prononciation.	仕事 Un métier
5 回目	ビデオ 2b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
6 回目	ビデオ 2c 学生の発表 Présentation des étudiants	仕事の会話する Discussion sur le métier
7 回目	ビデオ 3a 読書/発音。 Lecture/ prononciation.	レストラン Un restaurant
8 回目	ビデオ 3b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
9 回目	ビデオ 3c 学生の発表 Présentation des étudiants	レストランの会話する Discussion sur le restaurant
10 回目	ビデオ 4a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	モニュメント Un monument
11 回目	ビデオ 4b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
12 回目	ビデオ 4c 学生の発表 Présentation des étudiants	モニュメントの会話する discussion sur le monument

13 回目	Video 5a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	店 Un magasin
14 回目	Video 5b 語彙と文法 Lexique et Grammaire 学生の発表 Présentation des étudiants	理解の問題の修正と会話する Correction des questions de compréhension et discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学んで

Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし Pas de manuel

【参考書】

辞書

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在と参加 La présence et la participation en classe : 60%.

最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

devoirs

【Outline and objectives】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。

Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

LANF300LA

フランス語表現法 B

2017 年度以降入学者

LANF300LA

フランス語表現法 II

2016 年度以前入学者

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ビデオが呈示され、授業で発表されたテーマの表現や語彙を発見するために、筆者が書き写しに取り組みます。Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Vidéo 6a 読書/発音。Lecture/ prononciation.	有名な場所 Un lieu célèbre
2 回目	Vidéo 6b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
3 回目	Video 6c 学生の発表 Présentation des étudiants	有名な場所での議論 Discussion sur un lieu célèbre
4 回目	Video 7a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	料理 La cuisine
5 回目	Video 7b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
6 回目	Video 7c 学生の発表 Présentation des étudiants	料理の会話する Discussion sur la cuisine
7 回目	Video 8a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	映画 Un film
8 回目	Video 8b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
9 回目	Video 8c 学生の発表 Présentation des étudiants	映画の会話する Discussion sur le film
10 回目	Video 9a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	学校 Une école
11 回目	Video 9b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
12 回目	Video 9c 学生の発表 Présentation des étudiants	学校の会話する discussion sur une école
13 回目	Video 10a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	パリ Paris

14 回目 Video 10b
語彙と文法と学生の発表
Lexique et Grammaire
et Présentation des
étudiants

理解の問題の修正と会話する
Correction des questions de
compréhension et discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学んで

Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし

pas de manuel

【参考書】

辞書

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在感とクラスへの参加：60%。

最終試験：40%

La présence et la participation en classe：60%.

L'examen final：40%

【学生の意見等からの気づき】

devoirs

【Outline and objectives】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語初級 I 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前編）。文字と発音、名詞の性と数、動詞の現在形など。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語 B」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。「ロシア語初級 I」では、文字と発音の練習に十分時間をかけます。第 1 回から第 5 回までがこれにあてられますが、その後も継続します。春学期はほぼこれにつきると言ってもよいでしょう。加えて最も初歩的な文法事項のみ（名詞の性・数、動詞の現在形など）を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	硬母音字、子音字、アクセント
第 2 回	文字と発音 2	軟母音字、半母音字、子音字、
第 3 回	文字と発音 3	硬子音と軟子音、軟音記号
第 4 回	文字と発音 4	発音の規則、子音字
第 5 回	文字と発音 5	無声子音と有声子音子音字、発音の規則、硬音記号
第 6 回	「これは誰ですか」	疑問文と平叙文、名詞の性
第 7 回	「彼はロシア人です」	名詞の性と形容詞の変化
第 8 回	「私の家族」	名詞の性と所有代名詞の変化
第 9 回	「私の両親」	名詞の複数形と所有代名詞の変化
第 10 回	「私は散歩しています」	人称代名詞、動詞の現在形（第 1 変化）
第 11 回	「私は話します」	動詞の現在形（第 2 変化）
第 12 回	「私は好きです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 13 回	「私は魚が好きです」	名詞の対格
第 14 回	期末試験	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the present tense of verbs, etc.)

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語初級 II 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。名詞の格、動詞の未来形と過去形、移動の動詞、動詞の体など。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語 A」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。秋学期は、やや進んだ文法（名詞の格、動詞の未来形と過去形、動詞の完了体と完了体）を学びます。学期の最後には、ロシア語の全体像が見えることになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「教えてください」	動詞の命令形
第 2 回	「私は話したいです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 3 回	「どこへ行くのですか」	移動の動詞
第 4 回	「モスクワの地図」	名詞の生格
第 5 回	「私は持っています」	所有の表現
第 6 回	「何曜日ですか」	曜日の表現、数詞
第 7 回	「私は散歩するつもりです」	動詞の未来形
第 8 回	「モスクワで」	名詞の前置格と場所の表現
第 9 回	「あなたは何をしましたか」	動詞の過去形
第 10 回	「誰に書きますか」	名詞の与格
第 11 回	「アントンと」	名詞の造格
第 12 回	「あなたは解いてしまいましたか」	動詞の体と動詞の過去形
第 13 回	「私は解いてしまいます」	動詞の体と動詞の現在形および未来形
第 14 回	期末試験	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, the future and past tenses of verbs, verbs of motion, verb aspects, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 A 2017年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語中級 I 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2-B1 レベルの受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア文化や歴史についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「出身」(1)	文法復習。「出身」テキストの読解、質疑応答
2	「出身」(2)	「出身」テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	「外国語」(1)	「母国語と外国語」テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	「外国語」(2)	「母国語と外国語」の読解、質疑応答、文法練習
5	「家族」(1)	「私の家族」テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	「家族」(2)	「私の家族」テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	「学習」(1)	「私は学生」テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	「学習」(2)	「私は学生」テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	接続詞がある複文 (1)	接続詞の練習
10	接続詞がある複文 (2)	「劇場」テキストの聴解、読解、質疑応答
11	動詞の体 (1)	不完了・完了動詞の練習
12	動詞の体 (2)	「ルティーナ」テキストの聴解、読解、質疑応答
13	動詞の体 (3)	不完了・完了動詞の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続できるスマートフォン又は PC。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing and listening skills in Russian language.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語中級Ⅱ 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2-B1レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア文化や歴史についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「どこから来ましたか」-1	文法の復習
2	「どこから来ましたか」-2	テキストの読解、会話練習
3	関節発話の構文	文法練習
4	運動動詞-1	文法練習
5	運動動詞-2	「友達」テキストの聴解、読解、会話練習
6	不規則動詞-1	文法練習
7	不規則動詞-2	「変な男」テキストの読解、聴解、会話練習
8	который 構文	文法練習
9	「хочу, могу, должен」の活用-1	文法練習、会話練習
10	「хочу, могу, должен」の活用-2	「すべてはあるべきと違う」テキストの読解、聴解、会話練習
11	学習動詞-1	文法練習、会話練習
12	学習動詞-2	「習い方を習う」テキストの読解、聴解、会話練習
13	学習動詞-3	復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続できるスマートフォンまたはPC。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing / listening skills in Russian language.

LANr300LA

実用ロシア語 A 2017年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語コミュニケーションⅠ 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力を伸ばします。ロシア留学またはロシア語能力試験（ТРКИ B2）1級を目指す方におすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ТРКИ）B1-B2レベルの文章の聞き取りができること。同レベルのロシア語能力試験（ТРКИ）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使った会話練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システムにて使用できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介、学生のプロフィール
2	留学-1	入学手続き、学生課に相談
3	留学-2	大学の時間割、授業で使う表現
4	学生寮-1	入寮申請、入寮手続き
5	学生寮-2	寮でのトラブル
6	街を歩く	道の尋ね方、道の案内
7	交通手段-1	モスクワ地下鉄の乗り方、ルートの案内
8	交通手段-2	バスや路面電車を使う表
9	買い物-1	食料品の買い方
10	買い物-2	市場で使う表現
11	病院-1	予約、病院の受付にて
12	病院-2	診察で使う表現
13	総合復習	1～13の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った聴解の宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

和久利智一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、出席率・宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできるPC又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語コミュニケーション II

2016 年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓練を通じて、ロシア語コミュニケーション能力を伸ばします。
ロシア留学またはロシア語能力試験（ТРКИ B2）・ロシア語能力検定試験 3 級の受験を目指す方におすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ТРКИ B1～B2）レベルの文章を聞き取りができること。同レベルのロシア語能力試験（ТРКИ）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使う会話練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	郵便局-1	手紙、小包を送る
2	郵便局-2	書留、ファックスなどを送る
3	電話-1	電話をかける、電話にでる表現
4	電話-2	必要な情報を電話で聞く、チケットを予約する；電話で打ち合わせをする
5	天気予報	天気予報をラジオで聞く；国の気候の話をする
6	暇な時間	友達が開いたのホームパーティーに行く
7	劇所や映画	劇所等のチケットの買い方や劇・映画の種類；映画の話をする
8	美術館	美術館に誘う、チケットを買う；美術展に関する印象を述べる
9	人の外見	人の特徴を伝える
10	洋服	洋服に関する表現
11	インターネット-1	パソコン・インターネット利用に関する表現
12	インターネット-2	コンピューターゲーム、ソーシャルネットワークに関する表現
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

和久利誓一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語講読 I 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。本学期は、長文を読んでいく上で必要となる読解の基礎を学びます。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。ロシア語による内容理解の練習や付随する文法の練習問題も行います。

【到達目標】

辞書を用いてロシア語の文章を日本語に訳すことができる、ロシア語での質問を理解し、的確にロシア語で答えることができる。読解した内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストの音読、日本語への訳出、文法事項の説明と練習を中心に授業を行います。テキストの内容に関してロシア語での言い換えの練習なども行います。

なお、授業の進度と取り扱うテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法事項の確認	既習文法事項の復習
2	ロシア語構文の特徴	ロシア語構文の説明と練習
3	複文講読(1)	関係代名詞を含む文を読む
4	複文講読(2)	副動詞を含む文を読む
5	複文講読(3)	能動形動詞を含む文を読む
6	複文講読(4)	被動形動詞を含む文を読む
7	文章講読(1)	文学作品に触れる
8	文章講読(2)	歴史を読む(数詞を含む表現)
9	文章講読(3)	歴史を読む(年月日の表現)
10	文章講読(4)	文化を読む(再帰動詞)
11	文章講読(5)	社会を読む(運動動詞)
12	文章講読(6)	社会を読む(様々な慣用表現)
13	文章講読(7)	昔話を読む(音読練習)
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語を調べ、テキストを日本語に訳してみる。格変化形は何度も復習をして自分のものにする。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書、『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50%、学期末試験 50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生全員が同じレベルではないため、学生ひとりひとりに対する指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically texts will be translated from Russian to Japanese, but sometimes from Japanese to Russian.

LANr300LA

ロシア語講読 B 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語講読 II 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

様々なテーマの文章を読むことで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。また、授業を積み重ねることでロシアの歴史やロシア社会に対する理解を深め、さまざまな角度からロシアをとらえることも、この授業の大きな目的となります。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。ロシア語の会話を理解し、的確に応えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの音読、日本語への訳出、内容に関する質疑応答が授業の基本となります。ロシアを多角的に理解できるように視聴覚教材（映画など）を用いることもあります。授業の予定やテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文章講読(1)	歴史を読む(現代①)
2	文章講読(2)	歴史を読む(現代②)
3	文章講読(3)	政治を読む
4	ロシア映画(1)	リスニング・会話練習
5	ロシア映画(2)	一場面の音読練習
6	文学作品(1)	昔話を読む
7	文学作品(2)	文学作品を読む
8	ロシア映画(3)	内容を文章にする試み
9	ロシア映画(4)	内容を言葉にする試み
10	文章講読(4)	政治家の演説を読む①
11	文章講読(5)	政治家の演説を読む②
12	文章講読(6)	政治家の演説を読む③
13	文章講読(7)	新年に関する文章を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で確認し、わからないことはまず自分で調べる習慣をつける。格変化形、動詞の活用は覚える努力をすること。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書と『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50%、学期末試験 50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生ひとりひとりにあわせた指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand those texts written in Russian on various themes. It also enhances listening and conversation skills of students using materials such as movies. Ultimately cultivate the ability to see Russia diversified.

LANr300LA

時事ロシア語 A 2017 年度以降入学者

LANr300LA

時事ロシア語 I 2016 年度以前入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的文章を辞書を用いながら読むことができる。(2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治	文章の講読と語彙・文法事項の確認
3	経済	文章の講読と語彙・文法事項の確認
4	外交	文章の講読と語彙・文法事項の確認
5	軍事	文章の講読と語彙・文法事項の確認
6	司法	文章の講読と語彙・文法事項の確認
7	社会	文章の講読と語彙・文法事項の確認
8	文化	文章の講読と語彙・文法事項の確認
9	スポーツ	文章の講読と語彙・文法事項の確認
10	自由テーマ①	受講者のテーマ選択による記事の講読
11	自由テーマ②	受講者のテーマ選択による記事の講読
12	自由テーマ③	受講者のテーマ選択による記事の講読
13	自由テーマ④	受講者のテーマ選択による記事の講読
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳もしくは要約を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANr300LA

時事ロシア語 B 2017 年度以降入学者

LANr300LA

時事ロシア語 II 2016 年度以前入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事など、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済・ビジネス、外交・国際関係、社会について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的文章を辞書を用いながら読むことができる。(2) 現在のロシアにおける政治・経済・外交に関わる様々なテーマについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。読む文章は受講者の関心に合わせて選択する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治①	ロシアの内政に関する記事の講読
3	政治②	ロシアの内政に関する記事の講読
4	小括	記事の要約の発表
5	経済・ビジネス①	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
6	経済・ビジネス②	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
7	小括	記事の要約の発表
8	外交・国際関係①	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
9	外交・国際関係②	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
10	小括	記事の要約の発表
11	社会①	ロシア社会に関する記事の講読
12	社会②	ロシア社会に関する記事の講読
13	小括	記事の要約の発表
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳もしくは要約を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, and society in present Russia.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語初級 I 2016 年度以前入学者

廣野 行雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すでに第一、第二外国語を履修した学生が、それ以外に中国語を学ぶためのクラスです。中国語を母語としない人が、中国語を学習するために必要な知識を学び、学習を継続し発展させていくための学力を養成を目指します。

【到達目標】

まず中国語の漢字音を正しく発音し聞き取れるようにピンインというローマ文字母を習得します。中国語は、声調によって語の意味を識別するという独特な性格があります。正しく声調を発音し聞き分けられるようになることを目指します。次に基本的な語彙と文型を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの課をおって講義を進めていきます。しかし、いうまでもないことですが、語学学習、特に初習の語学には、学習者の主体的な実践が欠かせません。練習問題による予習など積極的な取り組みが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容、到達目標の確認などを行う。
第2回	第1課～第3課	単母音、二重母音、三重母音の発音、人称代詞
第3回	第4課～第6課	母音学習のまとめ、尾音 n,ng をもつ複合母音、さまざまな述語
第4回	第7課～第9課	声調、捲舌母音、子音、疑問文
第5回	第10課～第12課	子音、声調変化、軽声、判断文
第6回	第13課、14課	発音のまとめ
第7回	第15課、16課	数詞、量詞
第8回	第17課、18課	存現文、持続態
第9回	第18課、19課	持続態、方位詞
第10回	第20課、21課	合成方位詞、完了態
第11回	第21課、22課	完了態、形容詞・数量詞の重ね型
第12回	第23課、24課	介詞構文、状態補語、結果補語
第13回	第24課、Aのまとめ	状態補語、結果補語、Aにおける重要学習事項の確認
第14回	学期末試験	学力検測のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習にとって予習復習は必要不可欠なものです。週に一回しかない授業ですので、授業が復習の場になるような十分な予習を期待します。「学習のポイント」で取りあげられているのは、必ずおぼえましょう。

【テキスト（教科書）】

興水 優著「中国語ステップ I」東方書店刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などの辞書。紙の辞書には及ばないが電子辞書も可。辞書をもつことは、単に学習に役立つだけでなく、自分自身に学習を続ける自覚を促す意味もある。

【成績評価の方法と基準】

学習態度（授業への参加度、予習復習、積極的な質問）50%。期末試験50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないように、双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

A（前期）においては、発音の習得が主なテーマになりますので、主要な文法的知識の習得はBにおいてなされるので、できうるかぎりABを通じての履修が望ましい。

学ぶこと、特に語学学習は、履修者の主体的・実践的な授業参加が欠かせません。その自覚を高めるためにも、途中の休憩時間以外に飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語初級Ⅱ 2016 年度以前入学者

廣野 行雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期の A に引き続き、中国語の基礎的な語彙、文法等を学ぶ。

【到達目標】

正確な発音の定着と必須語彙、文法事項を身につけ、中国語の学習を続けていく力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前期にひきつづいて、テキストの記述にしたがって、内容の説明を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	前期Aのふりかえり	前期試験問題の解説
	第25課	動詞の重ね形
第2回	第25課、26課	経験態、使役の表現、処置文
第3回	第26課	条件節、助動詞「会」、動作量
第4回	第27課	方向補語、可能補語
第5回	第28課	複合方向補語、受動態
第6回	第29課、30課	介詞の結果補語、複文の接続
第7回	第31課	助動詞「要」、時量補語、使役の表現
第8回	第32課	接続詞、呼応表現、助動詞「可能」
第9回	第33課	将来態、連用修飾語
第10回	第34課	助動詞「要」の多様表現、呼応表現
第11回	第35課	介詞「給」、金銭単位
第12回	第36課	助動詞「可以」、動作の対象を示す介詞
第13回	まとめ	重要文法事項再確認
第14回	期末試験	学力検測のために試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期 A 同様、予習に重点を置き、授業で疑問点を解消するよう努める。自分の学力の向上を確認するため、テレビ、ラジオの中国語講座を利用したり、図書館などで中国語の新聞、雑誌の解説に挑戦してみる。

【テキスト（教科書）】

奥水 優著「中国語ステップⅠ」東方書店刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などを購入することを強く勧める。

【成績評価の方法と基準】

受講態度（授業参加姿勢、予復習、質問）50%と期末試験 50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならぬよう、質問のやりとりを通じて双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

読解力、会話力いずれにせよ文法的知識がなければ、その効果的な向上は望めません。A、B を通した通年履修を強く勧めます。

A 同様、途中に設ける休憩時間を除いて、飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語視聴覚中級 A 2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語学教材用に録音されている音声教材を用いて、リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。同時に、中国文化への理解も深めます。中検 3 級、HSK3・4 級のレベルに相当する。

【到達目標】

2 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。正確な標準語の発音を身につけて、より自然な中国語を身につけることを目標とする。中検 2 級を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。

正確な標準語を話すための発音指導も行う。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

中国語作文・会話練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1回	文法理解と会話①
3	第2回	映像と質疑応答①
4	第3回	文法理解と会話②
5	第4回	映像と質疑応答②
6	第5回	文法理解と会話③
7	第6回	映像と質疑応答③
8	第7回	文法理解と会話④
9	第8回	映像と質疑応答④
10	第9回	文法理解と会話⑤
11	第10回	映像と質疑応答⑤
12	第11回	文法理解と会話⑥
13	第12回	映像と質疑応答⑥
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the intermediate audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc300LA

中国語視聴覚中級B

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語学教材用に録音されている音声教材を用いて、リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。同時に、中国文化への理解も深めます。中検3級、HSK3・4級のレベルに相当する。

【到達目標】

2年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。正確な標準語の発音を身につけて、より自然な中国語を身につけることを目標とする。中検2級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。

正確な標準語を話すための発音指導も行う。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

中国語作文・会話練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1回	リスニングと質疑応答①
3	第2回	リスニングと質疑応答②
4	第3回	リスニングと質疑応答③
5	第4回	リスニングと質疑応答④
6	第5回	リスニングと質疑応答⑤
7	第6回	リスニングと質疑応答⑥
8	第7回	リスニングと質疑応答⑦
9	第8回	リスニングと質疑応答⑧
10	第9回	リスニングと質疑応答⑨
11	第10回	グループディスカッション①
12	第11回	グループディスカッション②
13	第12回	グループディスカッション③
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the intermediate audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	ピンイン	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	日常用語	あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	会話（1）	自己紹介
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を各自に発表する
第6回	文法（1）	中国語の基本構文と品詞
第7回	文法（2）	連体修飾語と連用修飾語
第8回	文法（3）	補語
第9回	文法（4）	「着」「了」「過」
第10回	読解（1）	文法の問題を解く
第11回	読解（2）	長文読解をする
第12回	会話（2）	買い物する時の会話パターンを作る
第13回	授業内発表（2）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	全体の復習及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習する。

オリジナルの会話パターンを作る。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100点）を基本とする。

授業内発表の出来や学習態度も平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容を復習する
第2回	文法（5）	接続詞と複文
第3回	作文（1）	長文作文のイロハ
第4回	作文（2）	作文を添削する
第5回	会話（3）	レストランでの会話パターン
第6回	授業内発表（3）	レストランにて
第7回	会話（4）	道を尋ねる/教える
第8回	授業内発表（4）	道を尋ねる/教える
第9回	会話（5）	スピーチ/ものを語る
第10回	授業内発表（5）	スピーチ/ものを語る
第11回	ヒアリング（1）	映像教材を使って聞き取りをする
第12回	ヒアリング（2）	映像教材の聞き取り
第13回	復習	文法と作文の復習
第14回	まとめ	口頭発表と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習する。
オリジナルの会話パターンを作る。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50点）と口述試験（50点）を併せて評価する。学習態度や授業内発表の出来も平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳A 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

葉 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面で日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%（授業への参加度 10%）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ 2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面の日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面の通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語表現法Ⅲ 2016 年度以前入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 慣用句・略語・ 背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳1 同形語 難訳単語・ 四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 役職名、敬称、 ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 フォーマルな表現、 定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 文章記号と表記 ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
8	通訳3 数字、固有名詞、 リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 スピードを求められる 通訳、報道の表現、 専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳4 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ）
12	通訳5 講演の定型表現、 現場での対応	L 7 逐次通訳演習
13	翻訳5 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連 テーマ）
14	翻訳・通訳	総復習 既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明と文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳D

2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語表現法IV

2016年度以前入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫 コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 パブリックス ビーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、 外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳4 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ～2）
10	通訳5 司会進行、文語的表現	L 13 逐次通訳演習 L 14 環境問題（1） リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳5 時事翻訳3	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～ 1）
12	通訳6 ディスカッションの通訳	L 14 環境問題（2）逐次通訳演習
13	翻訳6 時事翻訳4	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～ 2）
14	翻訳・通訳	総復習既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリアクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明や文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語講読 I

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

【到達目標】

中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1～4 級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で配布する教材を輪読します。中国語の基礎を復習しながら、一文一文を丁寧に読み進め、時間があれば関連する映像資料も鑑賞し、耳から中国語に慣れる練習もする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
第 2 回	物語を読む	昔話・童話講読（1）
第 3 回	物語を読む	昔話・童話講読（2）
第 4 回	物語を読む	成語故事講読（1）
第 5 回	物語を読む	成語故事講読（2）
第 6 回	国語教材を読む	小学国語教材講読（1）
第 7 回	国語教材を読む	小学国語教材講読（2）
第 8 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（1）
第 9 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（2）
第 10 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（1）
第 11 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（2）
第 12 回	ニュースを読む	「人民日報」講読（1）
第 13 回	ニュースを読む	「人民日報」講読（2）
第 14 回	授業内試験	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に単語の意味を調べ、自分なりの日本語訳を考えて授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜配布します。

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳の発表）50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese reading comprehension course for intermediate learners. The aim of this course is to improve comprehension skill through reading stories, newspapers and magazine articles.

LANc300LA

中国語講読 B 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語講読 II 2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

【到達目標】

中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1～4 級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で配布する教材を輪読します。中国語の基礎を復習しながら、一文一文を丁寧に読み進め、時間があれば関連する映像資料も鑑賞し、耳から中国語に慣れる練習もする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
第 2 回	物語を読む	昔話・童話講読（1）
第 3 回	物語を読む	昔話・童話講読（2）
第 4 回	物語を読む	成語故事講読（1）
第 5 回	物語を読む	成語故事講読（2）
第 6 回	国語教材を読む	小学国語教材講読（1）
第 7 回	国語教材を読む	小学国語教材講読（2）
第 8 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（1）
第 9 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（2）
第 10 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（1）
第 11 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（2）
第 12 回	ニュースを読む	「人民日報」講読（1）
第 13 回	ニュースを読む	「人民日報」講読（2）
第 14 回	授業内試験	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に単語の意味を調べ、自分なりの日本語訳を考えて授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜配布します。

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳の発表）50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese reading comprehension course for intermediate learners. The aim of this course is to improve comprehension skill through reading stories, newspapers and magazine articles.

LANc300LA

資格中国語中級 A 2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語 III 2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング [約 30 分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

①パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK** リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。

②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。
 ・劉月華（他）2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
 ・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
 ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、

そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]

②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーション

トレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]

以上の①と②を総合して 100 % とし、60 % 以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。

・**HSK** 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ることを。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅳ

2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、**HSK**（漢語水平考）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。**HSK**（漢語水平考）とは、中国語版 **TOEFL** と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、**HSK4** 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

(1) 過去問題のディクテーションを通じて、**HSK4** 級合格に必要なリスニング力を身につける。

(2) 過去問題を解き、**HSK4** 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK3** 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング [約 30 分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策 ①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策 ②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK4 級リスニング対策 ③	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策 ④	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策 ⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策 ⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策 ⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策 ⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策 ⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (41-45) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題 (46-85) の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題 (86-100) の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ①パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK** リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。
・劉月華（他）2001『实用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

- ①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]
以上の①と②を総合して 100 % とし、60 % 以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅲ

2016 年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	レベルチェック HSK 合格の基準 HSK 5・6 級に到達する概要
第 2 回	HSK5 級の練習	「的」の使い方のみ
第 3 回	HSK5 級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第 4 回	作文の基礎	作文の練習（400 字） 練習問題など
第 5 回	HSK5 級の練習	作文の問題点など
第 6 回	HSK5 級の練習	結果補語など
第 7 回	HSK5 級の練習	比較の表現 逆接の表現など
第 8 回	HSK5 級の練習	二重目的語 動詞述語文のみ
第 9 回	HSK5 級の練習	目的語になる動詞句と主述句など
第 10 回	HSK5 級の練習	作文の練習（400 字） 作文の問題点など
第 11 回	HSK5 級の練習	練習問題 連用修飾語 前置詞など
第 12 回	HSK5 級の練習	主語になる動詞句 慣用形など
第 13 回	HSK5 級の練習	絵を見て作文練習（400 字） 作文の問題点
第 14 回	総復習	翻訳の練習 補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のプリントをちゃんと準備すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されてました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅳ

2016 年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2 回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3 回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4 回	作文など	作文練習（400 字）
5 回	作文など	作文指導など
6 回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文など	作文練習（400 字）
9 回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10 回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
12 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
13 回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと用意すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において、地理的な条件、気候風土、生活習慣などが、人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』を見ながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

映像資料の鑑賞・文献の講読や、中国の地理、地域の特色、料理、調理方法、年中行事などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』の中国語テキストを日本語に翻訳する作業を行います。中国語未習者も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	中国各地の家庭料理（1）	山西の「 <input type="checkbox"/> 面」(1)
第3回	中国各地の家庭料理（2）	山西の「 <input type="checkbox"/> 面」(2)
第4回	中国各地の家庭料理（3）	上海の「 <input type="checkbox"/> 肉」(1)
第5回	中国各地の家庭料理（4）	上海の「 <input type="checkbox"/> 肉」(2)
第6回	中国各地の家庭料理（5）	四川の「泡菜」
第7回	中国各地の家庭料理（6）	山東の「西瓜」
第8回	中国各地の家庭料理（7）	江蘇の「蒲菜水」(1)
第9回	中国各地の家庭料理（8）	江蘇の「蒲菜水」(2)
第10回	中国各地の家庭料理（9）	澳門の「甜食」(1)
第11回	中国各地の家庭料理（10）	澳門の「甜食」(2)
第12回	中国各地の家庭料理（11）	広東の「金菜南北杏蜜 <input type="checkbox"/> 白肺」(1)
第13回	中国各地の家庭料理（12）	広東の「金菜南北杏蜜 <input type="checkbox"/> 白肺」(2)
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中華料理店を訪れ、地域の特色あるメニューを調査することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

『舌尖上的中国 第二季』中央電視台紀錄頻道編、中国广播電視出版社、2014年6月

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳・発表）70%、レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において、地理的な条件、気候風土、生活習慣などが、人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』を見ながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

映像資料の鑑賞・文献の講読や、中国の地理、地域の特色、料理、調理方法、年中行事などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』の中国語テキストを日本語に翻訳する作業を行います。中国語未習者も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	中国各地の三食（1）	天津の「煎 <input type="checkbox"/> 菓子」 重慶の朝食
第3回	中国各地の三食（2）	蘇州の「 <input type="checkbox"/> 大肉面」、武漢の「 <input type="checkbox"/> 」 「 <input type="checkbox"/> 豆皮」「 <input type="checkbox"/> 干面」(1)
第4回	中国各地の三食（3）	蘇州の「 <input type="checkbox"/> 大肉面」、武漢の「 <input type="checkbox"/> 」 「 <input type="checkbox"/> 豆皮」「 <input type="checkbox"/> 干面」(2)
第5回	中国各地の三食（4）	重慶の「牛肉面」
第6回	中国各地の三食（5）	広州の「花式早茶」
第7回	中国各地の三食（6）	深圳のある工場の社食と、ある家族の食事
第8回	中国各地の三食（7）	湖南省湘郷の「咸 <input type="checkbox"/> 蛋」
第9回	中国各地の三食（8）	四川省涼山のある家族の食事
第10回	中国各地の三食（9）	安徽のある家族の食事
第11回	中国各地の三食（10）	香港の「屯内追月夜宴」での食事
第12回	中国各地の三食（11）	四川省古蘭のある家族の食事
第13回	中国各地の三食（12）	雲南省大理のある家族の食事
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中華料理店を訪れ、地域の特色あるメニューを調査することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

『舌尖上的中国 第二季』中央電視台紀錄頻道編、中国广播電視出版社、2014年6月

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳・発表）70%、レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語初級 I 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10
3	人物紹介	主格人称代名詞、動詞 ser、数詞 11～20
4	スペイン語圏の名前	冠詞、名詞、数詞 21～100
5	勉強	国名、国籍、ar 動詞、er 動詞、ir 動詞
6	言語	動詞 hacer, tener
7	所在	動詞 estar, hay、指示詞（中性）
8	移動・交通手段	動詞 ir、接続詞
9	食事	動詞 gustar、目的格人称代名詞
10	食生活	レストラン・バルでの会話
11	家族	指示詞（性数）
12	職業	所有形容詞前置形、動詞 tener の用法
13	復習	応用練習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】

坂東省二、泉水浩隆、アレハンドロ・コントレラス『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語（改訂版）』三修社、2017 年

【参考書】岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同出版社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同出版社
その他、授業中に適宜紹介。**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60％）、小テスト・期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。**【Outline and objectives】**

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語初級 II 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようになる。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	持ち物	形容詞、色
2	買い物	動詞 querer, costar
3	住居	位置関係の語句、前置詞
4	間取り	動詞 medir、数詞 100～1000
5	時刻	動詞 jugar, volver
6	日付、曜日	再帰動詞
7	大学	序数 1～10、無人称の se
8	スケジュール	肯定命令
9	過去の出来事	過去分詞、現在完了
10	観光地	手紙の書き方
11	休暇の予定	動詞 ir の用法
12	願望	前置詞句、過去未来
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージ
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】

坂東省二、泉水浩隆、アレハンドロ・コントレラス『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語（改訂版）』三修社、2017 年

【参考書】岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同出版社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同出版社
その他、授業中に適宜紹介。**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60％）、小テスト・期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。**【Outline and objectives】**

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語上級 I

2016 年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE の B2 から C1 レベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読解：当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。

また、テーマに応じたディスカッションも行う。授業は基本的にスペイン語で行い、スペイン語による「話す力」も鍛錬する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。 スペイン語によるディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語上級II

2016年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペインSA修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE の B2 から C1 レベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。また、テーマに応じたスペイン語によるディスカッションを行う。

基本的に授業はスペイン語で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。 教員によるめでの授業。 スペイン語によるディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Conducted in Spanish.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションⅢ 2016 年度以前入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

En esta clase daremos importancia al estudio equilibrado de las cuatro destrezas: leer, escribir, escuchar y hablar,

【到達目標】

Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Examen1 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
2	Examen1 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen1 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
4	Examen1 (4)	Comprensión de lectura(Tarea3)
5	Examen1 (5)	Comprensión auditiva (Tarea5)
6	Examen1 (6)	Comprensión de lectura(Tarea4)
7	Examen1 (7)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
8	Examen1 (8)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
9	Examen2 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
10	Examen2 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3) Lectura(Tarea2)
11	Examen2 (3)	Comprensión de lectura(Tarea4) Comprensión de lectura(Tarea3)
12	Examen2 (4)Examen2 (5)	Comprensión auditiva(Tarea5) Comprensión de lectura(Tarea4)
13	Examen2 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
14	Examen2 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
15	Tiempo de ajuste	Aclaración dudas

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora.El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】

Destino DELE, B2

Cristina M.Alegre Palazón

Cideb

En caso de no tener el libro se repartirán fotocopias.

【参考書】

Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】

Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.

Examen 70%

Actitud en clase 30%

Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見等からの気づき】

Ninguno en especial.

【その他の重要事項】

Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.

Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase.La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.

Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【Outline and objectives】

We will do exercises to facilitate the comprehension of the four skills (reading expression, written expression, listening comprehension and oral expression) required in the examination of the Diploma of Spanish (DELE) of level B2, using models of complete exams similar to real ones.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションIV 2016年度以前入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

En esta clase daremos importancia al estudio equilibrado de las cuatro destrezas: leer, escribir, escuchar y hablar,

【到達目標】

Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Examen3 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
2	Examen3 (2)	Comprensión auditiva (Tarea1)
3	Examen3 (3)	Comprensión auditiva(Tareas2y3) Comprensión de Lectura(Tarea2)
4	Examen3 (4)	Comprensión auditiva(Tarea4) Comprensión de lectura(Tarea3)
5	Examen3 (5)	Comprensión auditiva (Tarea5)
6	Examen3 (6)	Comprensión de lectura(Tarea4)
7	Examen3 (7)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2) Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen4 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
9	Examen4 (2)	Comprensión auditiva (Tarea1)
10	Examen4 (3)	Comprensión auditiva(Tareas2y3) Lectura(Tarea2)
11	Examen4 (4)	Comprensión auditiva(Tarea4) Comprensión de lectura(Tarea3)
12	Examen4 (5)	Comprensión auditiva(Tarea5) Comprensión de lectura(Tarea4)
13	Examen4 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2) Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
14	Tiempo de ajuste	Aclaración dudas.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora. El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】

Destino DELE, B2
Cristina M.Alegre Palazón
Cideb

En caso de uno tener el libro de texto se repartirán fotocopias en la clase.

【参考書】

Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】

Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.

Examen 70%

Actitud en clase 30%

Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見等からの気づき】

Ninguno en especial.

【その他の重要事項】

Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.

Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase. La expresión escrita será de vuelta a cada estudiante tras su corrección.

Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【Outline and objectives】

We will do exercises to facilitate the comprehension of the four skills (reading expression, written expression, listening comprehension and oral expression) required in the examination of the Diploma of Spanish (DELE) of level B2, using models of complete exams similar to real ones.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペイン語圏の文化と社会について、映画やドキュメンタリー作品を中心とする映像資料を用いながら学ぶことを目的とする。スペイン語圏に関する話題の多くは、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるのか。そんなことも意識しながら、人間社会のさまざまなありようを浮き彫りしていきたい。

【到達目標】

この授業を通して、以下の能力を身につけることを目標とする。

- ①スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を身につける。
- ②①で得た知識をもとに、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、それを論理的に追究する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は「ゼミ形式」で進められる。少人数（20 名以下）の受講生を対象とするため、初回の授業にはかならず出席すること。受講希望者が多い場合は選抜を行なう。各回の授業では、教員が「スペイン語圏の文化と社会」にかかわるテーマをピックアップし、それについての概論的な説明を行なう。その後、関連映像を見ながら理解を深め、それに関するディスカッションや質疑応答を行なう。最後に、その日のテーマについてコメントシートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明する
2	スペインにおけるローマ文化の影響とその歴史	「スペインにおけるローマ文化の影響とその歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
3	スペインにおけるイスラム支配の歴史	「スペインにおけるイスラム支配の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
4	スペインにおけるイスラム文化の影響	「スペインにおけるイスラム文化の影響」について、関連映像を見ながら理解を深める。
5	スペインにおけるユダヤ教の影響	「スペインにおけるユダヤ教の影響」について、関連映像を見ながら理解を深める。
6	スペインにおけるレコンキスタの歴史	「スペインにおけるレコンキスタの歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
7	スペインにおける三文化共存の歴史	「スペインにおける三文化共存の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
8	スペインの国家統一にむけての歴史	「スペインの国家統一にむけての歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
9	大航海時代のスペイン	「大航海時代のスペイン」について、関連映像を見ながら理解を深める。
10	スペインによる植民地経営の歴史	「スペインによる植民地経営の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
11	スペインにおける異端審問および「血の純潔」思想の歴史	スペインにおける異端審問および「血の純潔」思想の歴史について、関連映像を見ながら理解を深める。
12	スペイン没落の歴史	「スペイン没落の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
13	春学期のまとめ	春学期の授業で学んだことについて補足説明およびまとめを行なう。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことについて自分なりに調べる作業が求められる。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のディスカッションや毎回提出してもらうコメントシートの内容等を考慮した平常点（60 %）、期末試験の結果（40 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を展開する。

【その他の重要事項】

・受講希望者が多い場合、選抜試験を行うので、初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students become more aware of several aspects of culture and society in Spanish-speaking countries. Students will discover various facts and reality through sundry materials, mainly concentrating on cinemas and documentary films. Such problems are mostly related to Europe, America and other countries with which Spanish-speaking nations have close contact. In cinema-scenes, students will find out unexpected life-styles and values in the world. The goal of this seminar is to explore various reality and truth in our human society.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期にひきつづき、スペイン語圏の文化と社会について、映画やドキュメンタリー作品を中心とする映像資料を用いながら学ぶことを目的とする。スペイン語圏に関する話題の多くは、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるのか。そんなことも意識しながら、人間社会のさまざまなありようを浮き彫りしていきたい。

【到達目標】

この授業を通して、以下の能力を身につけることを目標とする。

- ①スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を身につける。
- ②①で得た知識をもとに、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、それを論理的に追究する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期にひきつづき、この授業は「ゼミ形式」で進められる。少人数（20名以下）の受講生を対象とするため、初回の授業にはかならず出席すること。受講希望者が多い場合は選抜を行なう。各回の授業では、教員が「スペイン語圏の文化と社会」にかかわるテーマをピックアップし、それについての概論的な説明を行なう。その後、関連映像を見ながら理解を深め、それに関するディスカッションや質疑応答を行なう。最後に、その日のテーマについてコメントシートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明する
2	スペイン内戦	スペイン内戦について、関連映像を見ながら理解を深める。
3	フランコ独裁政権下のスペイン①	フランコ独裁政権下のスペインについて、関連映像を見ながら理解を深める。
4	フランコ独裁政権下のスペイン②	フランコ独裁政権下のスペインにおける文化と社会について、関連映像を見ながら理解を深める。
5	ピカソとゲルニカ	ピカソとゲルニカについて、関連映像を見ながら理解を深める。
6	ベラスケスとスペイン宮廷	ベラスケスとスペイン宮廷について、関連映像を見ながら理解を深める。
7	『ドン・キホーテ』とスペイン社会	『ドン・キホーテ』とスペイン社会について、関連映像を見ながら理解を深める。
8	民主化時代の到来とスペイン	民主化時代の到来とスペインについて、関連映像を見ながら理解を深める。
9	民主化時代のスペインにおける新しい文化の誕生	民主化時代のスペインにおける新しい文化の誕生について、関連映像を見ながら理解を深める。
10	90年代のスペイン社会と文化	90年代のスペイン社会と文化について、関連映像を見ながら理解を深める。
11	バスクの伝統と文化	バスク地方の伝統と文化について、関連映像を見ながら理解を深める。
12	カタルーニャの歴史と文化	カタルーニャの歴史と文化について、関連映像を見ながら理解を深める。
13	秋学期のまとめ	秋学期の授業で学んだことについて補足説明およびまとめを行なう。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことについて自分なりに調べる作業が求められる。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のディスカッションや毎回提出してもらうコメントシートの内容等を考慮した平常点（60%）、期末試験の結果（40%）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を展開する。

【その他の重要事項】

・受講希望者が多い場合、選抜試験を行うので、初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students become more aware of several aspects of culture and society in Spanish-speaking countries. Students will discover various facts and reality through sundry materials, mainly concentrating on cinemas and documentary films. Such problems are mostly related to Europe, America and other countries with which Spanish-speaking nations have close contact. In cinema-scenes, students will find out unexpected life-styles and values in the world. The goal of this seminar is to explore various reality and truth in our human society.

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことがある学生が対象となる。新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【到達目標】

新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りまぜ、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行なう。その後、順番に指名された受講生が訳読を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の現在形を用いた文章の読解	ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の用法に注意しながら文章を読む。
3	ser 動詞を用いた文章の読解	ser 動詞の用法に注意しながら文章を読む。
4	estar 動詞を用いた文章の読解	estar 動詞の用法に注意しながら文章を読む。
5	再帰動詞を用いた文章の読解	再帰動詞の用法に注意しながら文章を読む。
6	再帰動詞を用いた文章の読解	再帰動詞の用法に注意しながら文章を読む。
7	関係代名詞 que を用いた文章の読解	関係代名詞 que の用法に注意しながら文章を読む。
8	関係代名詞 el que、la que 等々を用いた文章の読解	関係代名詞 el que、la que 等々の用法に注意しながら文章を読む。
9	関係副詞 donde を用いた文章の読解	関係代名詞 donde の用法に注意しながら文章を読む。
10	関係形容詞 cuyo を用いた文章の読解	関係形容詞 cuyo の用法に注意しながら文章を読む。
11	直接目的格代名詞を用いた文章の読解	直接目的格代名詞の用法に注意しながら文章を読む。
12	間接目的格代名詞を用いた文章の読解	間接目的格代名詞の用法に注意しながら文章を読む。
13	前期のまとめ	前期に学んだ文法事項の復習。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who have completed elementary Spanish class. Through the use of their basic knowledge of Spanish grammar, this course is designed to improve students' reading ability by enjoying rather long miscellaneous Spanish sentences, such as newspaper items, novels etc. Consulting dictionaries, students will be able to explore further aspects of Spanish culture in various fields.

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期にひきつづき、初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことがある学生が対象となる。新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【到達目標】

春学期にひきつづき、新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期にひきつづき、実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りまぜ、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行なう。その後、順番に指名された受講生が訳読を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在完了形を用いた文章の読解	現在完了形の用法に留意しながら文章を読む
2	動詞の点過去を用いた文章の読解	動詞の点過去の用法に留意しながら文章を読む
3	動詞の点過去（不規則形）を用いた文章の読解	動詞の点過去（不規則形）の用法に留意しながら文章を読む
4	動詞の線過去を用いた文章の読解	動詞の線過去の用法に留意しながら文章を読む
5	動詞の線過去（不規則形）を用いた文章の読解	動詞の線過去（不規則形）の用法に留意しながら文章を読む
6	gustar 型の動詞を用いた文章の読解	gustar 型の動詞の用法に留意しながら文章を読む
7	動詞の未来形を用いた文章の読解	動詞の未来形の用法に留意しながら文章を読む
8	動詞の過去未来形を用いた文章の読解	動詞の過去未来形の用法に留意しながら文章を読む
9	動詞の過去完了形を用いた文章の読解	動詞の過去完了形の用法に留意しながら文章を読む
10	動詞の未来完了形を用いた文章の読解	動詞の未来完了形の用法に留意しながら文章を読む
11	動詞の過去未来完了形を用いた文章の読解	動詞の過去未来完了形の用法に留意しながら文章を読む
12	動詞の接続法現在形を用いた文章の読解	動詞の接続法現在形の用法に留意しながら文章を読む
13	総まとめ	春学期・秋学期を通じて学んだ文法事項の復習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who have completed elementary Spanish class. Through the use of their basic knowledge of Spanish grammar, this course is designed to improve students' reading ability by enjoying rather long miscellaneous Spanish sentences, such as newspaper items, novels etc. Consulting dictionaries, students will be able to explore further aspects of Spanish culture in various fields.

